化財調査報告
男鹿市文化財調査報告 第10 集

国指定史跡

脇本城跡

－総括報告書－

市教育委員会

平成25（2013）年3月

秋田県男鹿市教育委員会

男鹿市文化財調査報告 第 40 集

国指定史跡

脇本城跡

―総括報告書―

平成 25（2013）年 3 月

秋田県男鹿市教育委員会

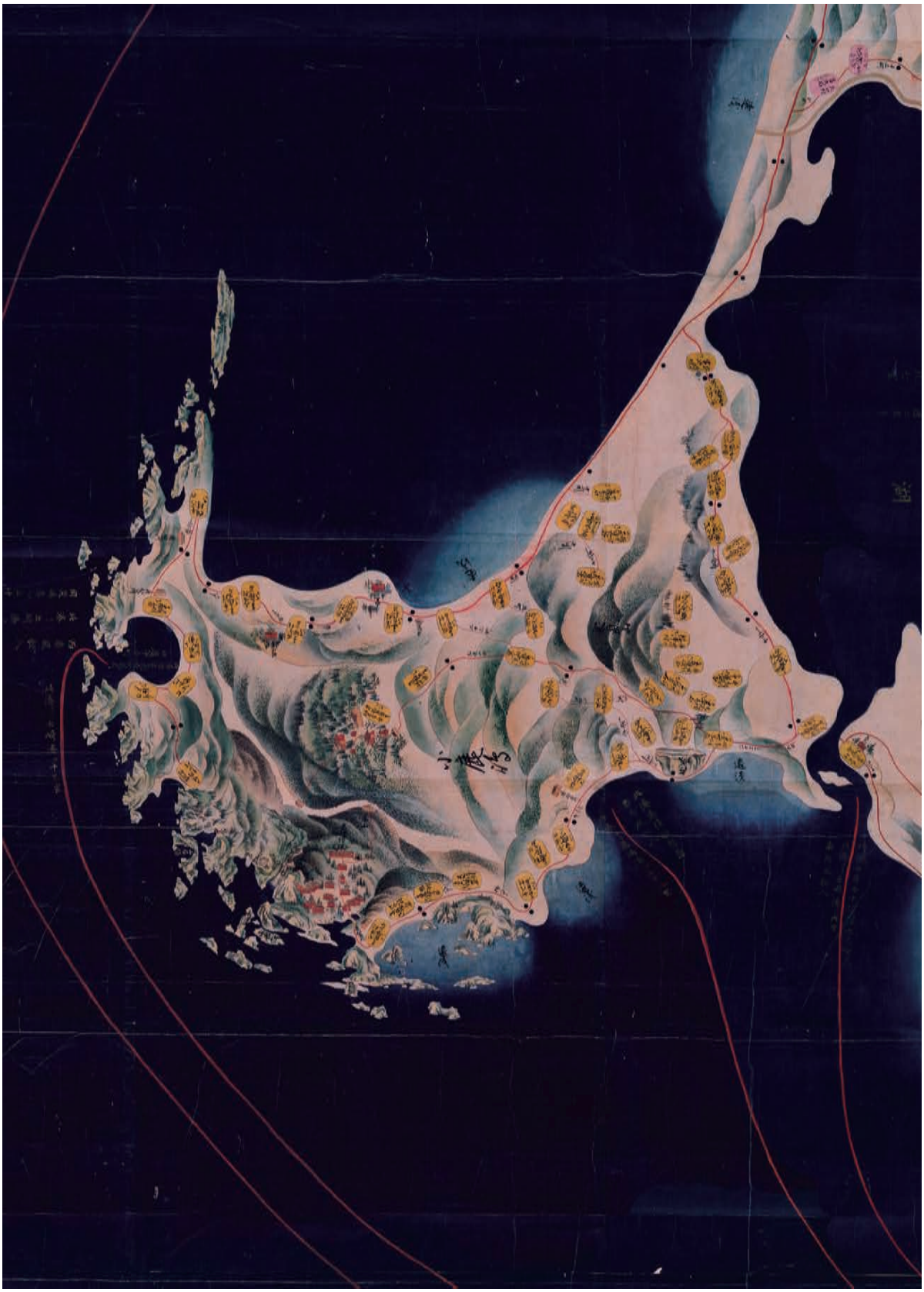
脇本城跡空撮①

脇本城跡空撮②

巻頭図版2

脇本城跡空撮③

脇本城跡空撮【昭和30年代】



出羽一国御絵図（男鹿半島部分）【正保4（1647）年】
（資料番号：県C-603　所蔵：秋田県立公文書館）

序　文

豊かな自然に恵まれた男鹿市には、国指定重要無形民俗文化財「男鹿のナマハゲ」などの民俗行事や地中に眠る数多くの遺跡など、長い歴史と素晴らしい文化が受け継がれております。さらに平成23年9月には日本列島の成り立ちを考えることができる地質遺産とその営みが評価されて、隣接する大潟村とともに、「男鹿半島・大潟ジオパーク」として日本ジオパークに認定されました。

男鹿市の大切な遺産の１つである脇本城跡は、古くから地域の人々に守られてきた城跡であり、平成16年9月には国の史跡指定を受けました。史跡指定に至るまでは、昭和62年に結成された、地元脇本地区を中心とした有志による脇本城址懇話会の長年の環境整備や働きかけによるところが大きく、男鹿市では、将来の子孫へ遺産を引き継ぎ、この地で育ったことを誇りにできる豊かな地域社会を形成することを目的に、脇本城跡の調査を継続して実施してきました。

その一環として、平成12年度からは国庫補助を受けて、城跡の範囲や構造、存続時代の解明等を目的に20次にわたる確認調査を行ってきました。その結果、多くの建物跡などの遺構が見つかり、さらに自然の丘陵を改変した痕跡である大土木工事の跡が明らかとなりました。また、中世の陶磁器や金属製品、木製品など5,000点を超える遺物も出土しております。ここに報告いたしますのは、国庫補助事業において実施してきた確認調査及びそれ以外の周辺遺跡も含めた発掘調査を全て総括したものです。

近年、まちづくりの一環として文化財が重要視されております。先人より受け継いだ遺産を将来につないでいくことは、今生きているものの使命であり、男鹿市の永続的な発展のためにも大切なことと考えております。

最後になりましたが、脇本城跡の調査研究にご協力くださった指導委員を中心とする諸先生方、関係機関をはじめ、日ごろから脇本城跡に思いを寄せていただいている脇本城址懇話会の方々など各位に対して厚く御礼を申し上げます。

脇本城跡の調査成果が男鹿半島や秋田県の地域史、さらには日本の中世史の解明に少しでも貢献できることを願っており、同時に今後の脇本城跡の保存や整備、活用に多少なりとも役立つことができれば、この上ない喜びであります。

平成25年3月

男鹿市教育委員会

教育長　杉 本　俊比古

例　　言

1　本書は国指定史跡脇本城跡の確認調査に係る総括報告書であり、平成７（1995）～平成23（2011）年に男鹿市教育委員会が実施した本発掘調査及び確認調査について掲載している。一部関連遺跡として、寺院跡と考えられている脇本館下Ⅱ遺跡の所見についても掲載した。

2　確認調査の内容については既に概報等で公表されているが、本報告書は過去の調査を全て総括するものであり、遺構及び遺物について統一的に見直しを行っている。そのため位置付けや数値について、見解が異なる場合は、本報告書の記述が優先するものとする。

3　本書は、「史跡脇本城跡調査指導委員会」の指導のもと作成した。

委員長：遠藤　巖（宮城教育大学名誉教授）
委　員：小松正夫（元 秋田市教育委員会）
委　員：対馬雅己（秋田工業高等専門学校教授）
委　員：木戸雅寿（滋賀県教育委員会文化財保護課）
委　員：高桑　繁（脇本城址懇話会会長）
委　員：泉　　明（元 男鹿市教育委員会）

4　調査次数は原則として、国庫補助事業による確認調査に付与している。次数付与のものは年度順に第１次～第20次調査までである。国庫補助事業によらない確認調査及び史跡指定前の開発行為に対する緊急調査及び周辺遺跡の調査などは基本的に次数を付与していない。

5　本書の挿図中に使用した土層表記法は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳（1998年度版）』を使用した。

6　本書の作成は平成24年度国庫補助事業として男鹿市教育委員会が行った。

7　本書作成にあたり、多くの機関、個人よりご協力いただくとともに、多くのご教示をいただいた（敬称略、五十音順）。

秋田県公文書館、秋田県文化財保護室、秋田県埋蔵文化財センター、秋田県立博物館、五十嵐一治、伊藤武士、宇田川浩一、近江俊秀、男鹿市建設課、上条信彦、亀井明徳、木村孝一郎、櫛部正典、国武貞克、宗教法人菅原神社、新海和広、鈴木誠一、関根達人、高橋　学、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、文化庁記念物課、八重樫忠郎、脇本城址懇話会、男鹿市脇本出張所

8　本書の編集にあたり、出土した金属製品の実測図・拓本・写真撮影の一部を株式会社吉田生物研究所へ委託し、陶磁器等の出土遺物の写真撮影を株式会社みどり光学社へ委託した。

また、確認調査実施時に出土遺物の成分分析や保存処理、自然科学分析等においても委託業務を実施している。その成果も必要に応じて抜粋の上掲載した。

9　遺物実測図の内、元代染付（第91図－８・第162図－１）は亀井明徳氏の実測によるものを、許可を得て再トレースした。また遺物写真の内、お念堂地区で出土した卒塔婆及び墨書卒塔婆、木器の一部は独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の中村一郎氏の撮影による。

10　本書の執筆及び編集は男鹿市教育委員会生涯学習課 学芸主事 五十嵐祐介が担当した。

11　本書の編集にあたり、下記の整理作業員の協力を得た。

石川ひとみ、石垣拓也、板橋志保子、氣田敦子、鈴木由紀子、高橋チエ

12　本遺跡に関する出土遺物・実測図・写真は男鹿市教育委員会が一括して保管している。

凡　　例

1　本報告書に収載した遺構実測図に付した方位は座標北である。

2　本報告書で使用した地図は、下記の地形図、地図を基に作成した。

『秋田県遺跡地図（男鹿・南秋田地区版）』秋田県教育委員会 2003

『男鹿市管内図』／『男鹿市都市計画図』

『1：50,000地質図幅 戸賀及び船川（第２版）』独立行政法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 2011

『1：25,000地形図 船川』国土地理院 1998／『1：25,000地形図 船越』国土地理院 1998

脇本城跡の指定及び調査において、委託業務により作成した地形図

3　遺構の略号は以下に示すとおりである。

SA：柱穴列・塀・柵跡	SB：掘立柱建物跡	SD：溝　　跡	SE：井戸跡
SK：土　　坑	SKI：竪穴状遺構	SKP：柱穴	SN：焼土遺構
SQ：集石遺構	SM：道路状遺構	SX：不明遺構	P：各遺構種別内の各柱穴

4　遺構番号については、調査次数ごとに同一の名称が存在する。これは調査次数ごとに１から遺構の種別に関わらず番号を付与したことに起因する。本報告書の刊行にあたっては、過去の経緯や遺物への注記等の整合性も踏まえ、煩雑さを避けるため、遺構名の前に調査次数を入れて区別することとする。国庫補助事業によらない調査については調査年度を遺構名の前に入れて区別する。

例）11SB25は「第11次調査の第25号掘立柱建物跡」を示し、H15・H16SA11は「平成15・16年度調査の第11号柵跡」を示す。

5　遺構図版は既刊の報告書の実測図を必要に応じて原図と照合しながら再トレースした。土層注記の表現などは既刊報告書や原図に従ったため、調査者や調査時点での目的等によって、表現方法が異なっている。遺物実測図は、新規で掲載したものを除き、既刊報告書からそのまま転載しているため、線の太さ等に不統一な点がある。ただし、掲載順序については一部改めているとともに、拓影図の位置や展開図の位置など統一を図った。さらに本報告書において新たに提示した実測図もある。

6　挿図の縮尺は各挿図に示した。写真図版の縮尺は不同である。

7　遺物拓影図は断面図に向かって左側に内面を、右側に外面を示した。ただし外面のみの場合は向かって左に外面を、内面のみの場合には、向かって右に内面を示した。ただし、すり鉢については、向かって左に内面を示した。

8　遺構一覧表の計測値のうち、（　）は残存値、－は計測不能及び未調査のため不明を示す。遺物観察表のうち、口径・底径の（　）は復原値、それ以外の（　）は残存値を示し、－は計測不能、または不明を示す。遺物一覧表の－は出土がないことを示す。

9　遺構平面図や断面図中のトーン及び記号は必要に応じて各挿図に記載した。しかし、全編にわたって、共通したものは以下の通りである。

：発掘停止面　　：盛土層・整地層

----：平面図上での盛土・整地層、自然堆積土、地山の境界線　　－－－：撹乱

10　土層断面図における「整地」と「盛土」については、基本的に１層からなり、地ならしを目的として行われたと推定される痕跡を「整地」、複数層からなり、地形改変を目的として行われたと推定される痕跡を「盛土」と定義する。

11　本書で使用した引用・参考文献は巻末に一括掲載した。

目　　次

巻頭図版
序　文
例　言／凡　例
目　次／挿図・挿表・図版目次

第１章　遺跡の概要
　第１節　脇本城跡の位置と概要 …… 1
　第２節　遺跡の現況と歴史的環境 …… 4
　　１　遺跡の現況 …… 4
　　２　歴史的環境 …… 6
　第３節　地区区分 ……14

第２章　脇本城跡をめぐる研究史と保存の歴史
　第１節　脇本城跡の研究史 ……17
　第２節　脇本城跡の保存と環境整備 ……19

第３章　調査の経過と記録の方法
　第１節　遺構現状調査（縄張り調査）の経過 ……26
　第２節　確認調査の経過 ……26
　第３節　記録の方法 ……32
　　１　調査の方法 ……32
　　２　整理の方法 ……32

第４章　脇本城跡に関連する文献史料
　第１節　近世史料 ……34
　第２節　近代史料 ……46

第５章　発掘調査の成果
　第１節　内館地区 ……51
　　１　調査の目的と経緯 ……51
　　２　内館地区の立地と現況 ……51
　　３　基本層序 ……52
　　４　遺構と遺物 ……56
　　（１）曲輪１・２（第11次調査） ……56
　　（２）曲輪10（第16次調査） ……77
　　（３）曲輪12（第17次調査） …… 101
　　（４）曲輪13・14・15－１・15－２・16（平成７年度調査・第18次調査） …… 124
　　（５）曲輪17（第19次調査） …… 152
　　（６）曲輪19（第13次調査） …… 171
　　（７）曲輪20（第20次調査） …… 186
　　（８）曲輪状遺構（第14次調査） …… 207
　　（９）天下道（第15次調査） …… 225
　第２節　馬乗り場地区 …… 235
　　１　調査の目的と経緯 …… 235
　　２　馬乗り場地区の立地と現況 …… 235
　　３　基本層序 …… 235
　　４　遺構と遺物 …… 236
　　（１）曲輪（第１次調査） …… 236
　　（２）曲輪（第９次調査） …… 252
　　（３）北西部尾根（第５次調査） …… 262

（４）西側斜面（第10次調査） …… 269
第３節　兜ヶ崎・打ヶ崎地区 …… 273
１　調査の目的と経緯 …… 273
２　兜ヶ崎・打ヶ崎地区の立地と現況 …… 273
３　基本層序 …… 273
４　遺構と遺物 …… 275
（１）曲輪（第３次調査） …… 275
（２）曲輪（第８次調査） …… 281
（３）田谷沢道（第７次調査） …… 295
第４節　乍木地区 …… 298
１　調査の目的と経緯 …… 298
２　乍木地区の立地と現況 …… 298
３　基本層序 …… 298
４　遺構と遺物 …… 300
（１）曲輪（第２次調査） …… 300
（２）曲輪（第４次調査） …… 307
（３）田谷沢道（第６次調査） …… 311
第５節　お念堂地区 …… 314
１　調査の目的と経緯 …… 314
２　お念堂地区の立地と現況 …… 314
３　基本層序 …… 315
４　遺構と遺物 …… 316
（１）小丘陵頂上部（平成８年度調査） …… 316
（２）南西端部（平成15・16年度調査） …… 318
第６節　寺院地区（脇本館下Ⅱ遺跡） …… 384
１　調査の目的と経緯 …… 384
２　寺院地区の立地と現況 …… 384
３　基本層序 …… 384
４　遺構と遺物 …… 385
（１）推定寺院跡（第12次調査） …… 385

第６章　総　括
第１節　出土遺物からみた脇本城跡 …… 391
第２節　検出遺構からみた脇本城跡 …… 396
第３節　文献史料からみた脇本城跡 …… 400
第４節　脇本城跡の歴史的位置付け …… 404
第５節　今後の調査研究の課題と整備・活用 …… 408

引用・参考文献

写真図版
報告書抄録
奥　付

挿　図　目　次

第１図　男鹿半島の地形変遷……1
第２図　位置図……2
第３図　地形分布図……3
第４図　航空写真からみた過去の地形……5
第５図　脇本城跡と周辺の字切図……6
第６図　周辺の遺跡……7
第７図　男鹿半島の中世城館……9
第８図　内館地区遺構現状図……10
第９図　馬乗り場地区遺構現状図……11
第10図　兜ヶ崎・打ヶ崎・乍木地区遺構現状図……12
第11図　城下町地区とその周辺図……13
第12図　全体図・地区区分図……15
第13図　脇本城跡研究の先覚……17
第14図　脇本城址懇話会の活動……22
第15図　史跡脇本城跡案内人講座と活動……23
第16図　史跡脇本城跡調査指導委員会と現地指導……24
第17図　脇本城跡き損か所位置図……25
第18図　遺構現状調査位置図……27
第19図　確認調査地点図……29
第20図　出羽一国御絵図……34
第21図　内館地区の遺構と菅原神社の位置関係……35
第22図　脇本村天神宮由緒書写①……36
第23図　脇本村天神宮由緒書写②……37
第24図　脇本村天神宮由緒書写③……38
第25図　古書附控……42
第26図　菅江真澄図絵……44
第27図　絹篩図巻……45
第28図　脇本全図……47
第29図　脇本全図トレース……48
第30図　字脇本地引絵図……49
第31図　字横町道上地引絵図……50
第32図　内館地区遺構配置図……53
第33図　内館地区遺構現状……54
第34図　内館地区調査区配置図……55
第35図　曲輪１・２（第11次調査）トレンチ配置図と
　　周辺地形横断図……56
第36図　曲輪１・２（第11次調査）全体図……57・58
第37図　１トレンチ平面図……59
第38図　１トレンチ遺構面別平面図・断面図……60
第39図　２トレンチ平面図・断面図……61・62
第40図　３トレンチ平面図・断面図……63
第41図　４トレンチ平面図・断面図……64
第42図　５トレンチ平面図・断面図・遺構面別平面図……66
第43図　11SB25……67
第44図　11SA26・27……68
第45図　曲輪１・２（第11次調査）出土遺物①……72
第46図　曲輪１・２（第11次調査）出土遺物②……73
第47図　曲輪１・２（第11次調査）出土遺物③……74
第48図　曲輪１・２（第11次調査）出土遺物④……75
第49図　曲輪10（第16次調査）トレンチ配置図……78
第50図　曲輪10（第16次調査）全体図……79・80
第51図　トレンチ①平面図・断面図……81・82
第52図　トレンチ②平面図・断面図……83・84
第53図　トレンチ③平面図・断面図……85・86
第54図　トレンチ④平面図・断面図……87
第55図　16SB01……88
第56図　16SA23・16SKP17・16SKP50・16SD200……89
第57図　16SD201・SA202……90
第58図　曲輪10（第16次調査）出土遺物①……95
第59図　曲輪10（第16次調査）出土遺物②……96
第60図　曲輪10（第16次調査）出土遺物③……97
第61図　曲輪10（第16次調査）出土遺物④……98
第62図　曲輪10（第16次調査）出土遺物⑤……99
第63図　曲輪12（第17次調査）トレンチ配置図……102
第64図　曲輪12（第17次調査）全体図……103・104
第65図　１トレンチ平面図・断面図……105
第66図　２トレンチ平面図・断面図……106
第67図　３・４トレンチ平面図・断面図……107
第68図　８トレンチ平面図・断面図……108
第69図　５・６・７トレンチ平面図・断面図……109・110
第70図　９・10トレンチ平面図・断面図……111
第71図　11トレンチ平面図・断面図……112
第72図　17SB109……113・114
第73図　曲輪12（第17次調査）出土遺物①……118
第74図　曲輪12（第17次調査）出土遺物②……119
第75図　曲輪12（第17次調査）出土遺物③……120
第76図　曲輪12（第17次調査）出土遺物④……121
第77図　曲輪12（第17次調査）出土遺物⑤……122
第78図　曲輪13・14・15－１・15－２・16
　　（Ｈ７年度調査・第18次調査）
　　トレンチ配置図……124
第79図　曲輪13・14・15－１・15－２・16
　　（Ｈ７年度調査・第18次調査）
　　調査全体図……125・126
第80図　曲輪13・14・15－１・15－２・16
　　（Ｈ７年度調査）
　　トレンチ平面図・断面図……127・128
第81図　１トレンチ平面図・断面図……130
第82図　２～４トレンチ平面図・断面図……131
第83図　５トレンチ平面図・断面図……132
第84図　６トレンチ平面図・断面図……133
第85図　７～９トレンチ平面図・断面図……134
第86図　10～12トレンチ平面図・断面図……135
第87図　13・14トレンチ平面図・断面図……136
第88図　15・16トレンチ平面図・断面図……137
第89図　18SA17……138
第90図　曲輪13･14･15－１･15－２･16
　　（Ｈ７年度調査）出土遺物①……141
第91図　曲輪13･14･15－１･15－２･16
　　（Ｈ７年度調査）出土遺物②……142
第92図　曲輪13･14･15－１･15－２･16
　　（Ｈ７年度調査）出土遺物③……143
第93図　曲輪13･14･15－１･15－２･16
　　（Ｈ７年度調査）出土遺物④……144
第94図　曲輪13･14･15－１･15－２･16
　　（Ｈ７年度調査）出土遺物⑤……145

第95図　曲輪13･14･15－１･15－２･16
（Ｈ７年度調査）出土遺物⑥ ･････････････ 146
第96図　曲輪13･14･15－１･15－２･16（第18次調査）
出土遺物①･････････････････････････････ 149
第97図　曲輪13･14･15－１･15－２･16（第18次調査）
出土遺物②･････････････････････････････ 150
第98図　曲輪17（第19次調査）トレンチ配置図と
周辺地形横断図･････････････････････････ 152
第99図　曲輪17（第19次調査）全体図･････････153・154
第100図　１トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 155
第101図　２トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 156
第102図　３トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 157
第103図　４・７・８トレンチ平面図・断面図 ･･････ 158
第104図　５・６トレンチ平面図・断面図 ･････････ 159
第105図　19SM34・19SA91 ･････････････････････ 160
第106図　19SA41･･････････････････････････161・162
第107図　曲輪17（第19次調査）出土遺物① ････････ 166
第108図　曲輪17（第19次調査）出土遺物② ････････ 167
第109図　曲輪17（第19次調査）出土遺物③ ････････ 168
第110図　曲輪17（第19次調査）出土遺物④ ････････ 169
第111図　曲輪19（第13次調査）トレンチ配置図 ････ 171
第112図　曲輪19（第13次調査）全体図 ････････173・174
第113図　１トレンチ平面図・断面図 ･････････175・176
第114図　２トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 177
第115図　３トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 178
第116図　13SM18・13SD61・13SKP72・13SKP73・
13SK74･････････････････････････････････ 179
第117図　13SKP68･13SK41･13SKP07・
13SKP69･13SK20･13SK40 ･････････････ 180
第118図　曲輪19（第13次調査）出土遺物① ････････ 183
第119図　曲輪19（第13次調査）出土遺物② ････････ 184
第120図　曲輪20（第20次調査）トレンチ配置図と
周辺地形横断図 ･････････････････････････ 188
第121図　曲輪20（第20次調査）全体図 ････････189・190
第122図　１トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 191
第123図　２トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 192
第124図　３・４トレンチ平面図・断面図 ･････････ 193
第125図　５・６トレンチ平面図・断面図 ･････････ 194
第126図　７・８トレンチ平面図・断面図 ･････････ 195
第127図　20SB21･･････････････････････････････ 196
第128図　20SB01･･････････････････････････197・198
第129図　20SKP09・20SA64・20SX77 ･････････････ 199
第130図　曲輪20（第20次調査）出土遺物① ････････ 202
第131図　曲輪20（第20次調査）出土遺物② ････････ 203
第132図　曲輪20（第20次調査）出土遺物③ ････････ 204
第133図　曲輪20（第20次調査）出土遺物④ ････････ 205
第134図　曲輪状遺構（第14次調査）トレンチ配置図　208
第135図　曲輪状遺構（第14次調査）全体図 ････209・210
第136図　トレンチ平面図・断面図 ･･････････211・212
第137図　14SB58･･････････････････････････････ 213
第138図　14SA57・72・SKP60･･････････････････ 214
第139図　14SK29・33・40･･････････････････････ 215
第140図　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物① ････ 219
第141図　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物② ････ 220
第142図　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物③ ････ 221
第143図　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物④ ････ 222
第144図　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物⑤ ････ 223
第145図　天下道（第15次調査）トレンチ配置図 ････ 226
第146図　１トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 227
第147図　２トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 228
第148図　３トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 229
第149図　４トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 230
第150図　５トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 231
第151図　６トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 232
第152図　天下道（第15次調査）出土遺物 ･････････ 234
第153図　馬乗り場地区遺構現状 ･･････････････････ 236
第154図　馬乗り場地区調査区配置図 ･････････････ 237
第155図　曲輪（第１次調査）トレンチ配置図 ･･････ 238
第156図　曲輪（第１次調査）全体図 ･････････239・240
第157図　１・２トレンチ平面図・断面図 ･･････241・242
第158図　３トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 243
第159図　曲輪（第１次調査）出土遺物① ･････････ 245
第160図　曲輪（第１次調査）出土遺物② ･････････ 246
第161図　曲輪（第１次調査）出土遺物③ ･････････ 247
第162図　曲輪（第１次調査）出土遺物④ ･････････ 248
第163図　曲輪（第１次調査）出土遺物⑤ ･････････ 249
第164図　曲輪（第１次調査）査出土遺物⑥ ････････ 250
第165図　曲輪（第９次調査）トレンチ配置図 ･･････ 253
第166図　曲輪（第９次調査）全体図 ･････････255・256
第167図　１トレンチ平面図・断面図 ･････････257・258
第168図　２トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 259
第169図　３トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 260
第170図　４トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 261
第171図　５トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 262
第172図　６トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 263
第173図　曲輪（第９次調査）出土遺物① ･････････ 265
第174図　曲輪（第９次調査）出土遺物② ･････････ 266
第175図　曲輪（第９次調査）出土遺物③ ･････････ 267
第176図　曲輪（第９次調査）出土遺物④ ･････････ 268
第177図　曲輪（第９次調査）出土遺物⑤ ･････････ 269
第178図　北西部尾根（第５次調査）トレンチ配置図　271
第179図　西側斜面（第10次調査）トレンチ平面図・
断面図 ･････････････････････････････････ 272
第180図　兜ヶ崎・打ヶ崎地区調査区配置図 ････････ 274
第181図　１～４トレンチ配置図 ･･････････････････ 275
第182図　１～４トレンチ平面図・断面図 ･････････ 276
第183図　曲輪（第３次調査）５～９トレンチ配置図/
５～９トレンチ平面図･断面図････････277・278
第184図　曲輪（第３次調査）出土遺物 ･･････････ 280
第185図　曲輪（第８次調査）トレンチ配置図 ･･････ 282
第186図　１・２トレンチ平面図・断面図 ･･････283・284
第187図　３トレンチ平面図・断面図 ･････････････ 285
第188図　４・５トレンチ平面図・断面図 ･････････ 286
第189図　曲輪（第８次調査）出土遺物① ･････････ 288
第190図　曲輪（第８次調査）出土遺物② ･････････ 289
第191図　曲輪（第８次調査）出土遺物③ ･････････ 290
第192図　曲輪（第８次調査）出土遺物④ ･････････ 291
第193図　曲輪（第８次調査）出土遺物⑤ ･････････ 292
第194図　田谷沢道（第７次調査）トレンチ配置図 ･･ 295
第195図　１～５トレンチ断面図 ･･････････････････ 296

第196図　田谷沢道（第７次調査）出土遺物 …… 297
第197図　乍木地区調査区配置図 …… 299
第198図　曲輪（第２次調査）トレンチ配置図 …… 301
第199図　１トレンチ平面図・断面図 …… 302
第200図　２・３トレンチ平面図・断面図 …… 303
第201図　４～10トレンチ断面図 …… 304
第202図　13・14トレンチ断面図 …… 305
第203図　曲輪（第２次調査）出土遺物 …… 306
第204図　曲輪（第４次調査）１～９トレンチ配置図/
１・５トレンチ平面図・断面図 …… 308
第205図　２～４・７～９トレンチ断面図 …… 309
第206図　曲輪（第４次調査)10 ～ 12トレンチ配置図/
10 ～ 12トレンチ平面図･断面図 …… 310
第207図　田谷沢道（第６次調査）トレンチ配置図/
１～３トレンチ平面図･断面図…… 312
第208図　お念堂地区調査区配置図 …… 315
第209図　小丘陵頂上部（Ｈ８年度調査）
トレンチ配置図・平面図・断面図 …… 317
第210図　南西端部（H15・H16年度調査）
調査区配置図 …… 318
第211図　南西端部（H15・H16年度調査）
調査区平面図 ……319・320
第212図　H15・H16SB01・02・03・04 …… 322
第213図　H15・H16SB05・06・07・08・09・SA10・
11・12 …… 323
第214図　H15・H16SA394・395と西側土層説明図 ‥ 324
第215図　H15・H16SA396 ～ 398と中央土層説明図‥ 325
第216図　東側地区北西部遺構検出状況 …… 326
第217図　H15・H16土塁状遺構１・２断面図 …… 327
第218図　南西端部（H15・H16年度調査）
西側地区出土遺物① …… 333
第219図　南西端部（H15・H16年度調査）
西側地区出土遺物② …… 334
第220図　南西端部（H15・H16年度調査）
西側地区出土遺物③ …… 335
第221図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物① …… 336
第222図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物② …… 337
第223図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物③ …… 338
第224図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物④ …… 339
第225図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑤ …… 340
第226図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑥ …… 341
第227図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑦ …… 342
第228図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑧ …… 343
第229図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑨ …… 344
第230図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑩ …… 345
第231図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑪ …… 346
第232図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑫ …… 347
第233図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑬ …… 348
第234図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑭ …… 349
第235図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑮ …… 350
第236図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑯ …… 351
第237図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑰ …… 352
第238図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑱ …… 353
第239図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑲ …… 354
第240図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物⑳ …… 355
第241図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉑ …… 356
第242図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉒ …… 357
第243図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉓ …… 358
第244図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉔ …… 359
第245図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉕ …… 360
第246図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉖ …… 361
第247図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉗ …… 362
第248図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉘ …… 363
第249図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉙ …… 364
第250図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉚ …… 365
第251図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉛ …… 366
第252図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉜ …… 367
第253図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉝ …… 368
第254図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉞ …… 369
第255図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㉟ …… 370
第256図　南西端部（H15・H16年度調査）
東側地区出土遺物㊱ …… 371
第257図　南西端部（H15・H17年度調査）
東側地区出土遺物㊲ …… 372
第258図　南西端部（H15・H17年度調査）

東側地区出土遺物㊳ …… 373
第259図　南西端部（H15・H17年度調査）
東側地区出土遺物㊴ …… 374
第260図　南西端部（H15・H18年度調査）
東側地区出土遺物㊵ …… 375
第261図　南西端部（H15・H18年度調査）
東側地区出土遺物㊶ …… 376
第262図　推定寺院跡（第12次調査）全体図 …… 386
第263図　１トレンチ平面図・断面図 …… 387
第264図　２トレンチ平面図・断面図 …… 388
第265図　推定寺院跡（第12次調査）出土遺物 …… 389
第266図　脇本城跡出土笄・足金物とその類例 …… 394
第267図　脇本城跡における曲輪造成模式図 …… 397
第268図　安東氏関連城郭関係図 …… 401
第269図　各地区と道の復原 …… 402
第270図　脇本城跡の変遷 …… 405
第271図　脇本城跡と古代・中世の周辺遺跡 …… 407

挿　表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧表…… 8
第２表　男鹿半島の中世城館一覧表…… 9
第３表　脇本城跡の保存と整備の経緯年表……21
第４表　脇本城跡現状変更一覧表……24
第５表　脇本城跡き損か所一覧表……25
第６表　第１～６次遺構調査一覧表……27
第７表　脇本城跡と関連遺跡の発掘調査次数と概要……28
第８表　曲輪１・２（第11次調査）遺構一覧表①……69
第９表　曲輪１・２（第11次調査）遺構一覧表②……70
第10表　曲輪１・２（第11次調査）遺構一覧表③……71
第11表　曲輪１・２（第11次調査）出土遺物一覧表……76
第12表　曲輪１・２（第11次調査）出土遺物観察表……76
第13表　曲輪10（第16次調査）遺構一覧表①……91
第14表　曲輪10（第16次調査）遺構一覧表②……92
第15表　曲輪10（第16次調査）遺構一覧表③……93
第16表　曲輪10（第16次調査）遺構一覧表④……94
第17表　曲輪10（第16次調査）出土遺物一覧表…… 100
第18表　曲輪10（第16次調査）出土遺物観察表…… 100
第19表　曲輪12（第17次調査）遺構一覧表①…… 116
第20表　曲輪12（第17次調査）遺構一覧表②…… 117
第21表　曲輪12（第17次調査）出土遺物一覧表…… 123
第22表　曲輪12（第17次調査）出土遺物観察表…… 123
第23表　曲輪13･14･15－１･15－２･16
（Ｈ７年度調査）遺構一覧表 …… 129
第24表　曲輪13･14･15－１･15－２･16（第18次調査）
遺構一覧表①…… 139
第25表　曲輪13･14･15－１･15－２･16（第18次調査）
遺構一覧表②…… 140
第26表　曲輪13･14･15－１･15－２･16
（Ｈ７年度調査）出土遺物一覧表 …… 146
第27表　曲輪13･14･15－１･15－２･16
（Ｈ７年度調査）出土遺物観察表① …… 147
第28表　曲輪13･14･15－１･15－２･16
（Ｈ７年度調査）出土遺物観察表② …… 148
第29表　曲輪13･14･15－１･15－２･16（第18次調査）
出土遺物一覧表…… 151
第30表　曲輪13･14･15－１･15－２･16（第18次調査）
出土遺物観察表…… 151
第31表　曲輪17（第19次調査）遺構一覧表①…… 163
第32表　曲輪17（第19次調査）遺構一覧表②…… 164
第33表　曲輪17（第19次調査）遺構一覧表③…… 165
第34表　曲輪17（第19次調査）出土遺物一覧表…… 170
第35表　曲輪17（第19次調査）出土遺物観察表…… 170
第36表　曲輪19（第13次調査）出土遺構一覧表①…… 181
第37表　曲輪19（第13次調査）出土遺構一覧表②…… 182
第38表　曲輪19（第13次調査）出土遺物一覧表…… 185
第39表　曲輪19（第13次調査）出土遺物観察表…… 185
第40表　曲輪20（第20次調査）遺構一覧表①…… 200
第41表　曲輪20（第20次調査）遺構一覧表②…… 201
第42表　曲輪20（第20次調査）出土遺物一覧表…… 206
第43表　曲輪20（第20次調査）出土遺物観察表…… 206
第44表　曲輪状遺構（第14次調査）遺構一覧表①…… 216
第45表　曲輪状遺構（第14次調査）遺構一覧表②…… 217
第46表　曲輪状遺構（第14次調査）遺構一覧表③…… 218
第47表　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物一覧表…… 224
第48表　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物観察表…… 224
第49表　天下道（第15次調査）遺構一覧表…… 233
第50表　天下道（第15次調査）出土遺物一覧表…… 233
第51表　天下道（第15次調査）出土遺物観察表…… 234
第52表　曲輪（第１次調査）遺構一覧表…… 244
第53表　曲輪（第１次調査）出土遺物一覧表…… 250
第54表　曲輪（第１次調査）出土遺物観察表①…… 250
第55表　曲輪（第１次調査）出土遺物観察表②…… 251
第56表　曲輪（第９次調査）遺構一覧表…… 264
第57表　曲輪（第９次調査）出土遺物一覧表…… 270
第58表　曲輪（第９次調査）出土遺物観察表…… 270
第59表　曲輪（第３次調査）遺構一覧表…… 279
第60表　曲輪（第３次調査）出土遺物一覧表…… 280
第61表　曲輪（第３次調査）出土遺物観察表…… 280
第62表　曲輪（第８次調査）遺構一覧表…… 287
第63表　曲輪（第８次調査）出土遺物一覧表…… 293
第64表　曲輪（第８次調査）出土遺物観察表…… 294
第65表　田谷沢道（第７次調査）出土遺物一覧表…… 297
第66表　田谷沢道（第７次調査）出土遺物観察表…… 297
第67表　曲輪（第２次調査）遺構一覧表…… 305
第68表　曲輪（第２次調査）出土遺物一覧表…… 305
第69表　曲輪（第２次調査）出土遺物観察表…… 307
第70表　曲輪（第４次調査）遺構一覧表…… 311
第71表　田谷沢道（第６次調査）遺構一覧表…… 313
第72表　田谷沢道（第６次調査）遺物一覧表…… 313

第73表　小丘陵頂上部（Ｈ８年度調査）遺構一覧表‥ 318
第74表　南西端部（H15・H16年度調査）
遺構一覧表①‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 328
第75表　南西端部（H15・H16年度調査）
遺構一覧表②‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 329
第76表　南西端部（H15・H16年度調査）
遺構一覧表③‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 330
第77表　南西端部（H15・H16年度調査）
遺構一覧表④‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 331
第78表　南西端部（H15・H16年度調査）
遺構一覧表⑤‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 332
第79表　南西端部（H15・H16年度調査）
出土遺物一覧表‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 377
第80表　南西端部（H15・H16年度調査）西側地区
出土遺物観察表‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 377
第81表　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区
出土遺物観察表①‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 378
第82表　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区
出土遺物観察表②‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 379
第83表　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区
出土遺物観察表③‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 380
第84表　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区
出土遺物観察表④‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 381
第85表　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区
出土遺物観察表⑤‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 382
第86表　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区
出土遺物観察表⑥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 383
第87表　推定寺院跡（第12次調査）遺構一覧表‥‥‥ 389
第88表　推定寺院跡（第12次調査）出土遺物一覧表‥ 390
第89表　推定寺院跡（第12次調査）出土遺物観察表‥ 390
第90表　出土遺物組成一覧表‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 393

図　版　目　次

巻頭図版１　脇本城跡空撮①②
巻頭図版２　脇本城跡空撮③
巻頭図版３　脇本城跡空撮【昭和30年代】
巻頭図版４　出羽一国御絵図（男鹿半島部分）
図版１　内館地区－曲輪１・２
図版２　内館地区－曲輪１・２
図版３　内館地区－曲輪10
図版４　内館地区－曲輪10
図版５　内館地区－曲輪12
図版６　内館地区－曲輪12
図版７　内館地区－曲輪13・14・15－１・15－２・16
図版８　内館地区－曲輪13・14・15－１・15－２・16
図版９　内館地区－曲輪13・14・15－１・15－２・16
図版10　内館地区－曲輪17
図版11　内館地区－曲輪17
図版12　内館地区－曲輪19
図版13　内館地区－曲輪20
図版14　内館地区－曲輪20
図版15　内館地区－曲輪20
図版16　内館地区－曲輪状遺構
図版17　内館地区－天下道
図版18　内館地区－天下道
図版19　馬乗り場地区－曲輪（第１次調査）
図版20　馬乗り場地区－曲輪（第９次調査）
図版21　馬乗り場地区－北西部尾根・西側斜面
図版22　兜ヶ崎・打ヶ崎地区－曲輪（第３次調査）
図版23　兜ヶ崎・打ヶ崎地区－曲輪（第８次調査）
図版24　兜ヶ崎・打ヶ崎地区－曲輪（第８次調査）/
田谷沢道（第７次調査）
図版25　乍木地区－曲輪（第２次調査）
図版26　乍木地区－曲輪（第２次調査）/
田谷沢道（第６次調査）
図版27　お念堂地区－小丘陵頂上部（Ｈ８年度調査）
/南西端部（H15・H16年度調査）
図版28　お念堂地区－南西端部（H15・H16年度調査）
図版29　お念堂地区－南西端部（H15・H16年度調査）
図版30　お念堂地区－南西端部（H15・H16年度調査）
/寺院地区－推定寺院跡
図版31　出土遺物①
図版32　出土遺物②
図版33　出土遺物③
図版34　出土遺物④
図版35　出土遺物⑤
図版36　出土遺物⑥
図版37　出土遺物⑦
図版38　出土遺物⑧
図版39　出土遺物⑨
図版40　出土遺物⑩
図版41　出土遺物⑪
図版42　出土遺物⑫
図版43　出土遺物⑬
図版44　出土遺物⑭

第１章　遺跡の概要

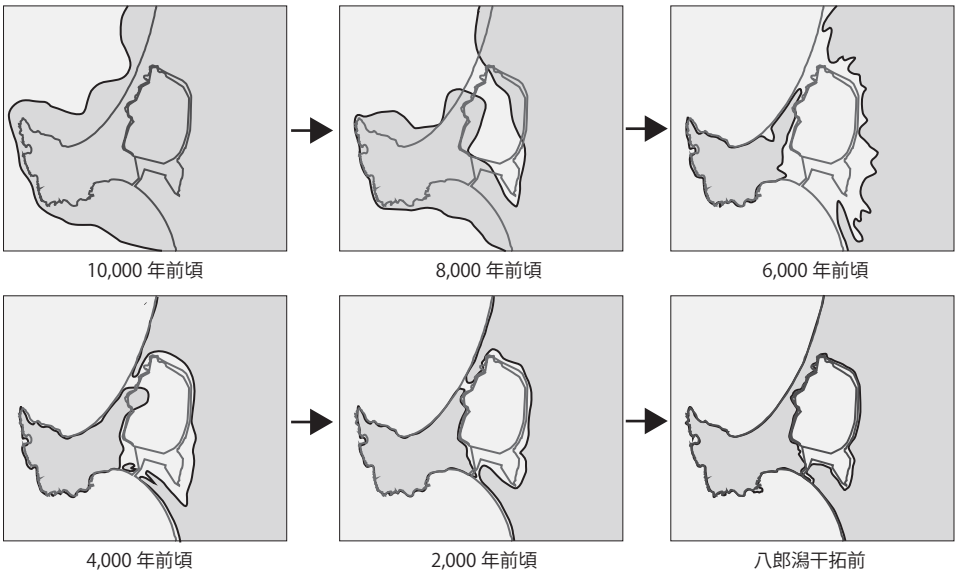
第１節　脇本城跡の位置と概要

秋田県男鹿市は、秋田県臨海部のほぼ中央、日本海に大きく突き出した男鹿半島に位置し、南北西の三方が海に面している。平成17年３月、旧男鹿市と旧若美町が合併したことにより、男鹿半島の全域が男鹿市域となった。北は山本郡三種町、東は大潟村、南東は潟上市に接し、豊富な水産資源や美しい自然景観に恵まれ、全国で唯一市単独で国定公園の指定を受けている。

男鹿半島は約6,000年前の縄文海進時（最高海水準時）以後には日本海上にある島であったが、隆起や半島南北に発達した砂州、砂丘によって列島と連結されたと考えられている。

脇本城跡は男鹿半島の南側付け根部分、脇本地区に位置し、男鹿市脇本脇本に所在する。また、南端下部を国道101号線生鼻崎トンネルが貫通しており、男鹿半島における交通の要所となっている。遺跡は第四紀火山である寒風山（標高354.7m）南麓にあり、生鼻崎付近の日本海に面した標高100m前後の丘陵上に立地する。生鼻崎の南側斜面は、50 ～ 80mの断崖絶壁を為しており、地層の堆積が明瞭に観察できる大露頭として古くから知られている。かつて雄猪鼻崎とも記され、猪の鼻のように日本海に突き出していたため、この地名が付けられたと伝えられている。本丘陵は砂泥互層の北浦層と青灰色砂質泥岩を主体とする脇本層から構成されており、約30°の傾斜で東に傾いている。

脇本城は秋田安東氏に関係する城館であると考えられ、その城域は非常に広大で丘陵全体、約150万

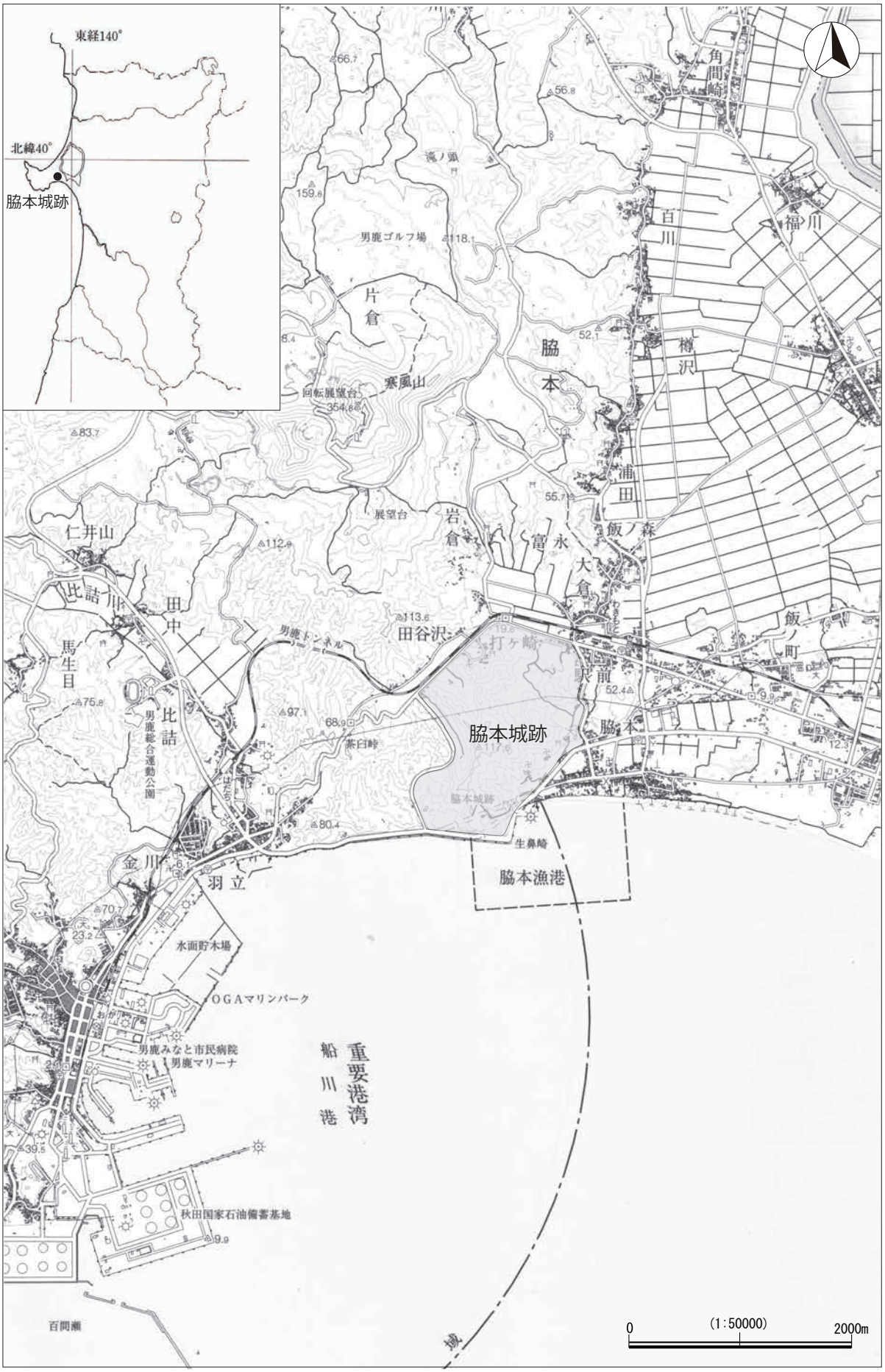


渡部晟氏作図の男鹿市刊行パンフレットを再トレースして作図

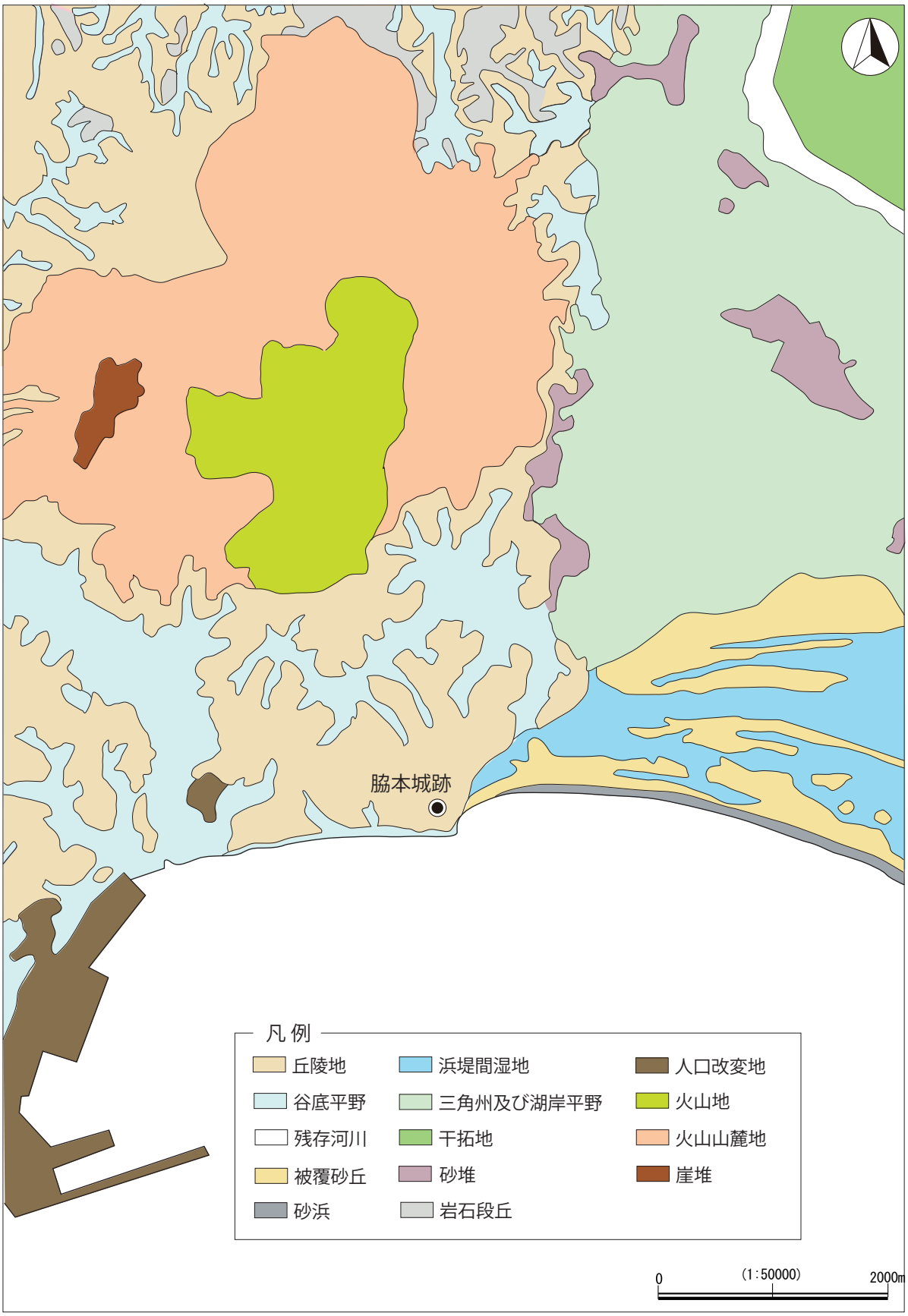
第１図　男鹿半島の地形変遷

㎡にもおよぶうえに、曲輪や土塁、井戸跡、道路跡といった遺構が現在も明瞭に確認することができることなどから、平成16年９月に国の史跡指定を受け、男鹿市がその管理団体となっている。

秋田安東氏は秋田湊（秋田市）、檜山（能代市）においてそれぞれ湊安東氏、檜山安東氏という戦国大名となり、元亀元（1570）年に檜山安東氏の安東愛季が湊安東氏を配下に置くことで統一される。統


東経140°
北緯40°
脇本城跡
角間崎
百川
福川
樽沢
脇本
浦田
飯ノ森
富永
大倉
飯ノ町
寒風山
片倉
岩倉
展望台
仁井山
比詰川
田中
馬生目
比詰
男鹿総合運動公園
男鹿トンネル
田谷沢
打ケ崎
茶臼峠
脇本城跡
生鼻崎
脇本漁港
金川
羽立
水面貯木場
OGAマリンパーク
男鹿みなと市民病院
男鹿マリーナ
重要港湾
船川港
秋田国家石油備蓄基地
百間瀬
0
(1:50000)
2000m

第２図　位置図


脇本城跡
凡例
丘陵地
谷底平野
残存河川
被覆砂丘
砂浜
浜堤間湿地
三角州及び湖岸平野
干拓地
砂堆
岩石段丘
人口改変地
火山地
火山山麓地
崖堆
0
(1:50000)
2000m

第３図　地形分布図

一後の天正５（1577）年、安東愛季が従来あった城を大規模に縄張りし直し居城にしたとされている。城跡の南側を天下道、北側を田谷沢道と呼ばれる道路跡が東西を貫通しており、日本海海上交通とともに陸上交通の要所であった点と、檜山、湊両安東氏の居城地からそれぞれ７里程度の中間地にある脇本が選地されたものと考えられている。廃城時期は不明であるが、天正17（1589）年のいわゆる湊合戦以降、慶長20（1615）年の一国一城令発布以前と考えられる。

周辺には脇本城跡に関連する寺社も残っており、城内に菅原神社、南東裾部には本明寺、萬境寺の２寺が現存する。さらに昭和７年に移転された大龍寺のほか、金光寺という寺院もかつて存在していたといわれる。城跡の南東部に位置する脇本本郷集落は、城下町集落と想定され、中央部の道路（前身は城跡の立地する丘陵を超える山越えの主要道であった、通称天下道）に沿って、短冊形の地割が残り、整然と家屋が並んでいる。また、現在は区画整理が進んだものの、鍵状の屈曲や狭い小路なども確認することができる。

第２節　遺跡の現況と歴史的環境

１　遺跡の現況

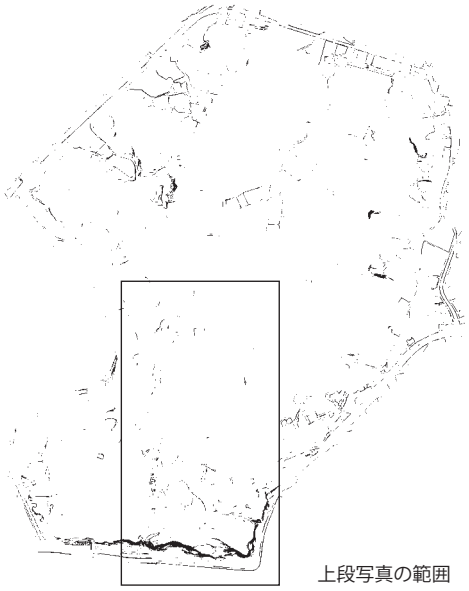
脇本城跡は内館地区を中心に曲輪や土塁、井戸跡や道路跡など多くの遺構が現況で確認することができ、平成16年には国指定史跡となった（平成16年９月30日付、文部科学省告示第142号）。それは、廃城以後、近隣集落の入会地として大切に共同管理されてきたことが大きい。

脇本城跡地は明治期の地租改正により、公有地と民有地で折半され、官有地も僅かに編入された。公有地の大半は従来通り、入会地慣行を認められ、近隣集落の草木及び燃料となる薪の採取場として大切に管理されてきた。地元では現在も「カヤヤマ（馬の冬季秣となるカヤ＝ヒンクサの刈り場）」や「新トメヤマ（苗代に使用したガツギの刈り場）」といった呼び名が残っている。しかし昭和40年代の燃料革命や田畑耕作の機械化などによって急速に衰退し、昭和60年代に城跡としての価値が認識されはじめた頃には、草や雑木が繁茂し荒地となっていた。この現状を見るに見かねた、地元の有志が「脇本城址懇話会」を結成し、長年にわたり環境整備が実施され現在に至っている。

土地利用の変遷をみると、第２次世界大戦前後において、内館地区一帯は入会地のまま共同利用地とされたが、他の地区は畑地として転用され、地形が大きく改変された。その痕跡は昭和37年、同42年の航空写真に明瞭に残っている。

現在の脇本城跡は総面積約150ha、史跡指定面積1,287,382.77㎡におよび、史跡範囲内では公有地約55％、法人有地約８％、個人有地約37％となっている。地目別にみると、山林･原野がその約96％を占め、残りの約４％は耕作地、道路及び水路、墓地及び境内地、宅地、池沼となっている。広大な範囲の城跡は丘陵部で７つの小字によって区切られる。現行の小字は、地租改正に伴い再編成された明治９（1876）年以来の小字を基本的に継承する。

近世期の脇本村は親郷・駅場の扱いであるが、秋田郡男鹿島の郡役所も、そして明治政府下での第一大区八小区の区扱所も船越村に設置されたほか、明治44（1911）年に船川港が土崎港とともに重要港湾に指定されるなど、大局的には男鹿半島での主要な地位から外れる。しかし、明治22（1889）年の町村制施行を受けて、近世期の７か村（湧本・飯森・飯村・大倉・浦田・樽沢・百川）が合併して脇本村を称した点から、脇本城跡及びその城下町集落として現在の小字である脇本地区の重要性が伺われる。さらに小字脇本には現行の地名の他、天神町、館下、仲町、御札町、荒町、新町、浜町、栄町といった通

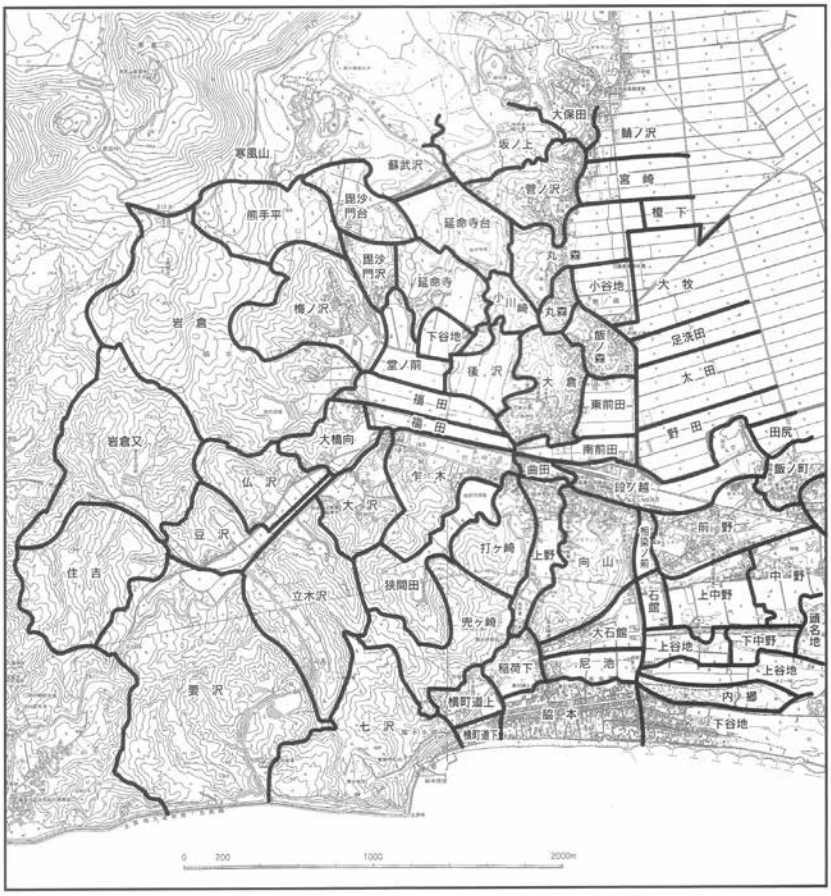


- 内館地区を除き、各地区では畑地利用の痕跡が明瞭である。
- 現在確認できる道路跡が明瞭に残る。
- 城下町地区では区割りが明瞭に残り、道路も区画整理以前の様相が残る。
- 両写真とも国道101号線敷設以前の様相であり、天下道がくっきりと残っている。

上段：国土地理院発行の航空写真【昭和37年撮影】

下段：国土地理院発行の航空写真【昭和42年撮影】

第4図　航空写真からみた過去の地形



男鹿市教育委員会2007a

第5図　脇本城跡と周辺の字切図

称が残り、現在も用いられる。その他、さらに細分されて町頭、神地、横町、愛宕町、町後といった通称地名も用いられたようである（男鹿市教育委員会1996・2007a）。

脇本城跡の植生を見ると、昭和30年代と推定される航空写真（巻頭図版）では樹木がほとんど刈り払われており、採草地として際立った管理がなされていたようである。城の機能していた時期にも眺望がすぐれている同様の景観であったことが推察される。しかしその後の植林や荒廃及び、マツ材線虫病によるアカマツ枯れによって、現在の植生となった。

内館地区は放牧地に近い攪乱地であり、一部にノカンゾウ、ノウルシ等が広がる。さらにサクラ属、リンゴ属（ヒメリンゴ）、コナラ亜属（クヌギ）、クリ属（クリ）等の落葉広葉樹が生育するが、菅原神社周辺はスギ植栽林がみられるほか、常緑のヤブツバキが非常に多い。馬乗り場地区はスギ植栽林が広がっているが、曲輪上は広い草地となっている。また大型のトガアザミ及びエイレンソウ属も確認される。兜ヶ崎・打ヶ崎地区及び乍木地区も同様にスギ植栽林であり、林床はアイアスカイノデやホクリクイノデ等のシダ植物が多産する。お念堂地区ではスギ植栽林及び雑木林となっている。

2　歴史的環境

脇本地区は男鹿市内でも遺跡の多い地区である。脇本城跡の北側に位置する寒風山の東麓から南北に低い段丘が連なり、それに沿って縄文時代以降の遺跡が多く存在する。

【縄文時代】

発掘調査が行われた遺跡は少ないものの、坂の上Ⅲ、Ⅳ遺跡（５・７）で前期の土器片が採集されており、立石遺跡（２）では戦後の開拓に伴って、中期に位置付けられる多量の土器片が採集されている。また延命寺台遺跡（15）では発掘調査により複式炉をもつ大木10式期の竪穴建物跡が検出されている。また同遺跡では後期の土器も出土している。晩期の土器片は坂の上Ⅱ遺跡（４）で採集されている。

【弥生時代】

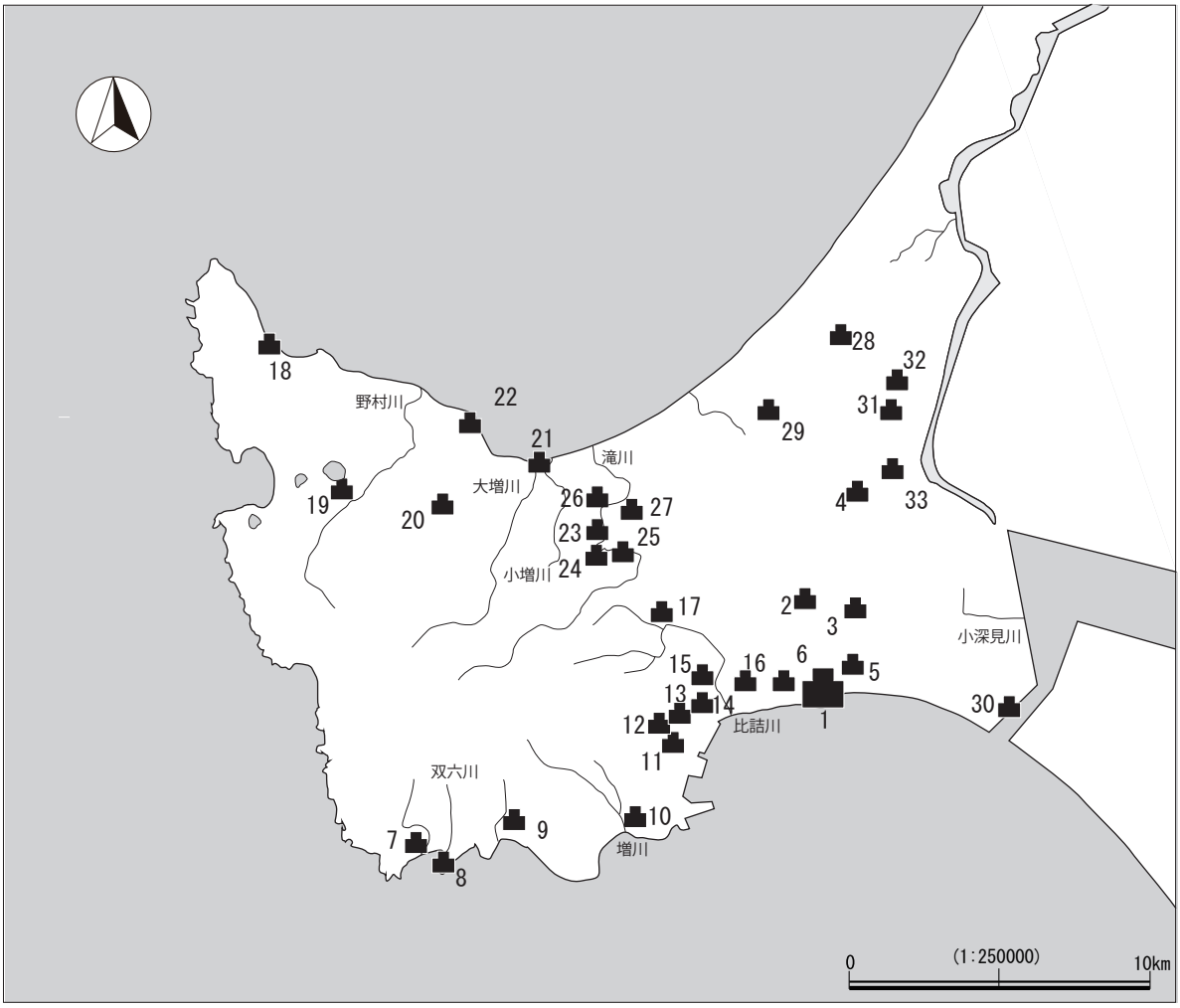
延命寺台遺跡（15）から遠賀川系の土器片が出土している他、小谷地遺跡（30）、大倉Ⅱ遺跡（29）からは中期の土器が確認されている。また、長者森遺跡（26）、飯森遺跡（32）、脇本向山遺跡（38）、脇本打ヶ崎遺跡（44）等から土器片が採集されている。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
脇本城跡
脇本
寒風山
田谷沢
浦田
飯森
大倉
富永
打ヶ崎
樽沢
(1:25000)
0
1000m

第6図　周辺の遺跡

第1表　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡番号	遺跡名	所　在　地	時　代	備　考
1	6-36	数畑	男鹿市脇本樽沢字数畑	縄文・古代	土器
2	6-130	立石	男鹿市脇本樽沢字立石	縄文・古代	土器・石器
3	6-161	アミダ堂	男鹿市脇本浦田字大保田		石棺
4	6-79	坂の上Ⅱ	男鹿市脇本浦田字坂ノ上	縄文	土器
5	6-80	坂の上Ⅲ	男鹿市脇本浦田字坂ノ上	縄文・古代・中世	土器・陶器
6	6-129	坂の上Ⅰ	男鹿市脇本浦田字坂ノ上	縄文・古代・中世	土器・陶器
7	6-81	坂の上Ⅳ	男鹿市脇本浦田字坂ノ上	縄文・古代・中世	土器・陶器
8	6-128	坂の上Ⅴ	男鹿市脇本浦田字坂ノ上	縄文・古代	土器・石器
9	6-82	坂の上Ⅵ	男鹿市脇本浦田字坂ノ上	縄文・古代	土器
10	6-83	坂の上Ⅶ	男鹿市脇本浦田字坂ノ上	縄文・古代	土器・石器
11	6-84	坂の上Ⅸ	男鹿市脇本浦田字坂ノ上	縄文・古代	土器
12	6-85	坂の上Ⅷ	男鹿市脇本浦田字坂ノ上	縄文・弥生	土器
13	6-40	延命寺台Ⅲ	男鹿市脇本富永字延命寺台	縄文・古代	土器・石器
14	6-39	延命寺台Ⅱ	男鹿市脇本富永字延命寺台	縄文・弥生・古代・中世	土器・石器・陶器
15	6-103	延命寺台	男鹿市脇本富永字延命寺台	縄文・弥生・古代・近世	竪穴住居跡・溝跡
16	6-94	毘沙門台Ⅲ	男鹿市脇本富永字毘沙門台	縄文	土器
17	6-93	毘沙門台Ⅱ	男鹿市脇本富永字毘沙門台	縄文・古代	土器・石器
18	6-88	毘沙門沢Ⅰ	男鹿市脇本富永字毘沙門沢	縄文・古代	土器・石器
19	6-92	毘沙門台Ⅰ	男鹿市脇本富永字毘沙門台	縄文	土器
20	6-89	熊手平Ⅰ	男鹿市脇本富永字熊手平	縄文・古代・中世	土器
21	6-90	熊手平Ⅱ	男鹿市脇本富永字熊手平	縄文・古代	土器
22	6-91	熊手平Ⅲ	男鹿市脇本富永字熊手平	縄文・古代	土器・石器
23	6-124	岩倉館	男鹿市脇本富永字岩倉	中世	
24	6-249	毘沙門沢Ⅱ	男鹿市脇本富永字毘沙門沢	縄文・古代	土器
25	6-104	小川崎	男鹿市脇本富永字小川崎	縄文	土器・石器
26	6-105	長者森	男鹿市脇本富永字大倉	弥生	土器
27	6-107	大倉Ⅰ	男鹿市脇本富永字大倉	中世	経塚
28	6-166	後沢Ⅱ	男鹿市脇本富永字後沢	古代	埋没材
29	6-109	大倉Ⅱ	男鹿市脇本富永字大倉	弥生・古代	土器・石器
30	6-106	小谷地	男鹿市脇本富永字小谷地	弥生・古代	埋没家屋
31	6-125	飯森館	男鹿市脇本富永字飯ノ森	中世	陶器
32	6-108	飯森	男鹿市脇本富永字飯ノ森	縄文・弥生・古代	土器・石器
33	6-167	野田	男鹿市脇本富永字野田	古代	埋没材
34	6-112	前野Ⅰ	男鹿市脇本脇本字前野	縄文・古代	土器
35	6-66	前野Ⅲ	男鹿市脇本脇本字前野	古代	土器・石器
36	6-116	前野Ⅱ	男鹿市脇本脇本字前野	縄文	土器
37	6-87	脇本石館Ⅱ	男鹿市脇本脇本字石館	縄文・古代	土器
38	6-111	脇本向山	男鹿市脇本脇本字向山	弥生・古代	土器
39	6-127	脇本石館	男鹿市脇本脇本字向山	中世	陶器
40	6-44	向山Ⅱ	男鹿市脇本脇本字向山	古代	土器
41	6-45	大石館	男鹿市脇本脇本字大石館	古代	土器
42	6-41	乍木Ⅱ	男鹿市脇本脇本字乍木	古代	土器
43	6-168	脇本乍木Ⅰ	男鹿市脇本脇本字乍木	縄文	土器
44	6-110	脇本打ケ崎	男鹿市脇本脇本字打ケ崎	弥生・古代	土器
45	6-121	田谷沢大沢	男鹿市脇本田谷沢字大沢	古代	土器・柱材
46	6-162	脇本館下Ⅱ	男鹿市脇本脇本字横町道下	中世	土器
47	6-259	横町道上Ⅱ	男鹿市脇本脇本字横町道上	古代・中世	土器・陶器
48	6-163	脇本館下Ⅰ	男鹿市脇本脇本字横町道下	中世	
49	6-258	横町道上Ⅰ	男鹿市脇本脇本字横町道上	古代・中世	土器・陶器
50	6-202	脇本	男鹿市脇本脇本字脇本	中世	陶磁器・鉄片・古銭
51	6-35	茶臼館	男鹿市船川港比詰字餅ケ沢他	中世	陶器
52	6-28	才ノ神	男鹿市船川港比詰字才ノ神	古代	土器



第７図　男鹿半島の中世城館

第２表　男鹿半島の中世城館一覧表

No.	城館名	所在地	No.	城館名	所在地
1	脇本城	男鹿市脇本脇本字七沢他	19	相馬館	男鹿市北浦西水口字大滝沢
2	岩倉館	男鹿市脇本富永字岩倉	20	館越館	男鹿市北浦北浦字館越
3	飯森館	男鹿市脇本富永字飯森	21	染川城	男鹿市北浦相川字神田他
4	百川館	男鹿市脇本百川字馬場台	22	北浦館	男鹿市北浦北浦字北浦
5	脇本石館	男鹿市脇本脇本字向山	23	杉下館Ⅰ	男鹿市男鹿中滝川字塩戸尻
6	茶臼館	男鹿市船川港比詰字餅ヶ沢他	24	杉下館Ⅱ	男鹿市男鹿中滝川字杉下台
7	小倉山館	男鹿市船川港小浜字小倉山	25	塩戸尻館	男鹿市男鹿中滝川字塩戸尻
8	双六館	男鹿市船川港双六字館山	26	家口館	男鹿市男鹿中山町字家口
9	木戸口館	男鹿市船川港台島字木戸口	27	袖ノ沢館	男鹿市男鹿中滝川字袖ノ沢
10	大宮館	男鹿市船川港増川字大宮	28	岡獅子館	男鹿市五里合中石字岡獅子
11	鳥屋場館	男鹿市船川港船川字鳥屋場	29	ひらかた館	男鹿市五里合琴川字百刈田
12	親道館	男鹿市船川港船川字親道	30	一向館	男鹿市船越字一向
13	大沢田館	男鹿市船川港船川字大沢田	31	館山館	男鹿市鵜木字道村
14	上ノ山館	男鹿市船川港金川字上ノ山	32	鵜木館	男鹿市鵜木字鵜木
15	上小友館	男鹿市船川港金川字上小友	33	角間崎古館	男鹿市角間崎字古館
16	大巻館	男鹿市船川港比詰字大巻		女川館	男鹿市船川港女川（所在不明）
17	仁井山館	男鹿市船川港仁井山字石仏		福米沢館	男鹿市福米沢（所在不明）
18	小浜沢館	男鹿市北浦西黒沢字小浜沢		本内館山	男鹿市本内（所在不明）

No.は曲輪番号を示す

第８図　内館地区遺構現状図

第９図　馬乗り場地区遺構現状図

第10図　兜ヶ崎・打ヶ崎・乍木地区遺構現状図

第11図　城下町地区とその周辺図

【古墳時代】

秋田県内を概観しても同時代の遺跡は非常に少ないが、小谷地遺跡（30）では中期に位置付けられる甕形土器、高杯形土器等がまとまって出土している。

【古　代】

小谷地遺跡（30）は過去に数度の発掘調査が行われ、埋没家屋が検出された遺跡として広く知られていた。しかし2009年の秋田県埋蔵文化財センターによる調査によって、過去に埋没家屋として想定されていた遺構も含めて、堰遺構であることが明らかとなった。８世紀末から９世紀末の墨書を含む土師器及び須恵器や木製品が多量に出土しており、官制主導による灌漑遺跡の可能性が指摘されている（秋田県教育委員会2011）。また、出土品の多くが秋田県有形文化財に指定されている。同遺跡の他に発掘調査が実施された遺跡はないものの、土師器片、須恵器片が多くの遺跡で確認されており、古代に属する遺跡が最も顕著である。

また、元慶２（878）年に起こった元慶の乱で、秋田城へ蜂起した「秋田城下賊地」12村の１村として「腋本」の地名が『日本三代実録』に記されている。現在の地名となっている「脇本」の文献上での初出であり、男鹿市内では最も古い地名の記録であると同時に、脇本地区が古代以降大きな勢力を保っていたことを示すものである。

【中　世】

中世初期段階では地頭橘公業の所領であったことが想定されており、さらに脇本浦田の宗泉寺には貞和２（1346）年刻銘の板碑が見られる。また大倉Ⅰ遺跡（27）からは天文15（1546）年、同20（1551）年の銘がある銅製経筒が出土するなど、この時期の遺跡も多い。小谷地遺跡（30）からは青磁片や中世陶器片が出土している他、脇本城跡の城下町地区に想定されている脇本遺跡（50）は2006年に秋田県埋蔵文化財センターによって発掘調査が実施されており、掘立柱建物跡や多くの陶磁器が出土した。

【城館跡】

男鹿半島内には脇本城に関連すると考えられる城館跡が多く分布しており、所在地不明なものを含めて、36か所の館跡が確認されている。脇本城跡の西側に隣接する茶臼館跡（６）からは脇本城跡と時期的に重なりを持つ、14世紀後半から15世紀前半の貿易陶磁や瀬戸美濃が表採されている。この北西の岩倉館跡（２）は安東氏の家臣北畠右近慶好が依拠したと伝えられている。また北東には永禄年間（1558～1570）に安東脩季の一族が居城したと伝えられる飯森館跡（３）があり、茶臼館跡のさらに西側には『秋田県史跡名勝記念物調査書』（大正10年刊）で生鼻太郎の支城であると指摘される大巻館跡（16）がある。

また、安東氏に関連する館跡としては、安東氏家臣である舟川氏の居城とされる鳥屋場館跡（11）、安東愛季子息の安東忠次郎英季が幼少期に与えられたとされる百川館跡（４）が挙げられる。さらに双六館跡（８）は安東氏一族の安倍千寿丸が居城しており、安東氏の内紛である湊合戦のあおりを受け落城し、その際に御前が海中に身を投げたことから御前落としと呼ばれるという伝承を伴い、その呼称は現在も用いられる。ここは数度の発掘調査がなされ、土塁、曲輪等の遺構、15世紀代の貿易陶磁器、珠洲等の国産陶器が多量に確認されている。

また男鹿半島北部の染川城跡は、これまで数度の発掘調査が実施された。中世期に属する遺物は未確認だが、近世期に菅江真澄が文化７（1810）年に著わした『恩荷奴春風』の中で「染河の浦も過てやはら至る。館てふ処は、安倍の兼季康永のころ篭れる柵の跡」との記述や、同地区にある北浦日枝神社に存在した康永３（1344）年島郡地頭安倍兼季建立の棟札及び男鹿中山田の康永４（1345）年刻銘の板碑の存在など秋田安東氏草創期の城館である可能性が指摘されている。

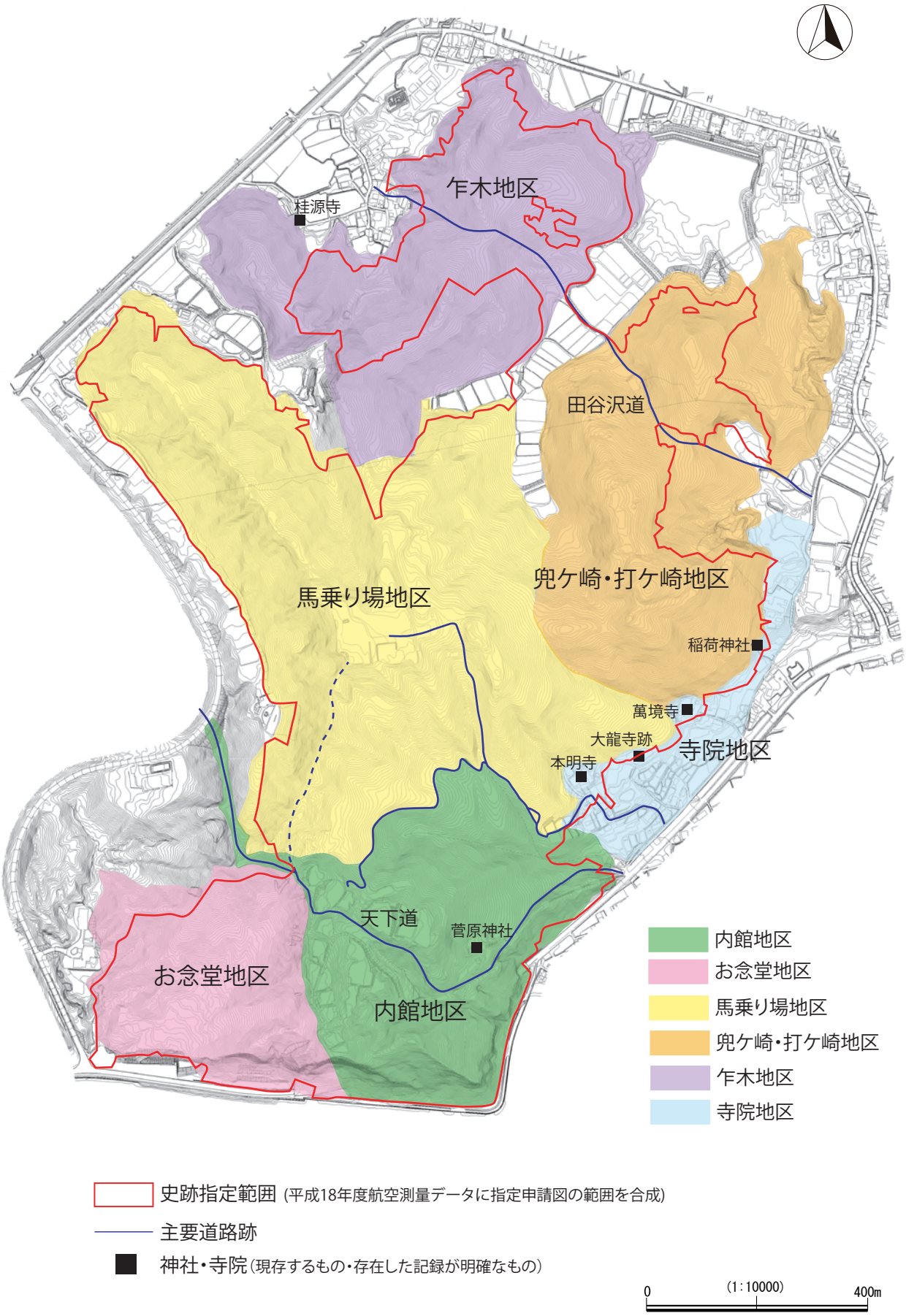
第３節　地区区分

総面積150haにおよぶ脇本城跡はその都度便宜的に複数の地区に分けて述べられてきた。最も近年に区分されたのは、平成19年に策定された『史跡脇本城跡保存管理計画書』（以下、保存管理計画）である。保存管理計画では、以下のように区分される。

（１）内館地区（七沢の南部）
（２）馬乗り場地区（七沢の北部、兜ヶ崎の西部、挟間田の西南部、立木沢の一部）
（３）兜ヶ崎地区（兜ヶ崎の東部、打ヶ崎、挟間田の東部）
（４）乍木地区（乍木、大沢の南部、立木沢の東部）
（５）城下町地区（横町道上、横町道下、稲荷下、脇本）

※（）内は字名で標記（男鹿市教育委員会2007a）

本報告書ではこれまでの経緯や立地、曲輪の配置構造等を踏まえて、これまでの見解とは若干異なる区分を提示する。それは城内域を内館地区、馬乗り場地区、兜ヶ崎・打ヶ崎地区、乍木地区、お念堂地区の５地区に区割りして述べることにする。さらに関連遺跡として、現在でも寺院が並ぶ東側裾部を寺院地区、短冊形地割りを残す脇本本郷集落を城下町地区とし、周辺も含めて７地区に区分する。この地



第12図　全体図・地区区分図

区区分は現況で残存する道路遺構と地形を重視した区分である。

【内館地区】

脇本城跡南側の日本海側を指す。比較的小規模な曲輪が並列的に群をなして立地する地区である。道路跡（天下道）がその中央部を横断しており、天下道に沿う範囲を当地区とした。西側のお念堂地区との境界は内館地区西側に南北に造成される高さ約２mの土塁である。土塁以西は標高を急激に減じる斜面となって、お念堂地区へ至る。北側の馬乗り場地区との境界は、本明寺から馬乗り場地区へ至る道路跡（本明寺道）及びその道路跡から内館地区へ至る道路跡、曲輪20北側の沢下とした。内館地区へ至るこの道路跡は、遺構現状調査においても明確な道路跡とは位置付けられておらず、他の記録類にも見い出すことはできていない。後世に便宜上使われた可能性も考えられる。しかし現状で確認される内館地区と馬乗り場地区を結ぶ通路は、便宜上尾根筋を通るルートであることから、内館地区へ直接至るルートとして重要であると判断したものである。

【馬乗り場地区】

脇本城跡中央部に位置する。単郭の大規模な曲輪をその中心とし、周囲に小規模な曲輪が展開する構造をとる。南側の内館地区との境界は上述の通りであるが、東側の寺院地区との境界は現存寺院の背後までとし、北東側に位置する兜ヶ崎･打ヶ崎地区との境界は、萬境寺背後から挟間田へ向かう沢下とした。さらに北側は挟間田南部を包括し、乍木地区との境界は、馬乗り場地区方面へ向かう細い尾根上とした。

【兜ヶ崎・打ヶ崎地区】

小さい尾根の頂上部に小規模な曲輪を造成し、一部はそれぞれの尾根筋で結ばれる構造をとる地区である。中央部を道路跡（田谷沢道）が横断する。西側は挟間田の低地、東側は丘陵下をその境界とした。

【乍木地区】

兜ヶ崎・打ヶ崎地区と同様の曲輪配置構造をとる。挟間田を経由して、中央部を道路跡（田谷沢道）が横断する。東側の境界を挟間田の低地とし、北側、西側は丘陵下をその境界とした。南側の馬乗り場地区との境界は上述の通りである。

【お念堂地区】

東側に位置する内館及び馬乗り場地区の立地する丘陵下をその地区とし、俗称「お念堂」、「鐘撞堂」と呼ばれている地区である。北側は天下道の南側及びそれに付随する沢状地形をその境界とした。

【寺院地区】

脇本城跡が立地する東側丘陵下部一帯とし、一部史跡範囲外及び脇本館下Ⅰ遺跡、脇本館下Ⅱ遺跡を含む。現存する寺社及びその跡地を含む。明治期初期にさかのぼる公図には、細かな地割り等が残存する様子が確認できるため、現在の国道101号線北西部まで広く包括した。

【城下町地区】

現在の指定範囲を大きく越えるため、図示し得ないが、内館地区南西丘陵下から、日本海沿いに展開する集落地を包括する。

以上便宜的に７地区の地区区分を行って、本報告書の記述を進める。しかし、この区分はあくまで、遺構現状に認められる遺構の状況や地形を考慮し行ったものであり、今後の調査の進展により、その境界については変更される可能性がある。

第２章　脇本城跡をめぐる研究史と保存の歴史

第１節　脇本城跡の研究史

「涌本はわずかの城なりといえども、聞こえし難所にて、陸には八郎潟を前にして人馬たやすく近づきがたし、後には男鹿の島高山につづき、海上は屏風の如く巖そばたち、玉矢も届きがたし云々」（能代市1966）。

脇本城が最も古く着目されることとなった、元禄11（1698）年の戸部一憨斉正直による『奥羽永慶軍記』という軍記物の一文である。その後、近世後期から近代にかけて菅江真澄に代表される多くの文化人が脇本城跡を訪れ、その著書の中に取り上げている。

現在の脇本城跡の基礎研究は地元の脇本村長を勤めた天野源一氏（1892 ～ 1959）と市文化財保護審議委員を歴任した磯村朝次郎氏（1918 ～ 2008）による功績が大きい。

天野氏は脇本村村長を昭和９（1934）年～昭和20（1945）年まで歴任するが、自身の在任期間である

天野源一氏と「秋田県南秋田郡脇本村生鼻城趾実測図」（秋田県立博物館1979・男鹿市教育委員会2007a）

脇本城　男鹿市脇本字七沢浮要沢

城館主体部は地震、波浪で500～600ｍ余海中に没したといわれる。現状で郭は10か所ほど認められる。高さ３ｍの土塁で囲された馬場跡、内館との間に堀の沢（空堀）、古井戸跡がある。天下道がここから北の茶臼館へ通ずる。内館の南、海に向って土塁を伴う郭が数か所あり、西方は急斜して擂鉢形の七沢地区へ下る。北辺にお念堂、西城の平、鼎の間、五輪の坂、鷹堂ヤラ、鐘つき堂、西勝寺跡、鞘山の名をとどめる個所があり、茶臼館と有機的に関連し、広範な城域を占めるが、「ヲガノ城名城ナリトイヘドモ、フシン未熟」といわれた。戦国期、城館の東方麓下は地形的にも格好の港津であったとみられる。築城は元亀、天正の頃か。

郭内より青磁、黄瀬戸、瀬戸黒、明染付、珠洲陶、七沢より明染付、唐津、美濃陶、笹塔婆その他の木器類が出土。馬場跡の東に天正19年再建の菅原神社が東向きに建つ。（今亡）田谷沢桂源寺は城主脩季の菩提寺といい、脇本集落は整然と区画される。

磯村朝次郎氏と『秋田県の中世城館』へ報告された「脇本城跡」（男鹿市1995・秋田県教育委員会1981）

第13図　脇本城跡研究の先覚

昭和18（1943）年には「秋田県南秋田郡脇本村生鼻城趾実測図」として、現在の内館地区の平面図を作成する。この当時は「生鼻城址」とも言われ、この城名は昭和39（1964）年刊行の『男鹿市史』にも踏襲される。その際には脇本字七沢の生鼻崎にある現内館地区のみが城跡の範囲として位置付けられている（男鹿市1964）。

また磯村氏は昭和56（1981）年の秋田県教育委員会と秋田県文化財保護協会が中心となって行った秋田県内中世城館跡緊急調査において、脇本城跡の調査者となり、その報告書である『秋田県の中世城館』の中で脇本城の範囲は内館地区のみならず、馬乗り場を含めたより広い範囲を城跡として報告した。さらに同年に刊行された『男鹿半島研究』の中で、「脇本城跡については、従来考えていたイメージを大幅に修正」する必要性があることを指摘している（磯村1981）。

以後脇本城跡の本格的調査がはじまり現在に至るが、その最も初期の成果として、昭和63年に発足した脇本城址調査研究委員会による『脇本城址調査研究報告書』が挙げられる。報告書では「本市脇本生鼻崎史跡公園構想の基礎資料とする」、「男鹿市史刊行の史料として活かす」、「本市文化財保護行政推進上の資料とする」という目的のもと、市内の有識者を委員として研究が進められた。秋田藩家蔵文書の分析や周辺寺院の調査、伝承等の収集、城下町地区の町割りや町名の分析、住民への聞き取り調査も精力的に進められており、脇本城跡は中世安東氏に関する城跡であることを明確化する。地域に根ざした初期の研究として現在も有益な成果の一つとして挙げられる。

これらの研究の成果を踏まえた上で、脇本城跡を地域の重要な遺跡であると位置付けるだけでなく、今後の調査継続の必要性、貴重な観光資源として整備の上、公園化していくという、保存と活用を主眼とした提言がなされている（男鹿市教育委員会・脇本城址調査研究委員会1988）。さらにこの後、男鹿市職員を中心とした、男鹿安東氏研究会が発足し、男鹿半島における安東氏の動向を掘り下げていくこととなる（男鹿安東氏研究会1989）。

これらの調査によって、脇本城跡に対する認識が大きくなっていく中で、学際的な研究の進展としては遠藤巌氏の業績が大きい。遠藤氏は文献史学の立場から中世秋田における安東氏の研究を進められ、特に安東愛季に着目した。これまでの先学研究における安東愛季関連の叙述に対して再検討を行う中で、「八戸湊文書」・「秋田家文書」などを取り上げ、愛季の檜山城主襲封以降の動向を検証し、愛季と脇本城の関連性について述べ、天正５（1577）年に大規模な改修と愛季居城について言及している。さらに小鹿島は秋田湊家の直轄領であり、秋田湊家から代々の城主が脇本へ送り込まれてきたことを踏まえて、天正５（1577）年の安東愛季による居城以前の、天文20（1551）年から天正５（1577）年にかけて湊摂津守氏季による居城を指摘した（遠藤1999）。同様に、愛季の兄である湊次郎友季、愛季の弟である湊九郎茂季も、湊城へ入城する以前に脇本城に在城した可能性が高いこと、さらに愛季死後に弟である可能性が高い安東五郎脩季が入城した可能性について指摘している（男鹿市教育委員会1994・遠藤1999）。前述のほか、脇本城跡の研究に不可欠な多くの成果を挙げている（遠藤1995・2002・2005、男鹿市教育委員会1994・1996・1999、青森県2005・2012等）。

そして男鹿市内における脇本城跡への高まりの機運をうけて、その全容を解明すべく本格的な遺構現状調査と発掘調査を以後継続的に実施していくこととなる。遺構現状調査は平成５年から平成10年まで、遠藤巌氏を中心に行われ、脇本城跡ほぼ全体の遺構現状が把握され、詳細な遺構現状図が作成された。その成果は３冊の報告書の中にまとめられているが、最も評価すべき点は、単純な遺構の報告にと

どまらず、航空写真から得られる土地の変遷や地域の方々の協力による聞きとり調査や伝承の収集、城下町の復原など多岐に調査するとともに、城域内や脇本本郷における試掘調査、文献の検討による城主の変遷など、実に多くの視点から脇本城跡が考察されている点である（男鹿市教育委員会1994・1996・1999）。

さらに平成12年からは本格的な確認調査を実施し、考古学からの視点による脇本城跡の存続年代や構築物などが検討されることとなった。その研究成果として平成16年には東北中世考古学会による脇本城跡を中心とする「海と城の中世―小鹿島、脇本城―」をテーマとした研究大会が開催された（東北中世考古学会2004）。その成果は後に『海と城の中世』として刊行された（東北中世考古学会2005）。また平成18年には「遺跡研究の方法」と題した研究大会が行われ、城館研究の方法論の事例として脇本城跡が取り上げられた（工藤2006）。出土遺物については確認調査によって中国元代染付を含む、多くの陶磁器が出土していることを踏まえて、平成19年には日本貿易陶磁研究会の研究大会が開催され、脇本城跡出土陶磁器を核に秋田県内の貿易陶磁器が広く取り上げられ、年代観等がより鮮明に明示されることとなった（日本貿易陶磁研究会）。

平成16年の国指定以後は、城を主題とした多くの一般書籍に取り上げられるとともに、今後の整備や活用への注目が高まっている（工藤2004等）。

第２節　脇本城跡の保存と環境整備

脇本城跡は「脇本のお城」として、地元では古くからその存在が知られていた。昭和18（1943）年の天野源一氏による測量調査や昭和56年の『秋田県の中世城館』刊行も脇本城跡が注目されることとなった一つの契機であったが、昭和40年代以前は地域共同の草刈場として「カヤヤマ」と呼ばれ、地域住民の生活には欠かせない、なじみ深い場所であったという実情も現在の脇本城跡がある大きな要因の一つといえる。さらに昭和40年代以降、荒廃する城跡を長年の環境整備と保存運動によって、現在の姿に再生させたのは地元脇本本郷地区の住民を中心とした「脇本城址懇話会」の役割が非常に大きかった。

それはまず、昭和60年に地区の住民による草刈りを中心とした整備が開始され、昭和62年には城跡への登り口付近に「脇本古城址」の標柱を建立する。

これらの活動を受けて、同じ年「脇本城址懇話会」が発足した。懇話会は脇本地区住民を中心に約110名からなる団体で、年３回の城跡の草刈りや勉強会など現在も活動を続けている。平成16年の史跡指定の際には会を挙げて全面的な協力を行う他、その活動は年１回刊行される『脇本城址』という機関誌で詳細にまとめられており、平成24年現在、第17号まで刊行されている。また、懇話会が中心となり、平成16年に「脇本城跡国史跡指定記念式典」、平成21年には「脇本城跡国史跡指定五周年記念式典」を企画し、盛大に会が執り行われた。

一方男鹿市でも脇本城跡の活用を図るべく、脇本城址懇話会の協力のもと、調査研究や整備計画の立案、測量調査など様々な事業を行っていった。昭和62年に史跡公園構想等を主たる目的とした「脇本城址調査研究委員会」が発足（男鹿市教育委員会・脇本城址調査研究委員会1988）。さらに男鹿安東氏研究会を設置（男鹿安東氏研究会1989）し、多くの調査研究を行った。それらの調査を受けて、平成元年には「脇本城跡史跡公園整備基本構想」を策定するに至った。また、平成４年からは航空写真測量を開

始し、翌年から遺構現状調査を開始することとなる。

それらの成果を受けて、永続的な保存に資するため、本格的に史跡指定へと歩むこととなる。平成７年には男鹿市の文化財に指定（指定面積：788,626.77㎡）、平成９年には秋田県文化財に指定された（指定面積：784,346.77㎡）。その後平成12年には一部が男鹿市の文化財へ追加指定され（追加指定面積：62,630㎡）、平成16年９月には国の史跡指定を受けるに至った（指定面積：1,287,382.77㎡）。史跡指定を受けて、平成20年、脇本城跡を管理すべき地方公共団体として男鹿市が指定されている。

史跡指定以後、本格的な保存を図るため、文化財的側面のみならず、植生等の現状を把握するため『史跡脇本城跡 植生相・植生調査報告書』を刊行した（男鹿市教育委員会2007b）。同時に「史跡脇本城跡保存管理計画」を策定し（男鹿市教育委員会2007a）、以後の保存方針や活用方針、文化財保護法における現状変更の取り扱い方針などを明確化した。保存管理計画の策定にあたり平成16年度より「脇本城跡保存管理計画策定委員会」を組織し、専門家などの助言や指導を得ている。引き続いて平成19年度からは「史跡脇本城跡調査指導委員会」を組織し、確認調査の方針や方法、史跡内斜面の復旧整備や整備構想の策定など助言や指導を得ている。

現状変更としては確認調査や案内説明板の設置、また災害に伴うき損復旧などを行っており、別表にまとめた。また、近年集中豪雨や融雪等により、き損も多く発生している。それについても今後の保存に資するべく、別表にまとめて掲載した。

見学環境の整備については、脇本城址懇話会による草刈りのほか、市が主体となった草刈りを毎年複数回実施し、維持管理を図っている。平成17年には、「史跡脇本城跡案内所」を設置し、パンフレットの提供や、史跡の概要展示等を行うとともに、仮設のトイレを設置している。さらに平成19年には現国道101号線の拡幅及び第２生鼻崎トンネルの開通に伴い、城跡への登り口付近に駐車スペースが確保され、説明案内板と、男鹿ライオンズクラブと脇本城址懇話会より寄贈を受けた案内板が設置された。また、丘陵上の特に危険箇所には、必要に応じて誘導標柱を取り付け、見学者の安全に配慮している。

平成19年からはよりきめ細かな史跡見学を図るため、脇本地区を中心とした脇本城址懇話会の協力だけでなく、広く男鹿市内全体からも城跡の活用を呼びかけるべく、「史跡脇本城跡案内人ボランティア養成講座」を開催し、ボランティアの育成に取り組んでおり、平成22年から実際の運用を行い、現在も活動を継続している。

さらに、全国にある同様の史跡や城跡との情報交換や事例を参考とするため、平成19年には全国史跡整備市町村協議会へ加盟し、翌年に全国山城サミット連絡協議会、平成24年には全国史跡整備市町村協議会東北地区協議会へ加盟している。

また城跡は砂層と粘土層の互層である比較的軟弱な地盤に立地するため、平成16・17・19・22年には内館地区で集中豪雨等に伴う斜面崩落が発生し、斜面復旧工事を平成18・21年に実施している（男鹿市教育委員会2007c・2010b）。

以上のような活動の実績を踏まえて、脇本城跡の永続的な保存を前提とした、今後の整備や活用の方針を明確にするため、平成23年３月には「学ぶ･守る･活かす･癒される」の４つを基本方針とした「史跡脇本城跡調査・整備基本構想」を策定した（男鹿市教育委員会2010c）。

第３表　脇本城跡の保存と整備の経緯年表

元号	西暦	主な出来事
昭和18年	1943	脇本の天野源一氏が「秋田県南秋田郡脇本村生鼻城趾実測図」を作成
昭和56年	1981	『秋田県の中世城館』（秋田県教育委員会）が刊行
昭和60年	1985	脇本地区住民による脇本城跡の草刈り整備開始
昭和61年	1986	脇本城跡の真下を通る主要地方道秋田男鹿線の脇本バイパスが開通
昭和62年	1987	脇本地区住民が脇本城入口に「脇本古城址」の標柱を建立 脇本城址懇話会が発足（5/27） 『脇本城址』創刊号（脇本城址懇話会）が刊行
昭和63年	1988	脇本城跡域要沢に男鹿市斎場が建てられる 『脇本城址調査研究報告書』（男鹿市教育委員会・脇本城址調査研究委員会）が刊行
平成元年	1989	『脇本城址』第2号（脇本城址懇話会）が刊行 『安東氏調査研究報告書』（男鹿安東氏研究会）が刊行
平成2年	1990	『脇本城址』第3号（脇本城址懇話会）が刊行 脇本城跡内の道路（250m）整備を施行
平成3年	1991	『脇本城址』第4号（脇本城址懇話会）が刊行
平成4年	1992	脇本城跡の航空測量を開始
平成5年	1993	脇本城跡懇話会に脇本城跡の保存管理を委託（以後毎年継続） 第1次遺構現状調査
平成6年	1994	『脇本城と脇本城跡』刊行 秋田県教育委員会が脇本城跡内に「脇本城跡」の標柱を建てる 第2次遺構現状調査
平成7年	1995	脇本城跡が男鹿市文化財に指定（2/23） 脇本城跡内に「内館跡」「館跡群跡」の標柱を設置 『男鹿市史』刊行 H7年度確認調査（内館地区） 第3次遺構現状調査
平成8年	1996	『脇本城と脇本城跡-第2次・第3次調査報告-』刊行 パンフレット『脇本城跡』刊行 H8年度確認調査（お念堂地区/城下町地区―仲町地区―） 第4次遺構現状調査
平成9年	1997	脇本城跡が秋田県文化財に指定（3/14） H9年度確認調査（城下町地区―館下地区―）
平成10年	1998	脇本城跡保存整備指導委員会が発足し、第1回委員会を開催（3/26） 『脇本城址』第5号（脇本城址懇話会）が刊行 第5次・第6次遺構現状調査
平成11年	1999	秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会で報告及び出土品の展示 脇本城跡に案内誘導柱7か所を設置 『脇本城址』第6号（脇本城址懇話会）刊行 『脇本城と脇本城跡-第4次～第6次調査報告-』刊行
平成12年	2000	市広報2月1日号で脇本城跡特集を掲載 秋田さきがけ新聞紙上で脇本城跡特集を掲載 『脇本城址』第7号（脇本城址懇話会）刊行 脇本城跡の一部を市指定文化財に追加指定 国の緊急雇用対策事業で大規模な環境整備を実施 「脇本城跡の範囲・概要」案内説明板設置 第1次確認調査（馬乗り場地区）【国庫補助事業：事業費2,500千円】
平成13年	2001	『脇本城址』第8号（脇本城址懇話会）刊行 各種新聞に脇本城跡出土の中国元時代の染付に関する記事が掲載 田谷沢地区の土地買収・補償契約締結 案内誘導標柱4か所設置
平成14年	2002	『脇本城址』第9号（脇本城址懇話会）刊行 『国指定史跡 脇本城跡Ⅰ』刊行 第8次～第10次確認発掘調査（馬乗り場、兜ヶ崎・打ヶ崎地区）【国庫補助事業：事業費14,000千円】 脇本城跡パンフレット刊行 「内館・生鼻崎地区の遺構」案内説明板、樹木説明板設置 重要港湾改修工事生鼻崎トンネル工事に伴う確認調査
平成15年	2003	『脇本城址』第10号（脇本城址懇話会）刊行 『国指定史跡 脇本城跡Ⅱ』刊行 船川港湾改修工事に係る発掘調査に関する協定書締結、調査開始　【事業費：14,710千円】 第11次～第12次確認調査（内館、寺院地区）【国庫補助事業：事業費10,000千円】
平成16年	2004	文部科学大臣あて国指定申請書を提出（1/30） 脇本城跡保存管理計画策定委員会が発足、第1回委員会を開催 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会で脇本城跡の報告 第13次確認調査開始（内館地区）【国庫補助事業：事業費6,000千円】 脇本城跡トンネル工事に係る緊急発掘調査開始 東北中世考古学会『海と城の中世―小鹿島、脇本城―』開催 脇本城跡が国指定史跡として官報告示（9/30） 台風21号に伴う豪雨で内館地区で斜面崩落 「内館地区」案内説明板設置 脇本城址懇話会主催の「脇本城跡国史跡指定記念式典」開催
平成17年	2005	第2生鼻崎トンネル工事開始 『国指定史跡 脇本城跡Ⅲ』刊行 脇本城跡案内所設置 第14次確認調査（内館地区）【国庫補助事業：事業費5,000千円】
平成18年	2006	『国指定史跡 脇本城跡Ⅳ』刊行 『脇本城址』第11号（脇本城址懇話会）刊行 第15次確認調査（内館地区）【国庫補助事業：事業費4,000千円】 平成16年度豪雨により崩落した斜面の保存整備工事 「馬乗り場地区」案内説明板設置 秋田県教育委員会による脇本遺跡の発掘調査
平成19年	2007	『史跡脇本城跡保存管理計画書』刊行 『史跡脇本城跡 植生相・植生調査報告書』刊行 『史跡脇本城跡保存整備工事報告書』刊行 『脇本城址』第12号（脇本城址懇話会）刊行 全国市町村史跡整備協議会へ加盟 第16次確認調査（内館地区）【国庫補助事業：事業費8,000千円】 日本貿易陶磁研究会『出羽の出土陶磁器―安東氏とその時代―』開催 城跡登り口に男鹿ライオンズクラブ・脇本城址懇話会より案内板が寄贈・設置 城跡登り口に駐車スペースができるとともに案内説明板を設置 史跡脇本城跡調査指導委員会発足、第1回委員会開催 史跡脇本城跡案内人講座開始（全6回）
平成20年	2008	『国指定史跡 脇本城跡Ⅴ』刊行 『脇本遺跡』（秋田県教育委員会）刊行 『脇本城址』第13号（脇本城址懇話会）刊行 第17次確認調査（内館地区）【国庫補助事業：事業費7,000千円】 男鹿市が脇本城跡を管理すべき地方公共団体として指定 全国山城サミット連絡協議会に加盟 史跡脇本城跡案内人講座（全6回）
平成21年	2009	秋田県埋蔵文化財調査報告会で調査成果の報告（男鹿市開催） 『国指定史跡脇本城跡ボランティアガイドブック』刊行 『脇本城址』第14号（脇本城址懇話会）刊行 第18次確認調査（内館地区）【国庫補助事業：事業費7,000千円】 脇本城址懇話会主催の「脇本城跡国史跡指定五周年記念式典」開催 「天下道」案内説明板設置 平成19年度に崩落した内館地区斜面の保存整備工事 脇本城跡案内人講座（全3回）
平成22年	2010	『国指定史跡 脇本城跡Ⅵ』刊行 『史跡脇本城跡保存整備工事報告書Ⅱ』刊行 『史跡脇本城跡調査・整備基本構想』策定 『脇本城址』第15号（脇本城址懇話会）刊行 脇本城跡案内人ボランティアの運用を開始 第19次確認調査（内館地区）【国庫補助事業：事業費6,000千円】 脇本城跡案内人講座（全3回）
平成23年	2011	『脇本城址』第16号（脇本城址懇話会）刊行 第20次確認調査（内館地区）【国庫補助事業：事業費6,000千円】 集中豪雨により内館地区で大規模な斜面崩落 脇本城跡案内人講座（全3回）
平成24年	2012	『国指定史跡 脇本城跡Ⅶ』刊行 『脇本城址』第17号（脇本城址懇話会）刊行 暴風災害により樹木の倒壊や案内所の被害 脇本城跡案内人講座（全3回）
平成25年	2013	『国指定史跡 脇本城跡総括報告書』刊行 『脇本城址』第18号（脇本城址懇話会）刊行 脇本城跡案内人講座（全3回）

脇本城址

創刊号　昭和62年11月１日　発行者　脇本城址懇話会

脇本城址の由来

脇本城址

第17号　平成24年(2012)３月30日　発行　脇本城址懇話会

小学校児童が地域学習のため脇本城跡を訪れました。全市の小学校６年生を対象に行っている郷土にある文化遺産の勉強です。教科書では分からない史跡脇本城跡の説明を熱心に聞いていました。男鹿の将来を担う子供たち。この体験が将来役立つことを期待したいです。

主な内容

・「無いものねだり」から「有るもの探し」へ　誇るべき地域の資源
　男鹿半島・大潟ジオパーク　　男鹿市教育委員会生涯学習課　竹内弘和
・脇本城跡第20次発掘調査の成果　男鹿市教育委員会生涯学習課　五十嵐祐介
・研修視察　青森県三内丸山遺跡ほか
・戸田元会長，吉田編集委員長を偲んで　脇本城址懇話会会長　高桑　繁
・郷土の神社仏閣　富永山「延命寺」
・事務局だより・編集後記

機関紙【創刊号（昭和62年11月1日発行）】　　機関紙【第16号（平成24年3月発行）】

脇本城址懇話会による草刈り風景 ①

脇本城址懇話会による草刈り風景②

脇本城址懇話会主催の史跡指定五周年記念式典

脇本城址懇話会開催の勉強会（年1回開催）

第14図　脇本城址懇話会の活動

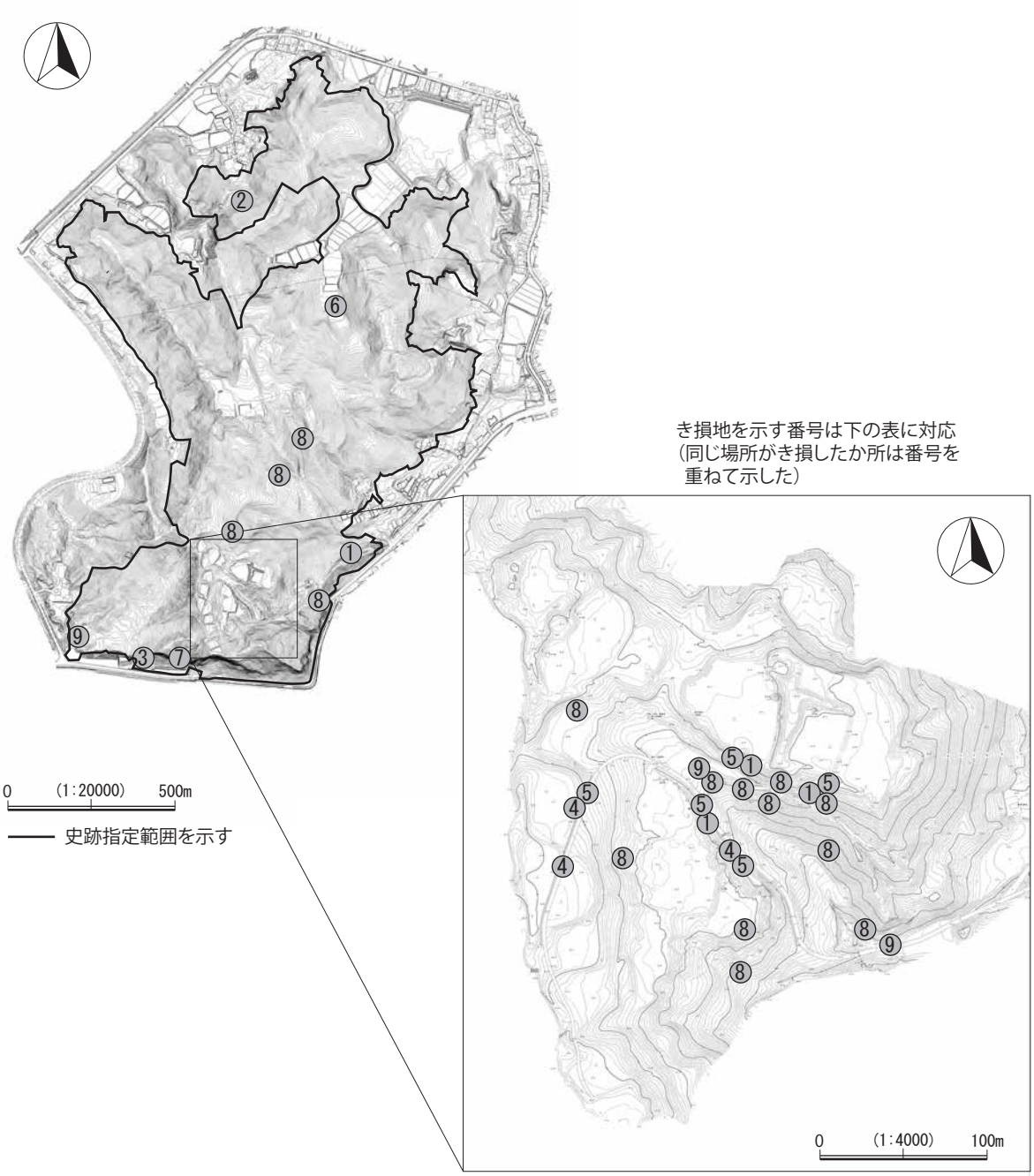
第15図　史跡脇本城跡案内人講座と活動

第16図　史跡脇本城跡調査指導委員会と現地指導

第４表　脇本城跡現状変更一覧表

No.	申請地	申請者	申請の理由	申請年月日	許可年月日	終了年月日	指示事項	備考
1	男鹿市脇本脇本字七沢33	男鹿市長	第14次確認調査	平成17年4月18日	平成17年6月16日	平成18年2月16日	秋田県教育委員会の指示	
2	男鹿市脇本脇本字七沢25-1	男鹿市長	史跡脇本城跡案内所の設置	平成17年5月18日	平成17年6月17日	平成18年3月31日	秋田県教育委員会の指示 市教育委員会職員の立会	
3	男鹿市脇本脇本字七沢33ほか	男鹿市長	第15次確認調査	平成18年3月28日	平成18年5月11日	平成18年10月10日	秋田県教育委員会の指示	
4	男鹿市脇本脇本字七沢	男鹿市長	平成16・17年度豪雨による斜面復旧工事	平成18年4月11日	平成18年5月11日	平成18年11月30日	秋田県教育委員会の指示 市教育委員会職員の立会	
5	男鹿市脇本脇本字七沢33ほか	男鹿市長	第15次確認調査追加申請	平成18年6月26日	平成18年7月21日	平成18年10月10日	秋田県教育委員会の指示	
6	男鹿市脇本脇本字七沢25-1・33	男鹿市長	平成16・17年度豪雨による 斜面復旧工事による追加申請	平成18年9月7日	平成18年9月28日	平成18年11月30日	秋田県教育委員会の指示 市教育委員会職員の立会	
7	男鹿市脇本脇本字七沢63-1	男鹿市長	「馬乗り場地区」案内説明板設置	平成18年10月10日	平成18年10月27日	平成19年1月10日	秋田県教育委員会の指示 市教育委員会職員の立会	
8	男鹿市脇本脇本字七沢25-1	男鹿市長	第16次確認調査	平成19年4月9日	平成19年5月10日	平成19年11月29日	秋田県教育委員会の指示	
9	男鹿市脇本脇本字七沢25-1	男鹿市長	第17次確認調査	平成20年4月3日	平成20年5月1日	平成20年10月30日	秋田県教育委員会の指示	
10	男鹿市脇本脇本字七沢33	男鹿市長	第18次確認調査	平成21年3月23日	平成21年4月17日	平成21年11月20日	秋田県教育委員会の指示	
11	男鹿市脇本脇本字七沢25-1・25-4	男鹿市長	平成19年度豪雨による斜面復旧工事	平成21年3月23日	平成21年4月17日	平成22年1月7日	秋田県教育委員会の指示 市教育委員会職員の立会	
12	男鹿市脇本脇本字七沢34	男鹿市長	「天下道」案内説明板設置	平成22年3月1日	平成22年3月5日	平成22年3月31日	市教育委員会の指示 市教育委員会職員の立会	権限移譲により 市教委で許可
13	男鹿市脇本脇本字七沢33/50/51-1/51-2	男鹿市長	第19次確認調査	平成22年3月19日	平成22年5月7日	平成22年11月16日	秋田県教育委員会の指示	
14	男鹿市脇本脇本字七沢25-1	男鹿市長	仮設トイレ設置	平成22年5月10日	平成22年5月20日	平成22年5月31日	市教育委員会の指示 市教育委員会職員の立会	権限移譲により 市教委で許可
15	男鹿市脇本脇本字七沢26-1	男鹿市長	『菅江真澄の道』標柱修繕 道路修繕(砕石補充) 視線誘導標設置	平成23年3月15日	平成23年3月16日	平成23年3月31日	市教育委員会の指示 市教育委員会職員の立会	権限移譲により 市教委で許可
16	男鹿市脇本脇本字七沢33	男鹿市長	第20次確認調査	平成23年3月28日	平成23年5月20日	平成23年11月15日	秋田県教育委員会の指導	
17	男鹿市脇本脇本字七沢25-1ほか	男鹿市長	杉林除伐行為	平成23年6月17日	平成23年7月26日	平成23年12月22日	市教育委員会の指示	権限移譲により 市教委で許可

※終了年月日は終了届提出の年月日とした



第17図　脇本城跡き損か所位置図

第５表　脇本城跡き損か所位置図

番号	き損年月日	地区	要因	届出年月日	備考
1	平成16年9月30日～10月1日	内館地区	台風21号に伴う豪雨	平成16年10月12日	平成18年復旧
2	平成16年9月30日～10月1日	乍木地区	台風21号に伴う豪雨	平成16年12月13日	
3	平成17年1月20日	お念堂地区	集中豪雨	平成17年1月21日	
4	平成17年8月15日	内館地区	集中豪雨	平成17年8月15日	
5	平成19年9月18日	内館地区	集中豪雨	平成17年9月21日	平成21年一部復旧
6	平成21年5月26日確認	兜ヶ崎・打ヶ崎地区	融雪	平成21年6月3日	
7	平成23年5月1日	お念堂地区	集中豪雨	平成23年5月9日	
8	平成23年7月28日	内館地区ほか	集中豪雨	平成23年8月5日	
9	平成24年4月3日～4日	内館地区ほか	暴風	平成24年4月13日	

第３章　調査の経過と記録の方法

第１節　遺構現状調査（縄張り調査）の経過

秋田県を主体として実施された中世城館の悉皆調査以降､脇本城跡に対する注目が高まっていく中で、男鹿市では脇本城跡を核とした史跡公園整備化が計画されていくこととなった。しかし、文献上の史料も少なく、その全体像も把握しきれていない中で、城としての範囲を確認し、より詳細な研究の必要性に迫られていた。

そこで平成５年から男鹿市が主体となり、当時宮城教育大学教授であった遠藤巌氏を中心として、地元の愛護団体である脇本城址懇話会の協力を得て、本格的な遺構現状調査（縄張り調査）が実施されることとなった。遺構現状調査では踏査による遺構の把握を行い、詳細に記録した遺構現状図が作成されることとなった。

遺構現状調査は平成10年度までの第６次にわたって実施され、城下町を含む脇本城跡のほぼ全体の詳細な遺構残存状況を確認するに至った。遺構現状調査を行う上で、字切図や明治期以降の各種絵図面、地域に残る地名や伝承なども検討され、各地区において、空堀、土塁、切岸、曲輪、張出、虎口、道路跡など多くの遺構が良好な保存状態で残されていることが明らかとなった。その成果は以下の報告書に詳細な遺構の現状や考察とともにまとめられている。

男鹿市教育委員会1994『脇本城と脇本城跡』男鹿市文化財調査報告第９集
男鹿市教育委員会1996『脇本城と脇本城跡―第２次・第３次調査報告―』男鹿市文化財調査報告第14集
男鹿市教育委員会1999『脇本城と脇本城跡―第４次～第６次調査報告―』男鹿市文化財調査報告第19集

第２節　確認調査の経過

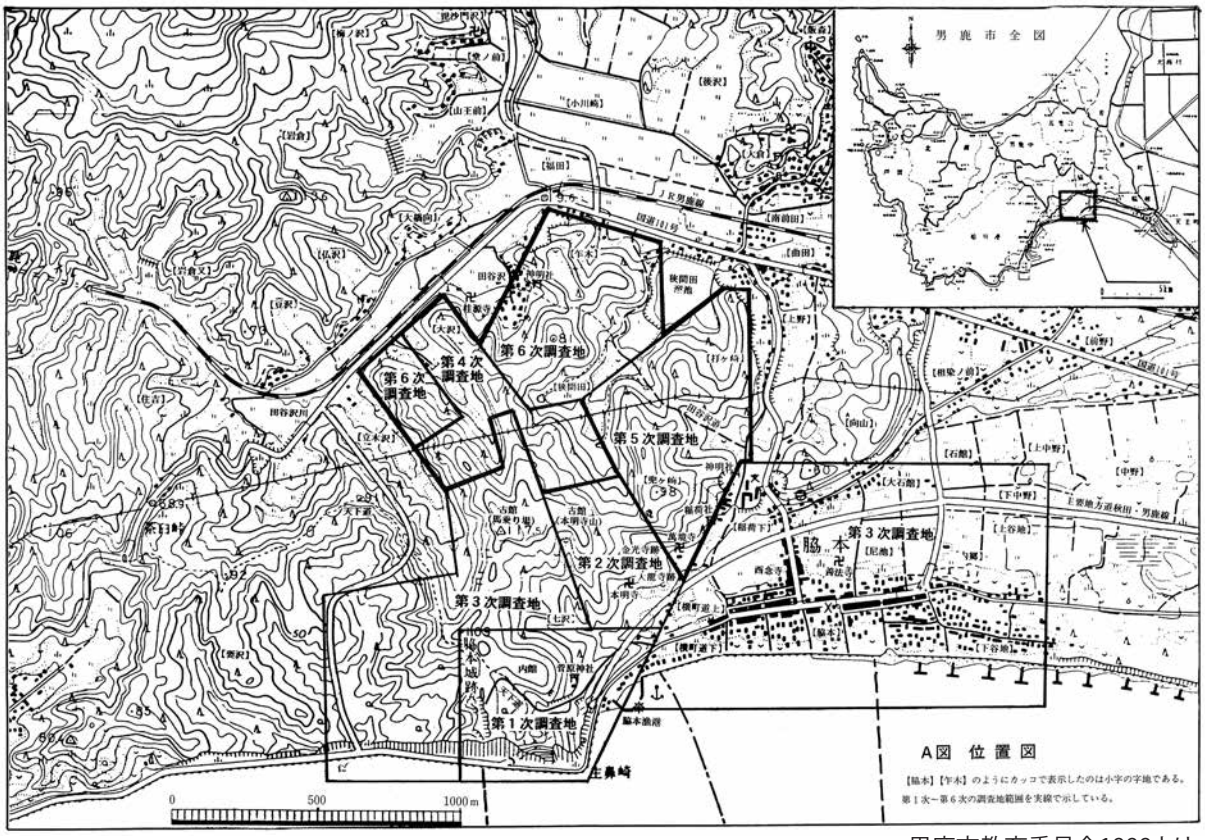
遺構現状調査が進展するに伴い、その範囲が当初の想定を超えて広大な城跡であること、城を構成する遺構が良好な状態で現在でも確認できるほど保存されていることが明確になったことを受けて、史跡指定の機運が高まっていった。そのため、遺構現状からは検討が困難な城跡の年代や、曲輪等の造作方法、建物跡等の有無や配置などを調査する必要性が生じ、平成７年度に内館地区において、秋田県教育委員会、男鹿市教育委員会を主体とした最初の確認調査が実施されることとなった。なお、平成８年度以降は男鹿市教育委員会が調査主体となり調査を実施している。これらの成果を踏まえた上で平成７年度には市指定史跡、さらに平成９年度には県指定史跡へ指定されることとなった。

その後、平成12年度からは、城跡の範囲、遺構の性格、時代等の実態をさらに明らかにすること、国の史跡指定を視野に入れた基礎資料を得ることを目的として、補助事業による確認調査が第13次にわたり継続して実施された。それらの成果に基づいて、平成16年度には国の史跡指定を受けた。その後も、継続して保存・整備・活用を考えるための確認調査が継続され、平成23年度までに第20次におよぶ調査が実施された。

確認調査の具体的な方法や調査区の選定等については、文化庁及び秋田県生涯学習課文化財保護室とともに、平成19年度からは史跡脇本城跡調査指導委員会を組織し、指導を得た上で実施している。史跡

第６表　第1 ～ 6次遺構現状調査一覧表

年	月日	次数	調査地	既刊・掲載報告書
平成5年 (1993)	12/17 ～12/20	第1次	内館地区	男鹿市教育委員会1994『脇本城と脇本城跡』 男鹿市文化財調査報告第9集
平成6年 (1994)	11/23 ～11/26	第2次	寺院地区 馬乗り場地区	男鹿市教育委員会1996『脇本城と脇本城跡』 男鹿市文化財調査報告第14集
平成7年 (1995)	11/23 ～11/25	第3次	馬乗り場地区 お念堂地区 城下町地区	男鹿市教育委員会1996『脇本城と脇本城跡』 男鹿市文化財調査報告第14集
平成8年 (1996)	10/26 ～10/27 12/19 ～12/22	第4次	馬乗り場地区 乍木地区	男鹿市教育委員会1999『脇本城と脇本城跡』 男鹿市文化財調査報告第19集
平成10年 (1998)	3/27 ～3/28	第5次	兜ヶ崎・打ヶ崎地区	男鹿市教育委員会1999『脇本城と脇本城跡』 男鹿市文化財調査報告第19集
平成10年 (1998)	11/28 ～11/29	第6次	乍木地区	男鹿市教育委員会1999『脇本城と脇本城跡』 男鹿市文化財調査報告第19集



男鹿市教育委員会1999より

第18図　遺構現状調査位置図

脇本城跡調査指導委員会の構成は以下の通りである（所属は平成24年度現在）。

委員長：遠藤　巖【宮城教育大学名誉教授】（平成19年度～平成24年度）

委　員：小松正夫【元秋田市教育委員会】（平成19年度～平成24年度）

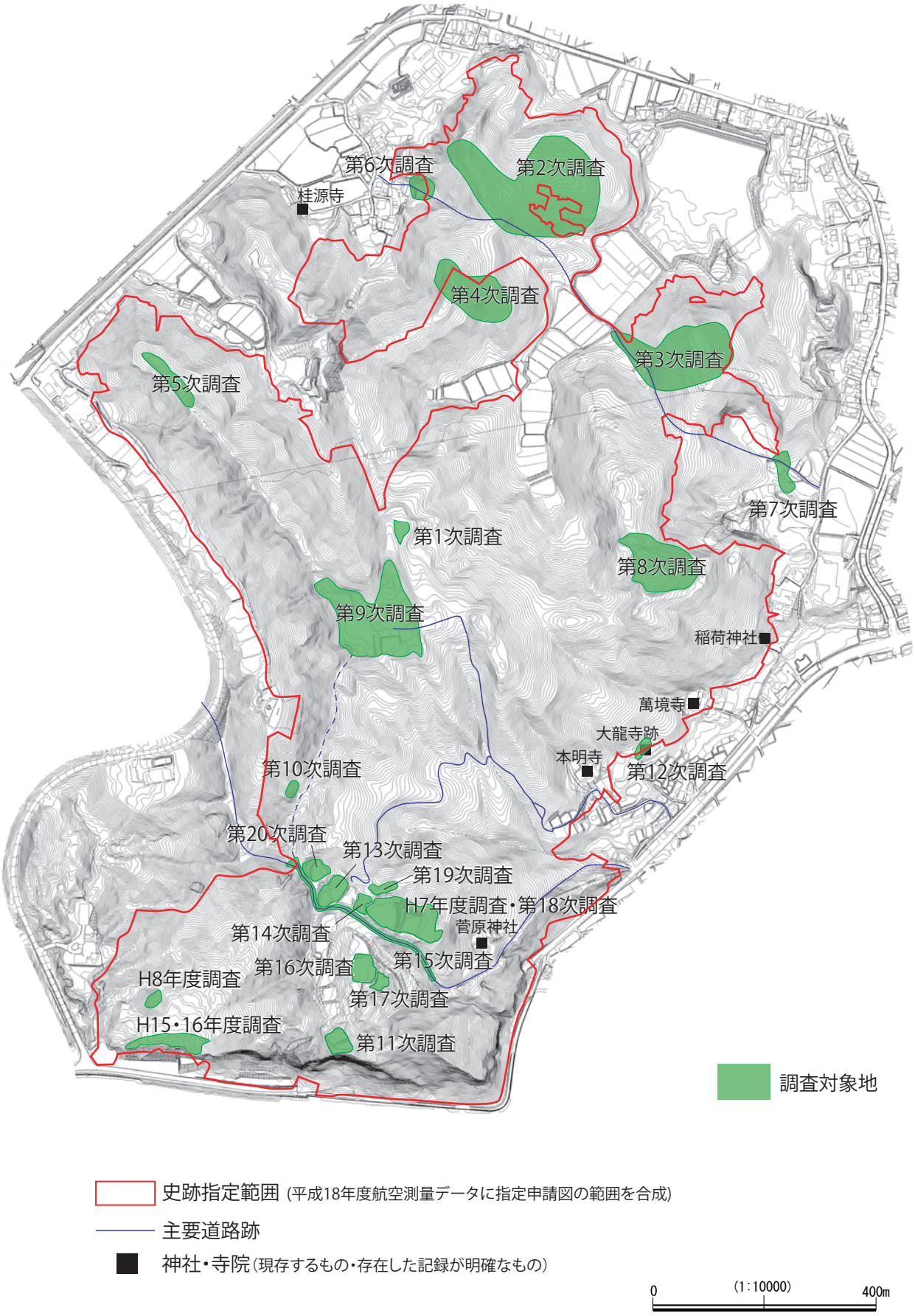
委　員：対馬雅己【秋田工業高等専門学校教授】（平成19年度～平成24年度）

委　員：木戸雅寿【滋賀県教育委員会 文化財保護課】（平成19年度～平成24年度）

委　員：天野甚作【元脇本城址懇話会 会長】（平成19年度～平成20年度）

第７表　脇本城跡と関連遺跡の発掘調査次数と概要

年	月日	次数	面積		調査区分	調査地	主要遺構・遺物	既刊・掲載報告書
平成７年（1995）	6/20～8/23	—	319	㎡	県指定史跡申請の事前確認調査	内館地区【曲輪⑬・⑭】	柱穴跡・溝跡・集石遺構、15～16世紀陶磁器・土器・金属製品・石製品・土製品	男鹿市教育委員会2002『脇本城跡Ⅰ』男鹿市文化財調査報告23集
平成８年（1996）	11/20～11/28	—	35	㎡	内館地地区の試掘調査	お念堂地区	柱穴跡・溝跡	男鹿市教育委員会2006『脇本城跡Ⅳ』男鹿市文化財調査報告32集
平成８年（1996）	11/29～12/10	—	12	㎡	本郷地区（城下町）の試掘調査	城下町地区【脇本遺跡】	柱穴跡・溝跡・焼土遺構、近世陶磁器・金属製品	男鹿市教育委員会2006『脇本城跡Ⅳ』男鹿市文化財調査報告32集
平成９年（1997）	8/8～8/12	—	16	㎡	本郷地区（城下町）の歴史解明	城下町地区【脇本遺跡】	柱穴跡・溝跡・焼土遺構、16世紀～近世陶磁器・土器・金属製品・柱材・骨	男鹿市教育委員会2006『脇本城跡Ⅳ』男鹿市文化財調査報告32集
平成12年（2000）	9/13～10/17	第1次（補）	124	㎡	学術調査	馬乗り場地区	溝跡・柱穴跡・集石遺構、15～16世紀陶磁器・土器・金属製品・石製品	男鹿市教育委員会2002『脇本城跡Ⅰ』男鹿市文化財調査報告23集
平成13年（2001）	6/11～9/20	第2次（補）	417	㎡	学術調査	乍木地区	溝跡・柱穴跡・土坑・土塁、土器石製品・土製品	男鹿市教育委員会2002『脇本城跡Ⅰ』男鹿市文化財調査報告23集
平成13年（2001）	9/20～10/19	第3次（補）	222	㎡	学術調査	兜ヶ崎・打ヶ崎地区	土坑・焼土遺構・集石遺構、17世紀陶磁器・土器・	男鹿市教育委員会2002『脇本城跡Ⅰ』男鹿市文化財調査報告23集
平成13年（2001）	10/29～11/19	第4次（補）	229	㎡	学術調査	乍木地区	溝跡・焼土遺構・道路跡	男鹿市教育委員会2002『脇本城跡Ⅰ』男鹿市文化財調査報告23集
平成13年（2001）	11/5～11/8	第5次（補）	24	㎡	学術調査	馬乗り場地区	—	男鹿市教育委員会2002『脇本城跡Ⅰ』男鹿市文化財調査報告23集
平成13年（2001）	11/19～11/26	第6次（補）	70	㎡	学術調査	乍木地区【田谷沢道】	道路跡	男鹿市教育委員会2002『脇本城跡Ⅰ』男鹿市文化財調査報告23集
平成13年（2001）	11/29～12/12	第7次（補）	94	㎡	学術調査	兜ヶ崎・打ヶ崎地区【田谷沢道】	15～16世紀陶磁器・近世陶磁器	男鹿市教育委員会2002『脇本城跡Ⅰ』男鹿市文化財調査報告23集
平成14年（2002）	6/3～11/27	第8次（補）	470	㎡	学術調査	兜ヶ崎・打ヶ崎地区	空堀跡・土塁・溝跡・柱穴跡・土坑、12～17世紀陶磁器・土器・金属製品	男鹿市教育委員会2003『脇本城跡Ⅱ』男鹿市文化財調査報告27集
平成14年（2002）	9/20～11/13	第9次（補）	394	㎡	学術調査	馬乗り場地区	空堀跡・土塁・溝跡・道路跡・柱穴跡、14～15世紀陶磁器・金属製品・石製品	男鹿市教育委員会2003『脇本城跡Ⅱ』男鹿市文化財調査報告27集
平成14年（2002）	9/19～9/27	第10次（補）	36	㎡	学術調査	馬乗り場地区	—	男鹿市教育委員会2003『脇本城跡Ⅱ』男鹿市文化財調査報告27集
平成15年（2003）	4/15～8/6	第11次（補）	111	㎡	学術調査	内館地区【曲輪①・②】	掘立柱建物跡・柱穴跡・溝跡・土坑・集石遺構、15～16世紀陶磁器・土器・金属製品・石製品・土製品	男鹿市教育委員会2004『脇本城跡Ⅲ』男鹿市文化財調査報告28集
平成15年（2003）	8/8～8/26	第12次（補）	27	㎡	学術調査	寺院地区【脇本館下Ⅱ遺跡】	竪穴状遺構・柱穴跡・土坑、15～16世紀陶磁器・土器・金属製品・鉄滓	男鹿市教育委員会2004『脇本城跡Ⅲ』男鹿市文化財調査報告28集
平成15年（2003）	8/27～12/24	—	332	㎡	船川港重要港湾改修工事に係る発掘調査	お念堂地区	柱穴跡・土坑・溝跡・集石遺構、14～17世紀陶磁器・土器・土製品・金属製品・石製品	男鹿市教育委員会2005『国指定史跡脇本城跡』男鹿市文化財調査報告29集
平成16年（2004）	5/11～7/30	第13次（補）	78	㎡	学術調査	内館地区【曲輪⑲】	道路跡・柱穴跡・溝跡・土坑、15～16世紀陶磁器・土器・土製品・金属製品	男鹿市教育委員会2006『脇本城跡Ⅳ』男鹿市文化財調査報告32集
平成16年（2004）	7/15～10/29	—	432	㎡	船川港重要港湾改修工事に係る発掘調査	お念堂地区	杭跡・集石遺構・柱穴跡・土塁、木製品・14～17世紀陶磁器・土器・土製品・金属製品	男鹿市教育委員会2005『国指定史跡脇本城跡』男鹿市文化財調査報告29集
平成17年（2005）	7/4～10/14	第14次（補）	144	㎡	学術調査	内館地区【推定空堀】	掘立柱建物跡・柵列跡・柱穴跡・溝跡・土坑、15～16世紀陶磁器・土器・土製品・金属製品・石製品	男鹿市教育委員会2006『脇本城跡Ⅳ』男鹿市文化財調査報告32集
平成18年（2006）	10/2～11/24	—	760	㎡	生鼻崎線道路建設に係る発掘調査【県実施】	城下町地区【脇本遺跡】	掘立柱建物跡・柱穴跡・溝跡・土坑・15～17世紀陶磁器・木製品・土製品・金属製品	秋田県教育委員会2008『脇本遺跡』秋田県文化財調査報告第437集
平成18年（2006）	6/12～9/11	第15次（補）	90	㎡	学術調査	内館地区【天下道】	道路跡、溝跡、柱穴跡・15～16世紀陶磁器・土器・土製品・金属製品	男鹿市教育委員会2008『脇本城跡Ⅴ』男鹿市文化財調査報告書第35集
平成19年（2007）	6/5～10/31	第16次（補）	320	㎡	学術調査	内館地区【曲輪⑩】	掘立柱建物跡・柱穴跡・柵列・塀跡・溝跡・15～16世紀陶磁器・土器・金属製品・石製品・土製品・骨製品	男鹿市教育委員会2008『脇本城跡Ⅴ』男鹿市文化財調査報告書第35集
平成20年（2008）	5/28～10/7	第17次（補）	186	㎡	学術調査	内館地区【曲輪⑫】	掘立柱建物跡・井戸跡・柱穴跡・溝跡・15～16世紀陶磁器・土器・金属製品・石製品・土製品	男鹿市教育委員会2010『脇本城跡Ⅵ』男鹿市文化財調査報告書第37集
平成21年（2009）	5/28～10/5	第18次（補）	206	㎡	学術調査	内館地区【曲輪⑬・⑭・⑮-1・⑮-2】	土塁跡・門跡・塀跡・柱穴跡・溝跡・15～16世紀陶磁器・土器・金属製品・石製品・土製品	男鹿市教育委員会2010『脇本城跡Ⅵ』男鹿市文化財調査報告書第37集
平成22年（2010）	6/1～10/12	第19次（補）	153	㎡	学術調査	内館地区【曲輪⑰】	道路跡・門跡・柵跡・柱穴跡・溝跡・15～16世紀陶磁器・金属製品	男鹿市教育委員会2012『脇本城跡Ⅶ』男鹿市文化財調査報告書第39集
平成23年（2011）	6/6～10/19	第20次（補）	170	㎡	学術調査	内館地区【曲輪⑳】	建物跡・柵跡・道路跡・柱穴跡・溝跡・土坑・不明遺構・15～16世紀陶磁器・金属製品・石製品・土製品	男鹿市教育委員会2012『脇本城跡Ⅶ』男鹿市文化財調査報告書第39集



第19図　確認調査地点図

委　員：高桑　繁【脇本城址懇話会 会長】（平成21年度～平成24年度）
※会長の交代による
委　員：泉　　明【元男鹿市教育委員会】（平成20年度～平成24年度）

その他、脇本城跡直下には現在国道101号線が通っており、平成15･16年度には船川港重要港湾改修工事に係る調査としてお念堂地区の緊急発掘調査を実施している。

さらに関連遺跡として、脇本城跡の城下町として想定されている脇本遺跡の確認調査を平成８・９年度に実施し、平成18年度には県道生鼻崎線（現国道101号線）建設工事に伴う発掘調査が秋田県によって実施され、関連遺跡も含めた発掘調査は延べ5,471㎡となる。

男鹿市教育委員会が主体となって実施した確認調査における事務局体制は以下の通りである。調査の詳細については別表にまとめた。

平成７年度　佐藤　正明（男鹿市教育委員会社会教育課長）
武藤　　一（男鹿市教育委員会社会教育課課長補佐）
泉　　明（男鹿市教育委員会社会教育課文化財係長）
太田　　穣（男鹿市教育委員会社会教育課文化財係主任）
平成８年度　大高　誠悦（男鹿市教育委員会生涯学習課課長）
斉藤　憲雄（男鹿市教育委員会生涯学習課課長補佐）
泉　　明（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係長）
太田　　忠（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係主査）
平成９年度　大高　誠悦（男鹿市教育委員会生涯学習課課長）
泉　　明（男鹿市教育委員会生涯学習課課長補佐）
太田　　忠（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係長）
平成12年度　薄田二三雄（男鹿市教育委員会生涯学習課課長）
甲田　正洋（男鹿市教育委員会生涯学習課主席課長補佐）
泉　　明（男鹿市教育委員会生涯学習課課長補佐兼文化財係長）
竹内　弘和（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係学芸主事）
平成13年度　菅原　政義（男鹿市教育委員会生涯学習課長）
江畠　昭光（男鹿市教育委員会生涯学習課主席課長補佐）
泉　　明（男鹿市教育委員会生涯学習課課長補佐兼文化財係長）
竹内　弘和（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係学芸主事）
工藤　直子（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係学芸主事）
平成14年度　菅原　政義（男鹿市教育委員会生涯学習課長）
江畠　昭光（男鹿市教育委員会生涯学習課主席課長補佐）
泉　　明（男鹿市教育委員会生涯学習課課長補佐兼文化財係長）
竹内　弘和（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係学芸主事）
工藤　直子（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係学芸主事）
平成15年度　菅原　政義（男鹿市教育委員会生涯学習課課長）
江畠　昭光（男鹿市教育委員会生涯学習課主席課長補佐）
泉　　明（男鹿市教育委員会生涯学習課課長補佐兼文化財係長）
竹内　弘和（男鹿市教育員会生涯学習課文化財係主任）
工藤　直子（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係学芸主事）

平成16年度　佐沢　篤雄（男鹿市教育委員会生涯学習課課長）
泉　　明（男鹿市教育委員会生涯学習課課長補佐兼文化財係長）
竹内　弘和（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係主任）
工藤　直子（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係主任）
平成17年度　佐沢　篤雄（男鹿市教育委員会生涯学習課課長）
泉　　明（男鹿市教育委員会生涯学習課主幹兼文化財係長）
竹内　弘和（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係主任）
工藤　直子（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係主任）
平成18年度　佐沢　篤雄（男鹿市教育委員会生涯学習課課長）
泉　　明（男鹿市教育委員会生涯学習課主幹兼文化財係長）
竹内　弘和（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係主任）
工藤　直子（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係主任）
平成19年度　泉　　明（男鹿市教育委員会生涯学習課課長）
渡部　源夫（男鹿市教育委員会生涯学習課課長補佐兼文化財係長）
伊藤　直子（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係主任）
五十嵐祐介（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係学芸主事）
平成20年度　泉　　明（男鹿市教育委員会生涯学習課長）
渡部　源夫（男鹿市教育委員会生涯学習課課長補佐兼文化財係長）
伊藤　直子（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係主任）
五十嵐祐介（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財学芸主事）
平成21年度　三浦　　進（男鹿市教育委員会生涯学習課課長）
千田　常己（男鹿市教育委員会生涯学習課主幹兼文化財係長）
竹内　弘和（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係主査）
伊藤　直子（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係主任）
五十嵐祐介（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財係学芸主事）
平成22年度　三浦　　進（男鹿市教育委員会生涯学習課課長）
笹川　貞俊（男鹿市教育委員会生涯学習課主幹兼文化財班長）
竹内　弘和（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財班主査）
伊藤　直子（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財班主査）
五十嵐祐介（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財班学芸主事）
平成23年度　鎌田　和裕（男鹿市教育委員会生涯学習課課長）
加藤　秋男（男鹿市教育委員会生涯学習課主幹兼文化財班長）
竹内　弘和（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財班主査）
五十嵐祐介（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財班学芸主事）
高橋　由真（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財班主事）

これまでの確認調査及び発掘調査については、その都度その成果や所見を報告書として刊行してきた。その報告書は８冊に及び、以下の通りである（男鹿市刊行分のみ）。

男鹿市教育委員会2002『国指定史跡 脇本城跡Ⅰ』男鹿市文化財調査報告第23集
男鹿市教育委員会2003『国指定史跡 脇本城跡Ⅱ』男鹿市文化財調査報告第27集
男鹿市教育委員会2004『国指定史跡 脇本城跡Ⅲ』男鹿市文化財調査報告第28集

男鹿市教育委員会2005『国指定史跡 脇本城跡』男鹿市文化財調査報告第29集
男鹿市教育委員会2006『国指定史跡 脇本城跡Ⅳ』男鹿市文化財調査報告第32集
男鹿市教育委員会2008『国指定史跡 脇本城跡Ⅴ』男鹿市文化財調査報告第35集
男鹿市教育委員会2010『国指定史跡 脇本城跡Ⅵ』男鹿市文化財調査報告第37集
男鹿市教育委員会2012『国指定史跡 脇本城跡Ⅶ』男鹿市文化財調査報告第39集

以上の確認調査を踏まえて、過去の調査所見を総括し、脇本城跡のさらなる保全と整備、活用を図るための資料として、本報告書を作成することとなった。本報告書作成における事務局体制は以下の通りである。

平成24年度　鎌田　和裕（男鹿市教育委員会生涯学習課課長）
加藤　秋男（男鹿市教育委員会生涯学習課主幹兼文化財班長）（平成24年11月まで）
鈴木　　十（男鹿市教育委員会生涯学習課主幹兼文化財班長）（平成24年12月から）
伊藤　直子（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財班主査）
五十嵐祐介（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財班学芸主事）
高橋　由真（男鹿市教育委員会生涯学習課文化財班主事）

第３節　記録の方法

１　調査の方法

確認調査は遺跡の保存を最優先した上でトレンチにて実施した。トレンチは調査対象区に個々の調査目的に従って、任意に設定した。

脇本城跡における表土の堆積は平均的に20cmから30cmであり、さらに遺跡の性格上、重機等の運搬が困難な地点が多いため、表土の掘削から遺構確認に至るまで全て人力で行った。出土遺物については、調査次数ごとに１からの遺物番号を付した上で、平面上の位置及び標高を計測し、出土した日付を記載した上で取り上げた。遺物番号は後の遺物への注記に反映させている。検出された遺構については、基本的には調査次数ごとに、遺構の種別によらず検出された順に１からの遺構番号を付し、精査の結果、遺構ではないと判断した場合には欠番とした。

初期の確認調査においては、遺構を平面的に確認するにとどめた場合があるが、基本的には半裁の上、土層断面を記録し、完掘は行わず、後の検証を可能とするための保護措置として埋め戻した。ただし、遺物が出土した場合など、例外的に完掘を行った遺構もある。

調査の記録は、平面図実測、断面図実測、写真撮影によって行い、平面実測及び断面実測は基本的に縮尺１/20で行い、遺物の出土状況図等の作成は縮尺１/10で行った。写真撮影は35mmのネガカラーフィルムで行い、デジタルカメラで補完した。

２　整理の方法

（１）各調査時点での整理方法

脇本城跡はその略号を「WMJ」とし、整理作業に反映させた。遺構図面は平面図及び土層断面図を比較し、修正を一部加え、必要に応じて第２原図を作成してトレースした。第16次調査実施以降はデジタルトレースをした上で編集を行っている。

過去の確認調査において出土した遺物は、金属製品を除き、水洗いをした後に注記を行った。注記は「WMJ□次RP□□トレ 日付」として記載した。これは「脇本城跡□次調査出土、遺物ナンバー□番、□トレンチ出土、出土日」を意味する。特に遺構内から出土した遺物について出土トレンチの後に遺構名を記載した。その後、必要に応じて、接着剤による接合を行った。木製品、金属製品については、必要に応じてクリーニング及び保存処理等を外部委託によって実施した。出土遺物については基本的にハンドトレースをした上で図版を作成した。

（２）本報告書作成における整理方法

本報告書は過去の確認調査を全て総括したものであり、そのため、整理についても統一的に行った。遺構図版については、過去の概要報告書及び原図を参考の上、土層の認識や解釈などについて、再検討を加えた。そのため、必要に応じて第２原図を作成した。また、遺構番号については、基本的に概報時の遺構番号を踏襲し、遺構名の前に調査次数を加えた（詳細は例言参照）。これにより、遺物の注記等に大きく誤差がなくなるとともに、遺構一覧表の中に概報時の遺構番号を記載することで、検証できるように努めた。しかし、土層の注記などは、現時点で検証しえないものであり、原図及び概報報告書に基本的に従った。そのため、記載方法などが統一されていない。その上で、すべて再トレースを行い提示した。本報告書ではすべての遺構を個別に取り上げることが困難なため、全てのトレンチについて掲載することとした。それらの内、掘立柱建物跡や柱穴列・塀・柵跡、道路跡等、中世脇本城跡を考察する上で重要な意味を持つと考えられる遺構については、個別に取り上げた。遺構図面の縮尺は、トレンチの大きさにより任意に定め、一定ではない。そのため各挿図に縮尺を記載した。

遺物図版については、過去の概報時の図版を基本的にそのまま転載した。しかし、遺物の掲載順や縮尺の統一化を図り、一部は再実測及び再トレースをした上で掲載した。遺物実測の縮尺は基本的に１/２に統一したが、大型の陶器類や石製品、木製品など、１/３以下にしたものもある。そのため各挿図に縮尺を記載した。さらに、該当調査年度に保存処理等を実施した金属製品等について、これまで未報告のものも多かったが、本報告書では、極力掲載するよう努めた。また、図化した遺物は極一部であるため、各調査次数ごとに、出土遺物一覧表を作成し、破片数のカウントを行った。実測図掲載遺物について、観察表を作成することで本文内での記述を割愛した。出土陶磁器の時期判別等については以下の研究成果を参考とした。下記以外の文献については、巻末に引用参考文献を掲載した。

愛知県2007『愛知県史別編窯業２　中世・近世瀬戸系』愛知県史編さん委員会
上田秀夫1982「14 ～ 16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2日本貿易陶磁研究会
小野正敏1982「14 ～ 16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2日本貿易陶磁研究会
木村孝一郎2011「越前焼の編年的研究と生産地の動向」『越前焼・常滑焼』第10回山陰中世土器検討会
森田勉1982「14 ～ 16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2日本貿易陶磁研究会
吉岡康暢1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

第４章　脇本城跡に関連する文献史料

脇本城跡に関連した文献史料については、過去の遺構現状調査時より、遠藤巌氏を中心に地域に残る文献や絵図面が取り上げられ検討されてきた（遠藤2005、男鹿市教育委員会1994・2007a等）。

さらに、中世秋田の安東氏についての文献史料は『秋田市史』（秋田市1996）『能代市史』（能代市1998）や『青森県史』（青森県2005・2012）等で集成とその位置付けが行われており、その成果が脇本城跡を理解する上で有益な情報を提供している。

脇本城を主題とした中世期まで遡る文献史料はほぼ皆無であり、近世期以降の史料からその様相を検討することが課題となっている。

本報告書においては、脇本城跡に関連して男鹿市内を中心に残されている文献史料や絵図面等を中心に取り上げ、広く公開することで、研究の進展と今後の新たな発見を期待し、脇本城を考察する一助としたい。

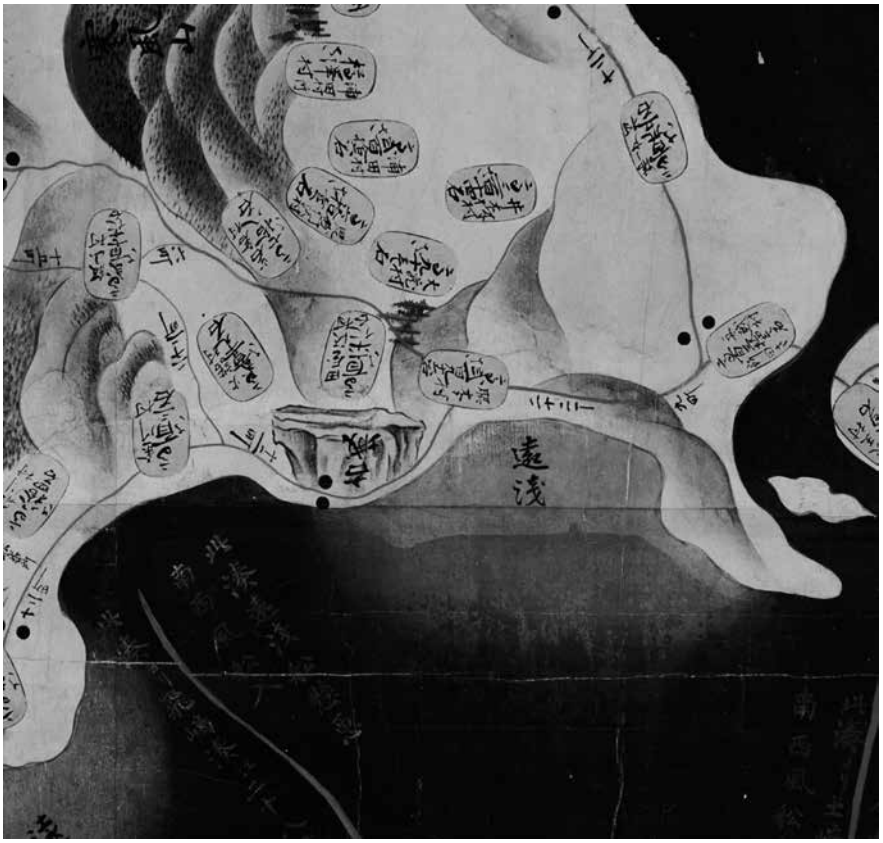
第１節　近世史料

１　出羽一国御絵図（部分）

所　蔵：秋田県公文書館

寸　法：1,255cm×535cm

年　代：正保４（1647）年



史料名：出羽一国御絵図
所　蔵：秋田県公文書館
著　者：ー
年　代：正保4年
備　考：資料番号 県C-603

巻頭図版に男鹿半島全体を掲載
そのうち、脇本城跡の部分を拡大

第20図　出羽一国御絵図

出羽一国御絵図は正保４（1647）年に作成された国絵図で、江戸幕府へ提出されたものの控えである。

現在の脇本城跡に該当する部分が「古城」として大きく取り上げられている。男鹿半島部の中で城跡として認識されているものは脇本城跡だけであり、近世初期段階にその位置付けが非常に重要であったことが推定される。それは慶長20（1615）年に江戸幕府による一国一城令が発令されたことと関連し、中世出羽における主要城館であった脇本城が廃城していることを示すために描かれたことも考えられる。脇本城は少なくとも1647年段階には廃城となっていることを明確に示す史料であると同時に中世出羽国内における主要城館であったことを現している。

２　脇本天神宮由緒書写

所　蔵：菅原神社

寸　法：和綴冊子〔縦24.0cm×横16.0㎝〕

著　者：伊藤豊後正宗光

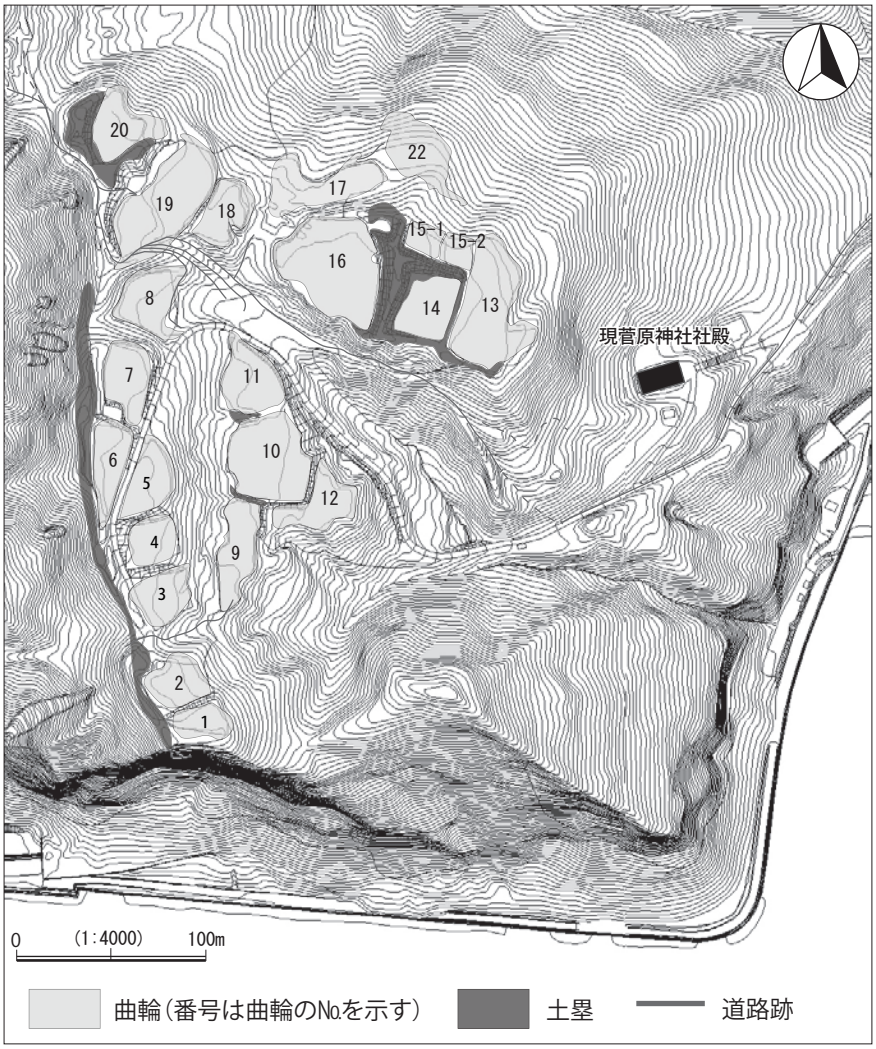
年　代：寛政４（1792）年

菅原神社は脇本城域内に現在も鎮座する。安東氏による脇本城改修に関連する神社として位置付けられており、安東氏が男鹿鎮護の総社として勧請し、本来は脇本城内に鎮座していたが、承応２（1653）

菅原神社所蔵文書一覧（遠藤巌氏調査による）

No.	史料名
1	脇本村天神宮由緒書写
2	古書附控
3	脇本村天神宮由来抜書写
4	伊藤但馬願書控
5	伊藤但馬願書控
6	伊藤但馬願書控
7	無格社菅原神社御由諸調査書
8	掠村々諸祭礼上物并御初覚
9	掠村々諸祭礼供物御初穂記
10	脇本三社祠官系譜書上扣
11	神道啓状
12	神道裁許状
13	神道裁許状
14	神道裁許状
15	神道裁許状
16	神道裁許状
17	神道裁許状
18	神道裁許状
19	伊藤宮司家歴代系図
21	卜部家諸次第切紙秘伝書
22	正遷宮次第
23	唯一神道行法極秘書
24	鳴弦蟇目御祈祷元顕書
25	橘家鳴弦口伝秘巻
26	秘法伝
27	諸祓
28	菅原神社奉賀帳
29	菅原道真公像写真解説
30	元禄判『和漢名数』　一冊
31	文化十年判『挟花春之巻〔後編〕』　一冊
32	文化１４年京都観宜堂判『養生録〔下巻〕』　一冊
33	『源氏六十帖写本一綴』
34	伊藤大和守宗光詠歌控
35	「地名字引」写本　一冊
36	某写本　（前欠）
37～40	書状　４通
41	コピー　７点

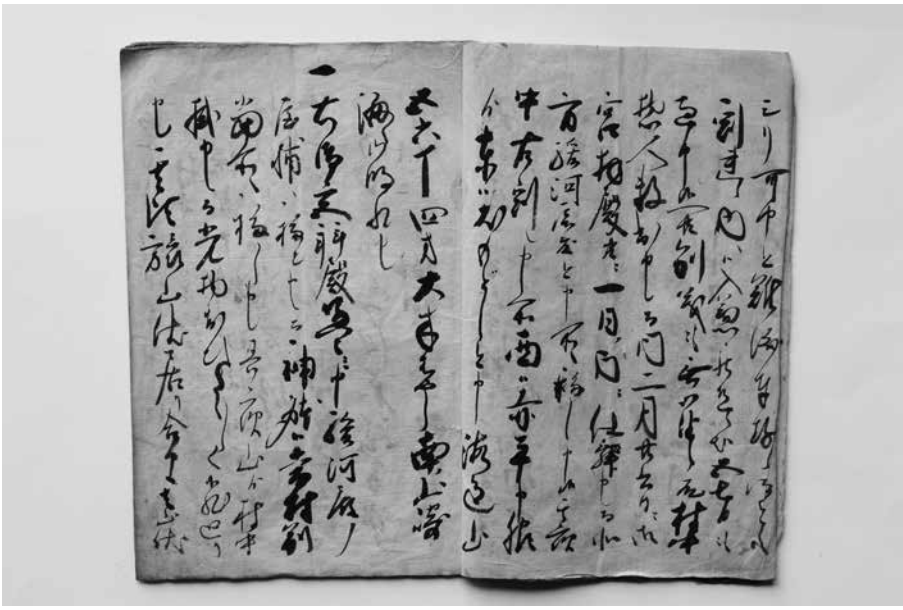
色塗りの文書は本報告書へ掲載したもの



第21図　内館地区の遺構と菅原神社の位置関係

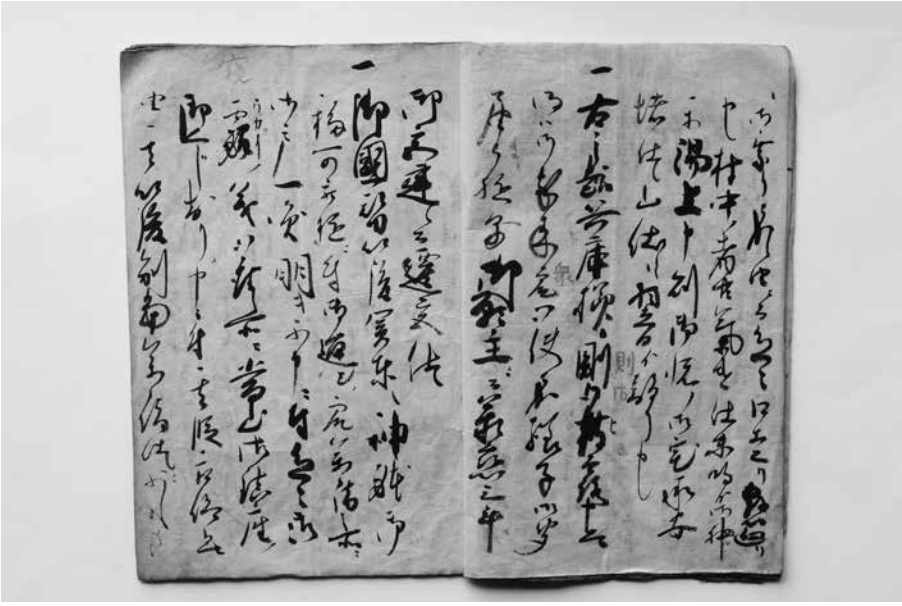
-1-
史料名：
　脇本村天神宮由緒書写
所　蔵：菅原神社
著　者：伊藤豊後正宗光
年　代：寛政4年
備　考：一

-2-
史料名：
　脇本村天神宮由緒書写
所　蔵：菅原神社
著　者：伊藤豊後正宗光
年　代：寛政4年
備　考：一

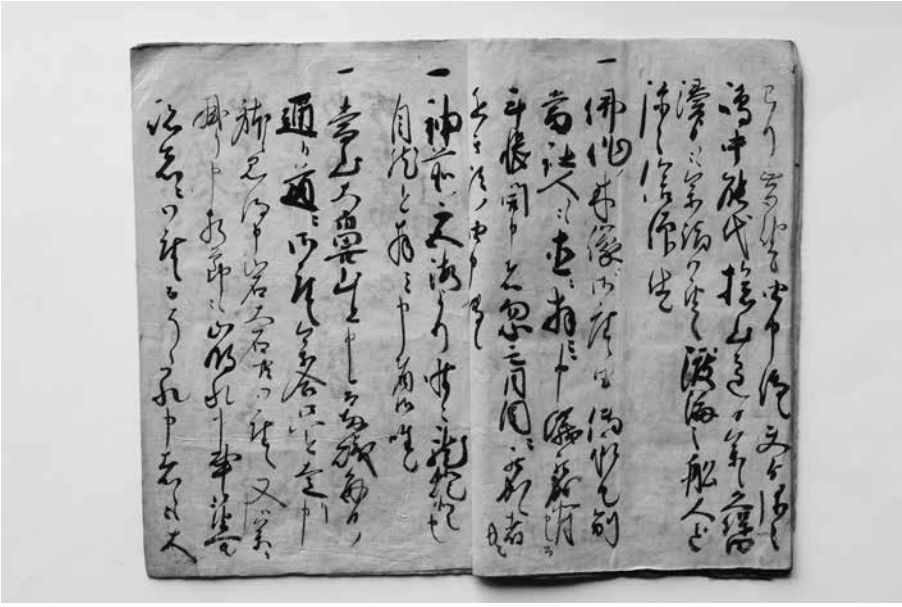


-3-
史料名：
　脇本村天神宮由緒書写
所　蔵：菅原神社
著　者：伊藤豊後正宗光
年　代：寛政4年
備　考：一

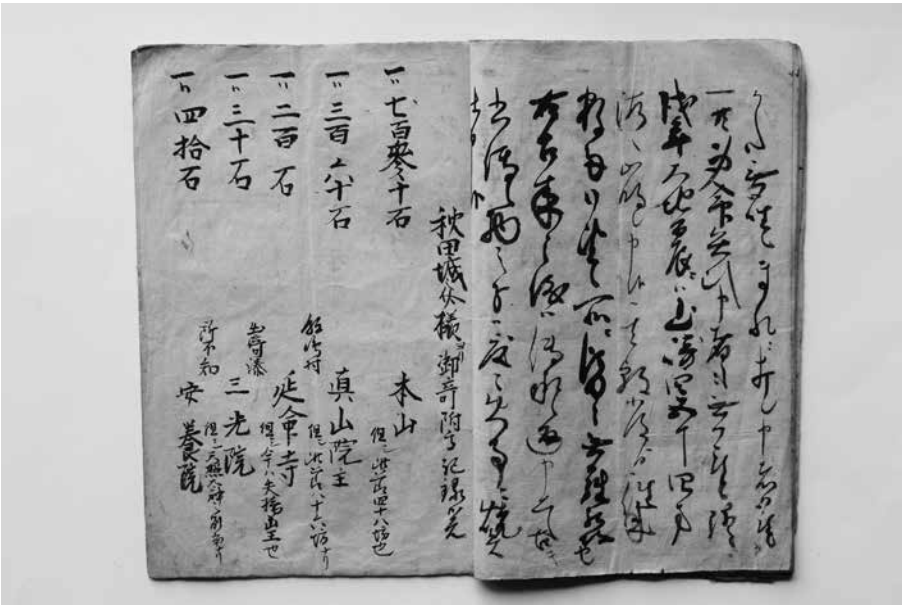
第22図　脇本村天神宮由緒書写①



-4-
史料名：
　脇本村天神宮由緒書写
所　蔵：菅原神社
著　者：伊藤豊後正宗光
年　代：寛政4年
備　考：一

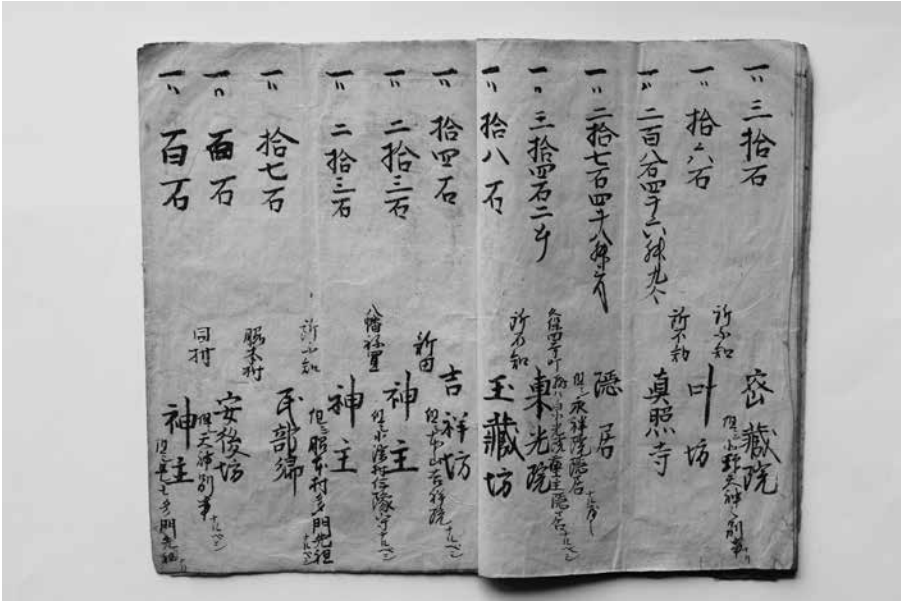


-5-
史料名：
　脇本村天神宮由緒書写
所　蔵：菅原神社
著　者：伊藤豊後正宗光
年　代：寛政4年
備　考：一

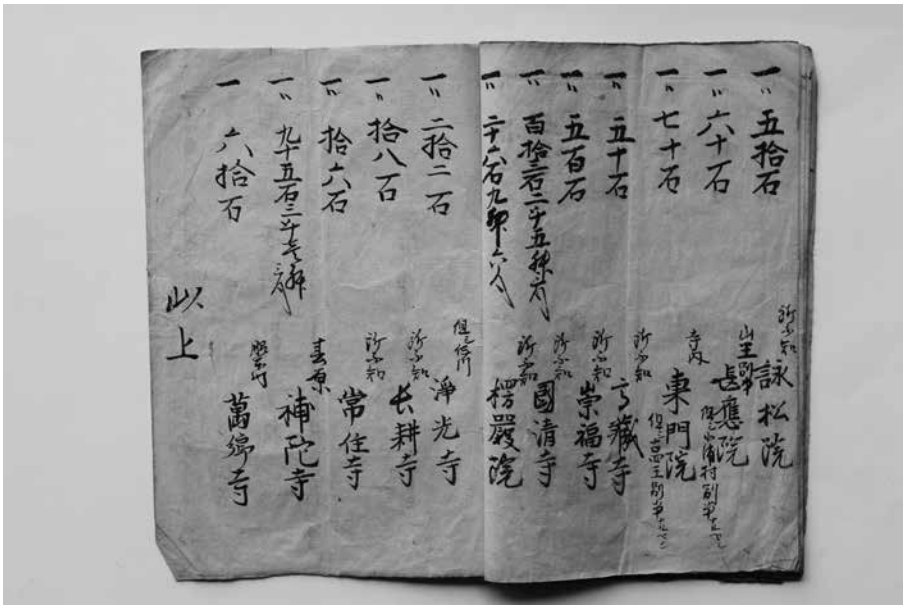


-6-
史料名：
　脇本村天神宮由緒書写
所　蔵：菅原神社
著　者：伊藤豊後正宗光
年　代：寛政4年
備　考：一

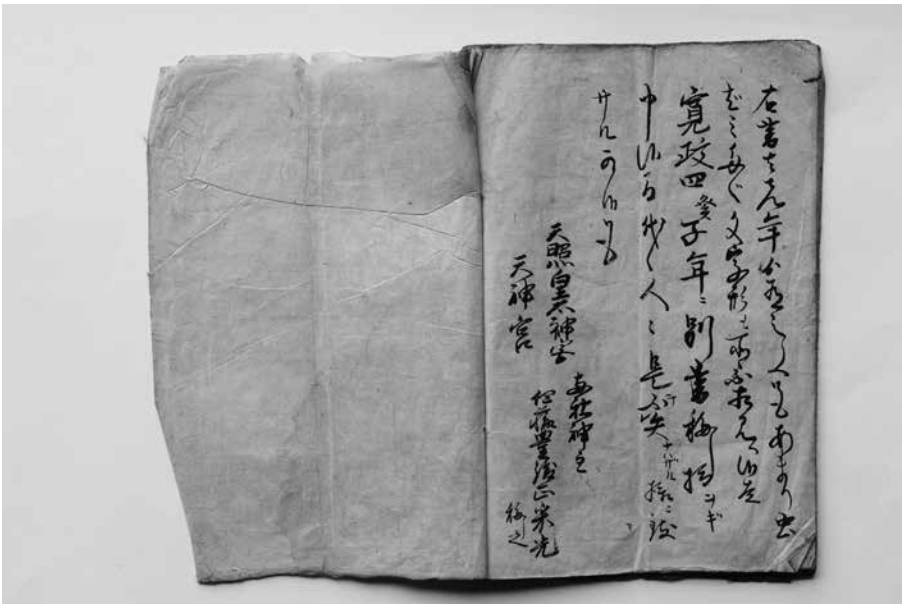
第23図　脇本村天神宮由緒書写②



-7-
史料名：
　脇本村天神宮由緒書写
所　蔵：菅原神社
著　者：伊藤豊後正宗光
年　代：寛政4年
備　考：一



-8-
史料名：
　脇本村天神宮由緒書写
所　蔵：菅原神社
著　者：伊藤豊後正宗光
年　代：寛政4年
備　考：一



-9-
史料名：
　脇本村天神宮由緒書写
所　蔵：菅原神社
著　者：伊藤豊後正宗光
年　代：寛政4年
備　考：一

第24図　脇本村天神宮由緒書写③

年に起こった生鼻崎の崩落により社殿の移転を余儀なくされ、さらに寛文12（1672）年に再度遷宮して現在地に再建されたと伝えられている。

菅原神社の由緒については、年号が異なる複数の由緒の写しが存在し、写した際の考察や解釈も若干加わっているため、年代により内容が若干異なる。過去に最も具体的に提示された由緒書としては、嘉永５（1852）年に船越村（現男鹿市船越）の郡方勘定役であった鈴木重孝が著した『絹篩』の中に「年號月日は無し、紙性は今時の美濃位の紙にて至りて古く相見え申す。」と前書きされた上で写されている（今村1971）。『絹篩』に収録された由緒書の原本を現在は確認することができない。

しかし菅原神社代々の宮司家である伊藤家には菅原神社に関する由緒や系図等が残されており、その内､現存する中で最も古い寛政４（1792）年の由緒書の写しを提示する。以下､遠藤巌氏による報文（遠藤2009）を本報告書の体裁上、横書きに改めて提示する。

男鹿脇本村天神宮　　（*認印）

一、天正十九辛卯年、安倍實季公御建立ノ棟札御座候、只今ハ棟札文字見得兼申候、先年延寳五年神社由緒御改、其時分、棟札年号御名乗共慥ニ見得申候故、書写シ指上申候、其下書唯今ニ所持仕申候、

一、承應三年甲午、真崎兵庫様御願主ニ而、再興棟札
右ハ、するか殿やしきと申所へ移申、

一、寛文十二年壬子、同御代、再興棟札御座候、
右ハ、社下中段へ移し申、此時實季公棟札持参仕、兵庫様懸御目申候、

一、元禄十三庚辰、同當御代、上葺之棟札御座候、
右古来ハ、當山御城之鎮守ニ御座候由承傳候、実季公御本丸ノ南山上ニ御立被成候、山段々崩れ申候而、宝殿ノ土手端迄崩レ申、社頭ハ海へ望ミ申様ニ御座候へ共、一両年も別儀無御座候所、承應弐年二月初メニ、社ノ北ゟ東西口弐三尺ニ山割れ廻り申候、村者共動轉仕り、一両日中ニ山ハシリ可申ト難儀奉存候得共、割れ候内ハ入兼罷在候処、五六日も過申候へ共、別儀も無御座候故、村中惣人数出申候而、同二月廿六日ニ御宮拝殿共ニ一日ノ内ニ仕舞申候、北方駿河屋敷と申所へ移し申候、其夜中右割レ申所、西ハ赤比良申脇ゟ東ハ犬戻しと申海迄、山五六丁四方大木はやし南ノ山崎海へ崩れ申候、

一、右御宮拝殿畳々申駿河殿ノ屋舗へ移シ申候而、御神躰ハ當村別當所へ移し申候、其夜山ゟ村中掛申候而、光物おひたゝしく飛廻り申候、其頃旅山状居り合申候、其山状ニ御乗被成候由ニ而、色々口走り掛廻リ申候、村中ノ者氣遣仕、未明ゟ御神楽湯上申、則御悦ノ御宅承、安堵仕候、山状も翌日ゟ鎮申候、

一、右之趣、兵庫様へ則御披露申上候得ハ、御家来衆御使被成様子御聞届被遊、則チ御願主ニ而、承應三年御宮御建候而　遷宮仕候、

一、御國替以後、関東へ神躰御移可被遊ニ付、御通シノ衆御参詣之所ニ、御戸一圓明キ不申ニ付、色々御窺ノ儀御座候所ニ、當山御鎮座ノ御くじおり申ニ付、其段被仰上候由、其以後別當参詣仕候ニ少もさわり無御座候由申傳候、夫ゟ弥々嶋中・能代・檜山邊ゟ参候、久保田・湊ゟ参詣御座候、渡海之舩人迄弥々信仰仕候、

一、佛作ノ木像ニ御座候由傳承申候、別當社人も直々拝ミ申儀罷成不申候、背戸張開申者、忽盲目ニ被成候者共近キ頃ノ由申傳候、

一、神前ノ宮、海より時々龍燈登申候、自然と拝ミ候者御座候、

一、當山大鼻山と申候而、両磯毎日ノ通り道ニ御座候、参合只今走り申躰ニ見得申、岩大石共御座候、又ハ参り掛り申折節も崩れ申事御座候へ共、跡先ニ御座候而うたれ申者も、大方無御座候、まれニ打レ申候者御座候へ共、身命失ひ申者も無御座候、さて戌年大地震ニハ山崎四五丁四方海へ崩レ申候、其ノ朝常ゟ往来数多御座候所ニ

皆々無難ニ被帰申候、
右古来之儀ハ傳承候通申上候、古キ書傳之分ハ、度々火事ニ消失仕申候、

秋田城之介様ヨリ御奇附高記録覚

一、七百参十石	本山		但　此節四十八坊也
一、三百六十石	真山		但シ此節十六坊也
一、二百石	飯嶋村	延命寺	但シ今ハ矢橋山王也
一、三十石	土崎湊	三光院	但シ天照大神ノ別當ナリ
一、四拾石	所不知	安養院	
一、三拾石		密蔵院	但シ北野天神ノ別當ナリ
一、拾六石	所不知	叶坊	
一、二百八石四斗六升九合	所不知	真照寺	
一、二拾七石四斗八升三合		隠居	但シ永禅院隠居ナルベし
一、三拾四石二斗	久保田寺町	東光院	岷ハ泉光院座主隠居ナルベシ
一、拾八石	所不知	玉蔵坊	
一、拾四石		吉祥坊	但シ本山吉祥院ナルベシ
一、二拾三石	新田	神主	但シ小濱村伊豫守ナルベシ
一、二拾三石	八幡祢宜	神主	但シ脇本村多門先祖ナルベシ
一、拾七石	所不知	民部卿	
一、百石	脇本村	安後坊	但シ天神宮別當ナルベシ
一、百石	同	天神宮神主	但シ是モ多門先祖ナリ
一、五拾石	所不知	詠松院	
一、六十石	山王別當	長應院	但シ北野村別當ナルベシ
一、七十石	寺内	東門院	但シ古四王別當ナルベシ
一、五十石	所不知	高蔵寺	
一、五百石	所不知	崇福寺	
一、百拾参石二斗五升八合	所不知	國清寺	
一、二十六石九升六合	所不知	楞嚴院	
一、二拾二石	但シ伊川	浄光寺	
一、拾六石	不知	常住寺	
一、拾八石	所不知	長耕寺	
一、九十五石三斗壱升三合	奈原	補陀寺	
一、六拾石	脇本町	萬郷寺	

以上

右書者、先年ゟ有之候へとも、あまり虫ばミ多ぐ文字形も所々不相見へ候故、寛政四癸子年ニ別書移し指ヲギ申候間、代々人々是ヲ不レ失ナハザル様ニ到サル可候、以上、
天照皇太神宮
天神宮　　両社神主
伊藤豊後正宗光
移し之

註　和綴冊子〔縦二四・〇×横一六・〇cm〕 楮紙九丁。表紙なし。寛政四年（一七九二）伊藤宗光の写本。表題脇の認印（印分「伊藤」）は先代宮司伊藤宗昌氏捺印か。

脇本城に直結する記載として、天正19（1591）年に安倍実季による建立の棟札があったが、現在（寛永年間）は文字が読み取れないこと、社殿を承応３（1654）年に北方の「駿河屋敷」というところへ移し、寛文12（1672）年に再度「社下中段へ移し」たこと、本来は「御城之鎮守」として「実季公御本丸ノ南山上」に位置していたことなどが読み取れる。さらには度々の火災により、古くから伝わっているものは焼失した旨が記載されている。

３　古書附控

所　蔵：菅原神社

寸　法：紙縒り綴〔縦24.5cm×横16.0cm〕

著　者：伊藤豊後正宗光

年　代：寛政４（1792）年

以下、遠藤巌氏による報文（遠藤2009）を本報告書の体裁上、横書きに改めて提示する。

（表紙）

「古書附控」

一、寛政四年子ノ壬二月　源義和公様　男鹿江御渡野被為遊、同十四日ニ當村天神宮御立寄、開帳被遊、其節神主豊後正罷上り、御戸開キ仕候、御初穂金子百疋御奉納被成置候、其時、天神宮之御神号御作等御尋有之候故、神主御答申上、ゟ夫古城跡御上覧被遊候、

一、私儀御先祖脇本村壱郷出生ニ而、古キ神職之家ニ御座候、御城主多郎様御地代ニ者由緒も御座候得とも、先年類焼之砌、火失仕候故、言傳已而ニ候、尚世代之義も幣躰以前者相知不申候、

註　楮紙三丁　紙縒り綴　法量〔二四・五×一六・〇cm〕。

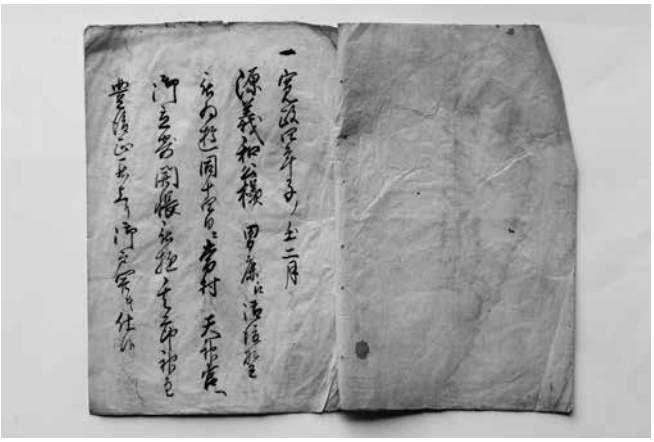
秋田藩寛政改革の主導者として知られる９代藩主佐竹義和（1775～1815）が寛政４（1792）年２月14日に脇本天神宮に立ち寄って参拝しつつ、「古城跡」を散策したおりに、当代の神主であった伊藤豊後正宗光に「天神宮之御神号御作等御尋有」り、代々由緒はあったものの、火災で焼失したため、伝わってきたことを申し上げた。同時に後の世の人々のため、手元に書き写しておいたものであるとする。

藩主であった佐竹義和の参詣を契機として、由緒を再確認したようである。

遠藤氏は以上２点の菅原神社所蔵の文書を中心に、天神社は本来曲輪１より南方に鎮座しており、承応２（1653）年以後の数度の自然災害で海中に崩落する危険が生じたため、それを曲輪14にあたる「駿河屋敷」と呼ばれる地へ移し、その後寛文12（1672）年に真崎兵庫（秋田藩廻座を世襲する佐竹一門真崎家の惣領家。脇本村一帯を知行。本年代は真崎隆紀）が願主となって「社下中」である現在地へ再度遷宮したとするものと考察している（遠藤2009）。これは承応２（1653）年以前は「実季公御本丸ノ南山上」に位置し、それを「北方駿河屋敷」へ移していることから、御本丸及び駿河屋敷ともに「大鼻山」の北方と考え、当時の城跡に対する認識から「御本丸」と伝「内館」地点を同義と捉え、「御本丸」を曲輪16と比定していることによる。さらに両曲輪が並んでいたことを考え、上述した曲輪を比定している。そしてその立地に居を構える「駿河殿」は城主並みの存在であるとし、湊一族の重鎮であった湊駿河守盛季入道夢湖であった可能性を述べている（遠藤2005）。

-1-
史料名：古書附控
所　蔵：菅原神社
著　者：伊藤豊後正宗光
年　代：寛政4年
備　考：ー

-2-
史料名：古書附控
所　蔵：菅原神社
著　者：伊藤豊後正宗光
年　代：寛政4年
備　考：ー



-3-
史料名：古書附控
所　蔵：菅原神社
著　者：伊藤豊後正宗光
年　代：寛政4年
備　考：ー

-4-
史料名：古書附控
所　蔵：菅原神社
著　者：伊藤豊後正宗光
年　代：寛政4年
備　考：ー

第25図　古書附控

４　菅江真澄日記（写本）

所　蔵：秋田県立博物館

寸　法：―

著　者：菅江真澄（原著）

年　代：文化元（1804）年／文化７（1810）年

菅江真澄（1754 ～ 1829）は東北及び北海道を旅した紀行家であり、各地域で暮らしや習俗を丹念に観察し、200冊以上に及ぶ克明な日記や図絵、随筆、地誌を書き残している。男鹿半島には文化元（1804）年と文化７（1810）年に２度訪れ、男鹿の五風と総称される『恩荷奴金風』・『男鹿の春風』・『男鹿の鈴風』・『男鹿の島風』・『雄鹿の寒風』の５冊の日記を残している。

それらの内、文化元（1804）年の『恩荷奴金風』、文化７（1810）年の『雄鹿の寒風』の中で、３枚の図絵とともに脇本城跡を訪れた記録を残している。中世から近世にかけての脇本城跡の内部やその城下町を記したものが見られない中で、菅江真澄の描く通称「天下道」や菅原神社、城下町は非常に貴重な史料となっている。現在の位置とほぼ変わらない場所に菅原神社が鎮座し、かつ生鼻崎越えの道路であった、通称「天下道」を馬で越えている。中世以降本来の道幅は馬一頭が通れる程度であったことが明確に記されている。さらに天下道沿いに家々が並び立つ城下町集落の様子などが現内館地区から見下ろした形で描かれており、中世から続く街並みの様子が伺える。

しかし、日記の本文では脇本城跡を「太平城」と称し、「阿部友季」と「城介実季」の対立など、年代的にそぐわない点が多いため、本報告書では図絵のみを掲載することとする。日記本文は、軍記物など近世期の文献から読み知ったことが記載されていると考えられる。

５　絹篩

所　蔵：男鹿市個人蔵

構　成：本文３冊、図巻２巻

著　者：鈴木重孝

年　代：嘉永５（1852）年

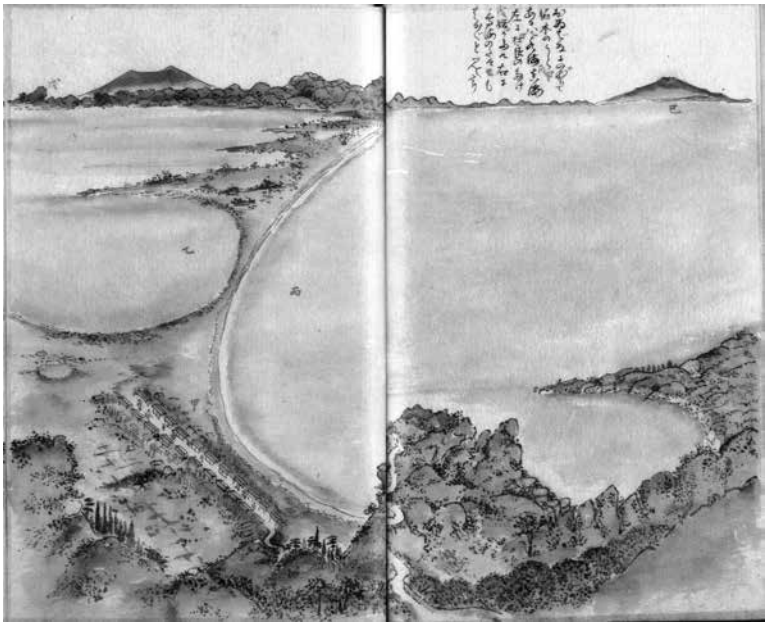
鈴木重孝は船越村（現男鹿市船越）在住の郡方勘定役を勤め、男鹿半島の各村の人口、戸数、馬数、神社、仏閣、史跡など多岐にわたる村勢一覧を調査の上作成し、さらに本山、真山の堂塔及び男鹿半島ほぼ全体の海岸線の様子を図巻として残している。原本は昭和29年に秋田県の有形文化財に指定されている。

現脇本付近の図巻には脇本城跡が「古城」と記載されており、城跡に隣接して「天神社」（現菅原神社）、「本明寺」（現存）、「大竜寺」（昭和７年船川港へ移転（男鹿市教育委員会2012b）、現大龍寺）、「万境寺」（現萬境寺）、神明社（現存しない）等が描かれている。本文巻之二、「湧本村」には脇本城跡が「古城跡」として以下のように取り上げられている。

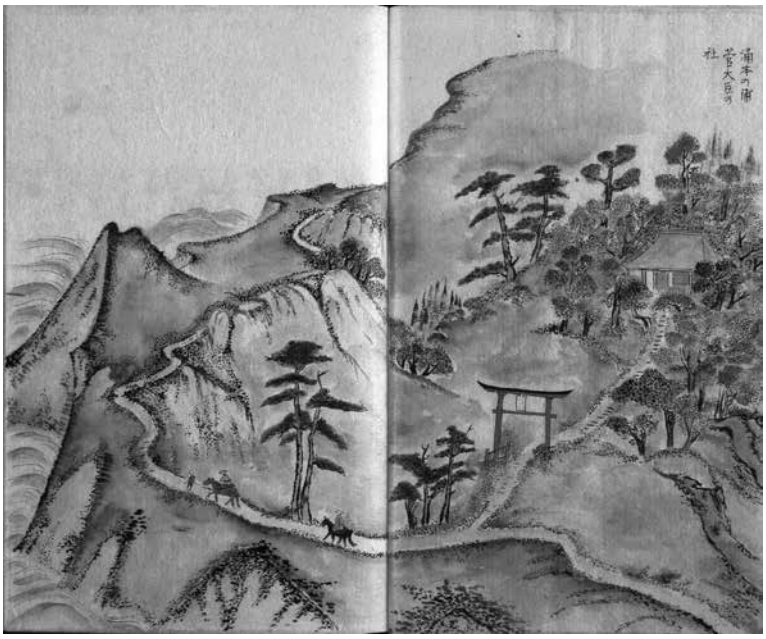
「古城跡

天神堂四五丁山上にあり、安東五郎友季居すと云。其地は今に至るまて草木生へす。社の北の側に家中の居宅の迹土手井戸の跡數ヶ處あり。慶長年中野内氏、石井、忍、北條、菅生、完戸、佐谷、和田、秦、大森、平澤、右の類族四十一騎この地より比内十二處町上段と云處へ移りて御當家の御家士になりしと

-1-
史料名：恩荷奴金風 写本
所　蔵：秋田県立博物館
著　者：菅江真澄（原著）
年　代：ー
備　考：文化元年の日記

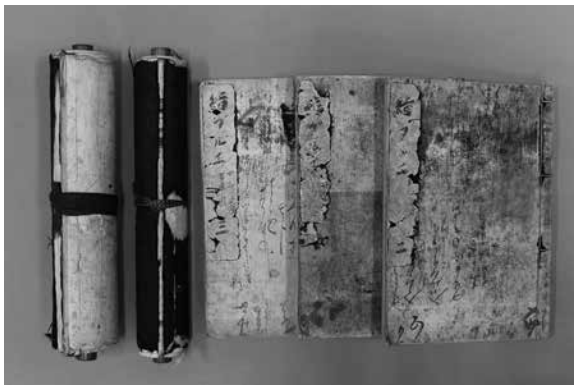


-2-
史料名：恩荷奴金風 写本
所　蔵：秋田県立博物館
著　者：菅江真澄（原著）
年　代：ー
備　考：文化元年の日記

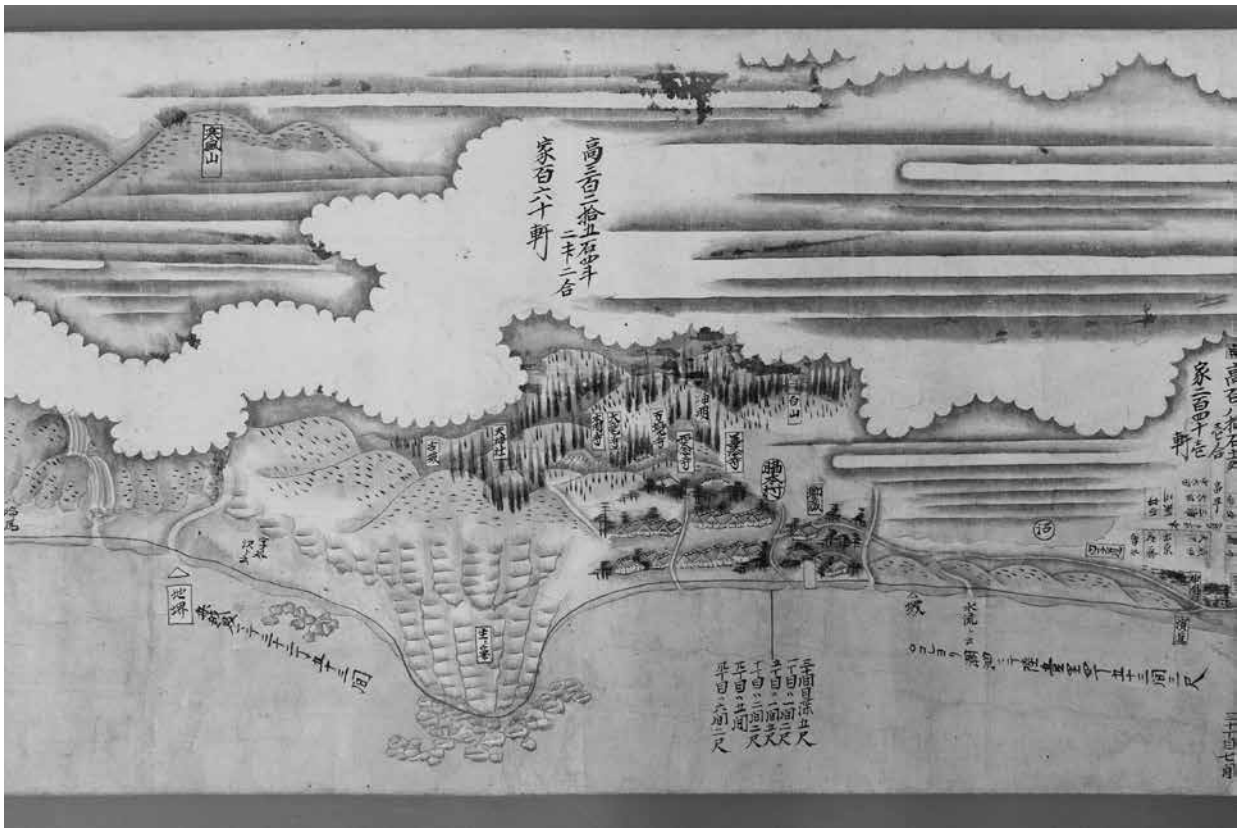


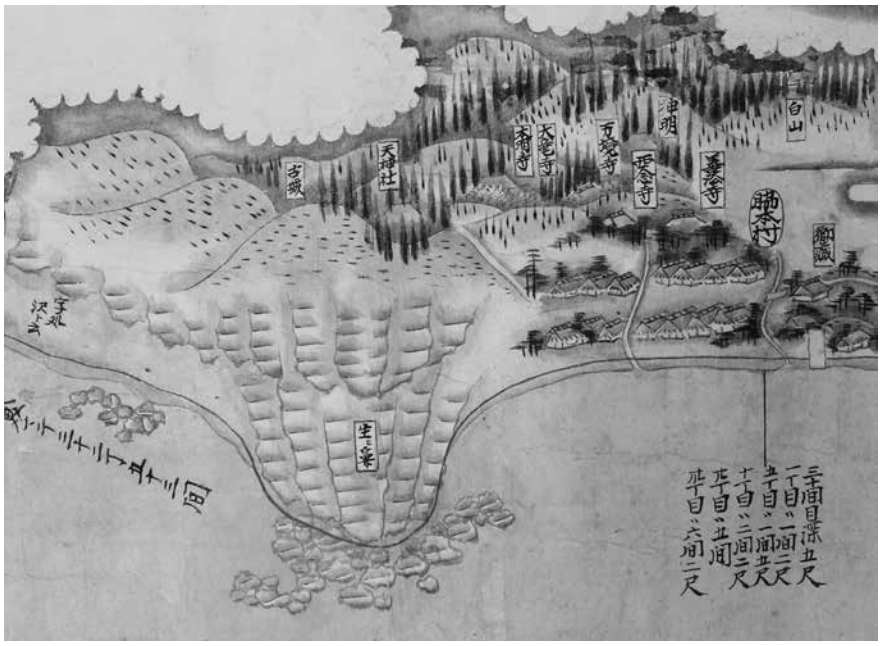
-3-
史料名：雄鹿の寒風 写本
所　蔵：秋田県立博物館
著　者：菅江真澄（原著）
年　代：ー
備　考：文化7年の日記

第26図　菅江真澄図絵



史料名：絹篩
（秋田県指定有形文化財）
所　蔵：男鹿市個人
著　者：鈴木重孝
年　代：嘉永5年完稿
備　考：本文3冊・図巻2巻





上段：絹篩 全巻
中段：図巻のうち、脇本村を抜粋
下段：中段写真のうち、脇本城跡
関係部を拡大

第27図　絹篩図巻

云。」（今村1971）

近世後期段階でも脇本城跡は「古城」として伝わっていたことが記されている。

第２節　近代史料

本報告書では、旧脇本村（現男鹿市脇本）で管理していたと推定される旧公図を含めた史料を提示する。以下に示す「脇本全繪圖」及び「秋田郡脇本村字脇本地引繪圖」は『脇本城址調査研究報告書』（男鹿市教育委員会、脇本城址調査研究委員会1988）の中に写真が掲載されているものの、詳細は述べられていない。現在男鹿市に残されている字引絵図の内、脇本城跡に関連する絵図として、上述の「秋田郡脇本村字脇本地引繪圖」及び「秋田郡脇本村字横町道上地引繪圖」が挙げられる。中世脇本城を考察する上で重要な所見を示すと推察される、道路跡や旧地割などを提示し、脇本城跡の一端にせまりたい。

１　脇本全繪圖

所　蔵：男鹿市脇本出張所

寸　法：縦80.5㎝×横78.0㎝

著　者：―

年　代：明治22年以前

明治22年の町村制施行にあたり、旧脇本村で管理していた村内の主要道、字境などを記した絵図である。

絵図の左下に「戸長 天野亮祐」の署名があり、明治22年に町村制が施行された段階で戸長制は廃止しているため、脇本村施行以前に作成されたと考えらえる。官選戸長制がとられた明治17年から明治22年までのうち、明治20年までの戸長の中に天野亮祐の名はなく明治20年から明治22年の間もしくは、明治17年以前に作成された絵図である可能性が高い。

絵図の中には天下道及び田谷沢道がそれぞれ前者は「比詰街道」、後者は「田谷沢街道」として主要幹線道路に位置付けられている。

２　秋田郡脇本村字脇本地引繪圖（四拾枚之内拾貳番）

所　蔵：男鹿市脇本出張所

寸　法：縦102.5㎝×横167.0㎝

著　者：―

年　代：明治10年前後

字脇本の絵図は城下町集落部を中心とする旧公図である。脇本村の地引繪圖はその多くが残されており、表紙には「明治22年２月調査」と朱書きされている。しかし、絵図内に連判されている人物の中に、「副区長 人見寛吉」の肩書と名がみられる。人見寛吉は町村制施行以前の大小区制時に副区長を務めており、『男鹿市史』の中に掲載される明治７年及び10年の文書内に、第一大区八小区の副区長としての名が確認される。そのため、本絵図は実際には明治10年ころ作成され、明治22年４月１日の町村制施行に引き継がれたものと推定される。

描かれている道路をみると、中心の大通り（天下道/比詰街道）に連結する南北の道路は直線的に通

史料名：脇本全繪圖
所　蔵：男鹿市脇本出張所
規　格：縦80.5cm×横78.0cm
年　代：明治22年以前
備　考：署名の天野亮祐が戸長時から年代を推定

第28図　脇本全絵図

らず、互いにわずかにずれている。さらに大通りを中心にした短冊状の地割が明確に確認され、明治10年段階には中世城下町の名残を色濃く残していたことを読み取ることができる。

３　秋田郡脇本村字横町道上地引繪圖（四拾枚之内拾四番）

所　蔵：男鹿市脇本出張所

寸　法：縦90.5cm×横104.0cm

著　者：―

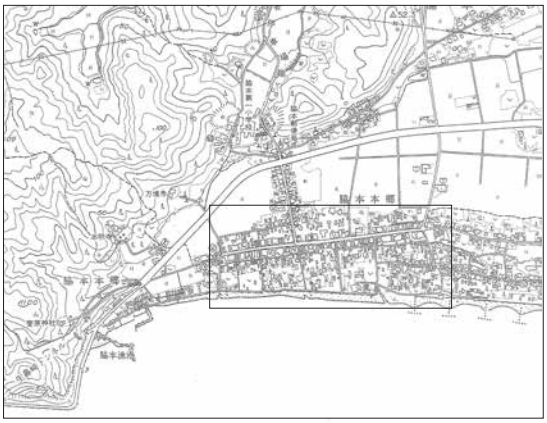
第29図　脇本全絵図トレース

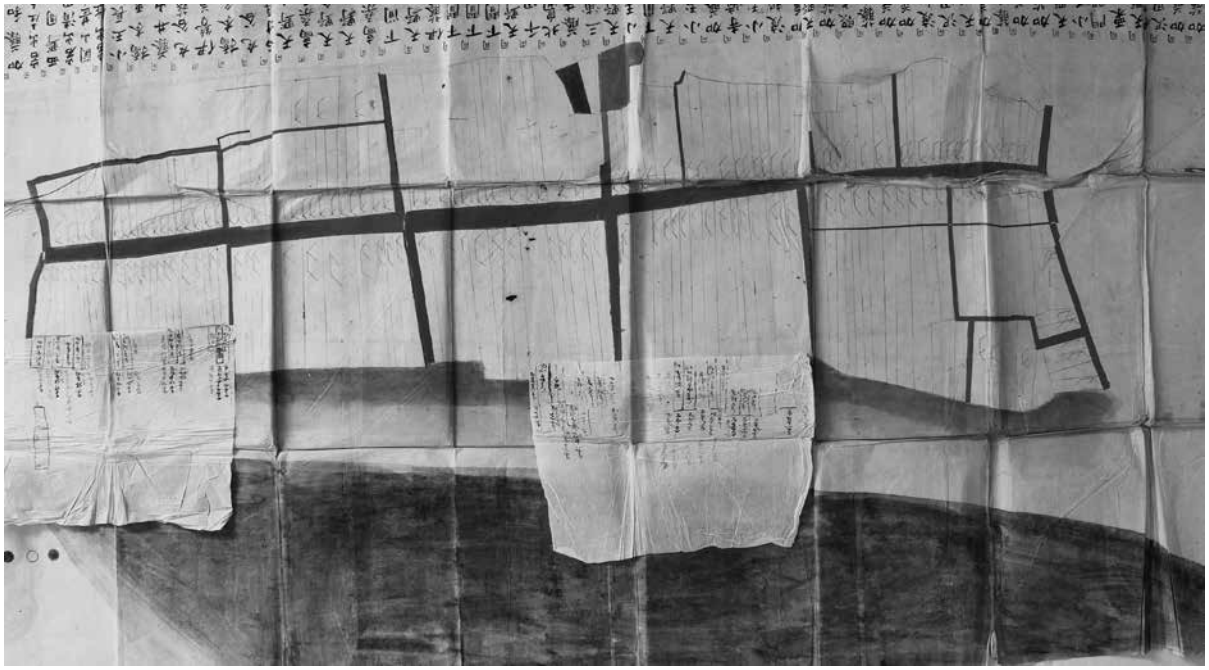
年　代：明治10年前後

字横町道上の絵図は脇本城跡内館地区のある字七沢の東側に隣接する字地であり、関連寺院がそこに立地する。字脇本の絵図と同様、表紙には「明治22年２月調査」と朱書きが確認されるが、連判の中に「副区長 人見寛吉」の名が確認されるため、明治10年ころに作成されたものと考えられる。

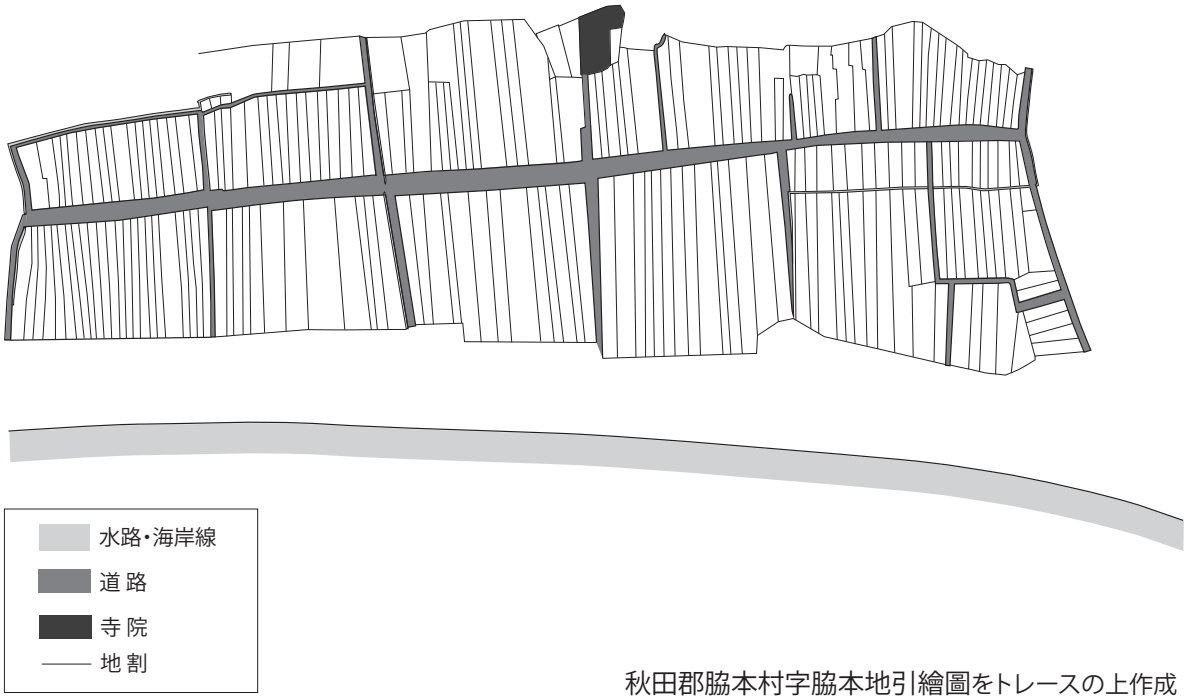
本明寺、大龍寺、萬境寺の寺院地を確認することができ、さらに本明寺から字七沢（絵図の右方面）へ至る道路を確認することができる。現在は公道として認識されていないものの、脇本城跡の馬乗り場地区へ至る道幅の狭い道路として残存している。さらに、本明寺及び大龍寺へ至る道路に鍵型状の屈曲を確認することができる。寺院への参道としてはやや不自然な屈曲であり、特に本明寺へ至る参道は馬乗り場地区へ直結しているため、本来は馬乗り場地区へ至る大手道であった可能性も考えられる。

史料名：秋田郡脇本村字脇本地引繪圖
（四拾枚之内拾貳番）
所　蔵：男鹿市脇本出張所
規　格：縦102.5cm×横167cm
年　代：明治10年前後
備　考：他の脇本地区の地引絵図の表紙には明治22年2月調査とあるが、本絵図も同様の装丁である。しかし、本絵図には「副区長 人見寛吉」と署名・捺印があるため、人見氏が副区長時代の年代を想定している。





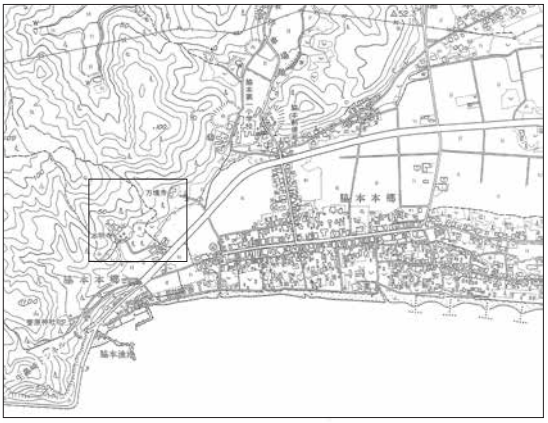
原本には土地所有者の氏名・捺印があるが伏せている



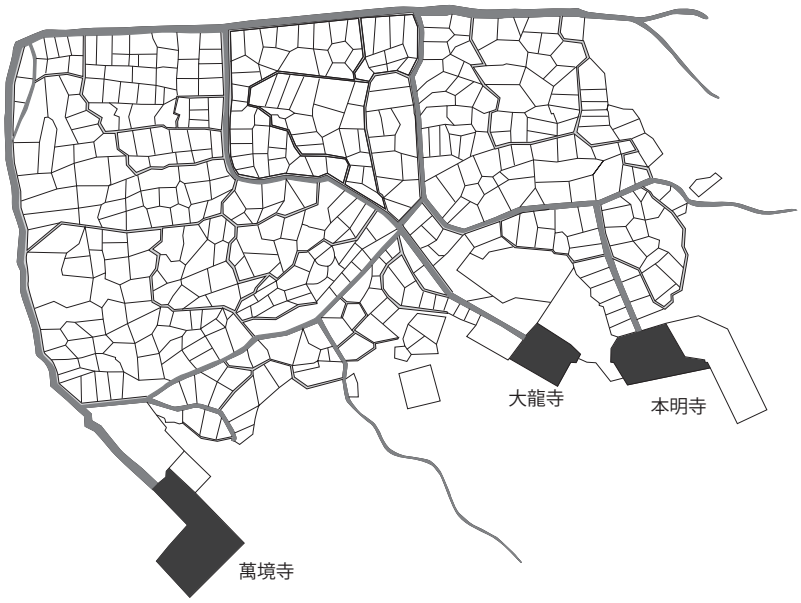
秋田郡脇本村字脇本地引繪圖をトレースの上作成

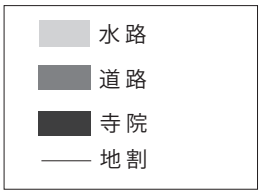
第30図　字脇本地引絵図

史料名：秋田郡脇本村字横町道上地引繪圖
（四拾枚之内拾四番）
所　蔵：男鹿市脇本出張所
規　格：縦90.5cm×横104cm
年　代：明治10年前後
備　考：地引絵図の表紙には明治22年2月調査とあるが、本絵図には「副区長 人見寛吉」と署名・捺印があるため、人見氏が副区長時代の年代に作製された絵図であると想定している。



原本には土地所有者の氏名・捺印があるが伏せている





秋田郡脇本村字横町道上地引繪圖をトレースの上作成

第31図　字横町道上地引絵図

第５章　発掘調査の成果

本書で取り扱う発掘調査はこれまで脇本城跡内で行われた発掘調査を全て対象とする。

次節以降は脇本城跡の地区区分にしたがって報告する。さらに内館地区については複数の曲輪が存在し、曲輪ごとの個別の機能が予測されるため、曲輪ごとに報告することとする。また、遺構や遺物の詳細は曲輪ごとの一覧表にまとめ、特に特記すべき事項を文章として記載する。

第１節　内館地区

１　調査の目的と経緯

内館地区は中世脇本城跡の主要地区と想定されており、曲輪群や土塁、井戸跡など現況でも確認できる遺構が残されている。曲輪は現況で20以上確認されており、求心的な構造を持たずに、並列的に存立する。脇本城跡の本格調査開始以前には「城」として地域から認識されていたのは本地区のみであり、最も早くから環境整備等が地域住民等によって行われた地区でもある。平成７年度に最初の調査が行われたのも本地区である。

戦国期脇本城跡の主要地区と捉えられている地区であることから、補助事業による確認調査では、城跡に伴う建物跡や防御施設等の構造を把握すること、城跡造作の具体的方法を探ること、各曲輪の位置付けや主郭を把握すること、具体的な改修や廃城の年代を探ることを目的として、最も多くの地点で調査が実施されている。

２　内館地区の立地と現況

内館地区は脇本城跡南側の日本海に面した標高80m～100mに位置する。近世期以降の記録に「脇本の御城」、「脇本古城」、「生鼻城址」、「太平城址」、「内館」、「古館」、「古城」等と記されてきた地区であり、中世脇本城跡の主要地区に想定されている。本地区名は現在も用いられる通称であることから仮称している。内館は過去に存在した字地であるが、下国愛季近習石郷岡氏景の書状で愛季居館を「内館」と表記（秋田藩家蔵文書―能代市史1998）しており、関連性が考えられる。地区中央部を明治17年までの主要道であった男鹿街道（比詰街道とも表記される）が横断しており、この道は秋田藩主佐竹家も男鹿往来に利用したため、通称「天下道」と呼ばれ、その名称は現在も用いられる。遺構は現況で23の曲輪が確認でき、大小の規模の差異はあるものの、各曲輪が並列に並ぶ構造をとる。また、曲輪12、曲輪14、曲輪16に各１基、曲輪19に２基の井戸跡が現在も窪んだ状況で確認することができる。さらに内館地区西側のお念堂地区との境には、南北方向に高さ約２mの土塁が連綿と築かれ、また、曲輪14と曲輪16の間には脇本城跡内で最も大規模な高さ約５mの土塁が築かれるほか、各所にも大小の土塁が確認できる。地区の南側は現況では日本海へ下る急峻な崖となっており、過去には天神宮も立地する岬が長さ約600m～1000mにわたって存在していたが、承応２（1653）年以後の数度の自然災害により崩落したとの伝承が残っている。廃城以降、近隣集落の入会地として、極めて良好に管理されてきたことから、多くの遺構を現況で確認することができる。

３　基本層序

内館地区内では城館の普請に伴って、丘陵の自然地形が大きく改変されていると判断される。現在の内館地区の様相は15世紀以降に改修された脇本城跡の姿をとどめていると推定され、城跡の造成に伴う切土や整地、盛土の厚さといった差異はあるものの、概ね同様の層位を示す。参考のため、最も標高の高い曲輪20の４トレンチ、５トレンチでの層序を基本層序として捉える。

概ね上層からⅠ層：表土、Ⅱ層：整地層・盛土層、Ⅲ層：城跡造成以前の自然堆積層、Ⅳ層：地山漸移層、Ⅴ層：地山土となる。Ⅰ層は廃城以後の堆積層であり、Ⅱ層が中世脇本城跡の改修に直接関与する層である。切土によって造成された地点では検出されないものの、地山上に地ならしを行ったと考えられる整地層及び２層以上からなる盛土層によって構成される。これらの層はⅢ・Ⅳ・Ⅴ層土をブロック状に含有し、明確な人為的堆積が確認されるものである。Ⅲ層は城跡造成以前の自然堆積層で、含有物の極めて少ない黒褐色シルト質土である。本層は複数地点で確認されており、含有炭化物による放射性炭素年代測定では10世紀末～ 11世紀前半（曲輪20－５トレンチ２層内炭化物）の年代が示されている。Ⅳ層は地山の漸移層であり、Ⅴ層は地山土である。本丘陵は砂質と泥質の堆積物の互層堆積により形成されており、調査地点によって砂質の地山土とシルト質の地山土が確認される。

遺構は主に整地及び盛土によって形成された地点においてはⅡ層上面、切土によって形成された地点ではⅢ層上面にて検出される。

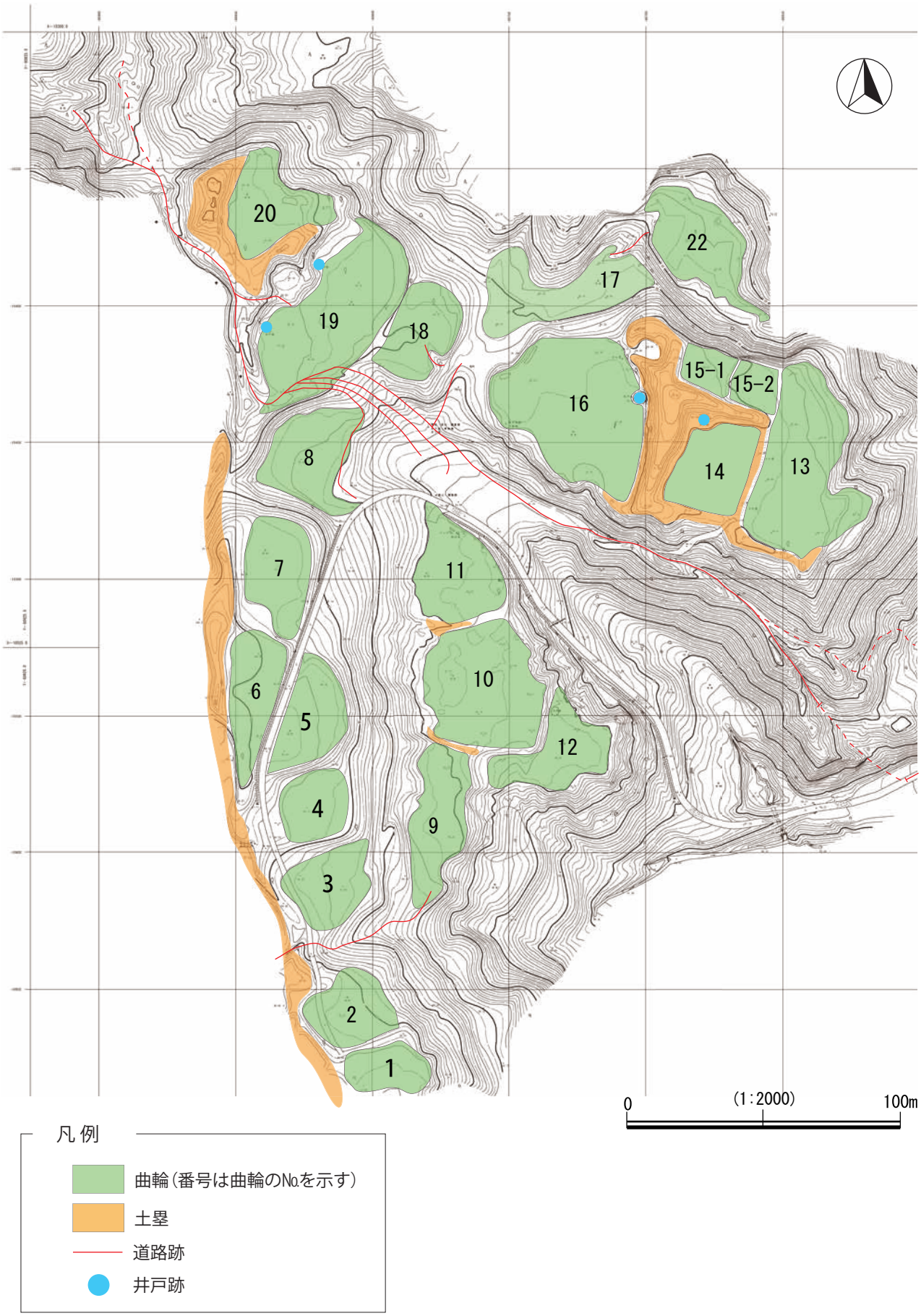
Ⅰ層：層厚20 ～ 30cm ／褐色のシルト質土／近世以後 [表土]

Ⅱ層：層厚10 ～ 80cm以上／にぶい黄褐色と褐色シルト質土による互層／下位層をブロック状に含有する／中世 [整地土・盛土]

Ⅲ層：層厚20 ～ 40cm以上／黒褐色のシルト質土／含有物を含まない／古代以前 [自然堆積層]

Ⅳ層：層厚10cm ／暗褐色のシルト質土 [地山漸移層]

Ⅴ層：－／黄褐色のシルト質土でしまりが強い、調査地点によって砂質の地山土も確認される [地山]



第32図　内館地区遺構配置図

内館地区全景（南側より撮影）

内館地区最大の土塁（曲輪14と16の間）

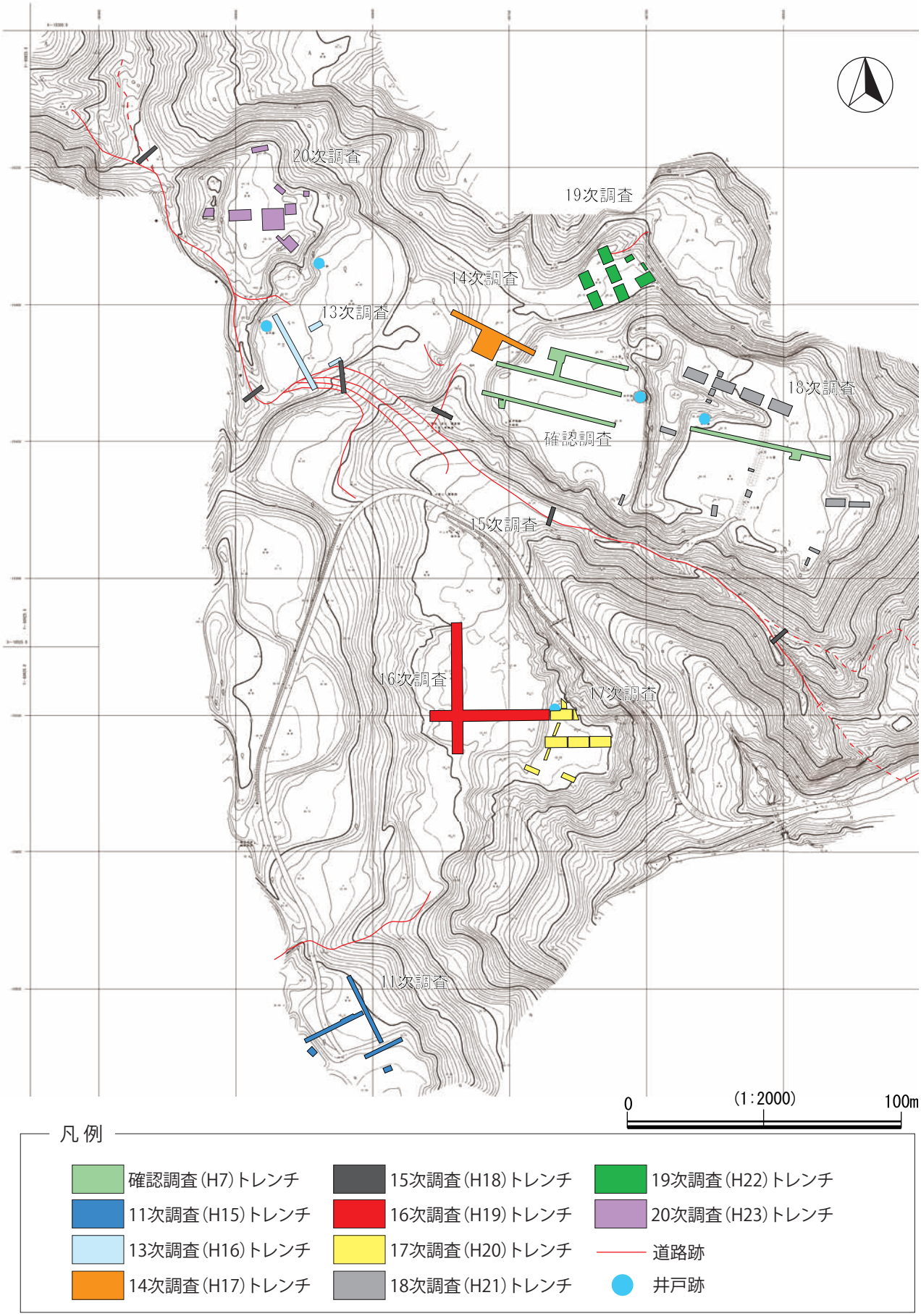
写真左：曲輪14

写真右：井戸跡（降雨により水がたまった状況）

写真左：天下道現況（曲輪13南側）

写真右：天下道現況（曲輪19西側）

第33図　内館地区遺構現状



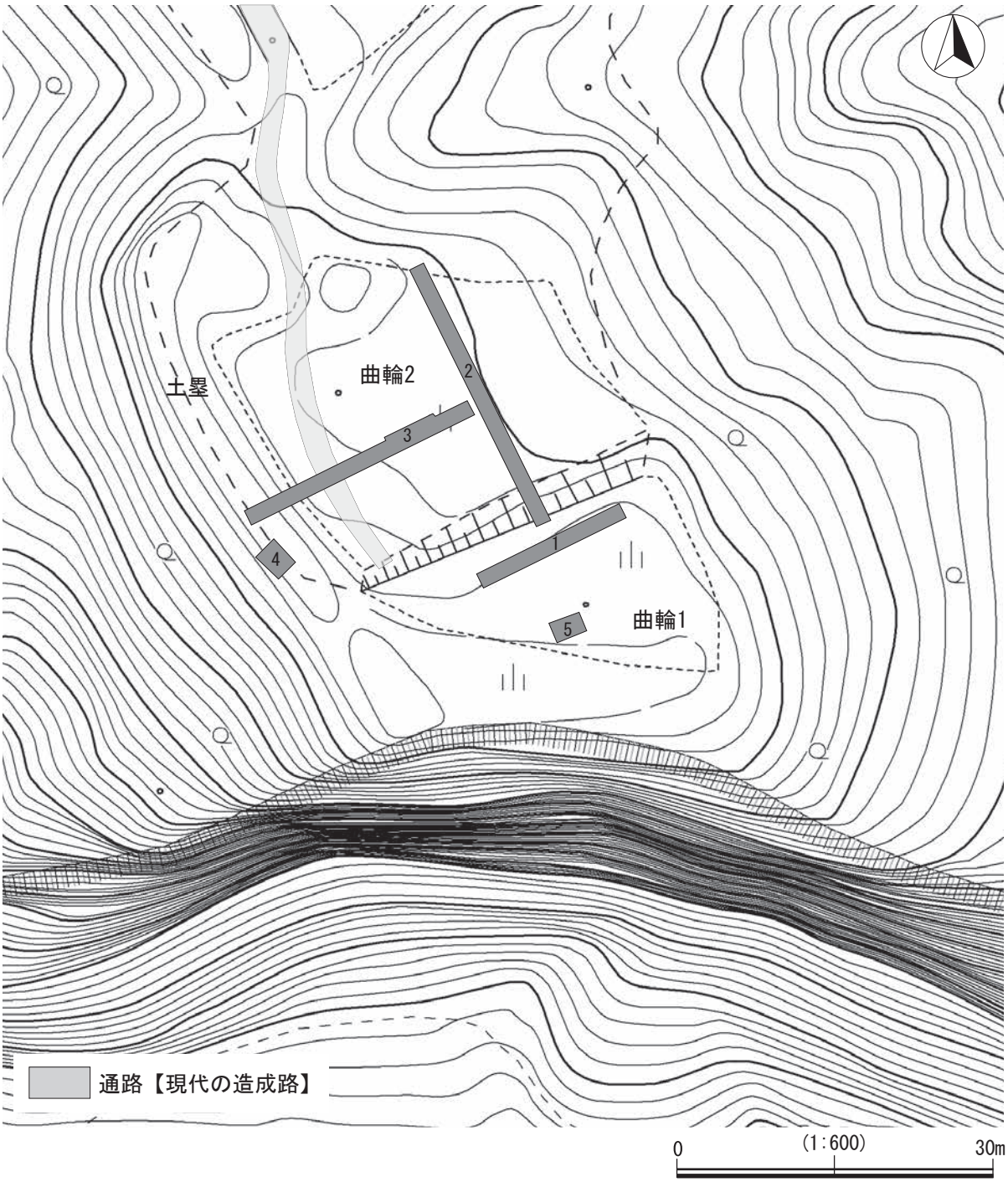
第34図　内館地区調査区配置図

４　遺構と遺物

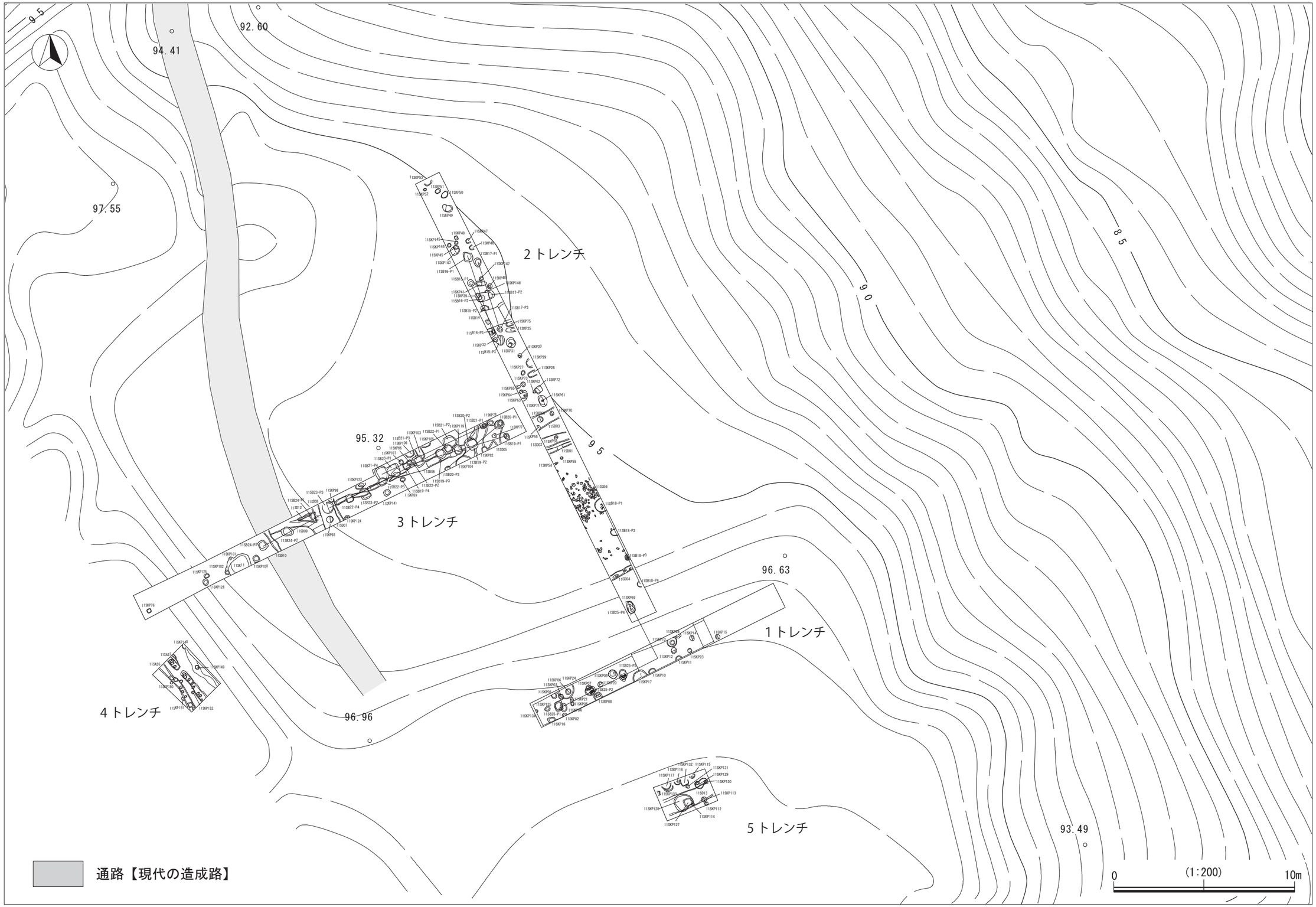
（１）曲輪１・２（第11次調査）

①曲輪１・２の立地と概要

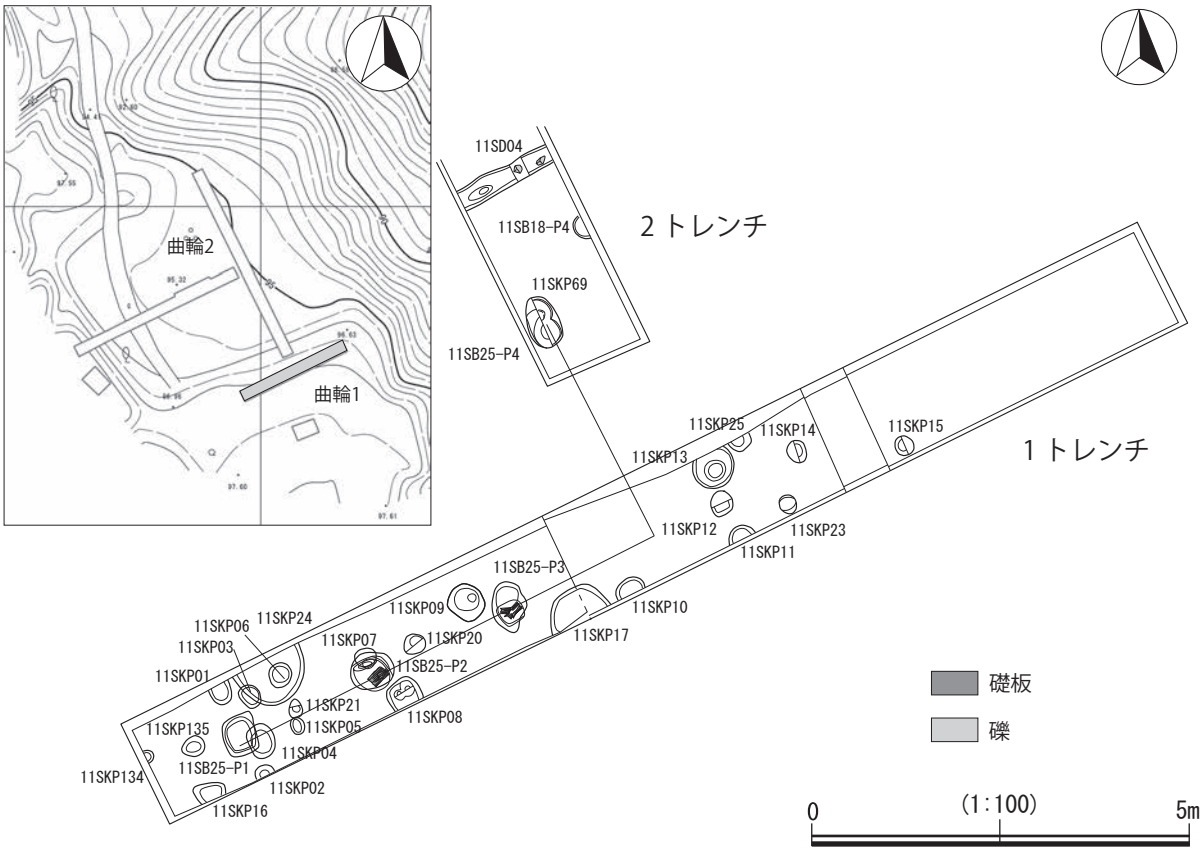
曲輪１・２は内館地区の中でも最南端に位置する曲輪である。さらに南側は急激な傾斜をもって日本海へ至り、その露頭は第四紀更新世に形成された地層の堆積が明瞭に観察できることから、地質学分野では著名な標識露頭となっている。周囲一帯は生鼻崎と呼ばれ、現在よりも海に延びていたと伝えられる。曲輪１は内館地区の最南端に位置し、標高約97.6mとなっている。曲輪２は曲輪１の北西部に隣接し、標高約95.3mと、両曲輪は比高差約２mをもって接する。両曲輪の西側には頂点の標高が98.8mの土塁が



第35図　曲輪1・2（第11次調査）トレンチ配置図と周辺地形横断図



第36図　曲輪1・2（第11次調査）全体図



第37図　１トレンチ平面図

北側へ構築され、土塁によって区画された西側は急傾斜でお念堂地区へ至る。本土塁は内館地区の西側全面にわたって構築されており、頂上部からは船川港地区及び日本海が一望できる。

②検出遺構

曲輪１・２の調査では任意の大きさのトレンチ５か所を設定して行った。曲輪１には１・５トレンチ、曲輪２には２・３トレンチ、そして西側の土塁上に４トレンチを設定した。その結果、総計で掘立柱建物跡11棟、柱穴列・塀・柵跡２条、溝跡13条、土坑１基、集石遺構１基、柱穴跡103基、盛土跡４か所が検出された。

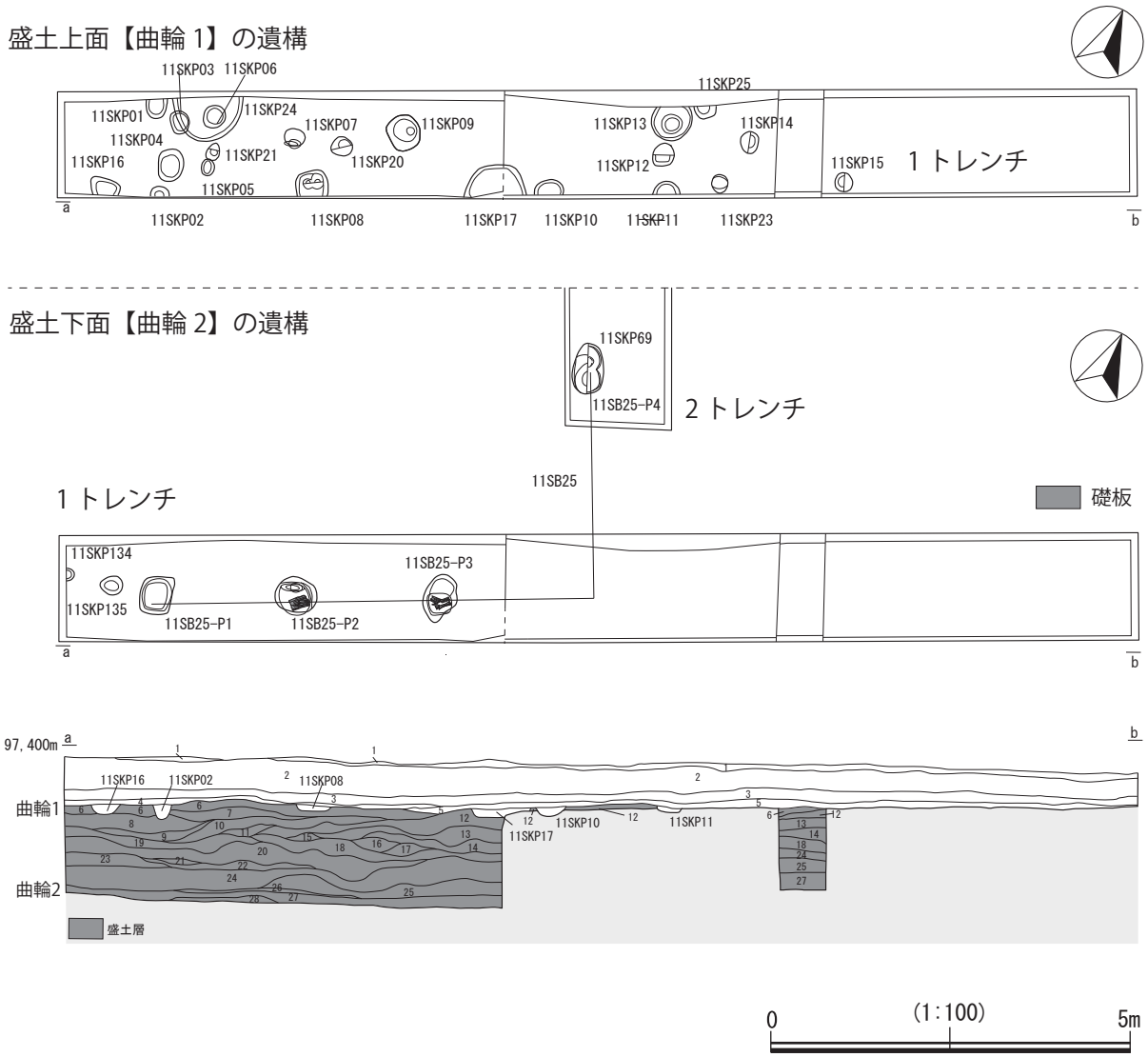
各トレンチについて

【１トレンチ】

曲輪１北西端部に南北1.5m、東西15mで設定した。遺構確認面は曲輪１に対応して、盛土及び地山土であり、曲輪２に対応する盛土下層では地山土であった。

【２トレンチ】

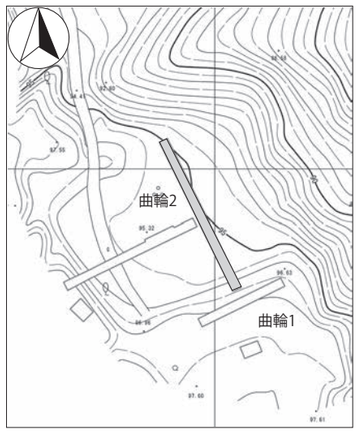
曲輪２中央部及び曲輪１端部に南北27m、東西1.5mで設定した。遺構確認面は曲輪１端部で盛土下層の地山土、曲輪２中央部から南部で地山土、北側で盛土であった。本トレンチにおいては北側で下層から、地山土、自然堆積土、盛土、表土の順で堆積状況を示すが、自然堆積土上面及び盛土内、盛土上面の遺構確認面より採取した炭化材を用いて放射性炭素年代測定を実施した。その結果、自然堆積土上面では約2,600年前、盛土内及び盛土上面の遺構確認面では320 ～ 330年前に形成されたものであること

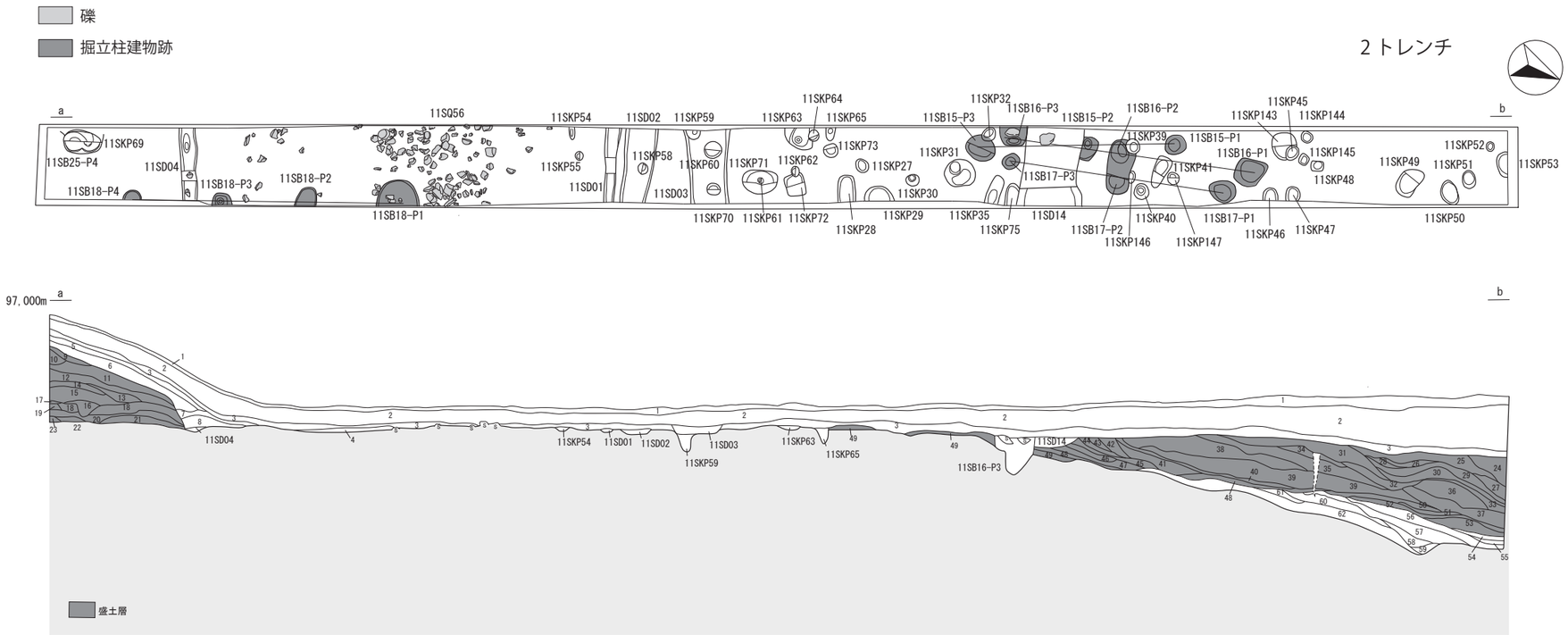


1トレンチ　a-b土層注記

1. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 ［表土］
2. 褐色(10YR4/4) シルト しまり弱～中
3. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中～強
4. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘土 しまり強 下位は砂利を層状に含む
5. 浅黄色(2.5Y7/3) 粘土 しまり強 黄褐(10YR5/8)粘質土斑状に40%含む 砂利を層状に2%含む 炭化物チップ部分的に含む
6. 浅黄色(2.5Y7/3) 粘土 しまり強 浅黄色(2.5Y7/4)粘土を25%含む 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土を25%含む 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土を25%含む ［盛土］
7. 灰黄色(2.5Y7/2) 粘土 しまり強 ［盛土］
8. 灰黄色(2.5Y7/2) 粘土 しまり強 ［盛土］
9. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘土 しまり強 灰黄色(2.5Y7/2)粘土小ブロックを30%含む ［盛土］
10. 灰黄色(2.5Y7/2) 粘土 しまり強 ［盛土］
11. 灰黄色(2.5Y7/2) 粘土 しまり強 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土小ブロックを25%含む 黒褐色粘土小ブロック25%含む 炭化物小ブロック2%含む ［盛土］
12. 明黄褐色(2.5Y6/6) 粘土 しまり中 灰黄色(2.5Y7/2)粘土小ブロックを30%含む 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土小ブロックを30%含む 炭化物小ブロックを2%含む ［盛土］
13. 黒褐色(10YR3/2) 粘土 しまり中 灰黄色(2.5Y7/2)粘土小ブロックを20%含む ［盛土］
14. 明黄褐色(2.5Y6/6) 粘土 しまり中 黄灰色(2.5Y4/1)粘土小ブロックを40%含む 炭化物チップ10%含む ［盛土］
15. 明黄褐色(2.5Y6/6) 粘土 しまり中～強 灰黄色(2.5Y7/2)粘土小ブロックを30%含む 灰黄色(2.5Y6/2)粘土小ブロックを25%含む ［盛土］
16. 明黄褐色(2.5Y6/6) 粘土 しまり中 灰黄色(2.5Y7/2)粘土小ブロックを30%含む 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土小ブロックを30%含む 炭化物小ブロックを2%含む ［盛土］
17. 灰黄色(2.5Y7/2) 粘土 しまり強 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土小ブロックを25%含む 黒褐色粘土小ブロック25%含む 炭化物小ブロック2%含む ［盛土］
18. 灰黄色(2.5Y7/2) 粘土 しまり中～強 ［盛土］
19. 灰白色(2.5Y7/1) 粘土 しまり強 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土ブロック20%含む 炭化物ブロック3%含む ［盛土］
20. 灰黄色(2.5Y7/2) 粘土 しまり強 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土ブロック40%含む 炭化物チップ2%含む ［盛土］
21. 灰黄色(2.5Y6/2) 粘土 しまり強 ［盛土］
22. 暗灰黄色(2.5Y5/2) 粘土 しまり中～強 地山ブロック含む ［盛土］
23. 灰黄色(2.5Y6/2) 粘土 しまり強 ［盛土］
24. 灰黄色(2.5Y7/2) 粘土 しまり中～強 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土ブロック10%含む ［盛土］
25. 灰黄色(2.5Y6/2) 粘土 しまり強 褐灰色(10YR4/1)粘土ブロック5%含む 炭化物チップ2%含む 炭化物チップ1%含む ［盛土］
26. 灰黄褐色(10YR4/2) 粘土 しまり中～強 炭化物チップ3%含む ［盛土］
27. 灰黄色(2.5Y6/2) 粘土 しまり強 炭化物チップ1%含む ［盛土］
28. 褐灰色(10YR4/1) 粘土 しまり中～強 炭化物チップ2%含む ［盛土］

第38図　1トレンチ遺構面別平面図・断面図



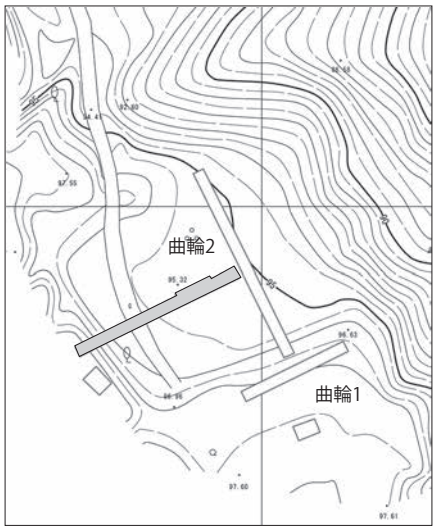


2トレンチ a-b土層注記

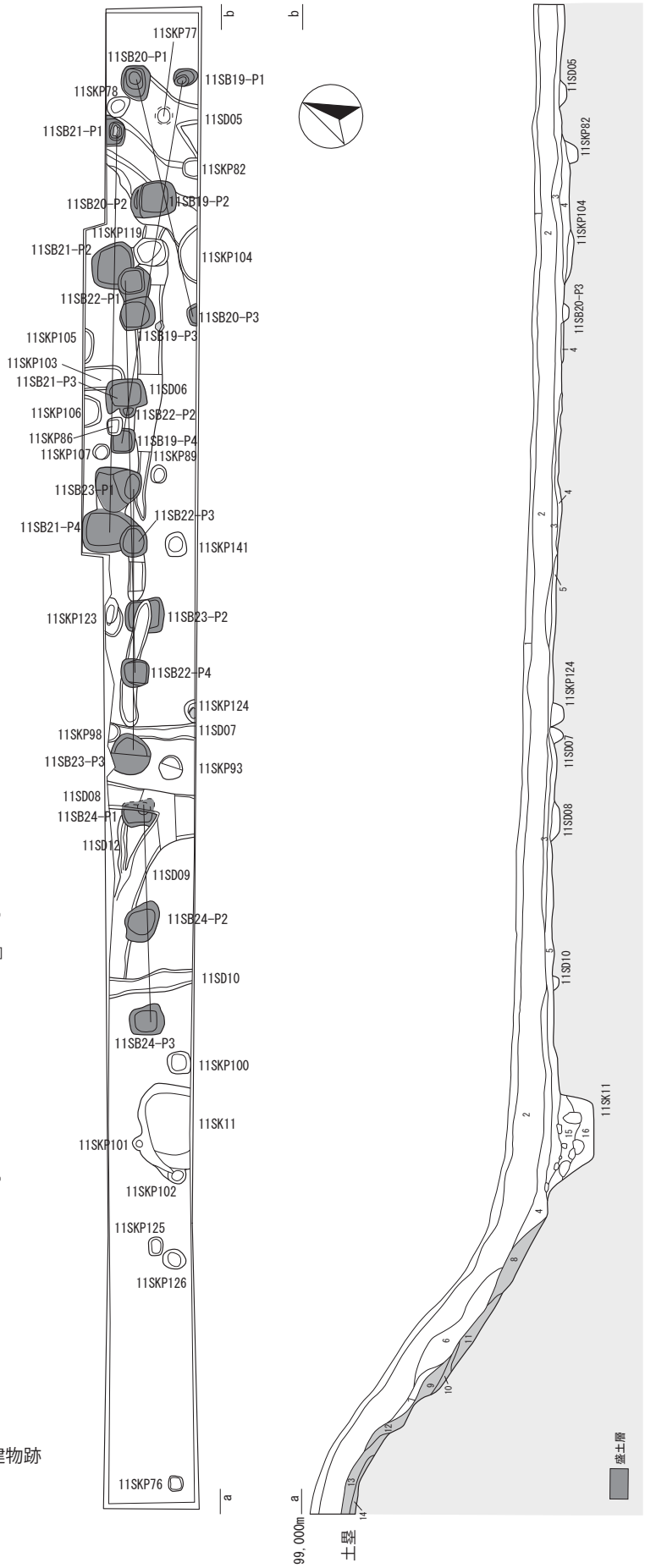
1. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 ［表土］
2. 褐色(10YR4/4) シルト しまり弱～中
3. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中～強
4. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘土 しまり強 下位は砂利を層状に含む
5. にぶい黄燈色(10YR6/4) シルト しまり中 にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト30%含む
6. にぶい黄燈色(10YR6/4) シルト しまり中 にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト10%含む 黄褐色(10YR5/8)シルト10%含む 炭化物ブロック1%含む
7. 浅黄色(2.5Y7/3) 粘土 しまり強 ［崩落土］
8. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘土 しまり強 黄褐色(10YR5/8)粘土3%含む 炭化物粒3%含む ［崩落土］
9. 灰色(5Y6/1) 粘土 しまり強 灰白色(5Y7/3)粘土ブロック10%含む ［盛土］
10. 9層と同様だが、10層はブロックの単位が明瞭観察できる ［盛土］
11. にぶい黄燈色(10YR6/4) シルト しまり中 にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト10%含む 黄褐色(10YR5/8)シルト10%含む 灰色(5Y4/1)粘土ブロック5%含む 炭化物ブロック1%含 ［盛土］
12. にぶい黄燈色(10YR6/4) シルト しまり中 にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト10%含む 黄褐色(10YR5/8)シルト10%含む 灰色(5Y4/1)粘土ブロック5%含む 炭化物ブロック1%含 ［盛土］
13. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘土 しまり弱 炭化物粒2%含む ［盛土］
14. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘土 しまり弱 灰黄褐色(10YR4/2)粘土10%含む 炭化物粒2%含む ［盛土］
15. 灰オリーブ色(5Y6/2) 粘土 しまり強 ［盛土］
16. 灰黄色(2.5Y7/2) 粘土 しまり強 アマ岩の塊が入り込んだもの ［盛土］
17. 灰白色(5Y7/2) 粘土 しまり強 暗灰黄褐色(2.5Y4/2)粘土層状に20%含む ［盛土］
18. 灰黄色(2.5Y7/2) 粘土 しまり強 灰黄褐色(10YR4/2)粘土40%含む 炭化物ブロック2%含 ［盛土］
19. 灰黄色(2.5Y7/2) 粘土 しまり強 ひとつの粘土塊 ［盛土］
20. 灰黄褐色(10YR4/2) 粘土 しまり強 にぶい黄色(2.5Y6/3)粘土20%含む 炭化物チップ2%含む ［盛土］
21. 灰黄褐色(10YR4/2) 粘土 しまり強 灰黄(2.5Y7/2)粘土30%含む ［盛土］
22. 黒色(N1.5/1) 粘土 しまり強 炭化物粒含む ［盛土］
23. 灰黄(2.5Y7/2) 粘土 しまり強 灰黄褐色(10YR4/2)粘土50%含む ［盛土］
24. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘土 しまり強 ［盛土］
25. 暗褐色(10YR3/3) 粘土 しまり強 黒褐色(10YR2/2)粘土30%含む 明褐色(10YR5/8)粘土30%含む 炭化物チップ含む ［盛土］
26. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘土 しまり強 明褐色(7.5YR5/8)粘土粒状に40%含む 炭化物小ブロック含む ［盛土］
27. 黒褐色(10YR3/2) 粘土 しまり強 にぶい黄色(2.5Y6/3)粘土小ブロック30%含む ［盛土］
28. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘土 しまり強 暗褐色(10YR4/3)粘土小ブロック30%含む 明褐色(7.5YR5/8)粘土小ブロック30%含む 炭化物小ブロック含む ［盛土］
29. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘土 しまり強 明褐色(7.5YR5/8)粘土粒状に40%含む 炭化物小ブロック含む ［盛土］
30. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘土 しまり強 灰黄褐色(10YR4/2)粘土20%含む 炭化物含む ［盛土］
31. 褐色(10YR4/4) シルト しまり強 チップ状炭化物2%含む ［盛土］
32. 灰黄褐色(10YR4/2) 粘土 しまり強 にぶい黄色(2.5Y6/3)粘土30%含む 炭化物ブロック・チップ25%含む ［盛土］
33. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘土 しまり強 ［盛土］
34. にぶい黄色(2.5Y6/4) 粘土 しまり強 黄褐色(10YR5/8)粘土20%含む 黒褐色(10YR2/3)粘土20%含む ［盛土］
35. 浅黄色(2.5Y7/3) 粘土 しまり強 黄褐色(10YR5/8)粘土30%含む ［盛土］
36. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘土 しまり強 ［盛土］
37. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘土 しまり中～強 褐色(10YR4/4)粘土50%含む ［盛土］
38. にぶい黄色(2.5Y6/4) 粘土 しまり強 黄褐色(10YR5/8)粘土20%含む 黒褐色(10YR2/3)粘土20%含む 砂利1%含む ［盛土］
39. にぶい黄色(2.5Y6/4) 粘土 しまり強 黄褐色(10YR5/8)粘土40%含む ［盛土］
40. にぶい黄褐色(10YR5/3) 粘土 しまり強 浅黄色(2.5Y7/4)粘土30%含む 黄褐色(10YR5/8)粘土20%含む 炭化物チップ1%含む ［盛土］
41. 浅黄色(2.5Y7/4) 粘土 しまり強 黄褐色(10YR5/8)粘土20%含む ［盛土］
42. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘土 しまり中 黄褐色(10YR5/8)粘土20%含む 灰黄(2.5Y7/2)粘土20%含む 黒褐色(10YR3/2)粘土5%含む ［盛土］
43. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘土 しまり中 黄褐色(10YR5/8)粘土20%含む 灰黄(2.5Y7/2)粘土20%含む 黒褐色(10YR3/2)粘土5%含む ［盛土］
44. にぶい黄褐色(10YR5/3) 粘土 しまり中 浅黄色(2.5Y7/4)粘土30%含む 黄褐色(10YR5/8)粘土20%含む 炭化物1%含む ［盛土］
45. 灰黄色(2.5Y7/2) 粘土 しまり中 ［盛土］
46. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘土 しまり中 黒褐色(10YR2/2)50%含む 炭化物ブロック2%含む ［盛土］
47. 灰黄(2.5Y7/2) 粘土 しまり中 明黄褐色(10YR5/8)粘土40%含む 黒褐色(10YR2/2)10%含む ［盛土］
48. 灰黄褐色(10YR5/2) 粘土 しまり強 ［盛土］
49. 浅黄(2.5Y7/3) 粘土 しまり中 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土30%含む ［盛土］
50. 黄褐色(10YR5/6) 粘土 しまり強 黒褐色(10YR3/2)粘土30%含む 炭化物チップ1%含む ［盛土］
51. にぶい黄燈(10YR6/4) 粘土 しまり強 炭化物チップ1%含む ［盛土］
52. 黄褐色(10YR4/4) 粘土 しまり強 黒褐色(10YR3/2)粘土30%含む 炭化物チップ1%含む ［盛土］
53. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘土 しまり強 にぶい黄燈(10YR6/4)ブロック40%含む 黒褐色(10YR3/2) 55%含む 炭化物チップ2%含む ［盛土］
54. 黒褐色(10YR3/2) 粘土 しまり強 炭化物チップ1%含む ［自然堆積土］
55. 黒褐色(10YR3/2) 粘土 しまり強 炭化物チップ1%含む ［自然堆積土］
56. 黒褐色(10YR3/2) 粘土 しまり強 炭化物チップ1%含む ［自然堆積土］
57. 黒褐色(10YR3/2) 粘土 しまり強 炭化物チップ2%含む ［自然堆積土］
58. 灰黄褐色(10YR5/2) 粘土 しまり強 炭化物チップ1%含む ［自然堆積土］
59. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘土 しまり強 暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト30%含む 炭化物チップ3%含む ［自然堆積土］
60. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘土 しまり強 暗褐色粘土(10YR4/3) 30%含む 炭化物チップ含む ［自然堆積土］
61. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘土 しまり中 ［自然堆積土］
62. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘土 しまり強 ［自然堆積土］

0 (1:100) 5m

第39図　2トレンチ平面図・断面図



3トレンチ



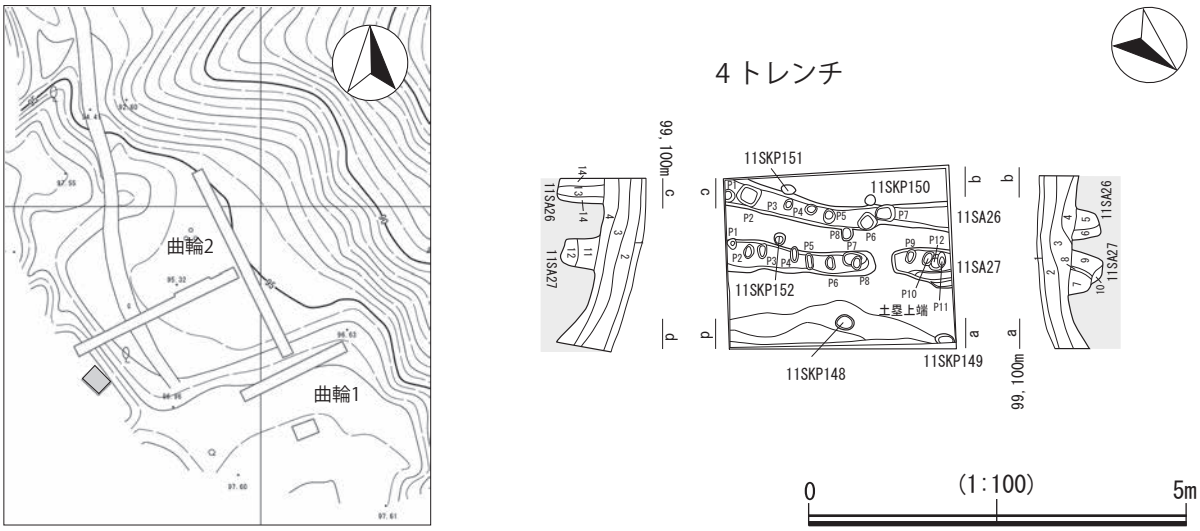
3トレンチ　a-b土層注記

1. 褐色(10YR4/4) シルト 表土
2. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 粘性あり
3. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中 粘性あり 炭化物チップ含む
4. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘土 しまり強 炭化物小ブロックを5%含む 地山土小ブロックを20%含む
5. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘土 しまり強 地山土30%含む 炭化物チップ5%含む
6. 褐色(10YR4/4) シルト しまり強 粘性なし［崩落土］
7. オリーブ褐色(2.5Y4/6) シルト しまり中 粘性あり 褐色粘土をブロック状に4%含む［崩落土］
8. 褐色(10YR4/4) シルト しまり強 粘性なし［盛土］
9. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまり強 粘性あり［盛土］
10. 浅黄色(2.5Y7/3) 粘土 しまり中 粘性あり［盛土］
11. 褐色(10YR4/4) シルト しまり弱 粘性あり［盛土］
12. 褐色(10YR4/4) シルト しまり強 粘性あり［盛土］
13. 褐色(10YR4/4) シルト しまり強 粘性あり［盛土］
14. 褐色(10YR4/4) シルト しまり強 粘性あり［盛土］
15. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘土 しまり強 地山土30%含む 炭化物チップ5%含む［11SK11］
16. 灰黄色(10YR7/2) 粘土 しまり強［11SK11］

掘立柱建物跡
礫

0　(1:100)　5m

第40図　3トレンチ平面図・断面図



4トレンチ　a-b／c-d土層注記
1. 褐色(10YR4/4) シルト［表土］
2. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中
3. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中
4. 褐色(10YR4/4) しまり強　黄褐色(10YR5/8)粘土大小ブロック10%含む　炭化物チップ1%含む
5. 褐色(10YR4/4) 粘土 しまり強　黄褐色(10YR5/8)粘土大小ブロック20%含む　炭化物チップ2%含む［11SA26］
6. 褐色(10YR4/4) 粘土 しまり強　黄褐色(10YR5/8)粘土15%含む　にぶい黄色(2.5Y6/4)粘土[地山土]15%含む　炭化物チップ1%含む［11SA26］
7. 褐色(10YR4/4) 粘土 しまり強　炭化物チップ含む（4層に類似する）［11SA27］
8. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘土 しまり中～強［11SA27］
9. にぶい黄色(2.5Y6/3) 粘土 しまり強［11SA27］
10. にぶい黄褐色(10YR4/2) 粘土 しまり中～強［11SA27］
11. 黄褐色(2.5Y5/3) 粘土 しまり強［11SA27］
12. 黄灰色(2.5Y7/2) 粘土 しまり強［11SA27］
13. にぶい黄褐色(2.5Y6/4) 粘土 しまり中～強［11SA26］
14. 黄褐色(2.5Y7/3) 粘土 しまり中［11SA26］

第41図　４トレンチ平面図・断面図

が明らかとなった。

【３トレンチ】

曲輪２中央部から西側土塁端部に南北1.5m、東西23.5mで設定した。遺構確認面は、曲輪２の曲輪平坦面が地山土であり、西側土塁部は盛土内であった。盛土上面を確認面として、11SKP76が１基確認された。

【４トレンチ】

西側土塁頂部平坦面に南北３ｍ、東西2.4mで設定した。遺構確認面は全面地山土であった。

【５トレンチ】

曲輪１中央部に南北２ｍ、東西３ｍで設定した。遺構確認面は曲輪１に対応する盛土上面、曲輪２に対応する盛土下面の地山であったが、盛土中面からも遺構が検出された。

11SB25掘立柱建物跡（第37・38・43図）

１・２トレンチの盛土下層から検出された。Ｐ１～Ｐ４で構成され、確認された規模は桁行３間×梁行１間である。軸線方向はN－62°－Eである。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。確認された柱間はＰ１－Ｐ２が1.96m、Ｐ２－Ｐ３が1.96mとなり、Ｐ３とＰ４を結ぶ１か所に１基の柱穴の存在が予見されたが、確認できなかった。盛土及び盛土下層は非常に鉄分が多く、遺構は盛土下で白い粘土状のプランに鉄分が周囲をふちどるように確認された。またＰ２では底面から長さ

26cm×幅17cm×厚さ６cmのスギ材の礎板が検出された。礎板は手斧と鋸によって整形された痕跡が確認される。同様にＰ３からも礎板が検出されているが、風化が激しく詳細は不明である。Ｐ１の覆土中からはウメの種が出土している。盛土による曲輪１造成以前の遺構である。

11SB15～24掘立柱建物跡（第39・40図）

11SB15～11SB24は梁桁を含めて確認されておらず、柱穴列としてのみ確認されているものである。概報時（男鹿市教育委員会2004）には掘立柱建物跡として報告されているため、本報告書でもその記述に従うが、建物跡であるか否かの検証は今後の検討課題となっている。そのため本報告書では平面図内で、色塗りの柱穴とすることで示すにとどめた。いずれの遺構も盛土層上面を遺構確認面として検出された。

11SB15掘立柱建物跡（第39図）

南北２間の柱穴列として検出された。軸線方向はN－28°－Wである。確認高は北に向かってやや低くなり差は６cmである。柱間はP１－Ｐ２が1.6m、Ｐ２－Ｐ３が2.0mである。

11SB16掘立柱建物跡（第39図）

南北２間の柱穴列として検出された。Ｐ２での重複関係から、11SB17よりも古い。軸線方向はN－16°－Wである。確認高は北に向かってやや低くなり差は20cmである。柱間はP１－Ｐ２が2.4m、Ｐ２－Ｐ３が2.0mである。

11SB17掘立柱建物跡（第39図）

南北２間の柱穴列として検出された。Ｐ２での重複関係から、SB16よりも新しい。軸線方向はN－19°－Wである。確認高は北に向かってやや低くなり差は18cmある。柱間はP１－Ｐ２－Ｐ３ともに1.9mである。

11SB18掘立柱建物跡（第39図）

南北３間の柱穴列として検出された。軸線方向はN－23°－Wである。柱間はP１－Ｐ２－Ｐ３－Ｐ４ともに1.6mである。

11SB19掘立柱建物跡（第40図）

東西３間の柱穴列として検出された。Ｐ２の重複関係から11SB20よりも古い。軸線方向はN－77°－Eである。柱間はP１－Ｐ２が1.9m、Ｐ２－Ｐ３が1.9m、Ｐ３－Ｐ４が2.0mである。

11SB20掘立柱建物跡（第40図）

東西３間の柱穴列として検出された。Ｐ２の重複関係から11SB19よりも新しい。軸線方向はN－51°－Eである。柱間はP１－Ｐ２－Ｐ３ともに1.9mである。

11SB21掘立柱建物跡（第40図）

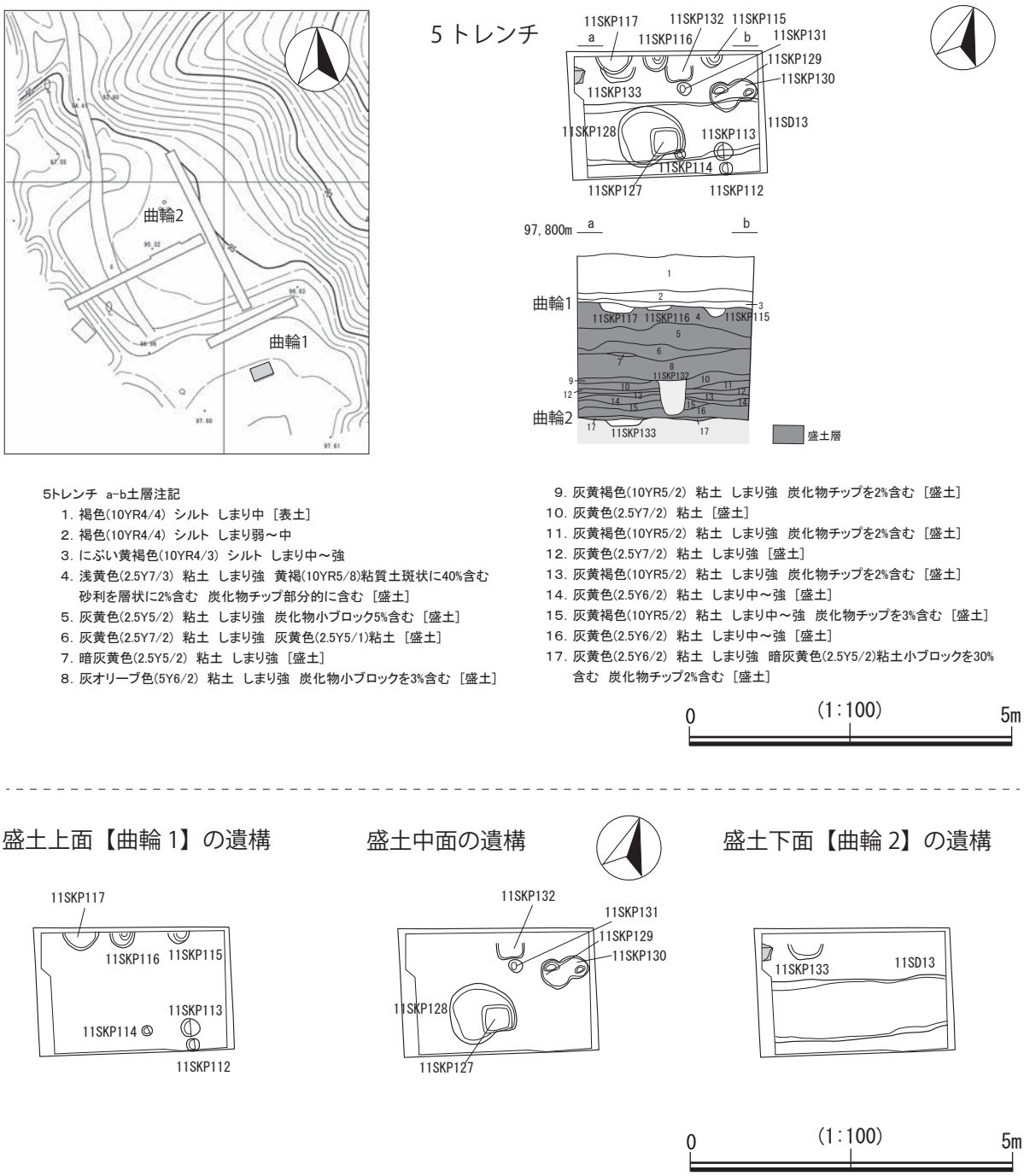
東西３間の柱穴列として検出された。Ｐ２の重複関係から11SB22よりも古い。軸線方向はN－55°－Eである。柱間はP１－Ｐ２が2.1m、Ｐ２－Ｐ３が2.1m、Ｐ３－Ｐ４が2.2mである。

11SB22掘立柱建物跡（第40図）

東西３間の柱穴列として検出された。Ｐ１の検出状況から11SB21よりも新しい。軸線方向はN－55°－Eである。柱間はP１－Ｐ２が2.0m、Ｐ２－Ｐ３が2.0m、Ｐ３－Ｐ４が2.1mである。

11SB23掘立柱建物跡（第40図）

東西２間の柱穴列として検出された。軸線方向はN－54°－Eである。柱間はP１－Ｐ２－Ｐ３ともに



5トレンチ　a–b土層注記

1. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり中［表土］
2. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり弱～中
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)　シルト　しまり中～強
4. 浅黄色(2.5Y7/3)　粘土　しまり強　黄褐(10YR5/8)粘質土斑状に40%含む　砂利を層状に2%含む　炭化物チップ部分的に含む［盛土］
5. 灰黄色(2.5Y5/2)　粘土　しまり強　炭化物小ブロック5%含む［盛土］
6. 灰黄色(2.5Y7/2)　粘土　しまり強　灰黄色(2.5Y5/1)粘土［盛土］
7. 暗灰黄色(2.5Y5/2)　粘土　しまり強［盛土］
8. 灰オリーブ色(5Y6/2)　粘土　しまり強　炭化物小ブロックを3%含む［盛土］
9. 灰黄褐色(10YR5/2)　粘土　しまり強　炭化物チップを2%含む［盛土］
10. 灰黄色(2.5Y7/2)　粘土［盛土］
11. 灰黄褐色(10YR5/2)　粘土　しまり強　炭化物チップを2%含む［盛土］
12. 灰黄色(2.5Y7/2)　粘土　しまり強［盛土］
13. 灰黄褐色(10YR5/2)　粘土　しまり強　炭化物チップを2%含む［盛土］
14. 灰黄色(2.5Y6/2)　粘土　しまり中～強［盛土］
15. 灰黄褐色(10YR5/2)　粘土　しまり中～強　炭化物チップを3%含む［盛土］
16. 灰黄色(2.5Y6/2)　粘土　しまり中～強［盛土］
17. 灰黄色(2.5Y6/2)　粘土　しまり強　暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土小ブロックを30%含む　炭化物チップ2%含む［盛土］

第42図　５トレンチ平面図・断面図・遺構面別平面図

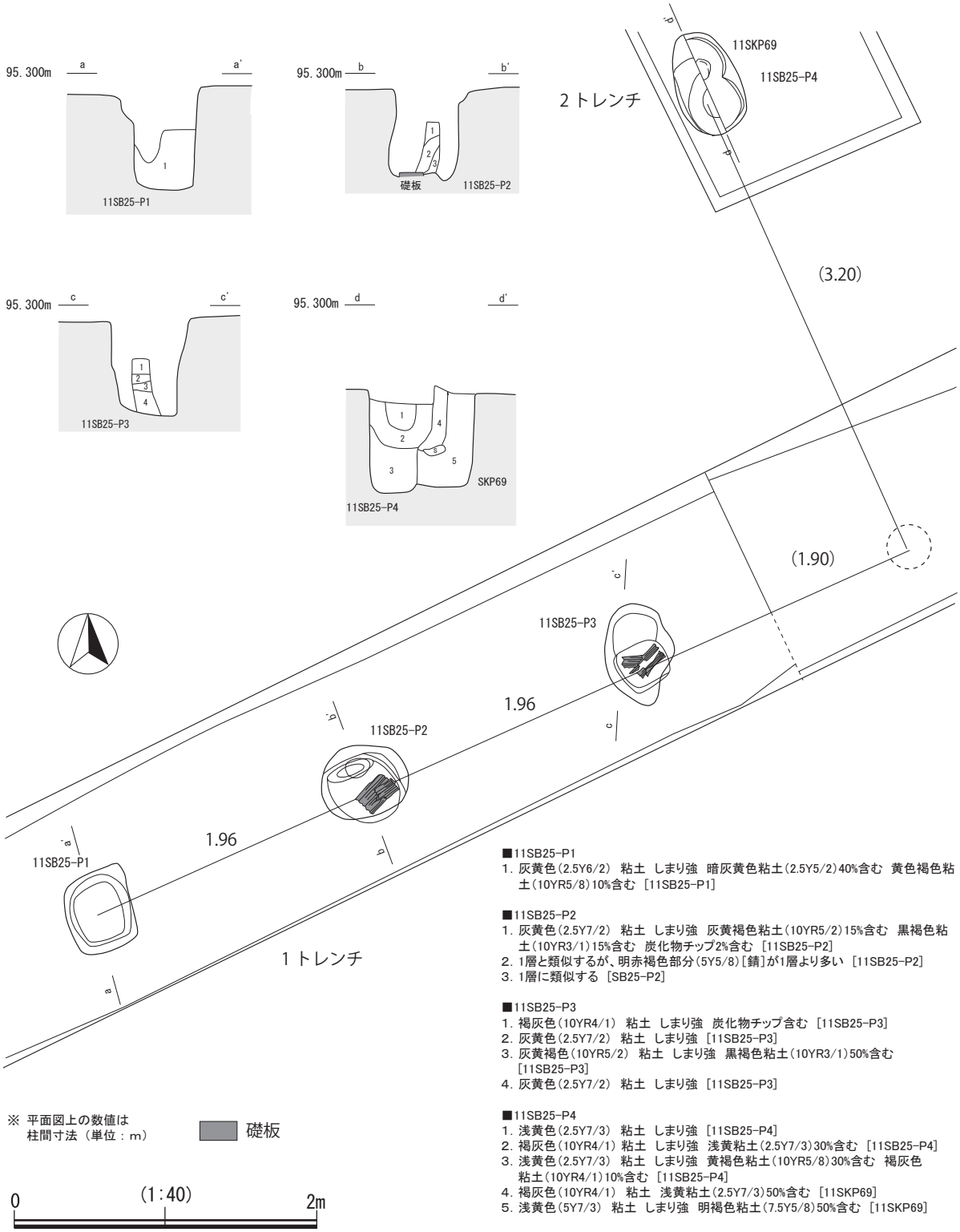
2.1mである。

11SB24掘立柱建物跡（第40図）

東西２間の柱穴列として検出された。軸線方向はN－53°－Eである。柱間はＰ１－Ｐ２が1.7m、Ｐ２－Ｐ３が1.6mである。

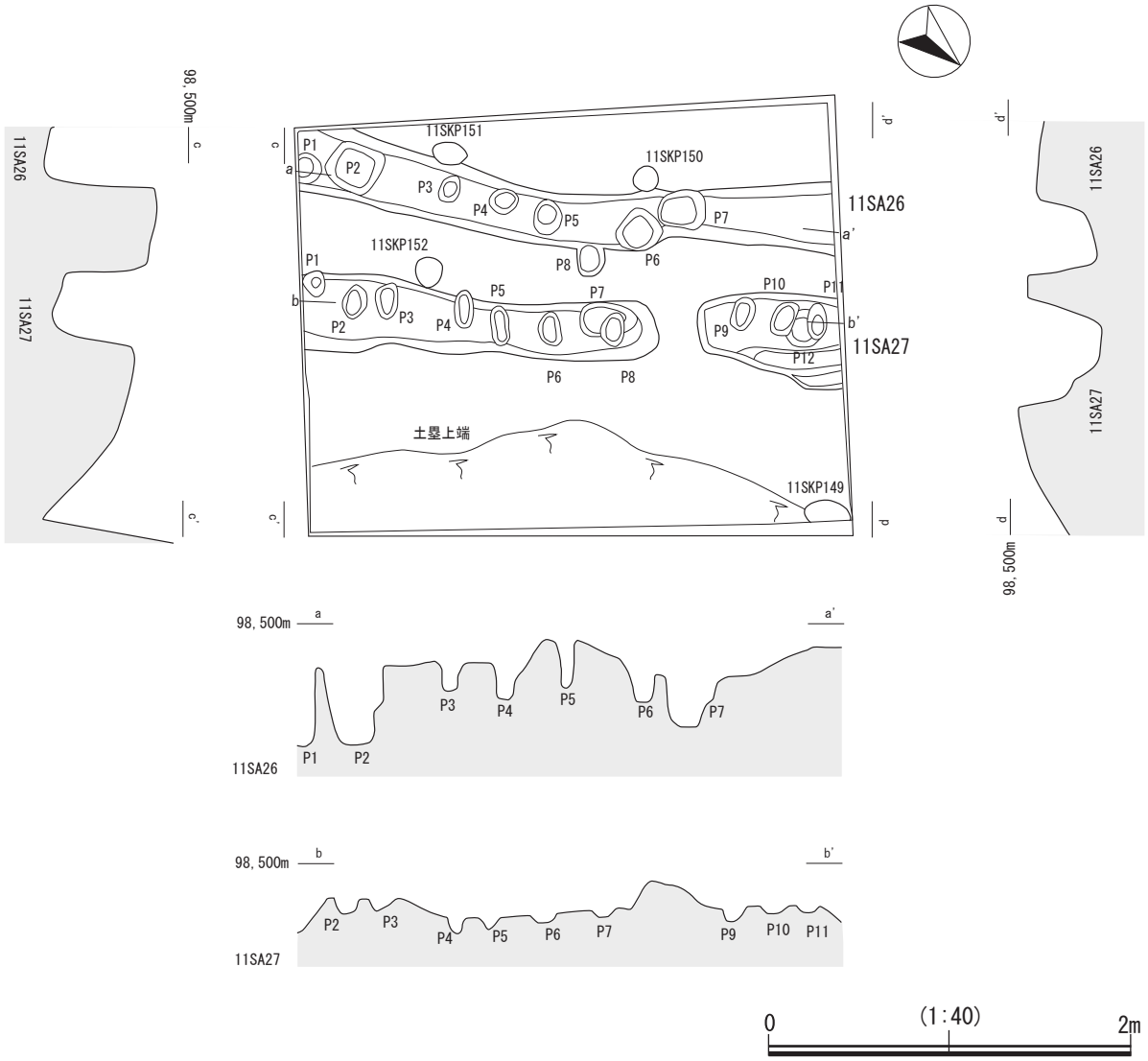
11SA26・SA27塀跡（第41・44図）

土塁頂上部に設定した４トレンチ内から土塁とほぼ並行に並んで検出された。11SA26は幅40cm、深さ15 cm、底部はほぼ平坦で立ち上がりは急である。覆土は地山土を多量に含んだ粘土質土で、一括で埋め戻されたと考えられる。布堀状の掘り込みの内部からＰ１～Ｐ８の柱穴が確認され、一連の遺構と



第43図　11SB25

判断した。11SA27は幅50cm、深さ12cm、底面はほぼ平坦で立ち上がりは急である。南から約２m地点で約20cmにわたり掘り込みが途切れるものの、一連の遺構と判断した。覆土は11SA26と同様で一括で埋め戻されたと考えられる。布堀状の掘り込みの内部からP１～P12の柱穴が確認され、一連の遺構と判断した。並行して確認された11SA26と27の重複関係は不明であるものの、土塁頂上部で検出された柱穴を伴う溝跡という点から塀跡であると推定される。他の調査においても土塁上からは溝跡が確認さ



第44図　11SA26・27

れている。

③出土遺物（第45～48図）

遺物は238点出土している（その他を含めない）。点数は接合後の破片数である。中世陶磁器は131点出土し、貿易陶磁器が70点（53.4%）、国産陶器61点（46.6%）である。

陶磁器の年代については、白磁はE群の皿が主体で、15世紀後半～16世紀代、染付はC群ないしE群の皿、碗が主体で15世紀後半～16世紀代に位置付けられる。瀬戸美濃は大窯第１段階～第３段階を主体とする。越前においては16世紀後半代が主体となる。

第８表　曲輪1・2（第11次調査）遺構一覧表①

■掘立柱建物跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	建物方位	概報	概報遺構番号	備考
11SB15-P1	第39図	2トレンチ	19	10	35	-	N28W	Ⅲ	SB15-P1	
11SB15-P2			41	(44)	-			Ⅲ	SB15-P2	
11SB15-P3			14	56	45			Ⅲ	SB15-P3	
11SB16-P1	第39図	2トレンチ	44	51	50	-	N16W	Ⅲ	SB16-P1	
11SB16-P2			54	38	33			Ⅲ	SB16-P2	
11SB16-P3			67	(50)	-			Ⅲ	SB16-P3	
11SB17-P1	第39図	2トレンチ	44	51	41	-	N19W	Ⅲ	SB17-P1	
11SB17-P2			28	(46)	-			Ⅲ	SB17-P2	
11SB17-P3			38	33	27			Ⅲ	SB17-P3	
11SB18-P1	第39図	2トレンチ	6	(76)	-	-	N23W	Ⅲ	SB18-P1	
11SB18-P2			9	(41)	-			Ⅲ	SB18-P2	
11SB18-P3			37	(39)	-			Ⅲ	SB18-P3	
11SB18-P4			5	(36)	-			Ⅲ	SB18-P4	
11SB19-P1	第40図	3トレンチ	15	35	28	-	N77E	Ⅲ	SB19-P1	
11SB19-P2			63	(58)	-			Ⅲ	SB19-P2	
11SB19-P3			73	55	48			Ⅲ	SB19-P3	
11SB19-P4			37	39	36			Ⅲ	SB19-P4	
11SB20-P1	第40図	3トレンチ	22	52	44	-	N51E	Ⅲ	SB20-P1	
11SB20-P2			44	(46)	-			Ⅲ	SB20-P2	
11SB20-P3			13	(35)	-			Ⅲ	SB20-P3	
11SB21-P1	第40図	3トレンチ	13	(48)	-	-	N55E	Ⅲ	SB21-P1	
11SB21-P2			41	72	65			Ⅲ	SB21-P2	
11SB21-P3			71	62	46			Ⅲ	SB21-P3	
11SB21-P4			65	(80)	-			Ⅲ	SB21-P4	
11SB22-P1	第40図	3トレンチ	54	42	40	-	N55E	Ⅲ	SB22-P1	
11SB22-P2			14	(22)	-			Ⅲ	SB22-P2	
11SB22-P3			72	(56)	-			Ⅲ	SB22-P3	
11SB22-P4			47	44	40			Ⅲ	SB22-P4	
11SB23-P1	第40図	3トレンチ	61	(54)	-	-	N54E	Ⅲ	SB23-P1	
11SB23-P2			90	56	52			Ⅲ	SB23-P2	
11SB23-P3			15	(62)	-			Ⅲ	SB23-P3	
11SB24-P1	第40図	3トレンチ	61	(50)	-	-	N53E	Ⅲ	SB24-P1	
11SB24-P2			49	68	52			Ⅲ	SB24-P2	
11SB24-P3			48	48	42			Ⅲ	SB24-P3	
11SB25-P1	第37図 第38図 第43図	1トレンチ	67	52	45	-	N62E	Ⅲ	SB25-P1	
11SB25-P2			63	59	53			Ⅲ	SB25-P2	礎板
11SB25-P3			68	67	47			Ⅲ	SB25-P3	礎板
11SB25-P4		2トレンチ	78	46	34			Ⅲ	SB25-P4	

■柱穴列・塀・柵跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
11SA26	第41図 第44図	4トレンチ	15	(幅)40	-	-	Ⅲ	SD26	
11SA26-P1			42	18	18		Ⅲ	P1	
11SA26-P2			43	30	25		Ⅲ	P2	
11SA26-P3			17	14	11		Ⅲ	P3	
11SA26-P4			20	15	14		Ⅲ	P4	
11SA26-P5			27	20	16		Ⅲ	P5	
11SA26-P6			16	14	11		Ⅲ	P6	
11SA26-P7			28	27	18		Ⅲ	P7	
11SA26-P8			11	15	-		Ⅲ	-	
11SA27	第41図 第44図	4トレンチ	12	(幅)50	-	青磁皿(第45図-7)	Ⅲ	SD27	
11SA27-P1			不明	15	14		Ⅲ	P1	
11SA27-P2			11	18	12		Ⅲ	P2	
11SA27-P3			11	20	12		Ⅲ	P3	
11SA27-P4			11	20	8		Ⅲ	P4	
11SA27-P5			5	20	8		Ⅲ	P5	
11SA27-P6			5	18	10		Ⅲ	P6	
11SA27-P7			13	32	18		Ⅲ	P7	
11SA27-P8			8	18	12		Ⅲ	P8	
11SA27-P9			9	20	11		Ⅲ	P9	
11SA27-P10			4	20	11		Ⅲ	P10	
11SA27-P11			7	20	10		Ⅲ	P11	
11SA27-P12			14	22	21		Ⅲ	P12	

第９表　曲輪1・2（第11次調査）遺構一覧表②

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
11SD01	第39図	2トレンチ	11	38	-	Ⅲ	SD01	
11SD02	第39図	2トレンチ	10	58	-	Ⅲ	SD02	
11SD03	第39図	2トレンチ	15	82	-	Ⅲ	SD03	
11SD04	第39図	2トレンチ	10	31	-	Ⅲ	SD04	
11SD05	第40図	3トレンチ	11	102	青磁染付皿【第45図-16】	Ⅲ	SD05	
11SD06	第40図	3トレンチ	22	40	-	Ⅲ	SD06	
11SD07	第40図	3トレンチ	12	22	-	Ⅲ	SD07	
11SD08	第40図	3トレンチ	6	40	-	Ⅲ	SD08	
11SD09	第40図	3トレンチ	8	34	-	Ⅲ	SD09	
11SD10	第40図	3トレンチ	9	36	-	Ⅲ	SD10	
11SD12	第40図	3トレンチ	6	17	-	Ⅲ	SD12	
11SD13	第42図	5トレンチ	8	96	-	Ⅲ	SD13	
11SD14	第39図	2トレンチ	19	118	-	Ⅲ	SD14	

■土坑

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
11SK11	第40図	3トレンチ	68	(130)	-	-	Ⅲ	SK11	

■集石遺構

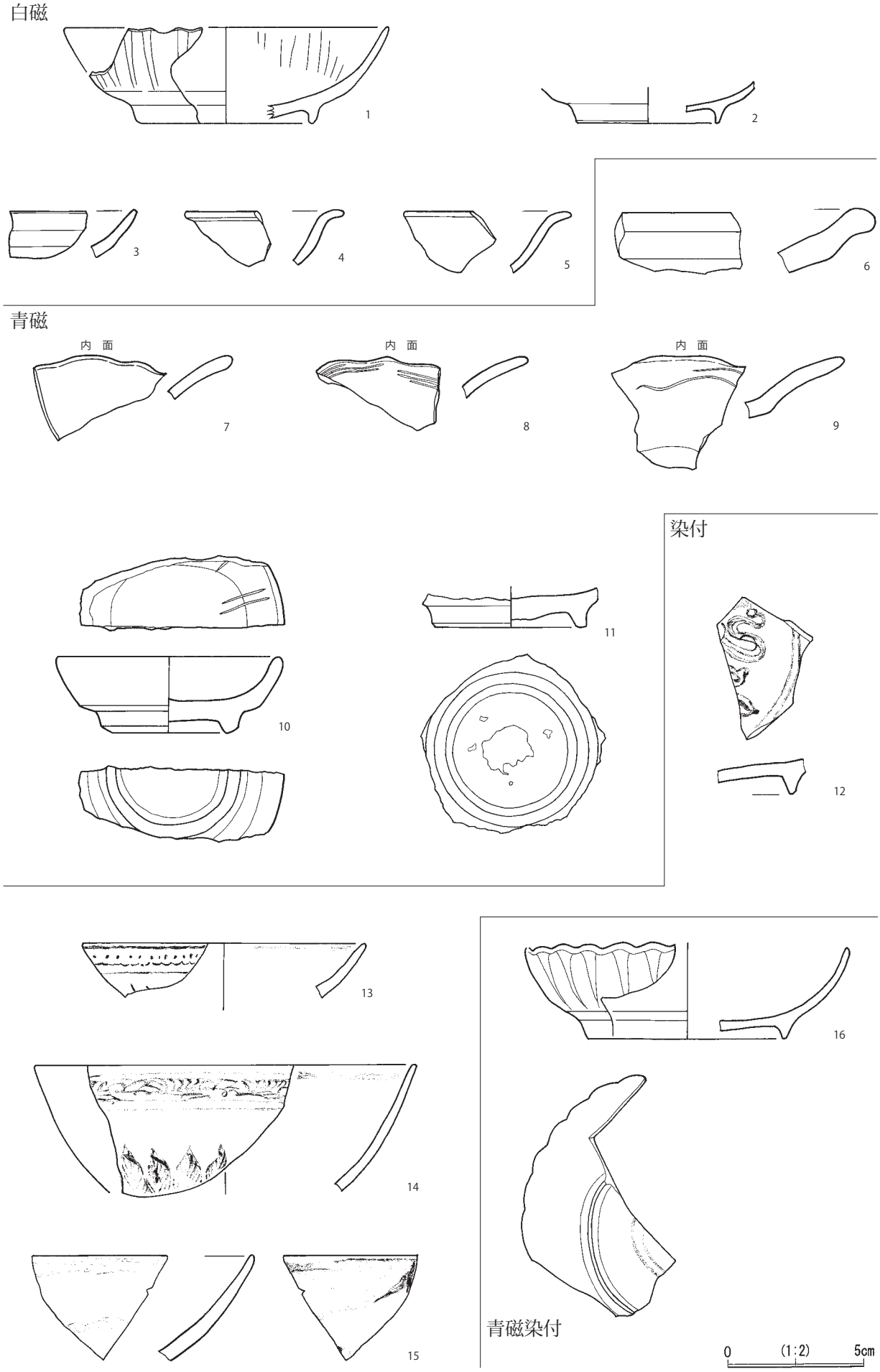
遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
11SQ56	第39図	2トレンチ	-	-	-	-	Ⅲ	SK11	

■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
11SKP01	第37図	1トレンチ	7	(29)	-	-	Ⅲ	P1	
11SKP02	第37図	1トレンチ	7	(24)	-	-	Ⅲ	P2	
11SKP03	第37図	1トレンチ	6	32	26	-	Ⅲ	P3	
11SKP04	第37図	1トレンチ	9	43	34	-	Ⅲ	P4	
11SKP05	第38図	1トレンチ	6	23	17	-	Ⅲ	P5	
11SKP06	第38図	1トレンチ	17	29	28	-	Ⅲ	P6	
11SKP07	第38図	1トレンチ	24	27	24	-	Ⅲ	P7	
11SKP08	第38図	1トレンチ	6	(45)	-	-	Ⅲ	P8	
11SKP09	第38図	1トレンチ	25	50	47	-	Ⅲ	P9	
11SKP10	第38図	1トレンチ	9	(40)	-	-	Ⅲ	P10	
11SKP11	第38図	1トレンチ	7	(35)	-	-	Ⅲ	P11	
11SKP12	第38図	1トレンチ	5	31	39	-	Ⅲ	P12	
11SKP13	第38図	1トレンチ	10	(56)	-	-	Ⅲ	P13	
11SKP14	第38図	1トレンチ	7	30	26	-	Ⅲ	P14	
11SKP15	第38図	1トレンチ	5	23	25	-	Ⅲ	P15	
11SKP16	第38図	1トレンチ	34	(42)	-	-	Ⅲ	P16	
11SKP17	第38図	1トレンチ	10	(81)	-	-	Ⅲ	P17	
11SKP20	第38図	1トレンチ	27	28	24	-	Ⅲ	P20	
11SKP21	第38図	1トレンチ	18	21	17	-	Ⅲ	P21	
11SKP23	第38図	1トレンチ	17	23	22	-	Ⅲ	P23	
11SKP24	第38図	1トレンチ	12	(102)	-	-	Ⅲ	P24	
11SKP25	第38図	1トレンチ	41	(28)	-	-	Ⅲ	P25	
11SKP27	第39図	2トレンチ	26	25	23	-	Ⅲ	P27	
11SKP28	第39図	2トレンチ	4	(33)	-	-	Ⅲ	P28	
11SKP29	第39図	2トレンチ	10	(56)	-	-	Ⅲ	P29	
11SKP30	第39図	2トレンチ	8	22	18	-	Ⅲ	P30	
11SKP31	第39図	2トレンチ	35	55	49	-	Ⅲ	P31	
11SKP32	第39図	2トレンチ	14	27	23	-	Ⅲ	P32	
11SKP35	第39図	2トレンチ	23	(26)	-	-	Ⅲ	P35	
11SKP39	第39図	2トレンチ	54	26	18	-	Ⅲ	P39	
11SKP40	第39図	2トレンチ	24	29	27	-	Ⅲ	P40	
11SKP41	第39図	2トレンチ	19	60	18	-	Ⅲ	P41	
11SKP45	第39図	2トレンチ	5	26	22	-	Ⅲ	P45	
11SKP46	第39図	2トレンチ	3	(26)	-	-	Ⅲ	P46	
11SKP47	第39図	2トレンチ	4	(26)	-	-	Ⅲ	P48	
11SKP48	第39図	2トレンチ	22	23	18	-	Ⅲ	P48	
11SKP49	第39図	2トレンチ	58	58	35	-	Ⅲ	P49	
11SKP50	第39図	2トレンチ	11	46	31	-	Ⅲ	P50	
11SKP51	第39図	2トレンチ	8	33	25	-	Ⅲ	P51	

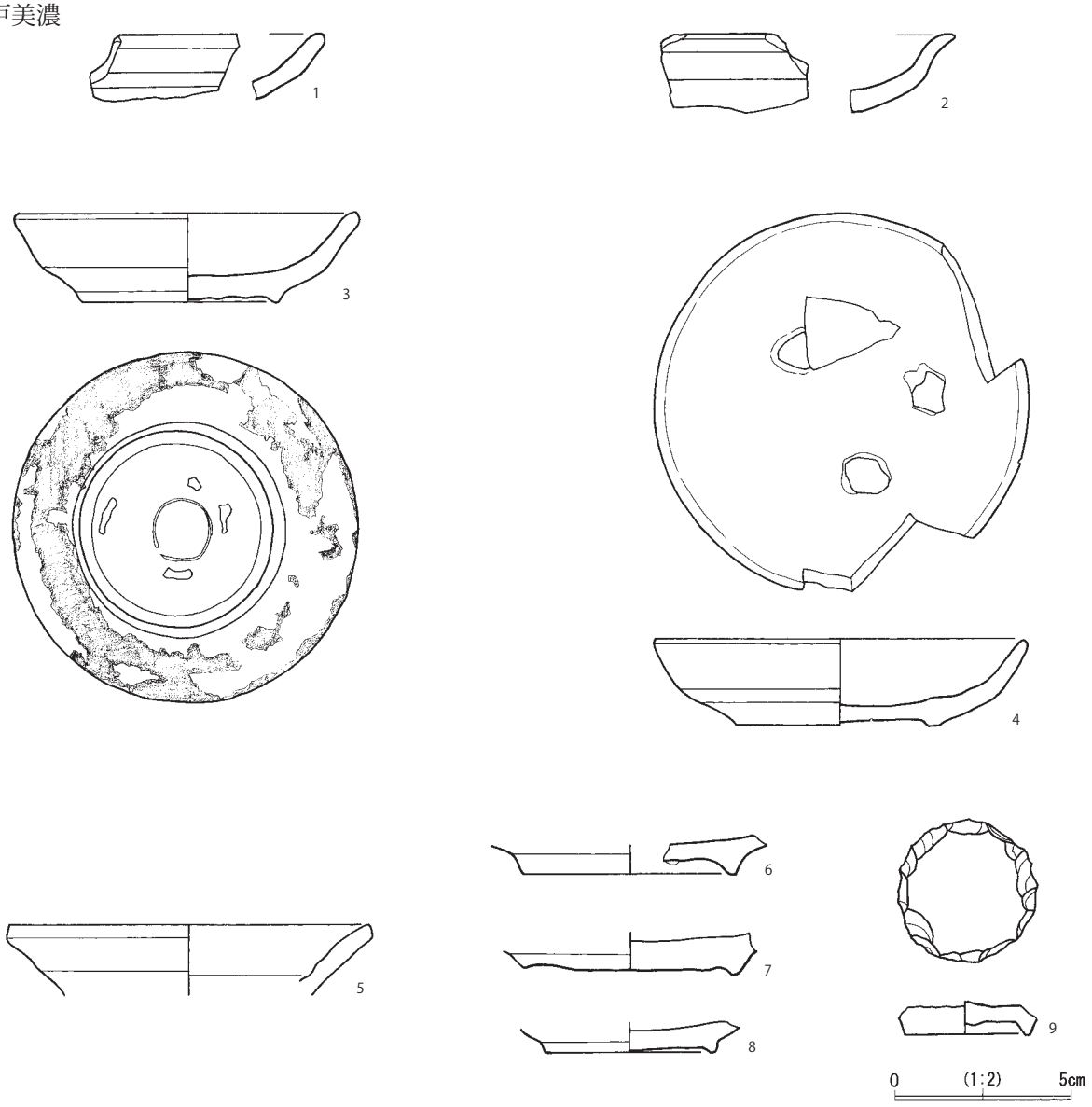
第10表　曲輪1・2（第11次調査）遺構一覧表③

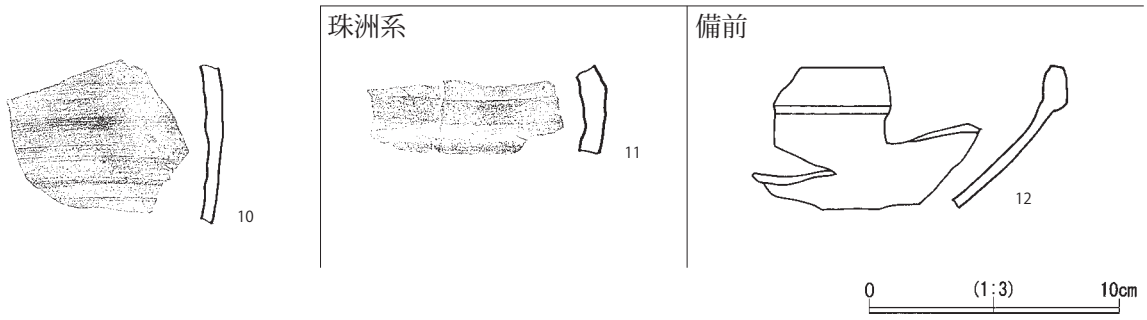
遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
11SKP52	第39図	2トレンチ	7	17	14	-	Ⅲ	P52	
11SKP53	第39図	2トレンチ	3	(46)	-	-	Ⅲ	P53	
11SKP54	第39図	2トレンチ	3	(9)	-	-	Ⅲ	P54	
11SKP55	第39図	2トレンチ	7	16	14	-	Ⅲ	P55	
11SKP58	第39図	2トレンチ	4	19	18	-	Ⅲ	P58	
11SKP59	第39図	2トレンチ	13	(36)	-	-	Ⅲ	P59	
11SKP60	第39図	2トレンチ	4	31	30	-	Ⅲ	P60	
11SKP61	第39図	2トレンチ	7	11	9	-	Ⅲ	P61	
11SKP62	第39図	2トレンチ	5	19	13	-	Ⅲ	P62	
11SKP64	第39図	2トレンチ	5	19	20	-	Ⅲ	P64	
11SKP65	第39図	2トレンチ	9	(16)	-	-	Ⅲ	P65	
11SKP69	第38･39図	2トレンチ	68	43	38	-	Ⅲ	P69	
11SKP70	第39図	2トレンチ	10	25	20	-	Ⅲ	P70	
11SKP71	第39図	2トレンチ	26	63	55	-	Ⅲ	P71	
11SKP72	第39図	2トレンチ	29	35	41	-	Ⅲ	P72	
11SKP73	第39図	2トレンチ	14	28	23	-	Ⅲ	P73	
11SKP75	第39図	2トレンチ	-	(28)	-	-	Ⅲ	P75	
11SKP76	第40図	3トレンチ	2	23	16	-	Ⅲ	P76	
11SKP77	第40図	3トレンチ	-	28	29	-	Ⅲ	P77	
11SKP78	第40図	3トレンチ	13	38	30	-	Ⅲ	P78	
11SKP82	第40図	3トレンチ	13	(31)	-	-	Ⅲ	P82	
11SKP86	第40図	3トレンチ	6	(26)	-	-	Ⅲ	P86	
11SKP89	第40図	3トレンチ	7	28	26	-	Ⅲ	P89	
11SKP93	第40図	3トレンチ	2	37	36	-	Ⅲ	P83	
11SKP98	第40図	3トレンチ	32	(28)	-	-	Ⅲ	P98	
11SKP100	第40図	3トレンチ	41	34	35	-	Ⅲ	P100	
11SKP101	第40図	3トレンチ	15	(22)	-	-	Ⅲ	P101	
11SKP102	第40図	3トレンチ	46	(28)	-	-	Ⅲ	P102	
11SKP103	第40図	3トレンチ	4	(38)	-	-	Ⅲ	-	
11SKP104	第40図	3トレンチ	13	(79)	-	-	Ⅲ	P104	
11SKP105	第40図	3トレンチ	4	(54)	-	-	Ⅲ	P105	
11SKP106	第40図	3トレンチ	9	(46)	-	-	Ⅲ	P106	
11SKP107	第40図	3トレンチ	20	27	26	-	Ⅲ	P107	
11SKP112	第42図	5トレンチ	13	49	48	-	Ⅲ	P112	
11SKP113	第42図	5トレンチ	12	29	26	-	Ⅲ	P113	
11SKP114	第42図	5トレンチ	17	15	14	-	Ⅲ	P114	
11SKP115	第42図	5トレンチ	12	(31)	-	-	Ⅲ	P115	
11SKP116	第42図	5トレンチ	7	(37)	-	-	Ⅲ	P116	
11SKP117	第42図	5トレンチ	10	(53)	-	-	Ⅲ	P117	
11SKP119	第40図	3トレンチ	76	52	42	-	Ⅲ	P119	
11SKP123	第40図	3トレンチ	51	(61)	-	-	Ⅲ	P123	
11SKP124	第40図	3トレンチ	14	(35)	-	-	Ⅲ	P124	
11SKP125	第40図	3トレンチ	40	28	22	-	Ⅲ	P125	
11SKP126	第40図	3トレンチ	45	35	30	-	Ⅲ	P126	
11SKP127	第42図	5トレンチ	60	46	41	-	Ⅲ	P128-1	
11SKP128	第42図	5トレンチ	43	102	94	-	Ⅲ	P128-2	
11SKP129	第42図	5トレンチ	19	45	34	-	Ⅲ	P129	
11SKP130	第42図	5トレンチ	11	50	38	-	Ⅲ	P130	
11SKP131	第42図	5トレンチ	28	12	10	-	Ⅲ	P131	
11SKP132	第42図	5トレンチ	54	(53)	-	-	Ⅲ	P132	
11SKP133	第42図	5トレンチ	8	(52)	-	-	Ⅲ	P133	
11SKP134	第38図	1トレンチ	25	31	27	-	Ⅲ	P134	
11SKP135	第38図	1トレンチ	5	(16)	-	-	Ⅲ	P135	
11SKP141	第40図	3トレンチ	78	37	33	-	Ⅲ	P141	
11SKP143	第39図	2トレンチ	-	51	46	-	Ⅲ	P143	
11SKP144	第39図	2トレンチ	-	22	20	-	Ⅲ	P144	
11SKP145	第39図	2トレンチ	-	19	16	-	Ⅲ	P145	
11SKP146	第39図	2トレンチ	8	(22)	-	-	Ⅲ	P146	
11SKP147	第39図	2トレンチ	3	22	21	-	Ⅲ	P147	
11SKP148	第41図	4トレンチ	11	24	20	-	Ⅲ	SKP148	
11SKP149	第41･44図	4トレンチ	-	(26)	-	-	Ⅲ	SKP149	
11SKP150	第41･44図	4トレンチ	-	13	12	-	Ⅲ	-	
11SKP151	第41･44図	4トレンチ	-	20	13	-	Ⅲ	-	
11SKP152	第41･44図	4トレンチ	21	16	14	-	Ⅲ	-	



第45図　曲輪1・2（第11次調査）出土遺物①

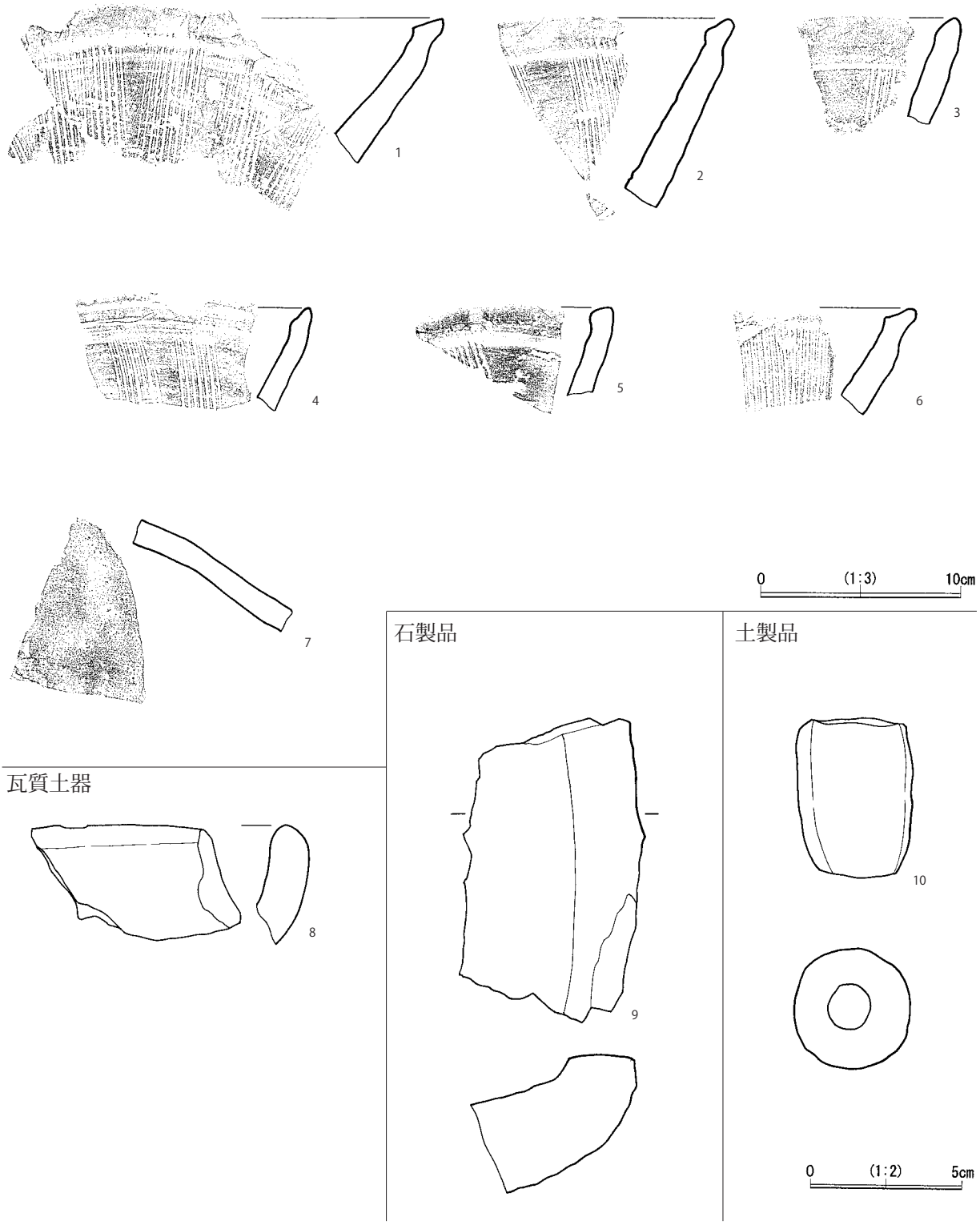
瀬戸美濃





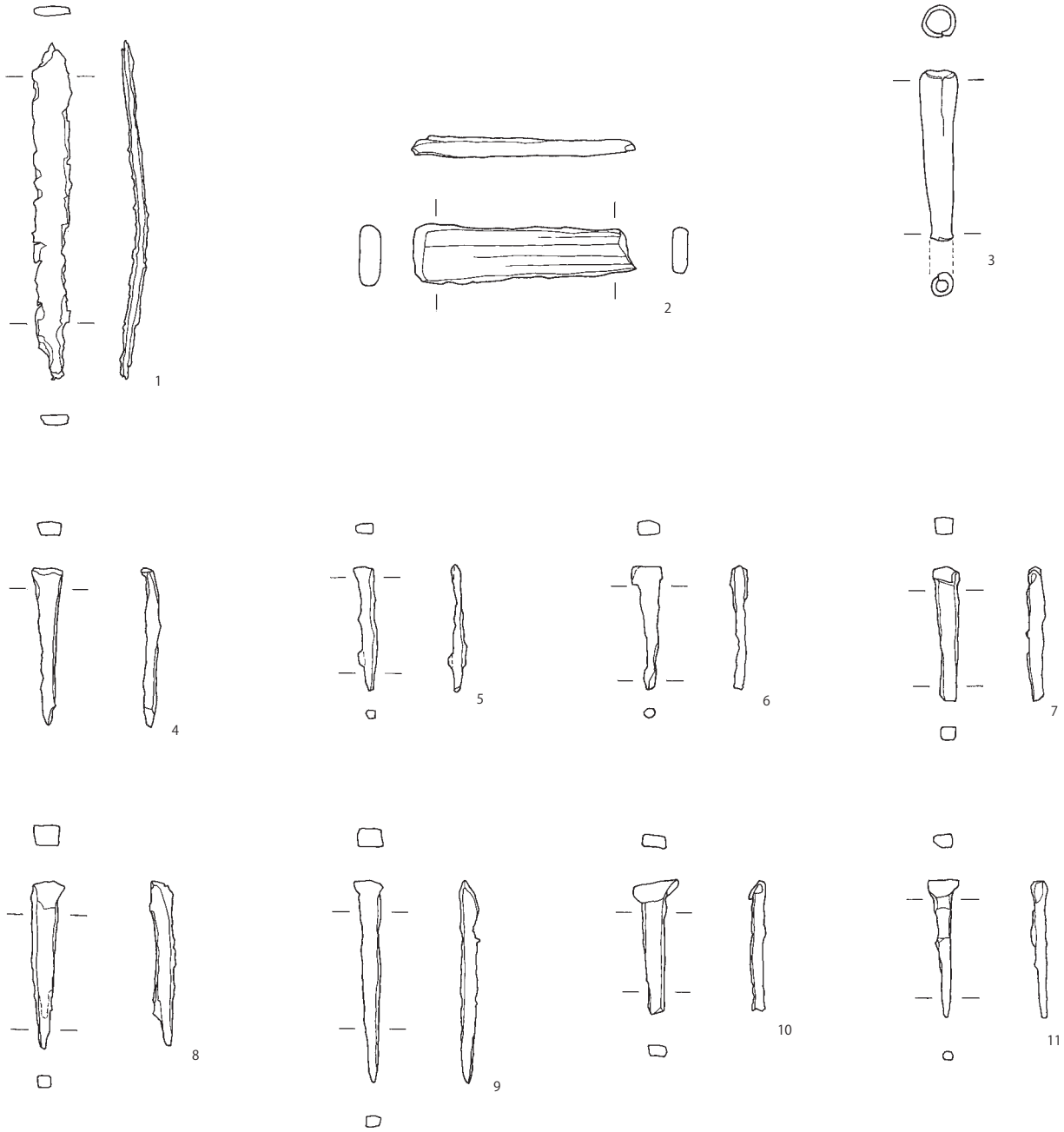
第46図　曲輪1・2（第11次調査）出土遺物②

越前

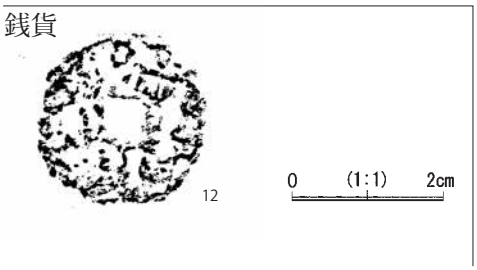


第47図　曲輪1・2（第11次調査）出土遺物③

金属製品



銭貨



第48図　曲輪1・2（第11次調査）出土遺物④

第11表　曲輪1・2（第11次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
22	11	33	4	43	11	3	0	0	0	1	3	0	0	3	9	1	0	0	0	0	1	3	90	漆1

第12表　曲輪1・2（第11次調査）出土遺物観察表

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
45	1	31	白磁	皿	3トレンチ	-	(12.0)	(6.4)	3.5	15c後半～16c	Ⅲ	16	5	
45	2	31	白磁	皿	1トレンチ	-	-	(5.2)	(1.5)	-	Ⅲ	16	4	
45	3	31	白磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(1.7)	-	Ⅲ	16	1	
45	4	31	白磁	皿	3トレンチ	-	-	-	(2.0)	15c後半～16c	Ⅲ	16	2	
45	5	31	白磁	皿	3トレンチ	-	-	-	(2.2)	15c後半～16c	Ⅲ	16	3	
45	6	31	青磁	盤	5トレンチ	-	-	-	(2.3)	-	Ⅲ	16	8	被熱
45	7	31	青磁	稜花皿	4トレンチ	11SA27	-	-	(1.5)	-	Ⅲ	15	1	
45	8	31	青磁	稜花皿	3トレンチ	-	-	-	(1.5)	-	Ⅲ	16	6	
45	9	31	青磁	稜花皿	5トレンチ	-	-	-	(2.2)	-	Ⅲ	16	7	被熱
45	10	31	青磁	皿	2トレンチ	-	-	(4.2)	2.8	15c後半～16c	Ⅲ	16	9	曲輪12でも同様の皿
45	11	31	青磁	皿	2トレンチ	-	-	5.6	(1.4)	-	Ⅲ	16	10	高台内に漆付着
45	12	31	染付	皿	5トレンチ	-	-	-	(1.3)	15c後半～16c	Ⅲ	16	11	畳付面取り
45	13	31	染付	皿	1トレンチ	-	(10.4)	-	(2.0)	15c後半～16c	Ⅲ	16	12	
45	14	31	染付	碗	2トレンチ	-	(14.1)	-	(4.7)	15c後半～16c前半	Ⅲ	16	13	
45	15	31	染付	碗	3トレンチ	-	-	-	(3.8)	15c後半～16c前半	Ⅲ	16	14	被熱
45	16	31	青磁染付	皿	3トレンチ	11SD05	(12.0)	(7.2)	3.3	-	Ⅲ	16	15	高台内に文様
46	1	31	瀬戸美濃	皿	3トレンチ	-	-	-	(1.8)	-	Ⅲ	17	1	
46	2	31	瀬戸美濃	皿	3トレンチ	-	-	-	(2.2)	15c後半～16c中	Ⅲ	17	2	被熱
46	3	31	瀬戸美濃	皿	2トレンチ	-	9.8	5.6	2.5	15c後半～16c中	Ⅲ	17	8	外面に煤
46	4	31	瀬戸美濃（天目）	皿	2トレンチ	-	10.6	5.8	2.4	16c中～16c後半	Ⅲ	17	9	
46	5	31	瀬戸美濃（天目）	皿	1トレンチ	-	(10.4)	-	(2.0)	-	Ⅲ	17	7	鉄釉
46	6	31	瀬戸美濃	皿	2トレンチ	-	-	(6.0)	(1.1)	-	Ⅲ	17	3	
46	7	31	瀬戸美濃	皿	1トレンチ	-	-	(6.0)	(1.2)	-	Ⅲ	17	4	
46	8	31	瀬戸美濃	皿	1トレンチ	-	-	(4.8)	(0.8)	-	Ⅲ	17	5	被熱
46	9	31	瀬戸美濃	皿	2トレンチ	-	-	3.5	(0.9)	-	Ⅲ	17	6	
46	10	31	瀬戸美濃	壺	3トレンチ	-	-	-	(6.0)	-	Ⅲ	17	10	
46	11	31	珠洲系	壺	1トレンチ	-	-	-	(3.5)	-	Ⅲ	17	11	
46	12	31	備前	鉢	1トレンチ	-	-	-	(5.5)	-	Ⅲ	17	12	
47	1	31	越前	すり鉢	3トレンチ	-	-	-	(6.8)	16c後半	Ⅲ	18	6	
47	2	31	越前	すり鉢	3トレンチ	-	-	-	(9.2)	16c後半	Ⅲ	18	5	
47	3	31	越前	すり鉢	3トレンチ	-	-	-	(5.1)	-	Ⅲ	18	4	
47	4	31	越前	すり鉢	1トレンチ	-	-	-	(5.0)	16c後半	Ⅲ	18	3	
47	5	31	越前	すり鉢	3トレンチ	-	-	-	(4.2)	-	Ⅲ	18	1	
47	6	31	越前	すり鉢	2トレンチ	-	-	-	(5.2)	-	Ⅲ	18	2	
47	7	31	越前	甕	1トレンチ	-	-	-	(5.1)	-	Ⅲ	17	13	
47	8	31	瓦質土器	火鉢	1トレンチ	-	-	-	(3.9)	-	Ⅲ	18	7	

■石製品・土製品・金属製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							長さ	幅	厚さ					
47	9	31	石製品	茶臼	2トレンチ	-	-	-	器高（4.5）	-	Ⅲ	18	9	凝灰岩製
47	10	31	土製品	土錘	2トレンチ	-	5.3	-	(最大径)4.0	-	Ⅲ	18	8	
48	1	31	金属製品	笄	5トレンチ	盛土中	10.2	1.1	0.6	-	-	-	-	銅製
48	2	31	金属製品	刀子	-	-	(6.7)	1.8	0.6	-	-	-	-	鉄製、木質が遺存
48	3	31	金属製品	石突	3トレンチ	-	(5.1)	1.1	0.2	-	-	-	-	鉄製
48	4	31	金属製品	和釘	-	-	4.7	1.0	0.5	-	-	-	-	鉄製
48	5	31	金属製品	和釘	-	-	3.7	0.6	0.4	-	-	-	-	鉄製
48	6	31	金属製品	和釘	1トレンチ	-	3.7	0.6	0.5	-	-	-	-	鉄製
48	7	31	金属製品	和釘	3トレンチ	-	4.1	0.7	0.5	-	-	-	-	鉄製
48	8	31	金属製品	和釘	-	-	5.1	0.8	0.6	-	-	-	-	鉄製
48	9	31	金属製品	和釘	-	-	6.1	0.7	0.5	-	-	-	-	鉄製
48	10	31	金属製品	和釘	1トレンチ	-	4.0	1.4	0.6	-	-	-	-	鉄製
48	11	31	金属製品	和釘	-	-	4.2	0.6	0.3	-	-	-	-	鉄製
48	12	31	銭貨	不明	3トレンチ	-	2.2	-	-	-	-	-	-	

（２）曲輪10（第16次調査）

①曲輪10の立地と概要

曲輪10は内館地区のほぼ中央部に位置する標高83～84mの曲輪である。曲輪の南北両端に土塁と推定されている高まりが現況でも確認でき、この高まりを挟んで南北に展開する曲輪９・11よりも標高が低くなっている。曲輪10内では西側の標高が低く、南北両端の曲輪とは標高差が明確であるものの、東側では北側の曲輪との境界はあいまいになっている。そのため、降雨によって西側の標高が低い部分は大きな水溜りとなることもある。

②検出遺構

曲輪10の調査では、曲輪内の建物跡の有無、及びその規模など、曲輪の全体像やその機能を把握することを目的として、任意に土層観察用のベルトを残し、南北、東西方向にトレンチを設定した。その結果、掘立柱建物跡１棟、柱穴列・塀・柵跡２条、溝跡22条、柱穴跡182基、盛土跡１か所、整地跡１か所が検出された。

各トレンチについて

【南北トレンチ】

曲輪中央部を南北48m、東西４mで設定した。南北両端は土塁状の高まりの半分に接するように設定した。遺構確認面は、そのほとんどが地山土であったが、南北両端の高まり、曲輪中央部の一部で盛土であった。便宜的にトレンチ西側に幅４mで設定した杭の名称を記載した。

PS６に位置するサブトレンチ内で検出された盛土最下層の28層及びその下層で検出された自然堆積層から検出された炭化物を採取し、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、いずれも15世紀前半(calAD 1,432～calAD 1,464、calAD 1,426～calAD 1,445)の年代が示された。

金属製品として、鉛製弾丸３点が南北トレンチ５層の盛土崩落層内から出土した。また、骨製のさいころが表土中より１点出土した。

【東西トレンチ】

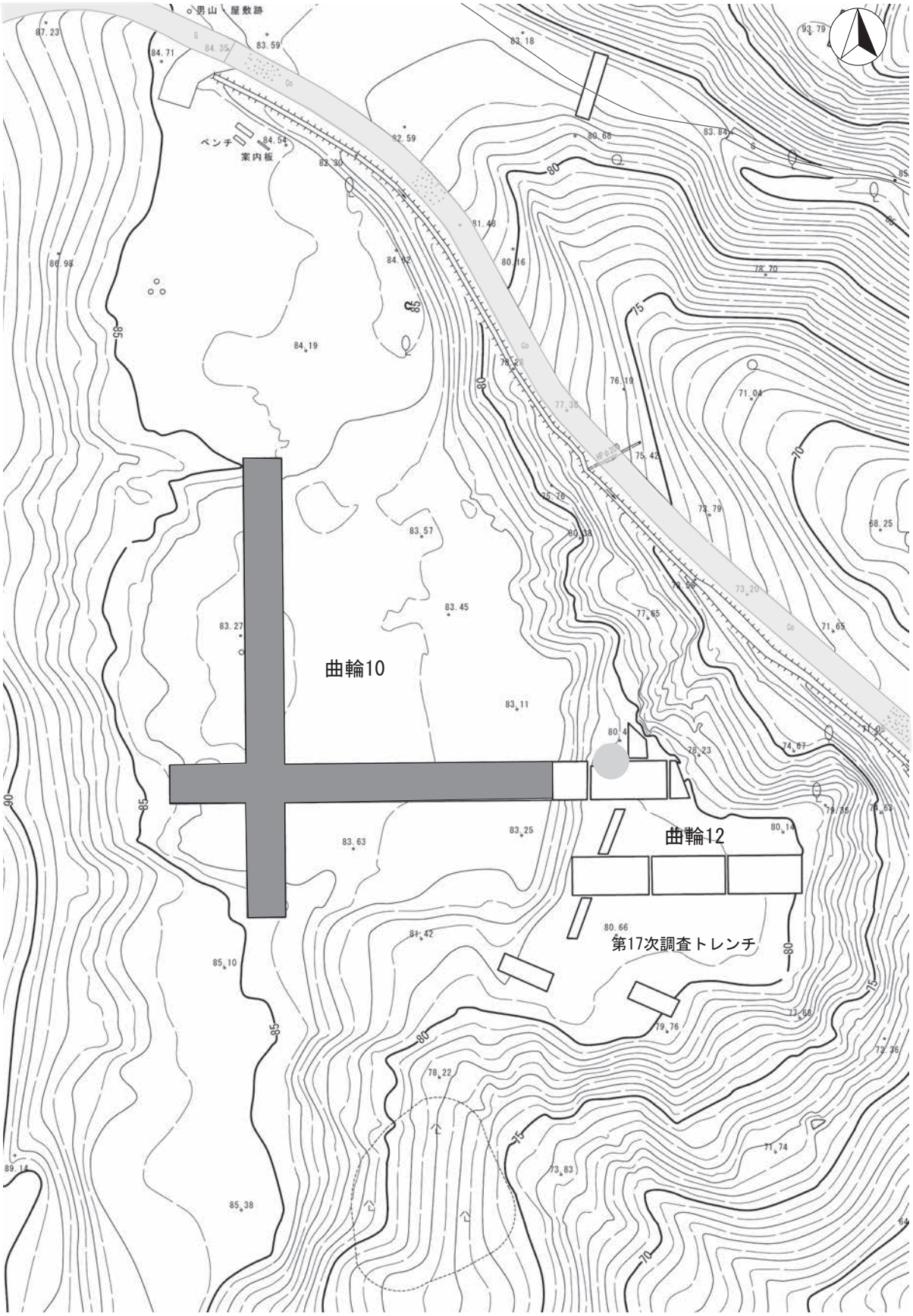
曲輪中央部を東西40m×南北４mで設定した。遺構確認面は、そのほとんどが地山土であったが、西側の一部で整地層、東端部で自然堆積土及び盛土であった。便宜的にトレンチ北側に幅４mで設定した杭の名称を記載した。

16SB01掘立柱建物跡（第53・55図）

杭PE ０～PE ２の間で検出された。Ｐ１～Ｐ５で構成され、確認された規模は東西２間×南北１間である。軸線方向はN－5.5°－Eである。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。また、Ｐ２～Ｐ５においては柱痕跡を確認し、それらを結ぶ柱間はP１－Ｐ２が1.44m、Ｐ２－Ｐ３、Ｐ４－Ｐ５が1.36m、Ｐ２－Ｐ５が1.30m、Ｐ３－Ｐ４が1.32mとなり、北東隅に１基の柱穴の存在が予見されたが、確認できなかった。いずれの柱穴内からも遺物の出土はなかった。

16SA23塀跡（第51・56図）

PS10～PS８の間で検出された。軸線方向はN－７°－Eである。16SKP ８・17・38・46・50、

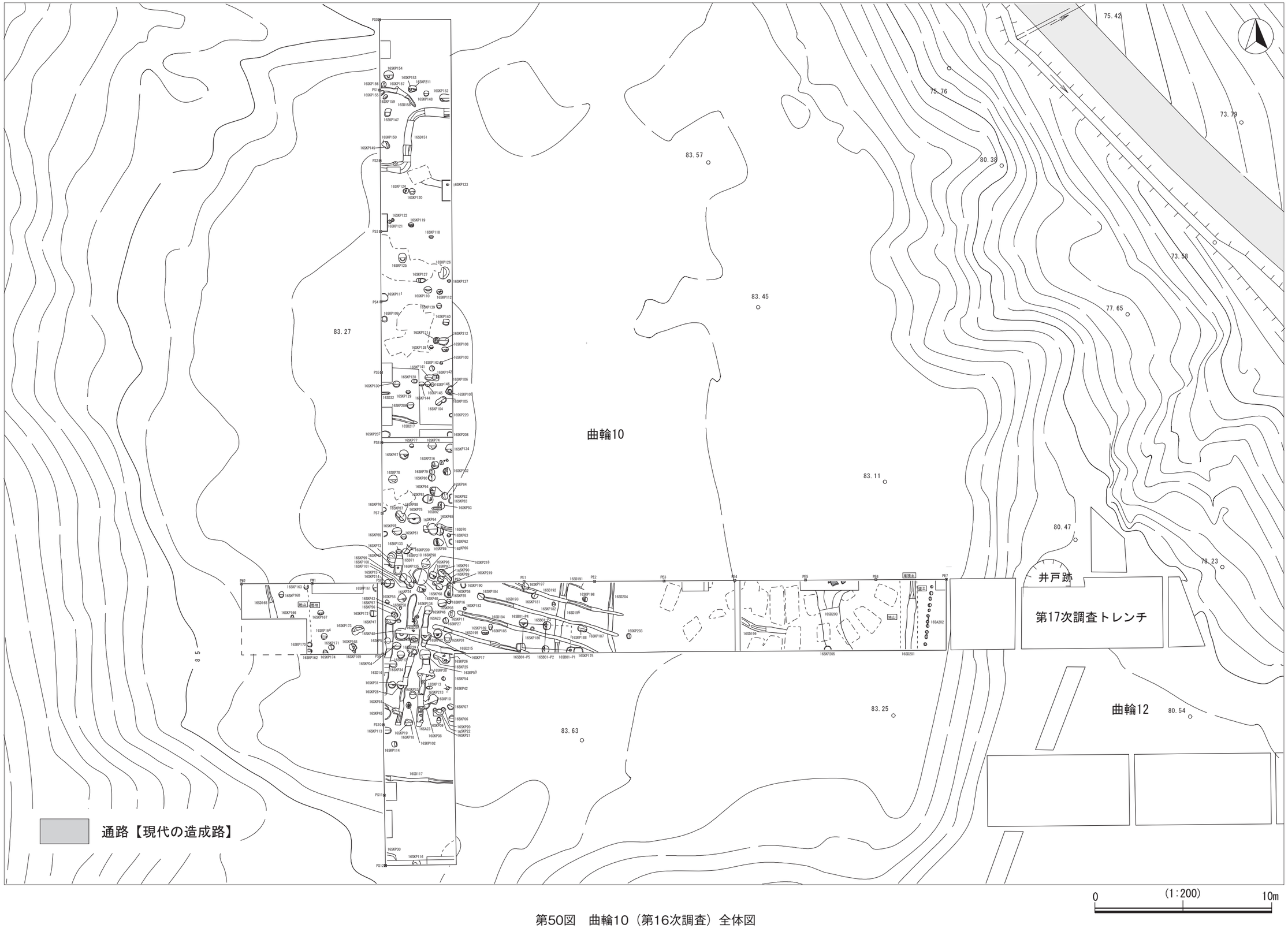


通路【現代の造成路】

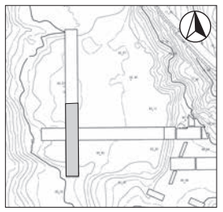
井戸跡

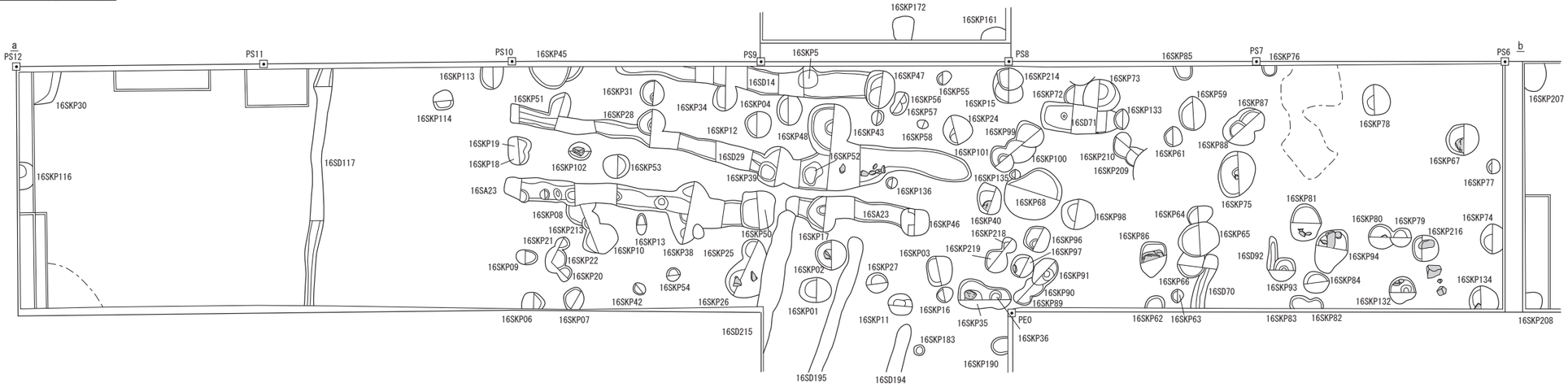
0 (1:600) 30m

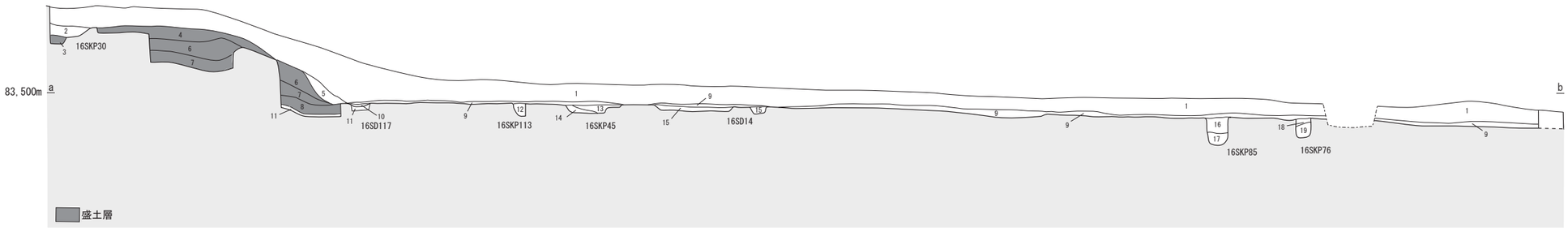
第49図　曲輪10（第16次調査）トレンチ配置図



第50図　曲輪10（第16次調査）全体図





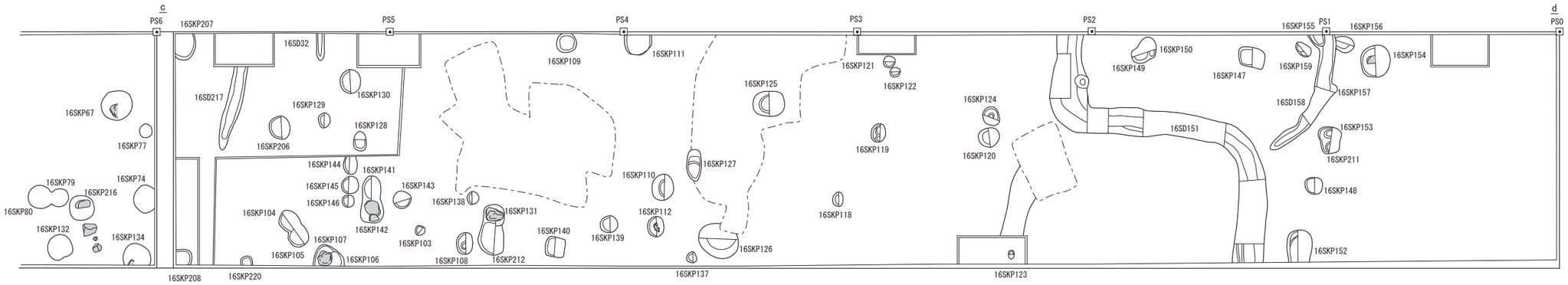


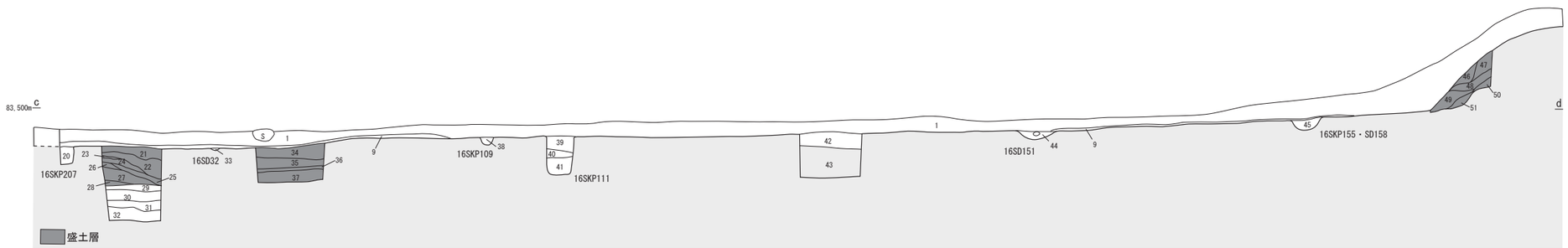
トレンチ a-b土層注記

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルト しまり弱 植物の根が多く、乾燥するとボソボソになる、炭化物少量 [表土]
2. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり中 地山土小ブロック10% 炭化物・鉄分少量 [16SKP30]
3. 黄褐色土(10YR5/6) シルト しまり強 炭化物・鉄分少量 [盛土]
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり強 地山土小ブロック20% 炭化物・鉄分少量 [盛土]
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルト しまり強 地山土小ブロック10% 炭化物・鉄分少量 [盛土崩落層]
6. 明黄褐色土(10YR6/6) シルト しまり強 地山土小ブロック40%、炭化物少量 [盛土]
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルト しまり強 地山土小ブロック20%、炭化物・鉄分少量 [盛土]
8. 黄褐色土(10YR5/6) シルト しまり強 地山土小ブロック30% 炭化物少量 [盛土]
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック20% 10層やや混ざる [堆積土]
10. 褐色土(10YR4/4)シルト しまり中 地山土小ブロック20% 炭化物少量 [16SD117]
11. 黒色土(10YR2/1) シルト しまり弱 [自然堆積土]
12. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり中 地山土小ブロック30% 炭化物少量 [16SKP113]
13. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック75% 炭化物少量 [16SKP45]
14. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり中 地山土小ブロック30% [16SKP45]
15. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック10% 炭化物少量 [16SD14]
16. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり強 地山土小ブロック30% [16SKP85]
17. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり強 地山土小ブロック20% [16SKP85]
18. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック20% 炭化物少量 [16SKP76]
19. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり強 地山土小ブロック10% [16SKP76]

⊡ トレンチ設定のための杭（便宜的にNo.をふっている） 礫 0 (1:80) 2m

第51図 トレンチ①平面図・断面図



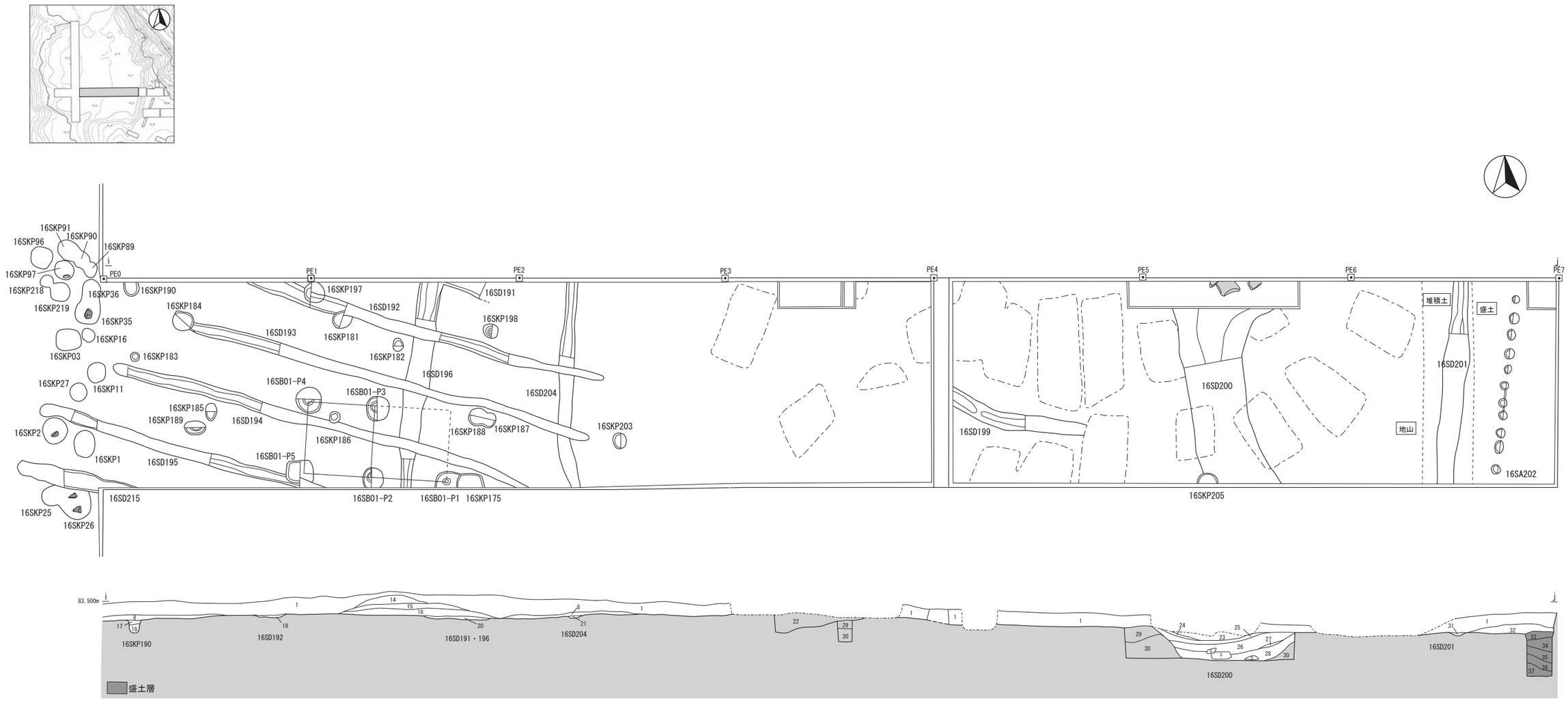


トレンチ c~d土層注記

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルト しまり弱 植物の根が多く、乾燥するとボソボソになる、炭化物少量 [表土]
9. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック20% 10層やや混ざる [堆積土]
20. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり中 地山土小ブロック30% 灰色土(10YR8/1)粘土小ブロック5% 炭化物少量 [16SKP207]
21. 黒色土(10YR2/1) シルト しまりやや弱 地山土ブロック10% 炭化物ごく少量 [盛土]
22. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまりやや弱 地山土ブロック5% 黒色土筋状に入る [盛土]
23. 黒色土(10YR2/1) シルト しまり弱 [盛土]
24. 暗褐色土(10YR3/3) シルト～粘土 しまりやや強 地山土ブロック20% [盛土]
25. 褐色土(10YR4/4)シルト しまりやや強 地山土ブロック多量 [盛土]
26. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまりやや強 地山土ブロック30% [盛土]
27. 黒褐色土(10YR2/3) シルト しまりやや弱 地山土ブロック50% 炭化物少量 [盛土]
28. 暗褐色土(10YR3/3) 粘土 しまり強 地山土に黒褐色土が入る [盛土]
29. 黒褐色土(10YR2/2) シルト しまり弱 炭化物中量 [自然堆積土]
30. 黒褐色土(10YR2/2) シルト～粘土 炭化物少量 [自然堆積土]
31. 黒色土(10YR2/1) 粘土 しまり弱 水分が多く入り粘土状の土 鉄分やや混じる [自然堆積土]
32. 黒褐色土(10YR3/1) シルト しまり弱 鉄分がまだらにやや多く入る [自然堆積土]
33. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり弱 炭化物少量 [16SD32]
34. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり強 地山土小ブロック10% 炭化物少量 [盛土]
35. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり強 地山土小ブロック30% 炭化物少量 [盛土]
36. 黒褐色土(10YR3/1) シルト しまり弱 地山土小ブロックを含まないボソボソの層 [盛土]
37. 褐灰色土(10YR4/1) シルト しまり強 地山土小ブロック20% 灰色土(10YR8/1)粘土小ブロック20% [盛土]
38. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック20% [16SKP109」
39. にぶい黄褐色土(10YR5/4) シルト しまり強 地山土小ブロック30% 炭化物・鉄分少量 [16SKP111]
40. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり強 地山土小ブロック5% 炭化物少量 [16SKP111]
41. にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルト しまり強 地山土小ブロック20% 炭化物・鉄分少量 [16SKP111]
42. 黒色土(10YR2/1) シルト しまり弱 含有物なし [自然堆積土]
43. にぶい黄橙色土(10YR6/3) シルト しまり強 やや鉄分を少量含む [地山]
44. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック5% 炭化物・鉄分少量 [16SD151]
45. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり強 地山土小ブロック10% 炭化物少量 [16SKP155・SD158]
46. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり強 地山土小ブロック10% 炭化物微量・鉄分少量 [盛土]
47. 明黄褐色土(10YR6/6) シルト しまり中 地山土ブロック50% 炭化物・鉄分少量 [盛土]
48. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり強 地山土ブロック10% 炭化物・鉄分少量 [盛土]
49. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり強 地山土小ブロック20% 炭化物・鉄分少量 [盛土]
50. 黒褐色土(10YR3/1) シルト しまり強 地山土小ブロック5% にぶい黄橙土(10YR7/2) 粘土ブロック5% 炭化物・鉄分微量 [盛土]
51. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり強 地山土小ブロック30% 炭化物少量 [盛土]

⊡ トレンチ設定のための杭（便宜的に№をふっている） 礫 0 (1:80) 2m

第52図 トレンチ②平面図・断面図



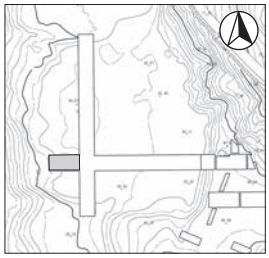
トレンチ i-j土層注記

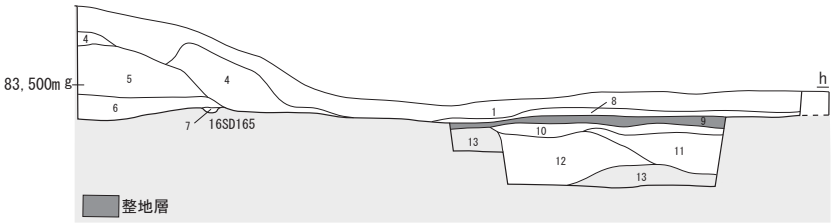
1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルト しまり弱 植物の根が多く、乾燥するとボソボソになる、炭化物少量 [表土]
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック20% 10層やや混ざる [堆積土]
14. にぶい黄褐色土(10YR5/4) シルト しまり強 15層土5% 鉄分・炭化物少量
15. 褐灰色土(10YR5/1) シルト しまり強 横方向に一部筋状に鉄分中量
16. 黒褐色土(10YR3/1) シルト しまり強 鉄分少量
17. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり弱 地山土小ブロック10% [16SKP190]
18. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック20% 炭化物少量 [16SKP190]
19. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり強 地山土小ブロック5% [16SD192]
20. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり強 地山土小ブロック5% 炭化物・鉄分少量 [16SD191・196]
21. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり中 地山土小ブロック10%、炭化物少量 [16SD204]
22. にぶい黄橙色土(10YR6/3) 砂 しまり弱 灰黄褐色土(10YR4/2)シルトブロックを少量含む 鉄分で一部赤くなっているところあり [地山]
23. 灰黄褐色土(10YR5/2) シルト しまり中 29層地山土小ブロック5% 22層砂10% 炭化物少量 [16SD200]
24. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 29層地山土小ブロック5% 22層砂5% [16SD200]
25. にぶい黄褐色土(10YR5/3) シルト しまり中 29層地山土小ブロック10% 炭化物少量 [16SD200]
26. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 29層地山土小ブロック5% 24層砂5% 炭化物少量 [16SD200]
27. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 29層地山土小ブロック5% 砂利(φ5mm程度)を含む [16SD200]
28. にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルト しまり中 29層地山土小ブロック10% 炭化物中量 大きいレキ入る [16SD200]
29. 明赤褐色土(5YR5/8) シルト しまり強 [地山]
30. にぶい橙色土(5YR6/3) シルト しまり強 [地山]
31. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり中 地山土小ブロック5% [16SD201]
32. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック10% [堆積土]
33. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック20% 炭化物少量 [盛土]
34. 灰黄褐色土(10YR5/2) シルト しまり強 地山土小ブロック20% [盛土]
35. にぶい黄褐色土(10YR5/3) シルト しまり中 地山土小ブロック10% 炭化物少量 [盛土]
36. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック20% 炭化物少量 [盛土]
37. 黒褐色土(10YR2/3) シルト しまり中 地山土小ブロック20% 炭化物少量 [盛土]

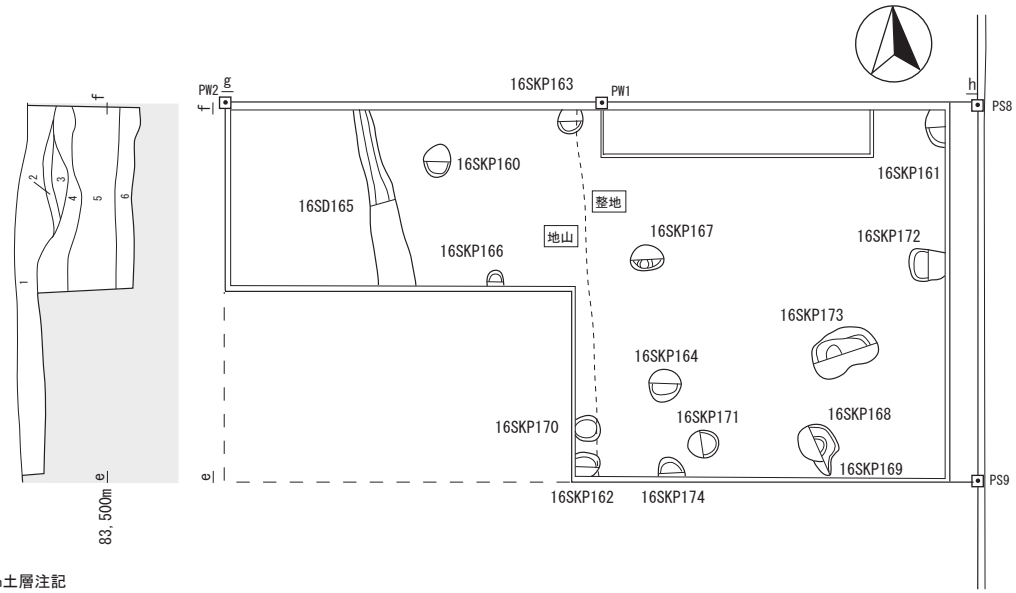
0 (1:80) 2m

⊡ トレンチ設定のための杭（便宜的に№をふっている） 礫

第53図 トレンチ③平面図・断面







トレンチ e-f／g-h土層注記

1. にぶい黄褐色土（10YR4/3）シルト しまり弱 植物の根が多く、乾燥するとボソボソになる、炭化物少量［表土］
2. 黒褐色土（10YR3/2）シルト しまり中 地山土小ブロック10%
3. 灰黄褐色土（10YR4/2）シルト しまり中 地山土小ブロック30% 炭化物微量 鉄分少量
4. 褐色土（10YR4/6）シルト しまり中 地山土小ブロック30% 炭化物微量［地山崩落土］
5. 明黄褐色土（10YR6/6）シルト しまり中 地山土小ブロック10% 鉄分少量［地山崩落土］
6. 暗褐色土（10YR3/3）シルト しまり中 地山土小ブロック5% 鉄分中量［自然堆積土］
7. 灰黄褐色土（10YR4/2）シルト しまり強 地山土ブロック20%[16SD165]
8. 灰黄褐色土（10YR4/2）シルト しまり中 地山土小ブロック20% 10層やや混ざる［堆積土］
9. 灰黄褐色土（10YR4/2）シルト しまり中 地山土小ブロック40%［整地層］
10. 黒褐色土（10YR3/1）シルト しまり中 地山土小ブロック10%［自然堆積土］
11. 黒色土（10YR2/1）シルト しまり弱 混ざりなし［自然堆積土］
12. 黄褐色土（10YR5/6）シルト しまり中 地山土小ブロック20% 11層土10%［地山近似土が撹乱、整地以前の倒木痕か］
13. 黄褐色土（10YR5/6）シルト しまり強 地山土小ブロック5%［地山］

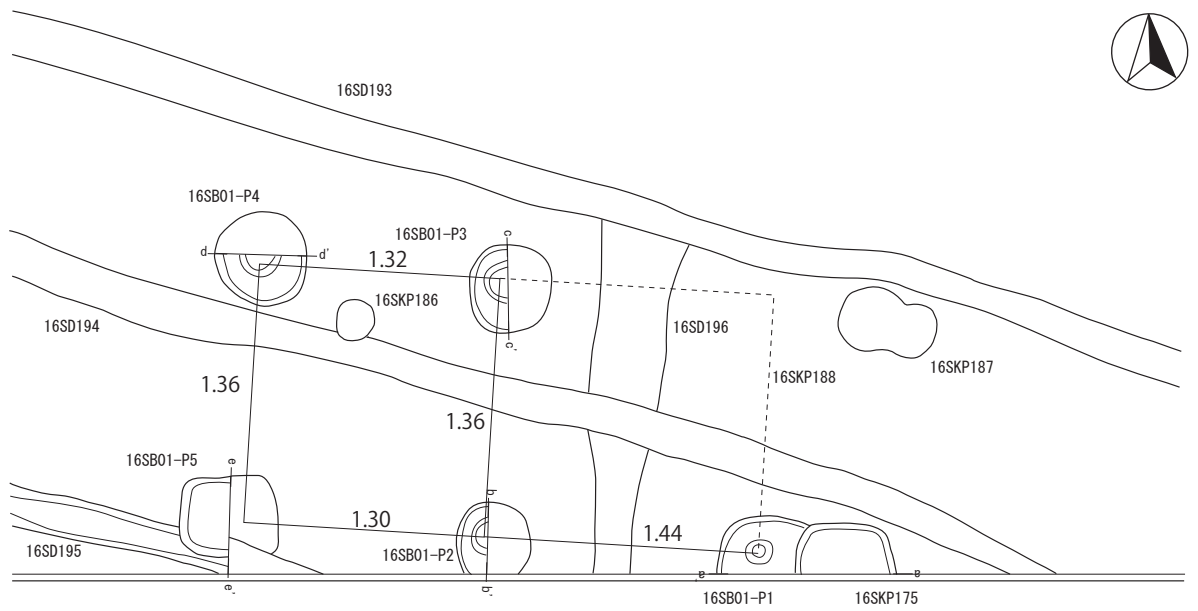
⊡ トレンチ設定のための杭（便宜的に№をふっている）　0　(1:80)　2m

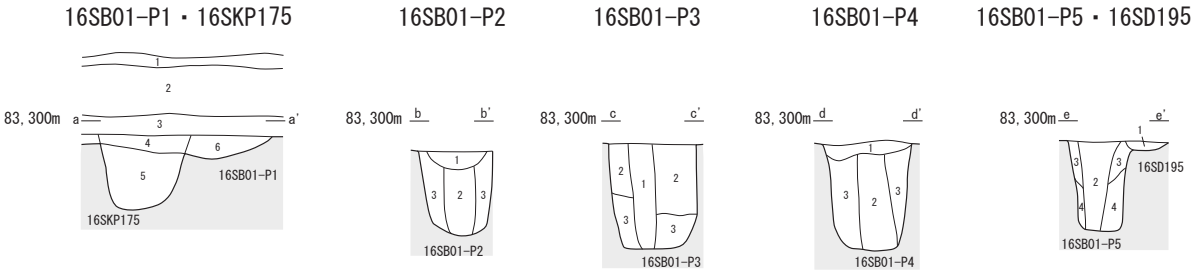
第54図　トレンチ④平面図・断面図

16SD215と重複関係を持ち、16SKP38よりは新しく、他の遺構よりは古い。溝幅は34cm ～ 46cmで深さは33cm ～ 67cmである。全長は6.80mであるが、16SKP50付近で一部途切れる。また、底面から計６基の柱穴が検出され、溝跡の深さや柱穴の検出を考慮し、塀跡であると推察した。

16SA202柵跡（第53・57図）

曲輪10端部のPE ６～ PE ７の間で盛土上面を確認面として検出された。他の遺構との重複関係はなく、径14cm ～ 25cm、深さ13cm ～ 25cmのP １～ P11が８cm ～ 20cmの間隔で南北方向に並んで構成される。軸線方向はN－4.5°－Eで曲輪端部の形状にほぼ並行する。Ｐ６－Ｐ７－Ｐ８ではそれぞれの柱穴を連結する幅２cm前後の痕跡が確認されており、板材等の腐食痕跡の可能性がある。検出された柱穴の径から、柱材の打ち込みにより構築された柵跡と考えられる。西側にはほぼ並行に16SD201が検出されており、関連遺構の可能性がある。





■16SB01-P1/16SKP175
1. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまり強 2層土を5%を含む 鉄分・炭化物少量 [表土]
2. 褐灰色(10YR5/1) シルト しまり強 鉄分筋状に中量
3. 黒褐色(10YR3/1) シルト しまり強 鉄分少量
4. 灰黄褐色土(10YR5/2) シルト しまり中 地山土小ブロック10% 灰色(10YR8/1)粘土小ブロック20% 炭化物少量 [16SKP175]
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり強 地山土小ブロック40% 炭化物少量 [16SKP175]
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック5% 3層土がブロック状に10% [16SB01-P1]

■16SB01-P2
1. 灰黄褐色土(10YR5/2) シルト しまり中 地山土小ブロック5% 炭化物少量 [16SB01-P2]
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック5% 炭化物少量 [16SB01-P2(柱痕)]
3. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり中 地山土小ブロック20% 炭化物少量 [16SB01-P2]

■16SB01-P3
1. 褐灰色土(10YR6/1) 砂 しまり弱 地山土小ブロック5% 炭化物少量 [16SB01-P3(柱痕)]
2. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり強 地山土小ブロック20% 1層土が5% 炭化物少量 [16SB01-P3]
3. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり強 地山土小ブロック10% 1層土が5% 炭化物少量 [16SB01-P3]

■16SB01-P4
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック5% [16SB01-P4]
2. 暗褐色土(10YR3/3) シルト しまり中 地山土小ブロック10% 黒褐色土(10YR3/1) 20% 炭化物少量 [16SB01-P4(柱痕)]
3. 黒褐色土(10YR2/3) シルト しまり強 地山土ブロック20% 炭化物少量 [16SB01-P4]

■16SB01-P5
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト しまり中 地山土小ブロック5% 炭化物少量(粒子状) 鉄分少量 [16SD195]
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 砂 しまり弱 地山土小ブロック5% 炭化物・鉄分少量 3層土ブロック10% [16SB01-P5(柱痕)]
3. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまり強 地山土小ブロック10% 炭化物・鉄分少量 [16SB01-P5]
4. 黒褐色土(10YR3/1) シルト しまり中 地山土小ブロック10% 炭化物少量 [16SB01-P5]

※ 平面図上の数値は
柱間寸法（単位：m）

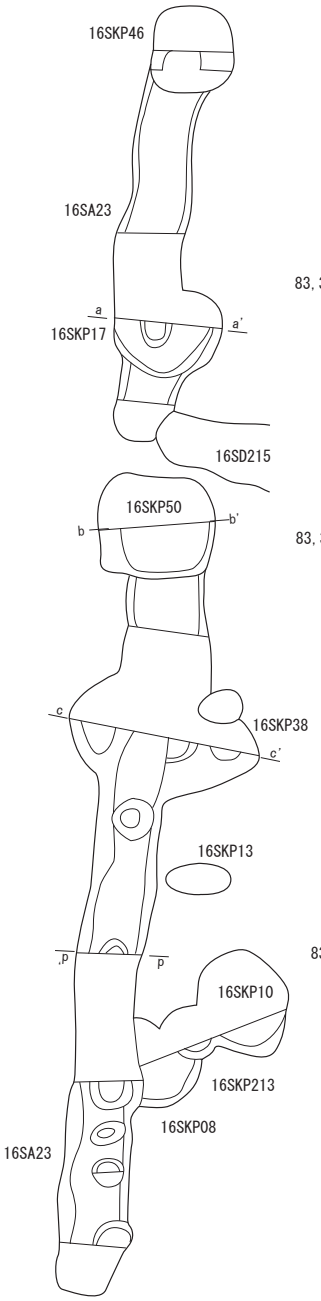
0 (1:40) 1m

第55図　16SB01

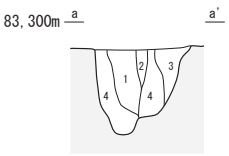
16SD200溝跡（第53・56図）

PE ５～PE ６の間で検出された。溝幅約112cm、深さ62cmの溝跡でトレンチ北側では北東方向へ湾曲する。16SKP205と重複関係を持ち、16SKP205より古い。サブトレンチ内では溝跡底面付近で40cm台の礫が検出された。また、溝跡内からは小片ではあるが、越前の甕、不明石製品、不明鉄製品がそれぞれ１点ずつ出土している。

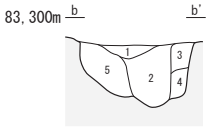
16SA23・16SKP17・16SKP50



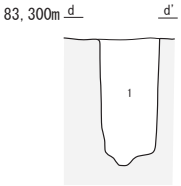
16SKP17



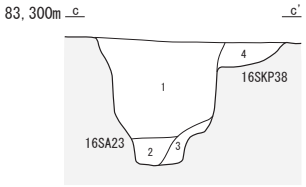
16SKP50



16SA23

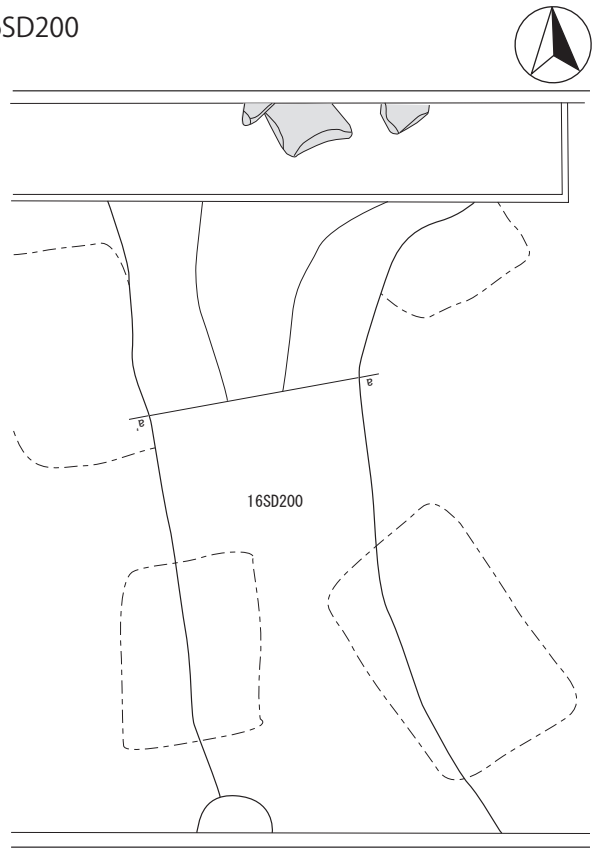


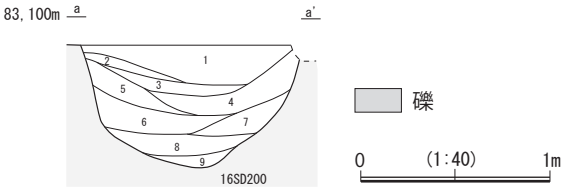
16SA23・16SKP38



0　(1:40)　1m

16SD200





■16SD200
1. 灰黄褐色(10YR4/2) シルト しまり中 [16SD200]
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)　しまり弱　地山土小ブロック40%、炭化物微量 [16SD200]
3. 灰黄褐色(10YR4/2) シルト しまり中　地山土小ブロック5%　砂5%　炭化物少量 [16SD200]
4. にぶい黄褐色土(10YR5/3) しまり弱　地山土小ブロック10%　炭化物少量 [16SD200]
5. にぶい黄褐色土(10YR5/4) しまり弱　地山土小ブロック50% [16SD200]
6. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり中　地山土小ブロック10%　砂少量 [16SD200]
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3) しまり弱　地山土小ブロック5%　炭化物少量 [16SD200]
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) しまり強　地山土小ブロック10%　褐灰色(10YR6/1) シルト筋状部分的に入る [16SD200]
9. 灰黄褐色土(10YR5/2) シルト しまり弱　地山土小ブロック5%　褐灰色(10YR6/1) シルト筋状部分的に入る [16SD200]

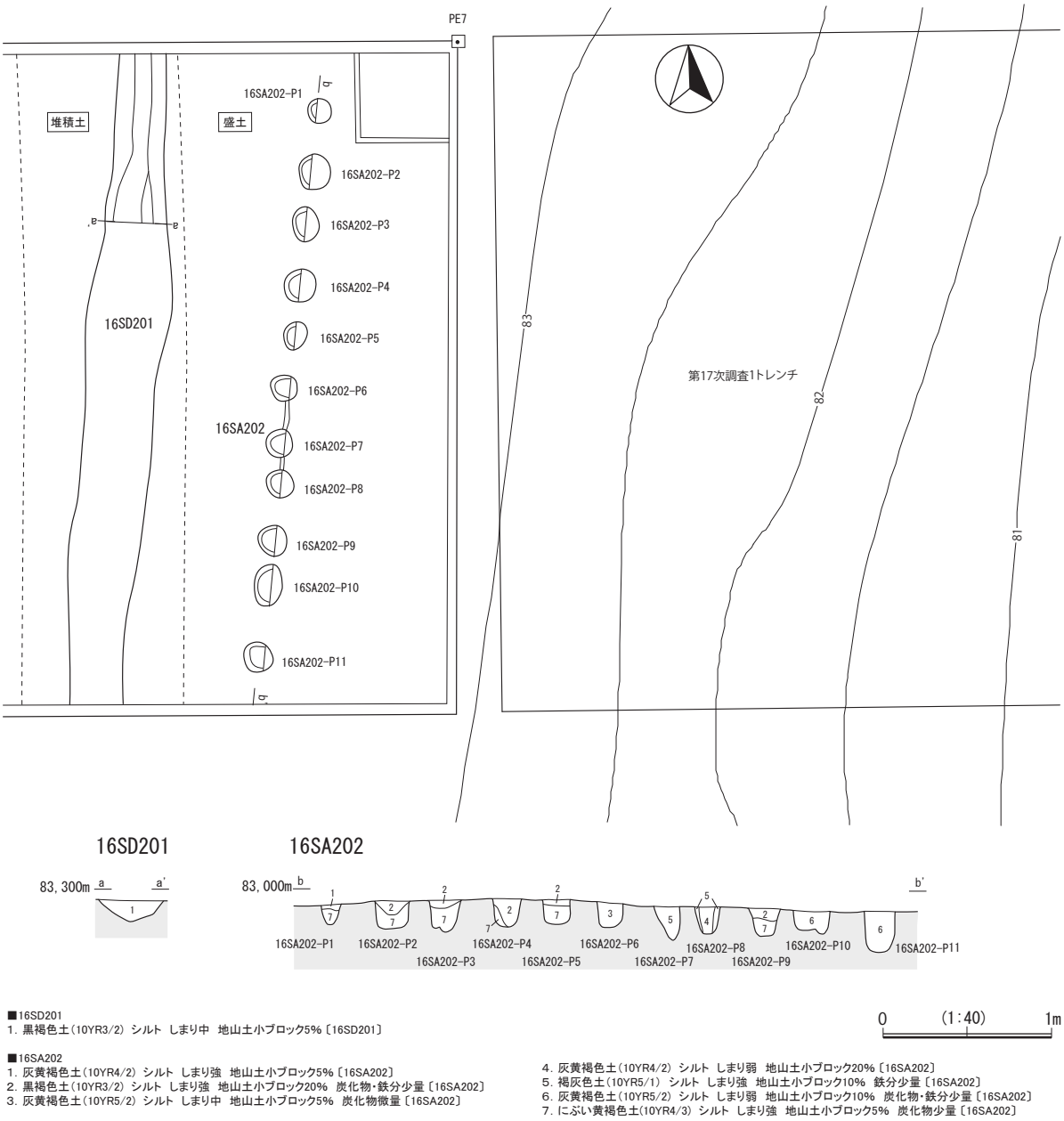
■16SKP17
1. 黒褐色土(10YR3/2) シルト しまりやや弱　地山土小ブロック5%　小石多い [16SKP17]
2. 黒色土(10YR2/1) シルト しまり強　地山土ブロック10% [16SKP17]
3. 暗褐色土(10YR3/3) シルト しまり強　地山土小ブロック10% [16SKP17]
4. 黒褐色土(10YR3/2) シルト～粘土　ややしまり強　黒色土(10YR2/1)と地山土ブロックが多量に入る [16SKP17]

■16SKP50
1. 暗褐色土(10YR3/3) シルト　ややしまり弱　底面に小石多量 [16SKP50]
2. 黒褐色土(10YR2/3) シルト～粘土　地山土ブロック20%　黒色土(10YR2/1)10% [16SKP50]
3. 黒褐色土(10YR3/1) シルト しまり弱　地山土小ブロック10% [16SKP50]
4. 褐色土(10YR4/4) 粘土 しまり強　黒色土(10YR2/1) 10% [16SKP50]
5. 黒褐色土(10YR3/1) シルト しまり強　地山土ブロック30%　黒色土(10YR2/1)10% [16SKP50]

■16SA23
1. 黒褐色土(10YR3/2) シルト～粘土　ややしまり強　黒色土(10YR2/1)と地山土ブロックが多量に入る(一括埋め戻し土) [16SA23]

■16SA23/16SKP38
1. 黒褐色土(10YR3/2) シルト～粘土　ややしまり強　黒色土(10YR2/1)と地山土ブロックが多量に入る(一括埋め戻し土) [16SA23]
2. 黒色土(10YR2/1) シルト～粘土　ややしまり弱　地山土小ブロック5% [16SA23]
3. 黒褐色土(10YR3/2) 粘土　ややしまり弱　地山土ブロック50% [16SA23]
4. にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルト しまり強　地山土小ブロック20%　炭化物・鉄分少量含む [16SKP38]

第56図　16SA23・16SKP17・16SKP50・16SD200



第57図　16SD201・SA202

16SD201溝跡（第53・57図）

PE ６～ PE ７の間で自然堆積土を確認面として検出された。幅38cm、深さ11cmの溝跡で、東側に隣接する16SA202とほぼ並行に確認されており、関連遺構の可能性がある。

③出土遺物（第58 ～ 62図）

遺物は407点出土している（その他を含めない）。点数は接合後の破片数である。中世陶磁器は327点出土し、貿易陶磁器が179点（54.7%）、国産陶器148点（45.3%）である。

陶磁器の年代については、白磁はE群の皿が主体で、青磁は細描蓮弁文から15世紀後半～ 16世紀前半代、染付はC・E群の皿、碗が主体で15世紀後半～ 16世紀代に位置付けられる。瀬戸美濃は大窯第１段階～第２段階を主体とする。越前はすり鉢の形態から、その多くが16世紀後葉に位置付けられる。

第13表　曲輪10（第16次調査）遺構一覧表①

■掘立柱建物跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	建物方位	概報	概報遺構番号	備考
16SB01-P1	第53図 第55図	PE1-PE2	13	(42)	-	-	N5.5E	V	SB01-176	
16SB01-P2		PE1-PE2	48	40	-			V	SB01-177	柱痕跡
16SB01-P3		PE1-PE2	55	46	44			V	SB01-178	柱痕跡
16SB01-P4		PE0-PE1	55	50	49			V	SB01-179	柱痕跡
16SB01-P5		PE0-PE1	47	52	42			V	SB01-180	柱痕跡

■柱穴列・塀・塀跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
16SA23	第51図 第56図	PS10-PS8	67	46	-	-	V	SD23	
16SA202-P1	第53図 第57図	PE6-PE7	12	14	14	-	V	SA202-P1	
16SA202-P2		PE6-PE7	17	21	18		V	SA202-P2	
16SA202-P3		PE6-PE7	16	20	16		V	SA202-P3	
16SA202-P4		PE6-PE7	18	19	18		V	SA202-P4	
16SA202-P5		PE6-PE7	13	17	13		V	SA202-P5	
16SA202-P6		PE6-PE7	13	16	15		V	SA202-P6	
16SA202-P7		PE6-PE7	19	16	15		V	SA202-P7	
16SA202-P8		PE6-PE7	16	17	16		V	SA202-P8	
16SA202-P9		PE6-PE7	16	19	17		V	SA202-P9	
16SA202-P10		PE6-PE7	14	25	17		V	SA202-P10	
16SA202-P11		PE6-PE7	25	17	17		V	SA202-P11	

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
16SD14	第51図	PS10-PS8	19	34	-	-	V	SD14	
16SD29	第51図	PS10-PS8	15	34	-	-	V	SD29	
16SD32	第52図	PS6-PS5	4	13	-	-	V	SD32	
16SD70	第51図	PS8-PS7	8	22	-	-	V	SD70	
16SD71	第51図	PS8-PS7	4	47	-	-	V	SD71	
16SD92	第51図	PS7-PS6	2	16	-	-	V	SD92	
16SD117	第51図	PS11-PS10	6	31	-	-	V	SD117	
16SD151	第52図	PS3-PS2	20	50	-	-	V	SD151	
16SD158	第52図	PS2-PS1	6	36	-	-	V	SD158	
16SD165	第54図	PW2-PW1	4	28	-	-	V	SD165	
16SD191	第53図	PE1-PE2	6	(30)	-	-	V	SD191	
16SD192	第53図	PE0-PE2	5	29	-	-	V	SD192	
16SD193	第53図	PE0-PE2	78	26	-	-	V	SD193	
16SD194	第53図	PE0-PE2	6	22	-	-	V	SD194	
16SD195	第53図	PS8-PE1	5	24	-	-	V	SD195	
16SD196	第53図	PE1-PE2	7	39	-	-	V	SD196	
16SD199	第53図	PE4-PE5	11	29	-	-	V	SD199	
16SD200	第53・56図	PE5-PE6	63	112	-	越前甕/不明石製品/ 不明鉄製品	V	SD200	
16SD201	第53・57図	PE6-PE7	11	38	-	-	V	SD201	
16SD204	第53図	PE2-PE3	6	30	-	-	V	SD204	
16SD215	第51図	PS8-PE0	-	36	-	-	V	SD215	
16SD217	第52図	PS6-PS5	7	26	-	-	V	SD217	

■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
16SKP01	第51図	PS9-PS8	49	54	39	-	V	SKP01	
16SKP02	第51図	PS9-PS8	42	50	47	-	V	SKP02	
16SKP03	第51図	PS9-PS8	38	48	41	-	V	SKP03	
16SKP04	第51図	PS9-PS8	18	(48)	40	-	V	SKP04	
16SKP05	第51図	PS9-PS8	19	(31)	(27)	-	V	SKP05	
16SKP06	第51図	PS10-PS9	6	37	(28)	-	V	SKP06	
16SKP07	第51図	PS10-PS9	5	37	(33)	-	V	SKP07	
16SKP08	第51図	PS10-PS9	10	(48)	-	-	V	SKP08	
16SKP09	第51図	PS10-PS9	9	36	24	-	V	SKP09	
16SKP10	第51図	PS10-PS9	40	58	(48)	-	V	SKP10	
16SKP11	第51図	PS9-PS8	46	39	38	-	V	SKP11	
16SKP12	第51図	PS10-PS9	52	43	41	-	V	SKP12	
16SKP13	第51図	PS10-PS9	4	35	16	-	V	SKP13	
16SKP15	第51図	PS9-PS8	30	47	(24)	-	V	SKP15	
16SKP16	第51図	PS9-PS8	21	27	24	-	V	SKP16	

第14表　曲輪10（第16次調査）遺構一覧表②

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
16SKP17	第51図 第56図	PS9-PS8	42	51	(48)	-	V	SKP17	
16SKP18	第51図	PS10-PS9	8	24	19	-	V	SKP18	
16SKP19	第51図	PS10-PS9	11	44	35	-	V	SKP19	
16SKP20	第51図	PS10-PS9	17	25	(20)	-	V	SKP20	
16SKP21	第51図	PS10-PS9	23	(43)	34	-	V	SKP21	
16SKP22	第51図	PS10-PS9	15	(24)	20	-	V	SKP22	
16SKP24	第51図	PS9-PS8	51	47	47	-	V	SKP24	
16SKP25	第51図	PS10-PS9	16	(42)	(30)	-	V	SKP25	
16SKP26	第51図	PS10-PS9	16	(59)	59	-	V	SKP26	
16SKP27	第51図	PS9-PS8	19	34	33	-	V	SKP27	
16SKP28	第51図	PS10-PS9	9	(44)	42	-	V	SKP28	
16SKP30	第51図	PS12-PS11	16	(51)	-	-	V	-	
16SKP31	第51図	PS10-PS9	8	42	38	-	V	SKP31	
16SKP34	第51図	PS10-PS9	11	(40)	37	-	V	SKP34	
16SKP35	第51図	PS9-PS8	40	47	(36)	-	V	SKP35	
16SKP36	第51図	PS9-PS8	51	(42)	33	-	V	SKP36	
16SKP38	第51図	PS10-PS9	11	(31)	-	-	V	SKP38	
16SKP39	第51図	PS9-PS8	14	68	(45)	-	V	SKP39	
16SKP40	第51図	PS9-PS8	34	45	41	石製甕もしくは鉢 【第61図-3】	V	SKP40	
16SKP42	第51図	PS10-PS9	9	22	18	-	V	SKP42	
16SKP43	第51図	PS9-PS8	31	25	20	-	V	SKP43	
16SKP45	第51図	PS10-PS9	11	(66)	-	-	V	SKP45	
16SKP46	第51図	PS9-PS8	33	47	(42)	-	V	SKP46	
16SKP47	第51図	PS9-PS8	11	61	(48)	-	V	SKP47	
16SKP48	第51図	PS9-PS8	51	84	71	-	V	SKP48	
16SKP50	第51図 第56図	PS10-PS9	32	63	(54)	-	V	SKP50	
16SKP51	第51図	PS10-PS9	10	(40)	33	-	V	SKP51	
16SKP52	第51図	PS9-PS8	19	(38)	(31)	-	V	SKP52	
16SKP53	第51図	PS10-PS9	33	43	39	-	V	SKP53	
16SKP54	第51図	PS10-PS9	10	22	21	-	V	SKP54	
16SKP55	第51図	PS9-PS8	15	23	21	-	V	SKP55	
16SKP56	第51図	PS9-PS8	11	23	(22)	-	V	SKP56	
16SKP57	第51図	PS9-PS8	19	(23)	23	-	V	SKP57	
16SKP58	第51図	PS9-PS8	8	17	13	-	V	SKP58	
16SKP59	第51図	PS8-PS7	17	55	44	-	V	SKP59	
16SKP61	第51図	PS8-PS7	42	32	30	-	V	SKP61	
16SKP62	第51図	PS8-PS7	34	(31)	-	-	V	SKP62	
16SKP63	第51図	PS8-PS7	5	21	20	-	V	SKP63	
16SKP64	第51図	PS8-PS7	26	43	(27)	-	V	SKP64	
16SKP65	第51図	PS8-PS7	38	68	55	-	V	SKP65	
16SKP66	第51図	PS8-PS7	12	(42)	(34)	-	V	SKP66	
16SKP67	第51図	PS7-PS6	41	52	51	-	V	SKP67	
16SKP68	第51図	PS8-PS7	30	90	85	-	V	SKP68	
16SKP72	第51図	PS8-PS7	34	(30)	-	-	V	SKP72	
16SKP73	第51図	PS8-PS7	32	60	(51)	-	V	SKP73	
16SKP74	第51図	PS7-PS6	41	49	(36)	-	V	SKP74	
16SKP75	第51図	PS8-PS7	58	72	59	-	V	SKP75	
16SKP76	第51図	PS7-PS6	30	(23)	-	-	V	SKP76	
16SKP77	第51図	PS7-PS6	15	23	22	-	V	SKP77	
16SKP78	第51図	PS7-PS6	15	49	47	-	V	SKP78	
16SKP79	第51図	PS7-PS6	22	(45)	31	-	V	SKP79	
16SKP80	第51図	PS7-PS6	56	39	(37)	-	V	SKP80	
16SKP81	第51図	PS7-PS6	52	59	49	-	V	SKP81	
16SKP82	第51図	PS7-PS6	39	(34)	-	-	V	SKP82	
16SKP83	第51図	PS7-PS6	39	(20)	-	-	V	SKP83	
16SKP84	第51図	PS7-PS6	32	42	33	-	V	SKP84	
16SKP85	第51図	PS8-PS7	41	(31)	-	-	V	SKP85	
16SKP86	第51図	PS8-PS7	34	57	44	-	V	SKP86	
16SKP87	第51図	PS8-PS7	33	44	(34)	-	V	SKP87	
16SKP88	第51図	PS8-PS7	49	52	(37)	-	V	SKP88	
16SKP89	第51図	PS8-PS7	17	29	(15)	-	V	SKP89	
16SKP90	第51図	PS8-PS7	19	(33)	31	-	V	SKP90	
16SKP91	第51図	PS8-PS7	42	(49)	36	-	V	SKP91	
16SKP93	第51図	PS7-PS6	40	38	(34)	-	V	SKP93	
16SKP94	第51図	PS7-PS6	36	71	53	-	V	SKP94	

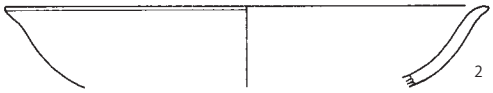
第15表　曲輪10（第16次調査）遺構一覧表③

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
16SKP96	第51図	PS8-PS7	42	42	42	-	V	SKP96	
16SKP97	第51図	PS8-PS7	9	36	35	-	V	SKP97	
16SKP98	第51図	PS8-PS7	27	54	48	-	V	SKP98	
16SKP99	第51図	PS9-PS8	16	50	(31)	-	V	SKP99	
16SKP100	第51図	PS9-PS8	48	42	(30)	-	V	SKP100	
16SKP101	第51図	PS9-PS8	36	45	(40)	-	V	SKP101	
16SKP102	第51図	PS10-PS9	19	36	29	-	V	SKP102	
16SKP103	第52図	PS5-PS4	15	17	16	-	V	SKP103	
16SKP104	第52図	PS6-PS5	30	34	(30)	-	V	SKP104	
16SKP105	第52図	PS6-PS5	38	38	(36)	-	V	SKP105	
16SKP106	第52図	PS6-PS5	26	(41)	-	-	V	SKP106	
16SKP107	第52図	PS6-PS5	35	(14)	-	-	V	SKP107	
16SKP108	第52図	PS5-PS4	33	37	27	-	V	SKP108	
16SKP109	第52図	PS5-PS4	40	34	33	-	V	SKP109	
16SKP110	第52図	PS4-PS3	26	45	37	-	V	SKP110	
16SKP111	第52図	PS4-PS3	58	(45)	-	-	V	SKP111	
16SKP112	第52図	PS4-PS3	26	35	28	-	V	SKP112	
16SKP113	第51図	PS11-PS10	33	(37)	-	-	V	SKP113	
16SKP114	第51図	PS11-PS10	33	31	30	-	V	SKP114	
16SKP116	第51図	PS12-PS11	32	(45)	-	-	V	SKP116	
16SKP118	第52図	PS4-PS3	6	24	16	-	V	SKP118	
16SKP119	第52図	PS3-PS2	10	30	25	-	V	SKP119	
16SKP120	第52図	PS3-PS2	92	37	33	-	V	SKP120	
16SKP121	第52図	PS3-PS2	11	20	19	-	V	SKP121	
16SKP122	第52図	PS3-PS2	6	18	16	-	V	SKP122	
16SKP123	第52図	PS3-PS2	15	15	11	-	V	SKP123	
16SKP124	第52図	PS3-PS2	38	31	30	-	V	SKP124	
16SKP125	第52図	PS4-PS3	23	53	42	-	V	SKP125	
16SKP126	第52図	PS4-PS3	14	68	61	-	V	SKP126	
16SKP127	第52図	PS4-PS3	46	54	24	-	V	SKP127	
16SKP128	第52図	PS6-PS5	21	33	21	-	V	SKP128	
16SKP129	第52図	PS6-PS5	6	25	20	-	V	SKP129	
16SKP130	第52図	PS6-PS5	46	40	34	-	V	SKP130	
16SKP131	第52図	PS5-PS4	16	(38)	37	-	V	SKP131	
16SKP132	第51図	PS7-PS6	36	44	43	-	V	SKP132	
16SKP133	第52図	PS8-PS7	11	33	(24)	-	V	SKP133	
16SKP134	第51図	PS7-PS6	24	(48)	-	-	V	SKP134	
16SKP135	第52図	PS8-PS7	10	17	15	-	V	SKP135	
16SKP136	第51図	PS9-PS8	19	18	18	-	V	SKP136	
16SKP137	第52図	PS4-PS3	9	18	16	-	V	SKP137	
16SKP138	第52図	PS5-PS4	18	22	19	-	V	SKP138	
16SKP139	第52図	PS5-PS4	11	30	28	-	V	SKP139	
16SKP140	第52図	PS5-PS4	23	43	34	-	V	SKP140	
16SKP141	第52図	PS6-PS5	6	(34)	31	-	V	SKP141	
16SKP142	第52図	PS6-PS5	-	40	(31)	-	V	SKP142	
16SKP143	第52図	PS5-PS4	9	20	20	-	V	SKP143	
16SKP144	第52図	PS6-PS5	7	(31)	24	-	V	SKP144	
16SKP145	第52図	PS6-PS5	24	29	29	-	V	SKP145	
16SKP146	第52図	PS6-PS5	11	21	20	-	V	SKP146	
16SKP147	第52図	PS2-PS1	14	44	33	-	V	SKP147	
16SKP148	第52図	PS2-PS1	16	30	28	-	V	SKP148	
16SKP149	第52図	PS2-PS1	22	(31)	27	-	V	SKP149	
16SKP150	第52図	PS2-PS1	16	38	(10)	-	V	SKP150	
16SKP152	第52図	PS2-PS1	17	(43)	-	-	V	SKP152	
16SKP153	第52図	PS1-PS0	11	41	(15)	-	V	SKP153	
16SKP154	第52図	PS1-PS0	29	53	50	-	V	SKP154	
16SKP155	第52図	PS2-PS1	22	(26)	-	-	V	SKP155	
16SKP156	第52図	PS1-PS0	9	(27)	-	-	V	SKP156	
16SKP157	第52図	PS1-PS0	7	(28)	-	-	V	SKP157	
16SKP159	第52図	PS2-PS1	9	30	20	-	V	SKP159	
16SKP160	第54図	PW2-PW1	21	33	29	-	V	SKP160	
16SKP161	第54図	PW1-PS8	14	(40)	-	-	V	SKP161	
16SKP162	第54図	PW2-PW1	27	(27)	-	-	V	SKP162	
16SKP163	第54図	PW2-PW1	5	26	(25)	-	V	SKP163	
16SKP164	第54図	PW1-PS8	43	34	34	-	V	SKP164	

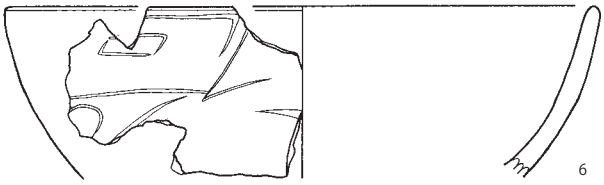
第16表　曲輪10（第16次調査）遺構一覧表④

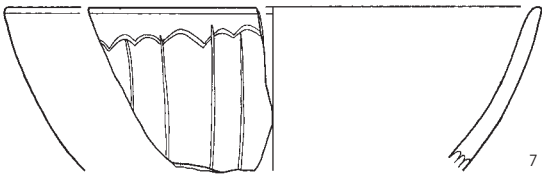
遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
16SKP166	第54図	PW2-PW1	3	(17)	-	-	V	SKP166	
16SKP167	第54図	PW1-PS8	55	35	28	-	V	SKP167	
16SKP168	第54図	PW1-PS8	10	39	37	-	V	SKP168	
16SKP169	第54図	PW1-PS8	4	(17)	-	-	V	SD169	
16SKP170	第54図	PW2-PW1	5	27	(26)	-	V	SKP170	
16SKP171	第54図	PW1-PS8	36	32	28	-	V	SKP171	
16SKP172	第54図	PW1-PS8	28	(39)	35	-	V	SKP172	
16SKP173	第54図	PW1-PS8	36	71	46	-	V	SKP173	
16SKP174	第54図	PW1-PS8	29	(28)	-	-	V	SKP174	
16SKP175	第53図	PE1-PE2	38	(54)	-	-	V	SKP175	
16SKP181	第53図	PE1-PE2	13	36	35	-	V	SKP181	
16SKP182	第53図	PE1-PE2	26	25	20	-	V	SKP182	
16SKP183	第51図	PE0-PE1	13	18	17	-	V	SKP183	
16SKP184	第53図	PE0-PE1	35	43	39	-	V	SKP184	
16SKP185	第53図	PE0-PE1	19	35	21	-	V	SKP185	
16SKP186	第53図	PE1-PE2	14	23	20	-	V	SKP186	
16SKP187	第53図	PE1-PE2	16	29	(28)	-	V	SKP187	
16SKP188	第53図	PE1-PE2	16	34	(22)	-	V	SKP188	
16SKP189	第53図	PE0-PE1	19	42	26	-	V	SKP189	
16SKP190	第53図	PE0-PE1	27	(28)	-	-	V	SKP190	
16SKP197	第52図	PE1-PE2	33	38	36	-	V	SKP197	
16SKP198	第52図	PE1-PE2	13	28	26	-	V	SKP198	
16SKP203	第52図	PE2-PE3	35	29	25	-	V	SKP203	
16SKP205	第53図	PE5-PE6	11	(40)	-	-	V	SKP205	
16SKP206	第52図	PS6-PS5	43	38	36	-	V	SKP206	
16SKP207	第52図	PS6-PS5	23	(45)	-	-	V	SKP207	
16SKP208	第52図	PS6-PS5	33	(28)	-	-	V	SKP208	
16SKP209	第51図	PS8-PS7	29	(32)	-	-	V	SKP209	
16SKP210	第51図	PS8-PS7	37	42	38	-	V	SKP210	
16SKP211	第52図	PS1-PS0	6	31	(30)	-	V	SKP211	
16SKP212	第52図	PS5-PS4	19	(47)	45	-	V	SKP212	
16SKP213	第51図	PS10-PS9	33	28	(20)	-	V	SKP213	
16SKP214	第51図	PS9-PS8	44	43	(34)	-	V	SKP214	
16SKP216	第51図	PS7-PS6	36	43	41	-	V	SKP216	
16SKP218	第51図	PS9-PS8	14	(25)	25	-	V	SKP218	
16SKP219	第51図	PS9-PS8	3	38	(36)	-	V	SKP219	
16SKP220	第52図	PS6-PS5	40	21	-	-	V	SKP220	

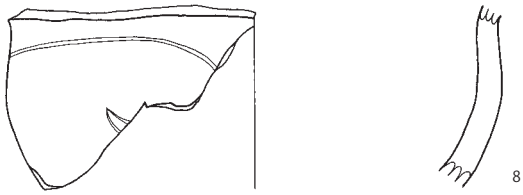
白磁



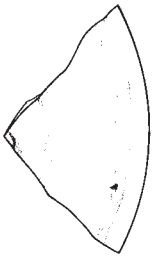
青磁

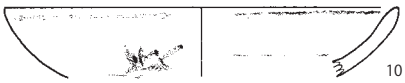


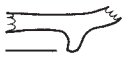


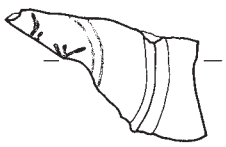


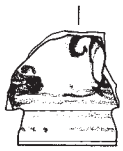
染付

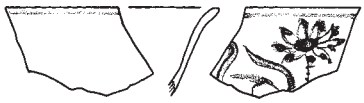








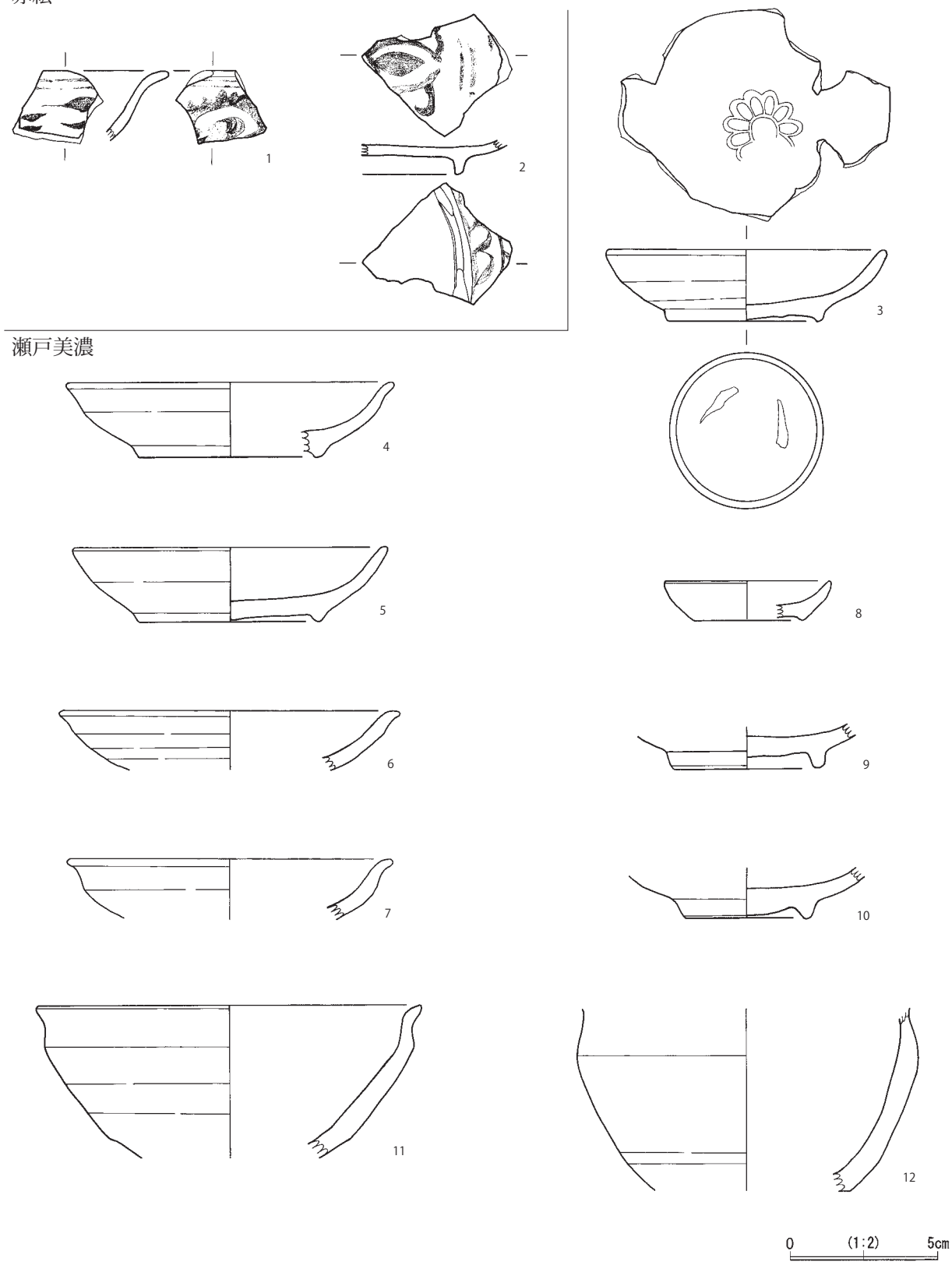




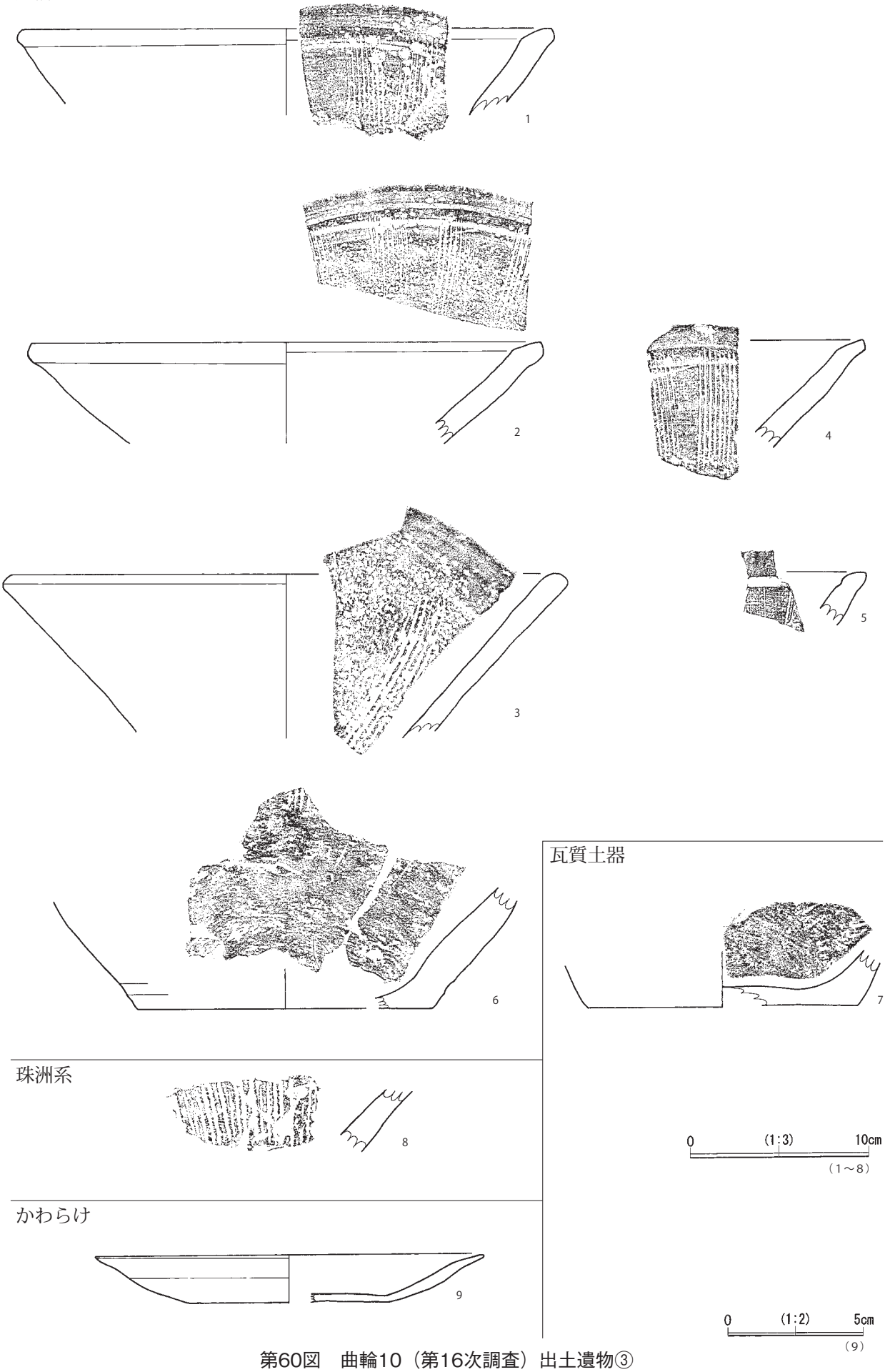
0　(1:2)　5cm

第58図　曲輪10（第16次調査）出土遺物①

赤絵

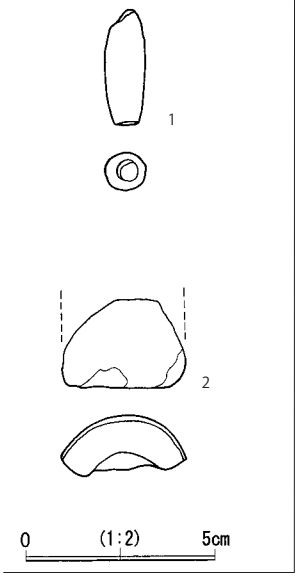


第59図　曲輪10（第16次調査）出土遺物②

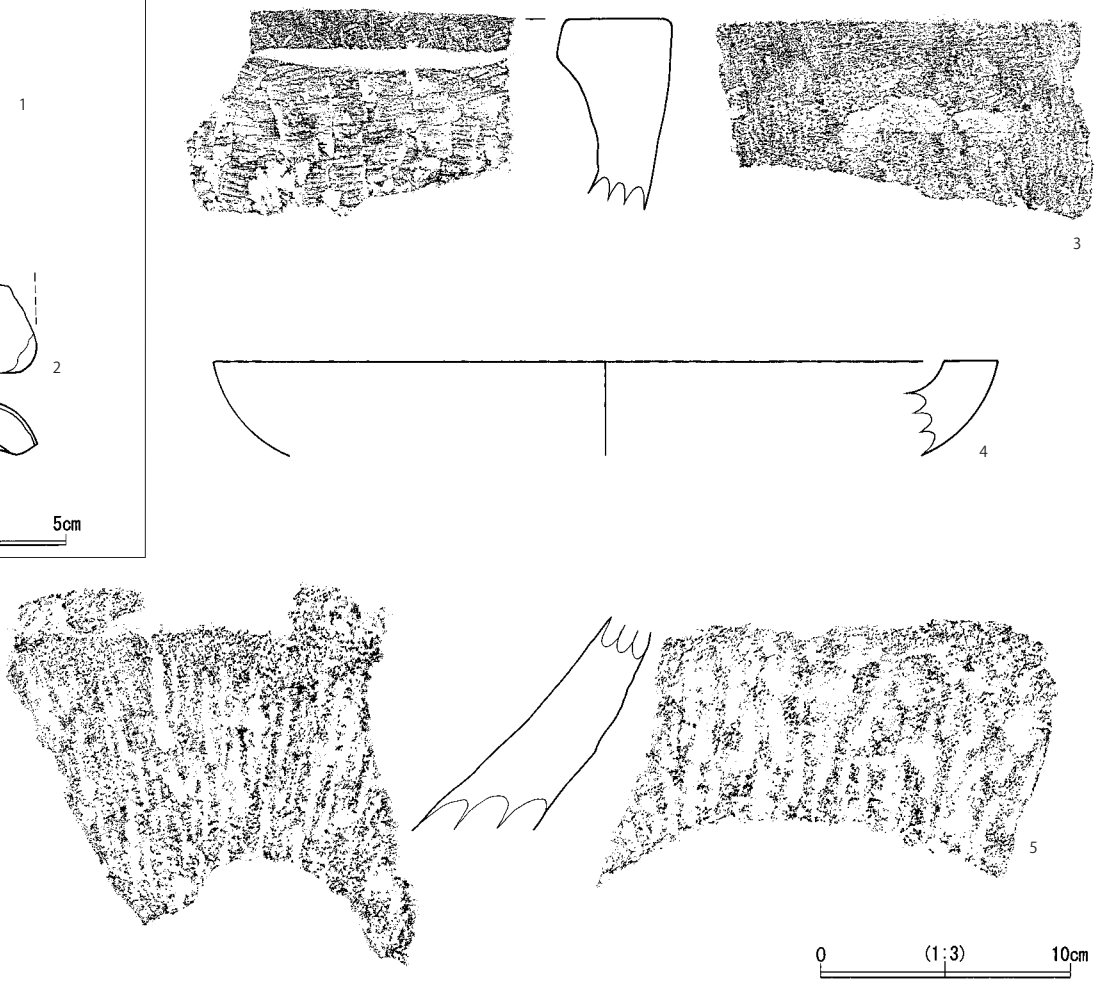


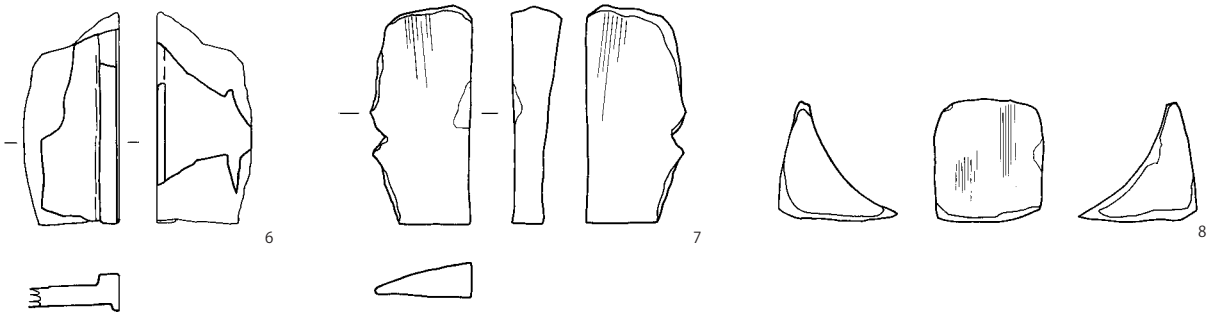
第60図　曲輪10（第16次調査）出土遺物③

土製品

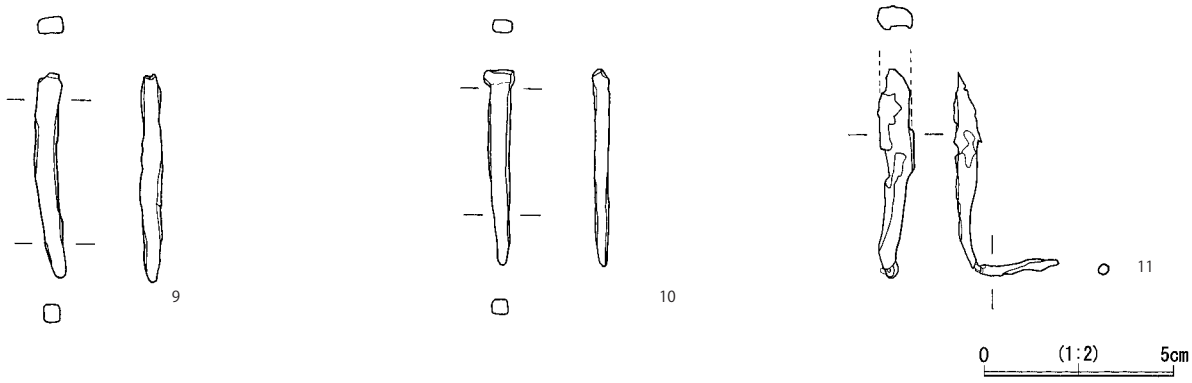


石製品



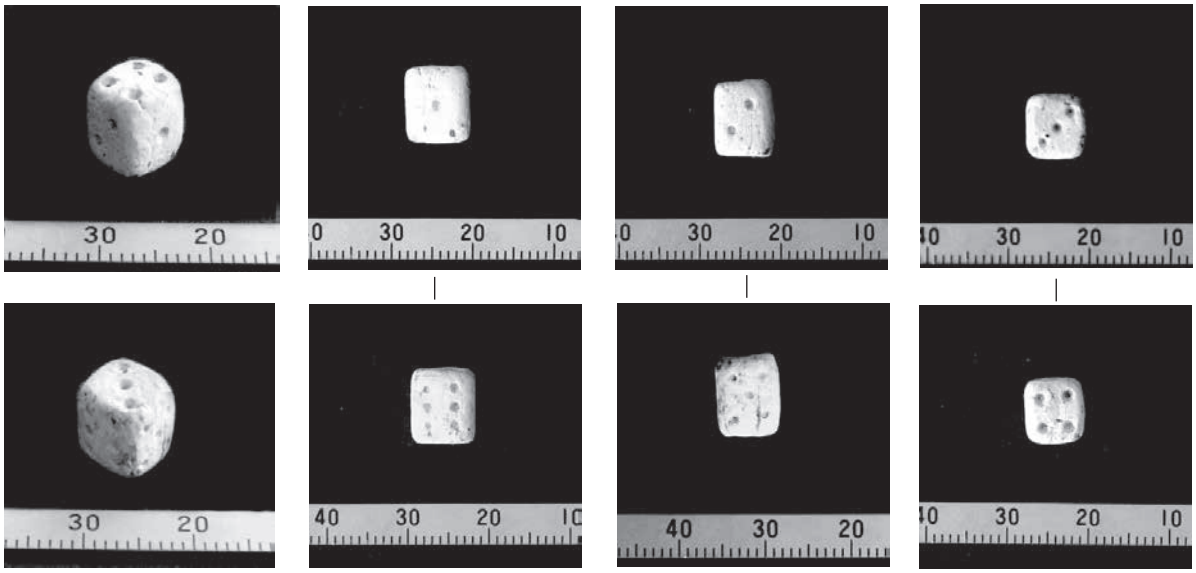


金属製品



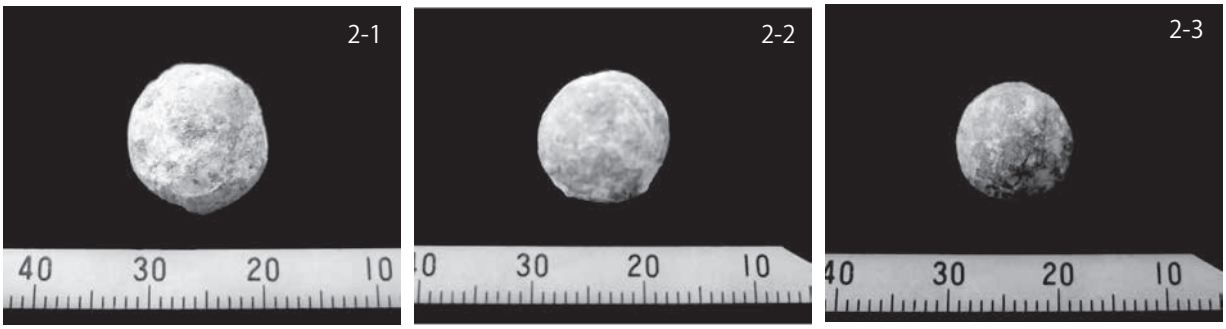
第61図　曲輪10（第16次調査）出土遺物④

1



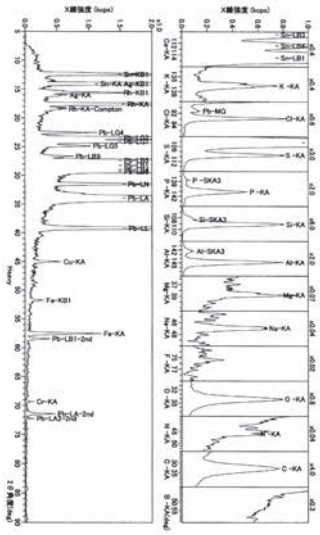
※－は対面する数字の目を示す

2

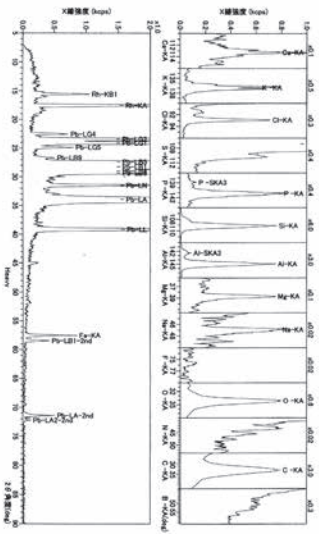


元素	2-1（wt％）	2-2（wt％）	2-3（wt%）
Pb(鉛)	82.6412	99.286	65.7678
Sn(錫)	16.0729	-	32.5259
Fe(鉄)	0.8242	0.714	1.1488
Ag(銀)	0.2048	-	-
Cr(クロム)	0.1305	-	-
Sb(アンチモン)	-	-	0.3503
Cu(銅)	001264	-	0.2071

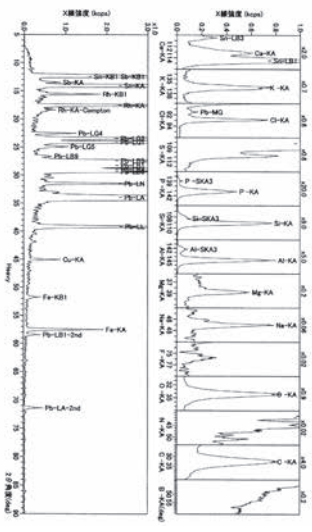
※3点の出土弾丸は成分分析を行っている。
平成19年度に株式会社 吉田生物研究所へ委託した成分分析結果を抜粋した。
詳細は男鹿市教育委員会2008『脇本城跡Ⅴ』参照。



2-1 成分分析チャート



2-2 成分分析チャート



2-3 成分分析チャート

第62図　曲輪10（第16次調査）出土遺物⑤

第17表　曲輪10（第16次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
68	23	81	7	78	64	6	0	0	0	0	0	0	11	14	6	17	0	0	5	0	8	3	16	漆1他5

第18表　曲輪10（第16次調査）出土遺物観察表

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
58	1	31	白磁	皿	PS9・PE0	-	(11.3)	-	(1.9)	15c後半～16c	V	28	1	
58	2	31	白磁	皿	PS6・PE2	-	(12.7)	-	(2.7)	15c後半～16c	V	28	2	
58	3	31	白磁	皿	PS3	-	(13.2)	-	(4.1)	15c後半～16c	V	28	3	
58	4	31	白磁	坏	PS5	-	(6.8)	-	(3.1)	15c後半～16c	V	28	5	
58	5	31	青磁	皿	PS11	-	(12.8)	-	(1.8)	-	V	28	6	
58	6	31	青磁	碗	PS1	-	(15.4)	-	(4.5)	15c前半	V	28	7	雷文
58	7	31	青磁	碗	PS1	-	(14.3)	-	(4.3)	15c後半～16c前半	V	28	8	蓮弁文
58	8	31	青磁	碗	PS7	-	-	-	(4.5)	-	V	28	9	
58	9	31	染付	皿	PS10	-	(14.4)	-	(2.9)	15c後半～16c前半	V	28	11	
58	10	31	染付	皿	PE1	-	(10.4)	-	(1.8)	15c後半～16c	V	28	12	
58	11	31	染付	皿	PS10	-	-	-	-	16c後半	V	28	13	高台内「宣徳年造」
58	12	31	染付	皿	PS3	-	-	-	(1.2)	16c後半	V	28	14	高台内に字款
58	13	31	染付	碗	PE3	-	-	-	(3.0)	-	V	28	15	
58	14	31	染付	坏	PE4	-	-	-	(2.3)	-	V	29	1	
59	1	31	赤絵	皿	PS3・4	-	-	-	(2.4)	-	V	29	2	
59	2	31	赤絵	皿	PE0	-	-	-	(1.1)	-	V	29	2	
59	3	31	瀬戸美濃	皿	PE1	-	(9.4)	5.0	2.4	15c後半～16c前半	V	29	3	印花文
59	4	31	瀬戸美濃	皿	PS10・11	-	(11.0)	(6.2)	2.5	15c後半～16c中	V	29	4	
59	5	31	瀬戸美濃	皿	PS10・11	-	(11.6)	(6.2)	2.5	15c中～	V	29	5	
59	6	31	瀬戸美濃	皿	PE1	-	(11.4)	-	(2.0)	15c後半～16c中	V	29	6	被熱
59	7	31	瀬戸美濃	皿	PS9	-	(11.0)	-	(2.0)	15c後半～16c中	V	29	7	
59	8	31	瀬戸美濃	皿	PS7	-	(5.6)	(3.6)	1.4	-	V	29	8	
59	9	31	瀬戸美濃	皿	PS1PS2	-	-	5.0	(1.4)	-	V	28	4	
59	10	31	瀬戸美濃	皿	PE4	-	-	4.2	(1.7)	-	V	28	10	
59	11	31	瀬戸美濃(天目)	碗	PS11	-	(10.1)	-	(5.1)	-	V	29	9	
59	12	31	瀬戸美濃(天目)	碗	PS9・10	-	-	-	(6.1)	-	V	29	10	
60	1	31	越前	すり鉢	PS12	-	(29.3)	-	(4.6)	16c後葉	V	30	1	
60	2	31	越前	すり鉢	PS12	-	(28.2)	-	(5.5)	16c後葉	V	30	2	
60	3	31	越前	すり鉢	PS1	-	(15.2)	-	(9.0)	15c後葉	V	30	3	越前を模した在地系か
60	4	31	越前	すり鉢	PS10	-	-	-	(5.8)	16c後葉	V	30	4	
60	5	31	越前	すり鉢	PS5	-	-	-	(2.9)	-	V	30	5	
60	6	31	越前	すり鉢	PS10	-	-	(16.4)	(6.6)	-	V	30	6	
60	7	31	瓦質土器	すり鉢	PE1	-	-	(15.0)	(3.0)	-	V	30	7	
60	8	31	珠洲系	すり鉢	PS1	-	-	-	(3.4)	-	V	30	8	
60	9	31	かわらけ	皿	PS12	-	(14.4)	(7.5)	1.7	16c	V	30	9	京都系かわらけ

■石製品・土製品・金属製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
61	1	31	土製品	土錘	PE4	-	3.0	(最大幅)1.1	-	-	V	31	1	
61	2	31	土製品	土錘	PS12	-	(2.3)	-	-	-	V	31	2	
61	3	31	石製品	甕/鉢	PS9	16SKP40	(口径)(31.0)	-	(器高)(7.5)	-	V	31	3	
61	4	31	石製品	石臼	PS12	-	(口径)(18.0)	-	(器高)(3.7)	-	V	31	4	
61	5	31	石製品	石鉢	PS5	-	-	-	(器高)(8.2)	-	V	31	5	
61	6	31	石製品	硯	PS6	-	(5.5)	(2.5)	(1.0)	-	V	31	6	
61	7	31	石製品	砥石	PS12	-	(5.7)	(2.6)	(1.3)	-	V	31	7	
61	8	31	石製品	不明	PS8	-	3.2	-	-	-	V	31	8	
61	9	31	金属製品	和釘	PS11	-	5.3	0.6	0.5	-	-	-	-	鉄製
61	10	31	金属製品	和釘	PS11	-	5.1	0.5	0.4	-	-	-	-	鉄製
61	11	31	金属製品	不明	PS11	-	(5.4)	0.9	0.6	-	-	-	-	銅製

■金属製品（鉛製弾丸）

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm/g）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							最大径	最小径	重量					
62	2-1	-	金属製品	弾	PS12	-	1.29	1.20	5.1	-	V	32	317	3匁玉
62	2-2	-	金属製品	弾	PS11	5層	1.29	1.21	8.5	-	V	32	324	3匁玉
62	2-3	-	金属製品	弾	PS11	5層	1.11	1.06	4.7	-	V	32	325	2匁玉

■骨製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							長辺	短辺	厚さ					
62	1	-	骨製品	さいころ	PS4	-	0.9	0.7	-	-	V	32	-	

（３）曲輪12（第17次調査）

①曲輪12の立地と概要

曲輪12は内館地区のほぼ中央部に位置する標高80mの曲輪である。西側の第16次調査区である曲輪10とは標高差約３mであり、急な斜面をもって隣接している。曲輪12の北側は標高が約６m低くなってコンクリート舗装道があり、さらに沢を挟んだ北側に「天下道」と呼称される道路跡が残存している。この舗装道路は昭和30年代に城跡の観光利用を目的に造成された道路であり、その際に曲輪12北側を大きく削平している。

脇本城跡では現地形が窪んだ状態で残る井戸跡と推定する遺構が複数確認されている。これらは地形観察から井戸跡と推定しているにとどまっており、これまで調査されていない。本曲輪にも井戸跡があり、本調査ではこの井戸跡も調査対象とした。

②検出遺構

曲輪12の調査では、第16次調査トレンチを延長して、曲輪の造成及び曲輪内の建物跡の有無、及びその規模など、曲輪の全体像やその機能を把握することを目的として、任意の大きさのトレンチ11か所を設定して行った。その結果、総計で掘立柱建物跡１棟、井戸跡１基、土坑２基、溝跡27条、集石遺構１基、焼土遺構１基、柱穴跡60基、盛土跡２か所、整地跡２か所が検出された。

各トレンチについて

【１トレンチ】

曲輪10の第16次調査区に隣接して、曲輪12西側斜面に南北４m、東西3.5mで設定した。斜面は厚さ約1.3mの盛土により造成されていた。盛土層直下は地山土である。サブトレンチを設定し、盛土の掘り下げを行い、盛土下部の状況を確認した。盛土下は曲輪10から曲輪12へ下るように地山が確認され、城造成以前より曲輪10と12には高低差があったことが明らかとなった。盛土内より､石製火鉢片が出土し、５トレンチ内出土のものと接合した（第76図－１）。さらに小片のため図示していないが、瀬戸美濃片１点、かわらけ片２点が出土した。

【２トレンチ】

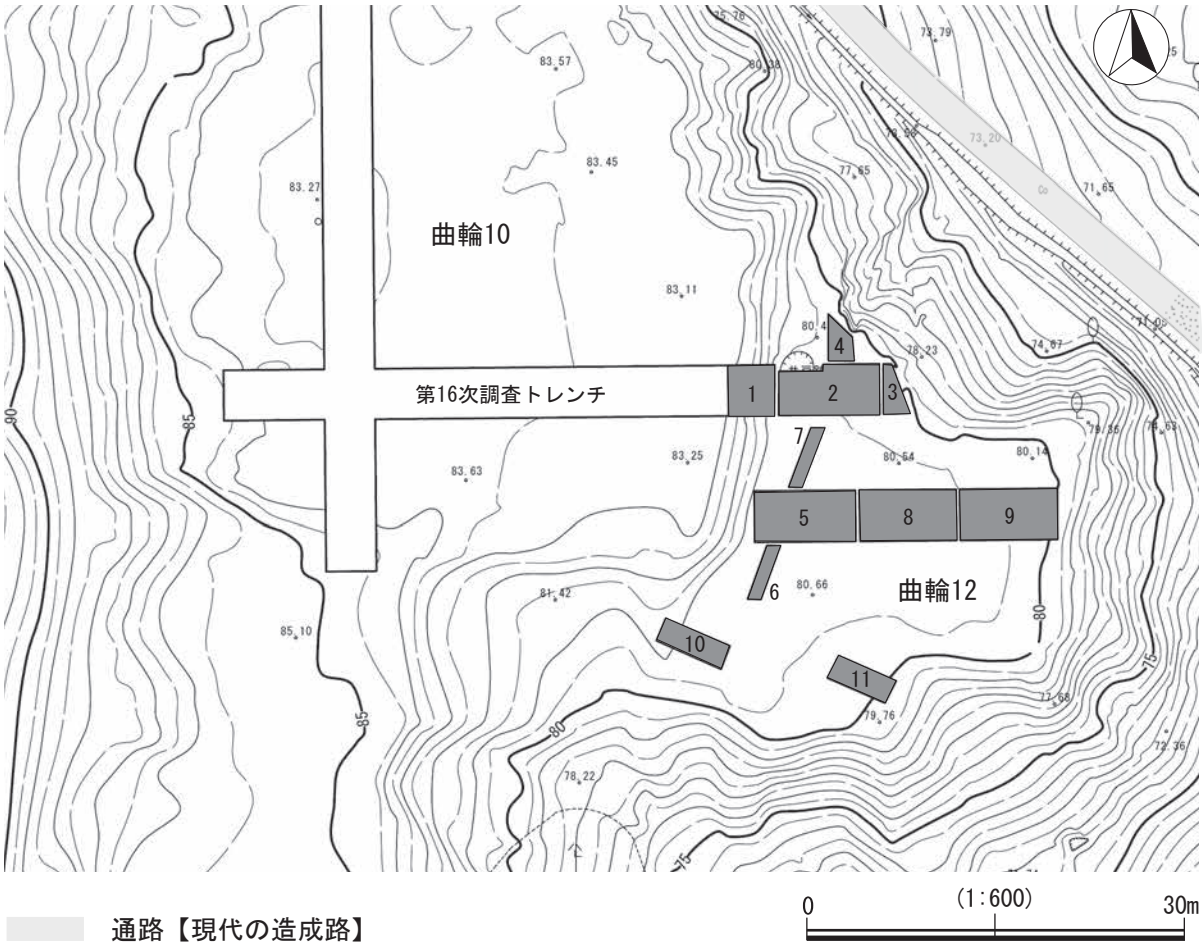
１トレンチの延長上に、南北４m×東西８mで設定した。遺構確認面はそのほとんどが地山土であったが、斜面際のトレンチ西側で一部整地層であった。

【３・４トレンチ】

３トレンチは２トレンチを延長した曲輪端部に、４トレンチは曲輪北側端部に、それぞれ曲輪の形状に合わせて任意に設定した。遺構確認面はいずれも地山土であった。

【５・６・７トレンチ】

５トレンチは曲輪12中央西側に南北４m×東西８mで設定した。その結果17SB109が検出されたため、その規模を把握するため、検出された掘立柱建物跡の柱穴の軸を延長して設定した。６トレンチは５トレンチ南側に南北4.5m×東西１m、７トレンチは５トレンチ北側に南北５m×東西１mとした。遺構確認面は全面地山土であった。また、５トレンチ西側の遺構確認面直上から表面を漆膜によって装飾した銅製の足金物(第76図－４）が１点出土した。



第63図　曲輪12（第17次調査）トレンチ配置図

【８・９トレンチ】

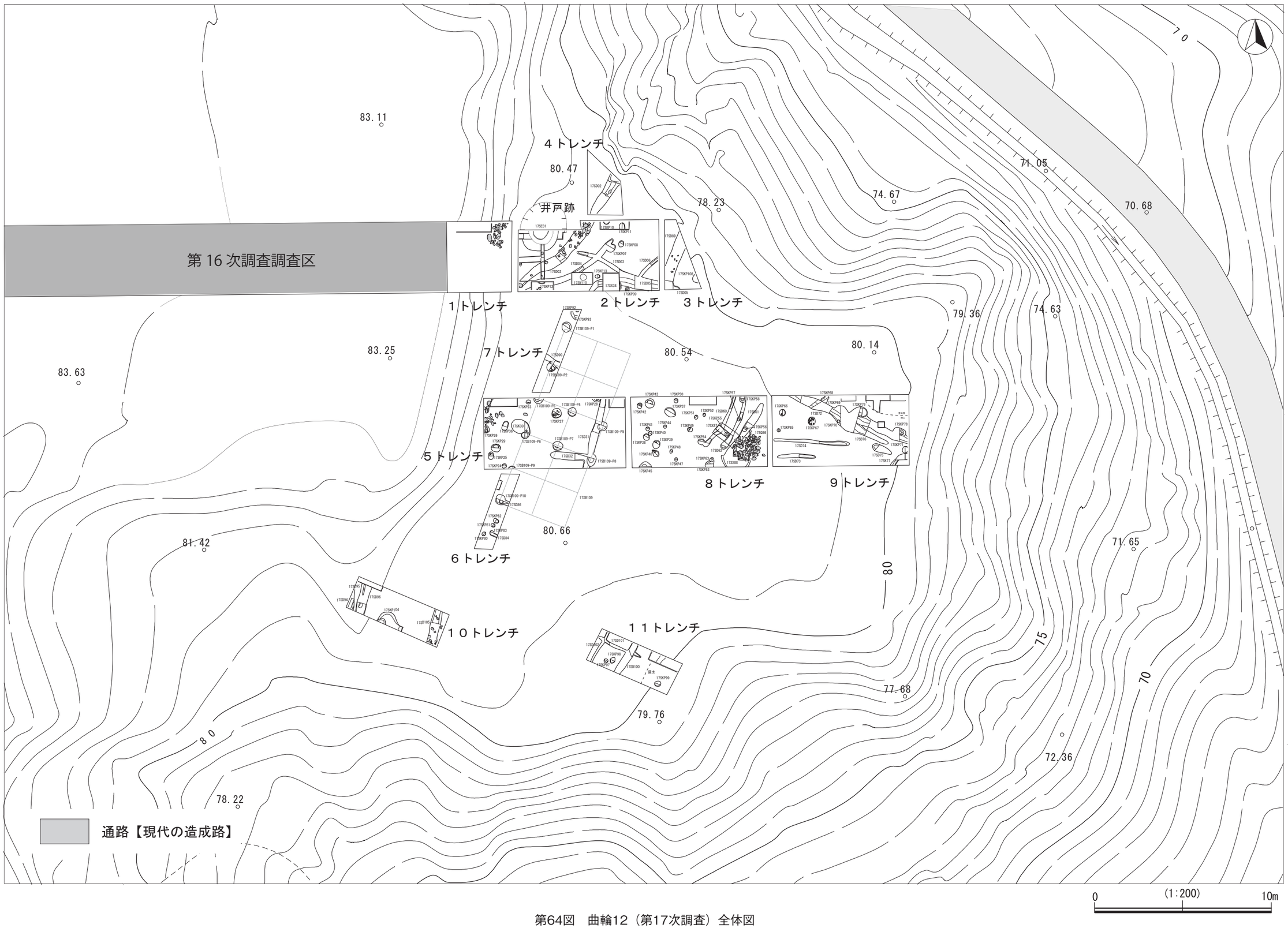
５トレンチの延長上の曲輪12中央部に設定した。いずれのトレンチも南北４m×東西８mで設定した。遺構確認面は地山土であったが、９トレンチ北東隅の一部で整地層であった。

【10トレンチ】

10トレンチ付近は曲輪10から緩やかに傾斜しながら、トレンチ西側で40cm程度の段をもって接続する。曲輪12への進入路を明らかにする目的で曲輪10と曲輪12の南側境界付近に南北２m×東西5.5mで設定したが、進入路の特定には至らなかった。遺構確認面はいずれも地山土であった。

【11トレンチ】

11トレンチは凸形を呈する曲輪12の造成方法を特定する目的で、曲輪南東側落ち際斜面に南北２m×東西５mで設定した。遺構確認面は西側が地山土、東側が盛土であった。11トレンチ付近は40cm～60cmの高低差の段を有し、わずかに平坦となった後、さらに急激に傾斜する。このわずかな平坦面から盛土跡が検出された。そのためサブトレンチを設定し、盛土下の状況を確認した結果、地山が急激に落ち込んでいることが確認された。これは本調査区付近で地すべりを起こし、元来平坦であった曲輪が現況で確認できる段を有することとなったと判断した。地すべり後に補修した痕跡等も見られなかったことから、廃城以後に地すべりを起こしたことが推定される。遺物は図示していないが、サブトレンチ

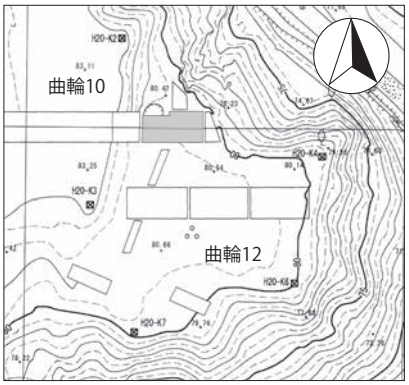


第64図　曲輪12（第17次調査）全体図

1トレンチ　a-b/c-d土層注記

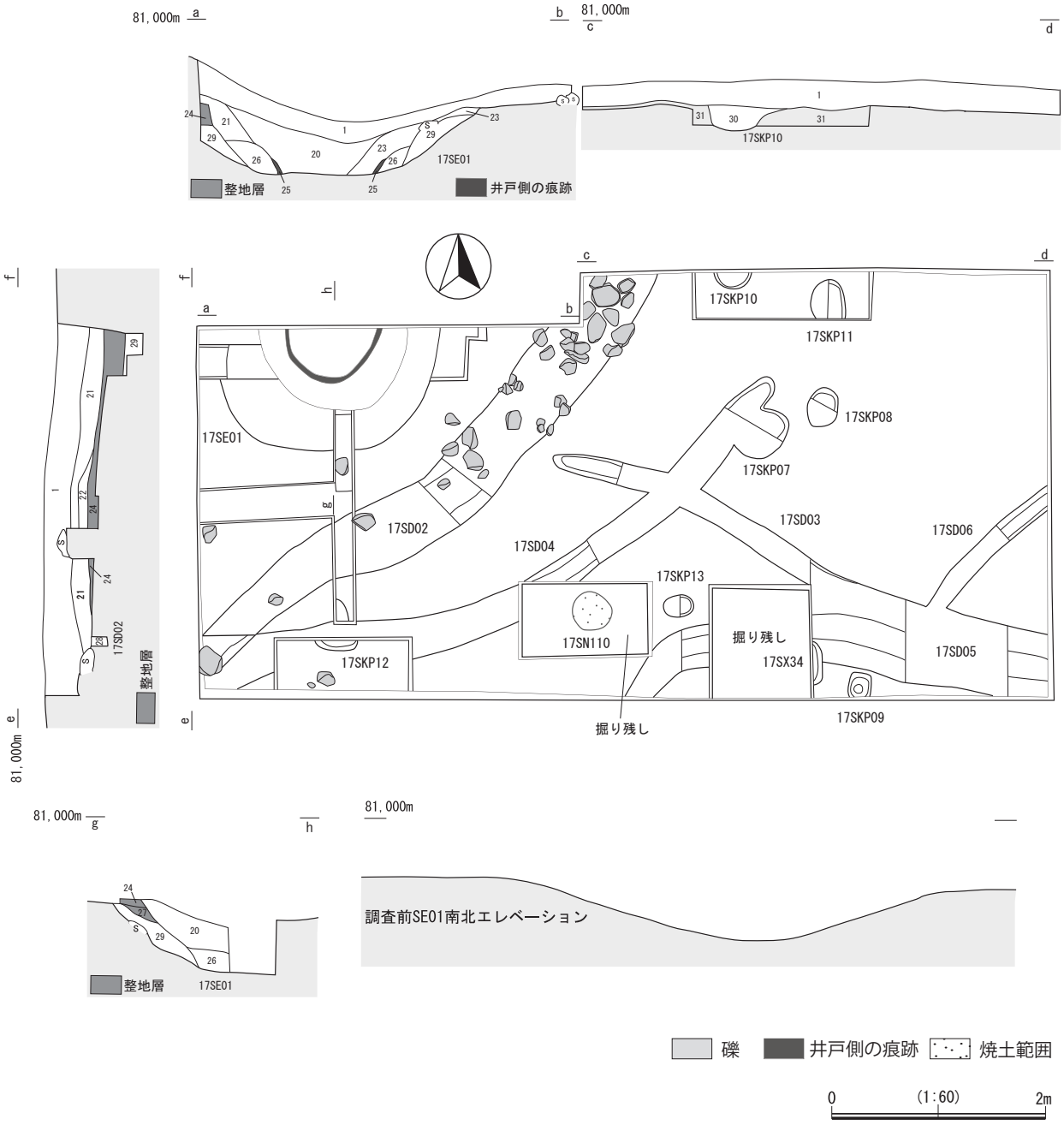
1. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり中　地山土小ブロック少量　根が多く、乾くとボソボソになる［表土］
2. 褐色(10YR4/4)　しまり中　地山土小ブロック中量　炭化物少量［盛土］
3. 暗褐色(10YR3/3)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量［盛土］
4. 黄褐色(10YR5/6)　シルト　しまり中　地山土粒子中量　炭化物少量［盛土］
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物少量［盛土］
6. にぶい黄褐色(10YR5/4)　シルト　しまり強　地山土小ブロック少量　礫(φ5mm)微量　炭化物少量［盛土］
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)　シルト　しまり強　地山土小ブロック中量　炭化物少量　鉄分微量　褐色(10YR4/4)砂少量［盛土］
8. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック・炭化物少量［盛土］
9. にぶい黄褐色(10YR5/4)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物・にぶい黄橙色(10YR6/4)砂中量　黒褐色(10YR3/1)シルト土小量[盛土]
10. にぶい黄褐色(10YR5/3)　シルト　しまり強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分少量［盛土］
11. にぶい黄橙色(10YR6/4)　砂　しまり強　地山土小ブロック少量　黒褐色(10YR3/1)シルト土少量　砂が主体の層　炭化物微量［盛土］
12. にぶい黄橙色(10YR6/4)　砂　しまり強　地山土小ブロック・炭化物少量　鉄分中量［盛土］
13. にぶい黄褐色(10YR5/4)　シルト　しまり強　地山土小ブロック・にぶい黄橙色(10YR6/4)砂小量　炭化物微量［盛土］
14. にぶい黄橙色(10YR6/3)　シルト　しまり強　地山土粒子微量　にぶい黄橙色(10YR6/4)砂・炭化物少量［盛土］
15. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり強　地山土小ブロック中量　鉄分小量　黒褐色(10YR3/1)シルト中量［盛土］
16. 褐色(10YR4/6)　シルト　しまり強　地山土小ブロック中量　炭化物微量　鉄分少量［盛土］
17. にぶい黄褐色(10YR5/4)　シルト　しまり強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分少量［盛土］
18. 黄褐色(10YR5/6)　シルト　しまり強　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分多量［盛土］
19. にぶい黄褐色(10YR5/4)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック少量　炭化物微量　鉄分・にぶい黄橙色(10YR6/4)砂少量［盛土］

第65図　１トレンチ平面図・断面図

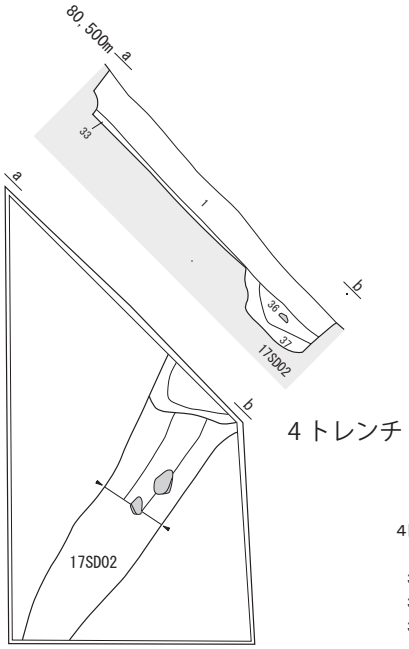


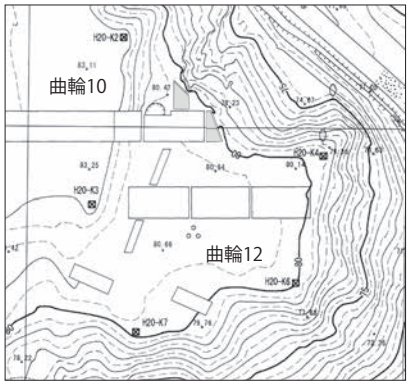
2トレンチ　a-b/c-d/e-f/g-h土層注記

1. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり中　地山土小ブロック少量　根が多く、乾くとボソボソになる［表土］
20. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり中　地山土粒子少量　炭化物微量［堆積土］
21. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり中　地山土小ブロック少量　炭化物中量　焼土少量［堆積土］
22. にぶい黄褐色(10YR5/4)　シルト　しまり中　地山土小ブロック中量　炭化物微量［堆積土］
23. 褐色(10YR4/6)　シルト　しまり中　地山土小ブロック・鉄分・炭化物少量［崩落土］
24. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり強　地山土小ブロック・炭化物少量［整地層］
25. 黒褐色(10YR3/1)　シルト　しまり弱　腐食土［井戸側痕跡］
26. 褐灰色(10YR5/1)　粘土　しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物中量［井戸構築土］
27. 褐色(10YR4/6)　シルト　しまり弱　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量［整地層］
28. 灰黄褐色(10YR4/2)　シルト　しまり中　地山土ブロック少量　炭化物中量・鉄分少量［17SD02］
29. 黄褐色(10YR5/8)　シルト　しまり弱　地山土小ブロック多量　褐灰色(10YR6/1)粘質土をまだらに含む［井戸構築土］
30. にぶい黄褐色(10YR5/4)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分少量　明黄褐色(10YR6/6)砂小量［17SKP10］
31. 黄褐色(0YR5/8)　シルト　しまりやや強　にぶい黄橙色(10YR7/2)シルト中量　鉄分多量［地山］



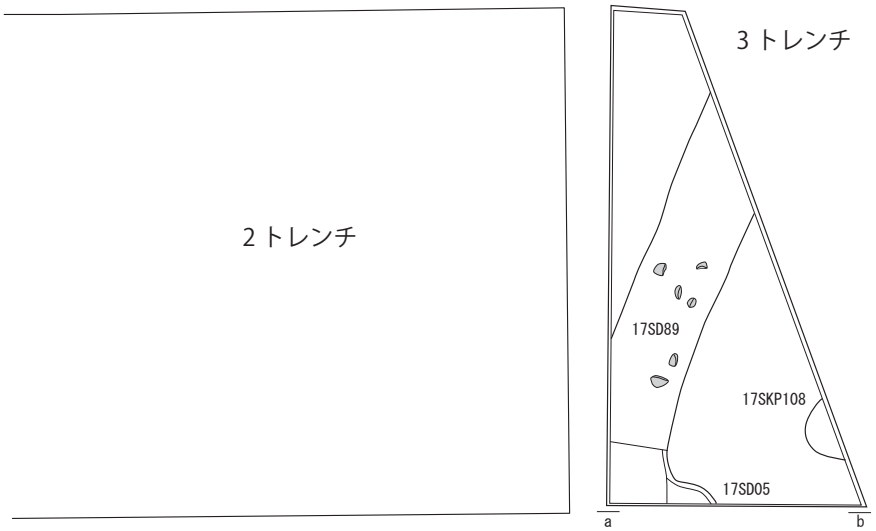
第66図　２トレンチ平面図・断面図





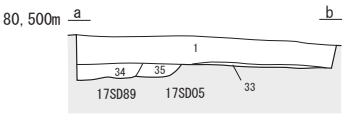
4トレンチ　a–b土層注記

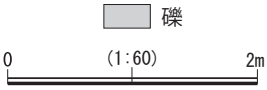
1. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中　地山土小ブロック少量　根が多く、乾くとボソボソになる［表土］
33. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり強　1層土やや混ざる［地山漸移層］
36. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中　地山土小ブロック・炭化物少量［17SD02］
37. にぶい黄褐色(10YR5/3) シルト しまり中　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量［17SD02］



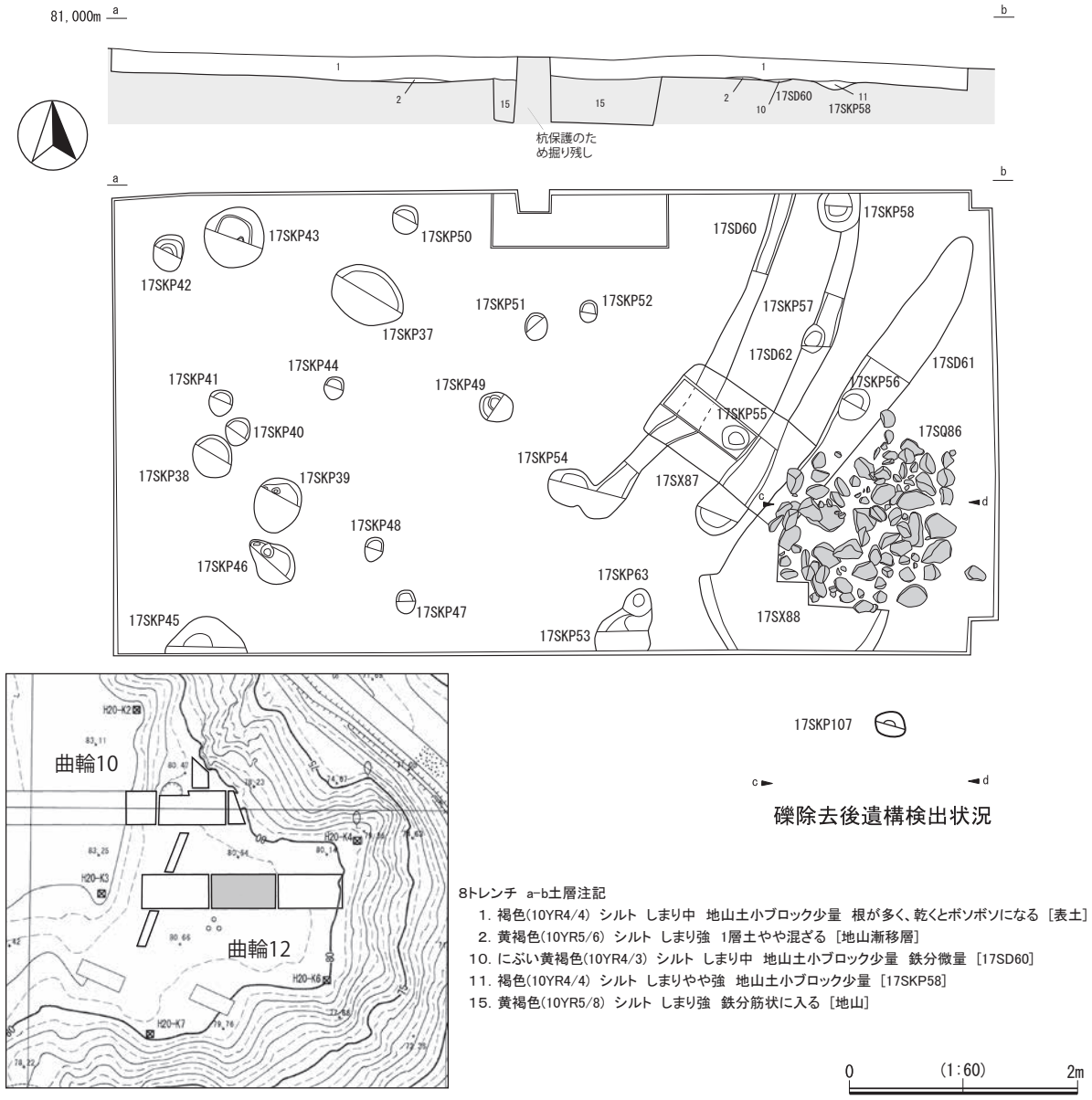
3トレンチ　a–b土層注記

1. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中　地山土小ブロック少量　根が多く、乾くとボソボソになる［表土］
33. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり強　1層土やや混ざる［地山漸移層］
34. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中　地山土小ブロック・炭化物少量［17SD89］
35. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり中　地山土小ブロック中量　鉄分少量［17SD05］





第67図　３・４トレンチ平面図・断面図

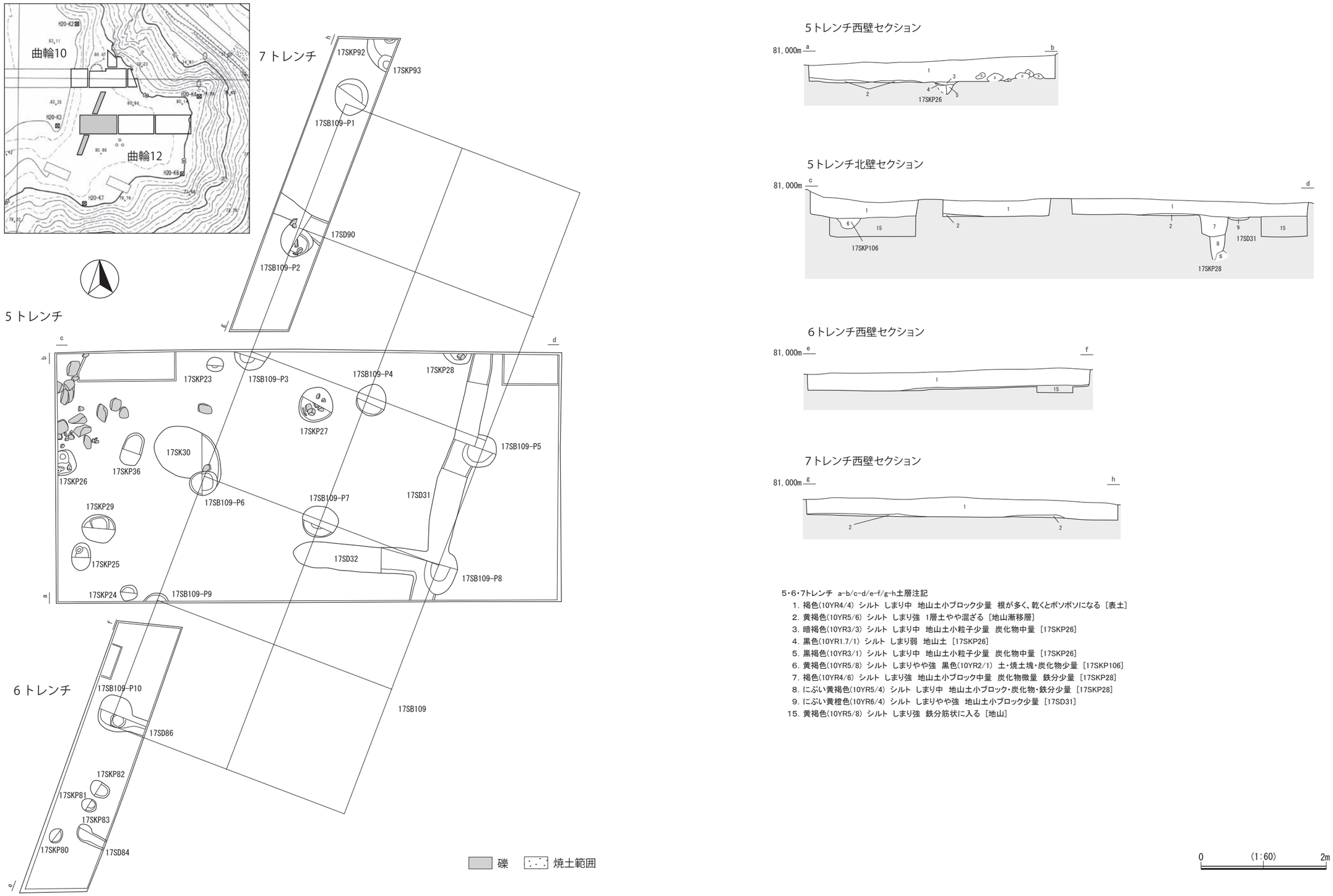


第68図　８トレンチ平面図・断面図

の掘り下げの際に盛土内から漆製品の小片が１点出土している。

17SB109掘立柱建物跡（第69・72図）

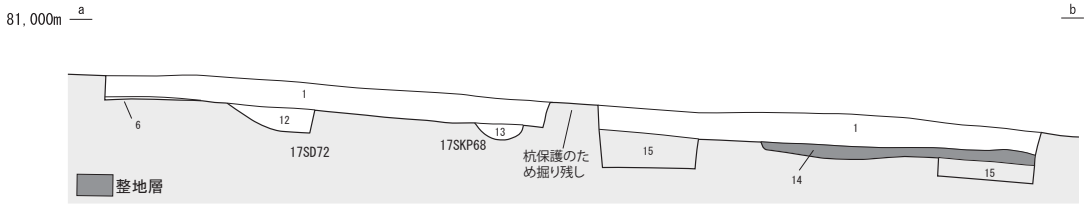
５～７トレンチで検出された。Ｐ１～P10で構成され、確認された規模は東西３間×南北４間である。軸線方向はN－22°－Eである。調査区の関係から西側の柱穴で規模を特定しており、全面検出には至っていない。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。各柱穴から柱痕跡は確認されなかったものの、南北の柱間は2.10m ～ 2.12m、東西の柱間は1.98m ～ 2.00mとなり、尺寸で表記すると、南北７尺、東西６尺６寸（１尺＝0.303cmで換算）の建物跡となる。柱穴跡には溝跡や土坑と切り合い関係を持つものがあり、17SK30、17SD86溝跡よりは新しく、他の遺構よりは古い。Ｐ６内からは刀子(第77図－１)が１点出土した。柱穴中央部の、確認面から、10cm ～ 15cm下で出土しており、柱穴を抜き取った後に埋納したものであることが考えられる。またほぼ同一面から図示していないもの

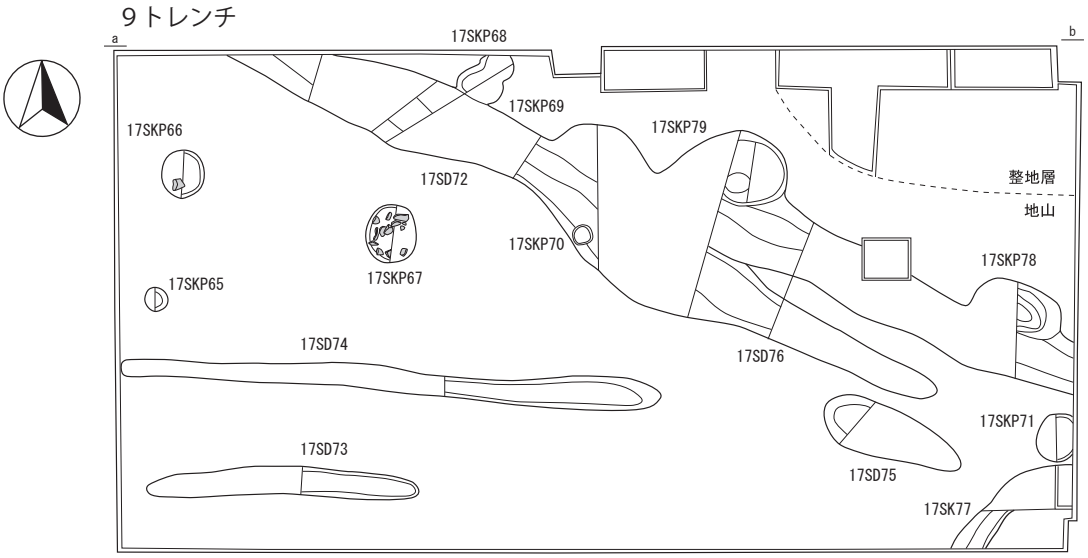


5・6・7トレンチ a-b/c-d/e-f/g-h土層注記

1. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 地山土小ブロック少量 根が多く、乾くとボソボソになる [表土]
2. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり強 1層土やや混ざる [地山漸移層]
3. 暗褐色(10YR3/3) シルト しまり中 地山土小粒子少量 炭化物中量 [17SKP26]
4. 黒色(10YR1.7/1) シルト しまり弱 地山土 [17SKP26]
5. 黒褐色(10YR3/1) シルト しまり中 地山土小粒子少量 炭化物中量 [17SKP26]
6. 黄褐色(10YR5/8) シルト しまりやや強 黒色(10YR2/1) 土・焼土塊・炭化物少量 [17SKP106]
7. 褐色(10YR4/6) シルト しまり強 地山土小ブロック中量 炭化物微量 鉄分少量 [17SKP28]
8. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまり中 地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量 [17SKP28]
9. にぶい黄橙色(10YR6/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 [17SD31]
15. 黄褐色(10YR5/8) シルト しまり強 鉄分筋状に入る [地山]

第69図　5・6・7トレンチ平面図・断面図

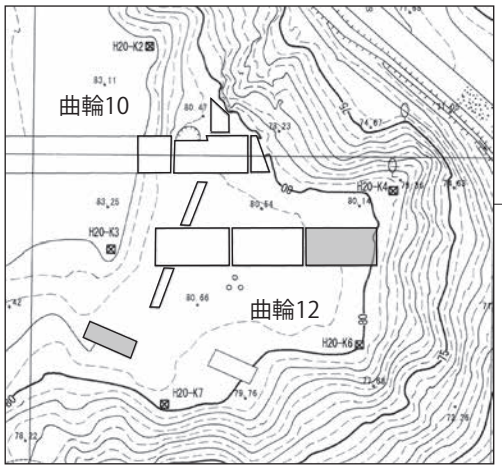


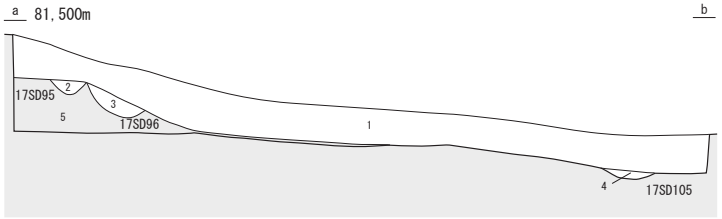


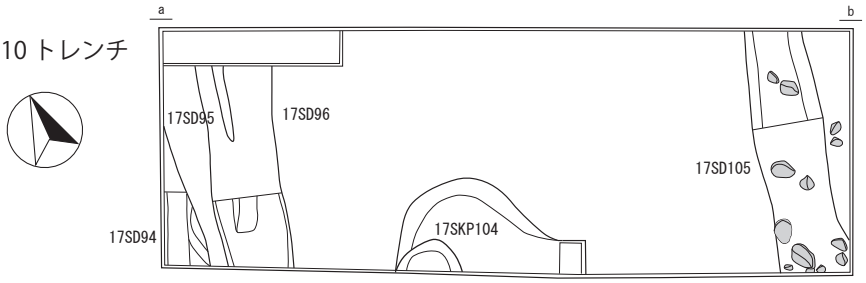
9トレンチ　a–b土層注記

1. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり中　地山土小ブロック少量　根が多く、乾くとボソボソになる［表土］
6. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり中　地山土小ブロック少量　炭化物中量　焼土少量［地山漸移層］
12. 暗褐色(10YR3/3)　シルト　しまり中　地山土小粒子・炭化物・鉄分小量［17SD72］
13. 黄褐色(10YR5/6)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック・炭化物少量［17SKP68］
14. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量［整地層］
15. 褐灰色(10YR5/1)　粘土　しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物中量［地山］

礫　0　(1:60)　2m





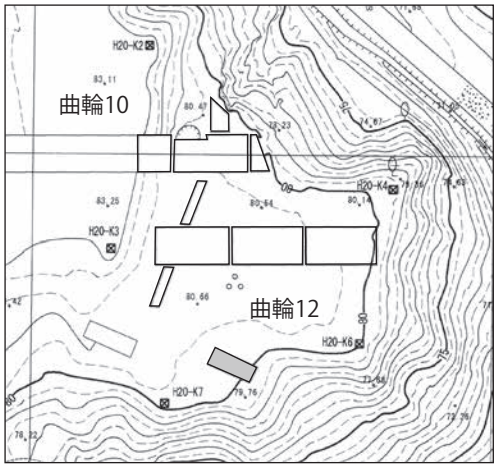


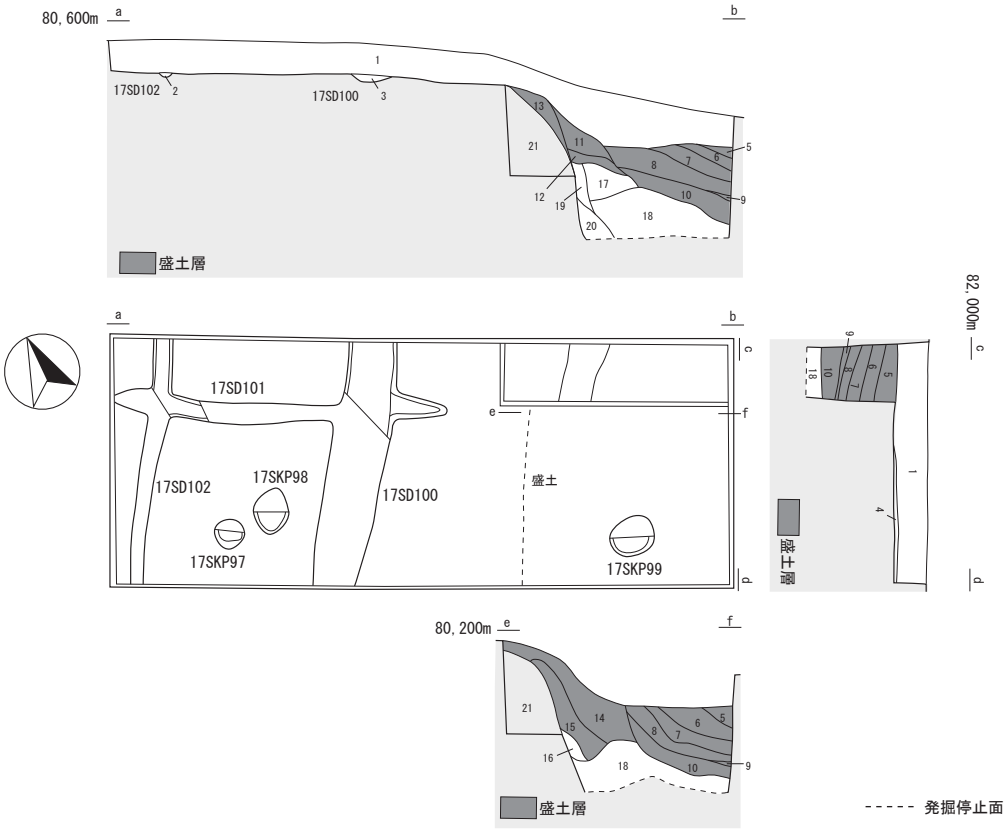
10トレンチ　a–b土層注記

1. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり中　地山土小ブロック少量　根が多く、乾くとボソボソになる［表土］
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)　シルト　しまり中　地山土小ブロック少量　炭化物・鉄分少量［17SD95］
3. 黄褐色(10YR5/6)　シルト　しまり中　地山土小ブロック中量　炭化物微量　鉄分少量［17SD96］
4. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり中　地山土小ブロック少量［17SD105］
5. 黄褐色(10YR5/8)　シルト　しまりやや強　にぶい黄橙色(10YR7/2)シルト中量　鉄分多量［地山］

礫　0　(1:60)　2m

第70図　９・10トレンチ平面図・断面図



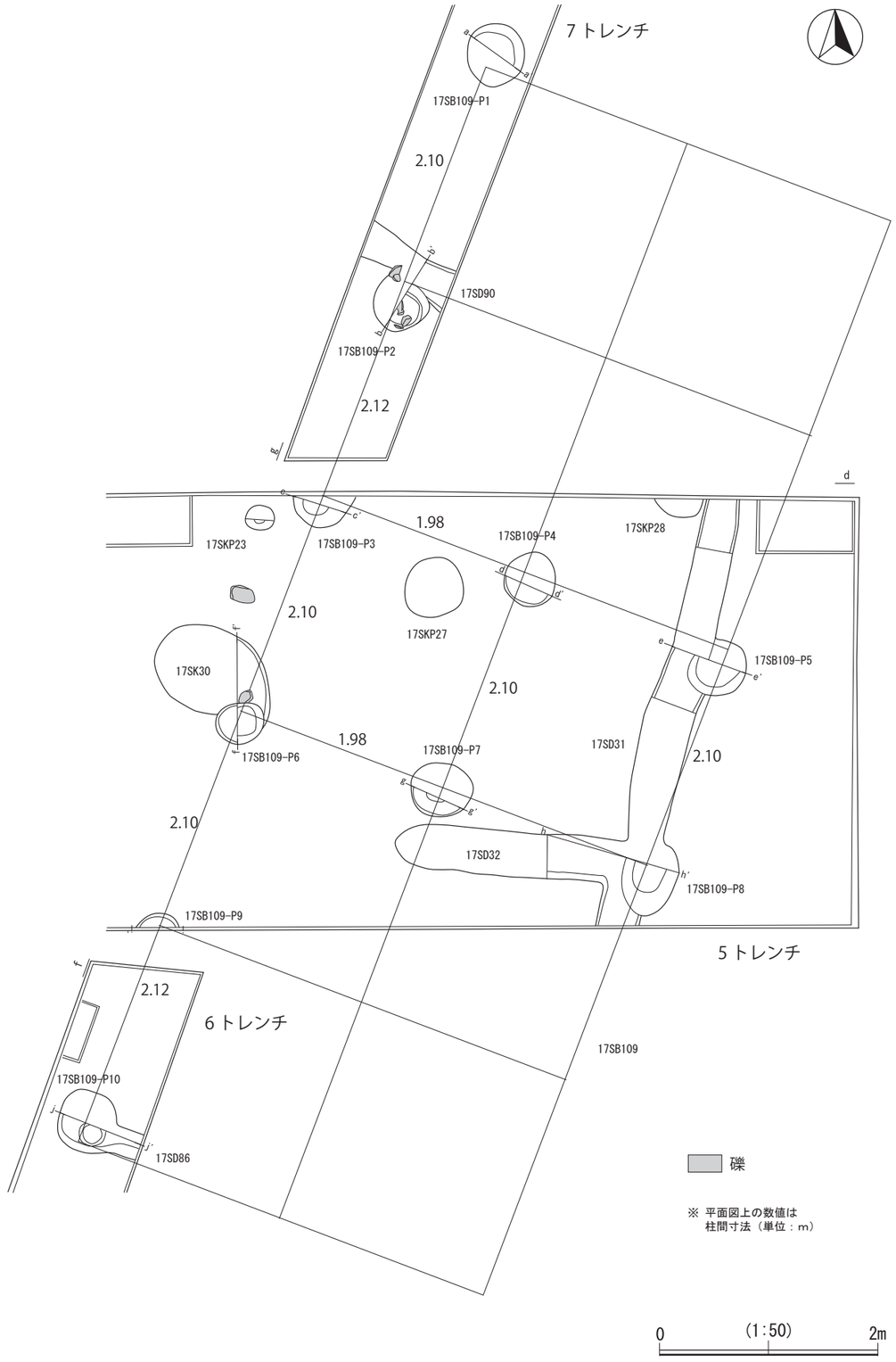


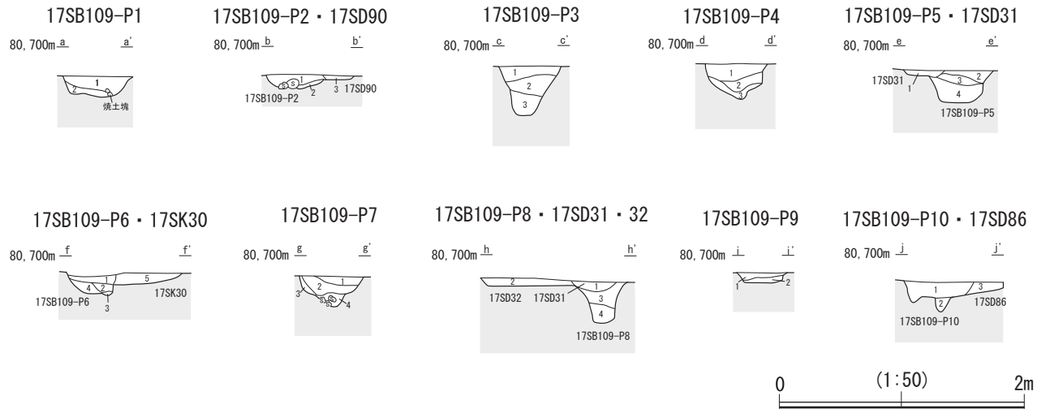
11トレンチ　a-b/c-d/e-f土層注記

1. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中　地山土小ブロック少量　根が多く、乾くとボソボソになる［表土］
2. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり中　地山土小ブロック少量　鉄分中量［17SD102］
3. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまり中　地山土小ブロック・炭化物少量［17SD100］
4. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり強　1層土やや混ざる［地山漸移層］
5. にぶい黄橙色(10YR6/4) しまり強　地山土小ブロック多量　炭化物微量　鉄分少量［盛土］
6. 暗褐色(10YR3/4) シルト しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量［盛土］
7. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分少量［盛土］
8. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや強　地山土粒子少量　地山土小ブロック微量　炭化物少量　焼土ブロック微量［盛土］
9. 黒褐色(10YR2/2) シルト しまり弱　地山土粒子微量　炭化物少量　植物腐敗層か？［盛土］
10. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや強　地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量［盛土］
11. 褐色(10YR4/4) シルト しまり強　地山土小ブロック中量　炭化物微量　鉄分少量［盛土］
12. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまりやや強　地山土小ブロック多量［盛土］
13. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまりやや強　地山土小ブロック多量　褐色(10YR4/4)土中量［盛土］
14. 暗褐色(10YR3/3) シルト しまり強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分小量［盛土］
15. 暗褐色(10YR3/4) シルト しまりやや強　地山土小ブロック少量　炭化物微量　鉄分少量［盛土］
16. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物微量　鉄分少量［地山地すべり土］
17. 暗褐色(10YR3/3) シルト しまり中　地山土粒子微量［地山地すべり土］
18. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり強　地山土粒子多量　地山土小ブロック中量［地山地すべり土］
19. 明黄褐色(10YR6/8) シルト しまりやや強　地山土小ブロック多量　14層土少量［地山地すべり土］
20. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり中　地山土小ブロック多量［地山地すべり土］
21. 明黄褐色(10YR6/6) シルト しまり強　灰白色(5YR7/2)土多量　鉄分筋状に中量［地山］

0　(1:60)　2m

第71図　11トレンチ平面図・断面図





■17SB109-P1
1. 褐色(10YR4/6) シルト しまり中 地山土小ブロック・炭化物・焼土塊少量 [17SB109-P1]
2. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり中 地山土小ブロック中量 炭化物微量 [17SB109-P1]

■17SB109-P2/17SD90
1. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 地山土小粒子・炭化物少量 [17SB109-P2]
2. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまり中 地山土小ブロック中量 鉄分少量 [17SB109-P2]
3. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 地山土小ブロック微量 炭化物・鉄分少量 [17SD90]

■17SB109-P3
1. 黒褐色(10YR3/2) シルト しまり強 地山土小ブロック・炭化物・焼土ブロック少量 [17SB109-P3]
2. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり中 地山土小ブロック多量 炭化物少量 [17SB109-P3]
3. 明黄褐色(10YR6/6) シルト しまり中 地山土小ブロック中量 炭化物少量 黒褐色(10YR3/1)土中量 [17SB109-P3]

■17SB109-P4
1. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中 地山土小ブロック少量 炭化物微量 [17SB109-P4]
2. 灰黄褐色(10YR4/2) シルト しまり強 地山土小ブロック・炭化物少量 [17SB109-P4]
3. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり強 地山土小ブロック中量 黒褐色(10YR3/1)土・炭化物少量 [17SB109-P4]

■17SB109-P5/17SD31
1. 暗褐色(10YR3/3) シルト しまり強 地山土小ブロック少量 [17SD31]
2. 暗褐色(10YR3/4) シルト しまり強 地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量 [17SB109-P5]
3. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中 地山土小ブロック・炭化物少量 [17SB109-P5]
4. 褐色(10YR4/6) シルト しまり強 地山土小ブロック多量 にぶい黄褐色(10YR4/3)小ブロック少量 炭化物微量 [17SB109-P5]

■17SB109-P6/17SK30
1. 黒褐色(10YR2/3) シルト しまりやや弱 地山土粒子・炭化物・鉄分少量 [17SB109-P6]
2. 黒褐色(10YR2/3) シルト しまり中 地山土小ブロック・炭化物少量 [17SB109-P6]
3. 暗褐色(10YR3/3) シルト しまり中 地山土粒子・炭化物・鉄分少量 [17SB109-P6]
4. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中 地山土小ブロック中量 炭化物微量 [17SB109-P6]
5. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中 地山土小ブロック・炭化物少量 [17SK30]

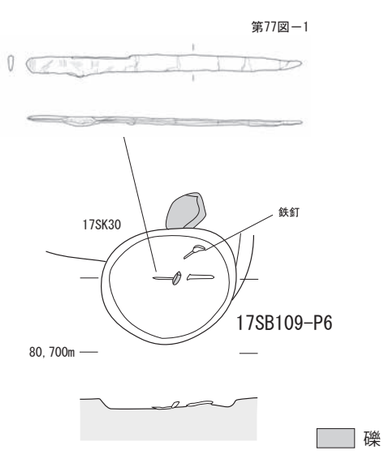
■17SB109-P7
1. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり強 地山土小ブロック少量 [17SB109-P7]
2. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり強 地山土小ブロック・炭化物少量 [17SB109-P7]
3. 褐色(10YR4/4) シルト しまり弱 地山土小ブロック少量 礫入る [17SB109-P7]
4. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり中 地山土小ブロック中量 [17SB109-P7]

■17SB109-P8/17SD31/17SD32
1. 暗褐色(10YR3/3) シルト しまり強 地山土小ブロック少量 [17SD31]
2. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまり中 地山土小ブロック中量 [17SD32]
3. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり中 地山土小ブロック中量 炭化物・鉄分少量 [17SB109-P8]
4. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや弱 地山土小ブロック少量 炭化物微量 [17SB109-P8]

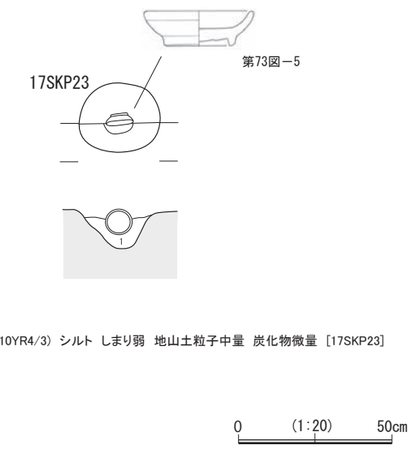
■17SB109-P9
1. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中 地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量 [17SB109-P9]
2. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまり中 地山土小ブロック中量 炭化物少量 鉄分微量 [17SB109-P9]

■17SB109-P10/17SD86
1. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量 [17SB109-P10]
2. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまりやや強 1層土小ブロック・炭化物少量 [17SB109-P10]
3. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック・炭化物少量 [17SD86]

17SB109-P6



17SKP23



■17SKP23
1. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり弱 地山土粒子中量 炭化物微量 [17SKP23]

第72図　17SB109

の、鉄製和釘が１点出土している。Ｐ１内から焼土塊及びP10内から炭化物が検出されたため、放射性炭素年代測定を実施した。その結果15世紀中頃～ 16世紀前半代(calAD 1,454 ～ calAD1,633)の年代が示された。

17SE01井戸跡（第66図）

２トレンチで検出された。現況地表面が南北約4.0m、東西3.1m、深さ約52cmにわたり窪んでいたため、地形観察によって調査以前から井戸跡として確認されていた。井戸跡であるかどうかの確認とその構造を明らかにする目的で南側半分の掘り下げを行った。表土下約40cmで、幅８cm、直径80cmの植物質の腐敗層と推定される黒褐色の半円形の層（25層）が検出された。これは縦板を円形に組んだ井戸側、もしくは井戸側及び水溜として用いた曲物の痕跡と考えられる。同様の井戸跡は市内の一向遺跡(磯村1978)、八郎潟東岸の井川町洲崎遺跡（秋田県埋蔵文化財センター 2000）でも検出されている。さらにその外側からは幅20cm ～ 30cmの灰色粘土層が検出され、井戸跡の壁面は非常に柔らかい地山近似土が検出された。灰色粘土層は脇本城跡内の丘陵上には確認されていないため、水の浸透を抑えるために充填された可能性が考えられる。また、井戸構築にあたって、掘り返した地山土で整形したものと考えられる。遺物は16世紀中頃に位置付けられる越前のすり鉢が20層中から出土し、17SD05溝跡内から出土しているものと接合する（第75図－７）。

17SN110焼土遺構（第66図）

２トレンチ中央部南側から検出された。遺構確認面より約10cm上方から検出され、周囲には炭化材も多く検出された。脇本城最盛期の旧表土に伴う遺構である可能性も考えられ、掘り残して保存した。明確な共伴遺物はなく、時期の特定はできなかったが、検出された炭化物について、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、15世紀中頃～ 16世紀前半(calAD 1,480 ～ calAD1,631)の年代が示された。

17SKP23柱穴跡（第69・72図）

17SB109掘立柱建物跡に近接する17SKP23柱穴跡は長径27cm、短径23cm、深さ13cmの小ピットであるが、完形の青磁小皿１点（第73図－５）が垂直の状態で出土した。覆土は地山土粒子が多く、埋め戻された状況を示す。掘立柱建物跡に近接していること、特異な出土状況であることから地鎮等の祭祀行為に伴う遺構であることが考えられる。

③出土遺物（第73 ～ 77図）

遺物は215点出土している（その他を含めない）。個体数は接合後の破片数である。中世陶磁器は145点出土し、貿易陶磁器が89点（61.4%）、国産陶器56点（38.6%）である。

陶磁器の年代については、白磁はE群の皿が主体で、15世紀後半～ 16世紀代のものが主体である。青磁についても白磁とほぼ同様の年代を示す。染付は16世紀後半代に属するE群の皿が主体となる。瀬戸美濃は16世紀中～後半代に属する大窯第２段階～第３段階が多い。また越前のすり鉢は16世紀中頃に位置付けられる。

第19表　曲輪12（第17次調査）遺構一覧表①

■掘立柱建物跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	建物方位	概報	概報遺構番号	備考
17SB109-P1	第69図 第72図	7トレンチ	19	56	52	刀子(第77図-1)	N22E	VI	SB109-P1	
17SB109-P2		7トレンチ	14	51	50			VI	SB109-P2	
17SB109-P3		5トレンチ	37	(54)	-			VI	SB109-P3	
17SB109-P4		5トレンチ	29	52	50			VI	SB109-P4	
17SB109-P5		5トレンチ	20	54	52			VI	SB109-P5	
17SB109-P6		5トレンチ	29	44	38			VI	SB109-P6	
17SB109-P7		5トレンチ	24	58	50			VI	SB109-P7	
17SB109-P8		5トレンチ	27	70	50			VI	SB109-P8	
17SB109-P9		5トレンチ	6	(42)	-			VI	SB109-P9	
17SB109-P10		6トレンチ	24	56	52			VI	SB109-P10	

■井戸跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
17SE01	第66図	2トレンチ	8	224	80	すり鉢（第75図-7）	VI	SE01	南北幅約4.0m、東西幅約3.1m、深さ52cmの窪み

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
17SD02	第66図	2トレンチ	12	57	-	VI	SD02	
17SD03	第66図	2トレンチ	4	18	-	VI	SD03	
17SD04	第66図	2トレンチ	5	25	-	VI	SD04	
17SD05	第66図	2トレンチ	10	78	すり鉢（第75図-7）	VI	SD05	
17SD06	第66図	2トレンチ	11	19	-	VI	SD06	
17SD31	第69図	5トレンチ	4	45	-	VI	SD31	
17SD32	第69図	5トレンチ	10	41	-	VI	SD32	
17SD60	第68図	8トレンチ	3	16	-	VI	SD60	
17SD61	第68図	8トレンチ	4	44	-	VI	SD61	
17SD62	第68図	8トレンチ	3	32	-	VI	SD62	
17SD72	第70図	9トレンチ	15	68	-	VI	SD72	
17SD73	第70図	9トレンチ	7	22	-	VI	SD73	
17SD74	第70図	9トレンチ	10	15	-	VI	SD74	
17SD75	第70図	9トレンチ	13	45	-	VI	SD75	
17SD76	第70図	9トレンチ	14	34	-	VI	SD76	
17SD84	第69図	6トレンチ	6	18	-	VI	SD84	
17SD86	第68図	8トレンチ	13	26	-	VI	SD86	
17SD89	第67図	3トレンチ	12	66	-	VI	SD89	
17SD90	第69図	7トレンチ	3	26	-	VI	SD90	
17SD94	第70図	10トレンチ	11	38	-	VI	SD94	
17SD95	第70図	10トレンチ	11	14	-	VI	SD95	
17SD96	第70図	10トレンチ	23	14	-	VI	SD96	
17SD100	第71図	11トレンチ	5	46	-	VI	SD100	
17SD101	第71図	11トレンチ	3	15	-	VI	SD101	
17SD102	第71図	11トレンチ	4	16	-	VI	SD102	
17SD105	第70図	10トレンチ	8	57	-	VI	SD105	

■土坑

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
17SK30	第69図	5トレンチ	7	118	73	-	VI	SK30	
17SK77	第70図	9トレンチ	39	(92)	-	-	VI	SK77	

■集石遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
17SQ86	第68図	8トレンチ	-	-	-	-	VI	SQ86	

■焼土遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
17SN110	第66図	2トレンチ	-	38	35	-	VI	SN110	

■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
17SKP07	第66図	2トレンチ	4	48	-	-	VI	SKP07	
17SKP08	第66図	2トレンチ	5	39	30	-	VI	SKP08	
17SKP09	第66図	2トレンチ	43	(21)	-	-	VI	SKP09	

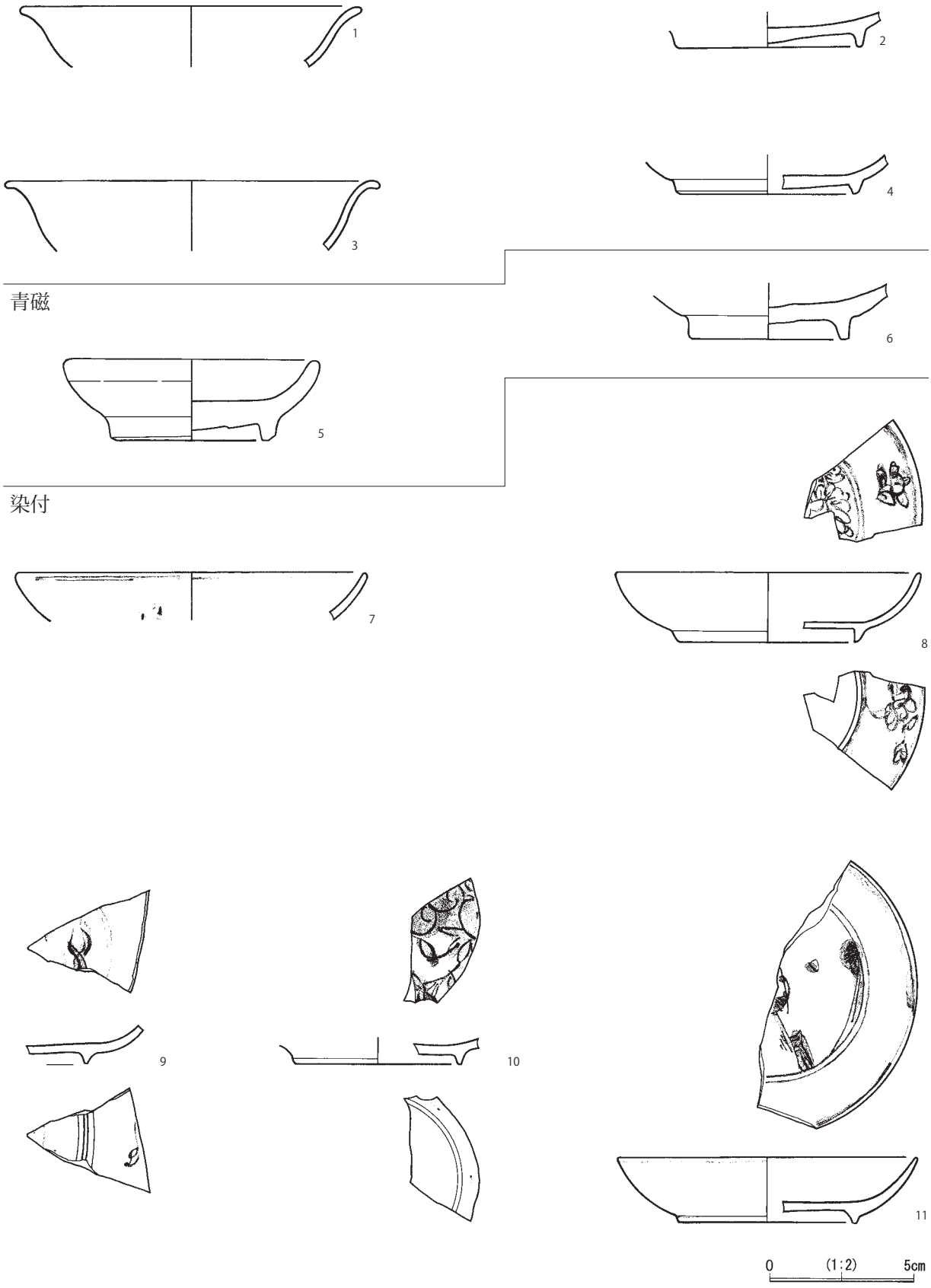
第20表　曲輪12（第17次調査）遺構一覧表②

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
17SKP10	第66図	2トレンチ	12	(33)	-	-	VI	SKP10	
17SKP11	第66図	2トレンチ	13	(31)	-	-	VI	SKP11	
17SKP12	第66図	2トレンチ	28	(38)	-	-	VI	SKP12	
17SKP13	第66図	2トレンチ	17	30	21	-	VI	SKP13	
17SKP23	第69・72図	5トレンチ	13	27	23	青磁小皿(第73図-5)	VI	SKP23	埋め戻し土、17SB109に伴う地鎮遺構
17SKP24	第69図	5トレンチ	15	28	27	-	VI	SKP24	
17SKP25	第69図	5トレンチ	15	42	30	-	VI	SKP25	
17SKP26	第69図	5トレンチ	27	(40)	-	-	VI	SKP26	
17SKP27	第69図	5トレンチ	29	57	55	-	VI	SKP27	
17SKP28	第69図	5トレンチ	46	(45)	-	-	VI	SKP28	
17SKP29	第69図	5トレンチ	38	54	44	-	VI	SKP29	
17SKP36	第69図	5トレンチ	12	52	34	-	VI	SKP36	
17SKP37	第68図	8トレンチ	11	69	49	-	VI	SKP37	
17SKP38	第68図	8トレンチ	6	36	32	-	VI	SKP38	
17SKP39	第68図	8トレンチ	10	48	40	-	VI	SKP39	
17SKP40	第68図	8トレンチ	4	26	24	-	VI	SKP40	
17SKP41	第68図	8トレンチ	30	23	21	-	VI	SKP41	
17SKP42	第68図	8トレンチ	21	33	28	-	VI	SKP42	
17SKP43	第68図	8トレンチ	30	54	53	瀬戸美濃(第74図-10)	VI	SKP43	
17SKP44	第68図	8トレンチ	15	21	15	-	VI	SKP44	
17SKP45	第68図	8トレンチ	54	72	34	-	VI	SKP45	
17SKP46	第68図	8トレンチ	9	48	34	-	VI	SKP46	
17SKP47	第68図	8トレンチ	8	20	16	-	VI	SKP47	
17SKP48	第68図	8トレンチ	27	21	16	-	VI	SKP48	
17SKP49	第68図	8トレンチ	31	46	30	-	VI	SKP49	
17SKP50	第68図	8トレンチ	6	24	13	-	VI	SKP50	
17SKP51	第68図	8トレンチ	14	22	21	-	VI	SKP51	
17SKP52	第68図	8トレンチ	6	19	13	-	VI	SKP52	
17SKP53	第68図	8トレンチ	8	(47)	-	-	VI	SKP53	
17SKP54	第68図	8トレンチ	19	(32)	-	-	VI	SKP54	
17SKP55	第68図	8トレンチ	9	8	6	-	VI	SKP55	
17SKP56	第68図	8トレンチ	44	32	25	-	VI	SKP56	
17SKP57	第68図	8トレンチ	14	24	18	-	VI	SKP57	
17SKP58	第68図	8トレンチ	35	(36)	-	-	VI	SKP58	
17SKP63	第68図	8トレンチ	44	24	23	-	VI	SKP63	
17SKP65	第70図	9トレンチ	10	19	18	-	VI	SKP65	
17SKP66	第70図	9トレンチ	10	38	34	-	VI	SKP66	
17SKP67	第70図	9トレンチ	11	47	40	-	VI	SKP67	
17SKP68	第70図	9トレンチ	22	(27)	-	-	VI	SKP68	
17SKP69	第70図	9トレンチ	20	(35)	-	-	VI	SKP69	
17SKP70	第70図	9トレンチ	16	17	16	-	VI	SKP70	
17SKP71	第70図	9トレンチ	13	(40)	-	-	VI	SKP71	
17SKP78	第70図	9トレンチ	32	(38)	-	-	VI	SKP76	
17SKP79	第70図	9トレンチ	54	(58)	-	-	VI	SKP79	
17SKP80	第69図	6トレンチ	5	26	19	-	VI	SKP80	
17SKP81	第69図	6トレンチ	7	25	22	-	VI	SKP81	
17SKP82	第69図	6トレンチ	4	32	24	-	VI	SKP82	
17SKP83	第69図	6トレンチ	6	27	23	-	VI	SKP83	
17SKP92	第69図	7トレンチ	16	(54)	-	-	VI	SKP92	
17SKP93	第69図	7トレンチ	37	(25)	-	-	VI	SKP93	
17SKP97	第71図	11トレンチ	10	23	23	-	VI	SKP97	
17SKP98	第71図	11トレンチ	11	38	27	-	VI	SKP98	
17SKP99	第71図	11トレンチ	18	34	32	-	VI	SKP99	
17SKP104	第71図	10トレンチ	30	(61)	-	-	VI	SKP104	
17SKP106	第69図	5トレンチ	15	35	-	-	VI	SKP106	
17SKP107	第68図	8トレンチ	5	21	20	-	VI	SKP107	16SQ86下より検出
17SKP108	第67図	3トレンチ	-	(55)	-	-	VI	SKP108	未調査

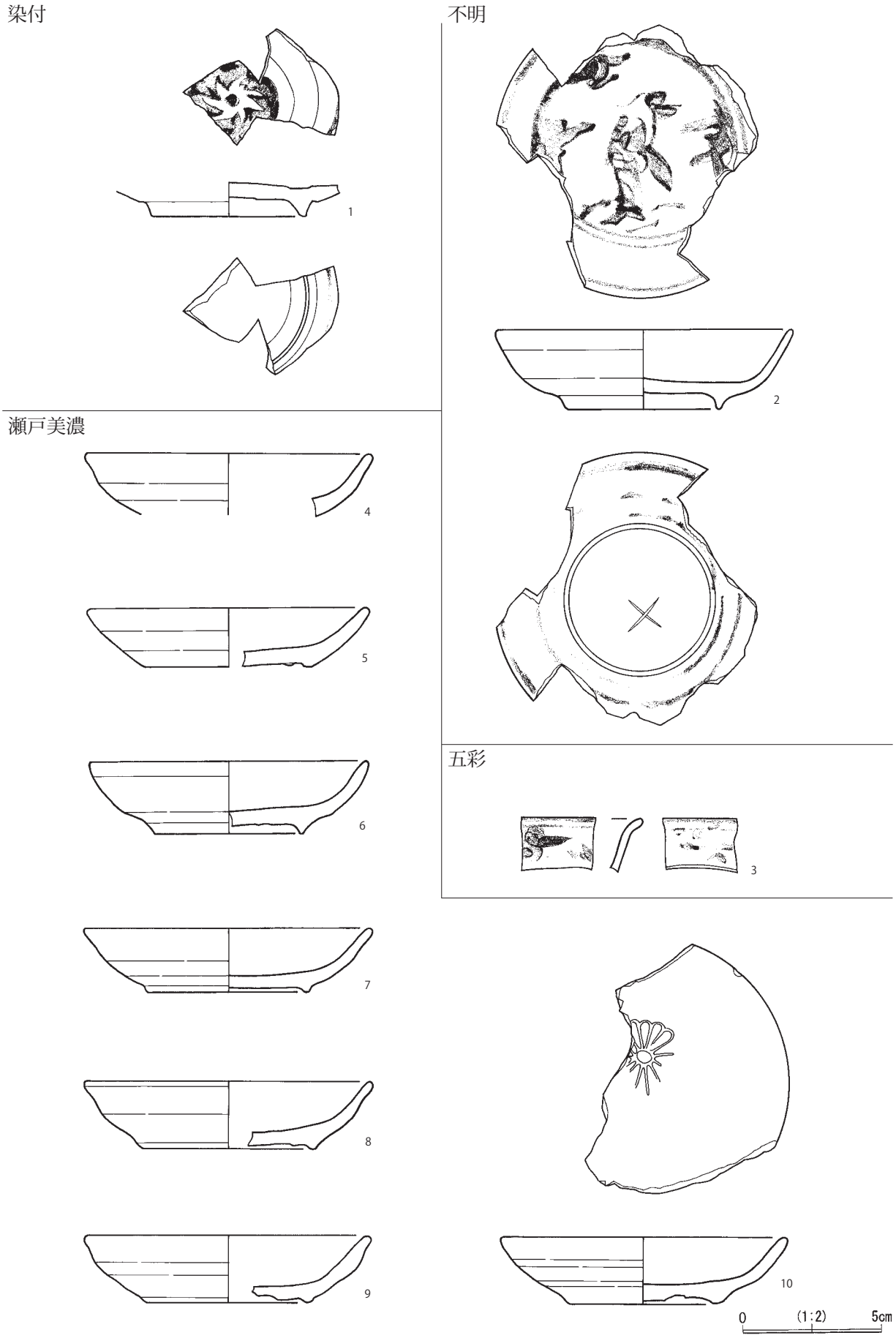
■不明遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
17SX34	第66図	2トレンチ	12	(29)	-	-	VI	SX34	
17SX87	第68図	8トレンチ	3	77	-	-	VI	SX87	
17SX88	第68図	8トレンチ	9	(164)	-	-	VI	SX88	

白磁

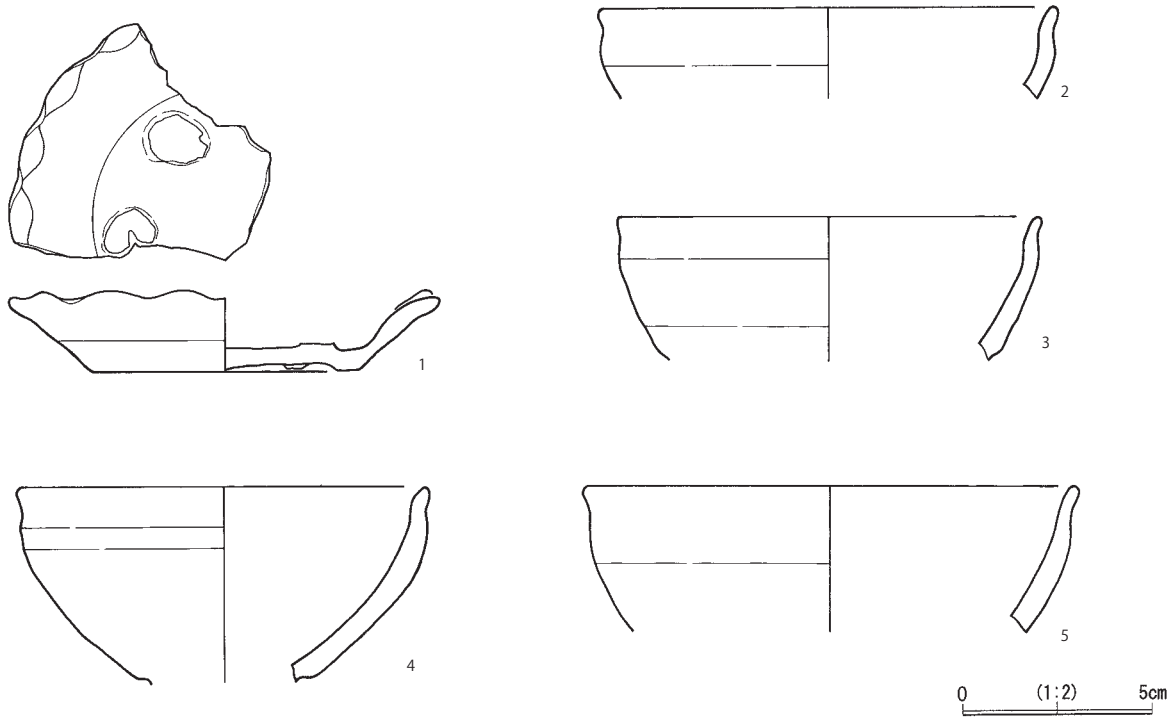


第73図　曲輪12（第17次調査）出土遺物①

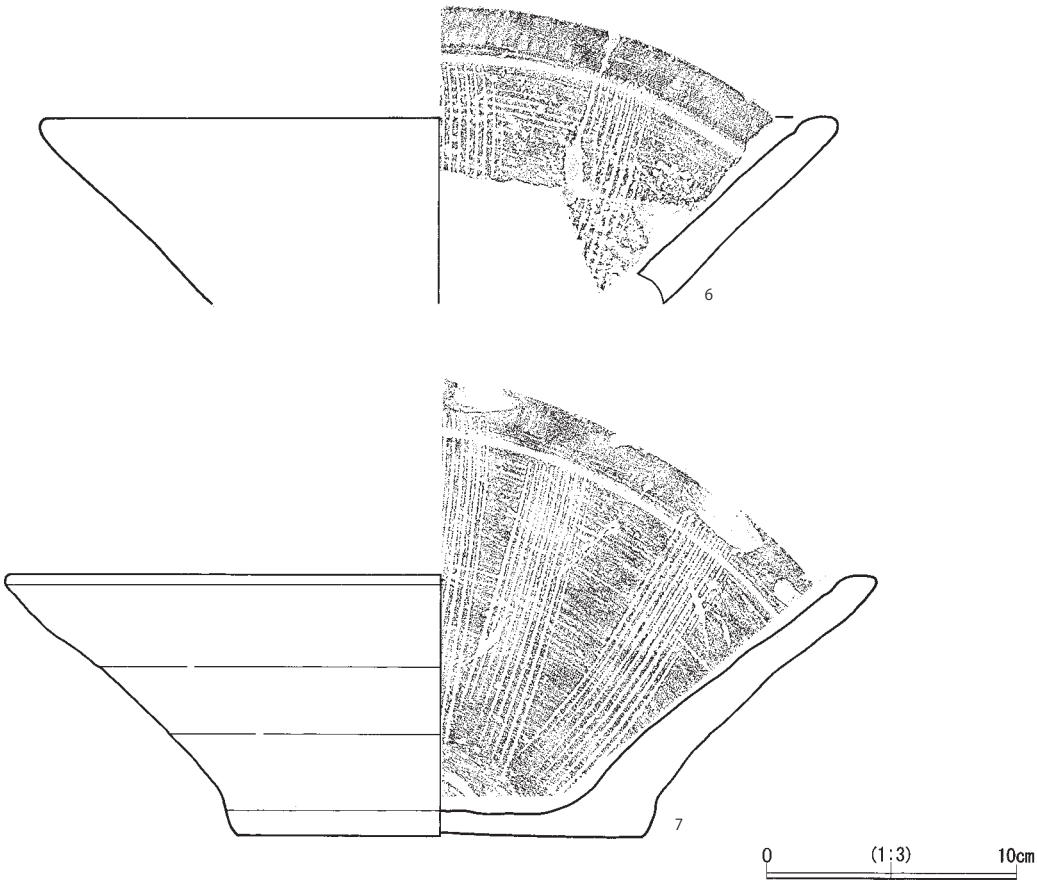


第74図　曲輪12（第17次調査）出土遺物②

瀬戸美濃

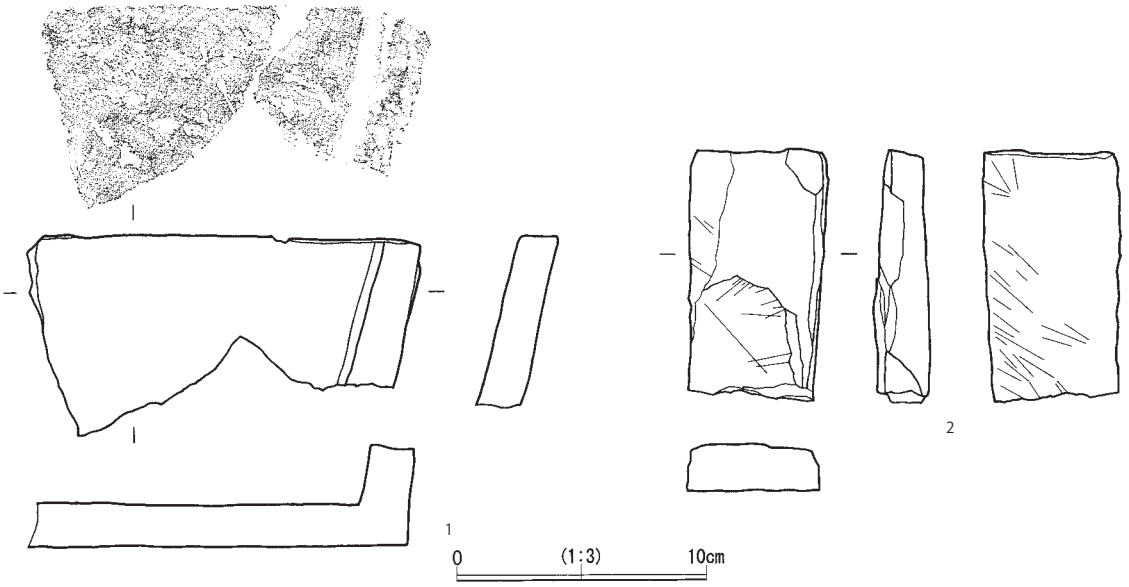


越前

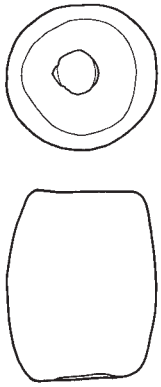


第75図　曲輪12（第17次調査）出土遺物③

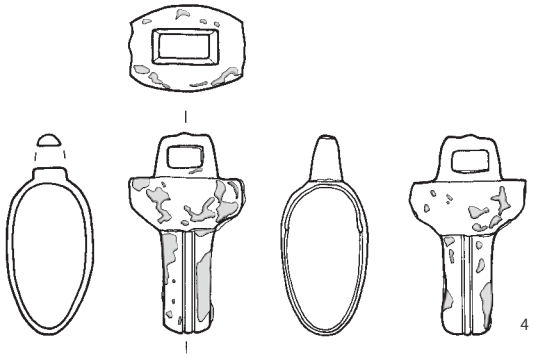
石製品



土製品



金属製品

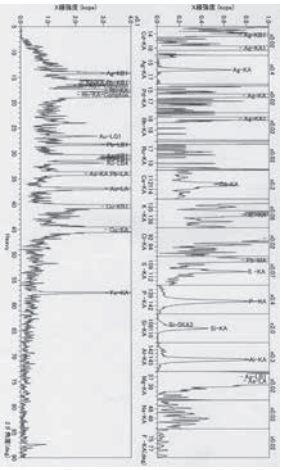


漆剥離範囲

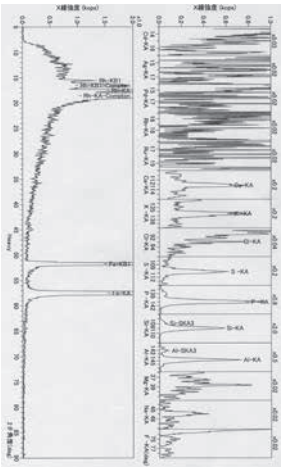
0　(1:2)　5cm
（2・3・4）

元素	第76図-4 足金物 (wt%)
Al	1.86
Si	6.86
P	0.902
S	0.131
K	0.171
Ca	0.171
Fe	0.713
Cu	72.5
As	6.33
Ag	4.53
Au	4.12
Pb	1.70

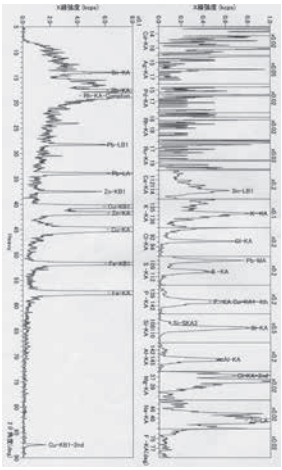
元素	第77図-1 刀身部 (wt%)	第77図-1 柄部 (wt%)
Al	1.43	0.395
Si	4.51	1.64
P	0.928	0.180
S	0.160	0.102
Cl	0.0939	0.675
K	0.0999	0.0652
Ca	0.118	—
Fe	92.7	16.6
Cu	—	72.6
Zn	—	4.74
Sn	—	0.694
Pb	—	2.35



4 足金物成分分析チャート



次頁1 刀子刀身部
成分分析チャート

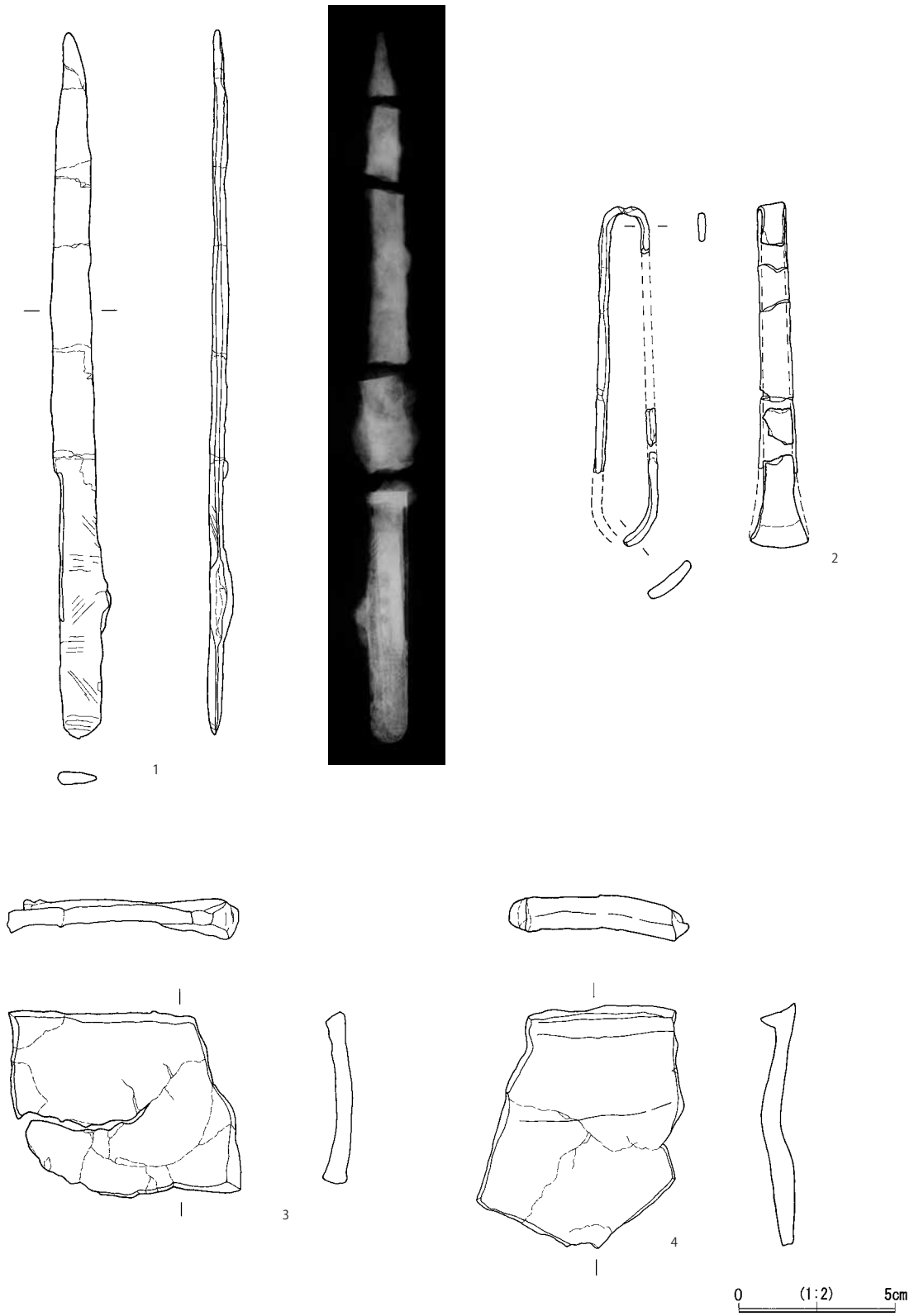


次頁1 刀子柄部
成分分析チャート

※足金物及び次頁の刀子は成分分析を行っている。
平成20年度に株式会社 吉田生物研究所へ委託した成分分析結果を抜粋した。
詳細は男鹿市教育委員会2010『脇本城跡Ⅵ』参照。

第76図　曲輪12（第17次調査）出土遺物④

金属製品



第77図　曲輪12（第17次調査）出土遺物⑤

第21表　曲輪12（第17次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
39	9	38	3	47	8	0	0	0	0	0	1	0	0	3	2	4	0	0	1	0	9	9	42	漆1

第22表　曲輪12（第17次調査）出土遺物観察表

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
73	1	32	白磁	皿	5トレンチ	-	(11.8)	-	(2.1)	15c後半～16c	Ⅵ	22	1	
73	2	32	白磁	皿	6・10トレンチ	-	-	6.4	(1.2)	15c後半～16c	Ⅵ	22	2	
73	3	32	白磁	皿	7トレンチ	-	(13.0)	-	(2.4)	-	Ⅵ	22	3	
73	4	32	白磁	皿	2・5トレンチ	-	-	(6.4)	(1.4)	-	Ⅵ	22	4	曲輪2でも同様の皿
73	5	32	青磁	皿	5トレンチ	17SKP23	9.0	5.8	2.8	15c後半～16c	Ⅵ	22	5	
73	6	32	青磁	碗	2トレンチ	-	-	5.6	(1.9)	-	Ⅵ	22	6	
73	7	32	染付	皿	2トレンチ	-	(12.2)	-	(1.7)	16c後半	Ⅵ	22	8	
73	8	32	染付	皿	2・5トレンチ	-	(10.6)	(6.2)	2.4	16c後半	Ⅵ	22	9	
73	9	32	染付	皿	2トレンチ	-	-	-	(1.3)	16c後半	Ⅵ	22	10	
73	10	32	染付	皿	2トレンチ	-	-	(5.8)	(0.9)	16c後半	Ⅵ	22	11	
73	11	32	染付	皿	6トレンチ	-	(10.4)	(6.2)	2.3	16c後半	Ⅵ	22	12	
74	1	32	染付	皿	2・3トレンチ	-	-	(5.6)	(1.2)	-	Ⅵ	23	1	
74	2	32	不明	皿	2トレンチ	-	(10.8)	5.6	2.8	-	Ⅵ	23	2	陶質・東南アジア産か・高台内に × の線描
74	3	32	五彩	皿	8トレンチ	-	-	-	(1.9)	-	Ⅵ	22	7	
74	4	32	瀬戸美濃	皿	6トレンチ	-	(10.4)	-	(2.2)	16c中～後半	Ⅵ	23	3	
74	5	32	瀬戸美濃	皿	10トレンチ	-	(10.2)	(6.2)	2.1	16c中～後半	Ⅵ	23	4	
73	6	32	瀬戸美濃	皿	2トレンチ	-	(10.2)	(5.4)	2.6	16c中～後半	Ⅵ	23	5	被熱
73	7	32	瀬戸美濃	皿	10トレンチ	-	(10.4)	(6.0)	2.3	16c中～後半	Ⅵ	23	6	被熱
74	8	32	瀬戸美濃	皿	2トレンチ	-	(10.4)	(6.4)	2.4	16c中～後半	Ⅵ	23	7	
74	9	32	瀬戸美濃	皿	2トレンチ	-	(10.4)	(6.0)	2.4	16c中～後半	Ⅵ	23	8	被熱
74	10	32	瀬戸美濃	皿	8トレンチ	17SKP43	(10.4)	5.4	2.4	16c中～後半	Ⅵ	23	9	印花文・口縁部に漆付着
75	1	32	瀬戸美濃(天目)	皿	2トレンチ	-	(11.4)	(7.2)	2.1	16c中～後半	Ⅵ	24	1	鉄釉ひだ皿
75	2	32	瀬戸美濃(天目)	碗	6トレンチ	-	(12.2)	-	(2.4)	16c	Ⅵ	24	2	
75	3	32	瀬戸美濃(天目)	碗	5トレンチ	-	(11.2)	-	(3.8)	16c	Ⅵ	24	3	
75	4	32	瀬戸美濃(天目)	碗	6トレンチ	-	(11.0)	-	(5.0)	16c	Ⅵ	24	4	
75	5	32	瀬戸美濃(天目)	碗	5トレンチ	-	(14.2)	-	(3.8)	16c	Ⅵ	24	5	
75	6	32	越前	すり鉢	2トレンチ	-	(31.4)	-	(7.3)	16c中	Ⅵ	24	6	
75	7	32	越前	すり鉢	2トレンチ	17SE01/17SD05	(34.4)	(16.2)	10.3	16c中	Ⅵ	24	7	

■石製品・土製品・金属製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
76	1	32	石製品	火鉢	1・5トレンチ	-	(7.9)	(15.5)	(4.0)	-	Ⅵ	25	1	
76	2	32	石製品	砥石	5トレンチ	-	(6.6)	(3.7)	(1.5)	-	Ⅵ	25	2	
76	3	32	土製品	土錘	2トレンチ	-	5.0	最大3.9	-	-	Ⅵ	25	3	
76	4	32	金属製品	足金物	5トレンチ	-	5.2	最大3.0	-	室町後期以前	Ⅵ	25	4	銅製、外面に漆膜残存
77	1	32	金属製品	刀子	5トレンチ	17SB109-P6	22.3	1.3	0.5	-	Ⅵ	25	4	鉄製、柄部残存し、線刻あり、再実測
77	2	32	金属製品	毛抜き	8トレンチ	-	(推定長)10.4	-	0.3	-	-	-	-	鉄製
77	3	32	金属製品	鍋	8トレンチ	-	-	-	(器高)(5.5)	-	-	-	-	鉄製
77	4	32	金属製品	鍋	8トレンチ	-	-	-	(器高)(7.7)	-	-	-	-	鉄製

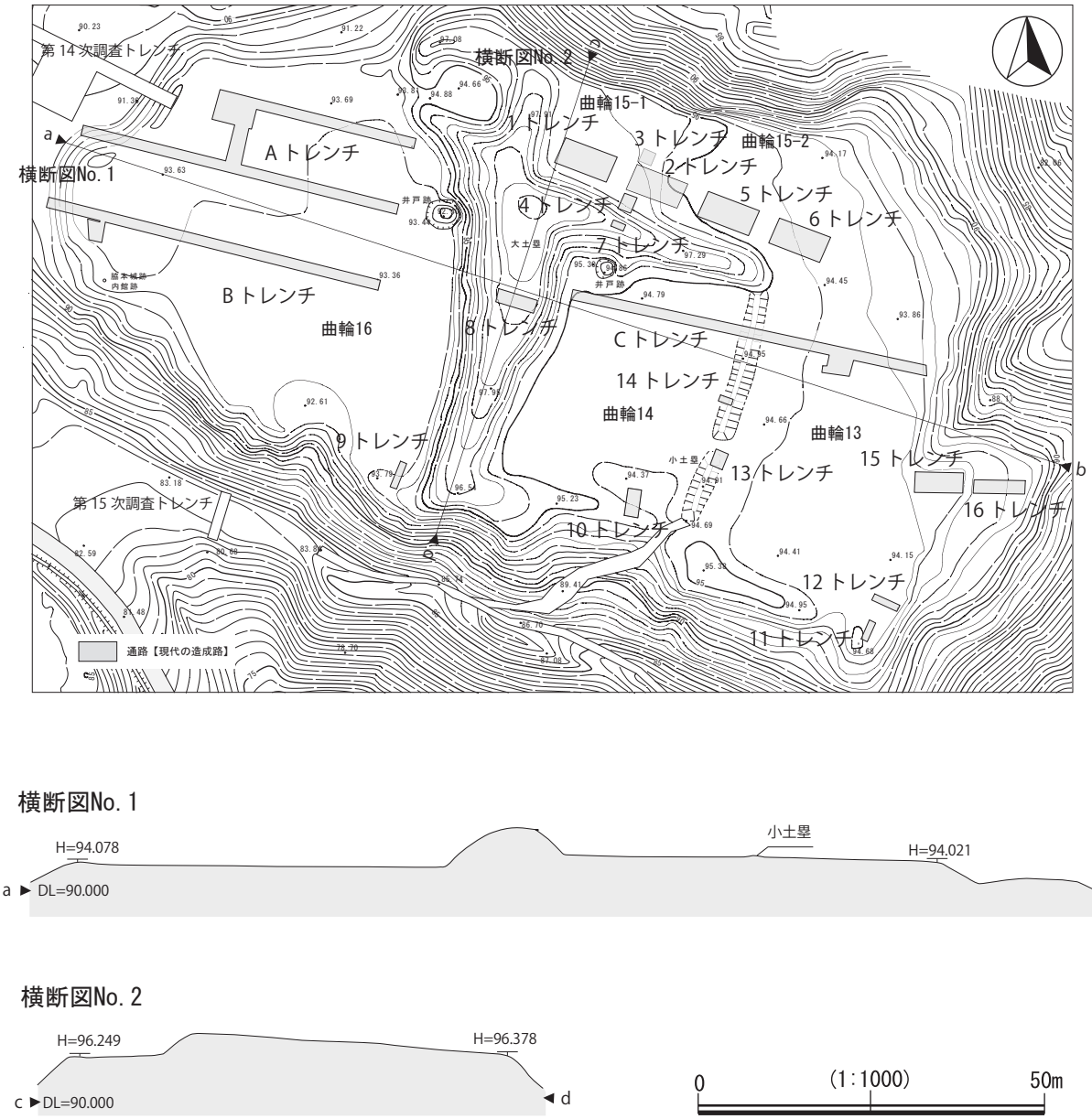
（４）曲輪13・14・15－１・15－２・16（平成７年度調査・第18次調査）

①曲輪13・14・15－１・15－２・16の立地と概要

曲輪13・14・15－１・15－２・16は内館地区北東部に位置する標高93～94mの曲輪群である。

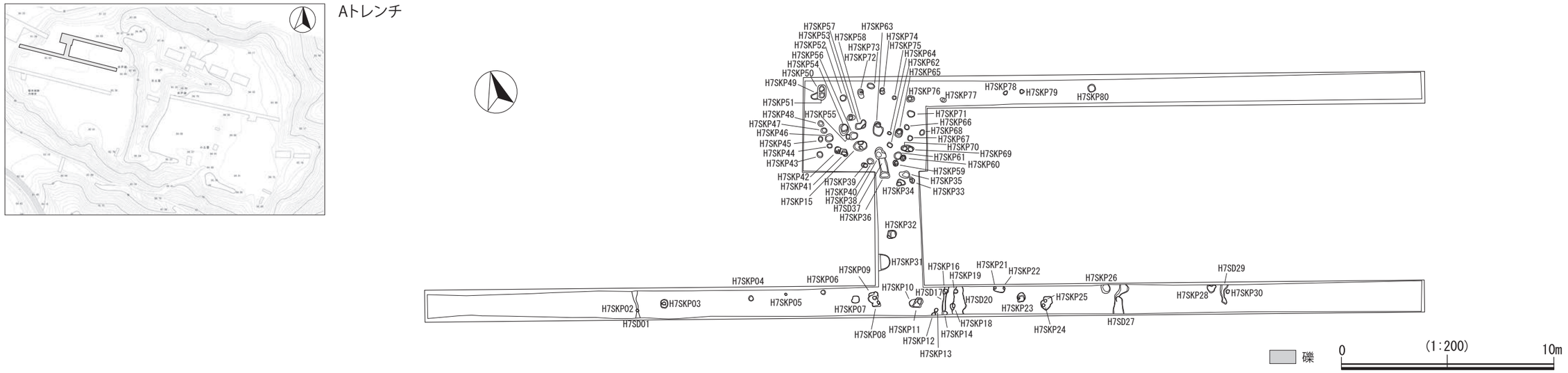
当該地には曲輪14と曲輪16及び曲輪15－１、15－２を区画する逆コの字状の大規模な土塁を有する。この土塁は頂部の標高99.5m、基底部最大幅約19m、頂部には最大幅５mほどの平坦面を有し、曲輪16からの高さ６m、曲輪14からの高さ５mと、脇本城跡に残る土塁の中で最大規模ものである。さらに曲輪13と曲輪14を区画する、基底部幅30cm～40cm、高さ20cm～30cmほどの小規模な土塁もあり、一部に途切れる箇所が確認され、曲輪14へ至る門跡の可能性が考えられている。

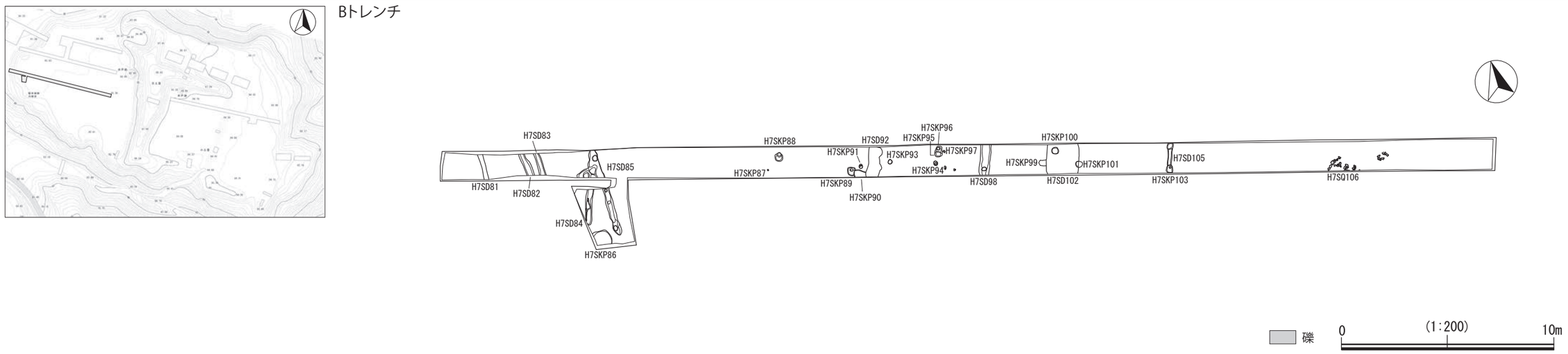
曲輪13は標高94mで東側には張り出し部を有する。その張り出し部以東は急傾斜となっており、眼下に城下町集落である脇本本郷集落が一望できる。曲輪14は標高94mで東側は小規模な土塁によって曲輪13と区画され、北、西側は大規模な土塁によって曲輪15－１、15－２、16と区画される。地形の窪みと

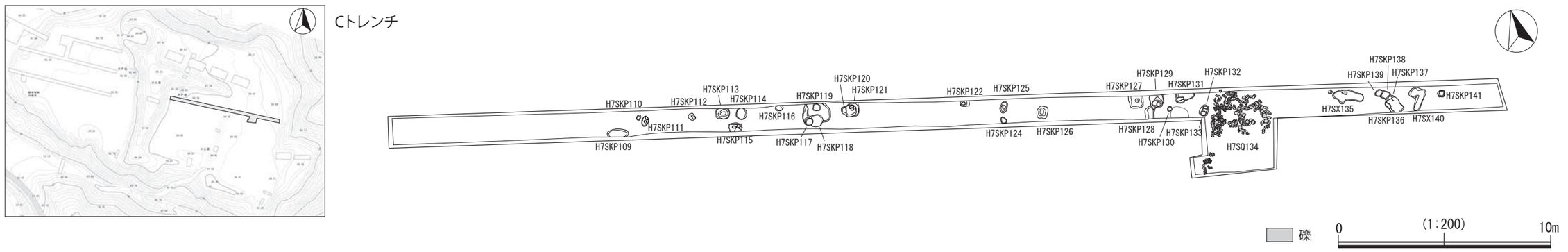


第78図　曲輪13・14・15-1・15-2・16（Ｈ７年度調査・第18次調査）トレンチ配置図

第79図　曲輪13・14・15-1・15-2・16（H7年度調査・第18次調査）調査全体図







第80図　曲輪13・14・15-1・15-2・16（H7年度調査）トレンチ平面図・断面図

第23表　曲輪13･14･15-1･15-2･16（Ｈ７年度調査）遺構一覧表

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	幅(cm)	概報
H7SD01	第80図	Aトレンチ	24	I
H7SD17	第80図	Aトレンチ	15	I
H7SD20	第80図	Aトレンチ	50	I
H7SD27	第80図	Aトレンチ	50	I
H7SD29	第80図	Aトレンチ	31	I
H7SD37	第80図	Aトレンチ	36	I
H7SD81	第80図	Bトレンチ	20	I
H7SD82	第80図	Bトレンチ	35	I
H7SD83	第80図	Bトレンチ	28	I
H7SD84	第80図	Bトレンチ	33	I
H7SD85	第80図	Bトレンチ	35	I
H7SD92	第80図	Bトレンチ	60	I
H7SD98	第80図	Bトレンチ	48	I
H7SD102	第80図	Bトレンチ	150	I
H7SD105	第80図	Bトレンチ	20	I

■集石遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	幅(cm)	概報
H7SQ106	第80図	Bトレンチ	300	I
H7SQ134	第80図	Cトレンチ	440	I

■柱穴跡

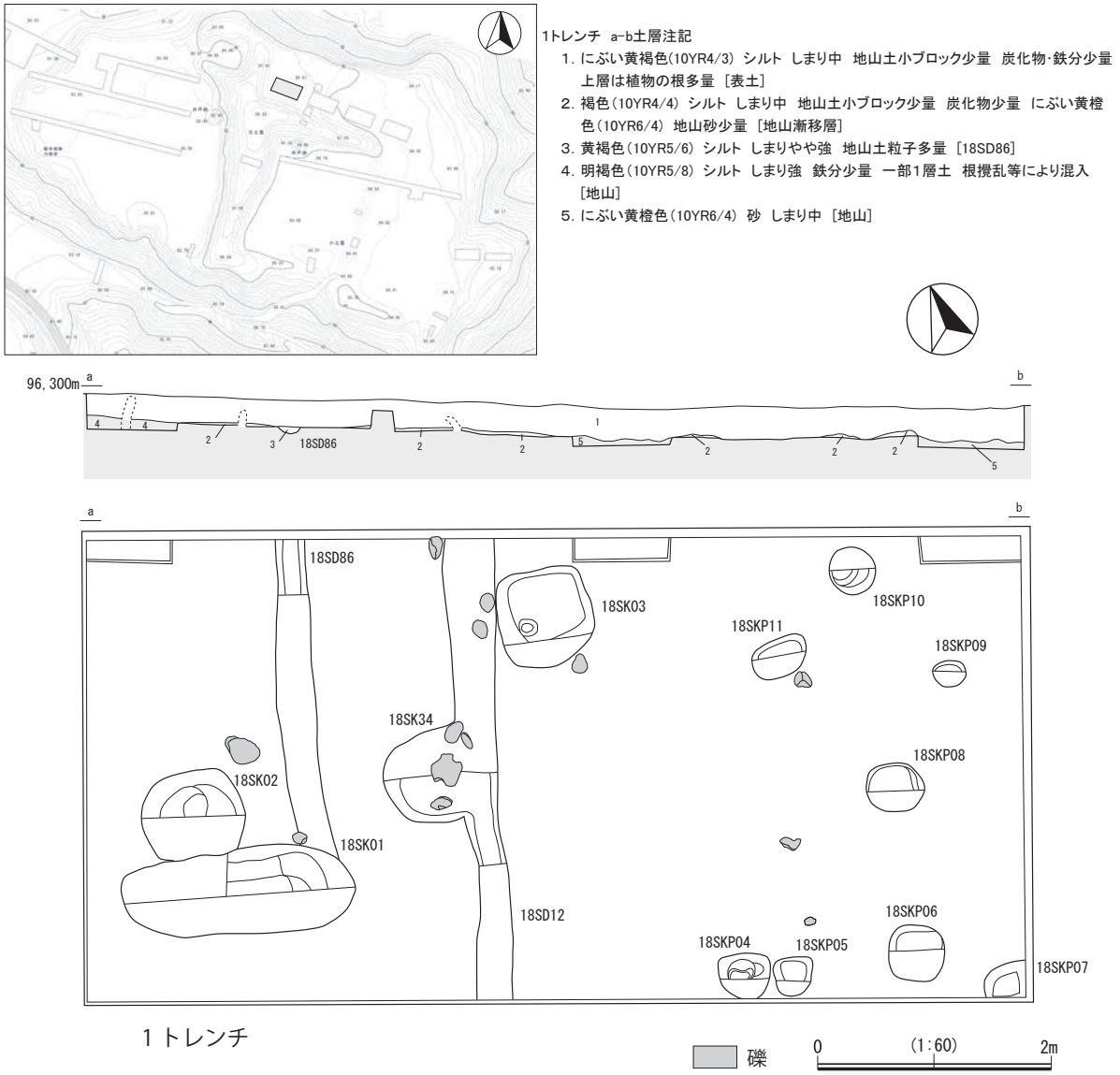
遺構番号	挿図	トレンチ	長径(cm)	短径(cm)	概報
H7SKP02	第80図	Aトレンチ	13	(12)	I
H7SKP03	第80図	Aトレンチ	40	32	I
H7SKP04	第80図	Aトレンチ	25	21	I
H7SKP05	第80図	Aトレンチ	14	11	I
H7SKP06	第80図	Aトレンチ	22	20	I
H7SKP07	第80図	Aトレンチ	36	33	I
H7SKP08	第80図	Aトレンチ	40	(25)	I
H7SKP09	第80図	Aトレンチ	55	45	I
H7SKP10	第80図	Aトレンチ	40	(25)	I
H7SKP11	第80図	Aトレンチ	45	(40)	I
H7SKP12	第80図	Aトレンチ	(18)	-	I
H7SKP13	第80図	Aトレンチ	(20)	18	I
H7SKP14	第80図	Aトレンチ	25	(15)	I
H7SKP15	第80図	Aトレンチ	65	48	I
H7SKP16	第80図	Aトレンチ	(30)	25	I
H7SKP18	第80図	Aトレンチ	(30)	(24)	I
H7SKP19	第80図	Aトレンチ	(20)	(18)	I
H7SKP21	第80図	Aトレンチ	(23)	-	I
H7SKP22	第80図	Aトレンチ	(30)	-	I
H7SKP23	第80図	Aトレンチ	42	38	I
H7SKP24	第80図	Aトレンチ	50	-	I
H7SKP25	第80図	Aトレンチ	50	-	I
H7SKP26	第80図	Aトレンチ	(43)	40	I
H7SKP28	第80図	Aトレンチ	41	40	I
H7SKP30	第80図	Aトレンチ	18	17	I
H7SKP31	第80図	Aトレンチ	(77)	(50)	I
H7SKP32	第80図	Aトレンチ	40	38	I
H7SKP33	第80図	Aトレンチ	32	21	I
H7SKP34	第80図	Aトレンチ	42	31	I
H7SKP35	第80図	Aトレンチ	49	32	I
H7SKP36	第80図	Aトレンチ	46	(30)	I
H7SKP38	第80図	Aトレンチ	(53)	49	I
H7SKP39	第80図	Aトレンチ	30	20	I
H7SKP40	第80図	Aトレンチ	31	26	I
H7SKP41	第80図	Aトレンチ	40	(30)	I
H7SKP42	第80図	Aトレンチ	30	(28)	I
H7SKP43	第80図	Aトレンチ	29	25	I
H7SKP44	第80図	Aトレンチ	24	20	I
H7SKP45	第80図	Aトレンチ	27	20	I
H7SKP46	第80図	Aトレンチ	36	35	I
H7SKP47	第80図	Aトレンチ	29	24	I
H7SKP48	第80図	Aトレンチ	30	26	I
H7SKP49	第80図	Aトレンチ	(34)	(28)	I
H7SKP50	第80図	Aトレンチ	40	(30)	I
H7SKP51	第80図	Aトレンチ	40	(35)	I
H7SKP52	第80図	Aトレンチ	30	27	I
H7SKP53	第80図	Aトレンチ	38	26	I
H7SKP54	第80図	Aトレンチ	52	43	I
H7SKP55	第80図	Aトレンチ	22	(17)	I
H7SKP56	第80図	Aトレンチ	(38)	36	I

■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	長径(cm)	短径(cm)	概報
H7SKP57	第80図	Aトレンチ	(35)	(30)	I
H7SKP58	第80図	Aトレンチ	(30)	(20)	I
H7SKP59	第80図	Aトレンチ	27	22	I
H7SKP60	第80図	Aトレンチ	24	(22)	I
H7SKP61	第80図	Aトレンチ	34	(33)	I
H7SKP62	第80図	Aトレンチ	22	20	I
H7SKP63	第80図	Aトレンチ	68	47	I
H7SKP64	第80図	Aトレンチ	19	14	I
H7SKP65	第80図	Aトレンチ	42	32	I
H7SKP66	第80図	Aトレンチ	27	23	I
H7SKP67	第80図	Aトレンチ	25	21	I
H7SKP68	第80図	Aトレンチ	27	22	I
H7SKP69	第80図	Aトレンチ	(30)	30	I
H7SKP70	第80図	Aトレンチ	(30)	28	I
H7SKP71	第80図	Aトレンチ	34	29	I
H7SKP72	第80図	Aトレンチ	45	26	I
H7SKP73	第80図	Aトレンチ	34	28	I
H7SKP74	第80図	Aトレンチ	20	20	I
H7SKP75	第80図	Aトレンチ	18	17	I
H7SKP76	第80図	Aトレンチ	38	28	I
H7SKP77	第80図	Aトレンチ	29	20	I
H7SKP78	第80図	Aトレンチ	22	16	I
H7SKP79	第80図	Aトレンチ	21	30	I
H7SKP80	第80図	Aトレンチ	36	35	I
H7SKP86	第80図	Bトレンチ	(73)	-	I
H7SKP87	第80図	Bトレンチ	9	9	I
H7SKP88	第80図	Bトレンチ	41	36	I
H7SKP89	第80図	Bトレンチ	36	(33)	I
H7SKP90	第80図	Bトレンチ	(55)	(32)	I
H7SKP91	第80図	Bトレンチ	20	16	I
H7SKP93	第80図	Bトレンチ	21	20	I
H7SKP94	第80図	Bトレンチ	22	20	I
H7SKP95	第80図	Bトレンチ	40	(30)	I
H7SKP96	第80図	Bトレンチ	(28)	28	I
H7SKP97	第80図	Bトレンチ	11	9	I
H7SKP99	第80図	Bトレンチ	(36)	-	I
H7SKP100	第80図	Bトレンチ	31	30	I
H7SKP101	第80図	Bトレンチ	32	26	I
H7SKP103	第80図	Bトレンチ	(33)	30	I
H7SKP109	第80図	Cトレンチ	98	(38)	I
H7SKP110	第80図	Cトレンチ	25	18	I
H7SKP111	第80図	Cトレンチ	47	29	I
H7SKP112	第80図	Cトレンチ	35	29	I
H7SKP113	第80図	Cトレンチ	62	(48)	I
H7SKP114	第80図	Cトレンチ	(52)	48	I
H7SKP115	第80図	Cトレンチ	60	(42)	I
H7SKP116	第80図	Cトレンチ	35	(25)	I
H7SKP117	第80図	Cトレンチ	(35)	(30)	I
H7SKP118	第80図	Cトレンチ	(65)	(60)	I
H7SKP119	第80図	Cトレンチ	130	(90)	I
H7SKP120	第80図	Cトレンチ	(70)	50	I
H7SKP121	第80図	Cトレンチ	(60)	(50)	I
H7SKP122	第80図	Cトレンチ	(43)	-	I
H7SKP124	第80図	Cトレンチ	(28)	26	I
H7SKP125	第80図	Cトレンチ	54	33	I
H7SKP126	第80図	Cトレンチ	55	52	I
H7SKP127	第80図	Cトレンチ	68	(56)	I
H7SKP128	第80図	Cトレンチ	(60)	41	I
H7SKP129	第80図	Cトレンチ	(58)	66	I
H7SKP130	第80図	Cトレンチ	23	21	I
H7SKP131	第80図	Cトレンチ	88	(46)	I
H7SKP132	第80図	Cトレンチ	(30)	(25)	I
H7SKP133	第80図	Cトレンチ	40	(23)	I
H7SKP136	第80図	Cトレンチ	(80)	60	I
H7SKP137	第80図	Cトレンチ	(40)	-	I
H7SKP138	第80図	Cトレンチ	(40)	40	I
H7SKP139	第80図	Cトレンチ	40	(30)	I
H7SKP141	第80図	Cトレンチ	33	32	I

■不明遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	長径(cm)	短径(cm)	概報
H7SX135	第80図	Cトレンチ	145	65	I
H7SX140	第80図	Cトレンチ	105	75	I

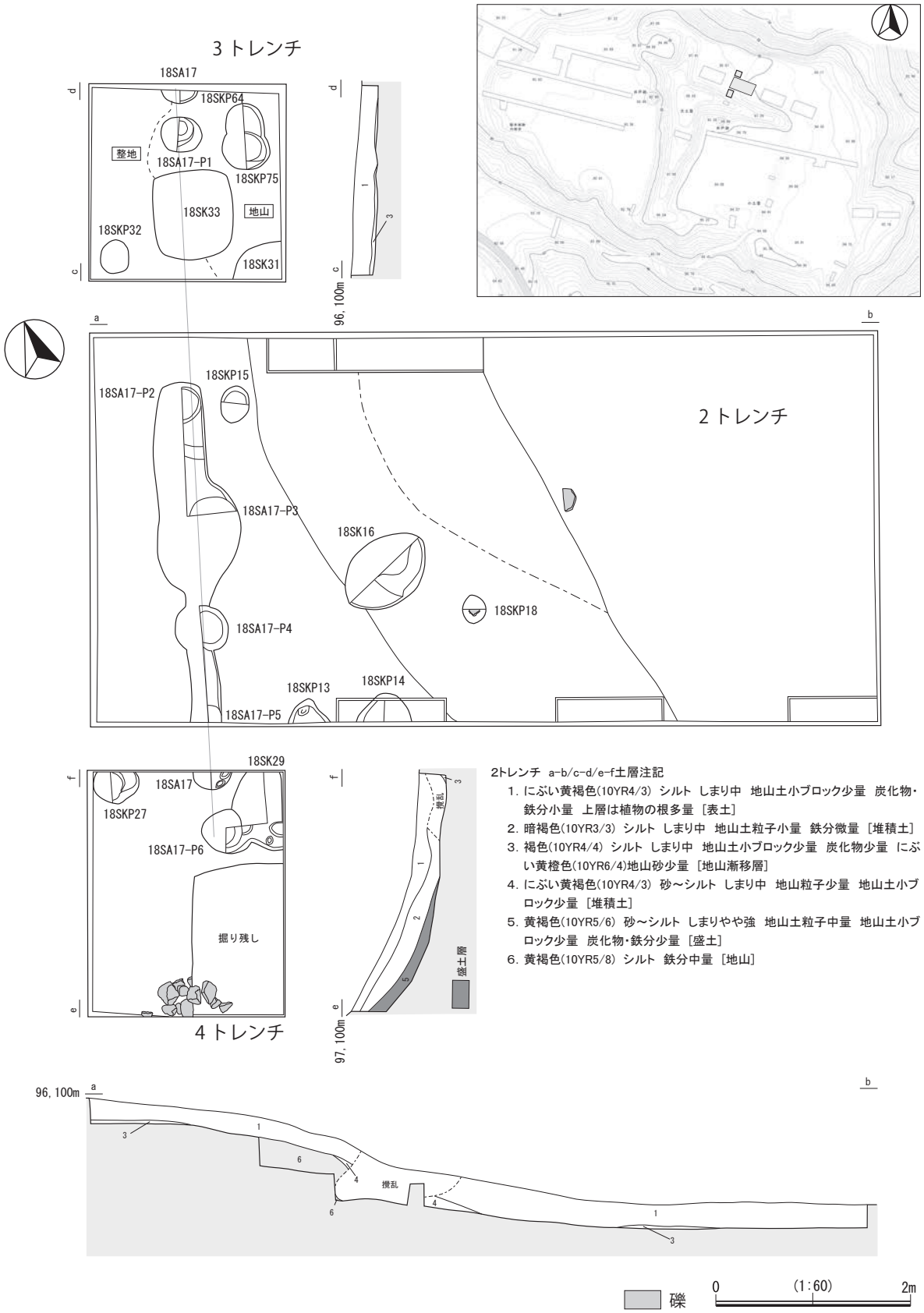


第81図　１トレンチ平面図・断面図

して残る井戸跡を有し、脇本城跡の主郭想定区の１つである。内館地区南方に位置した菅原神社を最初に遷宮したのは、本曲輪であるという指摘もある（男鹿市教育委員会2007a)。この曲輪13と曲輪14の南側斜面は急峻に造成され、下部には中世以後の道である通称「天下道」と呼ばれる道路跡が東西に内館地区を横断する。曲輪15－１及び曲輪15－２は標高94 ～ 96mで２mほどの比高差を有する。以前は１つの曲輪として認識されていたが、曲輪15－１縁辺に柵跡が検出されたため、２つの曲輪として認識するに至った。なお、地形的に曲輪13と曲輪15－２は緩やかに傾斜しながら連結し、境界は不明確である。さらに北側は急な斜面となっており、曲輪22へ至る。曲輪16は標高93mで内館地区の中で最も広い面積を有する曲輪である。近世後期以降「本丸」と呼称されてきた曲輪で、主郭想定区の１つである。

②検出遺構

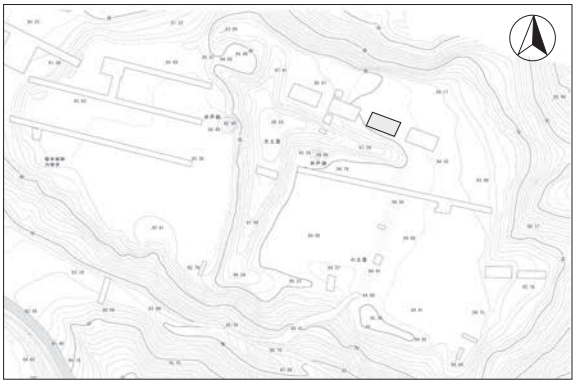
曲輪13・14・15－１・15－２・16の調査は平成７年度調査と第18次調査に分けられるが、関連性が深いため、調査年度によらず一連のものとして扱う。本曲輪群は脇本城跡の主郭想定区として、曲輪の造



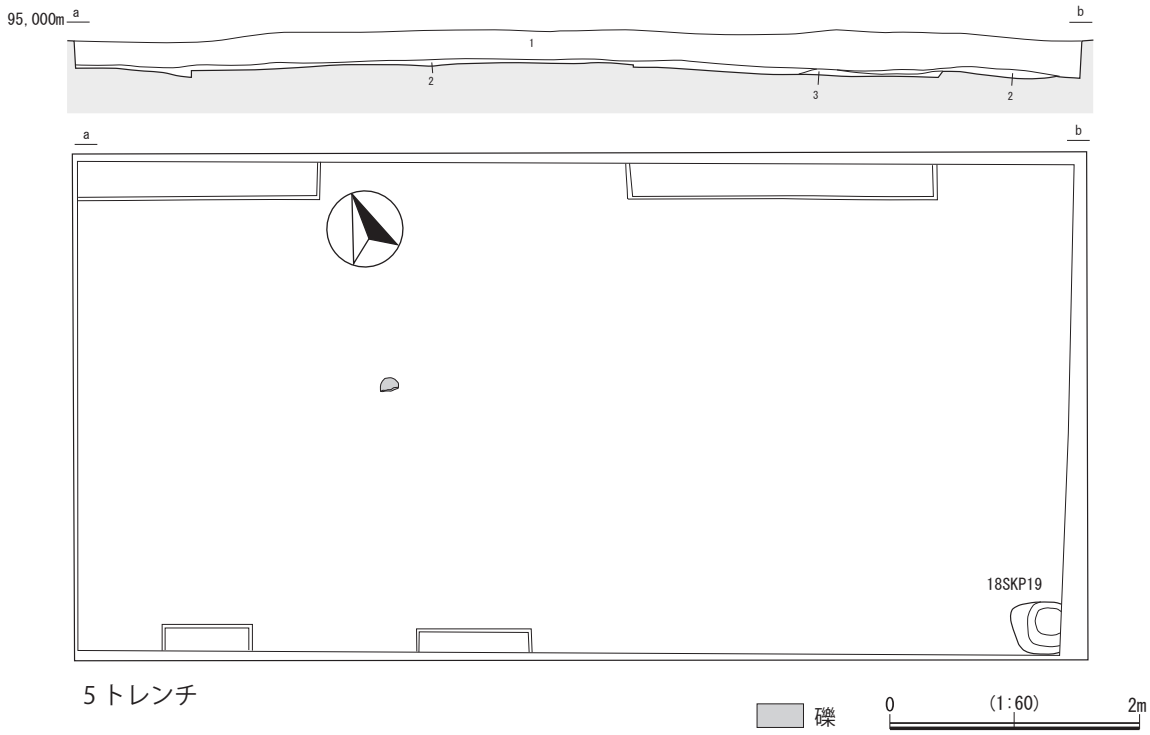
2トレンチ　a-b/c-d/e-f土層注記

1. にぶい黄褐色(10YR4/3)　シルト　しまり中　地山土小ブロック少量　炭化物・鉄分小量　上層は植物の根多量［表土］
2. 暗褐色(10YR3/3)　シルト　しまり中　地山土粒子小量　鉄分微量［堆積土］
3. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり中　地山土小ブロック少量　炭化物少量　にぶい黄橙色(10YR6/4)地山砂少量［地山漸移層］
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)　砂～シルト　しまり中　地山粒子少量　地山土小ブロック少量［堆積土］
5. 黄褐色(10YR5/6)　砂～シルト　しまりやや強　地山土粒子中量　地山土小ブロック少量　炭化物・鉄分少量［盛土］
6. 黄褐色(10YR5/8)　シルト　鉄分中量［地山］

第82図　２～４トレンチ平面図・断面図



5トレンチ　a-b土層注記
1. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまりやや弱　地山土小ブロック少量　鉄分少量　根が多い　[表土]
2. 黄褐色(10YR5/6)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック少量　炭化物・鉄分少量　[地山漸移層]
3. 明黄褐色(10YR7/6)　砂　しまり弱　鉄分少量　[地山]



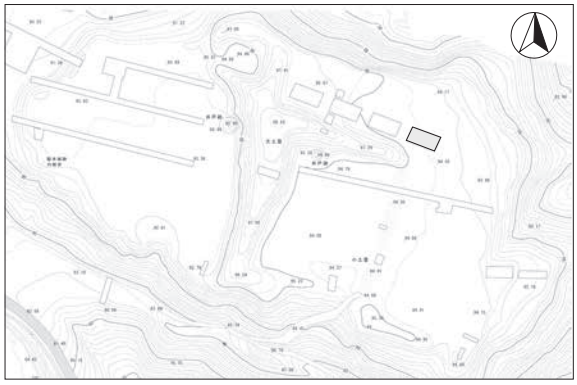
第83図　５トレンチ平面図・断面図

成及び曲輪内の建物跡の有無やその規模、土塁構造の把握などを目的として、任意の大きさのトレンチ19か所を設定して行った。なお、Ａ～Ｃトレンチが平成７年度調査区、１～16トレンチが第18次調査区である。その結果、総計で柱穴列・塀・柵跡４条、溝跡21条、土坑10基、集石遺構２基、柱穴跡179基、不明遺構２基が検出された。しかし平成７年度調査については、遺構等に関する所見が不明確であり、平面図と写真及び遺物を掲載することしかできない。

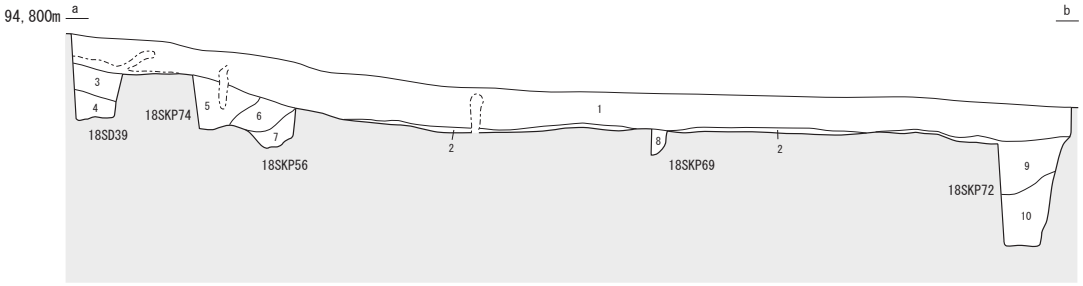
各トレンチについて

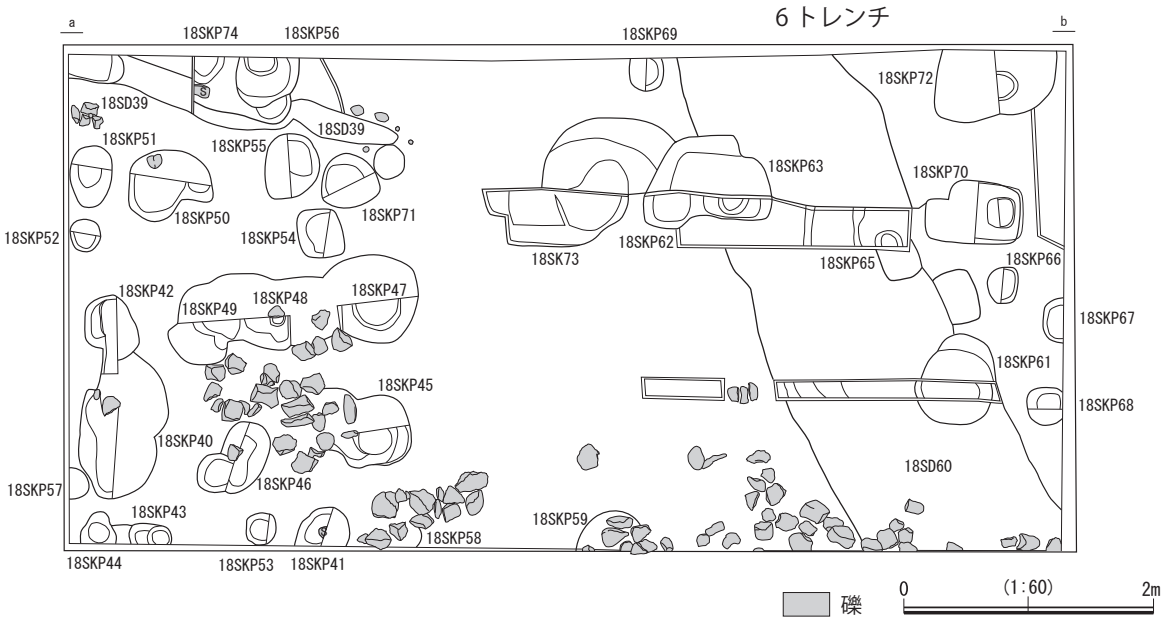
【Aトレンチ】

曲輪16北側に南北1.5m幅で任意に設定した。なお、概報時にはA・Bトレンチとして報告されていたトレンチである（男鹿市教育委員会2002）。本報告書では一連のトレンチとして取り上げた。



6トレンチ a-b土層注記
1. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや弱 地山土小ブロック・鉄分少量 根が多い［表土］
2. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 地山土小ブロック・炭化物少量 にぶい黄橙色(10YR6/4) 地山砂少量［地山漸移層］
3. 暗褐色(10YR3/3) 砂 しまり中 地山土大ブロック中量［18SD39］
4. 黄褐色(10YR5/8) シルト しまりやや強［18SD39］
5. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまりやや強 地山土粒子・地山土小ブロック中量 鉄分少量［18SKP74］
6. 褐色(10YR4/4) シルト～砂 しまり中 地山土粒子少量 にぶい黄橙色(10YR6/4) 地山砂・鉄分少量［18SKP56］
7. 明黄褐色(10YR6/6) シルト～砂 しまりやや強 地山土粒子少量 にぶい黄橙色(10YR6/4) 地山砂・炭化物・鉄分少量［18SKP56］
8. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト～砂 しまり中 地山土粒子少量 にぶい黄橙色(10YR6/4) 地山砂少量［18SKP69］
9. 黄褐色(10YR5/6) シルト～砂 しまり中 地山土粒子中量 にぶい黄橙色(10YR6/4) 地山砂ブロック・炭化物・鉄分少量［18SKP72］
10. 明黄褐色(10YR6/6) シルト～砂 しまり中 地山土粒子少量 にぶい黄橙色(10YR6/4) 地山砂ブロック中量 鉄分少量［18SKP72］





第84図　６トレンチ平面図・断面図

【Bトレンチ】

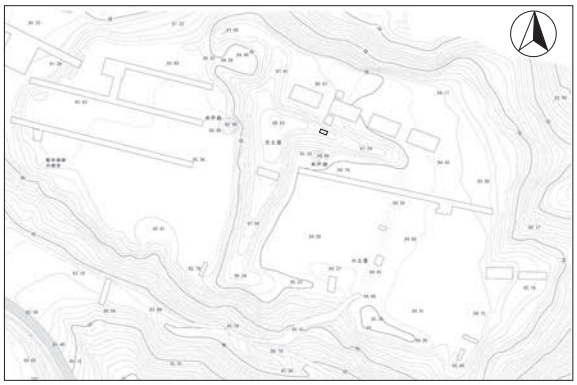
曲輪16南側に南北1.5m×東西50mで設定した。概報時にはCトレンチとして報告されていたトレンチである（男鹿市教育委員会2002）。

【Cトレンチ】

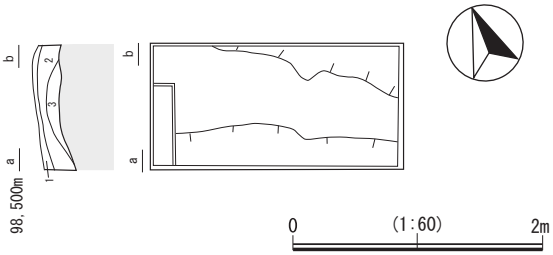
曲輪13 ～ 14にかけて南北1.5m×東西52.5mで設定した。なお概報時にはDトレンチとして報告されていたトレンチである（男鹿市教育委員会2002）。

【１トレンチ】

曲輪15－１の西側に南北４m×東西８mで設定した。遺構確認面は全面地山土であった。



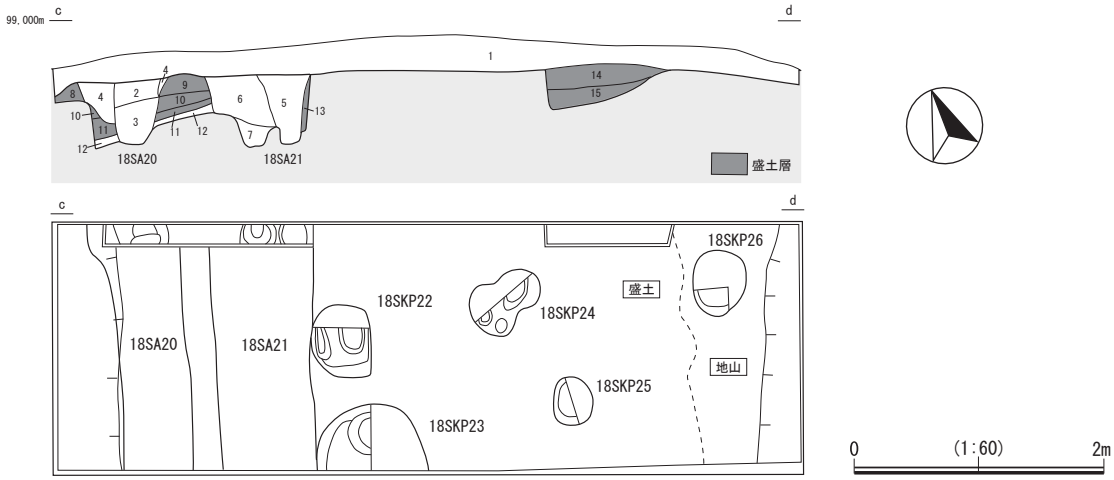
7トレンチ



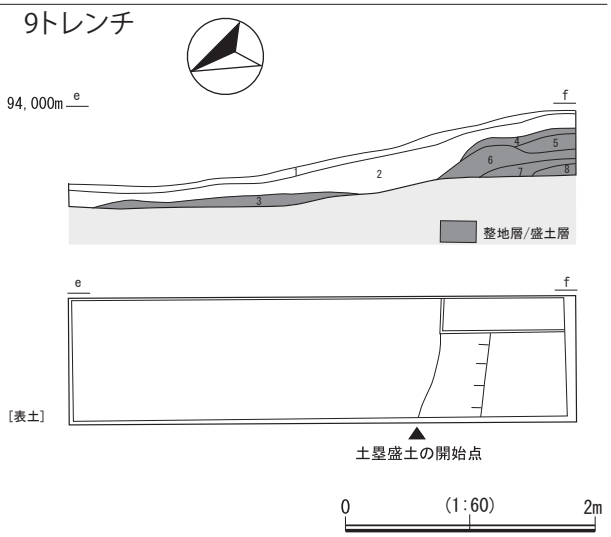
7トレンチ　a-b土層注記
1. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまりやや弱　地山土小ブロック少量　鉄分少量　根が多い［表土］
2. 暗褐色(10YR3/3)　砂　しまりやや弱　地山粒わずかに混じる［堆積層］
3. オリーブ褐色(2.5Y4/6)　シルト～粘土　2層土がまだら状に入る［地山］

8トレンチ

8トレンチ　c-d土層注記
1. にぶい黄褐色(10YR4/3)　シルト　しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物・鉄分少量　根が多い［表土］
2. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック・炭化物少量［18SA20柱痕跡］
3. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり中　地山土小ブロック中量　炭化物少量［18SA20柱痕跡］
4. にぶい黄褐色(10YR5/4)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量［18SA20］
5. にぶい黄褐色(10YR5/4)　シルト　しまり強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分少量［18SA21］
6. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり強　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量［18SA21］
7. 黄褐色(10YR5/6)　シルト　しまり強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分少量［18SA21］
8. 黄褐色(10YR3/4)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量［盛土］
9. 黄褐色(10YR5/6)　シルト　しまり強　地山土小ブロック多量［盛土］
10. 暗褐色(10YR/4)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物少量［盛土］
11. にぶい黄褐色(10YR5/4)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物少量［盛土］
12. 褐色(10YR5/6)　シルト　しまり中　地山土小ブロック微量［自然堆積層］
13. 黄褐色(10YR4/4)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物少量［盛土］
14. 黄褐色(10YR5/6)　シルト　しまり強　地山土小ブロック多量　炭化物少量［盛土］
15. 褐色(10YR4/6)　シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物少量［盛土］

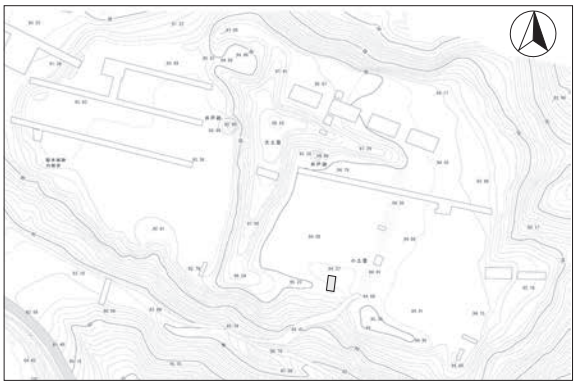


9トレンチ

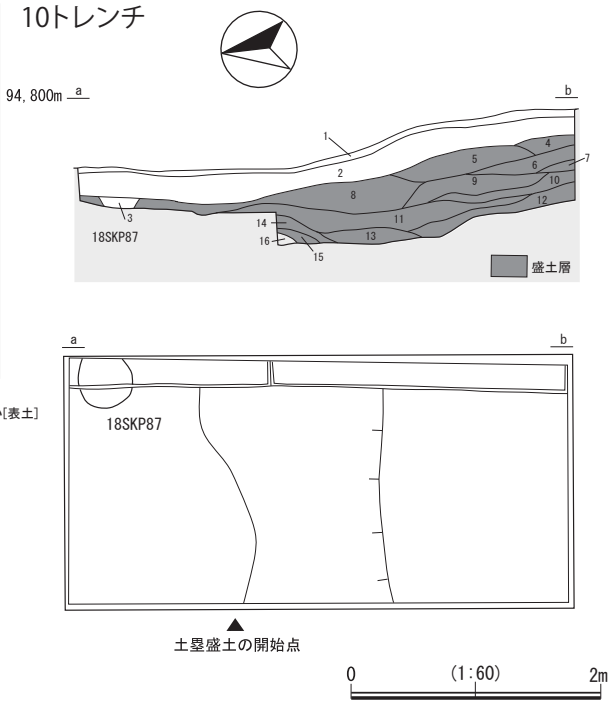


9トレンチ　e-f土層注記
1. にぶい黄褐色(10YR4/3)　シルト　しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物・鉄分少量　根が多い［表土］
2. 暗褐色(10YR3/3)　砂～シルト　しまりやや弱　地山土小ブロック少量［堆積層］
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)　シルト～粘土　しまりやや強　地山土小ブロック中量［整地層］
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)　砂　しまり中　地山土小ブロック中量　炭化物多量［盛土］
5. 褐色(10YR4/4)　砂～シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物少量［盛土］
6. 褐色(10YR4/4)　砂～シルト　しまり中　地山土小ブロック中量　炭化物少量［盛土］
7. にぶい黄褐色(10YR5/4)　砂～シルト　しまり強　地山土小ブロック中量　炭化物少量［盛土］
8. 褐色(10YR4/4)　シルト～粘土　しまり強　地山土小ブロック・炭化物少量［盛土］

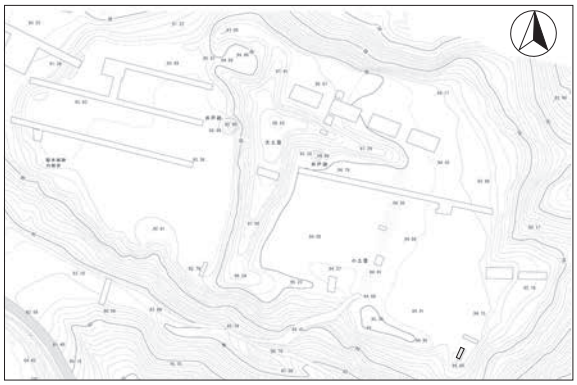
第85図　７～９トレンチ平面図・断面図



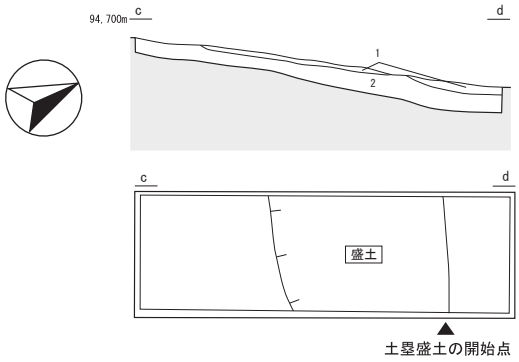
10トレンチ



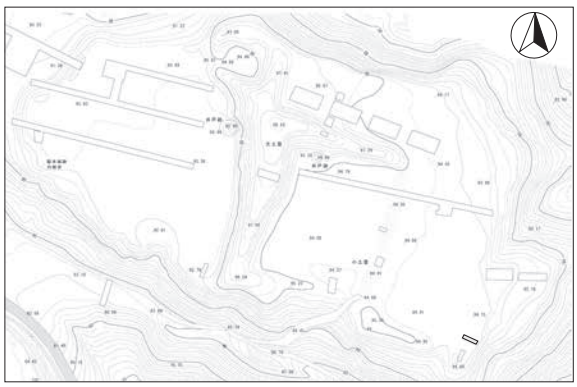
10トレンチ　a-b土層注記
1. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物・鉄分少量　根が多い[表土]
2. 黒褐色(10YR3/2) 砂～シルト しまり中　地山土小ブロック微量 ［堆積層］
3. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中　地山土小ブロック中量　炭化物少量 ［18SKP87］
4. 暗褐色(10YR3/3) シルト しまりやや強　地山土小ブロック少量 ［盛土］
5. 暗褐色(10YR3/3) シルト しまり中　地山土小ブロック中量　炭化物少量 ［盛土］
6. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト～粘土 しまりやや強　地山土小ブロック微量 ［盛土］
7. 褐色(10YR4/4) 砂 しまり中　地山土小ブロック少量 ［盛土］
8. 暗褐色(10YR3/3) 砂～シルト しまり強　地山土小ブロック微量 ［盛土］
9. にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂 しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物少量 ［盛土］
10. 暗褐色(10YR3/3) シルト～砂 しまり中　地山土小ブロック少量　炭化物少量 ［盛土］
11. 褐色(10YR4/4) 砂 しまりやや強　地山土小ブロック中量 ［盛土］
12. 褐色(10YR4/6) 砂 しまり強　暗褐色(10YR3/3)ブロック中量　炭化物少量 ［盛土］
13. にぶい黄橙色(10YR6/4) 砂 しまり強　炭化物少量 ［盛土］
14. にぶい黄褐色(10YR5/4) 砂 しまり中　地山にとても近い ［盛土］
15. 褐色(10YR4/4) 砂 しまり中　炭化物少量 ［盛土］
16. にぶい黄橙色(10YR6/4) 砂 しまりやや強 ［地山］



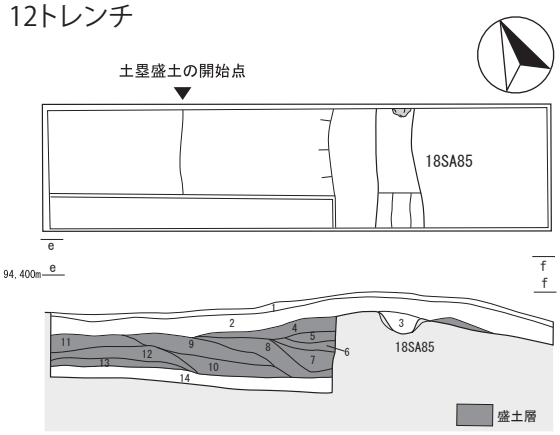
11トレンチ



11トレンチ　c-d土層注記
1. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物・鉄分少量　根が多い ［表土］
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト～砂 しまり中 ［堆積層］



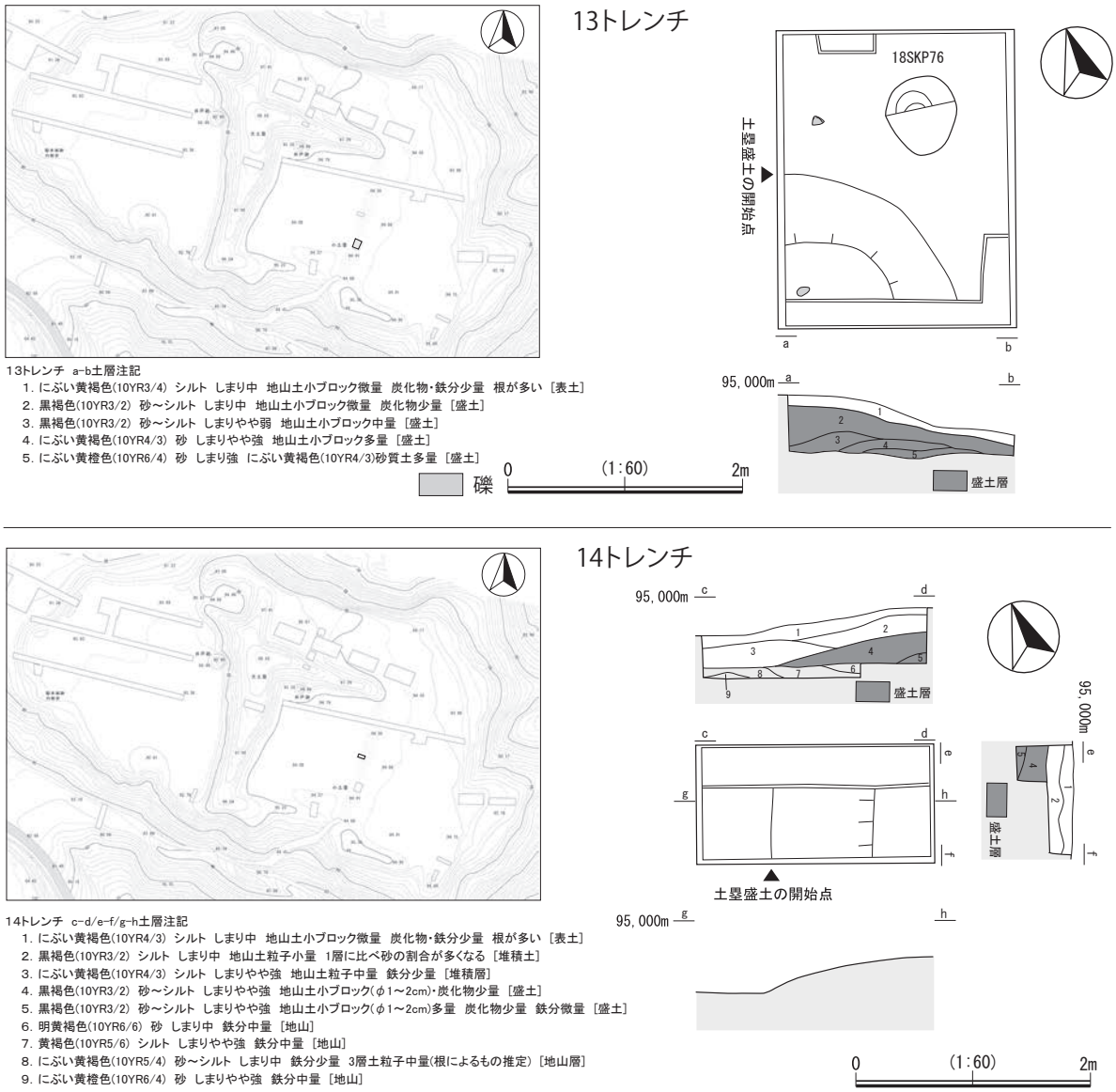
12トレンチ



礫　0　(1:60)　2m

12トレンチ　e-f土層注記
1. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物・鉄分小量　根が多い ［表土］
2. 黒褐色(10YR3/2) シルト～砂 しまり中 ［堆積層］
3. 黒褐色(10YR3/2) シルト しまりやや強　地山土小ブロック少量[18SA85]
4. にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂 しまり強　地山土小ブロック少量　炭化物少量 ［盛土］
5. 暗褐色(10YR3/3) 砂 しまり強　地山土小ブロック少量　黒褐色(10YR3/2)少量 ［盛土］
6. 褐色(10YR4/6) 砂(やや粗い) しまり強　地山にとても近い ［盛土］
7. 黄褐色(10YR5/6) 砂～シルト しまりやや強　粘質地山土小ブロック中量　黒褐色(10YR3/2)・炭化物少量 ［盛土］
8. 褐色(10YR4/6) 砂～シルト しまり強　地山土小ブロック中量　黒褐色(10YR3/2)中量 ［盛土］
9. 黄褐色(10YR5/6) シルト～粘土 しまりやや強　地山土ブロック多量　鉄分少量 ［盛土］
10. 暗褐色(10YR3/4) 砂 しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物少量 ［盛土］
11. 褐色(10YR4/4) シルト～砂 しまり強　地山土小ブロック多量 ［盛土］
12. 暗褐色(10YR3/4) 砂 しまり強　地山土小ブロック中量　炭化物少量 ［盛土］
13. 褐色(10YR4/6) シルト～粘土 しまり強　地山土小ブロック中量 ［盛土］
14. 褐色(10YR4/6) 砂～シルト しまりやや強　旧表土　地山土小ブロック微量　鉄分少量 ［自然堆積層］

第86図　10～12トレンチ平面図・断面図



第87図　13・14トレンチ平面図・断面図

【２～４トレンチ】

２トレンチは曲輪15－１から15－２にかけての傾斜部に南北４ｍ×東西８ｍで設定した。２トレンチで18SA17が検出されたため、その広がりを探るために、２トレンチの北側に３トレンチを南北２ｍ×２ｍで設定し、４トレンチをその南側に南北2.5m×東西２ｍで設定した。さらに４トレンチは大規模な土塁の基底部の確認も兼ねた。遺構確認面は曲輪については地山土であり、２トレンチ中央部の斜面は砂質地山で非常に崩れやくなっていた。トレンチ内の北側斜面では、表土下12cmのところでビニールが検出され、撹乱が及んでいた。土塁の裾部は盛土で整形されていた。土塁斜面部からは銅製足金物（第97図－１）が出土した。

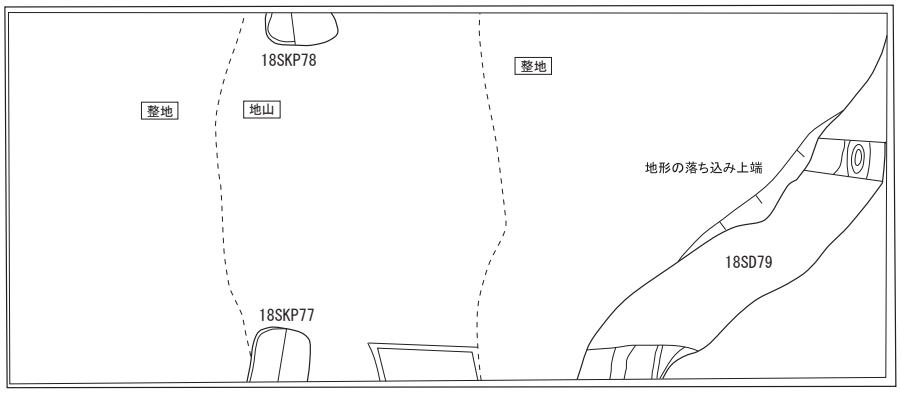
【５トレンチ】

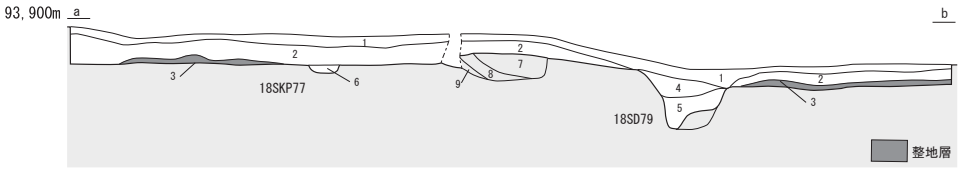
２トレンチ東側の曲輪15－２に南北４ｍ×東西８ｍで設定した。遺構確認面は全面地山土であった。

【６トレンチ】

５トレンチの東側に南北４ｍ×東西８ｍで、土塁の先端部をまたぐように設定した。遺構確認面は全

15トレンチ

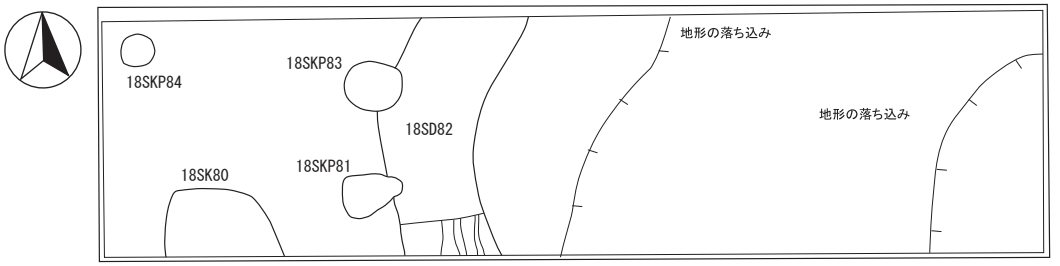


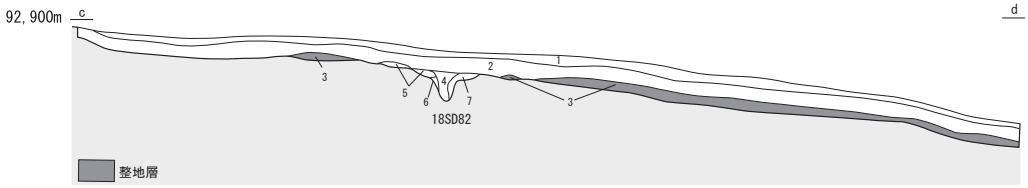


15トレンチ　a-b土層注記
1. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物・鉄分少量　根が多い［表土］
2. 暗褐色(10YR3/3) 砂～シルト しまり中　地山土小ブロック少量［堆積層］
3. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中地山土小ブロック［整地層］
4. 暗褐色(10YR3/3) シルト～粘土 しまり強　地山土小ブロックごく少量［18SD79］
5. 褐色(10YR4/4) シルト～粘土 しまりやや強　地山土小ブロック中量［18SD79］
6. にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂 しまり中　黒褐色(10YR3/2)砂質土中量［18SKP77］
7. 明黄褐色(10YR6/6) 粘土［地山］
8. 黄褐色(10YR5/6) 粘土 鉄分やや多量［地山］
9. 褐色(10YR4/6) 砂 鉄分多量［地山］

0　(1:60)　2m

16トレンチ



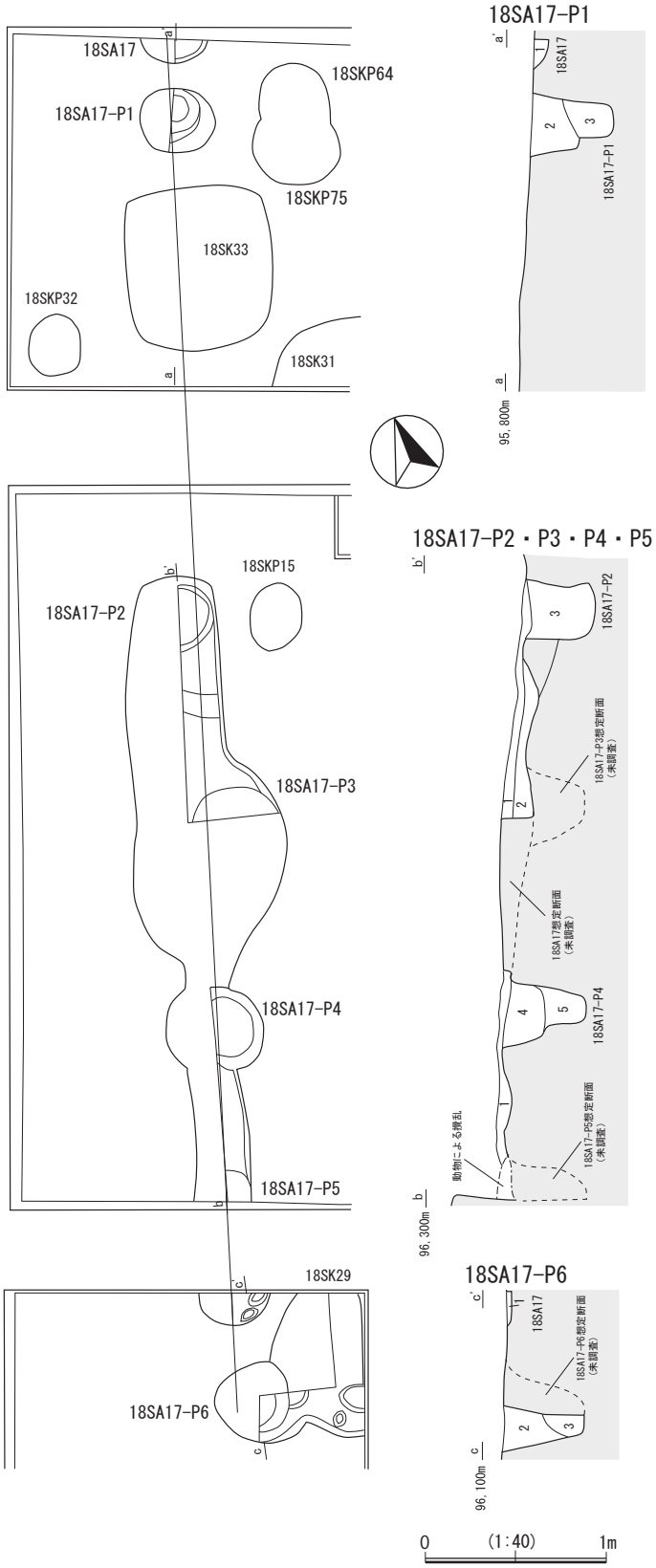


16トレンチ　c-d土層注記
1. にぶい黄褐色(10YR4/3) しると しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物・鉄分少量　根が多い[表土]
2. 暗褐色(10YR3/3) 砂～シルト しまり中　地山土小ブロック少量［堆積層］
3. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中　地山土小ブロック多量［整地層］
4. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまりやや強　地山土小ブロック微量　炭化物少量［18SD82］
5. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中　地山土小ブロック中量［18SD82］
6. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや弱　地山土小ブロック多量［18SD82］
7. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト～粘土 しまり中　地山土小ブロック中量　炭化物少量［18SD82］

0　(1:60)　2m

第88図　15・16トレンチ平面図・断面図

18SA17



■18SA17-P1
1. 褐色(10YR4/4) 砂～シルト しまり中 地山土粒子少量 地山土小ブロック少量 鉄分微量 [18SA17]
2. にぶい黄褐色(10YR5/4) 砂～シルト しまりやや弱 地山土粒子中量 炭化物少量 [18SA17-P1]
3. にぶい黄橙色(10YR6/4) 砂 しまり弱 地山土粒子少量 鉄分微量 [18SA17-P1]

■18SA17-P2/P3/P4/P5
1. 黒褐色(10YR3/2) 砂 しまりやや弱 地山土小ブロック少量 [18SA17]
2. 褐色(10YR4/4) 砂 しまりやや強 暗褐色(10YR3/3) ブロックで中量 炭少量 [18SA17]
3. 黄褐色(10YR5/6) 砂～シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 鉄分多量 [18SA17-P2]
4. 褐色(10YR4/4) 砂 しまり中 暗褐色(10YR3/3)まだらに中量 地山土小ブロック少量 [18SA17-P4]
5. 褐色(10YR4/6) 砂 しまりやや強 地山土小ブロック中量 [18SA17-P4]

■18SA17-P6
1. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト～砂 しまり中 地山砂少量 [18SA17]
2. 黄褐色(10YR5/6) シルト～砂 しまり中 地山土粒子中量 地山土小ブロック中量 炭化物・鉄分少量 [18SA17-P6]
3. 明黄褐色(10YR6/6) シルト～砂 しまり中 地山土小粒子少量 地山土小ブロック少量 鉄分少量 [18SA17-P6]

第89図　18SA17

第24表　曲輪13･14･15-1･15-2･16（第18次調査）遺構一覧表①

■柱穴列・塀跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
18SA17	第82図 第89図	2･3･4トレンチ	12	(幅)40	-	-	Ⅵ	SA17	
18SA17-P1		3トレンチ	46	40	34	-	Ⅵ	SA17-P1	
18SA17-P2		2トレンチ	34	46	-	-	Ⅵ	SA17-P2	
18SA17-P3			-	48	-	-	Ⅵ	SA17-P3	未調査
18SA17-P4			42	53	40	-	Ⅵ	SA17-P4	
18SA17-P5			-	(17)	-	-	Ⅵ	SA17-P5	未調査
18SA17-P6		4トレンチ	42	46	42	-	Ⅵ	SA17-P6	
18SA20	第85図	8トレンチ	50	(幅)52	-	-	Ⅵ	SA20	柱痕跡
18SA21（古）	第85図	8トレンチ	56	(幅)(40)	-	-	Ⅵ	SA21	
18SA21（新）		8トレンチ	55	40	-	-	Ⅵ	SA21	
18SA85	第86図	12トレンチ	15	(幅)34	-	-	Ⅵ	SA85	

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
18SD12	第81図	1トレンチ	5	22	-	Ⅵ	SD12	
18SD39	第84図	6トレンチ	44	26	-	Ⅵ	SD39	
18SD60	第84図	6トレンチ	30	49	-	Ⅵ	SD60	
18SD79	第88図	15トレンチ	39	90	-	Ⅵ	SD79	
18SD82	第88図	16トレンチ	23	68	-	Ⅵ	SD82	
18SD86	第81図	1トレンチ	14	22	-	Ⅵ	SD86	

■土坑

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
18SK01	第81図	1トレンチ	20	190	70	-	Ⅵ	SK01	炭化物多量・近現代遺構
18SK02	第81図	1トレンチ	47	90	72	-	Ⅵ	SK02	
18SK03	第81図	1トレンチ	44	82	74	-	Ⅵ	SK03	
18SK16	第82図	2トレンチ	55	97	68	-	Ⅵ	SK16	
18SK29	第82図	4トレンチ	17	(80)	-	-	Ⅵ	SK29	
18SK31	第82図	3トレンチ	3	(53)	-	-	Ⅵ	SK31	
18SK33	第82図	3トレンチ	-	80	90	-	Ⅵ	SK33	未調査
18SK34	第81図	1トレンチ	5	(80)	-	-	Ⅵ	SK34	
18SK73	第84図	6トレンチ	28	(108)	-	-	Ⅵ	SK73	
18SK80	第88図	16トレンチ	-	(93)	-	-	Ⅵ	SK80	未調査

■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
18SKP04	第81図	1トレンチ	60	(41)	-	-	Ⅵ	SKP04	
18SKP05	第81図	1トレンチ	11	32	30	-	Ⅵ	SKP05	
18SKP06	第81図	1トレンチ	12	47	46	-	Ⅵ	SKP06	
18SKP07	第81図	1トレンチ	28	(32)	-	-	Ⅵ	SKP07	
18SKP08	第81図	1トレンチ	63	49	40	-	Ⅵ	SKP08	
18SKP09	第81図	1トレンチ	8	28	21	-	Ⅵ	SKP09	
18SKP10	第81図	1トレンチ	19	40	40	-	Ⅵ	SKP10	
18SKP11	第81図	1トレンチ	16	46	30	-	Ⅵ	SKP11	
18SKP13	第82図	2トレンチ	11	(42)	-	-	Ⅵ	SKP13	
18SKP14	第82図	2トレンチ	37	(56)	-	-	Ⅵ	SKP14	
18SKP15	第82図	2トレンチ	27	38	30	-	Ⅵ	SKP15	18SA17と関連の可能性
18SKP18	第82図	2トレンチ	32	27	23	-	Ⅵ	SKP18	
18SKP19	第83図	5トレンチ	66	(41)	-	-	Ⅵ	SKP19	
18SKP22	第85図	8トレンチ	32	57	46	-	Ⅵ	SKP22	
18SKP23	第85図	8トレンチ	17	(88)	-	-	Ⅵ	SKP22	
18SKP24	第85図	8トレンチ	30	61	30	-	Ⅵ	SKP22	
18SKP25	第85図	8トレンチ	11	39	32	-	Ⅵ	SKP22	
18SKP26	第85図	8トレンチ	14	51	40	-	Ⅵ	SKP22	
18SKP27	第82図	4トレンチ	13	(46)	-	-	Ⅵ	SKP27	
18SKP32	第82図	3トレンチ	-	33	28	-	Ⅵ	SKP32	未調査
18SKP40	第84図	6トレンチ	35	(60)	-	-	Ⅵ	SKP40	
18SKP41	第84図	6トレンチ	38	(42)	-	-	Ⅵ	SKP41	
18SKP42	第84図	6トレンチ	34	(37)	-	-	Ⅵ	SKP42	
18SKP43	第84図	6トレンチ	49	(33)	-	-	Ⅵ	SKP43	
18SKP44	第84図	6トレンチ	33	(28)	-	-	Ⅵ	SKP44	
18SKP45	第84図	6トレンチ	55	(43)	-	-	Ⅵ	SKP45	
18SKP46	第84図	6トレンチ	43	59	36	-	Ⅵ	SKP46	

第25表　曲輪13･14･15-1･15-2･16（第18次調査）遺構一覧表②

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
18SKP47	第84図	6トレンチ	34	(70)	-	-	Ⅵ	SKP47	
18SKP48	第84図	6トレンチ	43	55	-	-	Ⅵ	SKP48	
18SKP49	第84図	6トレンチ	36	(63)	-	-	Ⅵ	SKP49	
18SKP50	第84図	6トレンチ	54	60	54	-	Ⅵ	SKP50	
18SKP51	第84図	6トレンチ	17	48	32	-	Ⅵ	SKP51	
18SKP52	第84図	6トレンチ	13	26	25	-	Ⅵ	SKP52	
18SKP53	第84図	6トレンチ	28	25	23	-	Ⅵ	SKP53	
18SKP54	第84図	6トレンチ	29	38	36	-	Ⅵ	SKP54	
18SKP55	第84図	6トレンチ	40	50	42	-	Ⅵ	SKP55	
18SKP56	第84図	6トレンチ	36	(48)	-	-	Ⅵ	SKP56	
18SKP57	第84図	6トレンチ	-	(24)	-	-	Ⅵ	SKP57	未調査
18SKP58	第84図	6トレンチ	-	-		-	Ⅵ	SKP58	未調査
18SKP59	第84図	6トレンチ	-	(54)	-	-	Ⅵ	SKP59	未調査
18SKP61	第84図	6トレンチ	62	70	59	-	Ⅵ	SKP61	
18SKP62	第84図	6トレンチ	51	(76)	-	-	Ⅵ	SKP62	
18SKP63	第84図	6トレンチ	70	(51)	-	-	Ⅵ	SKP63	
18SKP64	第82図	3トレンチ	38	(37)	-	-	Ⅵ	SKP64	18SA17と関連の可能性がある
18SKP65	第84図	6トレンチ	-	(22)	-	-	Ⅵ	SKP65	未調査
18SKP66	第84図	6トレンチ	20	28	31	-	Ⅵ	SKP66	
18SKP67	第84図	6トレンチ	27	(34)	-	-	Ⅵ	SKP67	
18SKP68	第84図	6トレンチ	12	(30)	-	-	Ⅵ	SKP68	
18SKP69	第84図	6トレンチ	21	(26)	-	-	Ⅵ	SKP69	
18SKP70	第84図	6トレンチ	42	77	48	-	Ⅵ	SKP70	
18SKP71	第84図	6トレンチ	65	47	43	-	Ⅵ	SKP71	
18SKP72	第84図	6トレンチ	93	(84)	-	-	Ⅵ	SKP72	
18SKP74	第84図	6トレンチ	43	(25)	-	-	Ⅵ	SKP74	
18SKP75	第82図	3トレンチ	52	(48)	-	-	Ⅵ	SKP75	18SA17と関連の可能性がある
18SKP76	第87図	13トレンチ	14	66	60	-	Ⅵ	SKP76	
18SKP77	第88図	15トレンチ	10	(46)	-	-	Ⅵ	SKP77	18SKP78と門を構成する可能性がある
18SKP78	第88図	15トレンチ	6	(56)	-	-	Ⅵ	SKP78	18SKP77と門を構成する可能性がある
18SKP81	第88図	16トレンチ	-	49	33	-	Ⅵ	SKP81	未調査
18SKP83	第88図	16トレンチ	-	45	39	-	Ⅵ	SKP83	未調査
18SKP84	第88図	16トレンチ	-	17	16	-	Ⅵ	SKP84	未調査
18SKP87	第88図	10トレンチ	9	(42)	-	-	Ⅵ	SKP86	

面地山土であった。遺構確認面付近より銅銭が３枚出土し、内２点を掲載した。一枚は政和通宝である（第97図－10）。

【７トレンチ】

大規模な土塁北側の頂上部に４トレンチと平行になるように、南北１ｍ×東西２ｍで設定した。遺構確認面は全面地山土であった。そのため、土塁北側の上部は切土で造成されていることが明らかとなった。

【８トレンチ】

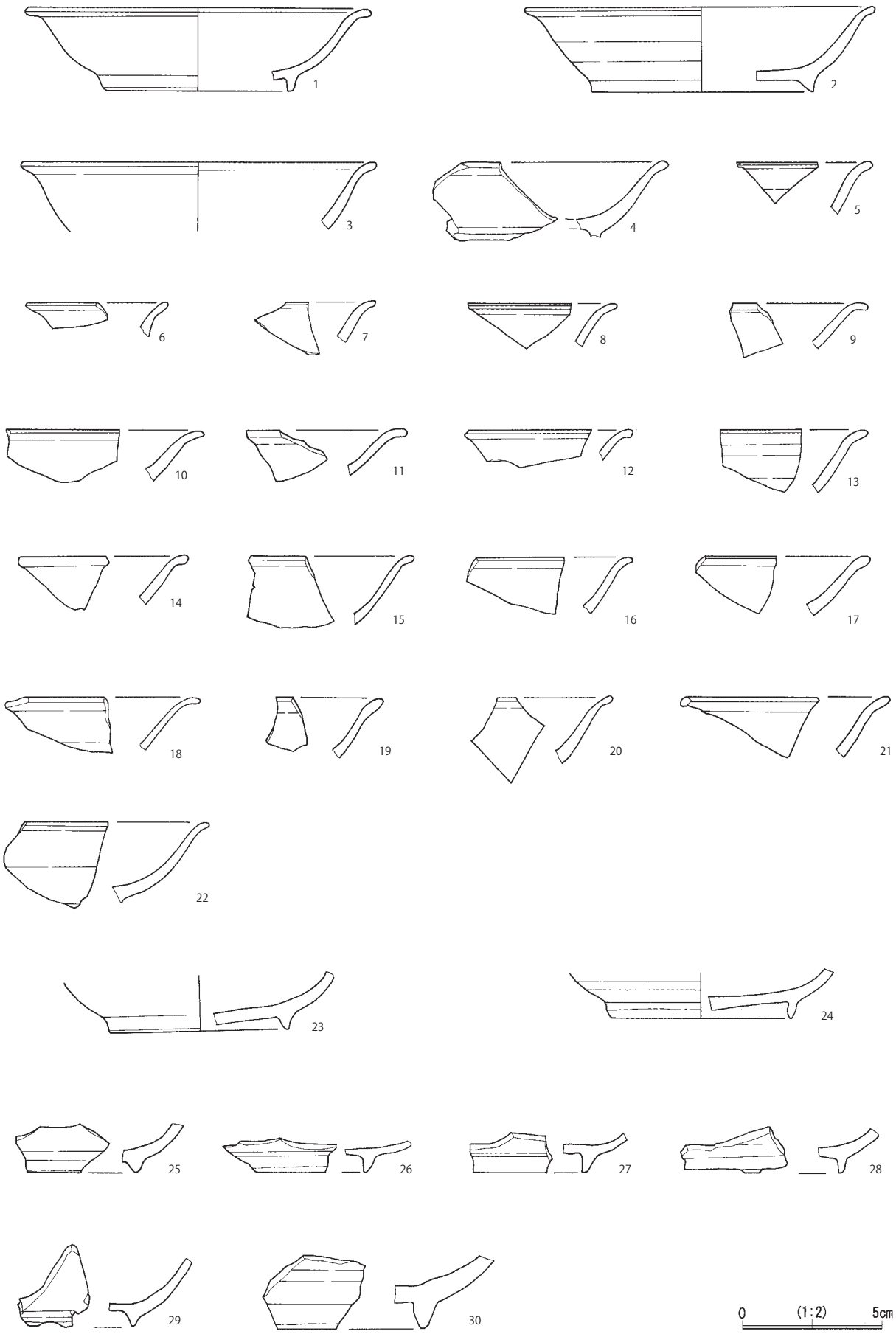
南北に延びる大規模な土塁頂部の平坦面が広い箇所を選択し、南北２ｍ×東西６ｍで設定した。遺構確認面は盛土であった。盛土は約30cmの深さにわたって確認され、盛土直下にはわずかに旧表土が残り、さらに下層は地山土であった。

以上の点から、土塁造成以前の旧地形は西側へ緩やかに下る地形であったものを、盛土によって土塁頂部を平坦に造成していたことが明らかとなった。土塁造成に当たって、旧表土直上から土砂を盛り、地山の最も高所と標高を合わせるように平坦部を造成し、土塁を構築したことが確認された。

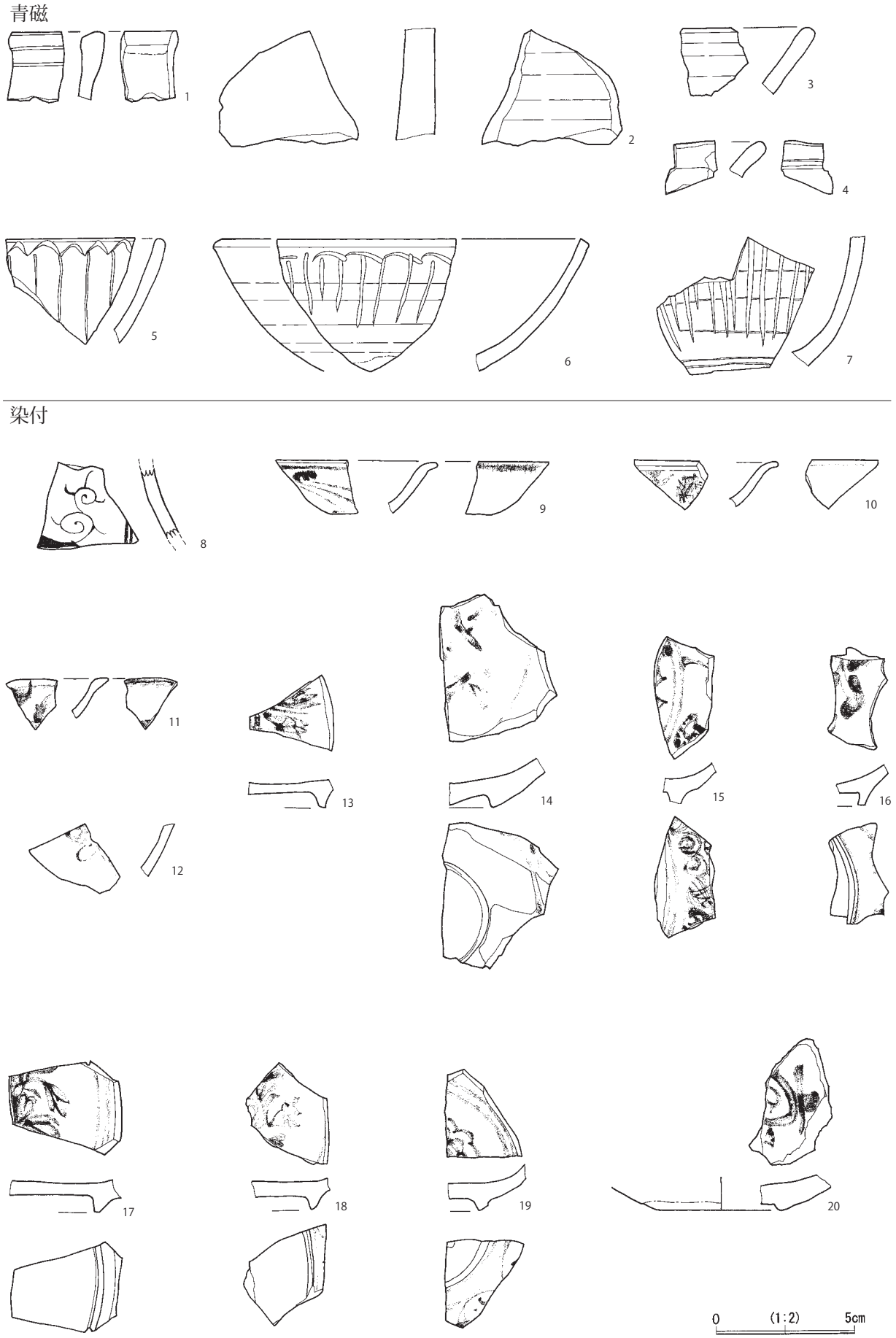
【９トレンチ】

大規模な土塁の南西端部は曲輪16側に一部延びる高まりが確認されており、一連の土塁の一部であるかどうかを確認するため、南北４ｍ×東西１ｍで設定した。遺構確認面は土塁に該当する部分で盛土が

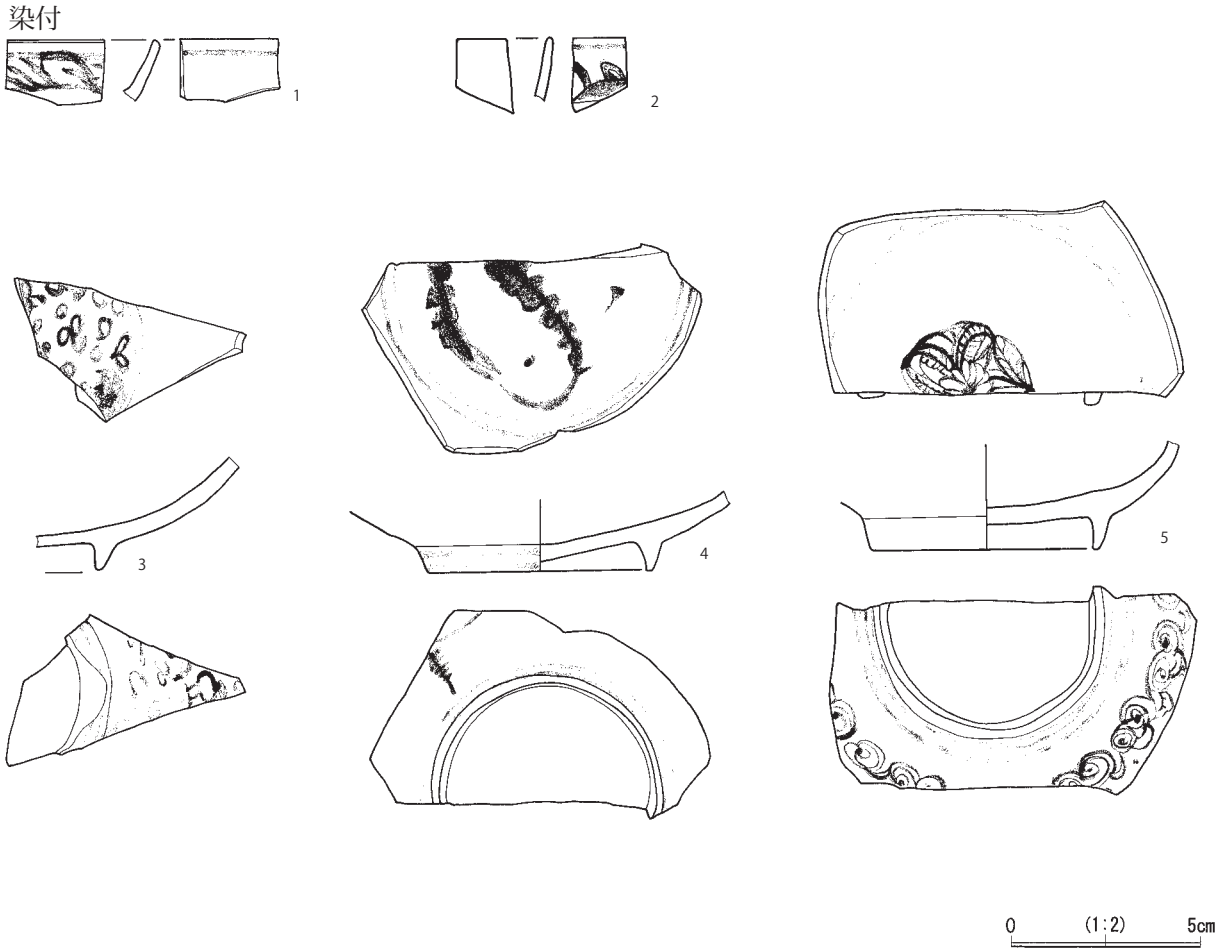
白磁



第90図　曲輪13･14･15-1･15-2･16（Ｈ７年度調査）出土遺物①



第91図　曲輪13･14･15-1･15-2･16（Ｈ７年度調査）出土遺物②



第92図　曲輪13･14･15-1･15-2･16（Ｈ７年度調査）出土遺物③

確認され、曲輪の平坦面はトレンチ北端部でわずかに地山土であったが、大部分は整地層であった。以上の点から大規模な土塁は一部曲輪16側にも延びることが明らかとなった。４層の盛土上面から検出された炭化物について放射性炭素年代測定を実施した。その結果、16世紀初頭～ 17世紀中頃(calAD 1,522 ～ calAD1,646)の年代が示された。

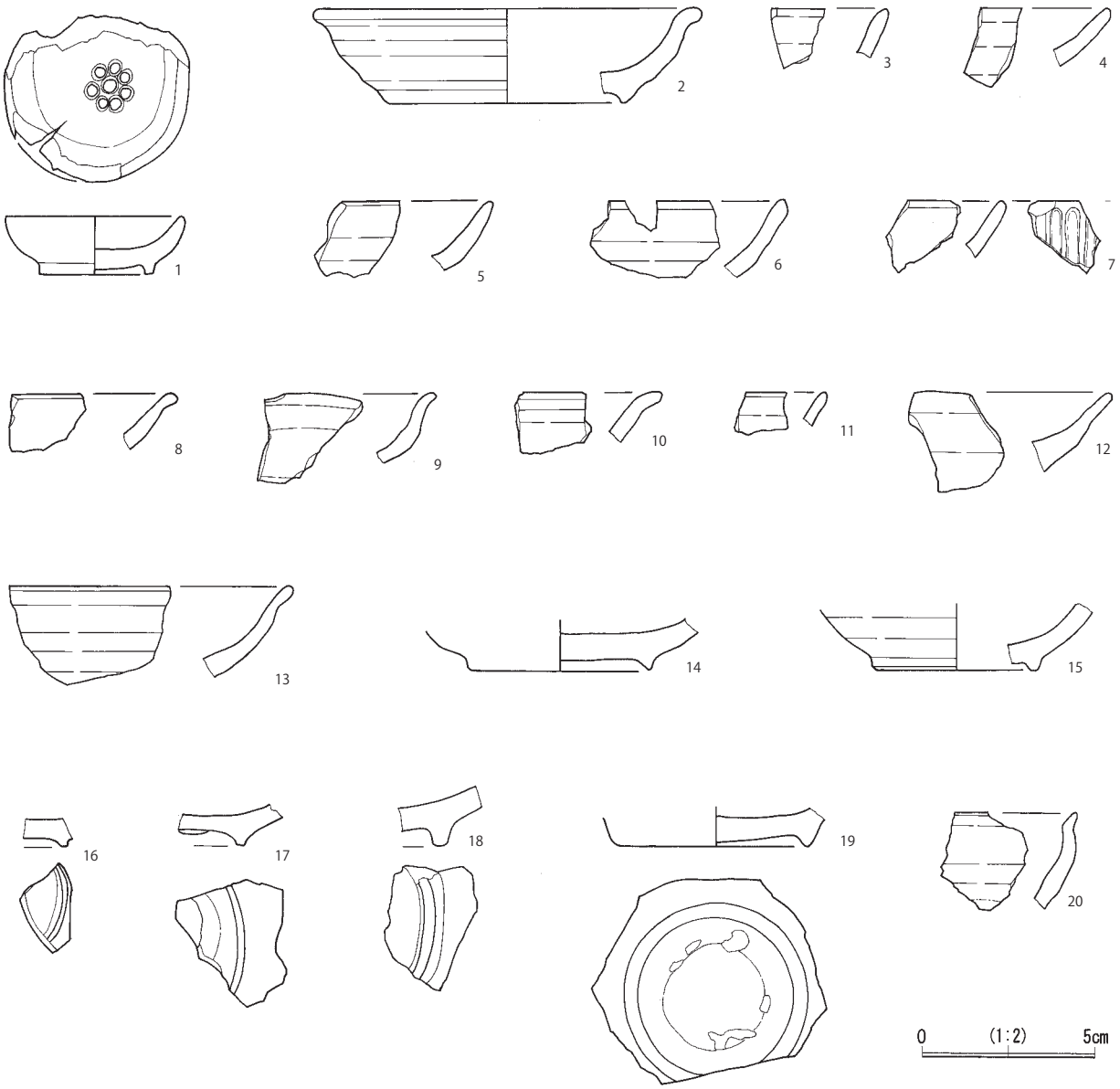
【10トレンチ】

大規模な土塁の曲輪14側南部に南北４ｍ×東西２ｍで設定した。遺構確認面は全面盛土であった。

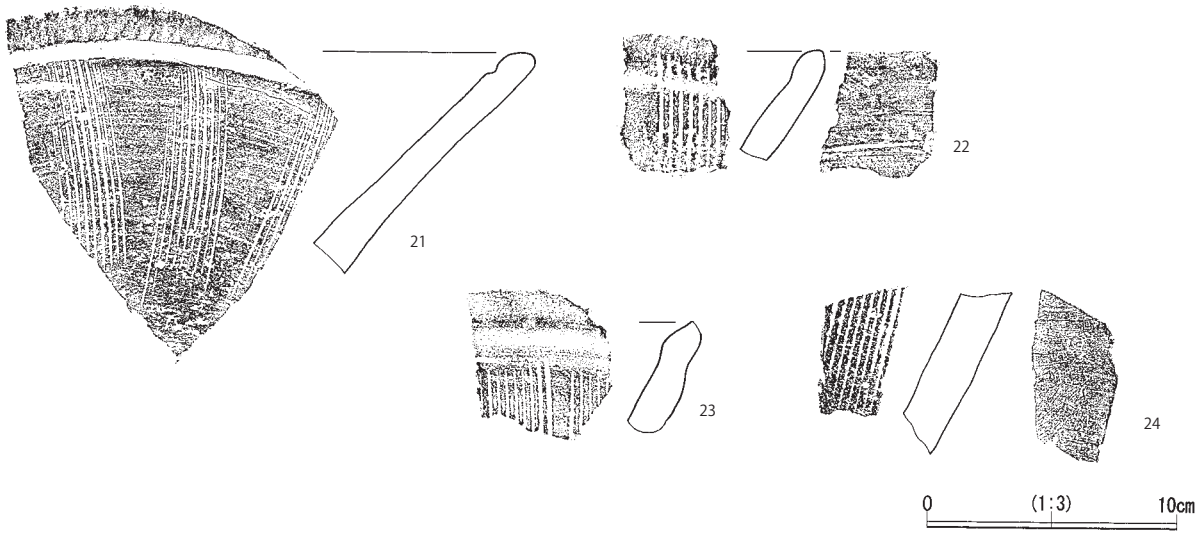
【11・12トレンチ】

11トレンチは大規模な土塁の曲輪13側南部に南北３ｍ×東西１ｍで設定した。遺構確認面は土塁に該当する部分で盛土が確認され、曲輪の平坦面は地山土であった。なお、本トレンチは盛土層を確認面とした段階で調査を停止している。12トレンチは曲輪13の東端部においてわずかな地形の高まりが観察されたため、高まりが土塁の延長であるかを確認することを目的に、南北１ｍ×東西４ｍのトレンチを設定した。遺構確認面は全面盛土であった。曲輪13の東端部は厚さ25cmから30cm程度の盛土によって造成されており、西側から東側へ平坦面を広げるような盛土の単位もトレンチの土層断面で観察された。西側の11層から13層を盛土し、その後９・10層の盛土、５層から８層の盛土によって曲輪をほぼ平坦に造成した上で４層の盛土を行って高まりを造り出している。この盛土が南側へ高まることが確認できたため、土塁の一部であったと判断し、曲輪13の東端部も土塁が回り込むことが明らかとなった。小破片

瀬戸美濃



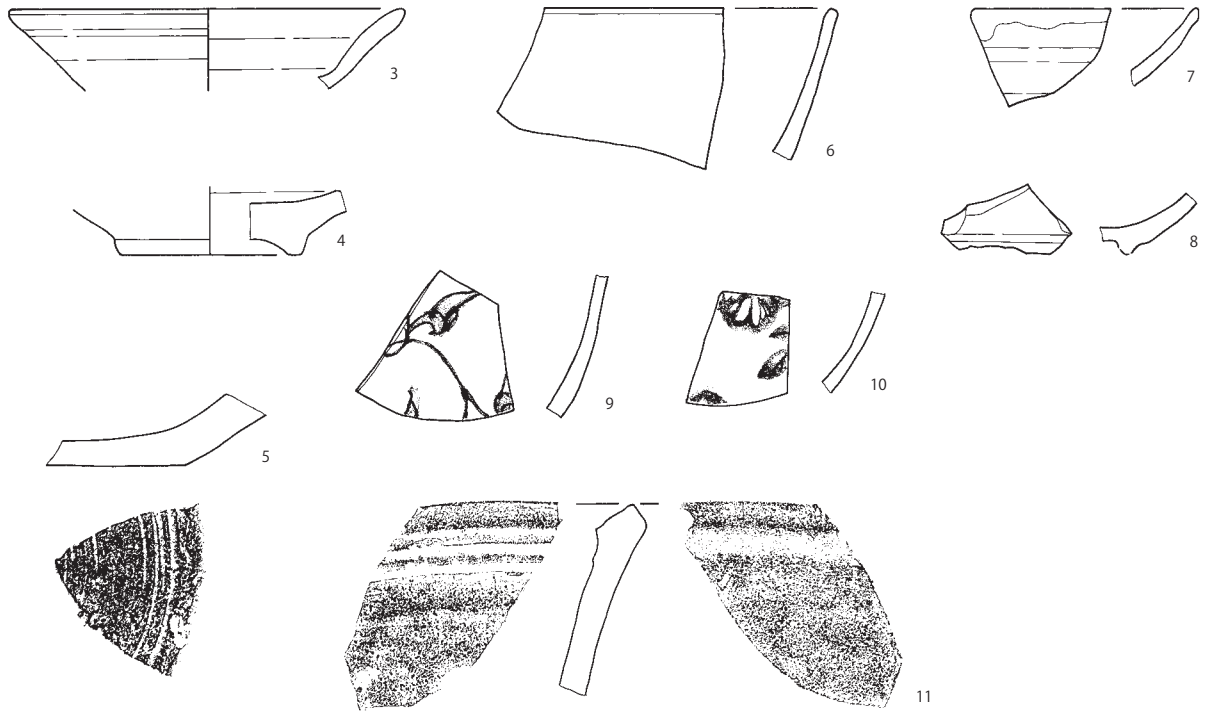
越前



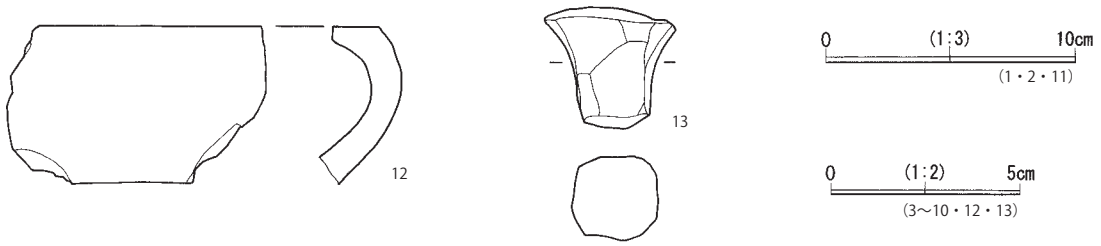
第93図　曲輪13･14･15-1･15-2･16（Ｈ７年度調査)出土遺物④

珠州系

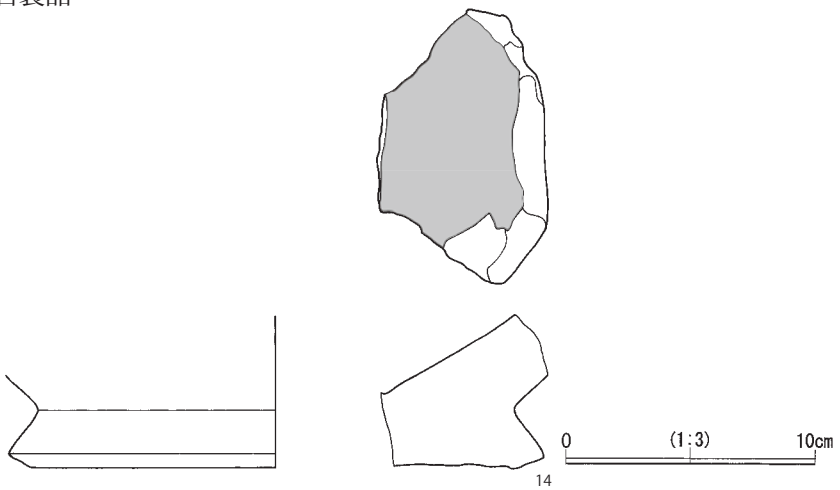
近世陶磁器



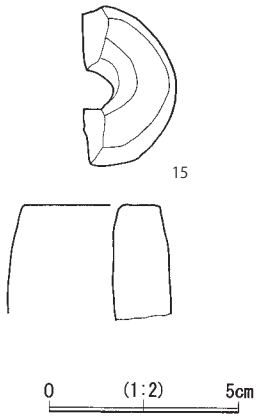
瓦質土器



石製品

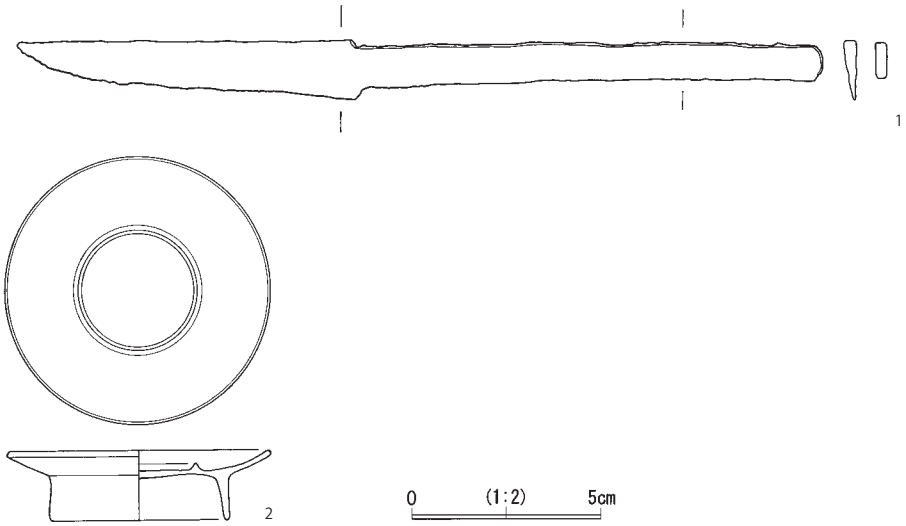


土製品



第94図　曲輪13･14･15-1･15-2･16（Ｈ７年度調査）出土遺物⑤

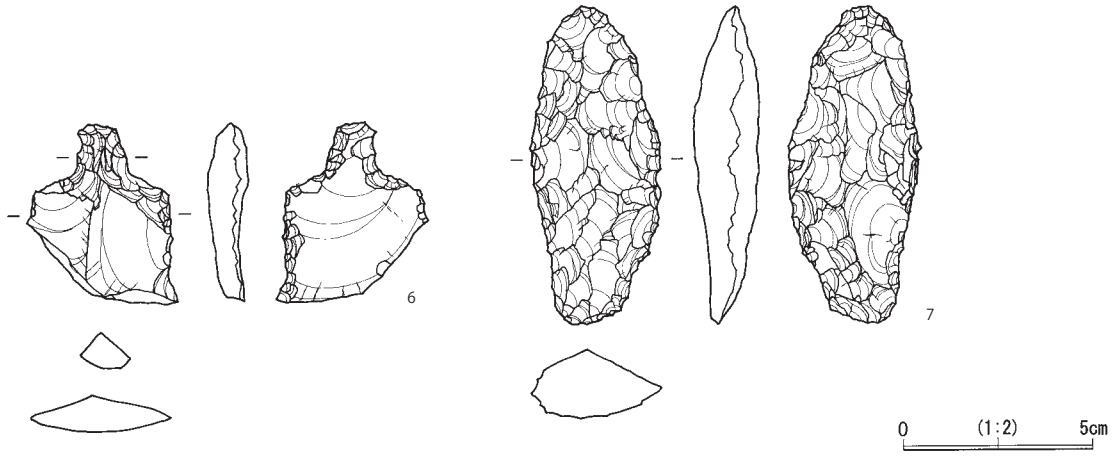
金属製品



銭貨

縄文土器

石製品



第95図　曲輪13･14･15-1･15-2･16（Ｈ７年度調査）出土遺物⑥

第26表　曲輪13･14･15-1･15-2･16（Ｈ７年度調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
44	17	27	5	22	20	2	0	0	0	0	0	0	11	3	8	3	0	0	4	0	5	1	28	0

第27表　曲輪13･14･15-1･15-2･16（Ｈ７年度調査）出土遺物観察表①

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
90	1	32	白磁	皿	Cトレンチ	-	(12.4)	(5.8)	2.9	15c後半～16c	Ⅰ	11	1	
90	2	32	白磁	皿	Cトレンチ	-	(12.6)	(7.9)	3.0	15c後半～16c	Ⅰ	11	2	割口に漆による補修痕
90	3	32	白磁	皿	Cトレンチ	-	(12.8)	-	(2.4)	15c後半～16c	Ⅰ	10	28	
90	4	32	白磁	皿	Bトレンチ	-	-	-	(2.8)	15c後半～16c	Ⅰ	10	8	
90	5	32	白磁	皿	Cトレンチ	-	-	-	(1.9)	15c後半～16c	Ⅰ	10	9	割口に漆による補修痕
90	6	32	白磁	皿	Cトレンチ	-	-	-	(1.2)	15c後半～16c	Ⅰ	10	10	
90	7	32	白磁	皿	Aトレンチ	-	-	-	(1.8)	15c後半～16c	Ⅰ	10	11	
90	8	32	白磁	皿	Aトレンチ	-	-	-	(1.6)	15c後半～16c	Ⅰ	10	12	
90	9	32	白磁	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.9)	15c後半～16c	Ⅰ	10	13	
90	10	32	白磁	皿	-	-	-	-	(1.9)	15c後半～16c	Ⅰ	10	14	
90	11	32	白磁	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.8)	15c後半～16c	Ⅰ	10	15	
90	12	32	白磁	皿	Aトレンチ	-	-	-	(1.3)	15c後半～16c	Ⅰ	10	16	
90	13	32	白磁	皿	Aトレンチ	-	-	-	(2.2)	15c後半～16c	Ⅰ	10	17	
90	14	32	白磁	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.9)	15c後半～16c	Ⅰ	10	18	
90	15	32	白磁	皿	Bトレンチ	-	-	-	(2.6)	15c後半～16c	Ⅰ	10	20	
90	16	32	白磁	皿	Aトレンチ	-	-	-	(2.0)	15c後半～16c	Ⅰ	10	21	
90	17	32	白磁	皿	Bトレンチ	-	-	-	(2.1)	15c後半～16c	Ⅰ	10	22	
90	18	32	白磁	皿	Bトレンチ	-	-	-	(2.0)	15c後半～16c	Ⅰ	10	23	
90	19	32	白磁	皿	Cトレンチ	-	-	-	(2.1)	15c後半～16c	Ⅰ	10	24	
90	20	32	白磁	皿	Bトレンチ	-	-	-	(3.0)	15c後半～16c	Ⅰ	10	25	
90	21	32	白磁	皿	Cトレンチ	-	-	-	(2.1)	15c後半～16c	Ⅰ	10	26	
90	22	32	白磁	皿	Aトレンチ	-	-	-	(3.1)	15c後半～16c	Ⅰ	10	27	
90	23	32	白磁	皿	Cトレンチ	-	-	(6.4)	(2.0)	-	Ⅰ	11	5	
90	24	32	白磁	皿	Aトレンチ	-	-	(6.3)	(1.7)	-	Ⅰ	11	9	被熱
90	25	32	白磁	皿	Aトレンチ	-	-	-	(1.7)	-	Ⅰ	11	3	被熱
90	26	32	白磁	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.2)	-	Ⅰ	11	4	
90	27	32	白磁	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.4)	-	Ⅰ	11	6	
90	28	32	白磁	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.6)	15c後半～16c	Ⅰ	11	8	
90	29	32	白磁	皿	Cトレンチ	-	-	-	(2.9)	-	Ⅰ	11	7	
90	30	32	白磁	碗	Aトレンチ	-	-	-	(2.5)	-	Ⅰ	11	10	
91	1	32	青磁	香炉	Aトレンチ	-	-	-	(2.5)	-	Ⅰ	10	1	竹節形香炉
91	2	32	青磁	壺	Aトレンチ	-	-	-	(4.0)	-	Ⅰ	10	2	
91	3	32	青磁	碗	Cトレンチ	-	-	-	(2.4)	-	Ⅰ	10	3	
91	4	32	青磁	皿	Aトレンチ	-	-	-	(1.9)	-	Ⅰ	10	4	
91	5	32	青磁	碗	Cトレンチ	-	-	-	(3.8)	15c後半～16c前半	Ⅰ	10	5	
91	6	32	青磁	碗	Cトレンチ	-	(13.6)	-	(4.7)	15c後半～16c前半	Ⅰ	10	6	
91	7	32	青磁	碗	Aトレンチ	-	-	-	(4.8)	15c後半～16c前半	Ⅰ	10	7	
91	8	35	染付	長頸瓶	Aトレンチ	-	-	-	(3.1)	14c後半	Ⅰ	11	11	被熱
91	9	32	染付	皿	Cトレンチ	-	-	-	(1.9)	15c後半～16c中	Ⅰ	12	5	
91	10	32	染付	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.7)	15c後半～16c中	Ⅰ	12	4	
91	11	32	染付	皿	Aトレンチ	-	-	-	(1.8)	15c後半～16c中	Ⅰ	11	12	
91	12	32	染付	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.9)	15c後半～16c中	Ⅰ	12	7	被熱
91	13	32	染付	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.0)	15c後半～16c中	Ⅰ	11	13	
91	14	32	染付	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.8)	15c後半～16c中	Ⅰ	12	2	被熱
91	15	32	染付	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.1)	15c後半～16c中	Ⅰ	12	9	
91	16	32	染付	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.4)	15c後半～16c中	Ⅰ	11	15	
91	17	32	染付	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.1)	15c後半～16c中	Ⅰ	11	16	
91	18	32	染付	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.1)	15c後半～16c中	Ⅰ	11	17	
91	19	32	染付	皿	Aトレンチ	-	-	-	(1.6)	15c後半～16c中	Ⅰ	12	8	
91	20	32	染付	皿	Aトレンチ	-	-	-	(1.2)	15c後半～16c中	Ⅰ	12	1	被熱
92	1	32	染付	碗	Aトレンチ	-	-	-	(1.6)	-	Ⅰ	12	3	
92	2	32	染付	碗	Aトレンチ	-	-	-	(1.9)	-	Ⅰ	12	6	
92	3	32	染付	碗	Aトレンチ	-	-	-	(2.9)	15c前半～15c中	Ⅰ	12	10	
92	4	32	染付	碗	Aトレンチ	-	-	6.0	(2.0)	15c前半～15c中	Ⅰ	11	14	
92	5	32	染付	碗	Bトレンチ	-	-	6.1	(2.7)	15c後半～16c中	Ⅰ	12	11	
93	1	32	瀬戸美濃	豆皿	Cトレンチ	-	5.2	3.3	1.6	15c後半～16c前半	Ⅰ	13	1	被熱
93	2	32	瀬戸美濃	皿	表採	-	(11.3)	(6.8)	2.7	16c中	Ⅰ	13	14	
93	3	32	瀬戸美濃	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.7)	16c中	Ⅰ	13	2	
93	4	32	瀬戸美濃	皿	Bトレンチ	-	-	-	(2.3)	16c中	Ⅰ	13	3	
93	5	32	瀬戸美濃	皿	Bトレンチ	-	-	-	(2.2)	16c中	Ⅰ	13	4	
93	6	32	瀬戸美濃	皿	Aトレンチ	-	-	-	(2.2)	16c中	Ⅰ	13	5	
93	7	32	瀬戸美濃	皿	Aトレンチ	-	-	-	(2.1)	16c中	Ⅰ	13	6	
93	8	32	瀬戸美濃	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.6)	15c後半～16c前半	Ⅰ	13	7	
93	9	32	瀬戸美濃	皿	Bトレンチ	-	-	-	(2.6)	15c後半～16c前半	Ⅰ	13	8	
93	10	32	瀬戸美濃	皿	Aトレンチ	-	-	-	(1.7)	15c後半～16c前半	Ⅰ	13	9	
93	11	32	瀬戸美濃	皿	Aトレンチ	-	-	-	(1.2)	-	Ⅰ	13	18	
93	12	32	瀬戸美濃	皿	Bトレンチ	-	-	-	(2.9)	16c中	Ⅰ	13	10	
93	13	32	瀬戸美濃	皿	Bトレンチ	-	-	-	(2.8)	15c後半～16c前半	Ⅰ	13	11	
93	14	32	瀬戸美濃	皿	Bトレンチ	-	-	(5.2)	(1.5)	-	Ⅰ	13	15	

第28表　曲輪13･14･15-1･15-2･16（Ｈ７年度調査）出土遺物観察表②

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
93	15	32	瀬戸美濃	皿	Bトレンチ	-	-	(4.6)	(1.9)	15c後半～16c前半	I	13	19	被熱
93	16	32	瀬戸美濃	皿	Aトレンチ	-	-	-	(0.8)	-	I	13	12	
93	17	32	瀬戸美濃	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.2)	-	I	13	16	
93	18	32	瀬戸美濃	皿	Bトレンチ	-	-	-	(1.8)	-	I	13	13	
93	19	32	瀬戸美濃	皿	Bトレンチ	-	-	5.4	(1.1)	15c後半～16c前半	I	13	17	
93	20	32	瀬戸美濃（天目）	小碗	Aトレンチ	-	-	-	(2.8)	-	I	13	20	
93	21	32	越前	すり鉢	Cトレンチ	-	-	-	(8.6)	16C中	I	14	6	
93	22	32	越前	すり鉢	Bトレンチ	-	-	-	(4.3)	-	I	14	3	被熱
93	23	32	越前	すり鉢	Bトレンチ	-	-	-	(4.4)	-	I	14	4	
93	24	32	越前	すり鉢	Bトレンチ	-	-	-	(6.3)	-	I	14	5	
94	1	32	珠洲系	すり鉢	Aトレンチ	-	-	-	(3.6)	-	I	14	1	
94	2	32	珠洲系	甕	Bトレンチ	-	-	-	(4.3)	-	I	14	2	
94	3	32	近世陶磁器	皿	Bトレンチ	-	(10.4)	-	(2.1)	近世	I	13	21	
94	4	32	近世陶磁器	皿	Aトレンチ	-	-	(4.8)	(1.7)	近世	I	13	22	
94	5	32	近世陶磁器	鉢	Bトレンチ	-	-	-	(1.9)	近世	I	13	23	
94	6	32	近世陶磁器	碗	Bトレンチ	-	-	-	(4.2)	近世	I	13	24	
94	7	32	近世陶磁器	白磁皿	Bトレンチ	-	-	-	(2.6)	近世	I	13	25	
94	8	32	近世陶磁器	白磁皿	Aトレンチ	-	-	-	(1.8)	近世	I	13	26	
94	9	32	近世陶磁器	染付碗	Aトレンチ	-	-	-	(3.9)	近世	I	13	28	
94	10	32	近世陶磁器	染付碗	Bトレンチ	-	-	-	(2.9)	近世	I	13	27	
94	11	32	近世陶磁器	すり鉢	Cトレンチ	-	-	-	(7.6)	近世	I	14	7	
94	12	32	瓦質土器	火鉢	Bトレンチ	-	-	-	(4.1)	-	I	14	8	煤付着
94	13	32	瓦質土器	火鉢	Aトレンチ	-	-	-	(3.1)	-	I	14	9	脚部
95	5	32	縄文土器	深鉢	Bトレンチ	-	-	-	(3.8)	-	I	16	1	

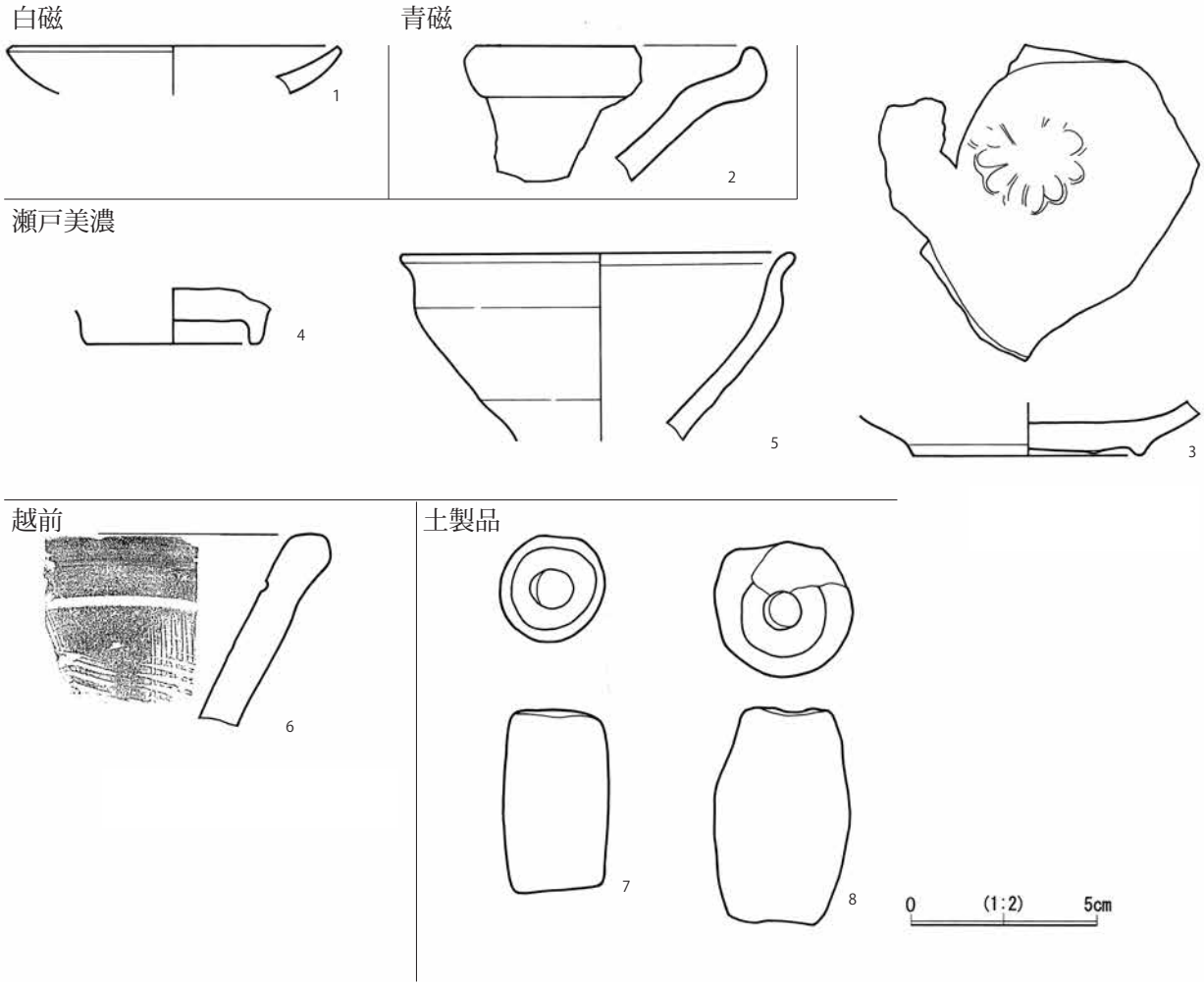
■石製品・土製品・金属製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
94	14	32	石製品	茶臼	Cトレンチ	-	-	(21.2)	(器高)(6.0)	-	I	14	11	安山岩製・下臼
94	15	32	土製品	土錘	Cトレンチ	-	(3.0)	(最大幅)4.2	-	-	I	14	10	
95	1	32	金属製品	刀子	-	-	21.2	1.5	0.3	-	I	15	2	鉄製
95	2	32	金属製品	六器	Cトレンチ	-	(口径)6.9	(底径)4.7	(器高)1.8	-	I	15	1	銅製
95	3	32	銭貨	-	Bトレンチ	-	-	-	-	-	I	15	3	永楽銭
95	4	32	銭貨	-	Bトレンチ	-	1.9	-	-	-	I	15	4	無文銭
95	6	32	石製品	石匙	Aトレンチ	-	4.7	4.0	1.1	-	I	16	2	珪質頁岩製
95	7	32	石製品	石箆	Bトレンチ	-	8.4	3.5	1.8	-	I	16	3	珪質頁岩製

のため図示していないが、４層内より瀬戸美濃の天目茶碗の破片１点が出土している。また盛土と地山の間にはほぼ水平な堆積を示す旧表土(14層)が確認された。12トレンチの４層の盛土上面から検出された炭化物について放射性炭素年代測定を実施した。その結果、15世紀末～ 16世紀初頭(calAD 1,495 ～ calAD1,528)の年代が示された。

【13・14トレンチ】

13トレンチは曲輪13と曲輪14を区画する小規模な土塁の内、門跡と推定される途切れ部より南側に、土塁を一部包括する形で南北2.5m×東西２mで設定した。14トレンチは途切れ部より北側に、曲輪14の平坦面と土塁を包括するように南北１m×東西２mで設定した。遺構確認面は土塁に該当する部分で盛土が確認され、平坦部は地山土であった。14トレンチの土層観察では、切土によって造成された曲輪14の地山直上から４・５層の盛土を行って土塁を構築していた。そのため曲輪造成時期と小規模土塁構築時期が同一であると判断した。削平や崩落の可能性があるが、残存盛土の範囲から小規模土塁の高さは30cmであった。14トレンチの４層の盛土上面から検出された炭化物２点について放射性炭素年代測定を実施した。その結果、16世紀初頭～ 17世紀中頃(calAD 1,515 ～ calAD1,635、calAD 1,522 ～ calAD1,646)の年代が示された。



第96図　曲輪13･14･15-1･15-2･16(第18次調査)出土遺物①

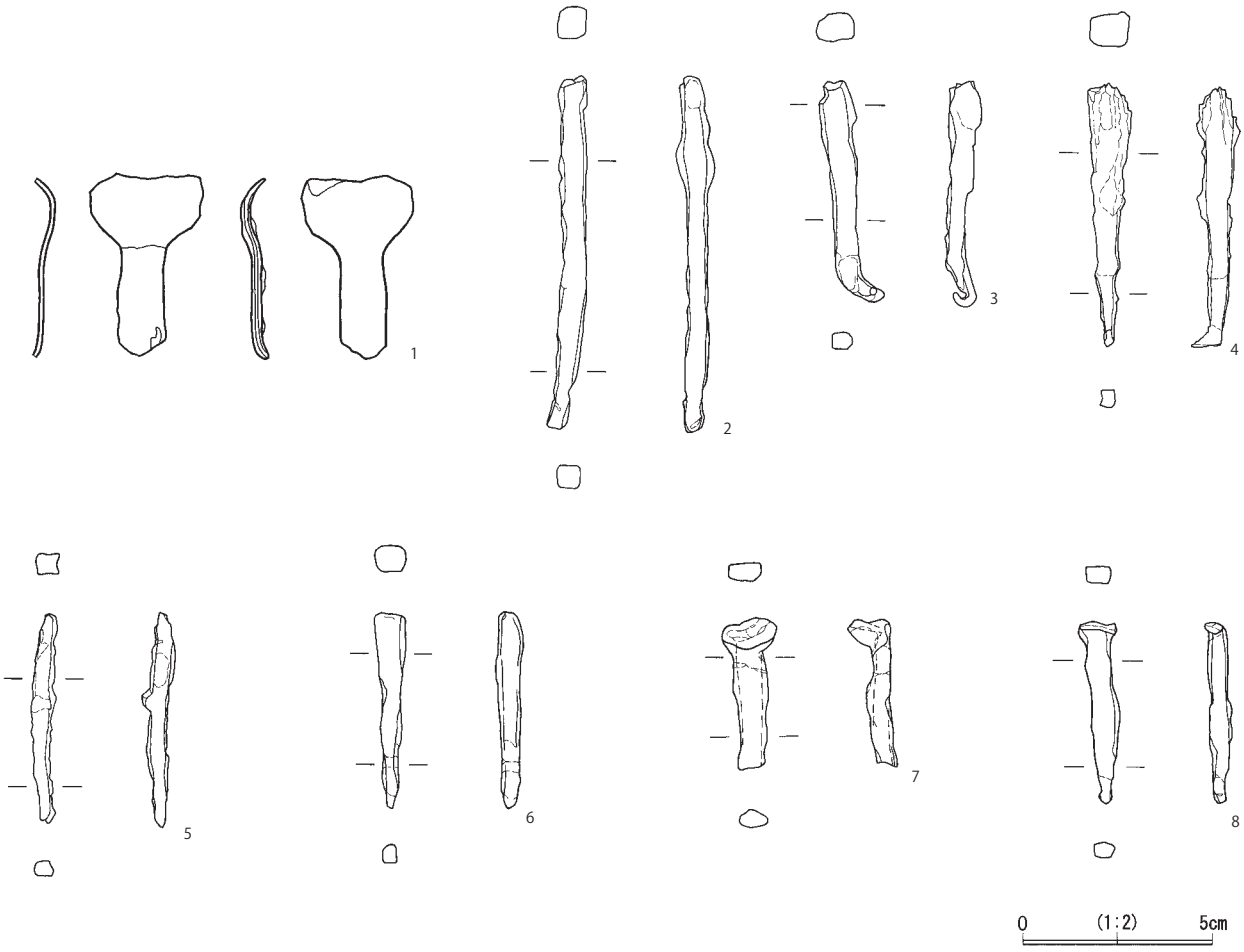
【15・16トレンチ】

15トレンチは曲輪13東側に張り出す２段の小規模平坦面の内、曲輪14部側の上段部に南北３ｍ×東西７ｍで設定し、16トレンチは下段に南北２ｍ×東西7.5mで設定した。遺構確認面はいずれも整地層及び地山土であった。

18SA17塀跡（第82・89図）

２～４トレンチの曲輪15－１東端部で検出された。Ｐ１～Ｐ６の柱穴とそれらを連結する溝跡で構成される。２トレンチ北側と３トレンチ南側で途切れるが、一連の遺構と判断している。Ｐ３とＰ５は遺構を保護するため未調査である。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表へ記載したが、柱穴を結ぶ溝跡は幅40cm、深さ12cmである。各柱穴の柱間は柱痕跡が確認できなかったため、柱穴中心部を通る同一直線上を引くと、ややばらつきはあるものの、１ｍ～1.2m間隔で掘り込まれ、ほぼ３尺９寸（１尺=0.303m換算)の柱間となる。また２トレンチ18SA17北端から３トレンチＰ１南端まで2.32mあり、塀に伴う入口部、同時に18SKP15・18SKP64・18SKP75を伴った門跡の可能性が考えられる。本遺構は、曲輪15－１の縁辺に位置し、本遺構を境に1.2mほど緩やかに傾斜する。これらの点から曲輪を区画するための塀跡であると判断した。

金属製品



銭貨

第97図　曲輪13･14･15-1･15-2･16(第18次調査)出土遺物②

18SA20・21塀跡（第85図）

８トレンチ西側から平行に２条検出された。いずれも盛土を掘り込んで作られている。18SA20塀跡は幅52cmで深さ50cmである。18SA20塀跡からは柱痕跡が確認され、板材及び柱材の構築物があったことが想定される。18SA21塀跡は新旧の重複が確認され、西側から東側に１度作り変えられている。古18SA21は幅40cm以上で深さ55cm、新18SA21は幅40cm、深さ50cmである。

18SA85塀跡（第86図）

12トレンチ内で検出された盛土が高まる頂部で検出された。幅34cm、深さ15cmの溝跡である。土塁

第29表　曲輪13･14･15-1･15-2･16（第18次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
10	8	8	1	37	7	2	1	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	24	漆1

第30表　曲輪13･14･15-1･15-2･16（第18次調査）出土遺物観察表

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
96	1	33	白磁	皿	6トレンチ	-	(9.0)	-	(1.2)	15c後半～16c	Ⅵ	50	1	
96	2	33	青磁	盤	5トレンチ	-	-	-	(3.6)	-	Ⅵ	50	2	
96	3	33	瀬戸美濃	皿	6トレンチ	-	-	6.2	(1.4)	16c中	Ⅵ	50	3	
96	4	33	瀬戸美濃	碗	5トレンチ	-	-	(4.6)	(1.5)	-	Ⅵ	50	4	被熱
96	5	33	瀬戸美濃(天目)	茶碗	5トレンチ	-	(10.1)	-	(5.0)	-	Ⅵ	50	5	被熱
96	6	33	越前	すり鉢	8トレンチ	-	-	-	(5.1)	-	Ⅵ	50	6	

■土製品・金属製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
96	7	33	土製品	土錘	8トレンチ	-	4.9	最大幅2.8	-	-	Ⅵ	50	7	
96	8	33	土製品	土錘	15トレンチ	-	5.8	最大幅3.7	-	-	Ⅵ	50	8	
97	1	33	金属製品	足金物	4トレンチ	-	(4.8)	(3.0)	-	-	Ⅵ	50	9	銅製
97	2	33	金属製品	和釘	6トレンチ	-	9.2	0.7	0.5	-	-	-	-	鉄製
97	3	33	金属製品	不明	8トレンチ	-	5.9	0.9	0.9	-	-	-	-	鉄製
97	4	33	金属製品	不明	6トレンチ	-	6.9	1.0	0.8	-	-	-	-	鉄製
97	5	33	金属製品	和釘	6トレンチ	-	5.5	0.6	0.6	-	-	-	-	鉄製
97	6	33	金属製品	和釘	5トレンチ	-	5.1	0.7	0.6	-	-	-	-	鉄製
97	7	33	金属製品	和釘	8トレンチ	-	3.9	0.8	0.5	-	-	-	-	鉄製
97	8	33	金属製品	和釘	15トレンチ	-	4.8	0.7	0.6	-	-	-	-	鉄製
97	9	33	銭貨	-	6トレンチ	-	2.4	-	-	-	-	-	-	銭名不明
97	10	33	銭貨	-	6トレンチ	-	2.4	-	-	-	-	-	-	政和通宝

頂部に土塁と平行に検出された溝跡であるため、塀跡と判断した。

18SKP77・18SKP78（第88図）

15トレンチ西側で検出された。18SKP77は径46cm、深さ10cm、18SKP78は径56cm、深さ６cmである。両遺構とも柱痕跡は検出されていないが、柱穴跡中央部で計測した柱間は2.75mである。しかし、18SKP77北端と18SKP78南端では2.25mとなる。２～４トレンチで検出された18SA17の途切れ部と近似しており、同時に13トレンチのある小規模土塁の推定門跡の途切れ部と同規模で、ほぼ真東に位置するため門を構成する柱穴の可能性がある。しかし、門に伴う通路など不明確な点が多いため、現段階では２基の柱穴として報告する。

③出土遺物（第90～97図）

遺物は平成７年度調査、第18次調査合わせて312点出土している（その他を含めない）。点数は接合後の破片数である。中世陶磁器は218点出土し、貿易陶磁器が120点（55.0%）、国産陶器98点（45.0%）である。

陶磁器の年代については、平成７年度調査で出土した元代染付の長頸瓶の破片１点が14世紀後半代を示す。（第91図－８）。白磁や青磁は15世紀後半～16世紀前半代、染付は16世紀中から後半代のものが主体である。瀬戸美濃は大窯第１段階～第２段階の15世紀後半から16世紀中のものが多く見られる。

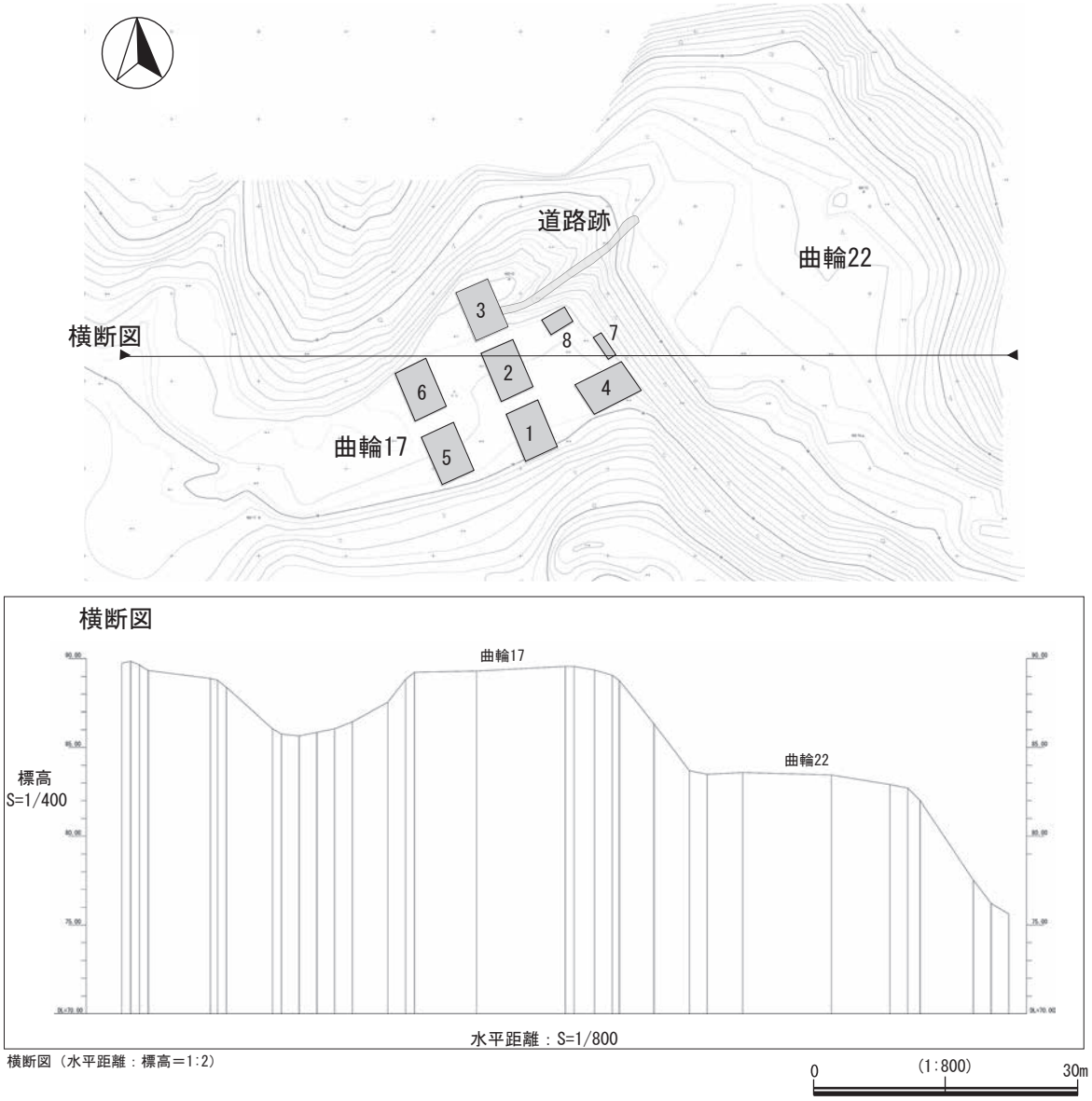
（５）曲輪17（第19次調査）

①曲輪17の立地と概要

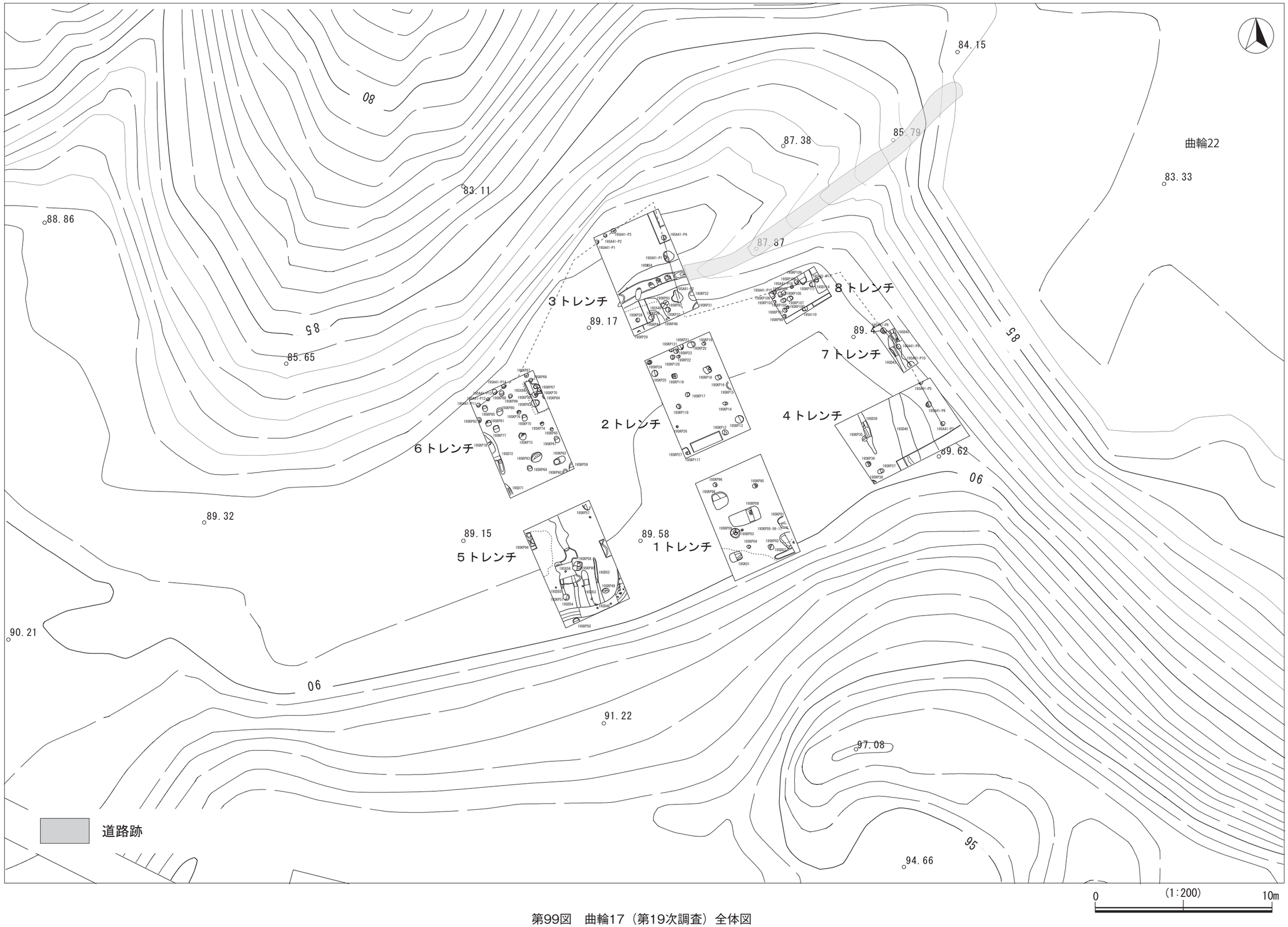
曲輪17は内館地区北側中央部に位置する標高約89.5mの曲輪である。南側に位置する曲輪16と高低差約４mの急斜面で隣接している。さらに北東側に比較的良好な平坦地が残存しており、曲輪17と切り通し状の道路跡で結ばれている。本調査に伴って全面的に環境整備を実施し、以上の点を考慮して曲輪であると判断するに至った。内館地区の曲輪の番号の付与基準（男鹿市教育委員会2010）にしたがって、曲輪22として位置付けた。両曲輪の標高差は約６mである。

②検出遺構

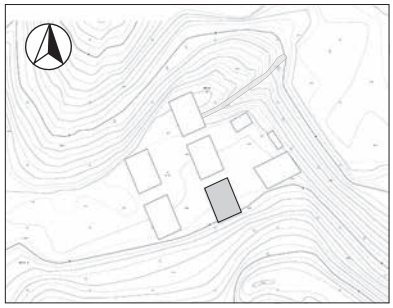
曲輪17の調査では任意の大きさのトレンチ８か所を設定して行い、その結果、総計で柱穴列・塀・柵跡３条、道路跡１条、溝跡13条、土坑４基、柱穴跡92基、不明遺構２基、盛土跡２か所、整地跡４か所が検出された。



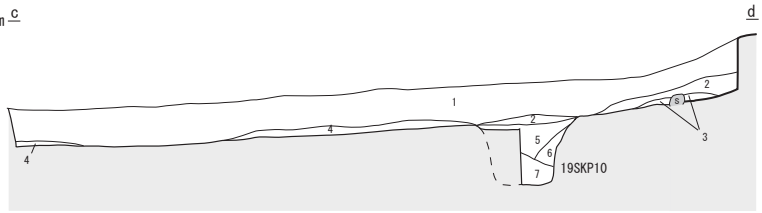
第98図　曲輪17（第19次調査）トレンチ配置図と周辺地形横断図

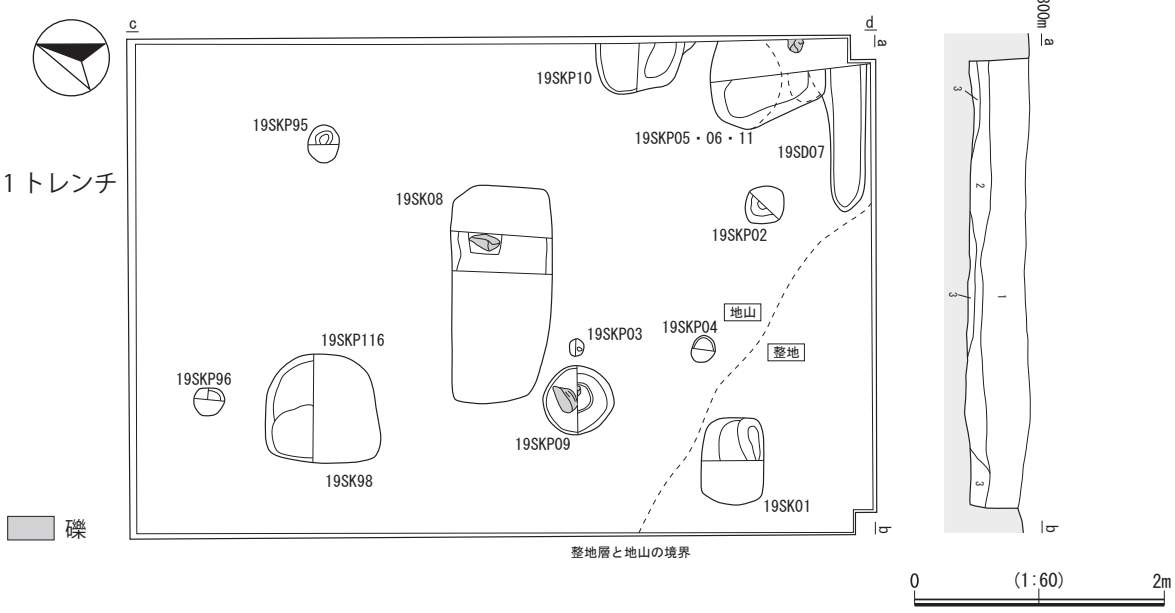


第99図　曲輪17（第19次調査）全体図



1トレンチ a-b／c-d土層注記
1. 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 地山土粒子少量 炭化物微量 植物の根が多くボソボソしている［表土］
2. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物少量 鉄分微量［崩落土］
3. にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト しまりやや強 地山土小ブロック多量 炭化物･鉄分少量［崩落土］
4. 黄褐色（10YR5/6）シルト しまりやや強 地山土小ブロック多量 炭化物微量 鉄分少量 1層土小ブロック中量［地山漸移層］
5. 暗褐色（10YR3/4）シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物少量 鉄分微量［19SKP10］
6. 褐色（10YR4/6）シルト しまりやや強 地山土粒子少量 炭化物･鉄分微量［19SKP10］
7. 灰黄褐色（10YR4/2）シルト～粘土 しまりやや強 地山土小ブロック 炭化物少量［19SKP10］





第100図　１トレンチ平面図・断面図

各トレンチについて

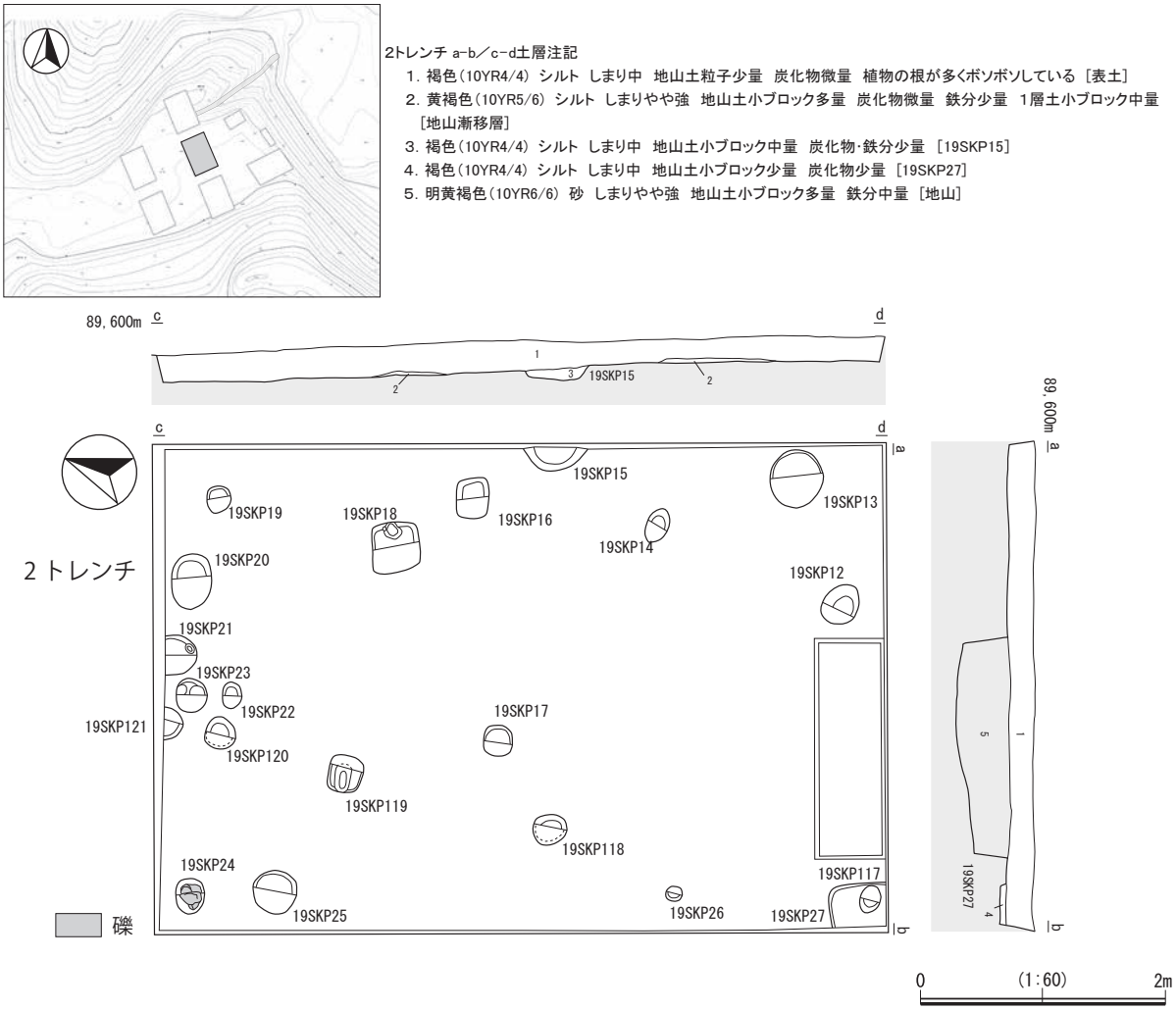
【１トレンチ】

曲輪内の遺構確認及び南側斜面造成の方法を明らかにすることを目的として、曲輪中央部の南側斜面端部に、南北６ｍ×東西４ｍで設定した。遺構確認面はトレンチ南西側で整地層が確認されたが、大半は地山土であった。遺物は、いずれも表土内からの出土がほとんどであったが、特に１トレンチ南側の斜面裾部からの出土が多かった。そのため上段に位置する曲輪16から転落したものも多いと考えられる。

【２トレンチ】

曲輪内の遺構確認を目的に曲輪中央部に、南北６ｍ×東西４ｍで設定した。遺構確認面は全面地山土であった。

【３トレンチ】

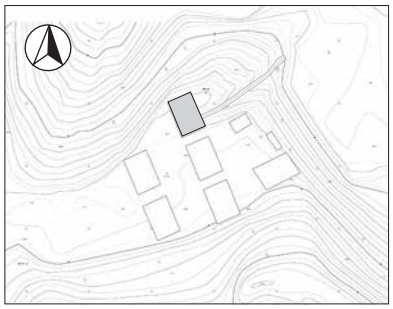


第101図　２トレンチ平面図・断面図

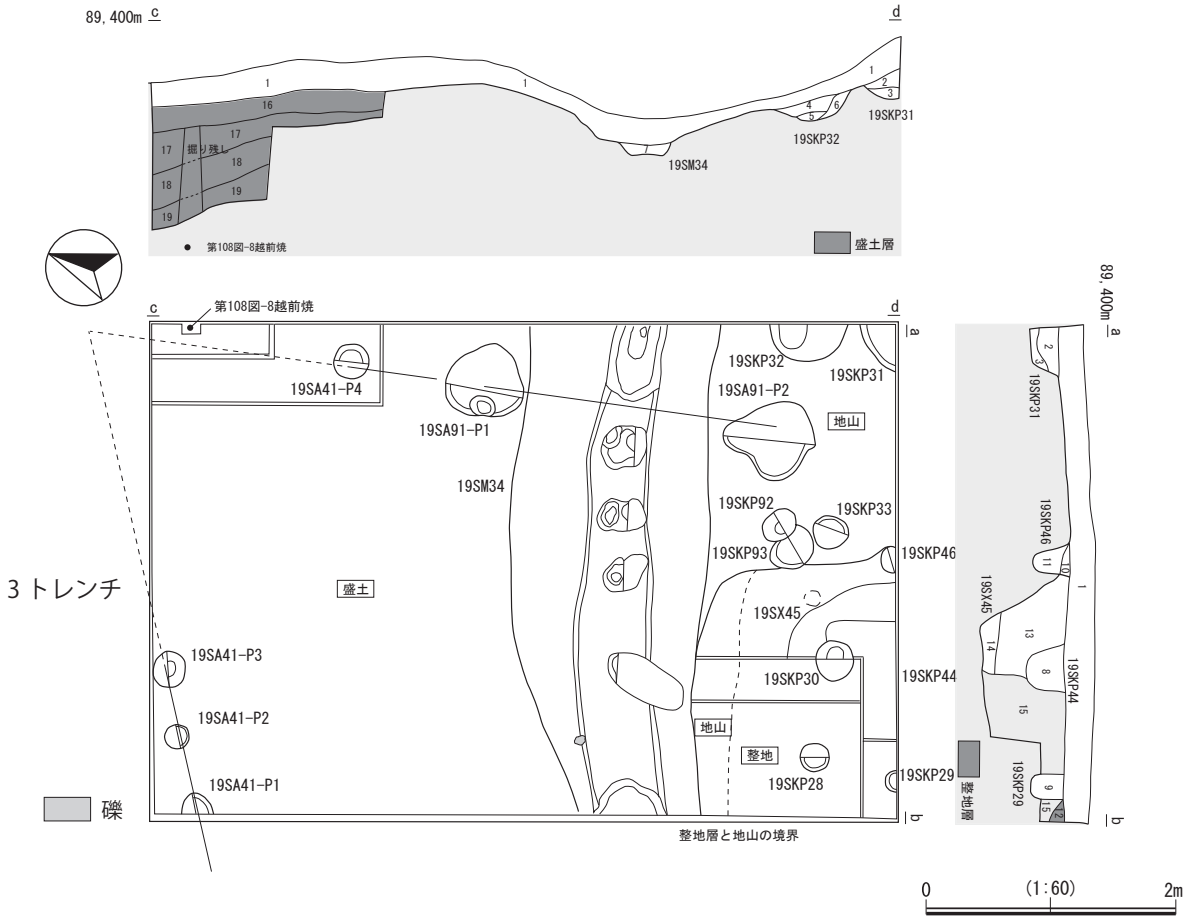
曲輪北東に位置する道路跡と曲輪北端の遺構を確認することを目的に、南北６ｍ×東西４ｍで設定した。道路跡は現況地形でも切り通し状の道路として明確に確認でき、現況での上端幅は3.3mである。遺構確認面は道路跡を挟んで南側が地山土であるが、南西隅では一部に整地層が確認されている。さらに道路跡の北側は全面盛土となっていた。この盛土は、トレンチ北東部のサブトレンチで深さは80cm以上にわたる。地山土のブロックを多く含み､互層状の堆積を示す。さらに盛土内からは越前すり鉢片（第108図－８）が出土した。

【４・７・８トレンチ】

曲輪縁辺部の遺構確認を目的に曲輪東側端部に設定した。４トレンチは曲輪南東隅に南北４ｍ×東西６ｍとした。４トレンチ内で19SA41が検出されたため、その柵跡の広がりを明確にするため、隣接して７トレンチを南北３ｍ×東西１ｍで設定した。８トレンチは、道路跡の南側立ち上がり部と曲輪端部を兼ねた位置に南北２ｍ×東西３ｍで設定した。遺構確認面は４・７トレンチで全面地山土であり、８トレンチは盛土であった。盛土部分にサブトレンチを設定して堆積状況を確認した。盛土は暗褐色とにぶい黄褐色土で構成され、約30cm堆積していた。盛土下には自然堆積の黒色土が堆積していた。黒色



3トレンチ a-b／c-d土層注記
1. 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 地山土粒子少量 炭化物微量 植物の根が多くボソボソしている［表土］
2. 暗褐色（10YR3/3）シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物･鉄分微量［19SKP31］
3. 褐色（10YR4/4）シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 炭化物微量［19SKP31］
4. 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 地山土粒子少量 炭化物微量［19SKP32］
5. 灰黄褐色（10YR5/2）シルト しまりやや強 4層粒子少量 鉄分中量［19SKP32］
6. 褐色（10YR4/6）シルト しまりやや強 地山土小ブロック多量 鉄分少量［19SKP32］
7. 灰黄褐色（10YR5/2）シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量［19SM34］
8. にぶい黄褐色(10YR4/3）シルト しまりやや強 地山土小ブロック･炭化物中量 鉄分少量［19SKP44］
9. 褐色（10YR4/4）シルト しまりやや弱 地山土小ブロック少量 炭化物･鉄分微量［19SKP29］
10. 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 地山土小ブロック少量 炭化物多量 鉄分微量［19SKP46］
11. 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 地山土小ブロック少量 炭化物微量［19SKP46］
12. 褐色（10YR4/4）シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 炭化物少量［整地層］
13. 黒褐色（10YR2/3）シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物･鉄分微量［19SX45］
14. 黒褐色（10YR2/3）シルト しまりやや強 地山土小ブロック微量 地山土粒子少量 炭化物微量［19SX45］
15. 黄褐色（10YR5/8）シルト［地山］
16. 褐色（10YR4/4）シルト しまりやや強 地山土小ブロック多量 炭化物少量［盛土］
17. 黒褐色（10YR3/2）シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 炭化物少量［盛土］
18. 暗褐色（10YR3/4）シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 炭化物少量［盛土］
19. にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト しまりやや強 地山土小ブロック多量 炭化物･鉄分少量［盛土］

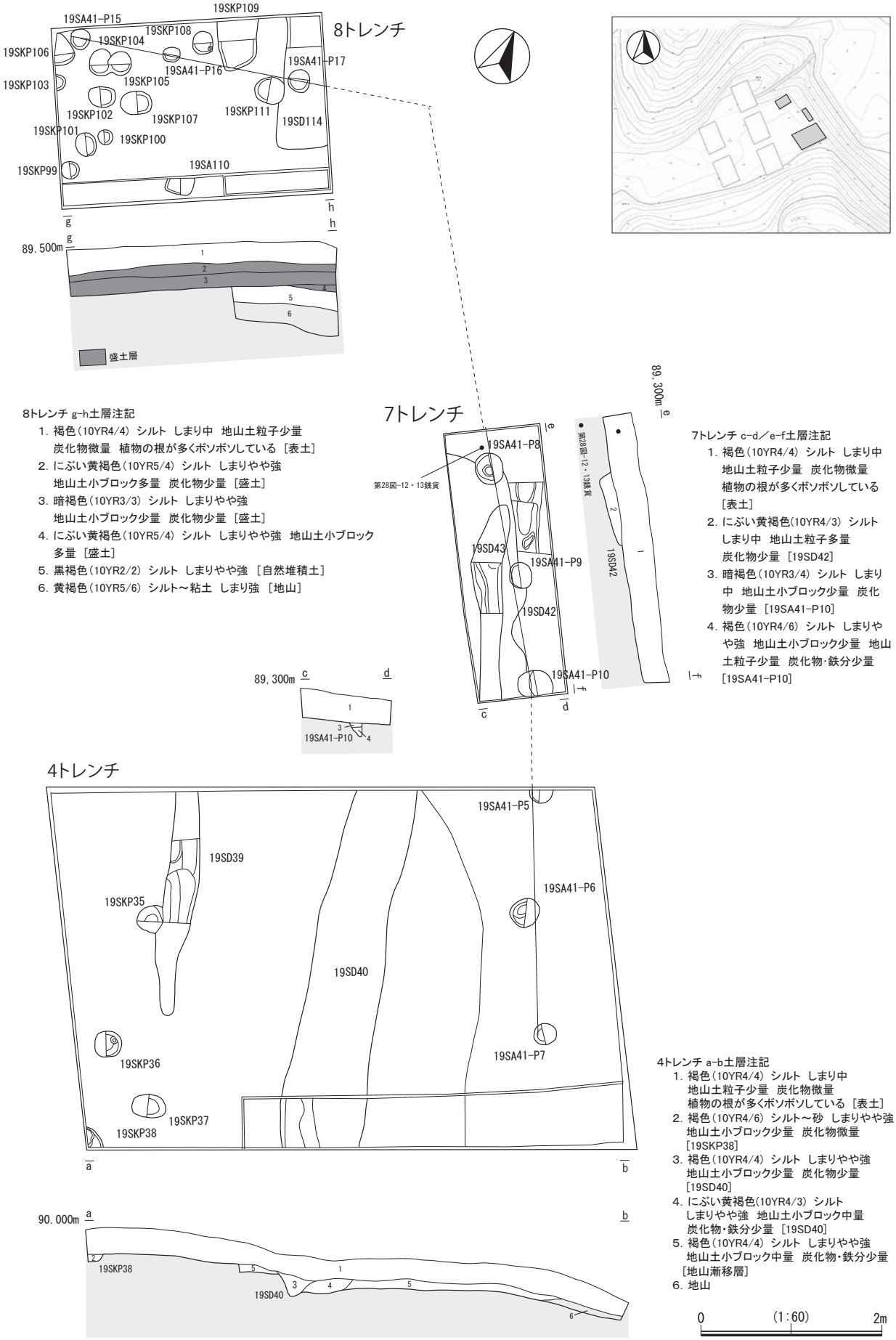


第102図　３トレンチ平面図・断面図

土は19cmほどであり、さらにその下部には地山土となっている。盛土の３層内から炭化物を２点採取し、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、16世紀初頭前後～ 17世紀前半(calAD 1,516 ～ calAD1,635、calAD 1,491 ～ calAD1,631)の年代が示された。

【５トレンチ】

曲輪内及び縁辺の遺構確認を目的に曲輪中央部やや西側に、南北６ｍ×東西４ｍで設定した。遺構確



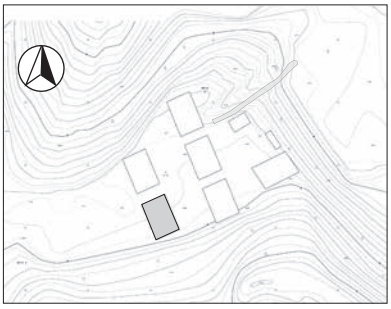
8トレンチ g-h土層注記
1. 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 地山土粒子少量 炭化物微量 植物の根が多くボソボソしている［表土］
2. にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト しまりやや強 地山土小ブロック多量 炭化物少量［盛土］
3. 暗褐色（10YR3/3）シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物少量［盛土］
4. にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト しまりやや強 地山土小ブロック多量［盛土］
5. 黒褐色（10YR2/2）シルト しまりやや強［自然堆積土］
6. 黄褐色（10YR5/6）シルト～粘土 しまり強［地山］

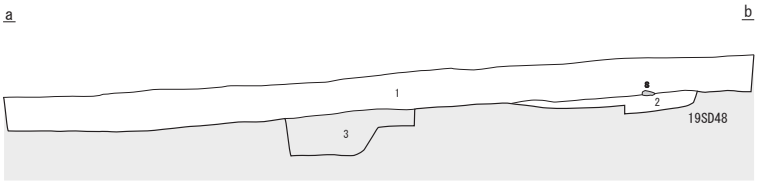
7トレンチ c-d／e-f土層注記
1. 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 地山土粒子少量 炭化物微量 植物の根が多くボソボソしている［表土］
2. にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト しまり中 地山土粒子多量 炭化物少量［19SD42］
3. 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中 地山土小ブロック少量 炭化物少量［19SA41-P10］
4. 褐色（10YR4/6）シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 地山土粒子少量 炭化物・鉄分少量［19SA41-P10］

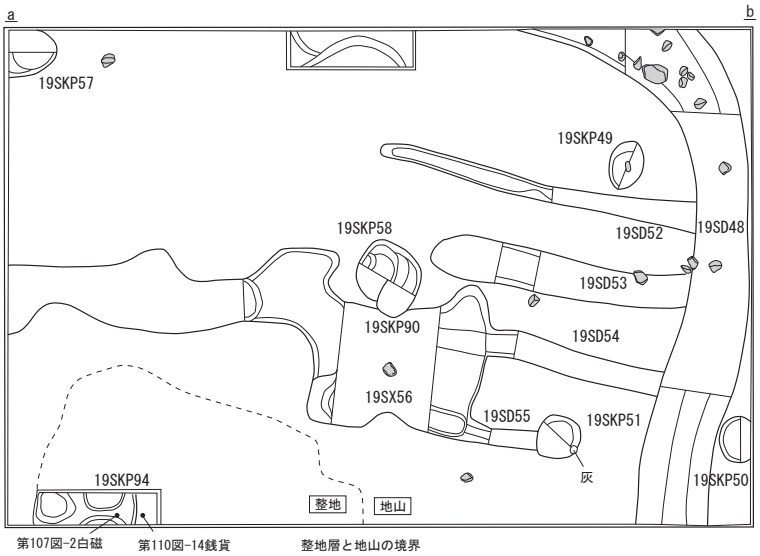
4トレンチ a-b土層注記
1. 褐色（10YR4/4）シルト しまり中 地山土粒子少量 炭化物微量 植物の根が多くボソボソしている［表土］
2. 褐色（10YR4/6）シルト～砂 しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物微量［19SKP38］
3. 褐色（10YR4/4）シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物少量［19SD40］
4. にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 炭化物・鉄分少量［19SD40］
5. 褐色（10YR4/4）シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 炭化物・鉄分少量［地山漸移層］
6. 地山

0 (1:60) 2m

第103図　4・7・8トレンチ平面図・断面図







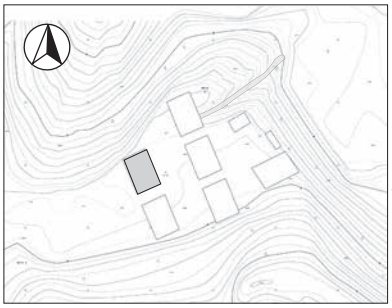
5 トレンチ

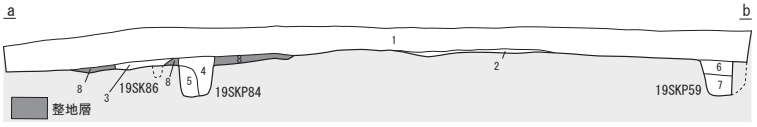
5トレンチ a-b土層注記

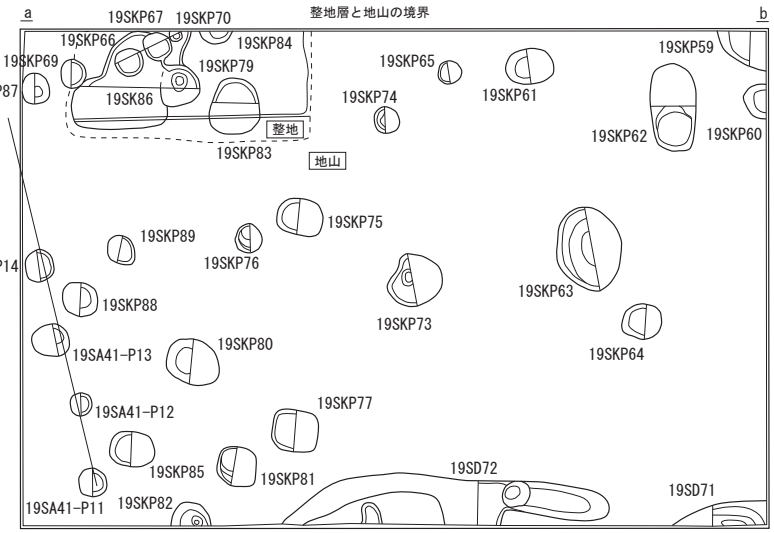
1. 褐色（10YR4/4）シルト しまり中　地山土粒子少量　炭化物微量　植物の根が多くボソボソしている［表土］
2. 暗褐色（10YR3/4）シルト しまり中　地山土小ブロック少量　炭化物少量［19SD48］
3. 黄褐色（10YR5/6）砂 しまりやや強［地山］

0　(1:60)　2m

礫







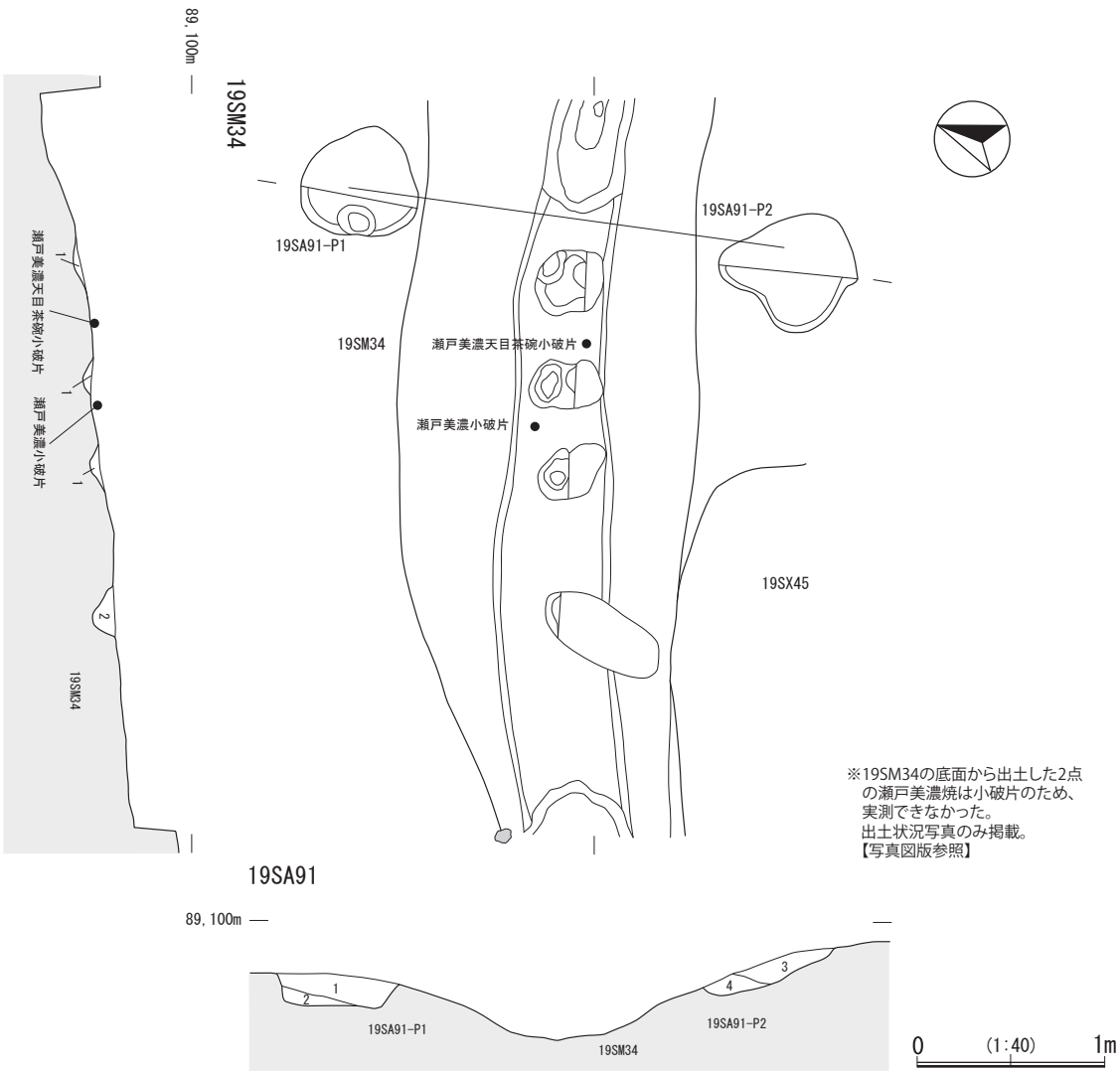
6 トレンチ

6トレンチ a-b土層注記

1. 褐色（10YR4/4）シルト しまり中　地山土粒子少量　炭化物微量　植物の根が多くボソボソしている［表土］
2. 黄褐色（10YR5/6）シルト しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物微量　鉄分少量　1層土小ブロック中量　［地山漸移層］
3. 暗褐色（10YR3/3）シルト しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物少量［19SK86］
4. 褐色（10YR4/4）シルト しまり中　地山土小ブロック中量　炭化物少量［19SKP84］
5. にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト しまり中　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量［19SKP84］
6. にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト～砂 しまりやや弱　地山土粒子少量　炭化物少量［19SKP59］
7. にぶい黄褐色（10YR5/4）砂 しまり中　地山土粒子少量　炭化物少量［19SKP59］
8. 褐色（10YR4/4）シルト しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物少量［整地層］

0　(1:60)　2m

第104図　5・6トレンチ平面図・断面図



■19SM34
1. 灰黄褐色（10YR5/2）シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 ［19SM34］
2. 褐色（10YR4/4）シルトしまりやや強 地山土小ブロック少量 ［19SM34］

■19SA91
1. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまりやや強 地山土小ブロック多量 炭化物少量 ［SA91-P1］
2. 褐色（10YR4/4）シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物・鉄分微量 ［SA91-P1］
3. にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト しまりやや強 地山土小ブロック多量 炭化物・鉄分微量 ［SA91-P2］
4. にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 炭化物・鉄分微量 ［SA91-P2］

第105図　19SM34・19SA91

認面はトレンチ北西部で一部整地層となる以外は地山土であった。

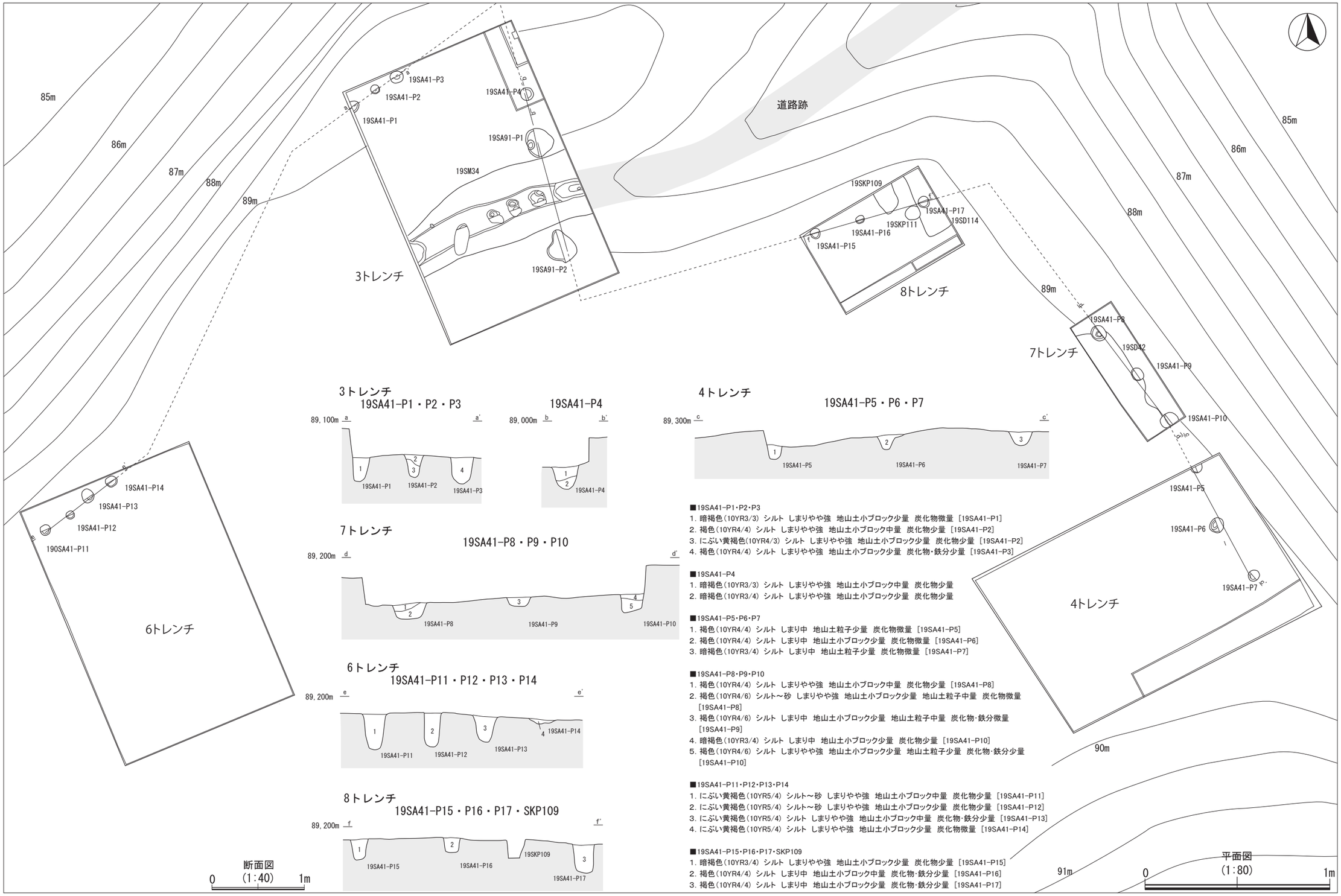
【６トレンチ】

曲輪内の遺構確認を目的に曲輪中央部やや西側に、南北６ｍ×東西４ｍで設定した。遺構確認面はトレンチ北東部で一部整地層となる以外は地山土であった。

19SKP96柱穴跡（第100図）

１トレンチ北側で検出された長径26cm、短径22cm、深さ35.9cmの柱穴跡である。確認面より約16cm下から青磁碗の破片（第107図－７）が出土した。

19SKP12柱穴跡（第101図）



■19SA41-P1・P2・P3
1. 暗褐色(10YR3/3) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物微量 [19SA41-P1]
2. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 炭化物少量 [19SA41-P2]
3. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物少量 [19SA41-P2]
4. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物・鉄分少量 [19SA41-P3]

■19SA41-P4
1. 暗褐色(10YR3/3) シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 炭化物少量
2. 暗褐色(10YR3/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物少量

■19SA41-P5・P6・P7
1. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 地山土粒子少量 炭化物微量 [19SA41-P5]
2. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 地山土小ブロック少量 炭化物微量 [19SA41-P6]
3. 暗褐色(10YR3/4) シルト しまり中 地山土粒子少量 炭化物微量 [19SA41-P7]

■19SA41-P8・P9・P10
1. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 炭化物少量 [19SA41-P8]
2. 褐色(10YR4/6) シルト～砂 しまりやや強 地山土小ブロック少量 地山土粒子中量 炭化物微量 [19SA41-P8]
3. 褐色(10YR4/6) シルト しまり中 地山土小ブロック少量 地山土粒子中量 炭化物・鉄分微量 [19SA41-P9]
4. 暗褐色(10YR3/4) シルト しまり中 地山土小ブロック少量 炭化物少量 [19SA41-P10]
5. 褐色(10YR4/6) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 地山土粒子少量 炭化物・鉄分少量 [19SA41-P10]

■19SA41-P11・P12・P13・P14
1. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト～砂 しまりやや強 地山土小ブロック中量 炭化物少量 [19SA41-P11]
2. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト～砂 しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物少量 [19SA41-P12]
3. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 炭化物・鉄分少量 [19SA41-P13]
4. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物微量 [19SA41-P14]

■19SA41-P15・P16・P17・SKP109
1. 暗褐色(10YR3/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物少量 [19SA41-P15]
2. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 地山土小ブロック中量 炭化物・鉄分少量 [19SA41-P16]
3. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 地山土小ブロック少量 炭化物・鉄分少量 [19SA41-P17]

第106図　19SA41

第31表　曲輪17（第19次調査）遺構一覧表①

■柱穴列・塀・塀跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
19SA41-P1			28.8	30	27	-	Ⅶ	SA41-P1	
19SA41-P2		3トレンチ	23.3	20	20	-	Ⅶ	SA41-P2	
19SA41-P3			24.9	25	-	-	Ⅶ	SA41-P3	
19SA41-P4			27.3	28	27	-	Ⅶ	SA41-P4	
19SA41-P5			16.0	26	-	-	Ⅶ	SA41-P5	
19SA41-P6	第102図	4トレンチ	16.0	34	33	-	Ⅶ	SA41-P6	
19SA41-P7			15.0	26	24	-	Ⅶ	SA41-P7	
19SA41-P8	第103図		17.8	39	-	-	Ⅶ	SA41-P8	
19SA41-P9		7トレンチ	6.7	29	24	-	Ⅶ	SA41-P9	
19SA41-P10	第104図		15.8	36	30	-	Ⅶ	SA41-P10	
19SA41-P11			37.0	23	22	-	Ⅶ	SA41-P11	
19SA41-P12	第106図	6トレンチ	35.7	18	18	-	Ⅶ	SA41-P12	
19SA41-P13			26.0	30	26	-	Ⅶ	SA41-P13	
19SA41-P14			3.2	25	22	-	Ⅶ	SA41-P14	
19SA41-P15			21.3	25	22	-	Ⅶ	SA41-P15	
19SA41-P16		8トレンチ	14.3	19	17	-	Ⅶ	SA41-P16	
19SA41-P17			29.7	25	24	-	Ⅶ	SA41-P17	
19SA91-P1	第102図	3トレンチ	23.7	64	58	-	Ⅶ	SA91-P1	
19SA91-P2	第105図		16.5	74	65	-	Ⅶ	SA91-P2	
19SA110	第103図	8トレンチ	12.1	30	-	-	Ⅶ	SA110	

■道路跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
19SM34	第105図	3トレンチ	-	160	-	瀬戸美濃皿・碗小破片	Ⅶ	SM34	

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
19SD07	第100図	1トレンチ	10.4	28	-	-	Ⅶ	SD07	
19SD39	第103図	4トレンチ	23.7	36	-	-	Ⅶ	SD39	
19SD40	第103図	4トレンチ	15.7	57	-	-	Ⅶ	SD40	
19SD42	第103図	7トレンチ	19.2	39	-	-	Ⅶ	SD42	
19SD43	第103図	7トレンチ	17.0	35	-	-	Ⅶ	SD43	
19SD48	第104図	5トレンチ	12.8	144	41	-	Ⅶ	SD48	
19SD52	第104図	5トレンチ	2.7	13	-	-	Ⅶ	SD52	
19SD53	第104図	5トレンチ	7.3	34	-	-	Ⅶ	SD53	
19SD54	第104図	5トレンチ	8.9	23	-	-	Ⅶ	SD54	
19SD55	第104図	5トレンチ	3.9	19	-	-	Ⅶ	SD55	
19SD71	第104図	6トレンチ	26.2	-	-	-	Ⅶ	SD71	
19SD72	第104図	6トレンチ	3.8	26	-	-	Ⅶ	SD72	
19SD114	第103図	8トレンチ	18.8	40	-	-	Ⅶ	SD114	

■土坑

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
19SK01	第100図	1トレンチ	28.4	70	50	骨粉	Ⅶ	SK01	
19SK08	第100図	1トレンチ	24.0	174	81	-	Ⅶ	SK08	
19SK86	第104図	6トレンチ	20.5	76	41	-	Ⅶ	SK86	
19SK98	第100図	1トレンチ	55.9	92	67	-	Ⅶ	SK98	

■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
19SKP02	第100図	1トレンチ	20.7	31	29	-	Ⅶ	SKP02	
19SKP03	第100図	1トレンチ	15.2	14	12	-	Ⅶ	SKP03	
19SKP04	第100図	1トレンチ	20.7	31	29	-	Ⅶ	SKP04	
19SKP05	第100図	1トレンチ	21.0	-	-	-	Ⅶ	SKP05	
19SKP06	第100図	1トレンチ	18.0	52	-	-	Ⅶ	SKP06	
19SKP09	第100図	1トレンチ	20.4	57	56	-	Ⅶ	SKP09	
19SKP10	第100図	1トレンチ	45.2	80	-	-	Ⅶ	SKP10	
19SKP11	第100図	1トレンチ	32.9	-	-	-	Ⅶ	SKP11	
19SKP12	第101図	2トレンチ	37.5	35	28	珠洲系陶器甕小破片	Ⅶ	SKP12	
19SKP13	第101図	2トレンチ	10.9	48	42	-	Ⅶ	SKP13	
19SKP14	第101図	2トレンチ	88.7	30	19	-	Ⅶ	SKP14	
19SKP15	第101図	2トレンチ	6.9	52	-	-	Ⅶ	SKP15	
19SKP16	第101図	2トレンチ	25.4	33	27	-	Ⅶ	SKP16	
19SKP17	第101図	2トレンチ	10.9	48	42	-	Ⅶ	SKP17	

第32表　曲輪17（第19次調査）遺構一覧表②

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
19SKP18	第101図	2トレンチ	41.9	41	39	-	Ⅶ	SKP18	
19SKP19	第101図	2トレンチ	13.5	21	20	-	Ⅶ	SKP19	
19SKP20	第101図	2トレンチ	32.8	45	32	-	Ⅶ	SKP20	
19SKP21	第101図	2トレンチ	15.9	31	-	-	Ⅶ	SKP21	
19SKP22	第101図	2トレンチ	26.6	21	15	-	Ⅶ	SKP22	
19SKP23	第101図	2トレンチ	22.1	27	25	-	Ⅶ	SKP23	
19SKP24	第101図	2トレンチ	27.1	29	23	-	Ⅶ	SKP24	
19SKP25	第101図	2トレンチ	21.9	36	34	-	Ⅶ	SKP25	
19SKP26	第101図	2トレンチ	8.3	14	12	-	Ⅶ	SKP26	
19SKP27	第101図	2トレンチ	3.6	-	-	-	Ⅶ	SKP27	
19SKP28	第102図	3トレンチ	7.5	23	22	-	Ⅶ	SKP28	
19SKP29	第102図	3トレンチ	26.0	17	-	-	Ⅶ	SKP29	
19SKP30	第102図	3トレンチ	56.0	32	30	-	Ⅶ	SKP30	
19SKP31	第102図	3トレンチ	20.7	-	-	-	Ⅶ	SKP31	
19SKP32	第102図	3トレンチ	16.0	63	-	-	Ⅶ	SKP32	
19SKP33	第102図	3トレンチ	23.0	29	26	-	Ⅶ	SKP33	
19SKP35	第103図	4トレンチ	17.0	29	29	-	Ⅶ	SKP35	
19SKP36	第103図	4トレンチ	8.1	30	29	-	Ⅶ	SKP36	
19SKP37	第103図	4トレンチ	7.8	38	25	-	Ⅶ	SKP37	
19SKP38	第103図	4トレンチ	4.8	23	-	-	Ⅶ	SKP38	
19SKP44	第102図	3トレンチ	29.5	-	-	-	Ⅶ	SKP44	
19SKP46	第102図	3トレンチ	29.0	20	-	-	Ⅶ	SKP46	
19SKP49	第104図	5トレンチ	17.2	40	27	-	Ⅶ	SKP49	
19SKP50	第104図	5トレンチ	5.4	38	-	-	Ⅶ	SKP50	
19SKP51	第104図	5トレンチ	7.4	43	40	-	Ⅶ	SKP51	
19SKP57	第104図	5トレンチ	54.9	-	-	-	Ⅶ	SKP57	
19SKP58	第104図	5トレンチ	39.0	47	-	-	Ⅶ	SKP58	
19SKP59	第104図	6トレンチ	29.3	-	-	-	Ⅶ	SKP59	
19SKP60	第104図	6トレンチ	31.8	27	-	-	Ⅶ	SKP60	
19SKP61	第104図	6トレンチ	25.0	39	28	-	Ⅶ	SKP61	
19SKP62	第104図	6トレンチ	37.8	70	36	-	Ⅶ	SKP62	
19SKP63	第104図	6トレンチ	22.8	69	52	-	Ⅶ	SKP63	
19SKP64	第104図	6トレンチ	10.6	30	28	-	Ⅶ	SKP64	
19SKP65	第104図	6トレンチ	19.5	20	19	-	Ⅶ	SKP65	
19SKP66	第104図	6トレンチ	17.0	23	21	-	Ⅶ	SKP66	
19SKP67	第104図	6トレンチ	18.6	22	21	-	Ⅶ	SKP67	
19SKP69	第104図	6トレンチ	10.0	23	20	-	Ⅶ	SKP69	
19SKP70	第104図	6トレンチ	19.0	10	-	-	Ⅶ	SKP70	
19SKP73	第104図	6トレンチ	15.4	44	42	-	Ⅶ	SKP73	
19SKP74	第104図	6トレンチ	28.4	22	20	-	Ⅶ	SKP74	
19SKP75	第104図	6トレンチ	10.5	38	30	-	Ⅶ	SKP75	
19SKP76	第104図	6トレンチ	17.1	24	22	-	Ⅶ	SKP76	
19SKP77	第104図	6トレンチ	42.1	38	34	-	Ⅶ	SKP77	
19SKP78	第104図	6トレンチ	9.0	18	-	-	Ⅶ	SKP78	
19SKP79	第104図	6トレンチ	31.5	33	32	-	Ⅶ	SKP79	
19SKP80	第104図	6トレンチ	41.3	45	36	-	Ⅶ	SKP80	
19SKP81	第104図	6トレンチ	38.8	34	32	-	Ⅶ	SKP81	
19SKP82	第104図	6トレンチ	54.0	32	-	-	Ⅶ	SKP82	
19SKP83	第104図	6トレンチ	45.6	44	42	-	Ⅶ	SKP83	
19SKP84	第104図	6トレンチ	21.9	26		-	Ⅶ	SKP84	
19SKP85	第104図	6トレンチ	29.9	36	28	-	Ⅶ	SKP85	
19SKP87	第104図	6トレンチ	30.4	25	22	-	Ⅶ	SKP87	
19SKP88	第104図	6トレンチ	24.0	28	28	-	Ⅶ	SKP88	
19SKP89	第104図	6トレンチ	6.8	26	22	-	Ⅶ	SKP89	
19SKP90	第104図	5トレンチ	2.8	48	-	-	Ⅶ	SKP90	
19SKP92	第102図	3トレンチ	19.6	28	-	-	Ⅶ	SKP92	
19SKP93	第102図	3トレンチ	32.5	38	-	-	Ⅶ	SKP93	
19SKP94	第104図	5トレンチ	43.6	-	-	白磁皿(第107図-2)	Ⅶ	SKP94	
19SKP95	第100図	1トレンチ	31.4	30	25	-	Ⅶ	SKP95	
19SKP96	第100図	1トレンチ	35.9	26	22	青磁碗(第107図-7)	Ⅶ	SKP96	
19SKP99	第103図	8トレンチ	14.9	20	19	-	Ⅶ	SKP99	
19SKP100	第103図	8トレンチ	9.4	17	16	-	Ⅶ	SKP100	
19SKP101	第103図	8トレンチ	16.1	26	23	-	Ⅶ	SKP101	
19SKP102	第103図	8トレンチ	36.2	31	24	-	Ⅶ	SKP102	
19SKP103	第103図	8トレンチ	27.4	18	-	-	Ⅶ	SKP103	

第33表　曲輪17（第19次調査）遺構一覧表③

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
19SKP104	第103図	8トレンチ	20.7	29		-	Ⅶ	SKP104	
19SKP105	第103図	8トレンチ	16.1	26	26	-	Ⅶ	SKP105	
19SKP106	第103図	8トレンチ	22.5	26	-	-	Ⅶ	SKP106	
19SKP107	第103図	8トレンチ	21.9	35	26	-	Ⅶ	SKP107	
19SKP108	第103図	8トレンチ	19.0	25	22	-	Ⅶ	SKP108	
19SKP109	第103図	8トレンチ	17.0	42	-	-	Ⅶ	SKP109	
19SKP111	第103図	8トレンチ	10.9	33	30	-	Ⅶ	SKP111	
19SKP116	第103図	1トレンチ	32.3	-	-	-	Ⅶ	SKP116	
19SKP117	第101図	2トレンチ	7.2	23	17	-	Ⅶ	SKP117	
19SKP118	第101図	2トレンチ	19.6	29	26	-	Ⅶ	SKP118	
19SKP119	第101図	2トレンチ	25.4	31	29	-	Ⅶ	SKP119	
19SKP120	第101図	2トレンチ	9.4	26	25	-	Ⅶ	SKP120	
19SKP121	第101図	2トレンチ	32.0	27	-	-	Ⅶ	SKP121	

■不明遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
19SX45	第102図	3トレンチ	57.9	-	-	-	Ⅶ	SX45	
19SX56	第104図	5トレンチ	-	-	-	-	Ⅶ	SX56	

２トレンチ南側で検出された長径35㎝、短径28㎝、深さ37.5㎝の柱穴跡である。確認面より約34cm下から珠洲系陶器の甕の小破片が出土した。小破片のため図示していない。

19SKP24柱穴跡（第101図）

２トレンチ北西隅で確認された長径29㎝、短径23㎝、深さ27.1㎝の柱穴跡である。幅16cm、厚さ20cmの礫が確認面よりやや上層から検出されており、礎石の１つと考えられる。礫上面での標高は89.092mである。

19SM34道路跡（第102・105図）

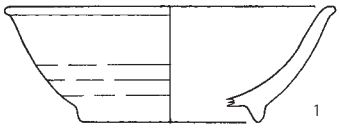
現況地形で切り通し状の道路跡として確認できていた遺構である。東は標高を減じながら曲輪22へと繋がり、西は曲輪17と繋がる。曲輪17へはなだらかに接続し、道路としての形状は現地形からもわからなくなる。遺構としてはトレンチの中央部の東西全面にわたって確認できた。底面幅は42cm ～ 62cmであり、上端幅は遺構確認面で2.4mである。底面部には浅い掘り込みが４基確認され、非常に締まった土が堆積していた。そのため、道路造成に伴う遺構と判断した。

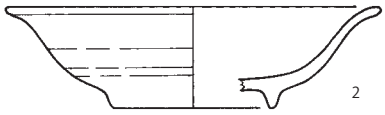
さらに底面部は地山土となっていたが、非常に締まった硬化面を呈していた。底面付近から小破片のため図示し得なかったが、瀬戸美濃の天目茶碗の小破片１点と瀬戸美濃皿の小破片が出土した（写真図版11）。道路跡は東から西へ緩傾斜で上り、トレンチ東側の底面の標高は88.269m、西側で88.759mとなっている。立ち上がりは南側で地山土の切り出し、北側で盛土となっていた。

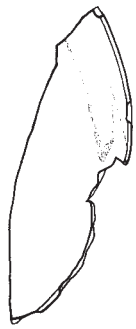
19SA41柵跡（第102 ～ 106図）

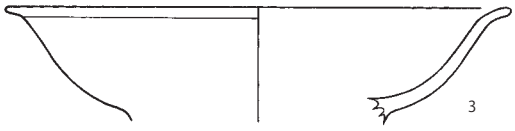
３・４・６・７・８トレンチで検出された。17基の柱穴によって構成され、曲輪17北・西端を囲い、19SM34道路跡と連結して配列していた。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。柱間は３トレンチのＰ１－Ｐ２－Ｐ３で61cm、６トレンチのP11－P12－P13－P14で61cmと近接した柱間となっていたが、４トレンチのＰ５－Ｐ６－Ｐ７で140cm、７トレンチのＰ８－Ｐ９－P10で122cm、８トレンチのP15－P16－P17で105cm、145cmとなっていた。曲輪22及び道路跡の上端に位置する４・７・８トレンチではやや広めの柱間となっているのに対し、急傾斜となる斜面を有する曲輪北側では狭い柱間となっていた。

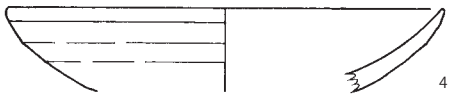
白磁



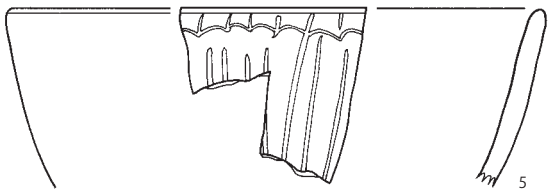


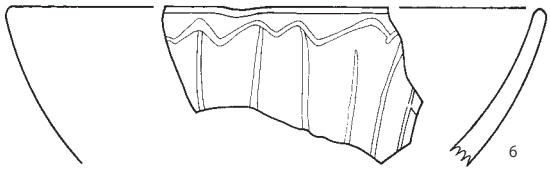


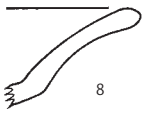


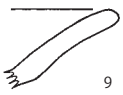


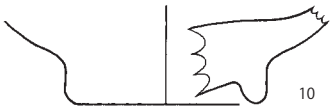
青磁



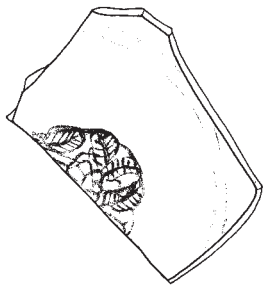


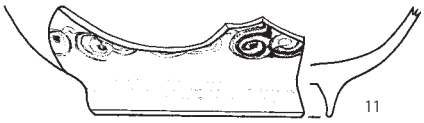






染付

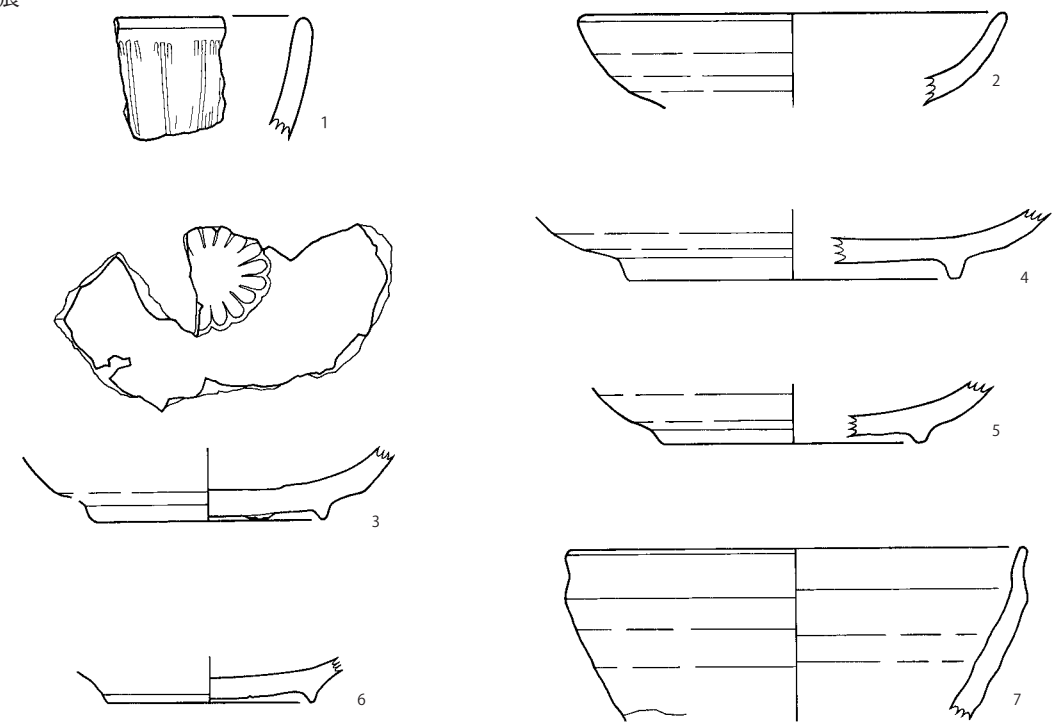




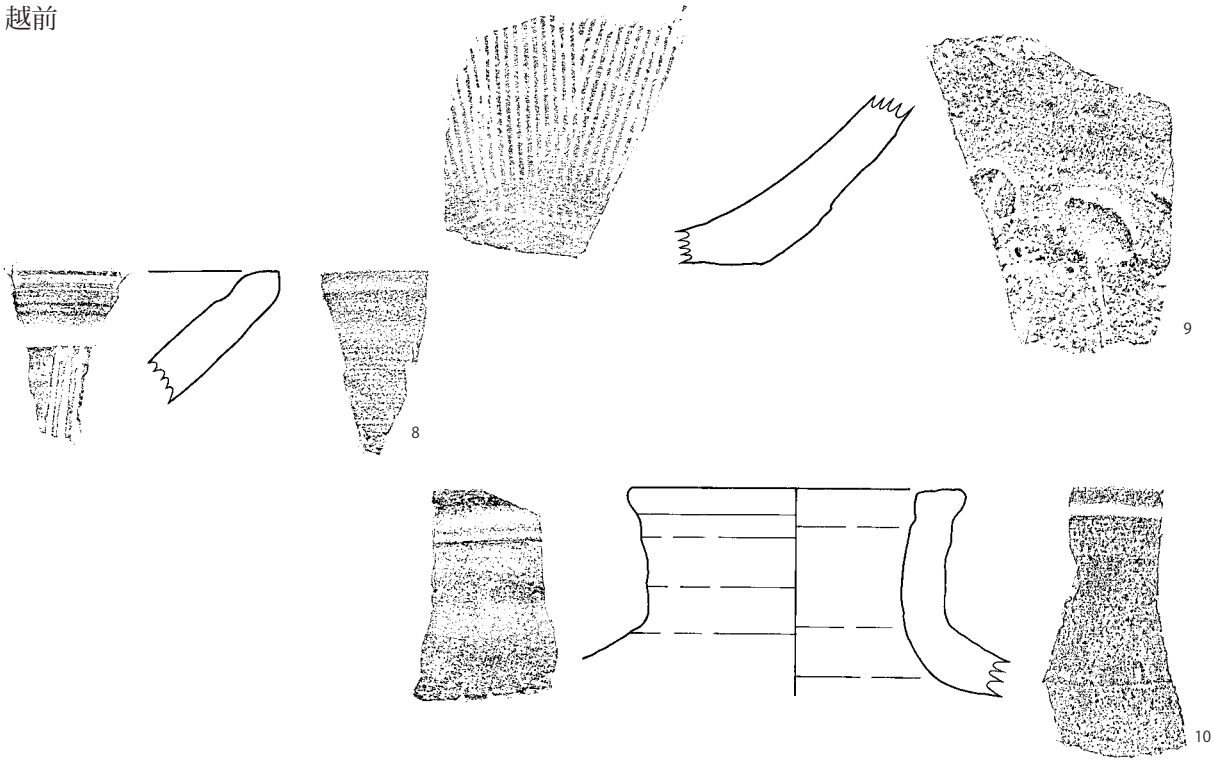
0　(1:2)　5cm

第107図　曲輪17（第19次調査）出土遺物①

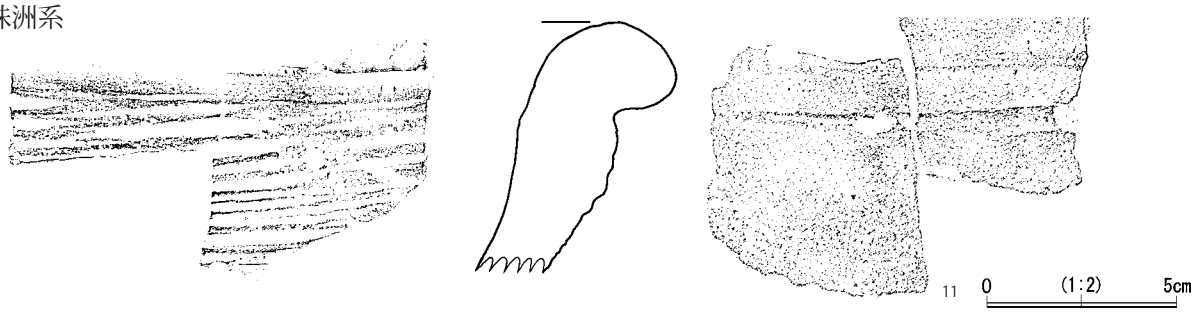
瀬戸美濃



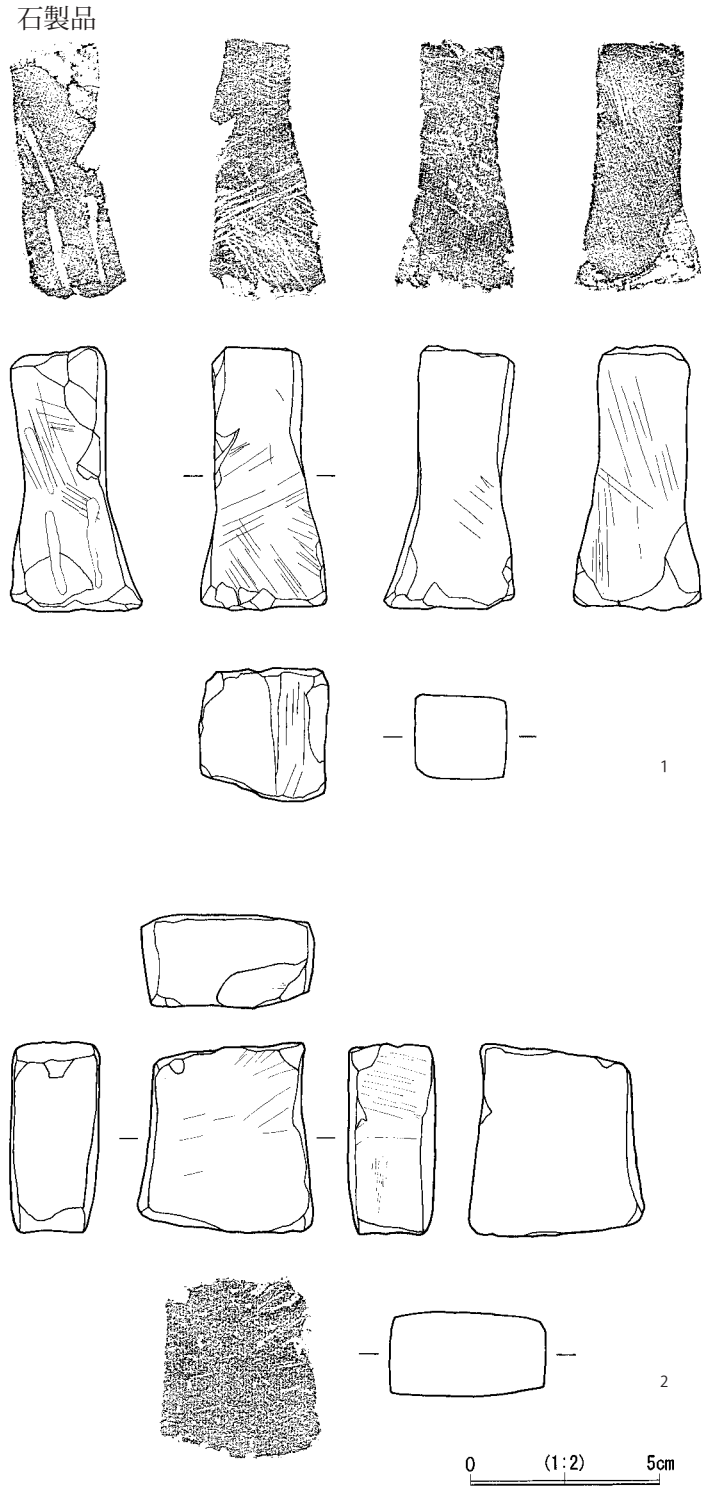
越前



珠洲系



第108図　曲輪17（第19次調査）出土遺物②



第109図　曲輪17（第19次調査）出土遺物③

19SA91門跡（第102・105図）

３トレンチ東側で19SM34をまたぐように検出された。長径64cm、短径58cm、深さ23.7cmのＰ１と長径74cm、短径65cm、深さ16.5cmのＰ２の二つの柱穴で構成される。柱間は2.32mである。さらに検出位置から19SA41とも繋がる構造であり、かつ曲輪22から曲輪17へ緩やかに登った傾斜変換点に位置している点から、曲輪22と曲輪17を区画する柵を伴った門跡であると判断した。

19SA110柵列跡（第103図）

８トレンチ中央部南壁面で検出された。長径30cm、深さ10.9cmの柵跡で、遺構確認面は盛土直下の自然堆積土となっており、盛土内には立ち上がらない。覆土は黄褐色土で地山土ブロックを多量に含むため、盛土造成の際に土砂を押える等の機能を有した遺構であると判断した。

19SKP94柱穴跡（第104図）

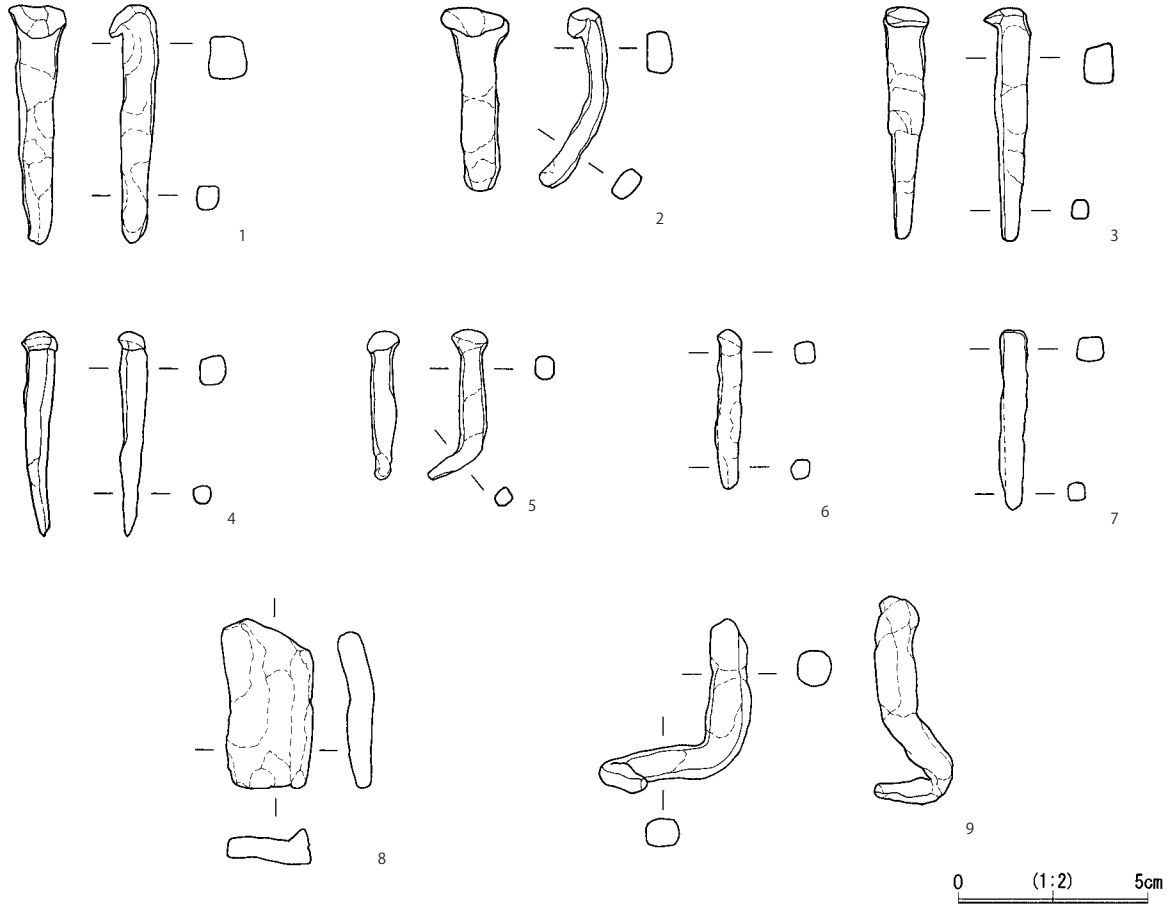
５トレンチ北西隅のサブトレンチで検出された。遺構の直径等は不明であるが、深さは43.6cmで、遺構内から白磁皿（第107図－２）が出土するとともに、近接して整地層内から銭貨が１枚出土した（第110図－14）。

③出土遺物（第107～110図）

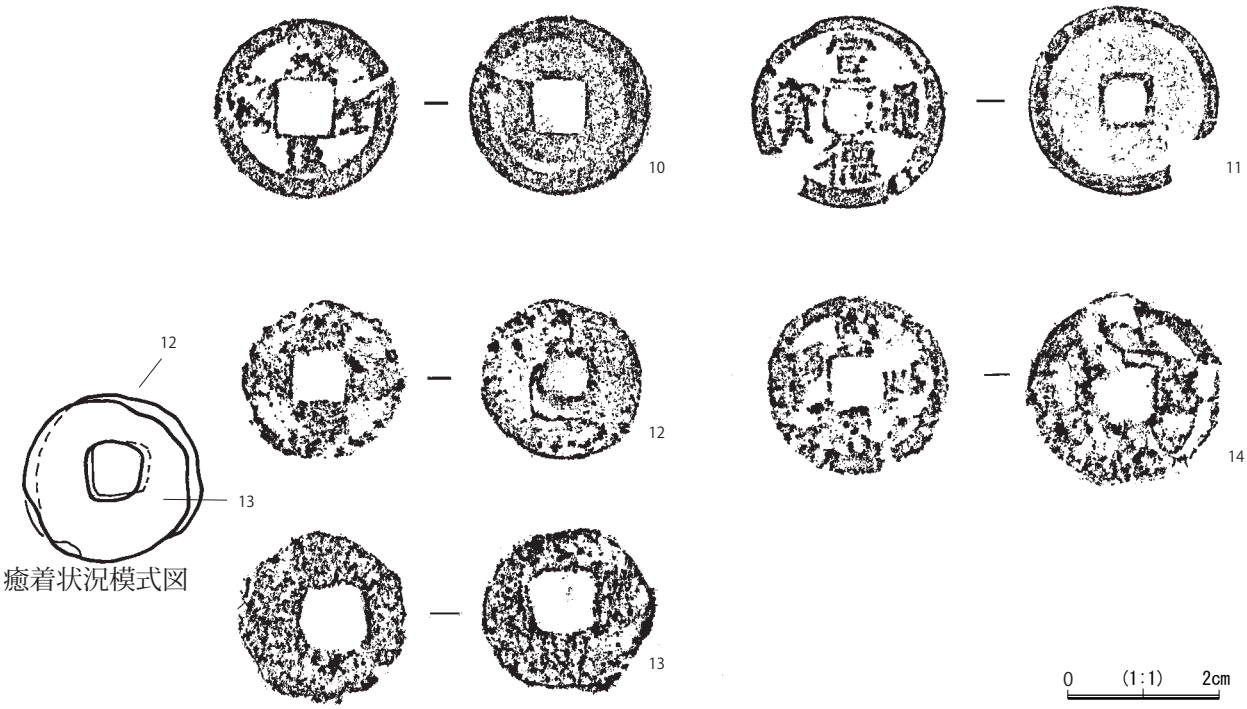
遺物は416点出土している（その他を含めない）。点数は接合後の破片数である。中世陶磁器は337点出土し、貿易陶磁器が115（34.1%）、国産陶器222点（65.9%）である。

陶磁器の年代については、白磁はE群が主体で15世紀後半～16世紀代、青磁は細描蓮弁文を施す15世紀後半～16世紀前半代のものがほとんどである。染付はB群及びC群が多く15世紀後半～16世紀前半台が主体である。瀬戸美濃は大窯期第１・２段階が主体と考えられ、15世紀後半～16世紀中頃のものが多く見られる。さらに３トレンチ盛土内から出土した越前すり鉢（第108図－８）は口縁部の形態から16世紀中頃であると考えられる。

金属製品



銭貨



第110図　曲輪17（第19次調査）出土遺物④

第34表　曲輪17（第19次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
32	39	44	0	112	64	45	1	0	0	0	0	0	0	47	0	7	0	0	0	0	2	0	23	骨1

第35表　曲輪17（第19次調査）出土遺物観察表

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
107	1	33	白磁	皿	1トレンチ	-	(8.8)	(4.8)	3.0	15c後半～16c	Ⅶ	25	1	
107	2	33	白磁	皿	5トレンチ	19SKP94	(10.0)	(4.4)	2.7	15c後半～16c	Ⅶ	25	2	
107	3	33	白磁	皿	1トレンチ	-	(13.4)	-	(3.1)	15c後半～16c	Ⅶ	25	3	
107	4	33	白磁	皿	1トレンチ	-	(11.6)	-	(2.2)	15c後半～16c	Ⅶ	25	4	
107	5	33	青磁	碗	6トレンチ	-	(14.2)	-	(4.7)	15c後半～16c前半	Ⅶ	25	6	
107	6	33	青磁	碗	1トレンチ	-	(14.3)	-	(4.1)	15c後半～16c前半	Ⅶ	25	5	
107	7	33	青磁	碗	1トレンチ	19SKP96	-	-	(2.8)	15c後半～16c前半	Ⅶ	25	7	
107	8	33	青磁	皿	6トレンチ	-	-	-	(2.6)	15c後半～16c前半	Ⅶ	25	8	
107	9	33	青磁	皿	6トレンチ	-	-	-	(2.1)	15c後半～16c前半	Ⅶ	25	9	
107	10	33	青磁	碗	5トレンチ	-	-	(5.0)	-	15c後半～16c前半	Ⅶ	25	10	
107	11	33	染付	皿	2トレンチ	-	-	(6.2)	(2.8)	15c後半～16c前半	Ⅶ	25	11	
108	1	33	瀬戸美濃	碗	5トレンチ	-	-	-	(3.2)	15c後半～16c中	Ⅶ	26	1	
108	2	33	瀬戸美濃	皿	6トレンチ	-	(11.4)	-	(2.5)	15c後半～16c中	Ⅶ	26	2	
108	3	33	瀬戸美濃	皿	1トレンチ	-	-	6.2	(1.7)	15c後半～16c中	Ⅶ	26	3	
108	4	33	瀬戸美濃	皿	1トレンチ	-	-	(8.8)	(1.7)	15c後半～16c中	Ⅶ	26	4	
108	5	33	瀬戸美濃	皿	4トレンチ	-	-	(7.0)	(1.5)	15c後半～16c中	Ⅶ	26	5	
108	6	33	瀬戸美濃	皿	5トレンチ	-	-	5.4	(0.8)	15c後半～16c中	Ⅶ	26	6	
108	7	33	瀬戸美濃(天目)	碗	4・5トレンチ	-	(12.2)	-	(4.5)	-	Ⅶ	26	7	
108	8	33	越前	すり鉢	3トレンチ	盛土内	-	-	(3.5)	16c中	Ⅶ	26	8	
108	9	33	越前	すり鉢	1トレンチ	-	-	-	(4.3)	16c中	Ⅶ	26	9	
108	10	33	越前	甕	1トレンチ	-	(9.0)	-	(4.5)	16c中	Ⅶ	26	10	
108	11	33	珠洲系	甕	1トレンチ	-	-	-	(6.5)	-	Ⅶ	26	11	

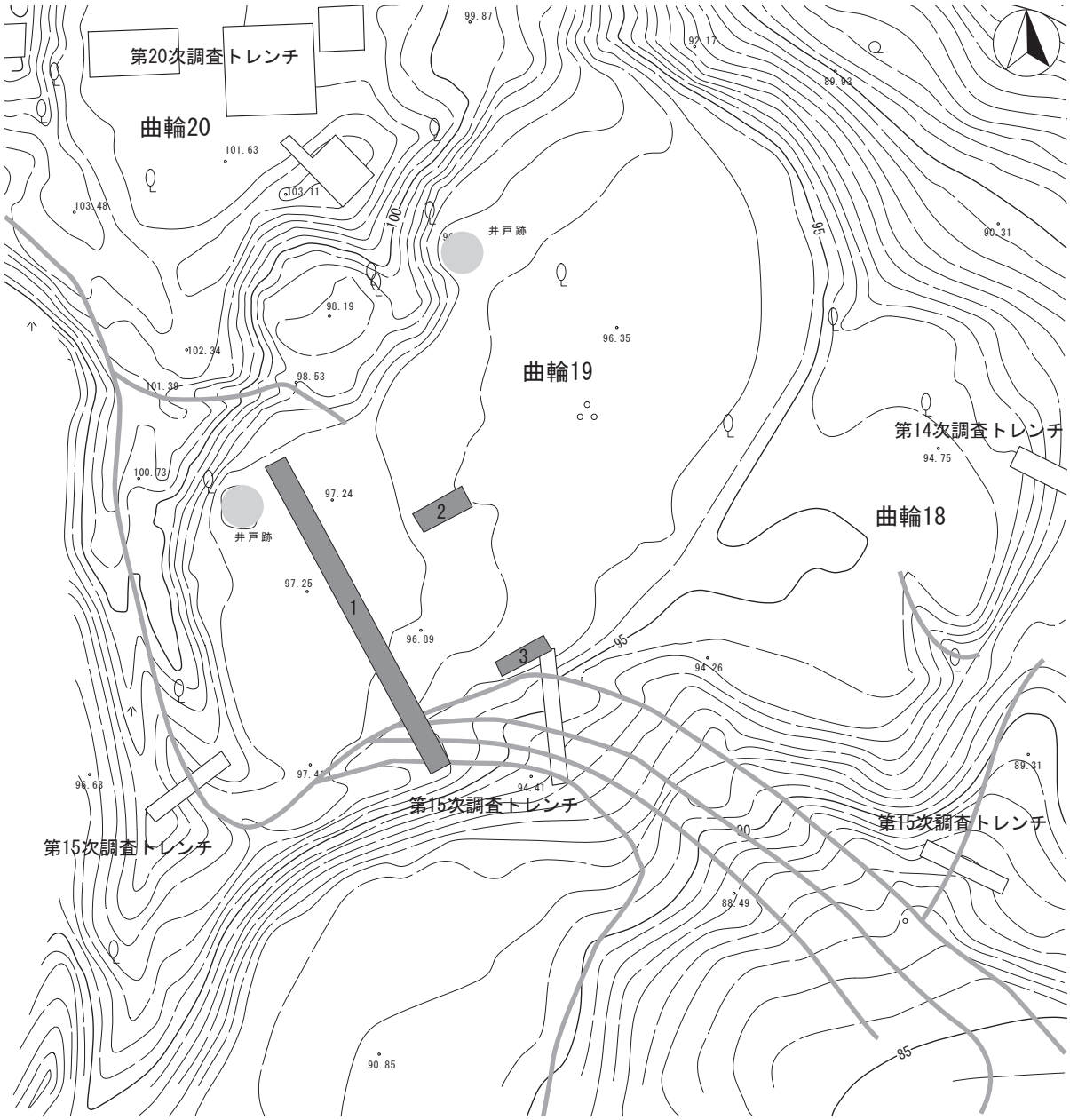
■石製品・金属製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
109	1	33	石製品	砥石	1トレンチ	-	(6.9)	3.4	3.5	-	Ⅶ	27	1	
109	2	33	石製品	砥石	1トレンチ	-	(5.1)	4.6	2.4	-	Ⅶ	27	2	
110	1	33	金属製品	和釘	1トレンチ	-	6.3	1.0	0.9	-	Ⅶ	28	1	
110	2	33	金属製品	和釘	1トレンチ	-	4.8	0.9	0.6	-	Ⅶ	28	2	
110	3	33	金属製品	和釘	4トレンチ	-	6.1	1.0	0.7	-	Ⅶ	28	3	
110	4	33	金属製品	和釘	5トレンチ	-	5.4	0.7	0.7	-	Ⅶ	28	4	
110	5	33	金属製品	和釘	5トレンチ	-	3.9	0.6	0.5	-	Ⅶ	28	5	
110	6	33	金属製品	和釘	5トレンチ	-	4.2	0.6	0.5	-	Ⅶ	28	6	
110	7	33	金属製品	和釘	1トレンチ	-	4.7	0.7	0.7	-	Ⅶ	28	7	
110	8	33	金属製品	不明	1トレンチ	-	(4.4)	-	2.4	-	Ⅶ	28	8	
110	9	33	金属製品	不明	3トレンチ	-	4.6	0.9	-	-	Ⅶ	28	9	
110	10	33	銭貨	-	1トレンチ	-	2.4	-	-	-	Ⅶ	28	10	元祐通宝
110	11	33	銭貨	-	1トレンチ	-	2.5	-	-	-	Ⅶ	28	11	宣徳通宝
110	12	33	銭貨	-	7トレンチ	-	2.1	-	-	-	Ⅶ	28	12	
110	13	33	銭貨	-	7トレンチ	-	2.5	-	-	-	Ⅶ	28	13	
110	14	33	銭貨	-	5トレンチ	整地層内	2.4	-	-	-	Ⅶ	28	14	

（６）曲輪19（第13次調査）

①曲輪19の立地と概要

曲輪19は北西部に位置する標高96 ～ 97mの曲輪である。北西側に位置する曲輪20とは標高差約５m、南東側に位置する曲輪18とは標高差約２mをもって隣接している。曲輪19の南側には天下道が通っており、さらに曲輪内には井戸跡と推定される地形の窪みが２基確認されている。また曲輪19の北西中央部には曲輪20との境界の斜面に食い込むように約10m×10m程度の小規模な曲輪状の遺構がある。これは曲輪14と曲輪16の間の大規模な土塁部に存在するものと同形態の曲輪状の遺構である。またそのすぐ西側には北上する天下道へ続く切通し状の道路跡があり、現在も通ることができる。



第111図　曲輪19（第13次調査）トレンチ配置図

②検出遺構

曲輪19の調査では任意の大きさのトレンチ３か所を設定して行い、その結果、総計で道路跡１条、溝跡８条、土坑４基、柱穴跡69基、不明遺構１基、整地跡３か所が検出された。

各トレンチについて

【１トレンチ】

曲輪を南北に横断し、南側の天下道を横切るように南北31m×東西２mで設定した。遺構確認面は北端部及び南端部で一部地山土であったが、全体的には整地層であった。わずかではあるが整地層下の遺構も11基検出された。

【２トレンチ】

曲輪中央部に南北２m×東西５mで設定した。遺構確認面は全面的に整地層であった。

【３トレンチ】

曲輪中央部南端に南北1.5m×東西５mで設定した。遺構確認面はトレンチ中央部で一部地山土であったが、ほぼ全面的に整地層であった。

13SM18道路跡　(第113・116図)

１トレンチ南部東壁で検出された。検出位置が曲輪19より約１m下がる斜面下の部分から検出され、現況で確認できる天下道と同位置にあり、道路跡と想定される。南北方向の幅は70cm、確認面からの深さは30cmである。堆積土はシルト質で、しまりが強い。出土遺物はなかったものの、天下道の本筋と想定される。

13SK20・40土坑　(第113図)

１トレンチ北部東壁で検出された。13SKP63及び69と重複関係を持ち、前者よりは新しい。また13SK20は土層断面の観察のみで検出され、長径108cm、確認面からの深さ17cmであり、13SK40より新しい。13SK40は長径121cm、確認面からの深さ88cmで隅丸方形を呈する。堆積土中に礫が多く見られ炭化物が多く含まれる。遺物の出土はなかった。

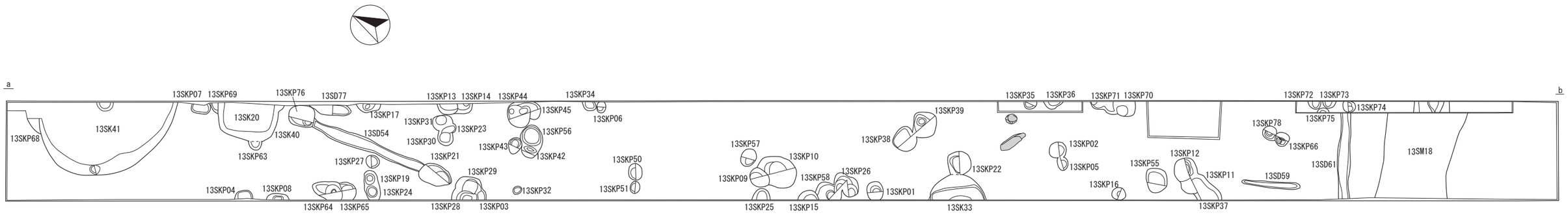
13SK41土坑（第113図)

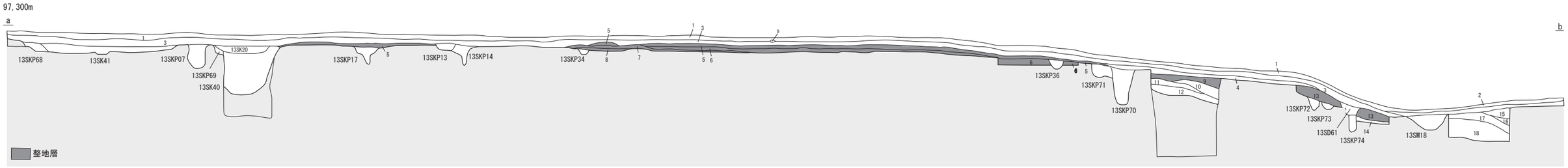
１トレンチ北部東壁で検出された。13SKP68と重複関係を持ち、13SK68より古い。長径272cm、確認面からの深さ20cmであり、底面は平坦である。中央部に深さ６cmの柱穴状の浅い凹みが見られる。堆積土は２層に分けられ、いずれも人為的な埋土と観察された。

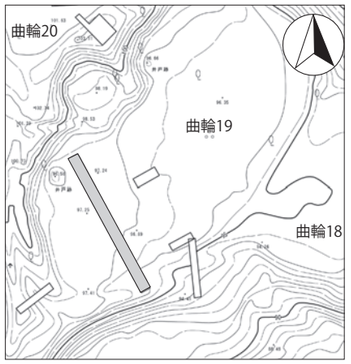
13SD61溝跡　(第113・116図)

１トレンチの南部で、13SM18と平行に検出された。整地層下より検出された13SKP74と重複関係を持ち、13SKP74より新しい。幅は24cm、確認面からの深さが18cmである。白磁皿(第118図－３)が出土した。

第112図　曲輪19（第13次調査）全体図





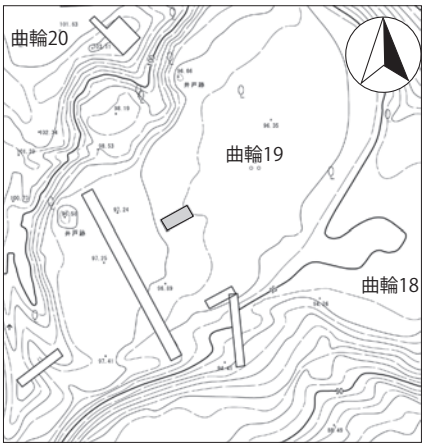


1トレンチ a-b土層注記

1. 暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまりあり［表土］
2. 褐色(10YR4/4) シルト ややしまりあり～強［表土］
3. 暗褐色(10YR3/4) シルト ややしまりあり［表土］
4. 灰黄褐色(10YR4/3) 粘質土 しまり強 明黄褐色(10YR6/8)粘質土粒状に5%入る
5. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 粘質土 しまり強 浅黄色(7.5YR7/4)粘質土ブロック状に10%入る 全体に酸化鉄が縞状に入る 炭化物のブロックが2%入る［整地層］
6. にぶい黄褐色土(10YR4/2) 粘質土 しまり中～強 にぶい黄褐色粘質土(10YR4/3)20%含む 焼土・炭化物5%含む［整地層］
7. 黒褐色土(10YR3/1) 粘質土 しまり中［整地層］
8. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘質土 しまり強 黒褐色粘質土(10YR3/1)ブロック状に5%含む［整地層］
9. 灰黄褐色(10YR4/2) 粘質土 しまり強 浅黄色(7.5YR7/4)粘質土ブロック状に20% 焼土粒2%入る［整地層］
10. 暗褐色(10YR3/3) 粘質土 しまり強
11. 暗褐色(10YR3/4) 粘質土 しまり強
12. 褐色(10YR4/4) 粘質土 しまり強
13. 暗褐色(10YR3/2) シルト しまり強 地山粒2%入る［整地層］
14. 暗褐色(10YR3/3) 粘質土 しまり中～強 黄褐色粘質土(10YR5/8)ブロック状に70%含む
15. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土 しまり強 灰白色(5Y7/2)ブロック粘質土10%含む 明黄褐色(10YR6/6)粘質土10%含む
16. 黒褐色(10YR2/2) 粘質土 しまり強
17. 明黄褐色(10YR6/6) 粘質土 しまり強 灰白色(5Y7/2)粘質土ブロック状に50%含む 暗褐色粘質土(10YR3/3)斑状に10%含む
18. 明黄褐色(10YR6/6) 粘質土 しまり強 灰白色(5Y7/2)粘質土ブロック状に30%含む 暗褐色粘質土(10YR3/3)斑状に20%含む

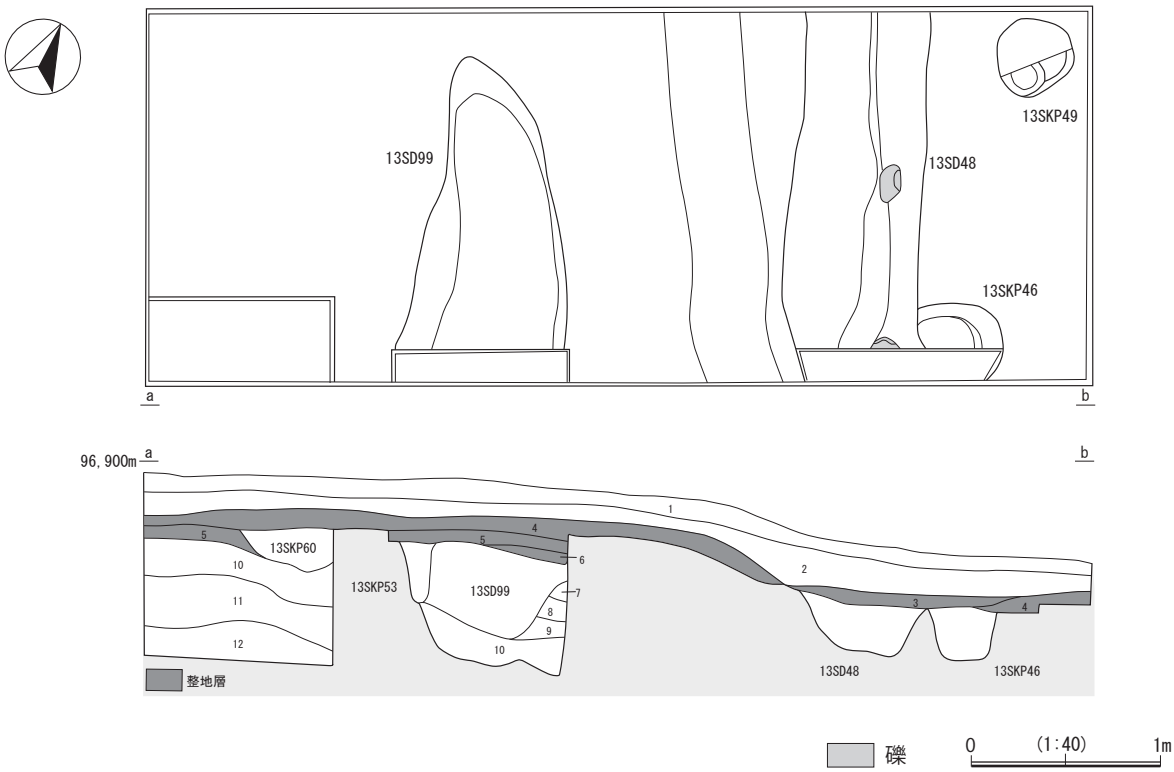
礫　0 (1:80) 2m

第113図　1トレンチ平面図・断面図



2トレンチ　a-b土層注記

1. 明褐色(10YR3/3) シルト　ややしまりあり［表土］
2. 暗褐色(10YR3/4) シルト　ややしまりあり
3. 黒褐色(10YR3/2) シルト　しまり強［整地層］
4. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト　ややしまりあり～強　明黄褐色粘質土ブロック10%含む　地山粒3%入る［整地層］
5. 灰黄褐色(10YR4/2) シルト　しまり強　地山粒1%　炭化物チップ1%入る［整地層］
6. 黒褐色(10YR3/2) シルト　しまり強　地山粒2%入る［整地層］
7. 暗褐色(10YR3/3) シルト　しまり強　地山粒1%入る［自然堆積土］
8. 黒褐色(10YR3/1) シルト　しまり強　地山ブロック2%入る［自然堆積土］
9. 黒褐色(10YR3/2) 粘質土　しまり強　地山粒2%入る［自然堆積土］
10. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘質土　しまり強　明黄褐色(10YR6/6)粘土斑状に40%　地山粒5%入る［自然堆積土］
11. 明黄褐色(10YR6/6) 粘質土　しまり強　浅黄色(10YR6/6)粘質土しまり強　浅黄色(2.5Y7/4)粘質土ブロックで10%入る　にぶい黄褐色(10YR5/3)5%入る[自然堆積土]
12. 浅黄色(2.5Y7/4) 粘質土　しまり強　明褐色(10YR6/6)粘土40%入る［自然堆積土］

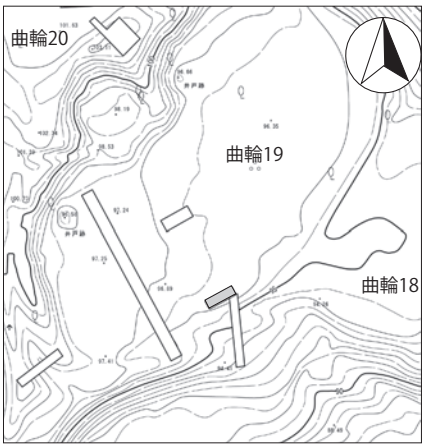


第114図　２トレンチ平面図・断面図

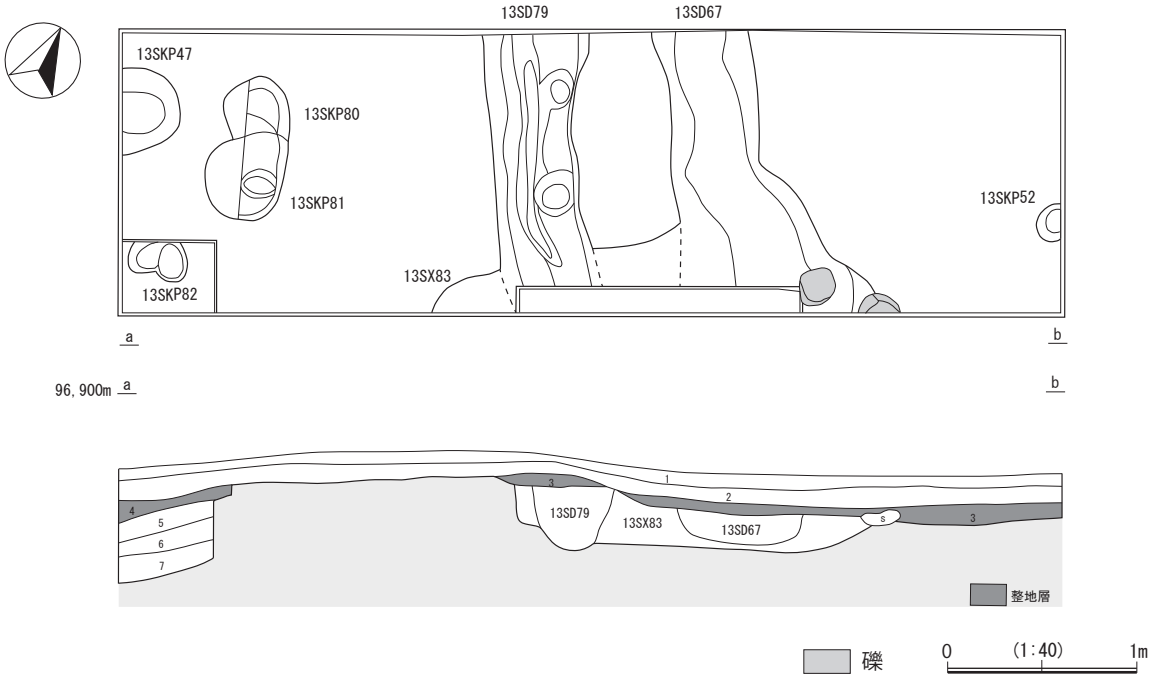
③出土遺物（第118・119図）

遺物は174点出土している（その他を含めない）。点数は接合後の破片数である。中世陶磁器は143点出土し、貿易陶磁器が87点（60.8%）、国産陶器56点（39.2%）である。

陶磁器の年代については、白磁はE群が主体で15世紀後半～16世紀代、染付はB１群の他、E群の碗類の破片も見られ、15世紀後半～16世紀代のものが主体である。瀬戸美濃は大窯期第１段階以降が主体と考えられ、15世紀後半以降のものが多い。

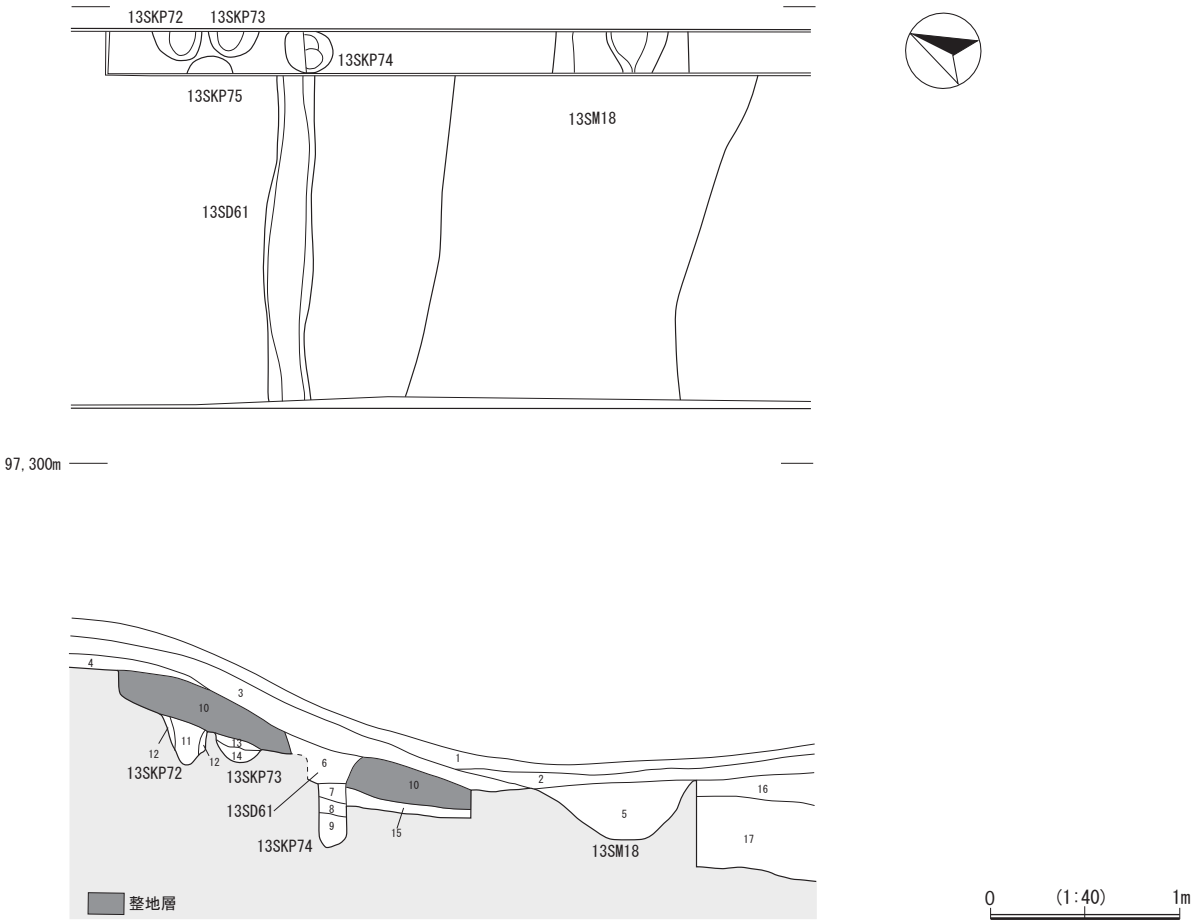


3トレンチ a-b土層注記
1. 暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまりあり［表土］
2. 暗褐色(10YR3/4) シルト ややしまりあり
3. 暗褐色(10YR3/4) シルト ややしまりあり 地山ブロック10%入る［整地層］
4. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり強 地山40% 炭化物チップ3%入る［整地層］
5. 黒褐色(10YR3/2) シルト しまり強 地山粒2%入る［自然堆積層］
6. 灰黄褐色(10YR4/2) シルト しまり強 地山3%入る［自然堆積層］
7. 褐色(10YR4/4) シルト しまり強 地山5%入る［自然堆積層］



第115図　３トレンチ平面図・断面図

13SM18・13SD61・13SKP72・13SKP73・13SKP74



■13SM18
1. 暗褐色(10YR3/3) シルト　ややしまりあり［表土（1トレンチ1層対応）］
2. 褐色(10YR4/4) シルト　ややしまりあり～強［表土（1トレンチ2層対応）］
3. 暗褐色(10YR3/4) シルト　ややしまりあり［表土（1トレンチ3層対応）］
4. 灰黄褐色(10YR4/3) 粘質土　しまり強　明黄褐色(10YR6/8)粘質土粒状に5%入る（1トレンチ4層対応）
5. 灰黄褐色(10YR6/2) シルト　ややしまりあり［13SM18］

■13SD61
6. 暗褐色(10YR3/3) 粘質土　ややしまりあり～強　黄褐色(10YR5/8)粘質土40%含む　明褐色(7.5YR5/8)粘質土20%含む［13SD61］

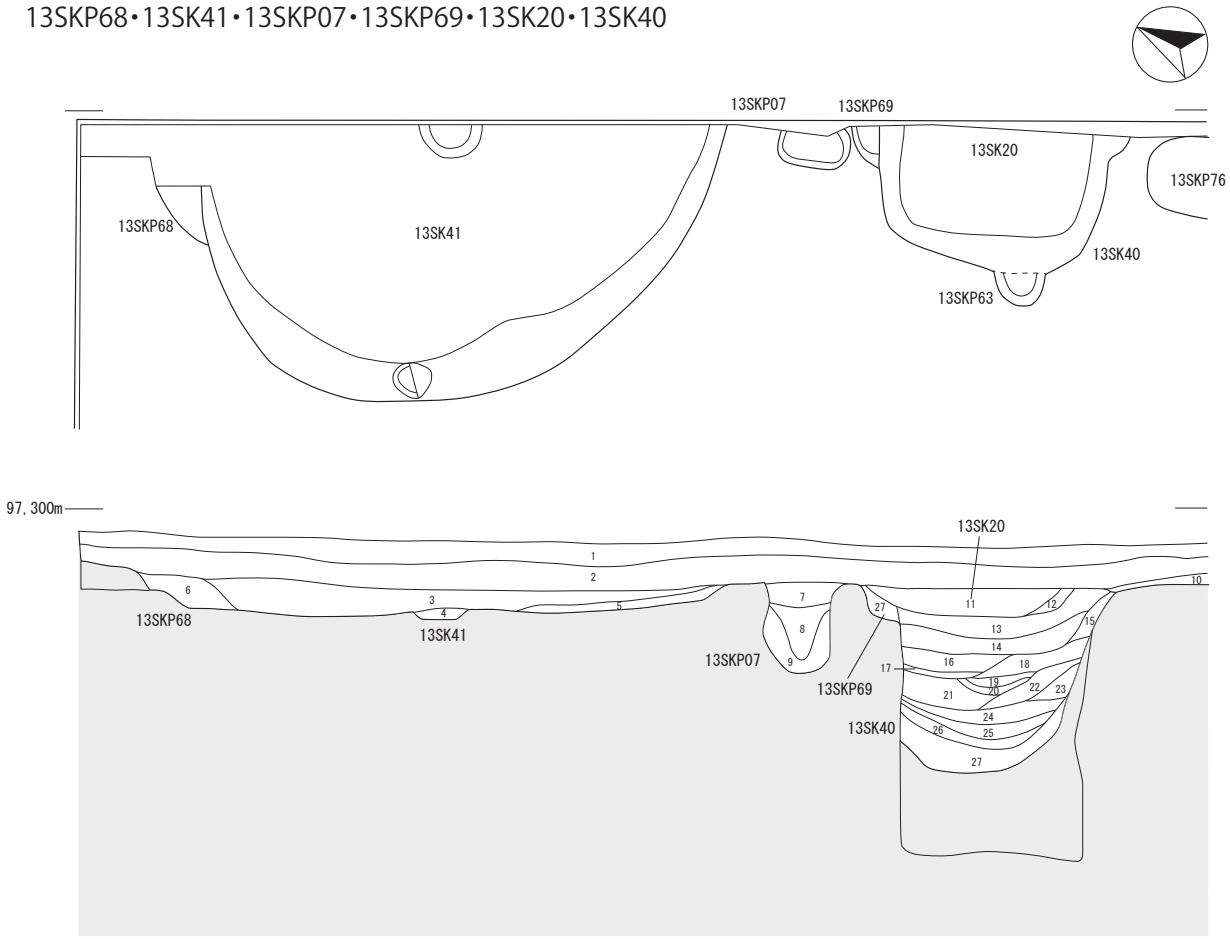
■13SKP74
7. 暗褐色(10YR3/3) 粘質土　ややしまりあり～強　黄褐色(10YR5/8)粘質土ブロック70%含む［13SKP74］
8. 暗褐色(10YR3/3) 粘質土　しまり強　黄褐色(10YR5/8)粘質土ブロック20%含む［13SKP74］
9. 暗褐色(10YR3/3) 粘質土　ややしまりあり～強　黄褐色(10YR5/8)粘質土ブロック70%含む［13SKP74］
10. 暗褐色(10YR3/2) シルト　しまり強　地山粒2%入る［整地層（1トレンチ13層対応）］

■13SKP72
11. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土　しまり強　灰白色(5Y7/2)ブロック粘質土10%含む　明黄褐色(10YR6/6)粘質土10%含む［13SKP72］
12. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土　しまり強　明黄褐色(10YR6/6)粘質土40%含む　灰白色(5Y7/2)ブロック粘質土10%含む［13SKP72］

■13SKP73
13. 暗褐色(10YR3/3) 粘質土　しまり強［13SKP73］
14. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土　しまり強　灰白色(5Y7/2)ブロック粘質土10%含む［13SKP73］
15. 暗褐色(10YR3/3) 粘質土　しまり中～強　黄褐色粘質土(10YR5/8)ブロック状に70%含む（1トレンチ14層対応）
16. 明黄褐色(10YR6/6) 粘質土　しまり強　灰白色(5Y7/2)粘質土ブロック状に50%含む　暗褐色粘質土(10YR3/3)斑状に10%含む（1トレンチ17層対応）
17. 明黄褐色(10YR6/6) 粘質土　しまり強　灰白色(5Y7/2)粘質土ブロック状に30%含む　暗褐色粘質土(10YR3/3)斑状に20%含む（1トレンチ18層対応）

第116図　13SM18・13SD61・13SKP72・13SKP73・13SK74

13SKP68・13SK41・13SKP07・13SKP69・13SK20・13SK40



■13SK41/SKP68
1. 暗褐色(10YR3/3) シルト　ややしまりあり［表土］
2. 暗褐色(10YR3/4) シルト　ややしまりあり［表土（1トレンチ2層対応）］
3. にぶい黄褐色(10YR5/3) 粘質土　しまり強　浅黄色(2.5Y7/4)ブロック粘質土10%含む［13SK41］
4. 灰黄褐色(10YR5/2) 粘質土　しまり強［13SK41］
5. 灰黄褐色(10YR5/2) 粘質土　しまり強［13SK41］
6. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘質土　しまり強［13SKP68］

■13SKP07
7. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 粘質土　しまり強　浅黄色(7.5YR7/4)粘質土ブロック状に10%入る　全体に酸化鉄が縞状に入る［13SKP07］
8. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘質土　しまり強［13SKP07］
9. にぶい黄褐色(10YR6/4) 粘質土　しまり強［13SKP07］

■13SK20
10. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 粘質土　しまり強　浅黄色(7.5YR7/4)粘質土ブロック状に10%入る　全体に酸化鉄が縞状に入る　炭化物のブロックが2%入る
　［整地層（1トレンチ5層対応）］
11. 暗褐色(10YR3/3) 粘質土　ややしまりあり～強［13SK20］
12. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土　しまり強　炭化物チップ1%含む［13SK20］

■13SK40
13. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土　ややしまりあり～強［13SK40］
14. にぶい黄褐色(10YR5/3) 粘質土　ややしまりあり～強　浅黄色(2.5Y7/3)ブロック30%含む　炭化物ブロック8%含む［13SK40］
15. にぶい黄橙色(10YR6/4) 粘質土　ややしまりあり～強［13SK40］
16. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘質土　ややしまりあり～強　浅黄色(2.5Y7/4)ブロック30%含む　炭化物粒2%含む［13SK40］
17. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土　ややしまりあり～強　炭化物チップ10%含む［13SK40］
18. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土　ややしまりあり～強　炭化物チップ10%含む［13SK40］
19. 褐色(10YR4/4) 粘質土　ややしまりあり～強　にぶい黄褐色(2.5Y6/3)ブロック粘質土30%含む　炭化物チップ3%含む［13SK40］
20. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土　ややしまりあり～強　炭化物チップ10%含む［13SK40］
21. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘質土　ややしまりあり～強　浅黄色(2.5Y7/4)ブロック30%含む　炭化物粒2%含む［13SK40］
22. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘質土　ややしまりあり～強　浅黄色(2.5Y7/4)ブロック30%含む　炭化物粒2%含む［13SK40］
23. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘質土　ややしまりあり～強　浅黄色(2.5Y7/4)ブロック30%含む　炭化物粒2%含む［13SK40］
24. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土　ややしまりあり～強　炭化物チップ10%含む［13SK40］
25. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘質土　ややしまりあり～強　浅黄色(2.5Y7/4)ブロック30%含む　炭化物粒2%含む［13SK40］
26. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土　ややしまりあり～強　炭化物チップ10%含む［13SK40］
27. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土　ややしまりあり～強　炭化物チップ10%含む　酸化鉄含む［13SK40］

0　(1:40)　1m

第117図　13SKP68･13SK41･13SKP07・13SKP69･13SK20･13SK40

第36表　曲輪19（第13次調査）出土遺構一覧表①

■道路跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
13SM18	第113・116図	1トレンチ	43	71	-	Ⅳ	SM18	

■土坑

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
13SK20	第113図	1トレンチ	17	108	-	-	Ⅳ	SK20	
13SK33	第113図	1トレンチ	182	(110)	(56)	染付、瓦質土器、金属製品	Ⅳ	SK33	
13SK40	第113図	1トレンチ	88	121	(78)	-	Ⅳ	SK40	
13SK41	第113図	1トレンチ	20	272	(145)	-	Ⅳ	SK41	

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
13SD48	第114図	2トレンチ	27	70	-	Ⅳ	SD48	
13SD54	第113図	1トレンチ	20	26	-	Ⅳ	SD54	
13SD59	第113図	1トレンチ	12	13	-	Ⅳ	SD59	
13SD61	第113・116図	1トレンチ	18	24	白磁皿(第118図-3)	Ⅳ	SD61	
13SD67	第115図	3トレンチ	14	46	-	Ⅳ	SD49	
13SD77	第113図	1トレンチ	90	22	-	Ⅳ	-	
13SD79	第115図	3トレンチ	36	44	-	Ⅳ	SD79	
13SD99	第114図	2トレンチ	46	90	-	Ⅳ	SD99	

■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
13SKP01	第113図	1トレンチ	46	41	33	-	Ⅳ	01	
13SKP02	第113図	1トレンチ	65	36	30	-	Ⅳ	02	
13SKP03	第113図	1トレンチ	22	(20)	-	-	Ⅳ	03	
13SKP04	第113図	1トレンチ	35	(36)	-	-	Ⅳ	04	
13SKP05	第113図	1トレンチ	95	(26)	21	-	Ⅳ	05	
13SKP06	第113図	1トレンチ	22	23	17	-	Ⅳ	06	
13SKP07	第113図	1トレンチ	43	39	(18)	-	Ⅳ	07	
13SKP08	第113図	1トレンチ	92	(35)	-	-	Ⅳ	08	
13SKP09	第113図	1トレンチ	48	41	(25)	-	Ⅳ	09	
13SKP10	第113図	1トレンチ	55	79	59	-	Ⅳ	10	
13SKP11	第113図	1トレンチ	67	(50)	(30)	-	Ⅳ	11	
13SKP12	第113図	1トレンチ	31	(44)	44	-	Ⅳ	12	
13SKP13	第113図	1トレンチ	10	(39)	(25)	-	Ⅳ	13	
13SKP14	第113図	1トレンチ	33	(30)	(24)	-	Ⅳ	14	
13SKP15	第113図	1トレンチ	75	(42)	-	-	Ⅳ	15	
13SKP16	第113図	1トレンチ	25	28	24	-	Ⅳ	16	
13SKP17	第113図	1トレンチ	32	(49)	-	-	Ⅳ	17	整地層下より検出
13SKP19	第113図	1トレンチ	58	27	-	-	Ⅳ	18	
13SKP21	第113図	1トレンチ	41	63	42	-	Ⅳ	19	
13SKP22	第113図	1トレンチ	25	47	(45)	-	Ⅳ	22	
13SKP23	第113図	1トレンチ	29	(18)	(8)	-	Ⅳ	30	整地層下より検出
13SKP24	第113図	1トレンチ	51	29	-	-	Ⅳ	24	
13SKP25	第113図	1トレンチ	45	(38)	-	-	Ⅳ	25	
13SKP26	第113図	1トレンチ	64	54	(31)	-	Ⅳ	26	
13SKP27	第113図	1トレンチ	43	27	25	-	Ⅳ	27	
13SKP28	第113図	1トレンチ	93	(49)	(30)	-	Ⅳ	-	
13SKP29	第113図	1トレンチ	24	52	(38)	-	Ⅳ	-	
13SKP30	第113図	1トレンチ	29	30	(26)	-	Ⅳ	30	
13SKP31	第113図	1トレンチ	30	40	(29)	-	Ⅳ	30	
13SKP32	第113図	1トレンチ	38	18	16	-	Ⅳ	-	整地層下より検出
13SKP34	第113図	1トレンチ	10	(24)	-	-	Ⅳ	-	整地層下より検出
13SKP35	第113図	1トレンチ	76	(25)	-	-	Ⅳ	-	整地層下より検出
13SKP36	第113図	1トレンチ	20	(39)	-	-	Ⅳ	-	整地層下より検出
13SKP37	第113図	1トレンチ	70	(45)	-	-	Ⅳ	37	
13SKP38	第113図	1トレンチ	58	46	45	-	Ⅳ	38	
13SKP39	第113図	1トレンチ	71	51	45	-	Ⅳ	39	
13SKP42	第113図	1トレンチ	74	(30)	(24)	-	Ⅳ	42	
13SKP43	第113図	1トレンチ	91	33	25	-	Ⅳ	43	
13SKP44	第113図	1トレンチ	66	52	(41)	-	Ⅳ	44	
13SKP45	第113図	1トレンチ	27	37	(22)	-	Ⅳ	45	
13SKP46	第114図	2トレンチ	28	(32)	-	-	Ⅳ	46	
13SKP47	第115図	3トレンチ	39	(44)	-	-	Ⅳ	47	

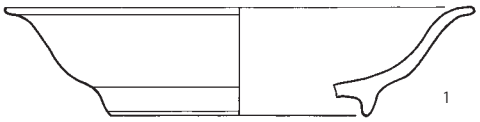
第37表　曲輪19（第13次調査）出土遺構一覧表②

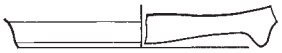
遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
13SKP49	第114図	2トレンチ	39	40	39	-	Ⅳ	49	
13SKP50	第113図	1トレンチ	29	33	27	-	Ⅳ	50	
13SKP51	第113図	1トレンチ	18	24	19	-	Ⅳ	51	
13SKP52	第115図	3トレンチ	42	(17)	-	-	Ⅳ	52	
13SKP53	第114図	2トレンチ	22	(18)	-	-	Ⅳ	-	
13SKP55	第113図	1トレンチ	80	50	49	-	Ⅳ	55	
13SKP56	第113図	1トレンチ	51	46	41	-	Ⅳ	42	
13SKP57	第113図	1トレンチ	21	38	30	-	Ⅳ	57	
13SKP58	第113図	1トレンチ	29	52	(40)	-	Ⅳ	58	
13SKP60	第114図	2トレンチ	22	(39)	-	-	Ⅳ	-	
13SKP63	第113図	1トレンチ	9	(28)	-	-	Ⅳ	63	
13SKP64	第113図	1トレンチ	50	(45)	(36)	-	Ⅳ	64	
13SKP65	第113図	1トレンチ	32	(37)	(30)	-	Ⅳ	65	
13SKP66	第113図	1トレンチ	87	28	(24)	-	Ⅳ	66	
13SKP68	第113図	1トレンチ	24	(31)	-	-	Ⅳ	68	
13SKP69	第113図	1トレンチ	41	(30)	-	-	Ⅳ	69	
13SKP70	第113図	1トレンチ	73	(45)	(32)	-	Ⅳ	70	
13SKP71	第113図	1トレンチ	29	(47)	(23)	-	Ⅳ	72	整地層下より検出
13SKP72	第113・116図	1トレンチ	18	(27)	-	-	Ⅳ	72	整地層下より検出
13SKP73	第113・116図	1トレンチ	15	(27)	-	-	Ⅳ	73	整地層下より検出
13SKP74	第113・116図	1トレンチ	69	(25)	21	-	Ⅳ	74	整地層下より検出
13SKP75	第113図	1トレンチ	78	(24)	-	-	Ⅳ	75	整地層下より検出
13SKP76	第113図	1トレンチ	61	52	42	-	Ⅳ	76	
13SKP78	第113図	1トレンチ	21	27	(25)	-	Ⅳ	78	
13SKP80	第115図	3トレンチ	46	34	(29)	-	Ⅳ	80	
13SKP81	第115図	3トレンチ	78	(44)	(42)	-	Ⅳ	81	
13SKP82	第115図	3トレンチ	66	30	(21)	-	Ⅳ	82	

■不明遺構

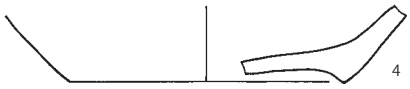
遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
13SX83	第115図	3トレンチ	20	(230)	-	Ⅳ	SX83	

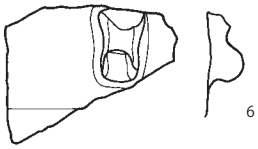
白磁

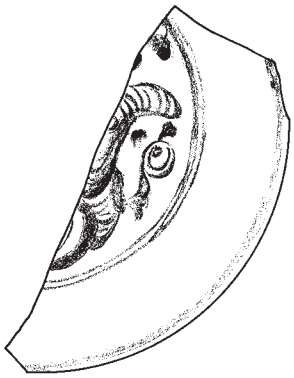




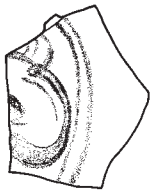
青磁

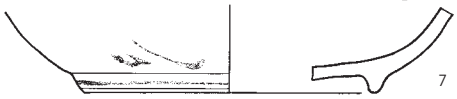


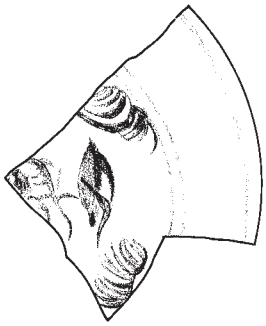


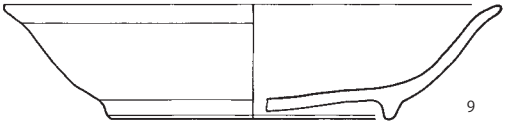


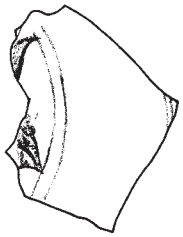
染付

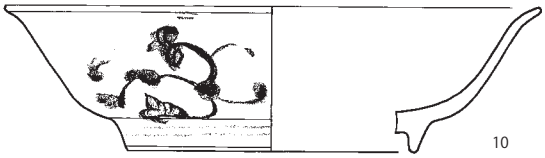










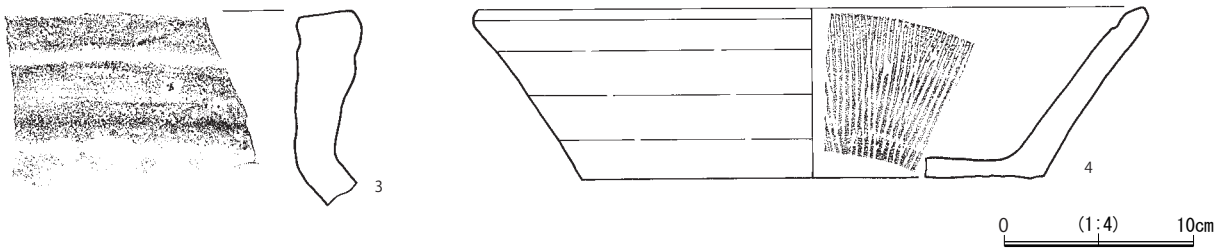


0　(1:2)　5cm

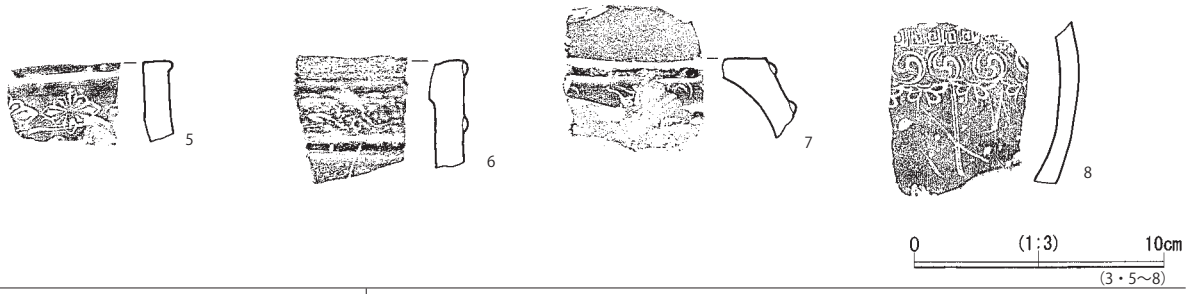
第118図　曲輪19（第13次調査）出土遺物①

瀬戸美濃

越前

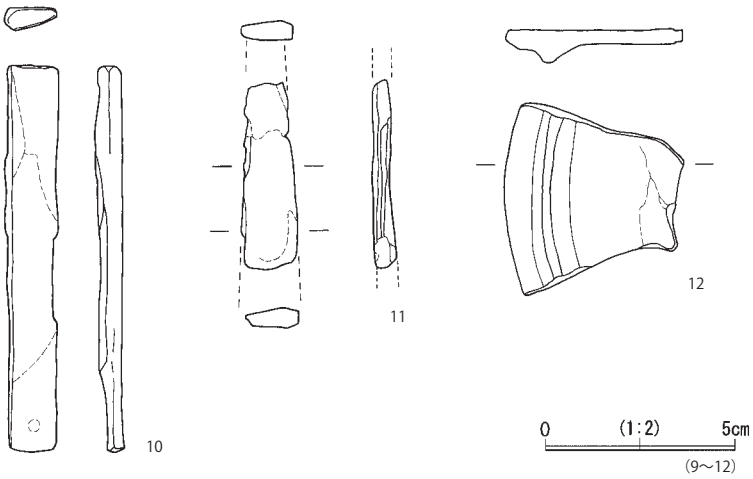


瓦質土器

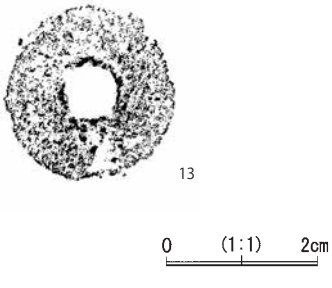


土製品

金属製品



銭貨



第119図　曲輪19（第13次調査）出土遺物②

第38表　曲輪19（第13次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
38	11	38	0	43	9	0	0	0	0	0	4	0	0	0	7	1	0	0	0	0	1	2	20	漆1

第39表　曲輪19（第13次調査）出土遺物観察表

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
118	1	33	白磁	皿	2トレンチ	-	(12.4)	(6.2)	2.8	15c後半～16c	Ⅳ	10	1	
118	2	33	白磁	皿	2トレンチ	-	-	(6.4)	(1.1)	-	Ⅳ	10	2	
118	3	33	白磁	皿	1トレンチ	13SD61	(18.6)	-	(2.8)	15c後半～16c	Ⅳ	10	3	
118	4	33	青磁	皿	1トレンチ	-	-	(7.2)	(2.0)	-	Ⅳ	10	4	
118	5	33	青磁	碗	1トレンチ	-	-	(7.4)	(2.0)	-	Ⅳ	10	5	
118	6	33	青磁	香炉	3トレンチ	-	-	-	(3.6)	-	Ⅳ	10	6	把手部
118	7	33	染付	皿	1トレンチ	-	-	(7.6)	(2.2)	15c後半～16c前半	Ⅳ	10	7	
118	8	33	染付	皿	2トレンチ	-	(13.0)	(7.4)	3.0	15c後半～16c前半	Ⅳ	10	8	
118	9	33	染付	皿	1トレンチ	-	(13.1)	(7.4)	3.0	15c後半～16c前半	Ⅳ	10	9	
118	10	33	染付	皿	1トレンチ	-	(14.2)	(7.6)	3.8	15c後半～16c前半	Ⅳ	10	10	
119	1	33	瀬戸美濃	皿	1トレンチ	-	(10.8)	-	(1.6)	15c後半～16c前半	Ⅳ	11	1	
119	2	33	瀬戸美濃	皿	3トレンチ	-	-	(7.0)	(1.0)	-	Ⅳ	11	2	
119	3	33	越前	甕	3トレンチ	-	-	-	(6.8)	-	Ⅳ	11	3	
119	4	33	越前	すり鉢	2トレンチ	-	(35.6)	(24.4)	9.0	-	Ⅳ	11	4	
119	5	33	瓦質土器	風炉	1トレンチ	-	-	-	(3.1)	-	Ⅳ	11	5	
119	6	33	瓦質土器	風炉	1トレンチ	-	-	-	(4.3)	-	Ⅳ	11	6	
119	7	33	瓦質土器	浅鉢	1トレンチ	-	-	-	(3.1)	-	Ⅳ	11	7	
119	8	33	瓦質土器	-	1トレンチ	-	-	-	(6.4)	-	Ⅳ	11	8	

■土製品・金属製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
119	9	33	土製品	不明	1トレンチ	-	-	-	(器高)(3.6)	-	Ⅳ	11	9	
119	10	33	金属製品	小柄	3トレンチ	-	(10.1)	1.4	0.7	-	-	-	-	銅製
119	11	33	金属製品	不明	1トレンチ	-	(4.9)	1.5	0.6	-	-	-	-	銅製
119	12	33	金属製品	茶釜	3トレンチ	-	(4.6)	(5.1)	0.4	-	-	-	-	鉄製
119	13	33	銭貨	-	-	-	2.35	-	-	-	Ⅳ	11	10	銭名不明

（７）曲輪20（第20次調査）

①曲輪20の立地と概要

曲輪20は内館地区北西端に位置する標高101ｍ前後の曲輪である。内館地区の曲輪では最も高所に位置する曲輪で、西側に道路跡である天下道が通るとともに、周囲を高さ1.5m～3.6mほどの土塁で囲われている。西側の土塁頂上部の標高は約105m、曲輪20からの比高差は約3.6m、西側の天下道からの比高差は約7.3mである。東側土塁の頂上部は約103m、曲輪20からの比高差約1.5m、東側の曲輪19からの比高差は約6.3mである。曲輪20の南東に位置する曲輪19とは平坦面で比高差が５ｍほどあり、東側土塁の収束する北側は緩傾斜によって結ばれるが、南側は土塁が存在するため急傾斜をもって曲輪19とつながる。

②検出遺構

曲輪20の調査では任意の大きさのトレンチ８か所を設定して行い、その結果、総計で掘立柱建物跡２棟、柱穴列・塀・柵跡３条、道路跡１条、柱穴跡60基、溝跡４条、不明遺構２基、盛土跡３か所、整地跡１か所が検出された。

各トレンチについて

【１トレンチ】

曲輪中央部の西側土塁下端部から、南北４ｍ×東西８ｍで設定した。遺構確認面はトレンチ西側で厚さ10cmの整地層と地山土であった。整地層上面での遺構確認が非常に困難であったため、ベルト状に掘り残して、地山にて遺構確認を行った。整地層は切土造成後の地表の高さを均一にするための補足造成の一種と考えられる。

【２・４トレンチ】

２トレンチは曲輪中央部に８ｍ×８ｍで設定した。遺構確認面は全面地山土であった。２トレンチ内で20SB01が検出され、その規模を特定することを目的として、東側に４トレンチを４ｍ×４ｍで設定した。遺構確認面はトレンチ南西隅で自然堆積の黒色土、その他は盛土であった。また、トレンチ南側に幅40cmのサブトレンチを設定した。

４トレンチ東側のほぼ全面で検出された。表土下２～４層及び６～８層が盛土である。トレンチ南西隅の表土直下には自然堆積の黒色土が検出され、緩やかに東に傾斜するとともに、その傾斜を覆い、４トレンチ南西隅の黒色土及び２トレンチの地山切土と標高を合わせるように盛土造成がなされている。

【３・７トレンチ】

３トレンチは南北３ｍ幅で土塁頂部平坦面全面に任意で設定した。遺構確認面は全面地山土であった。さらに土塁端部の構造を明らかにし、20SA48の広がりを明らかにするため、曲輪北端部に７トレンチを南北２ｍ×東西６ｍで設定した。遺構確認面は全面地山土であった。西側土塁においては３トレンチの土層断面観察より土塁の頂部平坦面は幅2.0mであった。

【５トレンチ】

５トレンチは東側土塁頂部に４ｍ×５ｍ、さらに曲輪20の平坦面と土塁の間に幅１ｍで設定した。遺構確認面は自然堆積の黒色土と地山土であった。東側土塁においては５トレンチの所見より土塁の頂部

平坦面は幅3.25mであった。自然堆積の黒色土である２層について、土壌サンプルを採取し、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、10世紀末～ 11世紀前半（calAD995 ～ calAD1,035）の年代が示された。そのため、内館地区での縄張り以前の堆積層であることが明確となった。

【６トレンチ】

６トレンチは曲輪20北端部に２ｍ×４ｍを設定した。遺構確認面は全面盛土であり、東西にそれぞれ幅60cm、30cmのサブトレンチを設定した。

【８トレンチ】

８トレンチは曲輪20北端部での城内通路の確認を目的として２ｍ×２ｍで、現地形が若干落ち込む曲輪20北東部に設定した。本地点は東側土塁が収束し、緩傾斜で東側に位置する曲輪19へ至る。さらに曲輪平坦面よりやや標高が低くなっており、さらに北側は急傾斜の斜面となる。曲輪19と曲輪20を結ぶ城内通路が存在した可能性が最も高い地点であった。遺構確認面は全面盛土であった。

20SB01掘立柱建物跡（第123・124・128図）

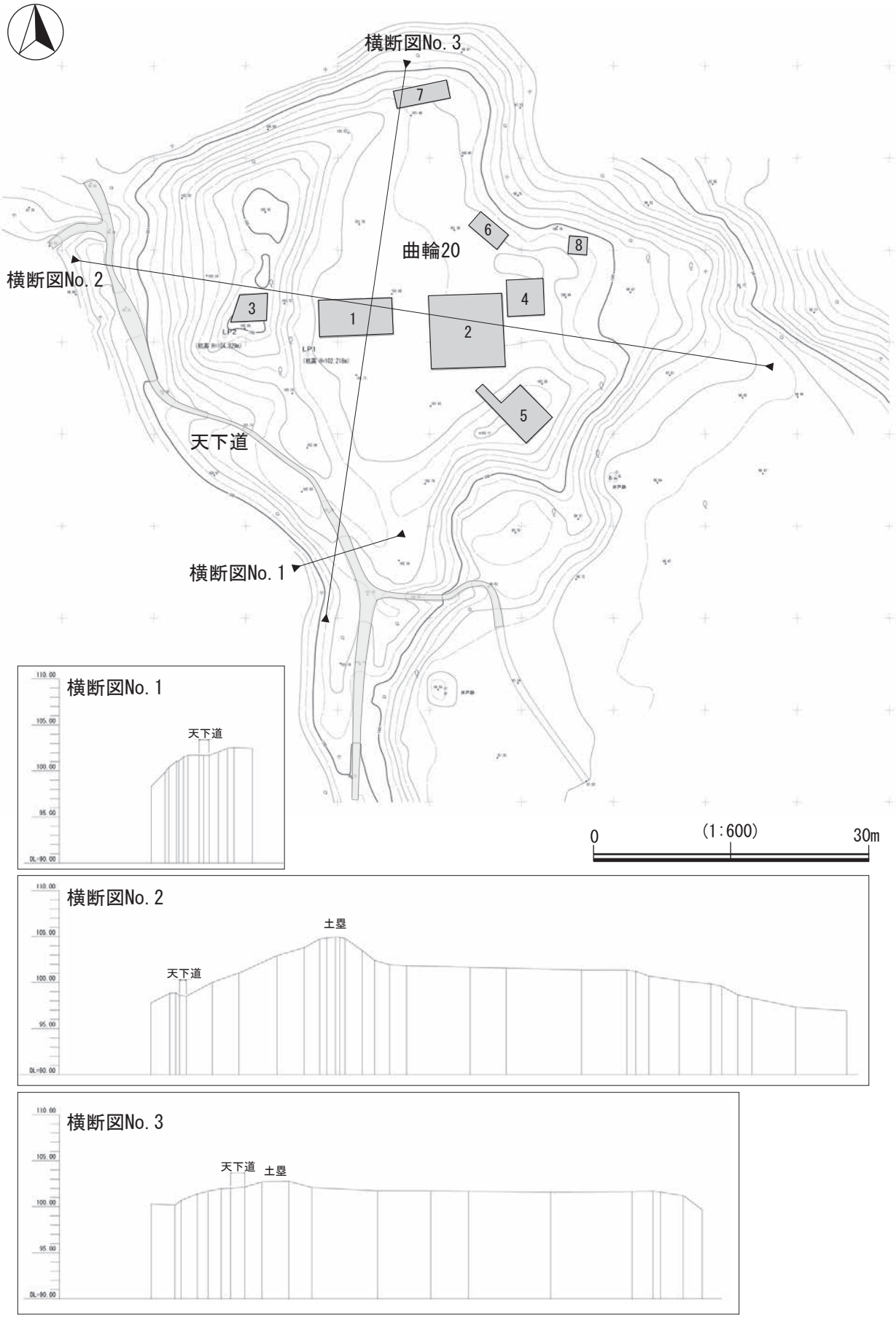
２トレンチ及び４トレンチ内で検出された。Ｐ１～ P14及びSD15 ～ 19で構成され、確認された規模は３間×４間である。軸線方向はN－45°－Eである。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。特殊な構造の建物跡で、Ｐ３、Ｐ６、Ｐ７、Ｐ８、Ｐ５を幅22cm、深さ4.3cmのSD15が逆コの字状に結び、それと対称にP11、P10を幅22cm、深さ8.2cmのSD16がコの字状に結ぶ。さらにP12及びP13 もそれぞれSD18とSD19がSD16によって連結される。また、Ｐ３、Ｐ６、Ｐ７、P10から上面が平らな幅15 ～ 25cmの礫が検出された。それぞれの礫の上面での標高は101.186m、101.196m、101.210m、101.218mと近似した高さを示し、礎石であると判断した。さらにＰ１、Ｐ２、Ｐ４、Ｐ５、Ｐ８内からも小礫が検出された。これらのピットと溝跡は切り合い関係が確認できず、その検出状況から考えても非常に関連性が高いと判断され、同一の建物跡として判断した。各柱間は同一軸線上に並ばない柱穴も見られるが、東西軸2.10mはほぼ統一される。南北軸の柱間は南から1.12 ～ 1.20m、1.40m、1.32 ～ 1.36m、1.92 ～ 1.94mとなり、尺寸で表記すると、東西７尺、南北３尺７寸～６尺３寸（１尺=0.303cmで換算）の柱間寸法を持つ建物跡となる。

20SB21掘立柱建物跡（第122・127図）

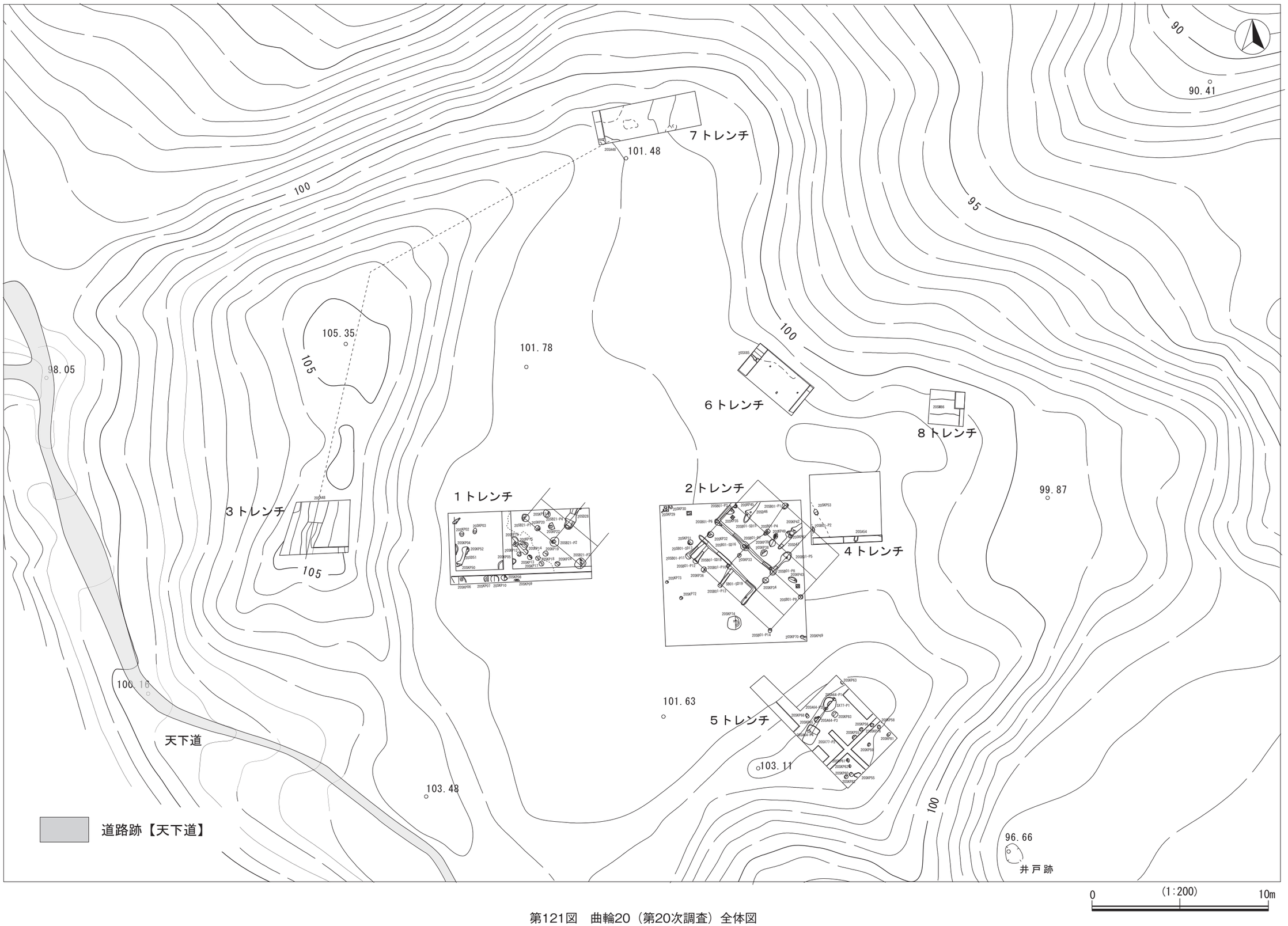
１トレンチで検出された。Ｐ１～Ｐ４で構成され、確認された規模は２間×１間であるが、調査区外にのびる可能性が高い。軸線方向はN－39°－Eである。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。確認された柱間はＰ１－Ｐ２が2.10m、Ｐ２－Ｐ３が2.10m、Ｐ２－Ｐ４が1.40mとなり、尺寸で表記すると、東西７尺、南北４尺７寸（１尺=0.303cmで換算）の柱間寸法を持つ建物跡となる。遺物は、Ｐ２のほぼ底面より15世紀後半～ 16世紀前半代の染付皿（第130図－４）が出土し、さらにＰ３内から同一個体と考えられる15世紀後半～ 16世紀代の白磁皿２点（第130図－１・２）と不明の金属片が出土した。Ｐ３の白磁と同様の位置及び高さで炭化物が検出され、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、15世紀前半～中頃（calAD1,415 ～ calAD1,434）の年代が示された。出土陶磁器の年代も合わせて検討すると、15世紀後半～ 16世紀前半代以降の建物跡であることが考えられる。

20SA48塀跡（第124・126図）

３トレンチ及び７トレンチで検出された溝状の遺構である。３トレンチではトレンチ中央部を南北

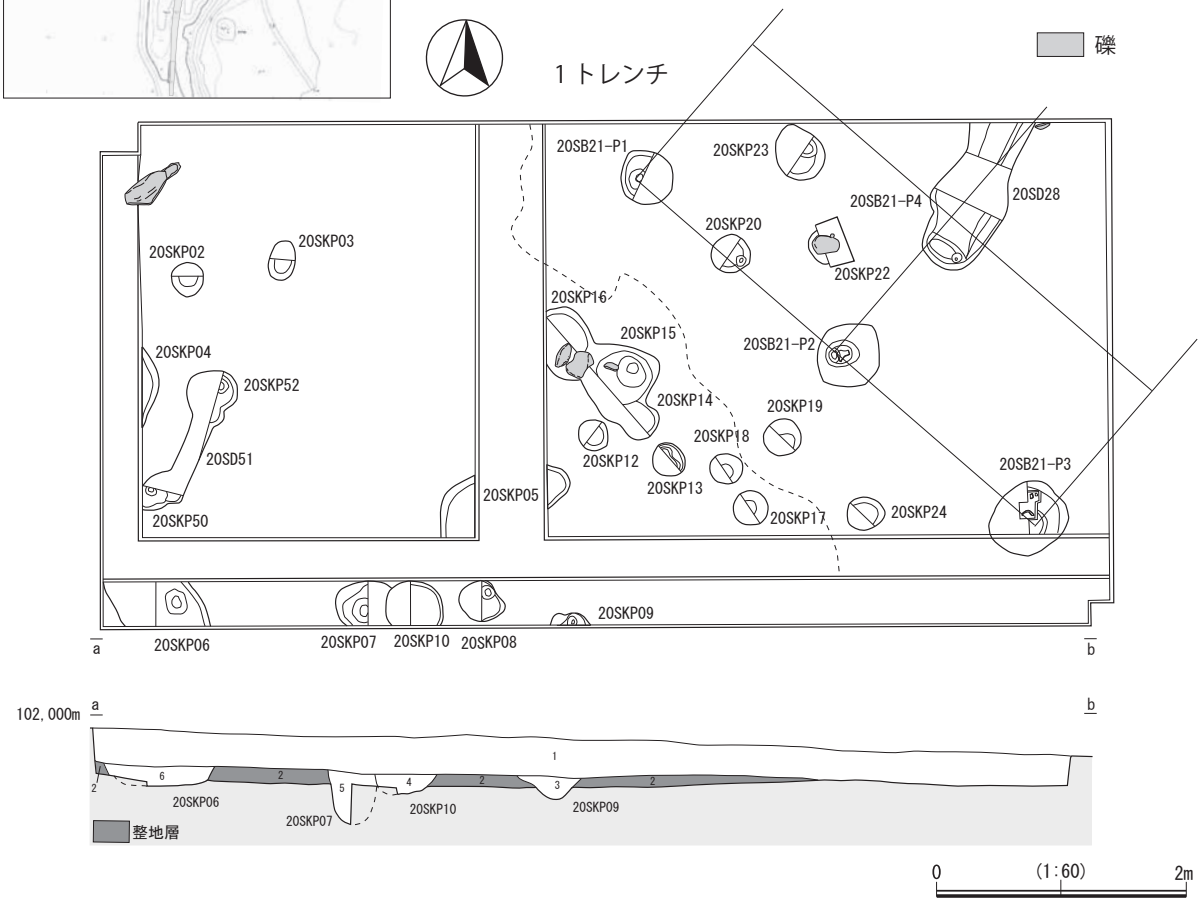


第120図　曲輪20（第20次調査）トレンチ配置図と周辺地形横断図



第121図　曲輪20（第20次調査）全体図

1トレンチ　a-b土層注記
1. 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物少量　鉄分少量　植物の根が多くボソボソしている［表土］
2. 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分中量　［整地層］
3. にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト　しまり中　地山土小ブロック・炭化物少量　鉄分中量［20SKP09］
4. 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量[20SKP10]
5. 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量［20SKP07］
6. にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　しまり強　地山土小ブロック多量　炭化物少量　鉄分微量［20SKP06］

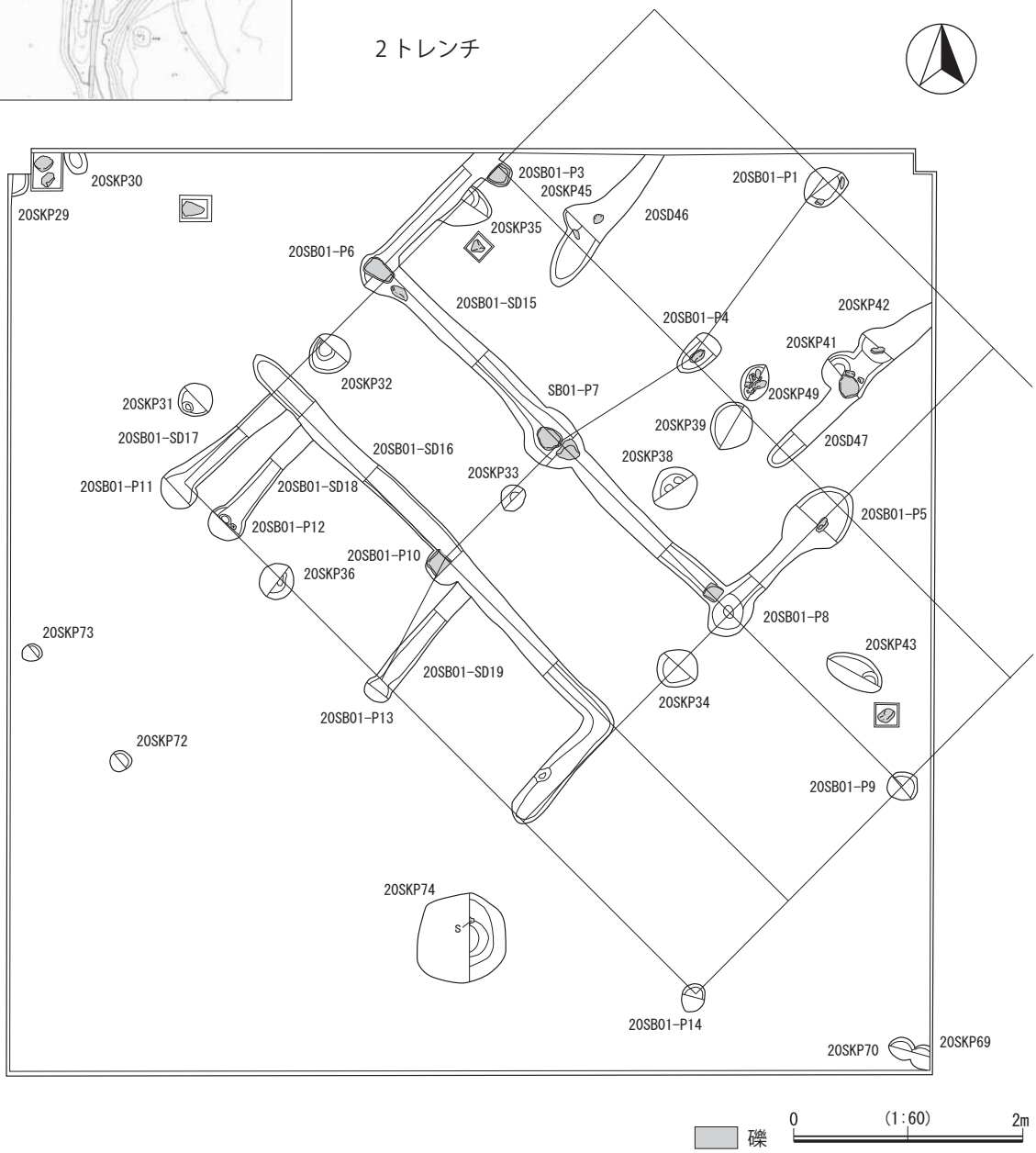


第122図　１トレンチ平面図・断面図

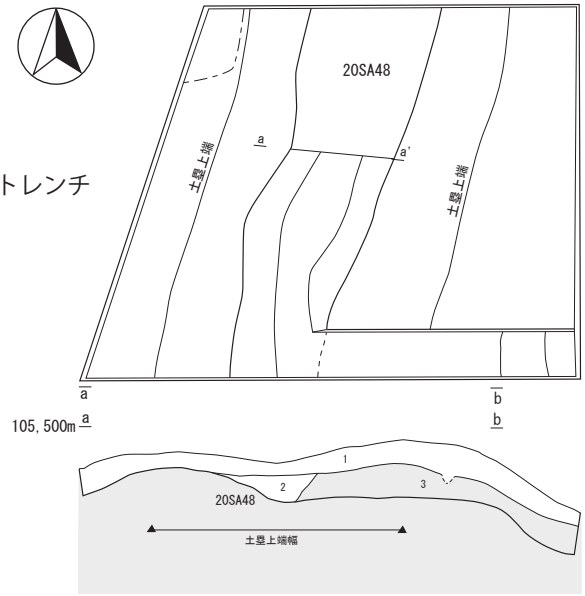
に幅84cm、深さ6.0 ～ 22cmで、７トレンチでは一部のみ検出されたため、幅は不明であるが、深さ40.0cmであった。内館地区の過去の調査においても土塁上で布堀の溝跡が検出されており（男鹿市教育委員会2004・2010）、土塁上に塀状の構築物が巡らされていたことが明らかとなっている。そのため、本遺構も塀跡として位置付けた。３トレンチでは非常に浅い部分も見られるが、土塁頂上部は崩落が著しく、現地形でも攪乱が多く見られるため、本来はさらに深いものであったことが推測される。

20SA54柵跡（第124図）

４トレンチ内サブトレンチの盛土内で検出された。幅21cm、深さ21.0cmで、覆土は地山土小ブロックを多量に含んだもので、盛土下層の堆積土をわずかに掘り込む。盛土造成初期の造成痕跡であると判



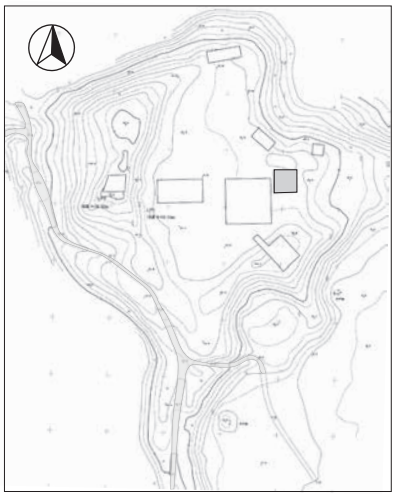
第123図　２トレンチ平面図・断面図

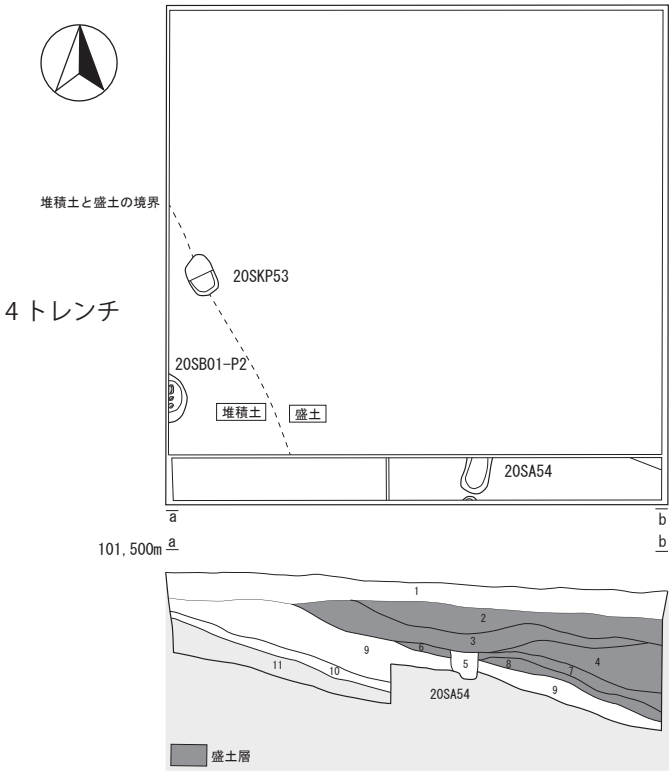


3トレンチ　a-b土層注記

1. 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや弱　地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量［表土］
2. にぶい黄褐色(10YR4/3）シルト　しまり中　地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量［20SA48］
3. 黄褐色（10YR5/8）シルト～砂　しまりやや弱［地山］

0　(1:60)　2m



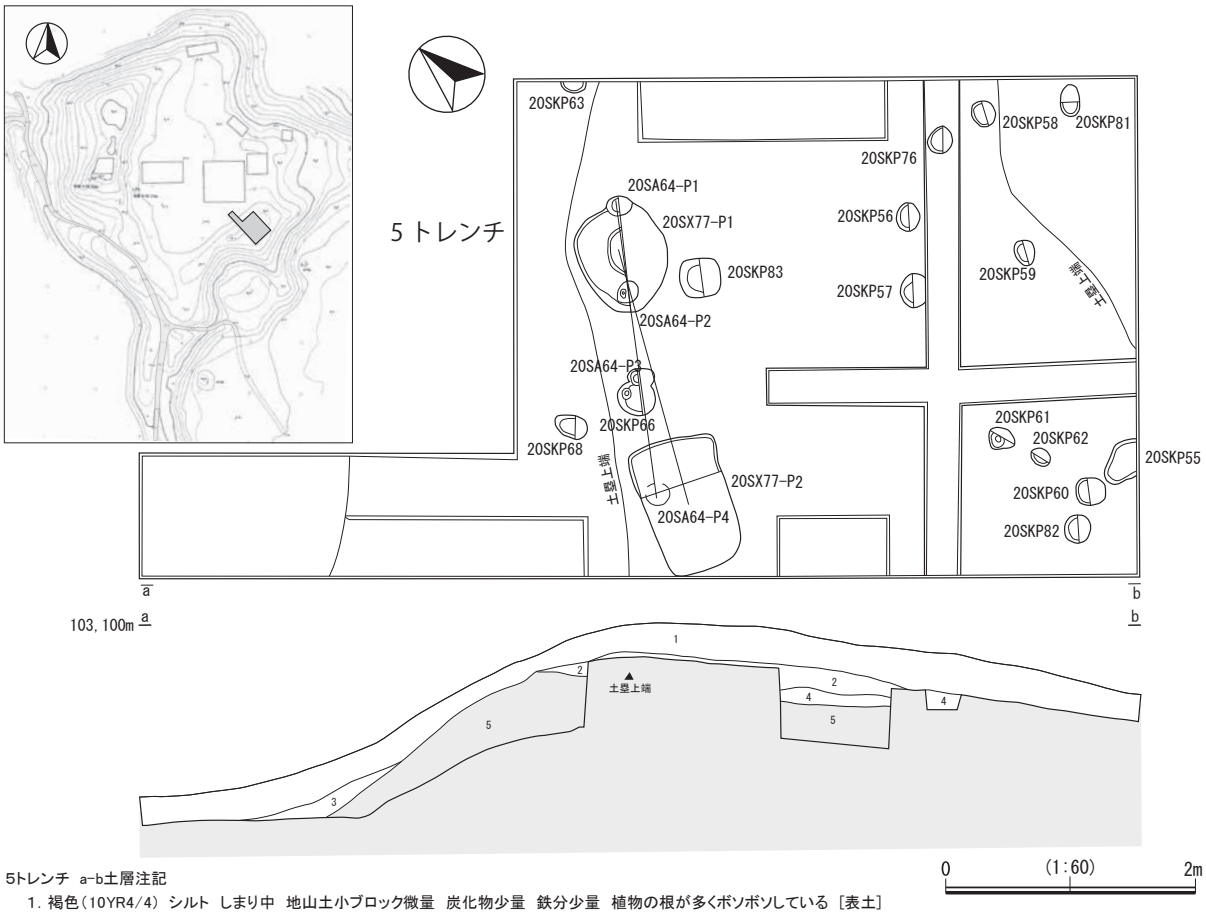


4トレンチ　a-b土層注記

1. 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや弱　地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量［表土］
2. 明黄褐色（10YR6/6）シルト　やや強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分微量［盛土］
3. にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量［盛土］
4. 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量［盛土］
5. にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　しまり強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分微量［20SA54］
6. 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分微量［盛土］
7. 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまり強　地山土小ブロック多量　炭化物少量　鉄分微量［盛土］
8. 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまり中　地山土小ブロック少量　炭化物微量［盛土］
9. 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまりやや強　鉄分少量［自然堆積土］
10. 暗褐色（10YR3/4）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物微量　鉄分少量［地山漸移層］
11. 黄褐色（10YR5/8）シルト　しまり強　地山土主体層［地山］

礫　0　(1:60)　2m

第124図　３・４トレンチ平面図・断面図

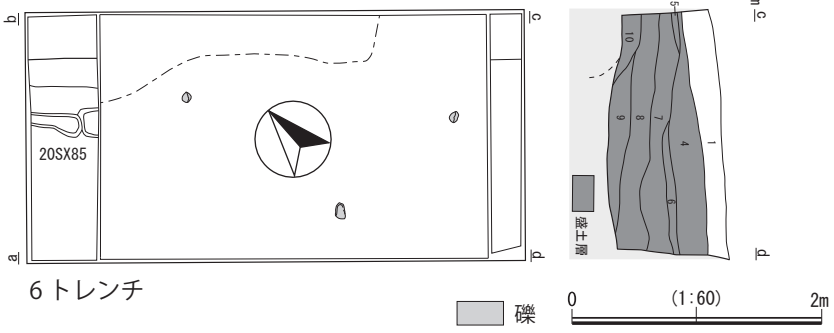


5トレンチ　a-b土層注記

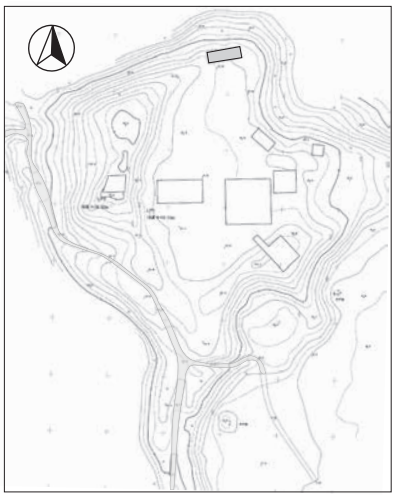
1. 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物少量　鉄分少量　植物の根が多くボソボソしている［表土］
2. 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　地山土粒子・炭化物・鉄分少量［自然堆積土］
3. 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック少量　炭化物微量　鉄分少量［崩落土］
4. 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物微量　鉄分少量［地山漸移層］
5. 黄褐色（10YR5/8）シルト　しまりやや強［地山］

6トレンチ　a-b／c-d土層注記

1. 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物少量　鉄分少量　植物の根が多くボソボソしている［表土］
2. 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量［盛土］
3. 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分少量［盛土］
4. 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量［盛土］
5. 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　地山土粒子少量　地山土小ブロック・鉄分微量［盛土］
6. 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分微量［盛土］
7. 褐色（10YR4/6）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分微量［盛土］
8. 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物微量　鉄分少量［盛土］
9. 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物微量　鉄分少量［盛土］
10. 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック少量　炭化物・鉄分微量［盛土］
11. 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物微量　鉄分少量［20SKP84］
12. 黒褐色（10YR3/2）シルト　しまり中　地山土粒子少量　炭化物・鉄分微量［20SKP84］
13. 黒色（10YR2/1）シルト　しまりやや強　地山土粒子少量　炭化物微量　鉄分少量［20SX85］
14. 黒褐色（10YR2/2）シルト　しまりやや強　地山土粒子・炭化物・鉄分微量［20SX85］
15. 黄褐色（10YR5/8）シルト　しまり強［地山］

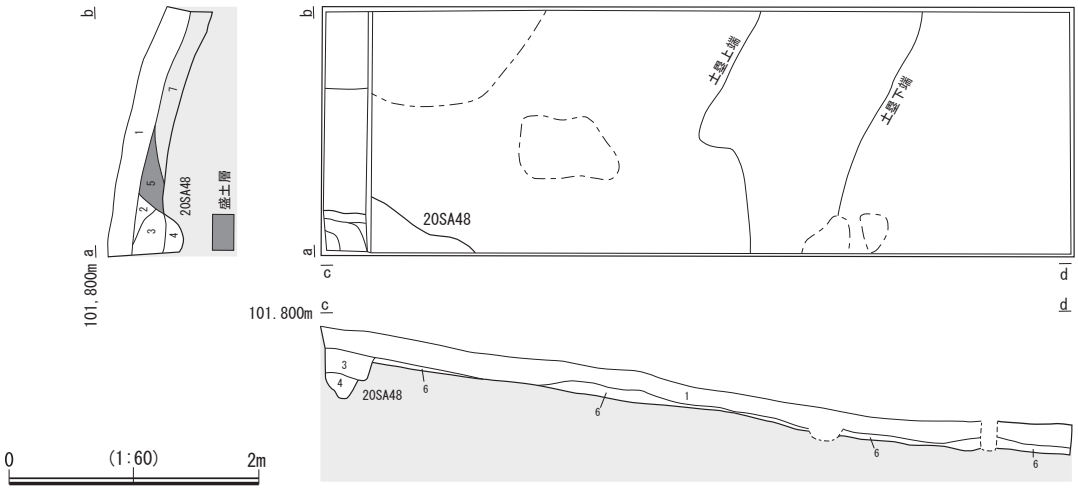


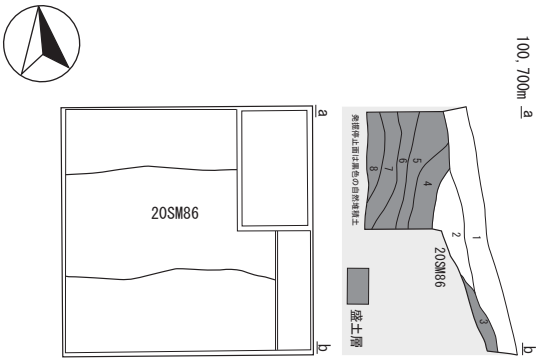
第125図　5・6トレンチ平面図・断面図



7トレンチ　a-b／c-d土層注記
1. 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物少量　鉄分少量　植物の根が多く
ボソボソしている［表土］
2. にぶい黄褐色(10YR4/3）シルト　しまり中　地山土小ブロック多量　炭化物微量　鉄分少量［20SA48］
3. 黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりやや強　地山土粒子中量　地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量［20SA48］
4. 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物・鉄分少量［20SA48］
5. 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物中量　鉄分少量［盛土］
6. 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物微量　鉄分少量［地山漸移層］
7. 地山土

7トレンチ

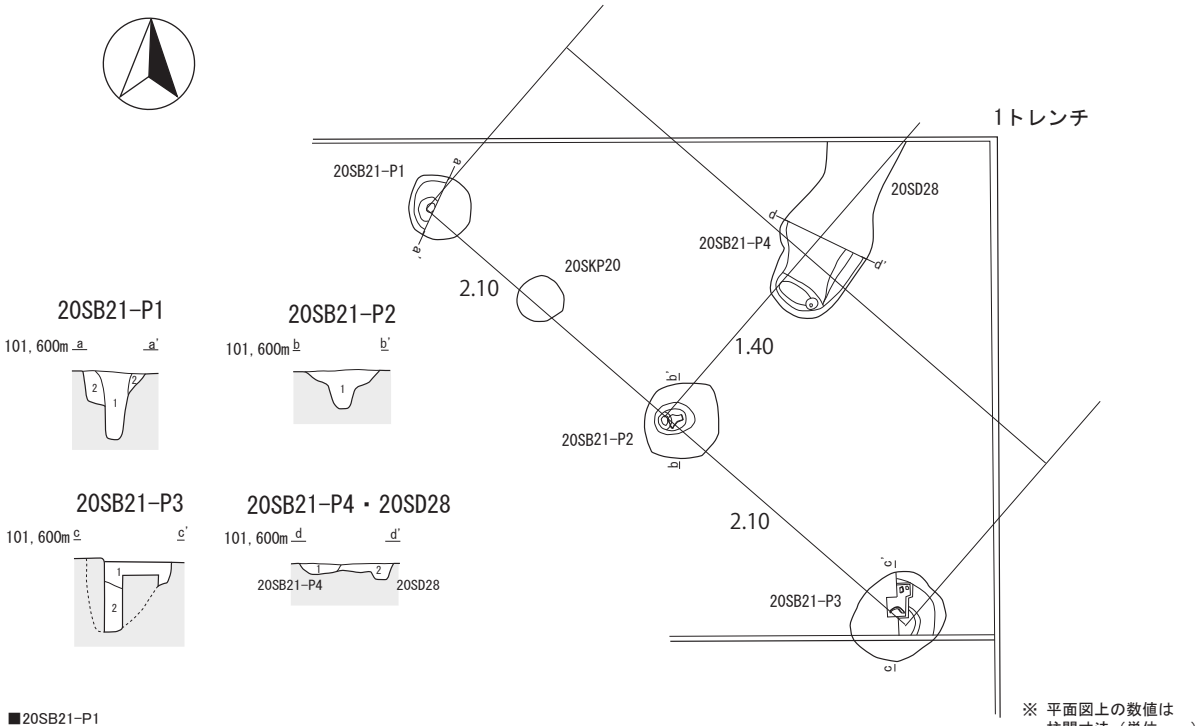




8トレンチ

8トレンチ　a-b／c-d土層注記
1. 褐色（10YR4/4）シルト　しまり中　地山土小ブロック微量　炭化物少量　鉄分少量　植物の根が多く
ボソボソしている［表土］
2. 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物少量　鉄分中量［20SM86］
3. にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　鉄分少量［盛土］
4. 褐色（10YR4/4）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量［盛土］
5. 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック少量　炭化物微量　鉄分少量［盛土］
6. にぶい黄褐色(10YR4/3）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量［盛土］
7. 暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック少量　炭化物・鉄分少量［盛土］
8. 黄褐色（10YR5/6）シルト　しまりやや強　地山土小ブロック多量　鉄分微量［盛土］

第126図　７・８トレンチ平面図・断面図



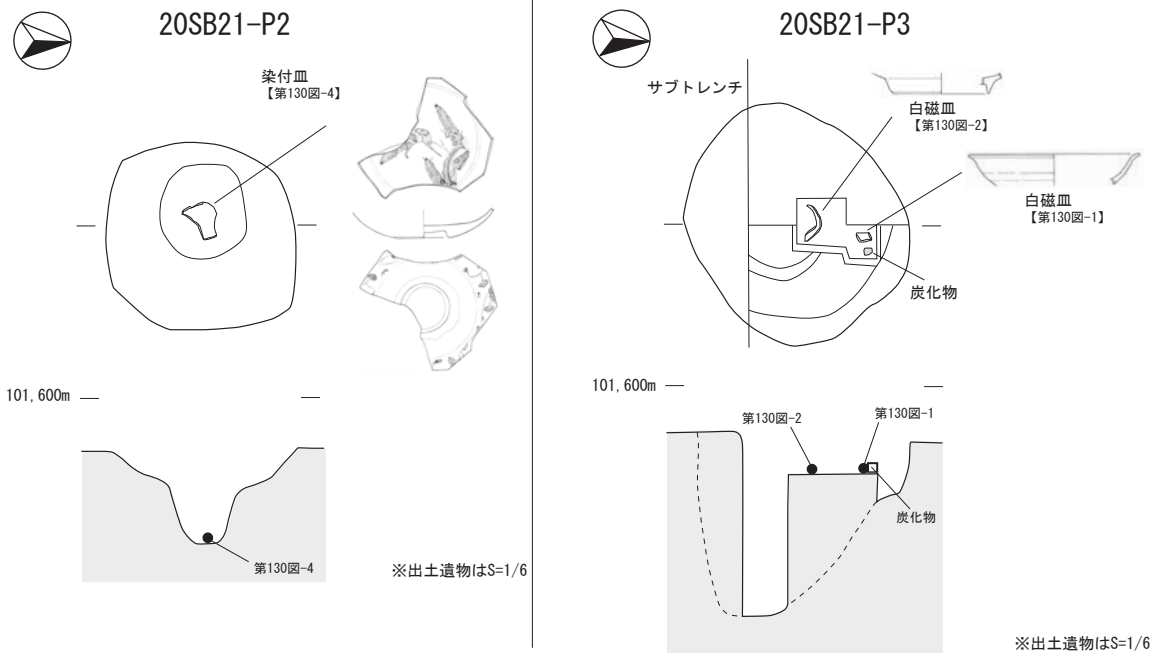
■20SB21-P1
1. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物微量 鉄分少量 [20SB21-P1]
2. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック多量 鉄分少量 [20SB21-P1]

■20SB21-P2
1. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量 [20SB21-P2]

■20SB21-P3
1. 暗褐色(10YR3/3) シルト しまりやや強 地山土小ブロック・炭化物・鉄分少量 [20SB21-P3]
2. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック・鉄分少量 [20SB21-P3]

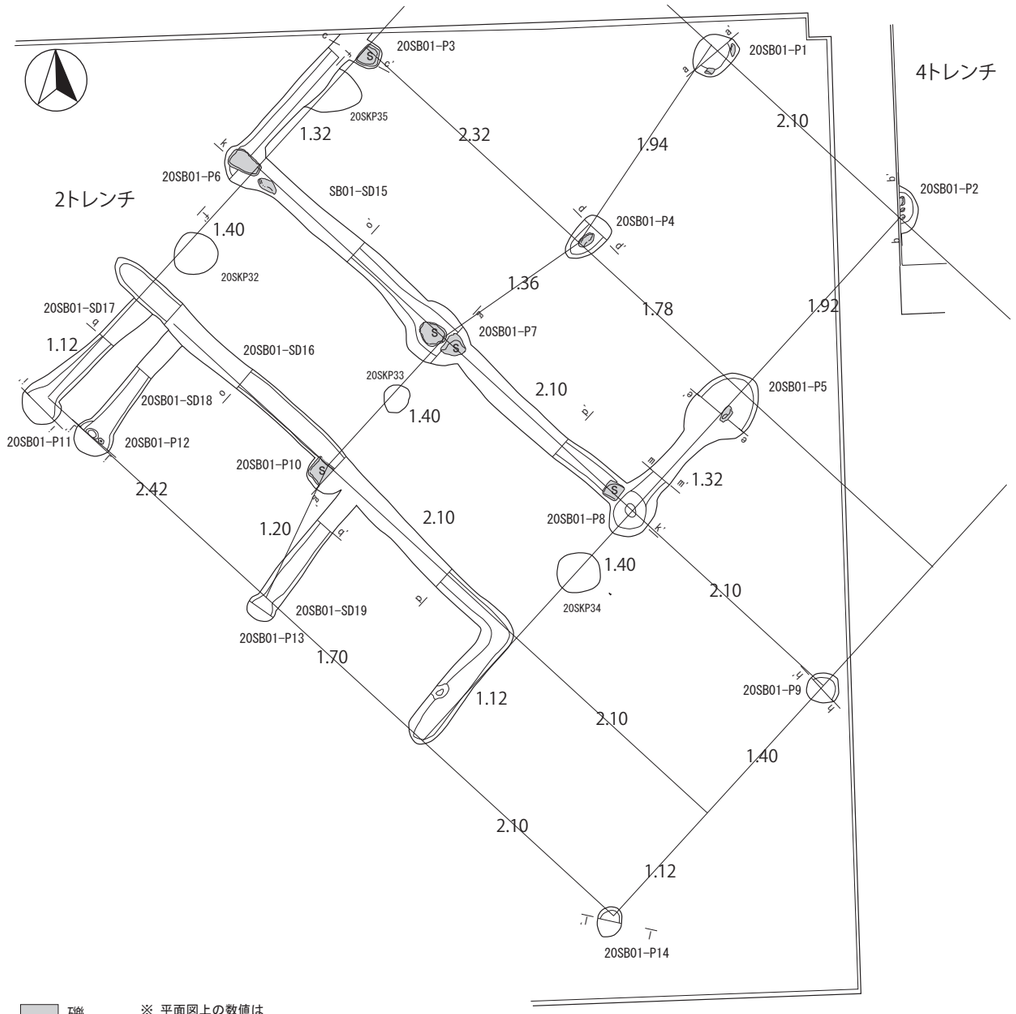
■20SB21-P4/SD28
1. 暗褐色(10YR3/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物微量 鉄分少量 [20SB21-P4]
2. 褐色(10YR4/6) シルト しまり中 地山土小ブロック中量 鉄分少量 [20SD28]

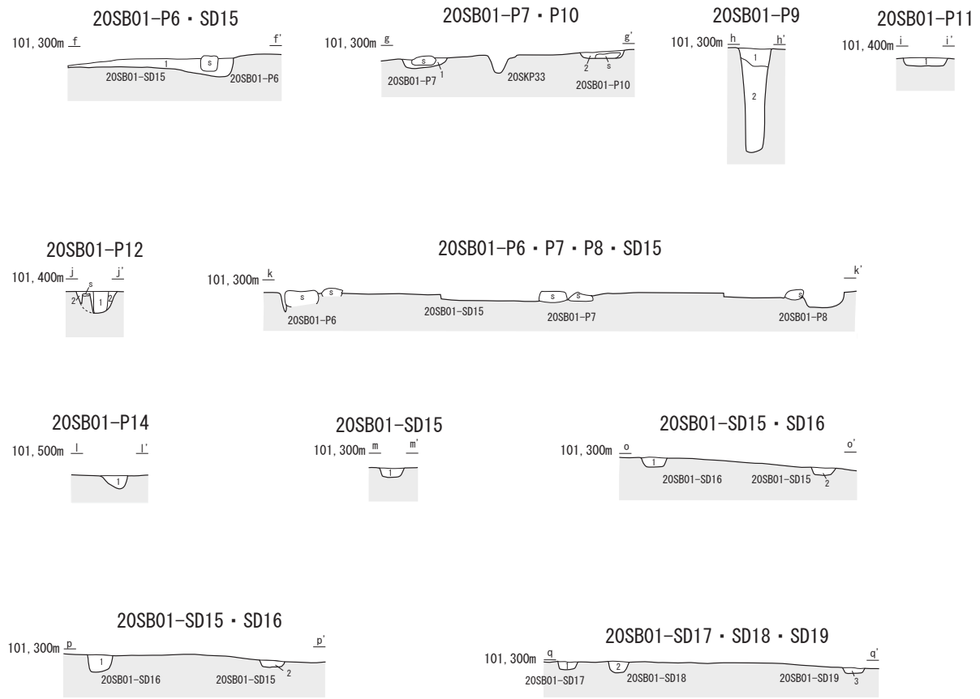
0 (1:50) 2m

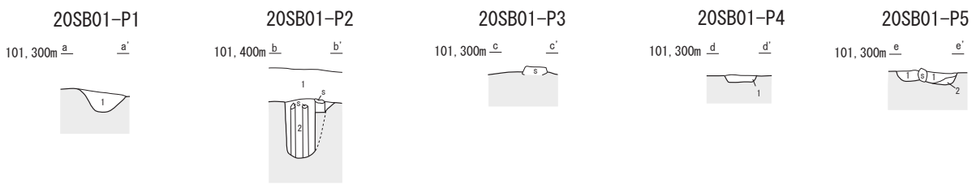


0 (1:20) 50cm

第127図　20SB21







■20SB01-P1
1. 褐色(10YR4/6) シルト しまり中 地山土小ブロック・少量 [20SB01-P1]

■20SB01-P2
1. 表土
2. 暗褐色(10YR3/4) シルト しまり中 地山土小ブロック・鉄分少量 [20SB01-P2]

■20SB01-P4
1. 褐色(10YR4/6) シルト しまりやや強 地山土小ブロック・鉄分少量 [20SB01-P4]

■20SB01-P5
1. 褐色(10YR4/6) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物・鉄分微量 [20SB01-P5]
2. 黄褐色(10YR5/6) シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 鉄分少量 [20SB01-P5]

■20SB01-P6・SD15
1. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 炭化物微量 鉄分少量 [20SB01-P6・SD15]

■20SB01-P7・P10
1. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック・鉄分少量 [20SB01-P7]
2. 褐色(10YR4/6) しまりやや強 地山土小ブロック・鉄分少量 [20SB01-P10]

■20SB01-P9
1. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 炭化物・鉄分微量 [20SB01-P9]
2. 黄褐色(10YR5/6) シルト 弱 地山土小ブロック中量 鉄分微量 [20SB01-P9]

■20SB01-P11
1. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 地山土小ブロック・炭化物少量 鉄分微量 [20SB01-P11]

■20SB01-P12
1. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック・炭化物少量 [20SB01-P12柱痕]
2. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 鉄分微量 [20SB01-P12]

■20SB01-P14
1. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまり中 地山土小ブロック・鉄分少量 [20SB01-P14]

■20SB01-SD15
1. 褐色(10YR4/6) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 鉄分微量 [20SB01-SD15]

■20SB01-SD15・SD16(o-o')
1. 褐色(10YR4/6) シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 鉄分少量 [20SB01-SD16]
2. 褐色(10YR4/6) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 鉄分微量 [20SB01-SD15]

■20SB01-SD15・SD16(p-p')
1. 褐色(10YR4/6) シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 [20SB01-SD16]
2. 褐色(10YR4/6) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 鉄分微量 [20SB01-SD15]

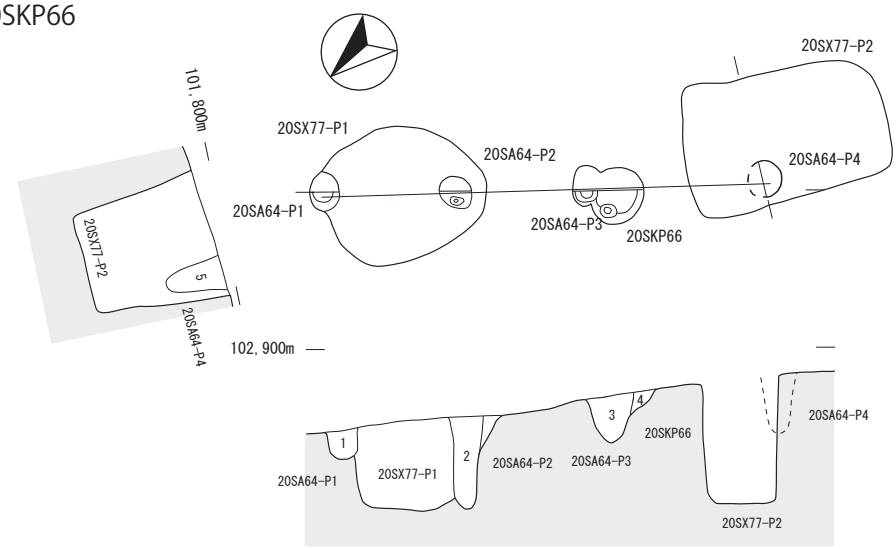
■20SB01-SD17・SD18・SD19
1. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック中量 鉄分少量 [20SB01-SD17]
2. 褐色(10YR4/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 鉄分微量 [20SB01-SD18]
3. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまりやや強 地山土小ブロック少量 鉄分微量 [20SB01-SD19]

第128図　20SB01

20SKP09

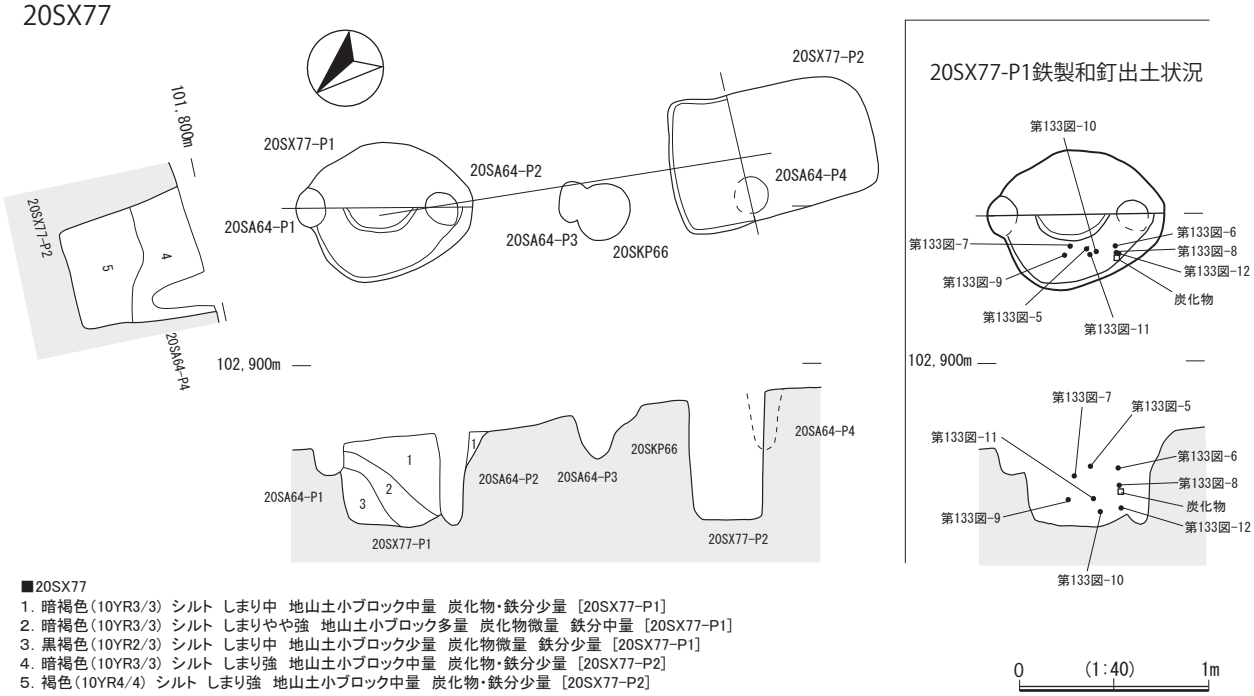
■20SKP09
1. にぶい黄褐色（10YR4/3） シルト しまり中　地山土小ブロック・炭化物少量　鉄分中量［20SKP09］

20SA64・20SKP66



■20SA64/20SKP66
1. 暗褐色（10YR3/3） シルト しまりやや強　地山土小ブロック少量　炭化物微量　鉄分少量［20SA64-P1］
2. 暗褐色（10YR3/3） シルト しまりやや強　地山土小ブロック少量　炭化物微量　鉄分少量［20SA64-P2］
3. 褐色（10YR4/4） シルト しまり強　地山土小ブロック少量　炭化物微量　鉄分少量［20SA64-P3］
4. 褐色（10YR4/4） シルト しまりやや強　地山土小ブロック中量　鉄分少量［20SKP66］
5. 暗褐色（10YR3/4） シルト しまりやや強　地山土小ブロック少量　炭化物微量　鉄分少量［20SA64-P4］

20SX77



■20SX77
1. 暗褐色（10YR3/3） シルト しまり中　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量［20SX77-P1］
2. 暗褐色（10YR3/3） シルト しまりやや強　地山土小ブロック多量　炭化物微量　鉄分中量［20SX77-P1］
3. 黒褐色（10YR2/3） シルト しまり中　地山土小ブロック少量　炭化物微量　鉄分少量［20SX77-P1］
4. 暗褐色（10YR3/3） シルト しまり強　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量［20SX77-P2］
5. 褐色（10YR4/4） シルト しまり強　地山土小ブロック中量　炭化物・鉄分少量［20SX77-P2］

第129図　20SKP09・20SA64・20SX77

第40表　曲輪20（第20次調査）遺構一覧表①

■掘立柱建物跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	建物方位	概報	概報遺構番号	備考
20SB01-P1	第123図 第124図 第128図	2トレンチ	15	40	30	-	N45E	Ⅶ	SB01-P1	
20SB01-P2		4トレンチ	40	39	-			Ⅶ	SB01-P2	
20SB01-P3		2トレンチ	-	21	-			Ⅶ	SB01-P3	
20SB01-P4		2トレンチ	4	40	29			Ⅶ	SB01-P4	
20SB01-P5		2トレンチ	9	69	50			Ⅶ	SB01-P5	
20SB01-P6		2トレンチ	16	36	-			Ⅶ	SB01-P6	
20SB01-P7		2トレンチ	6	46	-			Ⅶ	SB01-P7	
20SB01-P8		2トレンチ	8	40	-			Ⅶ	SB01-P8	
20SB01-P9		2トレンチ	84	27	26			Ⅶ	SB01-P9	
20SB01-P10		2トレンチ	4	46	44			Ⅶ	SB01-P10	
20SB01-P11		2トレンチ	7		-			Ⅶ	SB01-P11	
20SB01-P12		2トレンチ	18	34	-			Ⅶ	SB01-P12	
20SB01-P13		2トレンチ	11	24	-			Ⅶ	SB01-P13	
20SB01-P14		2トレンチ	14	25	19			Ⅶ	SB01-P14	
20SB01-SD15		2トレンチ	4	22	-			Ⅶ	SB01-SD15	
20SB01-SD16		2トレンチ	8	22	-			Ⅶ	SB01-SD16	
20SB01-SD17		2トレンチ	4	20	-			Ⅶ	SB01-SD17	
20SB01-SD18		2トレンチ	8	20	-			Ⅶ	SB01-SD18	
20SB01-SD19		2トレンチ	11	20	-			Ⅶ	SB01-SD19	
20SB21-P1	第122図 第127図	1トレンチ	44	43	41	-	N39E	Ⅶ	SB21-P1	
20SB21-P2		1トレンチ	410	51	49	白磁皿 (第130図-1・2)		Ⅶ	SB21-P2	
20SB21-P3		1トレンチ	54	63	60	染付皿 (第130図-4)		Ⅶ	SB21-P3	
20SB21-P4		1トレンチ	7	-	-	-		Ⅶ	SB21-P4	

■柱穴列・塀・塀跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
20SA48	第124図	3トレンチ	6	84	-	-	Ⅶ	SA48-3トレンチ	
	第126図	7トレンチ	40	-	-	-	Ⅶ	SA48-7トレンチ	
20SA54	第124図	4トレンチ	21	21	-	-	Ⅶ	SA54	
20SA64-P1	第125図	5トレンチ	15	22	21	-	Ⅶ	SA64-P1	
20SA64-P2		5トレンチ	48	18	16	-	Ⅶ	SA64-P2	
20SA64-P3		5トレンチ	24	24	22	-	Ⅶ	SA64-P3	
20SA64-P4		5トレンチ	30	18	-	-	Ⅶ	SA64-P4	

■道路跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
20SM86	第126図	8トレンチ	21	88	-	-	Ⅶ	SM86	

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
20SD28	第122図	1トレンチ	14	-	-	-	Ⅶ	SD28	
20SD46	第123図	2トレンチ	9	30	-	-	Ⅶ	SD46	
20SD47	第123図	2トレンチ	4	20	-	-	Ⅶ	SD47	
20SD51	第122図	1トレンチ	3	17	-	-	Ⅶ	SD51	

■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
20SKP02	第122図	1トレンチ	34	26	25	-	Ⅶ	SKP02	
20SKP03	第122図	1トレンチ	12	31	21	-	Ⅶ	SKP03	
20SKP04	第122図	1トレンチ	1	-	-	-	Ⅶ	SKP04	
20SKP05	第122図	1トレンチ	8	-	-	-	Ⅶ	SKP05	
20SKP06	第122図	1トレンチ	5	-	-	-	Ⅶ	SKP06	
20SKP07	第122図	1トレンチ	34	-	-	-	Ⅶ	SKP07	
20SKP08	第122図	1トレンチ	27	34	32	-	Ⅶ	SKP08	
20SKP09	第122図	1トレンチ	18	32	-	砥石(第132図-1)	Ⅶ	SKP09	
20SKP10	第122図	1トレンチ	6	45	-	-	Ⅶ	SKP10	
20SKP12	第122図	1トレンチ	12	25	24	-	Ⅶ	SKP12	
20SKP13	第122図	1トレンチ	6	28	25	-	Ⅶ	SKP13	
20SKP14	第122図	1トレンチ	10	29	-	-	Ⅶ	SKP14	
20SKP15	第122図	1トレンチ	26	61	-	-	Ⅶ	SKP15	
20SKP16	第122図	1トレンチ	14	56	-	-	Ⅶ	SKP16	
20SKP17	第122図	1トレンチ	53	29	27	-	Ⅶ	SKP17	
20SKP18	第122図	1トレンチ	45	26	25	-	Ⅶ	SKP18	
20SKP19	第122図	1トレンチ	16	29	28	-	Ⅶ	SKP19	

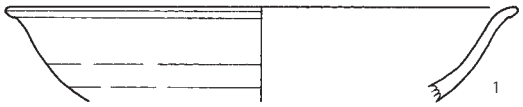
第41表　曲輪20（第20次調査）遺構一覧表②

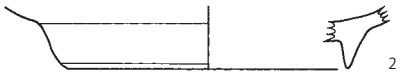
遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
20SKP20	第122図	1トレンチ	9	31	30	-	Ⅶ	SKP20	
20SKP22	第122図	1トレンチ	5	27	-	-	Ⅶ	SKP22	
20SKP23	第122図	1トレンチ	26	42	38	-	Ⅶ	SKP23	
20SKP24	第122図	1トレンチ	33	29	25	-	Ⅶ	SKP24	
20SKP29	第123図	2トレンチ	7	-	-	-	Ⅶ	SKP29	
20SKP30	第123図	2トレンチ	12	-	18	-	Ⅶ	SKP30	
20SKP31	第123図	2トレンチ	7	30	30	-	Ⅶ	SKP31	
20SKP32	第123図	2トレンチ	30	36	34	-	Ⅶ	SKP32	
20SKP33	第123図	2トレンチ	14	24	21	-	Ⅶ	SKP33	
20SKP34	第123図	2トレンチ	16	37	35	-	Ⅶ	SKP34	
20SKP35	第123図	2トレンチ	27	39	-	-	Ⅶ	SKP35	
20SKP36	第123図	2トレンチ	11	31	30	-	Ⅶ	SKP36	
20SKP38	第123図	2トレンチ	30	41	37	-	Ⅶ	SKP37	
20SKP39	第123図	2トレンチ	6	44	35	-	Ⅶ	SKP38	
20SKP49	第123図	2トレンチ	5	35	24	-	Ⅶ	SKP49	
20SKP41	第123図	2トレンチ	16	-	34	-	Ⅶ	SKP41	
20SKP42	第123図	2トレンチ	2	-	-	-	Ⅶ	SKP42	
20SKP43	第123図	2トレンチ	10	52	28	-	Ⅶ	SKP43	
20SKP45	第123図	2トレンチ	5	26.8	27	-	Ⅶ	SKP45	
20SKP50	第122図	1トレンチ	16	30	-	-	Ⅶ	SKP50	
20SKP52	第122図	1トレンチ	21	40	-	-	Ⅶ	SKP52	
20SKP53	第124図	4トレンチ	28	33	22	-	Ⅶ	SKP53	
20SKP55	第125図	5トレンチ	93	41	27	-	Ⅶ	SKP55	
20SKP56	第125図	5トレンチ	19	22	19	-	Ⅶ	SKP56	
20SKP57	第125図	5トレンチ	15	27	-	-	Ⅶ	SKP57	
20SKP58	第125図	5トレンチ	24	20	18	-	Ⅶ	SKP58	
20SKP59	第125図	5トレンチ	13	21	16	-	Ⅶ	SKP59	
20SKP60	第125図	5トレンチ	20	23	22	-	Ⅶ	SKP60	
20SKP61	第125図	5トレンチ	31	23	18	-	Ⅶ	SKP61	
20SKP62	第125図	5トレンチ	15	17	13	-	Ⅶ	SKP62	
20SKP63	第125図	5トレンチ	6	21	-	-	Ⅶ	SKP63	
20SKP66	第125図	5トレンチ	9	30	29	-	Ⅶ	SKP66	
20SKP68	第125図	5トレンチ	15	26	18	-	Ⅶ	SKP68	
20SKP69	第123図	2トレンチ	3	-	20	-	Ⅶ	SKP69	
20SKP70	第123図	2トレンチ	4	-	18	-	Ⅶ	SKP70	
20SKP72	第123図	2トレンチ	10	19	17	-	Ⅶ	SKP72	
20SKP73	第123図	2トレンチ	10	17	15	-	Ⅶ	SKP73	
20SKP74	第123図	2トレンチ	52	78	77	-	Ⅶ	SKP74	
20SKP76	第125図	5トレンチ	6	22	19	-	Ⅶ	SKP76	
20SKP81	第125図	5トレンチ	18	25	15	-	Ⅶ	SKP81	
20SKP82	第125図	5トレンチ	28	22	21	-	Ⅶ	SKP82	
20SKP83	第125図	5トレンチ	29	32	30	-	Ⅶ	SKP83	
20SKP84	第125図	6トレンチ	38	29	-	-	Ⅶ	SKP84	

■不明遺構

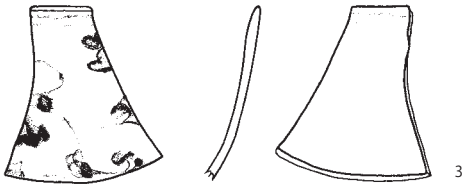
遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
20SX77-P1	第125図	5トレンチ	46	82	72	鉄製和釘 (第133図-1～12)	Ⅶ	SX77-P1	
20SX77-P2	第125図	5トレンチ	72	110	67	-	Ⅶ	SX77-P2	
20SX85	第125図	6トレンチ	-	-	-	-	Ⅶ	SX85	

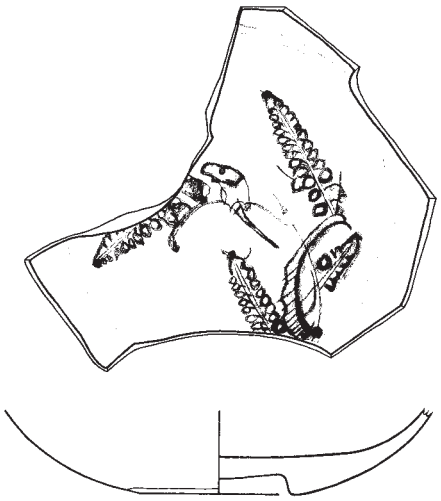
白磁

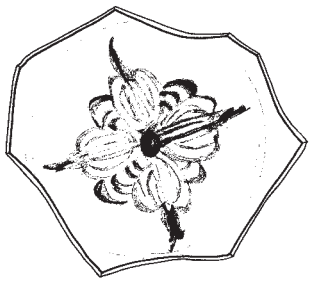


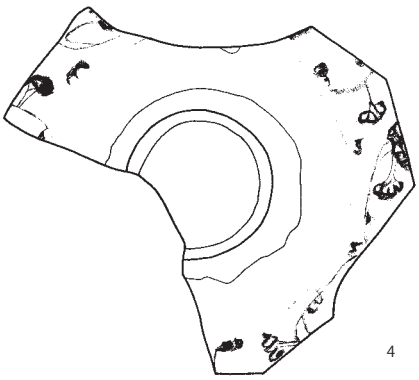


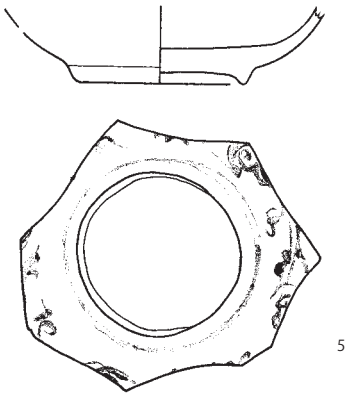
染付

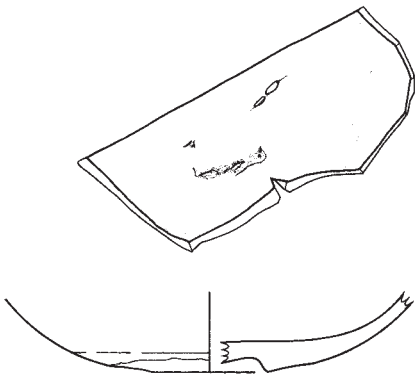


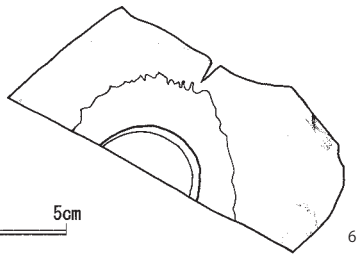


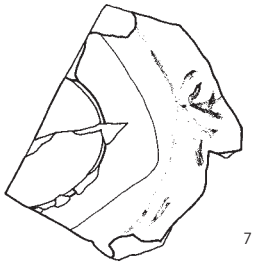








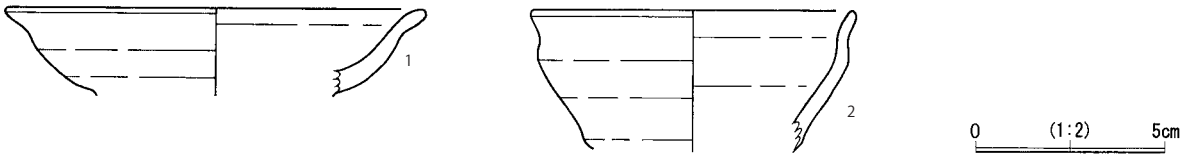




0　(1:2)　5cm

第130図　曲輪20（第20次調査）出土遺物①

瀬戸美濃



第131図　曲輪20（第20次調査）出土遺物②

断し、土留め等を行うための柵状の遺構であると判断した。同様の遺構が曲輪17でも確認されている。

20SA64柱穴列跡（第125・129図）

５トレンチ西側で土塁の上端に沿うように検出された。Ｐ１～Ｐ４で構成される柱穴列である。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。重複関係のある20SX77及び20SKP66より新しい。Ｐ１－Ｐ２、Ｐ２－Ｐ３までの柱間は70cmであり、Ｐ３－Ｐ４は96cmと同一直線上に並ぶ。そのため柱穴列跡と判断した。

20SKP09柱穴跡（第122・129図）

１トレンチ南壁中央部で半分のみ確認された。長径32cm、深さ18.0cmである。遺構内から砥石（第132図－１）が直立した状態で出土した。

20SX77不明遺構（第125・129図）

５トレンチ西側で検出された。Ｐ１とＰ２で構成される。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。重複関係のある20SA64より古い。Ｐ１とＰ２の柱間は2.10mあり、トレンチ東側にサブトレンチを設定し、対になる柱穴を精査したが検出には至らなかった。Ｐ１とＰ２の間に20SKP66が検出されており、同一の遺構の可能性があるが、底面の標高の差が大きいことなどから現状では別遺構として判断した。しかし、検出地点が内館地区で最も高所に位置している土塁上であることから、20SKP66と、20SX77－Ｐ１及びＰ２で旗竿を受ける遺構の可能性もある。憧干支柱とも呼ばれ、古代城柵である秋田市秋田城跡や古代寺院関連遺跡の可能性が考えられている北秋田市胡桃館遺跡で同様の遺構が確認されており、秋田城跡では「三本柱遺構」として報告されている（秋田城跡調査事務所2008）。

Ｐ１の中層～下層にかけて、木質の残る鉄製の和釘が８本出土した。それらの釘類と近接して炭化物が出土したため、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、15世紀中頃～15世紀後半代（calAD1,444－calAD1,475）の年代が示された。地中に埋設される柱穴下部に多くの釘を使用することは考えにくいため、構造物に用いられた釘をその機能終了後一括して廃棄したものであると考えられる。

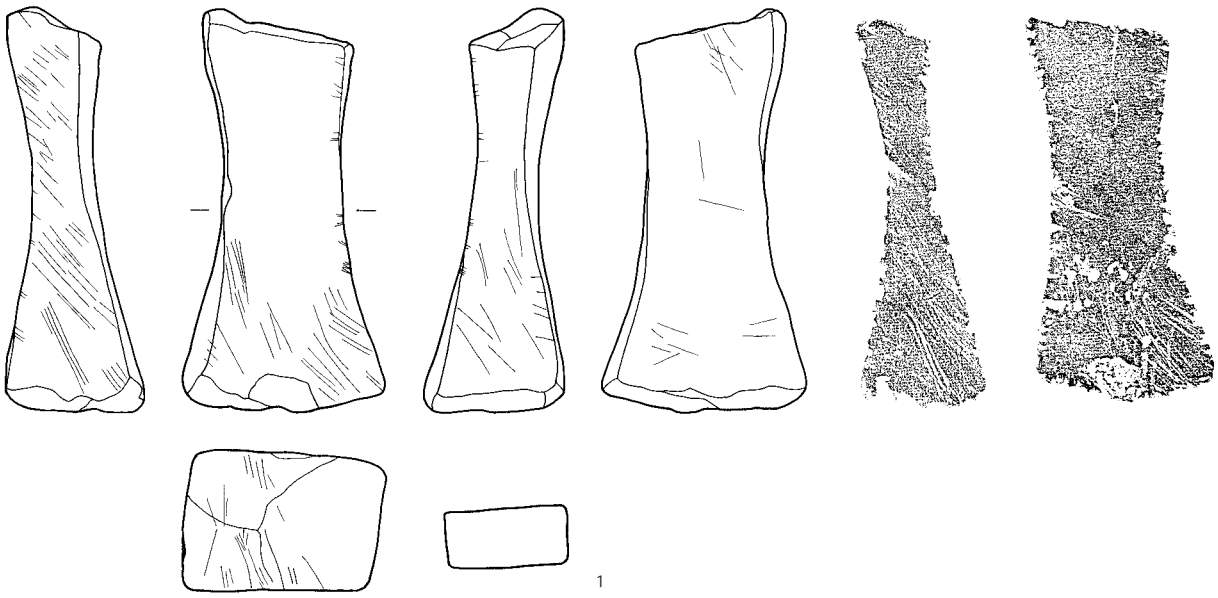
20SKP84 柱穴跡（第125図）

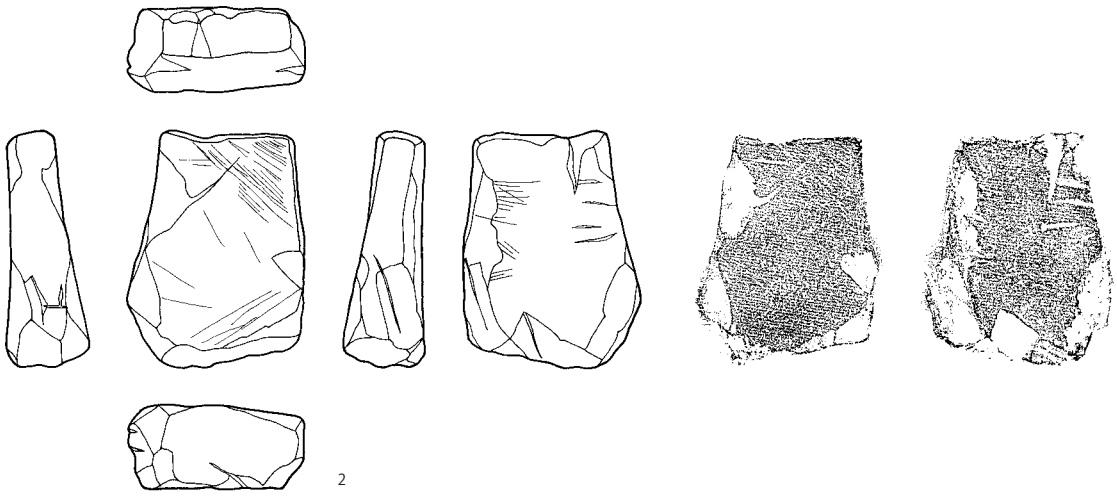
６トレンチの西側サブトレンチの土層断面で検出された。幅29cm、深さ38.0cmの柱穴跡で、盛土下より掘り込まれており、堆積土は地山小ブロックを多く含むため、盛土造成に伴う遺構であると判断した。

20SX85不明遺構（第125図）

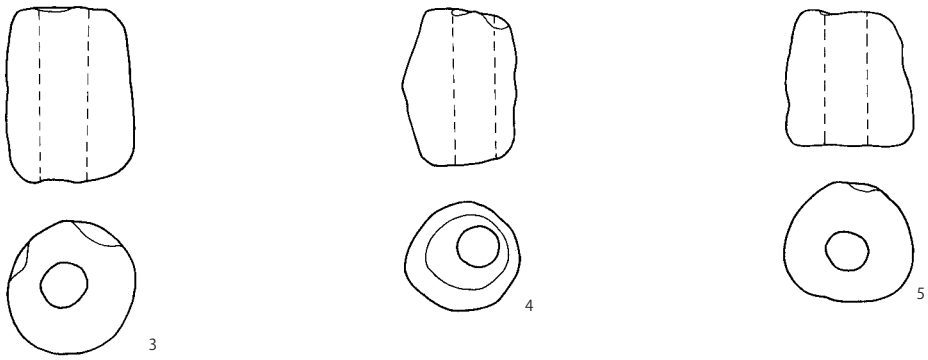
６トレンチの西側サブトレンチ内で検出された。６トレンチ北側は急傾斜の斜面となっているが、地

石製品



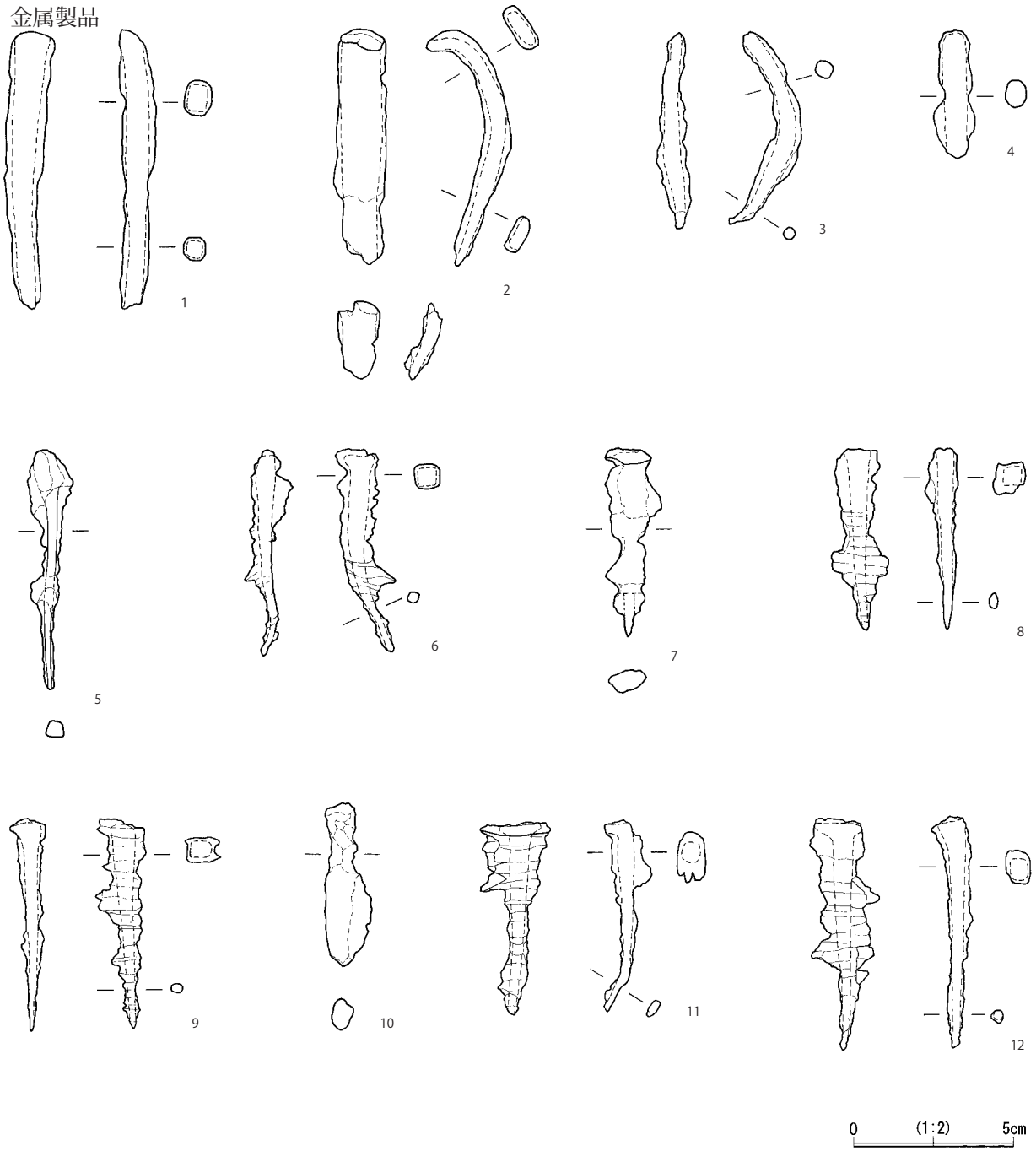


土製品



0　(1:2)　5cm

第132図　曲輪20（第20次調査）出土遺物③



第133図　曲輪20（第20次調査）出土遺物④

山土がほぼ垂直に南側に向かって落ち込んでいた。自然地形としては非常に不自然で、築城以前の遺構であると判断した。覆土となっている黒色の13・14層は、４トレンチ及び５トレンチで検出されている自然堆積土と同質の土層である。また、地山土の壁面に沿って周溝状の掘り込みが確認され、遺構の形状から竪穴建物跡の可能性も考えられる。しかし底面が傾斜しており、不確定要素が大きいため、現状では不明遺構とした。黒色土の掘り下げは行っていないものの、東側サブトレンチの盛土直下でも同様の状況が確認できる。遺物が出土しなかったため、時期の特定はできないが、縄文時代の遺構であることが考えられる。

20SM86道路跡（第126図）

８トレンチの東西にわたる溝状の遺構が検出された。確認面で幅88cm、深さ21.0cmである。硬化し

第42表　曲輪20（第20次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
19	1	29	0	36	5	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4	6	32	0

第43表　曲輪20（第20次調査）出土遺物観察表

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
130	1	34	白磁	皿	1トレンチ	20SB21-P3	(13.6)	-	(2.5)	15c後半～16c	Ⅶ	51	1	2と同一個体
130	2	34	白磁	皿	1トレンチ	20SB21-P3	-	(7.4)	(1.6)	15c後半～16c	Ⅶ	51	2	1と同一個体
130	3	34	染付	碗	7トレンチ	-	-	-	(4.6)	15c後半～16c前半	Ⅶ	51	3	割れ口に黒色物が付着している
130	4	34	染付	皿	1トレンチ	20SB21-P2	-	3.8	(2.2)	15c後半～16c前半	Ⅶ	51	5	漆継ぎによる補修痕
130	5	34	染付	皿	7トレンチ	-	-	4.3	(1.9)	15c後半～16c前半	Ⅶ	51	4	
130	6	34	染付	皿	2トレンチ	-	-	(3.0)	(1.9)	15c後半～16c前半	Ⅶ	51	6	トチ痕あり
130	7	34	染付	皿	1トレンチ	-	(11.0)	(4.0)	(2.9)	15c後半～16c前半	Ⅶ	51	7	
131	1	34	瀬戸美濃	皿	1トレンチ	-	(11.2)	-	(2.3)	16c中	Ⅶ	52	1	
131	2	.34	瀬戸美濃（天目）	碗	2トレンチ	-	(8.6)	-	(3.7)	-	Ⅶ	52	2	

■石製品・土製品・金属製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
132	1	34	石製品	砥石	1トレンチ	20SKP09	(10.6)	5.4	3.7	-	Ⅶ	53	1	砥ぎ傷・擦痕明瞭
132	2	34	石製品	砥石	1トレンチ	-	(6.2)	4.7	2.2	-	Ⅶ	53	2	砥ぎ傷・擦痕明瞭
132	3	34	土製品	土錘	1トレンチ	-	4.6	3.4	-	-	Ⅶ	53	3	
132	4	34	土製品	土錘	7トレンチ	-	4.1	3.1	-	-	Ⅶ	53	4	
132	5	34	土製品	土錘	7トレンチ	-	3.6	3.4	-	-	Ⅶ	53	5	
133	1	34	金属製品	不明	1トレンチ	-	(8.6)	1.2	0.8	-	Ⅶ	54	1	
133	2	34	金属製品	不明	1トレンチ	-	(9.6)	1.4	0.6	-	Ⅶ	54	2	
133	3	34	金属製品	不明	6トレンチ	-	(6.0)	0.5	0.5	-	Ⅶ	54	3	
133	4	34	金属製品	不明	1トレンチ	20SB21-P3	(4.0)	1.1	0.6	-	Ⅶ	54	4	
133	5	34	金属製品	和釘	5トレンチ	20SX77-P1	7.4	0.5	0.5	-	Ⅶ	54	5	
133	6	34	金属製品	和釘	5トレンチ	20SX77-P1	6.3	0.9	0.7	-	Ⅶ	54	6	木質残存
133	7	34	金属製品	和釘	5トレンチ	20SX77-P1	5.9	1.0	0.6	-	Ⅶ	54	7	
133	8	34	金属製品	和釘	5トレンチ	20SX77-P1	5.6	1.1	0.9	-	Ⅶ	54	8	木質残存
133	9	34	金属製品	和釘	5トレンチ	20SX77-P1	6.5	1.1	0.8	-	Ⅶ	54	9	木質残存
133	10	34	金属製品	和釘	5トレンチ	20SX77-P1	(5.1)	0.7	1.0	-	Ⅶ	54	10	
133	11	34	金属製品	和釘	5トレンチ	20SX77-P1	6.0	1.6	0.8	-	Ⅶ	54	11	木質残存
133	12	34	金属製品	和釘	5トレンチ	20SX77-P1	7.2	1.1	0.7	-	Ⅶ	54	12	木質残存

た底面は確認できなかったが、現地形のわずかな落ち込みに対応しており、曲輪20北東端を東に向かって曲輪19へ続くため、城内通路であると判断した。

③ 出土遺物

遺物は136点出土している。点数は接合後の破片数である。中世陶磁器は92点出土し、貿易陶磁器が49点（53.3％）、国産陶器が43点（46.7％）である。

陶磁器の年代について、白磁はE群が主体で15世紀後半～ 16世紀代、染付はB １群及びC群が多く15世紀後半～ 16世紀前半代が主体である。瀬戸美濃は大窯期第２段階が主体と考えられ、16世紀中頃のものが多く見られる。

（８）曲輪状遺構（第14次調査）

①曲輪状遺構の立地と概要

曲輪状遺構は内館地区北側中央部に位置する、標高約90.2mの遺構である。東側の曲輪16、西側の曲輪18の間に立地し、さらに北東部には曲輪17が位置する。踏査による遺構現状調査によって空堀跡と想定されている。曲輪状遺構は曲輪16の平坦面から標高差約３m、曲輪18の平坦面から標高差約４m低くなっており、内館北部はこの推定空堀跡を挟んで曲輪が東西対称に展開している。さらに曲輪18へは、虎口状の遺構が残っており、本調査対象地である曲輪状遺構から連結するとともに、南側には天下道が通り、緩やかな傾斜をもって本地へ至る。なお、遺構現状調査時は空堀跡と推定したが、調査の結果、掘立柱建物跡など多くの遺構が検出され、さらに天下道から直接連結すること、ほぼ同標高の北東部に曲輪17が位置することなどから、本報告においては、曲輪状遺構として取り扱うこととする。

②検出遺構

曲輪状遺構の調査では任意の大きさのトレンチ１か所を設定して行った。その結果、総計で掘立柱建物跡１棟、柱穴列・塀・柵跡２条、溝跡３条、土坑４基、柱穴跡125基、焼土遺構２基、盛土跡３か所が検出された。

トレンチについて

【トレンチ】

トレンチは曲輪16及び曲輪18を通して南北２m×東西34.5mで設定した。さらに曲輪状遺構の平坦部の遺構を確認するため、前述のトレンチから曲輪状遺構平坦部に南北８m×東西8.5m拡張して行った。遺構確認面は一部に地山土であったが、ほぼ全面にわたり盛土層であった。

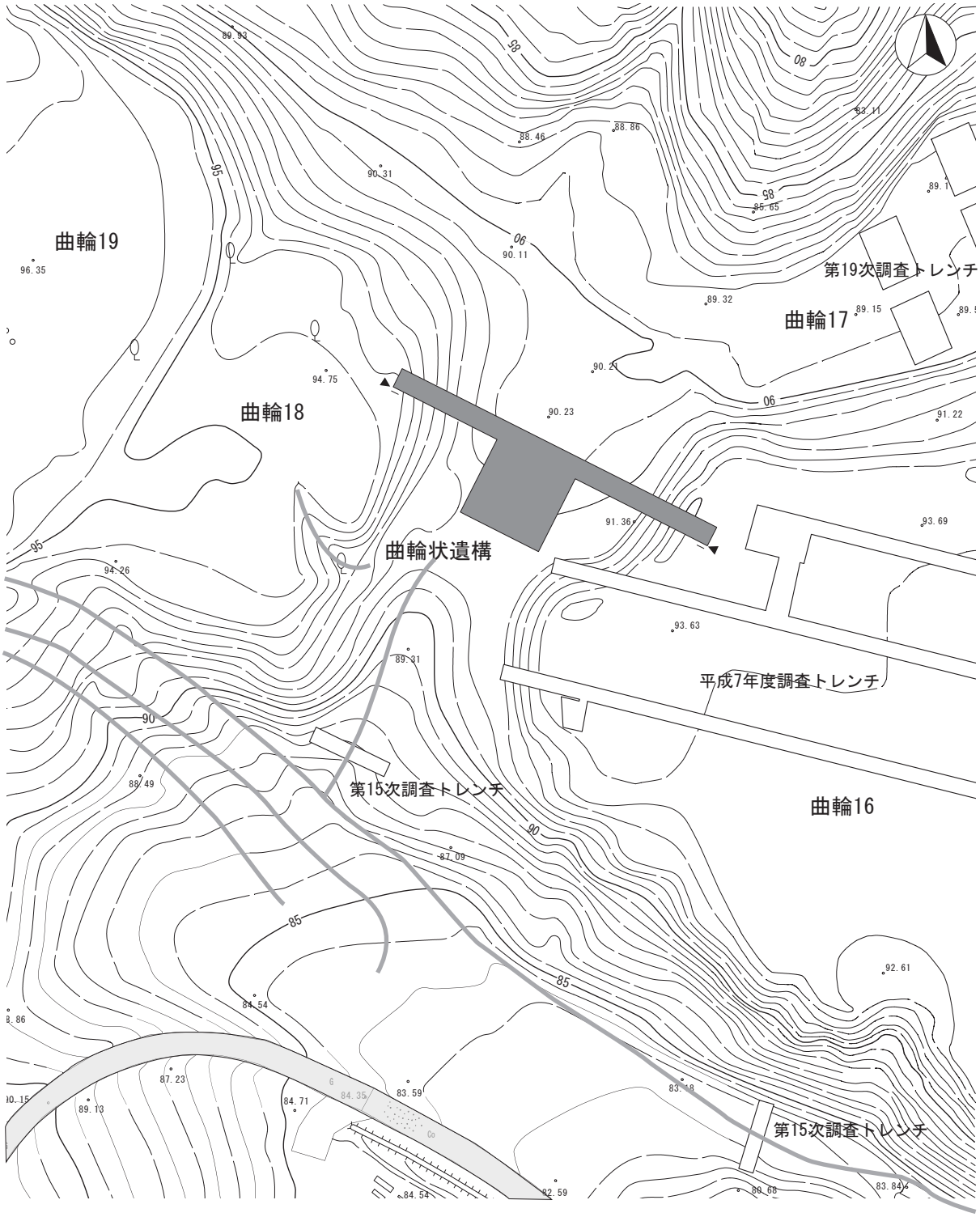
曲輪16の平坦部は厚さ20cm程度の盛土を行って整地しており、東側斜面（曲輪16側）は表土下が地山土となっていることから斜面部分を切土造成によっていることが明らかとなった。曲輪18側の斜面端部は厚さ1.4mの盛土造成を行っており、斜面部についても同様である。堆積状況の観察から、色の異なる土が版築に近い状態で盛られており、さらに盛土最下層には一部礫が検出された。盛土造成方法の一端を示すものと考えられる。また、曲輪18側西側の盛土上面（４層内）より16世紀後半代に位置付けられる唐津壺（第142図－８）及び中層（９層内）より瓦質土器の鉢（第143図－２)が出土した。

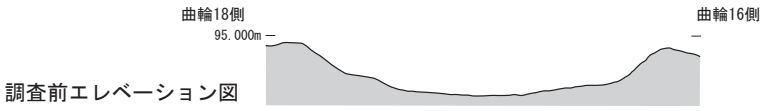
14SB58掘立柱建物跡（第136・137図）

曲輪状遺構平坦部の整地層上面から検出された。Ｐ１～Ｐ６で構成され、確認された規模は南北２間×東西１間の建物跡である。軸線方向はN－60°－Wであり、南を東西方向に通る道路跡（天下道）に対して、ほぼ平行な軸線方向である。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。確認された柱間はＰ１－Ｐ２が2.10m、Ｐ２－Ｐ３が2.80m、Ｐ３－Ｐ４が2.60m、Ｐ４－Ｐ５が2.40m、Ｐ５－Ｐ６が2.50m、Ｐ６－Ｐ１が2.50mである。曲輪状遺構平坦部のほぼ中央から検出され、調査区外にさらに拡張する可能性もある。遺物の出土はなかった。

14SA57柵跡（第136・138図）

曲輪状遺構平坦部で検出された。既刊の報告書では溝跡として報告されている遺構である（男鹿市教





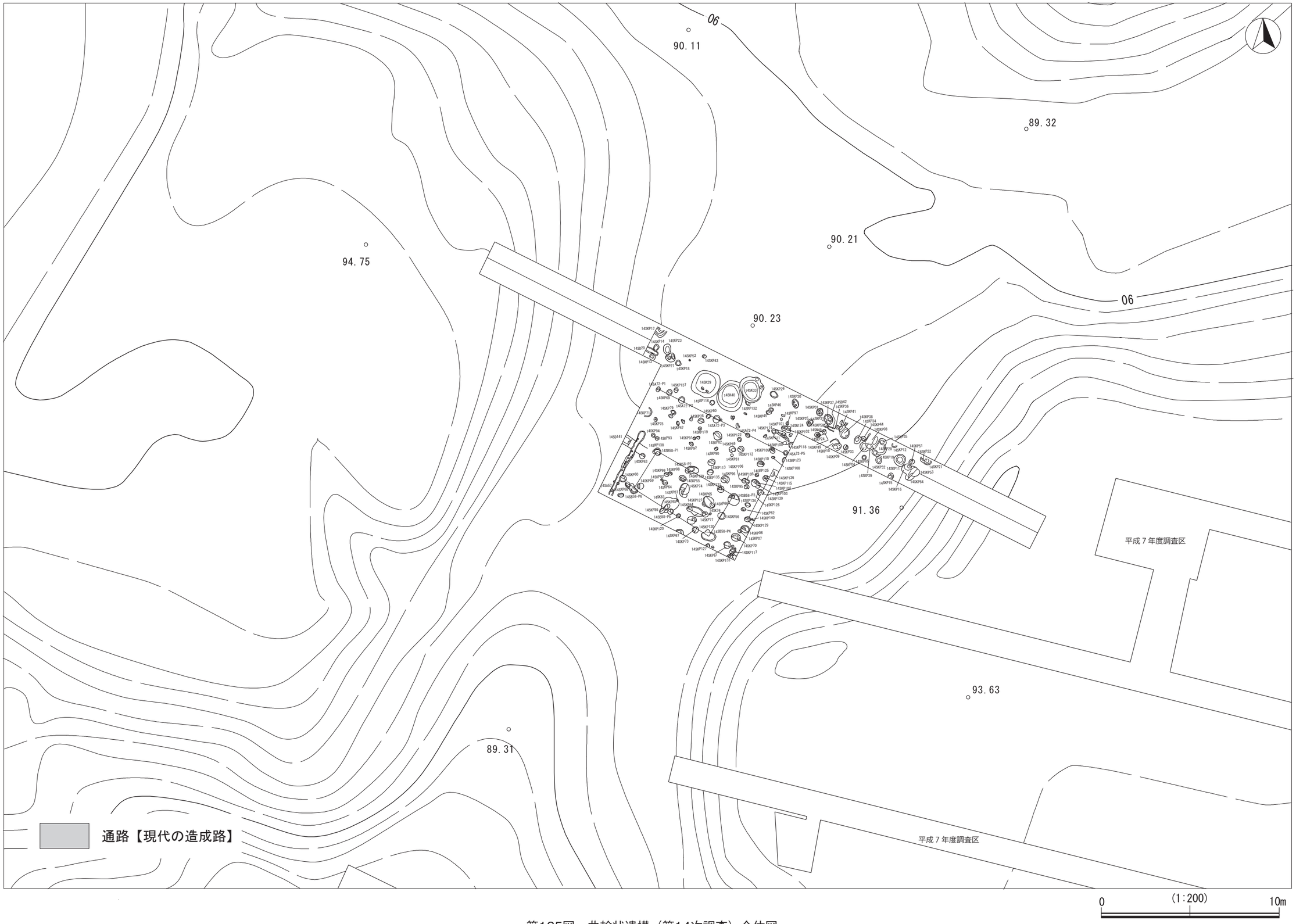
調査前エレベーション図

道路跡（天下道）/ 虎口状遺構

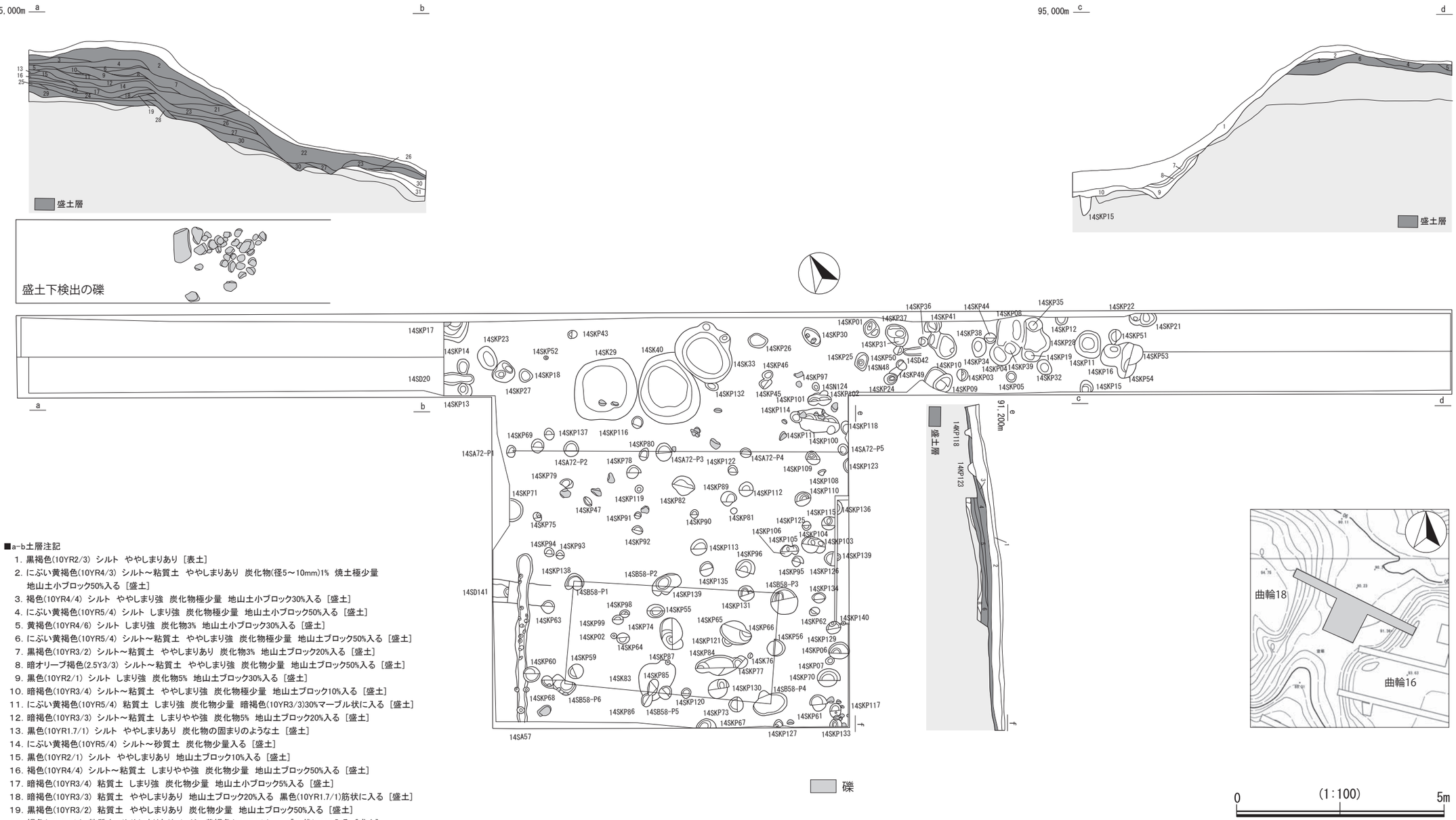
通路【現代の造成路】

0　(1:600)　30m

第134図　曲輪状遺構（第14次調査）トレンチ配置図



第135図　曲輪状遺構（第14次調査）全体図



■a-b土層注記

1. 黒褐色(10YR2/3) シルト ややしまりあり [表土]
2. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト～粘質土 ややしまりあり 炭化物(径5～10mm)1% 焼土極少量 地山土小ブロック50%入る [盛土]
3. 褐色(10YR4/4) シルト ややしまり強 炭化物極少量 地山土小ブロック30%入る [盛土]
4. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト しまり強 炭化物極少量 地山土小ブロック50%入る [盛土]
5. 黄褐色(10YR4/6) シルト しまり強 炭化物3% 地山土小ブロック30%入る [盛土]
6. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト～粘質土 ややしまり強 炭化物極少量 地山土ブロック50%入る [盛土]
7. 黒褐色(10YR3/2) シルト～粘質土 ややしまりあり 炭化物3% 地山土ブロック20%入る [盛土]
8. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) シルト～粘質土 ややしまり強 炭化物少量 地山土ブロック50%入る [盛土]
9. 黒色(10YR2/1) シルト しまり強 炭化物5% 地山土ブロック30%入る [盛土]
10. 暗褐色(10YR3/4) シルト～粘質土 ややしまり強 炭化物極少量 地山土ブロック10%入る [盛土]
11. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘質土 しまり強 炭化物少量 暗褐色(10YR3/3)30%マーブル状に入る [盛土]
12. 暗褐色(10YR3/3) シルト～粘質土 しまりやや強 炭化物5% 地山土ブロック20%入る [盛土]
13. 黒色(10YR1.7/1) シルト ややしまりあり 炭化物の固まりのような土 [盛土]
14. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト～砂質土 炭化物少量入る [盛土]
15. 黒色(10YR2/1) シルト ややしまりあり 地山土ブロック10%入る [盛土]
16. 褐色(10YR4/4) シルト～粘質土 しまりやや強 炭化物少量 地山土ブロック50%入る [盛土]
17. 暗褐色(10YR3/4) 粘質土 しまり強 炭化物少量 地山土小ブロック5%入る [盛土]
18. 暗褐色(10YR3/3) 粘質土 ややしまりあり 地山土ブロック20%入る 黒色(10YR1.7/1)筋状に入る [盛土]
19. 黒褐色(10YR3/2) 粘質土 ややしまりあり 炭化物少量 地山土ブロック50%入る [盛土]
20. 褐色(10YR4/4) 粘質土 ややしまりあり にぶい黄褐色(10YR4/3)マーブル状に30%入る [盛土]
21. 黒褐色(10YR3/2) 粘質土 しまり強 地山土ブロック15% 炭化物2%入る [盛土]
22. 褐色(10YR4/4) シルト～砂質土 ややしまり強 地山土ブロック50%入る [盛土]
23. 黒褐色(10YR3/2) 粘質土 しまり強 地山土ブロック50% 炭化物少量入る [盛土]
24. にぶい黄橙色(10YR6/4) 粘質土 ややしまりあり 地山を埋めた土 [盛土]
25. 黒色(10YR2/1) 粘質土 ややしまりあり 地山土小ブロック30%入る [盛土]
26. 褐色(10YR4/6) 粘質土 ややしまりあり 地山土を埋めた土 [盛土]
27. 暗褐色(10YR3/3) 粘質土 ややしまりあり 地山土ブロック20% 炭化物ごく少量入る [盛土]
28. 褐色(10YR4/4) 粘質土 ややしまり強 地山土ブロック30% 炭化物少量入る 礫多量に入る 敷いたものか [盛土]
29. 黒色(10YR2/1) 粘質土 しまり強 地山土小ブロック5% 炭化物・焼土粒少量入る [盛土]
30. 黒褐色(10YR2/2) シルト ややしまり強 地山土ブロック10%入る [自然堆積土]
31. 褐色(10YR4/6) シルト しまり強 暗褐色(10YR3/3)混じる [地山漸移層]

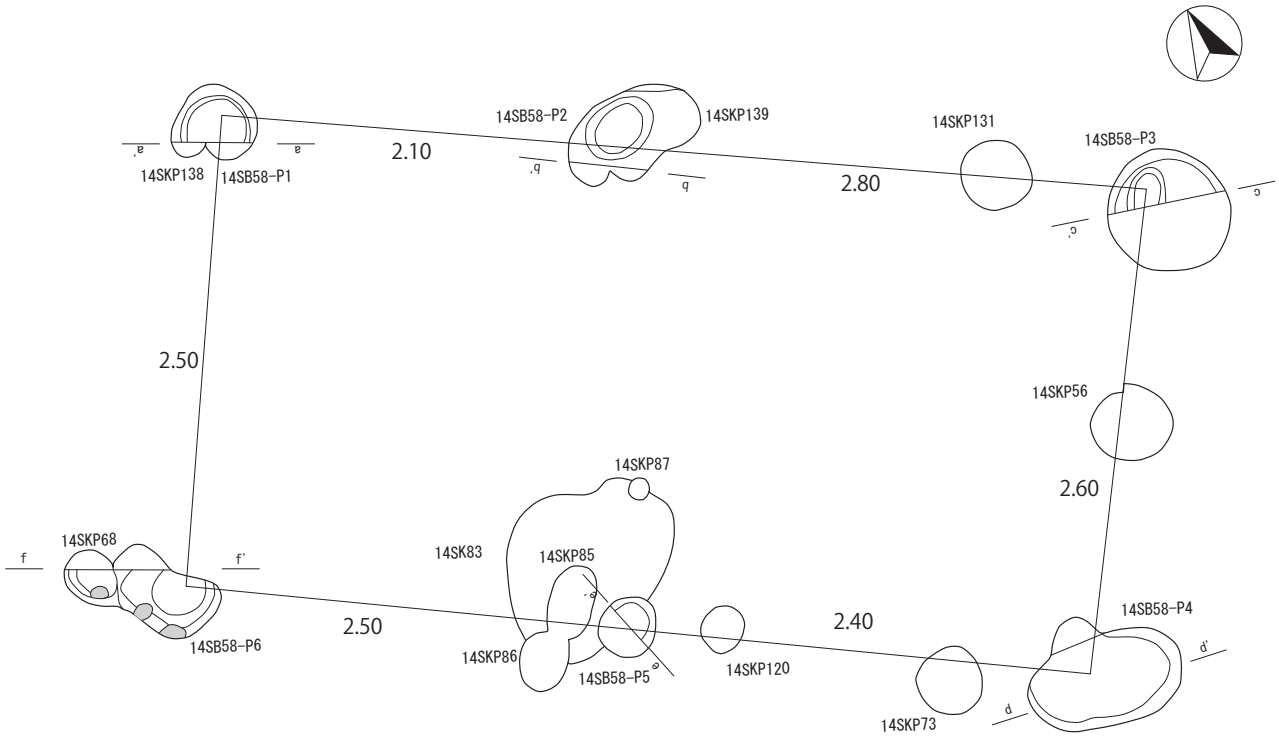
■c-d土層注記

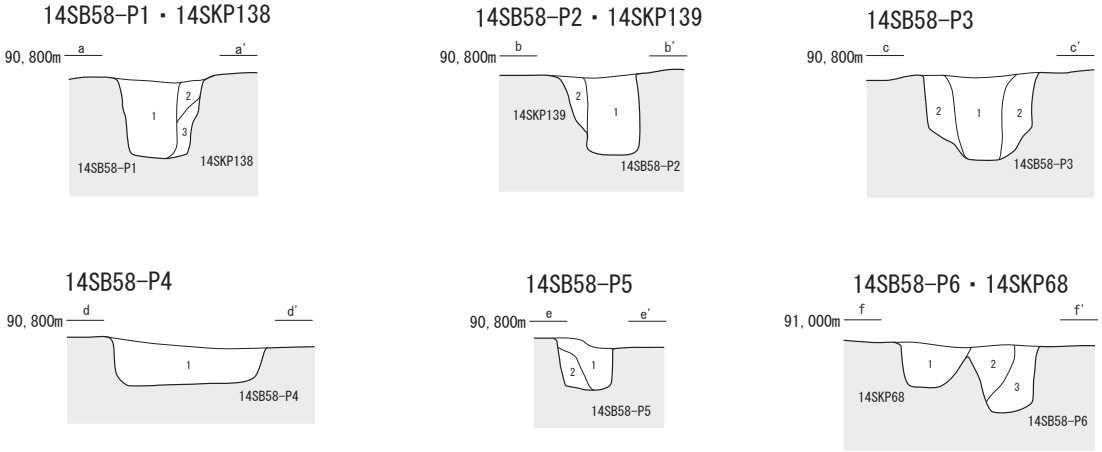
1. 黒褐色(10YR2/3) 表土 シルト ややしまりあり
2. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト～粘質土 ややしまりあり 炭化物(径5～10mm)1% 焼土粒極少量 地山土小ブロック50%入る
3. 暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまり強 地山土ブロック20%入る [盛土]
4. 暗褐色(10YR3/3) シルト～砂質土 ややしまりあり 地山土小ブロック10%入る [盛土]
5. 黄褐色(10YR5/8) 砂質土 ややしまり強 [盛土]
6. 褐色(10YR4/4) 砂質土 ややしまり強 [盛土]
7. 褐色(10YR5/4) 砂質土 ややしまり強 [崩落土]
8. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト しまり強 暗褐色(10YR3/3) 地山土ブロック30% 炭化物2%入る [崩落土]
9. にぶい黄褐色(10YR5/4) 砂質土 ややしまり強 [崩落土]
10. 黄橙色(10YR7/8) 粘質土 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土が斑状に入る [堆積土]

■e-f土層注記

1. 暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまりあり 地山土小ブロック20%入る
2. 褐色(10YR4/4) シルト～砂質土 ややしまりあり 地山土ブロック50%入る
3. 暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまり強 地山土小ブロック20%入る [盛土]
4. 黒褐色(10YR3/2) シルト ややしまり強 地山土小ブロック30%入る [盛土]
5. 暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまりあり 地山土ブロック20%入る [盛土]
6. 明黄褐色(10YR7/6) 粘質土 地山土を入れた層 [盛土]
7. 黒色(10YR2/1) シルト ややしまりあり [自然堆積土]
8. 黒褐色(10YR3/2) シルト ややしまり強 [自然堆積土]

第136図 トレンチ平面図・断面図





■14SB58-P1/14SKP138
1．黒褐色(10YR3/2) シルト しまりあり 地山土ブロック30% 炭化物少量入る ［14SB58-P1］
2．暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまり強 地山土ブロック20%入る ［14SKP138］
3．暗褐色(10YR3/3) シルト しまり強 地山土ブロック30%入る ［14SKP138］

■14SB58-P2/14SKP139
1．黒褐色(10YR3/2) シルト ややしまり強 地山土ブロック30%入る ［14SB58-P2］
2．暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまりあり 地山土ブロック10%入る ［14SKP139］

■14SB58-P3
1．暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまりあり 地山土ブロック30% 炭化物ごく少量入る ［14SB58-P3］
2．黒褐色(10YR3/2) シルト ややしまり強 地山土小ブロック10% 炭化物ごく少量入る ［14SB58-P3］

■14SB58-P4
1．暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまり強 地山土ブロック30% 黒褐色(10YR2/1)すじ状に入る ［14SB58-P4］

■14SB58-P5
1．にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト ややしまりあり 地山土小ブロック10% 炭化物少量入る ［14SB58-P5］
2．褐色(10YR4/4) シルト ややしまり強 地山土ブロック30%入る ［14SB58-P5］

■14SB58-P6/14SKP68
1．暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまりあり 炭化物ごく少量入る ［14SKP68］
2．暗褐色(10YR3/4) シルト ややしまりあり 地山土小ブロック20% 炭化物少量入る ［14SB58-P6］
3．暗褐色(10YR3/3) シルト～粘質土 ややしまり強 地山土すじ状に20%入る ［14SB58-P6］

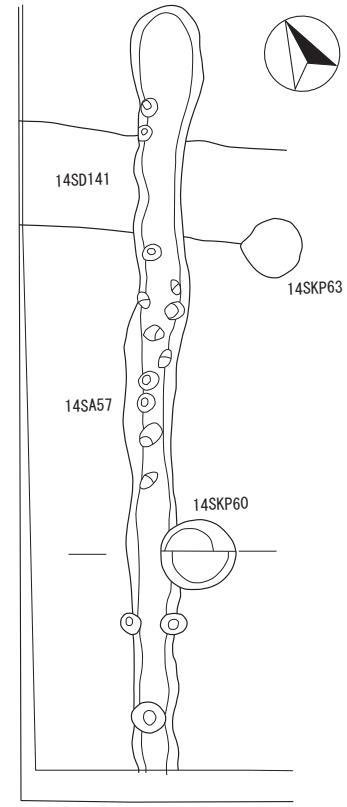
※ 平面図上の数値は
柱間寸法（単位：m）

礫

0 (1:40) 1m

第137図　14SB58

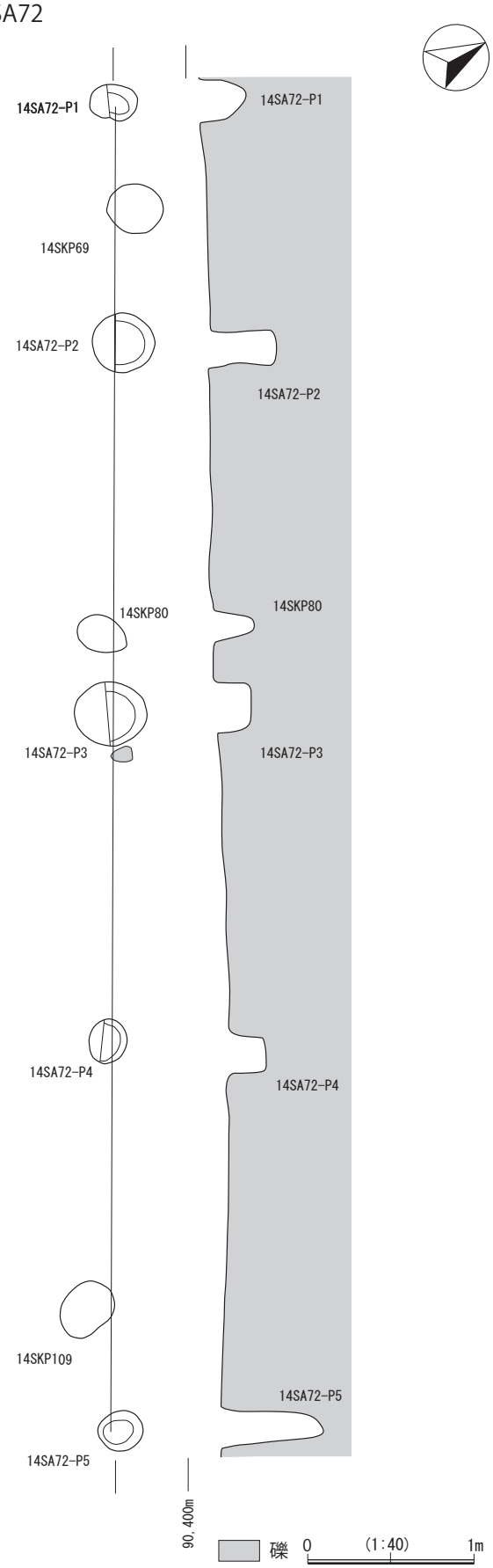
14SA57・14SKP60



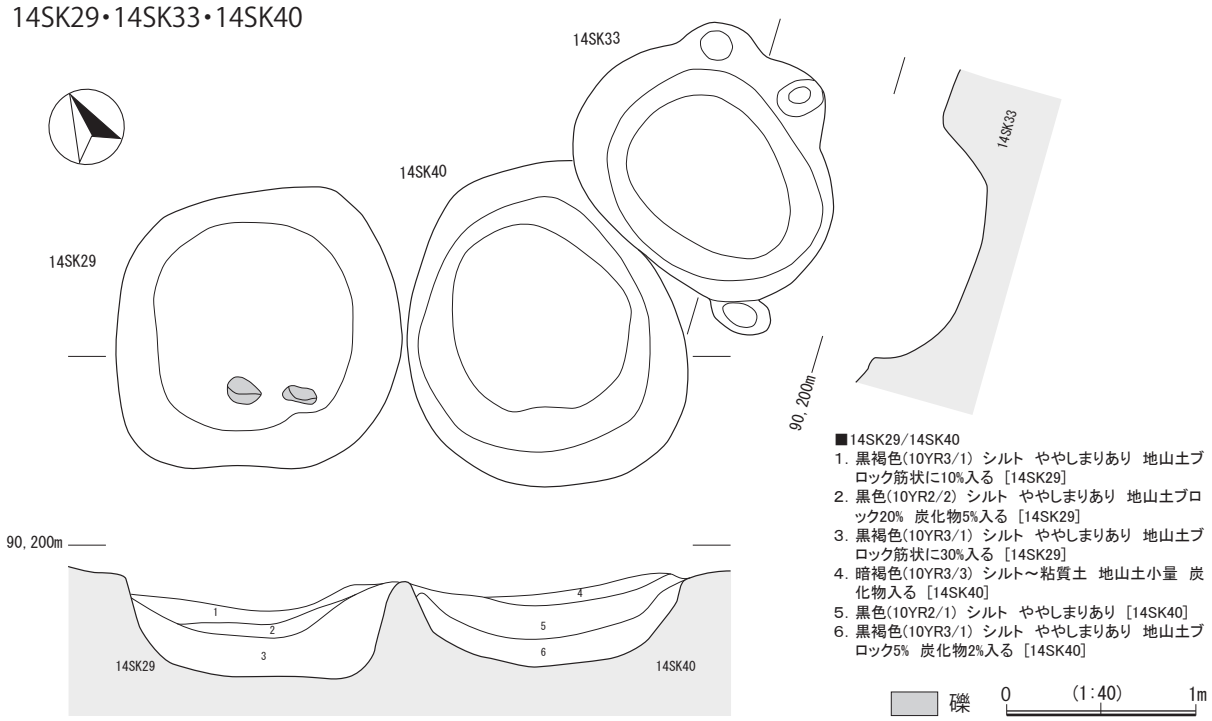
■14SA57/14SKP60
1. 暗褐色(10YR3/3) シルト　ややしまりあり　地山土小ブロック3%
　1炭化物少量入る［14SA57］
2. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト　ややしまりあり　地山土ブロック
　50%　炭化物ごく少量入る［14SKP60］
3. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト　しまり強　地山土小ブロック20%入
　る［14SKP60］

0　(1:40)　1m

14SA72



第138図　14SA57・72・SKP60



第139図　14SK29・33・40

育委員会2006)。14SD141、14SKP60と重複関係を持ち、いずれよりも新しい。検出された長さは4.04m、幅37cm、深さ15cmの溝跡で、溝内部に15基の小ピットが検出され、東側に位置する14SB58とほぼ平行に検出されたため柵跡と位置付けた。覆土内からは図示していないが、染付皿と越前すり鉢各１点が出土した。

14SA72柱穴列（第136・138図）

曲輪状遺構平坦部で検出された。Ｐ１～Ｐ５で構成され、東西とも調査区外に広がる可能性が高い。軸線方向はN－64°－Wであり、南側に位置する14SB58とほぼ平行に検出された。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。確認された柱間はＰ１－Ｐ２が1.46m、Ｐ２－Ｐ３が2.30m、Ｐ３－Ｐ４が2.00m、Ｐ４－Ｐ５が2.38mである。覆土内から遺物の出土はなかった。

14SK29土坑（第136・139図）

曲輪状遺構平坦部で地山土を確認面として検出された。平面形は隅丸方形を呈し、長径149cm、短径148cm、確認面からの深さ48cmである。覆土内から図示していないが、五輪塔片１点、鉄製和釘が２点、越前甕１点が出土した。

14SK33・40土坑（第136・139図）

曲輪状遺構平坦部で地山土を確認面として検出された。両土坑は重複関係を持つが、新旧関係は明らかにできなかった。さらに14SK33は14SKP132と重複関係を持ち新しい。いずれも平面形は略円形を呈し、14SK33は長径147cm、短径128cm、確認面からの深さ42cmである。覆土内より、土錘(第143図－８)、砥石(第143図－10)、青磁碗、越前甕、瀬戸美濃、瓦質土器各１点、不明鉄製品１点が出土した。

第44表　曲輪状遺構（第14次調査）遺構一覧表①

■掘立柱建物跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	建物方位	概報	概報遺構番号	備考
14SB58-P1	第136図 第137図	-	41	38	32	-	N60W	IV	P1	
14SB58-P2		-	42	42	28	-		IV	P2	
14SB58-P3		-	44	65	61	-		IV	P3	
14SB58-P4		-	22	84	50	-		IV	P4	
14SB58-P5		-	25	32	30	-		IV	P5	
14SB58-P6		-	36	60	35	-		IV	P6	

■柱穴列・塀・塀跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
14SA57	第136図 第138図	-	15	幅37	-	染付皿・越前すり鉢	IV	SD57	
14SA72-P1		-	28	25	22	-	IV	SA72-P1	
14SA72-P2		-	41	36	33	-	IV	SA72-P2	
14SA72-P3		-	21	42	36	-	IV	SA72-P3	
14SA72-P4		-	25	26	22	-	IV	SA72-P4	
14SA72-P5		-	62	24	23	-	IV	SA72-P5	

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
14SD20	第136図	-	4	31	-	IV	SD20	
14SD42	第136図	-	4	20	-	IV	-	
14SD141	第136図	-	27	52	-	IV	SD141	

■土坑

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
14SK29	第136図 第139図	-	49	149	148	五輪塔片・鉄釘2点	IV	SK29	
14SK33		-	42	147	129	土錘（第143図-8）/ 砥石（第143図-10）他	IV	SK33	
14SK40		-	41	168	145	青磁碗（第 140図-9）/ 鉄釘1点	IV	SK40	
14SK83	第136図	-	-	94	88	-	IV	-	

■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
14SKP01	第136図	-	57	45	35	-	IV	SKP01	
14SKP02	第136図	-	10	14	12	-	IV	-	
14SKP03	第136図	-	57	29	27	-	IV	SKP03	
14SKP04	第136図	-	43	55	(35)	-	IV	SKP04	
14SKP05	第136図	-	91	33	25	-	IV	SKP05	
14SKP06	第136図	-	26	50	41	-	IV	SKP73	
14SKP07	第136図	-	27	21	18	-	IV	-	
14SKP08	第136図	-	45	(70)	(50)	-	IV	SKP35	
14SKP09	第136図	-	64	51	49	染付皿（第140図-12） /銛先（第144図-4）	IV	SKP09	
14SKP10	第136図	-	9	(50)	(25)	-	IV	SKP53	
14SKP11	第136図	-	55	63	61	-	IV	SKP11	
14SKP12	第136図	-	20	(30)	-	-	IV	-	
14SKP13	第136図	-	13	(34)	-	-	IV	SKP13	
14SKP14	第136図	-	16	38	28	-	IV	SKP14	
14SKP15	第136図	-	43	(32)	-	-	IV	-	
14SKP16	第136図	-	50	(50)	(40)	-	IV	-	
14SKP17	第136図	-	56	(60)	-	-	IV	SKP17	
14SKP18	第136図	-	4	34	30	-	IV	SKP18	
14SKP19	第136図	-	60	45	(30)	-	IV	-	
14SKP21	第136図	-	52	(38)	-	-	IV	-	
14SKP22	第136図	-	32	(26)	-	-	IV	-	
14SKP23	第136図	-	19	61	40	-	IV	SKP23	
14SKP24	第136図	-	40	34	30	-	IV	SKP24	
14SKP25	第136図	-	33	40	30	-	IV	SKP25	
14SKP26	第136図	-	27	49	33	-	IV	SKP26	
14SKP27	第136図	-	29	52	50	-	IV	SKP27	
14SKP28	第136図	-	54	(60)	(40)	-	IV	SKP28	
14SKP30	第136図	-	40	55	35	五輪塔片	IV	SKP33	
14SKP31	第136図	-	55	(60)	(40)	-	IV	SKP31	
14SKP32	第136図	-	23	35	33	-	IV	SKP32	
14SKP34	第136図	-	20	49	34	-	IV	SKP34	
14SKP35	第136図	-	66	42	(35)	-	IV	SKP19	

第45表　曲輪状遺構（第14次調査）遺構一覧表②

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
14SKP37	第136図	-	46	(60)	(50)	-	Ⅳ	SKP37	
14SKP38	第136図	-	67	76	57	-	Ⅳ	SKP38	
14SKP39	第136図	-	50	(40)	(35)	-	Ⅳ	SKP39	
14SKP41	第136図	-	41	(42)	-	-	Ⅳ	SKP41	
14SKP43	第136図	-	22	24	18	-	Ⅳ	SKP43	
14SKP44	第136図	-	20	28	23	-	Ⅳ	SKP44	
14SKP45	第136図	-	15	30	24	-	Ⅳ	SKP45	
14SKP46	第136図	-	28	25	22	-	Ⅳ	SKP46	
14SKP47	第136図	-	13	29	13	-	Ⅳ	SKP47	
14SKP49	第136図	-	35	26	19	-	Ⅳ	SKP49	
14SKP50	第136図	-	50	22	20	-	Ⅳ	SKP50	
14SKP51	第136図	-	18	29	28	-	Ⅳ	SKP51	
14SKP52	第136図	-	18	12	8	-	Ⅳ	SKP52	
14SKP53	第136図	-	54	(60)	(50)	-	Ⅳ	SKP53	
14SKP54	第136図	-	55	(40)	(30)	-	Ⅳ	SKP54	
14SKP55	第136図	-	32	42	32	漆器片3点	Ⅳ	SKP55	
14SKP56	第136図	-	22	43	40	-	Ⅳ	SKP56	
14SKP59	第136図	-	24	39	33	-	Ⅳ	SKP59	
14SKP60	第136図	-	53	39	38	-	Ⅳ	SKP60	
14SKP61	第136図	-	33	42	39	-	Ⅳ	SKP61	
14SKP62	第136図	-	12	25	20	-	Ⅳ	SKP62	
14SKP63	第136図	-	7	32	28	-	Ⅳ	-	
14SKP64	第136図	-	20	29	26	-	Ⅳ	SKP24	
14SKP65	第136図	-	28	(50)	(40)	-	Ⅳ	SKP65	
14SKP66	第136図	-	51	(40)	(30)	-	Ⅳ	SKP66	
14SKP67	第136図	-	15	(45)	-	-	Ⅳ	-	
14SKP68	第136図	-	25	30	20	土錘（第143図-5）	Ⅳ	SKP68	
14SKP69	第136図	-	35	34	30	-	Ⅳ	SKP69	
14SKP70	第136図	-	34	43	42	-	Ⅳ	SKP70	
14SKP71	第136図	-	18	(54)	-	-	Ⅳ	SKP71	
14SKP73	第136図	-	24	35	33	-	Ⅳ	SKP73	
14SKP74	第136図	-	55	80	58	-	Ⅳ	SKP74	
14SKP75	第136図	-	26	21	19	-	Ⅳ	SKP75	
14SKP76	第136図	-	36	12	11	-	Ⅳ	SKP76	
14SKP77	第136図	-	24	30	30	-	Ⅳ	-	
14SKP78	第136図	-	13	34	30	-	Ⅳ	SKP78	
14SKP79	第136図	-	20	32	20	-	Ⅳ	SKP79	
14SKP80	第136図	-	14	31	22	-	Ⅳ	SKP80	
14SKP81	第136図	-	-	17	15	-	Ⅳ	SKP81	未調査
14SKP82	第136図	-	17	55	44	-	Ⅳ	SKP82	
14SKP84	第136図	-	43	(100)	50	-	Ⅳ	SKP84	
14SKP85	第136図	-	10	40	22	-	Ⅳ	SKP85	
14SKP86	第136図	-	17	(36)	28	-	Ⅳ	SKP86	
14SKP87	第136図	-	34	12	11	-	Ⅳ	-	
14SKP89	第136図	-	24	39	35	-	Ⅳ	SKP89	
14SKP90	第136図	-	9	20	19	-	Ⅳ	SKP90	
14SKP91	第136図	-	5	18	16	-	Ⅳ	SKP91	
14SKP92	第136図	-	6	36	20	-	Ⅳ	SKP92	
14SKP93	第136図	-	6	22	19	-	Ⅳ	SKP93	
14SKP94	第136図	-	11	23	22	-	Ⅳ	-	
14SKP95	第136図	-	20	28	26	-	Ⅳ	SKP95	
14SKP96	第136図	-	45	44	43	-	Ⅳ	SKP33	
14SKP98	第136図	-	19	22	18	-	Ⅳ	SKP98	
14SKP99	第136図	-	24	38	20	-	Ⅳ	SKP99	
14SKP100	第136図	-	42	(90)	40	-	Ⅳ	-	
14SKP101	第136図	-	24	(30)	(25)	-	Ⅳ	SKP101	
14SKP102	第136図	-	20	(30)	(20)	-	Ⅳ	SKP102	
14SKP103	第136図	-	36	25	(18)	-	Ⅳ	SKP103	
14SKP104	第136図	-	38	41	39	-	Ⅳ	SKP104	
14SKP105	第136図	-	14	22	(19)	-	Ⅳ	SKP105	
14SKP106	第136図	-	19	29	23	-	Ⅳ	SKP106	
14SKP108	第136図	-	12	20	12	-	Ⅳ	SKP107	
14SKP109	第136図	-	34	32	31	-	Ⅳ	SKP108	
14SKP110	第136図	-	42	40	34	-	Ⅳ	SKP109	

第46表　曲輪状遺構（第14次調査）遺構一覧表③

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
14SKP111	第136図	-	23	(90)	58	-	Ⅳ	-	
14SKP112	第136図	-	55	35	33	-	Ⅳ	SKP112	
14SKP113	第136図	-	22	39	38	-	Ⅳ	SKP113	
14SKP114	第136図	-	23	(30)	28	小札（第144図-2）	Ⅳ	SKP114	
14SKP115	第136図	-	60	(32)	31	-	Ⅳ	SKP115	
14SKP116	第136図	-	22	30	28	-	Ⅳ	-	
14SKP117	第136図	-	21	33	26	-	Ⅳ	SKP117	
14SKP118	第136図	-	34	(31)	-	-	Ⅳ	SKP118	
14SKP119	第136図	-	16	20	18	-	Ⅳ	SKP119	
14SKP120	第136図	-	21	25	23	-	Ⅳ	-	
14SKP121	第136図	-	40	(25)	-	-	Ⅳ	SKP121	
14SKP122	第136図	-	45	24	23	-	Ⅳ	SKP122	
14SKP123	第136図	-	16	(32)		-	Ⅳ	SKP123	
14SKP125	第136図	-	33	21	20	-	Ⅳ	SKP125	
14SKP126	第136図	-	11	(34)	-	-	Ⅳ	SKP126	
14SKP127	第136図	-	39	(21)	-	-	Ⅳ	SKP127	
14SKP129	第136図	-	33	34	29	-	Ⅳ	SKP129	
14SKP130	第136図	-	25	43	39	-	Ⅳ	SKP130	
14SKP131	第136図	-	41	36	34	-	Ⅳ	-	
14SKP132	第136図	-	26	(27)	-	-	Ⅳ	SKP132	
14SKP133	第136図	-	32	(30)	-	-	Ⅳ	SKP133	
14SKP134	第136図	-	22	29	24	-	Ⅳ	SKP134	
14SKP135	第136図	-	31	42	32	-	Ⅳ	SKP135	
14SKP136	第136図	-	34	(33)	-	-	Ⅳ	-	
14SKP137	第136図	-	30	30	22	-	Ⅳ	SKP137	
14SKP138	第136図	-	45	30	18	-	Ⅳ	SKP138	
14SKP139	第136図	-	42	58	36	-	Ⅳ	-	
14SKP140	第136図	-	30	10	9	-	Ⅳ	-	

■焼土遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
14SN48	第136図	-	-	20	(18)	-	Ⅳ	-	
14SN124	第136図	-	-	15	(10)	-	Ⅳ	SN	

14SK40は長径168cm、短径145cm、確認面からの深さ41cmである。覆土内より、青磁碗(第140図－９)、鉄製和釘１点が出土した。

③ 出土遺物

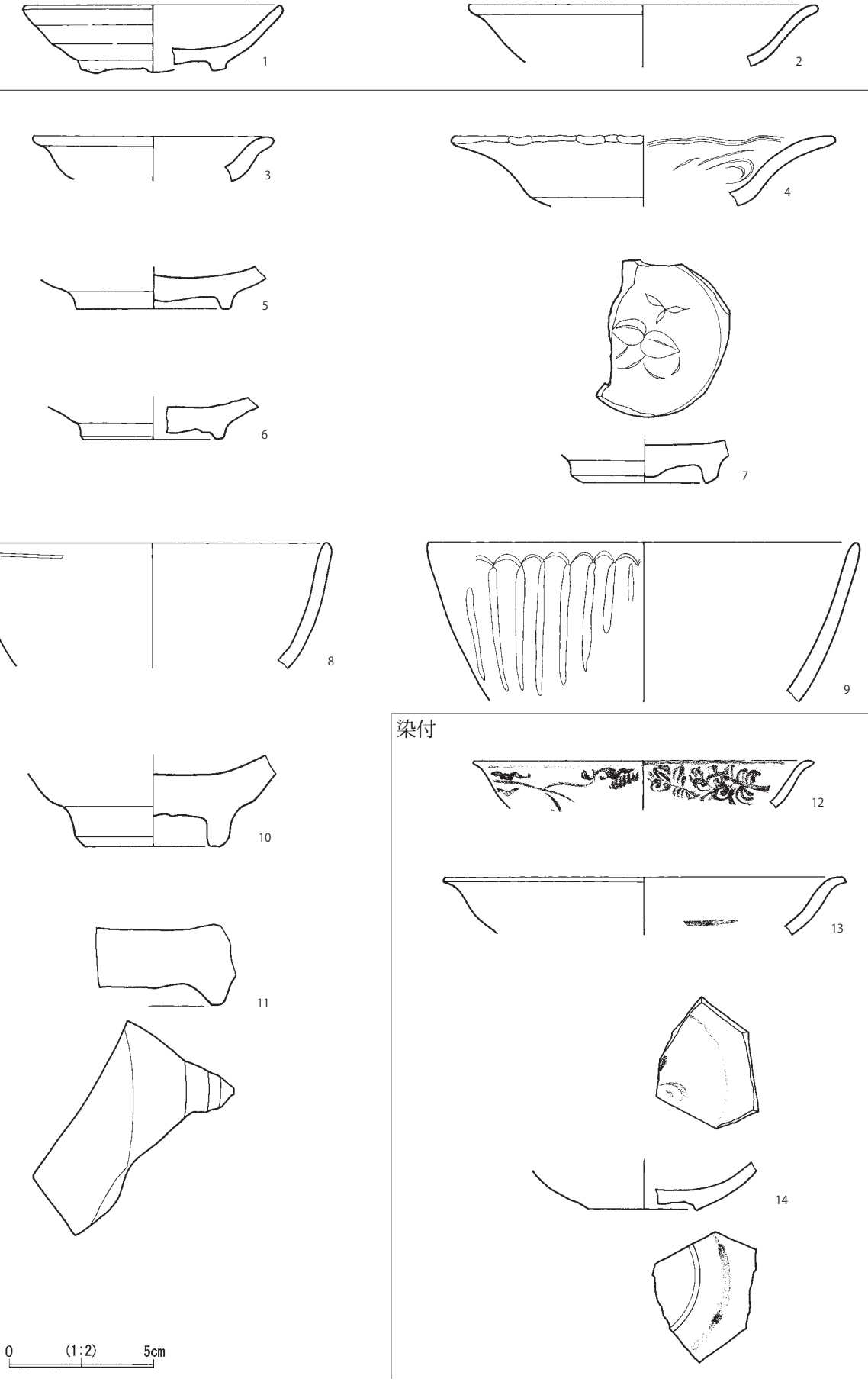
遺物は447点出土している（その他を含めない）。点数は接合後の破片数である。陶磁器は338点出土し、貿易陶磁器が199点（58.9％）、国産陶器が139点（41.1％）である。内館地区の中で、遺物の出土量が多い地点であり、図示したものの他小破片が多量に出土している。さらに遺構内より五輪塔片と推定される礫片や漆器片が出土した。

陶磁器の年代について、白磁はE群が主体で15世紀後半～16世紀代、青磁は細描蓮弁文を施す15世紀後半～16世紀前半代、染付はB１群及びC群が多く15世紀後半～16世紀中頃が主体である。瀬戸美濃は大窯期第１段階が主体と考えられ、15世紀後半～16世紀前半代に位置づけられる。越前は15世紀末～16世紀前半代に位置付けられるものが多い。

白磁

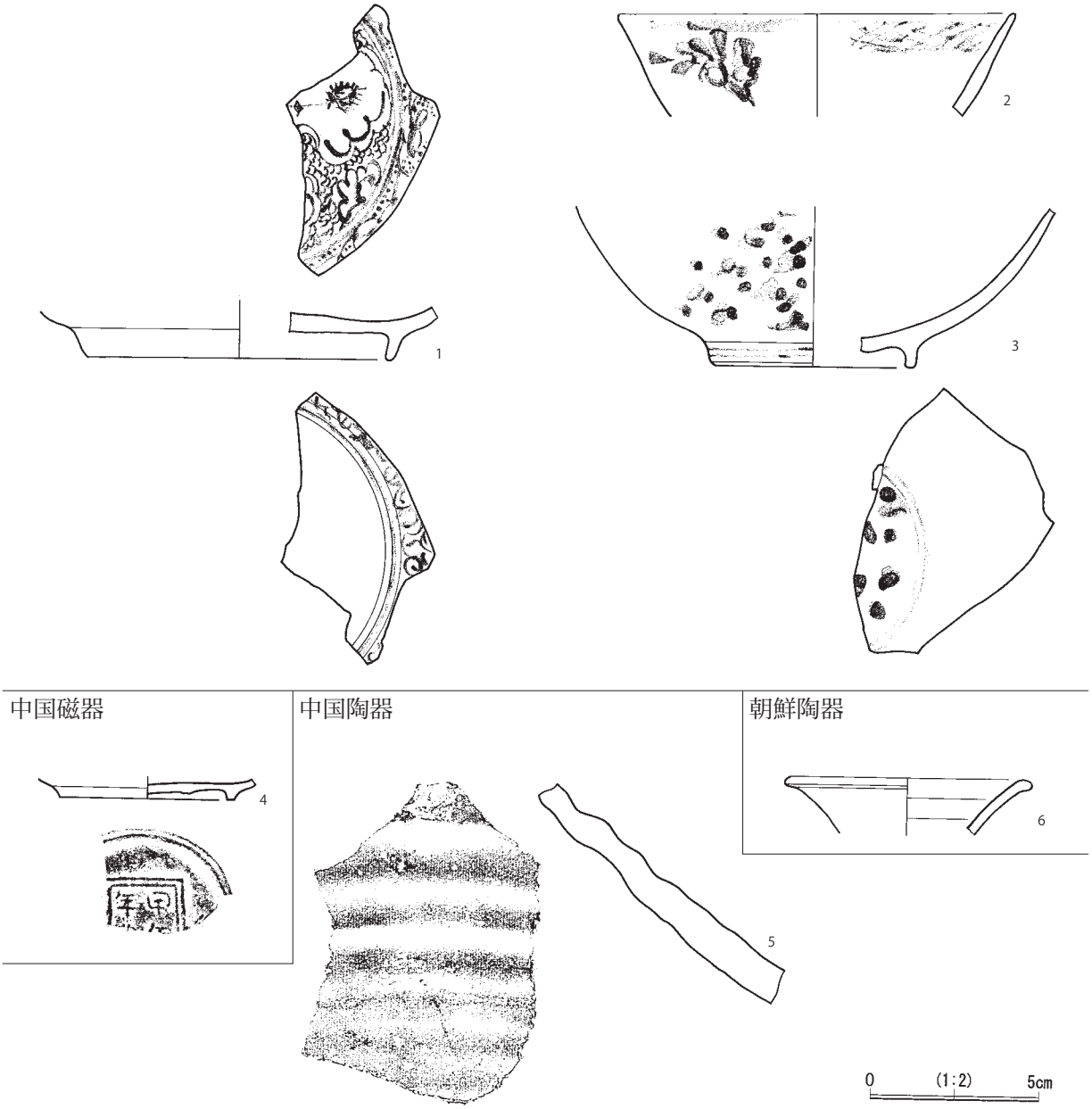
青磁

染付



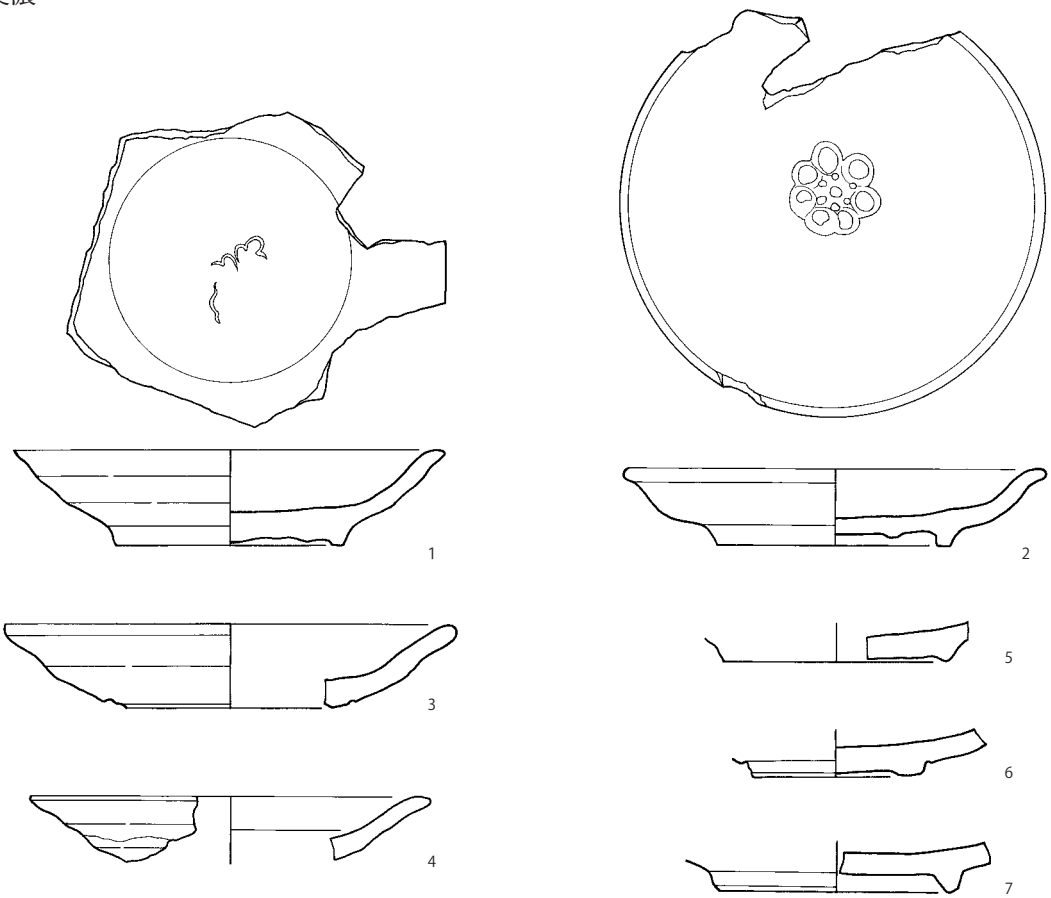
第140図　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物①

染付



第141図　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物②

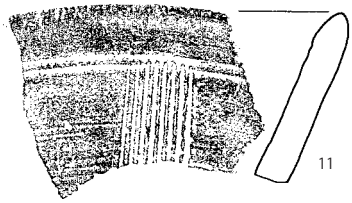
瀬戸美濃

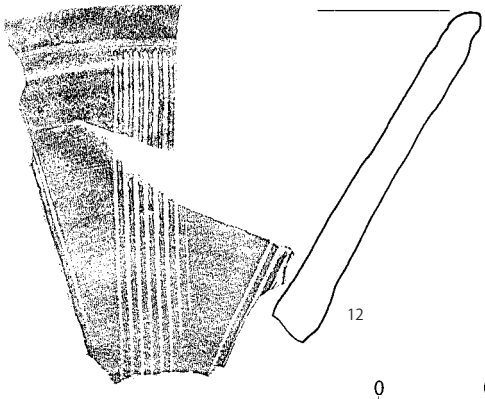


0　(1:2)　5cm

唐津

越前



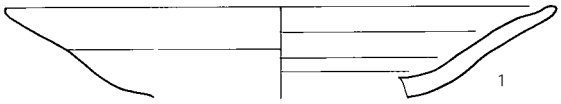


珠洲

0　(1:3)　10cm

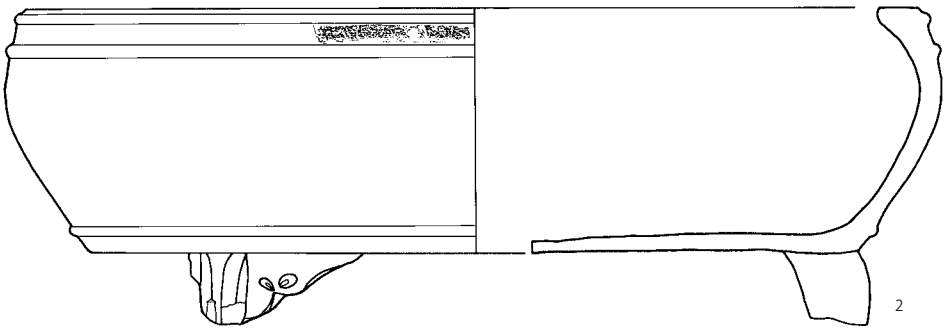
第142図　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物②

かわらけ



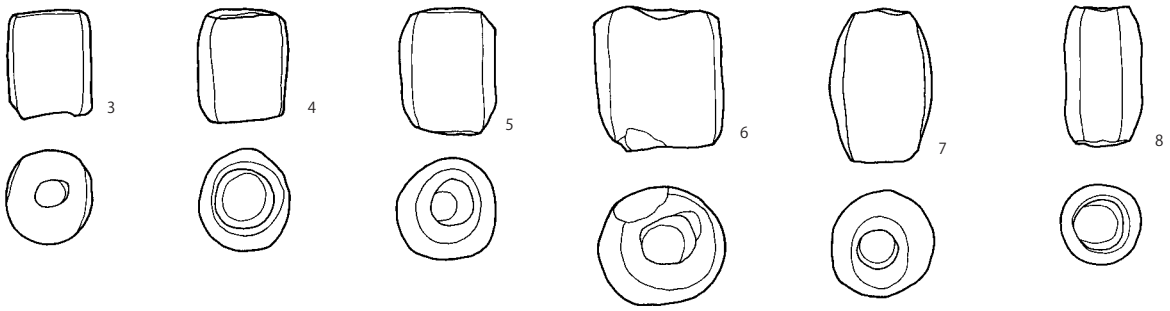
0　(1:2)　5cm

瓦質土器

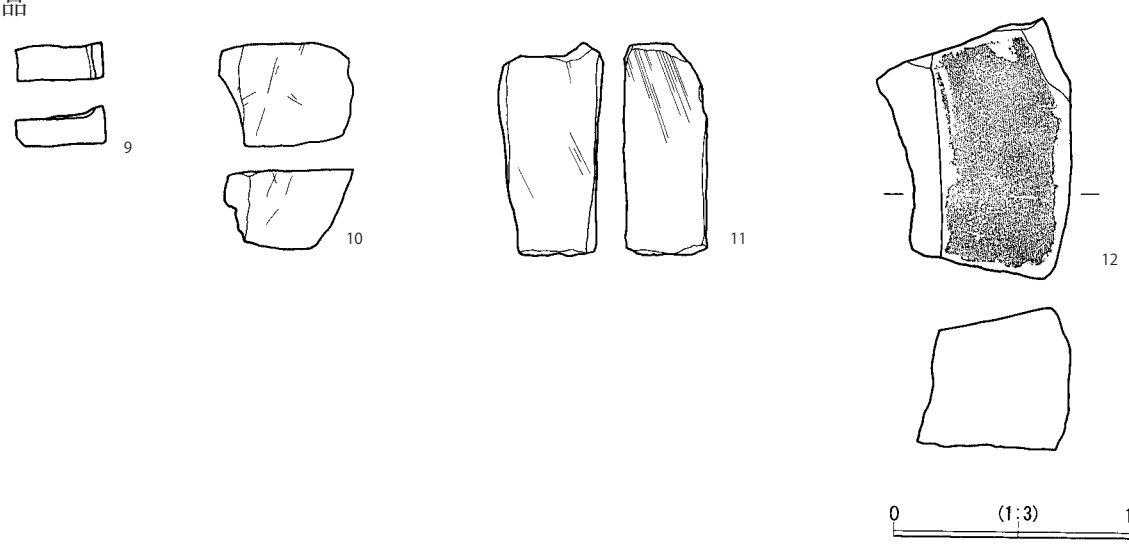


0　(1:4)　10cm

土製品



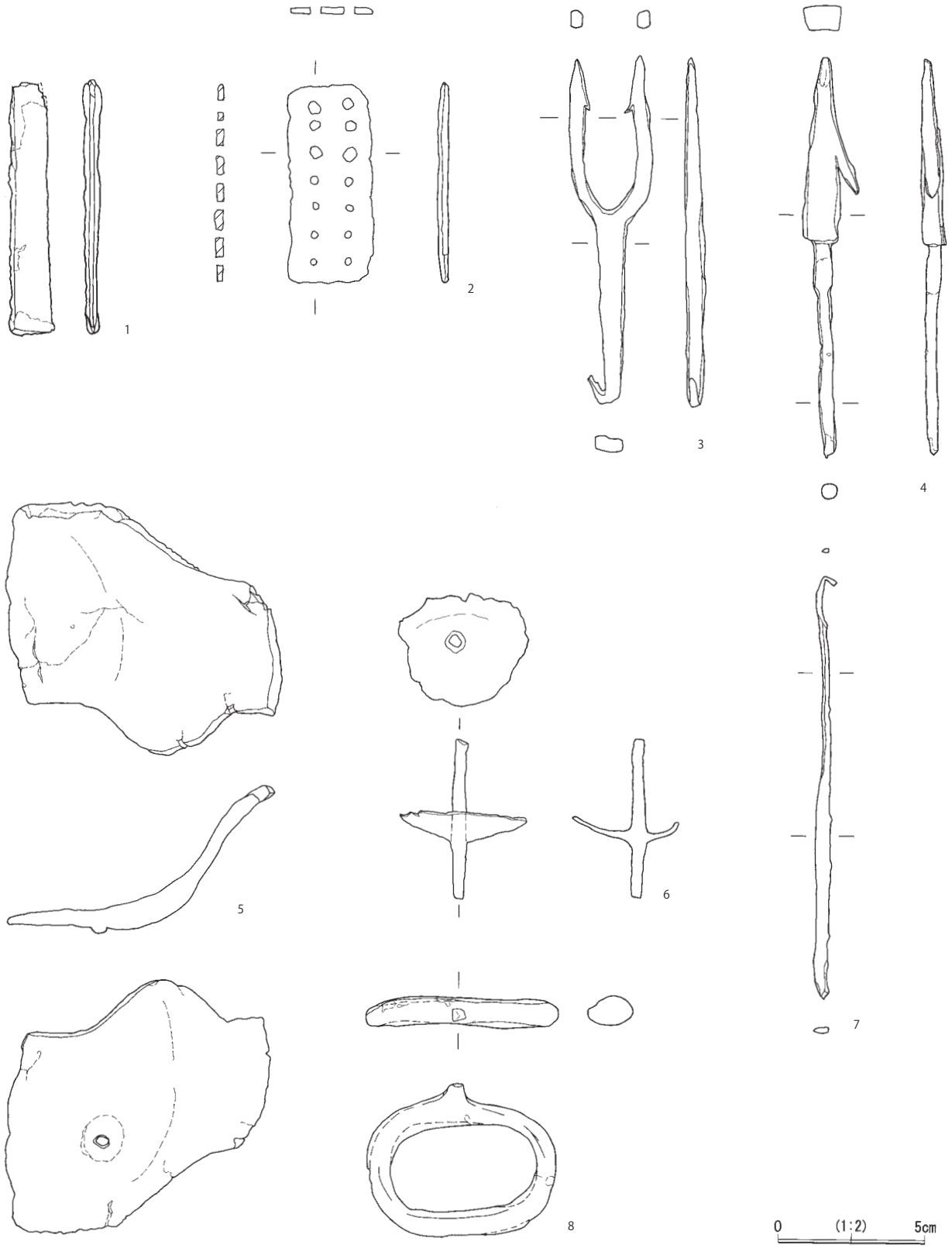
石製品



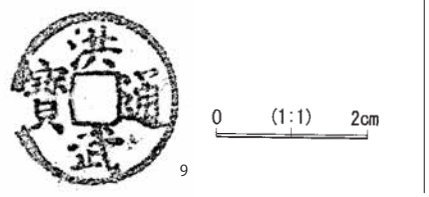
0　(1:3)　10cm

第143図　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物④

金属製品



銭貨



第144図　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物⑤

第47表　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
43	65	88	3	68	48	17	6	0	0	0	0	0	0	7	8	7	0	0	8	0	10	9	60	漆器片14

第48表　曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物観察表

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
140	1	34	白磁	皿	-	-	(9.0)	(4.2)	2.3	15c 前半	Ⅳ	18	1	
140	2	34	白磁	皿	-	-	(12.2)	-	(2.1)	15c後半～16c	Ⅳ	18	2	
140	3	34	青磁	皿	-	-	(8.4)	-	(1.5)	-	Ⅳ	18	3	
140	4	34	青磁	皿	-	-	(13.4)	-	(2.4)	-	Ⅳ	18	4	
140	5	34	青磁	皿	-	-	-	5.2	(1.4)	-	Ⅳ	18	5	見込み釉剥ぎ
140	6	34	青磁	皿	-	-	-	(4.8)	(1.4)	-	Ⅳ	18	6	見込み釉剥ぎ
140	7	34	青磁	皿	-	-	-	4.2	(1.5)	-	Ⅳ	18	7	
140	8	34	青磁	碗	-	-	(12.4)	-	(4.3)	-	Ⅳ	18	8	
140	9	34	青磁	碗	-	14SK40	(15.0)	-	(5.5)	15c後半～16c前半	Ⅳ	18	9	蓮弁文
140	10	34	青磁	碗	-	-	-	4.6	(3.1)	-	Ⅳ	18	10	被熱
140	11	34	青磁	盤	-	-	-	-	(2.8)	-	Ⅳ	18	11	
140	12	34	染付	皿	-	14SKP09	(11.8)	-	(1.6)	15c後半～16c前半	Ⅳ	19	1	
140	13	34	染付	皿	-	-	(14.0)	-	(2.0)	15c後半～16c前半	Ⅳ	19	2	
140	14	34	染付	皿	-	-	-	(3.8)	(1.6)	15c後半～16c中	Ⅳ	19	4	被熱
141	1	34	染付	皿	-	-	-	(9.0)	(1.6)	15c後半～16c前半	Ⅳ	19	3	
141	2	34	染付	碗	-	-	(11.8)	-	(3.0)	15c後半～16c中	Ⅳ	19	5	
141	3	34	染付	碗	-	-	-	(5.8)	(4.8)	15c後半～16c中	Ⅳ	19	6	
141	4	34	中国産磁器	紅皿	-	-	-	(5.2)	(0.6)	16c	Ⅳ	19	7	甲□年□の型押し
141	5	34	中国産陶器	壺	-	-	-	-	(6.3)	-	Ⅳ	19	8	
141	6	34	朝鮮産磁器	瓶	-	-	(7.4)	-	(1.6)	-	Ⅳ	19	9	
142	1	34	瀬戸美濃	皿	-	-	-	6.0	(2.5)	15c後半～16c前半	Ⅳ	20	6	
142	2	34	瀬戸美濃	皿	-	-	11.2	6.0	(2.0)	15c後半～16c前半	Ⅳ	20	7	
142	3	34	瀬戸美濃	皿	-	-	(12.0)	(5.6)	2.2	15c後半	Ⅳ	20	2	釉が外面上半のみ
142	4	34	瀬戸美濃	皿	-	-	(10.6)	-	(1.6)	15c後半	Ⅳ	20	1	釉が外面上半のみ
142	5	34	瀬戸美濃	皿	-	-	-	(6.0)	(1.0)	15c後半～16c前半	Ⅳ	20	3	
142	6	34	瀬戸美濃	皿	-	-	-	(4.4)	(1.2)	15c後半～16c前半	Ⅳ	20	4	被熱
142	7	34	瀬戸美濃	皿	-	-	-	(6.0)	(1.3)	15c後半～16c前半	Ⅳ	20	5	
142	8	34	唐津	壺	-	-	-	-	(10.4)	16c後半	Ⅳ	20	8	
142	9	34	珠洲	すり鉢	-	-	-	-	(2.4)	-	Ⅳ	20	9	
142	10	34	越前	すり鉢	-	-	-	-	(5.1)	-	Ⅳ	20	10	被熱
142	11	34	越前	すり鉢	-	-	-	-	(6.6)	15c末～16c初	Ⅳ	20	11	
142	12	34	越前	すり鉢	-	-	-	-	(12.9)	15c末～16c初	Ⅳ	20	12	
143	1	34	かわらけ	皿	-	-	(14.6)	-	(2.3)	15c後半	Ⅳ	21	1	
143	2	34	瓦質土器	鉢	-	-	(47.5)	(40.0)	(16.7)	-	Ⅳ	21	2	被熱・漆による補修痕

■土製品・石製品・金属製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
143	3	34	土製品	土錘	-	-	4.3	(最大幅)3.7	-	-	Ⅳ	21	3	
143	4	34	土製品	土錘	-	-	4.5	(最大幅)4.0	-	-	Ⅳ	21	4	
143	5	34	土製品	土錘	-	14SKP68	5.0	(最大幅)4.0	-	-	Ⅳ	21	5	
143	6	34	土製品	土錘	-	-	5.6	(最大幅)5.1	-	-	Ⅳ	21	6	
143	7	34	土製品	土錘	-	-	6.0	(最大幅)4.2	-	-	Ⅳ	21	7	
143	8	34	土製品	土錘	-	14SK33	5.5	(最大幅)3.2	-	-	Ⅳ	21	8	
143	9	34	石製品	硯	-	-	(1.3)	(3.5)	(1.5)	-	Ⅳ	21	9	
143	10	34	石製品	砥石	-	14SK33	4.0	5.2	3.0	-	Ⅳ	21	10	
143	11	34	石製品	砥石	-	-	8.2	4.1	3.2	-	Ⅳ	21	11	
143	12	34	石製品	茶臼	-	-	(10.2)	(7.6)	(5.5)	-	Ⅳ	21	12	
144	1	34	金属製品	小柄	-	-	(8.5)	1.3	0.5	-	-	-	-	鉄製
144	2	34	金属製品	小札	-	14SKP114	6.7	2.8	0.3	-	-	-	-	鉄製
144	3	34	金属製品	ヤス先	-	-	11.7	2.9	0.6	-	-	-	-	鉄製
144	4	34	金属製品	銛先	-	14SKP09	13.2	1.3	0.7	-	-	-	-	鉄製
144	5	34	金属製品	鍋	-	-	-	-	器高(7.5)	-	-	-	-	鉄製、底部に脚部の痕跡
144	6	34	金属製品	燭台	-	-	(5.4)	4.3	0.4	-	-	-	-	鉄製
144	7	34	金属製品	不明	-	-	14.2	0.5	0.2	-	-	-	-	銅製
144	8	34	金属製品	不明	-	-	6.5	5.1	1.0	-	-	-	-	鉄製
144	9	34	銭貨	-	-	-	2.3	-	-	-	Ⅳ	21	13	洪武通寶

（９）天下道（第15次調査）

①天下道の立地と概要

天下道は城下町地区として想定している脇本本郷集落を縦断し、菅原神社を経由して、内館地区中央部を貫通する道路跡である。内館地区からは脇本城跡の西方に位置する茶臼峠へと抜ける。天下道は明治17年までの主要道であり、男鹿街道（比詰街道とも表記される）という名称が付されるものの、秋田藩主佐竹家も男鹿往来に利用したため、通称「天下道」と呼ばれ、現在も用いられる。脇本城跡直下に通る国道101号線生鼻崎トンネルの開通以前は、脇本地区から西方の船川港地区へ至る生鼻崎越えの道路として使用が継続されていたようである（地域住民の聞き取り等による）。内館地区南東側は現代の道路造成により一部削平されており、さらに地点によっては自然流路との区別が不明確になっている。しかし、概ね良好な保存状況であり、地点によっては切通し状の道路跡として現在も明確に確認できる。

②検出遺構

内館地区内の天下道と想定される地点に任意の大きさのトレンチ６か所を設定して行った。その結果、総計で道路跡６条、溝跡１条、柱穴跡28基、盛土跡３か所が検出された。

トレンチについて

【１トレンチ】

曲輪16南斜面下に位置する道路跡（天下道）に直行して、南北6.8m×東西1.5mで設定した。遺構確認面は全面地山土であった。

【２トレンチ】

曲輪13南側斜面下に位置する道路跡（天下道本筋）に直行して、南北7.2m×東西1.5mで設定した。遺構確認面は全面地山土であった。

【３トレンチ】

内館地区北西端の道路跡（天下道）と尾根筋を馬乗り場地区方向へ至る道路（道路跡として認識はされておらず、便宜的に通行する道）の交差する地点に、南北10m×東西1.5mに設定した。遺構確認面はトレンチ南西側の天下道側で一部地山土であったが、北東側は盛土であった。

【４トレンチ】

曲輪19南側斜面下の道路跡（天下道）及びそれと並行する道路状遺構（自然流路等の可能性がある）に直行して、南北13m×東西３ｍで設定した。遺構確認面はトレンチ北側で地山土であったが、南側では盛土であった。

【５トレンチ】

曲輪19南西側に切通し状に残る道路跡（天下道）に直行して、南北8.6m×東西1.5mで設定した。遺構確認面は全面地山土であった。

【６トレンチ】

内館地区中央部の道路跡（天下道）から曲輪状遺構へ至る斜面に、南北1.5m×東西8.5mで設定した。遺構確認面はトレンチ中央部は地山土であったが、東西両側は盛土であった。

15SM01道路跡（第146～150図）

１～５トレンチで検出された。内館地区内を東西に通る道路跡（通称天下道）である。昭和40年代まで使用されていた道路跡で現在も多くの区間で、道状の名残が確認できる。道幅は確認された範囲で76cm～135cmである。掘り込みの深さ10cm～19cmであり、全てのトレンチで切土した地山土上に敷

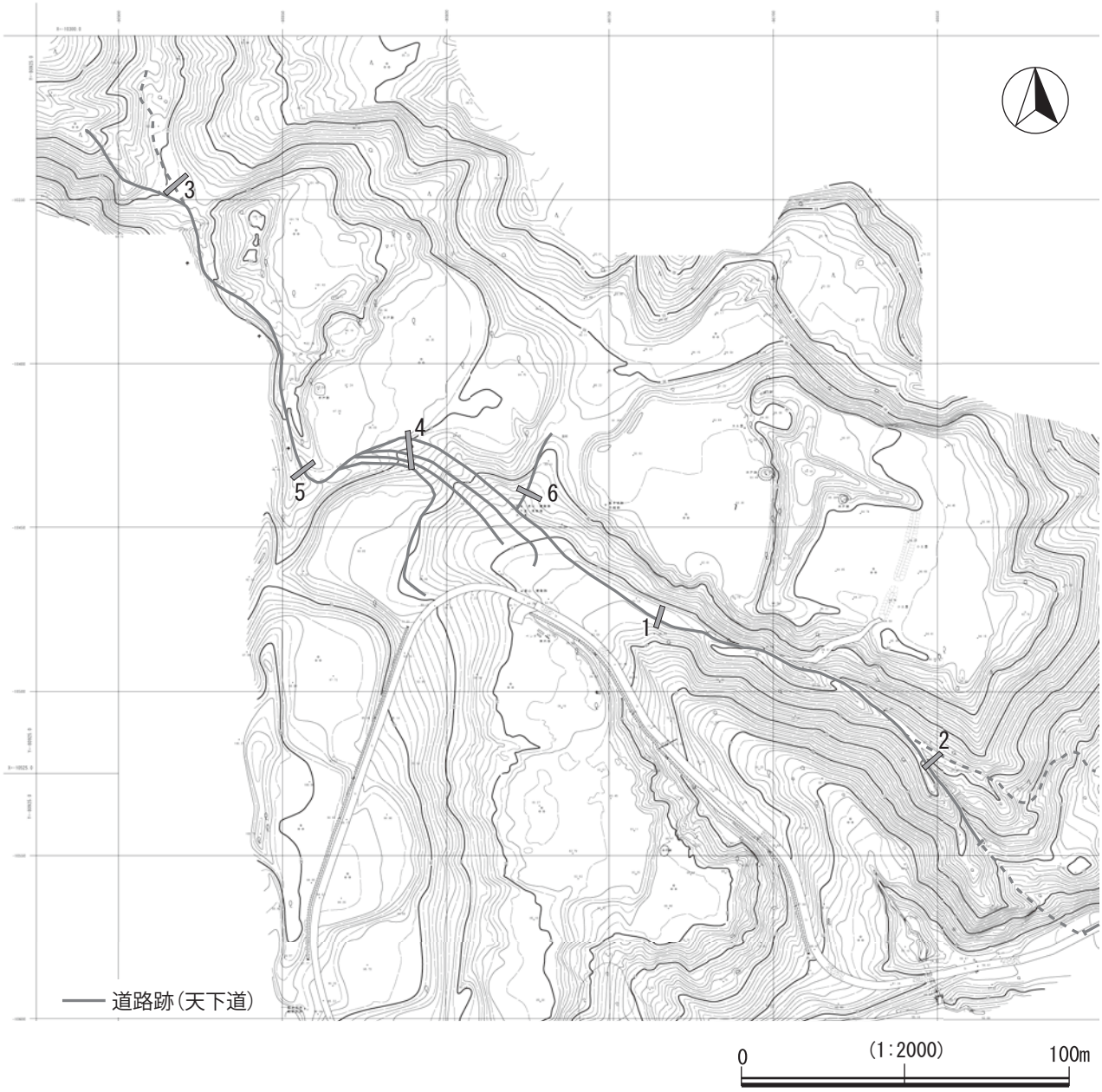
設されていた。堆積土は道路敷設に伴う造成土と判断される。覆土内からの遺物の出土はなかったが、４トレンチなどでは曲輪19の斜面造成と一体となった敷設が確認され、内館地区の曲輪造成と同時に整備されたと推察される。

15SM02道路跡（第147図）

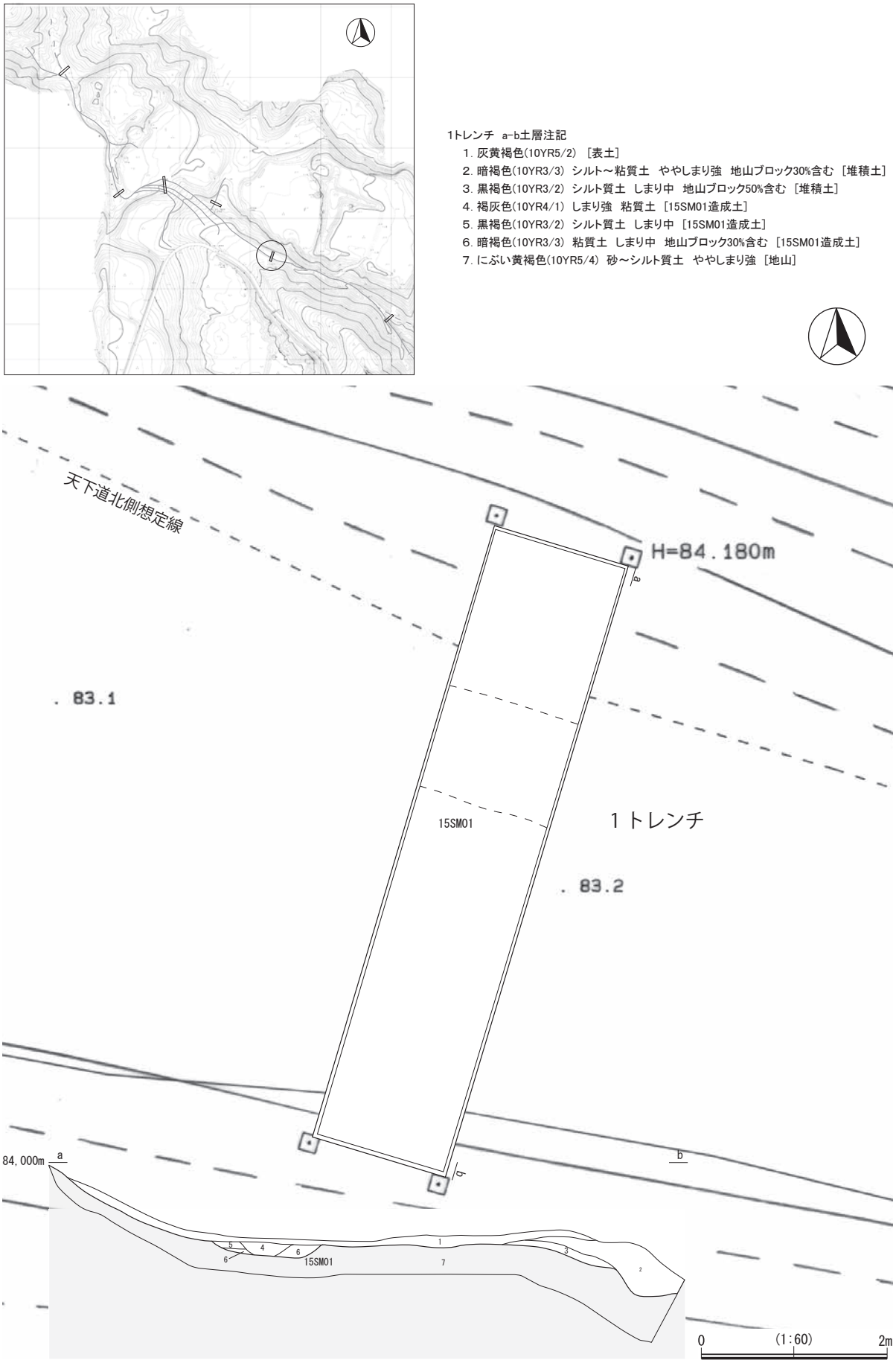
２トレンチ北側で検出された。曲輪13の南側斜面下で天下道と分岐し、菅原神社へ至る道路状遺構である。幅は推定152cmで、明確に遺構として確認するには至らなかったが、現況で道路として確認できるため、遺構として掲載した。遺物は出土しなかった。

15SM05道路跡（第148図）

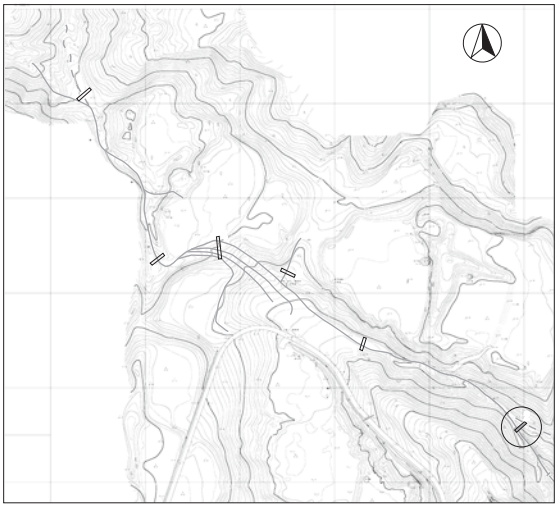
３トレンチ南西側の土塁状の高まり直下から検出された。確認された幅が88cm、掘り込みの深さ18cmである。盛土造成以前の道路であり、内館地区整備以前の道路跡である。現在確認できる天下道本筋とほぼ同地点から確認されたため、内館地区の整備以前の天下道の様相を示す遺構と判断した。



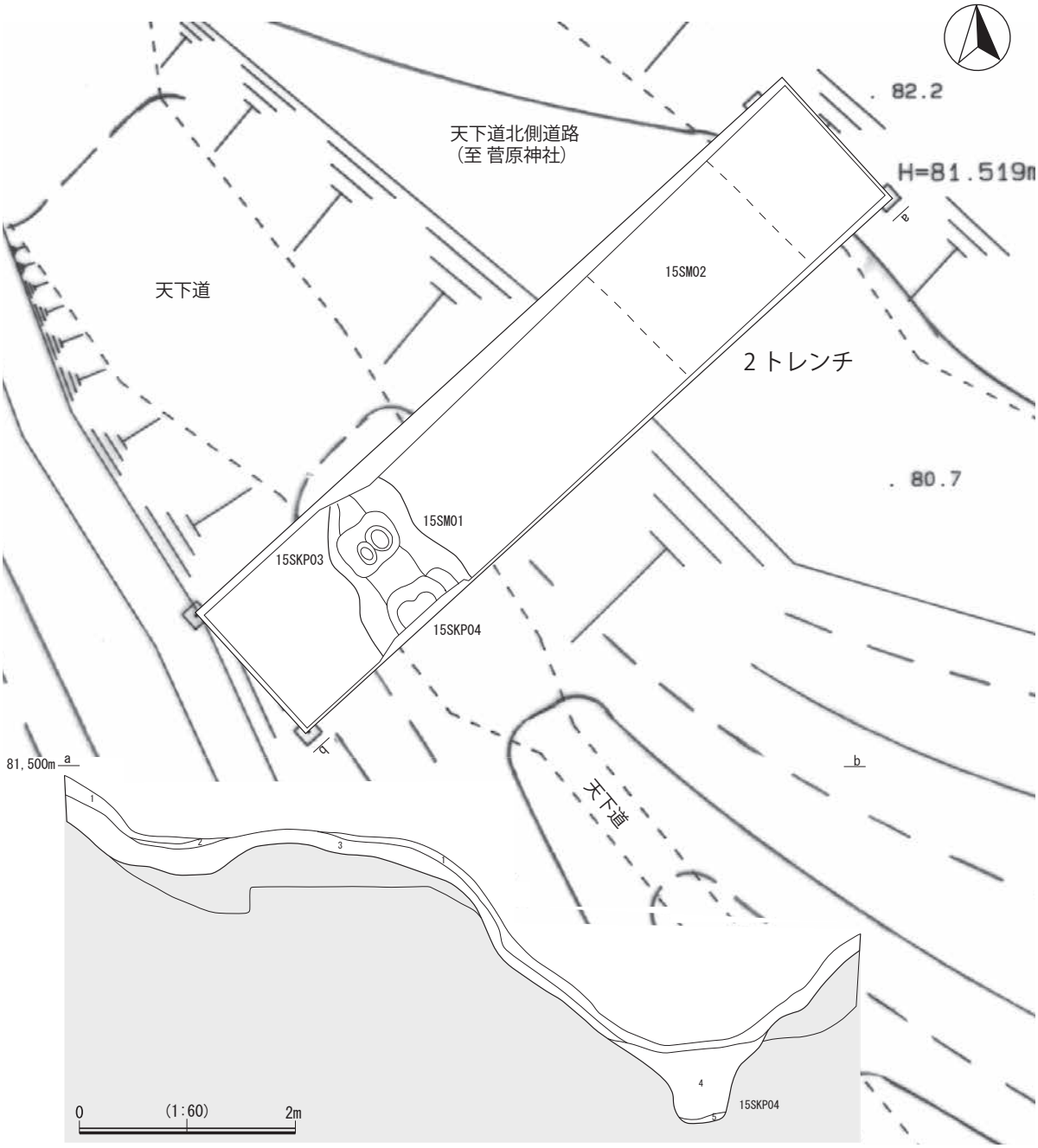
第145図　天下道（第15次調査）トレンチ配置図



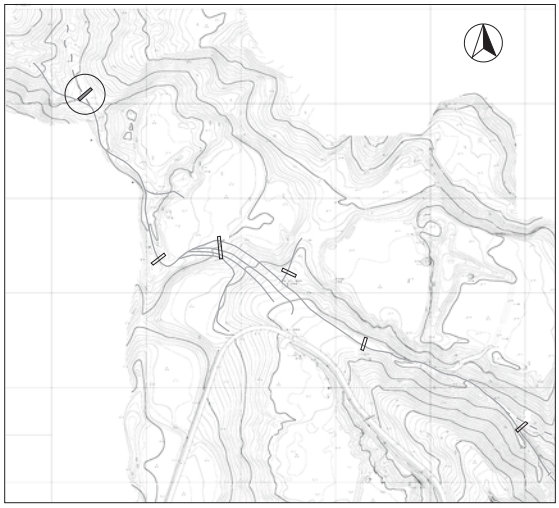
第146図　１トレンチ平面図・断面図



2トレンチ　a–b土層注記
1. 黒褐色(10YR3/2)　[表土]
2. 暗褐色(10YR3/3)　シルト質土　しまり中　周囲の土より少し黒っぽい帯状　[堆積土]
3. 褐色(10YR4/4)　砂質土　しまりやや強　[堆積土]
4. 黄褐色(2.5Y5/3)　シルト質土　ややしまり弱　鉄分多い　[15SKP04]
5. 黄褐色(2.5Y5/3)　砂利と小礫からなる層　[15SKP04]

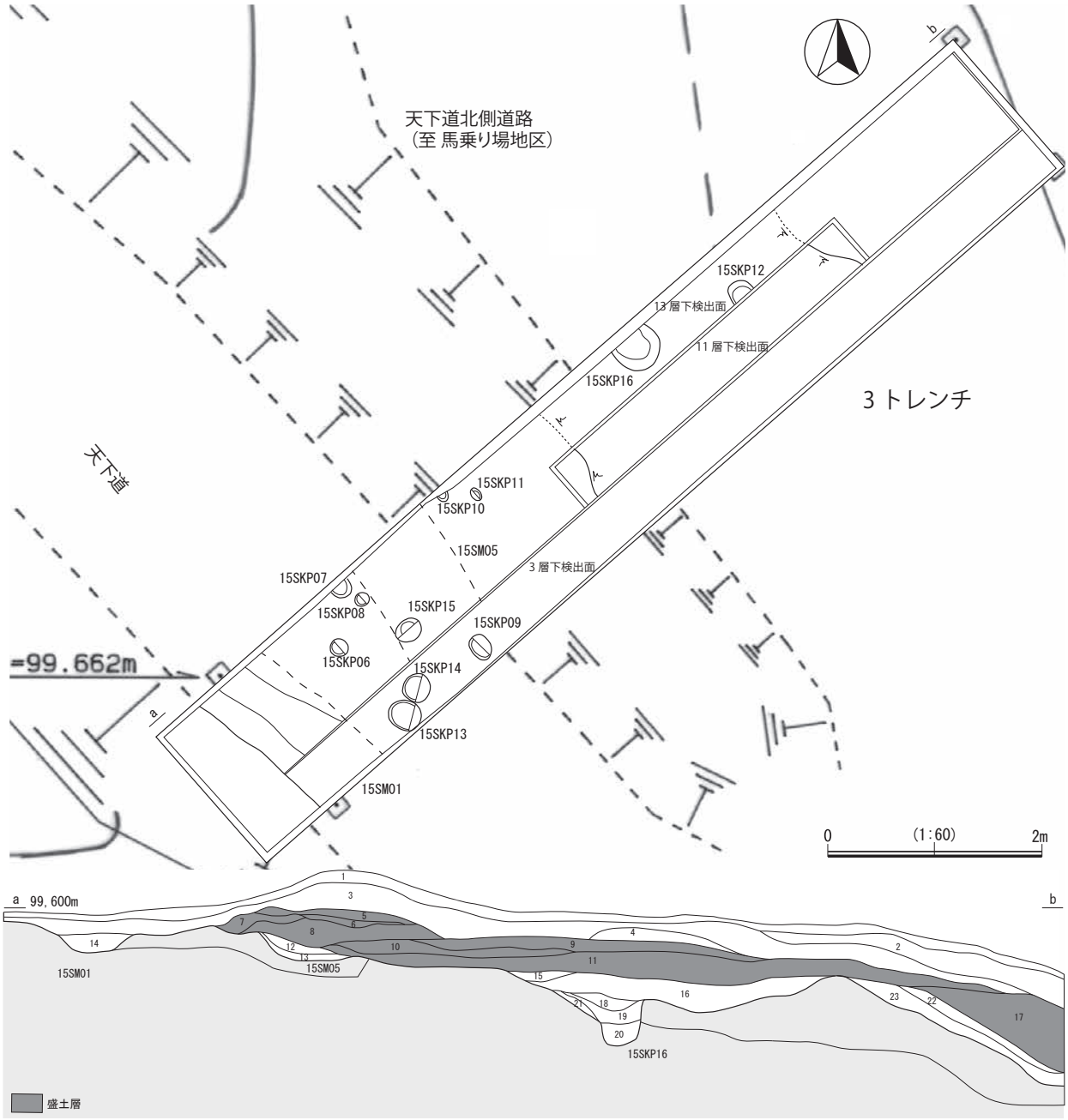


第147図　２トレンチ平面図・断面図



3トレンチ a-b土層注記

1. 黒褐色(10YR3/2) ［表土］
2. 黄褐色(10YR5/6) シルト質土 ［堆積土］
3. 褐色(10YR4/4) シルト～粘質土 しまり中 混入物なし ［堆積土］
4. 黄褐色(10YR5/6) シルト質土 ［堆積土］
5. にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質土 しまり強 ［盛土］
6. にぶい黄化色(10YR4/3) 砂質土 ややしまり強 地山小ブロック少量含む ［盛土］
7. 灰黄褐色(10YR4/2) 砂～シルト質土 しまり強 ［盛土］
8. 暗褐色(10YR3/3) 砂～シルト質土 ややしまり強 地山ブロック少量含む ［盛土］
9. 暗褐色(10YR4/4) 砂質土 しまり中 ［盛土］
10. 褐色(10YR4/6) シルト質土 ややしまり強 鉄分多く含む ［盛土］
11. 暗灰黄色(2.5Y5/2) シルト～砂質土 しまり強 やや鉄分多く含む ［盛土］
12. 暗褐色(10YR3/3) シルト～砂質土 しまり強 地山大ブロック30%含む ［15SM05造成土］
13. 暗褐色(10YR3/4) 砂～シルト土 ややしまり強 地山小ブロック10%含む ［15SM05造成土］
14. 褐色(10YR4/6) シルト質土 しまり強 ［15SM01造成土］
15. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト質土 しまり強
16. 暗褐色(10YR3/4) シルト～粘質土 ややしまり強
17. 黒褐色(10YR3/2) シルト～粘質土 しまり中 地山ブロック50%含む ［盛土］
18. 褐色(10YR4/4) シルト しまり中 地山極小ブロック30%含む ［15SKP16］
19. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト質土 しまり中 地山極小ブロック20%含む ［15SKP16］
20. 褐色(10YR4/6) シルト質土 しまり中 地山極小ブロック20%含む ［15SKP16］
21. 暗褐色(10YR3/4) シルト質土 しまり中 地山極小ブロック30%含む ［15SKP16］
22. 暗褐色(10YR3/3) シルト質土 しまり中 ［自然堆積土］
23. 黒色(10YR3/2) シルト～粘質土 しまり中 ［自然堆積土］

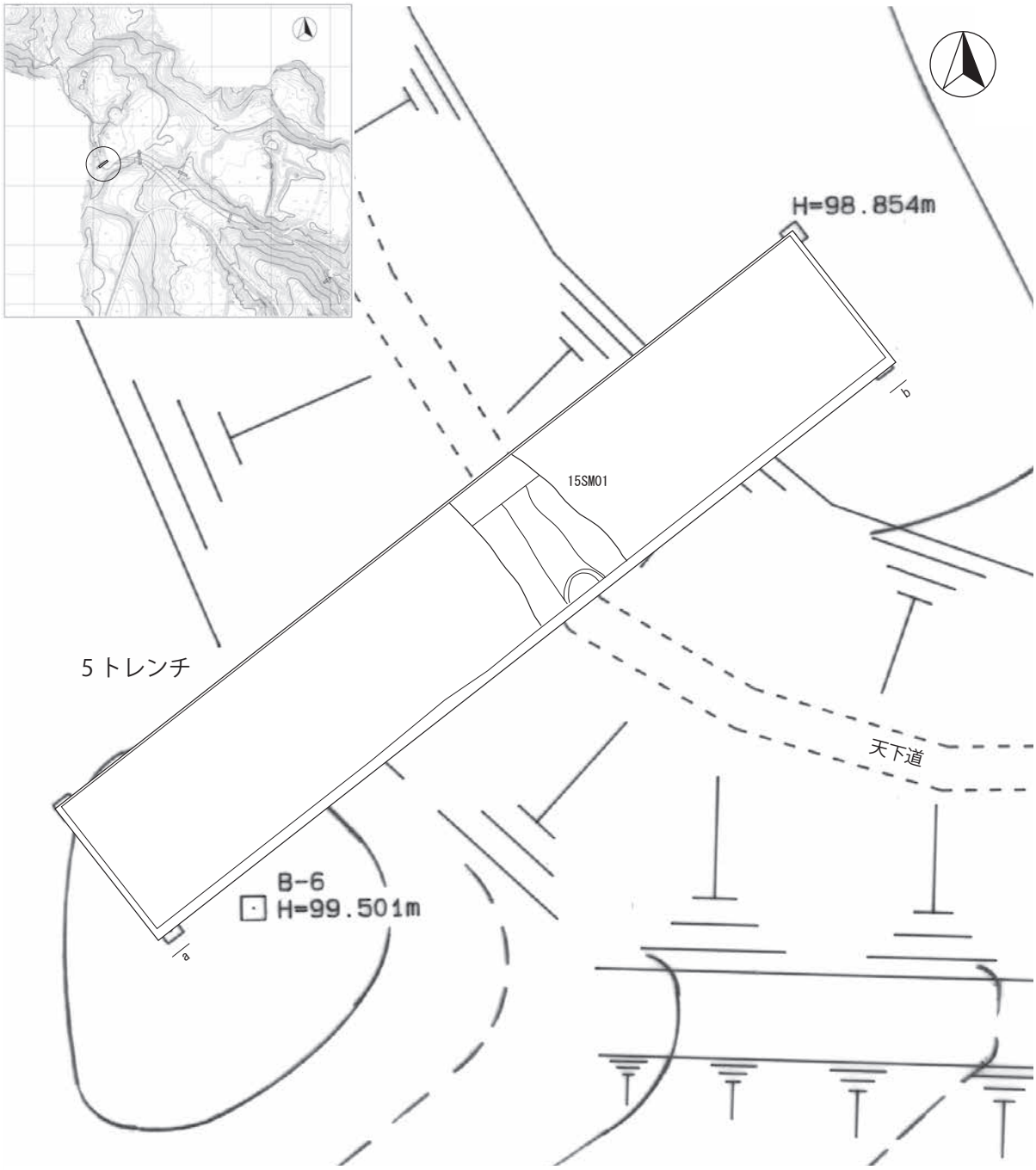


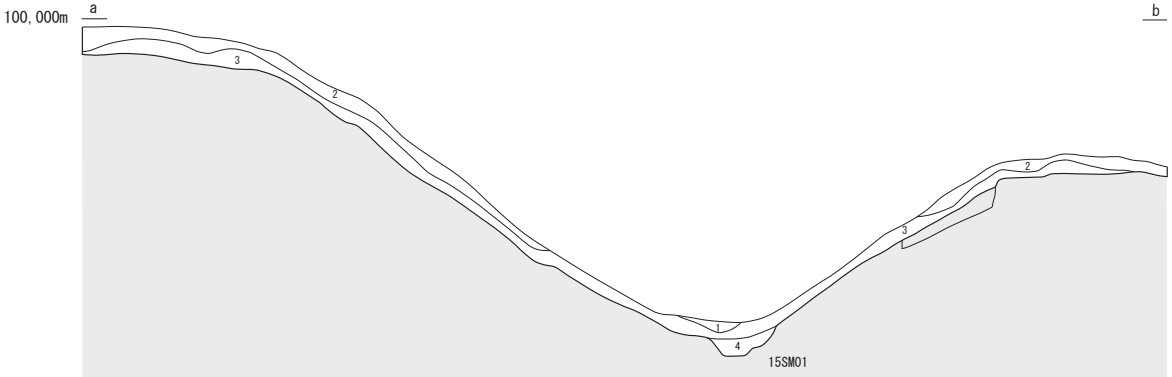
第148図　3トレンチ平面図・断面図

4トレンチ　a-b土層注記

1. 黒褐色(10YR3/2) 粘質土　しまり弱　植物が多く通路に草木がたまった層［15SM表層土］
2. 黒褐色(10YR3/2) ［表土］
3. 暗褐色(10YR3/3) 砂～シルト質土　しまり中［堆積層］
4. 褐色(10YR4/4) シルト質土　しまり中　地山ブロック少量含む［15SM01造成土］
5. 褐色(10YR4/4) シルト質土　ややしまり強　地山小ブロック5%　炭化物少量含む［15SM17･18･20造成土］
6. にぶい黄褐色(10YR5/4) シルト質土　しまり中　鉄分多く含む［15SM17造成土］
7. 暗褐色(10YR3/3) シルト質土　しまり中　地山ブロック5%含む［15SM18造成土］
8. 暗褐色(10YR3/3) シルト質土　しまり中　炭化物やや大粒3%　地山ブロック10%含む［盛土］
9. 暗褐色(10YR3/4) シルト質土　しまり強　炭化物1%　地山ブロック［盛土］
10. 灰黄褐色(10YR4/2) 粘質土　しまり中　地山小ブロック50%含む［盛土］
11. 黒褐色(10YR3/2) シルト～粘質土　ややしまり強　炭化物大粒で3%含む［盛土］
12. にぶい黄褐色(10YR5/4) 粘質土　しまり中　地山ブロック50%含む［盛土］
13. 黄褐色(10YR5/8) 粘質土　ややしまり強　地山土に酷似［盛土］
14. 黒褐色(10YR2/3) シルト～粘質土　しまり強　地山ブロック30%　炭化物少量含む［盛土］
15. :黄褐色(10YR5/6) 粘質土　しまり中　地山土が粒上に入る［盛土］
16. :黒褐色(10YR3/1) シルト～粘質土　しまり非常に強　地山土わずかに含む［自然堆積層］
17. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質土　しまり中　炭化物少量含む［自然堆積層］
18. 褐色(10YR4/4) シルト質土　しまり中　地山ブロック50%含む［自然堆積層］

第149図　４トレンチ平面図・断面図

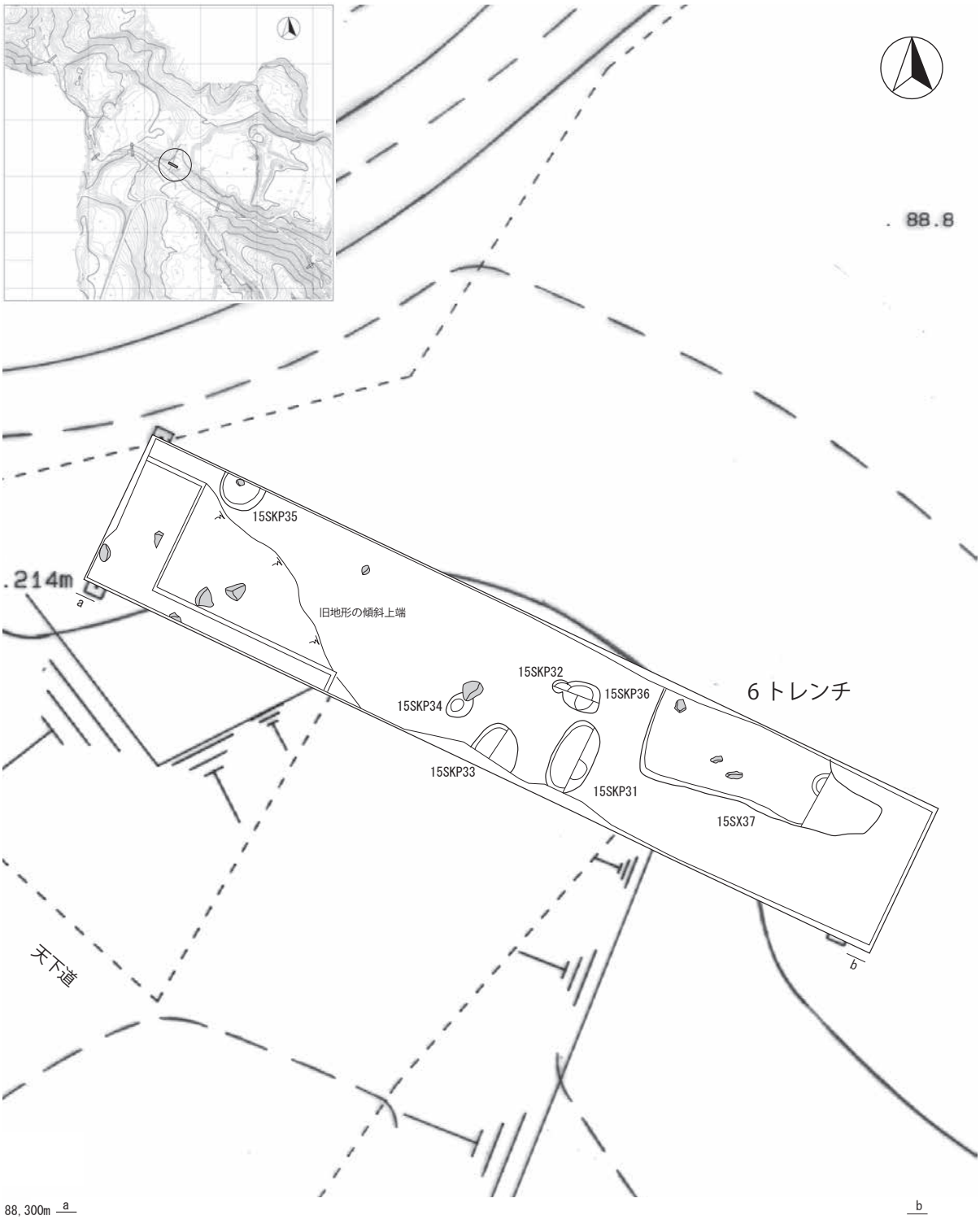


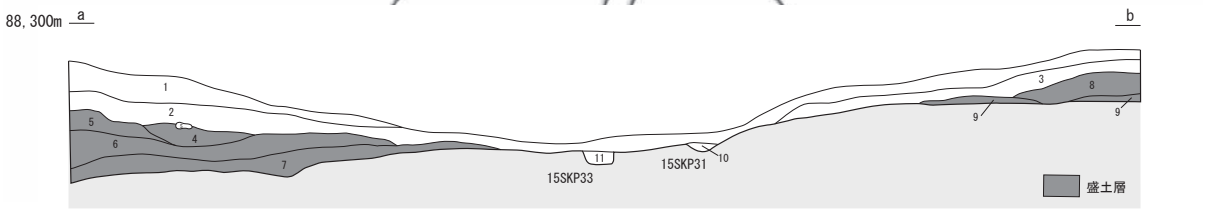


5トレンチ　a-b土層注記
1. 黒褐色(10YR2/3) シルト～粘質土　しまり弱　植物が多く通路に草木がたまった層
2. 黒褐色(10YR3/2) ［表土］
3. 褐色(10YR4/4) シルト質土　しまり中　地山ブロック50%［漸移層］
4. 褐色(10YR4/4) シルト質土　しまり中　地山ブロック少量含む［15SM01造成土］

0　(1:60)　2m

第150図　５トレンチ平面図・断面図





6トレンチ　a-b土層注記
1. 表土
2. 暗褐色(10YR3/4)　シルト質土　ややしまり強　地山ブロック10%含む　[堆積層]
3. 暗褐色(10YR3/3)　シルト～砂質土　しまり中　炭化物少量含む　[堆積層]
4. 暗褐色(10YR3/3)　シルト質土　しまり中　地山ブロック5%　炭化物2%含む　[盛土]
5. 褐色(10YR4/4)　シルト質土　しまり中　暗褐色(10YR3/3)30%　地山ブロック30%含む　[盛土]
6. にぶい黄橙色(10YR6/4)　シルト～粘質土　地山に酷似　[盛土]
7. 暗褐色(10YR3/3)　シルト質土　しまり中　地山ブロック10%　炭化物3%含む　[盛土]
8. 褐色(10YR4/4)　砂～シルト質土　しまり中　[盛土]
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)　シルト～粘質土　しまり中　地山ブロック50%　小礫やや多い　[盛土]
10. 暗褐色(10YR3/3)　シルト質土　しまり中　[15SKP31]
11. 褐色(10YR4/4)　シルト　しまり中　地山ブロック50%　[15SKP33]

礫　0　(1:60)　2m

第151図　６トレンチ平面図・断面図

第49表　天下道（第15次調査）遺構一覧表

■道路跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
15SM01	第146図 第147図 第148図 第149図 第150図	1トレンチ 2トレンチ 3トレンチ 4トレンチ 5トレンチ	13 19 17 10 13	116 107 76 135 97	-	V	SM02	
15SM02	第147図	2トレンチ	-	(152)	-	V	-	
15SM05	第148図	3トレンチ	18	(88)	-	V	-	
15SM17	第149図	4トレンチ	15	104	-	V	SD06	
15SM18	第149図	4トレンチ	13	71	鉄製弾（第152図-4）	V	SD07	
15SM20	第149図	4トレンチ	9	55	-	V	SD08	

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
15SD19	第149図	4トレンチ	15	22	-	V	SD09	

■柱穴跡

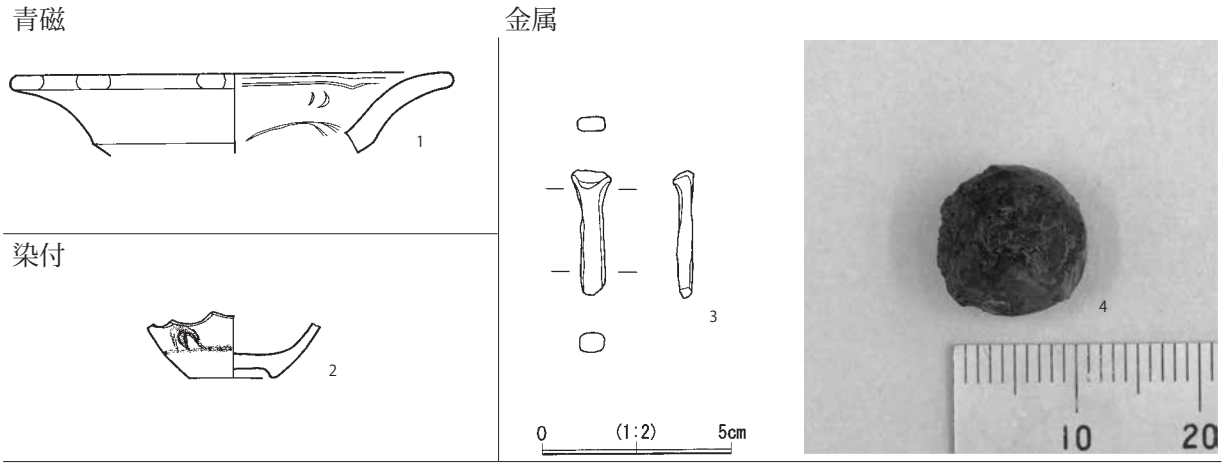
遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
15SKP03	第147図	2トレンチ	25	56	42	-	V	SKP03	
15SKP04	第147図	2トレンチ	66	(71)	(27)	-	V	SKP04	
15SKP06	第148図	3トレンチ	-	17	16	-	V	SKP01	
15SKP07	第148図	3トレンチ	-	(20)	-	-	V	SKP02	
15SKP08	第148図	3トレンチ	-	13	12	-	V	SKP03	
15SKP09	第148図	3トレンチ	-	23	17	-	V	SKP04	
15SKP10	第148図	3トレンチ	-	(9)	-	-	V	SKP05	
15SKP11	第148図	3トレンチ	-	13	9	-	V	SKP06	
15SKP12	第148図	3トレンチ	-	(23)	-	-	V	SKP07	
15SKP13	第148図	3トレンチ	22	31	28	-	V	SKP08	
15SKP14	第148図	3トレンチ	6	27	26	-	V	SKP09	
15SKP15	第148図	3トレンチ	5	25	20	-	V	SKP10	
15SKP16	第148図	3トレンチ	33	(42)	(33)	-	V	SKP12	
15SKP21	第149図	4トレンチ	22	39	38	染付小坏（第152図-2）/古銭	V	SKP01	
15SKP22	第149図	4トレンチ	9	44	(36)	-	V	SKP02	
15SKP23	第149図	4トレンチ	12	52	(44)	-	V	SKP03	
15SKP24	第149図	4トレンチ	15	29	28	-	V	SKP04	
15SKP25	第149図	4トレンチ	28	32	29	-	V	SKP05	
15SKP26	第149図	4トレンチ	18	37	24	-	V	SKP11	
15SKP27	第149図	4トレンチ	33	24	24	-	V	SKP12	
15SKP28	第149図	4トレンチ	9	18	14	-	V	SKP13	
15SKP29	第149図	4トレンチ	15	(32)	(25)	-	V	SKP14	
15SKP31	第151図	6トレンチ	24	68	38	-	V	SKP01	
15SKP32	第151図	6トレンチ	6	13	-	-	V	SKP02	
15SKP33	第151図	6トレンチ	13	29	22	-	V	SKP03	
15SKP34	第151図	6トレンチ	8	48	27	-	V	SKP04	
15SKP35	第151図	6トレンチ	6	(44)	(30)	-	V	SKP05	
15SKP36	第151図	6トレンチ	8	36	18	-	V	SKP02	

■不明遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
15SX30	第149図	4トレンチ	-	60	-	-	V	SX10	炭化物集積遺構
15SX37	第151図	6トレンチ	9	239	(76)	-	V	SX06	

第50表　天下道（第15次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
8	14	10	0	8	2	3	0	0	0	0	3	0	1	0	3	0	0	0	1	0	0	1	7	鉄滓



第152図　天下道（第15次調査）出土遺物

第51表　天下道（第15次調査）出土遺物観察表

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
152	1	34	青磁	皿	4トレンチ	15SKP21	(11.7)	-	(2.1)	-	V	9	1	稜花皿
152	2	34	染付	小坏	4トレンチ	-	-	(2.2)	(1.7)	-	V	9	2	

■金属製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
152	3	34	金属製品	和釘	4トレンチ	-	3.3	0.8	0.4	-	-	-	-	

■金属製品（鉄製弾）

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm/g）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							最大径	最小径	重量					
152	4	-	金属製品	弾	4トレンチ	15SM18	1.20	1.10	-	-	-	-	-	

15SM17・18・20道路跡（第149図）

４トレンチ南側で検出された。曲輪18、19の南側斜面下は天下道本筋と並行して、同様の道筋が３本現況で確認されている。それぞれで掘り込みが確認され、道路跡として位置付けた。15SM17は幅104cm、掘り込みの深さ15cmであり、15SM18は幅71cm、掘り込みの深さ13cm、15SM20は幅55cm、掘り込みの深さ９cmである。いずれも遺構上面に多量の草木が堆積する層が確認されており、雨水等が通る流路となっている。調査以前から自然流路等の可能性を検討していたが、直下に掘り込みが確認されたため、道路跡として判断した。遺物は出土しなかった。

15SX30不明遺構（第149図）

４トレンチ南側で検出された。炭化物が集中する遺構である。掘り下げは行っていないため、堆積の深さは不明である。本遺構で検出された炭化物について、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、15世紀中頃～ 17世紀前半（calAD1,455 ～ calAD1,619）の年代が示された。

③ 出土遺物（第152図）

遺物は61点出土している（その他を含めない）。点数は接合後の破片数である。中世陶磁器は48点出土し、貿易陶磁器が32点（66.7％）、国産陶器が16点（33.3％）である。

陶磁器の年代について、白磁はE群が主体で15世紀後半～ 16世紀代である。青磁は小片のため図示していないが、細描蓮弁文を施す碗が１点あり、15世紀後半～ 16世紀前半代、染付はC群の碗、B群の皿が出土しており、15世紀後半～ 16世紀中頃を主体とする。

第２節　馬乗り場地区

１　調査の目的と経緯

馬乗り場地区は内館地区と同様中世脇本城跡の主要地区と想定されており、曲輪群や土塁、井戸跡など現況でも確認できる遺構が残されている。内館地区とは曲輪の配置構造が異なり、単郭の大規模な曲輪を中心とし、その周囲を小規模な曲輪群が配置される構造である。戦国期脇本城跡の主要地区と捉えられている地区であることから、補助事業による確認調査開始の際には本地区が最初に実施された。城跡に伴う建物跡や防御施設等の構造を把握すること、城跡造作の具体的方法を探ること、具体的な築城及び廃城の年代を探ることを目的に、４次にわたる確認調査が行われている。

２　馬乗り場地区の立地と現況

馬乗り場地区は脇本城跡の中央部の標高113m前後に位置する。本地区名は石川理紀之助が『南秋田郡適産旧蹟考』の中で「古城の北部二三丁沢をへたてゝ臺地あり、これにハ屋布跡多し、又馬場跡なと今にあり、此処よりハ大倉辺目下にして古城の北端の高部也」と記し、現在でも通称となっていることから馬乗り場地区と仮称している。本地区は脇本城跡内で最も高所に位置し、単郭の大規模な曲輪を中心とする。曲輪内には土塁や井戸跡が残存するも、第２次世界大戦から開墾で、畑地に転用されており、攪乱が及んでいるものと推測される。曲輪の西側は急峻な崖となっているが、北、東、南側には小規模な曲輪が複数配置され、さらに南東側には大手と推察される脇本城跡南東に位置する本明寺裏へ至る道路跡があり、馬乗り場地区へは直角に曲がって至る。さらに本明寺道から分岐し、内館地区へ至る道路跡もある。また北側には桂源寺道、東側に田谷沢道を経由して挟間田へ至る挟間田道等が確認されている。畑地転用や戦後の植林活動による地形改変の様相を観察することができるものの、要所要所に城郭機能時の痕跡を維持したと考えられる遺構が遺存している。

３　基本層序

馬乗り場地区は、城館の普請に伴って、丘陵の自然地形を大きく改変している。現在の馬乗り場地区の様相は、第２次世界大戦中から畑地へ転用され、さらに戦後の植林によって改変された状況を呈しており、地下の保存状況も決して良好とはいえない。一部に遺構確認面までの堆積が非常に厚い地点もあるが、畑地転用による耕作の影響が大きいものと考えられる。馬乗り場地区では最も標高の高い中心部の曲輪で実施した第９次調査での層序を基本層序として捉える。

概ね上層からⅠ層：表土、Ⅱ層：耕作土、Ⅲ層：盛土層、Ⅳ層：城跡造成以前の自然堆積層、Ⅴ層：地山漸移層、Ⅵ層：地山土となる。Ⅰ、Ⅱ層は廃城以後の堆積層であり、Ⅲ層が中世脇本城跡に直接関与する層である。切土によって造成された地点では検出されないものの、地山上に地ならしを行ったと考えられる２層以上の堆積からなる盛土層である。Ⅳ層は城造成以前の自然堆積層で、含有物の極めて少ない黒色シルト質土である。本層は内館地区など複数地点で確認されており、含有炭化物による放射性炭素年代測定では10世紀末～11世紀前半（内館地区曲輪20－５トレンチ２層内炭化物）の年代が示されている。Ⅴ層は地山の漸移層であり、Ⅵ層は地山土である。本丘陵は砂質と泥質の堆積物の互層堆

積により形成されており、調査地点によって砂質の地山土とシルト質の地山土が確認される。

遺構は主に盛土によって形成された地点においてはⅢ層上面及び下面にて検出される。

Ⅰ層：層厚10cm ／黒褐色のシルト質土／近現代 [表土]

Ⅱ層：層厚10 ～ 40cm ／明黄褐色の砂質シルト質土／近現代 [耕作土]

Ⅲ層：層厚40 ～ 50cm ／黒褐色のシルト質土／中世以後 [盛土層]

Ⅳ層：層厚20 ～ 60cm ／黒色のシルト質土／古代以前 [自然堆積土]

Ⅴ層：層厚10cm ／褐色のシルト質土／[地山漸移層]

Ⅵ層：－／ [地山]

４　遺構と遺物

（１）曲輪（第１次調査）

①第１次調査曲輪の立地と概要

第１次調査対象の曲輪は馬乗り場地区の中央に位置する大規模な曲輪の、さらに北側にあたる面積が1,400㎡程の曲輪である。標高は約99mであり、以前から調査区北東隅に３か所の集石遺構が目視され、中世期の遺物が表採されていたところである。

②検出遺構

第１次調査対象の曲輪では任意の大きさのトレンチ３か所を設定して行った。その結果、総計で溝跡１条、土坑８基、集石遺構３基、柱穴跡32基、焼土遺構１基、不明遺構５基、盛土跡２か所が検出された。遺構は平面的な確認のみにとどめた。

各トレンチについて

【１トレンチ】

概報時にはAトレンチとされていたトレンチである。曲輪中央部に南北35m×東西1.5mで２トレンチと直行させて設定した。遺構確認面は南西側で一部

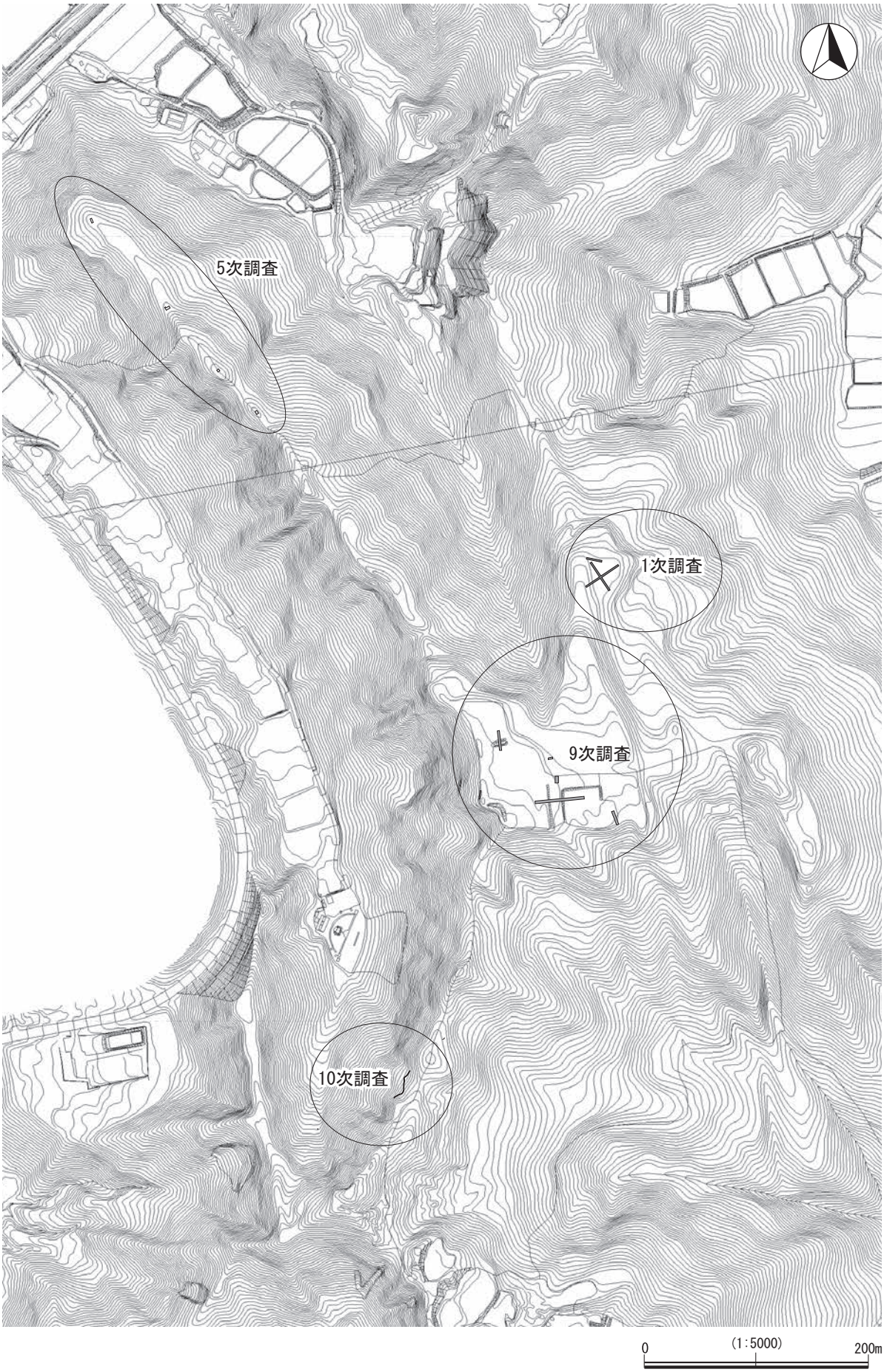
馬乗り場地区中心の曲輪

馬乗り場地区中心の曲輪内を区画する土塁

馬乗り場地区中心の曲輪東側に展開する帯状の曲輪

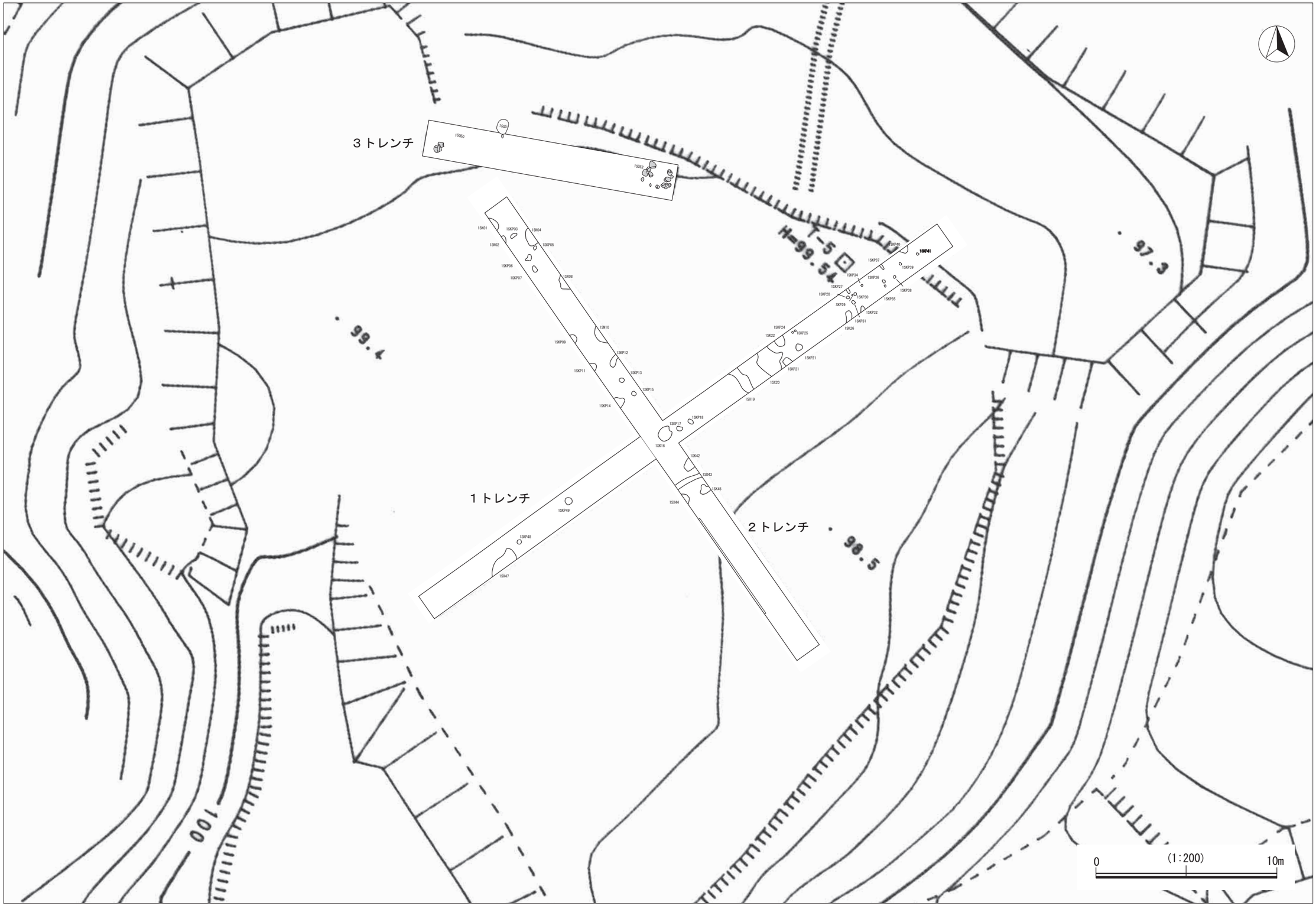
本明寺から馬乗り場地区へ続く道路跡

第153図　馬乗り場地区遺構現状



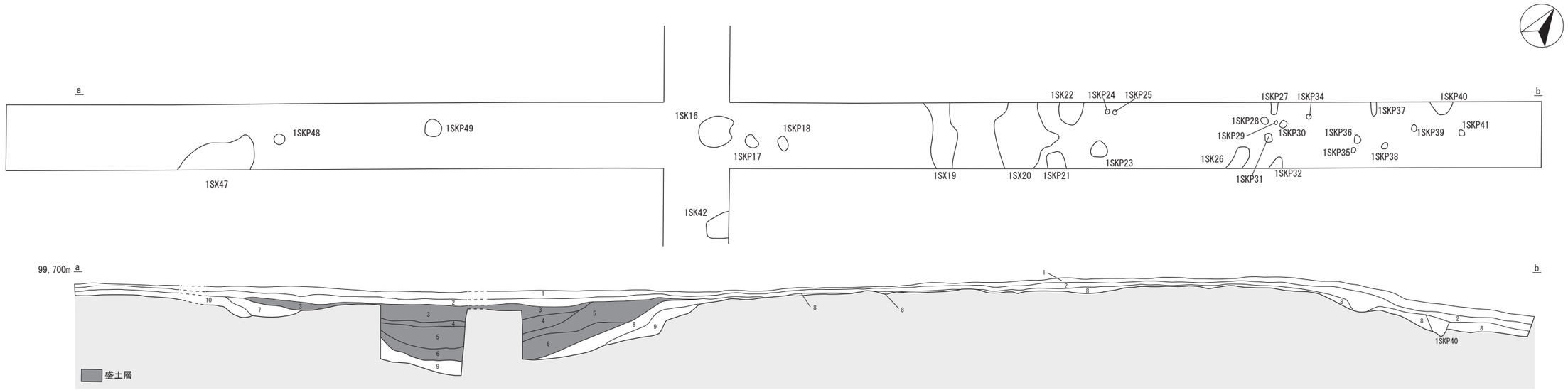
第154図　馬乗り場地区調査区配置図

第155図　曲輪（第1次調査）トレンチ配置図



第156図　曲輪（第1次調査）全体図

1トレンチ

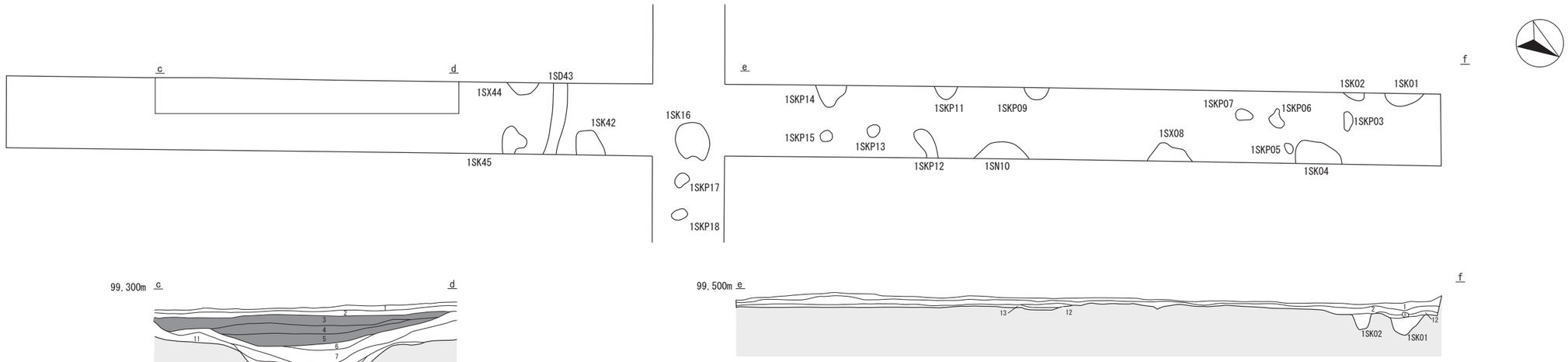


1トレンチ a-b土層注記

1. 黒褐色(7.5YR2/2) しまり弱 粘性弱 [表土]
2. 黒色(7.5YR2/1) しまりややあり 粘性ややあり
3. 褐色土(7.5YR4/4) しまり強 粘性弱 炭化物1% 焼土粒1% [盛土]
4. 黒褐色(7.5YR2/2) しまりやや強 粘性中 炭化物1% 焼土粒1% [盛土]
5. 黒褐色(7.5YR2/1) しまりやや強 粘性ややあり 炭化物1% 焼土粒1% [盛土]
6. 褐色土(7.5YR4/3) しまり強 粘性ややあり [盛土]
7. 黒褐色(7.5YR2/2) しまり中 粘性弱
8. 黒褐色(7.5YR1.7/1) しまりやや強 粘性ややあり 風化した炭化物混入
9. 褐色土(7.5YR4/3) しまり強 粘性ややあり 風化した地山の堆積
10. 黒褐色(7.5YR3/2) しまり中 粘性弱

0 (1:100) 5m

2トレンチ



2トレンチ c-d/e-f土層注記

1. 黒褐色(7.5YR2/2) しまり弱 粘性弱 [表土]
2. 黒色(7.5YR2/1) しまりややあり 粘性ややあり
3. 黒褐色(7.5YR3/1) しまりやや強 粘性ややあり 地山土20% 層下部に炭化物含む 盛土層 [盛土]
4. 黒褐色(7.5YR3/2) しまり強 粘性弱 地山土40%含む [盛土]
5. 黒褐色(7.5YR3/2) しまりややあり 粘性ややあり 地山50%含む [盛土]
6. 黒色(7.5YR2/1) しまりやや強 粘性弱 [自然堆積層]
7. 黒色(7.5YR1.7/2) しまり強 粘性弱 層下部に炭化物含む [自然堆積層]
8. 黒色(7.5YR2/1) しまりややあり 粘性弱 [自然堆積層]
9. 黒褐色(7.5YR2/2) しまり強 粘性ややあり [自然堆積層]
10. 黒褐色(7.5YR2/2) しまりやや強 粘性ややあり [自然堆積層]
11. 黒褐色(7.5YR1.7/2) しまりややあり 粘性弱 [自然堆積層]
12. 黒褐色(7.5YR3/2) しまり中 粘性弱
13. 黒褐色(7.5YR1.7/1) しまりやや強 粘性ややあり 風化した炭化物混入(1トレンチ8層対応)
14. 褐色(7.5YR4/4) しまり強 粘性ややあり 地山土ブロック状に崩落 [自然堆積層]
15. 黒色(7.5YR1.7/1) しまり強 粘性ややあり [自然堆積層]
16. 黒色(7.5YR4/6) しまり強 粘性ややあり [地山漸移層]

0 (1:100) 5m

第157図 1・2トレンチ平面図・断面図

盛土であったが、その他は地山土であった。１SX20より検出された炭化物について、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、15世紀（補正年代：520±50BP）の年代が示された。

【２トレンチ】

概報時にはBトレンチとされていたトレンチである。曲輪中央部に南北1.5m×東西30mで１トレンチと直行させて設定した。遺構確認面は南東側で一部盛土であったが、その他は地山土であった。

【３トレンチ】

概報時にはCトレンチとされていたトレンチである。曲輪北東側で以前より確認されていた集石遺構の範囲に南北２m×東西14mで設定した。

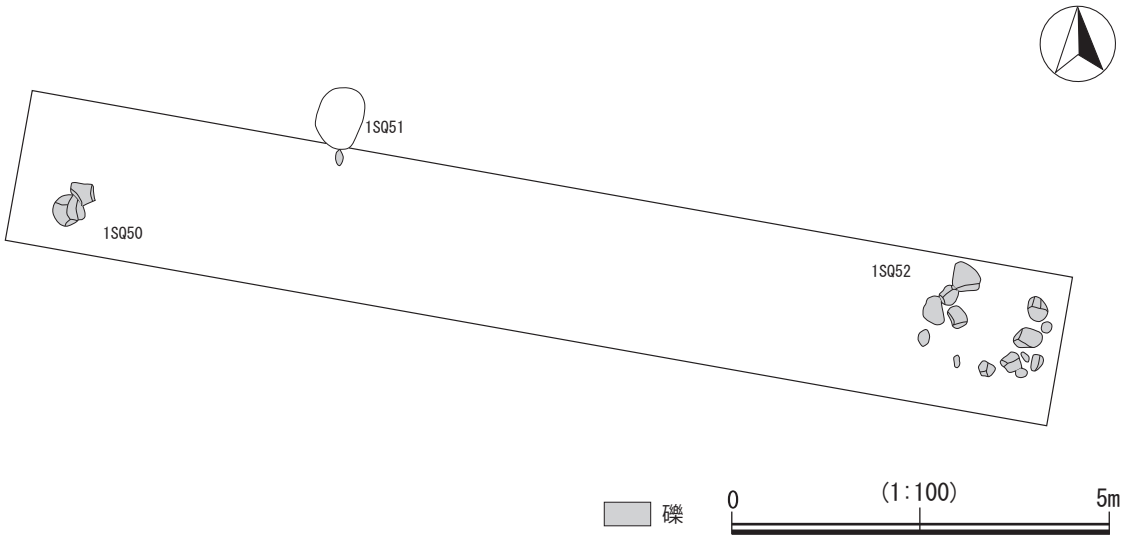
１SQ52集石遺構（第158図）

３トレンチ東側で検出された。明確な掘り込みは確認されなかったが、集石の間からは越前をはじめとする多数の遺物が出土しており、さらに二次的に被熱している礫が多かった。また表土上に露出し調査以前から確認されていたため、後世に畑作等によって掘り起こされ集められた可能性が高い。

③ 出土遺物（第159～164図）

遺物は344点出土している（その他を含めない）。点数は接合後の破片数である。中世陶磁器は296点出土し、貿易陶磁器が197点（66.6％）、国産陶器が99点（33.4％）である。

陶磁器の年代については、14世紀後半代を示す元代染付の長頸瓶の破片９点が出土した（第162図－１）白磁は口縁部の内碗D群がみられ、15世紀前半に位置付けられる。青磁は蓮弁文を施す皿が主体であり、15世紀前半～中頃のものが多い。染付は出土数が少ないものの、B群の碗、皿が出土しており、15世紀前半～中頃を主体とする。また、国産陶器類では15世紀中頃の越前甕が主体を占める。



第158図　３トレンチ平面図・断面図

第52表　曲輪（第1次調査）遺構一覧表

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
1SD43	第157図	2トレンチ	-	30	-	-	I	-	未調査

■土坑

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
1SK01	第157図	2トレンチ	-	(82)	-	白磁皿（第159図-1）	I	SK01	未調査
1SK02	第157図	2トレンチ	-	(43)	-	-	I	SK02	未調査
1SK04	第157図	2トレンチ	-	(96)	-	-	I	SK04	未調査
1SK16	第157図	2トレンチ	-	75	71	-	I	SK16	未調査
1SK22	第157図	1トレンチ	-	56	(53)	-	I	SK22	未調査
1SK26	第157図	1トレンチ	-	(48)	34	-	I	SK20	未調査
1SK42	第157図	2トレンチ	-	(60)	-	-	I	SK12	未調査
1SK45	第157図	2トレンチ	-	(60)	53	-	I	SK45	未調査

■集石遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
1SQ50	第158図	3トレンチ	-	-	-	硯（第164図-1）	I	SX50	
1SQ51	第158図	3トレンチ	-	158	-	青磁皿（第159図-13）	I	SX51	
1SQ52	第158図	3トレンチ	-	177	-	越前（第163図-1）ほか	I	SX52	

■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
1SKP03	第157図	2トレンチ	-	48	18	-	I	SK03	未調査
1SKP05	第157図	2トレンチ	-	28	12	-	I	SK05	未調査
1SKP06	第157図	2トレンチ	-	53	39	-	I	SK06	未調査
1SKP07	第157図	2トレンチ	-	43	26	-	I	SK07	未調査
1SKP09	第157図	2トレンチ	-	(51)	-	-	I	SK09	未調査
1SKP11	第157図	2トレンチ	-	(48)	-	-	I	SK11	未調査
1SKP12	第157図	2トレンチ	-	(60)	32	-	I	SK12	未調査
1SKP13	第157図	2トレンチ	-	28	27	-	I	SK13	未調査
1SKP14	第157図	2トレンチ	-	(64)	-	-	I	SK14	未調査
1SKP15	第157図	2トレンチ	-	30	23	-	I	SK15	未調査
1SKP17	第157図	1トレンチ	-	33	24	-	I	SK17	未調査
1SKP18	第157図	1トレンチ	-	41	29	-	I	SK18	未調査
1SKP21	第157図	1トレンチ	-	(42)	-	-	I	SK21	未調査
1SKP23	第157図	1トレンチ	-	35	29	-	I	SK23	未調査
1SKP24	第157図	1トレンチ	-	15	14	-	I	SK24	未調査
1SKP25	第157図	1トレンチ	-	18	16	-	I	SK25	未調査
1SKP27	第157図	1トレンチ	-	(18)	-	-	I	SK27	未調査
1SKP28	第157図	1トレンチ	-	15	8	-	I	SK28	未調査
1SKP29	第157図	1トレンチ	-	8	7	-	I	SK29	未調査
1SKP30	第157図	1トレンチ	-	15	13	-	I	SK30	未調査
1SKP31	第157図	1トレンチ	-	16	15	-	I	SK31	未調査
1SKP32	第157図	1トレンチ	-	(32)	-	-	I	SK32	未調査
1SKP34	第157図	1トレンチ	-	8	7	-	I	SK34	未調査
1SKP35	第157図	1トレンチ	-	16	12	-	I	SK35	未調査
1SKP36	第157図	1トレンチ	-	18	18	-	I	SK36	未調査
1SKP37	第157図	1トレンチ	-	(14)	-	-	I	SK37	未調査
1SKP38	第157図	1トレンチ	-	13	11	-	I	SK38	未調査
1SKP39	第157図	1トレンチ	-	18	15	-	I	SK39	未調査
1SKP40	第157図	1トレンチ	-	(52)	-	-	I	SK40	未調査
1SKP41	第157図	1トレンチ	-	19	18	-	I	SK41	未調査
1SKP48	第157図	1トレンチ	-	31	24	-	I	SKP48	未調査
1SKP49	第157図	1トレンチ	-	43	41	-	I	SKP49	未調査

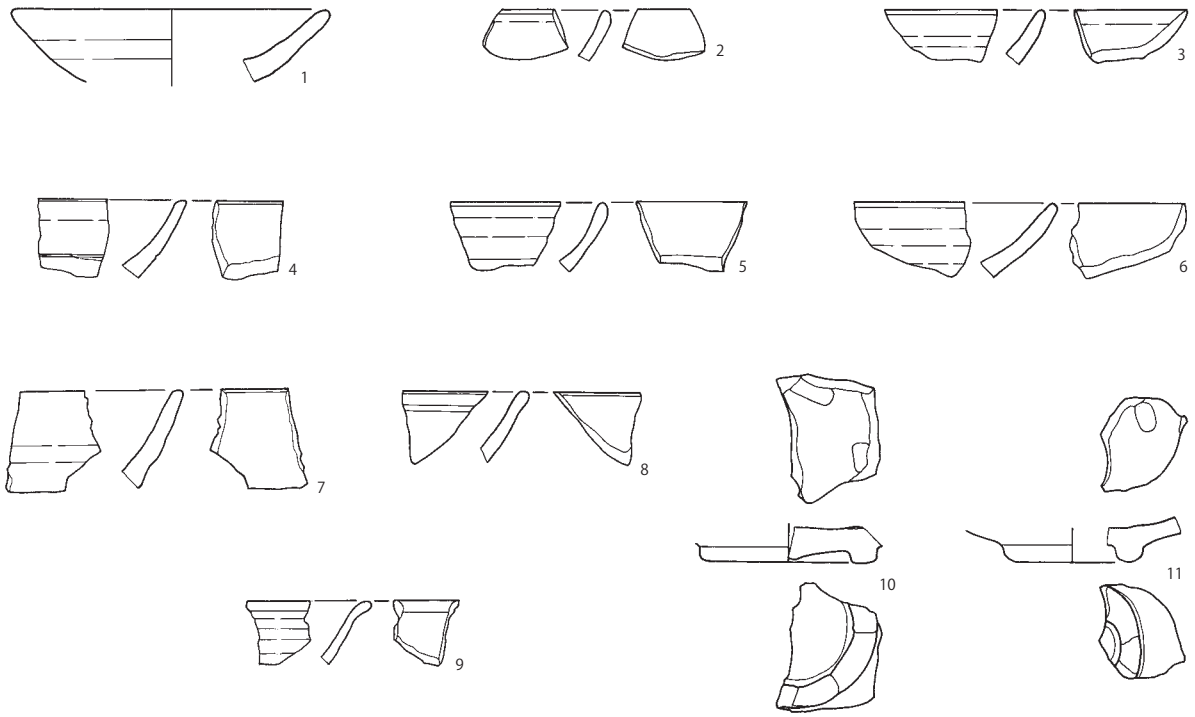
■焼土遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
1SN10	第157図	2トレンチ	-	(115)	-	-	I	SN10	未調査

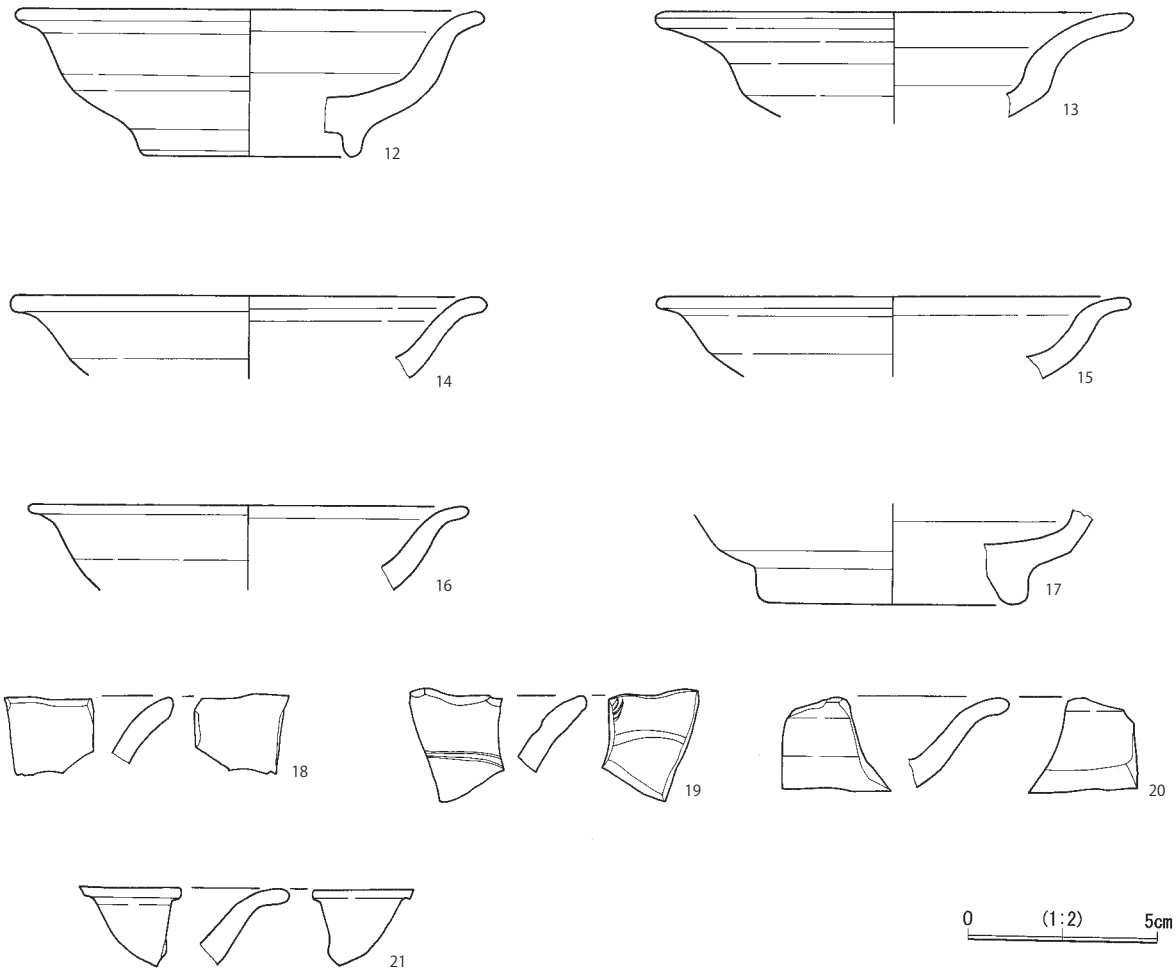
■不明遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
1SX08	第157図	2トレンチ	-	(92)	-	-	I	SX08	未調査
1SX19	第157図	1トレンチ	-	(153)	(57)	-	I	SX19	未調査
1SX20	第157図	1トレンチ	-	(153)	(138)	-	I	SX20	未調査
1SX44	第157図	2トレンチ	-	(67)	-	-	I	SK44	未調査
1SX47	第157図	1トレンチ	-	(168)	(84)	-	I	SX47	未調査

白磁

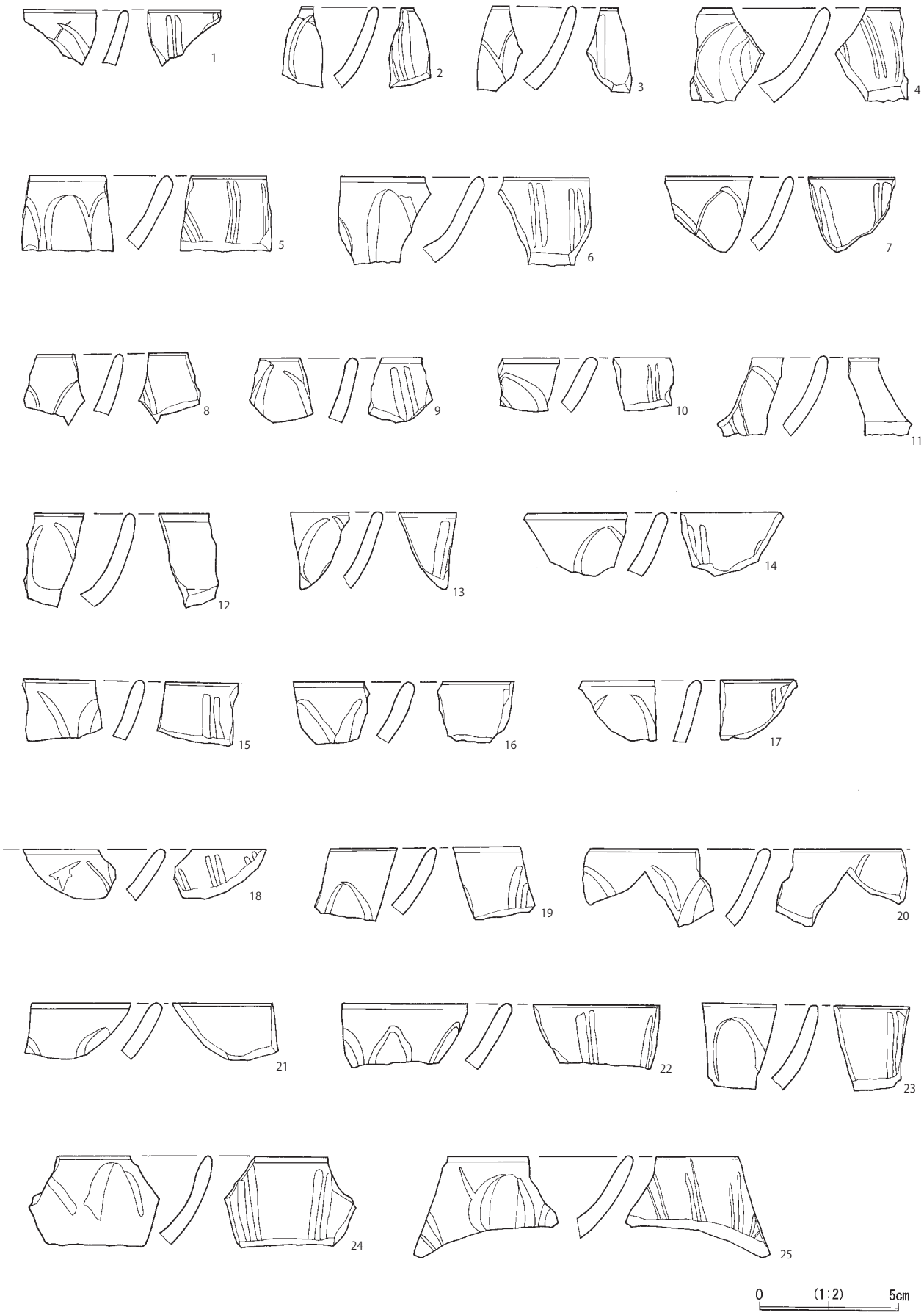


青磁



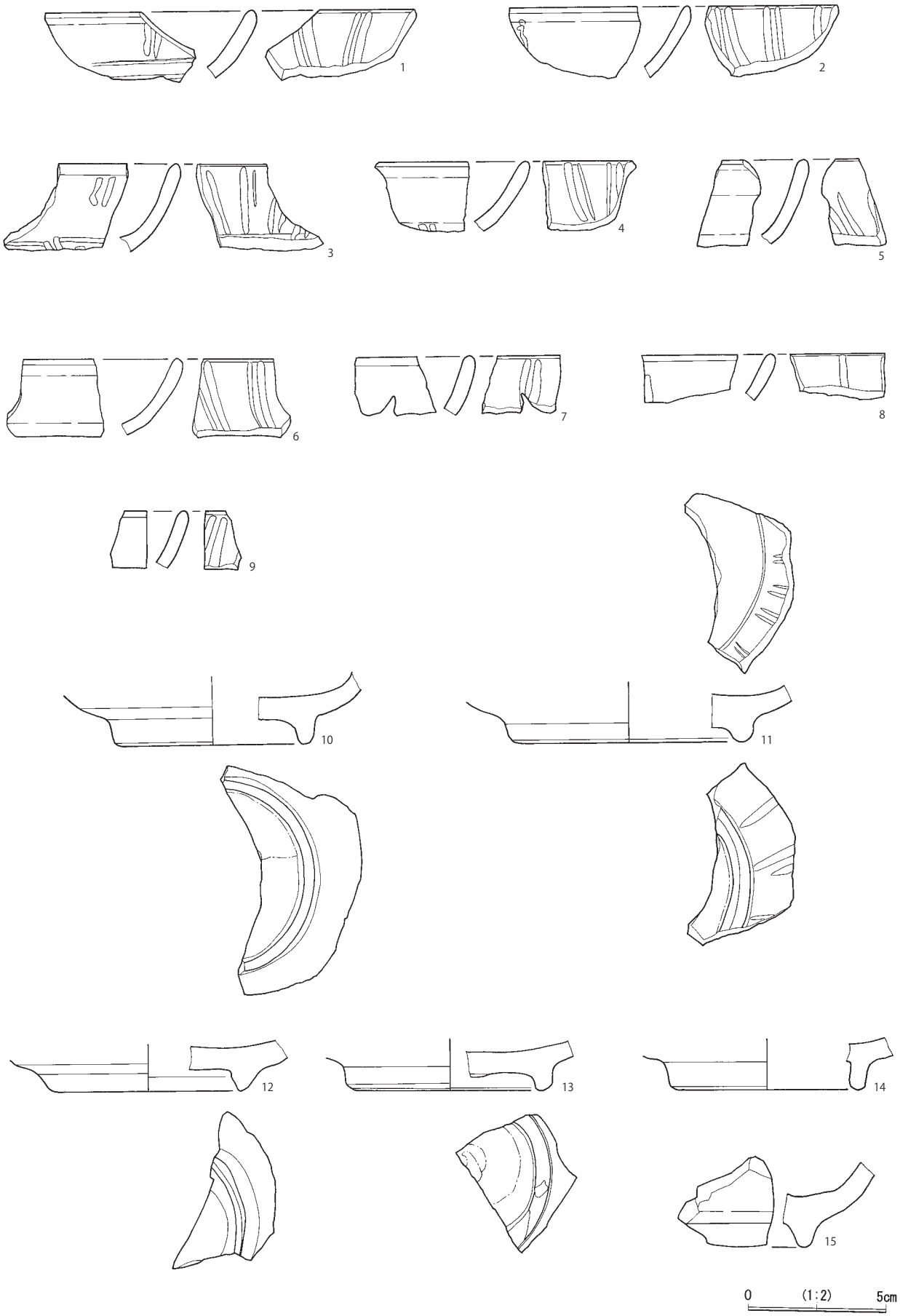
第159図　曲輪（第1次調査）出土遺物①

青磁



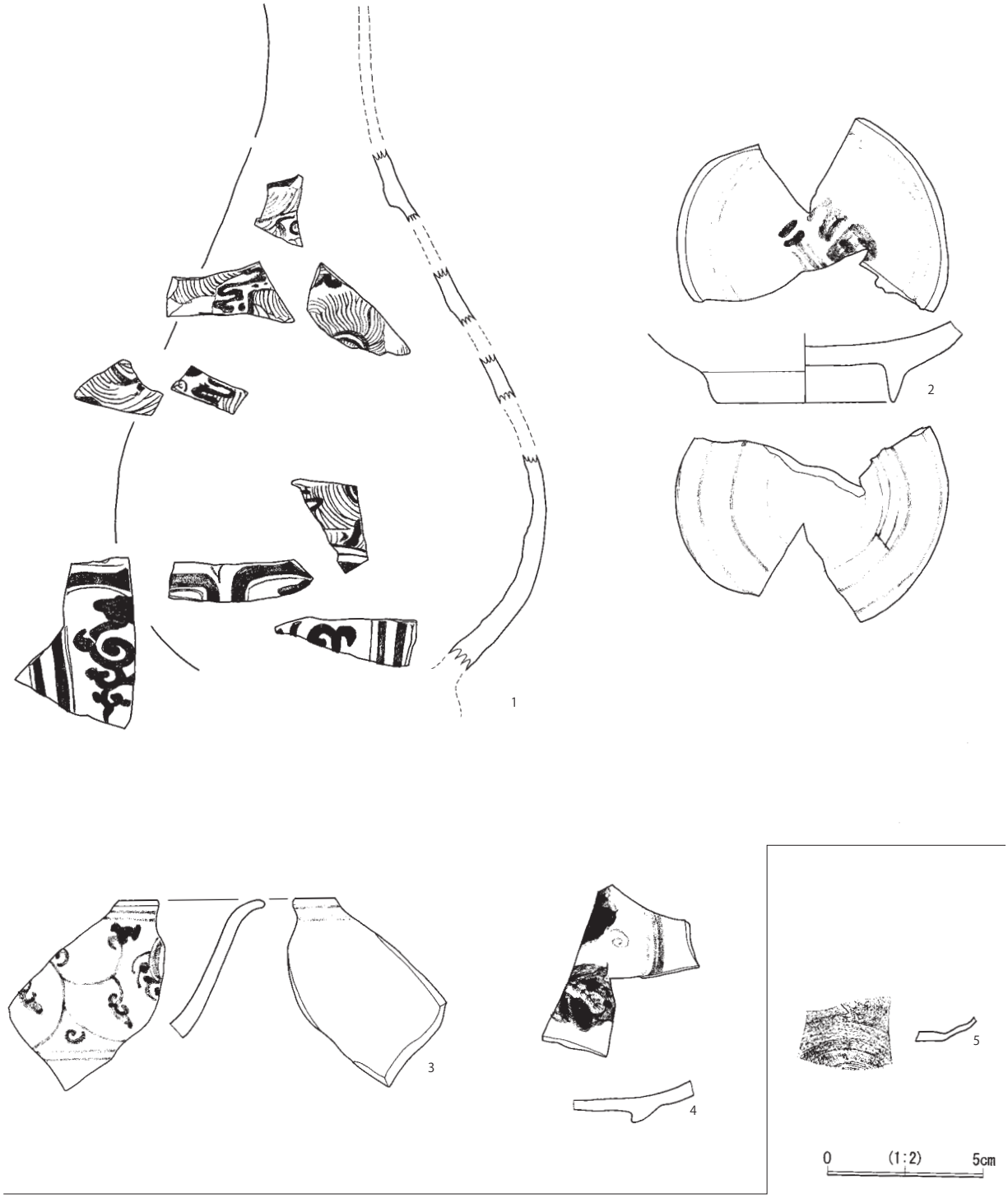
第160図　曲輪（第1次調査）出土遺物②

青磁

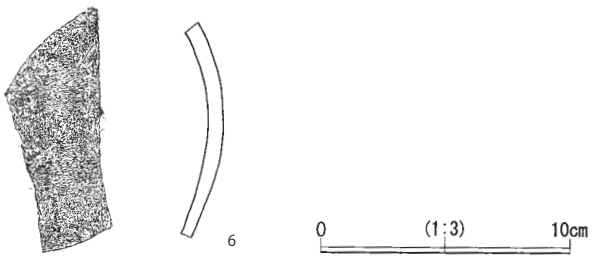


第161図　曲輪（第1次調査）出土遺物③

染付

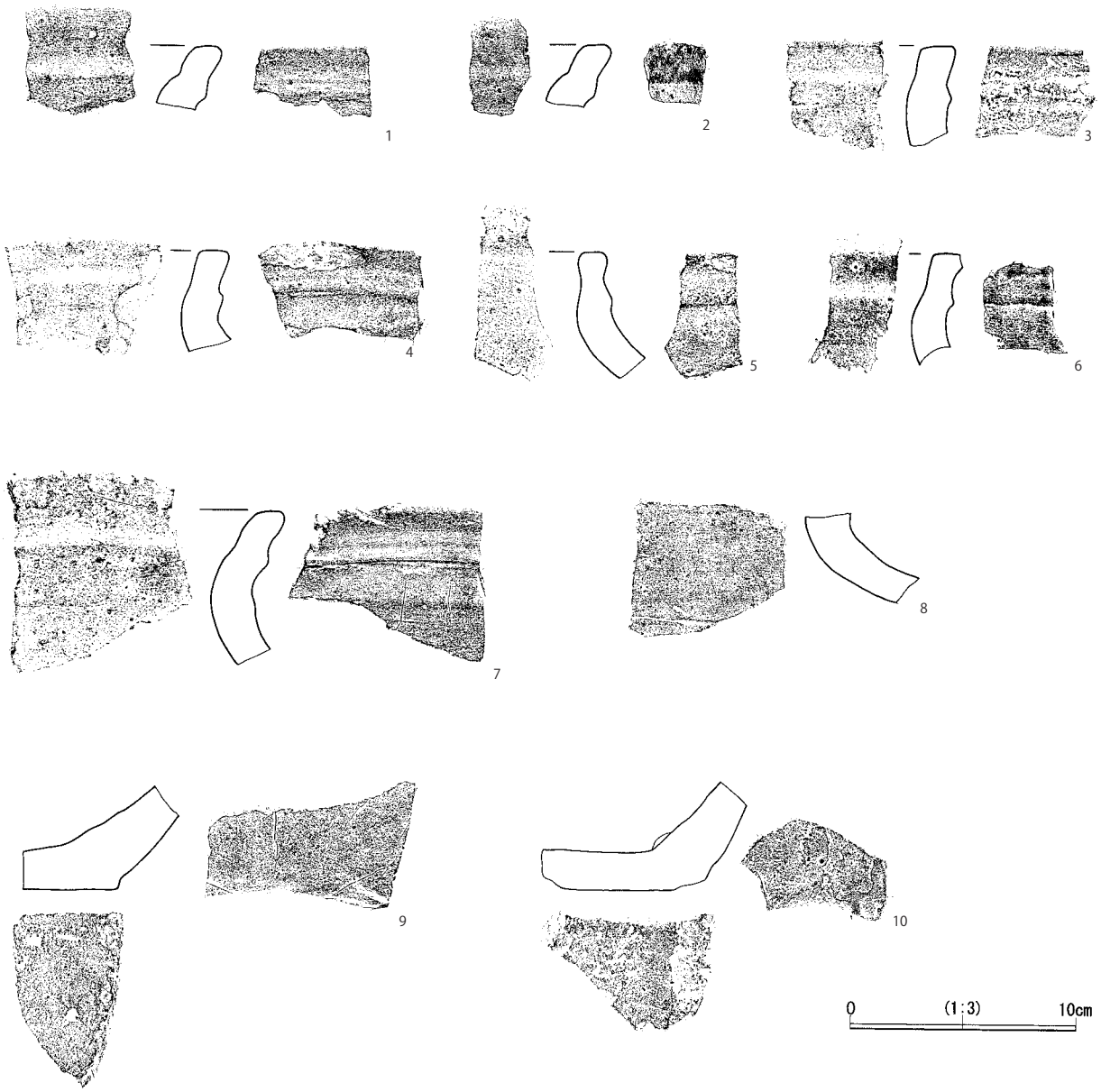


貿易陶器

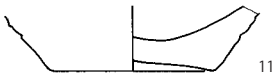


第162図　曲輪（第1次調査）出土遺物④

越前

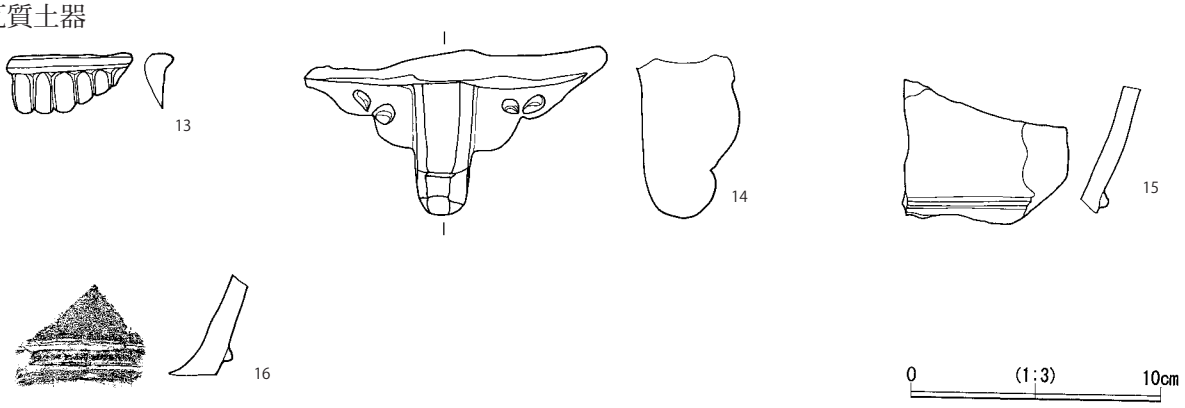


かわらけ

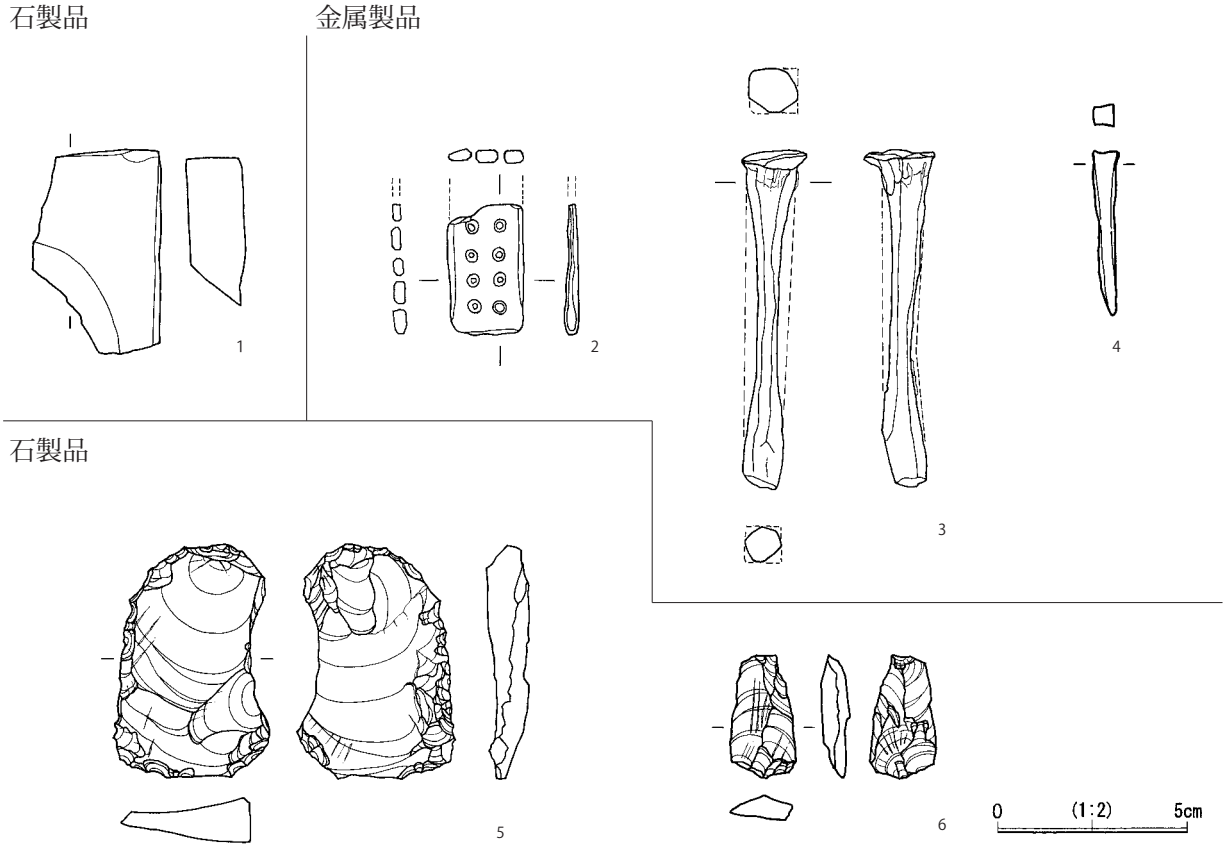


唐津

瓦質土器



第163図　曲輪（第1次調査）出土遺物⑤



第164図　曲輪（第1次調査）査出土遺物⑥

第53表　曲輪（第1次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
14	143	16	24	0	98	0	1	0	0	0	0	0	3	0	14	1	4	0	0	0	13	0	13	石器3

第54表　曲輪（第1次調査）出土遺物観察表①

■陶磁器・土器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
159	1	35	白磁	皿	2トレンチ	1SK01	(8.4)	-	(1.9)	15c前半	Ⅰ	22	17	被熱
159	2	35	白磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(1.3)	15c前半	Ⅰ	22	11	被熱
159	3	35	白磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(1.4)	15c前半	Ⅰ	22	12	被熱
159	4	35	白磁	皿	2トレンチ	-	-	-	(2.0)	15c前半	Ⅰ	22	13	被熱
159	5	35	白磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(1.8)	15c前半	Ⅰ	22	14	被熱
159	6	35	白磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(1.9)	15c前半	Ⅰ	22	15	被熱
159	7	35	白磁	皿	2トレンチ	-	-	-	(2.6)	15c前半	Ⅰ	22	16	被熱
159	8	35	白磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(1.9)	15c前半	Ⅰ	22	18	被熱
159	9	35	白磁	皿	2トレンチ	-	-	-	(1.6)	15c前半	Ⅰ	22	19	被熱
159	10	35	白磁	皿	2トレンチ	-	-	(4.6)	(0.9)	15c前半	Ⅰ	22	20	被熱
159	11	35	白磁	皿	1トレンチ	-	-	(3.0)	(1.2)	15c前半	Ⅰ	22	21	被熱
159	12	35	青磁	皿	1トレンチ	-	(12.4)	-	(3.9)	15c中	Ⅰ	22	8	
159	13	35	青磁	皿	3トレンチ	1SQ51表採	(12.6)	-	(2.8)	15c中	Ⅰ	22	9	
159	14	35	青磁	皿	1トレンチ	-	(12.6)	-	(2.2)	15c中	Ⅰ	22	5	
159	15	35	青磁	皿	1トレンチ	-	(11.6)	-	(2.2)	15c中	Ⅰ	22	7	
159	16	35	青磁	皿	1トレンチ	-	(12.6)	-	(2.1)	15c中	Ⅰ	22	6	
159	17	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	(6.6)	(2.5)	15c中	Ⅰ	22	10	
159	18	35	青磁	皿	3トレンチ	-	-	-	(2.1)	15c中	Ⅰ	22	1	
159	19	35	青磁	皿	2トレンチ	-	-	-	(3.0)	15c中	Ⅰ	22	2	
159	20	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.5)	15c中	Ⅰ	22	4	
159	21	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.0)	15c中	Ⅰ	22	3	
160	1	35	青磁	皿	3トレンチ	-	-	-	(2.0)	15c前半～15c中	Ⅰ	20	1	蓮弁文
160	2	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.9)	15c前半～15c中	Ⅰ	20	2	蓮弁文
160	3	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(3.0)	15c前半～15c中	Ⅰ	20	3	蓮弁文

第55表　曲輪（第1次調査）出土遺物観察表②

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
160	4	35	青磁	皿	3トレンチ	-	-	-	(3.3)	15c前半～15c中	I	20	4	蓮弁文
160	5	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.6)	15c前半～15c中	I	20	5	蓮弁文
160	6	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(3.0)	15c前半～15c中	I	20	6	蓮弁文
160	7	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.7)	15c前半～15c中	I	20	7	蓮弁文
160	8	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.5)	15c前半～15c中	I	20	8	蓮弁文
160	9	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.3)	15c前半～15c中	I	20	9	蓮弁文
160	10	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(1.9)	15c前半～15c中	I	20	10	蓮弁文
160	11	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.8)	15c前半～15c中	I	20	11	蓮弁文
160	12	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(3.4)	15c前半～15c中	I	20	12	蓮弁文
160	13	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.8)	15c前半～15c中	I	20	13	蓮弁文
160	14	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.3)	15c前半～15c中	I	20	14	蓮弁文
160	15	35	青磁	皿	2トレンチ	-	-	-	(2.2)	15c前半～15c中	I	20	15	蓮弁文
160	16	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.2)	15c前半～15c中	I	20	16	蓮弁文
160	17	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.1)	15c前半～15c中	I	20	17	蓮弁文
160	18	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(1.8)	15c前半～15c中	I	20	18	蓮弁文
160	19	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.6)	15c前半～15c中	I	20	19	蓮弁文
160	20	35	青磁	皿	排土	-	-	-	(2.8)	15c前半～15c中	I	20	20	蓮弁文
160	21	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.0)	15c前半～15c中	I	20	21	蓮弁文
160	22	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.3)	15c前半～15c中	I	20	22	蓮弁文
160	23	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(3.0)	15c前半～15c中	I	20	23	蓮弁文
160	24	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(3.1)	15c前半～15c中	I	20	24	蓮弁文
160	25	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(3.6)	15c前半～15c中	I	20	25	蓮弁文
161	1	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.6)	15c中	I	21	5	
161	2	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.5)	15c中	I	21	6	
161	3	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(3.1)	15c中	I	21	3	
161	4	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.5)	15c中	I	21	2	
161	5	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(3.1)	15c中	I	21	9	
161	6	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.8)	15c中	I	21	10	
161	7	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.1)	15c中	I	21	8	
161	8	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(1.7)	15c中	I	21	1	
161	9	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	-	(2.1)	15c中	I	21	7	
161	10	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	(6.8)	(2.5)	15c中	I	21	12	
161	11	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	(8.3)	(2.0)	15c中	I	21	4	
161	12	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	(6.8)	(1.8)	15c中	I	21	15	
161	13	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	(6.8)	(1.8)	15c中	I	21	14	
161	14	35	青磁	皿	1トレンチ	-	-	(6.6)	(1.8)	15c中	I	21	13	
161	15	35	青磁	皿	3トレンチ	-	-	-	(3.1)	15c中	I	21	11	
162	1	35	染付	長頸瓶	1～3トレンチ	-	-	-	(16.7)	15c中	I	23	1～9	破片9点同一個体・被熱
162	2	35	染付	碗	2トレンチ	-	-	(5.6)	(2.6)	15ｃ前半～中	I	23	11	
162	3	35	染付	碗	2トレンチ	-	-	-	(4.4)	15ｃ前半～中	I	23	10	
162	4	35	染付	皿	1トレンチ	-	-	-	(1.3)	15ｃ前半～中	I	23	12	
162	5	35	貿易陶器	茶入	1トレンチ	-	-	(3.7)	(0.8)	-	I	23	14	
162	6	35	貿易陶器	四耳壺	3トレンチ	1 SQ52	-	-	(8.5)	-	I	23	13	
163	1	35	越前	甕	3トレンチ	1SQ52	-	-	(2.7)	15ｃ中	I	24	1	
163	2	35	越前	甕	3トレンチ	1SQ52	-	-	(2.7)	15ｃ中	I	24	2	
163	3	35	越前	甕	3トレンチ	1SQ52	-	-	(4.4)	15ｃ中	I	24	3	
163	4	35	越前	甕	3トレンチ	1SQ52	-	-	(4.5)	15ｃ中	I	24	4	
163	5	35	越前	甕	3トレンチ	1SQ52	-	-	(5.4)	15ｃ中	I	24	5	
163	6	35	越前	甕	3トレンチ	-	-	-	(4.8)	15ｃ中	I	24	6	
163	7	35	越前	甕	3トレンチ	1SQ52表採	-	-	(6.7)	15ｃ中	I	24	7	
163	8	35	越前	甕	3トレンチ	-	-	-	(3.9)	15ｃ中	I	24	8	
163	9	35	越前	甕	3トレンチ	1SQ52表採	-	-	(4.5)	15ｃ中	I	24	9	
163	10	35	越前	甕	3トレンチ	1SQ52	-	-	(4.8)	15ｃ中	I	24	10	
163	11	35	かわらけ	皿	2トレンチ	-	-	(4.4)	(1.6)	-	I	24	15	
163	12	35	唐津	皿	3トレンチ	1SQ52	-	(3.8)	(1.1)	-	I	24	16	
163	13	35	瓦質土器	風炉	2トレンチ	-	-	-	(2.1)	-	I	24	11	
163	14	35	瓦質土器	風炉	3トレンチ	1SQ52	-	-	(6.6)	-	I	24	12	猫脚
163	15	35	瓦質土器	風炉	3トレンチ	-	-	-	(5.5)	-	I	24	13	
163	16	35	瓦質土器	風炉	3トレンチ	1SQ52	-	-	(3.9)	-	I	24	14	

■石製品・金属製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
164	1	35	石製品	硯	3トレンチ	1SQ50表採	(5.4)	(3.3)	1.5	-	I	25	1	
164	2	35	金属製品	小札	-	-	(3.4)	2.0	0.4	-	I	25	2	鉄製
164	3	35	金属製品	和釘	-	-	8.9	1.7	2.0	-	-	-	-	鉄製
164	4	35	金属製品	和釘	-	-	4.4	0.7	0.6	-	I	25	3	鉄製
164	5	35	石製品	剥片	1トレンチ	-	6.1	4.2	1.2	-	I	25	5	
164	6	35	石製品	剥片	1トレンチ	-	3.2	1.6	0.7	-	I	25	4	

（２）曲輪（第９次調査）

①第９次調査曲輪の立地と概要

第９次調査対象は、脇本城跡中央部の馬乗り場地区の中でもさらに中央に位置する大規模な曲輪である。標高は約113mで脇本城跡内では最も高所に位置し、総面積も10,000㎡以上と脇本城跡内では最大の規模となる曲輪である。ここは南東裾部に位置する本明寺から登る本明寺口道と通じ、本曲輪手前で直角に曲がって至る状況は、良好な状態をとどめている。遺構の現状から脇本城跡の主郭想定か所の一つである。現況で小規模な土塁や井戸跡等が残存しているが、過去には畑地として大規模に造成され、さらに戦後に植林が進んだため、曲輪内の遺構現状は大きく改変を受けている可能性がある。

②検出遺構

第９次調査対象の曲輪に任意の大きさのトレンチ６か所を設定して行った。その結果、総計で道路跡２条、土塁状遺構１基、溝跡５条、土坑８基、柱穴跡41基、盛土跡４か所が検出された。

各トレンチについて

【１トレンチ】

曲輪南側で南北方向に延びる土塁をまたいで、南北１m×東西42.8mで設定した。遺構確認面は盛土層及び盛土層下の地山土であった。遺構の検出状況から、地山土を掘り込んで遺構を構築する時期と、盛土後に遺構を構築する時期（土塁状遺構、９SD01、９SKP22･24 ～ 25）の２時期での土地利用があったものと判断される。土塁状遺構は現況でも確認できるため、確認調査によって検出された遺構としては含めないが、盛土によって形成されていることが確認され、幅は2.1m、高さ60㎝である。盛土は複数回にわたって盛られており、周囲の地形と同時に構築されたものであった。

【２トレンチ】

１トレンチ北側の曲輪中央部に南北６m×東西２mで設定した。１トレンチ内で確認されている南北方向の土塁は１トレンチ北側で一部途切れ、東西方向の道路として利用されている。現況で確認できる道路の年代を明らかにするために設定した。

【３トレンチ】

曲輪北側の土塁状遺構の堆積状況を確認することを目的として、南北18m×東西２mで設定した。遺構確認面は地山土であった。土塁状遺構は現況でも確認できるため、確認調査によって検出された遺構としては含めないが、北側は盛土によって形成されていることが確認され、幅は5.55m、高さ1.08mである。南側下部は自然堆積層を利用し、北側に３～７層を盛土することによって構築されていた。自然堆積層内からは、小片のため図示していないが、土師器片が出土した。

土塁状遺構を構築する盛土層内から検出された炭化物を採取し、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、16世紀後半代（補正年代：420±40BP）の年代が示された。

【４トレンチ】

曲輪南東側に南北12.8m×東西２mで設定した。周囲の曲輪よりも１m程度低くなっており、小規模な平坦面をなしている。遺構確認面はトレンチ北側では地山土であったが、トレンチ南側の低くなった平坦面側では盛土であった。盛土は深いところで70cmの堆積が確認された。

第165図　曲輪（第9次調査）トレンチ配置図

【５トレンチ】

曲輪中央部に南北1.5m×東西４mで設定した。遺構確認面は盛土層及びその自然堆積層下で行った。盛土上層を確認面とする遺構は検出されなかったが、自然堆積層下からは検出され、１トレンチと同様２時期による土地利用が確認された。

【６トレンチ】

曲輪西側の斜面部に南北７m×東西１mで設定した。周囲一帯は山裾まで70m程度の落差のある急峻な崖となっており、竪堀状の遺構の存在が遺構現状調査時より指摘されてきた。それらの遺構の有無を確認するため、斜面と垂直方向にトレンチを設定し、地山土を遺構確認面としたが、遺構、遺物は確認されなかった。

９SD01溝跡　(第167図)

１トレンチ中ほどで検出された。既刊の報告書では空堀跡として報告されている遺構である（男鹿市教育委員会2003）。盛土を掘り込んで構築されており、土塁と平行して南北方向へ延びる。幅は2.14m、深さ1.06mでやや傾斜のゆるい薬研堀状である。底面に柱穴状の掘り込みが確認されている。

９SM27道路跡　(第168図)

２トレンチ北側で検出された。確認された幅は1.58m、掘り込みの深さ34cmである。しまりの強い暗褐色土が入る。現在利用されている道路と軸を同じくする。そのため道路跡と判断した。

９SM31道路跡　(第169図)

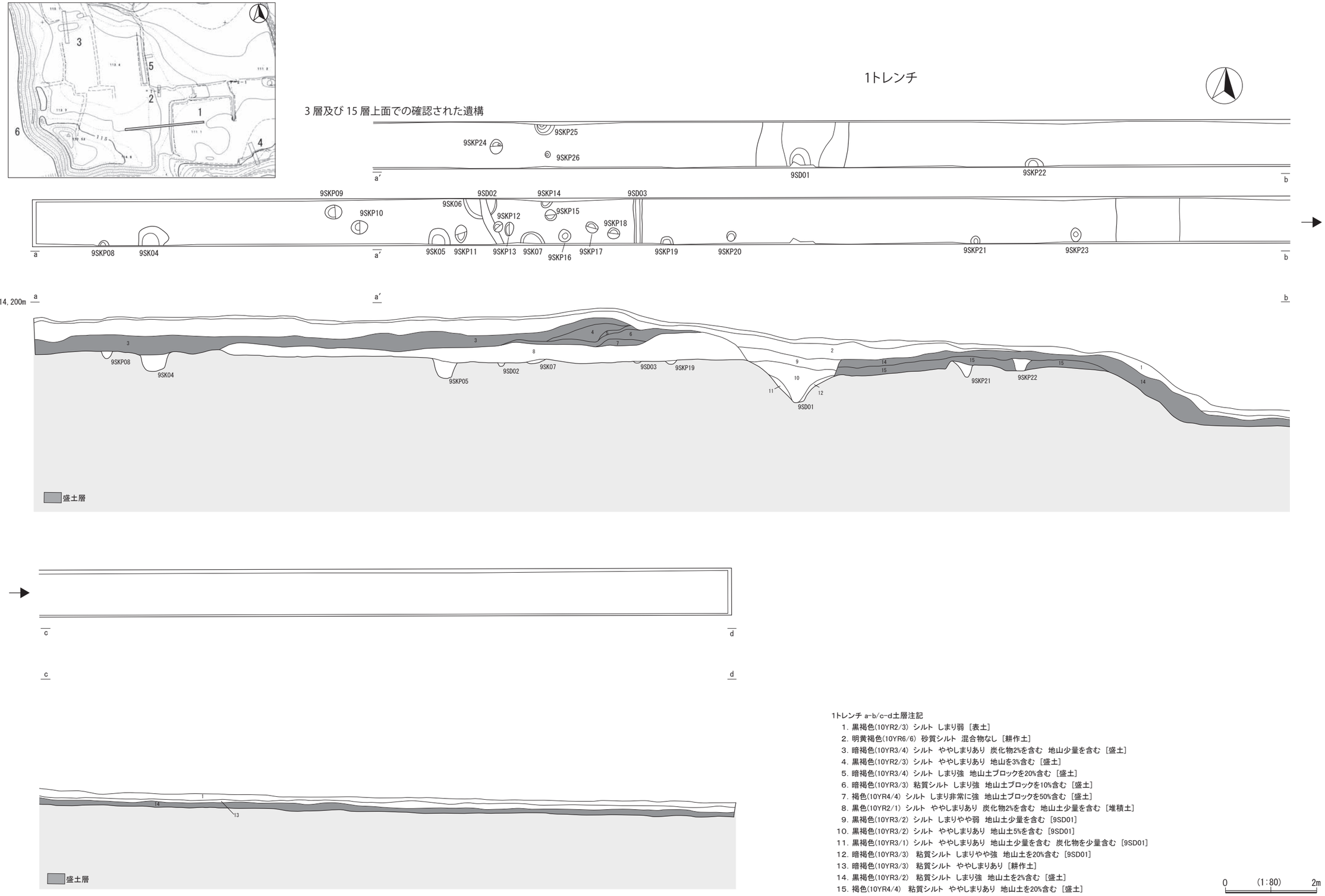
３トレンチ南側で東西方向に検出された。確認された幅は1.70m、掘り込みの深さ28cmである。覆土は小砂利の混じる褐色で、地山を掘り返し、砂利を加えて埋め戻したようである。道路跡の造成土として、水はけを考えたものか。

③ 出土遺物　(第173 ～ 177図)

遺物は256点出土している。点数は接合後の破片数である。中世陶磁器は134点出土し、貿易陶磁器が103点（76.9％）、国産陶器が31点（23.1％）である。

陶磁器の年代については、枢府磁と考えられる白磁碗が２点（同一個体と推定）出土しており、14世紀後半代の年代が推定されるものの、その他の白磁はD群がみられ、15世紀前半に位置付けられる。青磁は蓮弁文を施す皿が出土しており15世紀前半～中頃に位置付けられるほか、染付はB群の碗、E群の皿など15世紀前半代と16世紀後半代に分かれる。国産陶器類では15世紀前半代の瀬戸美濃、15世紀中頃の珠洲すり鉢が出土した。

第166図　曲輪（第9次調査）全体図

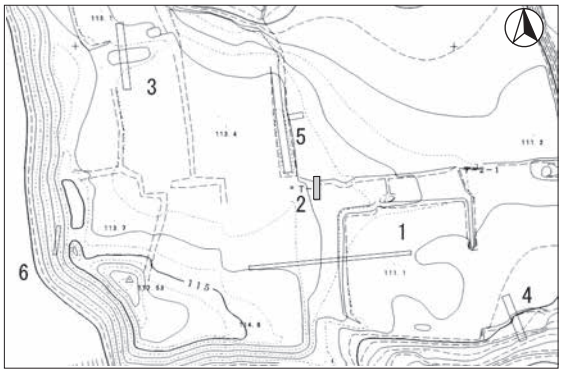


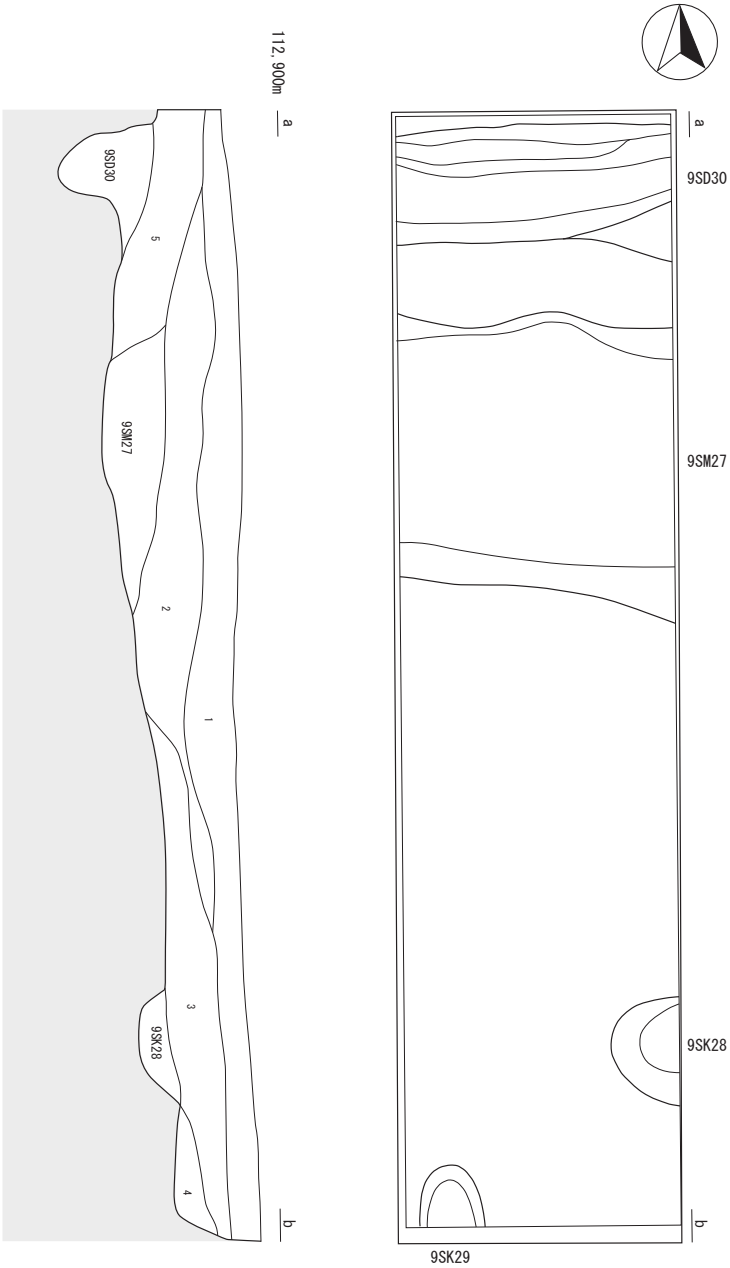
1トレンチ a-b/c-d土層注記

1. 黒褐色(10YR2/3) シルト しまり弱 [表土]
2. 明黄褐色(10YR6/6) 砂質シルト 混合物なし [耕作土]
3. 暗褐色(10YR3/4) シルト ややしまりあり 炭化物2%を含む 地山少量を含む [盛土]
4. 黒褐色(10YR2/3) シルト ややしまりあり 地山を3%含む [盛土]
5. 暗褐色(10YR3/4) シルト しまり強 地山土ブロックを20%含む [盛土]
6. 暗褐色(10YR3/3) 粘質シルト しまり強 地山土ブロックを10%含む [盛土]
7. 褐色(10YR4/4) シルト しまり非常に強 地山土ブロックを50%含む [盛土]
8. 黒色(10YR2/1) シルト ややしまりあり 炭化物2%を含む 地山土少量を含む [堆積土]
9. 黒褐色(10YR3/2) シルト しまりやや弱 地山土少量を含む [9SD01]
10. 黒褐色(10YR3/2) シルト ややしまりあり 地山土5%を含む [9SD01]
11. 黒褐色(10YR3/1) シルト ややしまりあり 地山土少量を含む 炭化物を少量含む [9SD01]
12. 暗褐色(10YR3/3) 粘質シルト しまりやや強 地山土を20%含む [9SD01]
13. 暗褐色(10YR3/3) 粘質シルト ややしまりあり [耕作土]
14. 黒褐色(10YR3/2) 粘質シルト しまり強 地山土を2%含む [盛土]
15. 褐色(10YR4/4) 粘質シルト ややしまりあり 地山土を20%含む [盛土]

0 (1:80) 2m

第167図 1トレンチ平面図・断面図





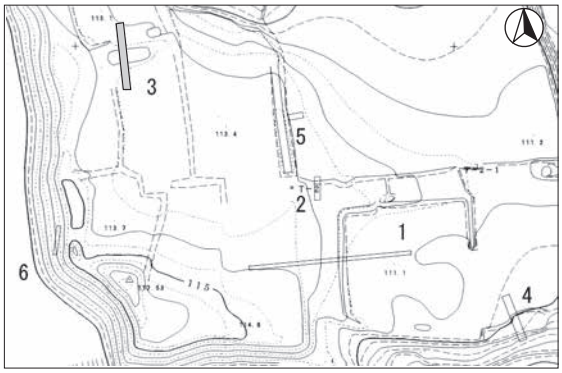
2トレンチ

2トレンチ　a-b土層注記

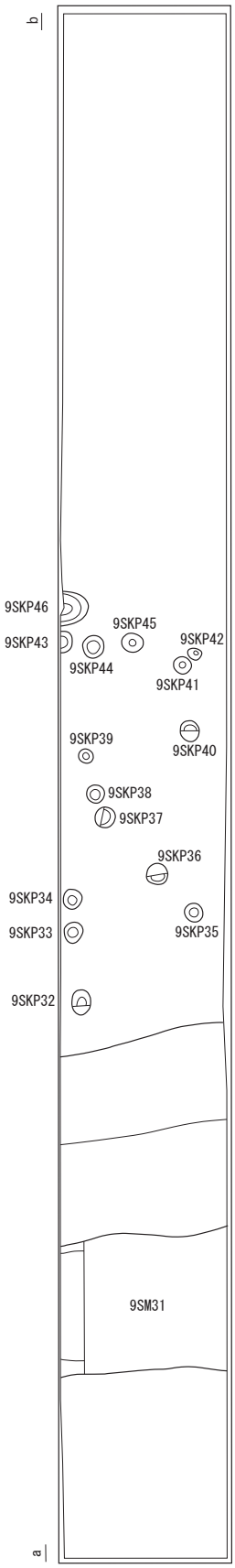
1. 黒褐色(10YR2/3) シルト しまり弱［表土］
2. 暗褐色(10YR3/3) 砂質シルト ややしまりあり 混合物なし
3. 黒色(10YR2/1) シルト ややしまりあり
4. 暗褐色(10YR3/4) シルト ややしまり強 地山が30%混じる
5. 黒褐色(10YR2/2) 砂質シルト ややしまりあり 地山少量含む

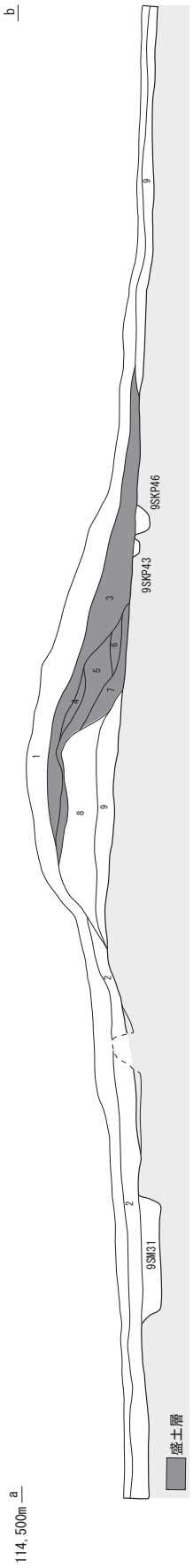
0　(1:40)　1m

第168図　２トレンチ平面図・断面図



3トレンチ

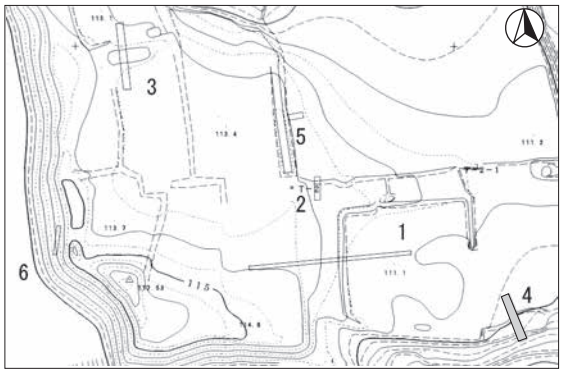




3トレンチ　a-b土層注記
1. 黒褐色(10YR2/3) シルト　しまり弱［表土］
2. 暗褐色(10YR3/4) シルト　ややしまりあり　地山極少量含む
3. 黒褐色(10YR2/3) シルト　ややしまりあり　地山を少量含む［盛土］
4. 黒褐色(10YR2/3) シルト　ややしまりあり　地山を10%含む　炭化物を少量含む［盛土］
5. 黒褐色(10YR3/1) シルト　ややしまりあり　地山を3%含む［盛土］
6. 黒褐色(10YR3/1) 粘質シルト　ややしまりあり　地山30%含む［盛土］
7. 黒色(10YR2/1) シルト　ややしまりあり　混合物なし［盛土］
8. 暗褐色(10YR3/4) 粘質土　しまり強［自然堆積土］
9. 褐色(10YR4/6) 粘質シルト　小砂利やや混じる［自然堆積土］

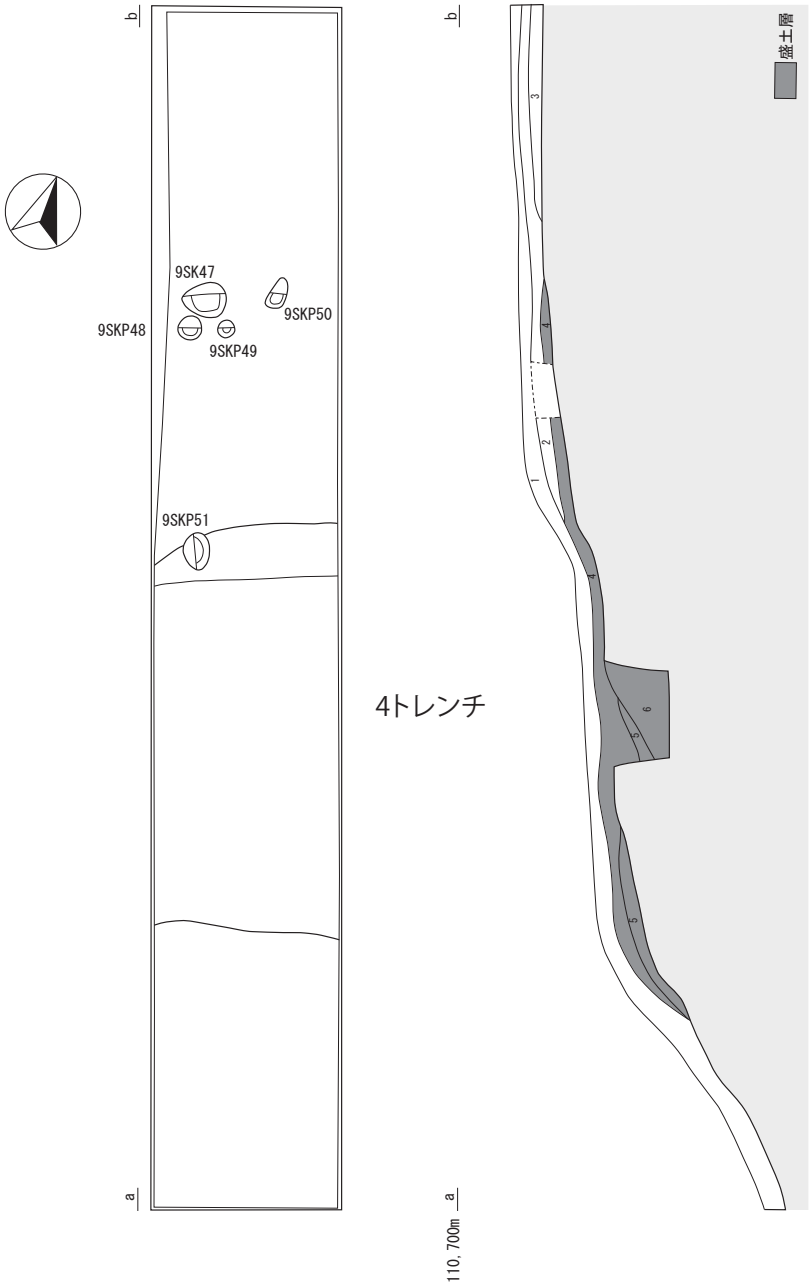
0　(1:80)　2m

第169図　３トレンチ平面図・断面図

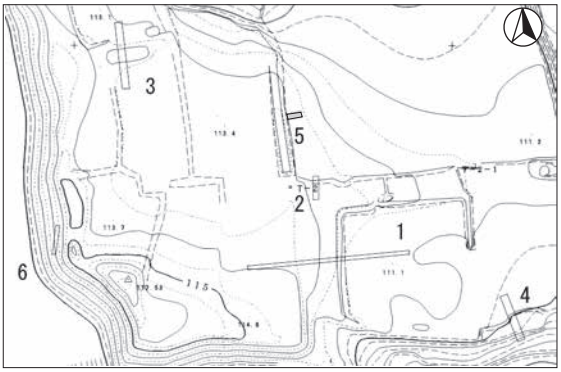


4トレンチ　a-b土層注記

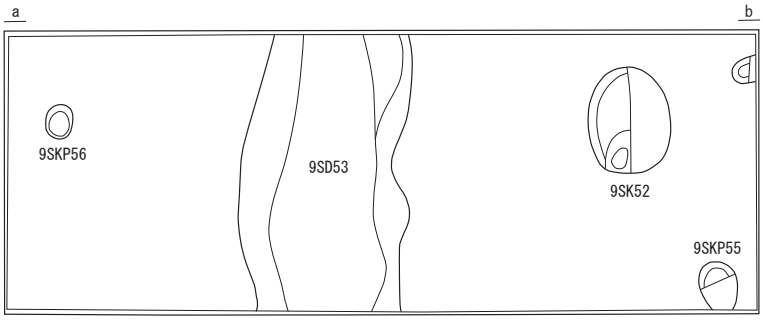
1. 黒褐色(10YR2/3) シルト しまり弱 ［表土］
2. 黒褐色(10YR2/3) シルト ややしまりあり
3. 黒色(10YR2/1) シルト ややしまり強
4. 暗褐色(10YR3/4) シルト ややしまりあり 地山土ブロック状に30% 黒色(10YR2/1) 20%含む ［盛土］
5. 黒色(10YR2/1) シルト ややしまりあり 地山土ブロック状に10%含む ［盛土］
6. 暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまりあり 地山土ブロック状に30% 黒色(10YR2/1) 30%含む ［盛土］



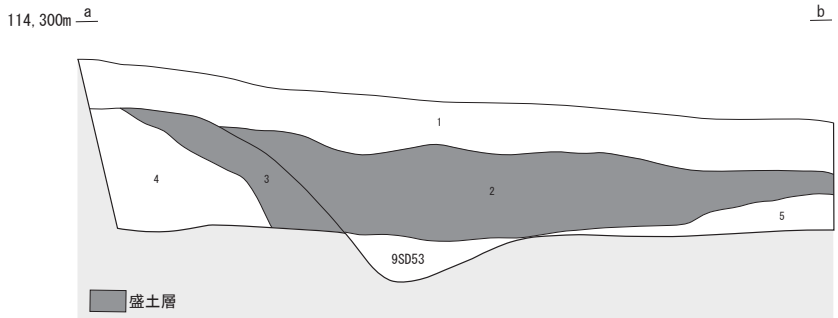
第170図　４トレンチ平面図・断面図



5トレンチ　a-b土層注記
1. 黒褐色(10YR2/3) シルト しまり弱 ［表土］
2. 黒褐色(7.5YR2/2) シルト しまり中 粒上の明褐(7.5YR5/6)が5%混じる 粒の大きさは極小～小 ［盛土］
3. 黒褐色(7.5YR2/2) シルト ややしまりあり 粒上の明褐(7.5YR5/6)が7%混じる ［盛土］
4. 黒色(7.5YR2/1) シルト しまり強 ［自然堆積土］
5. 褐色(7.5YR4/3) シルト ややしまりあり～強 ［漸移層］



5トレンチ



0　(1:40)　1m

第171図　５トレンチ平面図・断面図

（３）北西部尾根（第５次調査）

①北西部尾根の立地と概要

北西部尾根は脇本城跡北西部に位置する字立木沢の丘陵で、頂上部は標高74m～ 90mである。

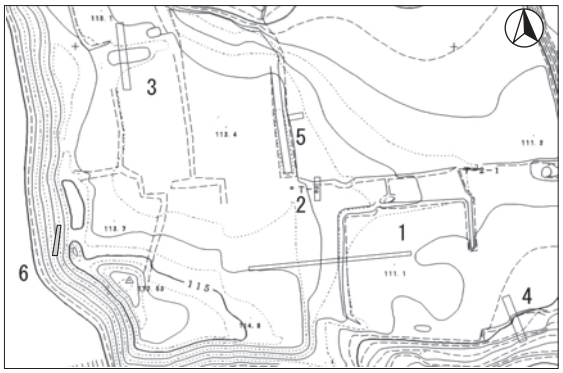
馬乗り場地区から続く丘陵であり、細い尾根筋の東西側は標高差60mほどの急斜面となっている。遺構現状調査において、細尾根頂上部に曲輪と想定されるわずかな平坦面があることが指摘されていた。

②検出遺構

第５次調査では尾根頂上部の曲輪と想定される平坦面部に任意のトレンチ４か所を設定した。その結果、盛土等を伴う造成の痕跡は確認されず、遺構や遺物も確認されなかった。

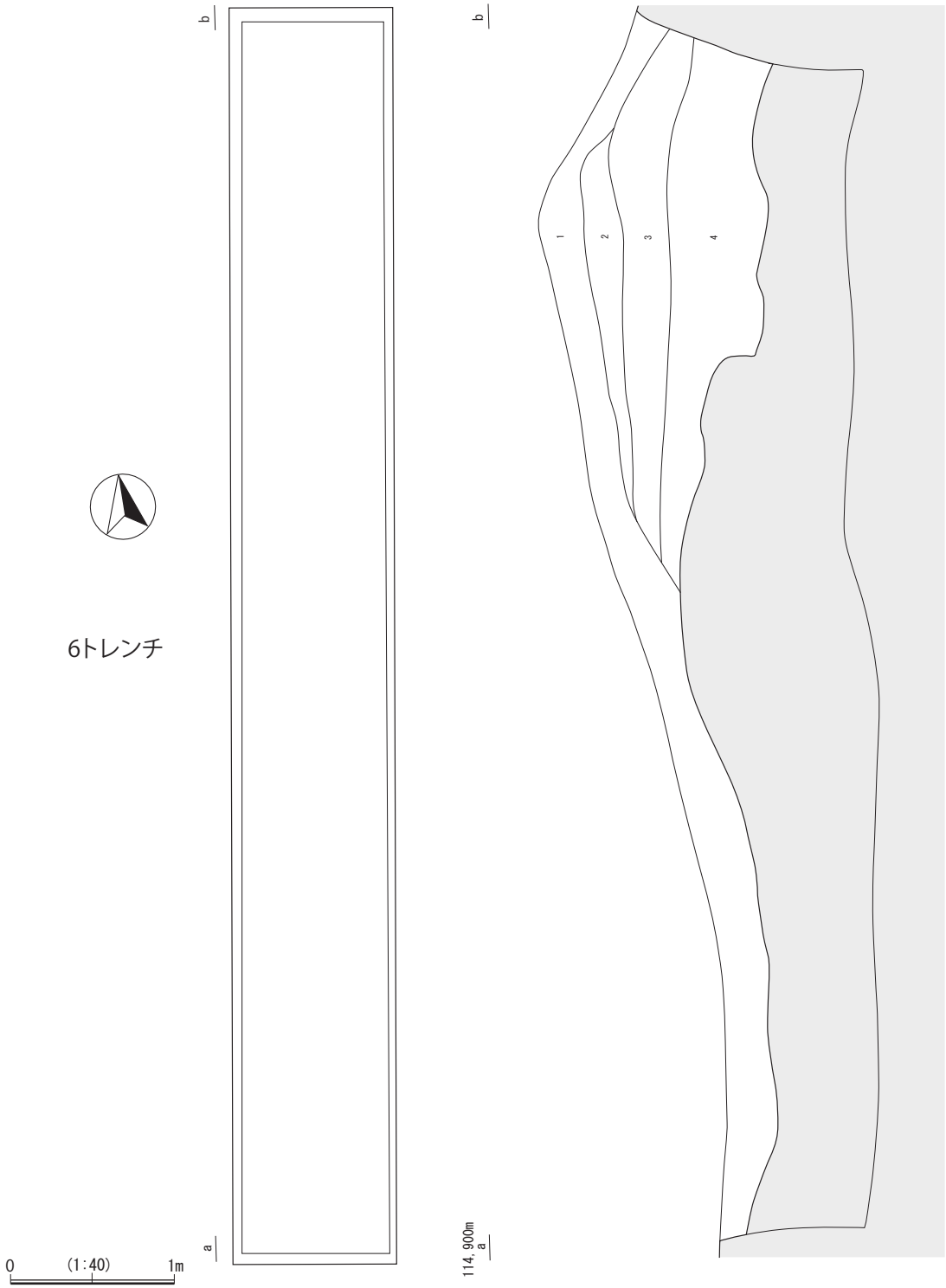
【１トレンチ】

尾根の北西端部に南北４ｍ×東西１ｍで設定した。遺構や遺物は確認されなかった。



6トレンチ　a-b土層注記

1. 黒褐色(10YR2/3) シルト しまり弱［表土］
2. にぶい黄褐色(10YR5/4) しまり強　粘性あり
3. にぶい黄褐色(10YR4/3) しまり強　粘性弱　色調は異なる
4. 黒褐色(10YR2/2) しまりなし　粘性あり　ブロック状(2～5mm)の8層土を含む



第172図　６トレンチ平面図・断面図

第56表　曲輪（第9次調査）遺構一覧表

■道路跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
9SM27	第168図	2トレンチ	34	158	-	-	II	SM02	
9SM31	第169図	3トレンチ	28	170	-	-	II	SM01	

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
9SD01	第167図	1トレンチ	106	214	-	-	II	SD01	盛土層上面で検出
9SD02	第167図	1トレンチ	11	22	-	-	II	SD02	
9SD03	第167図	1トレンチ	17	17	-	-	II	SD03	
9SD30	第168図	2トレンチ	48	62	-	-	II	SD01	
9SD53	第171図	5トレンチ	20	91	-	-	II	SD01	

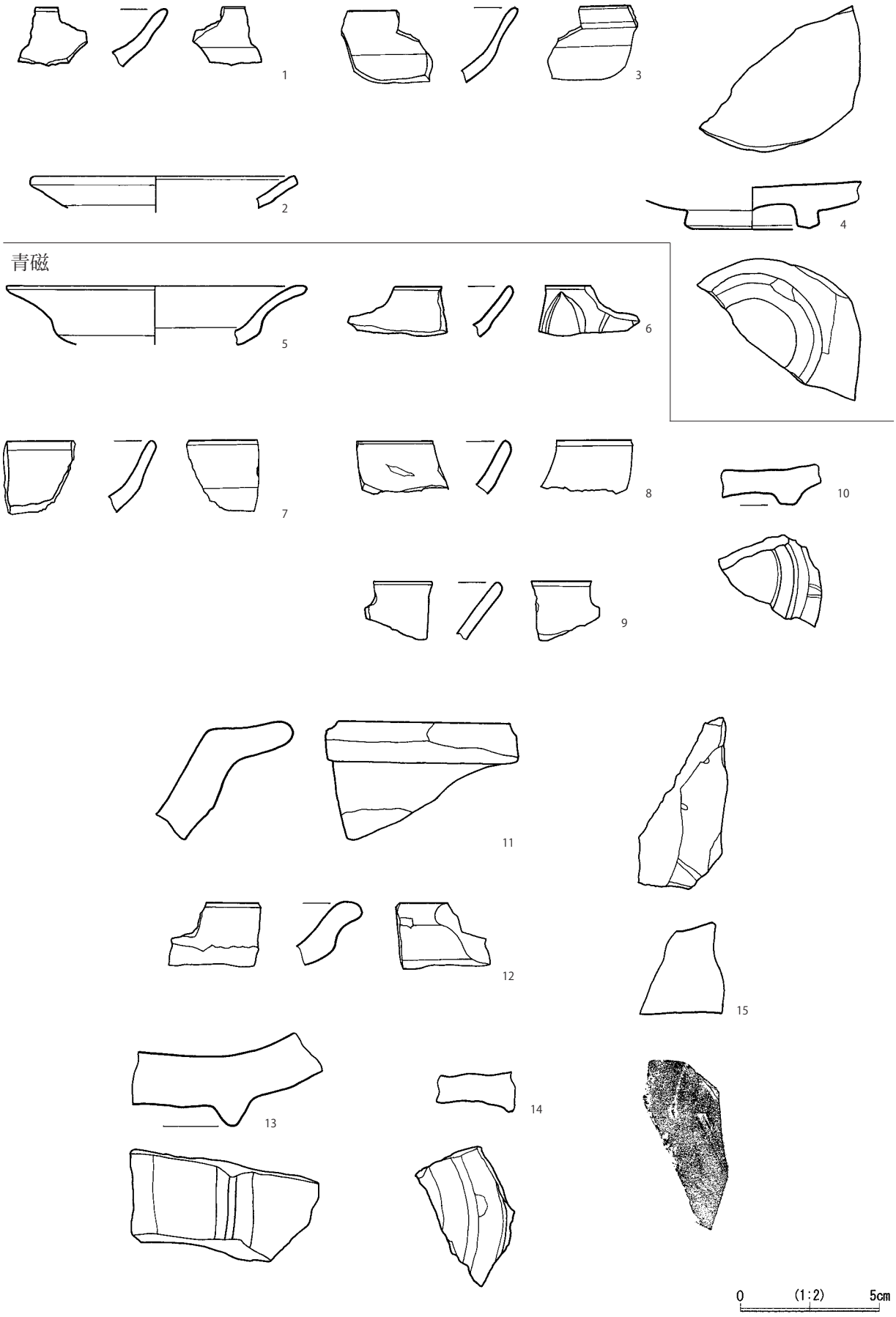
■土坑

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
9SK04	第167図	1トレンチ	43	(53)	-	-	II	SK04	
9SK05	第167図	1トレンチ	48	(48)	-	-	II	SK05	
9SK06	第167図	1トレンチ	19	(69)	-	-	II	SK06	
9SK07	第167図	1トレンチ	9	(46)	-	-	II	SK07	
9SK28	第168図	2トレンチ	14	(58)	-	-	II	SK03	
9SK29	第168図	2トレンチ	8	(33)	-	-	II	SK04	
9SK47	第170図	4トレンチ	43	48	38	-	II	SK01	
9SK52	第171図	5トレンチ	28	55	44	-	II	SK02	

■柱穴跡

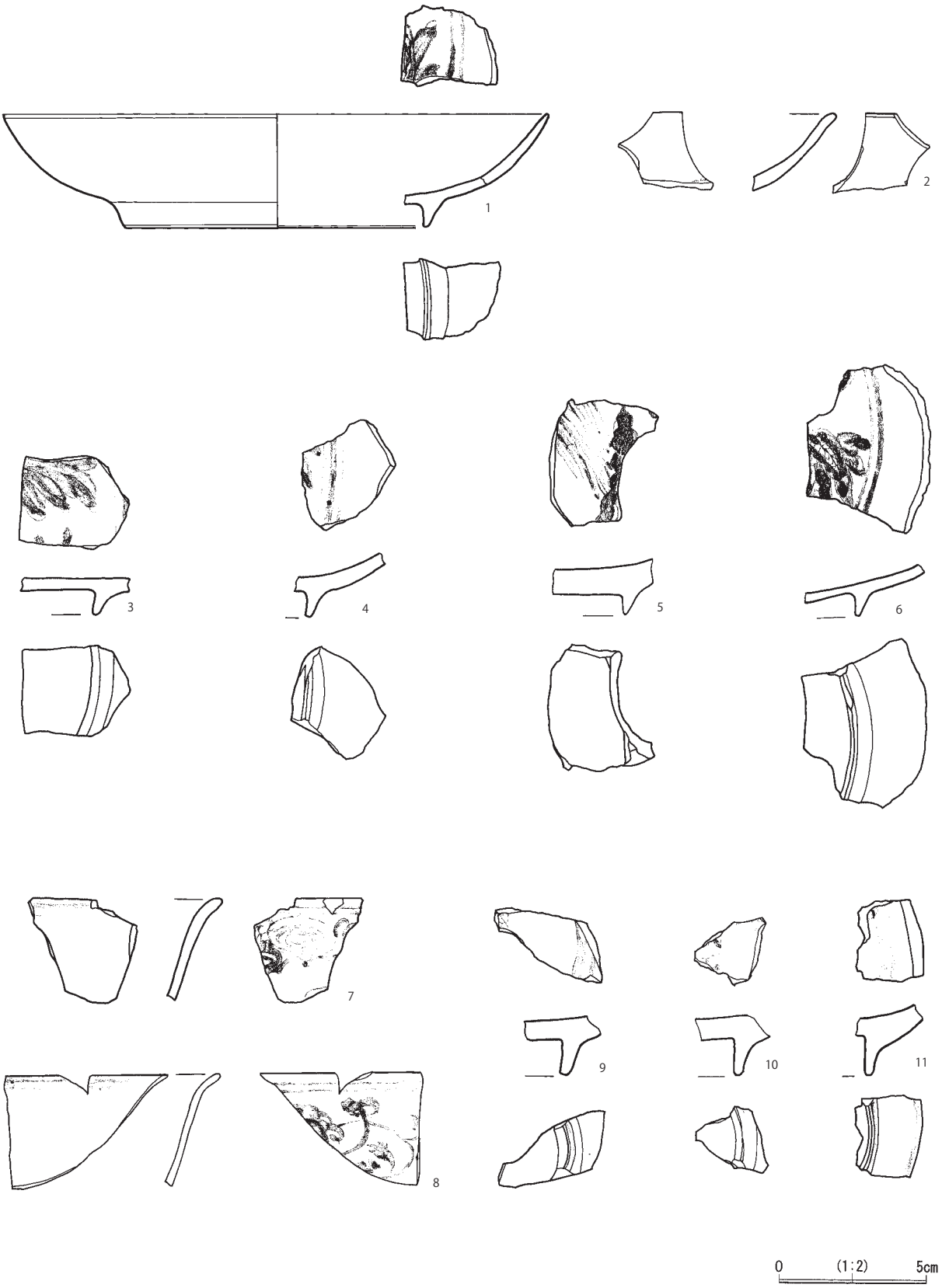
遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
9SKP08	第167図	1トレンチ	14	(23)	-	-	II	P1	
9SKP09	第167図	1トレンチ	33	40	30	-	II	P2	
9SKP10	第167図	1トレンチ	21	35	28	-	II	P3	
9SKP11	第167図	1トレンチ	48	(47)	-	-	II	P4	
9SKP12	第167図	1トレンチ	38	21	21	-	II	P5	
9SKP13	第167図	1トレンチ	18	29	20	-	II	P6	
9SKP14	第167図	1トレンチ	17	(22)	-	-	II	P7	
9SKP15	第167図	1トレンチ	17	25	22	-	II	P8	
9SKP16	第167図	1トレンチ	12	28	22	-	II	P9	
9SKP17	第167図	1トレンチ	12	29	24	-	II	P10	
9SKP18	第167図	1トレンチ	21	26	21	-	II	P11	
9SKP19	第167図	1トレンチ	18	(26)	-	-	II	P12	
9SKP20	第167図	1トレンチ	16	22	22	-	II	P13	
9SKP21	第167図	1トレンチ	20	(18)	-	-	II	P14	
9SKP22	第167図	1トレンチ	10	(10)	-	-	II	P15	盛土層内で検出
9SKP23	第167図	1トレンチ	14	31	22	-	II	P16	
9SKP24	第167図	1トレンチ	11	29	26	-	II	P17	盛土層上面で検出
9SKP25	第167図	1トレンチ	57	(44)	-	-	II	P18	盛土層上面で検出
9SKP26	第167図	1トレンチ	28	13	12	-	II	P19	盛土層上面で検出
9SKP32	第169図	3トレンチ	24	31	21	-	II	P1	
9SKP33	第169図	3トレンチ	9	26	20	-	II	P2	
9SKP34	第169図	3トレンチ	16	22	20	-	II	P3	
9SKP35	第169図	3トレンチ	11	20	20	-	II	P4	
9SKP36	第169図	3トレンチ	28	24	23	-	II	P5	
9SKP37	第169図	3トレンチ	21	24	21	-	II	P6	
9SKP38	第169図	3トレンチ	13	22	21	-	II	P7	
9SKP39	第169図	3トレンチ	23	18	14	-	II	P8	
9SKP40	第169図	3トレンチ	19	23	20	-	II	P9	
9SKP41	第169図	3トレンチ	14	20	19	-	II	P10	
9SKP42	第169図	3トレンチ	22	16	11	-	II	P11	
9SKP43	第169図	3トレンチ	7	(25)	-	-	II	P12	
9SKP44	第169図	3トレンチ	24	26	23	-	II	P13	
9SKP45	第169図	3トレンチ	14	26	22	-	II	P14	
9SKP46	第169図	3トレンチ	19	(40)	-	-	II	P15	
9SKP48	第170図	4トレンチ	20	26	25	-	II	P1	
9SKP49	第170図	4トレンチ	12	16	15	-	II	P2	
9SKP50	第170図	4トレンチ	60	31	19	-	II	P3	
9SKP51	第170図	4トレンチ	39	36	25	-	II	P4	
9SKP54	第170図	5トレンチ	15	(14)	-	-	II	P1	
9SKP55	第170図	5トレンチ	15	28	21	-	II	P2	
9SKP56	第170図	5トレンチ	17	17	14	-	II	P3	

白磁

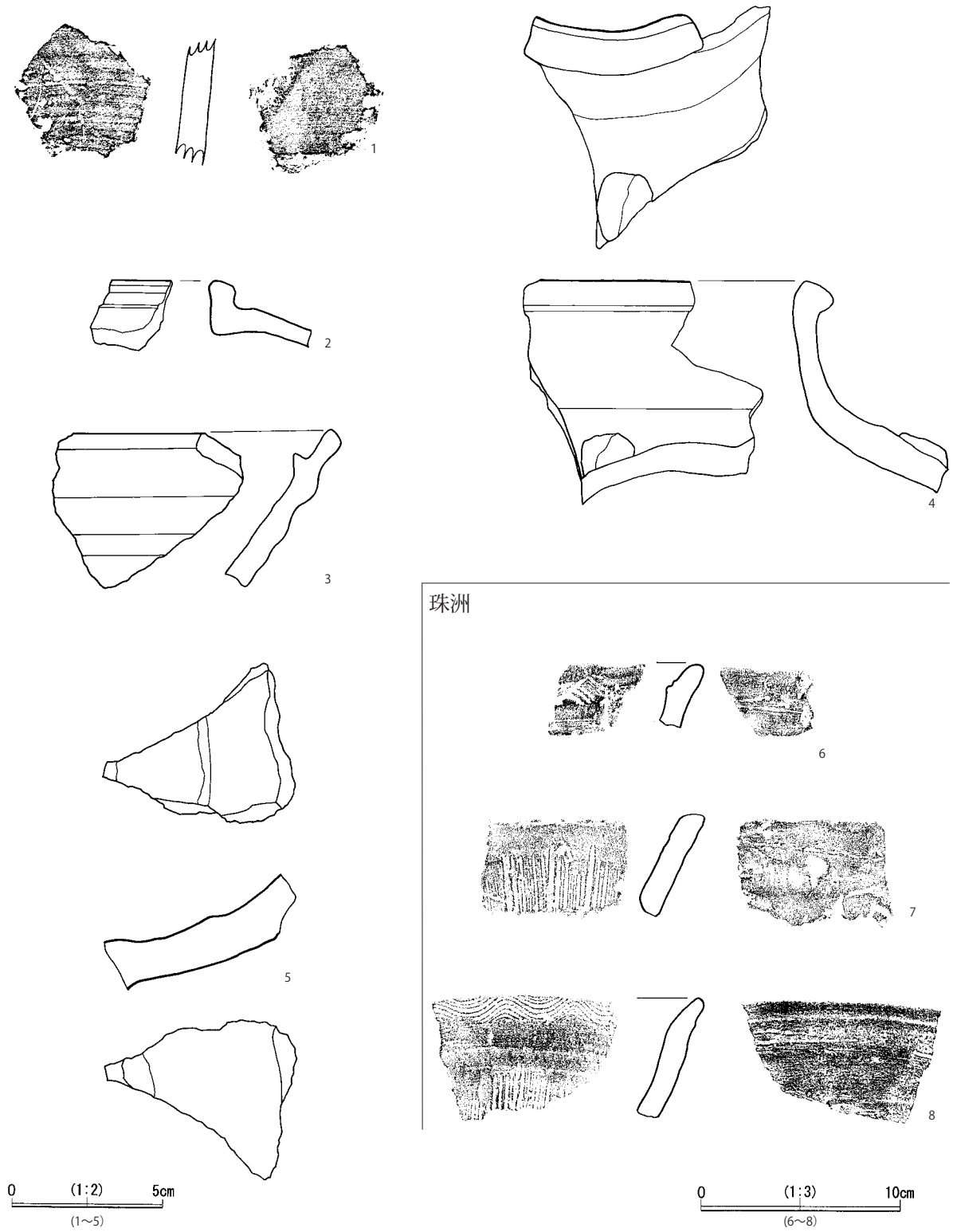


第173図　曲輪（第9次調査）出土遺物①

染付



第174図　曲輪（第9次調査）出土遺物②



第175図　曲輪（第9次調査）出土遺物③

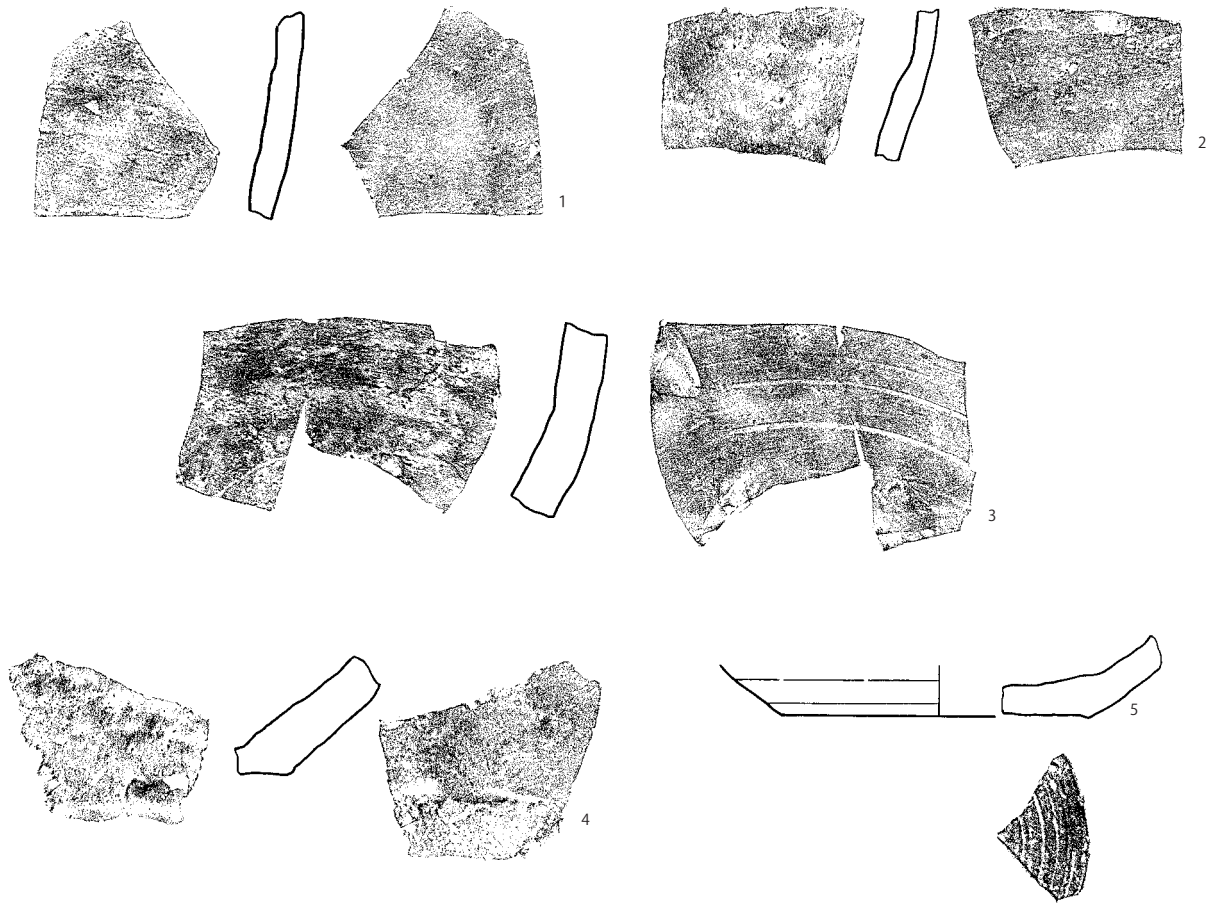
【２トレンチ】

尾根中央部の平坦面に南北４ｍ×東西２ｍ（西側に１ｍ×１ｍ拡張）で設定した。遺構や遺物は確認されなかった。

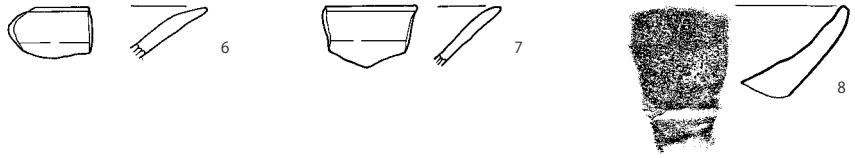
【３トレンチ】

馬乗り場地区側の最も広い平坦面に南北２ｍ×東西２ｍで設定した。遺構や遺物は確認されなかった。

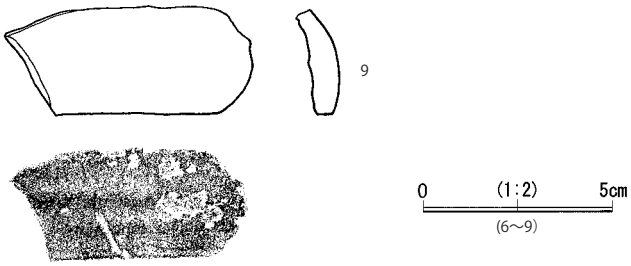
信楽



かわらけ



瓦質土器



第176図　曲輪（第9次調査）出土遺物④

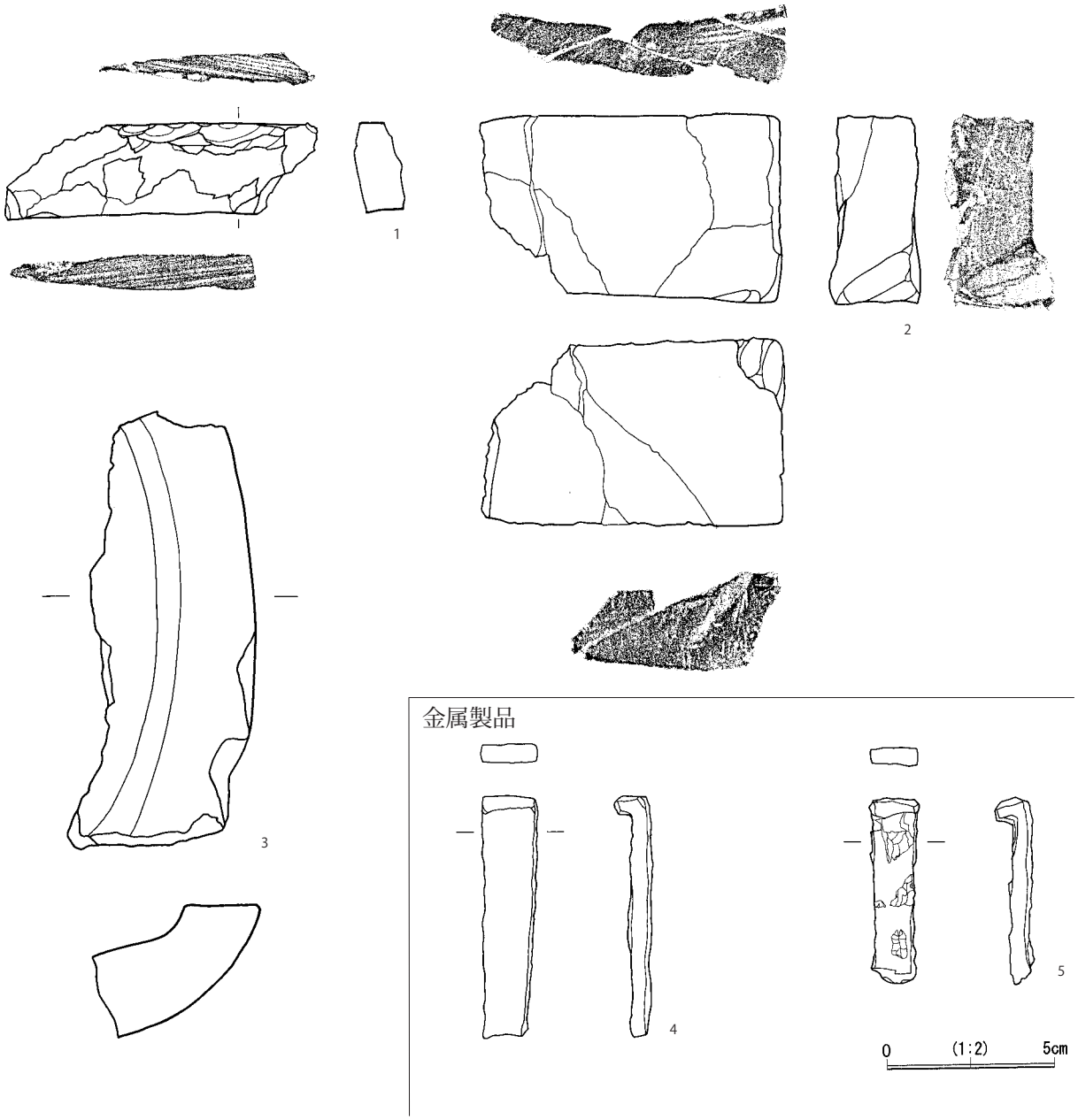
【４トレンチ】

丘陵の馬乗り場地区側に南北２ｍ×東西３ｍで設定した。遺構や遺物は確認されなかった。

③ 出土遺物

遺物は出土しなかった。

石製品



第177図　曲輪（第9次調査）出土遺物⑤

（４）西側斜面（第10次調査）

①西側斜面の立地と概要

第10次調査は内館地区と馬乗り場地区を結ぶ尾根沿いの西側斜面部で、馬乗り場地区の南西端から南南西に215m程の場所に位置する。斜面部の標高は約100mである。遺構現状調査において、斜面部に竪堀・竪土塁状の遺構群の存在が指摘されていた。

第57表　曲輪（第9次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
9	24	58	12	5	0	3	0	0	23	0	0	0	4	0	2	3	92	2	1	0	13	0	5	0

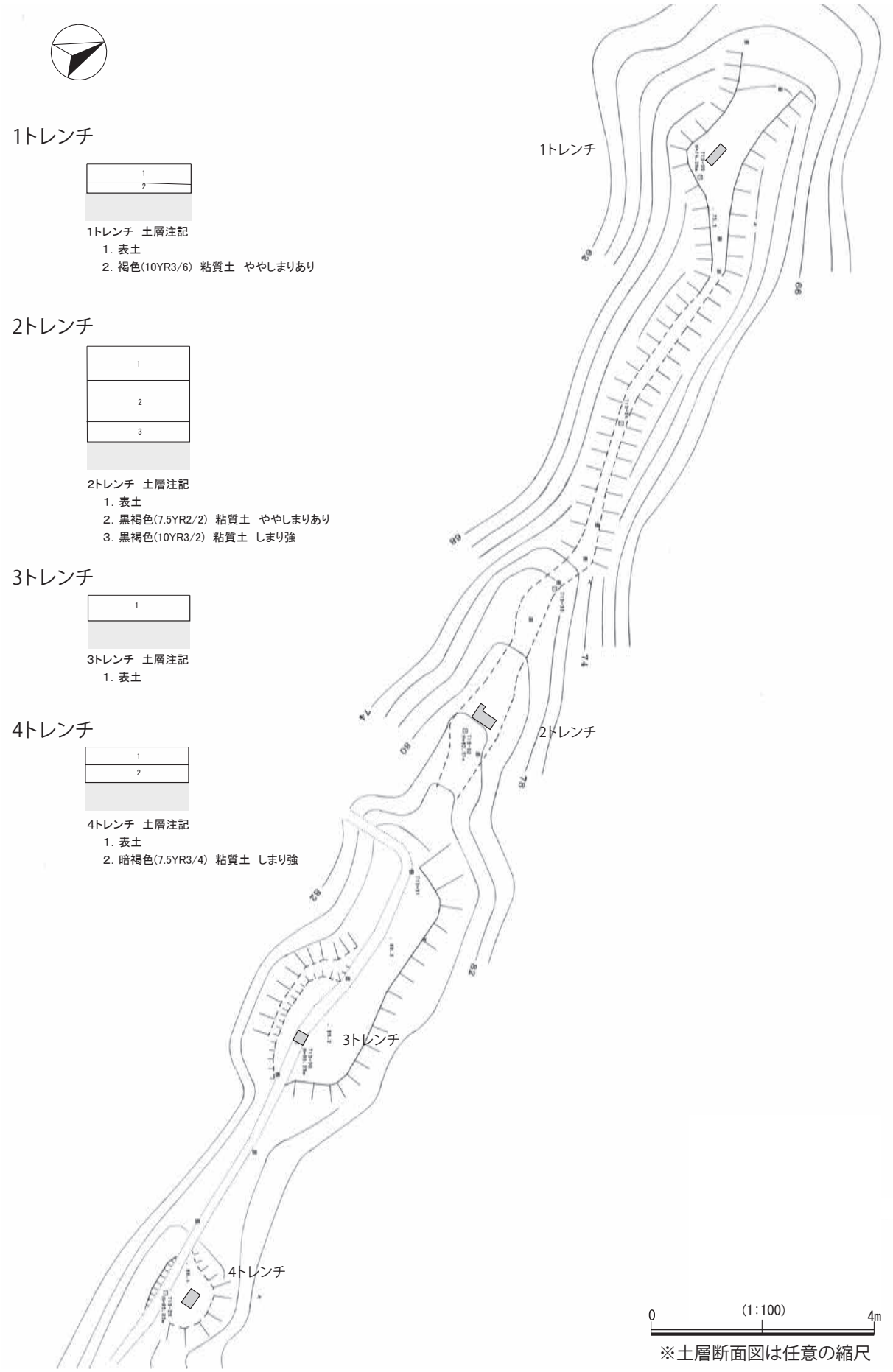
第58表　曲輪（第9次調査）出土遺物観察表

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
173	1	36	白磁	皿	4トレンチ	-	-	-	(2.1)	15c前半	II	29	1	被熱
173	2	36	白磁	皿	4トレンチ	-	-	(9.7)	(1.1)	15c前半	II	29	2	被熱
173	3	36	白磁	碗	4トレンチ	-	-	-	(2.6)	14c後半	II	29	3	枢府磁/4と同一個
173	4	36	白磁	碗	4トレンチ	-	-	(4.4)	(1.6)	14c後半	II	29	4	枢府磁/3と同一個
173	5	36	青磁	皿	4トレンチ	-	(10.8)	-	(2.1)	15c中	II	29	8	
173	6	36	青磁	皿	2トレンチ	-	-	-	(1.8)	15c前半～中	II	26	1	
173	7	36	青磁	皿	4トレンチ	-	-	-	(2.5)	-	II	29	7	
173	8	36	青磁	皿	4トレンチ	-	-	-	(1.9)	-	II	29	6	
173	9	36	青磁	皿	4トレンチ	-	-	-	(2.1)	-	II	29	5	被熱
173	10	36	青磁	皿	4トレンチ	-	-	-	(1.5)	-	II	29	9	
173	11	36	青磁	盤(鍔縁盤)	4トレンチ	-	-	-	(4.4)	-	II	29	12	
173	12	36	青磁	盤	4トレンチ	-	-	-	(2.1)	-	II	29	11	
173	13	36	青磁	盤	4トレンチ	-	-	-	(3.3)	-	II	29	13	
173	14	36	青磁	盤	4トレンチ	-	-	-	(1.5)	-	II	29	10	
173	15	36	青磁	盤	4トレンチ	-	-	-	(3.2)	-	II	29	14	
174	1	36	染付	皿	4トレンチ	-	(18.6)	(10.2)	4.0	16c後半	II	30	10	被熱
174	2	36	染付	皿	4トレンチ	-	-	-	(2.6)	16c後半	II	30	9	被熱
174	3	36	染付	皿	4トレンチ	-	-	-	(1.2)	16c後半	II	30	7	
174	4	36	染付	皿	4トレンチ	-	-	-	(2.2)	16c後半	II	30	8	被熱
174	5	36	染付	皿	4トレンチ	-	-	-	(1.8)	-	II	30	11	
174	6	36	染付	皿	4トレンチ	-	-	-	(1.8)	16c後半	II	30	6	
174	7	36	染付	碗	4トレンチ	-	-	-	(3.4)	15c前半	II	30	1	被熱
174	8	36	染付	碗	4トレンチ	-	-	-	(3.8)	15c前半	II	30	2	被熱
174	9	36	染付	碗	4トレンチ	-	-	-	(2.0)	15c前半	II	30	3	被熱
174	10	36	染付	碗	4トレンチ	-	-	-	(2.0)	15c前半	II	30	4	被熱
174	11	36	染付	碗	4トレンチ	-	-	-	(2.4)	15c前半	II	30	5	被熱
175	1	36	瀬戸美濃	壺	4トレンチ	-	-	-	(4.1)	-	II	31	1	
175	2	36	瀬戸美濃	茶入類	4トレンチ	-	-	-	(2.2)	-	II	31	2	
175	3	36	瀬戸美濃	皿	4トレンチ	-	-	-	(5.7)	15c前半	II	31	3	
175	4	36	瀬戸美濃	四耳壺	4トレンチ	-	-	-	(7.0)	15c前半	II	31	4	
175	5	36	瀬戸美濃	鉢	4トレンチ	-	-	-	(3.8)	-	II	31	5	
175	6	36	珠洲	すり鉢	4トレンチ	-	-	-	(3.2)	15c中	II	31	6	
175	7	36	珠洲	すり鉢	4トレンチ	-	-	-	(5.1)	15c中	II	31	7	
175	8	36	珠洲	すり鉢	4トレンチ	-	-	-	(6.2)	-	II	31	8	
176	1	36	信楽	甕	4トレンチ	-	-	-	(7.7)	-	II	32	1	
176	2	36	信楽	甕	4トレンチ	-	-	-	(6.0)	-	II	32	2	
176	3	36	信楽	甕	4トレンチ	-	-	-	(7.5)	-	II	32	3	
176	4	36	信楽	甕	4トレンチ	-	-	-	(4.7)	-	II	32	4	
176	5	36	信楽	甕	4トレンチ	-	-	(12.0)	(3.2)	-	II	32	5	
176	6	36	かわらけ	皿	4トレンチ	-	-	-	(1.3)	-	II	32	7	
176	7	36	かわらけ	皿	4トレンチ	-	-	-	(1.6)	-	II	32	6	
176	8	36	かわらけ	皿	4トレンチ	-	-	-	(2.4)	-	II	32	8	
176	9	36	瓦質土器	-	4トレンチ	-	-	-	(2.7)	-	II	32	9	

■石製品・金属製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
177	1	36	石製品	砥石	4トレンチ	-	(9.3)	2.7	1.4	-	II	33	1	
177	2	36	石製品	砥石	4トレンチ	-	(9.0)	5.5	2.7	-	II	33	2	
177	3	36	石製品	茶臼	5トレンチ 周辺表採	-	-	-	器高(3.9)	-	II	33	3	
177	4	36	金属製品	船釘	-	-	(7.2)	1.7	1.2	-	-	-	-	鉄製
177	5	36	金属製品	船釘	-	-	(5.5)	1.5	1.1	-	-	-	-	鉄製



第178図　北西部尾根（第5次調査）トレンチ配置図

②検出遺構

第10次調査では竪堀・竪土塁状遺構想定か所に任意の大きさのトレンチ１か所を設定して行った。その結果、盛土等を伴う造成の痕跡は確認できず、遺構や遺物も確認されなかった。

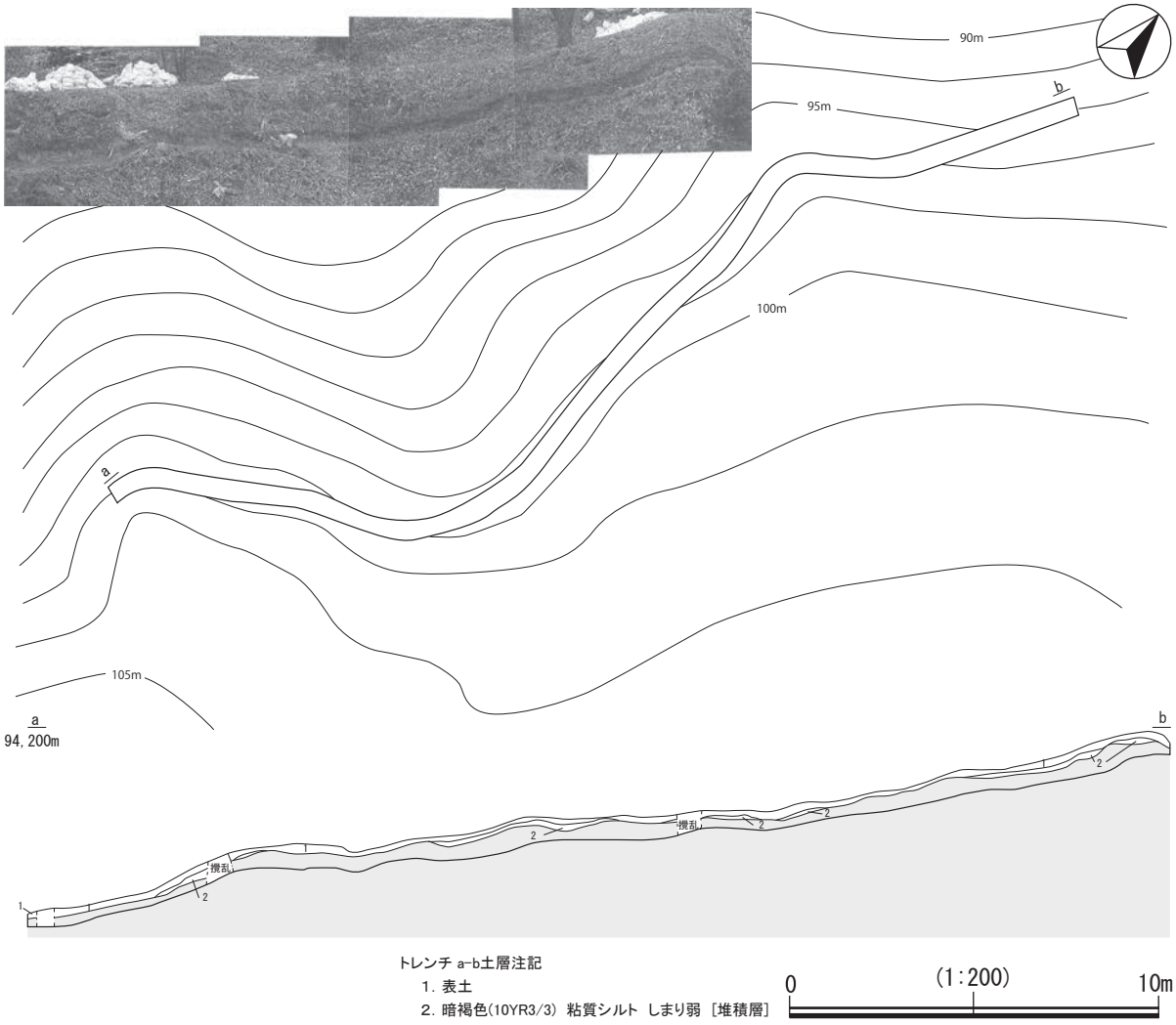
トレンチについて

【トレンチ】

斜面部に南北約36m×約１mで設定した。周囲一帯は山裾まで40m程度の落差のある急峻な崖となっており、竪堀・竪土塁状遺構の存在が遺構現状調査時より指摘されてきた。それらの遺構の有無を確認するため、斜面と垂直方向にトレンチを設定し、地山土を遺構確認面としたが、遺構、遺物は確認されなかった。

③ 出土遺物

遺物は出土しなかった。



第179図　西側斜面（第10次調査）トレンチ平面図・断面図

第３節　兜ヶ崎・打ヶ崎地区

１　調査の目的と経緯

兜ヶ崎･打ヶ崎地区は脇本城跡北東部に位置し､曲輪群や井戸跡､道路跡（田谷沢道）が残されている。曲輪の配置構造は小規模な丘陵の平坦な頂上部を曲輪とし、その斜面部に帯状に曲輪を配置する。戦国期脇本城跡における本地区の機能や、曲輪内における建物跡や防御施設等の構造を把握すること、城跡造作の具体的方法を探ること、本地区の具体的な年代を探ることを目的に３次にわたる確認調査が行われている。

２　兜ヶ崎・打ヶ崎地区の立地と現況

兜ヶ崎・打ヶ崎地区は脇本城跡北東部に位置し、標高76 ～ 98mほどの小規模な丘陵頂上部に曲輪を造成する。小字は中央部を東西方向に延びる切通し状の道路跡である田谷沢道によって区切られ、北側は打ヶ崎、南側は兜ヶ崎となっている。田谷沢道を挟んだ南北両側を１つの地区として考え、小字名をもって地区名を仮称している。挟間田の低地を挟んだ北西部に位置する乍木地区とは、曲輪の構造が非常に似ており、田谷沢道沿いであるという点から深い関連性が考えられる。

田谷沢道を挟んだ南側の字兜ヶ崎では南北に延びる丘陵尾根筋の最高点である標高約98mの曲輪とその北方尾根上に位置する標高96mの曲輪を中心とし、その北・東斜面部には５～６段の帯状の曲輪を配置する。田谷沢道北側の字打ヶ崎では標高約71mの曲輪を中心とし、北・南・東斜面部に７～ 10段の帯状の曲輪を配置する。しかし、昭和40年代まで畑地として利用されていたことが、航空写真等から確認することができ、さらにまた、植林や大規模な土砂採取などが行われ、攪乱が及んでいるものと推測される。田谷沢道は切通し状の道路跡で、田谷沢街道という名称で明治初期の公図には記される。脇本本郷集落と田谷沢集落を結ぶ最短距離の道路として昭和40年ころまでは頻繁な往来があり、東側に位置する脇本第一小学校への通学路としても利用されていた。田谷沢道沿いの畑地転用や戦後の植林活動による地形改変の様相を観察することができるものの、要所要所に城郭機能時の痕跡を維持したと考えられる遺構が遺存している。

３　基本層序

兜ヶ崎・打ヶ崎地区では、一部廃城以後の土地利用の痕跡の可能性もあるが、城館の普請に伴って、丘陵の自然地形を大きく改変している。一部に遺構確認面までの堆積が非常に厚い地点もあり、畑地転用による耕作の影響が大きいものと考えられる。兜ヶ崎・打ヶ崎地区では最も標高の高い曲輪である第８次調査１トレンチでの層序を基本層序として捉える。

概ね上層からⅠ層：表土、Ⅱ層：耕作土、Ⅲ層：整地層、Ⅳ層：地山土となる。Ⅰ、Ⅱ層は廃城以後の堆積層である。本地区からは、10世紀後半代を中心とする土師器も多量に出土しており、Ⅲ層が古代及び中世の脇本城跡に直接関与する層である。整地層は複数層に区分されるが、基本層状では１層として捉える。

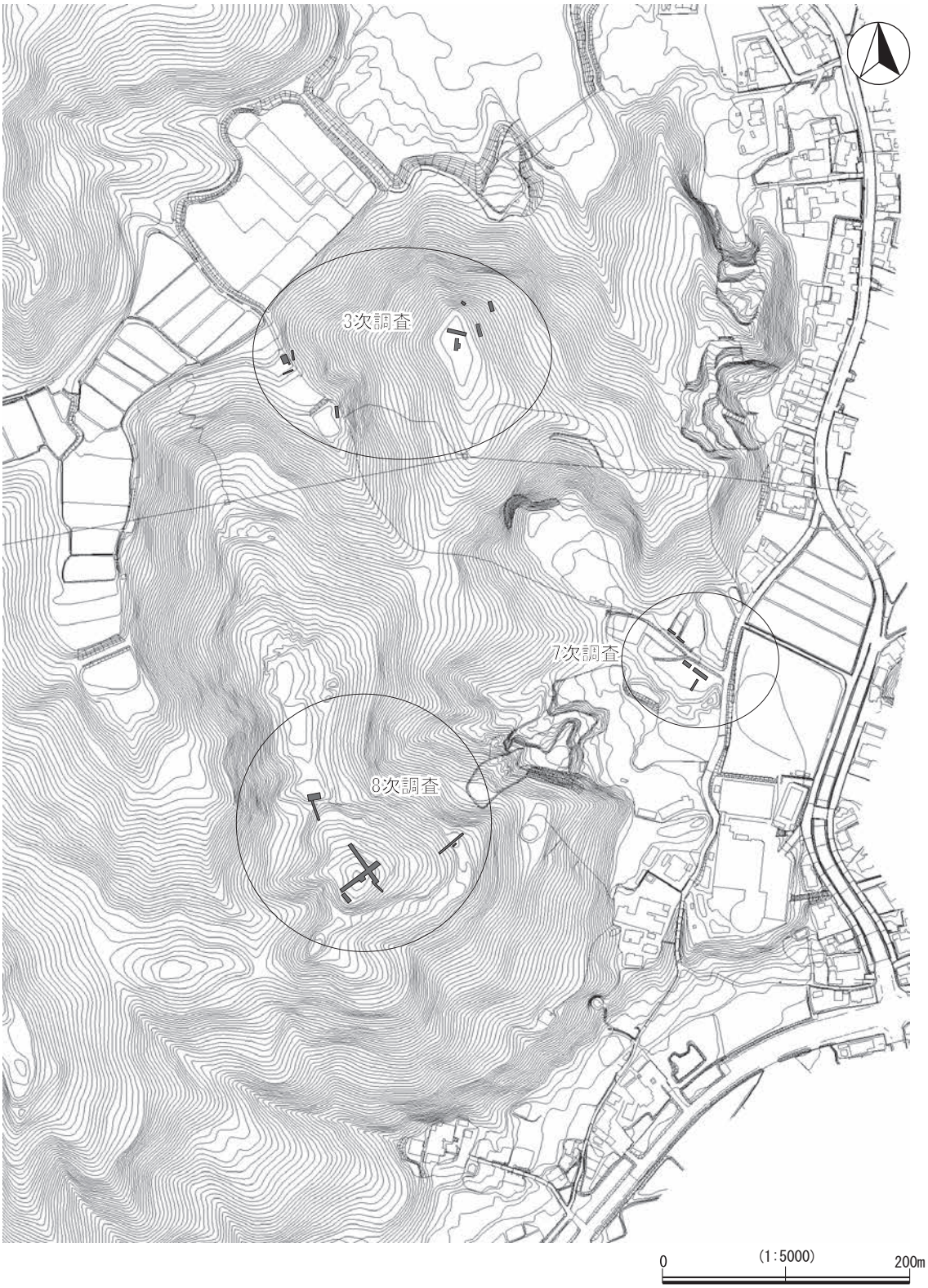
遺構は主にⅢ層上面及びⅣ層上面で検出される。

Ⅰ層：層厚10 ～ 20cm ／近現代 [表土]

Ⅱ層：層厚10 ～ 30cm ／暗褐色のシルト質土／近現代 [耕作土]

Ⅲ層：層厚10 ～ 30cm ／暗褐色のシルト質土／古代以降 [整地層]

Ⅳ層：－／ [地山]



第180図　兜ヶ崎・打ヶ崎地区調査区配置図

４　遺構と遺物

（１）曲輪（第３次調査）

①第３次調査曲輪の立地と概要

第３次調査対象は、兜ヶ崎・打ヶ崎地区の曲輪群のうち、田谷沢道を挟んで北側の字打ヶ崎に位置する曲輪である。最高所での標高は約71mであり、小規模な丘陵の頂上部を平坦に造成し、その斜面部に帯状に曲輪を配置する構造である。しかし東側で２か所､南側１か所が山砂採取によって消滅している。

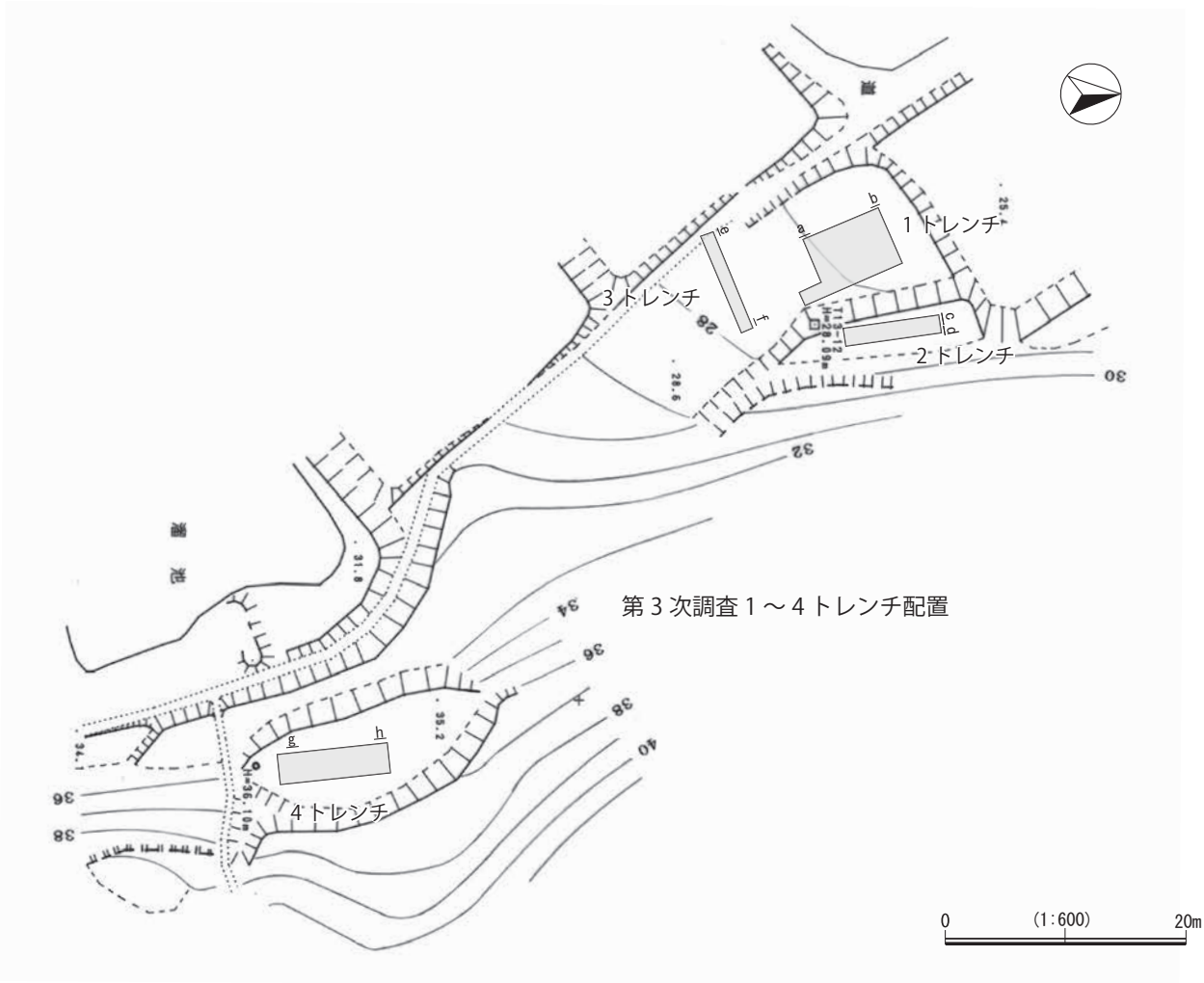
②検出遺構

第３次調査対象の曲輪では任意の大きさのトレンチ９か所を設定して行った。その結果、総計で道路跡１条、溝跡３条、柱穴跡３基、焼土遺構６基、集石遺構１基、盛土跡３か所が検出された。

各トレンチについて

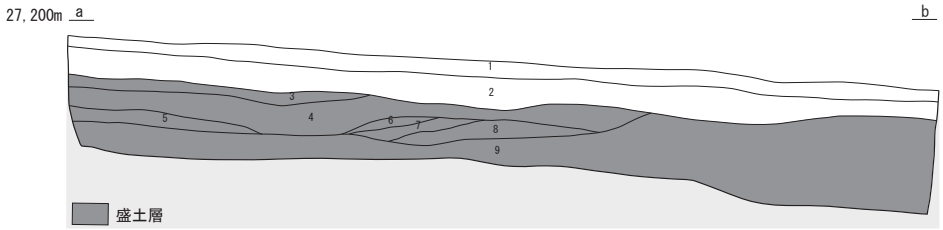
【１～３トレンチ】

南西側斜面下の田谷沢道に沿って､一部高くなっている平場に､１トレンチは南北７ｍ×東西５ｍ（南側を南北２ｍ×東西１ｍで拡張)、２トレンチは南北８ｍ×東西1.5m、３トレンチは南北１ｍ×東西8.5mとし､各トレンチでの遺構確認面は１トレンチが盛土層上面及び地山土、２･３トレンチが地山土であっ

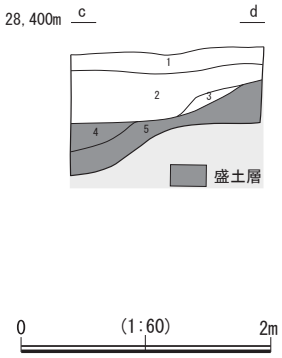


第181図　１～４トレンチ配置図

１トレンチ西側セクション



２トレンチ北側セクション



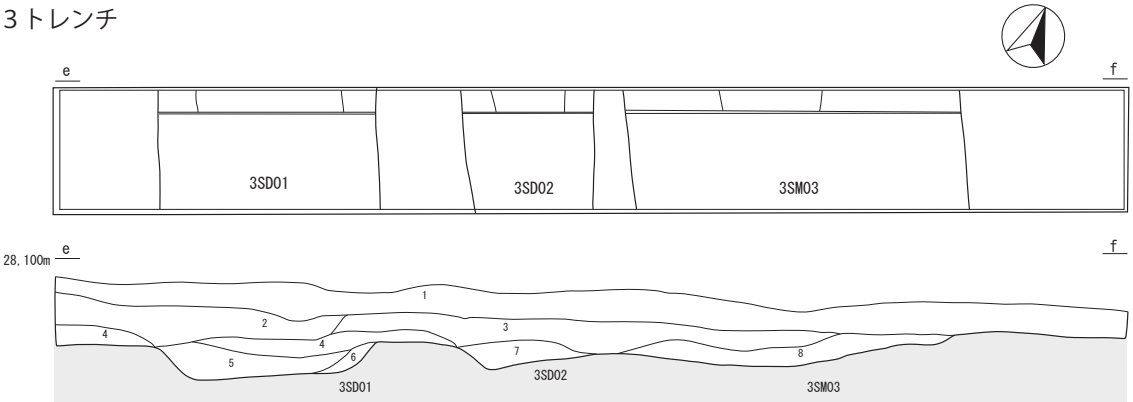
1トレンチ　a-b土層注記

1. 黒褐色(10YR2/3)　砂質土　しまり弱［表土］
2. 黒褐色(10YR3/2)　シルト　ややしまりあり　地山土ブロック状に10%含む
3. 黒褐色(10YR2/3)　シルト　しまりややあり　小礫やや多い　地山土ブロック状に50%含む［盛土］
4. 黒褐色(10YR2/3)　砂質土　しまりやや強　地山土ブロック状に10%含む［盛土］
5. 暗褐色(10YR3/3)　砂質土　しまりあり　小礫多い　地山土ブロック状に10%含む［盛土］
6. 黒褐色(10YR3/2)　シルト　しまり強　地山土ブロック状に5%含む［盛土］
7. 黒褐色(10YR3/2)　シルト　しまり強　地山土ブロック状に5%含む［盛土］
8. 暗褐色(10YR3/3)　シルト　しまり強　地山土ブロック状に50%含む［盛土］
9. 黒褐色(10YR3/2)　シルト　しまり強［盛土］

2トレンチ　c-d土層注記

1. 黒褐色(10YR2/3)　砂質土　ややしまりあり［表土］
2. 黒褐色(10YR3/2)　シルト　ややしまりあり　地山土ブロック状に5%含む
3. 黒色(10YR2/1)　シルト　ややしまりあり
4. 黒褐色(10YR3/1)　シルト　ややしまりあり　地山土ブロック状に10%含む［盛土］
5. 暗褐色(10YR3/4)　シルト　ややしまりあり　地山土ブロック状に30%　黒褐色土(10YR3/2)20%含む［盛土］

３トレンチ

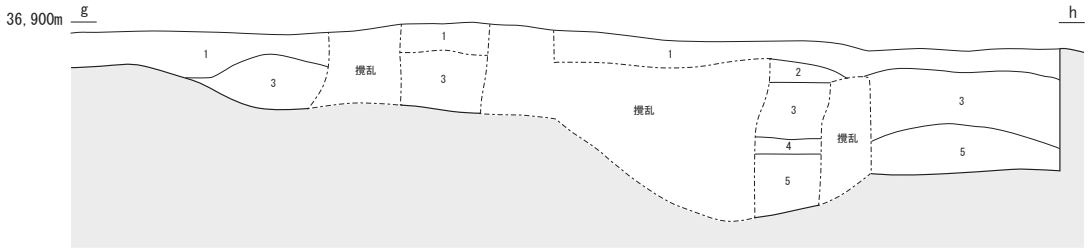


3トレンチ　e-f土層注記

1. 黒褐色(10YR2/3)　砂質土　しまり弱［表土］
2. 黒褐色(10YR2/3)　シルト　ややしまり強
3. 黒褐色(10YR3/2)　シルト　ややしまりあり　地山土ブロック状に10%含む
4. 暗褐色(10YR3/3)　シルト　ややしまり弱　地山土ブロック状に20%含む
5. 暗褐色(10YR3/4)　砂質土　しまりやや弱　地山土ブロック状に30%含む［3SD01］
6. 暗褐色(10YR3/4)　砂質土　ややしまりあり　地山土ブロック状に50%含む［3SD01］
7. 暗褐色(10YR3/4)　砂質土　ややしまりあり　小礫多い　地山土筋状に20%含む［3SD02］
8. 黒褐色(10YR2/3)　砂質土　しまり強　小礫少量　地山土ブロック状に10%含む［3SM03］

0　(1:60)　2m

４トレンチ西側セクション

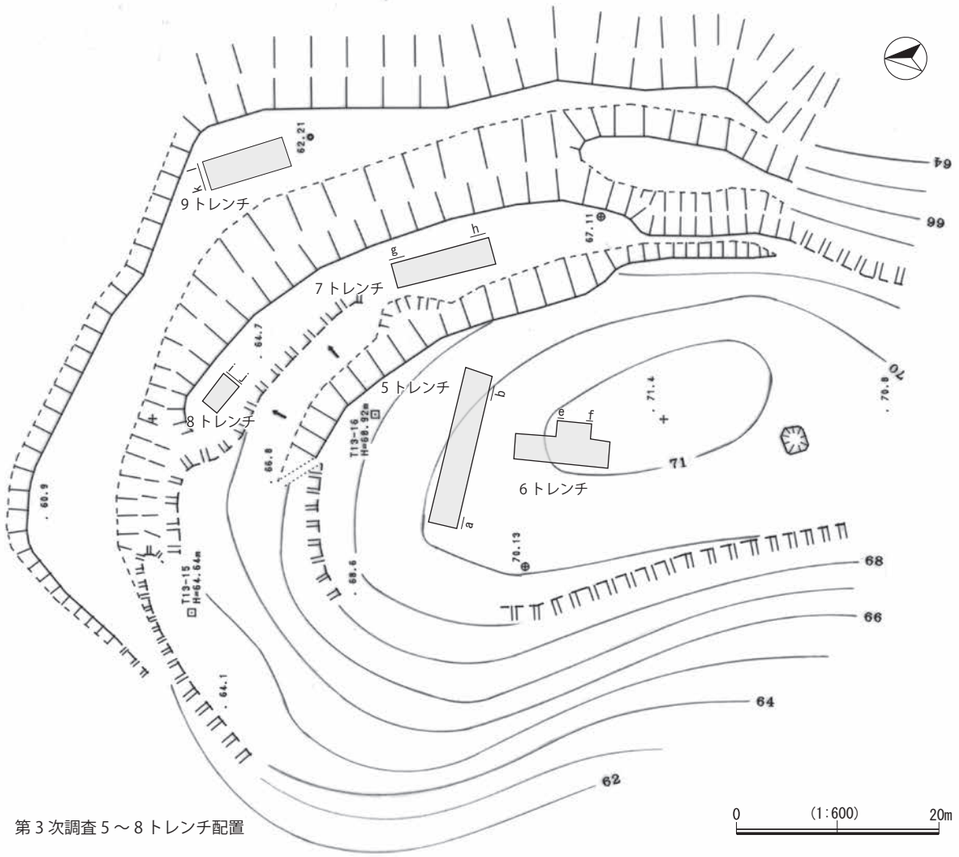


4トレンチ　g-h土層注記

1. 黒褐色(10YR3/1)　砂質土　しまり弱［表土］
2. 黒色(10YR2/1)　シルト　しまりやや強［崩落層］
3. 黒褐色(10YR2/3)　シルト　しまりややあり　地山土ブロック状に30%含む［自然堆積層］
4. 黒褐色(10YR3/2)　シルト　しまりやや弱　地山土ブロック状に50%含む［崩落層］
5. 黒色(10YR2/1)　シルト　ややしまり強［自然堆積層］

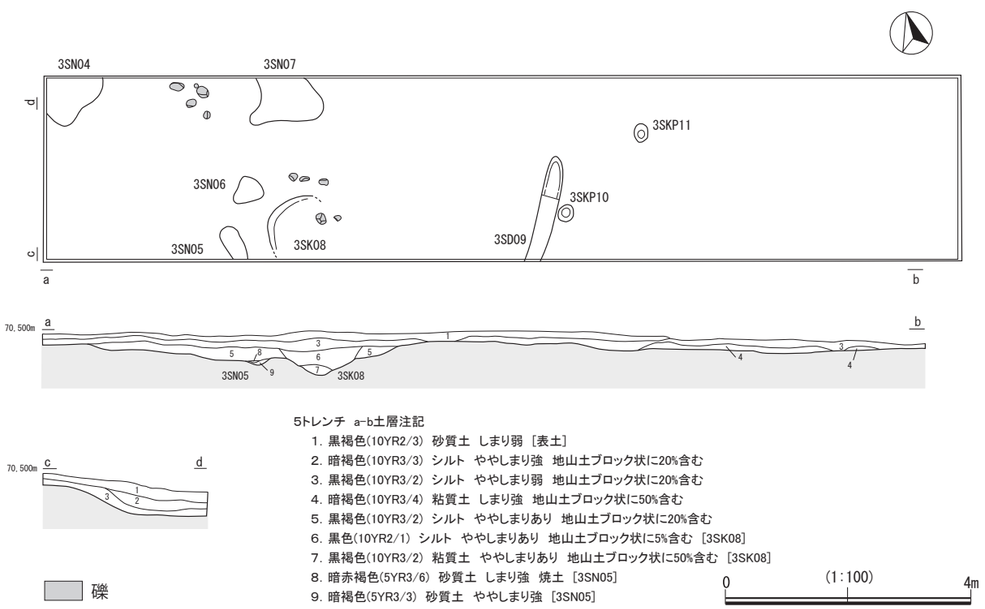
0　(1:60)　2m

第182図　１～４トレンチ平面図・断面図



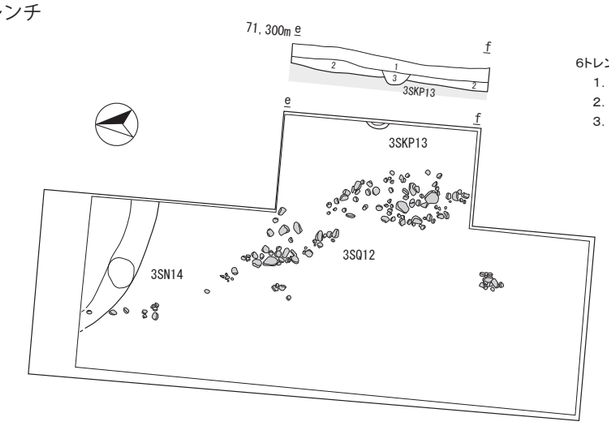
第３次調査５～８トレンチ配置

５トレンチ



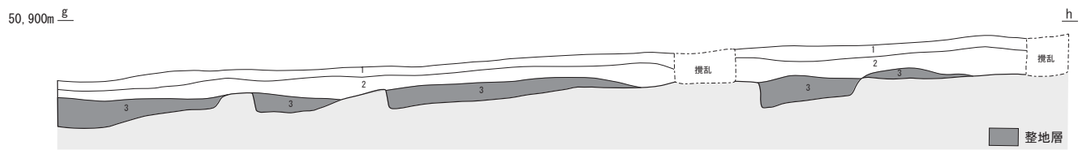
5トレンチ　a-b土層注記
1. 黒褐色(10YR2/3) 砂質土　しまり弱［表土］
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト　ややしまり強　地山土ブロック状に20%含む
3. 黒褐色(10YR3/2) シルト　ややしまり弱　地山土ブロック状に20%含む
4. 暗褐色(10YR3/4) 粘質土　しまり強　地山土ブロック状に50%含む
5. 黒褐色(10YR2/1) シルト　ややしまりあり　地山土ブロック状に50%含む
6. 黒色(10YR2/1) シルト　ややしまりあり　地山土ブロック状に5%含む［3SK08］
7. 黒褐色(10YR3/2) 粘質土　ややしまりあり　地山土ブロック状に50%含む［3SK08］
8. 暗赤褐色(5YR3/6) 砂質土　しまり強　焼土［3SN05］
9. 暗褐色(5YR3/3) 砂質土　ややしまり強［3SN05］

６トレンチ



6トレンチ　c-d土層注記
1. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　しまり弱［表土］
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト　しまり弱　地山土ブロック状に5%含む
3. 暗褐色(10YR3/4) シルト　しまりややあり　地山土ブロック状に30%含む［3SKP13］

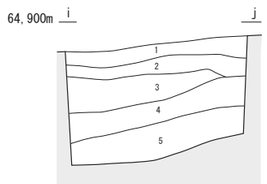
７トレンチ東側セクション



7トレンチ　g-h土層注記
1. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　しまり弱［表土］
2. 黒褐色(10YR2/3) シルト　ややしまり強　地山土少量含む
3. 黒褐色(10YR3/2) シルト　しまりややあり　地山土ブロック状に50%含む［整地層］

0 (1:60) 2m

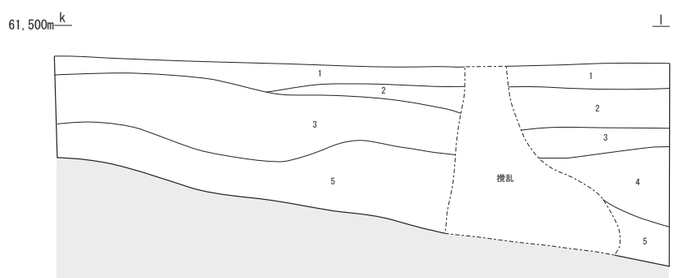
８トレンチ東側セクション



8トレンチ　i-j土層注記
1. 黒褐色(10YR2/3) シルト　しまり弱［表土］
2. 黒褐色(10YR2/3) シルト　ややしまりあり　地山土ブロック状に20%含む
3. 黒褐色(10YR3/2) シルト　ややしまり強　地山土ブロック状に5%含む
4. 黒褐色(10YR3/1) シルト　ややしまり強　地山土ブロック状に5%含む
5. 黒褐色(10YR3/2) シルト～砂　ややしまり強　地山土ブロック状に30%含む

0 (1:60) 2m

９トレンチ北側セクション



9トレンチ　k-l土層注記
1. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　しまり弱［表土］
2. 黒褐色(10YR2/3) シルト　ややしまり強　暗褐色(10YR3/3)を斑状に30%含む
3. 黒褐色(10YR3/1) シルト　地山土少量含む
4. 黒色(10YR2/1) シルト　ややしまりあり
5. 黒褐色(10YR2/3) 砂質土　ややしまり強　地山土ブロック状に30%含む

0 (1:60) 2m

第183図　曲輪（第3次調査）５～９トレンチ配置図/５～９トレンチ平面図･断面図

第59表　曲輪（第3次調査）遺構一覧表

■道路跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
3SM03	第182図	3トレンチ	19	262	-	I	SM03	

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
3SD01	第182図	3トレンチ	29	176	-	I	SD01	
3SD02	第182図	3トレンチ	21	96	-	I	SD02	
3SD09	第183図	5トレンチ	10	31	-	I	-	

■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
3SKP10	第183図	5トレンチ	28	25	24	-	I	-	
3SKP11	第183図	5トレンチ	21	27	22	-	I	-	
3SKP13	第183図	6トレンチ	21	(37)	-	-	I	-	

■焼土遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
3SN04	第183図	5トレンチ	50	(98)	-	-	I	SN01	
3SN05	第183図	5トレンチ	9	(58)	30	-	I	SN02	
3SN06	第183図	5トレンチ	6	50	42		I	SN03	
3SN07	第183図	5トレンチ	24	98	(76)	土師器（第184図-7）	I	SN04	
3SN08	第183図	5トレンチ	25	(119)	-	-	I	SN05	
3SN14	第183図	6トレンチ	18	50	46	-	I	-	

■集石遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
3SQ12	第183図	6トレンチ	-	632	-	I	-	

た。層位は不明であるが、１トレンチより、土師器及び近世期の陶磁器とともに検出された炭化物について、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、18世紀末頃（補正年代でBP160±50）の年代が示された。

【４トレンチ】

４トレンチは溜池と田谷沢道をはさんで向かい合う平場に南北９ｍ×東西2.5mで設定した。遺構確認面は盛土層と地山土であった。

【５～９トレンチ】

５～９トレンチは小丘陵の頂上部及び東側に展開する帯状の曲輪に、５トレンチは南北３ｍ×東西15m、６トレンチは南北９ｍ×東西３ｍ（東側を南北3.2m×東西1.6m拡張）、７トレンチは南北10m×東西2.5m、８トレンチは南北3.5m×東西２m、９トレンチは南北８ｍ×東西３mで設定した。遺構確認面は７トレンチで整地層、それ以外のトレンチで地山土であった。層位は不明であるが、５トレンチより、土師器とともに検出された炭化物について、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、10世紀代（補正年代：1,040±50BP）の年代が示された。

３SD01・02溝跡　(第182図)

３トレンチで検出された。西側に位置する田谷沢道とほぼ平行に検出された溝跡である。３SD01は幅176cm、深さ29cmで、３SD02は幅96cm、深さ21cmである。道路跡に伴う素掘りの側溝状の機能を有した溝跡と判断した。

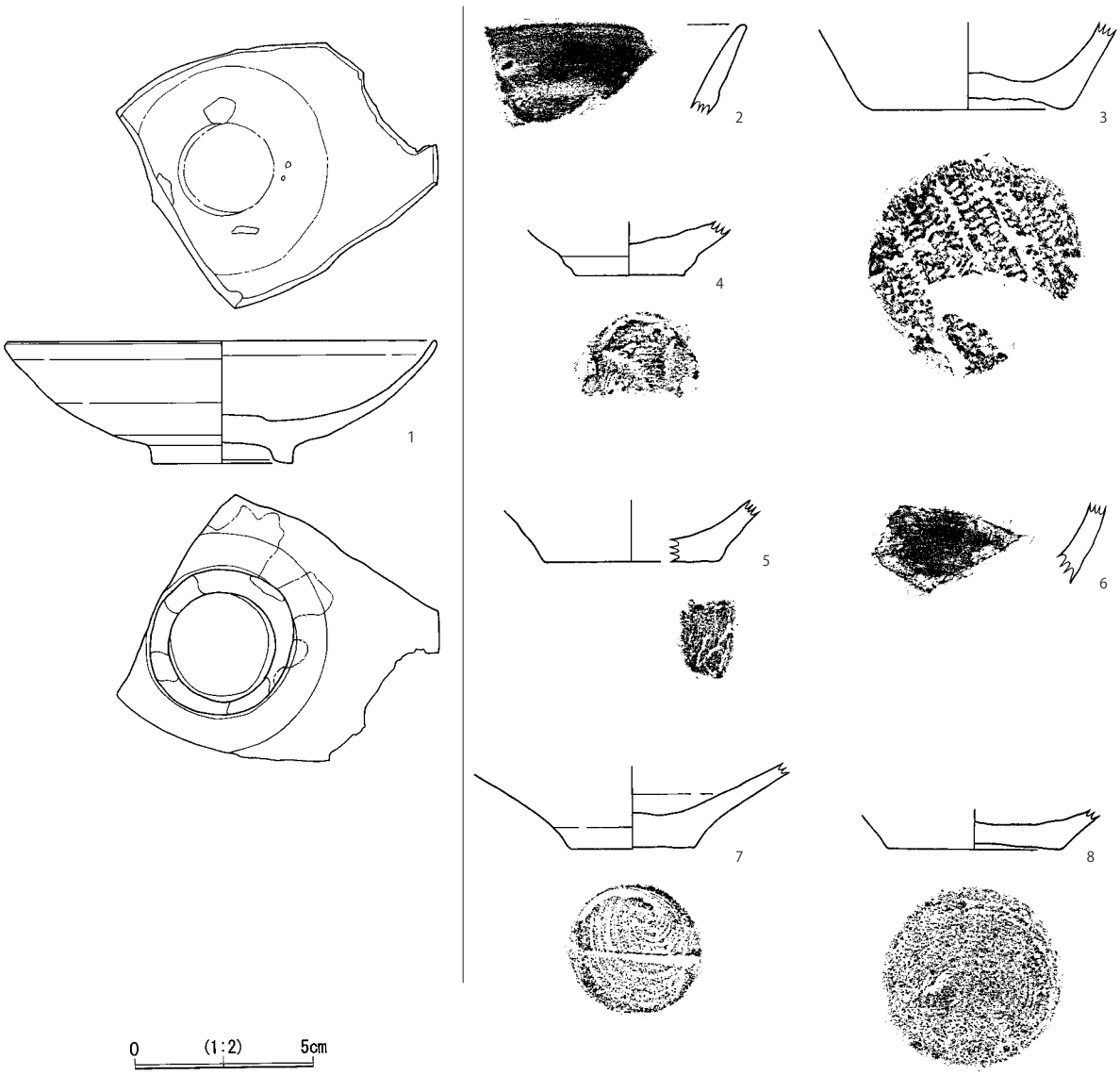
３SM03道路跡　(第182図)

３トレンチで検出された。西側に位置する田谷沢道とほぼ平行に検出された道路跡である。幅262cm、掘り込みの深さ19cmであり、小礫が多く、水はけが良い状況が観察され、道路跡として判断した。

③ 出土遺物

遺物は71点出土している。個体数は接合後の破片数である。陶磁器の出土は少なく、土師器が40点出土した。年代については、９世紀後半～11世紀代のものがみられるが、10世紀後半代に比定される土師器が主体となる。

唐津　　土師器



第184図　曲輪（第3次調査）出土遺物

第60表　曲輪（第3次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	25	0	0	0	40	0	0	0	0	5	0	0

第61表　曲輪（第3次調査）出土遺物観察表

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
184	1	36	唐津	皿	1トレンチ	-	(13.2)	4.0	3.4	-	I	33	2	
184	2	36	土師器	坏	5トレンチ	-	-	-	(2.5)	-	I	37	1	
184	3	36	土師器	甕	1トレンチ	-	-	(5.5)	(2.4)	9c後半～10c前	I	33	1	ムシロ底
184	4	36	土師器	坏	7トレンチ	-	-	(3.0)	(1.5)	10c後葉以降～11c	I	36	1	
184	5	36	土師器	坏	8トレンチ	-	-	(2.8)	(1.7)	10c後葉以降～11c	I	36	2	
184	6	36	土師器	坏	8トレンチ	-	-	-	(2.2)	10c後葉以降～11c	I	36	3	
184	7	36	土師器	坏	5トレンチ	3SN04	-	(3.6)	(2.4)	10c後葉以降	I	37	2	
184	8	36	土師器	坏	6トレンチ	-	-	4.8	(1.1)	10c前半	I	38	1	

（２）曲輪（第８次調査）

①第８次調査曲輪の立地と概要

第８次調査対象の曲輪は、兜ヶ崎・打ヶ崎地区の曲輪群のうち、田谷沢道を挟んで南側の字兜ヶ崎に位置する曲輪である。標高98mの丘陵頂上部に位置する曲輪と、その北側に位置する標高88mほどの曲輪、その斜面部に帯状に曲輪を配置する構造である。脇本城跡の南東に位置する城下町から見た様子が兜の形をしていることから、地元では戦国期の兜武者たちの姿と重複させながら伝承の山とみなし、兜ヶ崎の地名由来となったともいわれている。

②検出遺構

第８次調査対象の曲輪では任意の大きさのトレンチ５か所を設定して行った。その結果、総計で竪穴状遺構１基、土坑10基、溝跡10条、柱穴跡18基、焼土遺構２基、整地・盛土跡３か所が検出された。

各トレンチについて

【１・２トレンチ】

概報時には１～３トレンチとして名称が与えられていたが、１トレンチと２トレンチは本報告書では１つのトレンチとした。南側の丘陵頂上部平坦面に南北47m×東西37mで設定した。南西側の斜面部を含めて調査を実施しており、地形等に合わせて行っているため、トレンチの幅は一定ではない。また、遺構の検出状況に合わせて部分的に拡張して調査を実施している。遺構確認面は整地層と地山土であった。

平坦面は広く盛土による整地が確認されている。整地・盛土層内からは12世紀後半の白磁片、土師器等が出土しており、中世前半以降の造成である可能性が高い。また整地・盛土層下からの遺構も確認されており、少なくとも２時期にわたる使用が考えられる。さらに南側丘陵の南側斜面からは盛土が確認され、曲輪造成における切土で生じた土砂を南側斜面に落し、斜面造成を行ったものと考えられる。斜面中腹の盛土層下より８SKP28が土層断面にて確認されているが、斜面の盛土造成に伴う杭の一種と判断される。

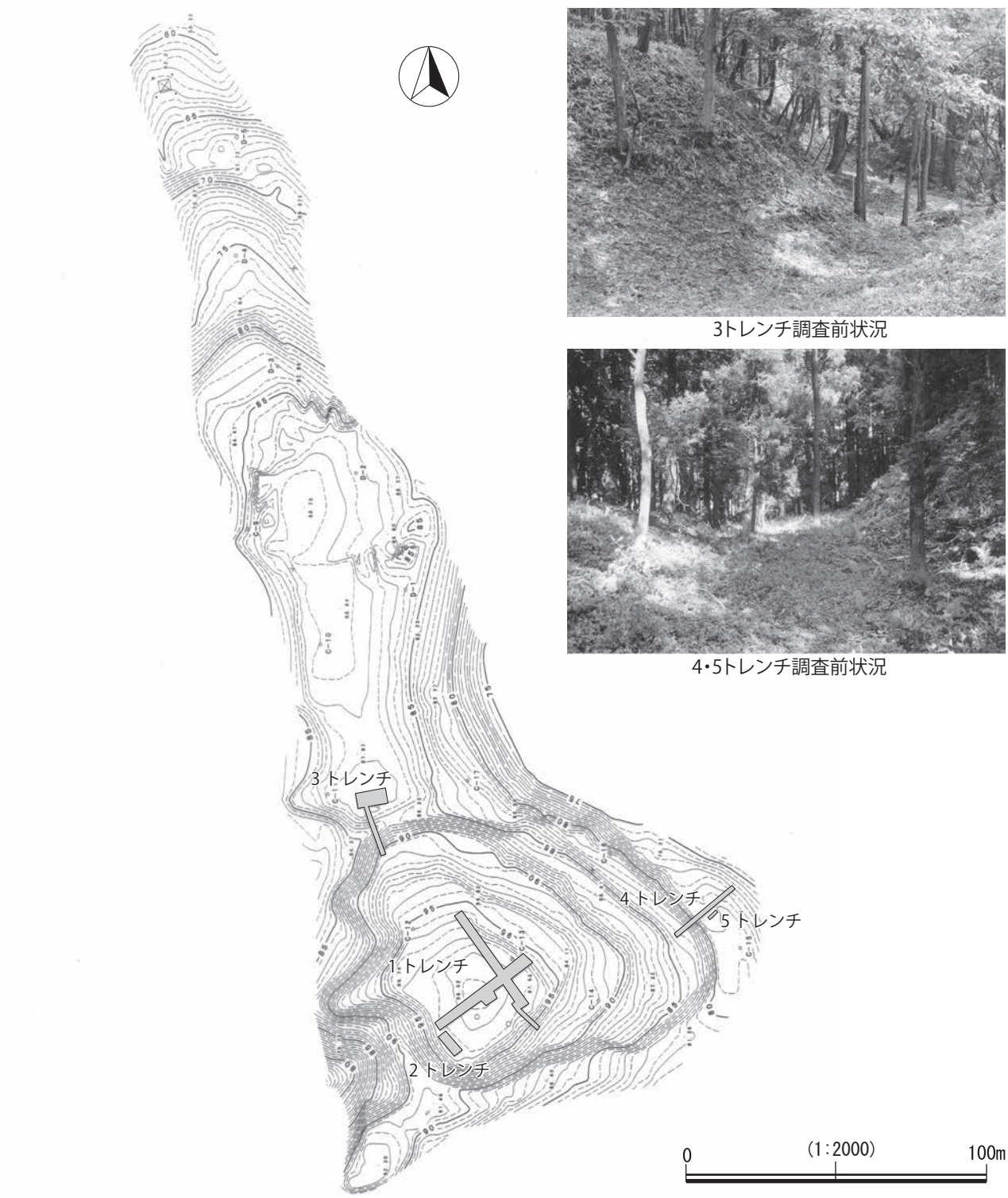
【３トレンチ】

概報時には４・５トレンチとして名称が与えられていたが、本報告書では１つのトレンチとした。３トレンチは北側の丘陵南端部に南北５m×東西10mで設定し、さらに南側丘陵部へ堀状の沢地形を包括して南北17m×東西1.5m拡張して設定した。遺構は地山土を確認面として検出された。斜面部は切土で造成されており、北側丘陵頂上部の曲輪の南端部は盛土による造成が確認された。

さらに、沢上地形の底部より盛土層が確認されており、通路等に便宜上用いられた可能性が高い。遺構として明確に検出することはできなかった。

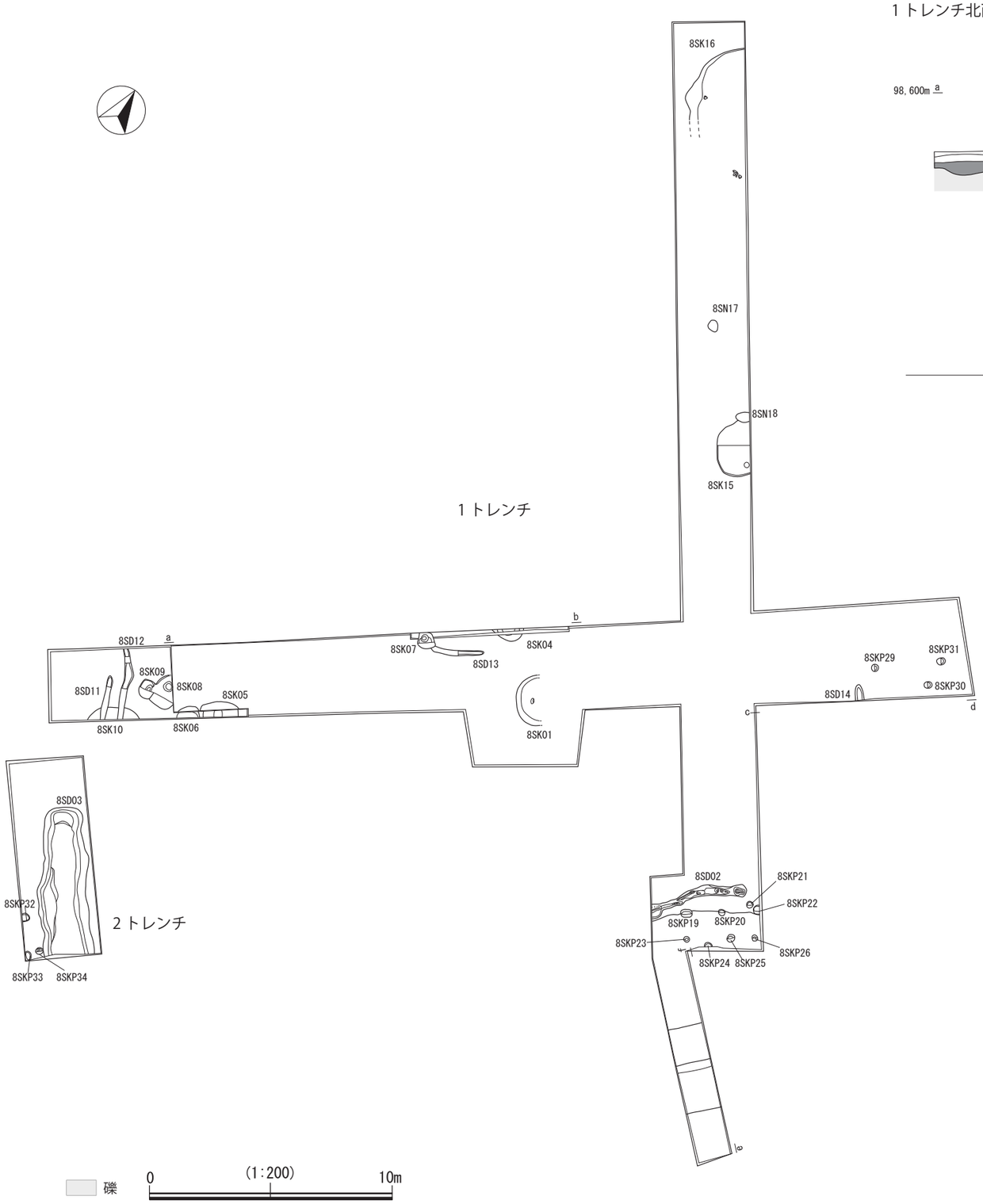
【４・５トレンチ】

概報には６・７トレンチと名称が与えられていたトレンチである。本報告書では１～３トレンチの再編に伴って、トレンチ番号を繰り下げた。４トレンチは南側丘陵の東側に４～５段構築されている帯状の曲輪の内、最下段の曲輪から、斜面の堆積状況及び堀状の沢地形を包括して、南北1.5m×東西25mで設定した。４トレンチで検出された８SD39と８SD40の新旧関係を検証するため、４トレンチと平行

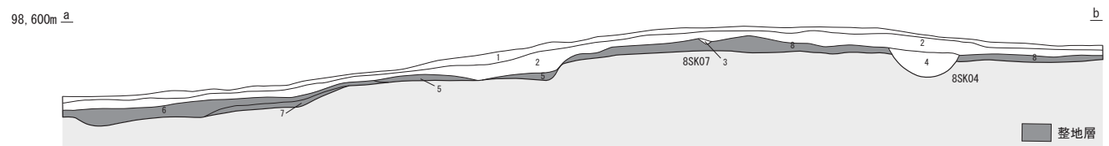


第185図　曲輪（第8次調査）トレンチ配置図

に５トレンチを南北１m×東西3.6mで設定した。層位は不明であるが、８SD39内より土師器とともに検出された炭化物について、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、11 ～ 12世紀頃（補正年代：BP940±400）の年代が示された。



1トレンチ北西側斜面セクション



1トレンチ a-b土層注記
1. 表土
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト しまり強 地山小ブロックを5%含む
3. 暗褐色(10YR3/4) シルト しまりやや強 粘質やや弱 地山少量含む [8SK07]
4. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘質シルト ややしまりあり 地山小ブロックを30%含む [8SK04]
5. 暗褐色(10YR3/4) シルト～粘質土 しまりやや強 炭化物1%含む 地山小ブロックを3%含む [整地層]
6. 暗褐色(10YR3/3) シルト～粘質土 しまり強 地山小ブロックを5%含む [整地層]
7. にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質土 しまり非常に強い 地山小ブロックを3%含む [整地層]
8. にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質土 しまり非常に強 地山小ブロックを3%含む [整地層]

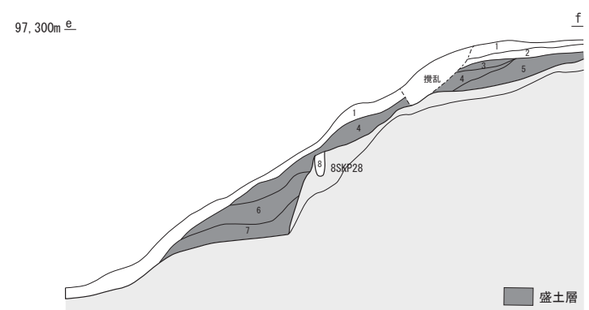
0 (1:100) 4m

1トレンチ南東側斜面セクション

1トレンチ c-d土層注記
1. 表土
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまりあり 炭化物 地山小ブロックを2%含む
3. 黒褐色(10YR3/1) シルト しまりやや弱 地山土小ブロックを20%含む
4. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土 しまり強 [8SD14]

0 (1:100) 4m

1トレンチ南側斜面セクション

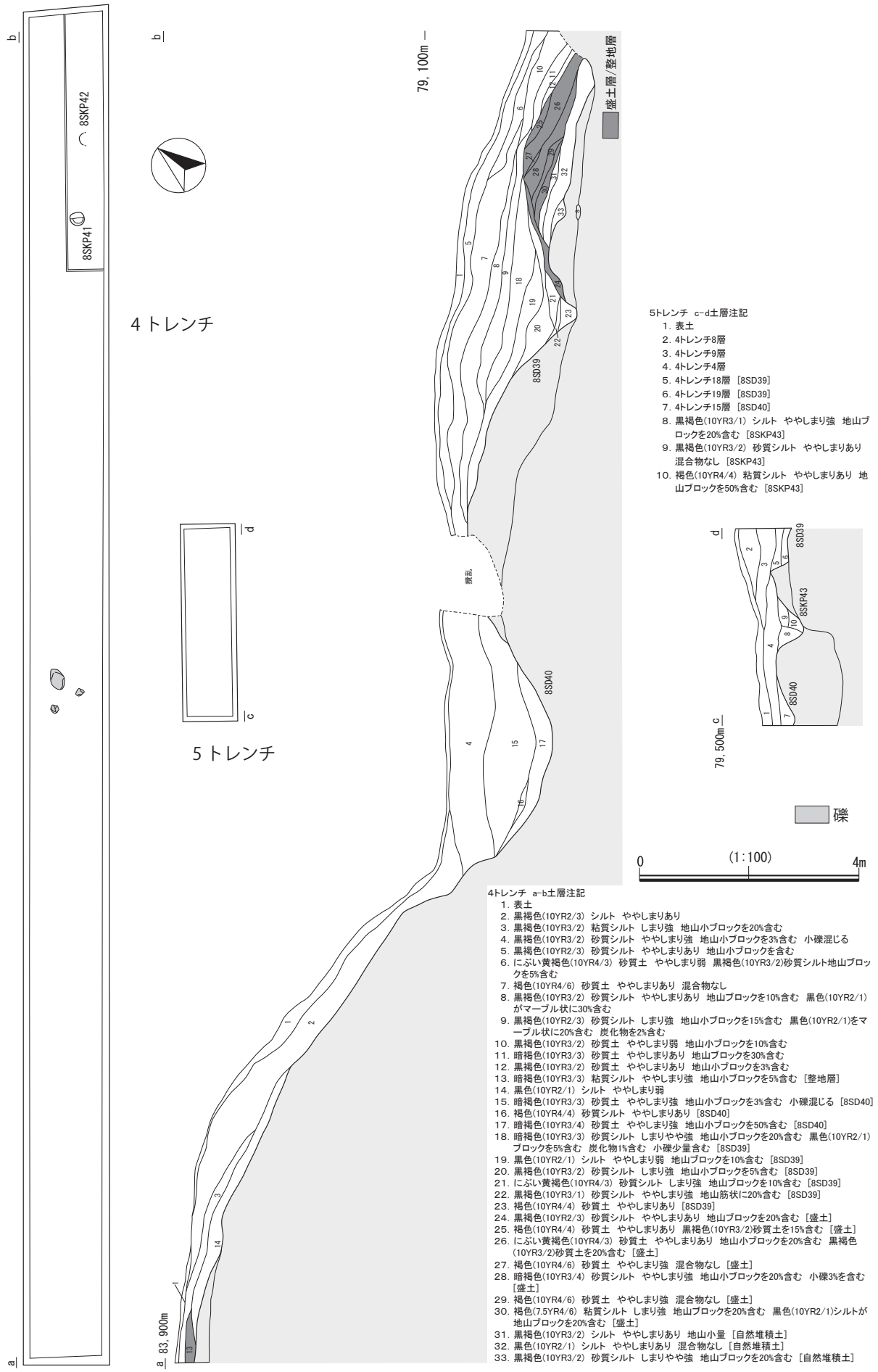


1トレンチ e-f土層注記
1. 表土
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト ややしまりあり 炭化物 地山小ブロックを2%含む
3. にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質シルト ややしまりあり 地山小ブロックを30%含む [盛土]
4. 黒褐色(10YR3/2) シルト しまりやや強 地山土小ブロックを5%含む [盛土]
5. 褐色(10YR4/4) 粘質土 しまり強 地山小ブロックを5%含む [盛土]
6. 黒褐色(10YR3/2) 粘質土 しまり強 炭化物 地山ブロックを3%含む [盛土]
7. 黒褐色(10YR3/1) シルト しまり弱 地山ブロックを20%含む [盛土]
8. 褐色(10YR4/4) 粘質土 しまり強 地山ブロックを30%含む 暗褐色(10YR3/3)を30%含む [8SKP28]

0 (1:100) 4m

第186図 1・2トレンチ平面図・断面図

第187図　３トレンチ平面図・断面図



第188図　4・5トレンチ平面図・断面図

第62表　曲輪（第8次調査）遺構一覧表

■堅穴状遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
8SKI37	第187図	3トレンチ	30	(271)	(208)	土師器小片	II	SKI03	
8SKI37-P1			18	40	25		III	-	

■土坑

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
8SK01	第186図	1トレンチ	62	(207)	(92)	-	II	SK01	整地層上面より検出
8SK04	第186図	1トレンチ	66	(130)	(51)	-	II	SK04	整地層上面より検出
8SK05	第186図	1トレンチ	37	(146)	(67)	-	II	SK05	整地層上面より検出
8SK06	第186図	1トレンチ	55	(89)	(47)	-	II	SK06	整地層上面より検出
8SK07	第186図	1トレンチ	28	70	(66)	-	II	SK07	
8SK08	第186図	1トレンチ	23	(140)	(94)	-	II	SK08	地山面より検出
8SK09	第186図	1トレンチ	30	78	(62)	-	II	SK09	地山面より検出
8SK10	第186図	1トレンチ	-	210	51	-	II	SK10	未調査/地山面より検出
8SK15	第186図	1トレンチ	22	230	140	-	II	SK15	
8SK16	第186図	1トレンチ	13	(249)	-	-	II	SK16	

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
8SD02	第186図	1トレンチ	42	51	-	II	SD02	整地層上面より検出
8SD03	第186図	2トレンチ	32	205	須恵器片（第184図-8） 銭貨（第193図-14）	II	SD03	近世期遺構
8SD11	第186図	1トレンチ	16	20	-	II	SD11	地山面より検出
8SD12	第186図	1トレンチ	13	47	-	II	SD12	地山面より検出
8SD13	第186図	1トレンチ	10	21	-	II	SD13	整地層上面より検出
8SD14	第186図	1トレンチ	9	36	-	II	SD14	地山面より検出
8SD35	第187図	3トレンチ	34	150	土師器片（第192図-6・7）	II	SD01	
8SD36	第187図	3トレンチ	57	128	-	II	SD02	
8SD39	第188図	4・5トレンチ	120	410	-	II	SD01	
8SD40	第188図	4・5トレンチ	120	(440)	-	II	SD02	

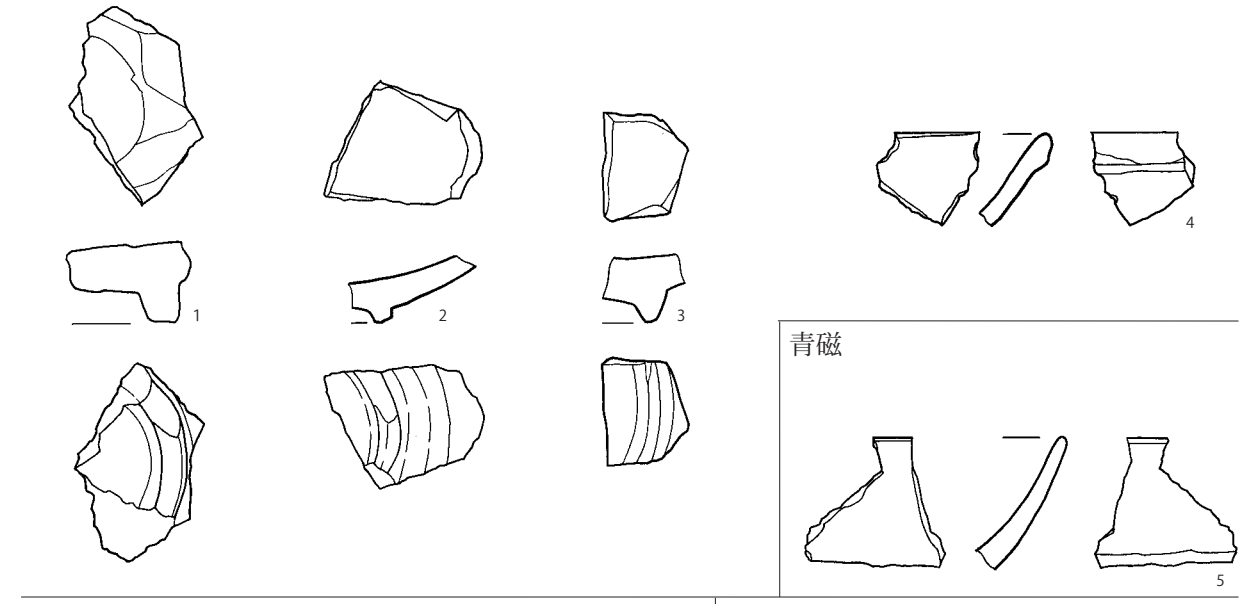
■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)		出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
8SKP19	第186図	1トレンチ	15	45	32	-	II	-	
8SKP20	第186図	1トレンチ	40	29	26	-	II	-	
8SKP21	第186図	1トレンチ	30	26	26	-	II	-	
8SKP22	第186図	1トレンチ	47	38	(25)	-	II	-	
8SKP23	第186図	1トレンチ	17	23	22	-	II	-	
8SKP24	第186図	1トレンチ	19	(32)	-	-	II	-	
8SKP25	第186図	1トレンチ	34	32	30	-	II	-	
8SKP26	第186図	1トレンチ	18	22	21	-	II	-	
8SKP28	第186図	1トレンチ	38	15	-	-	II	-	
8SKP29	第186図	1トレンチ	28	28	28	-	II	-	
8SKP30	第186図	1トレンチ	32	33	27	-	II	-	
8SKP31	第186図	1トレンチ	20	35	29	-	II	-	
8SKP32	第186図	2トレンチ	24	(33)	(30)	-	II	-	
8SKP33	第186図	2トレンチ	67	(40)	(25)	-	II	-	
8SKP34	第186図	2トレンチ	31	29	26	-	II	-	
8SKP41	第187図	3トレンチ	12	25	24	-	II	-	
8SKP42	第187図	3トレンチ	-	(25)	-	-	II	-	未調査
8SKP43	第186図	5トレンチ	40	95	-	-	II	-	

■焼土遺構

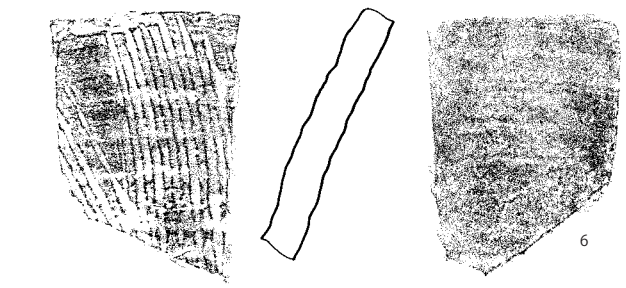
遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
8SN17	第186図	1トレンチ	-	49	40	-	II	SN17	未調査
8SN18	第186図	1トレンチ	-	(60)	41	-	II	SN18	未調査

白磁

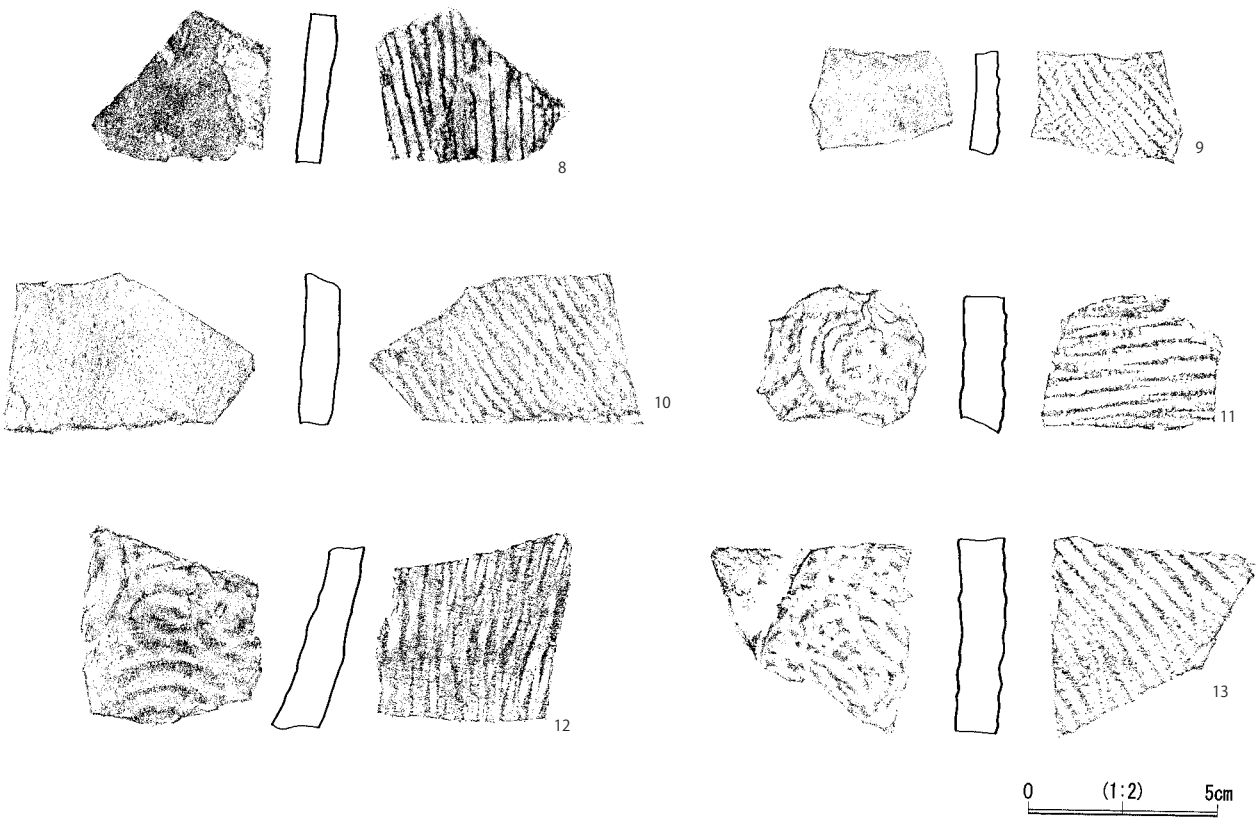


青磁

珠洲系

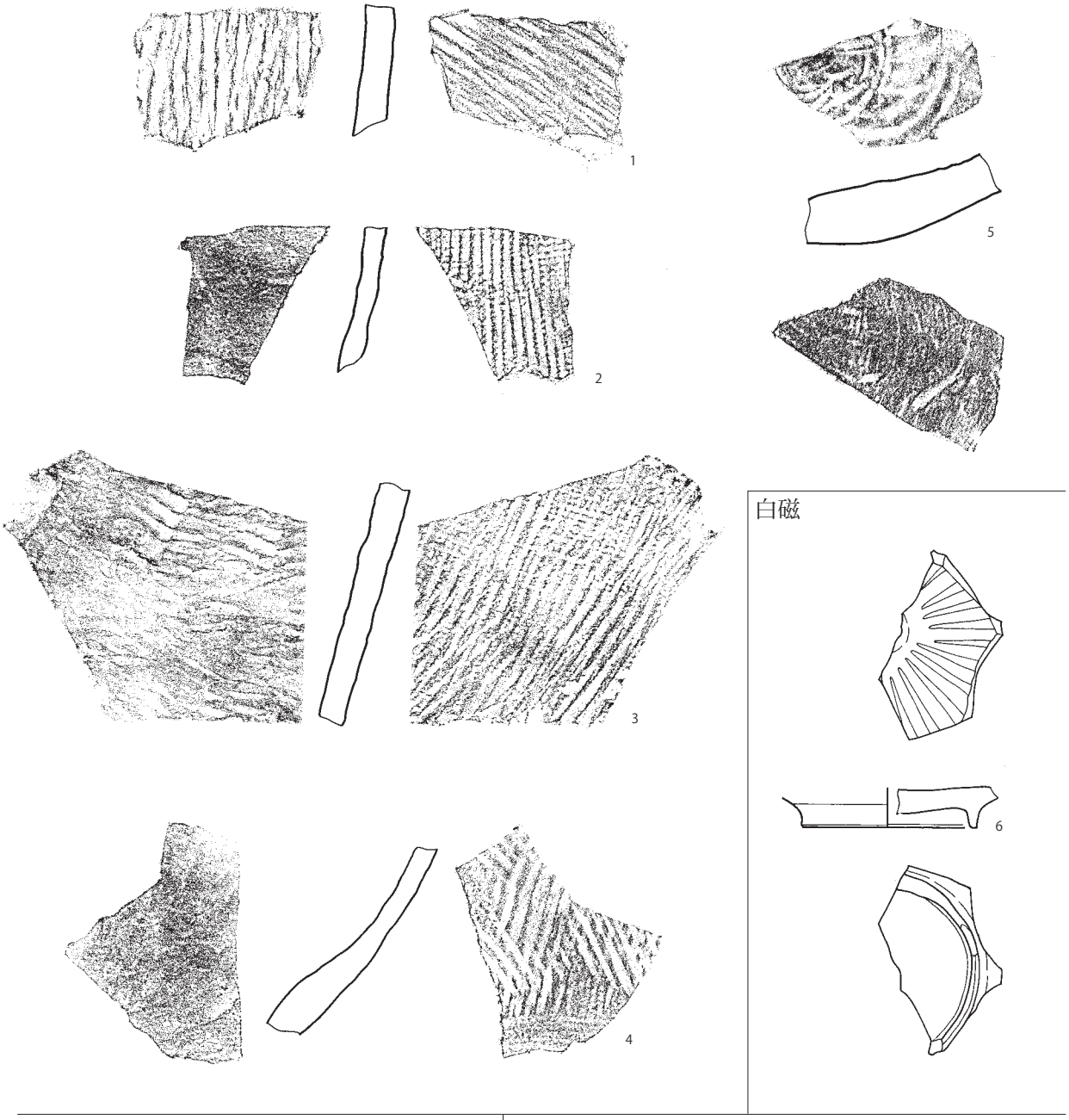


須恵器



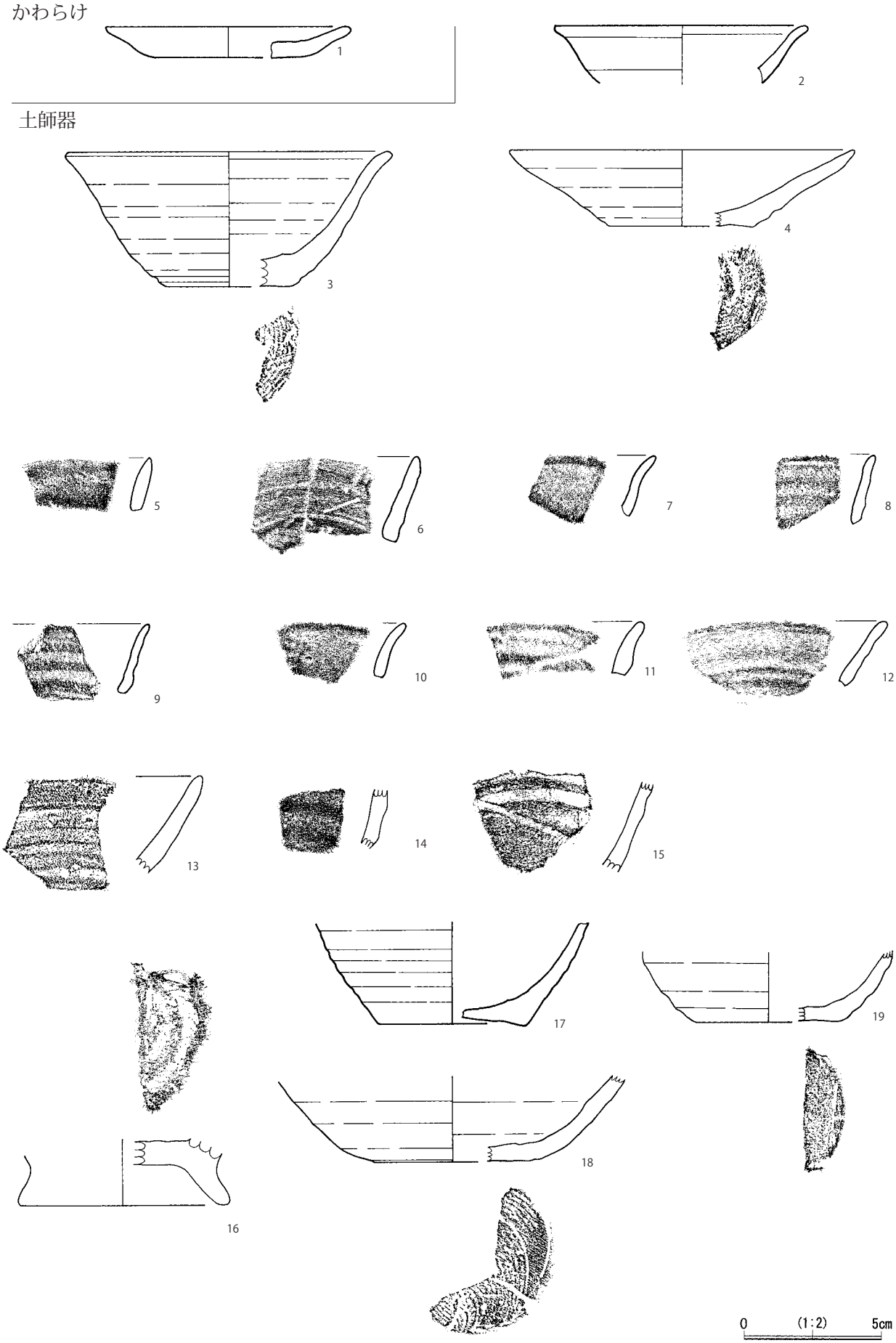
第189図　曲輪（第8次調査）出土遺物①

須恵器



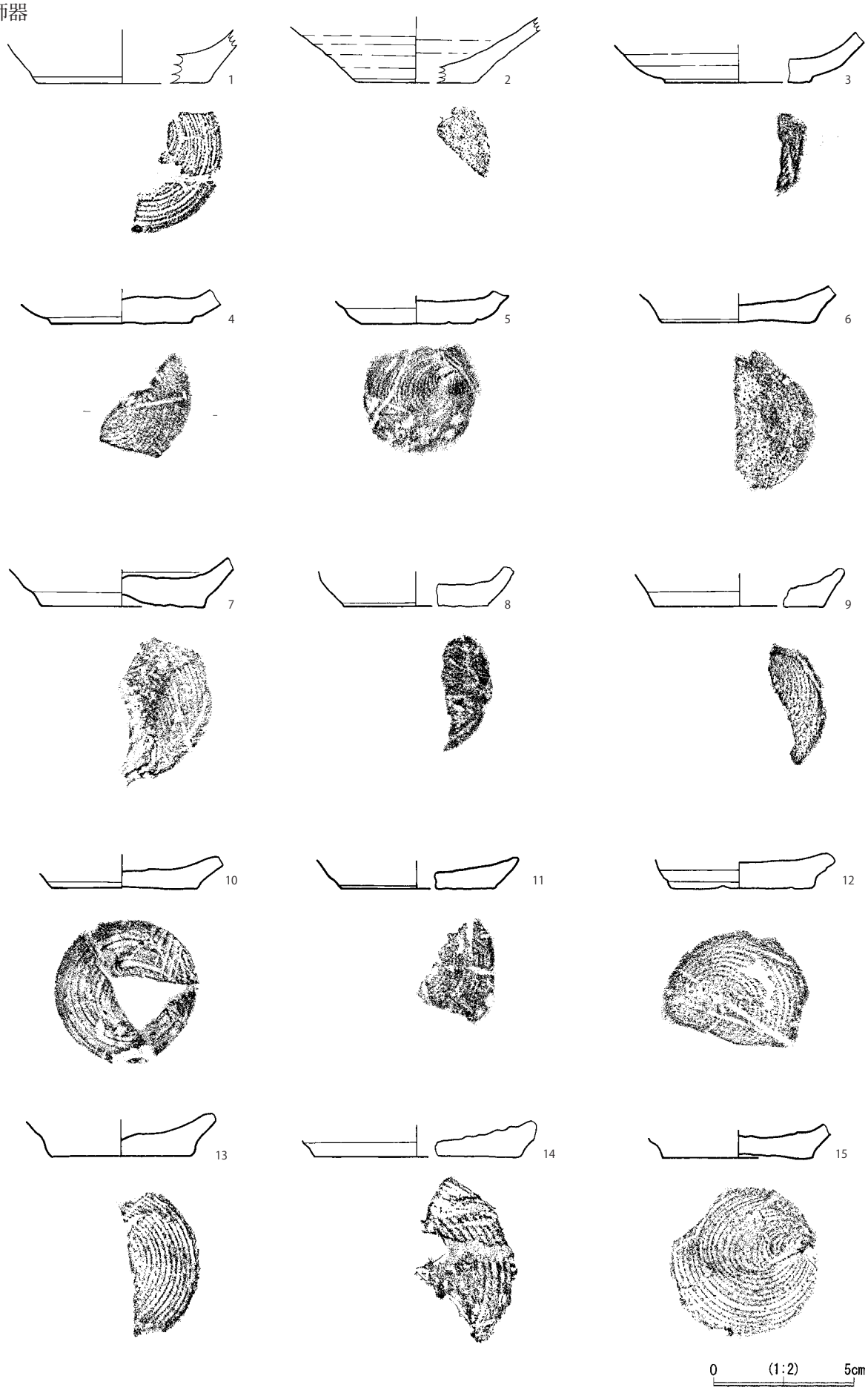
第190図　曲輪（第8次調査）出土遺物②

かわらけ



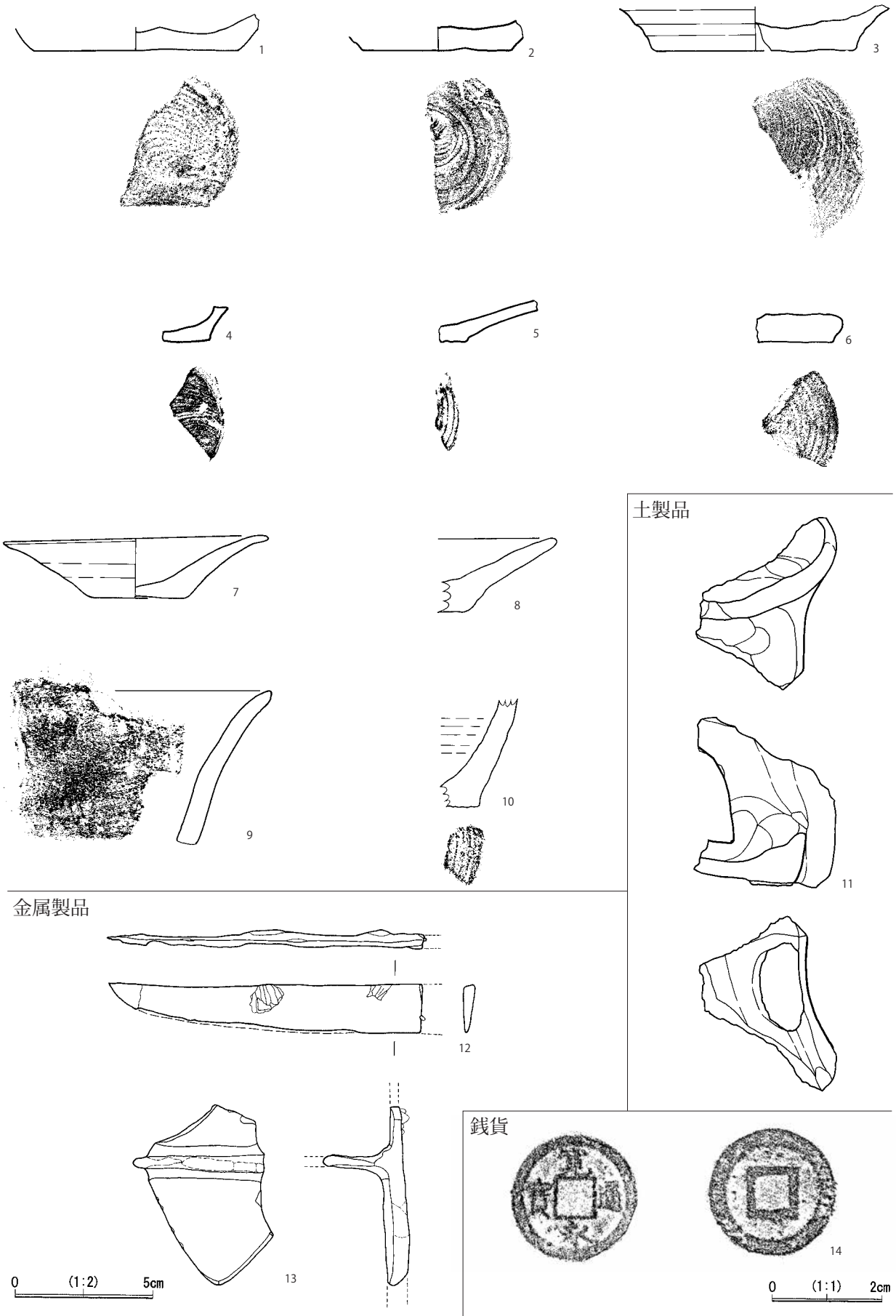
第191図　曲輪（第8次調査）出土遺物③

土師器



第192図　曲輪（第8次調査）出土遺物④

土師器



第193図　曲輪（第8次調査）出土遺物⑤

第63表　曲輪（第8次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
9	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	54	2	0	1	1009	51	18	0	1	7	15	鉄滓

８SKI37竪穴状遺構　(第187図)

３トレンチ南西隅で地山土を確認面として検出された。確認された幅は長径271cm、短径208cmである。隅丸方形を呈すると考えられ、中心部より深さ18cmの柱穴が確認された。

８SD39・40溝跡　(第188図)

４・５トレンチで地山土を確認面として検出された。８SD39は幅410cm、深さ120cmで底面はやや傾斜の緩い薬研堀状を呈し、８SD40は幅440cm（残存幅）、深さ120cmで底面は丸みを帯びた箱堀状を呈する。概報では空堀として報告されている（男鹿市教育委員会2003）が、ここでは溝跡として掲載している。さらに、本遺構は断面での確認のみで、平面では確認できなかった。そのため、平面図上には示されていない。また、８SD39の東側には土塁状の盛土が確認されており、８SD39は土塁状の遺構と一連の遺構と推察される。遺構確認面まで約100cmにわたる堆積が確認されるのは、上段の丘陵部分からの崩落や、耕作の影響が大きいと判断される。

③ 出土遺物（第189 ～ 193図）

遺物は1,171点出土している。点数は接合後の破片数である。その内、土師器の小片が1,009点とほとんどを占める。土師器は９世紀後半代のもの、11世紀代のものがわずかにみられるものの、法量が小型化する皿や坏類が多くみられ、10世紀前半から後半代を主体とする。中世陶磁器もわずかに出土するものの小片である。12世紀後半から13世紀前半代のかわらけ、口縁部が玉縁状になる12世紀後半代の白磁が出土している。

第64表　曲輪（第8次調査）出土遺物観察表

■陶磁器・土器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
189	1	37	白磁	碗	4トレンチ	-	-	-	(2.1)	-	II	22	7	
189	2	37	白磁	碗	4トレンチ	-	-	-	(1.8)	-	II	22	6	
189	3	37	白磁	碗	1トレンチ	-	-	-	(1.8)	12c後半	II	14	12	
189	4	37	白磁	碗	1トレンチ	-	-	-	(2.4)	12c後半	II	14	11	
189	5	37	青磁	碗	4トレンチ	-	-	-	(3.5)	-	II	22	5	被熱
189	6	37	珠洲系	すり鉢	4トレンチ	-	-	-	(6.6)	-	II	22	4	
189	7	37	須恵器	甕	1トレンチ	-	-	-	(6.2)	-	II	8	2	
189	8	37	須恵器	甕	2トレンチ	8SD03	-	-	(3.9)	-	II	13	1	
189	9	37	須恵器	甕	1トレンチ	-	-	-	(2.7)	-	II	14	5	
189	10	37	須恵器	甕	1トレンチ	-	-	-	(4.0)	-	II	14	6	
189	11	37	須恵器	甕	1トレンチ	-	-	-	(3.6)	-	II	14	7	
189	12	37	須恵器	甕	1トレンチ	-	-	-	(4.8)	-	II	14	8	
189	13	37	須恵器	甕	1トレンチ	-	-	-	(5.2)	-	II	14	9	
190	1	37	須恵器	甕	3トレンチ	-	-	-	(4.1)	-	II	18	7	
190	2	37	須恵器	甕	3トレンチ	-	-	-	(4.5)	-	II	18	8	
190	3	37	須恵器	甕	3トレンチ	-	-	-	(7.4)	-	II	18	9	
190	4	37	須恵器	甕	4トレンチ	-	-	-	(5.6)	-	II	22	3	
190	5	37	須恵器	甕	1トレンチ	-	-	-	(2.7)	-	II	14	10	
190	6	37	白磁	皿	4トレンチ	-	-	-	(1.2)	近世	II	22	9	国産磁器
190	7	37	染付	皿	4トレンチ	-	-	-	(2.0)	近世	II	22	8	国産磁器
190	8	37	瓷器系	灯盞式受付皿	1トレンチ	-	(8.1)	-	(5.1)	近世	II	14	13	灯火具
191	1	37	かわらけ	皿	1トレンチ	8SD02	(9.0)	(6.2)	1.1	12c末～13c前	II	8	1	手づくね
191	2	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	(9.3)	(2.1)	10c前	II	18	10	
191	3	37	土師器	坏	3トレンチ	-	12.0	4.6	4.9	10c後～	-	-	-	
191	4	37	土師器	坏	4トレンチ	-	(12.6)	(5.2)	2.8	10c後～11c	-	-	-	
191	5	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	-	(1.8)	10c代	II	17	2	
191	6	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	-	(3.0)	10c代	II	17	3	
191	7	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	-	(2.2)	10c代	II	17	4	
191	8	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	-	(2.5)	10c代	II	17	5	
191	9	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	-	(2.5)	10c代	II	17	6	
191	10	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	-	(2.0)	10c代	II	17	7	
191	11	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	-	(1.8)	10c代	II	17	8	
191	12	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	-	(2.3)	10c代	II	17	9	
191	13	37	土師器	坏	1トレンチ	-	-	-	(3.5)	10c後～	-	-	-	
191	14	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	-	(2.2)	10c代	II	17	1	
191	15	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	-	(3.1)	10c代	II	17	10	
191	16	37	土師器	高台坏	3トレンチ	-	-	(7.8)	(2.4)	10c前	II	18	6	
191	17	37	土師器	坏	4トレンチ	-	-	(5.4)	(3.7)	10c中～	II	22	1	
191	18	37	土師器	坏	1トレンチ	-	-	(5.8)	(3.0)	10c後～	-	-	-	
191	19	37	土師器	坏	1トレンチ	-	(9.1)	(5.2)	(2.6)	10c前	II	14	1	
192	1	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	(6.0)	(1.4)	10c後～11c	-	-	-	
192	2	37	土師器	坏	4トレンチ	-	-	(4.2)	(1.9)	10c後～11c	-	-	-	
192	3	37	土師器	坏	1トレンチ	-	-	(5.2)	(1.7)	10c中～	II	14	2	
192	4	37	土師器	坏	1トレンチ	-	-	(5.0)	(1.1)	10c中～	II	14	3	
192	5	37	土師器	坏	1トレンチ	-	-	4.3	(1.1)	10c代	II	14	4	
192	6	37	土師器	坏	3トレンチ	8SD35	-	(5.2)	(1.4)	10c代	II	15	1	
192	7	37	土師器	坏	3トレンチ	8SD35	-	(5.8)	(1.8)	10c代	II	15	2	
192	8	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	(5.2)	(1.4)	10c代	II	17	15	
192	9	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	(6.0)	(1.3)	10c代	II	17	16	
192	10	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	5.2	(1.2)	10c前	II	17	17	
192	11	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	(5.4)	(1.2)	10c代	II	17	18	
192	12	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	5.2	(1.2)	10c前	II	18	1	
192	13	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	(5.0)	(1.5)	10c前	II	18	2	
192	14	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	(7.4)	(1.2)	10c前	II	18	3	
192	15	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	5.4	(1.2)	10c前	II	18	4	
193	1	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	(7.4)	(1.3)	10c前	II	18	5	
193	2	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	(5.4)	(1.0)	10c前	II	18	11	
193	3	37	土師器	坏	4トレンチ	-	-	(7.2)	(1.6)	10c代	II	22	2	
193	4	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	-	(1.2)	10c代	II	17	12	
193	5	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	-	(1.6)	10c代	II	17	13	
193	6	37	土師器	坏	3トレンチ	-	-	-	(1.0)	10c代	II	17	14	
193	7	37	土師器	皿	4トレンチ	-	9.7	3.5	2.3	10c後～	-	-	-	
193	8	37	土師器	皿	5トレンチ	-	-	-	2.7	10c後	-	-	-	
193	9	37	土師器	甕	4トレンチ	-	-	-	(5.5)	10c代	II	17	11	
193	10	37	土師器	甕	4トレンチ	-	-	-	(3.9)	10c代	-	-	-	

■土製品・金属製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
193	11	37	土製品	風炉	5トレンチ	-	-	-	(6.2)	-	II	22	10	
193	12	37	金属製品	刀子	1トレンチ	-	(11.5)	1.8	0.6	-	-	-	-	
193	13	37	金属製品	羽釜	1トレンチ	-	高さ(6.5)	(4.8)	(2.9)	-	-	-	-	
193	14	37	銭貨	-	2トレンチ	8SD03	-	-	2.3	-	II	13	2	寛永通宝

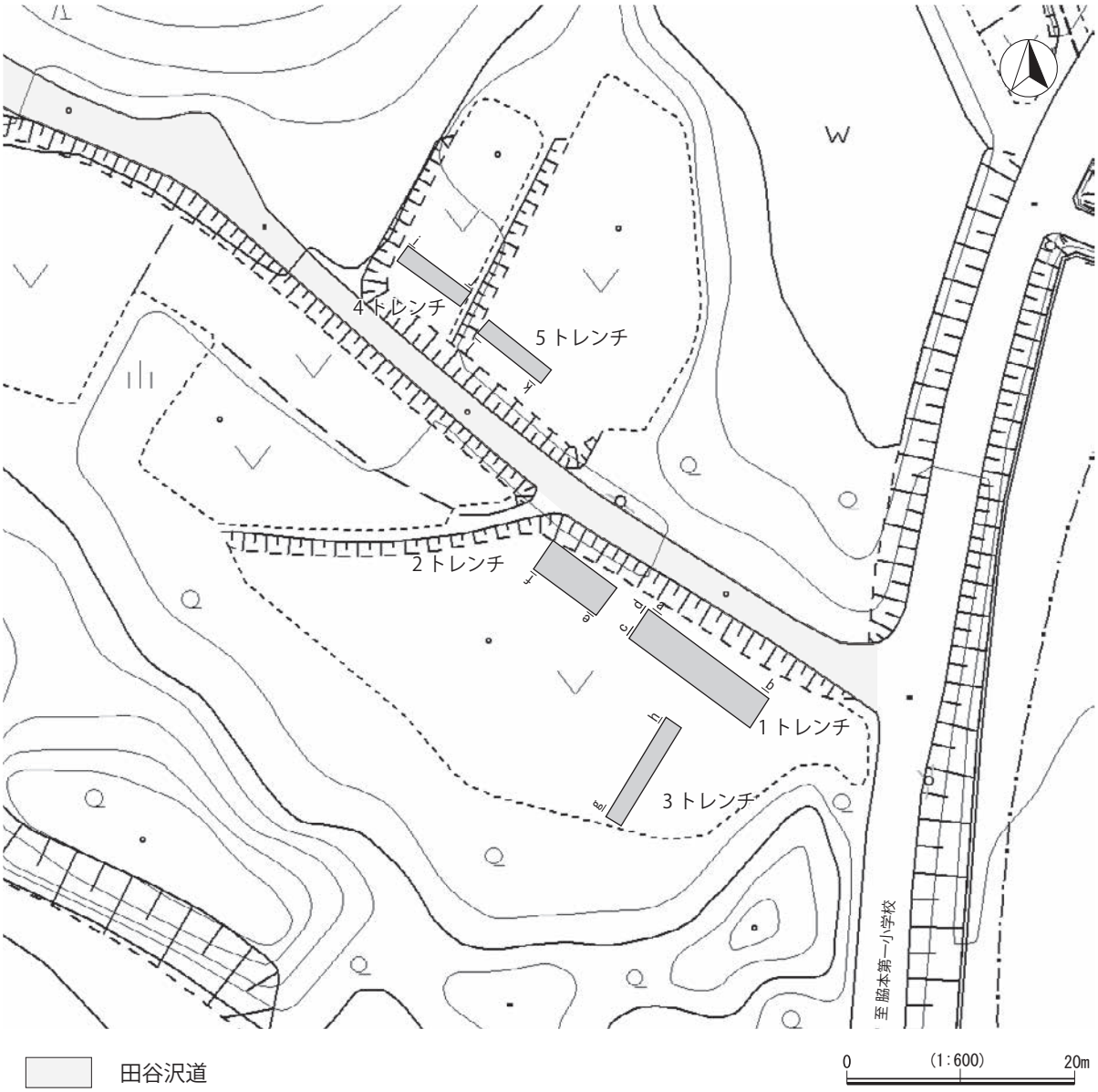
（３）田谷沢道（第７次調査）

①第７次調査田谷沢道の立地と概要

第７次調査対象の田谷沢道は、兜ヶ崎・打ヶ崎地区の中央部を通り、挟間田の低地を経由して、乍木地区へ向かう道路跡である。兜ヶ崎・打ヶ崎地区に残る田谷沢道は切通し状に良好な道路跡が残っており、その東側口部を調査対象とした。調査対象地周辺は現行の畑地が造成されており、開けた様相を呈している。

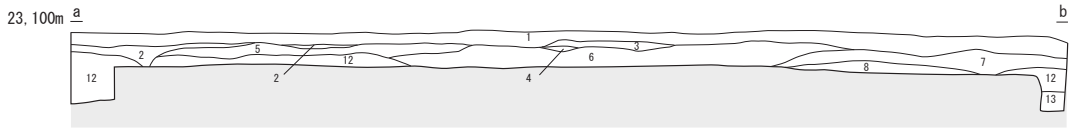
②検出遺構

第７次調査対象の田谷沢道では任意の大きさのトレンチ５か所を設定して行った。その結果、遺構は検出されなかったが４・５トレンチで盛土跡が出された。

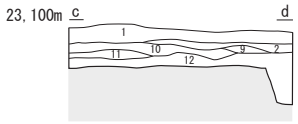


第194図　田谷沢道（第7次調査）トレンチ配置図

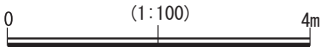
１トレンチ北東側セクション



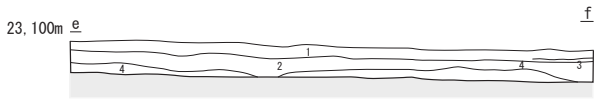
１トレンチ北西側セクション



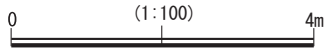
1トレンチ　a-b/c-d土層注記
1. 褐色(10YR3/3) 砂質土　ややしまりあり［表土］
2. 暗褐色(10YR3/4) 砂質土　ややしまり強　小礫多い　地山土ブロック状に20%　炭化物5%含む
3. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　ややしまり強
4. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　しまり弱　小礫多い
5. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　しまり強　炭化物2%含む
6. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　ややしまり強　小礫少量含む
7. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　ややしまりあり　地山土ブロック状に20%含む
8. 黒褐色(10YR2/3) 砂質土　ややしまり強　炭化物少量含む
9. 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1) 砂質土　しまり強　グライ化した土
10. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　しまり強　炭化物2%含む
11. 黒褐色(10YR2/2) 砂質土　ややしまり強　炭化物少量含む
12. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　ややしまり強　小礫少量含む
13. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　ややしまり強　水分多い　小礫やや多く含む



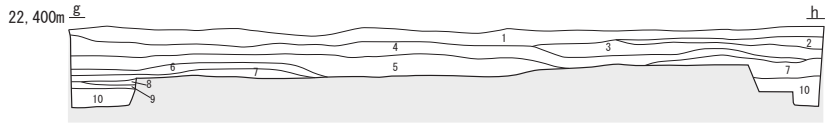
２トレンチ南西側セクション

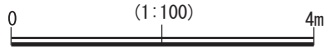


2トレンチ　e-f土層注記
1. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　しまり弱［表土］
2. 暗褐色(10YR3/4) 砂質土　ややしまりあり［耕作土］
3. 褐色(10YR4/4) 砂質土　ややしまりあり　暗褐色砂(10YR3/3)筋状に50%含む
4. 黒褐色(10YR2/3) 砂質土　ややしまり強　小礫小量含む



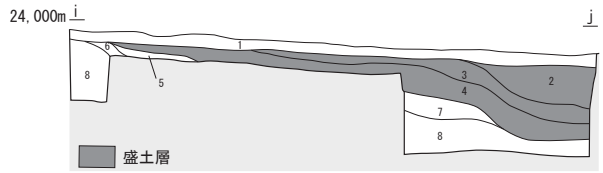
３トレンチ北西側セクション

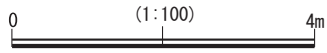




3トレンチ　g-h土層注記
1. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　しまり弱［表土］
2. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　ややしまり強　地山土小ブロック20%含む
3. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　ややしまりあり　地山土小ブロック5%含む
4. 暗褐色(10YR3/4) シルト　ややしまり強　褐色(10YR4/4)20%　炭化物少量含む
5. 黒褐色(10YR2/3) シルト　しまりやや強　地山土ブロック状に5%　炭化物少量含む
6. 黒褐色(10YR2/3) シルト　ややしまりあり　地山土ブロック状に30%含む
7. 黒褐色(10YR3/2) シルト　ややしまり弱　地山土ブロック状に20%含む
8. 黒褐色(10YR3/1) 粘質土　ややしまりあり　地山土筋状に10%含む
9. 暗褐色(10YR3/4) 砂質土　ややしまり弱
10. 暗褐色(10YR3/3) シルト　ややしまり弱

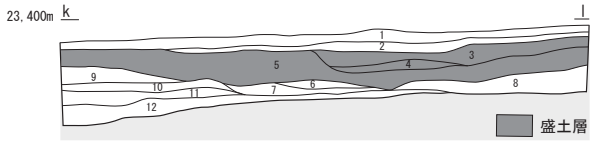
４トレンチ北東側セクション

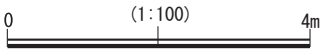




4トレンチ　i-j土層注記
1. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　しまり弱［表土］
2. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　ややしまりあり　小礫少量含む　褐色(10YR4/4)ブロック状に50%含む［盛土］
3. 黒褐色(10YR2/3) 砂質土　ややしまりあり　褐色(10YR4/4)　ブロック状に20%含む［盛土］
4. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　ややしまり強　褐色(10YR4/4)ブロック状に10%含む［盛土］
5. 褐色(10YR4/4) 砂質土　ややしまり弱　暗褐色(10YR3/3)斑状に20%含む
6. 黒褐色(10YR2/3) 砂質土　ややしまりあり　地山土筋状に20%含む
7. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　ややしまり強　地山土筋状に5%含む
8. 暗褐色(10YR3/4) 砂質土　ややしまりあり　地山土筋状に30%含む

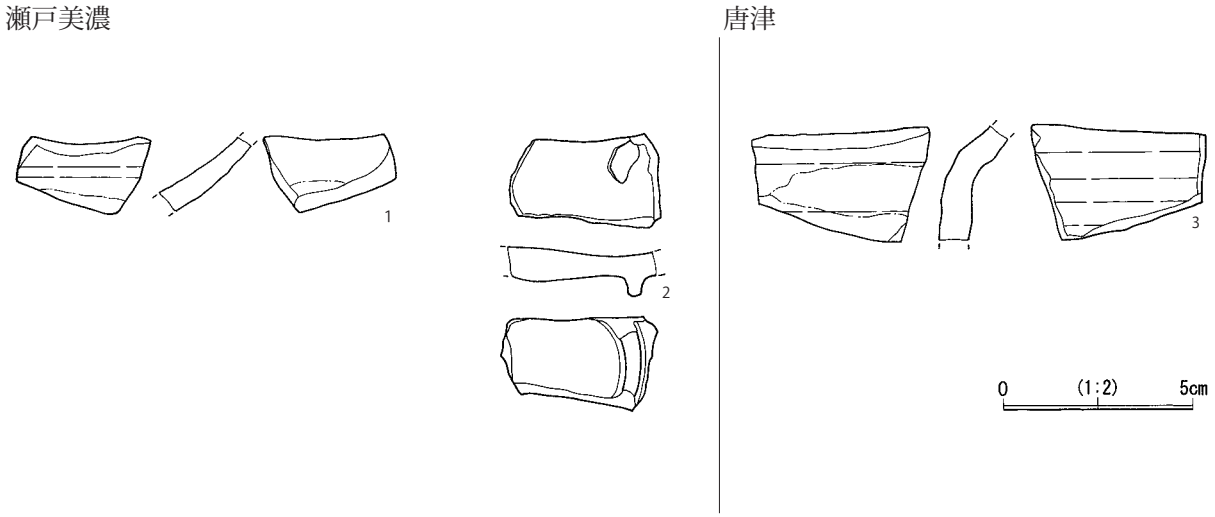
５トレンチ南西側セクション





5トレンチ　k-l土層注記
1. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　しまり弱［表土］
2. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　ややしまりあり
3. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　ややしまりあり　地山土ブロック状に20%含む［盛土］
4. 暗褐色(10YR3/4) 砂質土　ややしまり弱　地山土30%　暗褐色(10YR3/3)ブロック状に含む［盛土］
5. 黒褐色(10YR2/3) 砂質土　ややしまりあり　小礫少量含む［盛土］
6. 褐色(10YR4/4) 砂質土　ややしまり弱　暗褐色(10YR3/3)30%含む
7. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　ややしまり弱　地山土筋状に20%含む
8. 暗褐色(10YR3/4) 砂質土　しまり弱　暗褐色(10YR3/3)筋状に20%含む
9. 暗褐色(10YR3/4) 砂質土　ややしまりあり　小礫少量　地山土ブロック状に10%含む
10. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　しまりやや弱　小礫　炭化物少量含む
11. 褐色(10YR4/4) 砂質土　地山土ブロック状に50%　黒褐色(10YR3/2)筋状で20%含む
12. 褐色(10YR4/4) 砂質土　しまりやや強　暗褐色(10YR3/3)筋状に30%含む

第195図　１～５トレンチ断面図



第196図　田谷沢道（第7次調査）出土遺物

第65表　田谷沢道（第7次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
1	0	2	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	265	0	4	0	4	0	0	0	0	4	37	0

第66表　田谷沢道（第7次調査）出土遺物観察表

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
196	1	36	瀬戸美濃	皿	1トレンチ	-	-	-	(1.9)	-	I	47	1	
196	2	36	瀬戸美濃	皿	3トレンチ	-	-	-	(1.2)	-	I	47	2	
196	3	36	唐津	甕	5トレンチ	-	-	-	(3.0)	-	I	47	3	

各トレンチについて

【１～３トレンチ】

田谷沢道東側口の入り口部の南側畑地に、１トレンチは南北３m×東西15m、２トレンチは南北３m×東西７m、３トレンチは南北10m×東西1.5mで設定した。いずれのトレンチも遺構確認面は地山土であった。上層部は耕作による影響が大きく、近現代の陶磁器や釘等の金属製品が多量に出土した。

【４・５トレンチ】

田谷沢道東側口の入り口部の北側畑地に、４トレンチは南北1.5m×東西７m、５トレンチも南北1.5m×東西７mで設定した。４・５トレンチからはいずれも検出された。盛土上面及び盛土下層の堆積土で遺構確認を行った。

③ 出土遺物

遺物は323点出土している。点数は接合後の破片数である。そのほとんどが近現代に位置づけられる陶磁器類であり、中世期の陶磁器は白磁、染付、瀬戸美濃が数点しか出土しなかった。

第４節　乍木地区

１　調査の目的と経緯

乍木地区は脇本城跡北西部に位置し、曲輪群や井戸跡、道路跡（田谷沢道）が残されている。曲輪の配置構造は兜ヶ崎・打ヶ崎地区と同様で、小規模な丘陵の頂上部を平坦に曲輪とし、その斜面部に帯状に曲輪を配置する。戦国期脇本城跡における本地区の機能や、曲輪内における建物跡や防御施設等の構造を把握すること、城跡造作の具体的方法を探ること、本地区の具体的な年代を探ることを目的に３次に渉る確認調査が行われている。

２　乍木地区の立地と現況

乍木地区は脇本城跡北西部に位置し、67m～82mほどの小規模な丘陵頂上部に曲輪を造成する。小字は乍木・大沢からなり、乍木の小字名をもって地区名を仮称している。挟間田の低地を挟んだ南東部に位置する乍木地区とは、曲輪の構造が非常に似ており、田谷沢道沿いであるという点から深い関連性が考えられる。

田谷沢道を挟んで、北側に標高67mの丘陵頂上部を造成した曲輪、南側に標高82mの丘陵頂部を造成した曲輪があり、その尾根筋にもそれぞれ複数の曲輪が確認されるとともに、斜面部に帯状に曲輪を配置する。

しかし、過去の航空写真と比較すると、山塊の北側が土砂採取等により消滅し、さらに田谷沢道北側の丘陵は昭和40年代まで畑地として利用されていたことが明らかであり、その後の植林も影響し、大きく攪乱が及んでいるものと推測される。

田谷沢道については前節で詳述したため省略するが、田谷沢道西側口に田谷沢集落があり、脇本城主脇本五郎脩季の菩提寺と伝えられてきた桂源寺が所在する。しかし、近世期に衰退し、位牌や本寺の地位も鵜木永源寺に移動した。そのため田谷沢集落内の十王堂と合体して存続しており、往時の所在地は未詳である。田谷沢道沿いの畑地転用や戦後の植林活動による地形改変の様相を観察することができるものの、要所要所に城郭機能時の痕跡を維持したと考えられる遺構が遺存している。

３　基本層序

乍木地区では、一部廃城以後の土地利用の痕跡の可能性もあるが、城館の普請に伴って、丘陵の自然地形を大きく改変している。特に田谷沢道の北側丘陵では一部に遺構確認面までの堆積が非常に厚い地点もあり、畑地転用による耕作の影響が大きいものと考えられる。乍木地区では標高の比較的高い調査地点である、第２次調査１トレンチ、第４次調査13トレンチでの層序を基本層序として捉える。

概ね上層からⅠ層：表土、Ⅱ層：堆積土、Ⅲ層：整地・盛土層、Ⅳ層：自然堆積土、Ⅴ層：地山土となる。Ⅰ、Ⅱ層は廃城以後の堆積層である。本地区では、出土遺物が非常に少ないが、兜ヶ崎・打ヶ崎地区や他地区の所見を加味して、Ⅲ層が古代及び中世の脇本城跡に直接関与する層であると考えられる。Ⅳ層は脇本城跡造成以前の堆積層である。整地・盛土層は複数層に区分されるが、基本層状では１層として捉える。

遺構は主にⅢ層上面、Ⅳ層上面、Ⅴ層上面にて検出される。

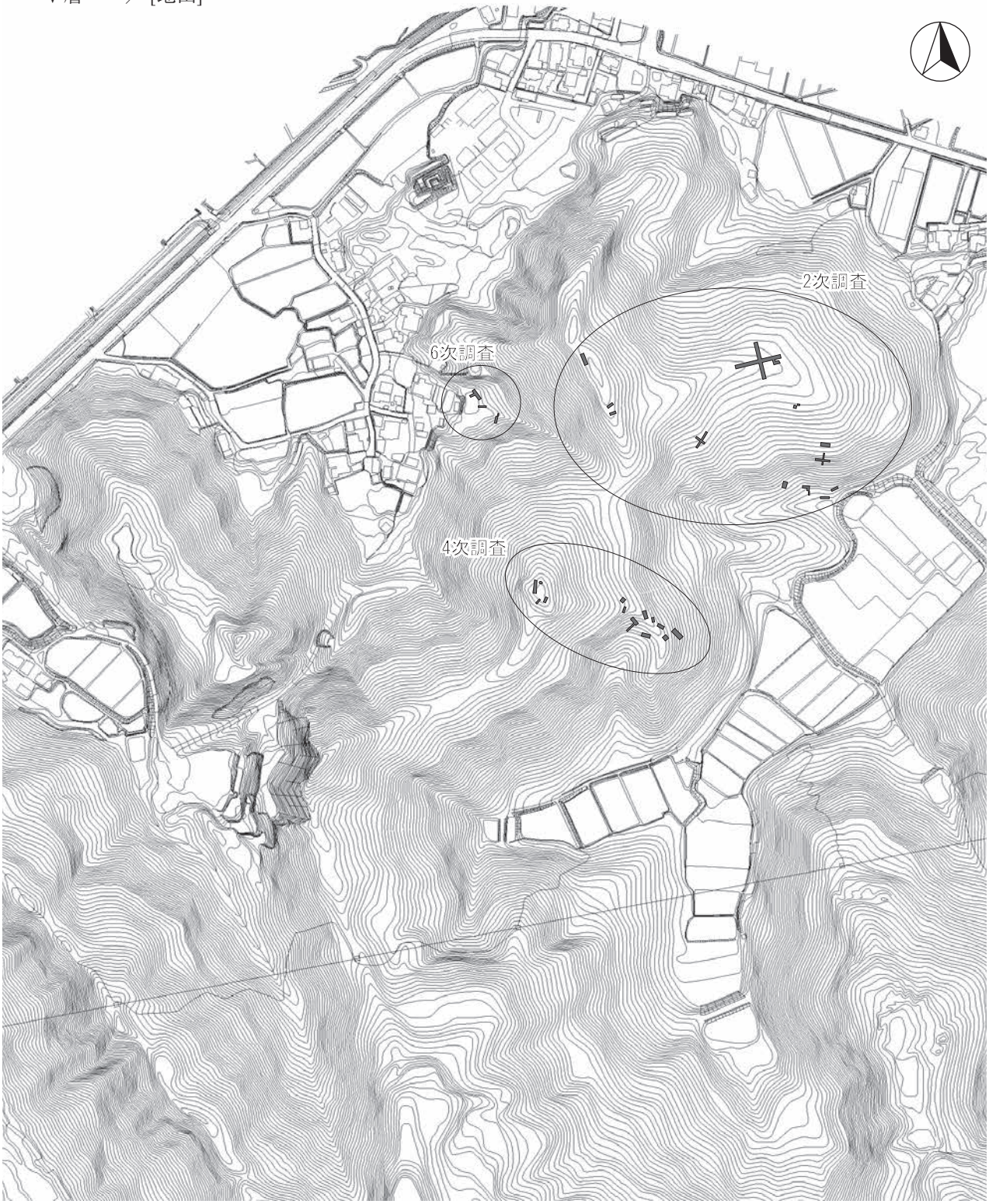
Ⅰ層：層厚10cm ／黒褐色の砂質土／近現代 [表土]

Ⅱ層：層厚10 ～ 50cm ／暗褐色のシルト質土／近現代 [耕作土]

Ⅲ層：層厚10 ～ 20cm ／黒褐色の砂質土／古代以降 [整地層]

Ⅳ層：層厚10 ～ 40cm ／黒褐色の砂質土／古代以前 [自然堆積土]

Ⅴ層：－／ [地山]



第197図　乍木地区調査区配置図

0　(1:5000)　200m

４　遺構と遺物

（１）曲輪（第２次調査）

①第２次調査曲輪の立地と概要

第２次調査対象は、乍木地区の曲輪群のうち、田谷沢道を挟んで北側の丘陵に位置する曲輪である。最高所での標高は約67mであり、小規模な丘陵の頂上部を平坦に造成し、その斜面部に帯状に曲輪を配置する構造である。

②検出遺構

第２次調査対象の曲輪では任意の大きさのトレンチ14か所を設定して行った。その結果、総計で溝跡５条、土坑２基、柱穴跡21基、整地・盛土跡５か所が検出された。

各トレンチについて

【１・２トレンチ】

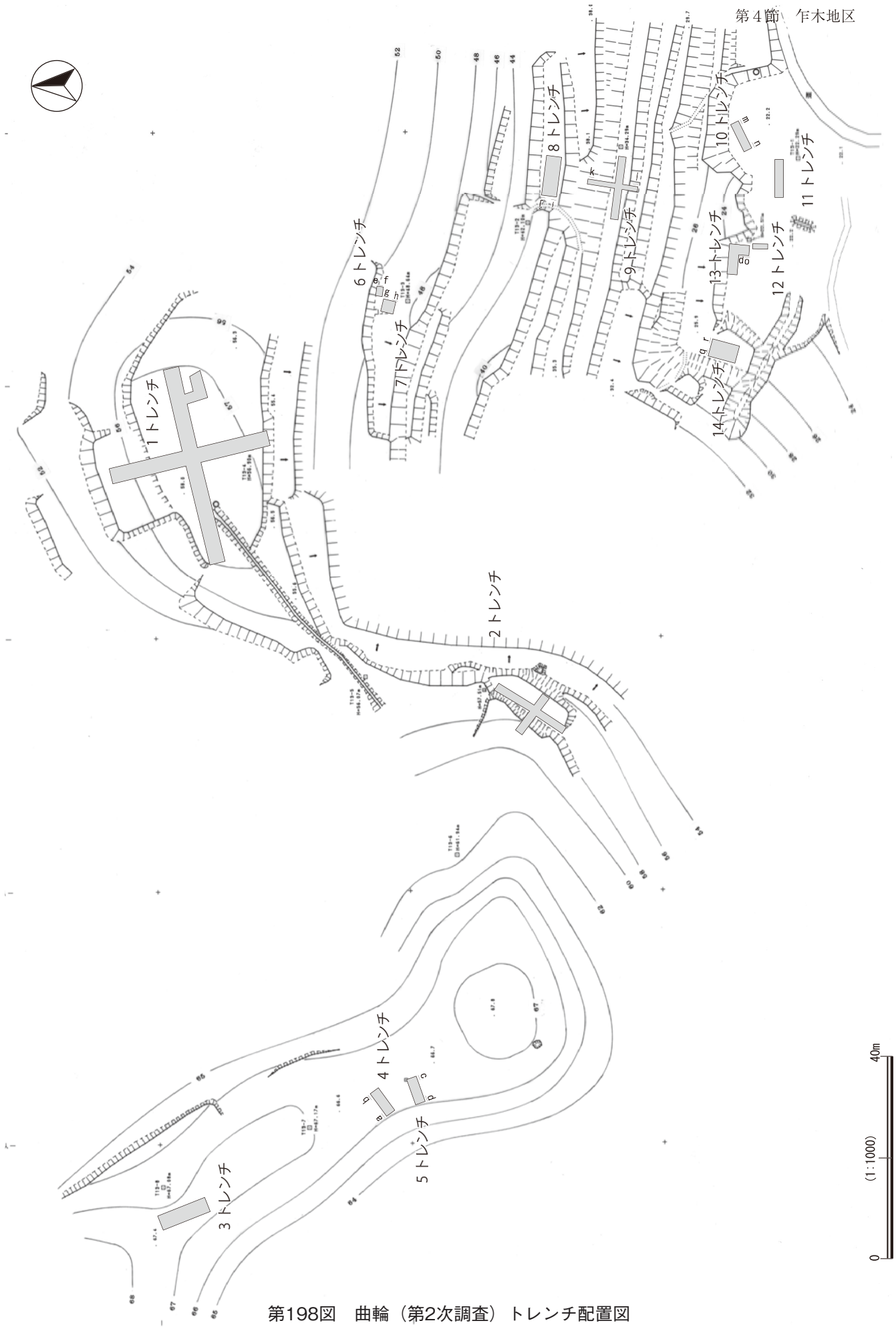
概報時には１～４トレンチとして名称が与えられていたが、１トレンチと２トレンチ、３トレンチと４トレンチは本報告書ではそれぞれ１つのトレンチとした。標高約57mの尾根上の平坦面とその尾根続きの小規模な平坦面に、１トレンチは幅３mで南北方向に32m、東西方向に40m（一部拡張を除く）の十字に設定し、２トレンチは幅1.5mで南北方向に16m、東西方向に９mの十字に設定した。１トレンチの南西部には長さ50m、高さ50cmほどの土塁状遺構が確認されている。土塁状遺構については断ち割りの結果、盛土等による造成は確認されず、遺物も出土しなかった。同時に土塁状遺構の土層断面から検出された炭化物について、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、19世紀末頃（補正年代でBP70±50）の年代が示された。そのため、近世期以降の地境として構築されたものである可能性が高いと判断した。また、２トレンチの地山直上から検出された炭化物についても、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、約33,800年前（補正年代でBP33,760±220）の年代が示された。遺構確認面は整地層上面と地山土であった。

【３～５トレンチ】

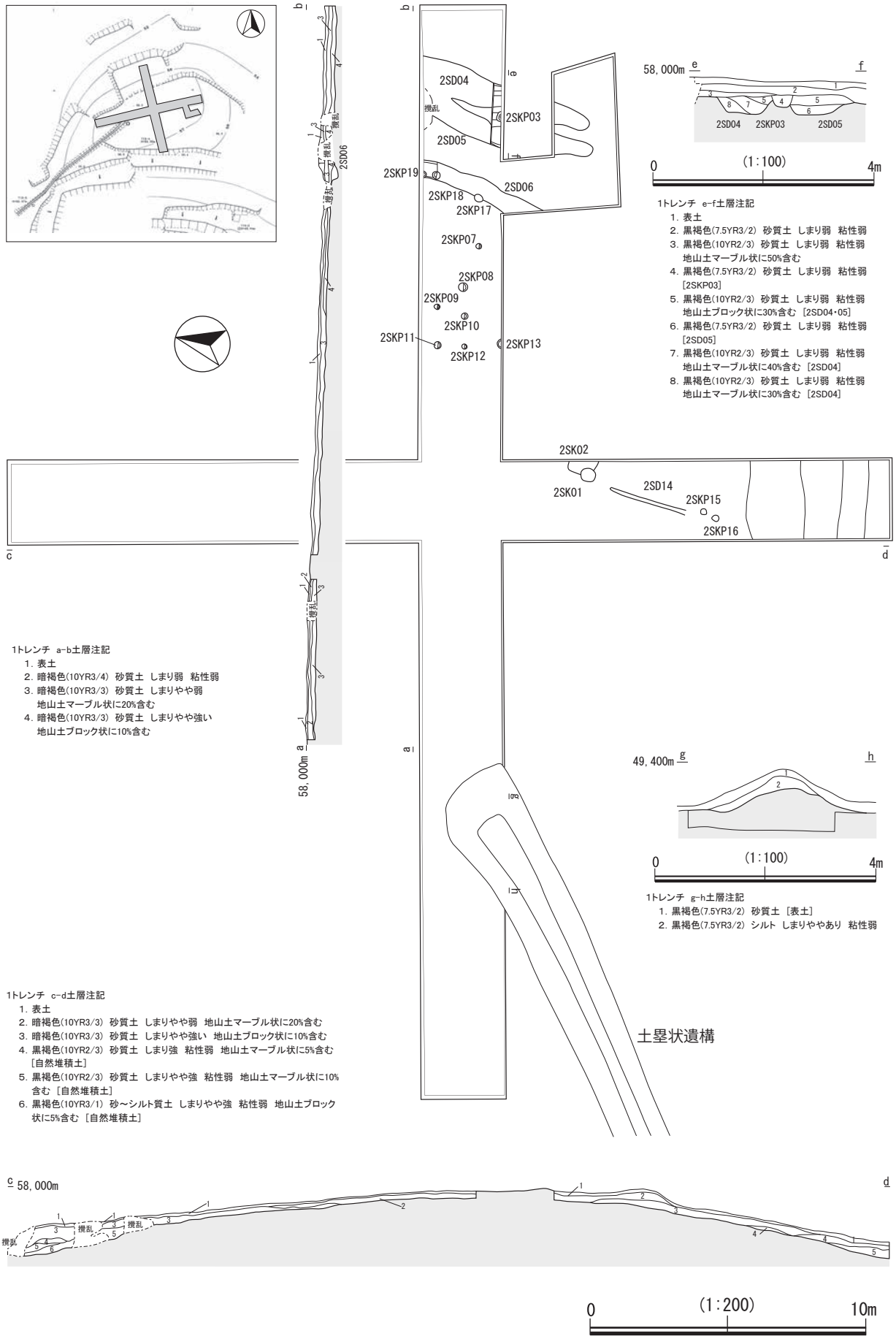
概報時には５～７トレンチとして名称が与えられていたが、１・２トレンチの再編に伴って、３～５トレンチとした。乍木丘陵南西部の標高約67mの山頂部に３トレンチは南北10m×東西３m、４トレンチは南北２m×東西５m、５トレンチは南北２m×東西５mで設定した。遺構確認面は地山土であった。本地点は遺構現状調査において自然地形として認識されていたが、３基の柱穴跡が検出された。

【６～14トレンチ】

概報時には８～17トレンチとして名称が与えられていたが、概報時の11トレンチ、12トレンチを本報告書では１つのトレンチとし、さらに、１・２トレンチの再編に伴って、６～14トレンチとした。本トレンチは１トレンチを設定した丘陵の南東斜面及び斜面下の曲輪に設定した。斜面部分は全体的に帯状の曲輪が確認されており遺構現状調査では切岸、腰曲輪として造成した城郭的遺構とされていた地点である。各トレンチの規模は省略する。８・９・13・14トレンチで盛土跡が検出された他、明確な遺構は検出されなかった。遺構確認面は盛土上面及び地山土であった。９トレンチにおいては切土した斜面の中腹に盛土を施すことで、帯状の細い曲輪を造成していることが明らかとなった。近現代の耕作や

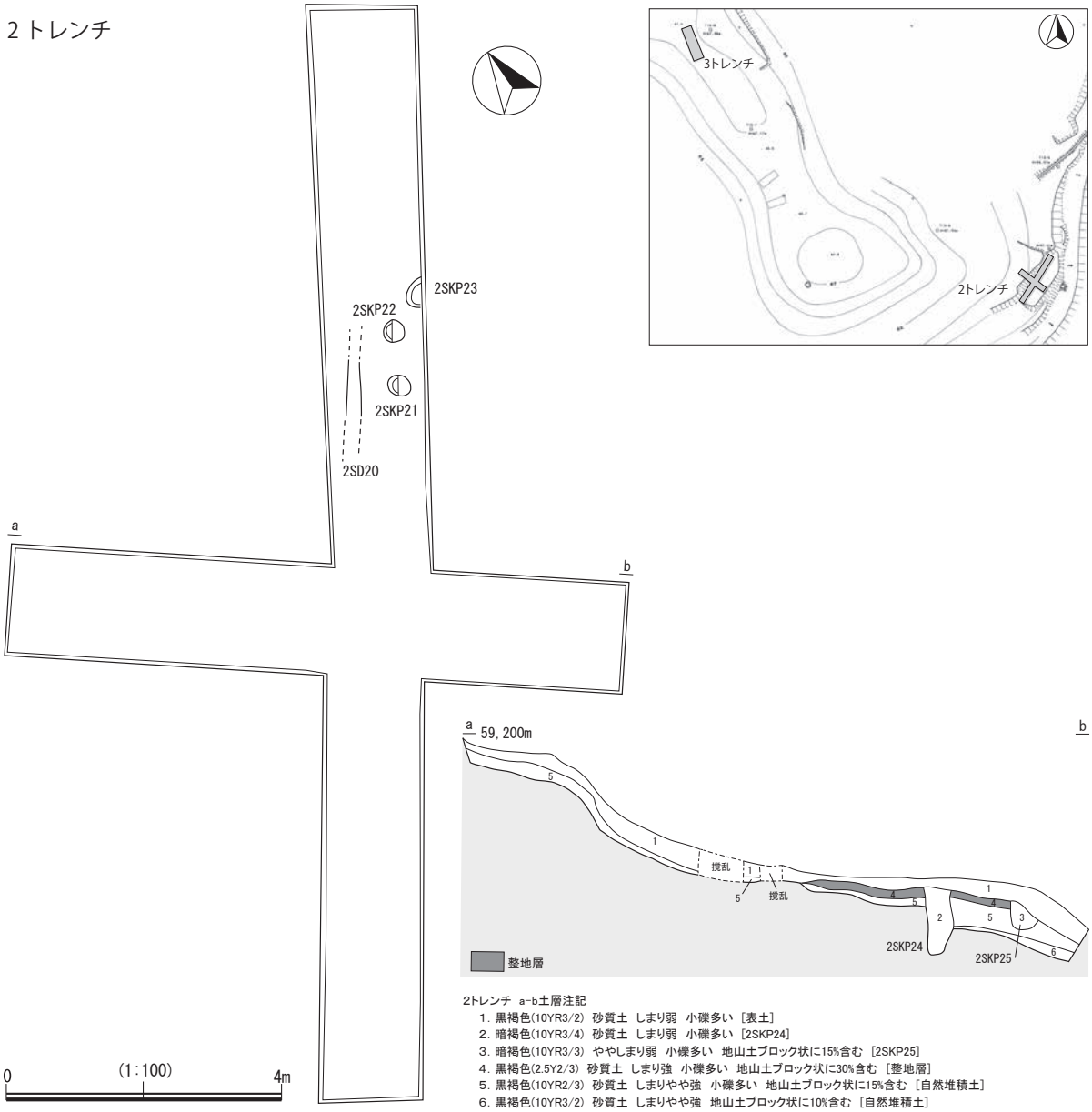


第198図　曲輪（第2次調査）トレンチ配置図



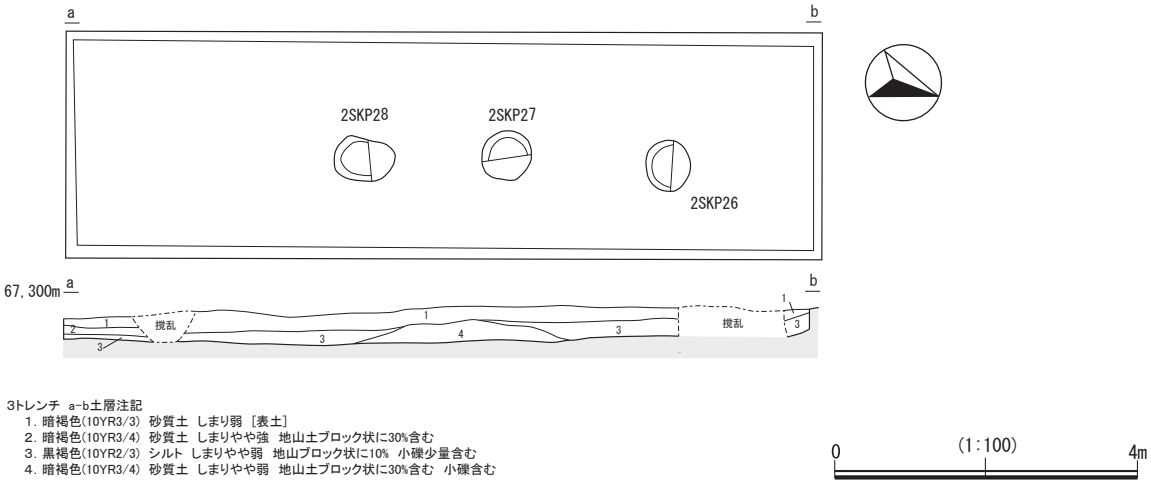
第199図　１トレンチ平面図・断面図

２トレンチ



2トレンチ　a-b土層注記
1. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土 しまり弱 小礫多い ［表土］
2. 暗褐色(10YR3/4) 砂質土 しまり弱 小礫多い ［2SKP24］
3. 暗褐色(10YR3/3) ややしまり弱 小礫多い 地山土ブロック状に15%含む ［2SKP25］
4. 黒褐色(2.5Y2/3) 砂質土 しまり強 小礫多い 地山土ブロック状に30%含む ［整地層］
5. 黒褐色(10YR2/3) 砂質土 しまりやや強 小礫多い 地山土ブロック状に15%含む ［自然堆積土］
6. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土 しまりやや強 地山土ブロック状に10%含む ［自然堆積土］

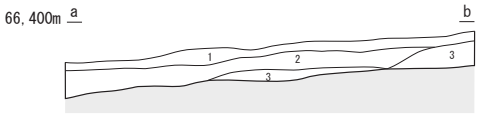
３トレンチ



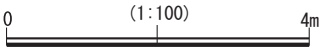
3トレンチ　a-b土層注記
1. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土 しまり弱 ［表土］
2. 暗褐色(10YR3/4) 砂質土 しまりやや強 地山土ブロック状に30%含む
3. 黒褐色(10YR2/3) シルト しまりやや弱 地山ブロック状に10% 小礫少量含む
4. 暗褐色(10YR3/4) 砂質土 しまりやや弱 地山土ブロック状に30%含む 小礫含む

第200図　２・３トレンチ平面図・断面図

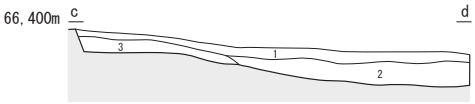
４トレンチ北側セクション



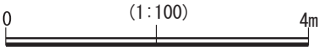
4トレンチ　a-b土層注記
1. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　しまり弱［表土］
2. 暗褐色(10YR3/4) 砂質土　しまりやや強　地山土ブロック状に30%含む
3. 黒褐色(10YR2/3) シルト　しまりやや弱　地山ブロック状に10%　小礫少量含む



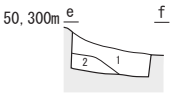
５トレンチ南側セクション



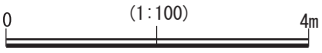
5トレンチ　c-d土層注記
1. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　しまり弱［表土］
2. 暗褐色(10YR3/4) 砂質土　しまりやや強　地山土ブロック状に30%含む
3. 黒褐色(10YR2/3) シルト　しまりやや弱　地山ブロック状に10%　小礫少量含む



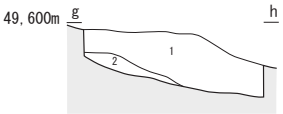
６トレンチ東側セクション



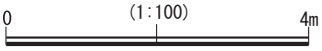
6トレンチ　e-f土層注記
1. 黒色(10YR2/1) シルト　しまりやや弱［表土］
2. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　地山土ブロック状に50%含む



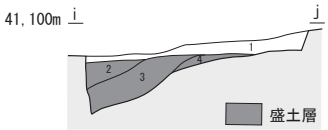
７トレンチ東側セクション



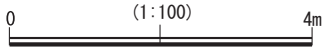
7トレンチ　g-h土層注記
1. 黒色(10YR2/1) シルト　しまりやや弱［表土］
2. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　地山土ブロック状に50%含む



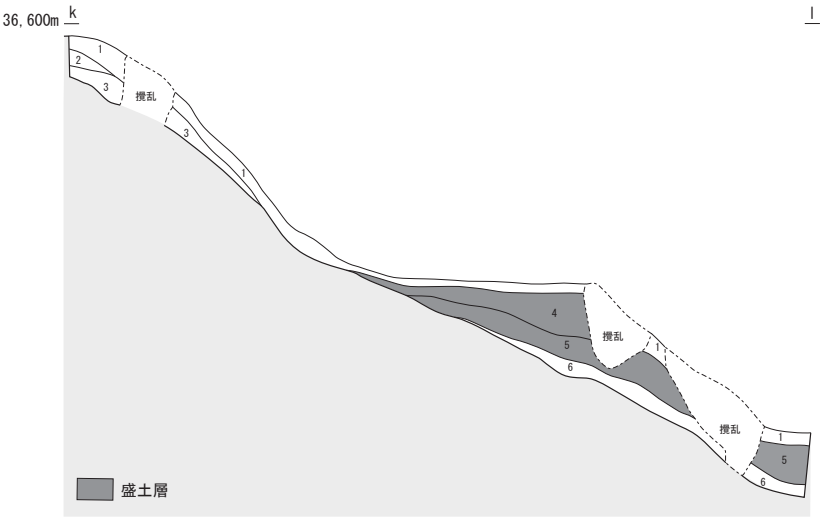
８トレンチ西側セクション



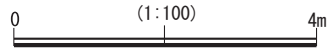
8トレンチ　i-j土層注記
1. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　しまり弱［表土］
2. 黒褐色(10YR2/3) シルト　しまり弱　地山土ブロック状に10%含む［盛土］
3. 黒褐色(10YR3/2) シルト　しまり強　地山土ブロック状に10%含む［盛土］
4. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　しまり弱　地山土ブロック状に50%含む［盛土］



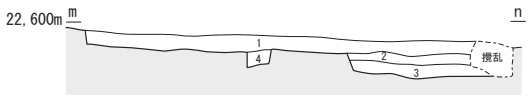
９トレンチ東側セクション



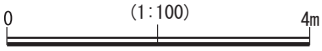
9トレンチ　k-l土層注記
1. 黒褐色(10YR2/3) 砂質土　しまりなし［表土］
2. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　しまりやや強
3. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　しまり弱　地山土ブロック状に10%含む
4. 黒褐色(10YR2/3) 砂質土　しまりやや強　地山土ブロック状に3%含む［盛土］
5. 黒褐色(10YR3/2) シルト　しまり弱　地山土少量含む［盛土］
6. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　しまりやや強　地山土ブロック状に10%含む［自然堆積土］



10 トレンチ南東側セクション

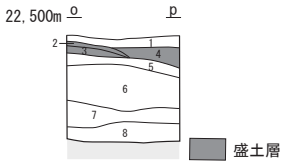


10トレンチ　m-n土層注記
1. 黒褐色(10YR2/3) 砂質土　しまりやや強　地山土ブロック状に3%含む
2. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　しまりやや強　地山土ブロック状に30%含む
3. 黒褐色(10YR3/1) 砂質土　しまりやや強　地山土ブロック状に5%含む
4. 暗褐色(10YR3/4) 砂質土　しまりやや強　地山土ブロック状に50%含む

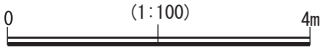


第201図　４～１０トレンチ断面図

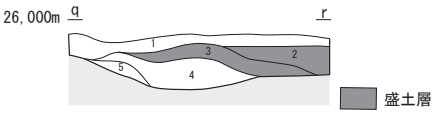
13 トレンチ西側セクション



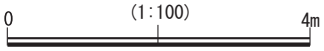
13トレンチ　o–p土層注記
1. 黒色(10YR2/2) シルト しまりやや強　粘性あり［表土］
2. 褐色(10YR6/4) 砂質土　しまり強［盛土］
3. 暗褐色(10YR3/3) 砂質土　しまりやや強　粘性弱　地山土ブロック状に50%含む［盛土］
4. 黒褐色(10YR2/3) シルト しまり強　褐色(10YR3/3)砂質土筋状に30%含む［盛土］
5. 黒色(10YR2/2) シルト しまりやや強　粘性あり［自然堆積土］
6. 黒色(10YR2/1) シルト しまり弱　粘性あり［自然堆積土］
7. 黒色(10YR1.7/1) シルト しまりやや強　粘性あり［自然堆積土］
8. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　しまりやや強［漸移層］



14 トレンチ北側セクション



14トレンチ　q–r土層注記
1. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　しまり弱［表土］
2. 黒褐色(10YR2/3) 砂質土　しまり弱　地山土ブロック状に30%含む［盛土］
3. 黒褐色(10YR3/2) 砂質土　しまり弱　地山土ブロック状に20%含む［盛土］
4. 黒色(10YR2/1) シルト しまりやや強　小礫少量含む［自然堆積土］
5. 褐色(10YR3/3) 砂質土　しまりやや強［自然堆積土］



第202図　１３・１４トレンチ断面図

第67表　曲輪（第2次調査）遺構一覧表

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
2SD04	第199図	1トレンチ	30	120	-	I	SD01	
2SD05	第199図	1トレンチ	30	82	-	I	SD02	
2SD06	第199図	1トレンチ	5	68	-	I	SD06	
2SD14	第199図	1トレンチ	-	16	-	I	-	未調査
2SD20	第200図	2トレンチ	-	21	-	I	-	

■土坑

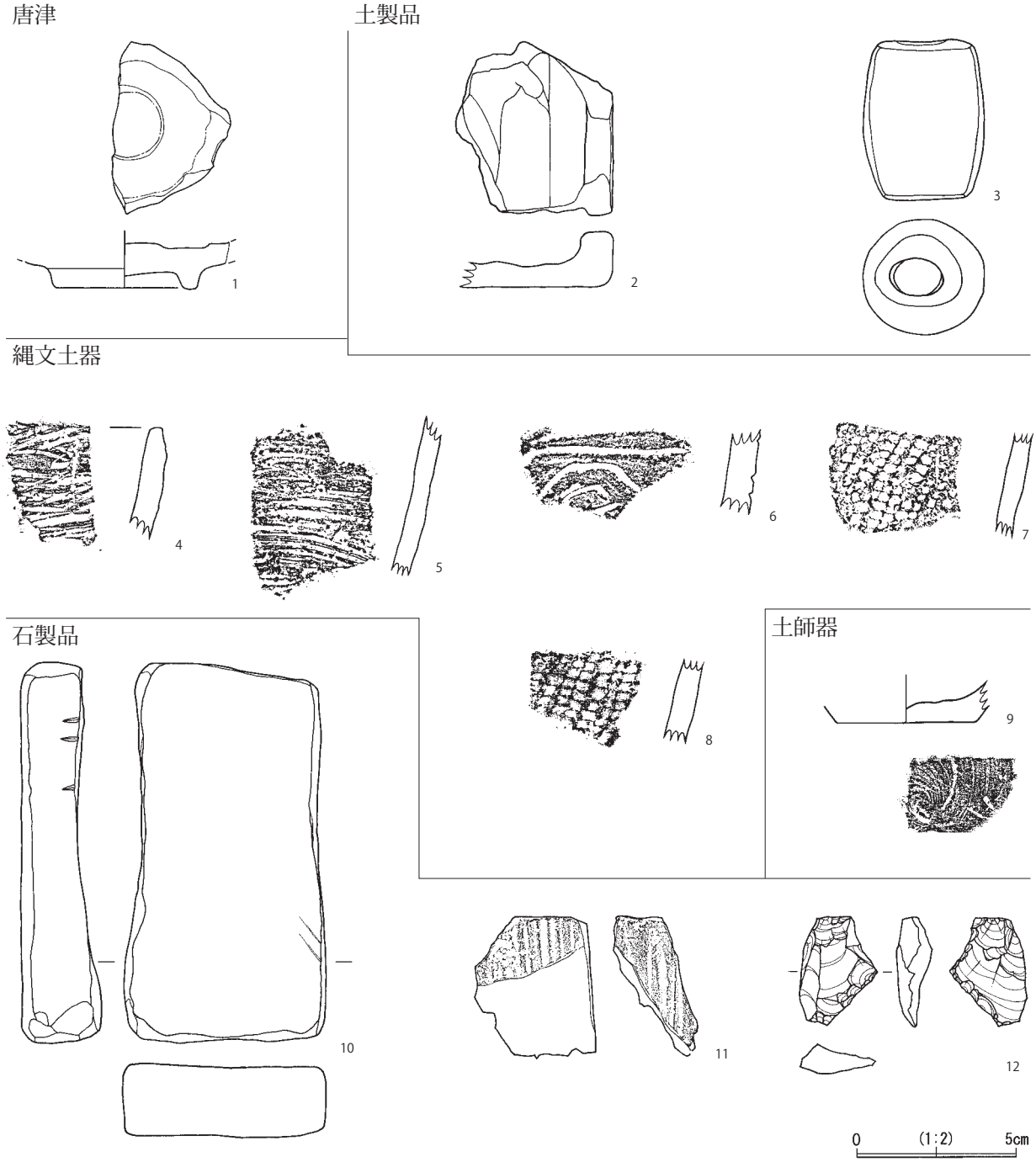
遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
2SK01	第199図	1トレンチ	-	48	(46)	-	I	SK01	未調査
2SK02	第199図	1トレンチ	-	(103)	(69)	-	I	SK02	未調査

■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
2SKP03	第199図	1トレンチ	21	(38)	-	-	I	-	
2SKP07	第199図	1トレンチ	6	21	20	-	I	-	
2SKP08	第199図	1トレンチ	13	33	31	-	I	-	
2SKP09	第199図	1トレンチ	8	22	20	-	I	-	
2SKP10	第199図	1トレンチ	10	24	23	-	I	-	
2SKP11	第199図	1トレンチ	10	26	24	-	I	-	
2SKP12	第199図	1トレンチ	9	19	18	-	I	-	
2SKP13	第199図	1トレンチ	7	(34)	(12)	-	I	-	
2SKP15	第199図	1トレンチ	-	24	23	-	I	-	未調査
2SKP16	第199図	1トレンチ	-	36	32	-	I	-	未調査
2SKP17	第199図	1トレンチ	1	34	26	-	I	-	
2SKP18	第199図	1トレンチ	24	(28)	(15)	-	I	-	
2SKP19	第199図	1トレンチ	16	(24)	(11)	-	I	-	
2SKP21	第200図	2トレンチ	15	32	30	-	I	-	
2SKP22	第200図	2トレンチ	10	32	29	-	I	-	
2SKP23	第200図	2トレンチ	9	(43)	(20)	-	I	-	
2SKP24	第200図	2トレンチ	99	-	-	-	I	-	断面でのみ検出
2SKP25	第200図	2トレンチ	42	-	-	-	I	-	断面でのみ検出
2SKP26	第200図	3トレンチ	22	67	60	-	I	-	
2SKP27	第200図	3トレンチ	22	66	65	-	I	-	
2SKP28	第200図	3トレンチ	20	81	55	-	I	-	

第68表　曲輪（第2次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	37	0	0	0	26	1	22	0	3	13	15	鉄滓



第203図　曲輪（第2次調査）出土遺物

植林による攪乱の影響が随所に確認され、遺構確認面までの堆積が厚く70cmにも及ぶトレンチも確認された。

③ 出土遺物

遺物は118点出土している（その他を含めない）。点数は接合後の破片数である。陶磁器片や土師器片がわずかに出土しており、縄文土器片も出土した。

第69表　曲輪（第2次調査）出土遺物観察表

■陶磁器・土器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
203	1	37	唐津	-	1トレンチ	-	-	(4.4)	(1.4)	-	I	32	7	
203	4	37	縄文土器	甕	1トレンチ	-	-	-	(3.4)	縄文	I	32	1	
203	5	37	縄文土器	甕	1トレンチ	-	-	-	(4.9)	縄文	I	32	2	
203	6	37	縄文土器	甕	1トレンチ	-	-	-	(2.5)	縄文	I	32	3	
203	7	37	縄文土器	甕	1トレンチ	-	-	-	(3.2)	縄文	I	32	4	
203	8	37	縄文土器	甕	1トレンチ	-	-	-	(2.7)	縄文	I	32	5	
203	9	37	土師器	坏	1トレンチ	-	-	(4.4)	(1.3)	-	I	32	6	

■土製品・石製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
203	2	37	土製品	-	1トレンチ	-	(5.3)	(4.7)	1.7	-	I	32	8	
203	3	37	土製品	土錘	3トレンチ	-	4.8	3.85	-	-	I	32	9	
203	10	37	石製品	剥片	3トレンチ	-	3.4	2.4	1.1	-	I	32	11	珪質頁岩製
203	11	37	石製品	砥石	3トレンチ	-	(4.3)	(3.6)	(2.0)	-	I	32	10	
203	12	37	石製品	砥石	11トレンチ	-	11.8	6.4	2.3	-	I	32	12	

（２）曲輪（第４次調査）

①第４次調査曲輪の立地と概要

第４次調査対象は、乍木地区の曲輪群のうち、田谷沢道を挟んだ南側の丘陵に位置する曲輪である。最高所での標高は約82mであり、小規模な丘陵の頂上部を平坦に造成し、その斜面部に帯状に曲輪を配置する構造である。さらに丘陵の南西側斜面部は一部曲輪として認識できる平場が造成されている。第４次調査対象地と馬乗り場地区は細い尾根筋によって繋がっているものの明確ではない。

②検出遺構

第４次調査対象の曲輪では任意の大きさのトレンチ12か所を設定して行った。その結果、総計で溝跡２条、焼土遺構１基、整地１か所、塚状遺構１基が検出された。

各トレンチについて

【１～９トレンチ】

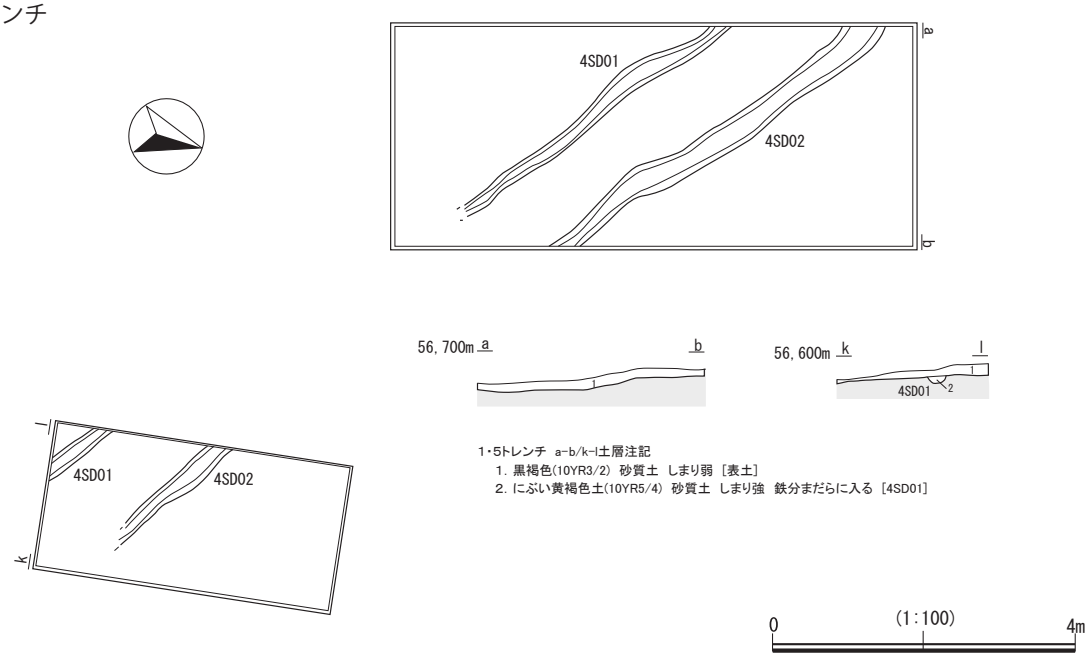
概報時には１～10トレンチとして名称が与えられていたが、３トレンチと６トレンチを本報告書では３トレンチとしたため、トレンチの番号が繰り上がっている。小規模丘陵南西側斜面部の標高約54mの曲輪で、南に向かって緩やかに傾斜している。周囲を土塁状の遺構がめぐっており、４トレンチ付近で途切れる。３・８トレンチは土塁状遺構を対象に設定し、それ以外は緩斜面の曲輪部に設定した。遺構確認面はいずれのトレンチも地山土であり、整地や盛土の痕跡は検出されなかった。各トレンチの規模は省略する。遺構は２SD01と02が１・５トレンチで検出されており、他のトレンチからは検出されなかった。

【10～12トレンチ】

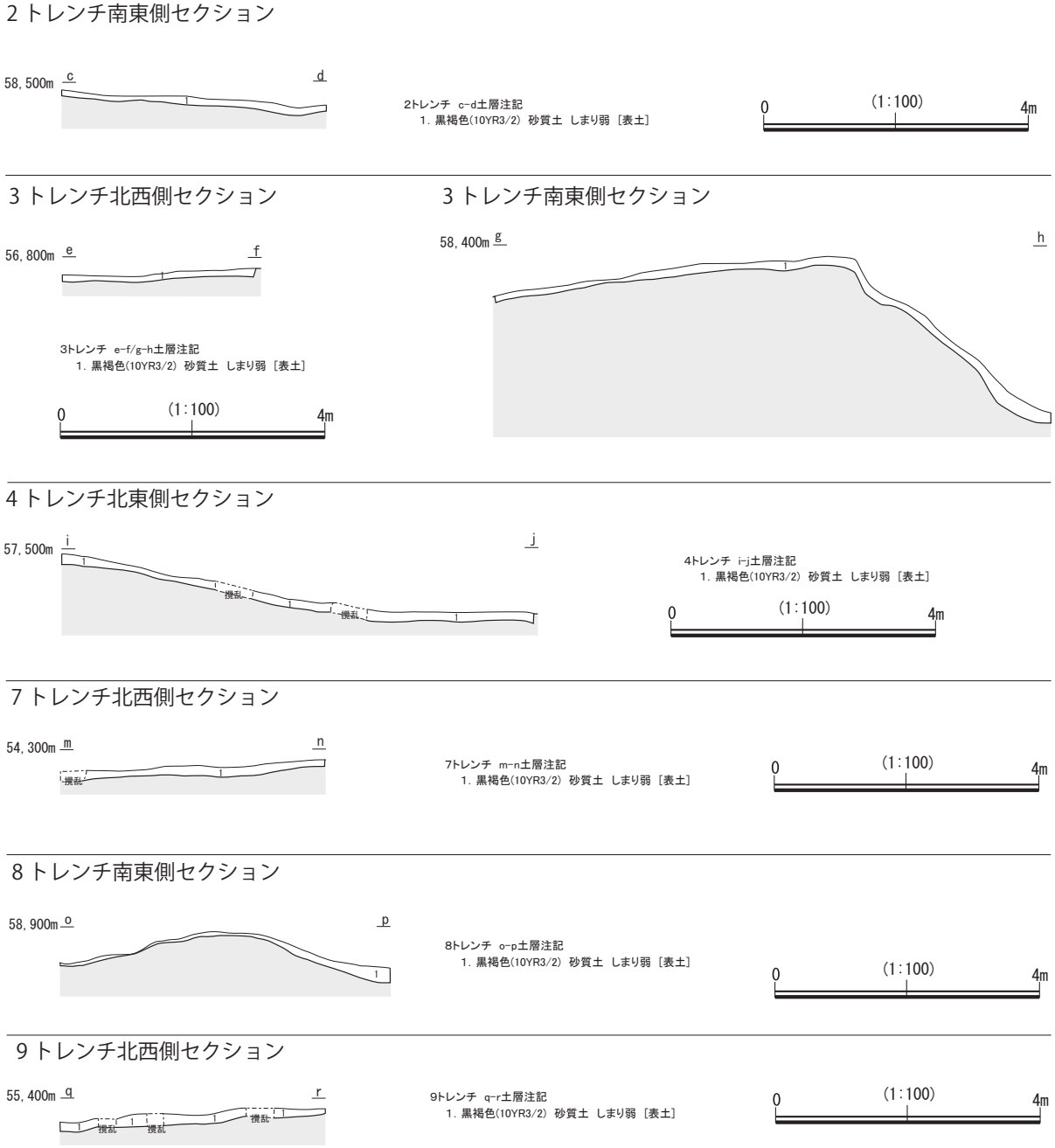
概報時には11～13トレンチとして名称が与えられていた。３トレンチと６トレンチを本報告書では１つのトレンチとしたため、番号が繰り上がっている。小規模丘陵頂上部の標高約82mの曲輪で、南西部に土塁状の遺構、曲輪北西部に幅2.2m×1.8m、高さ70cmほどの塚状遺構が確認されている。10・11

第４次調査１～９トレンチ配置

1・5トレンチ



第204図　曲輪（第4次調査）１～９トレンチ配置図/1・5トレンチ平面図・断面図

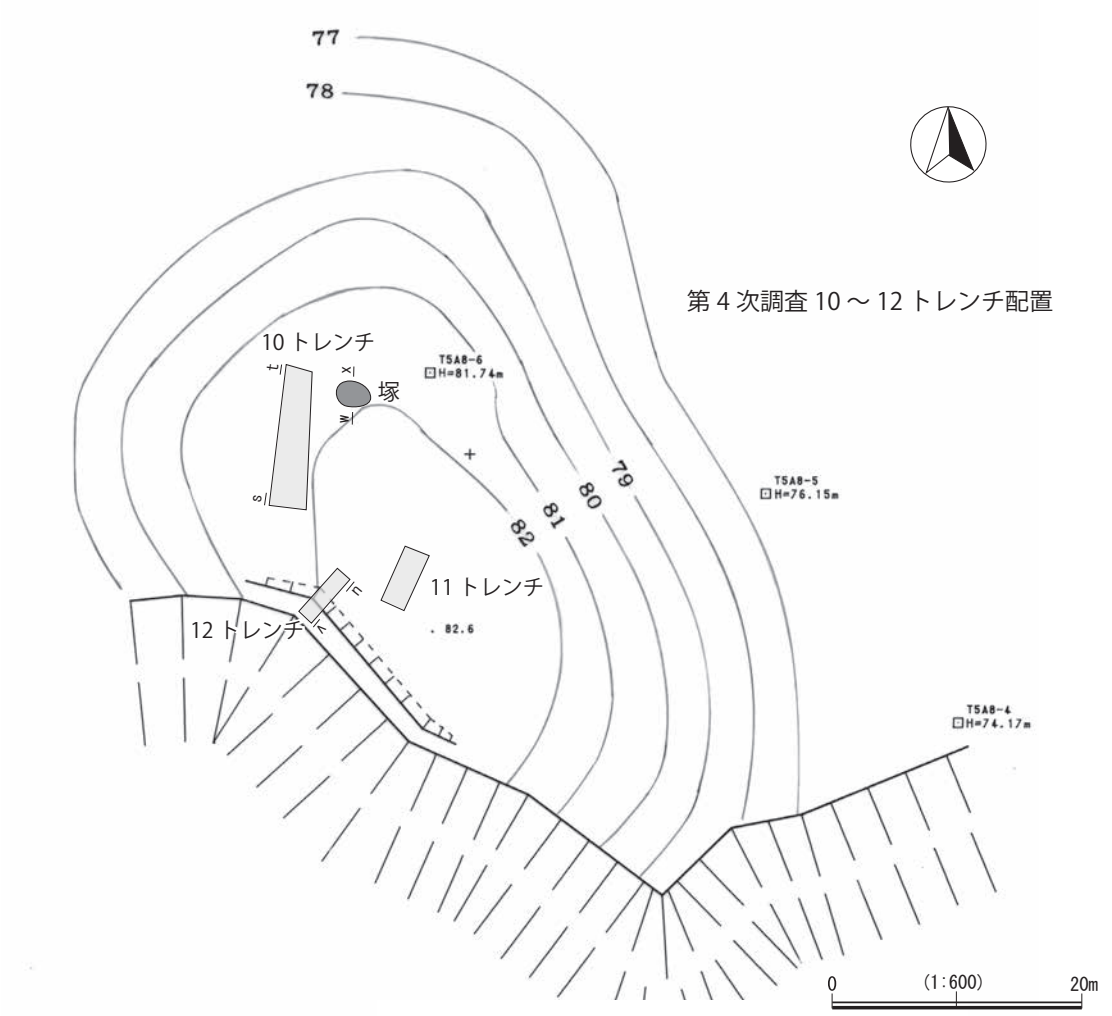


第205図　２～４・７～９トレンチ断面図

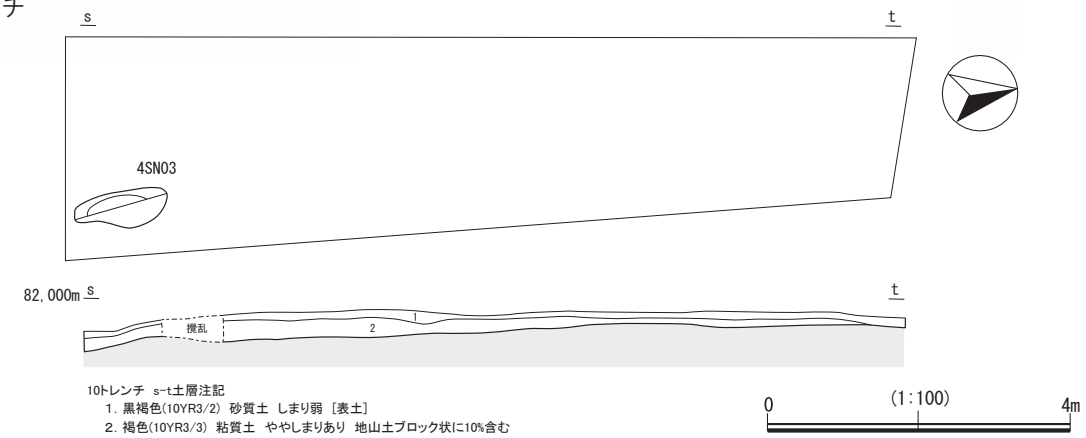
トレンチは曲輪の中央部に設定し、12トレンチは土塁状遺構を対象に設定した。遺構確認面は地山土であるが、12トレンチ南西部、塚状遺構は整地・盛土層であった。各トレンチの規模は省略する。遺構は10トレンチで４SN03のみが検出されており、本遺構内より検出された炭化物についても、放射性炭素年代測定を実施した。その結果、７世紀頃（補正年代でBP1,310±60）の年代が示された。

③ 出土遺物

遺物は出土しなかった。

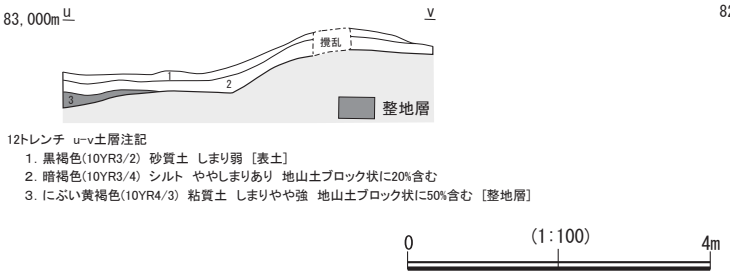


10 トレンチ



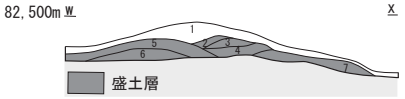
10トレンチ　s-t土層注記
1. 黒褐色(10YR3/2)　砂質土　しまり弱［表土］
2. 褐色(10YR3/3)　粘質土　ややしまりあり　地山土ブロック状に10%含む

12 トレンチ南東側セクション



12トレンチ　u-v土層注記
1. 黒褐色(10YR3/2)　砂質土　しまり弱［表土］
2. 暗褐色(10YR3/4)　シルト　ややしまりあり　地山土ブロック状に20%含む
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)　粘質土　しまりやや強　地山土ブロック状に50%含む［整地層］

塚断ち割りセクション



塚　w-x土層注記
1. 黒褐色(10YR2/3)　砂質土　しまり弱［表土］
2. 暗褐色(10YR3/4)　シルト　ややしまりあり［盛土］
3. 暗褐色(10YR3/3)　粘質土　ややしまり強［盛土］
4. 黒褐色(10YR2/3)　粘質土　しまり強［盛土］
5. 暗褐色(10YR3/4)　シルト　ややしまり弱　地山土ブロック状に30%含む［盛土］
6. 暗褐色(10YR3/4)　粘質土　ややしまりあり［盛土］
7. 暗褐色(10YR3/3)　粘質土　しまり強　［盛土］

第206図　曲輪(第4次調査)10 ～ 12トレンチ配置図/10 ～ 12トレンチ平面図･断面図

第70表　曲輪（第4次調査）遺構一覧表

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)		出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
4SD01	第204図	1･5トレンチ	14	30	-	-	I	A	
4SD02	第204図	1･5トレンチ	11	42	-	-	I	B	

■焼土遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
4SN03	第206図	10トレンチ	22	128	48	-	I	SN01	

（３）田谷沢道（第６次調査）

①第６次調査田谷沢道の立地と概要

第６次調査対象の田谷沢道は、兜ヶ崎・打ヶ崎地区の中央部を通り、挟間田の低地を経由して、乍木地区へ向かう道路跡である。乍木地区に残る田谷沢道は切通し状に良好な道路跡が残っており、田谷沢集落へ出る西側口部を調査対象とした。調査対象地周辺は住宅地に隣接し、開けた様相を呈している。

②検出遺構

第６次調査対象の田谷沢道では任意の大きさのトレンチ３か所を設定して行った。その結果、道路跡１条、盛土跡１か所が検出された。

各トレンチについて

【１・２トレンチ】

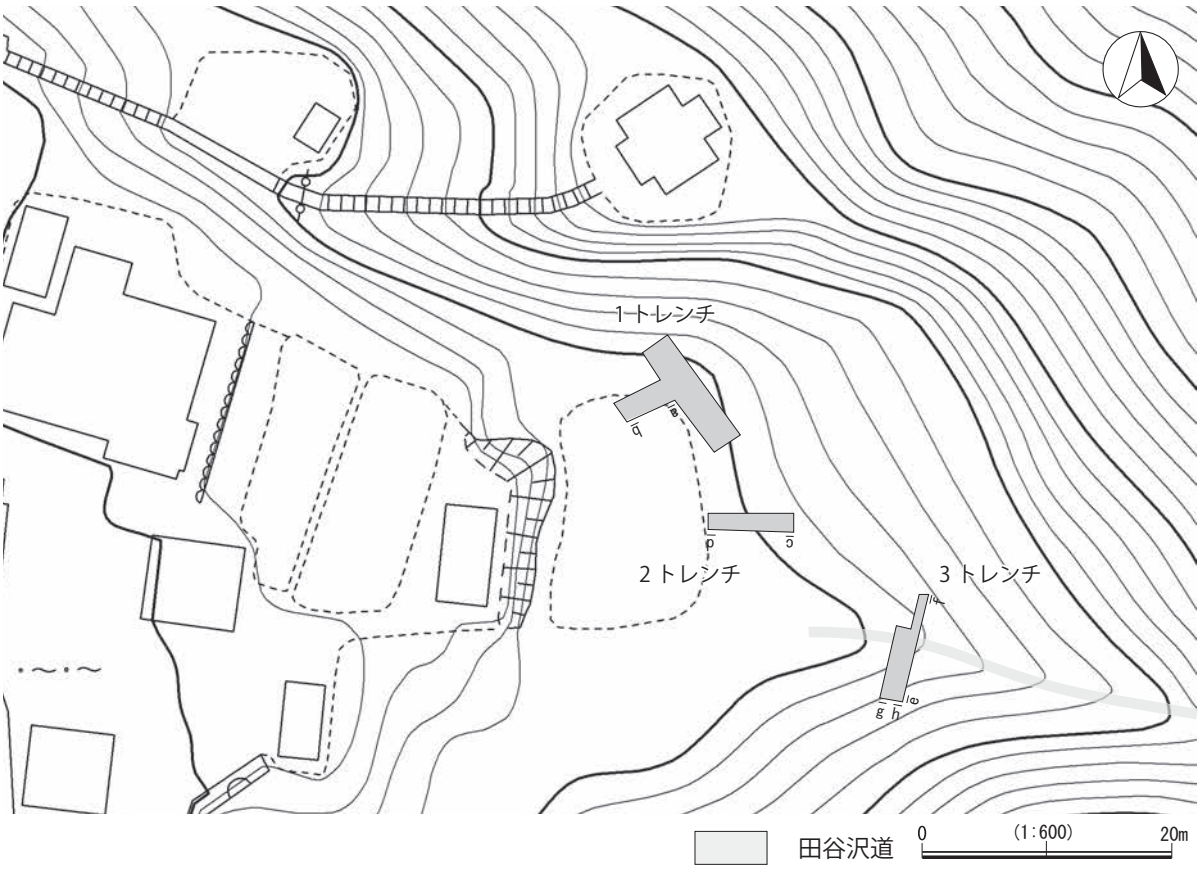
概報時には１～３トレンチとして名称が与えられていたが、１トレンチと２トレンチを本報告書では１つのトレンチとしたため、番号が繰り上がっている。１・２トレンチは田谷沢道の北西側の一段高い平坦部に設定した。遺構確認面は地山土と盛土層であった。各トレンチの規模は省略する。遺構は検出されなかったが、２トレンチからは盛土層が検出された。

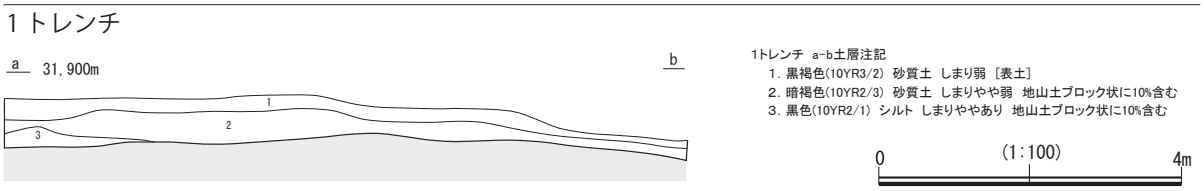
【３トレンチ】

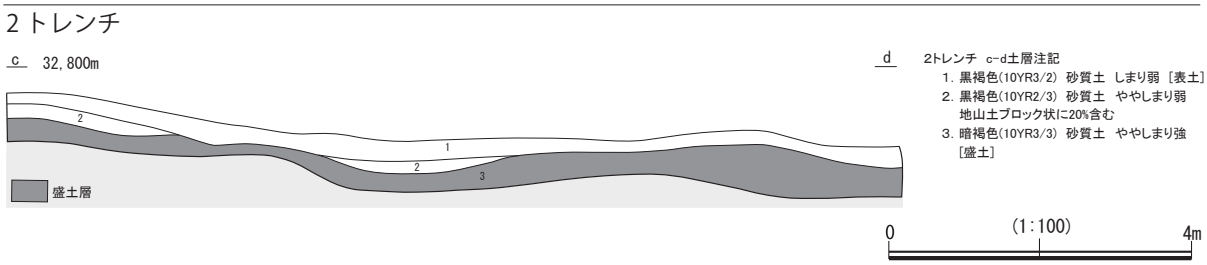
概報時には４トレンチとして名称が与えられていたが、１・２トレンチの再編に伴い、本報告書では３トレンチとした。周囲一帯は拡幅されており平坦面になっている。田谷沢道を横切るように西側口に南北8.7m×東西２m（北側の拡張部含む）で設定した。遺構確認面は地山土であった。現況の田谷沢道とほぼ同位置に溝状の遺構が検出され、道路跡として判断した。なお、東側断面における８～10層内より、現代の瓶が出土しているため１～10層は現代の堆積層である。

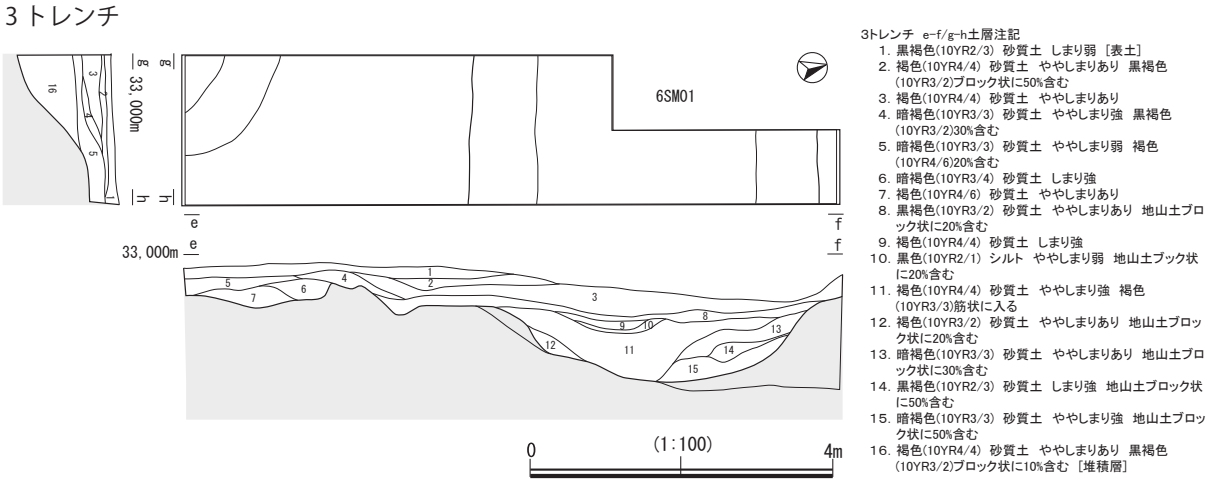
６SM01道路跡　(第207図)

３トレンチで地山土を確認面として検出された。幅460cm､掘り込みの深さ90cmの溝状の遺構である。概報ではSX01として報告されているが、現況の田谷沢道と同位置であることをふまえて、本報告書では６SM01とし道路跡と判断した。11～15層までが本遺構に伴う造成土層と判断した。東側丘陵部の切通し状の道路跡と同様に溝状に掘り窪めた道であったことが考えられるが、覆土内は地山土ブロックを多く含む土層が確認されたため、水はけ等を考慮し造成したと判断した。近代以降には10層下の幅1.5m









第207図　田谷沢道(第6次調査)トレンチ配置図/ １～３トレンチ平面図･断面図

ほどの凹みが道路として機能していたものと判断される。遺物の出土はなかったため、造成時期は不明である。

③ 出土遺物

遺物は19点出土している。点数は接合後の破片数である。陶磁器は近現代に位置づけられるものがわずかに出土しており、金属製品も同様である。

第71表　田谷沢道（第6次調査）遺構一覧表

■道路跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
6SM01	第207図	3トレンチ	90	460	-	I	SX01	

第72表　田谷沢道（第6次調査）遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0

第５節　お念堂地区

１　調査の目的と経緯

お念堂地区は脇本城跡南西部に位置し、曲輪状の平場がわずかに残されている。「お念堂」や「鐘撞堂」等の俗称が伝えられている地区であり、脇本城跡東南部の寺院地区とともに、宗教的役割を想定した地区として着目されてきた。そのため、戦国期脇本城跡における本地区の機能や、地域に伝わる俗称との関連性、本地区の具体的な年代を探ることを目的に、平成８年度に確認調査が行われた。

また、平成15・16年度には現在の国道101号線拡幅工事に伴う発掘調査も実施されている。本調査に至る経緯は以下の通りである。

脇本城跡は平成16年の国指定以前、秋田県指定史跡であるが、史跡南端を通る県道男鹿半島線（平成22年より国道101号線）については重要港湾道路改修工事として拡幅工事が計画された。

拡幅予定地の内、男鹿市脇本脇本字七沢25－１の一部については、県指定史跡の範囲内であり、工事予定地の状況を確認するため、確認調査の実施を計画し、平成14年10月４日付けで現状変更申請を行い、同年10月７日付けで秋田県教育委員会の許可がなされた。そして平成14年11月29日から12月10日に139㎡の確認調査を行い、その結果脇本城跡に伴う遺構や遺物が検出された。計画では遺跡を破壊するものであるため、事前の発掘調査の必要性が生じ、工事の主体者である秋田県港湾空港課、船川港湾事務所（いずれも当時）及び秋田県文化財保護室との協議を重ね、男鹿市教育委員会が平成15、16年度の２か年計画で発掘調査を実施することとなった。以上の経緯を踏まえて、平成15年４月10日付で秋田県知事と男鹿市長によって発掘調査に関する協定を締結した。同年６月９日付けで道路拡幅工事に関する現状変更申請が秋田県知事より提出され、６月17日付けで秋田県教育委員会より、発掘調査の実施を条件に届出者に現状変更が許可された。

２　お念堂地区の立地と現況

お念堂地区は脇本城跡南西部に位置する。東側は内館地区西側の急斜面から背後丘陵まで小谷が形成されており、南側直下には現在国道101号線が東西方向にのびる。小谷側は現在、男鹿市道立木沢・要沢線で分断されている。文化財保護法における周知の埋蔵文化財包蔵地としての脇本城跡は本市道を挟んで西側も包括して周知されている。西に位置する茶臼館跡は脇本城跡の関連遺跡として位置付けられているが、詳細は不明であるとともに、境界線が現状では不明確となっている（秋田県教育委員会1981・2003）。

遺構現状調査時には地区の北西側に位置する標高約38mの小丘陵（地元では「鐘撞堂」として俗称されている）上にわずかな平坦面が確認されていた（平成８年度調査地点）ほかは、土塁状の遺構とがわずかな曲輪が確認されているのみであった。しかし、上述の「鐘撞堂」をはじめ、内館地区曲輪１の南西部には「五輪の坂」、曲輪２の西側からのびる小尾根筋を降りた地点を「お念堂」（平成15・16年度調査地点）という俗称が伝えられており、古くから宗教的な意味合いをもつ地区として着目されてきた。小字は七沢・要沢からなっており、地区に残る「お念堂」という俗称を代表して、地区名を仮称している。お念堂地区も内館地区同様、近世以後は脇本地区の入会地となっており、南端部は城下町地区内で

第208図　お念堂地区調査区配置図

も新町の「カヤヤマ」となっていた。また、昭和30年代には、南端部の斜面より瀬戸美濃や塔婆板等が表採されていた地区である。

３　基本層序

お念堂地区では平成８年度調査によって小丘陵の頂部から盛土層が検出されているものの、他に城館

の普請に伴うと判断できる人為的な地形改変は明確に確認されていない。そのため、最も調査面積の大きい15・16年度調査の東側地区西側土層での層序を基本層序として捉える。

概ね上層からⅠ層：表土、Ⅱ層：崩落層、Ⅲ層：崩落層、Ⅳ層：崩落層、Ⅴ層：地山土となる。Ⅰ層は現代の堆積層であり、Ⅱ層は近世以後の崩落層、Ⅲ・Ⅳ層は中世以後の崩落層である。Ⅲ層以下が中世脇本城跡に直接関与する層である。

なお、下記の基本層序は本地区の発掘調査報告書である『国指定史跡脇本城跡』（男鹿市教育委員会2005）による所見に再検討を加えたものである。

遺構はⅢ層以下の崩落層の上面及び地山土にて検出される。

Ⅰ層：層厚10cm ／黄褐色シルト質土／現代 [表土]

Ⅱ層：層厚80 ～ 210cm ／にぶい黄色シルト質土／近世以後[崩落層]

Ⅲ層：層厚55 ～ 100cm ／浅黄色シルト質土／中世以後 [崩落層]

Ⅳ層：層厚15 ～ 90cm ／黒褐色のシルト質土／中世以後 [崩落層]

Ⅴ層：－／ [地山]

４　遺構と遺物

（１）小丘陵頂上部（平成８年度調査）

①小規模丘陵の立地と概要

小丘陵はお念堂地区の北西側に位置する。頂上部の標高は約38mで、周囲よりも３～７m程高くなっている。頂上部にわずかな平坦面が確認されている。本地区は地元で「鐘撞堂」として俗称されてきた場所である。

②検出遺構

小丘陵頂部の調査では任意のトレンチ１か所を設定した。その結果、総計で溝跡１基、柱穴跡７基、盛土跡２か所が検出された。

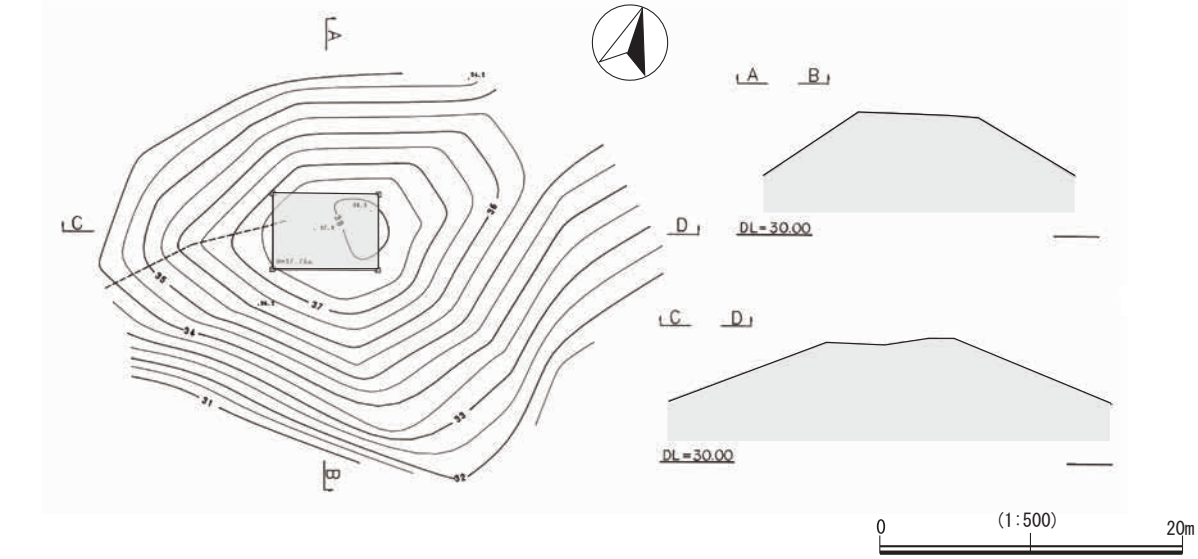
トレンチについて

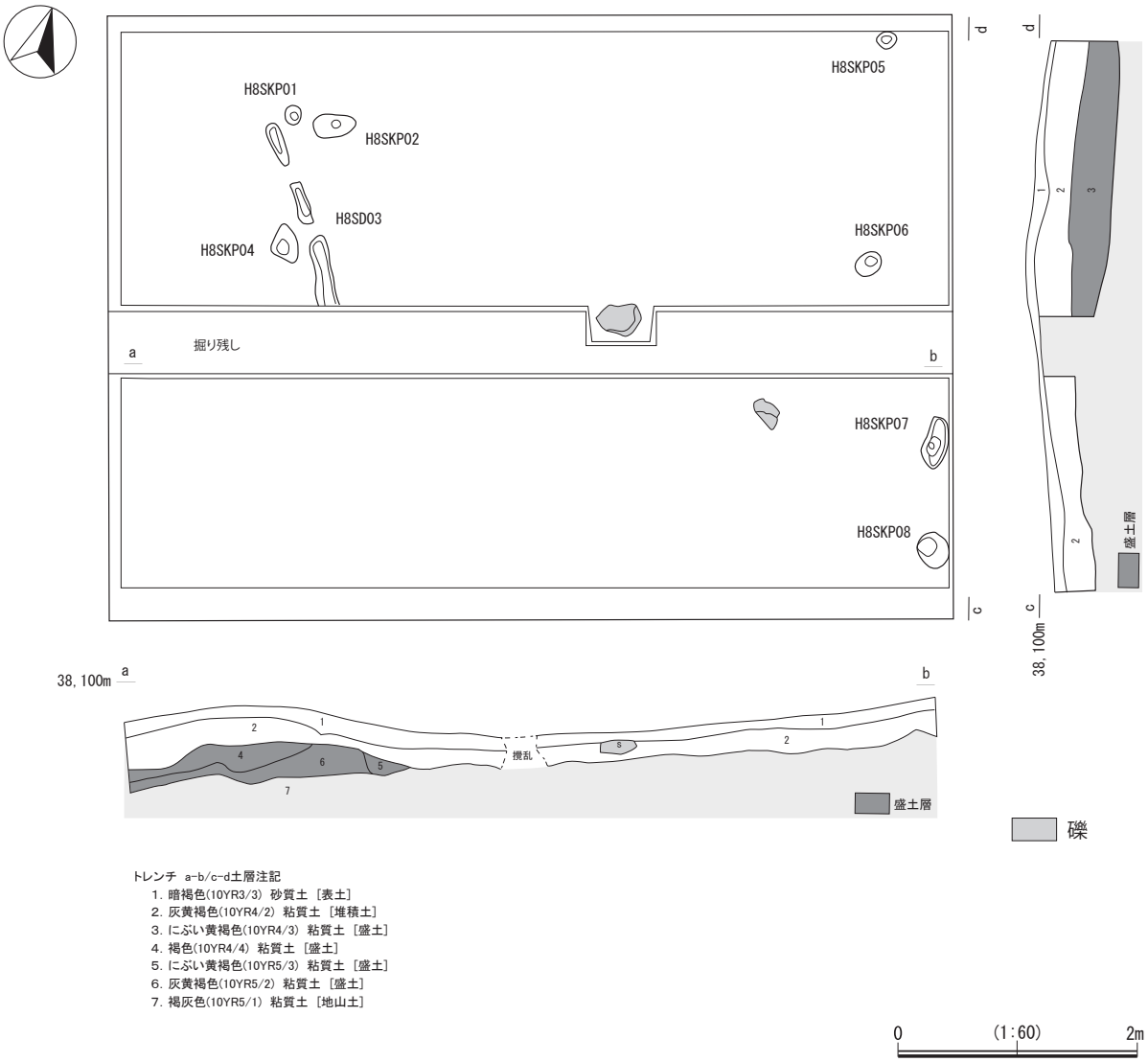
【トレンチ】

小丘陵頂上部にトレンチ中央部に土層観察用のベルトを残し、南北５m×東西７mで設定した。
遺構確認面はトレンチ北東及び南西隅で盛土であったが、それ以外は地山土であった。頂上部は旧地形の落ち込みを充填するように盛土され平坦面を作り出していた。

③ 出土遺物

遺物は出土しなかった。





第209図　小丘陵頂上部（H8年度調査）トレンチ配置図・平面図・断面図

第73表　小丘陵頂上部（H8年度調査）遺構一覧表

■溝跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
H8SD03	第209図	-	5	17	-	Ⅳ	SD03	途切れるが同一遺構と判断

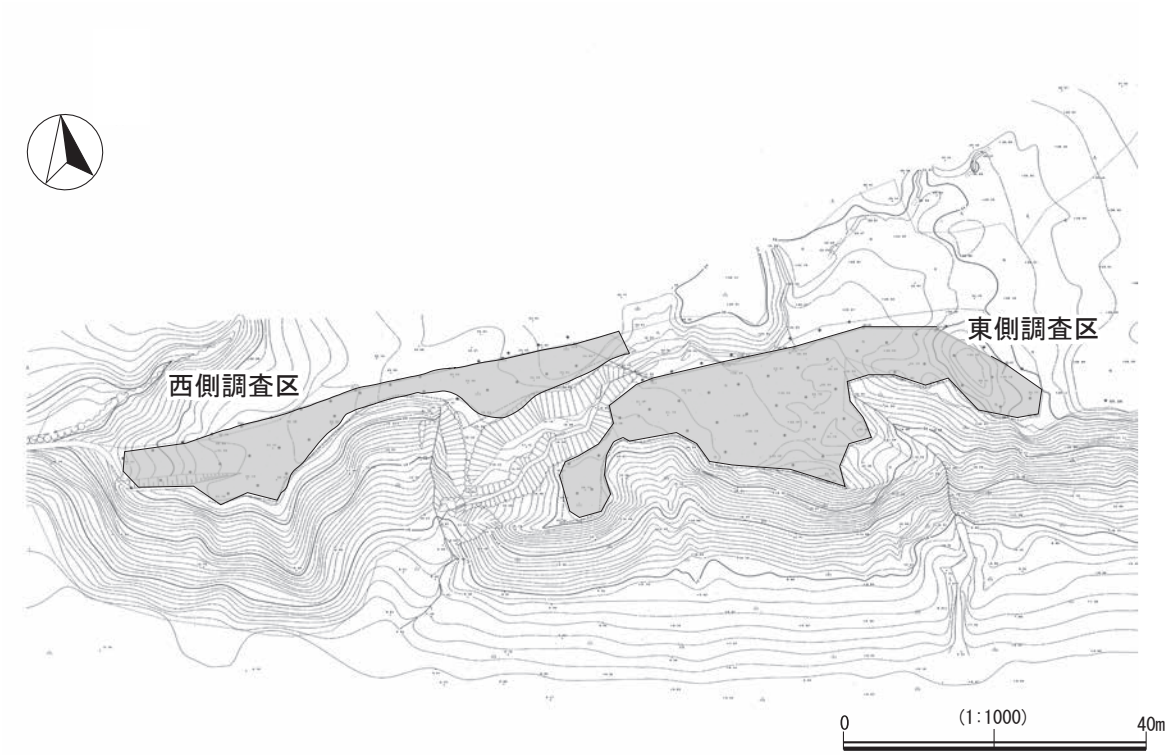
■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
H8SKP01	第209図	-	10	16	13	-	Ⅳ	01	
H8SKP02	第209図	-	17	36	20	-	Ⅳ	02	
H8SKP04	第209図	-	16	34	21	-	Ⅳ	04	
H8SKP05	第209図	-	14	16	14	-	Ⅳ	05	
H8SKP06	第209図	-	12	23	18	-	Ⅳ	06	
H8SKP07	第209図	-	19	42	20	-	Ⅳ	07	
H8SKP08	第209図	-	47	30	26	-	Ⅳ	08	

（２）南西端部（平成15・16年度調査）

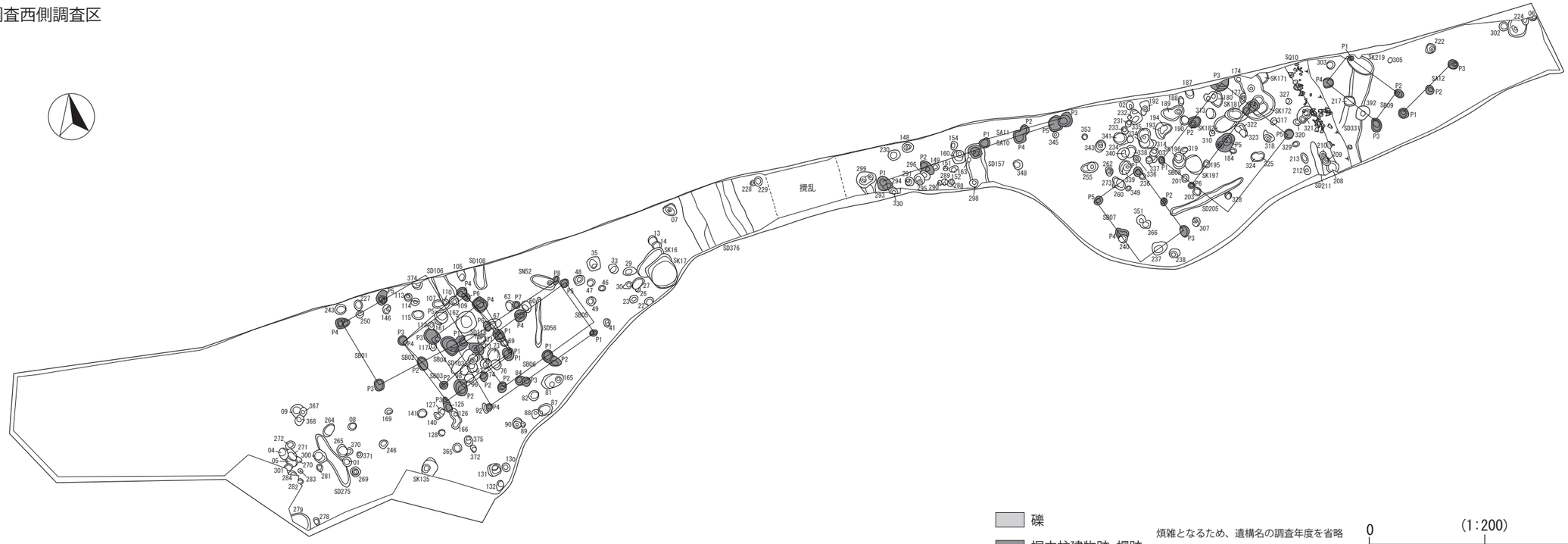
①南西端部の立地と概要

脇本城跡南西端部となり、お念堂地区の南端部に位置する。日本海に面する標高約22mの地点であり、南側は急斜面で現在の国道101号線へ至る（本調査は船川港重要港湾道路改修工事に伴う調査として実施されたが、平成22年に国道101号線となった）。対象地は遺構現状調査等においても曲輪とは位置付けられておらず、北東側から南西側へかけて緩やかに傾斜する地形である。さらに中央部には、北側に広がる丘陵部からの流水を排出するための水路が設けられている。本地点は史跡の範囲外となっており、現在では、道路改修工事も完了し、道路法面として切土され失われている地点である。しかし上述の流水量は比較的多く、現国道101号線改修以後の平成21年２月には大規模な崩落も発生している。

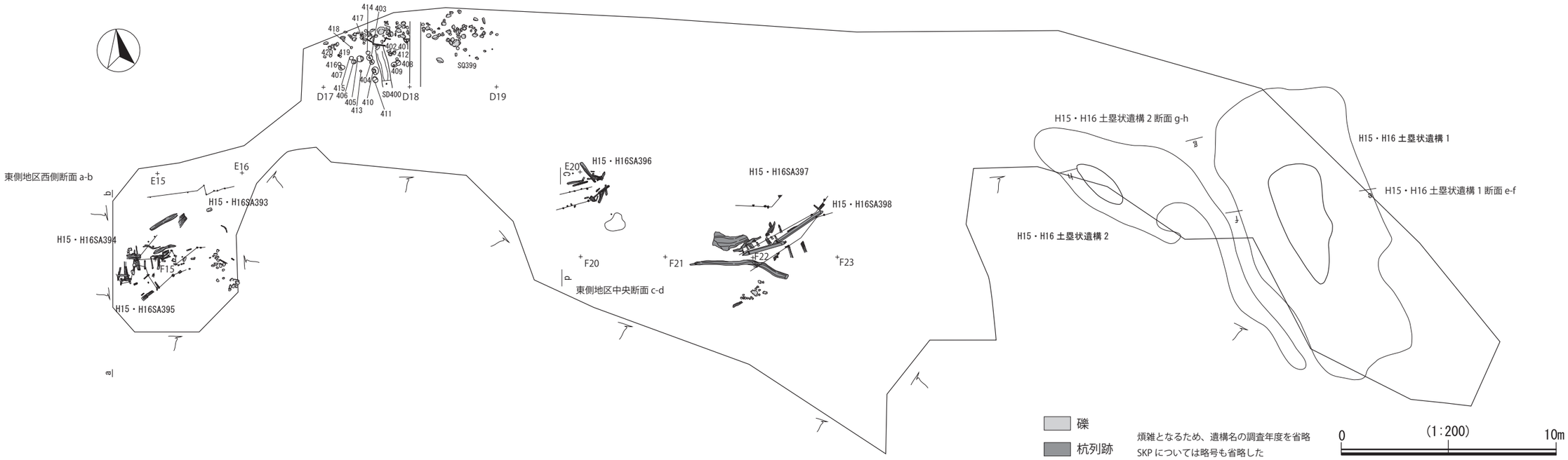


第210図　南西端部（H15・H16年度調査）調査区配置図

H15・H16調査西側調査区



H15・H16調査東側調査区



第211図　南西端部（H15・H16年度調査）調査区平面図

②検出遺構

H15・16年度調査は工事によって失われる地区を全面的に発掘調査した。調査の便宜上、上述した中央部の水路を挟んで西側を西側調査区、東側を東側調査区として分けて実施した。以下の記述もそれに従う。その結果、総計で掘立柱建物跡９軒、柱穴列・塀・柵跡９条杭列、溝跡12条、土坑10基、柱穴跡204基、焼土遺構１基、集石遺構２基、が検出された。そのほか、現況地形において、土塁状遺構が２基確認されている。

各調査区について

【西側調査区】

西側地区は中央部を通る水路を挟んで西側に位置し、標高18m ～ 24mの東西に細長い地区である。南側は急峻な斜面となって、日本海へ至る。遺構確認面は全面地山土であり、掘立柱建物跡等多くの遺構が検出された地区である。

【東側調査区】

東側地区は中央部を通る水路を挟んで東側に位置し、標高20m ～ 25mの東西の細長い調査区である。南側は急峻な斜面となって、日本海へ至る。調査区全体に４ｍごとのグリットを設定し、アルファベットと数字により名称を付している。本報告書では遺構に関係する地点において、必要に応じて記載している。遺構確認面は、地山土及び丘陵部からの崩落土であり、表土下の堆積土は最も厚い地点で3.3mに及び、過去少なくとも３度に及ぶ大規模な崩落とそれに伴う流路の変更があったことが明らかとなった。また、本調査区の堆積層は水分を多く含有する層であり、杭列等に伴う杭材や木製品、植物遺体など多くの有機質遺物が出土した。

H15・H16SB01掘立柱建物跡（第212図）

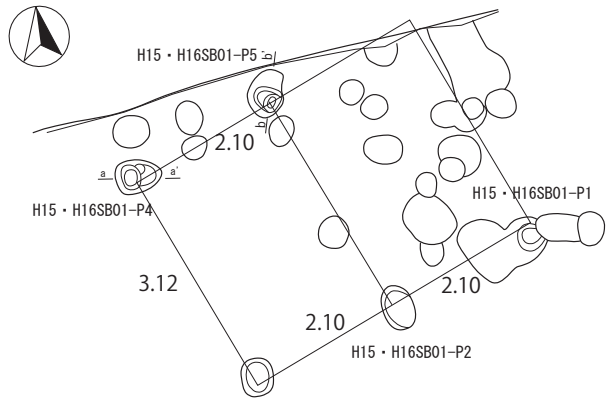
西側調査区の西側で検出された。Ｐ１～Ｐ５で構成され、Ｐ６は調査区外に想定される。確認された規模は南北１間×東西２間であり、軸線方向はN－66°－Eである。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。確認された柱間はＰ１－Ｐ２－Ｐ３が2.10m、Ｐ３－Ｐ４が3.12m、Ｐ４－Ｐ５が2.10mとなり、尺寸で表記すると、東西６尺９寸、南北10尺２寸（１尺=0.303cmで換算）の柱間寸法を持つ建物跡となる。柱穴内からの遺物の出土はなかった。

H15・H16SB02 ～ 04掘立柱建物跡（第212図）

西側調査区の西側で検出された。SB02はSB03と重複関係をもち、SB03よりは古いものの、SB03、04の一部の柱穴を共有する。Ｐ１～Ｐ６で構成され、確認された規模は南北１間×東西２間で、軸線方向はN－61°－Eである。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。確認された柱間はＰ１－Ｐ２が1.50m、Ｐ２－Ｐ３が2.00m、Ｐ３－Ｐ４が3.10m、Ｐ４－Ｐ５が2.00m、Ｐ５－Ｐ６が1.32m、Ｐ６－Ｐ１が3.12mである。柱穴内からの遺物の出土はなかった。

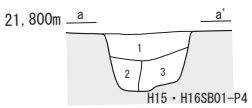
SB03はSB02と重複関係をもち、SB02よりは新しいものの、SB02の一部の柱穴を共有する。Ｐ１～Ｐ４で構成され、確認された規模は南北１間×東西１間で、軸線方向はN－54°－Eである。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。確認された柱間はＰ１－Ｐ２、Ｐ３－Ｐ４が3.12m、Ｐ２－Ｐ３、Ｐ４－Ｐ１が2.55mとなり、尺寸で表記すると、東西８尺４寸、南北10尺２寸（１

H15・H16SB01

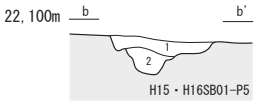


※ 平面図上の数値は
柱間寸法（単位：m）

H15・H16SB01-P4



H15・H16SB01-P5



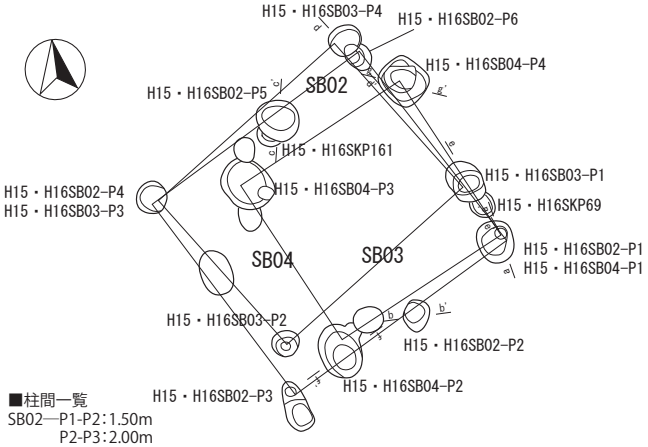
■H15・H16SB01-P4
1. 黒褐色(10YR3/1) シルト　ややしまり強　地山土ブロック20%　炭化物少量を含む
[H15・H16SB01-P4]
2. 暗褐色(10YR3/3) シルト　ややしまり強　地山土ブロック30%を含む　[H15・H16SB01-P4]
3. 褐色(10YR4/4) シルト　ややしまりあり 地山土ブロック50%を含む　[H15・H16SB01-P4]

■H15・H16SB01-P5
1. 黒褐色(10YR3/2) シルト　ややしまり強 地山土ブロック15%を含む 炭化物1%を含む
[H15・H16SB01-P5]
2. 暗褐色(10YR3/4) シルト　ややしまりあり 地山土ブロックを50%含む　[H15・H16SB01-P5]

平面図 (1:100)　0　4m

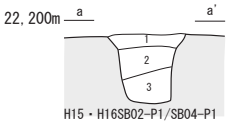
土層断面図 (1:50)　0　1m

H15・H16SB02・03・04

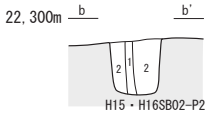


■柱間一覧
SB02―P1-P2:1.50m
P2-P3:2.00m
P3-P4:3.10m
P4-P5:2.00m
P5-P6:1.32m
P6-P1:3.12m
SB03―P1-P2:3.12m
P2-P3:2.55m
P3-P4:3.12m
P4-P1:2.55m
SB04―P1-P2:2.60m
P2-P3:2.50m
P3-P4:2.50m
P4-P1:2.44m

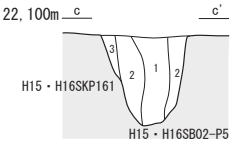
H15・H16SB02-P1/SB04-P1



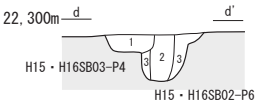
H15・H16SB02-P2



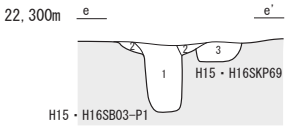
H15・H16SB02-P5/SKP161



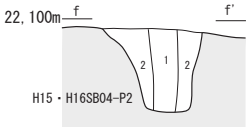
H15・H16SB02-P6/SB03-P4



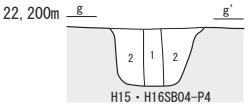
H15・H16SB03-P1/SKP69



H15・H16SB04-P2



H15・H16SB04-P4



■H15・H16SBSB02-P1/SB04-P1
1. 暗褐色(10YR3/3) シルト　ややしまりあり　地山土ブロックを20%含む [H15・H16SB02-P1/SB04-P1]
2. 黒褐色(10YR3/1) シルト　ややしまりあり 地山土ブロックを30%含む [H15・H16SB02-P1/SB04-P1]
3. 褐色(10YR4/4) シルト　ややしまり弱 地山土ブロックを50%含む [H15・H16SB02-P1/SB04-P1]

■H15・H16SB02-P2
1. 褐色(10YR4/4) シルト～粘質　しまり強 地山土ブロックを50%含む [H15・H16SB02-P2]
2. 黒褐色(10YR3/2) シルト　ややしまり弱 地山土ブロック5%を含む [H15・H16SB02-P2]

■H15・H16SB02-P5/SKP161
1. 黒褐色(10YR3/2) シルト　ややしまりあり 地山土ブロック10%を含む 炭化物少量を含む[H15・H16SB02-P5]
2. 褐色(10YR4/4) シルト～粘質　ややしまりあり 地山土ブロックを50%含む [H15・H16SB02-P5]
3. 暗褐色(10YR3/3) シルト　ややしまり強　地山土ブロックを15%含む　炭化物少量を含む [H15・H16SKP161]

■H15・H16SB02-P6/ SB03-P4
1. 暗褐色(10YR3/3) 砂質　ややしまりあり　地山土小ブロックを10%含む 炭化物極少量を含む [H15・H16SB03-P4]
2. にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質～シルト ややしまりあり 地山土ブロック50%を含む　[H15・H16SB02-P6]
3. にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質 ややしまり強 地山土ブロック30%を含む 鉄分多量　[H15・H16SB02-P6]

■H15・H16SB03-P1/SKP69
1. 黒褐色(10YR3/2) シルト　ややしまりあり 地山土小ブロック20%を含む　[H15・H16SB03-P1]
2. 暗褐色(10YR3/4) シルト　ややしまり強 地山土ブロックを50%含む　[H15・H16SB03-P1]
3. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト～粘質 しまり強 地山土ブロック50%を含む　[H15・H16SKP69]

■H15・H16SB04-P2
1. 黒褐色(10YR3/2) シルト　ややしまりあり 地山土小ブロック3%を含む 炭化物極少量を含む　[H15・H16SB04-P2]
2. 暗褐色(10YR3/4) シルト　ややしまり強 地山土ブロックを30%含む 炭化物1%を含む　[H15・H16SB04-P2]

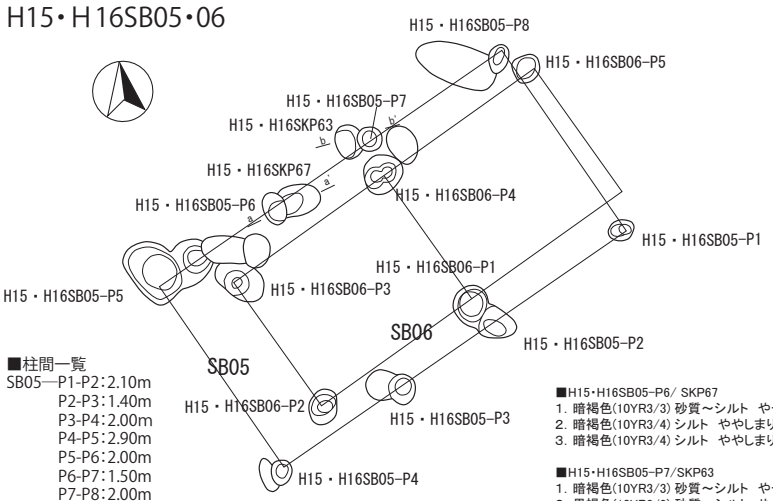
■H15・H16SB04-P4
1. 黒褐色(10YR3/2) シルト～粘質　ややしまり強 地山土小ブロック5%を含む　[H15・H16SB04-P4]
2. 暗褐色(10YR3/4) シルト　ややしまりあり 地山土小ブロックを20%含む 炭化物少量を含む[H15・H16SB04-P4]

平面図 (1:100)　0　4m

土層断面図 (1:50)　0　1m

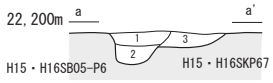
第212図　H15・H16SB01・02・03・04

H15・H16SB05・06

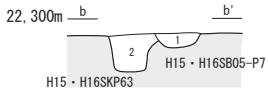


■柱間一覧
SB05―P1-P2:2.10m
P2-P3:1.40m
P3-P4:2.00m
P4-P5:2.90m
P5-P6:2.00m
P6-P7:1.50m
P7-P8:2.00m
P8-P1:2.90m
SB06―P1-P2:2.44m
P2-P3:2.00m
P3-P4:2.44m
P4-P5:2.44m

H15・H16SB05-P6/SKP67



H15・H16SB05-P7/SKP63

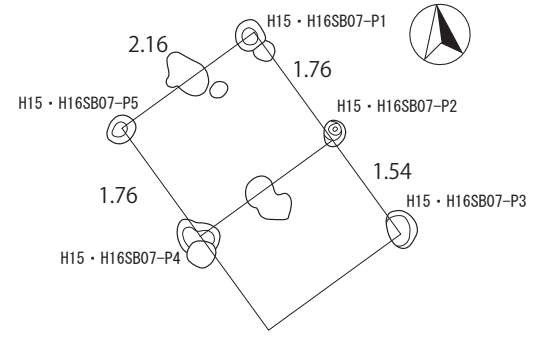


■H15・H16SB05-P6/ SKP67
1. 暗褐色(10YR3/3) 砂質～シルト　ややしまりあり　地山土小ブロックを10%含む　[H15・H16SB05-P6]
2. 暗褐色(10YR3/4) シルト　ややしまりあり 地山土小ブロックを5%含む 炭化物少量を含む[H15・H16SB05-P6]
3. 暗褐色(10YR3/4) シルト　ややしまり強　地山土小ブロックを20%含む 炭化物極少量を含む　[H15・H16SKP67]

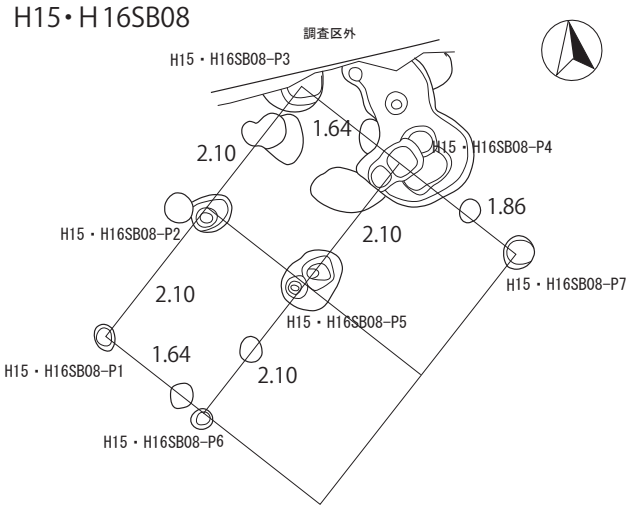
■H15・H16SB05-P7/SKP63
1. 暗褐色(10YR3/3) 砂質～シルト　ややしまり強　地山土ブロックを15%含む　[H15・H16SB05-P6]
2. 黒褐色(10YR3/2) 砂質～シルト　ややしまり強 地山土ブロック10%を含む 炭化物極少量を含む[H15・H16SKP63]

平面図 (1:100) 0 4m　土層断面図 (1:50) 0 1m

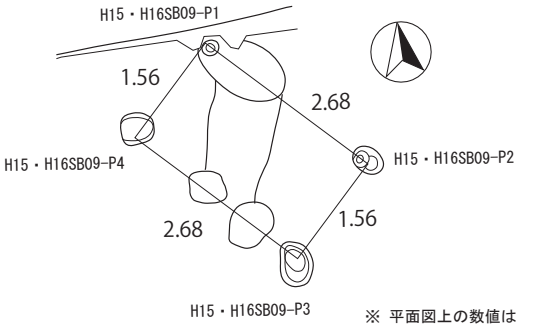
H15・H16SB07



H15・H16SB08

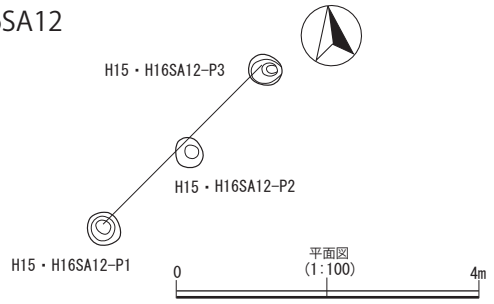


H15・H16SB09

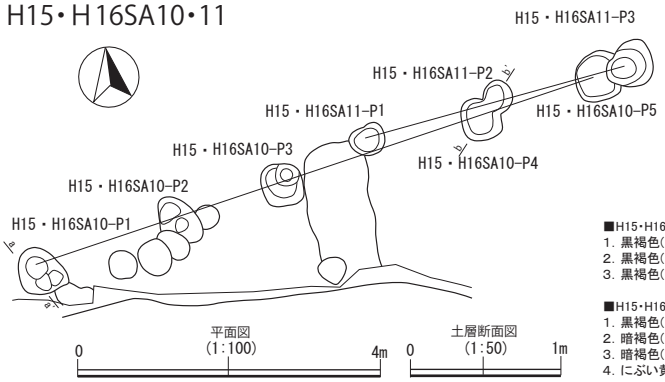


※ 平面図上の数値は
柱間寸法（単位：m）

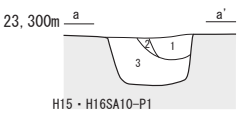
H15・H16SA12



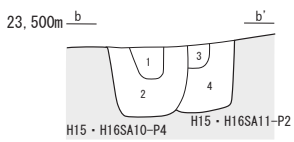
H15・H16SA10・11



H15・H16SA10-P1



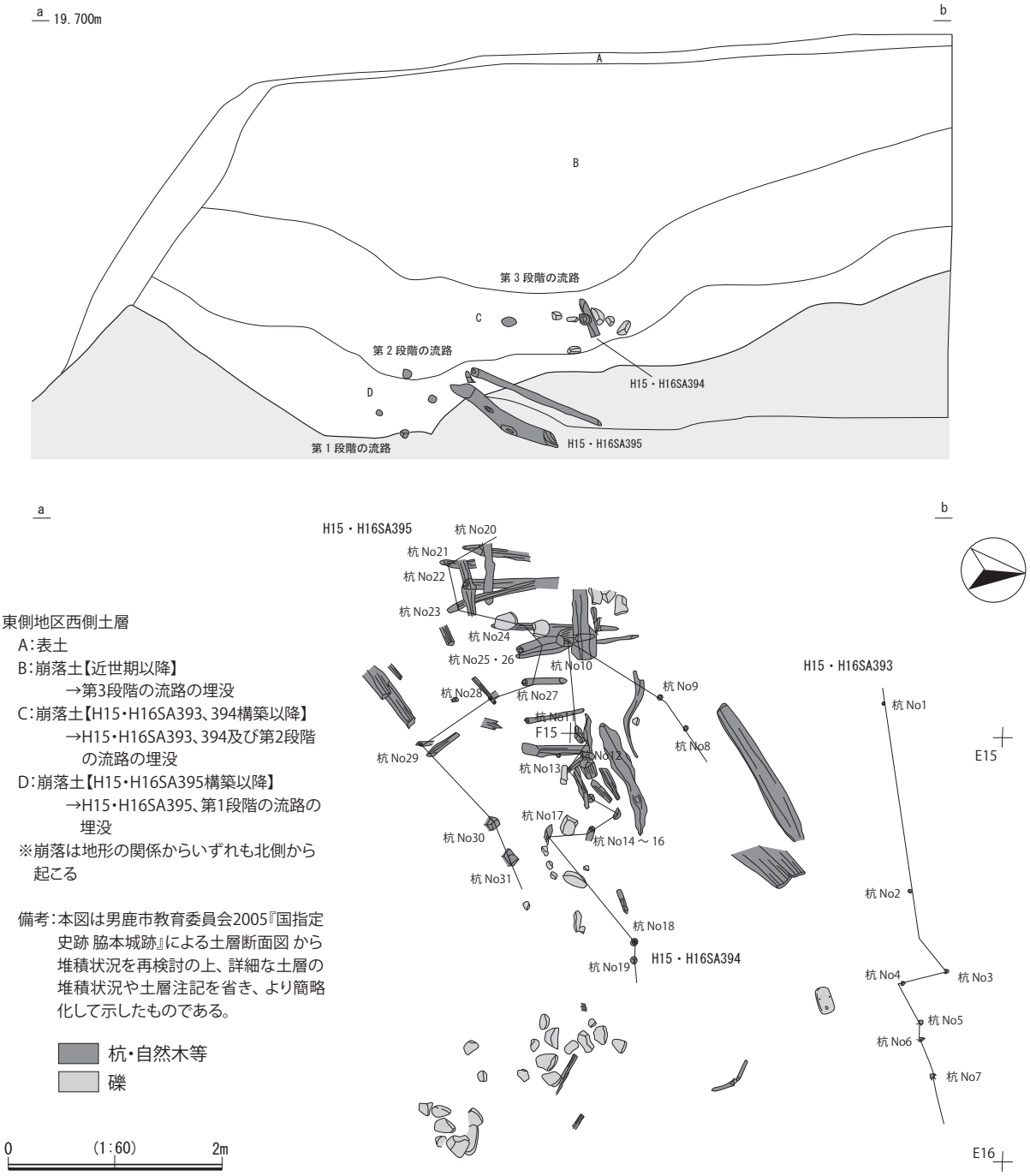
H15・H16SA10-P4/SA11-P2



■H15・H16SA10-P1
1. 黒褐色(10YR3/2) 砂質～シルト　ややしまりあり 褐色(10YR4/4)ブロックを20%含む [H15・H16SA10-P1]
2. 黒褐色(10YR3/2) シルト　ややしまりあり 地山土小ブロック50%を含む　[H15・H16SA10-P1]
3. 黒褐色(10YR3/1) シルト　ややしまりあり 地山土ブロックを20%含む 炭化物1%を含む [H15・H16SA10-P1]

■H15・H16SA10-P4/ SA11-P2
1. 黒褐色(10YR3/2) シルト　ややしまりあり 地山土ブロック10%を含む [H15・H16SA10-P4]
2. 暗褐色(10YR3/4) シルト　ややしまり弱 地山土ブロックを50%含む [H15・H16SA10-P4]
3. 暗褐色(10YR3/3) シルト　ややしまりあり　地山土小ブロックを20%含む [H15・H16SA11-P2]
4. にぶい黄褐色(10YR4/3) シルト ややしまり強 地山土ブロックを50%含む 小砂利まじる [H15・H16SA11-P2]

第213図　H15・H16SB05・06・07・08・09・SA10・11・12



第214図　H15・H16SA394・395と西側土層説明図

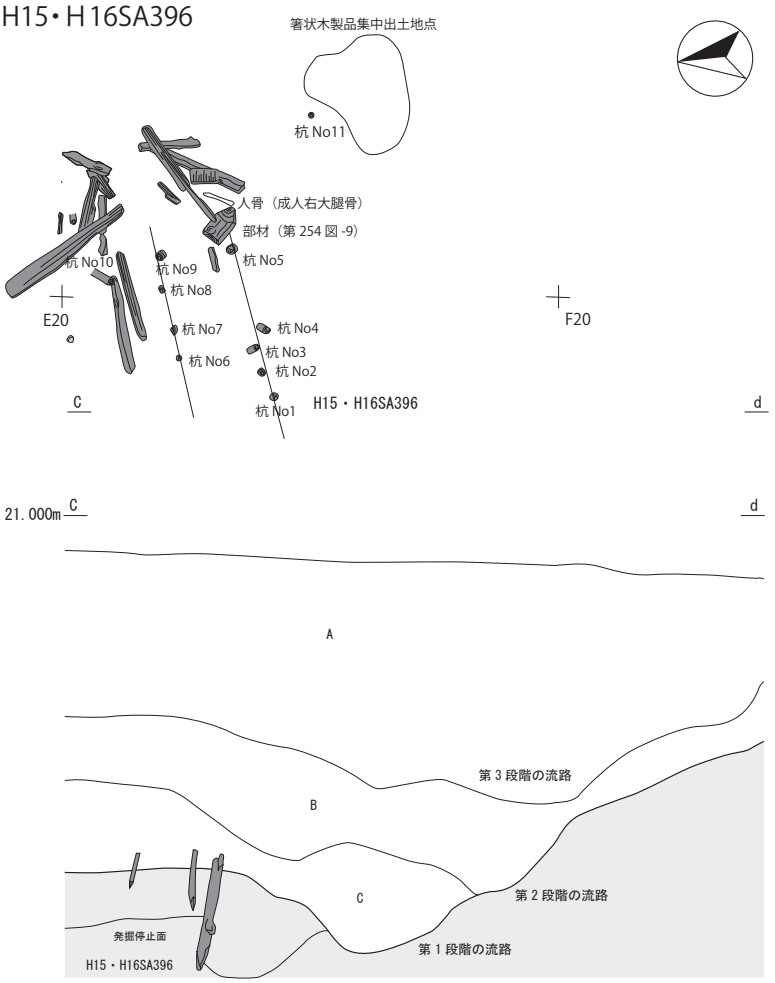
尺=0.303cmで換算）の柱間寸法を持つ建物跡となる。柱穴内からの遺物の出土はなかった。

SB04はSB02と一部の柱穴を共有する。Ｐ１～Ｐ４で構成され、確認された規模は南北１間×東西１間で、軸線方向はN－64°－Eである。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。確認された柱間はＰ１－Ｐ２、Ｐ３－Ｐ４が2.60m、Ｐ２－Ｐ３、Ｐ４－Ｐ１が2.50mとなり、尺寸で表記すると、東西８尺５寸、南北８尺２寸（１尺=0.303cmで換算）の柱間寸法を持つ建物跡となる。柱穴内からの遺物の出土はなかった。

H15・H16SB05～06掘立柱建物跡（第213図）

西側調査区の西側で検出された。SB05とSB06はそれぞれＰ２とＰ１重複関係をもつが、明らかには

H15・H16SA396

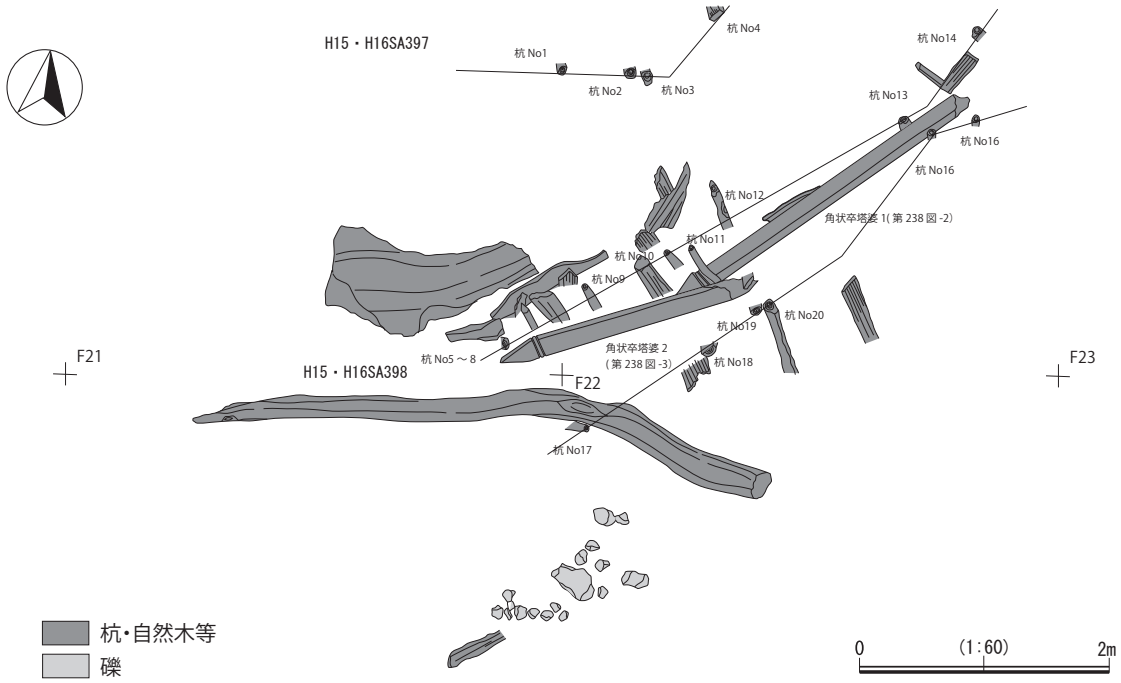


東側地区中央土層
A：崩落土【近世期以降】
→第3段階の流路の埋没
B：崩落土　→第2段階の流路の埋没
C：崩落土【H15・H16SA396構築以降】
→H15・H16SA396、第1段階の流路の埋没
※崩落は地形の関係からいずれもは北側から起こる

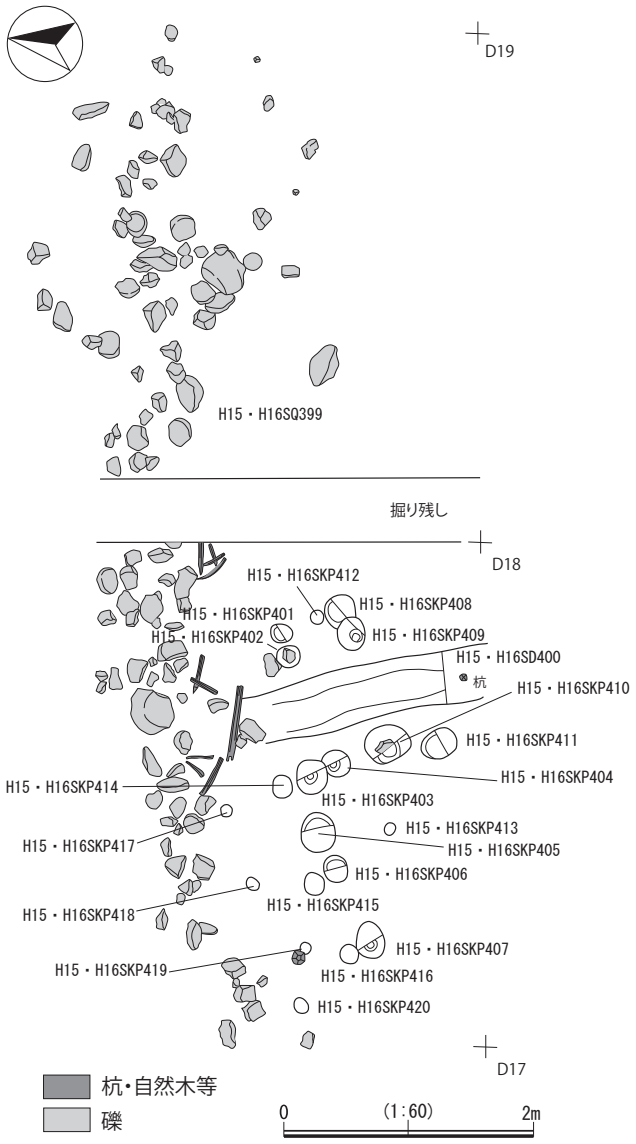
備考：本図は男鹿市教育委員会2005『国指定史跡脇本城跡』による土層断面図から堆積状況を再検討の上、詳細な土層の堆積状況や土層注記を省き、より簡略化して示したものである。

杭・自然木等
礫
0　(1:60)　2m

H15・H16SA397・SA398



第215図　H15・H16SA396 ～ 398と中央土層説明図



第216図　東側地区北西部遺構検出状況

できなかった。SB05はＰ１～Ｐ８で構成され、確認された規模は南北１間×東西３間で、軸線方向はN－63°－Eである。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。確認された柱間はＰ１－Ｐ２、Ｐ７－Ｐ８が2.10m、Ｐ２－Ｐ３が1.40m、Ｐ３－Ｐ４、Ｐ５－Ｐ６が2.00m、Ｐ６－Ｐ７が1.50mとなる。柱穴内からの遺物の出土はなかった。

SB06はＰ１～Ｐ５で構成されるが、南東方向にさらに１基の柱穴の存在が予測されたが、検出できなかった。確認された規模は南北１間×東西２間で、軸線方向はN－62°－Eである。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。確認された柱間はＰ１－Ｐ２、Ｐ３－Ｐ４－Ｐ５が2.44m、Ｐ２－Ｐ３が2.00m、となり、尺寸で表記すると、東西８尺、南北６尺６寸（１尺=0.303cmで換算）の柱間寸法を持つ建物跡となる。柱穴内からの遺物の出土はなかった。

H15・H16SB07掘立柱建物跡（第213図）

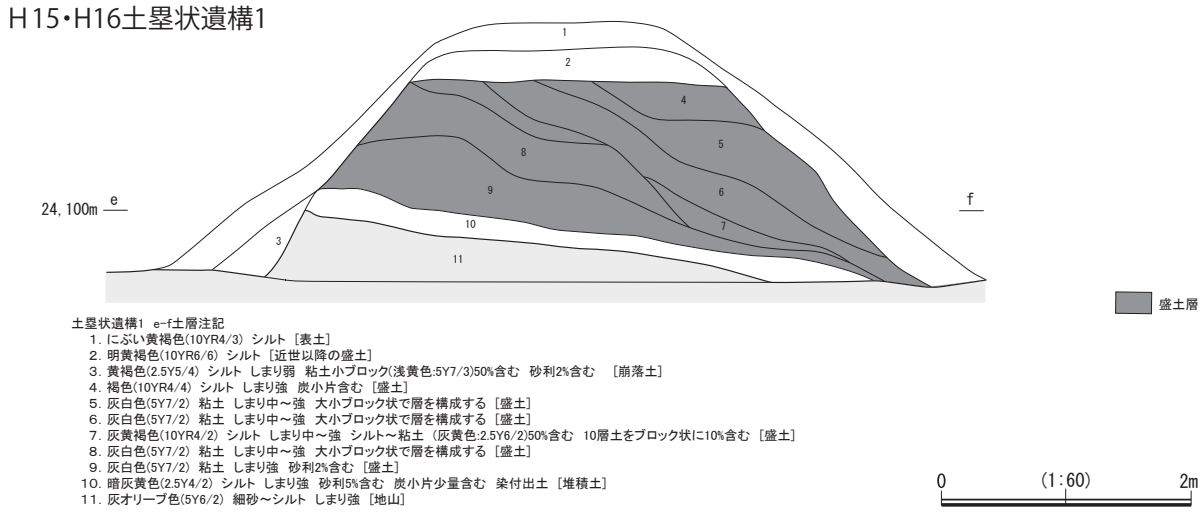
西側調査区の東側で検出された。Ｐ１～Ｐ５で構成され、南西側にさらに１基の柱穴の存在が予測されたが、検出できなかった。確認された規模は南北２間×東西１間で、軸線方向はN－29°－Wである。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。確認された柱間はＰ１－Ｐ２、Ｐ４－Ｐ５が1.76m、Ｐ２－Ｐ３が1.54m、Ｐ５－Ｐ１が2.16mとなる。柱穴内からの遺物の出土はなかった。

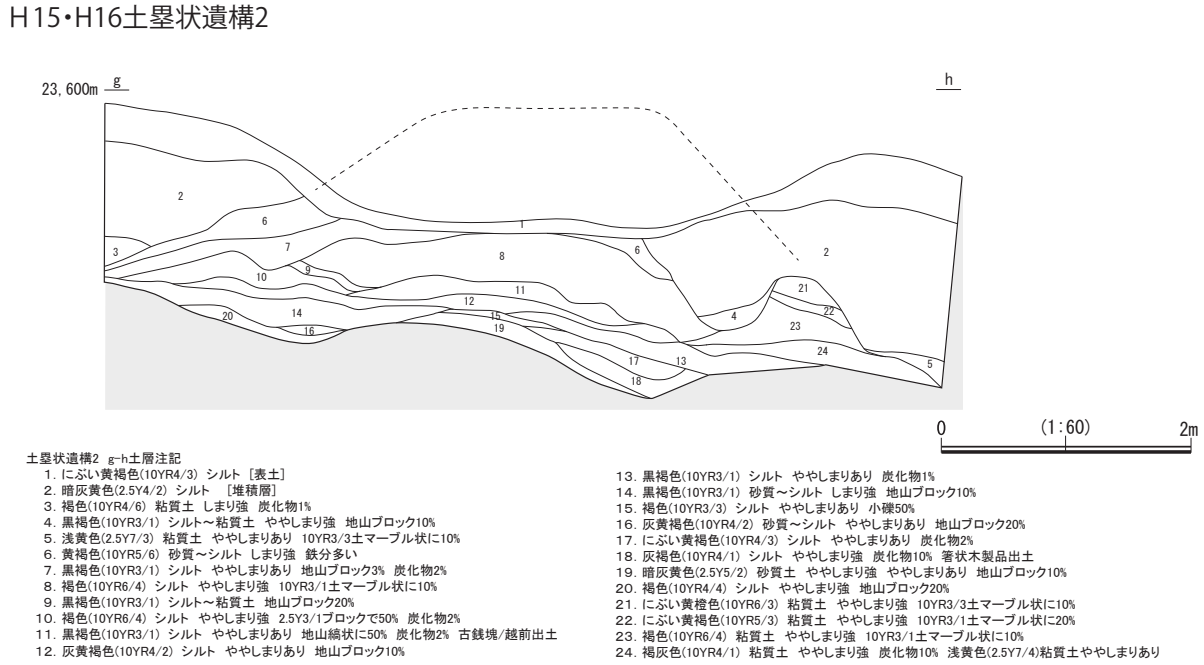
H15・H16SB08掘立柱建物跡（第213図）

西側調査区の東側で検出された。Ｐ１～Ｐ７で構成され、南西側にさらに２基の柱穴の存在が予測されたが、検出できなかった。確認された規模は南北２間×東西２間で、軸線方向はN－43°－Eである。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。確認された柱間はＰ１－Ｐ２－Ｐ３、Ｐ４－Ｐ５－Ｐ６が2.10m、Ｐ１－Ｐ６、Ｐ３－Ｐ４が1.64m、Ｐ４－Ｐ７が1.86mとなる。柱穴内からの遺物の出土はなかった。

H15・H16SB09掘立柱建物跡（第213図）

西側調査区の東側で検出された。Ｐ１～Ｐ４で構成され、確認された規模は南北１間×東西１間で、軸線方向はN－48°－Wである。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載し





第217図　H15・H16土塁状遺構1・2断面図

た。確認された柱間はＰ１－Ｐ２、Ｐ３－Ｐ４が2.68m、Ｐ４－Ｐ１、Ｐ３－Ｐ２が1.56mとなり、尺寸で表記すると、東西８尺８寸、南北５尺１寸（１尺=0.303cmで換算）の柱間寸法を持つ建物跡となる。柱穴内からの遺物の出土はなかった。

H15・H16SA10・11柱穴列跡（第213図）

西側調査区中央部のやや東側で検出された。SA10とSA11は重複関係をもち、SA10が新しい。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。SA10はＰ１～Ｐ５で構成され、柱間はSA10がＰ１－Ｐ２が2.00m、Ｐ２－Ｐ３が1.50m、Ｐ３－Ｐ４が2.20m、Ｐ４－Ｐ５が1.60mである。SA11はＰ１～Ｐ３で構成され、柱間は1.80mである。柱穴内からの遺物の出土はなかった。

H15・H16SA12柱穴列跡（第213図）

西側調査区東側のSB09南西側で検出された。各柱穴の規模は煩雑になるため、遺構一覧表にまとめて記載した。Ｐ１～Ｐ３で構成され、柱間は1.80mである。SB09とほぼ同軸をと

第74表　南西端部（H15・H16年度調査）遺構一覧表①

■掘立柱建物跡

遺構番号	挿図	調査区	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	建物方位	概報	概報遺構番号	備考
H15・16SB01-P1	第211図	西側	81	54	-	-	N66E	脇本城跡	SB01-P1	
H15・16SB01-P2			19	60	40			脇本城跡	SB01-P2	
H15・16SB01-P3			24	48	38			脇本城跡	SB01-P3	
H15・16SB01-P4			45	57	47			脇本城跡	SB01-P4	
H15・16SB01-P5			19	56	45			脇本城跡	SB01-P5	
H15・16SB02-P1	第211図	西側	57	53	47	-	N61E	脇本城跡	SB02-P1	H15・16SB04-P1と共有
H15・16SB02-P2			40	34	33			脇本城跡	SB02-P2	
H15・16SB02-P3			40	(32)	42			脇本城跡	SB02-P3	
H15・16SB02-P4			45	41	40			脇本城跡	SB02-P4	H15・16SB03-P3と共有
H15・16SB02-P5			46	53	50			脇本城跡	SB02-P5	
H15・16SB02-P6			52	42	(30)			脇本城跡	SB02-P6	
H15・16SB03-P1	第211図	西側	43	(56)	47	-	N54E	脇本城跡	SB03-P1	
H15・16SB03-P2			51	35	28			脇本城跡	SB03-P2	
H15・16SB03-P3			11	41	40			脇本城跡	SB03-P3	H15・16SB02-P4と共有
H15・16SB03-P4			33	43	(37)			脇本城跡	SB03-P4	
H15・16SB04-P1	第211図	西側	34	53	47	-	N64E	脇本城跡	SB04-P1	H15・16SB02-P1と共有
H15・16SB04-P2			56	71	54			脇本城跡	SB04-P2	
H15・16SB04-P3			19	70	57			脇本城跡	SB04-P3	
H15・16SB04-P4			45	61	59			脇本城跡	SB04-P4	
H15・16SB05-P1	第211図	西側	48	34	23	-	N63E	脇本城跡	SB05-P1	
H15・16SB05-P2			89	(43)	40			脇本城跡	SB05-P2	
H15・16SB05-P3			62	36	(32)			脇本城跡	SB05-P3	
H15・16SB05-P4			36	34	(24)			脇本城跡	SB05-P4	
H15・16SB05-P5			50	87	61			脇本城跡	SB05-P5	
H15・16SB05-P6			18	37	(28)			脇本城跡	SB05-P6	
H15・16SB05-P7			98	32	(30)			脇本城跡	SB05-P7	
H15・16SB05-P8			17	(40)	27			脇本城跡	SB05-P8	
H15・16SB06-P1	第211図	西側	109	47	(41)	-	N62E	脇本城跡	SB06-P1	
H15・16SB06-P2			40	43	34			脇本城跡	SB06-P2	
H15・16SB06-P3			35	70	44			脇本城跡	SB06-P3	
H15・16SB06-P4			32	50	45			脇本城跡	SB06-P4	
H15・16SB06-P5			28	35	31			脇本城跡	SB06-P5	
H15・16SB07-P1	第211図	西側	34	(37)	34	-	H29W	脇本城跡	SB07-P1	
H15・16SB07-P2			61	33	25			脇本城跡	SB07-P2	
H15・16SB07-P3			20	49	37			脇本城跡	SB07-P3	
H15・16SB07-P4			18	56	(40)			脇本城跡	SB07-P4	
H15・16SB07-P5			18	39	31			脇本城跡	SB07-P5	
H15・16SB08-P1	第211図	西側	14	31	23	-	N43E	脇本城跡	SB08-P1	
H15・16SB08-P2			61	52	43			脇本城跡	SB08-P2	
H15・16SB08-P3			19	(84)	(38)			脇本城跡	SB08-P3	
H15・16SB08-P4			52	(74)	(48)			脇本城跡	SB08-P4	
H15・16SB08-P5			49	86	65			脇本城跡	SB08-P5	
H15・16SB08-P6			15	28	21			脇本城跡	SB08-P6	
H15・16SB08-P7			14	42	41			脇本城跡	SB08-P7	
H15・16SB09-P1	第211図	西側	52	20	20	-	N48W	脇本城跡	SB09-P1	SA12と同軸のため関連性あり
H15・16SB09-P2			32	44	30			脇本城跡	SB09-P2	
H15・16SB09-P3			20	59	42			脇本城跡	SB09-P3	
H15・16SB09-P4			57	46	40			脇本城跡	SB09-P4	

■柱穴列・塀跡

遺構番号	挿図	調査区	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
H15・16SA10-P1	第211図	西側	34	-	-	-	脇本城跡	SA10-P1	
H15・16SA10-P2			54	72	48		脇本城跡	SA10-P2	
H15・16SA10-P3			33	(56)	(54)		脇本城跡	SA10-P3	
H15・16SA10-P4			50	51	50		脇本城跡	SA10-P4	
H15・16SA10-P5			26	60	(41)		脇本城跡	SA10-P5	
H15・16SA11-P1	第211図	西側	26	(40)	35	-	脇本城跡	SA11-P1	
H15・16SA11-P2			48	35	(29)		脇本城跡	SA11-P2	
H15・16SA11-P3			15	(61)	59		脇本城跡	SA11-P3	
H15・16SA12-P1	第211図	西側	19	45	44	-	脇本城跡	SA12-P1	SB09と同軸のため関連性あり
H15・16SA12-P2			31	35	39		脇本城跡	SA12-P2	
H15・16SA12-P3			18	41	38		脇本城跡	SA12-P3	
H15・16SA393	第211・214図	東側	-	-	-	-	脇本城跡	杭列1	杭遺存

第75表　南西端部（H15・H16年度調査）遺構一覧表②

遺構番号	挿図	調査区	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
H15・16SA394	第211・214図	東側	-	-	-	-	脇本城跡	杭列2	杭遺存
H15・16SA395	第211・214図	東側	-	-	-	-	脇本城跡	杭列3	杭遺存
H15・16SA396	第211・215図	東側	-	-	-	部材（第254図-9） 成人右大腿骨	脇本城跡	杭列4	杭遺存
H15・16SA397	第211・215図	東側	-	-	-	-	脇本城跡	杭列5	杭遺存
H15・16SA398	第211・215図	東側	-	-	-	角状塔婆（第238図-2・3）	脇本城跡	杭列6	杭遺存

■溝跡

遺構番号	挿図	調査区	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
H15・16SD56	第211図	西側	16	24	-	脇本城跡	-	
H15・16SD103	第211図	西側	5	32	-	脇本城跡	-	
H15・16SD106	第211図	西側	29	63	-	脇本城跡	-	
H15・16SD108	第211図	西側	9	54	-	脇本城跡	-	
H15・16SD118	第211図	西側	8	32	-	脇本城跡	-	
H15・16SD157	第211図	西側	18	82		脇本城跡	-	
H15・16SD205	第211図	西側	4	36	-	脇本城跡	-	
H15・16SD211	第211図	西側	6	27	-	脇本城跡	-	
H15・16SD275	第211図	西側	9	56	-	脇本城跡	-	
H15・16SD331	第211図	西側	29	96	-	脇本城跡	SD331	
H15・16SD376	第211図	西側	30	242	-	脇本城跡	SD376	
H15・16SD400	第211・216図	東側	27	44	-	脇本城跡	-	

■土坑

遺構番号	挿図	調査区	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
H15・16SK16	第211図	西側	7	149	-	-	脇本城跡	SK16	
H15・16SK17	第211図	西側	19	(134)	120	-	脇本城跡	SK17	
H15・16SK135	第211図	西側	44	(80)	62	-	脇本城跡	-	
H15・16SK171	第211図	西側	35	-	-	-	脇本城跡	-	
H15・16SK172	第211図	西側	16	(186)	-	-	脇本城跡	-	
H15・16SK181	第211図	西側	46	100	59	-	脇本城跡	181	
H15・16SK182	第211図	西側	12	(101)	64	-	脇本城跡	SK182	
H15・16SK196	第211図	西側	36	63	54	-	脇本城跡	-	
H15・16SK197	第211図	西側	9	82	75	-	脇本城跡	-	
H15・16SK219	第211図	西側	29	(128)	74	-	脇本城跡	219	

■柱穴跡

遺構番号	挿図	調査区	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
H15・16SKP01	第211図	西側	45	37	(32)	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP02	第211図	西側	17	35	34	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP03	第211図	西側	6	38	-	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP04	第211図	西側	37	(50)	(40)	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP05	第211図	西側	-	(49)	-	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP06	第211図	西側	-	(38)	-	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP07	第211図	西側	43	50	50	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP08	第211図	西側	20	40	32	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP09	第211図	西側	-	53	(46)	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP13	第211図	西側	53	(40)	38	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP14	第211図	西側	15	38	(25)	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP22	第211図	西側	21	37	(23)	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP23	第211図	西側	18	33	25	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP26	第211図	西側	10	(23)	(11)	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP27	第211図	西側	19	59	33	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP29	第211図	西側	20	55	29	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP30	第211図	西側	14	39	25	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP33	第211図	西側	23	40	34	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP35	第211図	西側	47	52	(44)	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP41	第211図	西側	20	34	26	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP46	第211図	西側	14	29	26	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP47	第211図	西側	18	35	30	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP48	第211図	西側	20	46	36	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP49	第211図	西側	48	40	36	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP60	第211図	西側	20	53	33	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP63	第211図	西側	26	42	(28)	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP67	第211図	西側	12	(50)	36	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP69	第211図	西側	12	34	31	-	脇本城跡	-	
H15・16SKP71	第211図	西側	71	42	(36)	-	脇本城跡	-	

第76表　南西端部（H15・H16年度調査）遺構一覧表③

遺構番号	挿図	調査区	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
H15･16SKP73	第211図	西側	11	52	(56)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP74	第211図	西側	59	41	41	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP76	第211図	西側	52	44	35	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP81	第211図	西側	20	56	-	-	脇本城跡	81	
H15･16SKP82	第211図	西側	41	40	37	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP84	第211図	西側	40	34	(32)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP87	第211図	西側	92	(62)	46	-	脇本城跡	87	
H15･16SKP88	第211図	西側	57	36	(29)	-	脇本城跡	88	
H15･16SKP89	第211図	西側	21	23	(21)	-	脇本城跡	89	
H15･16SKP90	第211図	西側	21	(32)	38	-	脇本城跡	90	
H15･16SKP92	第211図	西側	10	48	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP96	第211図	西側	18	41	30	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP97	第211図	西側	45	40	(37)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP98	第211図	西側	11	(34)	(32)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP99	第211図	西側	31	(38)	33	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP105	第211図	西側	49	(40)	32	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP107	第211図	西側	24	34	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP109	第211図	西側	28	40	36	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP110	第211図	西側	46	-	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP112	第211図	西側	12	(32)	29	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP113	第211図	西側	33	35	33	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP114	第211図	西側	4	37	31	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP115	第211図	西側	25	51	37	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP117	第211図	西側	46	31	(27)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP125	第211図	西側	12	(36)	30	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP126	第211図	西側	50	(40)	34	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP127	第211図	西側	16	30	(20)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP128	第211図	西側	40	31	30	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP130	第211図	西側	22	37	33	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP131	第211図	西側	67	55	50	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP132	第211図	西側	33	46	29	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP140	第211図	西側	8	30	(26)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP141	第211図	西側	40	43	33	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP146	第211図	西側	37	39	35	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP148	第211図	西側	67	49	37	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP149	第211図	西側	12	28	27	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP151	第211図	西側	21	20	18	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP152	第211図	西側	17	38	24	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP154	第211図	西側	47	32	29	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP160	第211図	西側	47	55	50	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP161	第211図	西側	44	34	(23)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP162	第211図	西側	14	97	83	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP163	第211図	西側	22	(21)	(18)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP165	第211図	西側	36	46	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP166	第211図	西側	32	54	28	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP169	第211図	西側	39	30	24	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP174	第211図	西側	38	-	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP177	第211図	西側	13	43	20	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP180	第211図	西側	50	78	62	-	脇本城跡	180	
H15･16SKP184	第211図	西側	16	27	21	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP187	第211図	西側	10	(26)	32	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP188	第211図	西側	11	36	24	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP189	第211図	西側	15	97	50	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP190	第211図	西側	39	37	34	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP192	第211図	西側	38	42	36	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP193	第211図	西側	24	-	-	-	脇本城跡	193	
H15･16SKP194	第211図	西側	54	(55)	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP195	第211図	西側	11	33	26	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP201	第211図	西側	31	31	28	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP203	第211図	西側	17	32	31	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP208	第211図	西側	30	52	47	-	脇本城跡	208	
H15･16SKP209	第211図	西側	21	(34)	32	-	脇本城跡	-	

第77表　南西端部（H15・H16年度調査）遺構一覧表④

遺構番号	挿図	調査区	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
H15･16SKP210	第211図	西側	22	(32)	26	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP212	第211図	西側	29	36	29	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP213	第211図	西側	10	45	23	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP217	第211図	西側	24	49	44	-	脇本城跡	217	
H15･16SKP222	第211図	西側	43	46	39	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP224	第211図	西側	90	82	(64)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP227	第211図	西側	27	40	32	-	脇本城跡	324	
H15･16SKP228	第211図	西側	20	24	12	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP229	第211図	西側	20	35	31	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP230	第211図	西側	21	48	41	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP231	第211図	西側	11	26	24	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP232	第211図	西側	15	61	50	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP233	第211図	西側	13	32	14	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP234	第211図	西側	12	27	26	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP236	第211図	西側	10	(25)	25	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP237	第211図	西側	27	67	48	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP238	第211図	西側	51	43	36	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP240	第211図	西側	20	40	(34)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP243	第211図	西側	46	45	40	-	脇本城跡	243	
H15･16SKP246	第211図	西側	31	37	34	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP250	第211図	西側	18	31	29	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP255	第211図	西側	66	73	39	-	脇本城跡	255	
H15･16SKP260	第211図	西側	33	41	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP262	第211図	西側	55	42	31	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP264	第211図	西側	22	62	43	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP265	第211図	西側	53	51	42	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP269	第211図	西側	38	40	38	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP270	第211図	西側	-	(22)	(18)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP271	第211図	西側	46	(57)	(37)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP272	第211図	西側	40	(39)	33	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP273	第211図	西側	78	-	28	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP278	第211図	西側	37	31	21	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP279	第211図	西側	51	(70)	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP281	第211図	西側	33	34	24	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP282	第211図	西側	26	(24)	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP283	第211図	西側	10	22	18	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP284	第211図	西側	18	(40)	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP288	第211図	西側	29	30	24	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP289	第211図	西側	38	24	22	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP290	第211図	西側	18	20	16	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP291	第211図	西側	43	39	35	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP293	第211図	西側	31	-	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP294	第211図	西側	20	-	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP295	第211図	西側	31	44	(40)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP296	第211図	西側	27	48	(28)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP298	第211図	西側	12	(38)	(31)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP299	第211図	西側	37	(93)	88	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP300	第211図	西側	74	58	(50)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP301	第211図	西側	18	32	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP302	第211図	西側	34	37	37	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP303	第211図	西側	40	36	34	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP305	第211図	西側	18	21	19	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP307	第211図	西側	20	40	31	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP310	第211図	西側	21	26	22	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP313	第211図	西側	56	43	41	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP314	第211図	西側	32	33	(32)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP317	第211図	西側	26	29	27	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP318	第211図	西側	36	(39)	(36)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP319	第211図	西側	25	32	26	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP320	第211図	西側	48	30	(24)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP321	第211図	西側	82	78	60	-	脇本城跡	321	
H15･16SKP322	第211図	西側	34	45	-	-	脇本城跡	322	

第78表　南西端部（H15・H16年度調査）遺構一覧表⑤

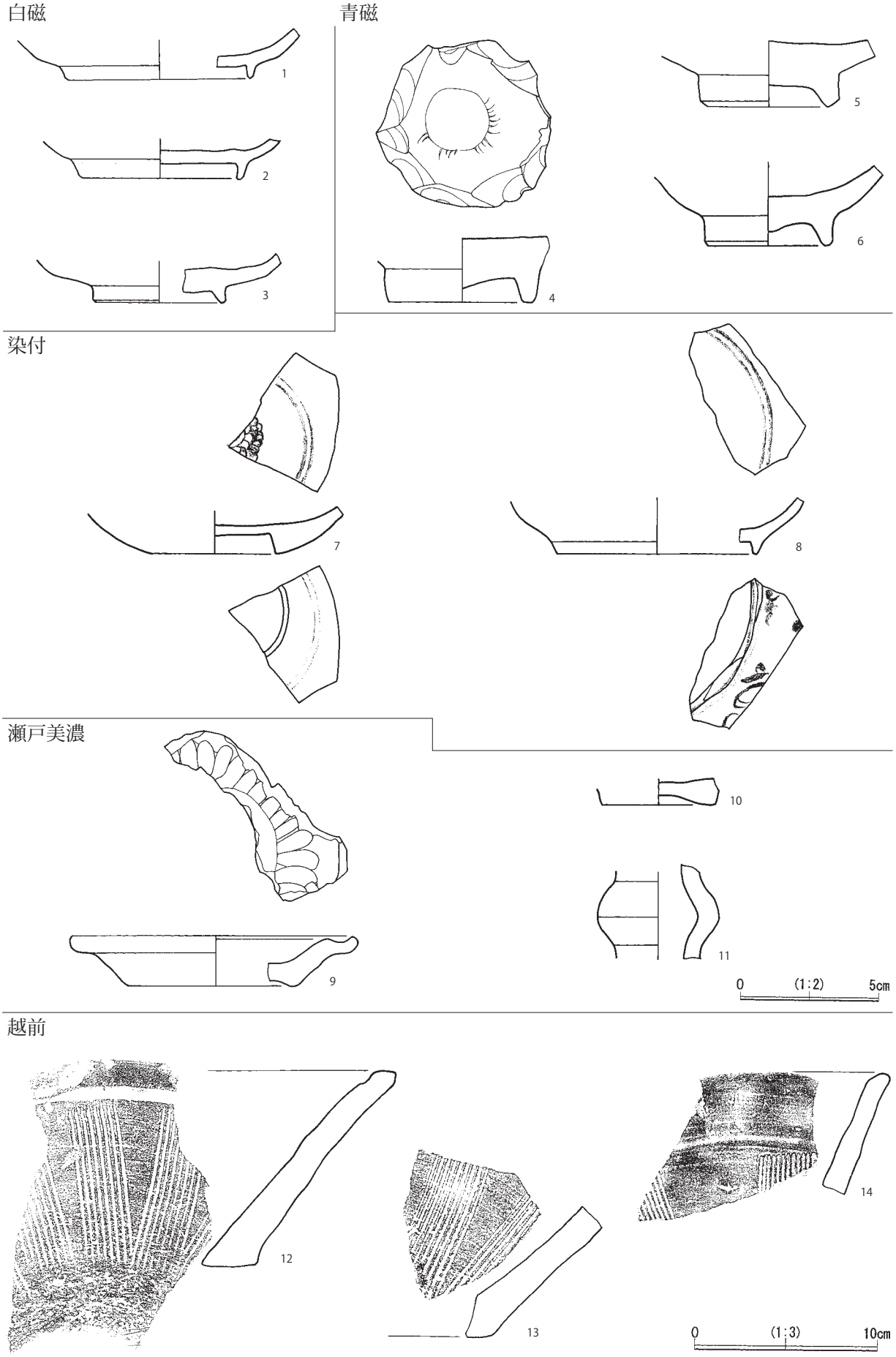
遺構番号	挿図	調査区	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
H15･16SKP323	第211図	西側	38	(36)	30	-	脇本城跡	323	
H15･16SKP324	第211図	西側	46	38	-	-	脇本城跡	324	
H15･16SKP325	第211図	西側	48	36	-	-	脇本城跡	324	
H15･16SKP327	第211図	西側	30	24	23	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP328	第211図	西側	26	34	27	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP329	第211図	西側	23	32	24	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP330	第211図	西側	60	-	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP334	第211図	西側	33	72	42	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP335	第211図	西側	34	58	(44)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP336	第211図	西側	74	34	26	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP337	第211図	西側	29	(29)	28	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP338	第211図	西側	15	48	44	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP339	第211図	西側	34	62	46	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP340	第211図	西側	34	(50)	46	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP341	第211図	西側	20	29	33	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP343	第211図	西側	-	52	42	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP345	第211図	西側	18	24	24	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP348	第211図	西側	49	34	34	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP349	第211図	西側	12	22	20	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP351	第211図	西側	16	40	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP353	第211図	西側	24	24	22	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP365	第211図	西側	23	38	36	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP366	第211図	西側	14	40	-	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP367	第211図	西側	-	(36)	(30)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP368	第211図	西側	-	(41)	36	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP370	第211図	西側	48	30	(24)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP371	第211図	西側	12	24	22	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP372	第211図	西側	48	32	22	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP374	第211図	西側	37	(48)	(28)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP375	第211図	西側	12	44	34	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP392	第211図	西側	56	64	(54)	-	脇本城跡	-	
H15･16SKP401	第211・216図	東側	22	16	16	-	脇本城跡	P1	
H15･16SKP402	第211・216図	東側	-	18	17	-	脇本城跡	P2	
H15･16SKP403	第211・216図	東側	13	27	(26)	-	脇本城跡	P3	
H15･16SKP404	第211・216図	東側	17	(19)	19	-	脇本城跡	P4	
H15･16SKP405	第211・216図	東側	22	32	27	-	脇本城跡	P5	
H15･16SKP406	第211・216図	東側	15	20	18	-	脇本城跡	P6	
H15･16SKP407	第211・216図	東側	17	28	23	-	脇本城跡	P7	
H15･16SKP408	第211・216図	東側	35	24	(19)	-	脇本城跡	P8	
H15･16SKP409	第211・216図	東側	23	(25)	21	-	脇本城跡	P9	
H15･16SKP410	第211・216図	東側	8	35	28	-	脇本城跡	P10	
H15･16SKP411	第211・216図	東側	21	30	22	-	脇本城跡	P11	
H15･16SKP412	第211・216図	東側	11	10	9	-	脇本城跡	P12	
H15･16SKP413	第211・216図	東側	29	10	8	-	脇本城跡	P13	
H15･16SKP414	第211・216図	東側	16	16	15	-	脇本城跡	P14	
H15･16SKP415	第211・216図	東側	18	17	15	-	脇本城跡	P15	
H15･16SKP416	第211・216図	東側	18	15	13	-	脇本城跡	P16	
H15･16SKP417	第211・216図	東側	-	10	9	-	脇本城跡	P17	
H15･16SKP418	第211・216図	東側	-	10	9	-	脇本城跡	P18	
H15･16SKP419	第211・216図	東側	13	9	8	-	脇本城跡	P19	
H15･16SKP420	第211・216図	東側	-	12	10	-	脇本城跡	P20	

■焼土遺構

遺構番号	挿図	調査区	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
H15･16SN52	第211図	西側	23	56	24	-	脇本城跡	SN52	

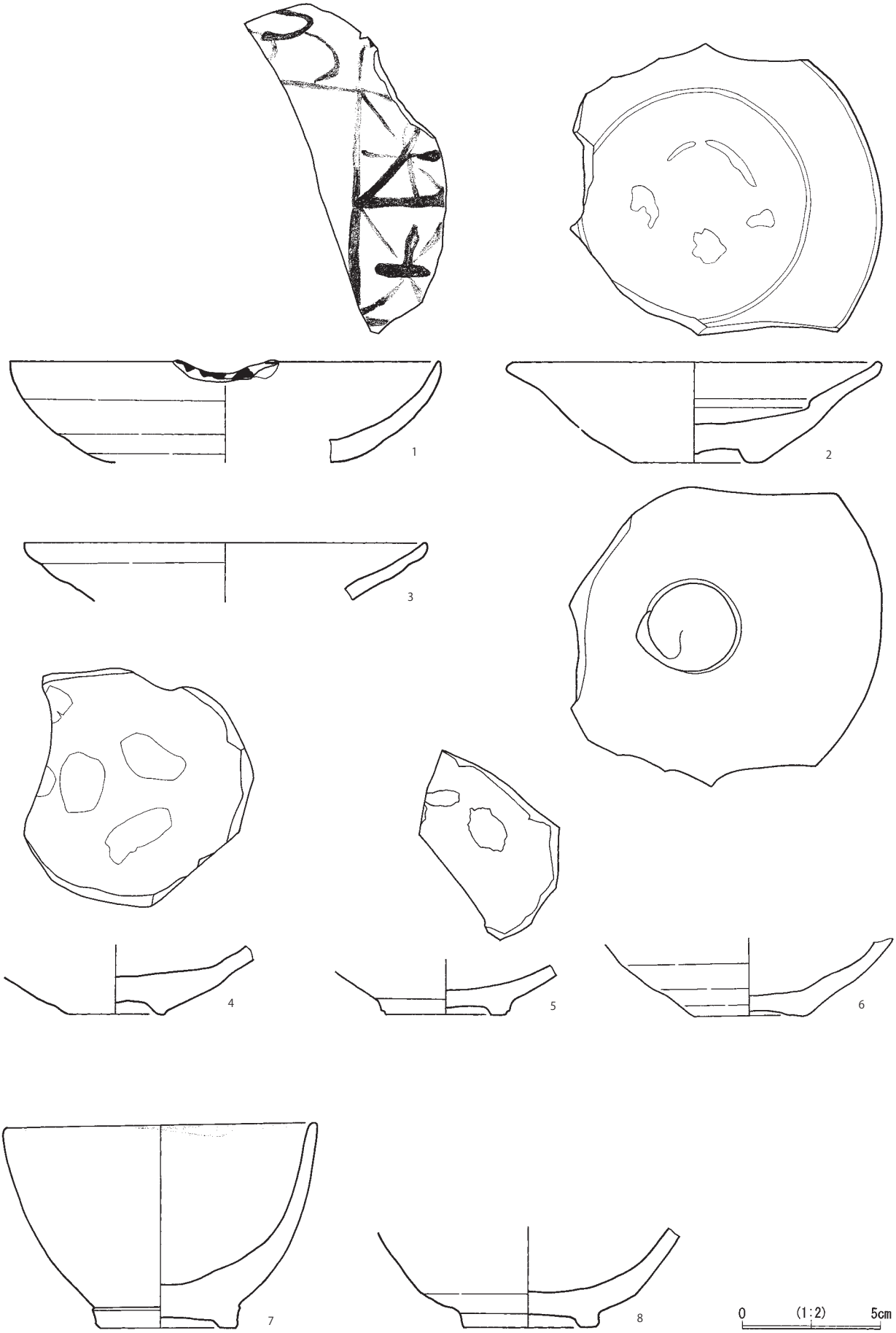
■集石遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
H15･16SQ10	第211図	西側	-	420	128	-	脇本城跡	-	
H15･16SQ399	第211・216図	東側	-	810	150	-	脇本城跡	-	



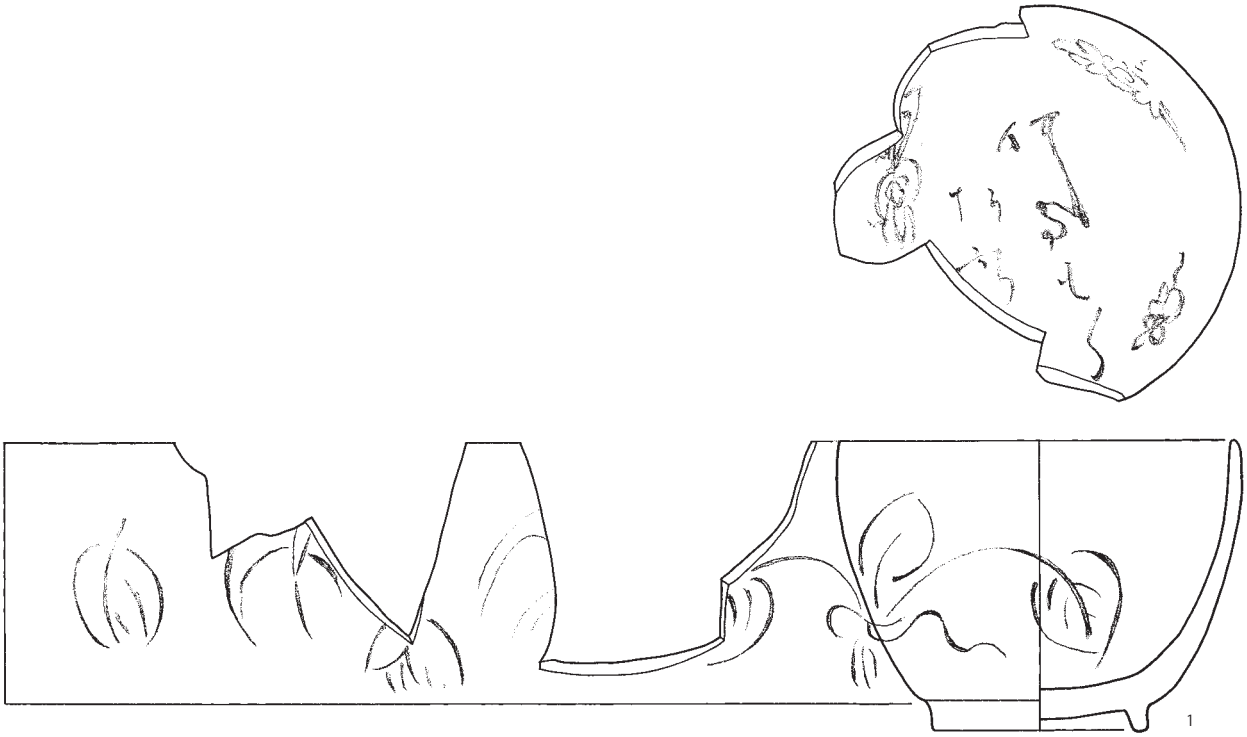
第218図　南西端部（H15・H16年度調査）西側地区出土遺物①

唐津

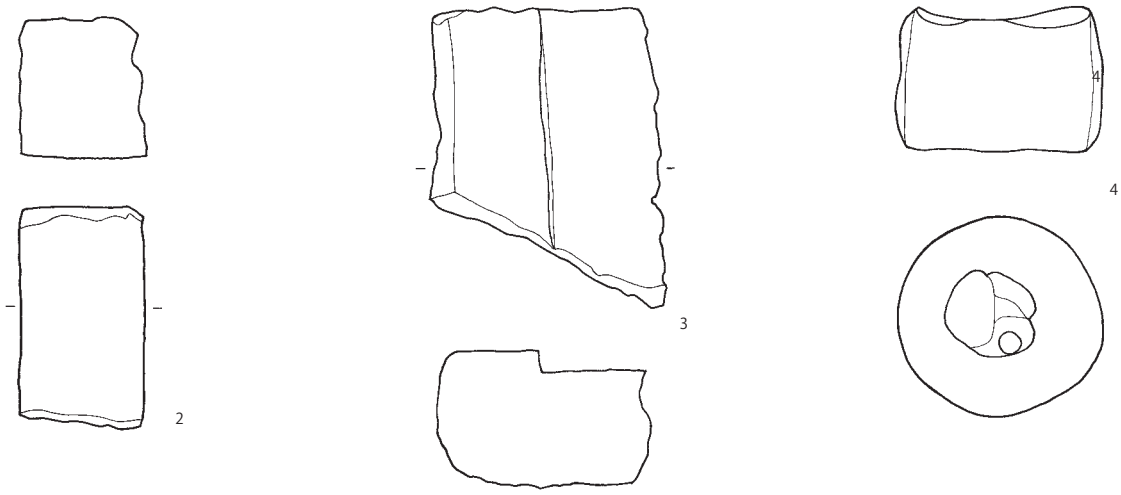


第219図　南西端部（H15・H16年度調査）西側地区出土遺物②

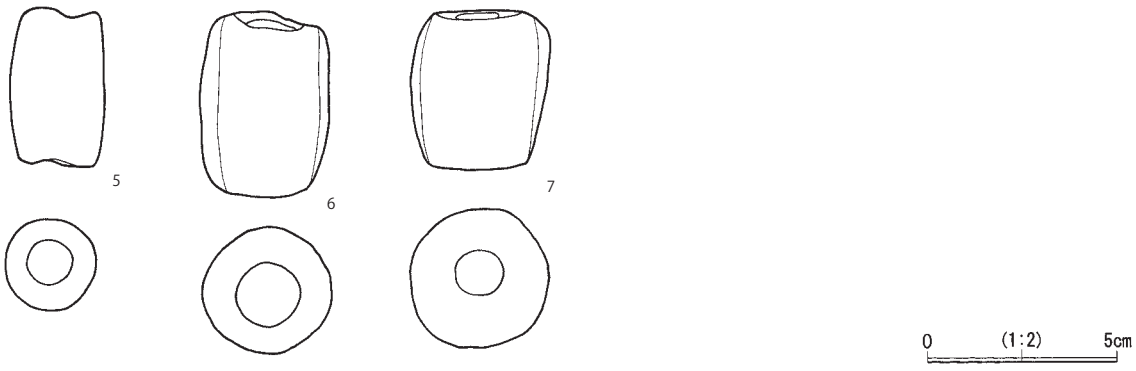
伊万里



石製品

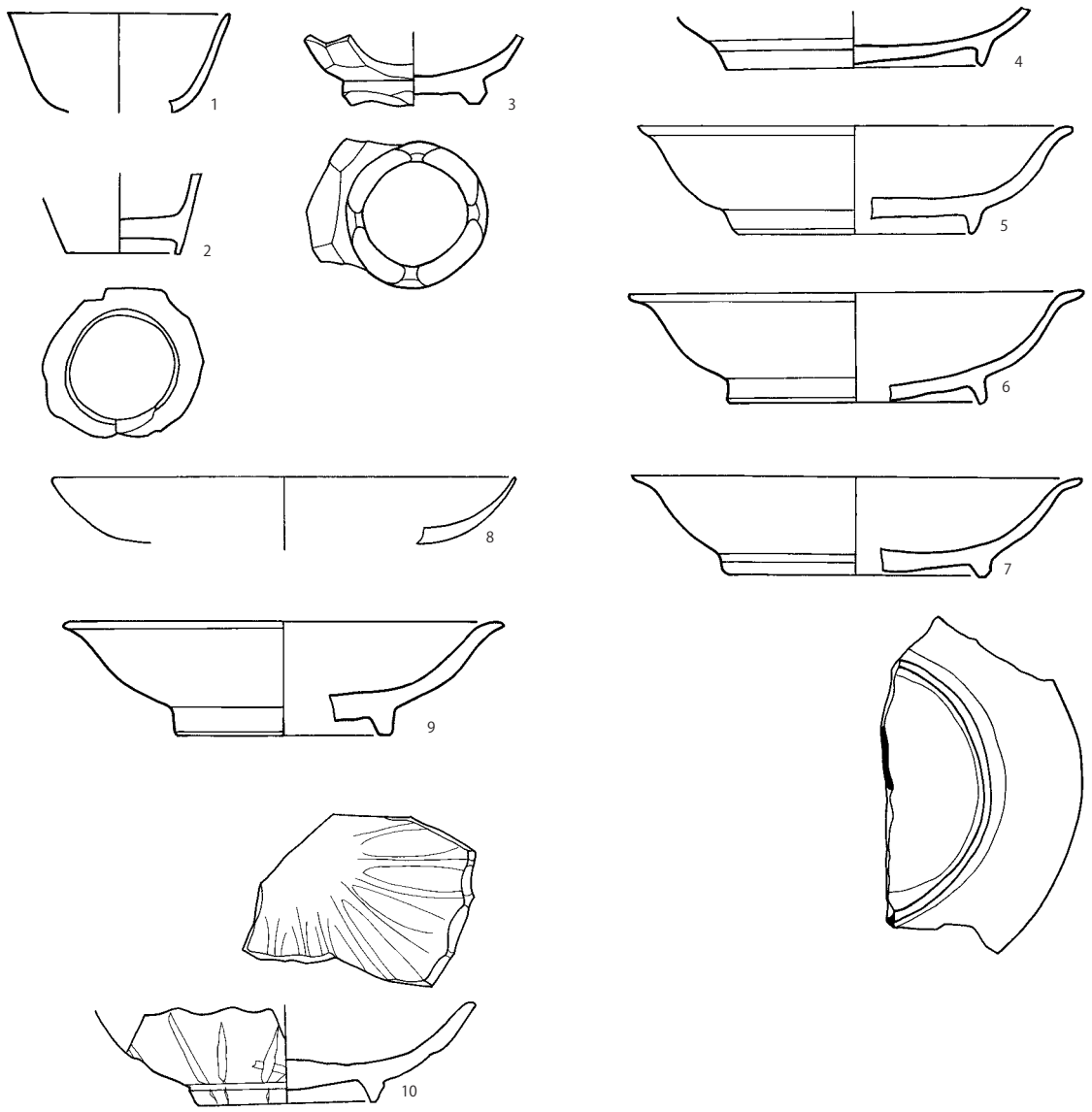


土製品

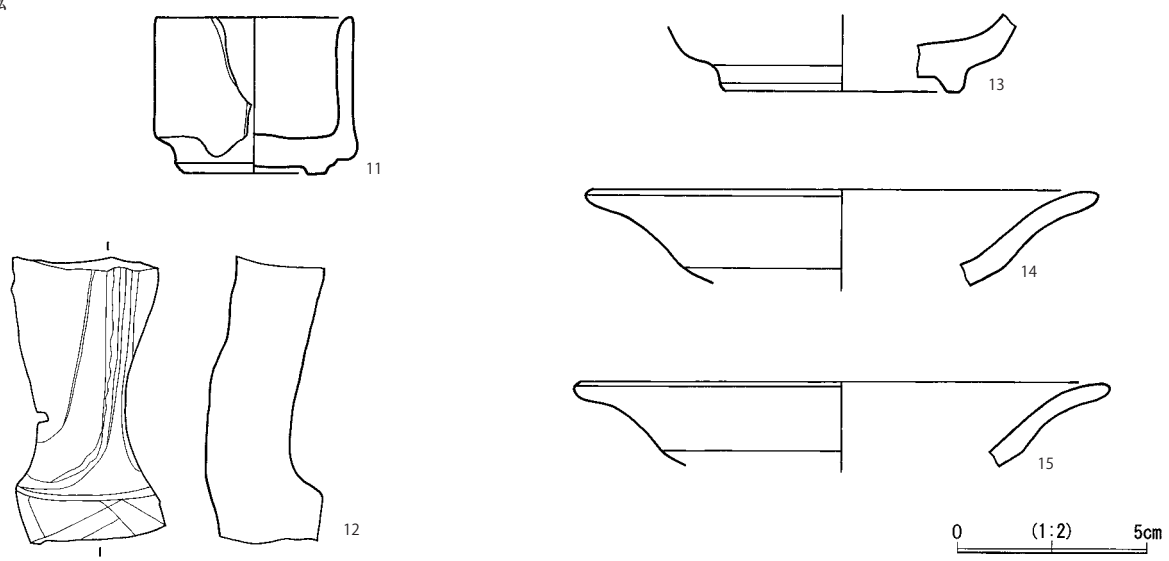


第220図　南西端部（H15・H16年度調査）西側地区出土遺物③

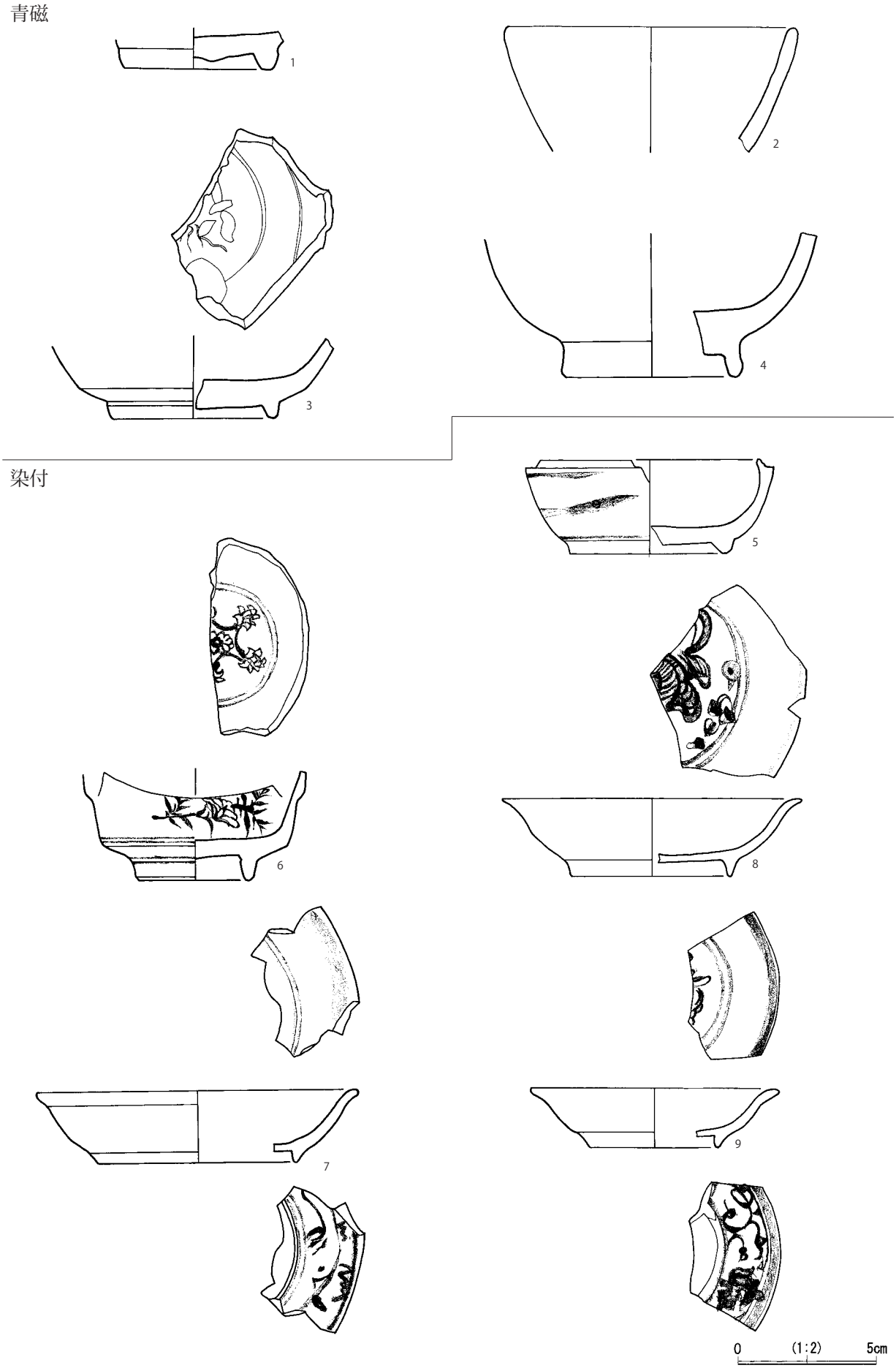
白磁



青磁

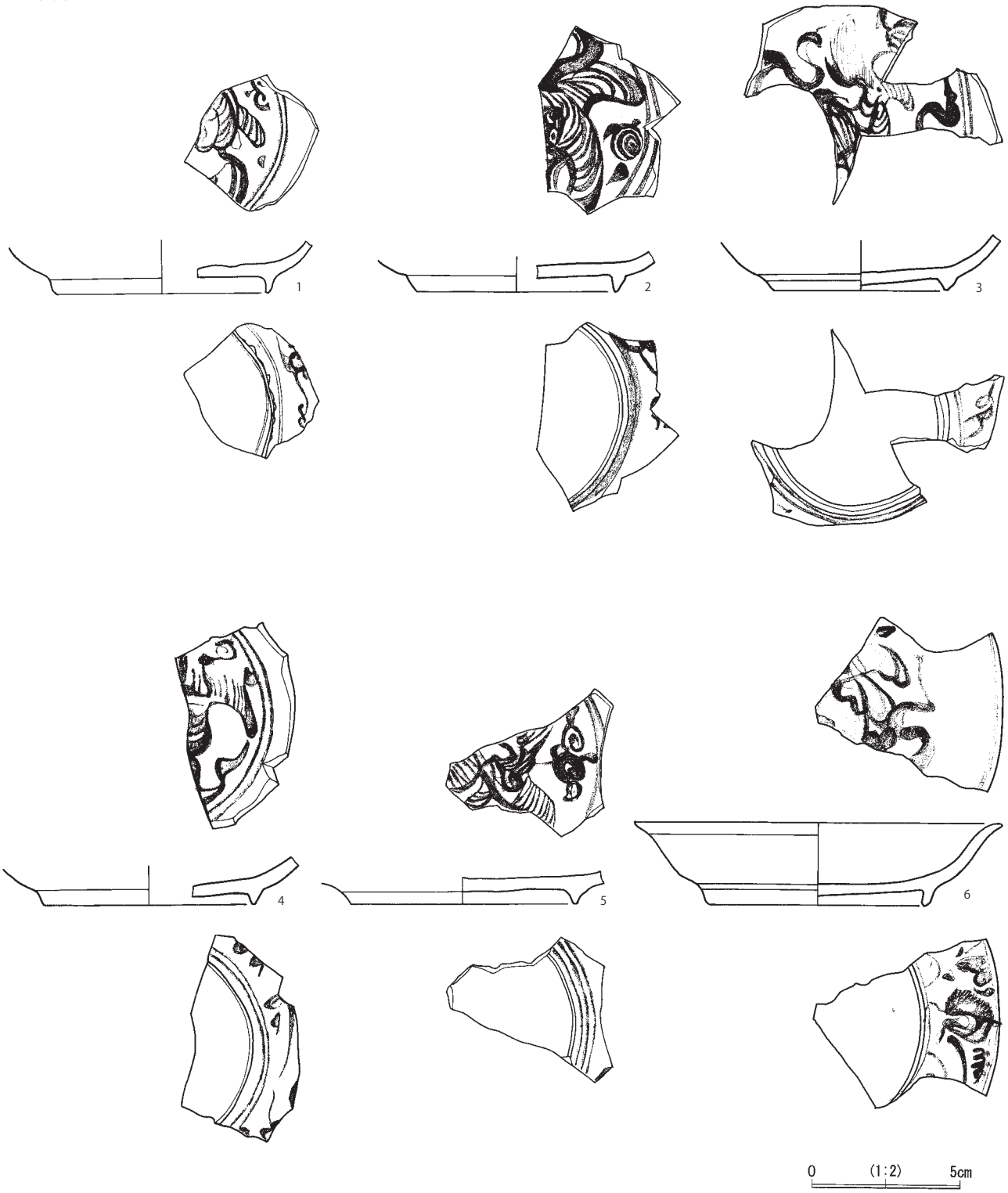


第221図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物①



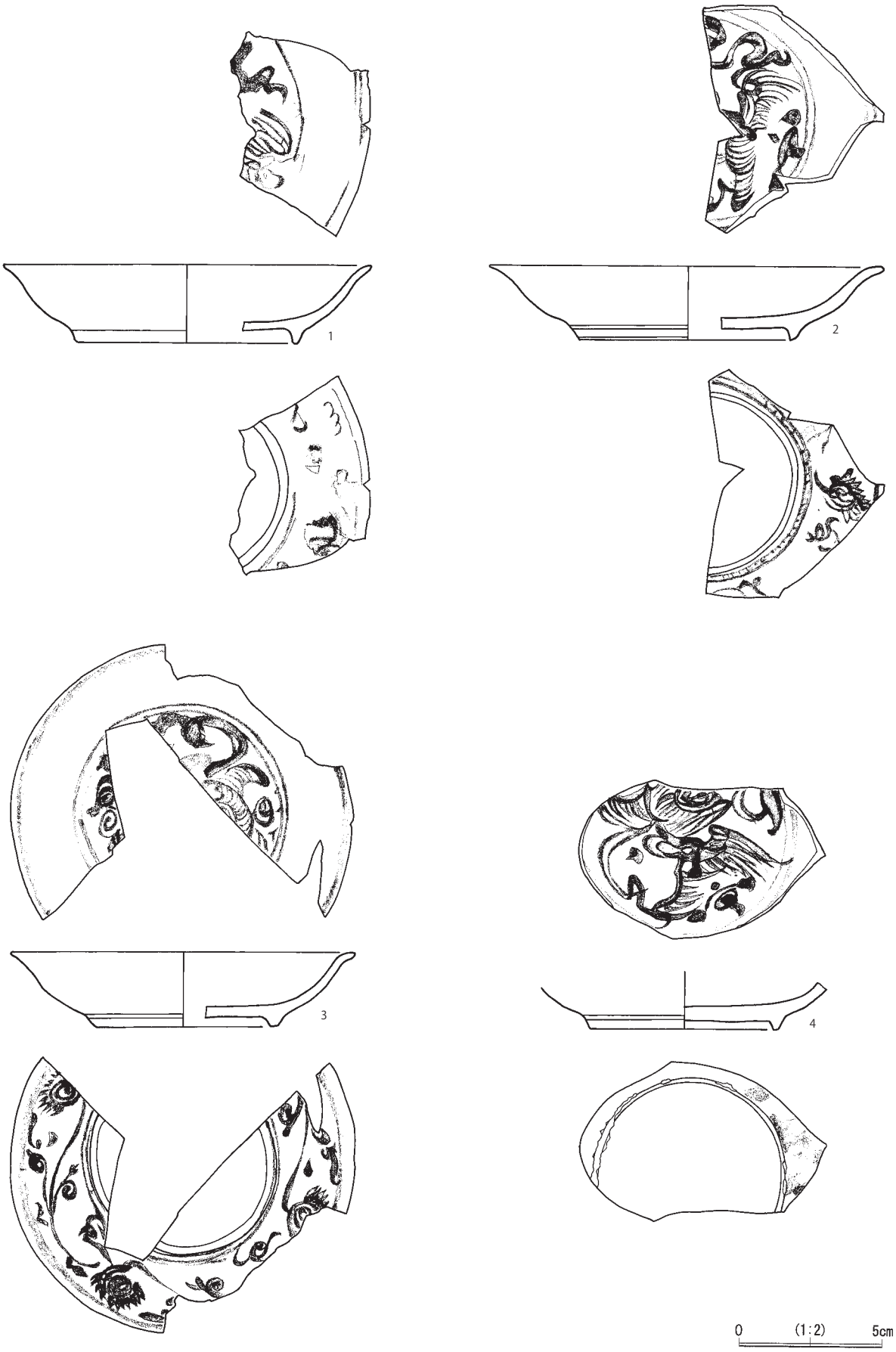
第222図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物②

染付



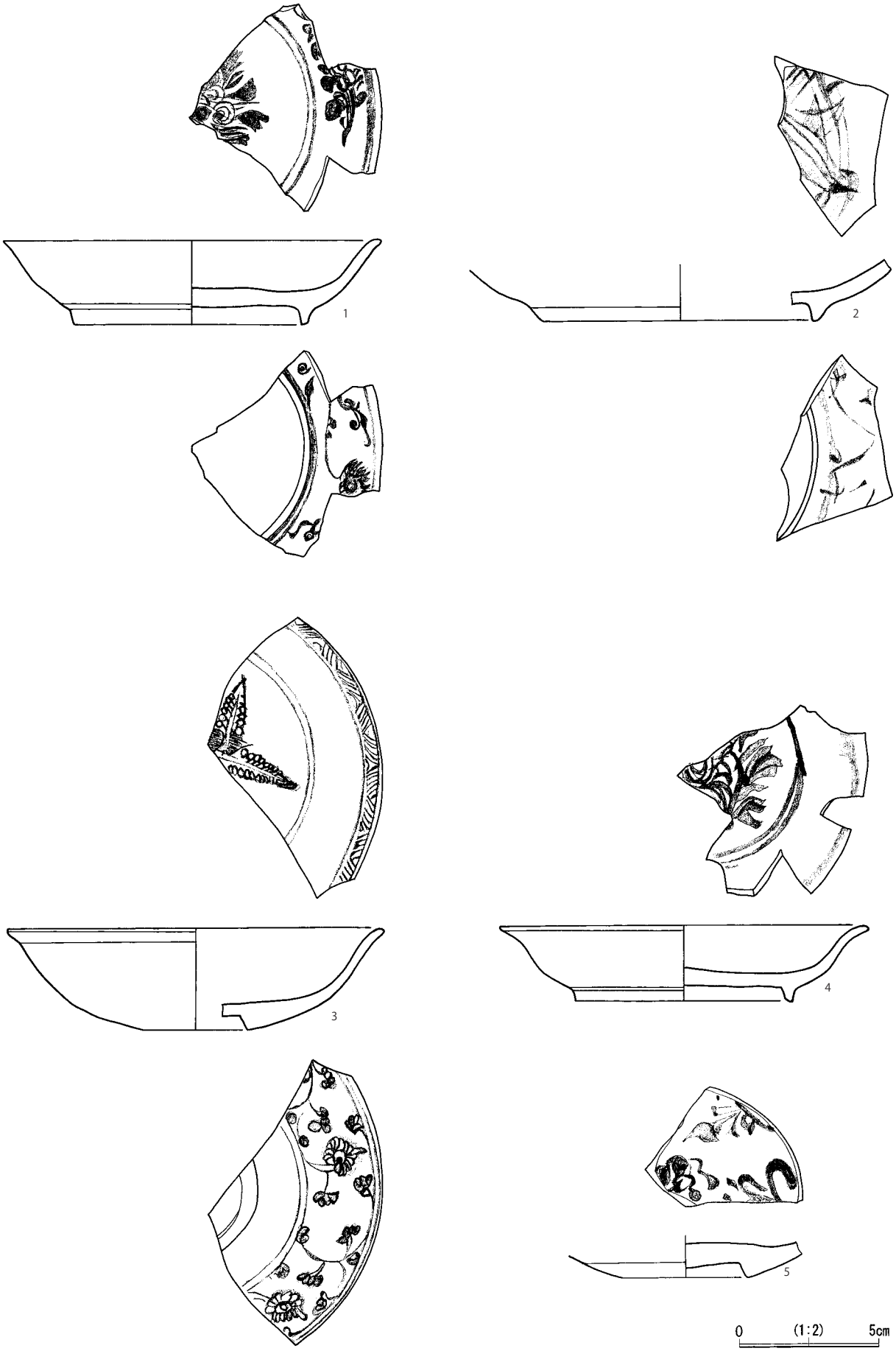
第223図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物③

染付



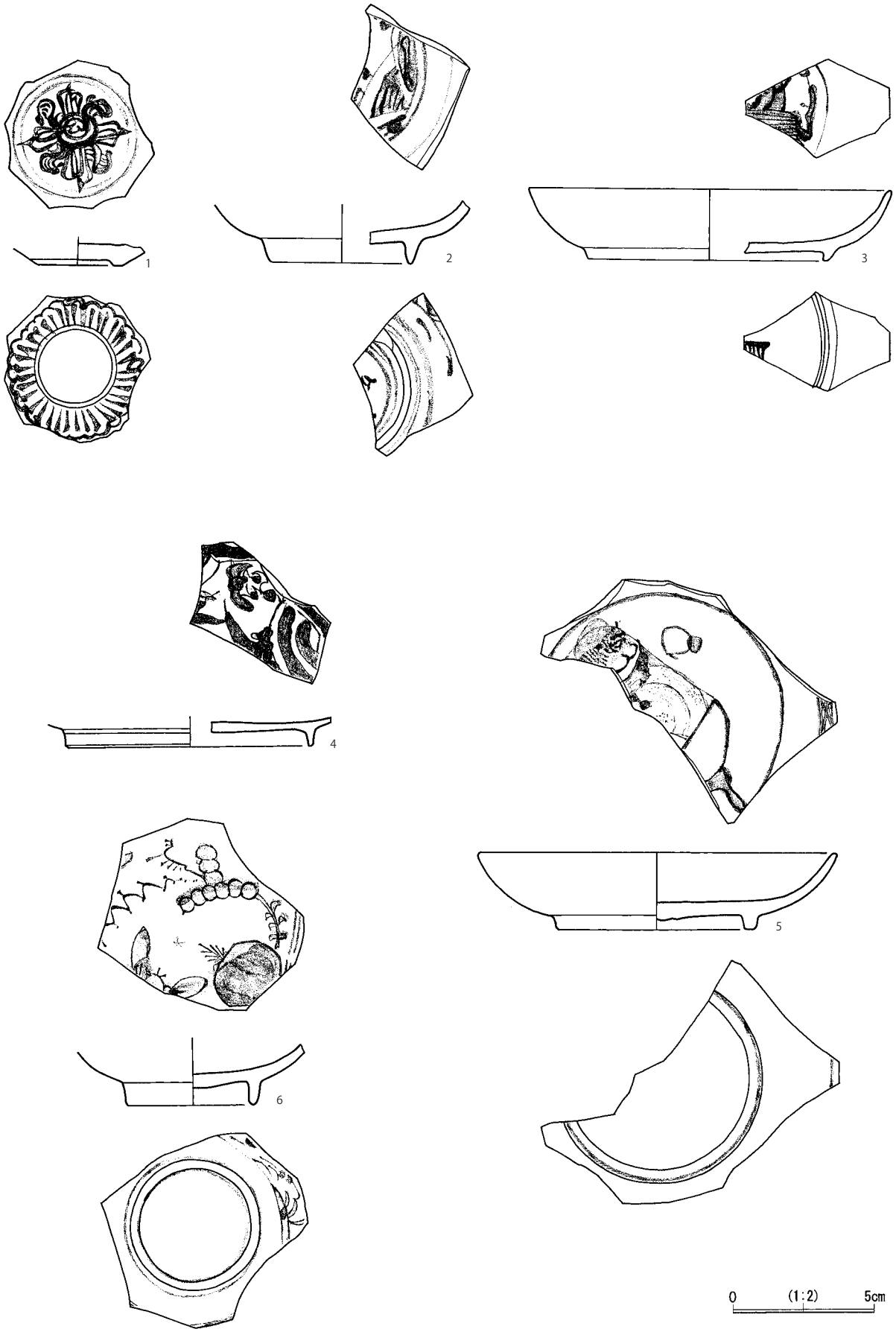
第224図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物④

染付



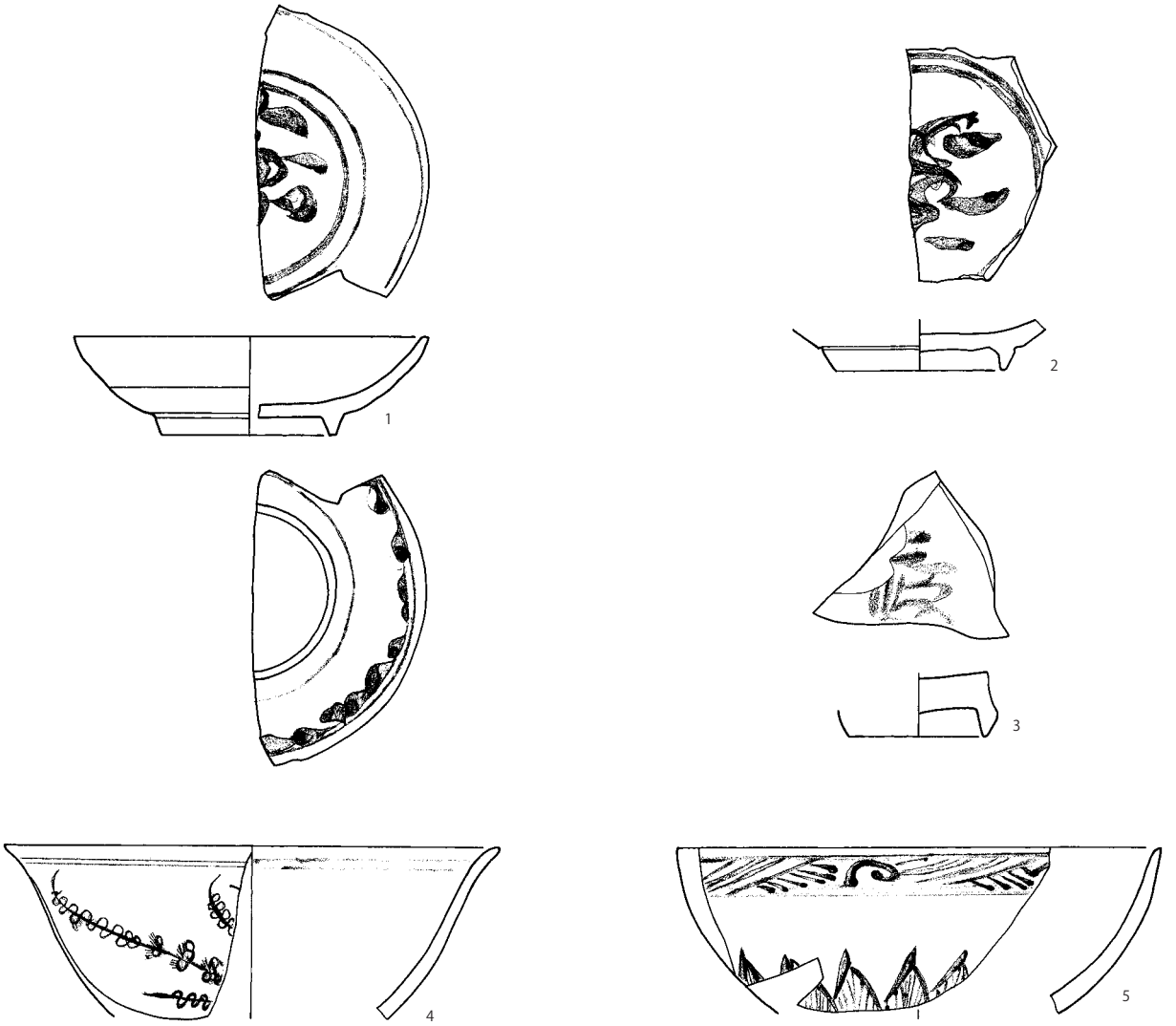
第225図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑤

染付

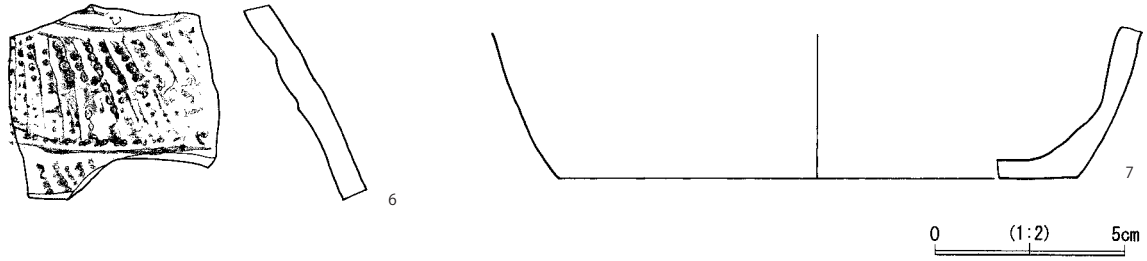


第226図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑥

染付

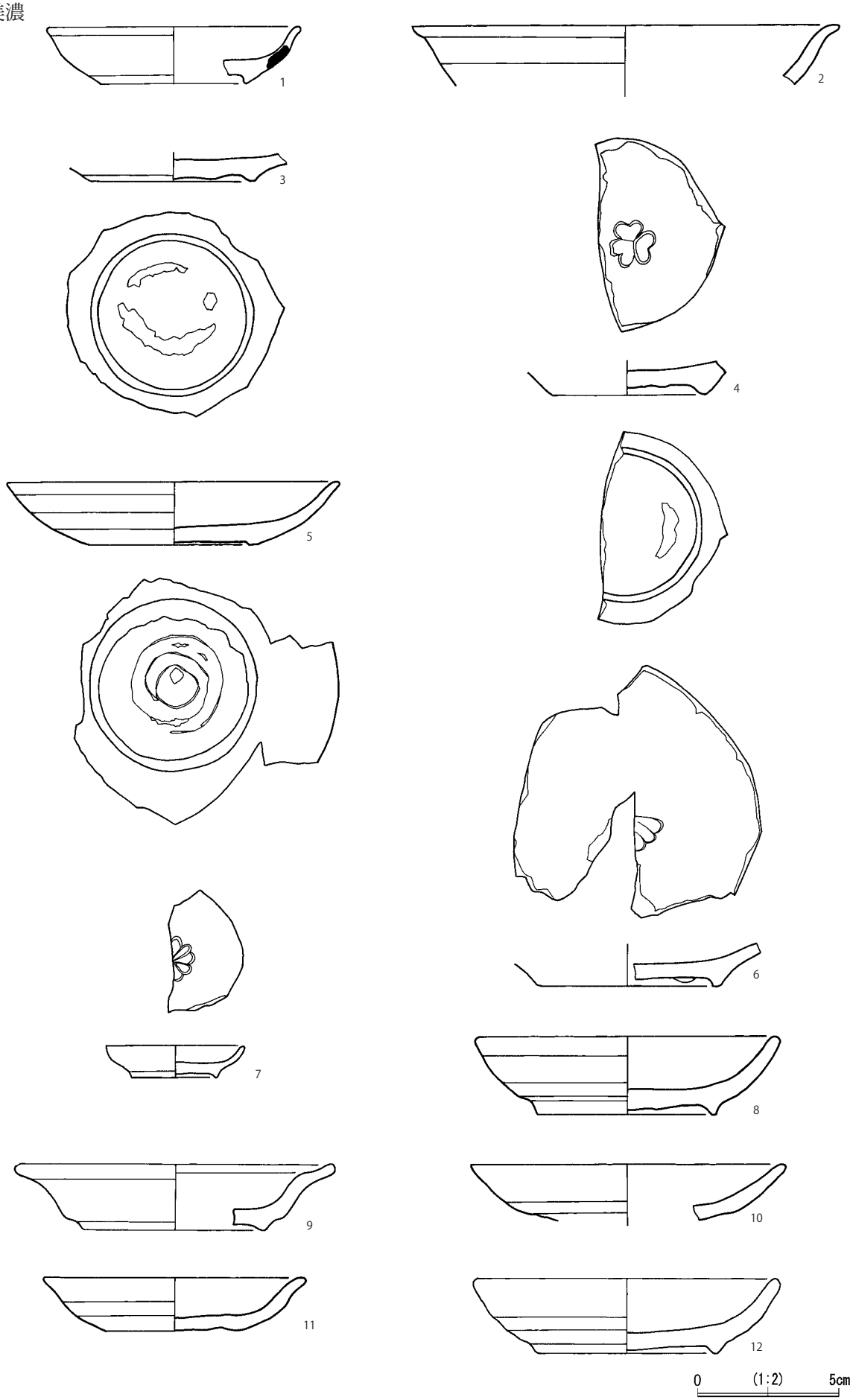


朝鮮陶器



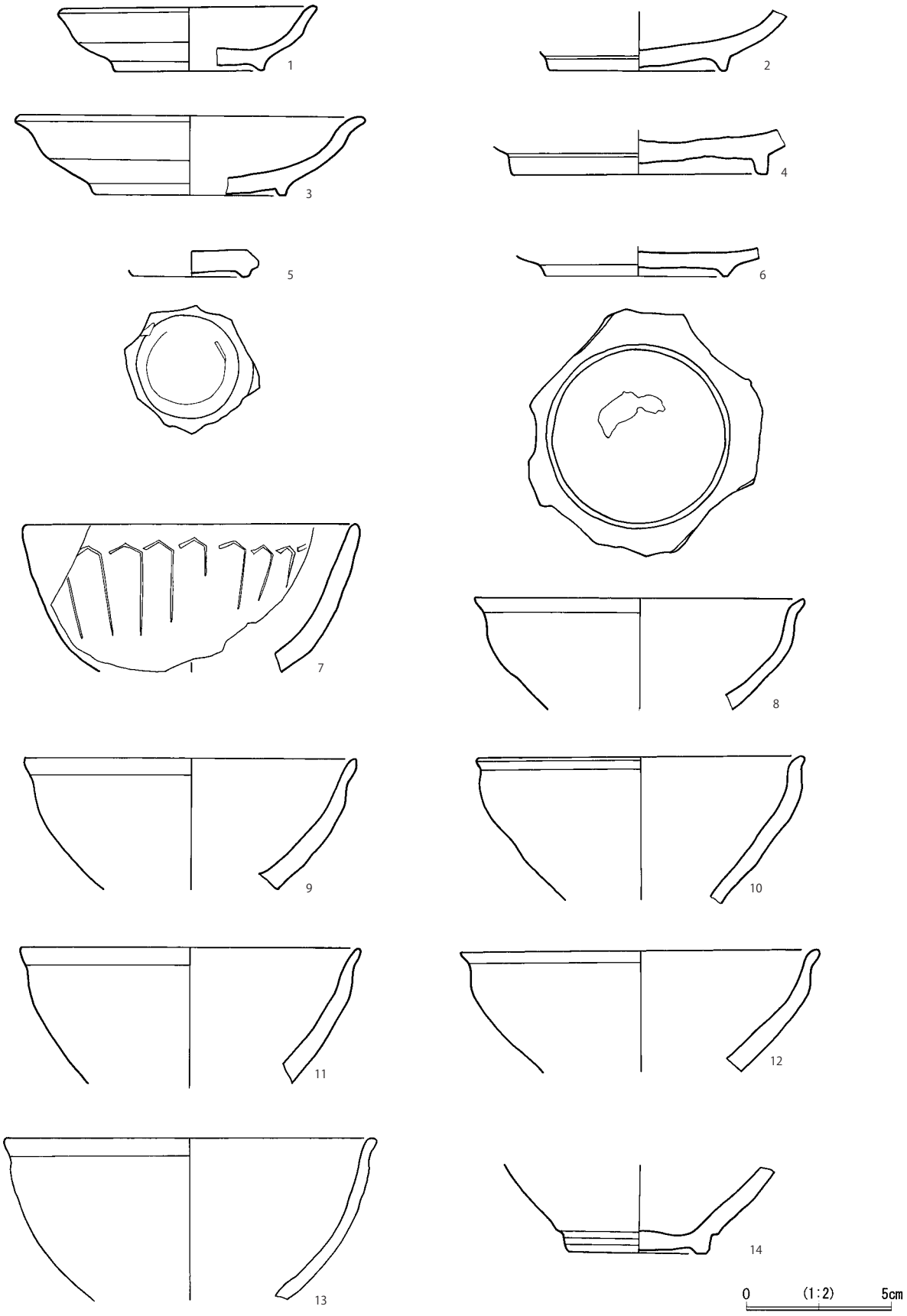
第227図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑦

瀬戸美濃



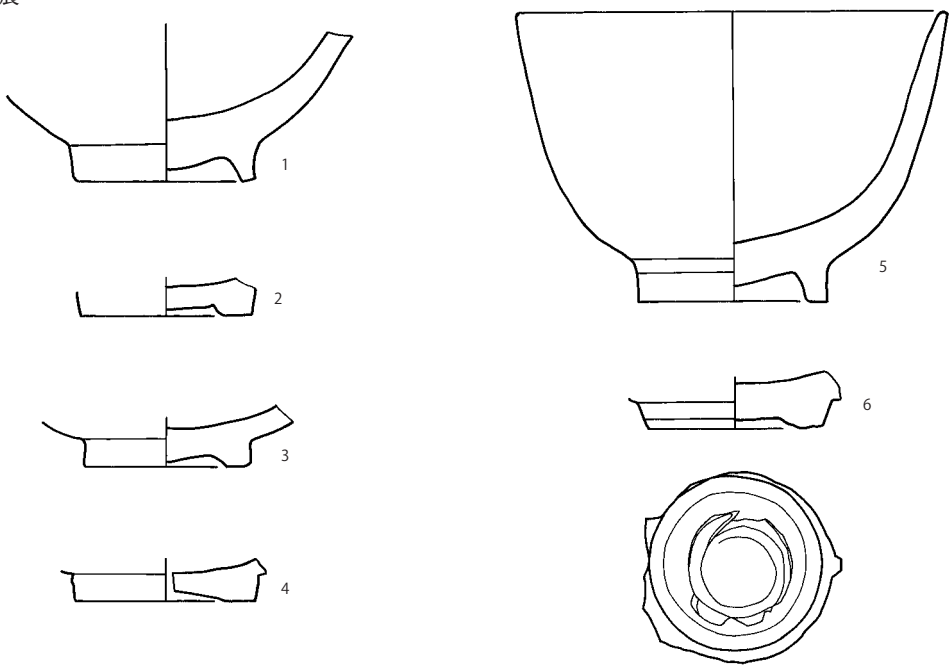
第228図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑧

瀬戸美濃

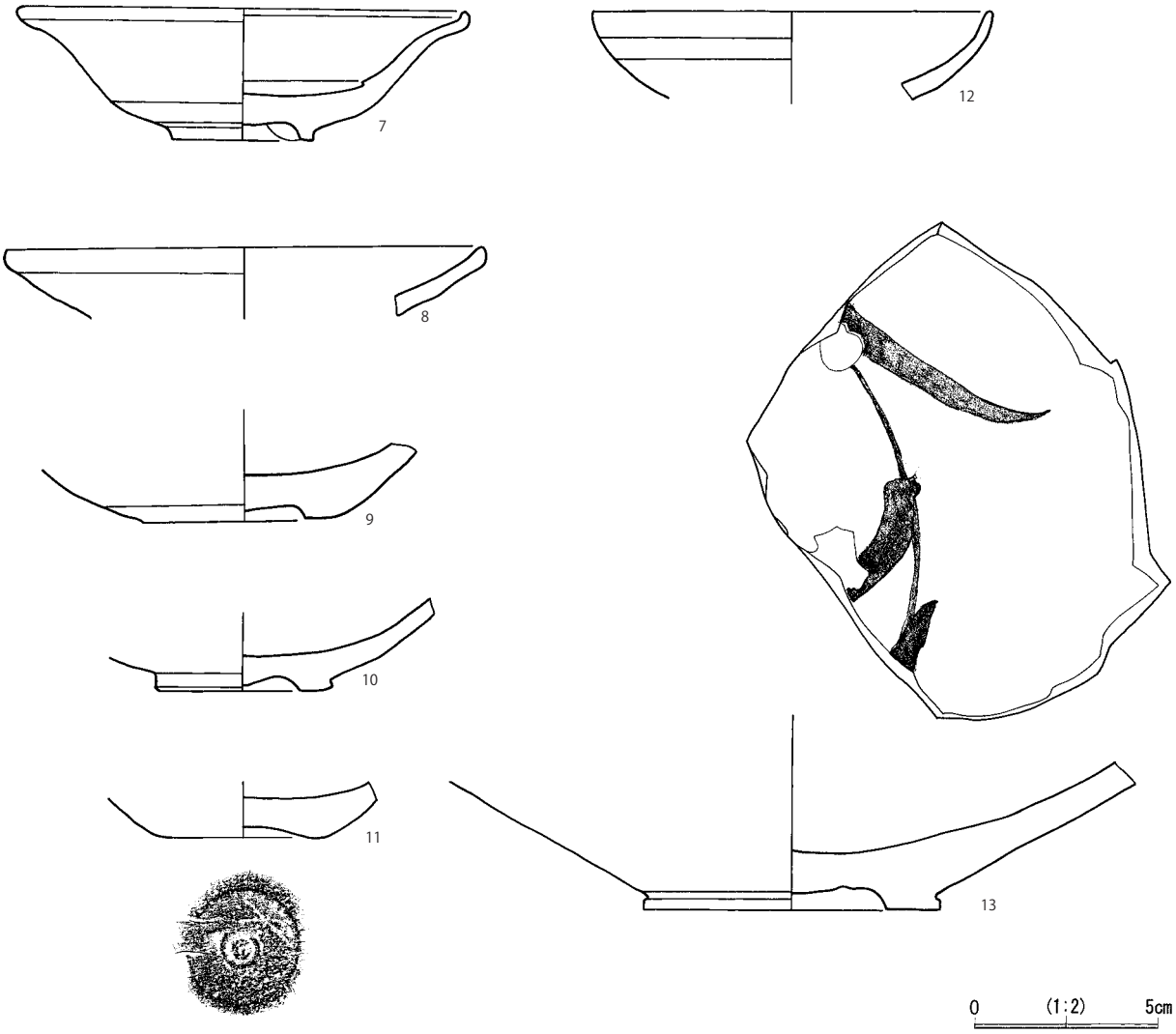


第229図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑨

瀬戸美濃

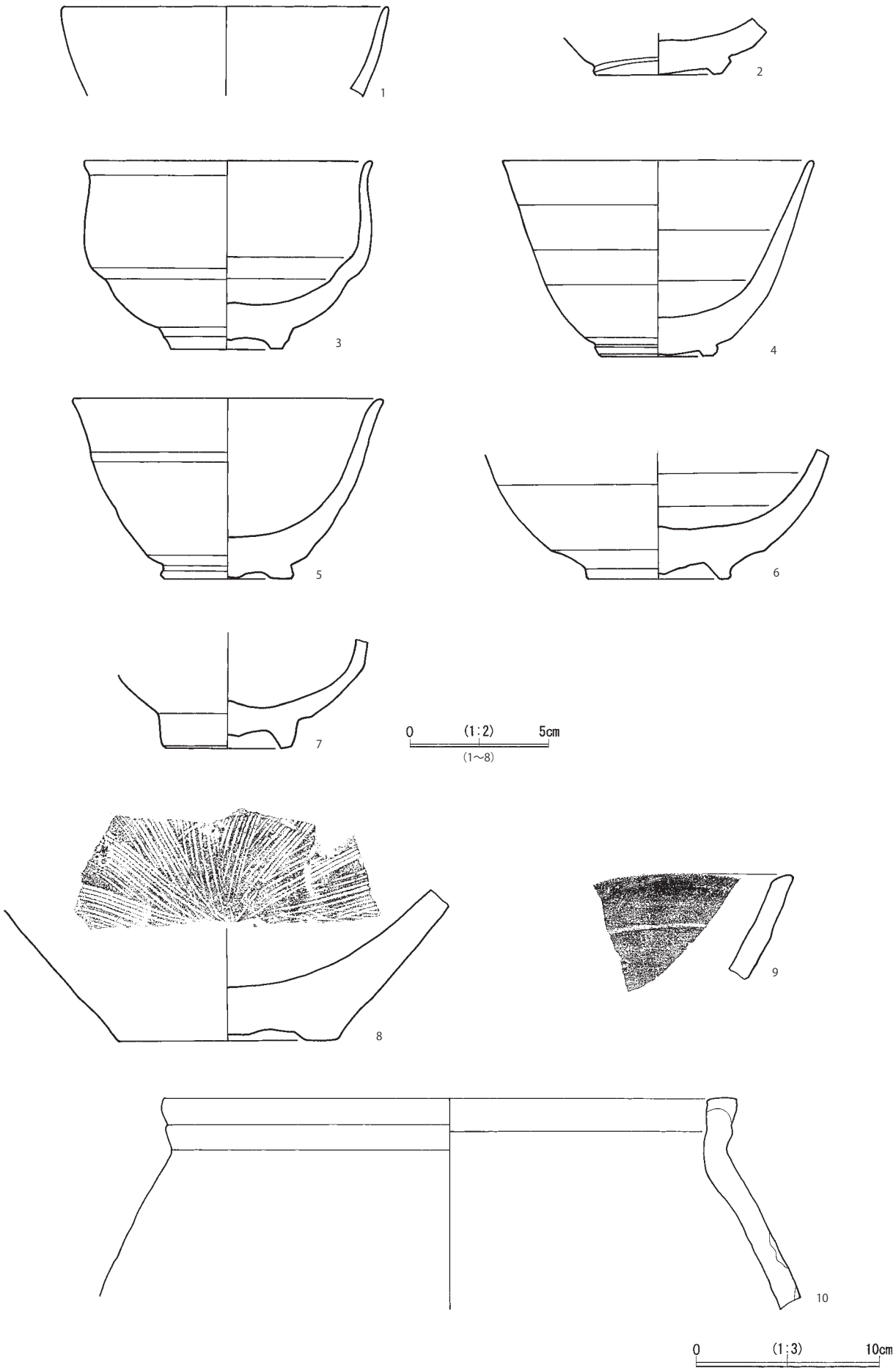


唐津



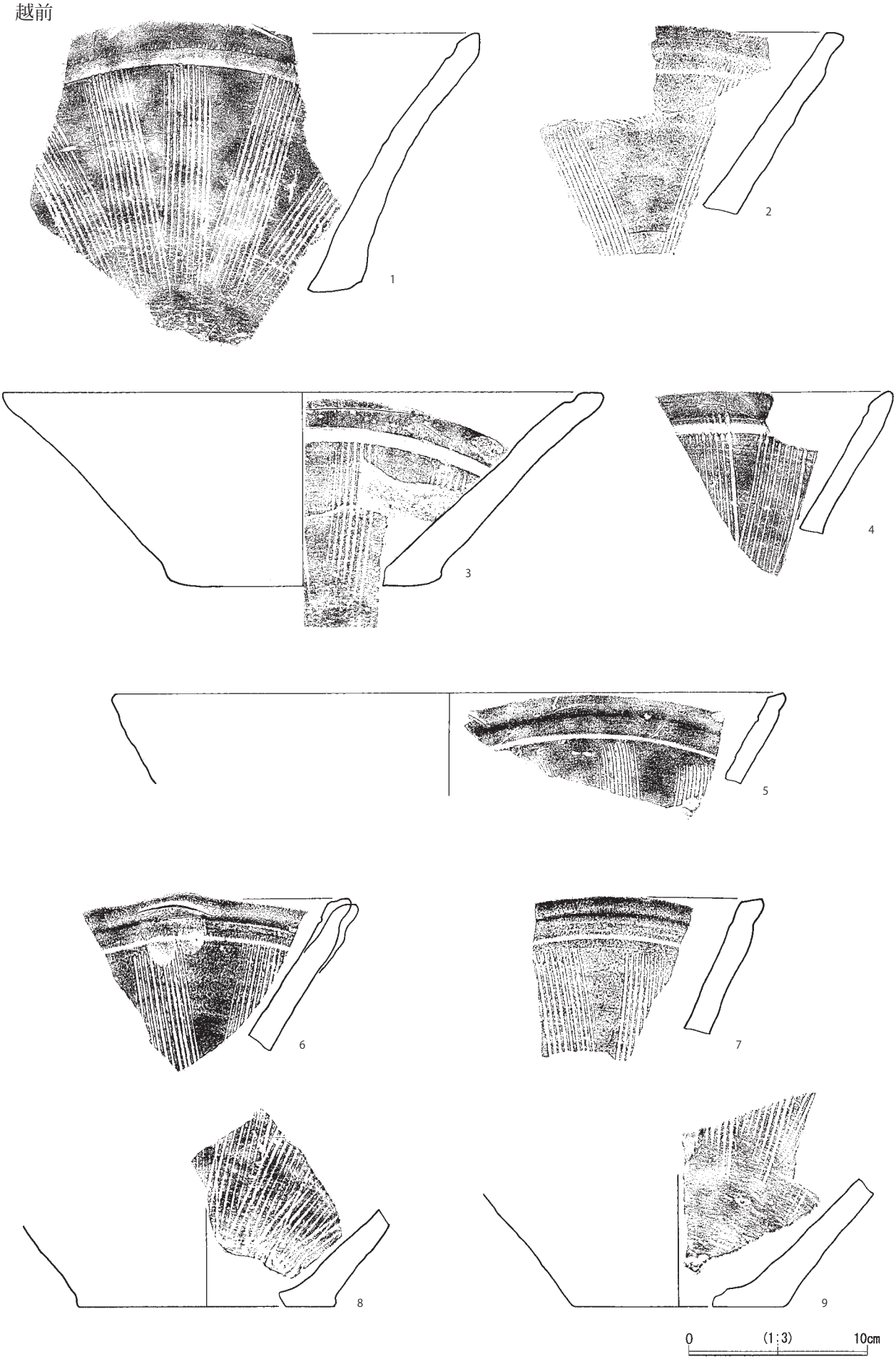
第230図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑩

唐津



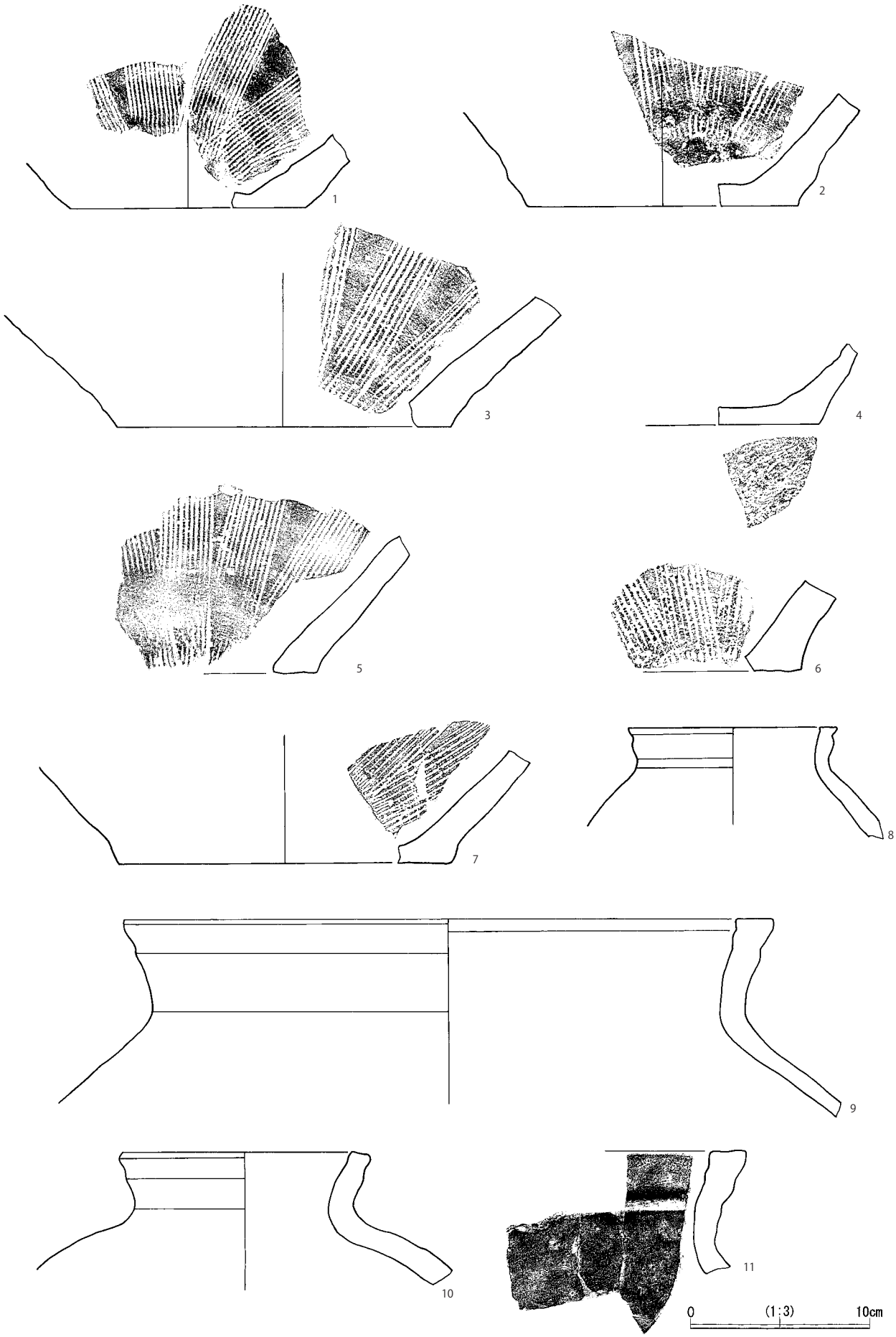
第231図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑪

越前

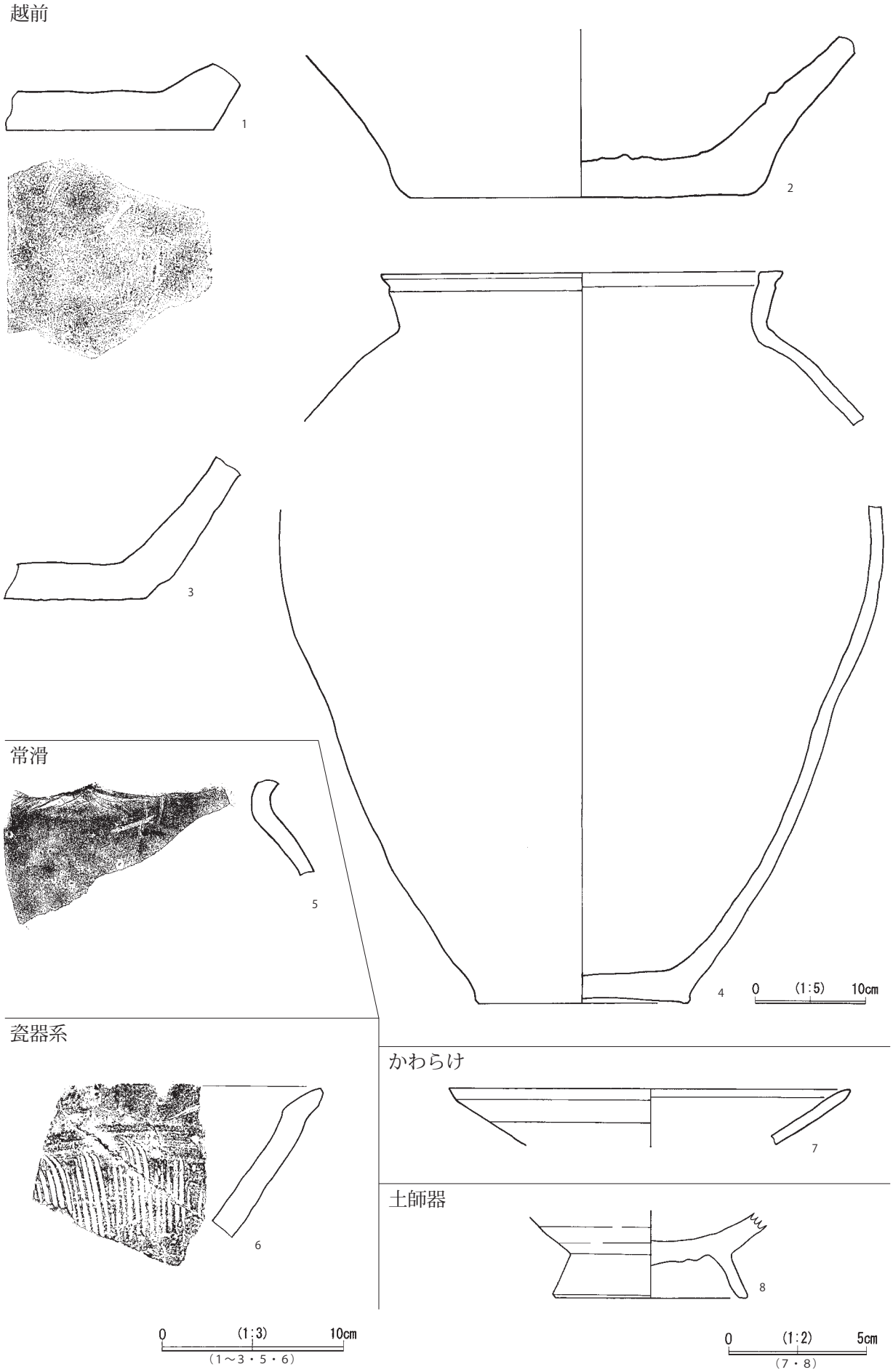


第232図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑫

越前

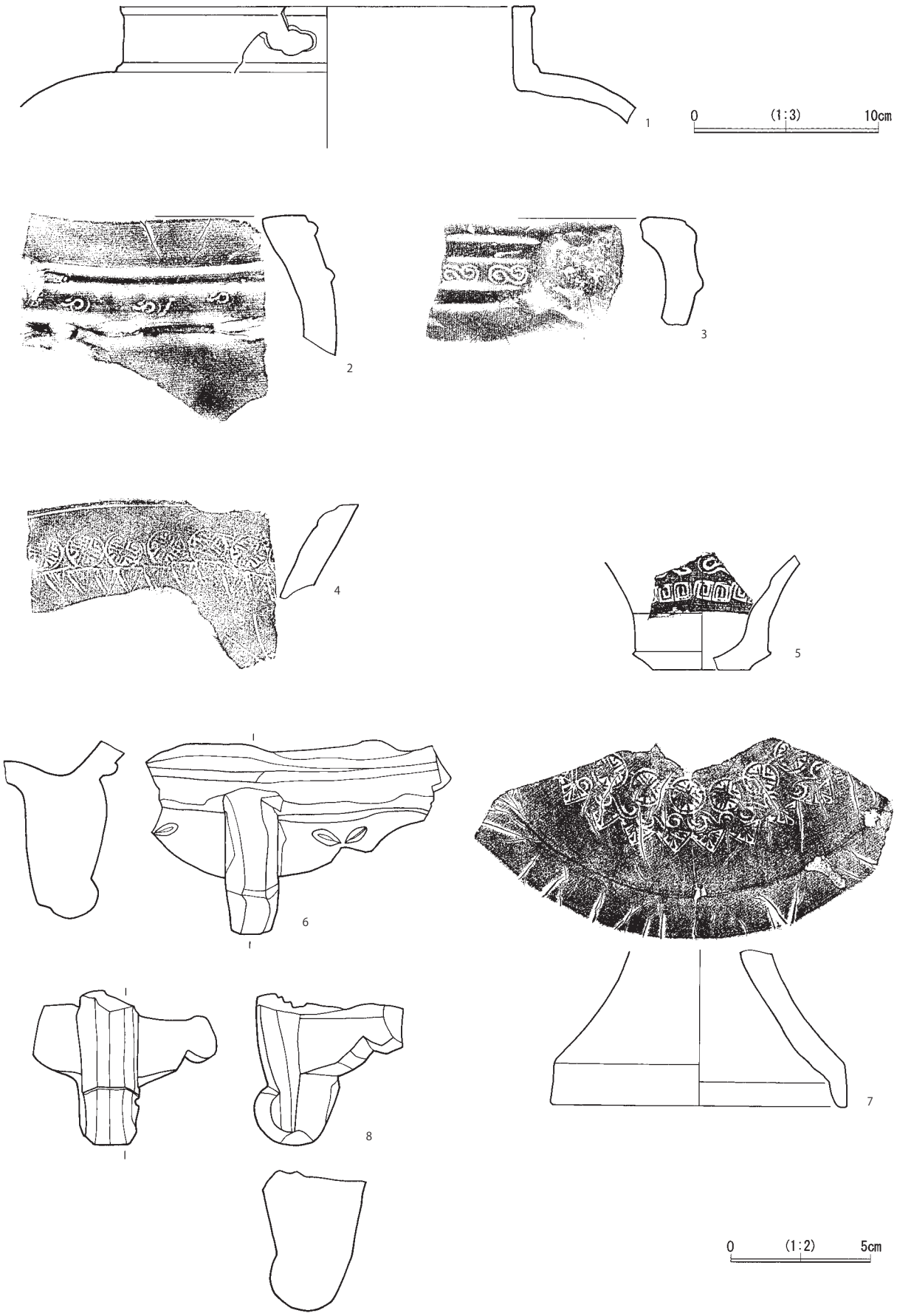


第233図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑬



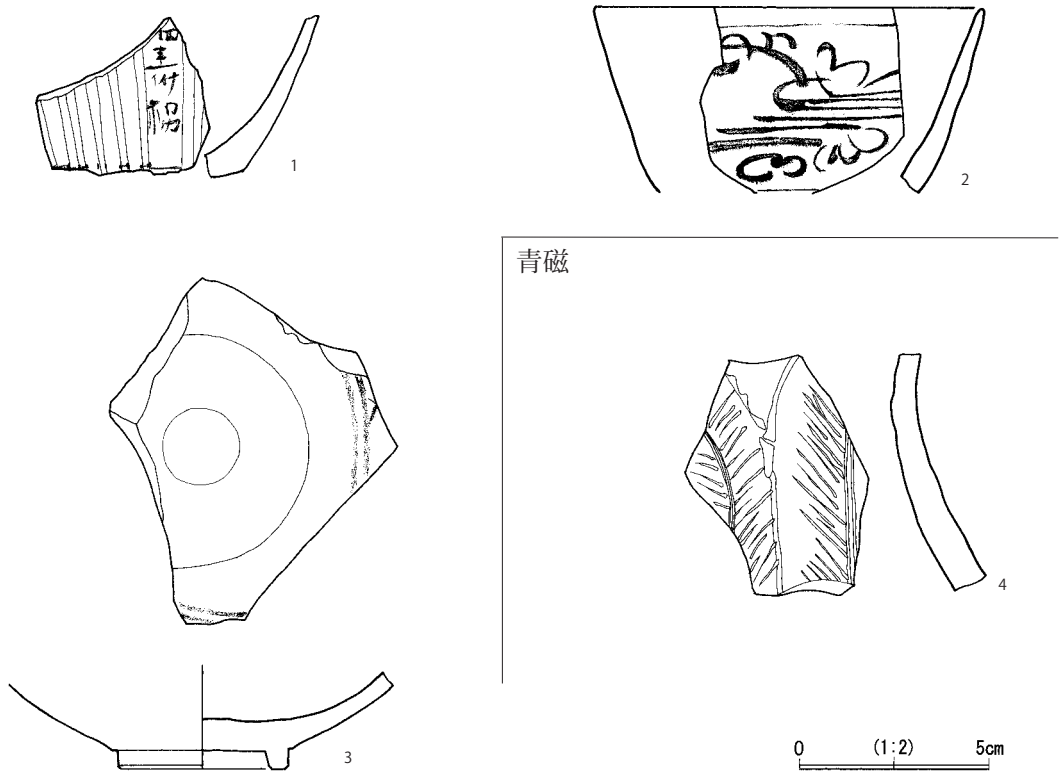
第234図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑭

瓦質土器



第235図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑮

伊万里



第236図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑯

り、関連する遺構と判断される。柱穴内からの遺物の出土はなかった。

H15・H16SA393 ～ 395杭列跡（第214図）

東側調査区西側のF15グリット付近で検出された。杭材が遺存しており、SA393は杭№１～７、SA394は杭№８～19、SA395は杭№20～31で構成される。杭は角杭、丸太杭に加え、自然木の枝を払っただけの軽易なものもあり、炭化した材が多い。検出された深さから、SA395が最も古く、第１段階の流路の護岸として構築され、その後土砂の崩落によって、流路とともに埋没し、その後、第２段階の流路の護岸として、SA393・394が構築されたものと判断された。

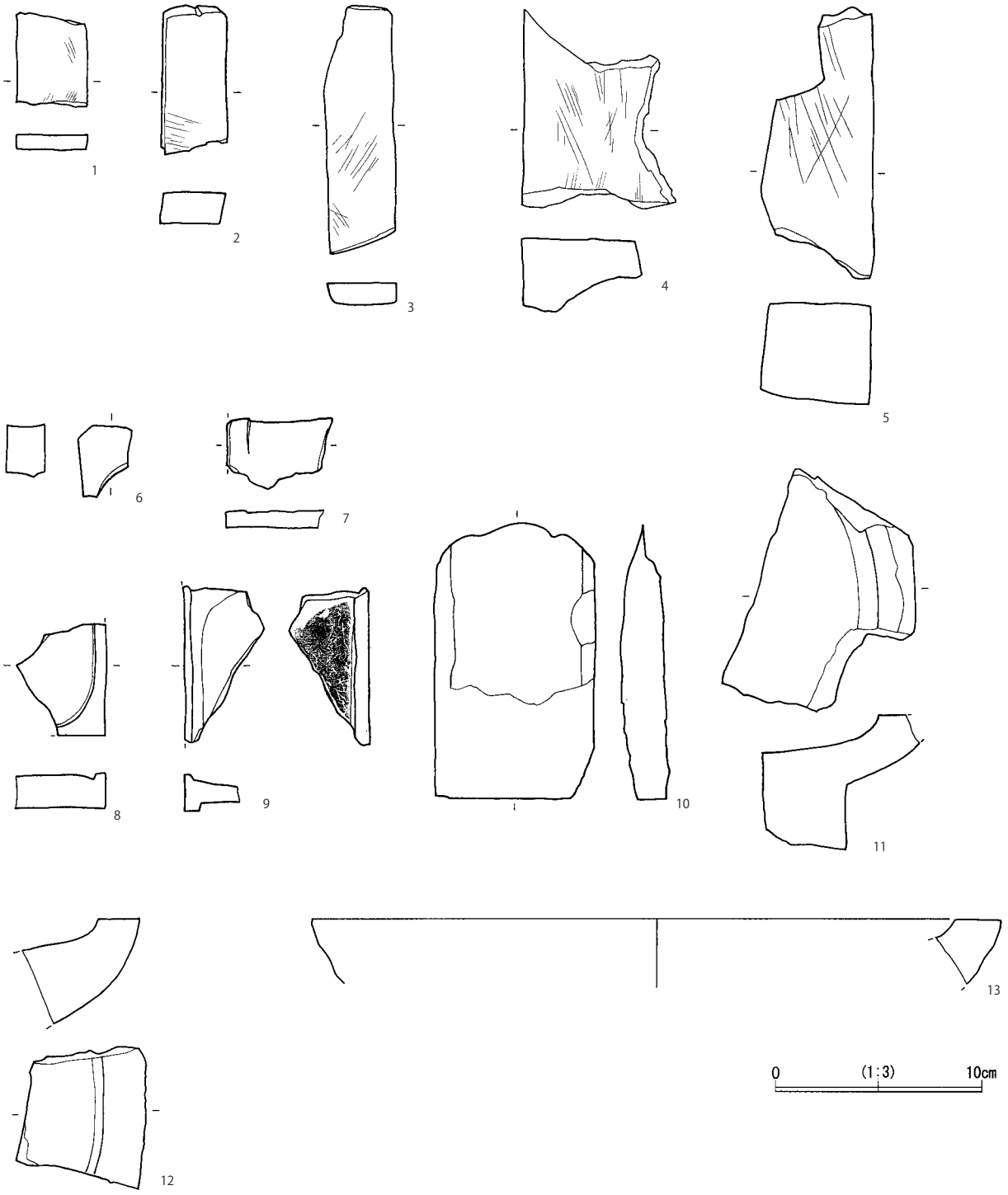
H15・H16SA396杭列跡（第215図）

東側調査区中央部のF20グリット付近で検出された。杭材が遺存しており、杭№１～５とそれに平行する杭№６～10で構成される。杭間は50 ～ 60cmであり、いずれの杭からも掘り込みは確認されず、打ち込みによるものである。杭は自然木の枝を払っただけの軽易なものに加え、丸材をみかん割した材が用いられている。SA396は検出された深さから、第１段階の流路の護岸に伴って構築されたものと判断される。SA396に近接して箸状木製品が集中して出土し、さらに角状の部材（第254図－９）と成人の右大腿骨が出土した。

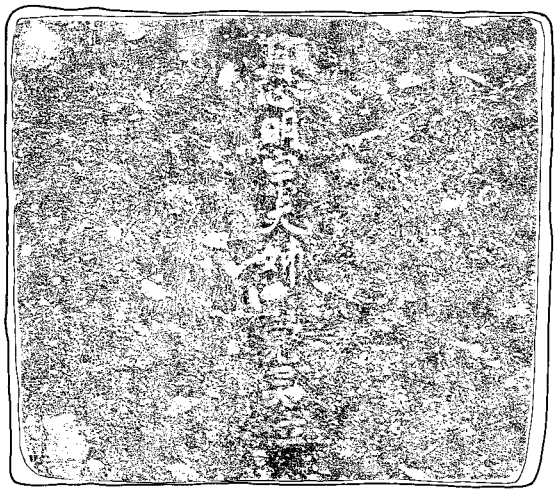
H15・H16SA397・398杭列跡（第215図）

東側調査区中央部のF22グリット付近で検出された。杭材が遺存しており、SA397は杭№１～４、SA398は杭№５～20で構成される。両杭列はほぼ同じ高さで検出されたため、同時期の構築と判断される。杭間は70cm ～ 80cmであり、いずれの杭からも掘り込みは確認されず、打ち込みによるものである。杭は角材と自然木の枝を払っただけの軽易なも材が用いられている。SA398の杭列に

石製品

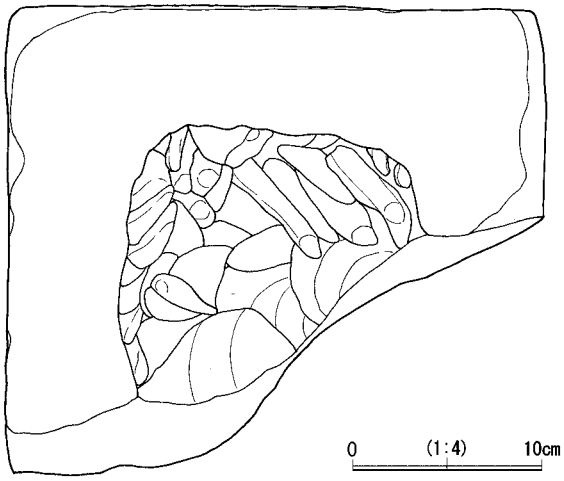


第237図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑰

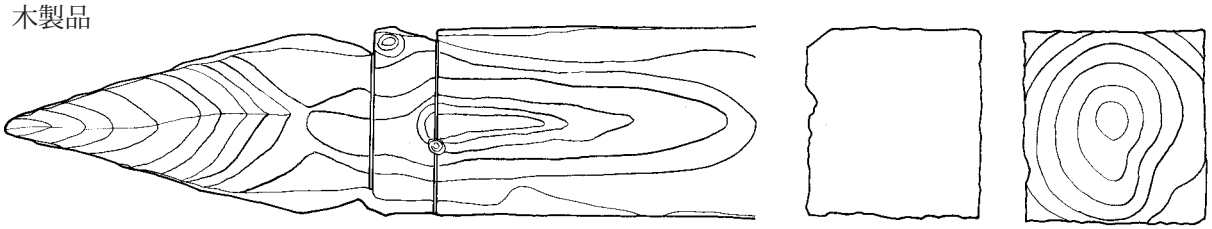


月心明宗大姉覺灵位

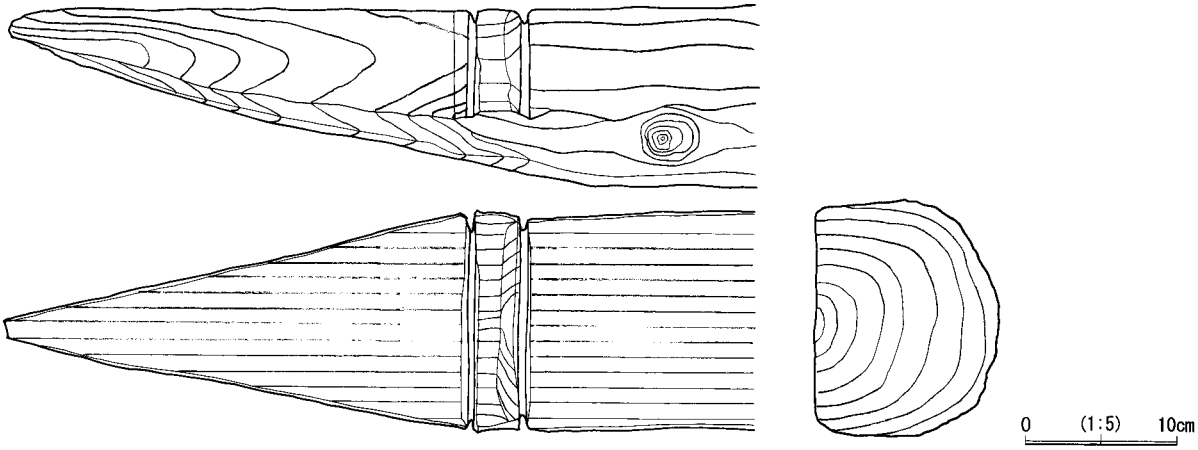
1



木製品

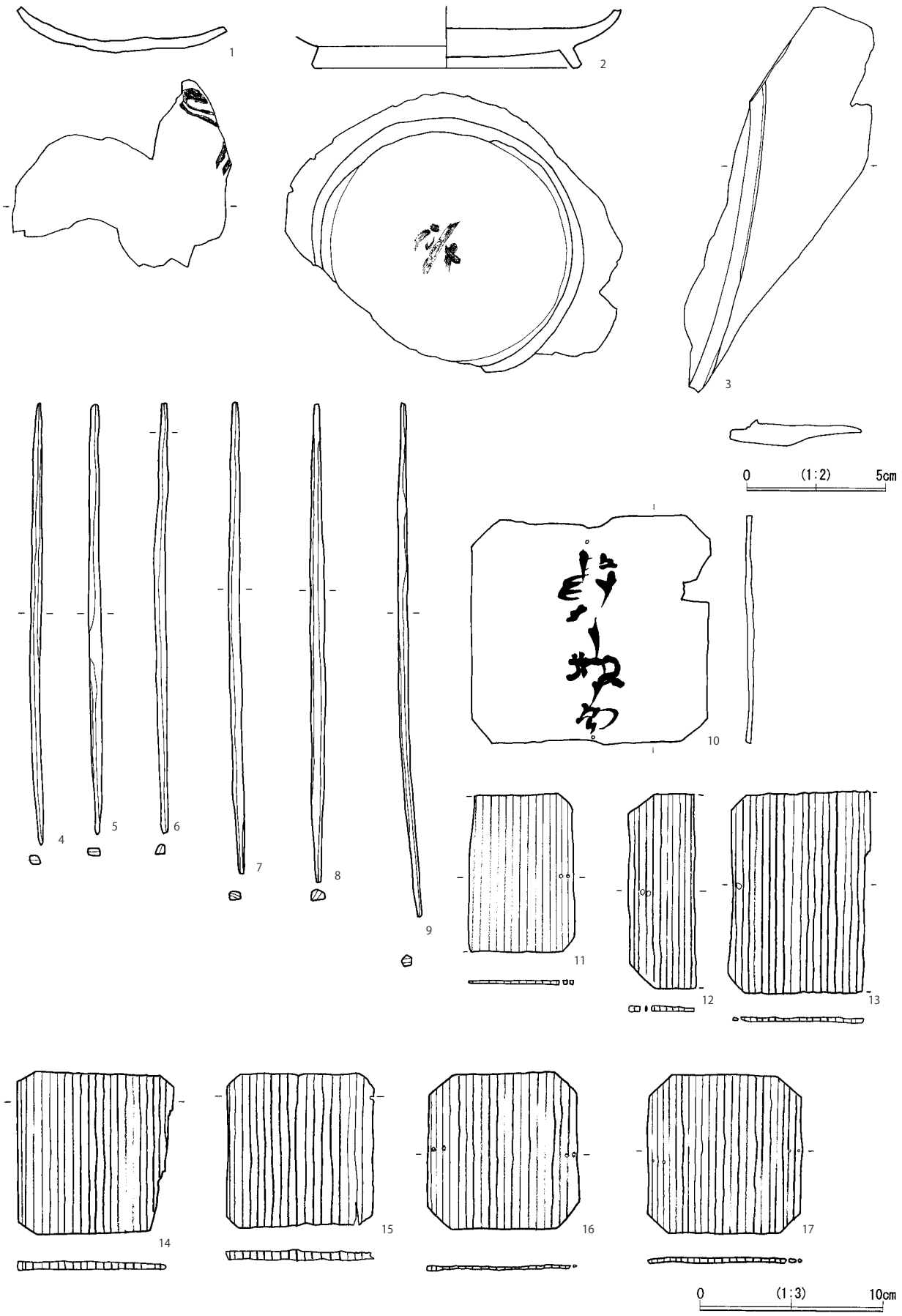


2

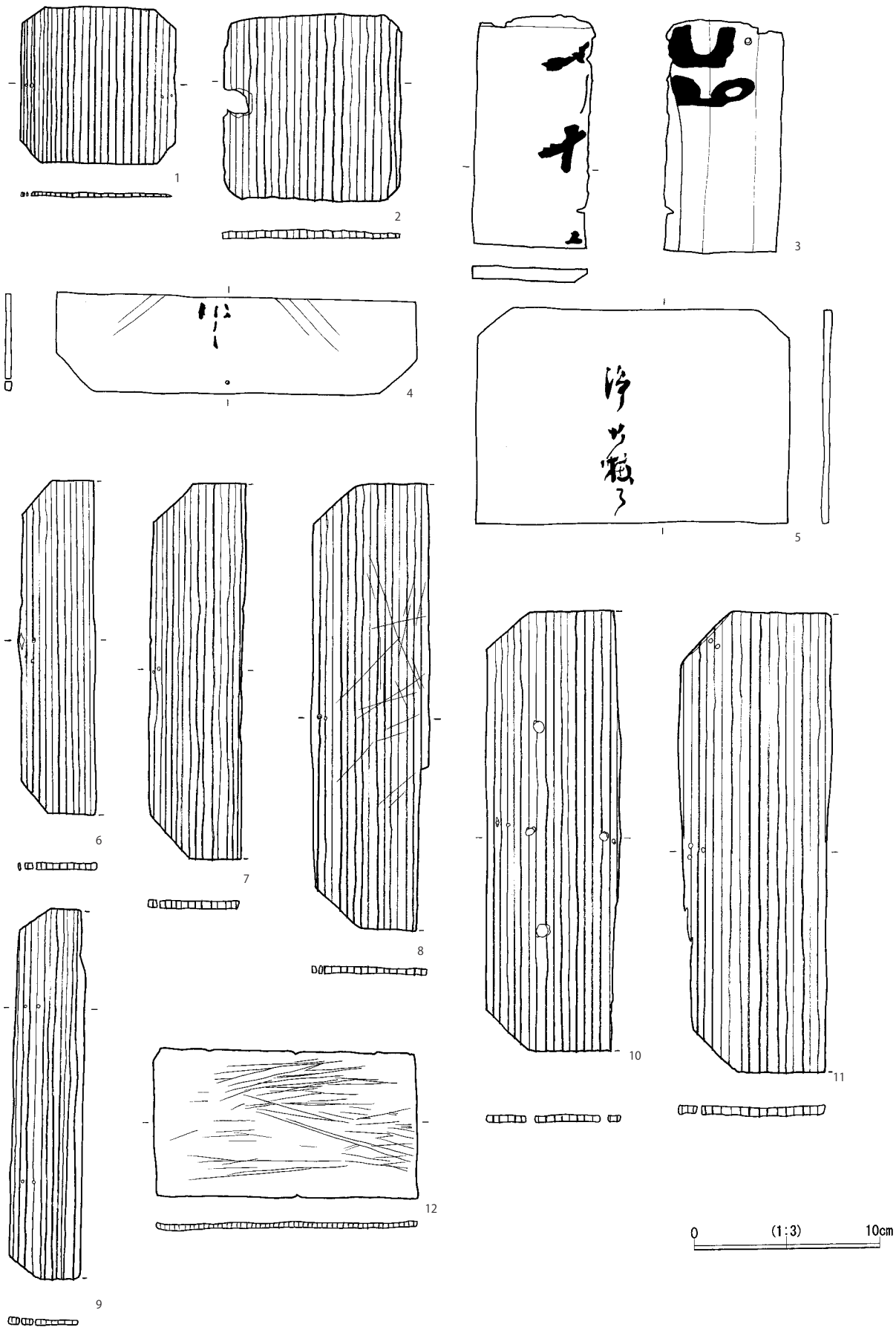


3

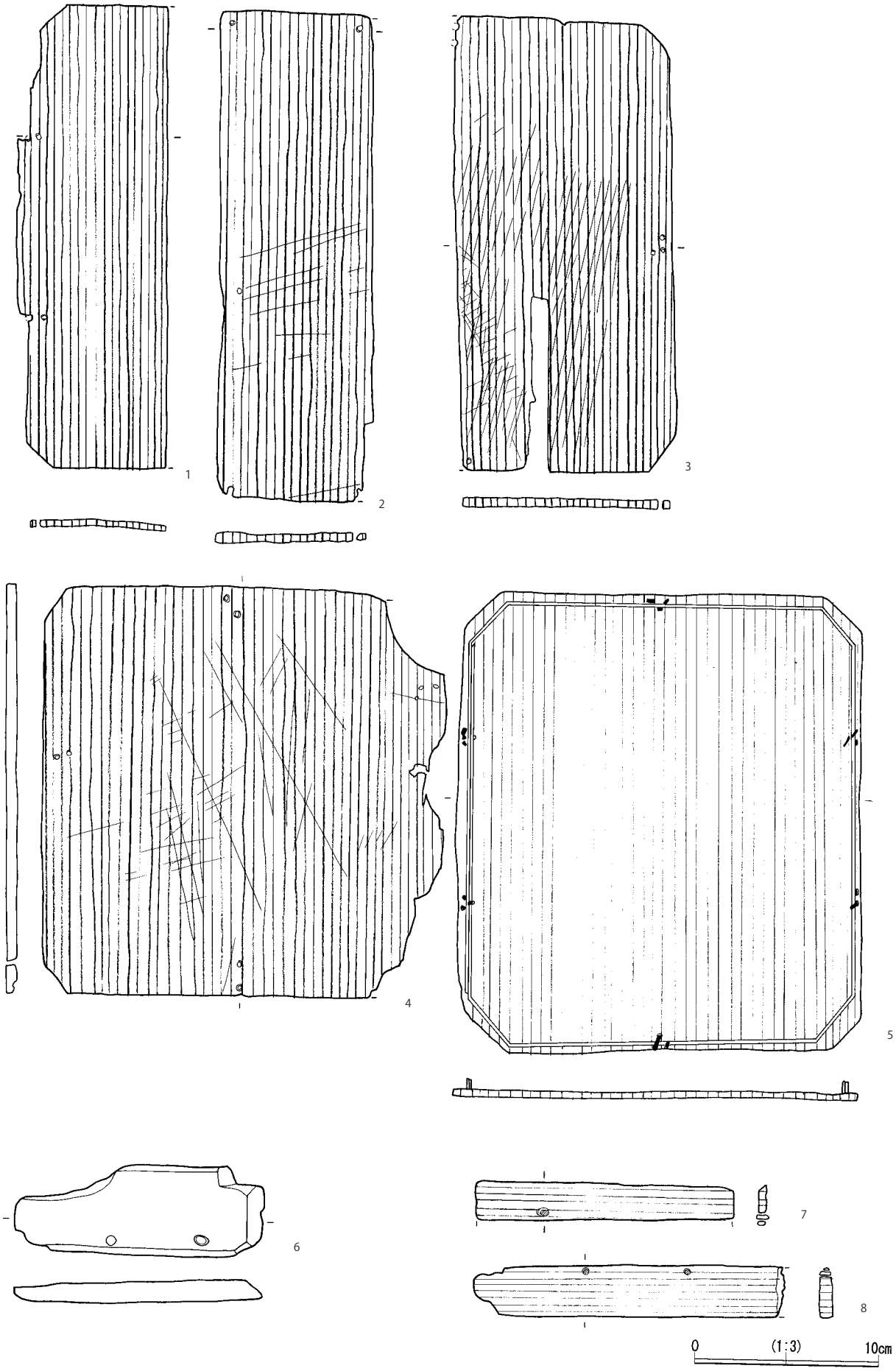
第238図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑱



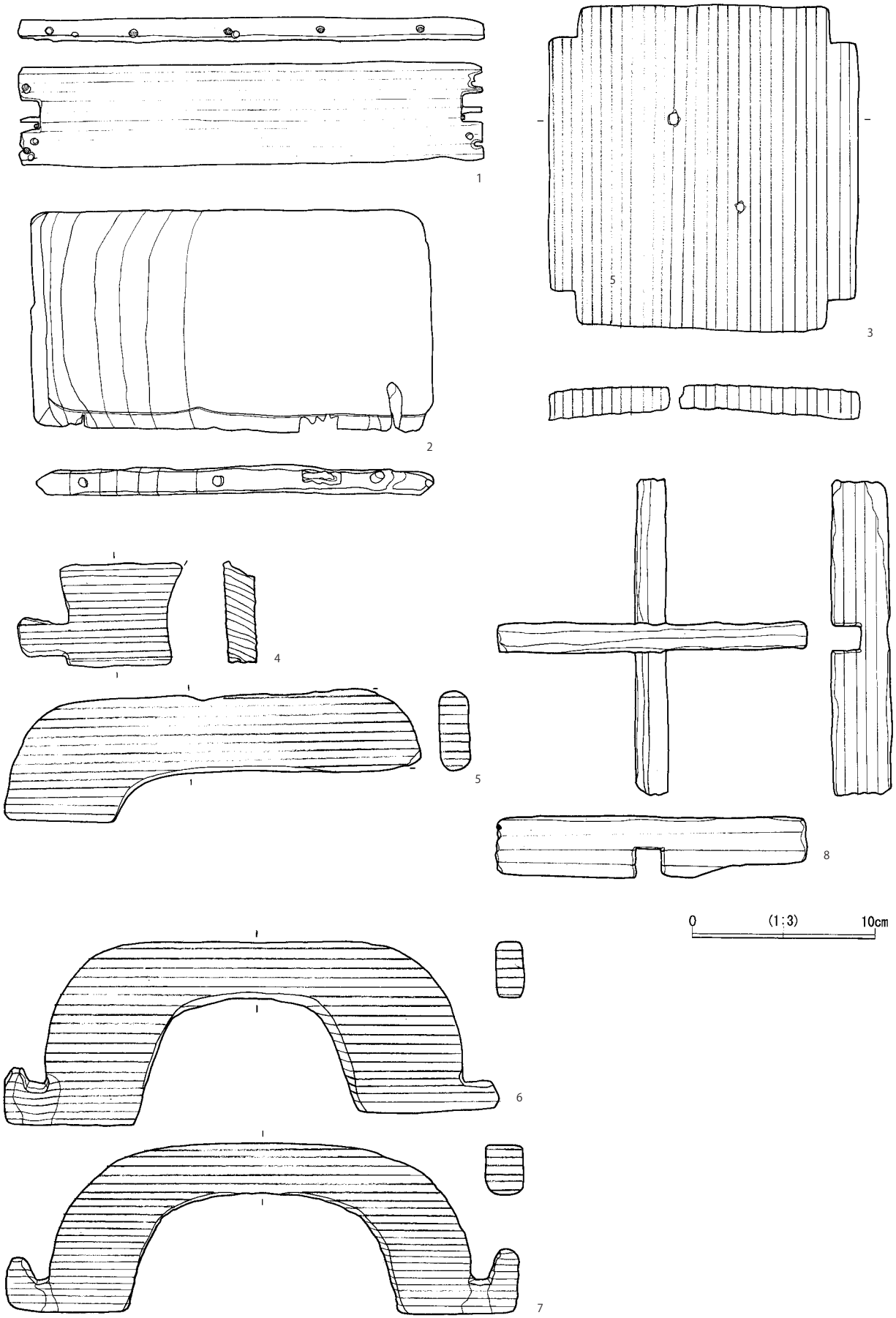
第239図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑲



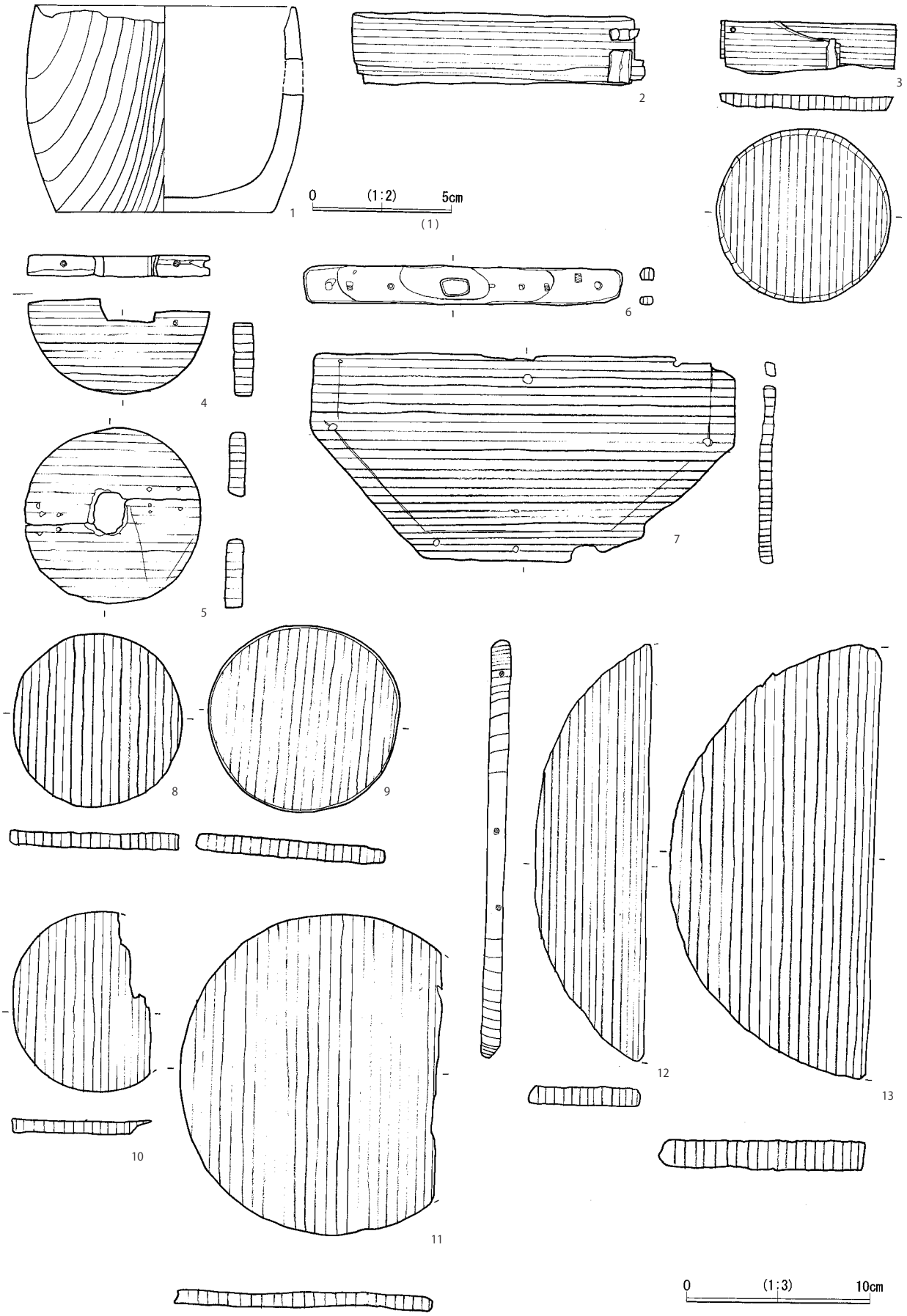
第240図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物⑳



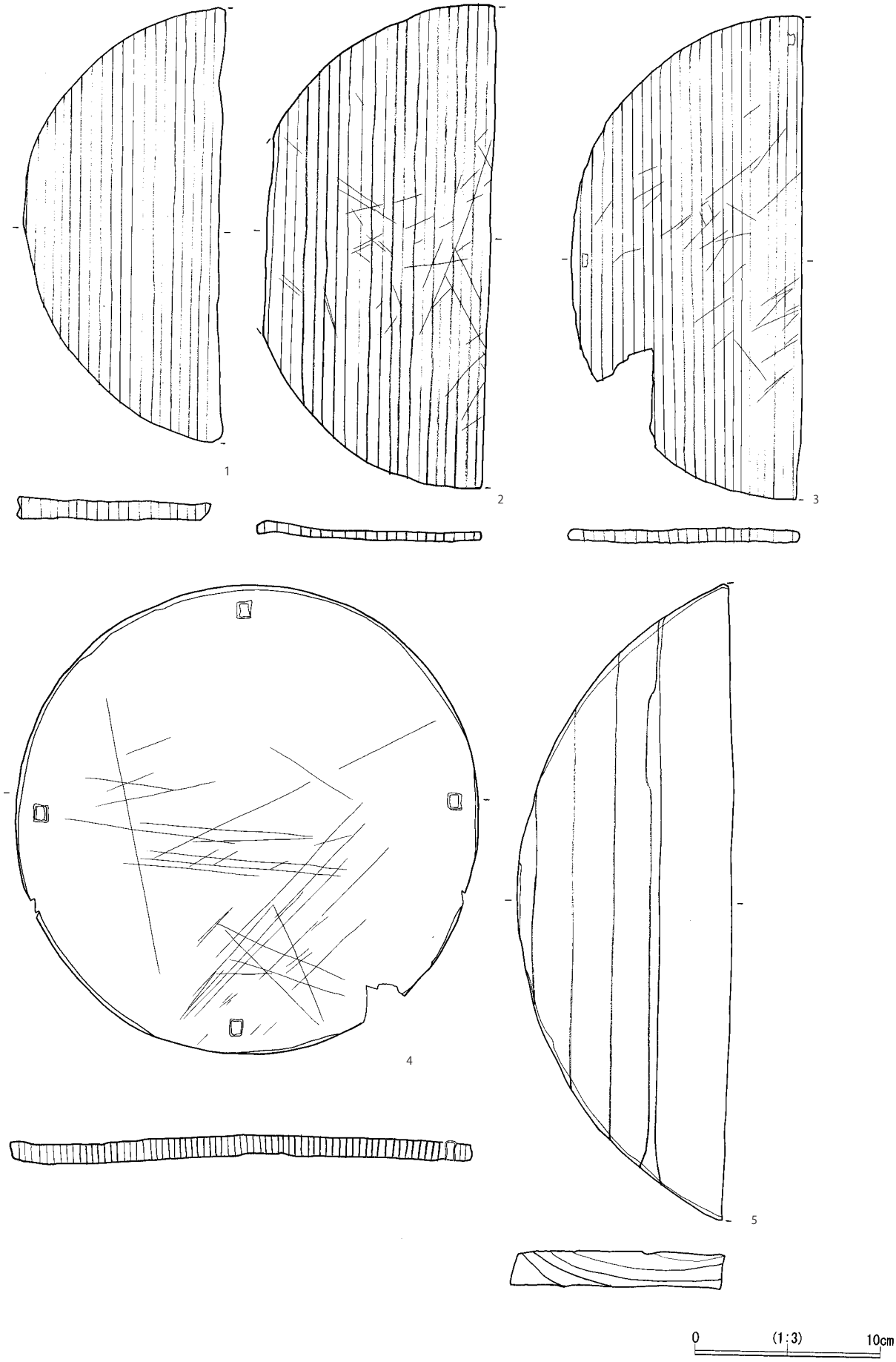
第241図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉑



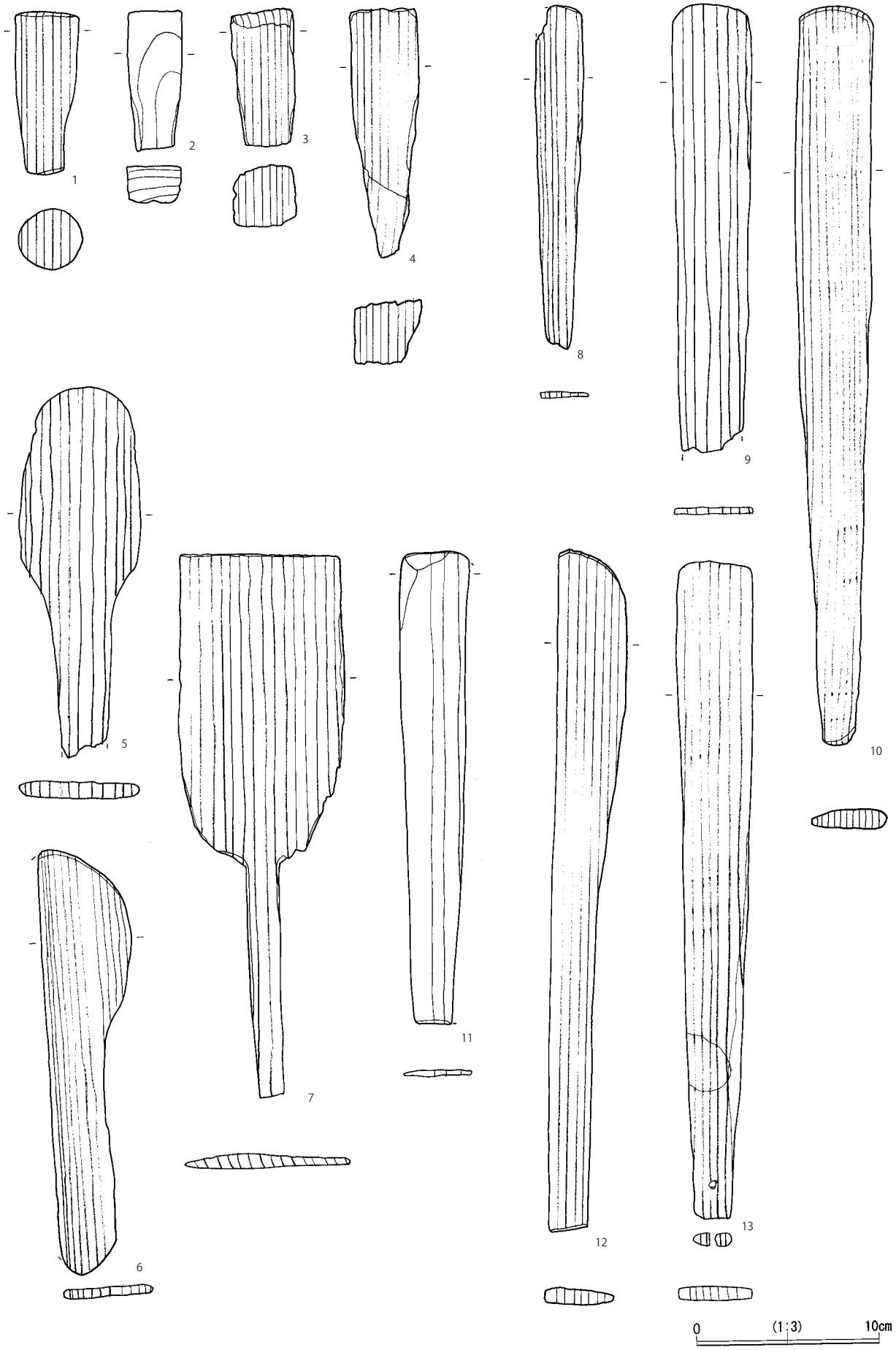
第242図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉒



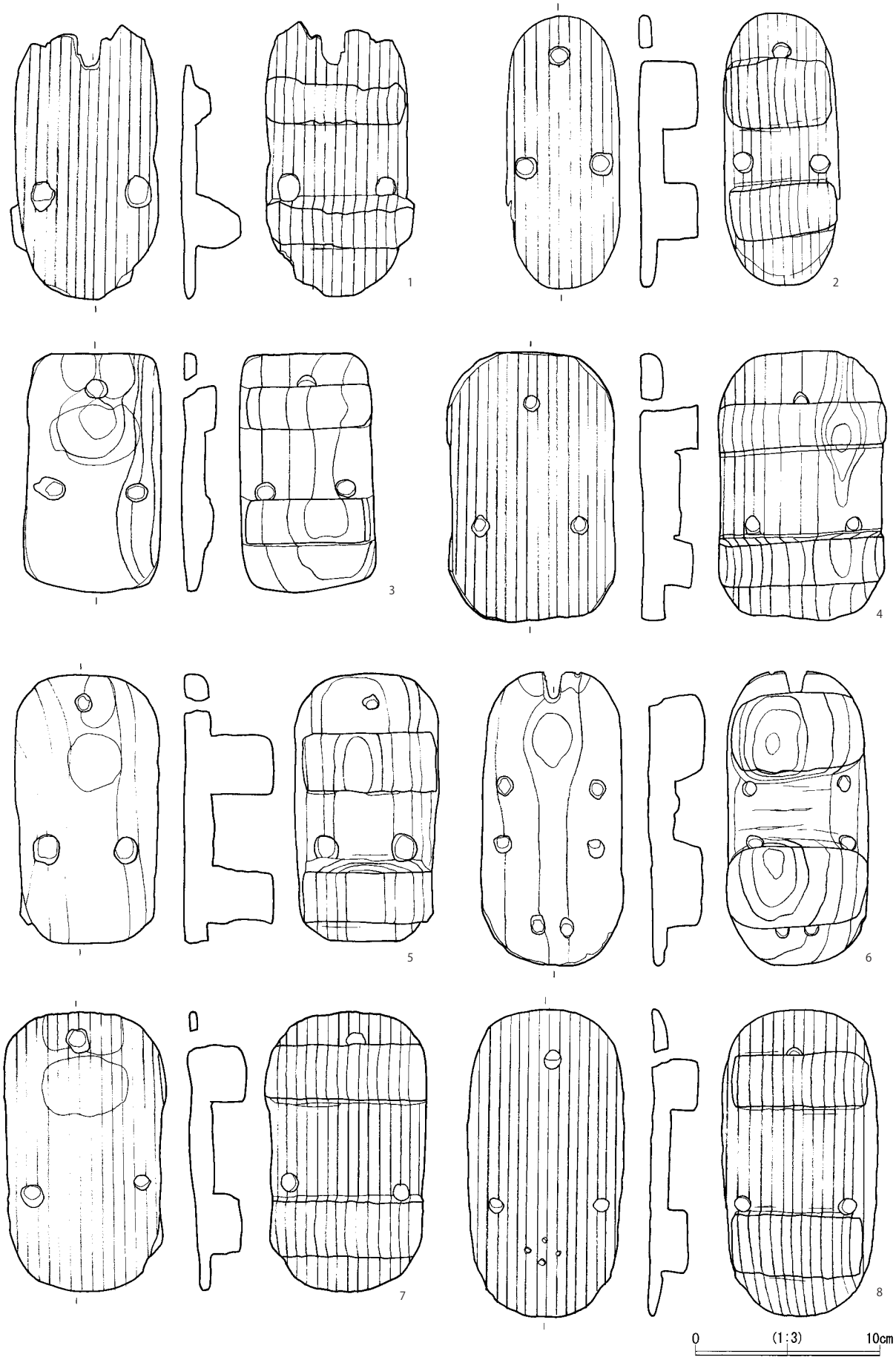
第243図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉓



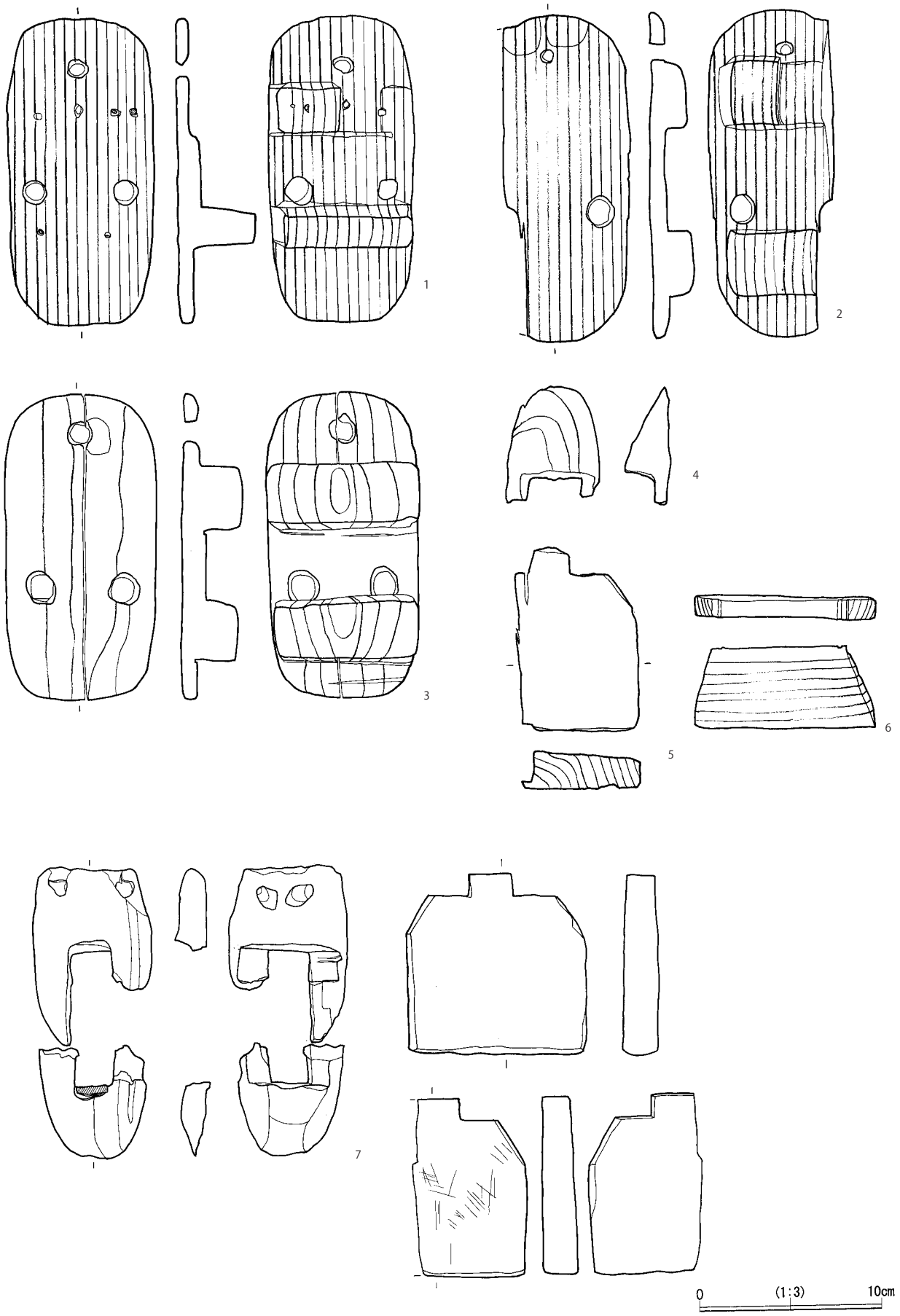
第244図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉔



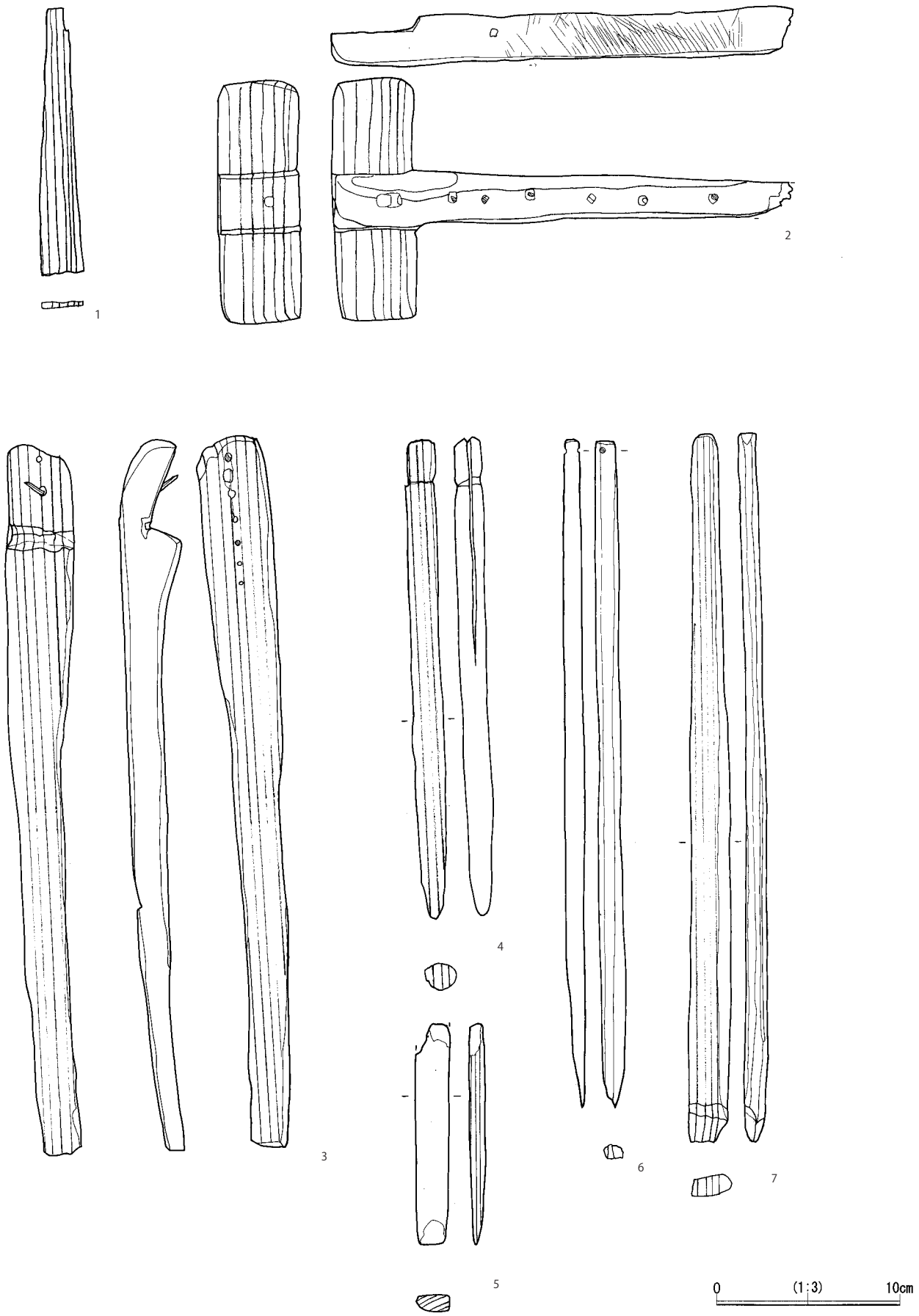
第245図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉕



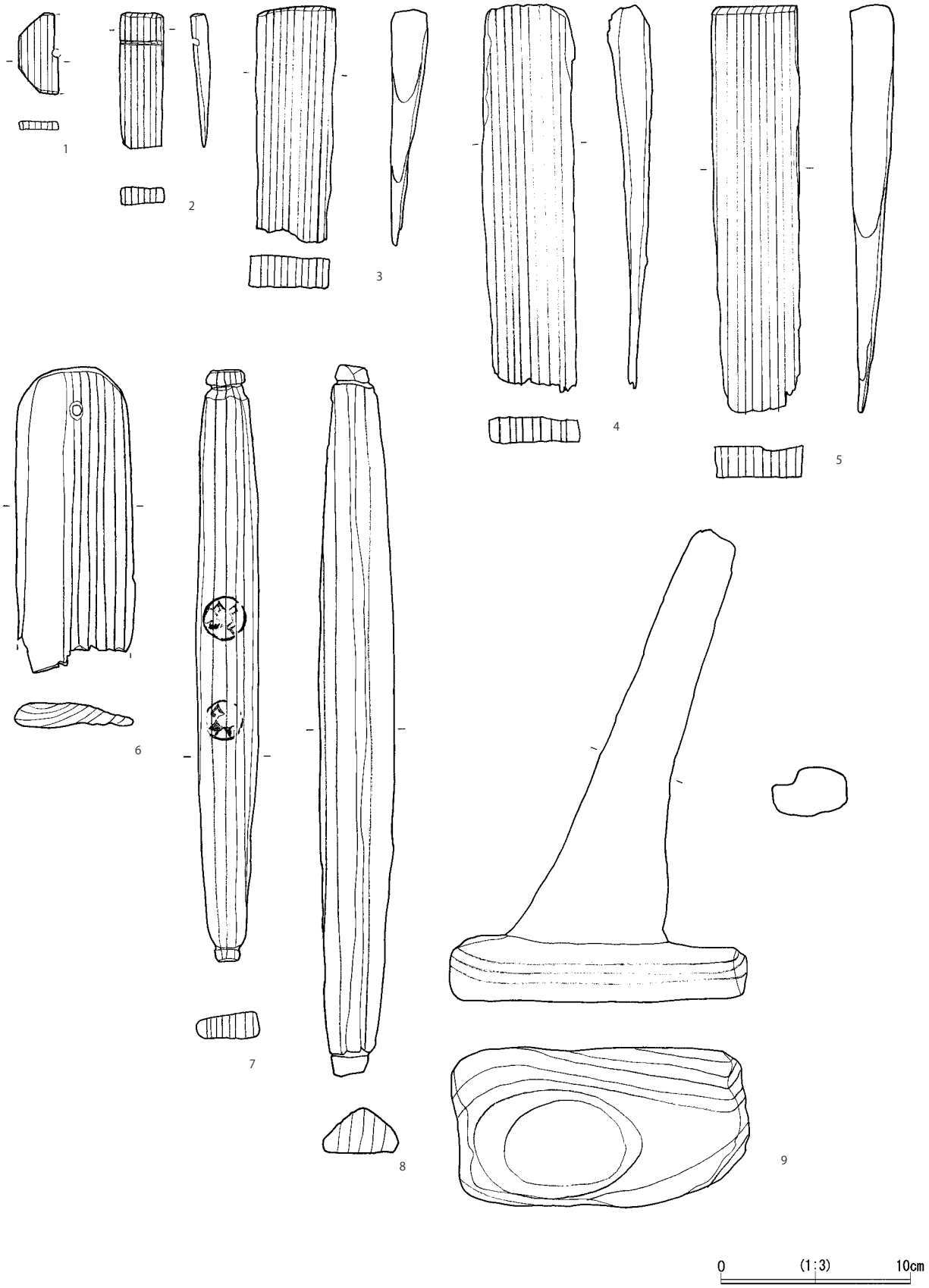
第246図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉖



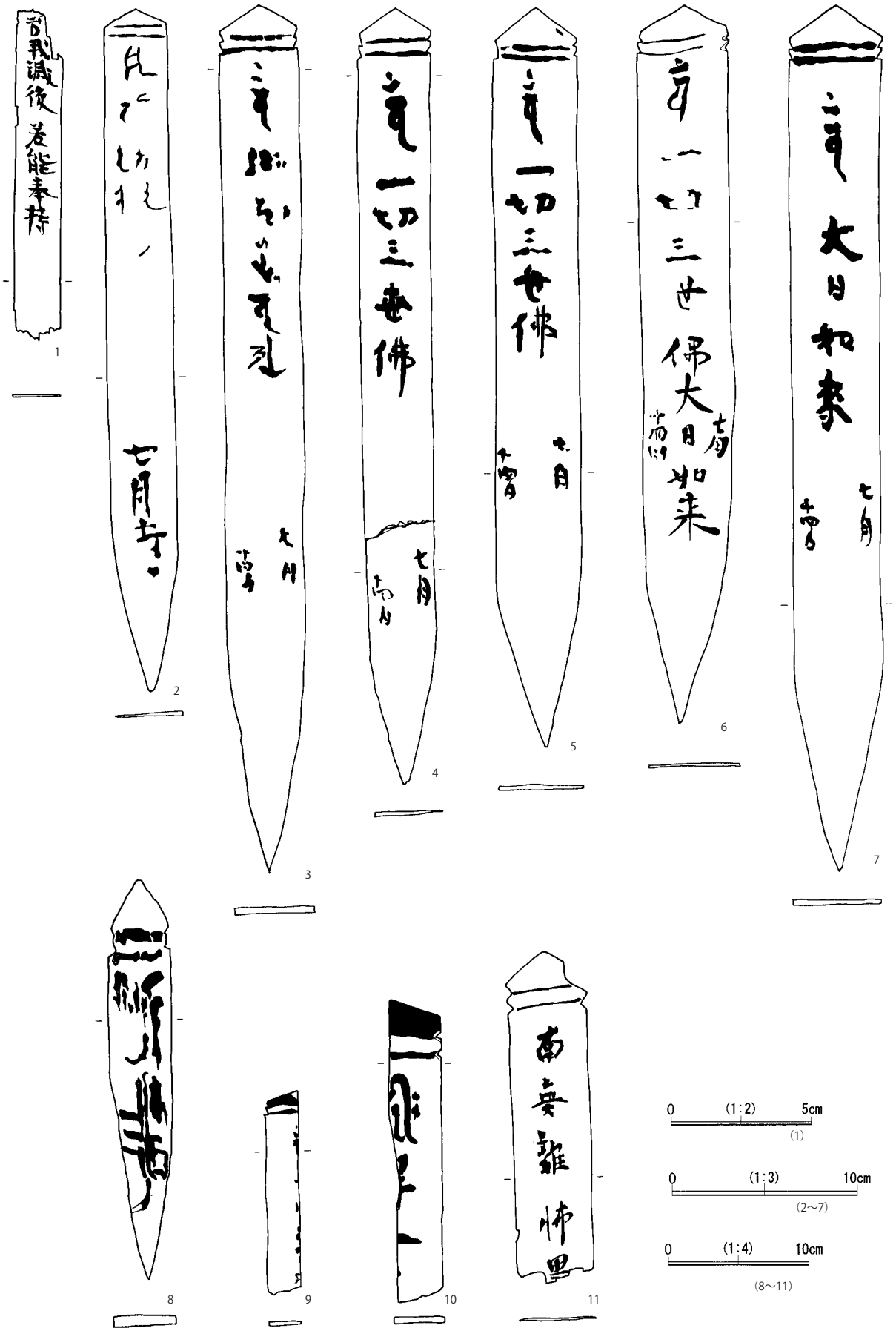
第247図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉗



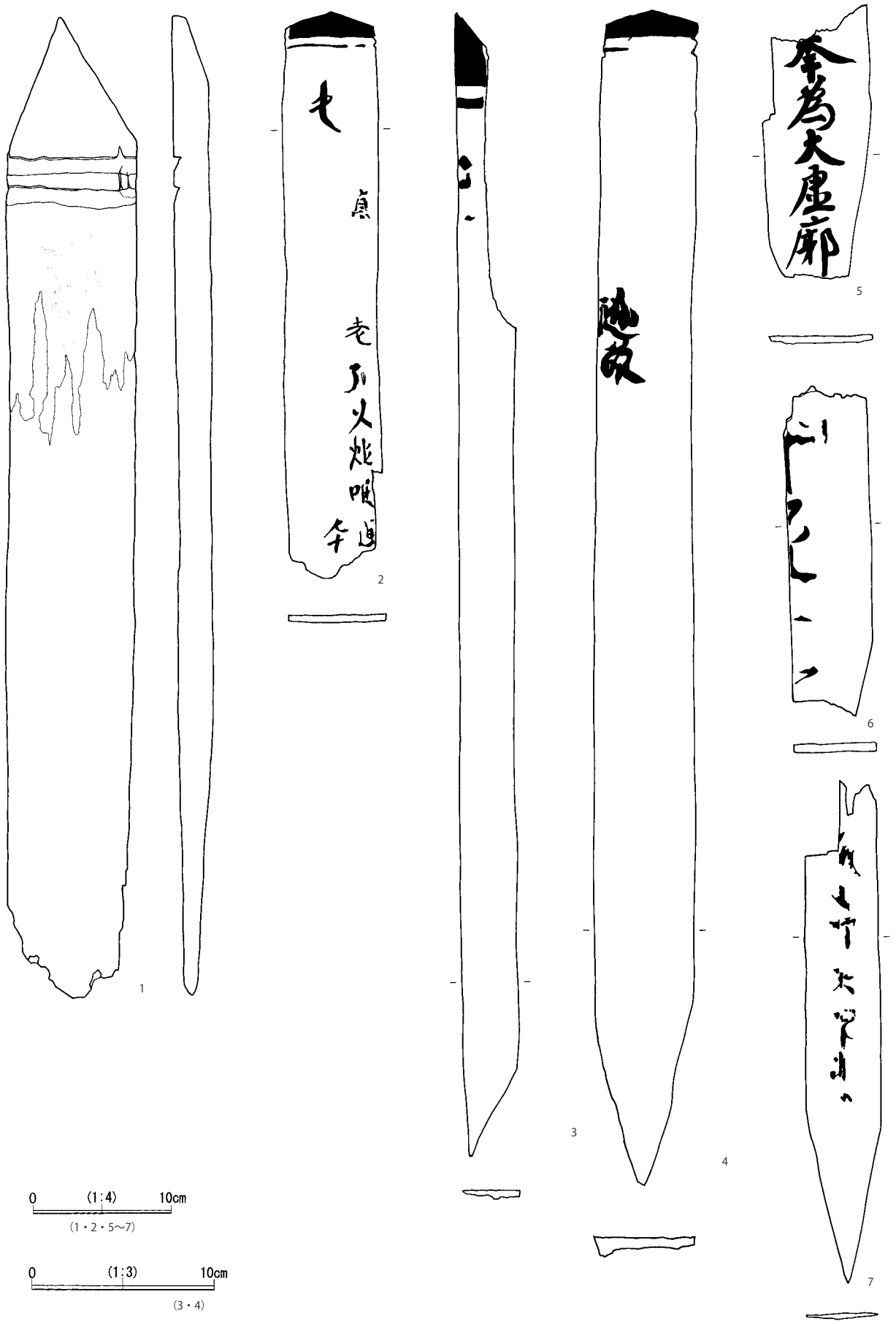
第248図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉘



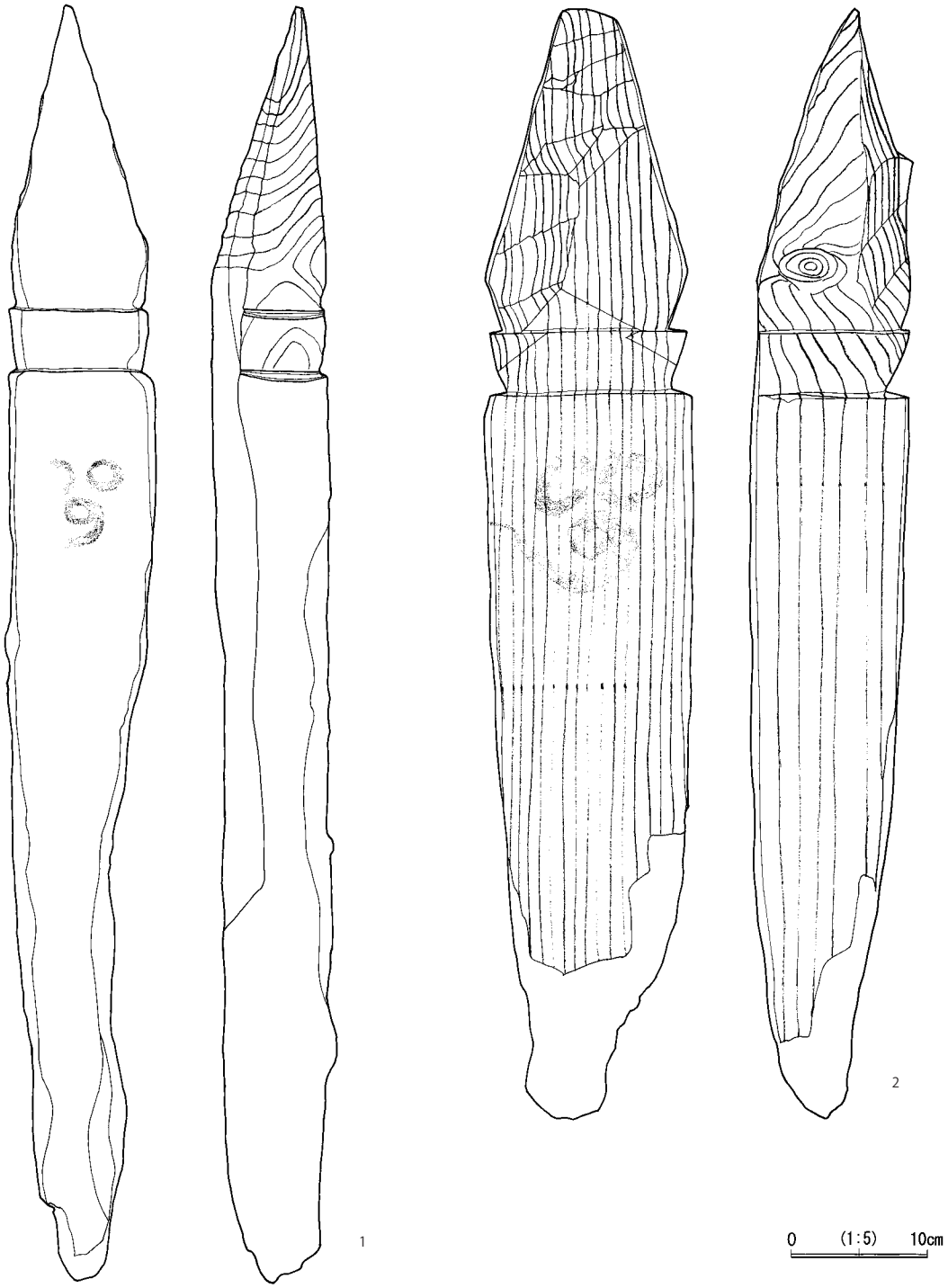
第249図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉙



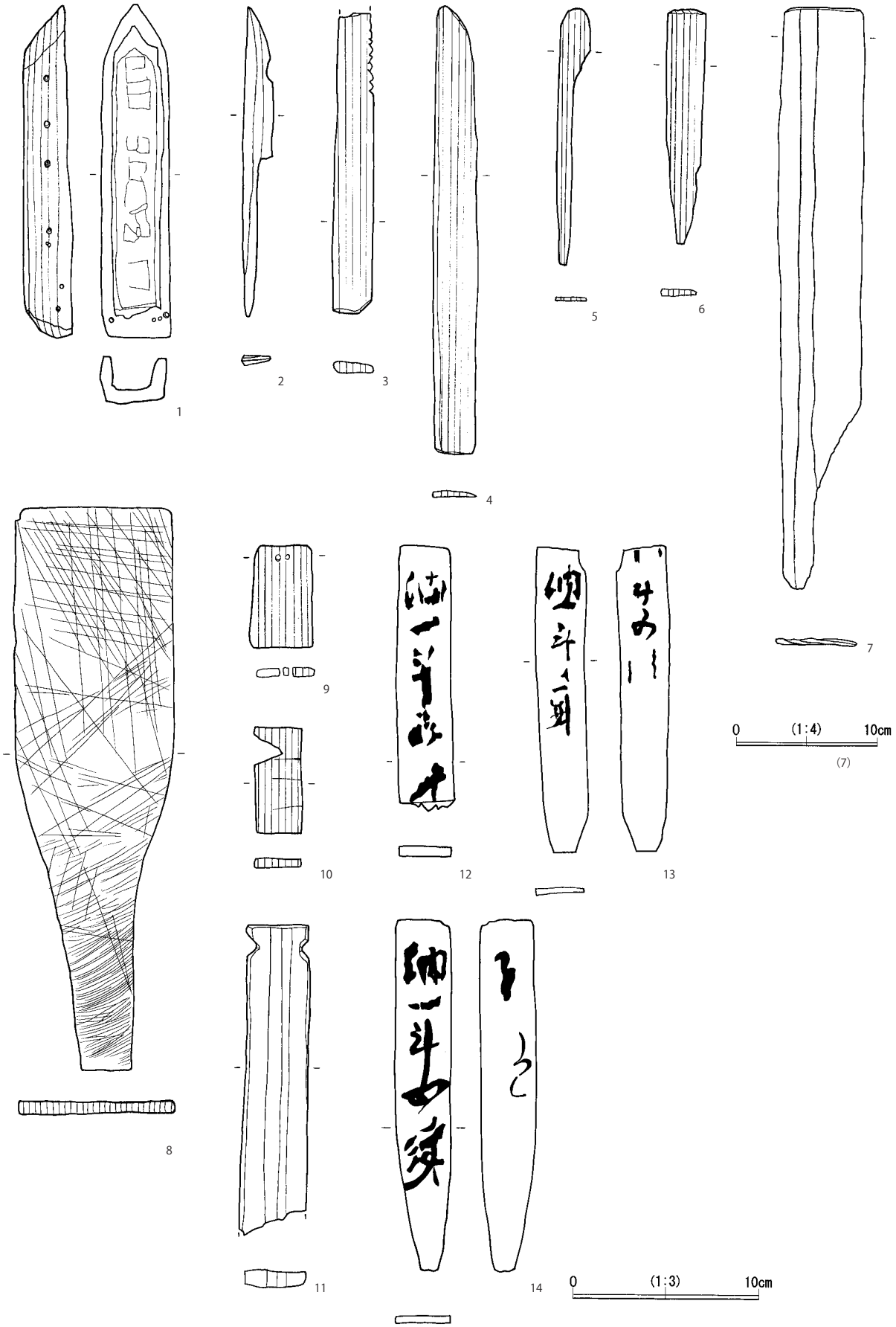
第250図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉚



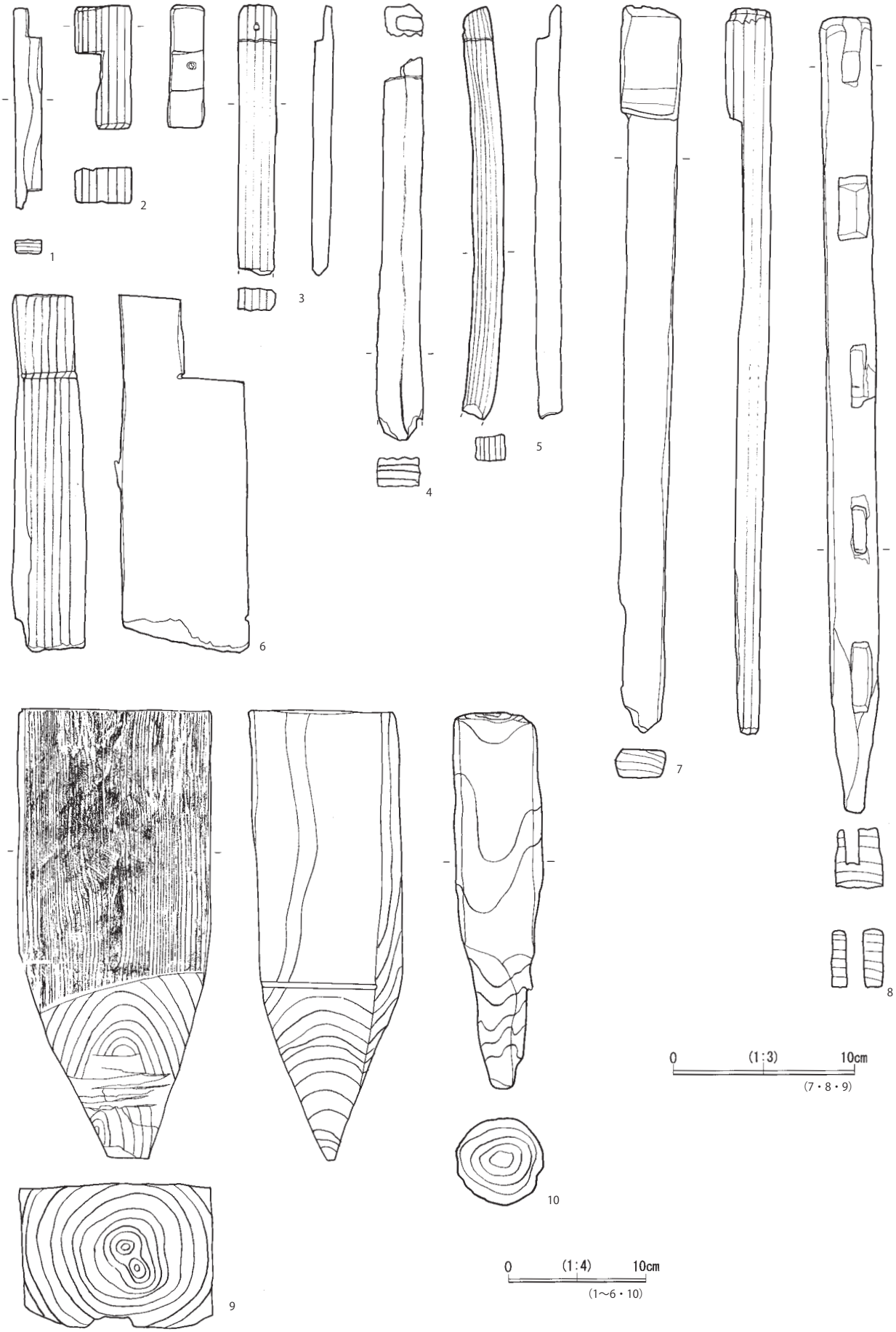
第251図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉛



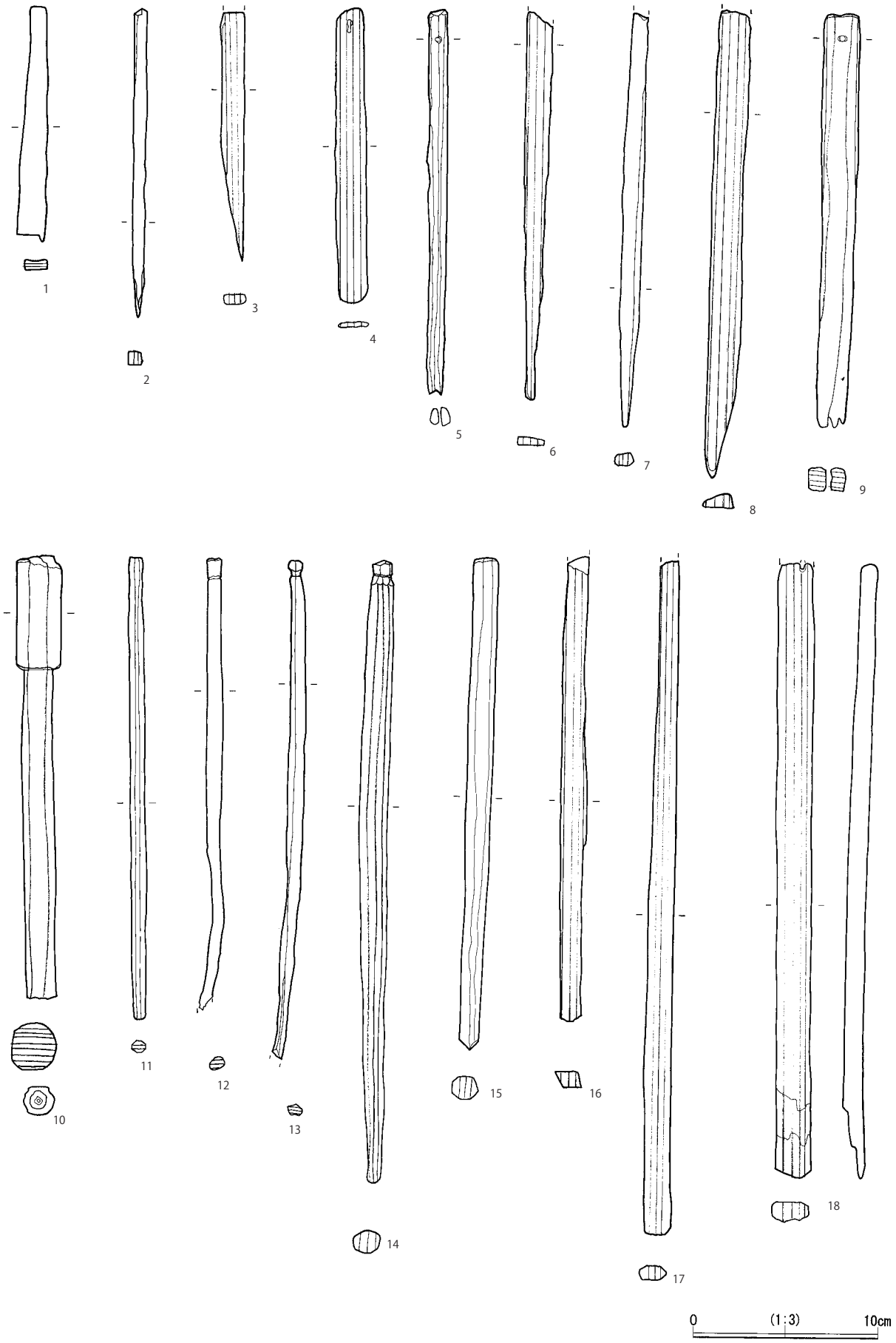
第252図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉜



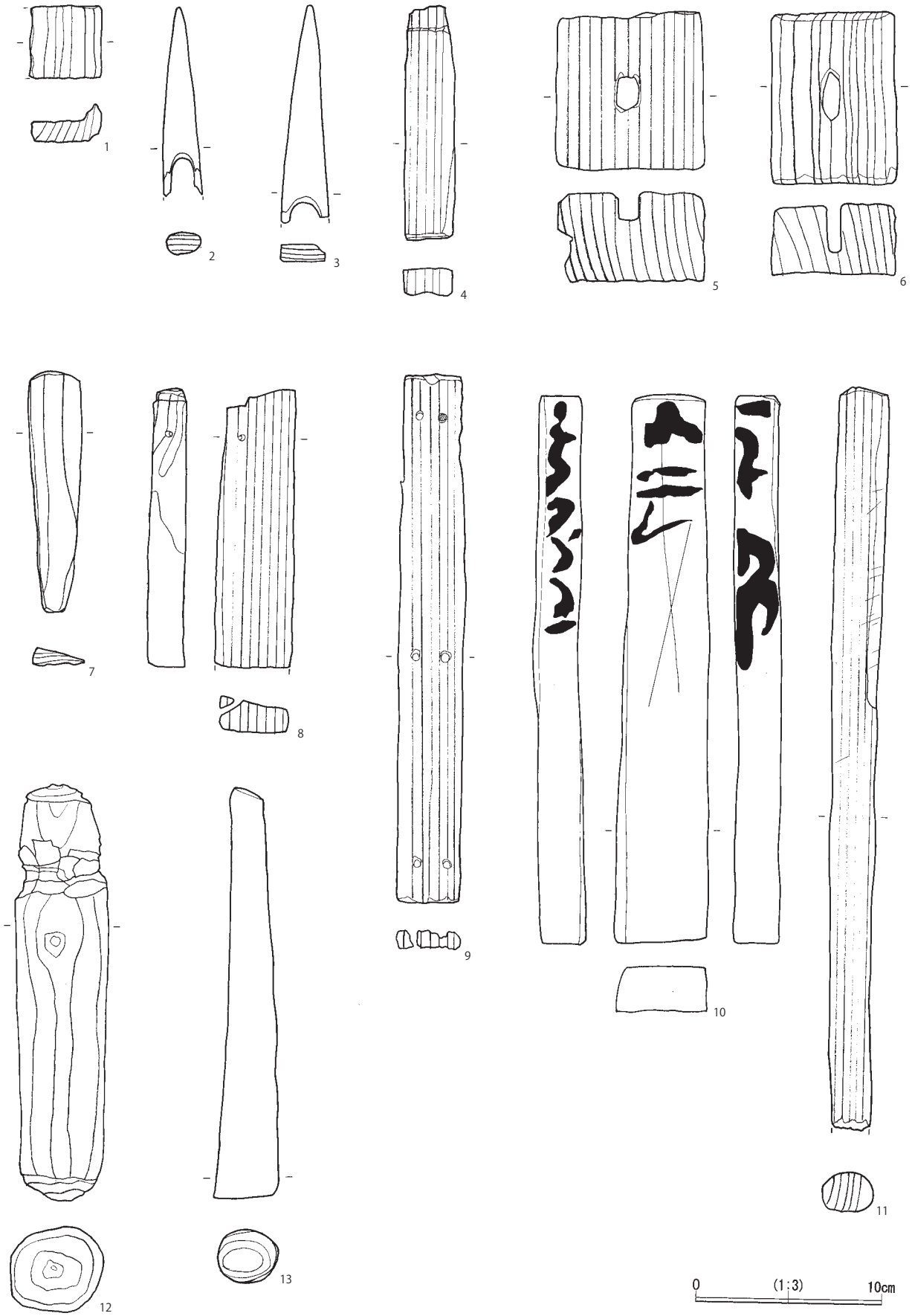
第253図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉝



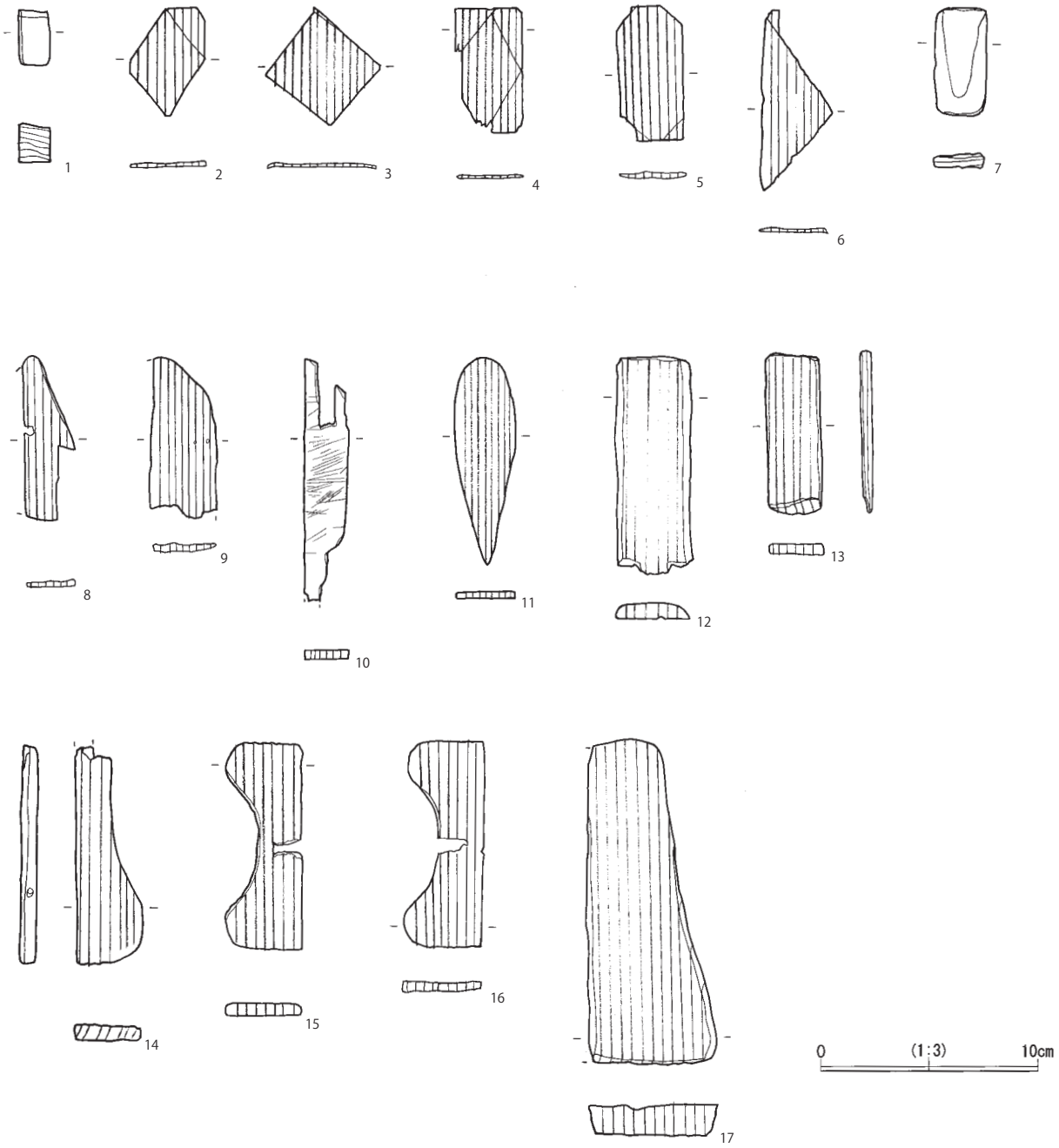
第254図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉞



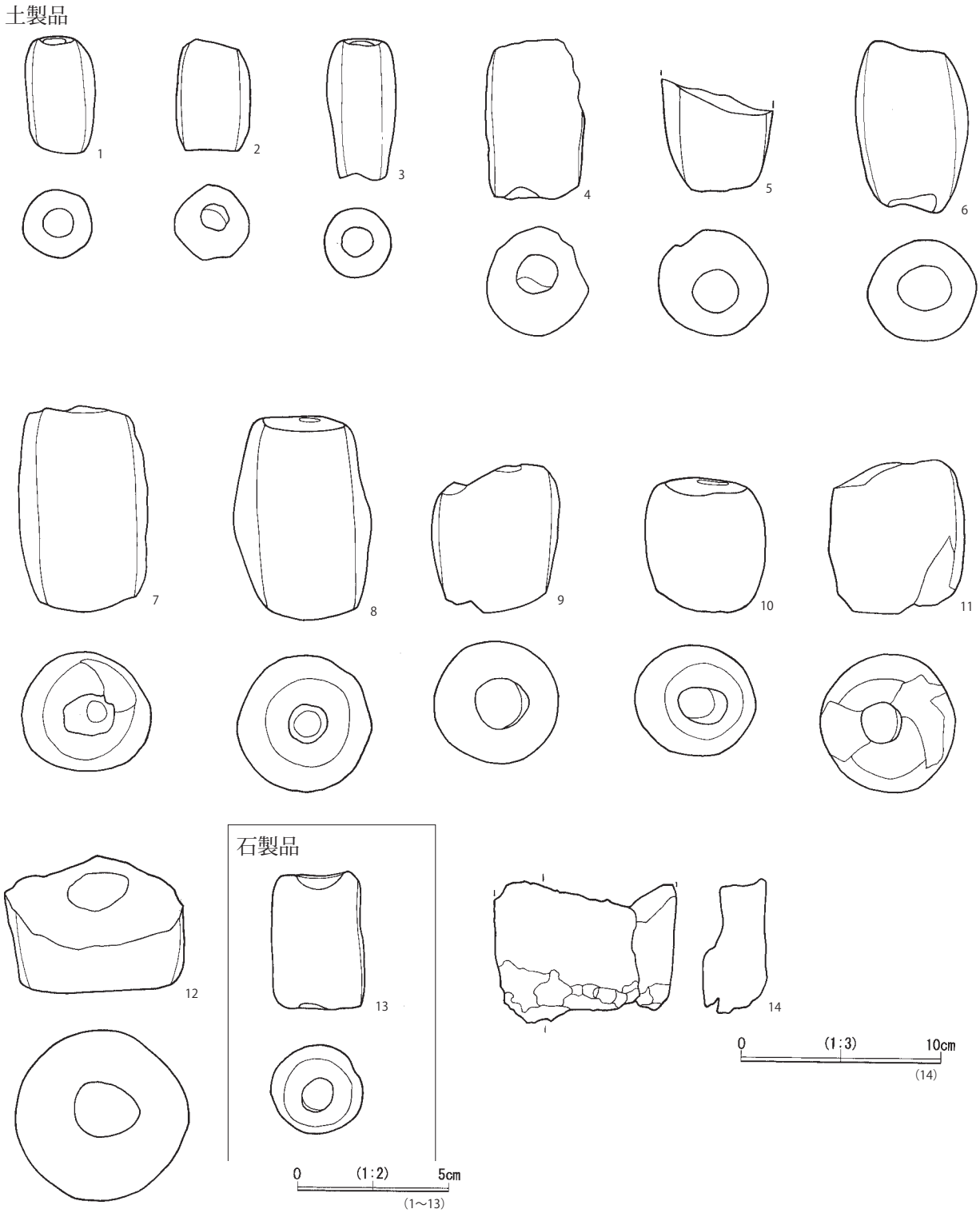
第255図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㉟



第256図　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物㊱

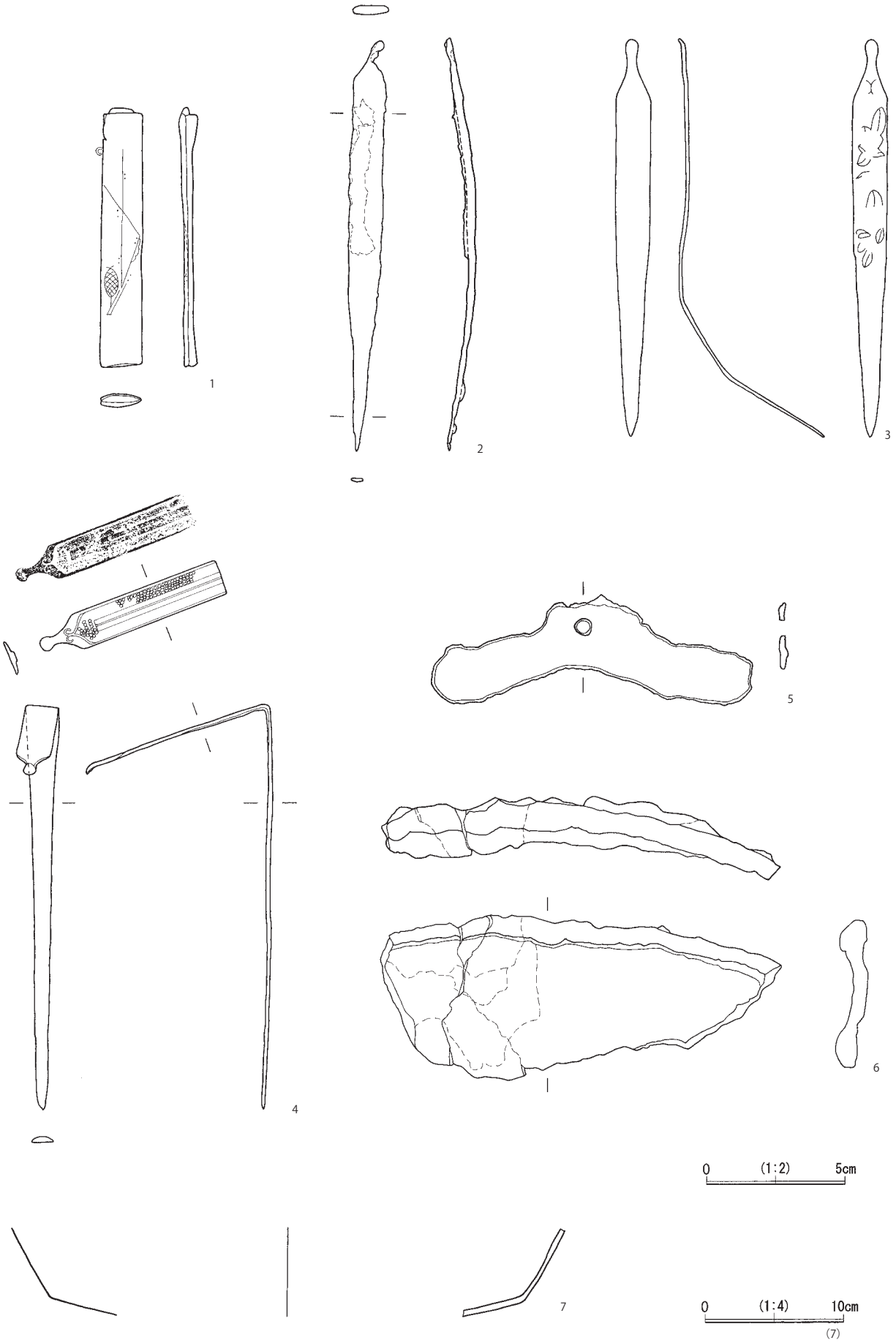


第257図　南西端部（H15・H17年度調査）東側地区出土遺物㊲



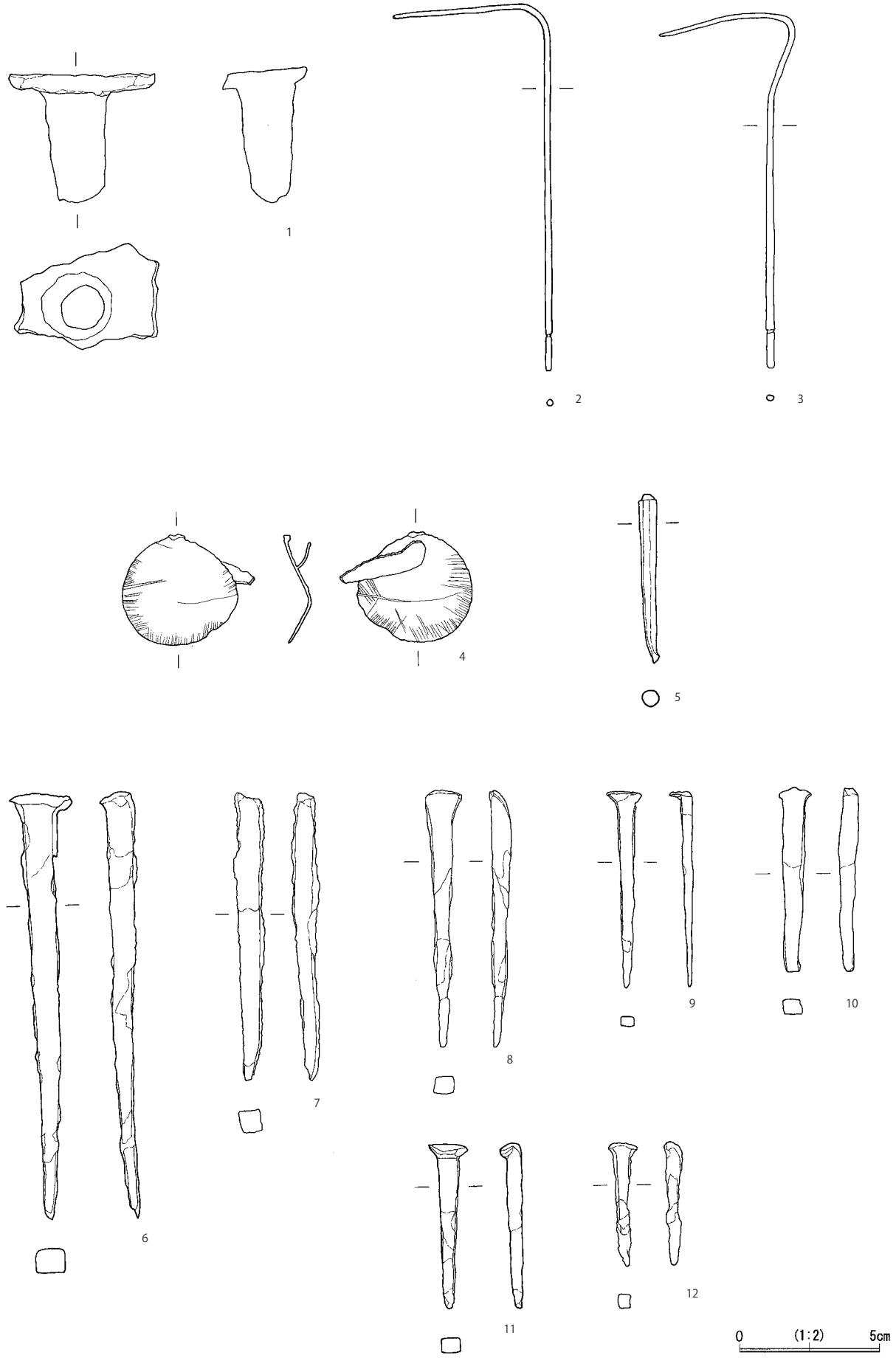
第258図　南西端部（H15・H17年度調査）東側地区出土遺物㊳

金属製品



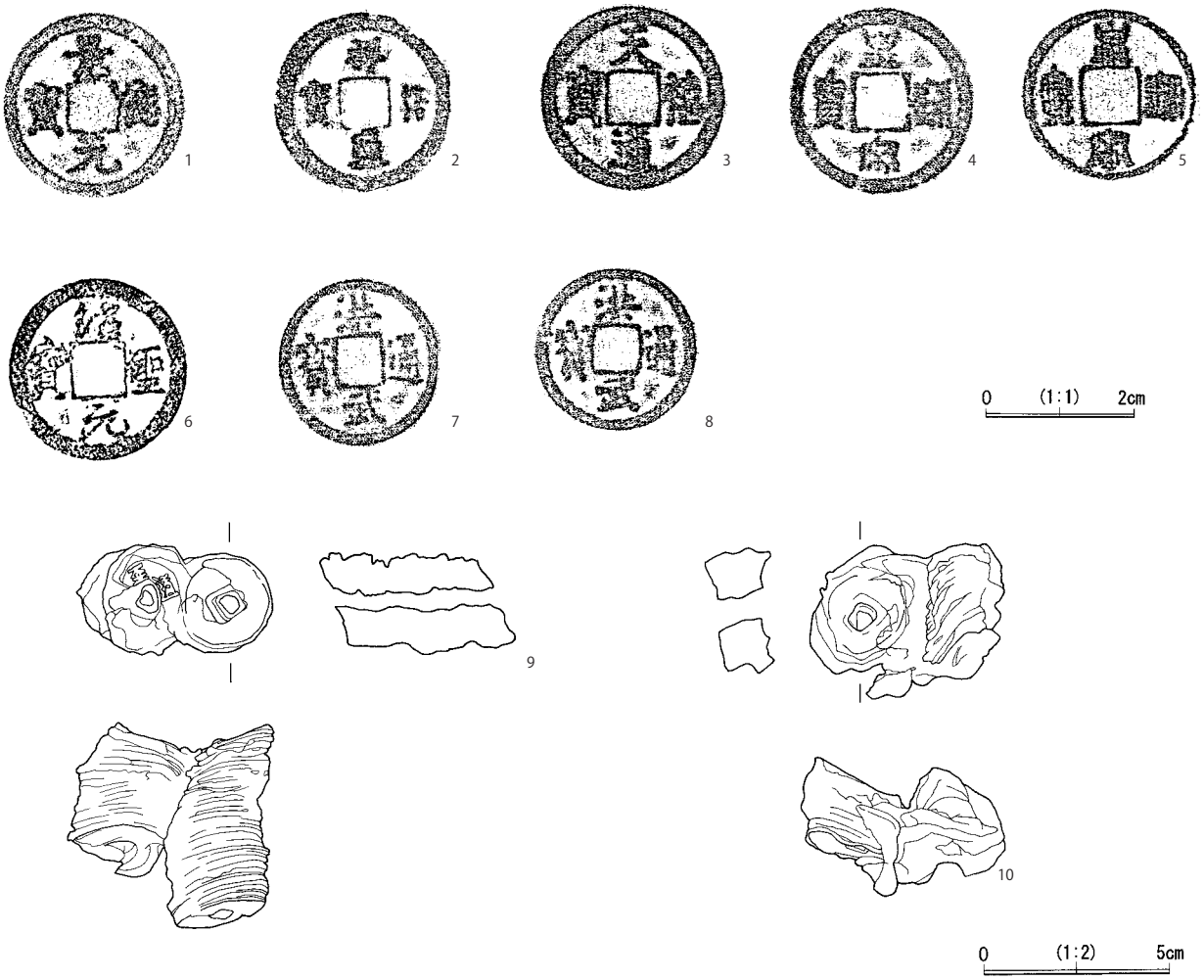
第259図　南西端部（H15・H17年度調査）東側地区出土遺物㊴

金属製品



第260図　南西端部（H15・H18年度調査）東側地区出土遺物㊵

銭貨



第261図　南西端部（H15・H18年度調査）東側地区出土遺物㊶

引っかかかるように２基の角状塔婆が出土した（第238図－１・２）。いずれも護岸用杭列の横木として転用されたものと判断される。また、近接して五輪塔の地輪と考えられる緑色凝灰岩質の墓石が出土した（第238図－１）。正面に「月心明宗大姉覺灵位」の戒名が記されている。戒名の字体から16世紀代の墓石と考えられる。

H15・H16SQ399（第216図）

東側調査区西側のD18グリット付近で検出された。南北1.5m、東西8.1mにわたって礫が確認され、集石遺構と判断した。周囲に柱穴跡や杭や自然木等の遺材が確認された。検出された高さからSA393・394の埋没後の集石と判断される。角礫、円礫がともに検出されており、大きさに規格性はみられない。石材は凝灰岩及び泥岩である。

H15・H16土塁状遺構１・２（第217図）

東側調査区東側にて現況地形で確認されていた。土塁状遺構１は頂上部が平坦であり、南北約14m、東西6.3m、高さ1.9mである。最下部の切土とその上の盛土による構築が確認された。盛土下部の10層内より明代の染付が出土しており、盛土後に頂上部が削平されているものと判断される。中世期の堆積層上に盛土されており、盛土内からの遺物の出土はなかった。土塁状遺構２は南北約7.5m、東西約４m、高さ60cmである、盛土は確認されなかったものの、土層断面から大きく削平されているものと考えられる。11層内から古銭塊及び越前すり鉢、18層内より箸状木製品が出土した。

第79表　南西端部（H15・H16年度調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
88	125	338	18	197	197	0	134	1	0	0	70	18	26	0	135	1	1	48	0	2491	43	32	139	漆12・鉄滓・骨

第80表　南西端部（H15・H16年度調査）西側地区出土遺物観察表

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土調査区	出土遺構	法量（cm）			時期	報告書	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
218	1	38	白磁	皿	西側	-	-	(6.6)	(2.3)	15c後半～16c	脇本城跡	15	1	
218	2	38	白磁	皿	西側	-	-	(5.8)	(1.4)	15c後半～16c	脇本城跡	15	2	
218	3	38	白磁	皿	西側	-	-	(4.6)	(1.8)	15c後半～16c	脇本城跡	15	3	割口に漆による補修痕
218	4	38	青磁	碗	西側	-	-	5.2	(2.4)	-	脇本城跡	15	6	
218	5	38	青磁	碗	西側	-	-	4.4	(2.4)	-	脇本城跡	15	4	被熱
218	6	38	青磁	碗	西側	-	-	4.4	(2.9)	15c後半～16c前半	脇本城跡	15	5	
218	7	38	染付	皿	西側	-	-	(4.4)	(1.7)	15c後半～16c中	脇本城跡	15	7	被熱
218	8	38	染付	皿	西側	-	-	(7.2)	(2.0)	15c中～16c中	脇本城跡	15	8	
218	9	38	瀬戸美濃	皿	西側	-	-	(5.8)	1.8	16c後半～17c前半	脇本城跡	15	10	被熱
218	10	38	瀬戸美濃	碗	西側	-	-	4.1	(1.0)	-	脇本城跡	15	9	
218	11	38	瀬戸美濃	瓶	西側	-	-	-	(3.4)	-	脇本城跡	15	11	
218	12	38	越前	すり鉢	西側	-	-	-	(10.5)	16c	脇本城跡	15	13	
218	13	38	越前	すり鉢	西側	-	-	-	(6.8)	16c	脇本城跡	15	14	
218	14	38	越前	すり鉢	西側	-	-	-	(6.6)	16c	脇本城跡	15	12	
219	1	38	唐津	皿	西側	-	(15.6)	(8.0)	3.7	-	脇本城跡	16	3	絵唐津・注口割口に漆
219	2	38	唐津	皿	西側	-	(13.6)	4.0	3.7	16c末～17c初	脇本城跡	16	4	胎土目積み
219	3	38	唐津	皿	西側	-	(14.6)	-	(2.0)	16c末～17c初	脇本城跡	16	2	胎土目積み
219	4	38	唐津	皿	西側	-	-	3.5	(2.5)	17c前半	脇本城跡	17	2	砂目積み
219	5	38	唐津	皿	西側	-	-	(4.4)	(1.8)	17c前半	脇本城跡	17	1	砂目積み
219	6	38	唐津	皿	西側	-	-	4.0	(2.8)	16c末～17c初	脇本城跡	16	1	胎土目積み
219	7	38	唐津	碗	西側	-	11.4	4.8	7.4	16c末～17c初	脇本城跡	16	6	胎土目積み
219	8	38	唐津	碗	西側	-	-	4.8	(3.6)	16c末～17c初	脇本城跡	16	5	胎土目積み
220	1	38	伊万里	碗	西側	-	-	5.6	7.6	17c前半	脇本城跡	17	3	有田猿川窯産

■石製品・土製品

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土調査区	出土遺構	法量（cm）			時期	報告書	挿図番号	遺物番号	備考
							全長	幅	厚さ					
220	2	38	石製品	砥石	西側	-	8.8	5.1	5.5	-	脇本城跡	17	8	
220	3	38	石製品	墓石か	西側	-	11.8	9.2	5.5	-	脇本城跡	17	9	緑色凝炭岩
220	4	38	石製品	石錘	西側	-	3.8	最大値5.3	-	-	脇本城跡	17	7	
220	5	38	土製品	土錘	西側	-	4.3	最大値2.5	-	-	脇本城跡	17	4	
220	6	38	土製品	土錘	西側	-	5.0	最大値3.5	-	-	脇本城跡	17	5	
220	7	38	土製品	土錘	西側	-	4.3	最大値3.7	-	-	脇本城跡	17	6	

③出土遺物（第218図～第261図）

遺物は4,102点出土している（その他を含めない）。点数は接合後の破片数である。その内、木製品が最も多く2,000点を超える。中世陶磁器は1,168点出土し、貿易陶磁器が569（48.7%）、国産陶器599点（51.3%）である。

陶磁器の年代については、西側地区では14世紀後半から15世紀前半の青磁碗が古く、15世紀中葉以降の腰折皿、稜花皿がそれに続く。白磁はE群が主体で16世紀代、染付はB１・C群が主体であり、15世紀後半から16世紀前半に位置付けられる。国産陶器類では瀬戸美濃が16世紀後半から17世紀代、越前は16世紀代のすり鉢が多い。他の地区では出土の少ない唐津も多く出土しており、16世紀末から17世紀初めの胎土目積み、17世紀前半の砂目積みのものが出土しており、17世紀前半代の伊万里も出土している。東側地区では15世紀後半の白磁小坏、八角坏の他、E群の皿が出土している。青磁は15世紀代の碗・皿が多く、染付はB１群の皿が多いものの、15世紀後半から16世紀後半まで確認される。国産陶器類では瀬戸美濃が16世紀前葉から中葉のものが多く、16世紀後半代まで確認される。唐津は胎土目積みが多いものの、砂目積みも確認される。貿易、国産陶磁器ともに、15世紀から17世紀前半代まで確認される。

第81表　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物観察表①

■陶磁器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土調査区	出土遺構	法量（cm）			時期	報告書	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
221	1	38	白磁	小坏	東側	-	(6.0)	-	(2.7)	15c後～16c	脇本城跡	25	1	
221	2	38	白磁	小坏	東側	-	-	3.1	(2.2)	15c後～16c	脇本城跡	25	2	
221	3	38	白磁	八角坏	東側	-	-	3.6	(1.9)	15c後～16c	脇本城跡	25	3	
221	4	38	白磁	皿	東側	-	-	(7.0)	(1.5)	15c後～16c	脇本城跡	25	4	
221	5	38	白磁	皿	東側	-	-	(6.4)	2.9	15c後～16c	脇本城跡	25	5	
221	6	38	白磁	皿	東側	-	-	(6.8)	3.0	15c後～16c	脇本城跡	25	6	
221	7	38	白磁	皿	東側	-	(12.2)	(6.8)	2.7	15c後～16c	脇本城跡	25	7	割口に漆による補修痕
221	8	38	白磁	皿	東側	-	(12.7)	-	(1.8)	16c後半～17c初	脇本城跡	25	8	
221	9	38	白磁	皿	東側	-	(12.0)	(5.8)	3.1	15c後～16c	脇本城跡	25	9	
221	10	38	白磁	皿	東側	-	(10.4)	(4.8)	2.6	16c後	脇本城跡	25	10	菊皿
221	11	38	青磁	香炉	東側	-	(5.2)	3.7	4.1	-	脇本城跡	25	11	被熱・脚部
221	12	38	青磁	脚	東側	-	-	-	(7.6)	-	脇本城跡	25	12	被熱
221	13	38	青磁	皿	東側	-	-	(6.2)	(3.0)	14c後～15c	脇本城跡	25	13	被熱
221	14	38	青磁	皿	東側	-	(14.2)	-	(2.2)	15c中	脇本城跡	25	14	被熱
221	15	38	青磁	皿	東側	-	(13.6)	-	(2.5)	15c中	脇本城跡	25	15	被熱
222	1	38	青磁	碗	東側	-	-	5.4	(1.4)	-	脇本城跡	26	1	
222	2	38	青磁	碗	東側	-	(10.6)	-	(4.5)	14c後～15c	脇本城跡	26	2	
222	3	38	青磁	碗	東側	-	-	(6.0)	(2.9)	15c後～16c	脇本城跡	26	3	内面に型押文
222	4	38	青磁	碗	東側	-	-	(6.2)	(5.2)	14c後～15c	脇本城跡	26	4	
222	5	38	染付	合子	東側	-	-	(5.6)	3.4	16c	脇本城跡	26	5	赤絵の合子
222	6	38	染付	小坏	東側	-	-	(4.0)	(3.9)	-	脇本城跡	26	6	
222	7	38	染付	皿	東側	-	(11.6)	(7.2)	2.6	15c後半～16c中	脇本城跡	26	7	
222	8	38	染付	皿	東側	-	(10.8)	(5.8)	2.8	15c後半～16c中	脇本城跡	26	8	
222	9	38	染付	皿	東側	-	(9.0)	(4.7)	2.1	15c後半～16c中	脇本城跡	26	9	被熱
223	1	38	染付	皿	東側	-	-	(7.2)	(1.7)	15c後半～16c中	脇本城跡	26	10	
223	2	38	染付	皿	東側	-	-	(6.8)	(1.3)	15c後半～16c中	脇本城跡	27	1	
223	3	38	染付	皿	東側	-	-	(5.9)	(1.8)	15c後半～16c中	脇本城跡	27	2	
223	4	38	染付	皿	東側	-	-	(7.2)	(1.6)	15c後半～16c中	脇本城跡	27	3	
223	5	38	染付	皿	東側	-	-	(7.6)	(1.1)	15c後半～16c中	脇本城跡	27	4	被熱
223	6	38	染付	皿	東側	-	(12.4)	(7.4)	2.8	15c後半～16c中	脇本城跡	27	5	
224	1	38	染付	皿	東側	-	(12.9)	(7.6)	2.7	15c後半～16c中	脇本城跡	27	6	被熱
224	2	38	染付	皿	東側	-	(13.8)	(7.6)	2.5	15c後半～16c中	脇本城跡	27	7	
224	3	38	染付	皿	東側	-	(12.1)	6.2	2.6	15c後半～16c中	脇本城跡	28	1	
224	4	38	染付	皿	東側	-	-	6.6	(1.6)	15c後半～16c中	脇本城跡	27	8	
225	1	38	染付	皿	東側	-	(13.6)	(8.2)	3.1	15c後半～16c中	脇本城跡	28	2	被熱
225	2	38	染付	皿	東側	-	-	(9.8)	(2.1)	15c後半～16c中	脇本城跡	28	4	
225	3	38	染付	皿	東側	-	(13.6)	(3.8)	3.6	15c後半～16c中	脇本城跡	28	5	
225	4	38	染付	皿	東側	-	(13.3)	(7.8)	2.7	15c後半～16c中	脇本城跡	28	3	
225	5	38	染付	皿	東側	-	-	(4.4)	(1.2)	15c後半～16c中	脇本城跡	28	7	被熱
226	1	38	染付	皿	東側	-	-	2.8	(0.8)	15c後半～16c中	脇本城跡	28	6	
226	2	38	染付	皿	東側	-	-	(5.0)	(2.2)	16c後半	脇本城跡	29	1	
226	3	38	染付	皿	東側	-	(12.9)	(8.6)	2.5	16c後半	脇本城跡	29	2	
226	4	38	染付	皿	東側	-	-	(8.6)	(1.0)	16c後半	脇本城跡	29	3	
226	5	38	染付	皿	東側	-	(12.7)	6.8	2.7	16c後半	脇本城跡	29	5	
226	6	38	染付	皿	東側	-	-	4.4	(2.1)	-	脇本城跡	29	4	
227	1	38	染付	皿	東側	-	(9.8)	(4.8)	2.7	-	脇本城跡	29	8	
227	2	38	染付	皿	東側	-	-	(4.6)	(1.4)	-	脇本城跡	29	7	
227	3	38	染付	碗	東側	-	-	(3.8)	(1.8)	-	脇本城跡	29	6	
227	4	38	染付	碗	東側	-	(13.8)	-	(4.7)	15c前半～15c中	脇本城跡	30	1	
227	5	38	染付	碗	東側	-	(13.4)	-	(4.6)	15c後半～16c中	脇本城跡	30	2	
227	6	38	朝鮮陶器	瓶	東側	-	-	-	(5.1)	-	脇本城跡	30	3	粉青象嵌
227	7	38	朝鮮陶器	船徳利	東側	-	-	(13.6)	(4.0)	-	脇本城跡	30	4	
228	1	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	(9.0)	(5.2)	2.0	16c前～中葉	脇本城跡	31	1	割口に漆による補修痕・被熱
228	2	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	(15.2)	-	(2.1)	16c前～中葉	脇本城跡	31	3	
228	3	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	-	(5.8)	(1.0)	16c前～中葉	脇本城跡	31	2	
228	4	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	-	(5.4)	(1.2)	16c前～中葉	脇本城跡	31	4	
228	5	38	瀬戸美濃（天目）	皿	東側	-	(11.8)	6.0	2.2	16c前～中葉	脇本城跡	31	5	
228	6	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	-	6.4	(1.5)	16c前～中葉	脇本城跡	31	6	
228	7	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	(4.8)	3.0	1.1	16c後半	脇本城跡	31	8	
228	8	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	(10.6)	6.4	2.8	16c前～中葉	脇本城跡	31	7	被熱
228	9	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	(11.3)	(6.4)	2.3	16c後半	脇本城跡	31	9	被熱
228	10	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	(11.2)	-	(2.0)	16c後半	脇本城跡	31	11	被熱
228	11	38	瀬戸美濃（天目）	皿	東側	-	(9.4)	(4.8)	1.8	16c後半	脇本城跡	31	10	
228	12	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	(10.9)	6.4	2.6	16c後半	脇本城跡	31	12	被熱
229	1	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	(9.0)	(5.0)	2.1	16c後半	脇本城跡	32	1	
229	2	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	-	6.1	(2.1)	16c後半	脇本城跡	32	4	
229	3	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	(12.2)	(6.6)	2.7	16c後半	脇本城跡	32	2	
229	4	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	-	8.8	(1.5)	16c後半	脇本城跡	32	5	被熱
229	5	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	-	4.0	(0.9)	16c後半	脇本城跡	32	3	被熱
229	6	38	瀬戸美濃	皿	東側	-	-	6.3	(1.0)	16c後半	脇本城跡	32	6	被熱

第82表　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物観察表②

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土調査区	出土遺構	法量（cm）			時期	報告書	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
229	7	38	瀬戸美濃	碗	東側	-	(11.6)	-	(5.0)	15c後半	脇本城跡	32	7	
229	8	38	瀬戸美濃(天目)	碗	東側	-	(11.4)	-	(3.8)	-	脇本城跡	32	11	
229	9	38	瀬戸美濃(天目)	碗	東側	-	(11.5)	-	(4.5)	-	脇本城跡	32	8	
229	10	38	瀬戸美濃(天目)	碗	東側	-	(11.4)	-	(5.1)	-	脇本城跡	32	12	
229	11	38	瀬戸美濃(天目)	碗	東側	-	(11.8)	-	(4.7)	-	脇本城跡	32	9	
229	12	38	瀬戸美濃(天目)	碗	東側	-	(12.4)	-	(4.1)	-	脇本城跡	32	13	被熱
229	13	38	瀬戸美濃(天目)	碗	東側	-	(12.9)	-	(5.5)	-	脇本城跡	32	10	被熱
229	14	38	瀬戸美濃(天目)	碗	東側	-	-	4.8	(3.0)	-	脇本城跡	32	14	被熱
230	1	38	瀬戸美濃(天目)	碗	東側	-	-	4.8	(3.9)	-	脇本城跡	33	1	鉄釉
230	2	38	瀬戸美濃(天目)	碗	東側	-	-	4.6	(1.0)	-	脇本城跡	33	2	
230	3	38	瀬戸美濃(天目)	碗	東側	-	-	4.3	(1.6)	-	脇本城跡	33	3	
230	4	38	瀬戸美濃(天目)	碗	東側	-	-	4.8	(1.1)	-	脇本城跡	33	4	
230	5	38	瀬戸美濃(天目)	碗	東側	-	(11.4)	5.0	7.6	-	脇本城跡	33	5	鉄釉
230	6	38	瀬戸美濃(天目)	碗	東側	-	-	4.6	(1.4)	-	脇本城跡	33	6	
230	7	38	唐津	皿	東側	-	(12.4)	(3.9)	3.6	17c前半	脇本城跡	33	11	砂目積み
230	8	38	唐津	皿	東側	-	(13.2)	-	(1.9)	-	脇本城跡	33	12	
230	9	38	唐津	皿	東側	-	-	5.2	(2.1)	-	脇本城跡	33	9	
230	10	38	唐津	皿	東側	-	-	4.2	(2.5)	16c末～17c初	脇本城跡	33	10	胎土目積み・被熱
230	11	38	唐津	皿	東側	-	-	4.0	(1.5)	-	脇本城跡	33	8	被熱・高台内に×印
230	12	38	唐津	皿	東側	-	(11.0)	-	(2.4)	-	脇本城跡	33	7	被熱
230	13	38	唐津	皿	東側	-	-	(8.2)	(4.1)	-	脇本城跡	33	13	絵唐津・胎土目積み
231	1	38	唐津	碗	東側	-	(11.8)	-	(3.2)	-	脇本城跡	34	1	被熱
231	2	38	唐津	碗	東側	-	-	4.6	(2.0)	-	脇本城跡	33	4	被熱
231	3	38	唐津	碗	東側	-	(11.4)	4.0	6.7	16c末～17c初	脇本城跡	34	2	胎土目積み・底部露胎部にススス
231	4	38	唐津	碗	東側	-	(11.2)	4.2	7.0	16c末～17c初	脇本城跡	34	5	胎土目積み・被熱
231	5	38	唐津	碗	東側	-	(11.2)	4.6	6.4	16c末～17c初	脇本城跡	34	3	胎土目積み
231	6	38	唐津	碗	東側	-	-	5.2	(4.6)	-	脇本城跡	34	6	割口に漆による補修痕
231	7	38	唐津	碗	東側	-	-	4.4	(3.9)	17c前半	脇本城跡	34	7	砂目積み
231	8	38	唐津	すり鉢	東側	-	-	(7.8)	(5.3)	-	脇本城跡	34	9	
231	9	38	唐津	鉢	東側	-	-	-	(5.6)	-	脇本城跡	34	8	
231	10	38	唐津	甕	東側	-	31.0	-	(11.2)	-	脇本城跡	34	10	割口に漆による補修痕
232	1	38	越前	すり鉢	東側	-	-	-	(14.2)	15c後～16c	脇本城跡	35	6	
232	2	38	越前	すり鉢	東側	-	-	-	(9.9)	15c後半	脇本城跡	35	5	
232	3	38	越前	すり鉢	東側	-	(33.2)	(10.0)	10.5	16c前半	脇本城跡	36	2	被熱
232	4	38	越前	すり鉢	東側	-	-	-	(7.9)	15c末16c初	脇本城跡	35	2	
232	5	38	越前	すり鉢	東側	-	(15.2)	-	(4.9)	15c末16c初	脇本城跡	36	3	
232	6	38	越前	すり鉢	東側	-	-	-	(8.2)	-	脇本城跡	35	4	
232	7	39	越前	すり鉢	東側	-	-	-	(7.4)	15c後	脇本城跡	35	3	
232	8	39	越前	すり鉢	東側	-	-	(14.2)	(5.3)	-	脇本城跡	35	10	
232	9	39	越前	すり鉢	東側	-	-	(11.8)	(7.4)	-	脇本城跡	35	11	
233	1	39	越前	すり鉢	東側	-	-	(13.0)	(4.0)	-	脇本城跡	35	12	
233	2	39	越前	すり鉢	東側	-	-	(15.0)	(6.1)	-	脇本城跡	35	13	
233	3	39	越前	すり鉢	東側	-	-	(18.4)	(9.0)	-	脇本城跡	36	1	
233	4	39	越前	すり鉢	東側	-	-	-	(4.3)	-	脇本城跡	35	7	
233	5	39	越前	すり鉢	東側	-	-	-	(7.5)	-	脇本城跡	35	9	
233	6	39	越前	すり鉢	東側	-	-	-	(4.9)	-	脇本城跡	35	8	
233	7	39	越前	すり鉢	東側	-	-	(18.4)	(7.0)	16C中	脇本城跡	36	8	
233	8	39	越前	壷	東側	-	(11.5)	-	(6.1)	16c中	脇本城跡	36	4	
233	9	39	越前	甕	東側	-	(36.0)	-	(10.8)	16c中	脇本城跡	36	6	
233	10	39	越前	壺	東側	-	(13.8)	-	(7.3)	-	脇本城跡	36	5	
233	11	39	越前	甕	東側	-	-	-	(6.6)	-	脇本城跡	36	7	
234	1	39	越前	甕	東側	-	-	-	(3.5)	-	脇本城跡	37	1	
234	2	39	越前	甕	東側	-	-	(19.2)	(8.5)	-	脇本城跡	37	3	
234	3	39	越前	甕	東側	-	-	-	(7.9)	-	脇本城跡	37	2	
234	4	39	越前	甕	東側	-	(36.7)	(21.6)	-		脇本城跡	37	4	
234	5	39	常滑	甕	東側	-	-	-	(5.0)	-	脇本城跡	37	5	
234	6	39	瓷器系	すり鉢	東側	-	-	-	(8.1)	-	脇本城跡	35	1	漆による補修痕・在地系窯か
234	7	39	かわらけ	皿	東側	-	(14.6)	-	(2.0)	-	脇本城跡	37	6	
234	8	39	土師器	坏	東側	-	-	7.8	(3.1)	-	脇本城跡	37	7	
235	1	39	瓦質土器	風炉	東側	-	(22.2)	-	(6.2)	10c中	脇本城跡	38	1	
235	2	39	瓦質土器	風炉	東側	-	-	-	(5.0)	-	脇本城跡	38	2	
235	3	39	瓦質土器	風炉	東側	-	-	-	(3.8)	-	脇本城跡	38	3	
235	4	39	瓦質土器	風炉	東側	-	-	-	(3.3)	-	脇本城跡	38	4	
235	5	39	瓦質土器	燭台	東側	-	-	(3.5)	(4.1)	-	脇本城跡	38	7	
235	6	39	瓦質土器	風炉	東側	-	-	-	(6.8)	-	脇本城跡	38	5	脚部
235	7	39	瓦質土器	風炉	東側	-	-	-	(5.5)	-	脇本城跡	38	6	脚部
235	8	39	瓦質土器	燭台	東側	-	-	(10.6)	(5.5)	-	脇本城跡	38	8	
236	1	39	伊万里	不明	東側	-	-	-	(4.3)	17c前半	脇本城跡	39	1	
236	2	39	伊万里	碗	東側	-	(10.3)	-	(4.9)	17c前半	脇本城跡	39	2	
236	3	39	伊万里	皿	東側	-	-	4.4	(2.8)	17c前半	脇本城跡	39	3	
236	4	39	青磁	不明	東側	-	-	-	(6.2)	-	脇本城跡	39	4	浪佐見青磁

第83表　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物観察表③

■石製品・土製品・金属製品

挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	種別	器種	出土調査区	出土遺構	法量（cm）			時期	報告書	挿図 番号	遺物 番号	備考
							全長	幅	厚さ					
237	1	39	石製品	砥石	東側	-	(4.3)	3.5	0.8	-	脇本城跡	59	1	
237	2	39	石製品	砥石	東側	-	(6.7)	3.2	1.5	-	脇本城跡	59	2	
237	3	39	石製品	砥石	東側	-	(11.8)	3.5	1.1	-	脇本城跡	59	3	
237	4	39	石製品	砥石	東側	-	(9.4)	(7.5)	3.5	-	脇本城跡	59	4	
237	5	39	石製品	砥石	東側	-	(12.9)	5.5	4.8	-	脇本城跡	59	5	
237	6	39	石製品	硯	東側	-	(3.4)	(2.6)	1.8	-	脇本城跡	59	6	
237	7	39	石製品	硯	東側	-	(5.0)	(3.4)	0.9	-	脇本城跡	59	7	
237	8	39	石製品	硯	東側	-	(5.4)	(4.5)	1.6	-	脇本城跡	59	8	
237	9	39	石製品	硯	東側	-	(7.6)	(3.8)	1.8	-	脇本城跡	59	9	硯面裏に刻書
237	10	39	石製品	硯	東側	-	(13.0)	7.8	2.0	-	脇本城跡	59	10	
237	11	39	石製品	茶臼	東側	-	-	(8.3)	器高(6.2)	-	脇本城跡	59	12	
237	12	39	石製品	茶臼	東側	-	-	(5.8)	器高(4.8)	-	脇本城跡	59	13	
237	13	39	石製品	茶臼	東側	-	径(33.0)	-	器高(3.1)	-	脇本城跡	59	11	
238	1	39	石製品	墓石	東側	-	24.9	29.0	24.7	16c後半	脇本城跡	22	3	「月心明宗大姉覺灵位」の法名
258	1	43	土製品	土錘	東側	-	3.8	2.3	-	-	脇本城跡	60	1	
258	2	43	土製品	土錘	東側	-	3.7	2.5	-	-	脇本城跡	60	2	
258	3	43	土製品	土錘	東側	-	4.7	2.4	-	-	脇本城跡	60	3	
258	4	43	土製品	土錘	東側	-	5.3	3.3	-	-	脇本城跡	60	4	
258	5	43	土製品	土錘	東側	-	(3.7)	3.6	-	-	脇本城跡	60	5	
258	6	43	土製品	土錘	東側	-	(5.8)	3.7	-	-	脇本城跡	60	6	
258	7	43	土製品	土錘	東側	-	6.8	4.3	-	-	脇本城跡	60	7	
258	8	43	土製品	土錘	東側	-	6.7	4.6	-	-	脇本城跡	60	8	
258	9	43	土製品	土錘	東側	-	4.8	4.3	-	-	脇本城跡	60	9	
258	10	43	土製品	土錘	東側	-	4.4	4.0	-	-	脇本城跡	60	10	
258	11	43	土製品	土錘	東側	-	5.1	4.5	-	-	脇本城跡	60	11	
258	12	43	土製品	土錘	東側	-	(4.5)	5.7	-	-	脇本城跡	60	12	
258	13	43	石製品	石錘	東側	-	4.5	3.0	-	-	脇本城跡	60	13	
258	14	43	土製品	羽口	東側	-	(6.9)	9.0	-	-	脇本城跡	60	14	
259	1	43	金属製品	小柄	東側	-	9.2	1.5	0.2	-	-	61	写真8	銅製・刃部の茎残存
259	2	43	金属製品	笄	東側	-	14.7	1.1	0.3	-	-	61	写真3	銅製
259	3	43	金属製品	笄	東側	-	14.3	1.3	0.2	-	-	-	-	銅製・実質全長16.8cm
259	4	43	金属製品	笄	東側	-	(14.5)	1.3	0.2	-	-	-	-	銅製・実質全長21.5cm
259	5	43	金属製品	不明	東側	-	11.6	4.0	0.4	-	-	-	-	銅製
259	6	44	金属製品	鍋	東側	-	5.9	14.4	0.5	-	-	61	写真10	鉄製
259	7	43	金属製品	鉄鍋	東側	-	-	底径(34.2)	器高(6.4)	-	-	60	15	
260	1	44	金属製品	鍋	東側	-	(4.5)	-	-	-	-	61	写真9	鉄製、脚部
260	2	43	金属製品	不明	東側	-	13.1	-	-	-	-	-	-	箸か
260	3	43	金属製品	不明	東側	-	12.5	-	-	-	-	-	-	箸か
260	4	43	金属製品	不明	東側	-	4.0	4.8	0.1	-	-	-	-	
260	5	43	金属製品	不明	東側	-	6.0	0.6	-	-	-	-	-	
260	6	43	金属製品	和釘	東側	-	15.2	2.3	1.2	-	-	-	-	
260	7	43	金属製品	和釘	東側	-	10.2	1.2	1.0	-	-	-	-	
260	8	43	金属製品	和釘	東側	-	9.2	1.3	0.8	-	-	-	-	
260	9	43	金属製品	和釘	東側	-	7.0	1.3	0.9	-	-	-	-	
260	10	43	金属製品	和釘	東側	-	6.5	1.2	0.8	-	-	-	-	
260	11	43	金属製品	和釘	東側	-	5.3	1.4	0.8	-	-	-	-	
260	12	43	金属製品	和釘	東側	-	4.4	1.1	0.7	-	-	-	-	
261	1	43	銭貨	-	東側	-	2.5	-	-	-	脇本城跡	61	1	景徳元寶
261	2	43	銭貨	-	東側	-	2.5	-	-	-	脇本城跡	61	2	祥符通寶
261	3	43	銭貨	-	東側	-	2.5	-	-	-	脇本城跡	61	3	天禧通寶
261	4	43	銭貨	-	東側	-	2.5	-	-	-	脇本城跡	61	4	皇宗通寶
261	5	43	銭貨	-	東側	-	2.3	-	-	-	脇本城跡	61	5	皇宗通寶
261	6	43	銭貨	-	東側	-	2.4	-	-	-	脇本城跡	61	6	紹聖元寶
261	7	43	銭貨	-	東側	-	2.2	-	-	-	脇本城跡	61	7	洪武通寶
261	8	43	銭貨	-	東側	-	2.2	-	-	-	脇本城跡	61	8	洪武通寶
261	9	44	銭貨	古銭塊	東側	-	-	-	-	-	-	61	写真1	最上段に「至・通」。至和通寶か
261	10	44	銭貨	古銭塊	東側	-	-	-	-	-	-	-	-	銭名不明

■ 漆塗製品・木製品

挿図 番号	遺物 番号	図版 番号	種別	器種	出土調査区	出土遺構	法量（cm）			時期	報告書	挿図 番号	遺物 番号	備考
							長さ	幅	厚さ					
238	2	39	木製品	角状塔婆	東側	H15・H16SA398	283.0	12.7	12.2	-	脇本城跡	22	1	
238	3	39	木製品	角状塔婆	東側	H15・H16SA398	216.5	15.3	13.5	-	脇本城跡	22	2	下部に×の切傷
239	1	40	漆塗製品	皿	東側	-	-	-	-	-	脇本城跡	40	1	
239	2	40	漆塗製品	皿	東側	-	-	(9.6)	(2.1)	-	脇本城跡	40	2	

第84表　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物観察表④

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土調査区	出土遺構	法量（cm）			時期	報告書	挿図番号	遺物番号	備考
							長さ	幅	厚さ					
239	3	40	漆塗製品	不明	東側	-	-	-	(0.9)	-	脇本城跡	40	3	
239	4	40	木製品	箸	東側	-	23.7	0.5	0.5	-	脇本城跡	40	4	赤色漆・高台内のみ黒色漆
239	5	40	木製品	箸	東側	-	23.1	0.7	0.4	-	脇本城跡	40	5	赤色漆
239	6	40	木製品	箸	東側	-	23.2	0.6	0.5	-	脇本城跡	40	6	
239	7	40	木製品	箸	東側	-	26.7	0.8	0.6	-	脇本城跡	40	7	
239	8	40	木製品	箸	東側	-	26.3	0.6	0.4	-	脇本城跡	40	8	
239	9	40	木製品	箸	東側	-	27.8	0.5	0.6	-	脇本城跡	40	9	
239	10	40・42	木製品	折敷	東側	-	8.1	8.6	0.2	-	脇本城跡	40	10	
239	11	40	木製品	折敷	東側	-	8.5	(5.7)	0.3	-	脇本城跡	40	11	「浄八十枚枚」の墨書
239	12	40	木製品	折敷	東側	-	10.5	(3.6)	0.3	-	脇本城跡	40	12	
239	13	40	木製品	折敷	東側	-	10.8	(7.4)	0.3	-	脇本城跡	40	13	
239	14	40	木製品	折敷	東側	-	8.7	8.4	0.5	-	脇本城跡	40	14	
239	15	40	木製品	折敷	東側	-	8.3	7.9	0.6	-	脇本城跡	40	15	
239	16	40	木製品	折敷	東側	-	7.4	8.1	0.2	-	脇本城跡	40	16	
239	17	40	木製品	折敷	東側	-	8.5	8.3	0.3	-	脇本城跡	40	17	
240	1	40	木製品	折敷	東側	-	8.2	8.3	0.3	-	脇本城跡	41	1	
240	2	40	木製品	折敷	東側	-	9.9	9.4	0.5	-	脇本城跡	41	2	
240	3	40	木製品	折敷	東側	-	(8.3)	(4.3)	0.5	-	脇本城跡	41	3	墨書あるが判読不能
240	4	40	木製品	折敷	東側	-	19.2	(5.0)	0.3	-	脇本城跡	41	4	墨書あるが判読不能
240	5	40・42	木製品	折敷	東側	-	16.6	11.3	0.5	-	脇本城跡	41	5	「浄廿枚々」の墨書・一部炭化
240	6	40	木製品	折敷	東側	-	17.7	(4.1)	0.4	-	脇本城跡	41	6	端部に穿孔4つあり
240	7	40	木製品	折敷	東側	-	19.8	(4.8)	0.5	-	脇本城跡	41	7	端部に穿孔1つあり
240	8	40	木製品	折敷	東側	-	23.7	(6.2)	0.4	-	脇本城跡	41	8	端部に穿孔2つあり
240	9	40	木製品	折敷	東側	-	23.2	(3.8)	0.4	-	脇本城跡	41	9	端部に穿孔4つあり
240	10	40	木製品	折敷	東側	-	19.6	(6.8)	0.4	-	脇本城跡	41	10	穿孔7つあり・一部炭化
240	11	40	木製品	折敷	東側	-	24.3	(8.1)	0.5	-	脇本城跡	41	11	端部に穿孔5つあり
240	12	40	木製品	折敷	東側	-	(7.7)	(14.1)	0.3	-	脇本城跡	41	12	傷が多い
241	1	40	木製品	折敷	東側	-	24.7	(8.0)	0.4	-	脇本城跡	42	1	端部に穿孔3つあり
241	2	40	木製品	折敷	東側	-	26.2	(8.2)	0.6	-	脇本城跡	42	2	4隅に穿孔あり
241	3	40	木製品	折敷	東側	-	24.3	(11.7)	0.5	-	脇本城跡	42	3	端部に穿孔6つあり
241	4	40	木製品	折敷	東側	-	21.9	21.4	0.6	-	脇本城跡	42	4	端部に穿孔8つあり
241	5	40	木製品	折敷	東側	-	29.0	32.6	0.5	-	脇本城跡	42	5	繊維の綴じ紐残存
241	6	40	木製品	箱	東側	-	(3.3)	(9.1)	(1.2)	-	脇本城跡	42	6	外面赤色漆塗り
241	7	40	木製品	箱	東側	-	(13.9)	(2.1)	(0.4)	-	脇本城跡	42	7	端部に穿孔2つあり・穿孔内に紐残存
241	8	40	木製品	箱	東側	-	(16.2)	(2.7)	(0.7)	-	脇本城跡	42	8	穿孔あり・一部に木製釘残存
242	1	40	木製品	箱	東側	-	25.2	5.4	1.3	-	脇本城跡	43	1	穿孔あり
242	2	40	木製品	箱	東側	-	11.9	21.6	1.2	-	脇本城跡	43	2	穿孔あり・一部炭化
242	3	40	木製品	箱	東側	-	17.5	16.8	2.0	-	脇本城跡	43	3	
242	4	40	木製品	把手	東側	-	(9.0)	(5.5)	1.7	-	脇本城跡	43	4	把手部摩耗
242	5	40	木製品	把手	東側	-	(6.5)	(22.7)	1.7	-	脇本城跡	43	5	把手部摩耗
242	6	40	木製品	把手	東側	-	9.7	26.8	1.8	-	脇本城跡	43	6	把手部摩耗
242	7	40	木製品	把手	東側	-	9.0	27.8	2.6	-	脇本城跡	43	7	
242	8	40	木製品	台座	東側	-	17.0	3.2	1.7	-	脇本城跡	43	8	
243	1	41	木製品	柄杓	東側	-	径9.3	-	器高7.4	-	脇本城跡	44	1	側面に穿孔
243	2	41	木製品	曲物	東側	-	(15.2)	4.0	-	-	脇本城跡	44	2	桜樺による縫い止め残存
243	3	40	木製品	柄杓	東側	-	(7.1)	3.7	-	-	脇本城跡	44	3	桜樺による縫い止め残存
243	4	40	木製品	蓋	東側	-	径9.7	-	1.1	-	脇本城跡	44	4	
243	5	40	木製品	蓋	東側	-	径9.5	-	0.9	-	脇本城跡	44	5	
243	6	40	木製品	蓋	東側	-	17.2	2.1	0.8	-	脇本城跡	44	6	一部炭化
243	7	40	木製品	蓋	東側	-	22.9	(11.0)	0.7	-	脇本城跡	44	7	端部に穿孔・一部炭化
243	8	40	木製品	底板	東側	-	径9.3	-	0.9	-	脇本城跡	44	8	
243	9	40	木製品	底板	東側	-	径10.0	-	1.0	-	脇本城跡	44	9	
243	10	40	木製品	底板	東側	-	径9.7	-	0.8	-	脇本城跡	44	10	
243	11	40	木製品	底板	東側	-	径17.2	-	0.8	-	脇本城跡	44	11	
243	12	40	木製品	底板	東側	-	径(22.4)	-	1.1	-	脇本城跡	44	12	側面に穿孔
243	13	40	木製品	底板	東側	-	径(23.2)	-	1.6	-	脇本城跡	44	13	
244	1	40	木製品	底板	東側	-	径(23.5)	-	1.1	-	脇本城跡	45	1	一部炭化
244	2	40	木製品	底板	東側	-	径(25.7)	-	0.7	-	脇本城跡	45	2	
244	3	40	木製品	底板	東側	-	径(25.8)	-	0.7	-	脇本城跡	45	3	桜樺による縫い止め残存
244	4	40	木製品	底板	東側	-	径24.9	-	1.1	-	脇本城跡	45	4	桜樺による縫い止め残存
244	5	40	木製品	底板	東側	-	径(33.9)	-	1.8	-	脇本城跡	45	5	
245	1	41	木製品	栓	東側	-	8.8	3.4	3.3		脇本城跡	46	1	
245	2	41	木製品	栓	東側	-	7.6	3.0	2.0		脇本城跡	46	2	
245	3	41	木製品	栓	東側	-	7.4	3.5	3.2		脇本城跡	46	3	
245	4	41	木製品	栓	東側	-	13.4	3.6	3.3		脇本城跡	46	4	
245	5	41	木製品	杓子	東側	-	(19.2)	6.5	0.9		脇本城跡	46	5	
245	6	41	木製品	杓子	東側	-	22.8	(4.2)	0.5		脇本城跡	46	6	
245	7	41	木製品	杓子	東側	-	29.3	8.9	0.8		脇本城跡	46	7	
245	8	41	木製品	杓子	東側	-	18.4	2.6	0.3		脇本城跡	46	8	箆のように使用
245	9	41	木製品	杓子	東側	-	(24.0)	4.2	0.4		脇本城跡	46	9	
245	10	41	木製品	杓子	東側	-	39.6	4.1	1.1		脇本城跡	46	10	

第85表　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物観察表⑤

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土調査区	出土遺構	法量（cm）			時期	報告書	挿図番号	遺物番号	備考
							長さ	幅	厚さ					
245	11	41	木製品	杓子	東側	-	25.4	3.6	0.4	-	脇本城跡	46	11	
245	12	41	木製品	杓子	東側	-	37.5	(3.7)	0.9	-	脇本城跡	46	12	
245	13	41	木製品	杓子	東側	-	35.3	3.6	0.8	-	脇本城跡	46	13	
246	1	41	木製品	下駄	東側	-	(19.6)	10.6	4.3	-	脇本城跡	47	1	連歯下駄
246	2	41	木製品	下駄	東側	-	19.3	8.2	4.3	-	脇本城跡	47	2	連歯下駄
246	3	41	木製品	下駄	東側	-	17.0	9.4	2.6	-	脇本城跡	47	3	連歯下駄
246	4	41	木製品	下駄	東側	-	19.0	12.0	4.3	-	脇本城跡	47	4	連歯下駄
246	5	41	木製品	下駄	東側	-	19.0	10.3	6.4	-	脇本城跡	47	5	連歯下駄
246	6	41	木製品	下駄	東側	-	20.9	10.2	4.2	-	脇本城跡	47	6	連歯下駄
246	7	41	木製品	下駄	東側	-	19.8	11.7	4.2	-	脇本城跡	47	7	連歯下駄
246	8	41	木製品	下駄	東側	-	21.8	11.2	2.9	-	脇本城跡	47	8	連歯下駄
247	1	41	木製品	下駄	東側	-	17.2	6.2	3.8	-	脇本城跡	48	1	連歯下駄
247	2	41	木製品	下駄	東側	-	23.4	(9.2)	3.2	-	脇本城跡	48	2	連歯下駄
247	3	41	木製品	下駄	東側	-	21.9	11.0	4.8	-	脇本城跡	48	3	連歯下駄
247	4	41	木製品	下駄	東側	-	(8.4)	(6.6)	3.4	-	脇本城跡	48	4	差歯下駄・一部炭化
247	5	41	木製品	下駄	東側	-	13.1	(8.7)	2.8	-	脇本城跡	48	5	差歯下駄
247	6	41	木製品	下駄	東側	-	(13.0)	6.0	1.6	-	脇本城跡	48	6	差歯下駄
247	7	41	木製品	下駄	東側	-	22.7	(8.6)	(14.0)	-	脇本城跡	48	7	差歯下駄
248	1	41	木製品	漆箆	東側	-	14.2	2.3	0.3	-	脇本城跡	49	1	漆付着
248	2	41	木製品	槌	東側	-	24.8	12.9	3.0	-	脇本城跡	49	2	鉄釘を用いたと推定される錆あり
248	3	41	木製品	槌柄	東側	-	51.2	5.0	4.6	-	脇本城跡	49	3	頭部と柄部に鉄釘残存
248	4	41	木製品	錐柄	東側	-	25.6	1.6	1.5	-	脇本城跡	49	4	
248	5	41	木製品	箆	東側	-	(11.2)	1.8	1.0	-	脇本城跡	49	5	
248	6	41	木製品	箆	東側	-	35.2	1.3	0.8	-	脇本城跡	49	6	
248	7	41	木製品	箆	東側	-	37.2	2.2	1.2	-	脇本城跡	49	7	
249	1	41	木製品	紡錘車	東側	-	4.2	(2.0)	0.4	-	脇本城跡	50	1	
249	2	41	木製品	楔	東側	-	7.0	2.3	0.9	-	脇本城跡	50	2	
249	3	41	木製品	楔	東側	-	12.3	4.1	1.6	-	脇本城跡	50	3	
249	4	41	木製品	楔	東側	-	20.0	4.7	0.8	-	脇本城跡	50	4	
249	5	41	木製品	楔	東側	-	21.1	4.5	1.6	-	脇本城跡	50	5	
249	6	41	木製品	浮子	東側	-	(15.4)	6.0	1.4	-	脇本城跡	50	6	
249	7	41	木製品	浮子	東側	-	30.6	3.2	0.8	-	脇本城跡	50	7	焼印あり
249	8	41	木製品	浮子	東側	-	36.9	3.9	2.3	-	脇本城跡	50	8	
249	9	41	木製品	鍬	東側	-	24.4	15.6	2.6	-	脇本城跡	50	9	
250	1	42	木製品	柿経	東側	-	(11.6)	1.9	0.05	-	脇本城跡	51	1	「於我滅後若能奉持」の墨書
250	2	42	木製品	笹塔婆	東側	-	48.4	24.5	0.3	-	脇本城跡	51	2	「天地同根万物一□ 七月十四日」の墨書
250	3	42	木製品	笹塔婆	東側	-	61.3	5.5	0.5	-	脇本城跡	51	3	梵字と「七月十四日」の墨書
250	4	42	木製品	笹塔婆	東側	-	36.7	5.5	0.6	-	脇本城跡	51	4	梵字と「一切三世仏 七月十四日」の墨書
250	5	42	木製品	笹塔婆	東側	-	52.5	6.4	0.4	-	脇本城跡	51	5	梵字と「一切三世仏 七月十四日」の墨書
250	6	42	木製品	笹塔婆	東側	-	50.7	24.5	0.3	-	脇本城跡	51	6	梵字と「一切三世仏大日如来 七月十四日」の墨書
250	7	42	木製品	笹塔婆	東側	-	61.5	6.4	0.4	-	脇本城跡	51	7	梵字と「大日如来 七月十四日」の墨書
250	8	42	木製品	笹塔婆	東側	-	14.1	2.5	0.4	-	脇本城跡	51	8	判読不能の墨書
250	9	42	木製品	笹塔婆	東側	-	(14.0)	(2.6)	0.3	-	脇本城跡	51	9	判読不能の墨書
250	10	42	木製品	笹塔婆	東側	-	(21.5)	(3.9)	0.5	-	脇本城跡	52	2	梵字と判読不能の墨書
250	11	42	木製品	笹塔婆	東側	-	(23.5)	5.8	0.3	-	脇本城跡	52	1	「南無離怖畏」の墨書
251	1	39	木製品	笹塔婆	東側	-	(74.0)	9.4	1.3	-	脇本城跡	-	-	梵字の浮き上がり・判読不能の墨書
251	2	42	木製品	笹塔婆	東側	-	(38.8)	7.0	0.6	-	脇本城跡	52	3	梵字と「貞 老列火烟唯□□」の墨書
251	3	42	木製品	笹塔婆	東側	-	82.5	(4.1)	0.7	-	脇本城跡	52	4	判読不能の墨書
251	4	42	木製品	笹塔婆	東側	-	84.9	7.3	1.5	-	脇本城跡	52	5	判読不能の墨書
251	5	42	木製品	笹塔婆	東側	-	(18.5)	(8.0)	0.6	16c後半	脇本城跡	52	6	「奉為大虚廓」の墨書
251	6	42	木製品	笹塔婆	東側	-	(11.3)	(3.0)	0.4	-	脇本城跡	52	7	判読不能の墨書
251	7	42	木製品	笹塔婆	東側	-	(36.0)	5.4	0.4	-	脇本城跡	52	8	判読不能の墨書
252	1	39	木製品	角状塔婆	東側	-	94.8	10.7	8.5	-	脇本城跡	53	1	梵字の浮き上がり
252	2	39	木製品	角状塔婆	東側	-	83.8	15.2	11.7	-	脇本城跡	53	2	梵字の浮き上がり
253	1	41	木製品	舟形	東側	-	17.6	3.7	2.4	-	脇本城跡	54	1	
253	2	41	木製品	刀形	東側	-	16.3	1.6	0.5	-	脇本城跡	54	2	
253	3	41	木製品	刀形	東側	-	(15.9)	2.1	0.6	-	脇本城跡	54	3	
253	4	41	木製品	刀形	東側	-	23.7	2.4	0.3	-	脇本城跡	54	4	
253	5	41	木製品	形代	東側	-	13.5	1.6	0.2	-	脇本城跡	54	5	
253	6	41	木製品	形代	東側	-	12.4	2.0	0.4	-	脇本城跡	54	6	
253	7	42	木製品	刀形	東側	-	41.2	5.7	0.4	-	脇本城跡	54	7	
253	8	42	木製品	羽子板	東側	-	29.7	8.4	0.7	-	脇本城跡	54	8	細かな傷が多い
253	9	42	木製品	付札	東側	-	5.4	3.4	0.5	-	脇本城跡	54	9	
253	10	42	木製品	付札	東側	-	5.6	(2.5)	0.5	-	脇本城跡	54	10	
253	11	42	木製品	付札	東側	-	16.4	3.5	0.9	-	脇本城跡	54	11	
253	12	42	木製品	付札	東側	-	(9.4)	2.1	0.4	-	脇本城跡	54	12	「納一斗五升」の墨書
253	13	42	木製品	付札	東側	-	(10.2)	1.8	0.2	-	脇本城跡	54	13	「納一斗二升」の墨書
253	14	42	木製品	付札	東側	-	12.4	2.2	0.3	-	脇本城跡	54	14	「納一斗七升□」の墨書
254	1	42	木製品	部材	東側	-	11.0	1.5	0.8	-	脇本城跡	55	1	
254	2	42	木製品	部材	東側	-	6.6	2.0	1.9	-	脇本城跡	55	2	
254	3	42	木製品	部材	東側	-	14.1	1.9	1.0	-	脇本城跡	55	3	

第86表　南西端部（H15・H16年度調査）東側地区出土遺物観察表⑥

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土調査区	出土遺構	法量（cm）			時期	報告書	挿図番号	遺物番号	備考
							長さ	幅	厚さ					
254	4	42	木製品	部材	東側	-	(20.7)	2.0	1.6	-	脇本城跡	55	4	
254	5	42	木製品	部材	東側	-	(22.3)	1.7	1.3	-	脇本城跡	55	5	
254	6	42	木製品	部材	東側	-	19.4	7.0	3.5	-	脇本城跡	55	6	
254	7	42	木製品	部材	東側	-	(57.2)	3.4	2.0	-	脇本城跡	55	7	
254	8	42	木製品	部材	東側	-	57.6	3.8	4.3	-	脇本城跡	55	8	
254	9	42	木製品	部材	東側	H15・H16SA396	33.1	9.8	14.2	-	脇本城跡	55	9	
254	10	42	木製品	部材	東側	-	20.4	4.8	4.8	-	脇本城跡	55	10	
255	1	43	木製品	不明	東側	-	12.5	1.5	0.5	-	脇本城跡	56	1	
255	2	43	木製品	不明	東側	-	16.4	0.7	0.7	-	脇本城跡	56	2	
255	3	43	木製品	不明	東側	-	(13.2)	1.3	0.5	-	脇本城跡	56	3	
255	4	43	木製品	不明	東側	-	15.1	1.7	0.3	-	脇本城跡	56	4	上部に穿孔
255	5	43	木製品	不明	東側	-	20.5	1.2	1.0	-	脇本城跡	56	5	上部に穿孔
255	6	43	木製品	不明	東側	-	22.0	1.4	0.4	-	脇本城跡	56	6	
255	7	43	木製品	不明	東側	-	22.6	1.1	0.7	-	脇本城跡	56	7	
255	8	43	木製品	不明	東側	-	24.9	1.8	0.8	-	脇本城跡	56	8	
255	9	43	木製品	不明	東側	-	22.0	2.0	1.3	-	脇本城跡	56	9	
255	10	43	木製品	不明	東側	-	23.5	2.5	2.4	-	脇本城跡	56	10	一部炭化
255	11	43	木製品	不明	東側	-	24.6	0.8	0.7	-	脇本城跡	56	11	
255	12	43	木製品	不明	東側	-	(24.0)	0.8	0.7	-	脇本城跡	56	12	頭部に切り込み
255	13	43	木製品	不明	東側	-	(26.5)	0.9	0.6	-	脇本城跡	56	13	頭部に切り込み
255	14	43	木製品	不明	東側	-	33.0	1.5	1.2	-	脇本城跡	56	14	頭部に切り込み
255	15	43	木製品	不明	東側	-	26.3	1.9	0.8	-	脇本城跡	56	15	
255	16	43	木製品	不明	東側	-	(24.2)	1.4	0.8	-	脇本城跡	56	16	
255	17	43	木製品	不明	東側	-	(35.2)	1.9	0.8	-	脇本城跡	56	17	
255	18	43	木製品	不明	東側	-	(32.2)	1.9	1.1	-	脇本城跡	56	18	上部に穿孔
256	1	43	木製品	不明	東側	-	3.8	(3.2)	2.0	-	脇本城跡	57	1	
256	2	43	木製品	不明	東側	-	(10.0)	1.9	1.2	-	脇本城跡	57	2	
256	3	43	木製品	不明	東側	-	(11.5)	2.5	1.0	-	脇本城跡	57	3	
256	4	43	木製品	棒状	東側	-	12.3	2.6	1.4	-	脇本城跡	57	4	
256	5	43	木製品	不明	東側	-	8.3	7.9	4.7	-	脇本城跡	57	5	
256	6	43	木製品	不明	東側	-	9.1	6.8	3.7	-	脇本城跡	57	6	
256	7	43	木製品	不明	東側	-	12.7	2.8	1.0	-	脇本城跡	57	7	
256	8	43	木製品	棒状	東側	-	(14.7)	4.1	1.8	-	脇本城跡	57	8	穿孔あり
256	9	43	木製品	不明	東側	-	27.9	3.5	1.0	-	脇本城跡	57	9	穿孔あり
256	10	43	木製品	不明	東側	-	29.0	5.2	2.4	-	脇本城跡	57	10	判読不能の墨書
256	11	43	木製品	棒状	東側	-	(38.8)	2.7	2.0	-	脇本城跡	57	11	
256	12	43	木製品	不明	東側	-	22.0	3.9	4.5	-	脇本城跡	57	12	
256	13	43	木製品	不明	東側	-	21.7	3.4	2.8	-	脇本城跡	57	13	
257	1	43	木製品	不明	東側	-	2.5	1.4	1.7	-	脇本城跡	58	1	
257	2	43	木製品	不明	東側	-	(5.0)	(3.4)	0.2	-	脇本城跡	58	2	
257	3	43	木製品	不明	東側	-	(5.3)	(5.2)	0.2	-	脇本城跡	58	3	
257	4	43	木製品	不明	東側	-	(5.6)	(3.0)	0.2	-	脇本城跡	58	4	
257	5	43	木製品	不明	東側	-	(6.2)	(3.1)	0.3	-	脇本城跡	58	5	
257	6	43	木製品	不明	東側	-	(8.2)	(3.2)	0.2	-	脇本城跡	58	6	
257	7	43	木製品	不明	東側	-	4.9	2.3	0.7	-	脇本城跡	58	7	
257	8	43	木製品	不明	東側	-	7.4	(2.3)	0.3	-	脇本城跡	58	8	
257	9	43	木製品	不明	東側	-	(7.3)	3.0	0.4	-	脇本城跡	58	9	
257	10	43	木製品	不明	東側	-	(11.0)	2.0	0.4	-	脇本城跡	58	10	
257	11	43	木製品	不明	東側	-	9.3	2.3	0.3	-	脇本城跡	58	11	
257	12	43	木製品	不明	東側	-	9.8	3.4	0.8	-	脇本城跡	58	12	
257	13	43	木製品	不明	東側	-	7.3	2.5	0.6	-	脇本城跡	58	13	
257	14	43	木製品	不明	東側	-	(9.2)	3.0	0.7	-	脇本城跡	58	14	
257	15	43	木製品	不明	東側	-	9.3	3.5	0.6	-	脇本城跡	58	15	
257	16	43	木製品	不明	東側	-	9.3	3.5	0.5	-	脇本城跡	58	16	
257	17	43	木製品	不明	東側	-	14.7	(5.2)	1.9	-	脇本城跡	58	17	

第６節　寺院地区（脇本館下Ⅱ遺跡）

１　調査の目的と経緯

脇本城存続以来の寺院等が立地する地区とされ、現在は本明寺と萬境寺の２か寺が立地する。一部史跡の範囲に包括されるものの、南側の本明寺を中心とする地点は脇本館下Ⅰ遺跡、北側の萬境寺付近は脇本館下Ⅱ遺跡として周知されている。しかし、脇本城跡に関連する寺院等宗教施設立地地区として、関連地区に位置付けている。

過去に現存寺院以外に複数の寺院が建立されていたことが伝えられ、城跡に付随する宗教施設地区の様相を明確にし、その遺構構造や年代観を明確にすることを目的に確認調査が実施されている。

２　寺院地区の立地と現況

寺院地区は脇本城跡南東裾部に位置し、南西側に本明寺、北東側に萬境寺が現存する。さらに北東には、稲荷神社とともに、「茶の水」と称される湧水があり、現在も地域住民に親しまれている。両寺院とも曹洞宗寺院であり、いずれも天正年間の安東氏による脇本城跡の改修と前後して開創されたと伝えられる。昭和７年以前は天正年間に脇本城に依拠した安東愛季が女川村から本地区に移転させたとされる曹洞宗大龍寺（男鹿市船川港現存）があった。さらに所在は不明確であるものの時宗金光寺（秋田市土崎港現存）、西勝寺も存在していたと伝わる。近世期に存続したのは萬境寺、本明寺、大龍寺の３寺のみであり、他の寺院は比定地も含めて現在では不明確となっている。

現存する寺院の中で、安東氏と最も関連の深い寺院が萬境寺である。その境内には安東氏の手植えと伝わる二股の樅の大樹が現存する。萬境寺は山号が龍隠山と言い、愛季の法名「龍隠院殿萬郷生鉄大居士」にちなむ山号と寺号をもつ。愛季を密葬した「小鹿の山下ワキ本」の「法蔵寺」を改称整備した寺とみられ、秋田実季から格別の寺領と役割を与えられたとして同時代史料に明記されている。

３　基本層序

寺院地区は１地点のみの調査であり、第12次調査２トレンチの層序を基本層序として捉える。

概ね上層からⅠ層：表土、Ⅱ～Ⅲ層：近世以後の堆積土、Ⅳ層：中世以後の整地層、Ⅴ層：地山土となる。

遺構は主にⅣ層の整地層上面にて検出される。

Ⅰ層：層厚10cm ／近世以後 [表土]

Ⅱ層：層厚10 ～ 25cm ／にぶい黄褐色粘質土／近世以後

Ⅲ層：層厚10 ～ 20cm ／褐色粘質土／近世以後

Ⅳ層：層厚10 ～ 70cm ／褐色粘質土／中世以後 [整地層]

Ⅴ層：－／ [地山]

４　遺構と遺物

（１）推定寺院跡（第12次調査）

①推定寺院跡の立地と概要

推定寺院跡は西には本明寺、東には萬境寺が現存し、その２か寺を結ぶ道が通る山裾の標高約21mの平場で、西側には大龍寺、北東には金光寺が所在したと伝わる地点である。調査区には東西に走る山道が通り、さらに、山側へ登る道路状の跡も確認することができる。道沿いには江戸時代末に建立された三十三観音の石碑３基が残る。

②検出遺構

本調査では任意の大きさのトレンチ２か所を設定して行った。その結果、総計で竪穴状遺構１基、道路跡１条、土坑３基、柱穴跡19基、整地跡２か所が検出された。

各トレンチについて

【１トレンチ】

三十三観音の石碑を挟んで西側に南北10m×東西1.5mで設定した。遺構確認面は整地層であった。

【２トレンチ】

三十三観音の石碑を挟んで東側に南北６m×東西２mで設定した。遺構確認面は北側の山裾部では地山であったものの、南側は整地層であった。

12SKI03竪穴状遺構（第263図）

１トレンチ北西隅の整地層上面で検出された。底面を確認面としてＰ１～Ｐ６の柱穴が伴う。確認された規模は2.33mで略円形を呈し、底面はやや平坦で緩やかに立ち上がる。東側の一部に張り出しを持つ。重複関係のある12SKP20よりも古い。遺物は土師器の小片が出土した。

12SM04道路跡（第263図）

１トレンチ南側で２層上面を確認面として検出された。確認された幅は10cm、掘り込みの深さ21cmである。現存する道路とほぼ同位置であり、現代の道路遺構と判断した。

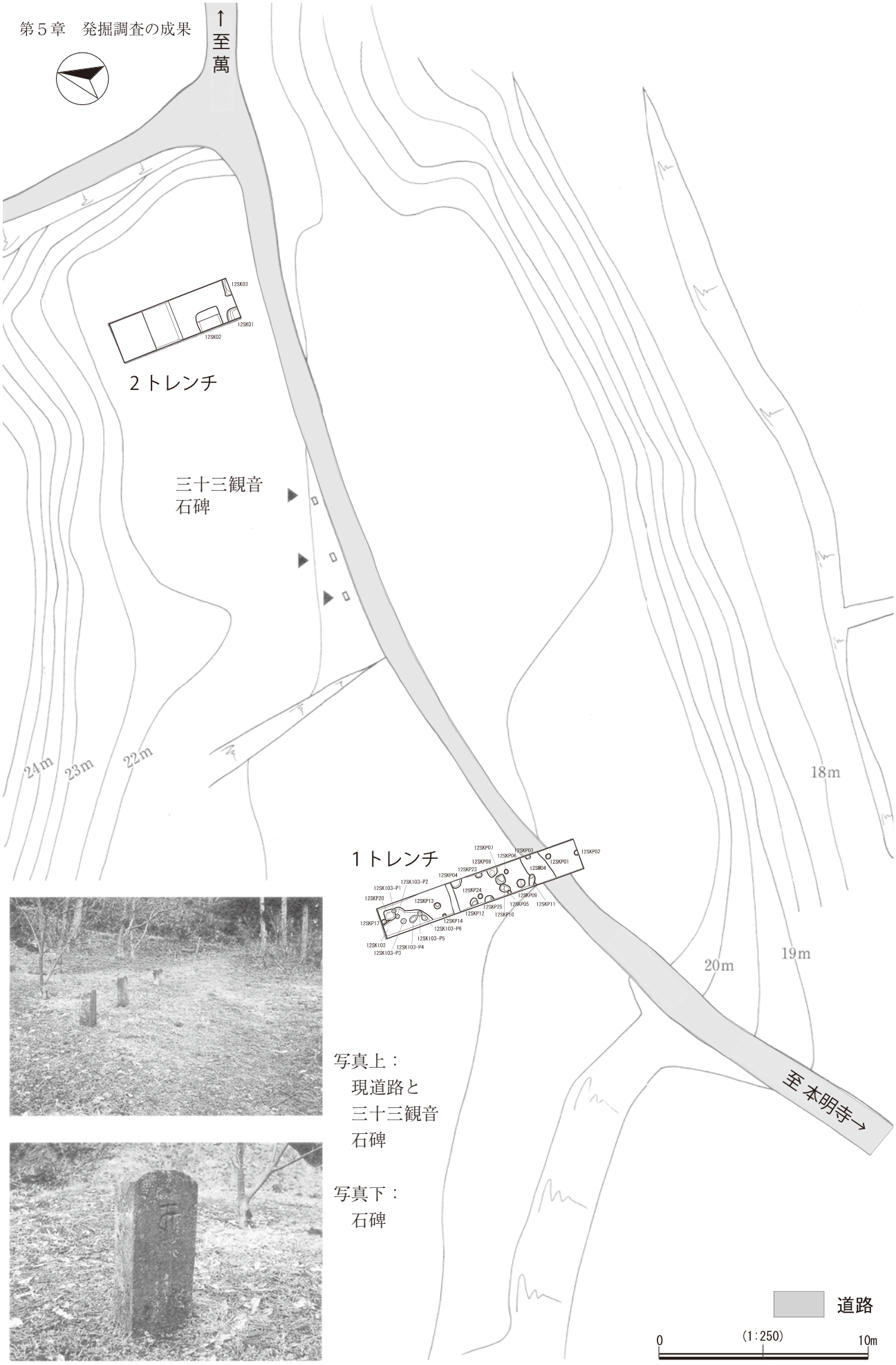
12SK01 ～ 03土坑（第264図）

２トレンチ整地層上面で検出された。平面形は隅丸方形を呈し、底面は平坦であり、立ち上がりは急である。覆土は地山土ブロックを多く含み一括で埋土されたものと考えられる。12SK01底面から板材に乗せられた寛永通宝が２枚、12SK02の底面からは板材に乗せられた寛永通宝２枚と朱塗りの漆片が出土した。12SK03内からは遺物の出土はなかった。いずれも近世期の土坑墓と判断した。

③ 出土遺物（第265図）

遺物は204点出土している（その他を含めない）。点数は接合後の破片数である。中世陶磁器は24点出土し、貿易陶磁器が12点（50.0％）、国産陶器が12（50.0％）である。

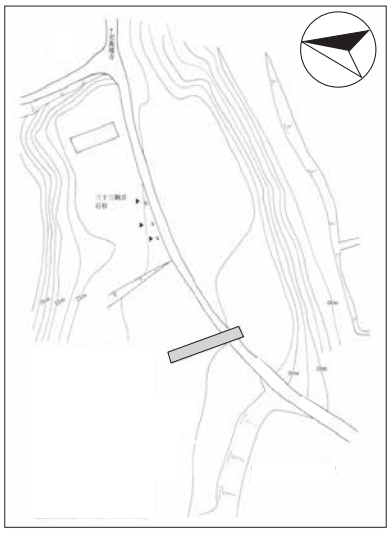
また、陶磁器は中世に属するもの以外に近世期に位置付けられるものも多く、近世墓と想定される12SK01・02内からは寛永通宝が出土している。

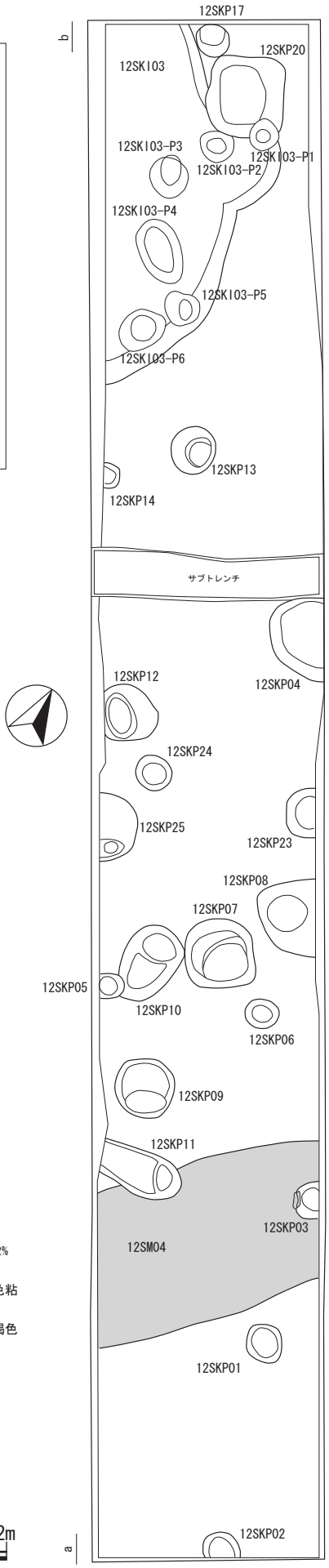


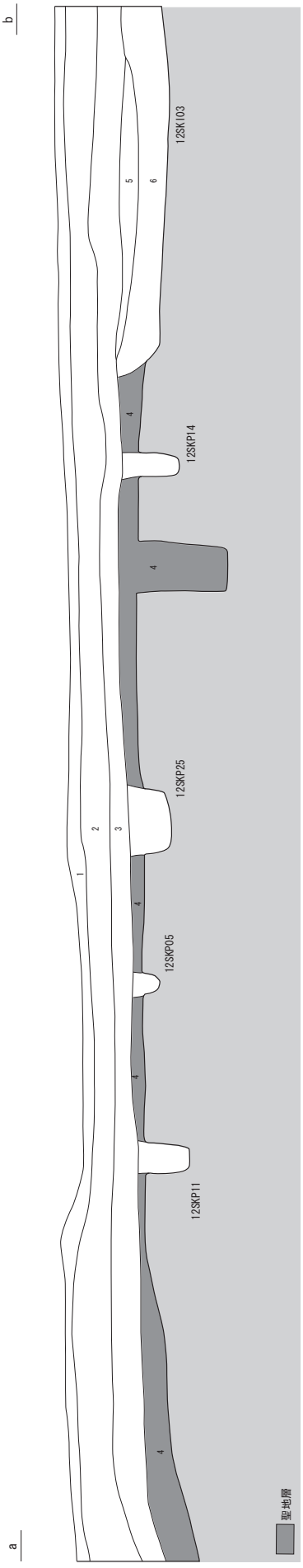
写真上：
現道路と
三十三観音
石碑

写真下：
石碑

第262図　推定寺院跡（第12次調査）全体図







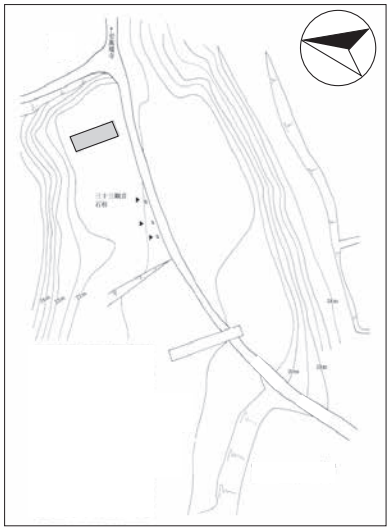
1トレンチ　a-b土層注記

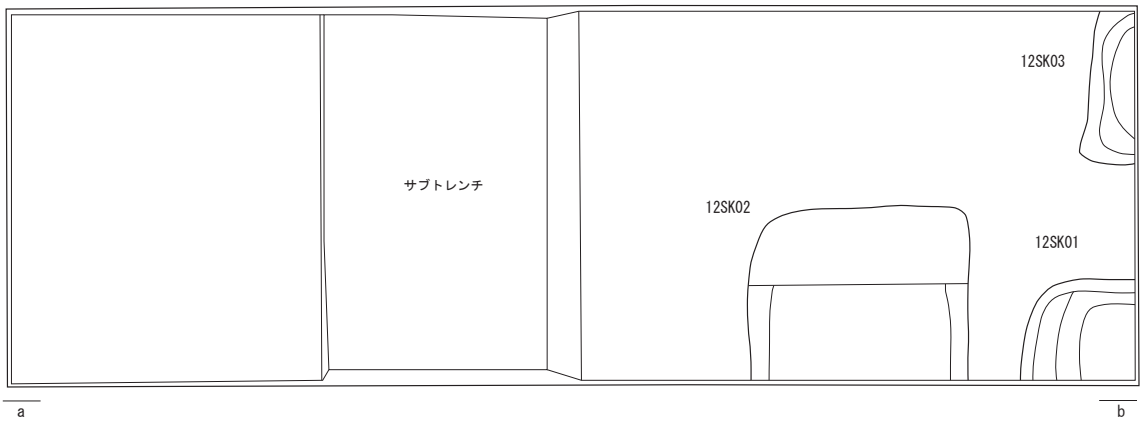
1. 表土
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)　粘土　しまり強
3. 褐色(10YR3/3)　粘土　しまり強　チップ状炭化物2%
   小粒焼土1%含む
4. 褐色(10YR4/4)　粘土　しまり強　ブロック状の褐色粘
   質土10～20%含む　[整地層]
5. 褐色(10YR4/4)　粘土　しまり強　ブロック状の黄褐色
   粘土40%含む　[12SKI03]
6. 灰黄褐色(10YR4/2)　粘土　チップ状の炭化物2%
   ブロック状の灰黄粘土10%含む　[12SKI03]

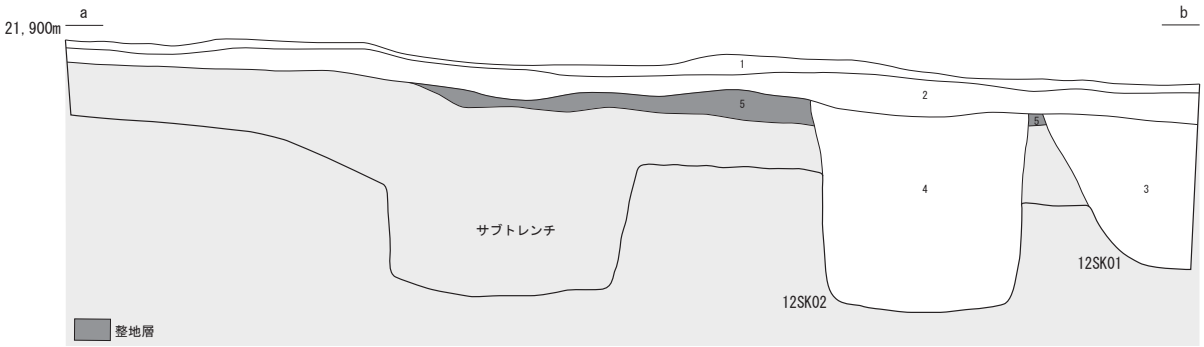
現代の道路【掘り込み2層より】

0　(1:40)　2m

第263図　１トレンチ平面図・断面図







2トレンチ　a-b土層注記

1. 表土
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)　粘土　しまり強
3. 暗褐色(10YR3/3)　シルト　ややしまりあり　地山土ブロック状に15%　炭化物少量含む[12SK01]
4. 暗褐色(10YR3/4)　シルト　しまり強　地山土ブロック状に20%　炭化物少量含む [12SK02]
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)　ややしまりあり　地山ブロック20%　[整地層]

0　(1:40)　2m

第264図　２トレンチ平面図・断面図

第87表　推定寺院跡（第12次調査）遺構一覧表

■堅穴状遺構

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
12SKI03	第263図	1トレンチ	20	(233)	-	土師器小片	Ⅲ	SKI03	
12SKI03-P1			28	17	20		Ⅲ	P22	
12SKI03-P2			19	20	19		Ⅲ	P21	
12SKI03-P3			62	26	24		Ⅲ	P16	
12SKI03-P4			30	43	27		Ⅲ	P15	
12SKI03-P5			41	26	21		Ⅲ	P19	
12SKI03-P6			29	35	25		Ⅲ	P18	

■道路跡

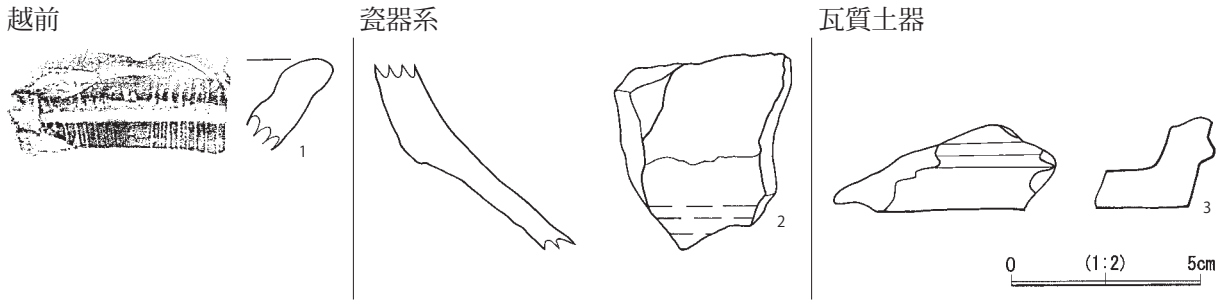
遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	幅(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
12SM04	第263図	1トレンチ	21	102	-	Ⅲ	-	2層上より確認（近世以降）

■土坑

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
12SK01	第264図	2トレンチ	39	(62)	-	寛永通宝	Ⅲ	SK01	近世墓
12SK02	第264図	2トレンチ	96	(115)	-	寛永通宝／漆片	Ⅲ	SK02	近世墓
12SK03	第264図	2トレンチ	29	(84)	-	-	Ⅲ	SK03	近世墓

■柱穴跡

遺構番号	挿図	トレンチ	深さ（cm）	長径(cm)	短径(cm)	出土遺物	概報	概報遺構番号	備考
12SKP01	第263図	1トレンチ	30	24	22	-	Ⅲ	P1	
12SKP02	第263図	1トレンチ	6	(22)	-	-	Ⅲ	P2	
12SKP03	第263図	1トレンチ	31	(24)	-	-	Ⅲ	P3	
12SKP04	第263図	1トレンチ	31	(54)	-	-	Ⅲ	P4	
12SKP05	第263図	1トレンチ	16	(15)	-	-	Ⅲ	P5	
12SKP06	第263図	1トレンチ	38	22	18	-	Ⅲ	P6	
12SKP07	第263図	1トレンチ	34	45	43	-	Ⅲ	P7	
12SKP08	第263図	1トレンチ	101	(50)	-	-	Ⅲ	P8	
12SKP09	第263図	1トレンチ	41	38	37	-	Ⅲ	P9	
12SKP10	第263図	1トレンチ	46	53	35	-	Ⅲ	P10	
12SKP11	第263図	1トレンチ	45	48	28	-	Ⅲ	P11	
12SKP12	第263図	1トレンチ	57	(36)	-	-	Ⅲ	P12	
12SKP13	第263図	1トレンチ	26	29	28	-	Ⅲ	P13	
12SKP14	第263図	1トレンチ	28	(16)	-	-	Ⅲ	P14	
12SKP17	第263図	1トレンチ	20	22	21	-	Ⅲ	P17	
12SKP20	第263図	1トレンチ	50	55	48	-	Ⅲ	P20	
12SKP23	第263図	1トレンチ	52	(31)	-	-	Ⅲ	P23	
12SKP24	第263図	1トレンチ	16	22	22	-	Ⅲ	P24	
12SKP25	第263図	1トレンチ	23	(44)	-	-	Ⅲ	P25	



第265図　推定寺院跡（第12次調査）出土遺物

第88表　推定寺院跡（第12次調査）出土遺物一覧表

貿易陶磁器				国産陶器								陶磁器			かわらけ・土器					木製品	石製品	土製品	金属製品	その他
白磁	青磁	染付	その他	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	不明	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器	その他					
2	3	7	0	9	2	0	0	0	0	0	1	0	111	0	1	0	57	5	0	0	0	1	5	鉄滓

第89表　推定寺院跡（第12次調査）出土遺物観察表

■陶磁器・土器

挿図番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	出土トレンチ	出土遺構	法量（cm）			時期	概報	挿図番号	遺物番号	備考
							口径	底径	器高					
265	1	44	越前	すり鉢	1トレンチ	-	-	-	(2.4)	-	Ⅲ	20	2	
265	2	44	瓷器系	-	1トレンチ	-	-	-	(5.1)	-	Ⅲ	20	1	
265	3	44	瓦質土器	火鉢	1トレンチ	-	-	-	(2.3)	-	Ⅲ	20	3	

第６章　総括

第１節　出土遺物からみた脇本城跡

脇本城跡においてはこれまでの調査によって5000点以上の遺物が出土した。その内、遺構内から出土したものは極わずかであり、その大部分が遺構外からの出土である。種別は陶磁器、土器、土製品、石製品、金属製品、銭貨、木製品、骨製品と多岐にわたり、特に中世期の貿易陶磁器及び国産陶器の出土量及び質においては、秋田県内で卓越している。

（１）土器・陶磁器

脇本城跡からは多くの土器･陶磁器が出土している。貿易陶磁器では白磁、青磁、染付が主体をなし、国産陶器においては、瀬戸美濃、越前がその主体をなす。土器はかわらけがわずかに確認されるものの土師器が中心である。

過去の脇本城跡における陶磁器の年代的所見では、貿易陶磁器を中心に馬乗り場地区では15世紀前半から15世紀中頃、内館地区では15世紀末から16世紀前半代がその最盛期に位置付けられてきた（男鹿市教育委員会2002･2003･2004･伊藤2007等）。しかし､文献史の成果において安東愛季による天正５（1577）年の大改修との年代的齟齬がたびたび指摘されており、大きな課題となっていた。本報告書では脇本城跡から出土した土器・陶磁器を再検討し、伝世が指摘される貿易陶磁器だけでなく、国産陶器にも再検討を加え、より明確な脇本城跡の考古学的年代観を示す。

現在までに出土している遺物の中で、最も古い段階に位置付けられるのは、兜ヶ崎・打ヶ崎地区から出土している９世紀後半から11世紀にかけての土師器である。秋田市秋田城跡の編年（秋田市2001）と比較して９世紀後半の可能性があるものもわずかに確認できるが、小型化した法量の坏や皿が確認されることから、その主体は概ね10世紀前半から10世紀後半がその中心になると考えられる。出土量も卓越しており、第８次調査においては1000点以上の土師器片が出土している。兜ヶ崎・打ヶ崎地区の最盛期の年代は本時期に位置付けられると考えられる。貿易陶磁器もわずかに出土するものの、12世紀後半代に位置付けられる白磁がわずかに確認されるのみである。乍木地区については遺物の出土量が少ないものの、第２次調査で土師器坏の小片が出土しており、曲輪の立地構造や田谷沢道との関連性からも兜ヶ崎・打ヶ崎地区と近接した年代が想定される。また兜ヶ崎・打ヶ崎地区以東の低地部において、脇本向山遺跡や向山Ⅱ遺跡、大石館遺跡、前野Ⅲ遺跡、脇本石館Ⅱ遺跡などで土師器や須恵器が確認されており、関連性が考えられる。

さらに中世貿易陶磁器については、兜ヶ崎・打ヶ崎地区の曲輪（第８次調査）で出土している12世紀後半代に位置付けられる玉縁の口縁部を有する白磁碗（第189図－３，４）が最古期のもので、馬乗り場地区の曲輪（第９次調査）で出土した14世紀後半代のいわゆる枢府磁の白磁（第173図－３，４）、同地区の曲輪（第１次調査）及び内館地区の曲輪13・14・15－１・15－２・16（平成７年度調査）で出土した中国元時代の長頸瓶（第162図－１／第91図－８）など、15世紀以前のものが散見される。馬乗り場地区における貿易陶磁器からみた中心時期は蓮弁文を施す青磁皿が多く、15世紀前葉から中葉がその中心をなし、第９次調査ではわずかに16世紀後半代に位置付けられるE群の染付皿（小野1982）も確認さ

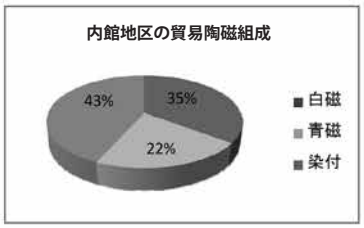
れる。それに対して内館地区においては馬乗り場地区と同様に16世紀後半代の染付皿が出土するものの、青磁は15世紀後半から16世紀前半代の細描蓮弁文碗（上田1982）がその主体となり、染付も同様に15世紀後半から16世紀前半代に位置付けられるものがその主体となる。内館地区に西接するお念堂地区については、西側地区で14世紀後半から15世紀前半の青磁碗が古く、15世紀中葉の皿も出土している。白磁は端反皿が中心で16世紀代、染付は15世紀後半から16世紀前半代のB・C群の皿（小野1982）が主体としている。東側地区についてもほぼ同様の年代を示す貿易陶磁が多いが、16世紀後半代に位置付けられる白磁菊皿や、16世紀中頃から後半代の染付B２・E群も出土しており、西側地区よりも年代の幅がやや広くなっている。上述した各地区の年代観はこれらの所見に起因し、過去の所見と差異はほぼない。しかし、国産陶器については、兜ヶ崎・打ヶ崎地区や乍木地区での出土はほとんどないものの、馬乗り場地区、内館地区、お念堂地区では一定量出土する。

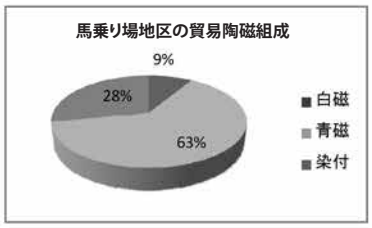
馬乗り場地区では第１次調査において15世紀中頃の越前甕や第９次調査において15世紀前半に位置付けられる瀬戸美濃皿、15世紀中頃の珠洲すり鉢が確認され、貿易陶磁器の年代観と相違ない年代の国産陶器が出土する。そのため、15世紀前葉から中葉にその最盛期があることは明確である。しかし、内館地区では、その主体は瀬戸美濃と越前が占めるが、大窯第１段階から第３段階に位置付けられる瀬戸美濃皿がその主体を占める（愛知県2007）。越前においても15世紀末から16世紀中頃に比定されるものがわずかにみられるが、その多くは16世紀後半代に位置付けられる（木村2011）。さらに16世紀代と考えられる京都系のかわらけが（第60図－９）出土していることも注目される。そのため、内館地区は出土遺物の年代幅から15世紀後半から16世紀後半に機能しており、その中心時期は16世紀前葉から後葉となることが指摘できる。さらにお念堂地区については、西側地区で16世紀後半から17世紀代が中心となる。16世紀後半から17世紀の瀬戸美濃、16世紀代の越前すり鉢に加え、他の地区ではわずかに確認されるのみの唐津の碗・皿が一定量出土している。年代は16世紀末から17世紀代の胎土目積み、17世紀前半の砂目積みが確認される。また、同時に17世紀前半代の伊万里の皿が出土している。東側地区でもほぼ同様の年代を占めるが、瀬戸美濃は16世紀前葉から中葉のものが多く、16世紀後葉代のものがそれに続く。唐津についても胎土目積みのものが多く、砂目積みのものがそれに続く。お念堂地区においては、他のどの地区よりも新しい時期まで継続することが確認され、国産陶器の年代観を考えると、内館地区とほぼ同時に使用が開始され、廃城以後の17世紀代にも継続した土地利用が行われていたことが考えられる。

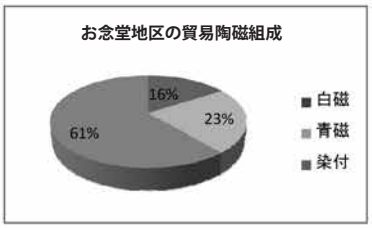
また、上述した年代観は各地区における出土した貿易陶磁器の組成からも傍証される。兜ヶ崎・打ヶ崎地区では土師器、須恵器の出土量が卓越しており、馬乗り場地区、内館地区とは明確に異なる。さらに馬乗り場地区と内館地区、お念堂地区を比較すると、貿易陶磁器においては全国的な傾向として、13世紀前後に青磁が白磁を凌駕し、15世紀後半以降に主体が染付となることがこれまでの研究でも指摘されているが（上田1982、水澤2000）、脇本城跡においても同様の傾向が確認される。馬乗り場地区における出土貿易陶磁器の組成割合は白磁９％、青磁63％、染付28％であることに対し、内館地区では白磁35％、青磁22％、染付43％、同様にお念堂地区では白磁16％、青磁23％、染付61％となり、15世紀前葉から中葉を中心とする馬乗り場地区では、青磁が染付を圧倒しており、さらに内館地区ではほとんど確認されない皿が多く出土している。それに対し16世紀前葉から後葉にその最盛期がある内館地区、お念堂地区においては、染付の出土割合が青磁を圧倒的に上回っている。調査面積の多少を考慮した上で、出土遺物組成からみても、両地区においてその中心時期に年代的な差異があることが明確である。また、

第90表　出土遺物組成一覧表

地区	調査地	貿易陶磁器			国産陶器								陶磁器		かわらけ・土器			
		白磁	青磁	染付	瀬戸美濃	越前	珠洲系	唐津	常滑	信楽	備前	瓷器系	近世	近現代	瓦質	かわらけ	土師器	須恵器
内館	曲輪1・2	22	11	33	43	11	3	0	0	0	1	3	0	0	9	1	0	0
	曲輪10	68	23	81	78	64	6	0	0	0	0	0	0	11	6	17	0	0
	曲輪12	39	9	38	47	8	0	0	0	0	0	1	0	0	2	4	0	0
	曲輪13・14・15-1・15-2・16(H7)	44	17	27	22	20	2	0	0	0	0	0	0	11	8	3	0	0
	曲輪13・14・15-1・15-2・16(第18次)	10	8	8	37	7	2	1	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0
	曲輪17	32	39	44	112	64	45	1	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0
	曲輪19	38	11	38	43	9	0	0	0	0	0	4	0	0	7	1	0	0
	曲輪20	19	1	29	36	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	曲輪状遺構	43	65	88	68	48	17	6	0	0	0	0	0	0	8	7	0	0
	天下道	8	14	10	8	2	3	0	0	0	0	3	0	1	3	0	0	0
内館地区 合計		323	198	396	494	238	80	8	0	0	1	18	0	23	43	40	0	0
馬乗り場	曲輪(第1次)	14	143	16	0	98	0	1	0	0	0	0	0	3	14	1	4	0
	曲輪(第9次)	9	24	58	5	0	3	0	0	23	0	0	0	4	2	3	92	2
馬乗り場地区 合計		23	167	74	5	98	3	1	0	23	0	0	0	7	16	4	96	2
兜ヶ崎・打ヶ崎	曲輪(第3次)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	25	0	0	40	0
	曲輪(第8次)	9	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	54	0	1	1009	51
	田谷沢道(第7次)	1	0	2	5	0	0	1	0	0	0	0	0	265	4	0	4	0
兜ヶ崎･打ヶ崎地区 合計		10	1	2	6	0	1	2	0	0	0	1	0	344	4	1	1053	51
乍木	曲輪(第2次)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	37	0	0	26	1
	田谷沢道(第6次)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
乍木地区 合計		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	41	0	0	26	1
お念堂	H15･16年度調査	88	125	338	197	197	0	134	1	0	0	70	18	26	135	1	1	48
お念堂地区 合計		88	125	338	197	197	0	134	1	0	0	70	18	26	135	1	1	48
寺院	推定寺院跡	2	3	7	9	2	0	0	0	0	0	1	0	111	1	0	57	5
寺院地区 合計		2	3	7	9	2	0	0	0	0	0	1	0	111	1	0	57	5







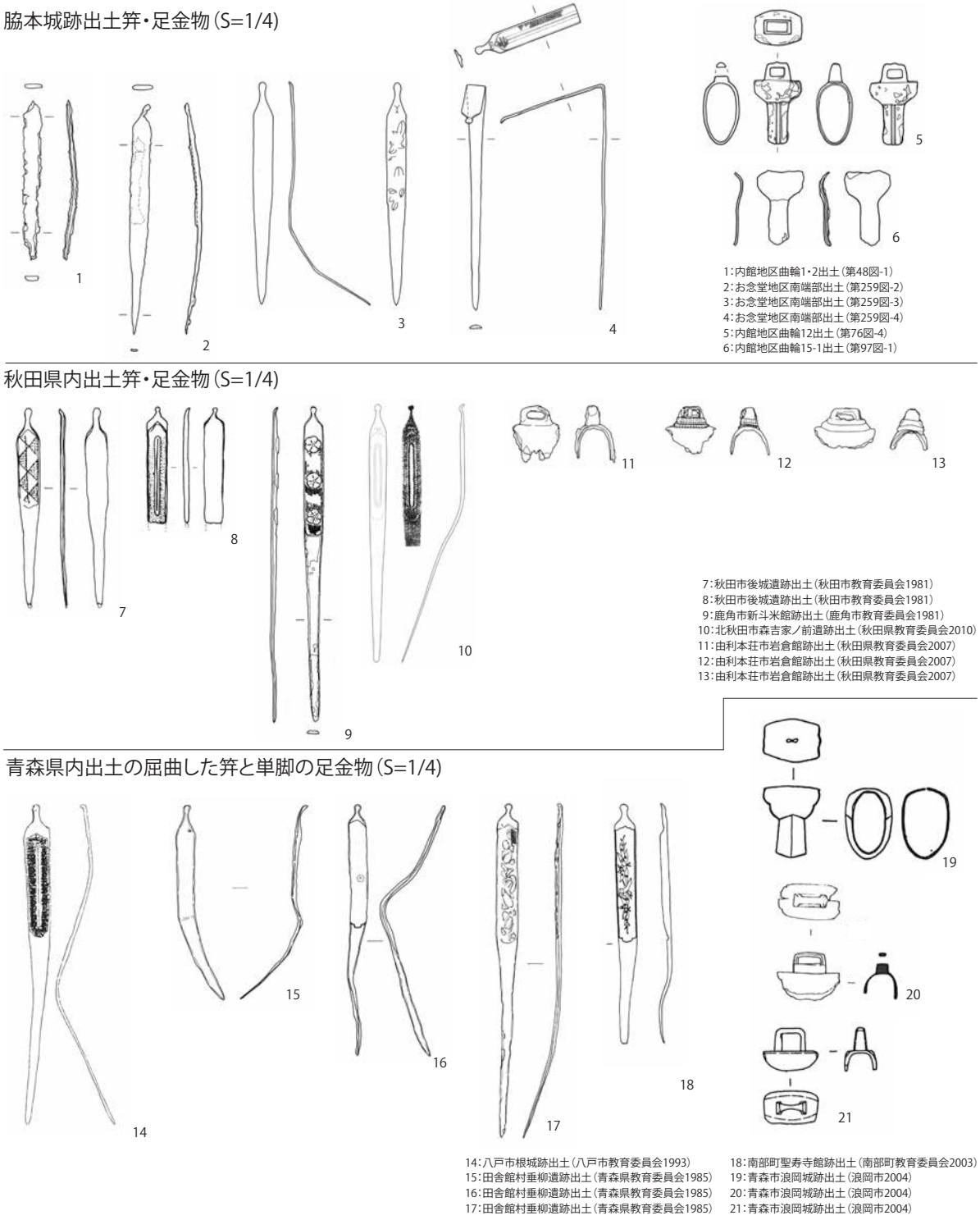
兜ヶ崎・打ヶ崎地区、乍木地区、お念堂地区、寺院地区において近現代陶磁器が突出して多いのは、近世以後の土地利用も含め、近代に畑地化し、新たに植林が行われた影響を示すと考えられる。

出土土器及び陶磁器の年代的検討から、兜ヶ崎・打ヶ崎地区及び乍木地区は10世紀前半から10世紀後半、馬乗り場地区は15世紀前葉から中葉、内館地区、お念堂地区は16世紀前葉から後葉にその中心時期があることが明らかとなった。兜ヶ崎・打ヶ崎地区、乍木地区、馬乗り場地区でもわずかではあるが、16世紀後半代の染付皿や唐津が確認されるため、内館地区の改修に伴って、脇本城の範囲として包括され、使用されたことが指摘できる。内館地区の最新の遺物の年代が16世紀後半代であることから、17世紀の前葉には廃城化していたことが考えられるが、お念堂地区はその宗教性から17世紀前半代まで継続したことが確認できる。

（２）金属製品

脇本城跡から出土した金属製品については、年代的な検討が困難なことに起因して、これまで特別に検討されてはこなかった。しかし、多くの金属製品が出土しており、鉄製の和釘がその多くをなすが、小札、笄、足金物、小柄、石突、弾丸といった武器・武具類に加え、鍋、燭台等の日常雑器、銛やヤス等の漁具類も出土している。

脇本城跡の年代とその性格を考察する上で、重要な位置を占めると考えられるのは武器・武具類であ



第266図　脇本城跡出土笄・足金物とその類例

り、特に特徴的な出土を示すのは笄である。笄はそのほとんどが銅製及び銅を含む合金類であり、４点出土している。２点は屈曲した状況で出土し、意匠を施すものが１点ある。明確な意思を持って曲げているものもあり、その廃棄における特殊性が考えられる。秋田県内では14世紀後半から16世紀前半をその主要年代とする秋田市後城遺跡（秋田市教育委員会1981、神田2007a）や鹿角市新斗米館跡（鹿角市教育委員会1981）でも出土している。また、青森県内では類例も多く、弘前市堀越城跡や鰺ヶ沢町種里城跡、青森市浪岡城跡、平川市大光寺新城跡や田舎館村垂柳遺跡、八戸市根城跡、南部町聖寿寺館跡、むつ市鞍越遺跡など15世紀から16世紀代の中世陶磁器とともに出土している例がみられる（青森県2003）。中でも浪岡城跡、垂柳遺跡、根城跡、聖寿寺館跡では脇本城跡同様、下半以下が曲がった状態で出土しており、安東・南部等その領有地に関係なく、戦国期共通の廃棄に伴う様相の一端を示すと考えられる。太刀の装着金具の一つである足金物については脇本城跡内館地区より２点（第76図－４、第97図－１）出土しており、その内１点は完形品（第76図－４）である。銅製の単脚足金物で、表面に漆を塗布して装飾する。秋田県内では古代の蕨手刀に装着された状態で出土した例が複数みられるが、中世では14世紀から16世紀代を中心とする由利本荘市岩倉館跡から出土している。完形品ではないものの、双脚となると考えられ、秋田県内では単脚の足金物は管見の限りみられない。同様の単脚足金物は青森市浪岡城跡や平川市大光寺新城跡で出土している。年代的側面からの考察は現段階では困難であるが、当該期の特徴的な遺物であり、今後の研究の進展が望まれる。

また、内館地区曲輪10の盛土崩落層中より火縄銃の鉛製弾丸３点と天下道の調査に伴って鉄製弾丸１点が出土している。秋田県内では北秋田市の脇神館跡で１点出土しているが、遺構に伴わず時期も不明確である（秋田県教育委員会1999）。青森県内では青森市浪岡城跡や南部町聖寿寺館跡、むつ市鞍越遺跡など、南部氏や北畠氏の主要城館からの出土が中心であり、ほぼ同時期である脇本城跡からも出土していることは、秋田安東氏の主要城館として脇本城跡の出羽北半内における優位性が着目される。鉄砲の流通については越後上杉氏領国では天文20（1551）年前後に岸和田流の流行が指摘され（宇田川2007）、それ以後の東北地方への波及が想定されるが、秋田安東氏においては永禄10（1567）年、永禄11（1568）年の鉄砲に関する文書が確認されており（青森県2005）、16世紀第３四半期には、少なくとも秋田地方へ鉄砲が伝わっていることがわかる。そのため、その出土からも内館地区は少なくとも16世紀第３四半期にはその機能を有していたことが考えられる。

（３）木製品

脇本城跡から出土した木製品はわずかに内館地区等において漆塗りの漆器が出土しているが、地質的特性からお念堂地区東側調査区で出土したものがそのほとんどである。箸状木製品や折敷、底板、柄杓、杓子、曲物、下駄等の日常雑器に加えて、楔や紡錘車、槌や鍬といった農工具、柿経や卒塔婆といった祭祀具に至る様々な製品が出土している。様々な用途のある木製品の出土を概観しても、日常における中近世の木製品の重要性が明確である。

脇本城跡出土木製品のうち最も着目されるのは、柿経、頭部に墨横線や切り込みを持つ笹塔婆（長さ10cm ～ 50cm未満、幅１cm ～５cm）、板塔婆（長さ50cm以上、幅５cm以上）、全国的に類例が少ない角状塔婆である。

「奉為大虚廓」（既刊報告書では「奉為大廬□」、廬は虚の可能性あり、□は判読不能と報告）と記さ

れた塔婆（第251図－５）は、「高野山金光院過去帳」に記された秋田湊城主湊堯季の法名「鉄舩庵殿大虚洪廓庵主」（青森県2012）との関連性が考えられ、「洪」の字は見られないものの、堯季の法名を記した塔婆である可能性が高い。また同調査区から五輪塔地石と考えられる墓石が出土しており、その表面に「月心明宗大姉覺灵位」と刻まれる。同じく上記の過去帳の中にその法名を確認することができ、当地区が少なくとも16世紀後半に安東家にかかわる人々を供養する場として機能していたことが判明する（宮城教育大学の遠藤巌名誉教授の教示による）。また、角状塔婆は護岸用の横木として転用されたような状態で出土しており、当地区の斜面の崩壊と流路の埋没に伴って、転用されたものと考えられる。

当地区は出土陶磁器などの年代観から廃城以後も17世紀前半代まで継続されて使用されてきたことが指摘でき、17世紀前半以後に度重なる崩落とそれに伴う流路の変遷によって、徐々に廃棄されていくとともに、角状塔婆などもその護岸として転用せざるを得なくなったか、旧来の被葬者との関連性が薄れた可能性が指摘できる。

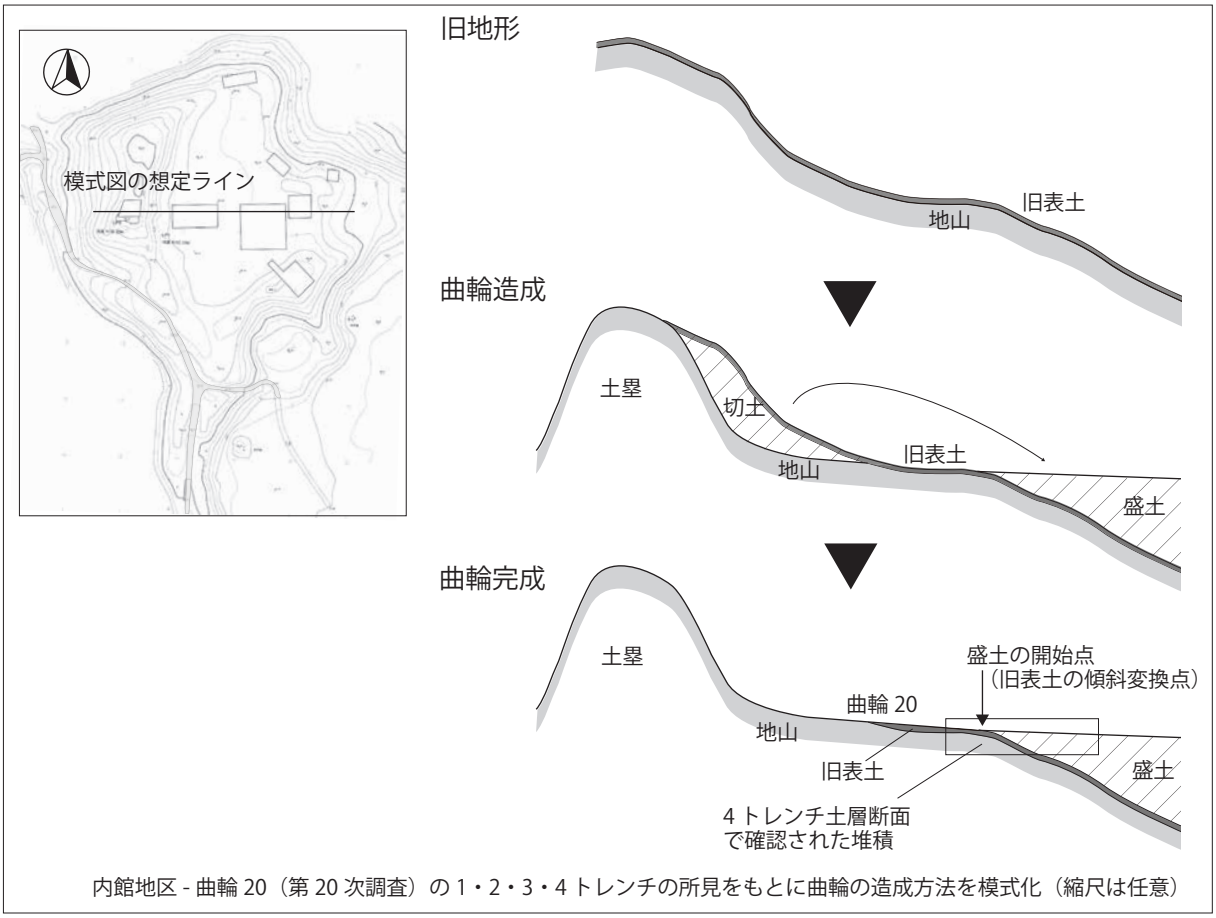
第２節　検出遺構からみた脇本城跡

脇本城跡の遺構において、最も特徴的な点は、地表面に残る遺構と発掘調査によって検出される遺構の２種類が存在することである。現況の地形に残されている遺構については、平成５年以降の遺構現状調査によって、おおよそ明らかとなっている。しかし、過去の土地利用変遷をみると、内館地区を除き多くの地点で畑地化が行われ、さらに植林等の際にも土地の改変が行われている可能性が高い。しかし、確認調査の所見と統合することでその意義を検討することができると考えられる。これまでの確認調査によって見つかった遺構は、掘立柱建物跡、柱穴列・柵・塀・門跡、井戸跡、道路跡、土坑、溝跡、焼土遺構、集石遺構、柱穴跡、不明遺構、整地・盛土跡等に及ぶ。

（１）整地・盛土跡からみた曲輪・土塁造成

脇本城跡内では各所に大規模な地形改変の痕跡が確認できる。お念堂地区を除き、曲輪が一定量確認される地区では盛土や整地の痕跡が確認されている。兜ヶ崎・打ヶ崎地区や乍木地区は丘陵頂上部の造成で切土と整地が確認されており、斜面部や周囲に展開する帯状の曲輪を盛土をすることで造成している痕跡が確認される。それは小規模な丘陵頂上を曲輪としていることから、丘陵頂上の切土と整地によって生じた土砂を斜面部へ流出させ、拡大を図っていることに起因する。馬乗り場地区は単廓の大規模な曲輪を中心として周囲に小規模な曲輪を配しているため、基本的には兜ヶ崎・打ヶ崎地区と同様の造成を施すが、主郭級の大規模な曲輪の選地が前提の構造となっており、随所に盛土や切土が確認されている。さらに、第９次調査の曲輪の所見により、過去の土地利用痕跡を20cm ～ 40cm程度の盛土を施すことで更地化していることが明らかとなっているため、馬乗り場地区では少なくとも２時期にわたる利用が図られている。

脇本城跡内で最も大規模な造成が行われているのは内館地区である。内館地区の普請については、自然地形を大規模に改変して、小規模な曲輪を複数造成していることが、各調査地点で明らかとなっている。各曲輪とも、自然地形の斜面を切土し、その反対側にすべての土砂を排出して曲輪の面積拡大を図るとともに、曲輪と曲輪の間の斜面を造成している。特に明確に盛土の様子が確認できた曲輪20（第20次調査）の所見をもとに内館地区の曲輪造成の方法を模式化したのが第267図である。自然地形の緩斜



第267図　脇本城跡における曲輪造成模式図

面を選定し、斜面際を切土し、場合によっては土塁化する。切土によって排出された土砂を盛土をすることで、曲輪の拡大を図るとともに、必要に応じて旧表土中の凹凸を整地する。これらの造成方法は内館地区で一貫して確認されており、曲輪10と曲輪12の間においては、盛土によって急斜面を造成する。さらに曲輪12については、東側の急斜面を自然地形のまま維持するため、盛土は基本的に南側に施し曲輪を拡大する。南端の曲輪１では全面盛土による曲輪造成が図られているが、これは本曲輪のみで確認されており、他の曲輪で確認できていない。現状では南端に位置していることから、日本海監視のため曲輪の標高を高くする必要があった可能性が考えられる。

以上のように内館地区では自然地形を十分に把握し、その自然地形を最大限取り込んだ曲輪配置構造をとっていることが明らかである。内館地区においてはその地形上、最高所を設定することは困難であり、陸上交通掌握のために天下道、海上交通掌握のために日本海側という２点を最重要視した選地とそれに適合した曲輪造成が図られたことが推察できる。

（２）検出遺構からみた曲輪・土塁の構造

曲輪の構造が最も明確化しているのは、最も調査事例の多い内館地区である。そのため内館地区を中心に曲輪と土塁の構造をまとめることとする。内館地区は天正期の安東愛季による改修が指摘されている地区であり、戦国期には近隣の南部氏や戸沢氏などとの戦いが行われる中で、脇本城跡についても、相応の備えが必要とされていたことが考えられる。南端部は急峻な崖によって日本海に突出しているが、

西端部はお念堂地区へと連なる斜面上に、高さ２mほどで頂上部に若干の平坦面を有する土塁を南北方向に連綿と構築し､その備えとしていることが地表面に残る遺構から確認されている。さらには曲輪１・２（第11次調査）の所見で、土塁頂上部から11SA26・27が確認され、塀状の構築物を巡らせることで、日本海側からみた城の荘厳性と強固性を高めていたことが明らかとなっている。北西端の曲輪20も天下道との境界を高さ3.6mの土塁によって区画する。この頂部にも20SA48が確認され、塀状の構築物が巡らされていた。城内と外部との境界のみならず、曲輪14と曲輪16を区画する大規模な土塁上にも同様の遺構である18SA20・21を検出しており、さらに切土造成によって構築される土塁の頂上部に若干の盛土を施して平坦面を構築していることが明らかとなった。また、曲輪19と曲輪20を区画する土塁の頂上部からは20SA64を検出しており、上述した塀状の遺構ではないものの、見通し等を考慮した柵跡が構築されていたことが明確となった。

また各曲輪の端部には柵状の遺構が巡らされていたことが明らかとなっており、端部の調査を行っている曲輪10・12・15－１・17の内、端部の崩落が予測された曲輪12以外から検出されている。曲輪10の16SA202は柱間が８cm ～ 20cmと近接しており、その検出状況から打ち込みによる柵跡であることが想定され、柵木の間にはその痕跡から横木を渡していたことが考えられる。曲輪15－１については柱間１m ～ 1.2mで柱を建てるとともに、浅い溝跡でそれぞれの柱を連結する。また、一部溝跡が途切れるか所があり、門跡を伴う可能性が考えられる。門跡は内館地区北東端の曲輪17でも確認されており、19SM34と曲輪19の境界部から検出されている19SA91がそれに位置付けられるとともに、曲輪端部をめぐる柵跡である19SA41がそれに連結する。曲輪端部の柵跡は、自然地形斜面側に位置する北側では約60cmの柱間であり、曲輪22を眼下におく東側端部は１m ～ 1.5mとやや広い柱間となっている。19SA91は２基の柱穴から構成され、曲輪22と連結する通路上に位置することから、冠木状の門構造であった可能性が考えられる。

内館地区の土塁は基本的に切土を主体として構築されるが、土塁頂上部には平坦面を造成するために盛土によって整形するとともに、塀もしくは柵を構築することで、防御性を高めるとともに荘厳性を兼ね備えていたことが指摘できる。さらに曲輪端部はその曲輪の立地的重要性を考慮して門及び柵状の遺構で閉遮しており、防御上の要所であった曲輪は相応の構築物が配されていたことを指摘することができる。

（３）掘立柱建物とその配置

内館地区の調査では、これまで複数棟の掘立柱建物跡を検出している。しかしその全てがトレンチ調査による検出のため、規模や構造が明確になった建物跡は非常に少ない。掘立柱建物跡という遺構の特性上、柱穴内における遺物の出土も極めてまれであるが、曲輪20（第20次調査）の20SB21を構成する２基の柱穴内より染付皿（第130図－４）と白磁皿（第130図－１・２）が出土しており、陶磁器の年代からいずれも15世紀後半以降の建物であることが指摘できる。加えて、Ｐ３の白磁と同様の位置及び高さで検出された炭化物の放射性炭素年代測定結果でも15世紀前半～中頃（calAD1,415 ～ calAD1,434）の年代が示され、陶磁器の年代よりはやや古くなるものの、概ね矛盾しない結果となっている。さらに曲輪12（第17次調査）においては17SB109を構成する１基の柱穴より刀子（第77図－１）が出土しており、柱抜き取り後の埋置が考えられるが、他に非常に浅い柱穴が存在すること、近接して17SQ86も存

在することから、礎石建物であった可能性も考えられるが、確認調査段階では明らかにできなかったため、今後の課題である。さらに17SB109に近接した位置にある17SKP23より横位の状態で15世紀後半から16世紀前半に位置付けられる青磁の完形小皿（第73図－５）が出土した。城内において、完形の貿易陶磁が出土したのは初めてのことであり、特殊な出土状況を示すことから、掘立柱建物の建築に伴う地鎮遺構である可能性が考えられる。中世における地鎮に伴う陶磁器埋納の事例がいくつか指摘されているが（菅原1997）、17SKP23のような出土例はなく、その意義について今後検討していく必要がある。17SB109の年代観については、Ｐ１及びP10内から検出された炭化物の放射性炭素年代測定の結果より15世紀中頃～17世紀前半代（calAD 1,454 ～ calAD1,633）の年代が示されていること、17SKP23が本掘立柱建物跡に伴うものであると仮定すると、15世紀後半以降の建物跡であると位置付けられる。また曲輪１・２（第11次調査）で検出された11SB25では礎板が検出されていること、盛土下層から検出された建物跡であることから、年代はやや古くなることが指摘できる。また、曲輪20（第20次調査）で検出された20SB01では、礎石状の礫が柱穴内から検出されるとともに、各柱穴が浅い溝跡によって連結されており、脇本城跡内では初見の建物形態であるため、今後検討を要する。時期は20SB21とほぼ同軸をとることから、同時期と考えられる。いずれの建物跡も国産陶磁器の出土がなく、貿易陶磁の年代観によるため、内館地区最盛期の年代よりは若干古くなっているが、地区全体の年代や国産陶器類の年代も加味して、16世紀前葉から後葉に建てられた掘立柱建物跡であることが考えられる。

また建物の軸線方向についてはそれぞれ異なり、曲輪の軸に対しても平行に建てられていない。建物ごとの軸線方向は以下の通りであり、11SB25（軸線方向:Ｎ－62°－Ｅ）、16SB01（軸線方向:Ｎ－5.5°－Ｅ）、17SB109（軸線方向：Ｎ－22°－Ｅ）、20SB01（軸線方向：Ｎ－45°－Ｅ）、20SB21（軸線方向：Ｎ－39°－Ｅ）、14SB58（軸線方向：Ｎ－60°－Ｗ）とそれぞれ異なる方位を有する。これらの方位は各曲輪から内館地区の中央部を南北に通る天下道に面した方位となっており、曲輪の形状や年代的な方位規制などによらず、天下道を重視した軸線方向の建物であることが明確である。そのため当地区における天下道の重要性を指摘できるとともに、軸線方向は不統一であるが、同一の目的でとられた軸線方向と捉えると、11SB25については、やや古くなる可能性が考えられるが、その他の建物跡はほぼ同時期に存続していた建物跡であると考えられる。

（４）その他の遺構（道路跡・井戸跡・不明遺構）

脇本城跡では明確な道路跡として複数の古道が現況地形でも確認でき、その旨が地域にも伝わっている。兜ヶ崎・打ヶ崎地区、乍木地区を通る田谷沢道については東側と西側で確認調査を実施しているものの、その構築年代の確定までには至っていない。また、馬乗り場地区へ至る本明寺道及び大龍寺道についても確認調査の実績がないため、詳細は不明と言わざるを得ない。しかし、内館地区の天下道については、踏み跡と推察される硬化面は確認されなかったものの、現況地形で確認できる道路跡に溝状の掘り込みが確認されており、15SM01が現在の天下道になるものと推定される。15SM01の造成は曲輪等の造成と同時に行われていることが、調査所見から指摘されており、明確な遺物の出土はないものの内館地区の造成に伴って整備されたことが考えられる。しかし、内館地区の立地する生鼻崎はかねてよりの交通の難所であったと同時に、現在の脇本地区と船川港地区を結ぶ主要道として位置付けられてきたものであるため、内館地区の改修に伴う整備以前に道としての機能をすでに有していた可能性も十分に

ある。前項でも指摘したことではあるが、内館地区選地の要因の一つが陸上交通の要所である道の掌握であったと考えられるためである。確認調査によって内館地区改修に伴う造成以前の様相は明らかにできなかったため、今後の課題である。また道路跡については、上述した大きな道路跡以外にも曲輪と曲輪を連結する城内通路と思われる道路跡が随所に確認される。確認調査を行ったのは曲輪17（第19次調査）の19SM34の１条であるが、硬化面が検出されるとともに、道路跡底面より瀬戸美濃の小破片が出土していること、道路跡底面の東西は切土と盛土を合わせて切通し状の道を造成していることから、曲輪造成と道路造成を同時に行っていることが明確な事例である。さらに門跡とそれに付随する柵跡を伴っており、曲輪造成とそれに伴う城内路の整備を同時に行っていたことが明らかとなっている。脇本城跡内の道路跡については底面幅が60cm ～ 100cm程度の比較的道幅の狭い道路跡であるが、文化年間の菅江真澄による日記の図絵においても馬一頭が通れる程度の道幅であったことが描かれており、城の防御的側面からも矛盾しない結果となっている。

また各地区において、井戸跡と推定されるくぼみが遺構現状調査時より複数あることが指摘されてきた。確認調査を行ったのは内館地区曲輪12の17SE01の１基だけであるものの、堆積土内より16世紀中頃の越前すり鉢が出土しており、時期的には内館地区の整備に伴って構築されたものと考えられる。さらにその構造は縦板を円形に組んだ井戸側もしくは曲物を用いて構築されていると考えられ、内館地区の井戸跡はほぼ同様の構造であったと考えられる。男鹿市内でも発掘調査によらないものの、八郎潟の干拓事業に伴って、一向遺跡から円形の井戸枠を有する井戸跡が確認されていることに加え（磯村1978）、八郎潟東岸で13世紀後半から16世紀後半の井戸跡が312基検出されている井川町洲崎遺跡においてもE型として曲物のみで構築される井戸跡などが一定量検出されており（秋田県教育委員会2000）、当該地域広範にみられる井戸構造であると考えられる。

内館地区曲輪20（第20次調査）において東側の土塁頂上部から特筆すべき遺構が検出されている。概報及び本報告書においては不明遺構と位置付けているが、20SX77については、旗竿を受けるための遺構であることを推定している。内館地区で最も高所に位置する曲輪の土塁頂上部に旗竿を掲げたと考えると、南、西の日本海側や東の城下町地区からも目視できると考えられ、安東氏主要城館としての威厳を鼓舞できるものと推察される。戦国期において、城内に旗竿を抑揚することが日常的にあったのか、他の城館及び城郭において同様の事例がみられるか、今後の課題である事項が多いため、本報告書においては、その可能性を指摘するにとどめておく。

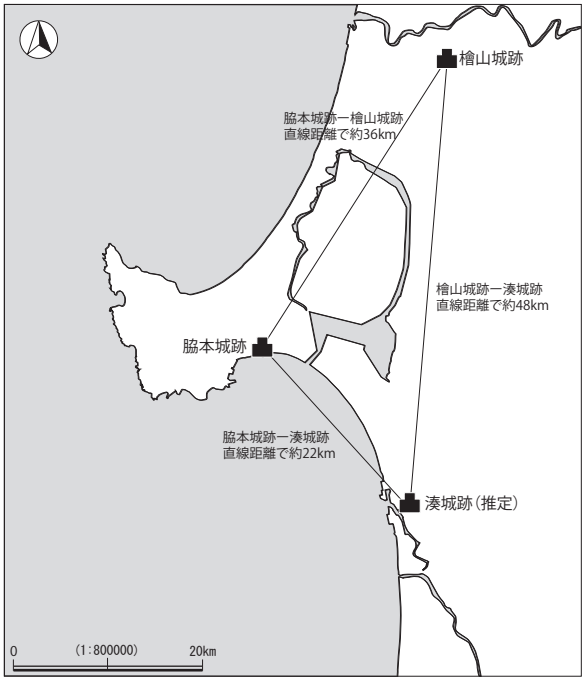
第３節　文献史料からみた脇本城跡

中世脇本城跡については、文献史料研究の成果から秋田安東氏による城館と考えられており、永禄年間（1558 ～ 70）から天正５（1577）年までの湊摂津守氏季（1511 ～ 1603）、天正５（1577）年以降の下国安東愛季（1539 ～ 1587）による改修・居城が指摘されている（男鹿市教育委員会2007a）。史料的に充実しているのは下国安東愛季期のものであり、脇本城跡と直接的に結びつく史料は少ないものの愛季と脇本城跡の関わりを概観する。

安東愛季は天文22（1553）年に檜山屋形檜山城主に就き、元亀元（1570）年に秋田屋形秋田湊城主を兼務し、豊島郷及び太平郷を領内に組み込み、さらに松前城主蠣崎季広以下の蝦夷島南端諸氏、阿仁・大阿仁から比内・鹿角両郡、津軽西浜内の深浦郷や津軽浪岡御所にまで強い影響力を及ぼしていた。そ

のような情勢の中で、秋田湊城と檜山城を統括し、領国支配及び日本海交通の要所として、脇本を選地の上、既存の城を改修し、居城したと推定されている。

愛季実子である秋田実季が天正17（1589）年のいわゆる湊合戦の原因と戦況をまとめた「秋田実季公御一代記」の中で、愛季の脇本居城について「湊之城ヲ愛季おかに移シ給ふ、夫ゟおかに住し給ふ、」とし、合戦時に実季の檜山城籠城について「此時おか之城名城といへとも、普請いまた出来せぬか故、檜山之古城江引移、籠城百五六十日、」と記される。さらに脇本城と秋田安東家の主たる城との関連性について「おかゟ檜山江七里程、湊江茂七り程、」とし、両城の中間地点を選地したことが推察される（青森県2005）。さらに愛季側近であった奥村宗右衛門に宛てた文書の中に「一　小鹿築直し候ハん事、御意を憑入由申」（青森県史2005）とあり、奥村宗右衛門が脇本城改修の責を負っていたことが指摘されている（遠藤2005）。天正15（1587）年に脇本城内で安東愛季が死去し、その家督をめぐって天正17（1589）年に秋田湊城主湊実季と豊島城主湊通季との争いが起こり、脇本城は普請が未完なことも関連して、地位を失ったと考えられている。明確な廃城年は不明であるものの、天正17（1589）年以後から近世初頭には終焉を迎えることとなる（男鹿市教育委員会2007 a）。



第268図　安東氏関連城郭関係図

以上安東愛季と脇本城の関わりを概観したが、中世以前の脇本城を明記する史料は皆無であり、中世以後においても築城や改修年代を明確化する紀年史料は現在のところ確認されていない。文献史において、脇本城が最も明確化するのは天正期以後と考えられるが、天正５（1577）年の改修から愛季の死去後の家督を争った、天正17（1589）年のいわゆる湊合戦に至るまではわずか12年しかなく、秋田安東家の最重要案件であったはずの脇本城普請が最終的に「おか之城名城成といへとも、普譜いまた出來せぬ」と記載される点は重要であると考えられる。現在の脇本城跡の範囲は、南は内館地区から北は乍木地区に至る総計150haが指摘されているが、わずかな期間に広大なその全てを改修したとは考えにくく、過去に城館として機能していた地点を取り込んだ可能性が高い。以上の視点で、明治初期の「秋田郡脇本村字横町道上地引繪圖（第31図）をみると、現存する本明寺と昭和７年まで当地にあった大龍寺（昭和７年刊行の「半島新報」という男鹿半島の新聞（男鹿市教育委員会2012b）に大龍寺の移転に関する記事がある）の参道が直角に屈曲していることが見て取れる（以下、本明寺道、大龍寺道）。これは現萬境寺の参道と明確に異なっている。本明寺及び大龍寺跡からはいずれも馬乗り場地区へと道がつながっており、明治初期絵図の中にもその痕跡が確認できる（第31図の本明寺へ至らず屈曲から直進する道）。このような虎口的な様相は、これまでも指摘されていることではあるが、馬乗り場地区の入口付近にもほぼ直角に曲がる明確な虎口が残存しており、城とそれに付随する大手道として捉えることが可能である（男鹿市教育委員会2007 a）。本明寺道及び大龍寺道は明治10年前後に作成されたと推定される「脇

第269図　各地区と道の復原

本全図」の中には、道として位置づけられておらず、比詰街道（天下道）、田谷沢街道（田谷沢道）とは、異なっているが、これは本明寺道、大龍寺道が馬乗り場地区へ至る目的のみで作られ、馬乗り場地区以降へはつながっていないことに起因すると考えられる。以上の点から内館地区と天下道、馬乗り場地区と本明寺道及び大龍寺道、兜ヶ崎・打ヶ崎地区及び乍木地区と田谷沢道といった、特定地区と道との関連性が指摘できるのである。

城下町地区については現在は土地区画整理等により変わっているところも多く見受けられるが、「秋田郡脇本村字脇本地引繪圖」（第30図）では、字脇本地区の中央部を東西に通る大通りと、南北両側に発達する短冊状の地割が明治初期まで明確に残されていたことが読み取れる。地割は間口２間半（4.53m）×奥行13間（23.6m）を基準としている。さらには城下町的な特色として、大通りに対して南北に通る道路は直線的には通らず、互いにわずかにずれて通されている。内館地区の東側前面に中世以来と想定される城下町が近世期から明治初期にかけて継続して残されていたことが見て取れる。

廃城年代については、慶長７（1602）年の佐竹義宣の秋田移封による影響も大きいと考えられるが、『出羽一国御絵図』（第20図）の中に「古城」として大きく記載されることも注目に値する。江戸幕府による一国一城令に従って、安東家主要城館であった脇本城を廃城したことを明確にする必要があったと考えられ、本絵図が描かれた正保４（1647）年段階には明確に廃城となっていたことを示すものであ

る。この史料を遡って考えると、天正17（1589）年のいわゆる湊合戦によってその機能の多くを失い、佐竹義宣の秋田移封による安東系城館の破却、そして慶長20（1615）年の一国一城令によって、確実な廃城を迎えたことが考えられる。脇本城跡と深い関連性をもつ能代市檜山城も一国一城令で廃城化したことが指摘されており（能代市教育委員会2004）、ほぼ同時期の廃城の可能性が指摘できる。また、秋田実季によって慶長４（1599）年から同６（1601）年に湊城の大改修が行われており（秋田市教育委員会2007・2008）、脇本城の機能はほぼ衰退していた可能性が考えられる。出土遺物の年代から考えても、特に内館地区においては、近世期の年代に比定される陶磁器類は非常に少なく、17世紀以降の様相は不明確となっているため矛盾しない。しかしお念堂地区及び寺院地区、城下町地区については、宗教的な意義や人々の生活など、一定の継続性を有し、17世紀以降の陶磁器類も出土していることから、その機能の多くが継続したことが推察されるとともに、廃城となった内館地区が入会地化した際には、城下町地区の住人に共用地として割り振られることとなり、旧城下と城との関連性が指摘できる。さらに文化元（1804）年、文化７（1810）年の菅江真澄による日記（第26図）でも、城跡と認識した上で訪れるとともに、馬にて天下道を登る様子が描かれている。本来の天下道は馬一頭が通れる程度の道幅であったことを読み取ることができ、嘉永５（1852）年に書かれた『絹篩』（第27図）でも「古城」として描かれている。近世以降、現在においても「城跡」として地域の人々に認識され、廃城となっても、人々の生活と記憶は継承されてきたことがわかる。

お念堂地区や城下町地区を除き、現代に至るまでその機能を継続させているのが、脇本天神宮（菅原神社）である。代々の宮司家である伊藤家に近世期の由緒書の一部が現在も残されており、本報告書に一部取り上げている。本報告書では現在も残されている由緒書の中で最も古い寛政４（1792）年の写本を掲載している（第22～25図）。写本は秋田藩９代藩主であった佐竹義和が寛政４年２月14日に脇本天神宮に立ち寄って参拝し、同時に「古城跡」を散策したおりに、神主であった伊藤豊後正宗光に尋ねたことを契機として、後の世の人のために書写したものであると記載する。伊藤家の系図は複数伝わっており、その系図記事は必ずしも一致していないが、宗光は10代の神主であった可能性が指摘されており（遠藤2009）、過去の火災によって多くが焼失したことが文書内にも記載されている。脇本城跡に直接関連する事項として、着目されるのは、

「天正十九辛卯年、安倍實季公御建立ノ棟札御座候、只今ハ棟札文字見得兼申候」

「古来ハ、當山御城之鎮守ニ御座候由承傳候、実季公御本丸ノ南山上ニ御立被成候、山段々崩れ申候而」

「一、寛文十二年壬子、同御代、再興棟札御座候、
右ハ、社下中段へ移し申、此時實季公棟札持参仕、兵庫様懸御目申候、」

「承應弐年二月初メニ、社ノ北ゟ東西口弐三尺ニ山割れ廻り申候、村者共動轉仕り、一両日中ニ山ハシリ可申ト難儀奉存候得共、割れ候内ハ入兼罷在候処、五六日も過申候へ共、別儀も無御座候故、村中惣人数出申候而、同二月廿六日ニ御宮拝殿共ニ一日ノ内ニ仕舞申候、北方駿河屋敷と申所へ移し申候」

のか所である。由緒書の記載に従って時系列にまとめると、天正19（1591）年に安倍（安東）実季が建立した段階で、本丸の南山上に位置していたが、承応２（1653）年の地割れによって駿河屋敷へ遷宮し、寛文12（1672）年に社を下の方の中段に移して現在に至っていることとなる。以上の点から遠藤氏は「御城御本丸」を現菅原神社西方の内館地区に比定し、本来は小祠や大社ではなく、村中総出で担げる規模の建物が、曲輪１の南方（現在は崩落している）に所在し、駿河屋敷へ遷宮したと指摘している。さらに駿河屋敷は湊一族の重鎮であると考えられ、愛季期には脇本城内に居住していた可能性が高い湊駿河守盛季入道夢湍の屋敷地であった可能性をとなえ、その比定地に曲輪14の可能性を考えている。そして最終的に下の方の中段である現在地へ移したと考察する（遠藤2005・2009）。確認調査の成果によっても愛季期と内館地区の関連性は16世紀代を主体とする出土陶磁器の年代からも指摘できるが、遺構の検出状況によって、主郭相当地の特定にまでは至っていない。しかし、地表面に残る遺構の様相をみても、曲輪14は内館地区で最も大規模な土塁に周囲を囲うとともに、曲輪14を区画するための入り口施設を伴う小規模な土塁など、内館地区の中で最も強固な普請を行っている。さらに曲輪13・15－１・15－２を含めると、最も広い面積を有し、本地点の調査でも曲輪造成と同時に小規模な土塁も構築されていることがわかっている。そのため城下町を眼下におく曲輪14が主郭相当である可能性も十分に考えられる。絵図面が残されておらず、発掘調査によっても主郭の特定ができていない当城跡において、文献史料からも愛季期の主要地区は内館地区である可能性が指摘でき、また、道と各地区の関連性など、発掘調査によって特定することが困難な所見を検討する材料の１つとなっている。

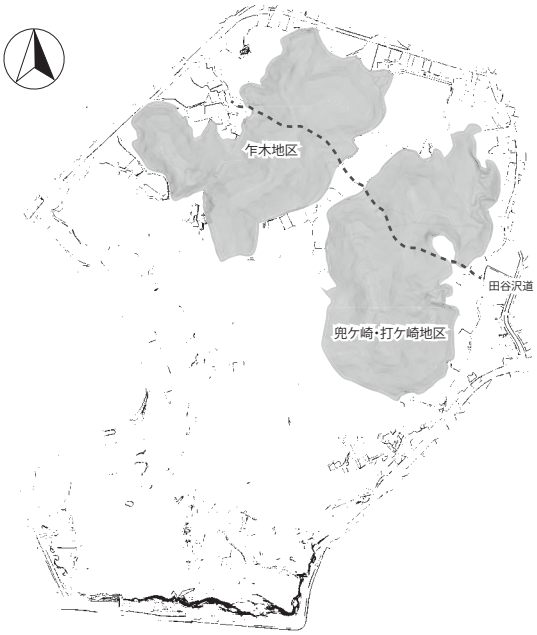
第４節　脇本城跡の歴史的位置付け

約150haにおよぶ広大な脇本城跡は中世後期のいわゆる織豊期においては、秋田安東氏による主要城館として出羽北半の中心地であったことが文献史料研究、地表面に残る遺構の観察、発掘調査における成果からも明確となっている。今までの調査の成果による出土遺物の年代観や遺構の年代、文献史料研究の成果から、脇本城跡の変遷は以下の通り総括することができる。

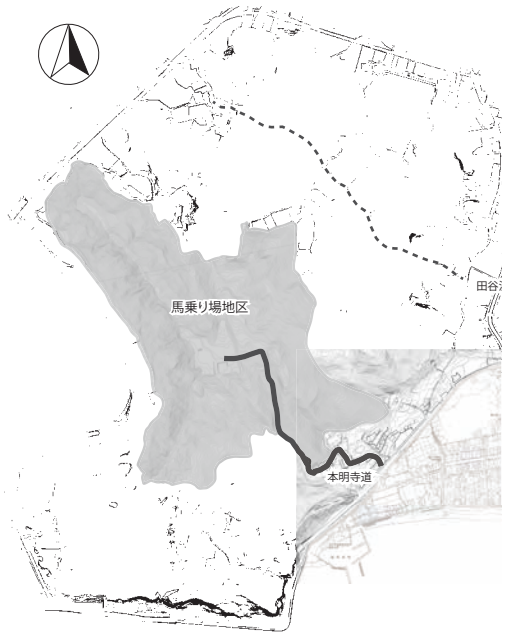
■Ⅰ　期：兜ヶ崎・打ヶ崎地区／乍木地区を中心とし、10世紀前半から10世紀後半を最盛期とする
■Ⅱ　期：馬乗り場地区を中心とし、15世紀前葉から中葉を最盛期とする
■Ⅲ　期：秋田安東氏の主要城館として内館地区を中心にお念堂地区を含めた全地区を取り込み、15世紀後半以降に成立するとともに、16世紀前葉から後葉にかけての最盛期を迎え、17世紀の前葉には廃城する
■Ⅳ　期：脇本城跡が廃城後、お念堂地区、寺院地区、城下町地区については継続する

大きくは以上の４期にわたる変遷が捉えられる。

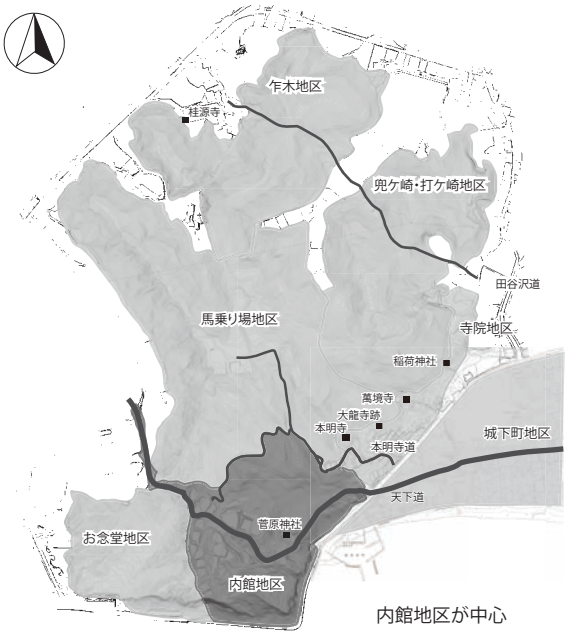
Ⅰ期は秋田城の機能停止時期前後であり、秋田平野及び八郎潟沿岸地帯では集落遺跡数の激減が指摘されている時期である（神田2005・2007b）。元慶２（878）年に起こった元慶の乱における賊地の一村として明記されている「腋本」は、地名から当該地域周辺が考えられており、一定の勢力を誇っていたことが指摘されている。しかし10世紀代の遺物はこれまでほとんど確認されていなかったため、兜ヶ崎・打ヶ崎地区や乍木地区の構造等を考えると、10世紀代における脇本城跡の位置付けは、非常に重要なも



Ⅰ期（10世紀前半から後半）の脇本城



Ⅱ期（15世紀前葉から15世紀中葉）の脇本城



Ⅲ期（16世紀前葉から後葉）の脇本城

Ⅳ期（17世紀以降）の脇本城跡

	地区	曲輪の構造	主要道	出土遺物からみた各地区の継続年代									
				9世紀	10世紀	11世紀	12世紀	13世紀	14世紀	15世紀	16世紀	17世紀	18世紀
脇本城跡	内館地区	同規模の曲輪を並列に配置	天下道										
	馬乗り場地区	単一の曲輪を中心に周囲に小規模な曲輪を配置	本明寺道（大龍寺道）										
	兜ケ崎・打ケ崎地区	丘陵頂上を曲輪にし、斜面に帯状に曲輪を配置	田谷沢道										
	乍木地区	丘陵頂上を曲輪にし、斜面に帯状に曲輪を配置	田谷沢道										
	お念堂地区	-	-										
	寺院地区	-	-										
	城下町地区	-	-										

文献から指摘される天正5（1577）年の改修

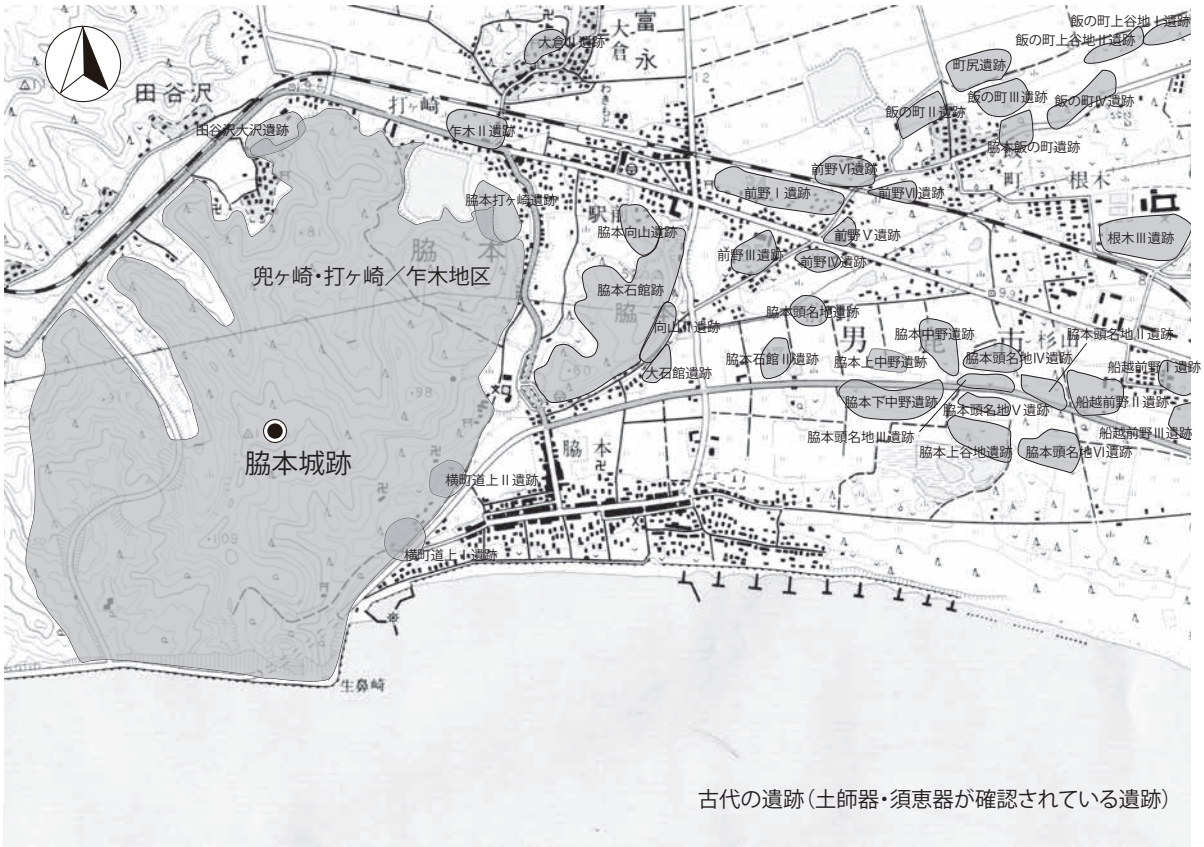
第270図　脇本城跡の変遷

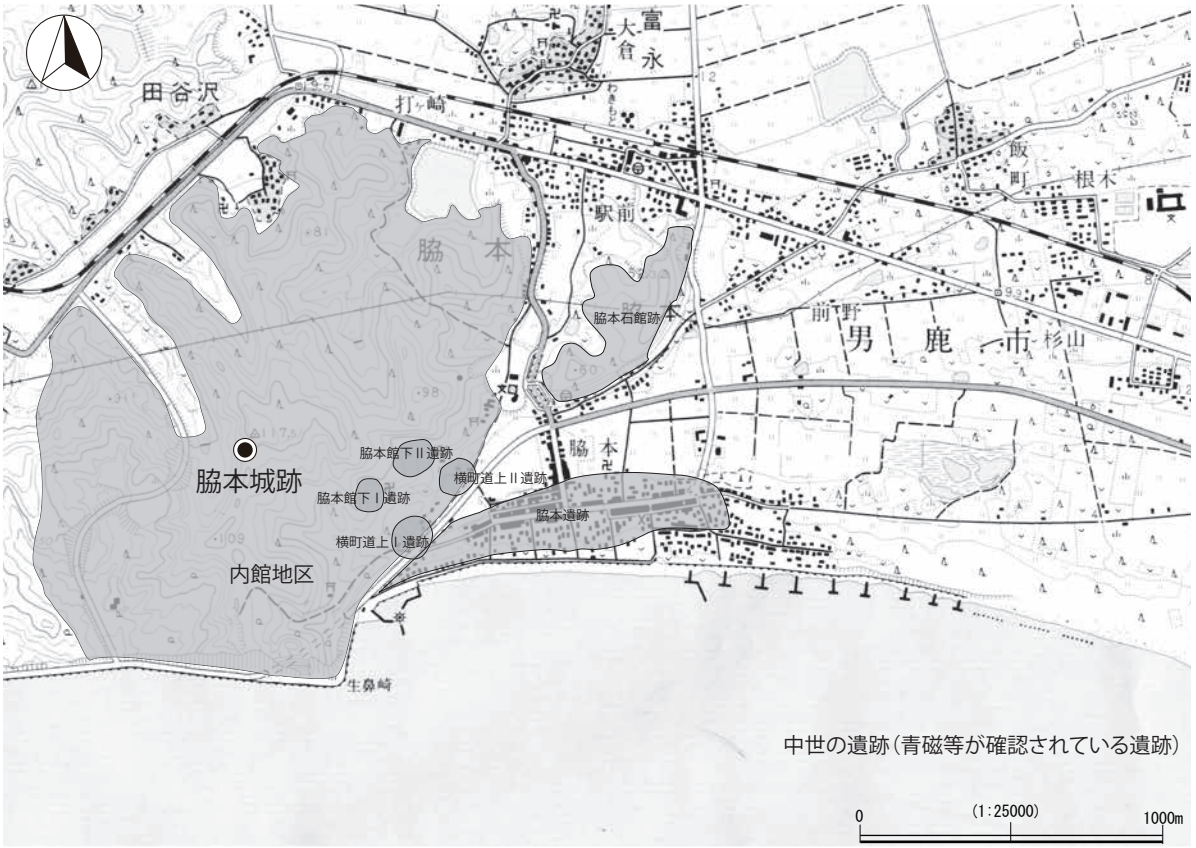
のとなる。また、11世紀には前九年合戦、後三年合戦があり、小鹿島には清原氏の一族として捉えられている橘氏（新万太郎・新万次郎）の存在が指摘されている（男鹿市1995）。歴史的にみて脇本地区にその本拠を置いた可能性も考えられる。さらに、12世紀代には小鹿島・秋田郡総地頭職として橘公業が統治しており、12世紀後半代の白磁が出土していることを重視すると、脇本城跡と関連性をもつ可能性がある。

Ⅱ期は15世紀前葉から中葉にその中心時期をとらえることができる。伊藤直子氏は馬乗り場地区で出土している陶磁器類において、被熱痕跡が多く確認されるため、火災による中心地の移動を指摘しているものの（工藤2006a・2006b、伊藤2007）、確認調査において、大規模火災を示す遺構や土層の堆積は確認されていないため検討を要する。さらにⅡ期からⅢ期への移行については、出土遺物の様相から明確化できなかったものの、馬乗り場地区において、地山直上の遺構を盛土によって造成している（第９次調査）点を考えると、一定の断続時期があった可能性が考えられる。文献史料研究の成果から、天正期以前の天文年間から湊摂津氏季による居城を指摘する成果もあり（男鹿市教育委員会1999・2007a）、馬乗り場地区においても秋田安東氏との関連が十分想定される。

Ⅲ期は脇本城跡の城館としての最終期であると同時に、最盛期でもある。かねてより指摘されている、天正５（1577）年の安東愛季による改修が当該期に行われたと考えることができる。これまでの研究史を踏まえて、「築城」ではなく、「改修」として指摘されてきたことは、内館地区への居城以前に、Ⅰ期、Ⅱ期において、「城」として認識されてきたことに起因すると思われ、それが確認調査の成果からも傍証されるものと考えられる。また、「名城成といへとも、普譜いまた出來せぬ」と記載されるように、天正５（1577）年に改修、天正17（1589）年の家督相続をめぐる合戦、そして一端は放棄されることなど、安東愛季の死去や国内情勢の関係激化などによって、存続期間はわずかであったと考えられ、完成までにはいたらなかった可能性が高い。しかし出土遺物の年代観では15世紀後半から16世紀後半までやや広範であるため、天正年間の愛季による改修期以前より一部が機能していたことが考えられる。それは曲輪１の盛土下層で礎板を伴う掘立柱建物跡の検出や、曲輪２の上に厚い盛土を施して曲輪１を造成していること、改修整備以前の天下道の存在などから内館地区南端の機能を指摘することができる。内館地区全体ではわずかな調査面積ではあるものの、出土遺構からみても、主殿などは確認できておらず、一部礎石と想定される建物跡も検出されているが、大規模な造成に比して、軽易な建物構造であることが見受けられる。そのため、内館地区の造成を先行して行った結果、建物を含め、主要な防御設備の拡充まで至らなかった可能性も指摘できる。しかし、能代市檜山城、秋田市湊城を統括し、領国支配の要所として、秋田県内の他の城館の調査成果を踏まえても、脇本城跡の優位性は明確である。出土遺物の中には現段階においては、日本列島の北限である元代の染付や、青森県内でも南部氏や北畠氏の主要城館でしか出土していない火縄銃の弾丸など、当該期において希少性の高い遺物が多く出土していることが証左となろう。17世紀以後の遺物が極めて少ないことや関連する檜山城跡の廃城等を勘案すると、17世紀の前葉には廃城となったことが指摘できる。

Ⅳ期については、脇本城の廃城以後、宗教的意味合いの強い地区や城下町地区の存続期である。本報告書では提示していないものの、城下町地区においても、男鹿市教育委員会による確認調査や秋田県埋蔵文化財センターによる発掘調査が行われている。脇本城跡直下の通称天神町における調査では内館地区とほぼ同時期の15世紀後半から16世紀後半に至る陶磁器類がその主体を占めるが（秋田県埋蔵文化





秋田県教育委員会2010『秋田県遺跡地図情報』より抽出 URL：http://common.pref.akita.lg.jp/heritage-map/

第271図　脇本城跡と古代・中世の周辺遺跡

財センター 2008)、東側の通称館下地区では、16世紀代の陶磁器類も出土するものの、17世紀代以降の近世陶磁器の出土がその主体を占める（男鹿市教育委員会2006)。そのため、内館地区の整備に伴って、脇本城側から城下町の整備も合わせて開始され、廃城以後の近世期においても東側へ順次拡大していたことが想定できる。しかしお念堂地区については、土砂の崩落に伴って次第にその機能が薄れていき、17世紀以後廃絶され、その伝承のみが現代に伝わったものと考えられる。また城下町地区は中世期から整備されたものと考えられる。古代には兜ヶ崎・打ヶ崎地区北東及び東側がその中心地であるが、中世期になって海岸部へ中心地が移動することが、遺跡分布の様相から確認されている。脇本城のⅠ期からⅢ期への変遷に対応して周辺集落遺跡の状況を検討した結果、脇本城との連動が指摘できることは、脇本地区における脇本城の拠点性と地理的重要性が明確に示されるのである。

中世出羽北半の秋田安東氏による主要城館として機能していたことが考えられている脇本城であるが、出土遺物の年代観や当該期において希少価値が高かったと推定される、元代染付、火縄銃の弾丸などといった遺物の出土、日本海や八郎潟を重視した立地条件等において、秋田地域における主要城館であったことが明確になったとともに、一定の断絶は認められるものの10世紀前半以降の小鹿嶋の位置付けには欠かすことのできない遺跡であることが明確化した。そして16世紀前葉から後葉において、男鹿半島のみならず、出羽北半の領国支配の拠点的城館であったともに、日本海を媒介とした広域流通の拠点であったことが明確となった。

第５節　今後の調査研究の課題と整備・活用

最も大きな課題として取り上げられるのは、内館地区における主郭の特定である。秋田安東氏の主要城館として、その主郭はどこにあたるかによって、他の曲輪の機能もおおよそ見えてくる可能性があるが、絵図等が残されていない脇本城跡にとっては大変重い問題である。また、男鹿半島内でその存在が確認されている他の城館との関連性や、小鹿嶋を中心とした16世紀後半代の支配構造など、文献史料研究の成果も活用し、より大きな地域史を明らかにできるとともに、その核として脇本城跡を調査研究することの重要性がより明確化したと考えられる。また、脇本城跡は、男鹿半島だけでなく、秋田県域、東北全体からの視点においても考察の対象となることが明らかであり、今後進めていくべき課題となった。さらに安東氏による城館以前と推定される兜ヶ崎・打ヶ崎地区、乍木地区については、わずかに中世に位置づけられる陶磁器が出土しているものの、他の地区と比べ年代的な隔たりが大きく、Ⅱ期における位置づけやⅢ期の再編にあたり、どのように整備されたのか明らかにすることはできていない。また、近隣の集落遺跡の年代との比較検討など、発掘調査事例の少ない、当地域において、今後明らかにしていくべき課題が残された。

総面積150haと広域に及ぶ脇本城跡であるが、本報告書で総括している今までの調査はそのごくわずかの面積であり、１つの成果がいくつかの課題を生む状況である。上述した課題などを解決するため、今後は出土遺物の詳細な年代的検討、建物構造の把握のみならず、さらに確認調査を進める必要がある。そして発掘調査のみならず、文献史料の研究や、地域に残る伝承、城下町地区との関連性、本報告書ではほとんど触れることができなかった、男鹿半島内の同様な遺跡との関係など、今後はさらなる検討を深めていくことを要する。

しかし、脇本城跡が男鹿半島ではもとより、秋田県内、東北地方の歴史を検討する上で重要な位置に

あったことが明確化され、平成16年に史跡指定を受けたことの意義は大きい。同時に地元の脇本地区において昔から城跡であることが知られており、昭和40年代以前は地区共用の草刈り場として大切に維持管理されてきたこと、エネルギー革命によって草木の刈取りが行われなくなり、荒れ果てた城跡を、地域の学校教育の場とすべく、地域の人々が主体となって環境整備を開始し、30年以上かけて現在の姿によみがえらせたことは、遺跡と地域が密接に関わった好例として挙げられよう。地元の団体である脇本城址懇話会をはじめ、地域でとても大切に保存・管理されている城跡である。確認調査で得られる情報のみならず、曲輪や土塁、井戸跡などの遺構が現在も視認でき、古道としての天下道や田谷沢道、本明寺道など、現在でも通行可能な状態で残されている。

このような地域の思いを受けて、平成22年度からは、小学校の歴史学習の進展に関連させて、市内小学６年生全員による史跡見学が行われており、各学校単位の総合学習の時間等でも時折取り上げられて、地域を代表する遺跡として活用されている。しかし、石垣や天守を伴わない城跡であるため、城として機能していた当時のイメージが困難であるなどの指摘も多い。そのため平成22年度に策定した『史跡脇本城跡調査・整備基本構想』をもとに、現況の遺構と確認調査で得られた遺構を合わせて、理解しやすく学習の手助けとなる整備や活用を図るとともに、地域を代表し、地域に愛される遺跡として保存していくことが求められている。

脇本城跡に寄せられている期待は日に日に大きくなっている。その期待に答えるべく、今後も各種調査を進展させながら、同時にその成果を還元すべく、整備や活用を図ることが大きな課題となっている。

【引用・参考文献】

青森県2003『青森県史 資料編 考古4』

青森県2005『青森県史 資料編 中世2』

青森県2012『青森県史 資料編 中世3』

青森県教育委員会1985『垂柳遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第88集

赤石　伸1993「時宗金光寺」『あきた史記 歴史論考集3』秋田姓氏家系研究会

秋田県1974『土地分類基本調査　船川・戸賀』

秋田県1977『秋田県史 第1巻古代 中世編』

秋田県教育委員会1981『秋田県の中世城館』秋田県文化財調査報告書第86集

秋田県教育委員会1999『脇神館跡』秋田県文化財調査報告書第284集

秋田県教育委員会2000『洲崎遺跡』秋田県文化財調査報告書第303集

秋田県教育委員会2003『秋田県遺跡地図(男鹿・南秋田地区版)』

秋田県教育委員会2007『岩倉館跡』秋田県文化財調査報告書第423集

秋田県教育委員会2008『脇本遺跡』秋田県文化財調査報告書第437集

秋田県教育委員会2010『森吉家ノ前Ａ遺跡（第3次)』秋田県文化財調査報告書第453集

秋田県教育委員会2011『小谷地遺跡』秋田県文化財調査報告書第472集

秋田県公文書館2012『絵図にみる近世秋田』平成24年度企画展パンフレット

秋田県埋蔵文化財センター 2010『発掘「秋田の中世」』平成22年度第1回企画展パンフレット

秋田県立博物館1979『天野源一コレクション図録』

秋田県立博物館1996『絵図をよむ―描かれた近世秋田の地理』秋田県立博物館企画展図録

秋田魁新報社出版部1997『心のふる里 秋田のお寺』

秋田市1996『秋田市史 第8巻 中世 史料編』

秋田市2001『秋田市史 第7巻 古代 史料編』

秋田市教育委員会1981『後城遺跡発掘調査報告書』

秋田市教育委員会2007『秋田市 湊城跡』

秋田市教育委員会2008『秋田市 湊城跡』

秋田市教育委員会・秋田城跡調査事務所2008『秋田城跡Ⅱ―鵜木地区―』

天野源一1954『新訳 眞澄翁男鹿遊覧記』株式会社第一印刷所

五十嵐祐介2007「男鹿半島・潟上市周辺の中世陶磁器」『出羽の出土陶磁器―安東氏とその時代』日本貿易陶磁研究会

泉　明2005a「男鹿半島の中世城館」『海と城の中世』高志書院

泉　明2005b「脇本城跡国指定までの経緯について」『平成16年度男鹿市文化財紀要』男鹿市教育委員会

磯村朝次郎1978『船越誌―その自然と歴史―』船越経友会

磯村朝次郎1981「脇本地域史によせて―その課題と管見―」『男鹿半島研究』第11号 男鹿地域研究会

磯村朝次郎1989「安東氏とその時代の男鹿郷土史的雑記」『中世史における安倍・安東氏の盛衰と男鹿島』秋田高等学校同窓会男鹿支部・男鹿市教育委員会

伊藤武士2011「秋田城跡の調査成果について」『条里制・古代都市研究』第26号 条里制・古代都市研究会

伊藤直子2007「脇本城跡出土の陶磁器」『出羽の出土陶磁器―安東氏とその時代』日本貿易陶磁研究会

今村義孝1971『新秋田叢書』第4巻 歴史図書出版

宇田川武久2007『鉄砲伝来の日本史』吉川弘文館

内田武志・宮本常一1968『菅江真澄遊覧記』東洋文庫

遠藤巌1989「男鹿島を苗字にした橘公業」『中世史における安倍・安東氏の盛衰と男鹿島』秋田高等学校同窓会男鹿支部・男鹿市教育委員会

遠藤巌1990「戦国大名下国愛季覚書」『北日本中世史の研究』吉川弘文館

遠藤巌1995「よみがえる日之本将軍の城」『津軽安藤氏と北方世界』河出書房新書

遠藤巌1999「脇本城主湊摂津守氏季」『脇本城と脇本城跡―第4次～第6次調査報告―』男鹿市文化財調査報告第19集

遠藤巌2002「戦国・織豊時代の出羽」『中世出羽の領主と城館』高志書院

遠藤巌2005「脇本城文献史発掘―脇本城跡国重要文化財指定を祝して―」『平成16年度男鹿市文化財紀要』男鹿市教育委員会

遠藤巌2009『男鹿菅原神社宮司伊藤家史料 脇本天神宮由緒書』

大石正雄1972「脇本集落と市場について」『男鹿半島研究』第1号 男鹿地域研究会

大橋康二監修2004『初期伊万里展―染付と色絵の誕生―』

男鹿市1964『男鹿市史』

男鹿市1995『男鹿市史　上巻』

男鹿市教育委員会・脇本城址調査研究委員会1988『脇本城址調査研究報告書』

男鹿市教育委員会1994『脇本城と脇本城跡』男鹿市文化財調査報告第9集

男鹿市教育委員会1995『菅江真澄と男鹿―男鹿の菅江真澄の道―』

男鹿市教育委員会1996『脇本城と脇本城跡―第2次・第3次調査報告―』男鹿市文化財調査報告第14集

男鹿市教育委員会1998『男鹿半島　その自然・歴史・民俗』

男鹿市教育委員会1999『脇本城と脇本城跡―第4次～第6次調査報告―』男鹿市文化財調査報告第19集

男鹿市教育委員会2002『国指定史跡 脇本城跡Ⅰ』男鹿市文化財調査報告第23集

男鹿市教育委員会2003『国指定史跡 脇本城跡Ⅱ』男鹿市文化財調査報告第27集

男鹿市教育委員会2004『国指定史跡 脇本城跡Ⅲ』男鹿市文化財調査報告第28集

男鹿市教育委員会2005『国指定史跡 脇本城跡』男鹿市文化財調査報告第29集

男鹿市教育委員会2006『国指定史跡 脇本城跡Ⅳ』男鹿市文化財調査報告第32集

男鹿市教育委員会2007a『史跡脇本城跡保存管理計画書』男鹿市文化財調査報告第33集

男鹿市教育委員会2007b『史跡脇本城跡 植生相・植生調査報告書』男鹿市文化財調査報告第34集

男鹿市教育委員会2007c『史跡脇本城跡保存整備工事報告書』

男鹿市教育委員会2008『国指定史跡 脇本城跡Ⅴ』男鹿市文化財調査報告第35集

男鹿市教育委員会2009『国指定史跡 脇本城跡ボランティアガイドブック』

男鹿市教育委員会2010a『国指定史跡 脇本城跡Ⅵ』男鹿市文化財調査報告第37集

男鹿市教育委員会2010b『史跡脇本城跡保存整備工事報告書Ⅱ』

男鹿市教育委員会2010c『史跡脇本城跡調査・整備基本構想』

男鹿市教育委員会・男鹿をまるごと探検隊2002『平成14年度　学習エリア活動事業　男鹿半島地層観察ガイド』

男鹿市教育委員会2011『男鹿半島ジオサイト観察手引書』

男鹿市教育委員会2012a『国指定史跡 脇本城跡Ⅶ』男鹿市文化財調査報告第39集

男鹿市教育委員会2012b『男鹿市の文化財第18集「半島新報」（昭和7年刊行分）復刻版Ⅲ』

小野正敏2005『発掘陶磁器からみた脇本城』『海と城の中世』高志書院

鹿角市教育委員会1980『新斗米館跡』鹿角市文化財調査資料14

鹿角市教育委員会1981『新斗米館跡』鹿角市文化財調査資料16

潟上市2010『天王町誌 天王 自然と人のあゆみ〔砂丘に生まれたまち〕』

金子健一2000「中世後期における瀬戸窯製品と貿易陶磁－14～15世紀の様相－」『貿易陶磁研究』№20 日本貿易陶磁研究会

亀井明徳2008「27 脇本城跡」『亜州古陶瓷研究Ⅲ』亜州古陶瓷学会

神田和彦2005「秋田平野周辺における集落の様相」『第31回 古代城柵館衙遺跡検討会資料集』古代城柵館衙遺跡検討会

神田和彦2007a「安東氏と秋田湊―秋田平野出土の陶磁器―」『出羽の出土陶磁器―安東氏とその時代』日本貿易陶磁研究会

神田和彦2007b「元慶の乱と古代地域社会―秋田平野における古代集落遺跡の分析を中心として―」『考古学談叢』六一書房

北秋田市教育委員会2008『胡桃館遺跡埋没建物部材調査報告書』北秋田市文化財調査報告書第10集

九州近世陶磁研究会2001『国内出土の肥前陶磁』

工藤清衡2000「北日本における中世後期の貿易陶磁様相」『貿易陶磁研究』№20 日本貿易陶磁研究会

工藤直子2004「脇本城跡（秋田県男鹿市）」『別冊歴史読本 城の楽しい歩き方』新人物往来社

工藤直子2005「小鹿嶋、脇本城跡」『海と城の中世』高志書院

工藤直子2006a「城館研究の方法」『遺跡研究の方法―東北中世考古学の12年』東北中世考古学会

工藤直子2006b「秋田県男鹿市脇本城跡出土の陶磁器」『貿易陶磁研究』№26 日本貿易陶磁研究会

国立歴史民俗博物館2006『歴史の中の鉄砲伝来』

坂井秀弥2005「文化財を歩く77 脇本城跡―日本海北部に活躍した安東氏の居城―『文部科学教育通信No.121』

塩谷順耳1985「記録にみる中世城館―吾妻鏡・永慶軍記を中心に―」『秋大史学』32 秋田大学史学会

塩谷順耳1989「安東愛季と実季」『中世史における安倍・安東氏の盛衰と男鹿島』秋田高等学校同窓会男鹿支部・男鹿市教育委員会

塩谷順耳1994「男鹿・安東氏と東北の諸大名」『小鹿島（第二編）』男鹿市秋田高等学校同窓会

菅原計ニ1997「東北地方における陶磁器埋納」『貿易陶磁研究』No.17 日本貿易陶磁研究会

仙波昭彦1986「秋田家伝来の甲冑―付属の具足注文を中心に―」『秋田県立博物館研究報告』第11号

高橋 学2004「秋田県館堀城跡と出土陶磁器―成立期の状況を中心に―」『貿易陶磁研究』No.24 日本貿易陶磁研究会

竹内弘和2005「秋田・脇本城跡」『木簡研究』第27号

竹内弘和2006「秋田・脇本城跡」『木簡研究』第28号

東北中世考古学会2004『海と城の中世―小鹿島、脇本城―』

東北中世考古学会2005『海と城の中世』高志書院

砺波市教育委員会2008『増山城跡―増山城跡総合調査報告書―』

浪岡町2004『浪岡町史 第2巻』

奈良文化財研究所2003「古代建築における幢竿支柱・荘厳施設」『古代の官衙遺跡Ⅰ 遺構編』

南部町教育委員会2003『聖寿寺館跡発掘調査報告書Ⅷ』南部町埋蔵文化財調査報告書第12集

西本安秀1998「木製卒塔婆の変遷と用途に関する一考察」『網干善教先生古希記念 考古学論集 下巻』

日本貿易陶磁研究会2007『出羽の出土陶磁器―安東氏とその時代―』

能代市1998『能代市史 資料編 古代・中世1』

能代市教育委員会2004『檜山城と檜山城跡』能代市文化財調査報告書第8集

八戸市教育委員会1993『根城 ―本丸の発掘調査―』

弘前大学人文学部文化財論研究室2012『北海道渡島半島における戦国城館跡の研究―北斗市矢不来館跡の発掘調査報告―』

文化庁文化財部記念物課2010『発掘調査のてびき』

水澤幸一2000「貿易陶磁の国際情勢～青磁を中心にして～」『貿易陶磁研究』№20 日本貿易陶磁研究会

横手市教育委員会2009『大鳥井山遺跡』横手市文化財調査報告第12集

横手市監修2011『前九年・後三年合戦―11世紀の城と館―』高志書院

吉岡康暢・門上秀叡2011『琉球出土陶磁社会史』真陽社

曲輪1・2確認調査全景①

曲輪1・2確認調査全景②

2トレンチ南側土層断面の盛土状況

2トレンチ南西側土層断面の盛土状況

5トレンチ北側土層断面

斧（第48図－1）出土状況【5トレンチ】

11SB25【1トレンチ】

11SB25-P1【1トレンチ】

11SB25-P2礎板検出状況【1トレンチ】

11SB25-P3礎板検出状況【1トレンチ】

11SB25-P4【2トレンチ】

内館地区西側土塁と4トレンチ全景

11SA26・27【4トレンチ】

瀬戸美濃皿（第46図－3）出土状況【2トレンチ】

曲輪10確認調査前全景

曲輪10確認調査全景

北側土塁と調査状況

南側土塁と調査状況

南側土塁の盛土と自然堆積層

鉛製弾丸出土状況

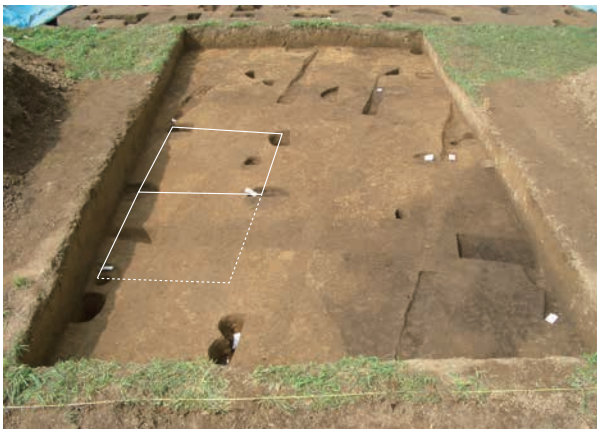
PS6サブトレでの堆積状況

16SKP40石製品出土状況【南北トレンチ】

16SA23【南北トレンチ】

東西トレンチでの地山崩落土と整地層

東西トレンチでの整地層



16SB01【東西トレンチ】

16SD200【東西トレンチ】

16SA202【東西トレンチ】

16SA202検出状況【東西トレンチ】

曲輪12確認調査前全景

曲輪12確認調査全景

1・2トレンチ全景

1トレンチ盛土状況

17SE01【2トレンチ】

5トレンチ足金物出土状況

17SE01土層断面【2トレンチ】

17SB109【5～7トレンチ】

17SB109-P6遺物出土状況【5トレンチ】

17SKP23遺物出土状況①【5トレンチ】

17SKP23遺物出土状況②【5トレンチ】

17SQ86【8トレンチ】

11トレンチ全景

11トレンチ盛土状況

地すべりと想定される地山の落ち込み【11トレンチ】

曲輪13・14・15-1・15-2・16確認調査前全景

Aトレンチ全景

Bトレンチ全景

六器（第95図－2）出土状況【Cトレンチ】

盛土状況【Bトレンチ】

H7SQ134【Cトレンチ】

Cトレンチ全景

図版8 【内館地区－曲輪13・14・15－1・15－2・16】

1～6トレンチ全景

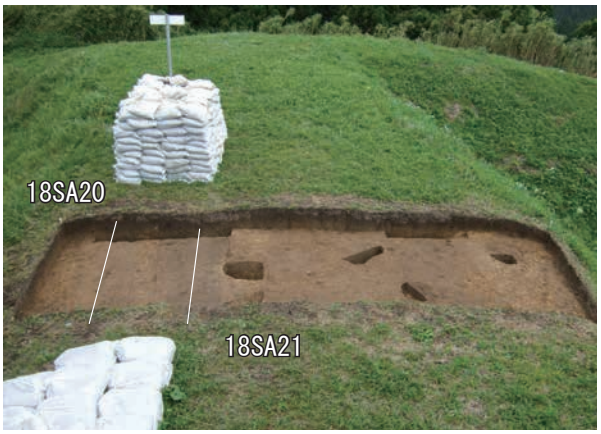
18SK01【1トレンチ】

18SA17【2～4トレンチ】

銭貨「政和通宝」（第97図－10）出土状況【6トレンチ】

曲輪14と16の間の大土塁現況

7トレンチ全景



8トレンチ全景

8トレンチ盛土状況と18SA20・21土層断面

9トレンチ全景

10トレンチ全景

12トレンチ全景

12トレンチ盛土状況

曲輪13と14の間の小土塁現況

13トレンチ全景

14トレンチ全景

18SKP77・78【15トレンチ】

曲輪17確認調査前全景

曲輪17確認調査全景

曲輪17と22を連結する道路跡

曲輪22環境整備後現況

19SK01骨粉出土状況【1トレンチ】

19SKP96遺物（第25図－7）出土状況【1トレンチ】

19SM34・19SA41・91【3トレンチ：南東から】

19SM34・19SA91【3トレンチ：南西から】

19SM34【3トレンチ】

19SM34遺物出土状況①【3トレンチ】

19SM34遺物出土状況②【3トレンチ】

3トレンチ盛土状況と盛土内遺物（第26図－8）出土状況

19SA41【7トレンチ】

5トレンチサブトレ内遺物出土状況（第25図－2・第28図－14）

8トレンチ全景

8トレンチ盛土状況と19SA110

曲輪19確認調査全景①

曲輪19確認調査全景②

2トレンチ全景

3トレンチ全景

1トレンチ遺構確認状況

1トレンチ南側遺構確認状況

13SM18【1 トレンチ】

13SD67・79【3 トレンチ】

曲輪20確認調査前全景

曲輪19と20を結ぶ道路跡現況

曲輪20南側での道路跡現況

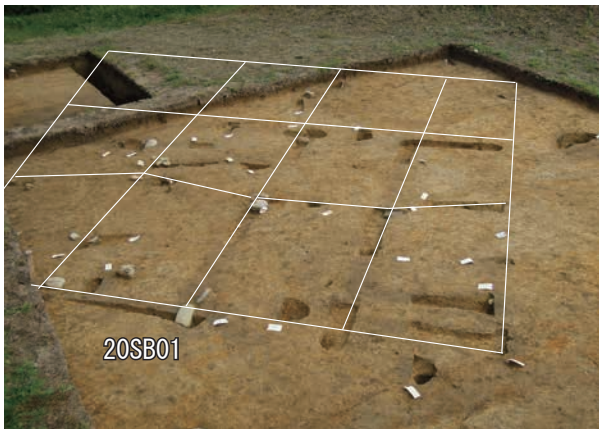
曲輪20確認調査全景

20SB21【1トレンチ】

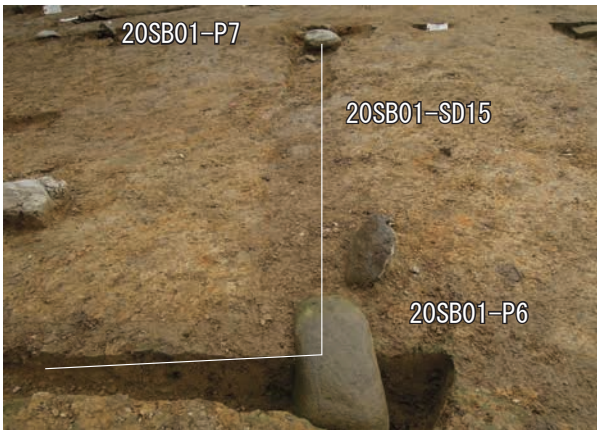
20SB21-P2遺物（第130図－5）出土状況【1トレンチ】

20SB21-P3遺物（第130図－1･2）出土状況【1トレンチ】

20SKP09内遺物出土状況【1トレンチ】



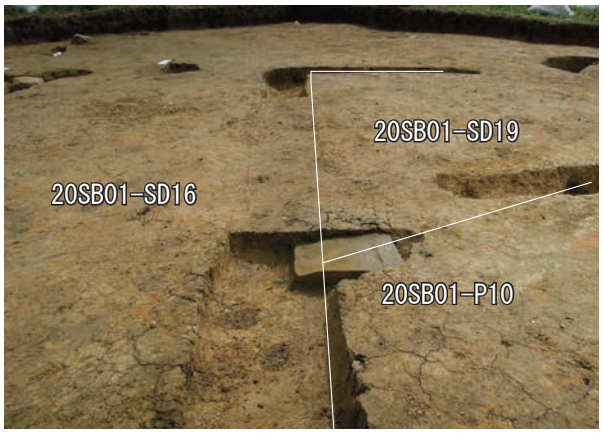
20SB01【2トレンチ】



20SB01-P6・7・SD15【2トレンチ】

20SB01-P7・10・SD15【2トレンチ】

20SB01-P5・8・SD15【2トレンチ】

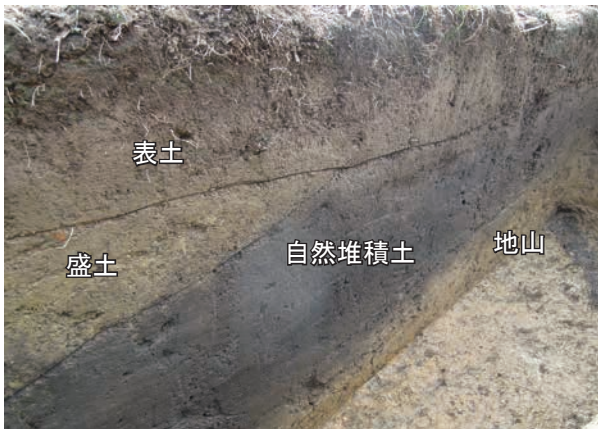


20SB01-P10・SD16・19【2トレンチ】

20SA48【3トレンチ】

4トレンチ全景

4トレンチ盛土状況



4トレンチサブトレ内の盛土と自然堆積土

20SA54【4トレンチ】

20SA64・20SX77【5トレンチ】

20SX77-P1内遺物出土状況【5トレンチ】

土塁土層断面【5トレンチ】

20SX85【6トレンチ】

20SM86【8トレンチ】

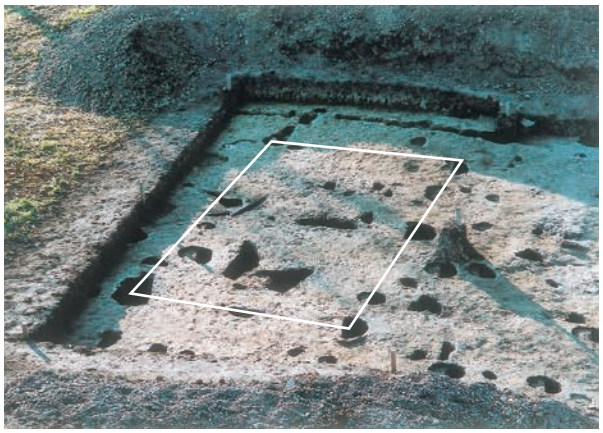
調査トレンチ全景（西側より撮影）

調査トレンチ全景（東側より撮影）

曲輪16側の切土による造成状況

曲輪18側の盛土による造成状況

調査トレンチ中央部（北側より撮影）


14SB58

14SA57

瀬戸美濃皿（第142図－2）出土状況

1トレンチ調査前全景（天下道現況）

1トレンチ遺構確認状況

2トレンチ調査前全景（天下道現況）

2トレンチ全景

15SM01・15SKP03・04【2トレンチ】

3トレンチ調査前全景（天下道現況）

3トレンチ北西側土層断面

3トレンチ東側盛土堆積状況

4トレンチ調査前全景（天下道現況）

4トレンチ全景

4トレンチ盛土堆積状況

15SM17・18【4トレンチ】

15SX30検出状況【4トレンチ】

5トレンチ全景

6トレンチ全景

6トレンチ西側盛土堆積層

曲輪全景

1トレンチ遺構検出状況

2トレンチ遺構検出状況

2トレンチ南側土層断面

1SQ50【3トレンチ】

1SQ51【3トレンチ】

1SQ52【3トレンチ】

図版20 【馬乗り場地区－曲輪（第9次調査）】

曲輪全景①

曲輪全景②

西側斜面現況

1トレンチ中央部土層断面

1トレンチ斜面部

3トレンチ土塁状遺構土層断面

4トレンチ全景

6トレンチ土層断面

北西部尾根全景

1トレンチ全景

2トレンチ全景

3トレンチ全景

西側斜面調査前全景①（北側より撮影）

西側斜面調査前全景②（南側より撮影）

西側斜面調査トレンチ全景

図版22 【兜ヶ崎・打ヶ崎地区－曲輪（第3次調査）】

2トレンチ全景

3トレンチ全景

4トレンチ全景

3SN04【5トレンチ】

3SN06【5トレンチ】

3SN07【5トレンチ】

6トレンチ全景

3SQ12【6トレンチ】

1トレンチ南側斜面部全景

8SK01【1トレンチ】

8SD03【2トレンチ】

3トレンチ全景

8SKI37【3トレンチ】

8SD35・36【3トレンチ】

3トレンチ南側斜面部全景

土師器皿（第193図－7）出土状況【4トレンチ】

図版24 【兜ヶ崎・打ヶ崎地区－曲輪（第8次調査）／田谷沢道（第7次調査）】

4トレンチ全景

8SD40土層断面【4トレンチ】

8SD39土層断面【4トレンチ】

2トレンチ全景

3トレンチ全景

4トレンチ土層断面

5トレンチ全景

2SD04・05検出状況【1 トレンチ】

2SD04・05・2SKP03土層断面【1 トレンチ】

土塁状遺構土層断面【1 トレンチ】

2SKP21・22【2 トレンチ】

3トレンチ全景

9トレンチ盛土堆積状況

13トレンチ西側土層断面

図版26 【乍木地区－曲輪（第2次調査）／田谷沢道（第6次調査）】

4SD01・02【1・5トレンチ】

土塁状遺構完掘【3トレンチ】

10トレンチ全景

塚状遺構土層断面

3トレンチ全景

6SM01土層断面【3トレンチ】

3トレンチ南側土層堆積状況

図版27 【お念堂地区－小丘陵頂上部（H8年度調査）／南西端部（H15・H16年度調査）】

内館地区から見たお念堂地区

小丘陵全景

トレンチ南土層堆積状況

H8SD03ほか遺構確認状況

南西端部調査前全景①

南西端部調査区全景②

南西端部西側調査区全景

南西端部東側調査区全景

図版28 【お念堂地区－南西端部（H15・H16年度調査）】

西側地区完掘状況

東側地区西側土層断面①

東側地区西側土層断面②

H15・16SA393～395【東側地区】

H15・16SA396①【東側地区】

H15・16SA396②【東側地区】

部材（第254図－9）・人骨出土状況【東側地区】

H15・16SA397・398（北東側より撮影）【東側地区】

H15・16SA397・398（西側より撮影）【東側地区】

角状卒塔婆2（第238図－3）近景【東側地区】

角状卒塔婆1（第238図－2）近景【東側地区】

H15・16SQ399【東側地区】

H15・16土塁状遺構1土層断面【東側地区】

H15・16土塁状遺構2土層断面【東側地区】

五輪塔地輪（第238図－1）出土状況【東側地区】

下駄・曲物出土状況【東側地区】

曲物（第243図－３）出土状況【東側地区】

卒塔婆（第251図－２）出土状況【東側地区】

小柄（第259図－１）出土状況【東側地区】

調査区全景（現況道路跡と三十三観音石碑）

12SKI03【１トレンチ】

12SK01・02【２トレンチ】

２トレンチ全景

内館地区－曲輪1・2（第11次調査）出土遺物

内館地区－曲輪10（第16次調査）出土遺物

内館地区－曲輪12（第17次調査）出土遺物

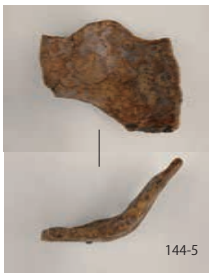
内館地区－曲輪13・14・15-1・15-2・16（Ｈ７年度調査）出土遺物

内館地区－曲輪13・14・15-1・15-2・16（第18次調査）出土遺物

内館地区－曲輪17（第19次調査）出土遺物

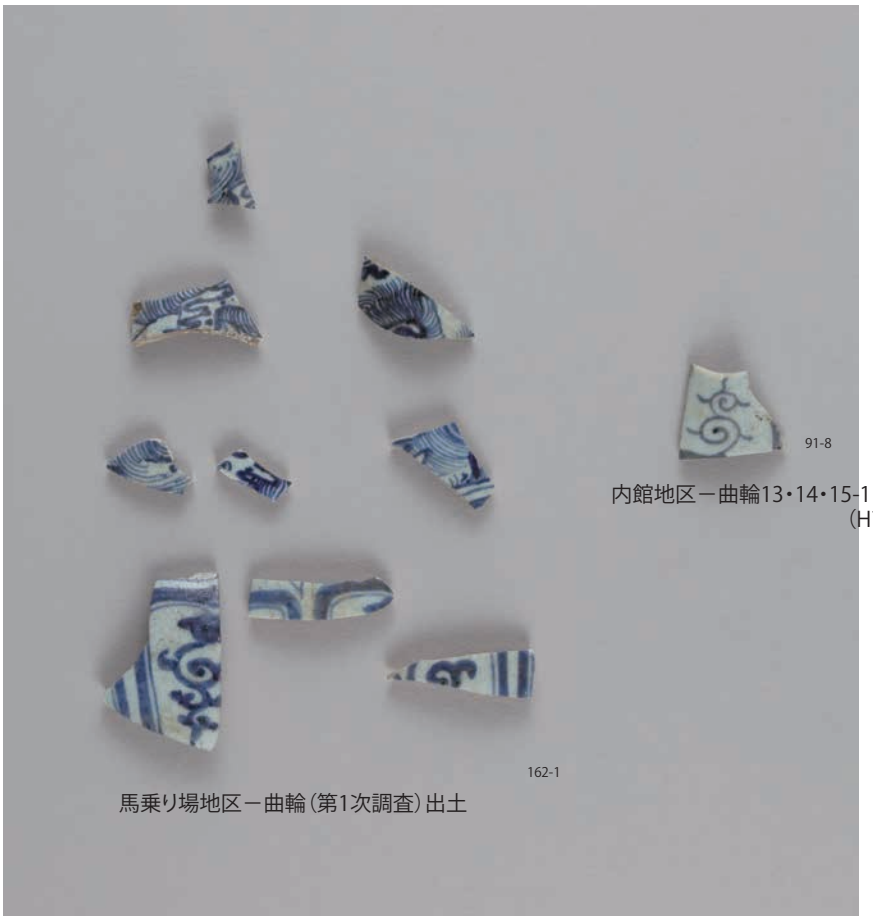
内館地区－曲輪19（第13次調査）出土遺物

内館地区－曲輪 20（第 20 次調査）出土遺物

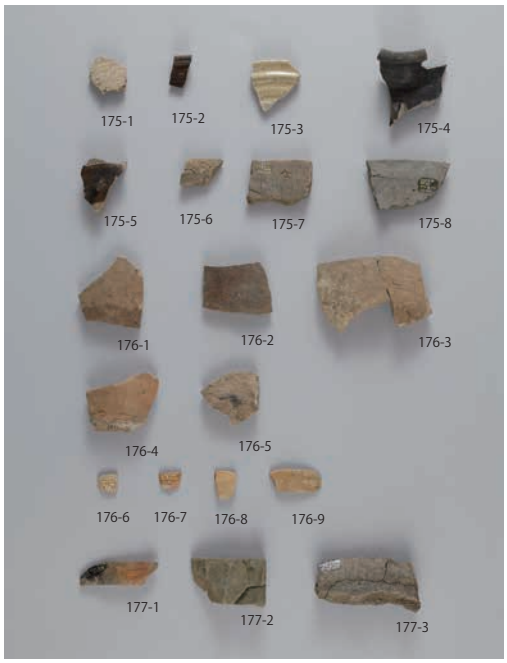


内館地区－曲輪状遺構（第14次調査）出土遺物

内館地区－天下道（第15次調査）出土遺物



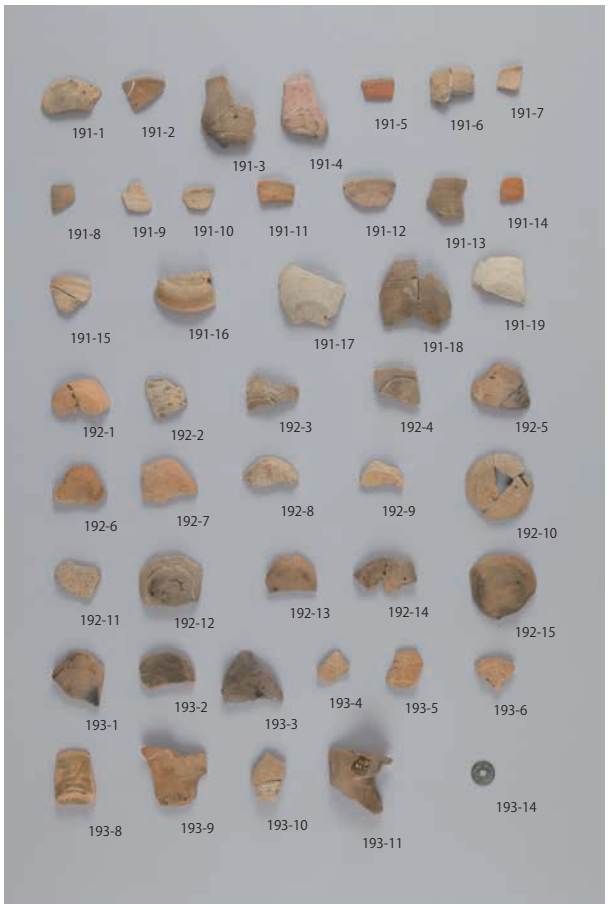
元代染付と馬乗り場地区ー曲輪（第１次調査）出土遺物



馬乗り場地区ー曲輪（第９次調査）出土遺物

兜ヶ崎・打ヶ崎地区ー曲輪（第３次調査）出土遺物

兜ヶ崎・打ヶ崎地区ー田谷沢道
（第７次調査）出土遺物

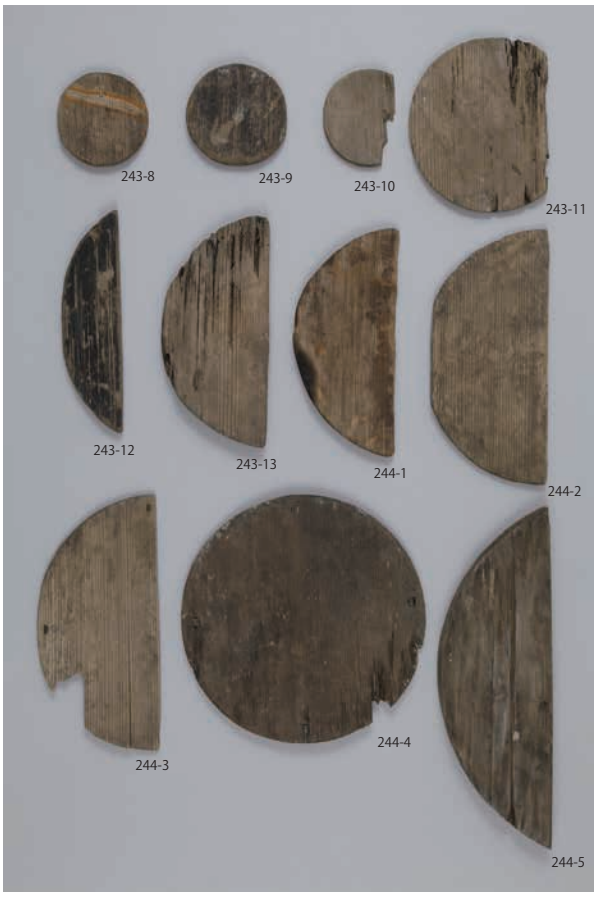


兜ヶ崎・打ヶ崎地区－曲輪（第８次調査）出土遺物

乍木地区－曲輪
（第２次調査）
出土遺物

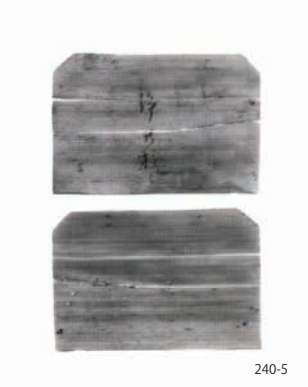
お念堂地区－南西端部（H15・H16年度調査）出土遺物①

お念堂地区－南西端部（H15・H16年度調査）出土遺物②

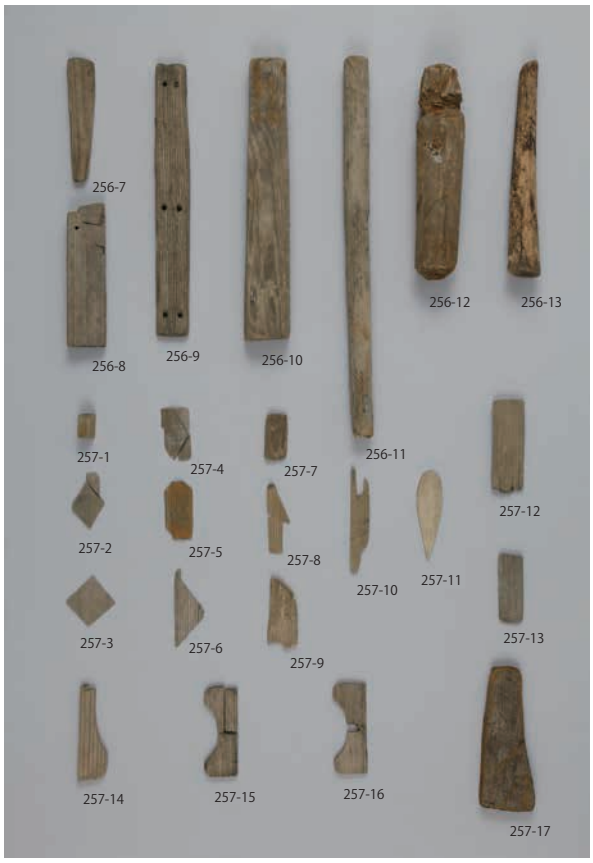


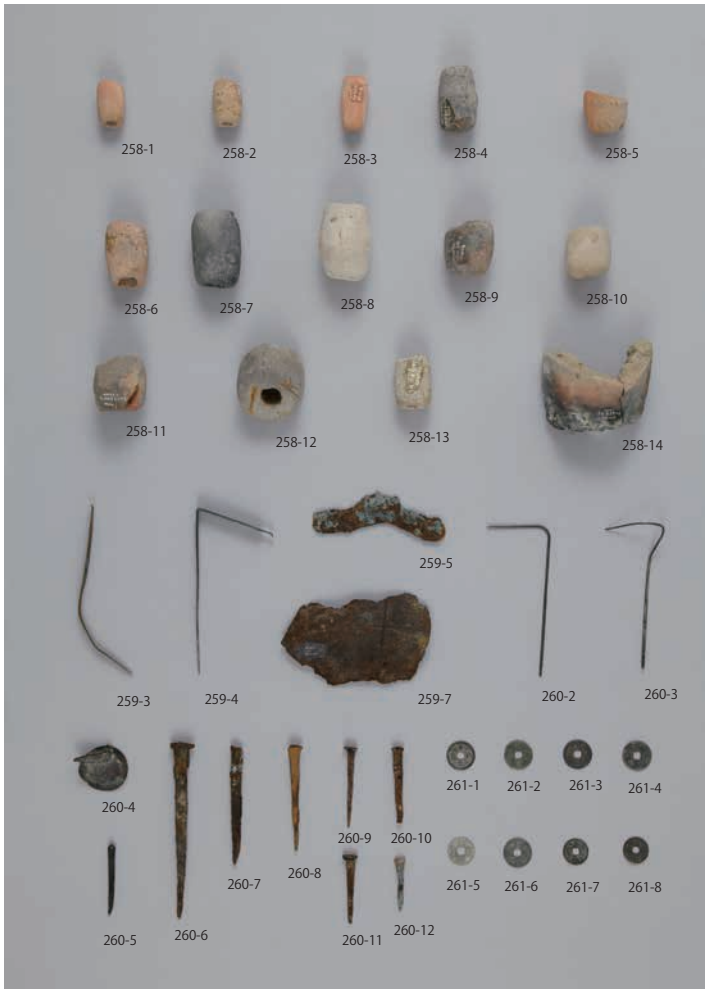
お念堂地区－南西端部（H15・H16年度調査）出土遺物③

お念堂地区－南西端部（H15・H16年度調査）出土遺物④



お念堂地区－南西端部（H15・H16年度調査）出土遺物⑤

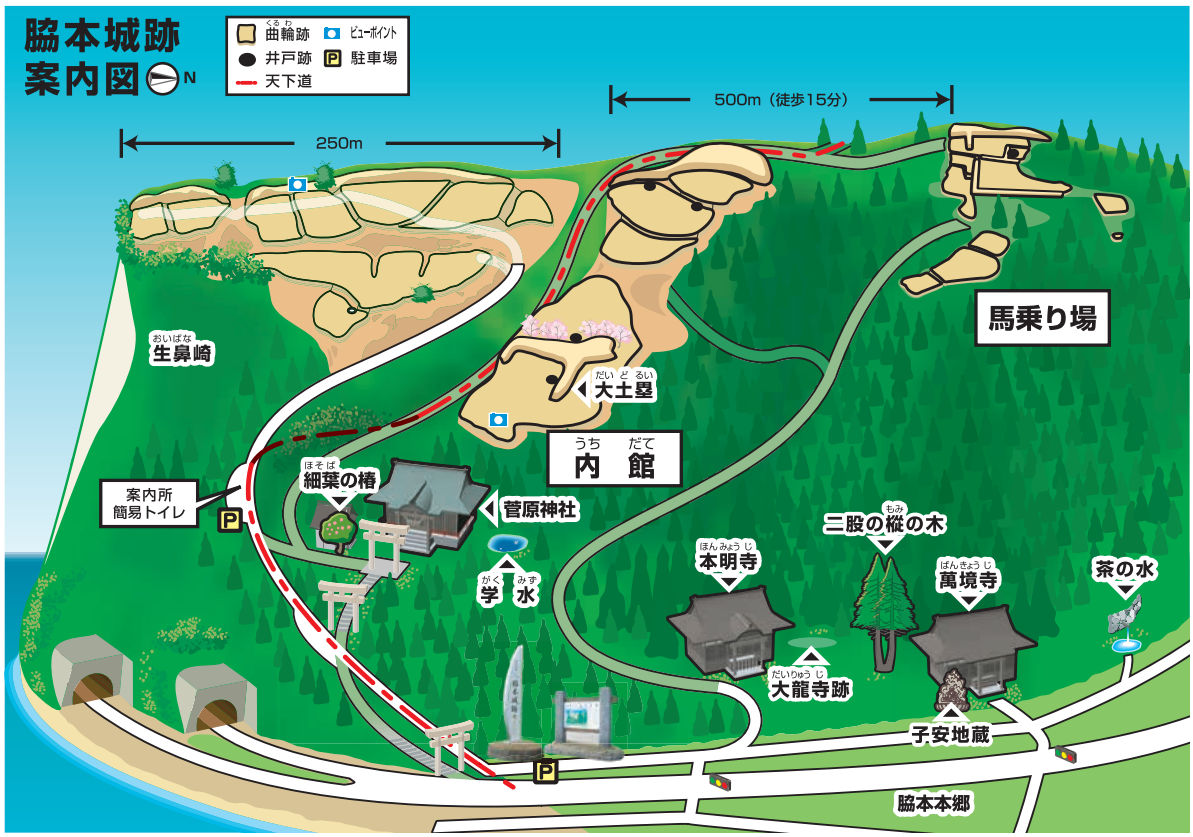




お念堂地区－南西端部（H15・H16年度調査）出土遺物⑥

お念堂地区－南西端部（H15・H16 年度調査）出土遺物⑦

寺院地区－推定寺院跡（第 12 次調査）出土遺物



脇本城跡案内イラスト

報　告　書　抄　録

ふりがな	くにしていしせき わきもとじょうあと
書名	国指定史跡　脇本城跡
副書名	総括報告書
巻次	
シリーズ名	男鹿市文化財調査報告
シリーズ番号	第40集
編著者名	五十嵐祐介
編集機関	男鹿市教育委員会
所在地	〒010－0493　秋田県男鹿市角間崎字家ノ下452
発行年月日	西暦2013年３月

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
わきもとじょうあと 脇本城跡	秋田県男鹿市脇本脇本字七沢ほか	05206	120	39°54'8.2"	139°53'23"	950620～950823	319㎡	県指定史跡申請の事前確認調査（平成７年度）
				39°54'3.9"	139°53'4.4"	961120～961128	35㎡	内館地区の試掘調査（平成８年度）
				39°54'3.9"	139°53'4.4"	961129～961210	12㎡	本郷地区（城下町）の歴史解明（平成８年度）
				39°54'3.9"	139°53'4.4"	970808～970812	16㎡	本郷地区（城下町）の歴史解明（平成９年度）
				39°54'28"	139°53'24"	000913～001017	124㎡	学術調査（第１次）
				39°54'49"	139°53'32"	010611～010920	417㎡	学術調査（第２次）
				39°54'39"	139°53'42"	010920～011019	222㎡	学術調査（第３次）
				39°54'41"	139°53'27"	011029～011119	229㎡	学術調査（第４次）
				39°54'38"	139°53'5.6"	011105～011108	24㎡	学術調査（第５次）
				39°54'50"	139°53'23"	011119～011126	70㎡	学術調査（第６次）
				39°54'33"	139°53'49"	011129～011212	94㎡	学術調査（第７次）
				39°54'28"	139°53'41"	020603～021127	470㎡	学術調査（第８次）
				39°54'24"	139°53'21"	020920～021113	394㎡	学術調査（第９次）
				39°54'14"	139°53'15"	020919～020927	36㎡	学術調査（第10次）

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
わきもとじょうあと 脇本城跡	秋田県男鹿市脇本脇本字七沢ほか	05206	120	39° 53' 59"	139° 53' 19"	030415 ～ 030806	111㎡	学術調査 （第11次）
				39° 54' 14"	139° 53' 29"	030808 ～ 030826	27㎡	学術調査 （第12次）
				39° 53' 59"	139° 53' 4.7"	030827 ～ 031224	332㎡	船川港重要港湾改修工事に係る発掘調査
				39° 54' 7.9"	139° 53' 4.7"	040511 ～ 040730	78㎡	学術調査 （第13次）
				39° 53' 59"	139° 53' 4.7"	040715 ～ 041029	432㎡	船川港重要港湾改修工事に係る発掘調査
				39° 54' 7.2"	139° 53' 17"	050704 ～ 051014	144㎡	学術調査 （第14次）
				39° 54' 7.8"	139° 53' 16"	060612 ～ 060911	90㎡	学術調査 （第15次）
				39° 54' 4.8"	139° 53' 17"	070605 ～ 071031	320㎡	学術調査 （第16次）
				39° 54' 4.6"	139° 53' 20"	080528 ～ 081007	186㎡	学術調査 （第17次）
				39° 54' 8.2"	139° 53' 23"	090528 ～ 091005	206㎡	学術調査 （第18次）
				39° 54' 14"	139° 53' 29"	100601 ～ 101012	153㎡	学術調査 （第19次）
				39° 54' 10"	139° 53' 16"	110606 ～ 111019	170㎡	学術調査 （第20次）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
脇本城跡	城館跡	中世	掘立柱建物跡 柱穴列・塀・柵跡 道路状遺構 井戸跡 竪穴状遺構 土坑 溝跡 焼土遺構 柱穴跡 集石遺構 盛土跡 整地跡 不明遺構	陶磁器 土師器 須恵器 石製品 土製品 金属製品 木製品 骨製品

要約

平成16年に国の指定史跡となった脇本城跡は、天正年間に安東氏によって改修された城跡と考えられており、曲輪や土塁、虎口といった遺構が現状でも良好に確認することができる。

総面積は約150haに及び、曲輪の構造や立地から「内館地区」、「馬乗り場地区」、「兜ヶ崎・打ヶ崎地区」、「乍木地区」、「お念堂地区」の５地区に分けている。本報告書は、史跡の保存整備を目的に、平成12年度から補助事業として継続して各地区で実施した確認調査、及び史跡指定以前の確認調査、道路造成に伴う緊急調査等全ての調査を総括し、今後の史跡整備へ向けた基礎資料の１つとすることを目的としている。

男鹿市文化財調査報告第40集
国指定史跡　　脇　本　城　跡
－総括報告書－

印刷・発行　平成25年３月
編　　集　男鹿市教育委員会
〒010－0493　秋田県男鹿市角間崎字家ノ下452
電話(0185)46－4110　FAX(0185)46－2141
印　　刷　秋田協同印刷株式会社

脇本城